HITACHI
Inspire the Next

JP1 Version 12

JP1/TELstaff 構築・運用ガイド

解説・手引・操作書

3021-3-D64-03

前書き

■ 対象製品

適用 OS のバージョンや，各対象製品が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については各製品のリリースノートで確認してください。

●JP1/TELstaff AE Professional Edition 300 Users（適用 OS：Windows）

P-2A2C-G4C4 JP1/TELstaff AE Professional Edition 300 Users 12-00-/C

製品構成一覧および内訳形名

P-CC2A2C-G4C4 JP1/TELstaff AE Professional Edition 300 Users 12-00-/C（適用 OS：Windows Server 2012，Windows Server 2012 R2，Windows Server 2016，Windows Server 2019，Windows Server 2022）

P-CC2A2C-F4C4 JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View 12-00（適用 OS：Windows 7，Windows 8，Windows 8.1，Windows 10，Windows 11，Windows Server 2012，Windows Server 2012 R2，Windows Server 2016，Windows Server 2019，Windows Server 2022）

●JP1/TELstaff AE Professional Edition 1000 Users（適用 OS：Windows）

P-2A2C-G5C4 JP1/TELstaff AE Professional Edition 1000 Users 12-00-/C

製品構成一覧および内訳形名

P-CC2A2C-G5C4 JP1/TELstaff AE Professional Edition 1000 Users 12-00-/C（適用 OS：Windows Server 2012，Windows Server 2012 R2，Windows Server 2016，Windows Server 2019，Windows Server 2022）

P-CC2A2C-F4C4 JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View 12-00（適用 OS：Windows 7，Windows 8，Windows 8.1，Windows 10，Windows 11，Windows Server 2012，Windows Server 2012 R2，Windows Server 2016，Windows Server 2019，Windows Server 2022）

●JP1/TELstaff AE Professional Edition 2000 Users（適用 OS：Windows）

P-2A2C-G6C4 JP1/TELstaff AE Professional Edition 2000 Users 12-00-/C

製品構成一覧および内訳形名

P-CC2A2C-G6C4 JP1/TELstaff AE Professional Edition 2000 Users 12-00-/C（適用 OS：Windows Server 2012，Windows Server 2012 R2，Windows Server 2016，Windows Server 2019，Windows Server 2022）

P-CC2A2C-F4C4 JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View 12-00（適用 OS：Windows 7，Windows 8，Windows 8.1，Windows 10，Windows 11，Windows Server 2012，Windows Server 2012 R2，Windows Server 2016，Windows Server 2019，Windows Server 2022）

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。

なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI，JP1 は，株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

Active Directory は，マイクロソフト 企業グループの商標です。

Azure は，マイクロソフト 企業グループの商標です。

CTBX シリーズは，東京エレクトロン デバイス長崎株式会社（旧株式会社アバール長崎）の商品名称です。

CTBX-704V，CTBX-712V，CTBX-724V は，東京エレクトロン デバイス長崎株式会社（旧株式会社アバール長崎）の商品名です。

CT System Builder for Network は，東京エレクトロン デバイス長崎株式会社（旧株式会社アバール長崎）の商品名です。

DoCoMo は，株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの商標または，登録商標です。

LINE WORKS は，ワークスモバイルジャパン株式会社のサービス名です。

Microsoft は，マイクロソフト 企業グループの商標です。

Microsoft Exchange Online は，Microsoft Corporation が提供する法人向けクラウド型メールサービスです。

Slack は Slack Technologies,Inc のサービス名および登録商標です。

TELstaff は，株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

TriggerPhone は，東京エレクトロン デバイス長崎株式会社（旧株式会社アバール長崎）の商品名称です。

Windows は，マイクロソフト 企業グループの商標です。

Windows Server は，マイクロソフト 企業グループの商標です。

Windows Vista は，マイクロソフト 企業グループの商標です。

ショートメールは，株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの登録商標です。

ボイスソムリエは，日立ソリューションズ・クリエイト株式会社の登録商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは，マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Windows Vista	Windows Vista(R) Ultimate
	Windows Vista(R) Business

表記		製品名
Windows Vista		Windows Vista(R) Professional
Windows 7		Windows 7(R) Professional
		Windows 7(R) Enterprise
		Windows 7(R) Ultimate
Windows 8	Windows 8	Windows(R) 8
		Windows(R) 8 Pro
		Windows(R) 8 Enterprise
	Windows 8.1	Windows(R) 8.1
		Windows(R) 8.1 Pro
		Windows(R) 8.1 Enterprise
Windows 10		Windows(R) 10 Home
		Windows(R) 10 Pro
		Windows(R) 10 Enterprise
Windows 11		Windows(R) 11 Home
		Windows(R) 11 Pro
		Windows(R) 11 Enterprise
Windows Server 2008	Windows Server 2008 R2	Windows Server(R) 2008 R2 Standard
		Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
		Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
Windows Server 2012	Windows Server 2012	Windows Server(R) 2012 Standard
		Windows Server(R) 2012 Datacenter
	Windows Server 2012 R2	Windows Server(R) 2012 R2 Standard
		Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
Windows Server 2016		Windows Server(R) 2016 Standard
		Windows Server(R) 2016 Datacenter

表記	製品名
Windows Server 2019	Windows Server(R) 2019 Standard
	Windows Server(R) 2019 Datacenter
Windows Server 2022	Windows Server(R) 2022 Standard
	Windows Server(R) 2022 Datacenter

Windows 7，Windows 8，Windows 10，Windows 11，Windows Server 2008，Windows Server 2012，Windows Server2016，Windows Server 2019，Windows Server 2022 を総称して「Windows」と表記することがあります。また，Windows Vista，Windows 7，Windows 8，Windows 10，Windows 11，Windows Server 2008，Windows Server 2012，Windows Server 2016，Windows Server 2019 および Windows Server 2022 を総称して「Vista 以降の Windows」と，Windows 7，Windows 8，Windows 10，Windows 11，Windows Server 2012，Windows Server 2016，Windows Server 2019 および Windows Server 2022 を総称して「Windows 7 以降の Windows」と表記することがあります。

■ 発行

2022 年 12 月 3021-3-D64-03

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2019, 2022, Hitachi, Ltd.

はじめに

このマニュアルは，JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View の機能，システム構築方法，および操作方法について説明したものです。

■ 対象読者

JP1/TELstaff AE Professional Edition のイベントを契機に，ショートメッセージサービス（およびメッセージ通知が行える携帯電話や PHS），パトランプ（信号灯），電話，メール，メッセージ表示ボードおよび JP1/TELstaff AE Professional Alarm View に通知する運用システムを構築する，システム管理者を対象としています。また，Windows のシステムおよびコマンドの機能や操作を理解されている方を前提としています。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは，次に示す章から構成されています。

第 1 章　TELstaff とは

JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View の概要について説明しています。

第 2 章　TELstaff の機能

JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View の機能について説明しています。

第 3 章　インストール

JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View のインストールや関連する準備などについて説明しています。

第 4 章　TELstaff の環境設定

JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View の環境設定ついて説明しています。

第 5 章　連絡網の作成

JP1/TELstaff AE Professional Edition の通知方法や発信先を定義する連絡網の作成方法について説明しています。

第 6 章　操作

JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View の操作方法について説明しています。

第 7 章　ネットワーク監視

JP1/TELstaff AE Professional Edition のネットワーク監視機能について説明しています。

第 8 章　メール監視

JP1/TELstaff AE Professional Edition のメール監視機能について説明しています。

第 9 章　メッセージエージェントについて

JP1/TELstaff AE Professional Edition のメッセージ送受信に使用するメッセージエージェント機能について説明しています。

第 10 章　TELstaff のツール

JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View で提供するツールについて説明しています。

第 11 章　コマンド

JP1/TELstaff AE Professional Edition で提供するコマンドについて説明しています。

第 12 章　その他

JP1/TELstaff AE Professional Edition で使用できる変数や関連機器の単体動作確認方法などについて説明しています。

第 13 章　メッセージ

JP1/TELstaff AE Professional Edition の出力するメッセージについて説明しています。

付録

TELstaff が使用しているオープンソースソフトウェアの使用許諾条件を掲載しています。

■ 読書手順

このマニュアルのそれぞれの編は，システムの設計・構築・運用といったシステムのライフサイクルでの段階ごとに必要な情報を説明しています。次の表に示すように，目的に合わせて必要な個所をお読みください。

項番	目的	参照個所
1	JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View を理解する	1 章，2 章
2	JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View のシステムを設計・構築する	3 章，4 章，5 章，6 章，7 章，8 章，9 章，11 章，12 章

項番	目的	参照個所
3	JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View のシステムを運用する	6 章，10 章，11 章，12 章，13 章
4	JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View のシステムの見直しをする	項番 2 に戻り，JP1/TELstaff AE Professional Edition および JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View のシステムを再設計・再構築する

■ このマニュアルでの表記

このマニュアルでは，日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。次に，製品の正式名称と，このマニュアルでの表記を示します。

表記	正式名称
AEPE	TELstaff(R) AE Professional Edition JP1/TELstaff(R) AE Professional Edition
AESE	TELstaff(R) AE Standard Edition
AECL	TELstaff(R) AE Client
AEAV	TELstaff(R) AE Professional Edition Alarm View JP1/TELstaff(R) AE Professional Edition Alarm View

- Windows Server 2012，Windows Server 2016，Windows Server 2019，Windows Server 2022，Windows 7，Windows 8，Windows 10，Windows 11 を総称して「Windows」と表記することがあります。また，Windows Vista，Windows 7，Windows 8，Windows 10，Windows 11，Windows Server 2008，Windows Server 2012，Windows Server 2016，Windows Server 2019 および Windows Server 2022 を総称して「Vista 以降の Windows」と，Windows 7，Windows 8，Windows 10，Windows 11，Windows Server 2012，Windows Server 2016，Windows Server 2019 および Windows Server 2022 を総称して「Windows 7 以降の Windows」と表記することがあります。
- このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは，ローカル PC に対して Administrators 権限を有するユーザを指します。ローカル PC に対して Administrators 権限を有するユーザであれば，ローカルユーザ，ドメインユーザおよび，ActiveDirectory 環境で動作に違いはありません。
- 遠隔監視呼び出しシステム TriggerPhone TP 1000/II を「トリガフォン」と表記しています。
- SIP サーバ，VoIP ルータを総称して「VoIP ゲートウェイ」と表記することがあります。
- ネットワーク監視表示灯 NH シリーズのパトランプを，「NH シリーズパトランプ」と表記することがあります。

- NTT 公衆電話回線網を使用した電話，および IP 電話を総称して「電話」と表記することがあります。
- NGN 対応 VoIP I/F ボックスを CTBX シリーズと表記しています。

■ このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
CSV	Comma Separated Values
DSU	Digital Service Unit（回線接続装置）
GUI	Graphical User Interface
ISDN	Integrated Services Digital Network
LAN	Local Area Network
NGN	Next Generation Network
PHS	Personal Handy-phone System
POP	Post Office Protocol
SMS	Short Message Service
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SNMP	Simple Network Management Protocol
SSL	Secure Sockets Layer
TA	Terminal Adapter
TCP	Transmission Control Protocol
TLS	Transport Layer Security

■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[ ]	メニュー項目，画面名，ボタン名，およびキーボードのキーなどを表します。 **（例）**［Ctrl］キー
[ ] ＋ [ ]	キーボードのキーを同時に押すことを表します。 **（例）**［Ctrl］＋［A］キー
【 】	メニューおよびサブメニューを示します。

記号	意味
【　】	(例)【ファイル】メニューから【終了】を選びます。

■ コマンドの文法で使用する記号

コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を，次のように定義します。

記号	意味
| (ストローク)	複数の項目に対し，項目間の区切りを示し，「または」の意味を示す。 (例) A|B|C 「A，B または C」を示す。
{　}	|で区切られている前後の項目から，選択して指定できることを示します。 (例) teldial [{-fb ポケベルメッセージファイル名|-m ポケベルメッセージ}] この場合，-fb でメッセージファイルを指定するか，-m でメッセージを指定するかが選択できます。
[　]	指定が省略できることを示します。 (例) teldial [-m ポケベルメッセージ] この場合，-m およびポケベルメッセージが省略できます。

■ 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは，常用漢字を使用することを基本としていますが，次に示す用語については，常用漢字以外の漢字を使用しています。

- 桁（けた）
- 橙（だいだい）
- 貼り付け（はりつけ）

■ 文字数表記および KB（キロバイト）等の単位表記について

- このマニュアルでの文字数表記は，n 桁と n 文字で表記しています。
- n 桁は，半角文字数を意味します。n 桁の全角文字数は，n÷2 文字になります。
- n 文字は，断りが無い限り全角文字での文字数を意味します。n 文字の半角文字数は，n×2 文字になります。
- 1 KB（キロバイト），1 MB（メガバイト），1 GB（ギガバイト），1 TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト，$1{,}024^2$ バイト，$1{,}024^3$ バイト，$1{,}024^4$ バイトです。

目　次

目　次 i
1.　TELstaff とは 1
1.1　TELstaff について 2
1.1.1　AEPE / AESE について 2
1.1.2　AECL について 6
1.1.3　AEAV について 6
1.2　TELstaff を運用するまでの流れ 7
1.3　システムの構成 8
1.3.1　AEPE および AESE の構成 8
1.3.2　AECL の構成 12
1.4　前提環境 13
1.4.1　動作環境 13
1.4.2　電話回線について 15
1.4.3　モデムについて 15
1.4.4　トリガフォンについて 16
1.4.5　シリアルポートについて 18
1.4.6　パトランプおよび電気機器の作動について 18
1.4.7　SMS 通知について 20
1.4.8　メール送信について 20
1.4.9　FAX 送信について 21
1.4.10　IP 電話について 22
1.4.11　音声合成ソフトウェアについて 27
1.4.12　ネットワーク監視について 27
1.4.13　メール監視について 28
1.4.14　SNMP トラップ監視について 30
1.4.15　接点入力監視について 31
1.4.16　通信ポート番号について 32
1.4.17　使用する Windows サービスについて 33
1.4.18　Windows 7 以降の Windows の留意事項について 34
1.4.19　通信サービス連携について 35
1.5　運用上の留意事項 36
1.5.1　発信記録とファイルの削除 36
1.5.2　定義情報関連のバックアップとリストア 37
1.5.3　コマンドの実行 44
1.5.4　障害を考慮した運用方法と留意事項 44
1.5.5　他製品・旧バージョンとの主な変更点 49
2.　TELstaff の機能 51
2.1　TELstaff スタートメニュー 52
2.2　TELstaff ウィンドウ 55
2.2.1　TELstaff ウィンドウー連絡網グループ 57
2.2.2　TELstaff ウィンドウーネットワーク監視 59
2.2.3　TELstaff ウィンドウーメール監視 59
2.3　AEPE および AESE の機能 60
2.3.1　発信機能 60
2.3.2　パトランプと電気機器の作動 87
2.3.3　電話からの操作 89
2.3.4　ネットワーク機器の自動監視 91
2.3.5　接点入力監視 91
2.3.6　プロセス監視 91
2.3.7　ファイル監視 93
2.3.8　メッセージ監視 96
2.3.9　ドライバ監視 99
2.3.10　サービス監視 100

2.3.11　SNMP トラップ監視 101
2.3.12　メール監視 103
2.3.13　ディスク容量監視 103
2.3.14　電源オン・オフ監視 105
2.3.15　機器稼動監視 105
2.3.16　稼動状況監視 108
2.3.17　メッセージエージェント機能 109
2.3.18　TELstaff の 2 台並列稼動機能 110
2.3.19　電話回線の閉塞 111
2.3.20　運用管理者への通知機能 112
2.3.21　発信記録と TELstaff の動作記録 112
2.3.22　統計情報の記録 114
2.3.23　TELstaff コマンド 114
2.3.24　AEPE と AESE の差異 114
2.3.25　カレンダー・スケジュール機能 115
2.3.26　先頭優先ルール 118
2.3.27　発信制限機能の詳細 119
2.4　AECL の機能 122
2.4.1　パトランプと電気機器の作動 122
2.4.2　発信記録と TELstaff の動作記録 122
2.4.3　TELstaff コマンド 123
2.5　TELstaff のコマンド 124
2.6　カスタマイズ 125
2.6.1　通知文のカスタマイズ 125
2.6.2　その他のカスタマイズ 162
2.6.3　ユーザ固有の通知文作成 166
2.6.4　一括発信ファイルの作成 169
3.　インストール 173
3.1　TELstaff のインストール 174
3.1.1　インストール手順 174
3.1.2　バージョンアップ・上書きインストール 175
3.1.3　アンインストール 175
3.2　Windows の設定 177
3.2.1　サービスアカウントの設定 177
3.2.2　Windows ファイアウォールの設定 179
3.3　その他のセットアップ 181
3.3.1　ダイヤルアップ接続の構成設定 181
3.3.2　RS-232C-Ethernet コンバータの設定- PHN-S をご使用の場合 181
3.3.3　接点入力ユニットで使用する場合の設定方法 182
3.3.4　RS-232C-Ethernet コンバータの設定- IT-C10RE をご使用の場合 183
3.3.5　ネットワーク対応型パトランプの設定 185
3.3.6　NH シリーズパトランプの設定 186
3.3.7　ISA 社製信号灯の設定 187
3.3.8　トリガフォンのご使用準備 188
3.3.9　接点入力ユニット（PW-501）のご使用準備 189
3.3.10　メッセージ表示ボードのご使用準備 190
4.　TELstaff の環境設定 193
4.1　TELstaff の環境設定 194
4.1.1　TELstaff の環境設定ダイアログボックス 194
4.1.2　モデムのプロパティダイアログボックス 227
4.1.3　発信と受信時の認証方法ダイアログボックス 232
4.1.4　SMS の設定ダイアログボックス 235
4.1.5　統計情報のプロパティダイアログボックス 238
4.1.6　ダイヤルアップ接続設定ダイアログボックス 239
4.1.7　繰り返し回数の設定ダイアログボックス 241
4.1.8　メールサーバ情報の設定ダイアログボックス 243

4.1.9　開封通知受信監視の設定ダイアログボックス....246
4.1.10　IP 電話通知の詳細設定ダイアログボックス....249
4.1.11　VoIP ゲートウェイ情報の設定ダイアログボックス....250
4.1.12　CTBX の設定ダイアログボックス....252
4.1.13　CTBX 通知の詳細設定ダイアログボックス....253
4.1.14　CTBX シリーズの設定ファイルについて....253
4.2　メッセージ通知方法の設定....255
4.2.1　メッセージ通知方法....255
4.2.2　メッセージ通知ダイアログボックス....255
4.2.3　メッセージ通知方法の設定ダイアログボックス....257
4.2.4　フィルタ文字列の指定ダイアログボックス....272
4.2.5　通知しないメッセージ番号の指定ダイアログボックス....273
4.3　テキスト音声変換の設定....275
4.3.1　テキスト音声変換の設定ダイアログボックス....275
4.3.2　読み上げない文字列・読み替える文字列の設定ダイアログボックス....279
4.3.3　「文字の読み方の設定」ダイアログボックス....280
4.4　メッセージエージェント構成の設定....284
4.4.1　メッセージエージェント構成の設定について....284
4.4.2　メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックス....285
4.5　実行コマンドの設定....300
4.5.1　実行コマンドの設定について....300
4.5.2　実行コマンドの設定ダイアログボックス....300
4.6　接点入力監視の設定....307
4.6.1　接点入力監視の設定について....307
4.6.2　接点入力監視の設定ダイアログボックス....307
4.6.3　監視方法の設定ダイアログボックス....309
4.6.4　接点入力ユニットの設定ダイアログボックス....312
4.6.5　コマンド一覧ダイアログボックス....317
4.6.6　コマンドのプロパティダイアログボックス....319
4.6.7　teldial コマンドの作成ダイアログボックス....320
4.6.8　接点入力ユニット監視設定上の注意事項....324
4.6.9　シスメックス RA 社製入力ユニット使用時の注意事項....326
4.7　プロセス監視の設定....327
4.7.1　プロセス監視の設定について....327
4.7.2　プロセス監視ダイアログボックス....327
4.7.3　プロセス監視のプロパティダイアログボックス....329
4.7.4　プロセス監視設定ダイアログボックス....330
4.7.5　監視プロセス追加ダイアログボックス....344
4.8　ファイル監視の設定....347
4.8.1　ファイル監視の設定について....347
4.8.2　ファイル監視ダイアログボックス....347
4.8.3　カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックス....348
4.8.4　ファイル監視設定ダイアログボックス....349
4.8.5　拡張設定ダイアログボックス....369
4.8.6　監視対象文字列の設定ダイアログボックス....371
4.8.7　日時を指定する文字列の形式について....373
4.8.8　ファイル監視方法設定ダイアログボックス....374
4.8.9　監視するファイルの編集ダイアログボックス....376
4.8.10　バックアップのプロパティダイアログボックス....378
4.9　メッセージ監視の設定....381
4.9.1　メッセージ監視の設定について....381
4.9.2　メッセージ監視ダイアログボックス....382
4.9.3　カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックス....384
4.9.4　メッセージ監視設定ダイアログボックス....385
4.9.5　監視するファイルとメッセージの編集ダイアログボックス....401
4.9.6　監視するメッセージの編集ダイアログボックス....403

4.9.7　監視する文字列の編集ダイアログボックス 404
4.9.8　監視するイベントログの編集ダイアログボックス 405
4.9.9　フィルタリング条件の編集ダイアログボックス 405
4.9.10　フィルタリング条件の設定ダイアログボックス 406
4.10　ドライバ監視の設定 409
4.10.1　ドライバ監視の設定について 409
4.10.2　ドライバの監視ダイアログボックス 409
4.10.3　ドライバ監視のプロパティダイアログボックス 411
4.10.4　ドライバ監視設定ダイアログボックス 413
4.10.5　監視するドライバの編集ダイアログボックス 428
4.11　サービス監視の設定 430
4.11.1　サービス監視の設定について 430
4.11.2　サービスの監視ダイアログボックス 430
4.11.3　サービス監視のプロパティダイアログボックス 431
4.11.4　サービス監視設定ダイアログボックス 433
4.11.5　監視するサービスの編集ダイアログボックス 446
4.11.6　連絡網 ID の選択ダイアログボックス 448
4.11.7　連絡網メッセージの指定ダイアログボックス 449
4.11.8　フレームに表示する画像の指定ダイアログボックス 453
4.12　SNMP トラップ監視の設定 455
4.12.1　SNMP トラップ監視の設定について 455
4.12.2　SNMP トラップの監視ダイアログボックス 456
4.12.3　SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックス 457
4.12.4　SNMP トラップ監視設定ダイアログボックス 459
4.12.5　通報対象トラップの編集ダイアログボックス 467
4.12.6　variableBindings の指定ダイアログボックス 474
4.12.7　コミュニティ名の指定ダイアログボックス 476
4.12.8　連絡網メッセージの指定ダイアログボックス 477
4.13　ディスク容量監視の設定 482
4.13.1　ディスク容量監視の設定について 482
4.13.2　ディスク容量監視ダイアログボックス 482
4.13.3　カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックス 484
4.13.4　ディスク容量監視設定ダイアログボックス 485
4.13.5　ディスク容量監視のプロパティダイアログボックス 501
4.13.6　個別設定の連絡網通知設定ダイアログボックス 504
4.13.7　個別設定のパトランプ通知設定ダイアログボックス 505
4.13.8　個別設定のコマンド通知設定ダイアログボックス 505
4.13.9　連絡網メッセージの指定ダイアログボックス 506
4.14　機器稼動監視の設定 511
4.14.1　機器稼動監視について 511
4.14.2　機器稼動監視設定ダイアログボックス 511
4.14.3　機器稼動監視－サービス監視 512
4.14.4　機器稼動監視－パトランプ監視 518
4.14.5　機器稼動監視－メールサーバ監視 524
4.14.6　機器稼動監視－モデム機器監視 531
4.15　稼動状況監視の設定 537
4.15.1　稼動状況監視について 537
4.15.2　稼動状況監視ダイアログボックス 538
4.15.3　稼動状況監視のプロパティダイアログボックス 539
4.15.4　稼動状況監視設定ダイアログボックス 541
4.15.5　標準の監視条件を設定ダイアログボックス 556
4.15.6　標準の電源制御設定ダイアログボックス 560
4.15.7　監視対象のプロパティダイアログボックス 562
4.15.8　コンピュータの電源制御 569
5.　連絡網の作成 571
5.1　ユーザの作成 572

5.1.1　ユーザの管理....572
5.1.2　ユーザグループの作成....572
5.1.3　ユーザグループの削除....573
5.1.4　ユーザグループ名の変更....573
5.1.5　ユーザの追加....573
5.1.6　ユーザの複写....574
5.1.7　ユーザの削除....574
5.1.8　ユーザの変更....575
5.1.9　ユーザ管理ウィンドウ....575
5.1.10　ユーザの「プロパティ」ダイアログボックス....577
5.2　連絡網グループの作成....586
5.2.1　連絡網グループの追加....586
5.2.2　連絡網グループの複写....586
5.2.3　連絡網グループの削除....586
5.2.4　連絡網グループの変更....587
5.2.5　グループのプロパティダイアログボックス....587
5.3　連絡網 ID の作成....589
5.3.1　連絡網 ID の追加....589
5.3.2　連絡網 ID の複写....589
5.3.3　連絡網 ID の削除....590
5.3.4　連絡網 ID の変更....590
5.3.5　発信先の追加....590
5.3.6　発信先の移動....632
5.3.7　発信先の削除....633
5.3.8　連絡網（新規）ウィンドウ....633
5.3.9　連絡網（ID）ウィンドウ....635
5.3.10　連絡網の保存ダイアログボックス....635
5.3.11　連絡網の設定ダイアログボックス....636
5.3.12　%teldial コマンド....645
6.　操作....647
6.1　TELstaff の起動と停止の操作....648
6.1.1　TELstaff サービスの起動方法....648
6.1.2　TELstaff サービスの起動ダイアログボックス....649
6.1.3　TELstaff サービスの停止方法....651
6.1.4　ウィンドウ操作の開始と終了....652
6.2　電話の操作....653
6.2.1　通信モデムでの操作....653
6.2.2　トリガフォンでの操作....653
6.3　Alarm View の操作....659
6.3.1　Alarm View ウィンドウ....659
6.3.2　ウィンドウ表示のカスタマイズと環境設定....663
6.3.3　Alarm View の操作....665
6.3.4　イメージビューウィンドウの操作....669
6.4　問題調査用資料の採取....672
7.　ネットワーク監視....673
7.1　ネットワーク監視について....674
7.1.1　ノードの自動監視機能について....674
7.1.2　アクション方式による監視....675
7.1.3　ポーリング方式による監視....676
7.1.4　PING 方式による監視....677
7.1.5　ネットワーク監視の監視制限....678
7.1.6　関連ノードの通知抑止....679
7.1.7　ネットワーク監視グループのフィルタ....679
7.2　ネットワーク監視の設定方法....680
7.2.1　ネットワーク監視のプロパティダイアログボックス....680
7.2.2　ネットワーク監視方法の設定....682

7.2.3　ネットワーク監視項目の追加 682
7.2.4　ネットワーク監視項目の複写 682
7.2.5　ネットワーク監視項目の削除 683
7.2.6　ネットワーク監視項目の変更 683
7.2.7　ネットワーク監視の設定 684
7.2.8　ネットワーク監視の通知方法 685
7.3　ネットワーク監視ダイアログボックス 686
7.3.1　ネットワーク監視－「全般」タブ 686
7.3.2　ネットワーク監視－「電話・SMS」タブ 688
7.3.3　ネットワーク監視－「メール・エージェント」タブ 690
7.3.4　ネットワーク監視－「連絡網」タブ 692
7.3.5　ネットワーク監視－「パトランプ」タブ 694
7.3.6　ネットワーク監視－「その他」タブ 697
7.3.7　監視するホストの編集ダイアログボックス 698
7.3.8　監視するホストの検索の指定ダイアログボックス 702
8.　メール監視 705
8.1　メール監視について 706
8.1.1　メールの受信について 706
8.2　メール監視の設定方法 711
8.2.1　メール監視方法の設定 711
8.2.2　メール監視項目の追加 713
8.2.3　メール監視項目の変更 713
8.2.4　メール監視項目の複写 713
8.2.5　メール監視項目の削除 714
8.3　メール監視ダイアログボックス 716
8.3.1　メール監視－「全般」タブ 716
8.3.2　メール監視－「フィルタリング」タブ 721
8.3.3　フィルタリングの設定ダイアログボックス 722
8.3.4　フィルタリング条件の設定ダイアログボックス 736
8.3.5　連絡網 ID の選択ダイアログボックス 740
8.3.6　連絡網メッセージの指定ダイアログボックス 741
8.3.7　ユーザの選択ダイアログボックス 745
8.3.8　削除ユーザ名の確認ダイアログボックス 747
8.3.9　削除連絡網 ID の確認ダイアログボックス 748
8.3.10　メール開封確認ダイアログボックス 748
8.3.11　ExChange クライアント資格情報の設定ダイアログボックス 749
9.　メッセージエージェントについて 751
9.1　メッセージの種類 752
9.1.1　メッセージの種類 752
9.2　メッセージの受信 753
9.3　メッセージの送信 754
9.3.1　メッセージの送信 754
9.4　メッセージエージェントの宛先 756
9.4.1　メッセージエージェントの宛先指定 756
10.　TELstaff のツール 759
10.1　ログビューア 760
10.1.1　ログビューアとは 760
10.1.2　ログビューアウインドウ 760
10.1.3　ログの詳細ダイアログボックス 762
10.2　メッセージビューア 764
10.3　メール開封状況一覧ビューア 766
10.3.1　管理者登録ダイアログボックス 766
10.3.2　管理者ログインダイアログボックス 767
10.3.3　登録ユーザ一覧ウィンドウ 768
10.3.4　利用者の選択ダイアログボックス 770

10.3.5　パスワード変更ダイアログボックス 771
10.3.6　メール開封状況一覧ビューアウィンドウ 771
10.3.7　オプションダイアログボックス 777
10.3.8　表示設定ダイアログボックス 779
10.3.9　検索表示設定ダイアログボックス 784
10.3.10　メモダイアログボックス 787
10.3.11　期日指定削除ダイアログボックス 788
10.3.12　エラーメールウィンドウ 789
10.3.13　詳細ダイアログボックス 790
10.3.14　メール開封状況ウィンドウ 791
10.3.15　表示色設定ダイアログボックス 793
10.4　稼動状況監視ビューア 795
10.5　リレー全接点オフ 802
10.6　発信と監視の操作 803
10.6.1　発信の取り消し操作 803
10.6.2　ネットワーク監視の抑止と再開操作 807
10.6.3　サービス監視の抑止と再開操作 809
10.6.4　機器稼動監視の抑止と再開操作 811
10.7　プロセス監視の操作用ツール 815
10.8　ファイル監視の操作用ツール 817
10.9　メッセージ監視の操作用ツール 819
10.10　ドライバ監視の操作用ツール 823
10.11　稼動状況監視の操作用ツール 825
10.12　録画ビューア 827
10.12.1　録画ビューアウィンドウ 827
10.12.2　映像ログ一覧設定ダイアログボックス 830
10.13　統計情報ビューア 833
10.14　パトランプ動作確認ツール 835
10.15　ランチャー 837
10.15.1　ランチャーウインドウ 837
10.15.2　ランチャーウィンドウのメニュー 838
10.16　パスワード暗号文字列生成ツール 839
11.　コマンド 841
11.1　コマンド共通の注意事項 843
11.2　ダイヤルコマンド（teldial） 844
11.2.1　teldial コマンド 844
11.2.2　連絡網への発信 849
11.2.3　SMS 通知 862
11.2.4　電話への発信 867
11.2.5　メールへの発信 873
11.2.6　エージェントへの発信 879
11.2.7　FAX への発信 885
11.2.8　一括発信 889
11.2.9　ネットワーク監視 901
11.2.10　teldial コマンドの優先度 905
11.3　発信操作コマンド（telcan, telspend） 907
11.3.1　発信取り消しコマンド（telcan） 907
11.3.2　発信抑止コマンド（telspend） 910
11.4　発信制限定義コマンド（teldlim） 916
11.4.1　発信制限ルールの設定 916
11.4.2　発信制限ルールの削除 919
11.4.3　発信制限ルールの表示 920
11.4.4　発信制限ルールの状態リセット 921
11.5　ネットワーク監視抑止と抑止解除コマンド（telnethd） 923

11.6　稼動状況監視の監視と抑止のコマンド（tlpwrspd）.....925
11.7　定義情報のバックアップ・リストアコマンド（telsback）.....927
11.8　電源オン・オフ監視コマンド（telsping）.....930
11.9　WAV ファイル再生コマンド（telsndpl）.....935
11.10　テキスト読み上げコマンド（telsmart）.....937
11.11　電源制御コマンド（tlshdrbt）.....940
11.12　ユーザインポートコマンド（tlusrimp）.....945
11.13　ユーザエクスポートコマンド（tlusrexp）.....948
11.14　ユーザ削除コマンド（tlusrdel）.....951
11.15　連絡網インポートコマンド（tlnetimp）.....953
11.16　連絡網エクスポートコマンド（tlnetexp）.....956
11.17　未発信件数カウントコマンド（tlgetqc）.....959
11.18　その他運用ツールコマンド（telfput）.....960
11.18.1 telfput コマンド.....960
11.19　プロトコルコマンド.....962
11.20　TELstaff サービス起動・停止コマンド（telsscmd）.....965
11.21　Alarm View 起動・停止コマンド（teldtcmd）.....966
11.22　Slack への発信と情報取得のコマンド（tlsslack）.....968
11.22.1 チャンネルへのメッセージ投稿.....972
11.22.2 メンバーへのダイレクトメッセージ送信.....975
11.22.3 メンバー一覧の取得.....978
11.22.4 tlsslack コマンドで使用できる変数.....980
11.23　LINE WORKS への発信コマンド（tlsline）.....983
11.23.1 トークルームの作成.....990
11.23.2 トークルームへメッセージを投稿.....992
11.23.3 メンバーへメッセージを送信.....995
11.23.4 tlsline コマンドで使用できる変数.....999
12.　その他.....1001
12.1　変数.....1002
12.1.1　変数一覧.....1002
12.1.2　環境変数.....1008
12.2　統計情報の出力内容.....1010
12.2.1　統計情報一覧.....1010
12.2.2　統計情報出力内容.....1011
12.3　TELstaff におけるワイルドカード.....1033
13.　メッセージ.....1035
13.1　メッセージについて.....1036
13.1.1　メッセージの形式.....1036
13.1.2　メッセージの表記方法.....1037
13.1.3　メッセージ挿入文字の説明.....1037
13.2　メッセージ一覧.....1042
500 未満のメッセージ ID.....1042
500 以上 1000 未満のメッセージ ID.....1053
1000 以上 2000 未満のメッセージ ID.....1071
2000 以上 3000 未満のメッセージ ID.....1091
3000 以上のメッセージ ID.....1095
4000 以上のメッセージ ID.....1103
4020 以上のメッセージ ID.....1104
13.3　イベントログメッセージ一覧.....1106
付　録.....1107
付録 A: オープンソースソフトウェアの使用許諾条件.....1108
RFC1321-based (RSA-free) MD5 library.....1108

cJSON　1108
Go　1109
索　引 1110

1. TELstaffとは

この章では，TELstaff の概要について説明します。

1.1　TELstaffについて

1.2　TELstaffを運用するまでの流れ

1.3　システムの構成

1.4　前提環境

1.5　運用上の留意事項

1.1TELstaffについて

1.1.1 AEPE / AESEについて

自動化された業務では，通常は業務の進捗状況を監視する人がいません。そのため，システムや業務に異常が発生した場合の運用方法が，システム管理者の課題となっています。

統合通報管理システム TELstaff は，Windows システムを運用しているときに発生した問題（業務運用の異常やネットワーク障害など），各種センサ・検知器の信号やカメラ映像の変化を元に，電話，SMS 通知，FAX，メール，PC のデスクトップ，メッセージ表示ボード，信号灯や電気機器，および任意のコマンドに，それぞれ通知する機能を提供し，システムの自動運転インターフェースを提供します。

TELstaff の特徴を次に示します。

1. 通報の統合化と一元管理
2. 豊富な通知メディアの提供とネットワーク，公衆回線など豊富な通信メディアの提供
3. 分かりやすい通知手段の提供と正確で確実な通報手段の提供
4. 運用性および保守性に富んだ通報システムインターフェースの提供

なお，製品の画面などにおいては以下の略記を使用することがあります。

略記	製品名
TELstaff AE Pro Edition	TELstaff AE Professional Edition （300 ユーザ版）
TELstaff AE Pro Edition1	TELstaff AE Professional Edition （1000 ユーザ版）
TELstaff AE Pro Edition2	TELstaff AE Professional Edition （2000 ユーザ版）
TELstaff AE Pro Edition Alarm View	TELstaff AE Professional Edition Alarm View
JP1/TELstaff AE Pro Edition	JP1/TELstaff AE Professional Edition 300 Users
JP1/TELstaff AE Pro Edition1	JP1/TELstaff AE Professional Edition 1000 Users
JP1/TELstaff AE Pro Edition2	JP1/TELstaff AE Professional Edition 2000 Users
JP1/TELstaff AE Pro Edition Alarm View	JP1/TELstaff AE Professional Edition Alarm View

(1) 統合化した通報システムを構築できます

通知先の集中管理と通報の集中管理ができるため，通知先の変更，追加などのメンテナンスができ，運用コストを大幅に削減できます。アプリケーションとのインターフェースは，ダイヤルコマンド 1 つですので，他の管理ツールとの接続が容易にできます。

複数人への通報や通報の繰返し，通報を受けたことを確認できるので，信頼性の高い通報システムを構築できます。

(a) 通報の一元化

他の TELstaff からの通報依頼にもとづき通報します。

JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff の間では，通報依頼は行えません。

(b) 通知メディアの分散化

通報サーバの複数化で，通報サーバの役割を分担させることができます。電話発信専用通報サーバ，SMS 通知専用サーバと役割を分担させることで，負荷分散と短時間通報を実現できます。また，通報サーバを，通報グループで分けて運用し分散化することもできます。

(c) 通報システムの多重化

2 台並列稼動機能を使用すると TELstaff で並列構成を組むことができ，通報システムの信頼性を向上できます。2 台並列稼動機能の詳細については 2.3.18 項を参照してください。

(2) グループに対して自動的に発信します

TELstaff では，電話，SMS 通知，FAX，メール，PC のデスクトップ，メッセージ表示ボード，信号灯や電気機器，および任意のコマンドを組み入れたグループ（連絡網）に対して連絡できます。

連絡網を使用することで，次の特徴があります。

- 発信抑止時間帯の設定（スケジュール）や休日，平日の使い分け（カレンダー）ができるため，生活に合わせた通報システムを構築できます。このスケジュール機能で時間帯によって電話，SMS 通知，メールなどの通知メディアを使い分けできます。例えば昼間は，パトランプの点灯，夜間や休日などは，電話や SMS 通知する等，きめ細かな通報システムを構築できます。
- グループ制での通報では，グループ内の誰かが通報を確認すれば，以降の通報を中止でき，不要な通報を止めることができます。通報が確認されないときは，次のグループへと通報のエスカレーションもできます。なお，通報の確認が取れない場合でも，通報の確認が行われた場合でも，全員へ通報できます。
- グループの繰り返し，個人の繰り返しがあるので，通報の確実性を得ることができます。
- 連絡網は複数登録できるため通報範囲を詳細かつ自由に設定でき，問題要因に合わせた適切な通報が実現可能です。
- 連絡網グループを複数登録できるため，月曜日運用での連絡体制，火曜日運用での連絡体制と言うように，曜日に合わせた連絡網を設定できます。

連絡網を使用して，連絡網に定義した通報先に自動発信する以外に，ダイヤルコマンドを使用して直接電話，SMS 通知，FAX，メール，PC にも発信できます。発信先管理は，すべてアプリケーションで行い，発信だけを TELstaff に依頼する運用も可能です。

直接発信は，TELstaff の通知スケジュールをせずに即座に発信したいときに使用します。

(3) 豊富な通知メディア

電話，SMS，FAX，メール，PC のデスクトップ，メッセージ表示ボード，信号灯，電気機器，および任意のコマンドなど多彩な通知メディアを使用して，文字，音声，光，音で分かりやすく確実に関係者に通知します。

(4) 電話からの操作ができます

トリガフォンを使用した電話発信では，電話受信者が電話から必要なコマンドを実行さ

せたり，通知内容により連絡先を変更したり，メールや FAX 宛てに情報の取り出し（送信）指示ができます。

また，TELstaff に電話をかけて必要なコマンドを実行させたり，メールや FAX 宛てに情報取り出し（送信）指示することができます。

TELstaff から発信された内容に対して，受信者が対応記録を残したり，対応記録を管理者宛てにメール通知もできます。

対応記録内容はダイヤルボタンで入力した数字です。この数字の持つ意味は，あらかじめ運用で決めておきます。

(5) メッセージサービス

AEPE および AESE は，AECL の機能を持ち，AEPE，AESE，AECL，および TELstaff Enterprise (RHEL 版)からのメッセージを受信できます。またメッセージを中継することで他の AEPE，AESE または AECL へと転送することも可能です。例えば，ある AECL が公衆回線を通して他の AECL に送信し，これをその AECL がネットワーク経由で他の AESE へ中継する，といったことも可能です。

JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff とでは，メッセージの送受信はできません。

TELstaff 製品間のメッセージの流れを図 1.1-1 に示します。

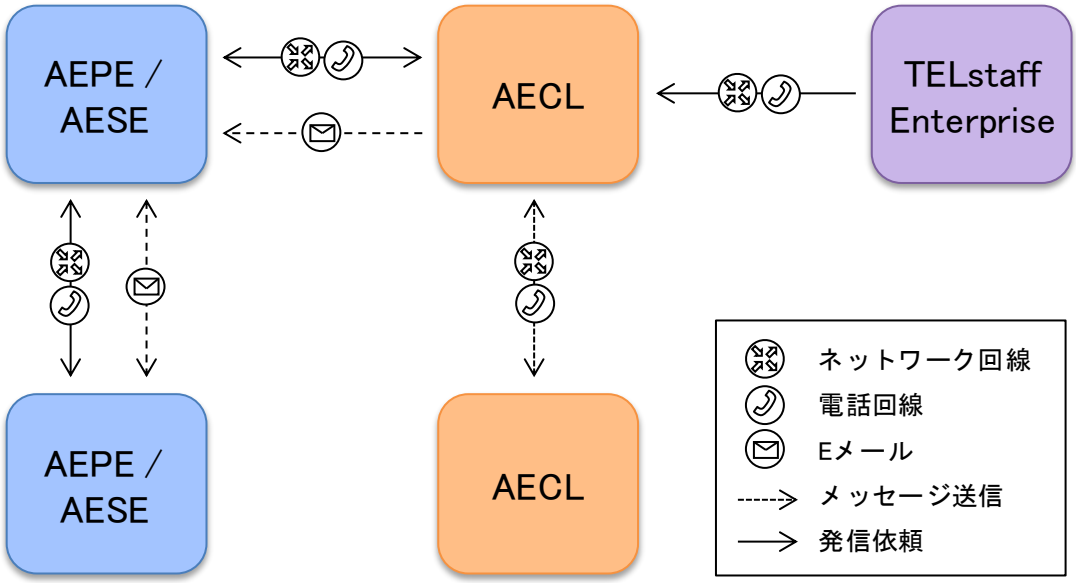


図 1.1-1 TELstaff製品間のメッセージの流れ

表 1.1-1 にメッセージの種類を示します。

表 1.1-1 メッセージの種類

メッセージの種類	説明
通知メッセージ	AECL, AEPE, AESE に対して通知を行うメッセージ
発信依頼メッセージ	他の TELstaff に発信を依頼するメッセージ
プロトコルコマンドメッセージ	発信のキャンセル（telcan），ネットワーク監視の一時抑止（telnethd），パトランプ点灯制御コマンドなどや一般 Windows コマンドメッセージ

(a) ネットワークからの受信セキュリティ

TELstaff システム以外からのメッセージ受信を制限します。受信制限をするには，送信側と受信側 TELstaff のパスワード設定をします。パスワードは，TELstaff システムで共通です。

パスワードで通過しても発信依頼メッセージ，プロトコルコマンドメッセージだけを受信制限できます。

(b) 公衆回線からの受信セキュリティ

RS232C の受発信区別を指定します。発信属性だけ与えれば受信の制限をします。RS232C の受発信区別に受信属性を持たせ，TELstaff システム以外からのメッセージを受信制限するには，送信側と受信側 TELstaff のパスワードを設定します。パスワードは，TELstaff システムで共通です。

パスワードで通過しても，発信依頼メッセージ，プロトコルコマンドメッセージの受信を制限できます。

(c) メールからの受信セキュリティ

TELstaff システム運用関係者以外からのメッセージ受信を制限します。受信側 TELstaff にパスワード設定をし，メール送信では受信パスワードを指定して送信します。パスワードは，TELstaff システムで共通です。

パスワードで通過しても発信依頼メッセージ，プロトコルコマンドメッセージだけを受信制限できます。

(6) ネットワークの自動監視ができます

HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 のノード情報，または hosts ファイルから監視対象ノードを選択して，ノードの自動監視をします。監視対象ノードで障害が発生した場合は，各ノードに対応する関係者に自動通報します。この機能で，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 でのアクション定義作業が軽減できます。

HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 を使用できない環境では，TELstaff は PING 機能も内蔵しています。簡単な機器の監視であれば，PING 機能で機器の障害監視ができます。障害が発生した場合は，各機器に対応する関係者に自動通報します。

ネットワークの自動監視では，監視機器ごと，または監視域ごとに通知先を設定できます。

(7) 豊富な運用支援機能

- TELstaff の発信結果やネットワーク監視結果など，統計情報を記録して管理情報を提供します。発信の実績管理や障害機器の統計や発生頻度の把握，分析を支援します。表計算ソフトでデータ加工して管理帳票の作成も容易にできます。
- TELstaff の稼動状況を TELstaff の「システム管理者」に知らせます。TELstaff サービスが稼動していることを定期的に管理者にメールします。また，TELstaff の重要なメッセージを管理者にメールしたり，メッセージ内容を PC のスピーカに知らせるなど，TELstaff の稼動状況を逐次管理者にお知らせします。

- アプリケーションと連携しやすいように，イベントごとに実行する豊富なコマンドを用意しています。また，TELstaff を運用する上で必要な豊富なコマンドを用意しています。
- 標準通知文は，すべてカスタマイズでき，運用に合わせた通知文が作成できます。
- カスタマイズによって，多くの漢字混じりの文字情報を電話や SMS で通知できます。
- 発信記録や TELstaff の動作記録など，豊富な記録（ログ）情報を提供しています。
- Windows のサービスプロセスの監視ができます。監視方法には，「消滅」と「生成」があります。「消滅」監視は，監視対象プロセスが消滅したときに設定された通報ルールに従って関係者に通知します。「生成」監視は，監視対象プロセスが生成されたときに設定された通報ルールに従って関係者に通知します。
- TELstaff サービスの稼動状態，パトランプの稼動状態，メールサーバ（SMTP サーバと POP3 サーバ），トリガフォンおよびモデムの稼動状態を監視でき信頼性の高い通報システムを構築できます。

1.1.2 AECLについて

AECL は単独での発信機能を持ちませんが，AEPE，AESE，および他の AECL にメッセージを送受信するインターフェースを提供します。AECL は AEPE，AESE，AECL，および TELstaff Enterprise (RHEL 版)からのメッセージを受信でき，また AEPE，AESE，および AECL へとメッセージを送信できます。

AECL は「Alarm View」の機能を備えており，AEPE または AESE からシステム運用中に発生した問題（業務運用の異常やネットワーク障害など）を通知するメッセージを受信し，デスクトップ画面に表示することが可能です。

AEPE および AESE には，AECL の主な機能を備えていますので，AEPE または AESE を使用して，AECL の主な機能を代用できます。

JP1 版 TELstaff との連携はできません。

1.1.3 AEAVについて

AEAV は，TELstaff のデスクトップ通知を受信および表示するプログラム「Alarm View」の機能を単独で利用可能にしたものです。単独での発信は行えません。

デスクトップへの通知については 2.3.1(11)を参照してください。

日立ソリューションズ版 TELstaff と，JP1 版 AEAV との連携はできません。JP1 版 TELstaff と日立ソリューションズ版 AEAV との連携もできません。

一般権限ユーザで起動することはできません。

1.2TELstaffを運用するまでの流れ

TELstaff を使ってネットワークの自動監視を行う場合を例に，電話やパトランプなどへの発信を自動化する手順を，次に示します。

(1) 発信要因の決定

発信要因を決定します。発信の契機になるのは，一般にはシステムや各種業務プログラムからのアラームです。この他に，センサ・検知器の接点信号を利用したり，各種監視ツールや運用ツールで提供しているコマンド実行機能を利用します。これらの中から，発信の必要性があるものを決定して，その出力先や内容を明確にします。

ネットワーク監視を行うときは，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 との連携方法や監視機器などを決めます。

(2) 通報方法の決定

発信要因を決定したら，通報方法として，ダイヤルコマンドでの直接発信にするか，またはグループ（連絡網）に発信するかを決め，アプリケーションからの呼び出し（ダイヤルコマンドの貼り付け）を決定します。

(3) 発信先管理

通知方法として連絡網を使用するときは，発信先管理するための対象ユーザと通知方法を決めます。また，必要なグループ（連絡網）を決めます。

(4) 発信要因との関係付け

発信要因ごとにダイヤルコマンド（teldial コマンド）で発信の関係付けを行います。

発信要因とダイヤルコマンドの関係付けには，業務プログラムの中から直接 TELstaff のダイヤルコマンドを発行するという方法もあります。しかし，保守性や拡張性を考慮すると，メッセージやイベントの発生を契機にコマンドを発行するような機能と連携して，TELstaff のダイヤルコマンドを発行する方法を推奨します。

(5) インストールと環境設定

TELstaff のインストールと環境設定をします。環境設定情報を変更したときは，TELstaff サービスの再起動が必要です。

(6) 連絡網の定義

発信先は，連絡網 ID ごとに連絡網として定義します。連絡網には，複数の発信先が定義できます。定義した発信先の順番が，通報の順位（上から下の順）になります。

連絡網は GUI で定義しますが，この定義がなくても連絡先に通報できます。これは，TELstaff のダイヤルコマンドで，通報先の SMS 番号と通知メッセージを直接指定するような方法です。

1.3システムの構成

1.3.1 AEPEおよびAESEの構成

AEPE のシステム構成を，図 1.3-1 に示します。

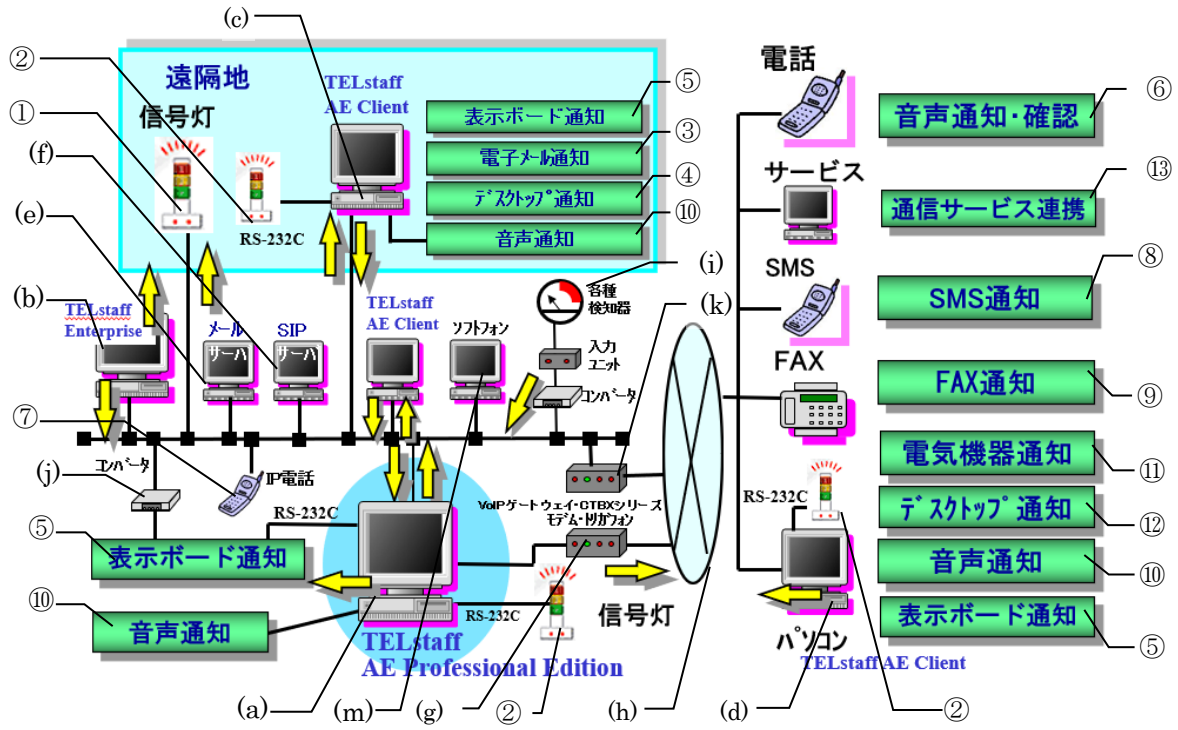


図 1.3-1　AEPEのシステム構成

① ネットワーク対応型パトランプ

遠隔地のパトランプを点灯させるには，ネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニット，または Ethernet-RS232C コンバータ（日立 IT 製 IT-C10RE またはパトライト製 PHN-R）が必要です。ネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニット，またはコンバータは，ネットワークで接続します。コンバータの場合は，コンバータにリレー装置を接続します。また，ネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニット，またはコンバータには，IP アドレスと通信ポートのポート番号を与え，設定します。

１つの機器を複数の TELstaff から同時に使用できるかは機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

② 信号灯（シリアル接続型パトランプ）

信号灯（シリアル接続型パトランプ）は，PC のシリアルポートに接続します。

③ メール通知

TELstaff からのメール通知を受けるには，別途メールソフトが必要です。扱えるメール

は，E メールとなります。

④ デスクトップ通知

AEPE または AESE から，AEPE，AESE または AECL（または AEPE，AESE）がインストールされた PC のデスクトップに通知することができます。AECL（または AEPE，AESE）では，Alarm View を使用して受信メッセージの参照や操作ができます。

⑤ 表示ボード通知

TELstaff からのメッセージ通知は，メッセージ表示ボードに通知できます。

⑥ 音声通知･確認

トリガフォンを使用することで，AEPE または AESE からの通知を電話で受けることができます。メッセージは合成音声です。

⑦ IP電話通知

AEPE から，IP ネットワーク経由で TELstaff からのメッセージを電話（音声）で受けることができます。

TELstaff からの通知を受けるには，IP 電話端末が必要です。

⑧ メッセージ通知（SMS通知）

TELstaff からのメッセージを SMS 通知で受けることができます。メッセージには，英数字文字，半角カナ文字，漢字文字が使用できますが，それぞれの文字が表示できる機種でなければなりません。

⑨ メッセージ通知（FAX）

TELstaff からのメッセージを FAX で受けることができます。

⑩音声通知

TELstaff からのメッセージを音声として受けることができます。

エージェントメッセージの自動読み上げ，メール監視での自動読み上げが可能です。

音声通知を受ける PC には音声合成ソフトウェアがインストールされている必要があります。また，サウンドボードおよびスピーカが必要です。またサウンドデバイスを使用できることが必要です。テキスト読み上げ（再生）に対する音声変換方法（読み上げ方法）は，［テキスト音声変換の設定］ダイアログボックスで設定できます。

【関連項目】

- 4.4.2(3)　エージェントメッセージの自動読み上げの設定
- 8.3.3(6)　メール監視での受信メール自動読み上げ方法の設定
- 4.3　［テキスト音声変換の設定］ダイアログボックス

⑪ 電気機器通知

TELstaff からの通知をパトランプ以外の電気機器を作動するには，専用のリレー装置の他に AECL をインストールします。

⑫ メッセージ通知

AEPE, AESE から，AECL（または AEPE，AESE） に対してメッセージ通知することができます。

⑬ 通信サービス連携

TELstaff から，連携可能な通信サービスへ通知を行います。サービス連携のため，専用の機器やソフトウェアなどを追加することなく，通知が可能となります。連携可能なサービスは，ビジネス向けコラボレーションサービスである Slack への通知と情報取得，企業向け LINE サービスである LINE WORKS への通知が可能です。

（a）AEPE / AESE

AEPE または AESE をインストールします。HP Network Node Manager software または日立 JP1/Cm2 でネットワーク監視を行う場合は，この PC に HP Network Node Manager software または日立 JP1/Cm2 をインストールします。

インストールする PC の動作環境については，「1.4.1 動作環境」を参照してください。

（b）TELstaff Enterprise（RHEL製品）

TELstaff Enterprise（RHEL 製品）からのメッセージを AEPE，AESE，または AECL で受けることができます。また，AEPE，AESE，AECL をインストールした PC に接続したパトランプおよびメッセージ表示ボードの動作を指示することができます。

JP1 版 TELstaff では TELstaff Enterprise（RHEL 製品）との連携はできません。

（c）ネットワークに接続したPC

ネットワーク接続した遠隔地の PC に，メール通知，音声通知，メッセージ表示ボード通知，デスクトップ通知，パトランプ通知ができます。

（d）電話回線に接続したPC

電話回線に接続した遠隔地の PC に，メッセージ通知，音声通知，メッセージ表示ボード通知，パトランプ通知ができます。

（e）メールサーバ

メールサーバには，SMTP メールサーバを使用します。ダイヤルアップネットワーク接続でメール送信する場合は，インターネット接続事業者（プロバイダ）の SMTP メールサーバが必要になります。

メール監視機能を使用する場合，送受信メールを AEPE または AESE が中継した後のメールの配送先としても使用します。メール監視の注意事項については，「1.4.13 メール監視について」を参照してください。

（f）SIPサーバ

AEPE から SIP サーバを使用して IP 電話通知を行う場合に必要です。SIP サーバは，RFC 3261 に準拠した SIP プロトコルに対応していることが前提です。IP 電話通知環境では，SIP メソッドとして，REGISTER・INVITE・BYE をサポートしていることが前提です。

(g) モデムとトリガフォン

TELstaff で使用するモデムには，米国 Hayes 社の AT コマンドに準拠している，19.2〔kbps〕以上の通信速度に対応しているものを使用してください。

シリアルポートには，モデム接続用の RS232C で 19.2〔kbps〕以上の通信速度に対応しているものを使用してください。

シリアルポートを使用し公衆回線（電話回線）経由で電話に文字情報を合成音声で通知する場合は，トリガフォンを 9600〔bps〕の通信速度に対応した RS232C に接続します。

電話回線をモデムとトリガフォンで共用する場合は，モデムに電話回線を接続し，モデムの電話機用モジュラージャックにトリガフォンを接続し，モデムの「受信・発信の区別」は，「発信」で設定します。「受信」，または「受発信」を設定するとトリガフォンからの発信はできません。また電話回線を複数のトリガフォンまたはモデムで共有する場合にも，それぞれの「受信・発信の区別」は，「発信」で設定します。

トリガフォンで電話発信および SMS 通知を行う場合は，モデムは必要ありません。トリガフォンを使用するときは，「1.4.4 トリガフォンについて」に示す注意事項があります。

(h) 電話回線

モデム，トリガフォン，VoIP ゲートウェイ，および CTBX シリーズ機器は電話回線に接続して使用します。使用する電話回線については 1.4.2 項を参照してください。

(i) 各種検知器

各検知器を接点入力ユニットに接続します。接点入力ユニットは，シリアルポート，またはコンバータに接続します。各検知器の信号を入力して，通報システムが構築できます。

(j) コンバータ

メッセージ表示ボード，接点入力ユニットをネットワーク経由で使用する場合，コンバータにメッセージ表示ボード，接点入力ユニットを接続します。

(k) VoIPゲートウェイ・CTBXシリーズ

AEPE から IP ネットワークを使用し公衆回線（電話回線）経由で電話に文字情報を合成音声で通知する場合は，VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズが必要です。

1.3.2 AECLの構成

AECL のシステム構成を，図 1.3-2 に示します。

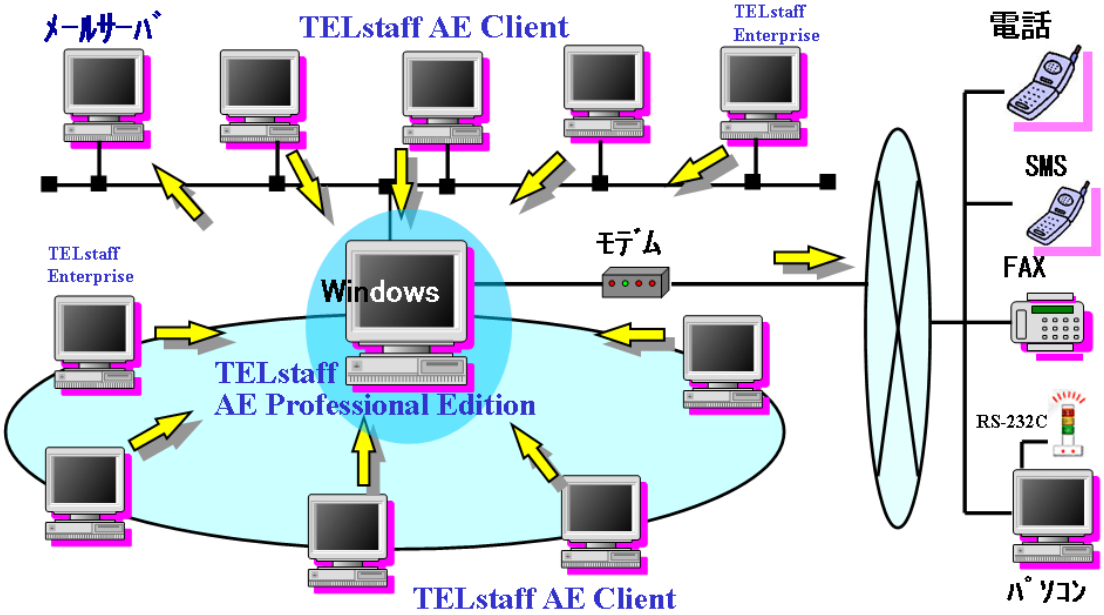


図 1.3-2　AECLのシステム構成

1.4前提環境

TELstaff を使用するための前提となる環境について説明します。

1.4.1 動作環境

TELstaff の動作環境を以下に示します。

(1) AEPE, AESEの動作環境

AEPE，AESE の動作環境を表 1.4-1 に示します。

表 1.4-1 AEPE, AESEの動作環境

CPU	1GHz 以上の x86 および x64 プロセッサ
メモリ	2GB 以上
ハードディスク	NTFS 形式で 200 MB 以上
その他	CD-ROM 読み取り装置
基本ソフトウェア	以下の日本語版 OS ・Windows Server® 2012 Standard ・Windows Server® 2012 Datacenter ・Windows Server® 2012 R2 Standard ・Windows Server® 2012 R2 Datacenter ・Windows Server® 2016 Standard ・Windows Server® 2016 Datacenter ・Windows Server® 2019 Standard ・Windows Server® 2019 Datacenter ・Windows Server® 2022 Standard ・Windows Server® 2022 Datacenter

動作環境に関する注意事項を以下に記します。

- 64 ビット版の OS をご利用の場合でも，TELstaff は 32 ビットバイナリで動作します。
- Windows 7 以降の Windows で利用する場合，留意事項があります。詳細は 1.4.18 項を参照してください。
- IP 電話機能等で音声合成ソフトウェアを使用する場合，使用する音声合成ソフトウェアが要求する前提条件を満たしていることを併せてご確認ください。なお使用できる音声合成ソフトウェアについては，1.4.10(3)をご参照ください。
- 実際のメモリ使用量は運用により異なります。各種メモリ使用量の目安を以下に記します。
    - ✧ 関連機器を使用せず，また未発信情報が存在しない場合，TELstaff サービスは約 12.5M バイトのメモリを使用します。

- ✧ teldial コマンド 1 回につき，約 1.5M バイトのメモリを使用します。
- ✧ telcan コマンド 1 回につき，約 1.4M バイトのメモリを使用します。
- ✧ telspend コマンド 1 回につき，約 1.3M バイトのメモリを使用します。
- ✧ 発信記録 1 回につき TELstaff サービスのメモリ使用量は約 1K バイトです。

- 統計情報を出力する場合，発信 1 回につき約 100 バイトのディスク容量を使用します。これは，統計情報の種類「発信統計情報」を次の条件で出力した場合の値です。
  - ✧ 発信先は Alarm View
  - ✧ teldial コマンド実行時のユーザ付加情報（-u オプション指定値）が 20 バイト
- Alarm View の受信メッセージ 1 回につき，デスクトップパトランプ標準 8 色点灯動作の場合，約 2.5 K バイトのディスク容量を使用します。
- TELstaff の動作を記録するログファイルの作成周期・作成場所は，設定により異なります。ログに使用する最大ディスク容量の算出例を示します。
  - ✧ 算出の前提条件を次の通りとします：
    ・発信先は Alarm View 1 回
    ・teldial コマンド実行時のユーザ付加情報(-u)が 20 バイト
    ・ログの更新周期はインストール直後の設定
    ・1 日当たり 10 件の通知を実施
  - ✧ 上記条件の場合，ログサイズは 1 回の通知で約 400 バイトとなり，最大ログファイルサイズは，400 バイト×10 件×7 日＝28 K バイトです。この場合の出力先ログファイルは，メッセージ記録，コマンドの受付け記録，ネットワーク通信の記録です。これに加え，TELstaff のシステムログが 10～15 ファイル出力されます。システムログの更新周期は 500 KB の場合，システムログの最大ログサイズは 5 MB～7.5 MB となります。なお，TELstaff はログファイルの更新時に履歴として一世代前のログを別ファイルに作成します。このため，使用するディスク容量は，上記最大ログサイズ×２となります。

(2) AECL, AEAVの動作環境

AECL, AEAV の動作環境を表 1.4-2 に示します。

表 1.4-2 AECL, AEAVの動作環境

CPU	1GHz 以上の x86 および x64 プロセッサ
メモリ	2BG 以上推奨(*2)
ハードディスク	NTFS 形式の 100 MB 以上推奨(*3)
基本ソフトウェア(*1)	以下の日本語版 OS ・Windows® 8 ・Windows® 8 Pro ・Windows® 8 Enterprise ・Windows® 8.1 ・Windows® 8.1 Pro ・Windows® 8.1 Enterprise

	・Windows® 10 Home ・Windows® 10 Pro ・Windows® 10 Enterprise ・Windows® 11 Home ・Windows® 11 Pro ・Windows® 11 Enterprise ・Windows Server® 2012 Standard ・Windows Server® 2012 Datacenter ・Windows Server® 2012 R2 Standard ・Windows Server® 2012 R2 Datacenter ・Windows Server® 2016 Standard ・Windows Server® 2016 Datacenter ・Windows Server® 2019 Standard ・Windows Server® 2019 Datacenter ・Windows Server® 2022 Standard ・Windows Server® 2022 Datacenter

(*1) 64 ビット版の OS をご利用の場合でも，TELstaff は 32 ビットバイナリで動作します。

(*2) Alarm View の受信メッセージ 1 回の表示につきメモリ使用量は，デスクトップパトランプ標準 8 色点灯動作の場合，約 2.5 K バイトです。

(*3) Alarm View のログファイルは，内部動作のみを記録しており，各ファイルの上限サイズは 500 KB です。これらのログファイルは，製品をインストールしたフォルダの直下にある「log」というフォルダに出力されます。

1.4.2 電話回線について

モデムやトリガフォンに接続する電話回線は，2 線式の一般 NTT 契約回線（アナログ回線）を使用してください。VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズに接続する電話回線は，VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズの仕様により異なります。詳細は VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズの取り扱い説明書を参照してください。

外部からトリガフォンに電話をかけて TELstaff に接続するとき，発信者通知番号で接続者の認証を行うことができます。発信者通知番号で認証を行う場合は，ナンバーディスプレイ契約回線が必要です。

1.4.3 モデムについて

電話，FAX，SMS 通知，電話回線接続のメッセージエージェント通知を使用する場合は，モデムが必要になります。TELstaff で使用するモデムは，米国 Hayes 社の AT コマンドに準拠している，19.2〔kbps〕以上の通信速度に対応しているものを使用してください。

またトリガフォンを使用しても，電話，SMS 通知ができます。トリガフォンで電話，SMS 通知する場合は，モデムは必要ありません。また IP 電話通知する場合も，モデムは必要ありません。

TELstaff では，通信モデムを使用して問い合わせやダイヤルトーン音を使用して電話への通知機能を利用できますが，モデムによってはダイヤルトーンを送信できないモデムがあるため，問い合わせやトーン音を使用して電話への通知機能を利用できない場合があります。

FAX 送信する場合は，使用するモデムが限定されます。FAX 発信では，「1.4.9」に示す注意事項があります。

一定時間内に発信できる発信数の制約は，緩和（2001 年より）されましたがモデムによっては連続したダイヤリングを制限（接続制限）しているものがあります。接続制限を持つモデムを使用して短時間に多数の FAX，SMS 通知，電話回線接続のメッセージエージェント発信を行うと発信が不成功になります。

このモデムによる接続制限を回避するには，連絡網間隔時間を使用するか発信制限機能を使用して短時間内の発信数を減らします。

また，使用するモデムによっては，SMS 通知ができない場合があります。

SMS 通知では，最大メッセージ長より長いメッセージを指定すると TELstaff で自動的に通知メッセージを分割して送信します。使用するモデムによっては，メッセージは，設定した最大メッセージ長以降のメッセージを切り捨てて送信します。

TELstaff サービスを開始するとモデムの接続確認を行います。モデムを複数接続すると，TELstaff サービスを開始するまで時間がかかります。

モデムに接続する電話回線についての注意事項等については 1.4.2 を参照してください。

1.4.4 トリガフォンについて

電話に文字情報を音声で通知する場合は，トリガフォンが必要になります。IP 電話通知する場合は，トリガフォンは必要ありません。

トリガフォンでは，トリガフォンからの SMS 通知，電話からのコマンド実行，対応記録統計情報の出力ができます。

トリガフォンは，シリアルポートに 9600〔bps〕の通信速度でクロスケーブルを使用して接続します（RS232C の出力がクロス出力の場合には，ストレートケーブルを使用します）。電話受信者の呼び出し時間は，トリガフォンのシステム設定で行います。

トリガフォン自体の設定方法については，トリガフォンに付属のマニュアルを参照してください。

TELstaff に関連する主なシステム設定項目を表 1.4-3 に示します。なお，「受信確認メッセージの出力」のチェックは，外さないでください。

表 1.4-3　主なシステム設定項目一覧

システム設定項目	説明	必要性
発呼処理－リング回数	受信電話の呼出し回数を設定します。	任意
ﾘﾝｸﾞﾊﾞｯｸﾄｰﾝ検出時間	リングバックトーン検出時間を設定します。 携帯電話や PHS を使用するとき設定が必要です。(b)を参照してください。	任意
ダイヤルトーン検出	ダイヤルトーン信号の検出設定を設定します。	任意
ダイヤルパルス回線	ダイヤル回線の PPS を設定します。	任意

システム設定項目	説明	必要性
ディップスイッチ	DSW1 の 1 番スイッチ，および DSW2 の 8 番スイッチを ON(上)にします（なお，これは 2015 年 9 月現在のトリガフォン出荷時設定です）。	必須

(a)　トリガフォンに接続する電話回線

トリガフォンに接続する電話回線に関する注意事項等については 1.4.2 項を参照してください。

(b)　回線切断の認識

トリガフォンが回線接続後，音声再生中に相手局（受信電話）との回線切断を認識する条件としては，回線状態の極性反転の有無と，ビジートーンにより判断します。ISDN の TA の機種によっては極性反転機能，ビジートーンがないものがあります。極性反転機能，ビジートーンのない回線にトリガフォンを接続して使用した場合，音声再生中に回線切断を認識できずに最後まで音声を再生します。

(c)　トリガフォンのパスワード認証機能

トリガフォンを使用すると，次に示す順番でメッセージが流れます。パスワード認証をしない場合は，受話器を取るとメッセージ本文が再生されます。

1. パスワード入力要求ガイダンス
2. 通知メッセージ本文
3. メッセージ受信確認操作ガイダンス
4. コマンド入力と対応記録入力操作

パスワードなどの入力を行う場合，電話通知を受信する電話機はトーン信号を送出できる機種である必要があります。

(d)　その他のトリガフォンを使用するときの注意事項

トリガフォンを使用する場合，次の注意事項があります。

1. トリガフォンで読み上げを行う場合の文字数には，以下に示す制限があります。
   （Ⅰ）読み上げのメッセージ

   読み上げメッセージファイルを作成・編集するときに該当します。

   988 バイト以内で指定してください。

   (Ⅱ)パスワードの入力など受話者にダイヤル操作を促すメッセージ

   環境設定の「発信方法」タブ，「ガイダンス」タブのメッセージに本制限に該当するメッセージがあります。476 バイト以内で指定してください。
2. 英字文字の場合，アルファベット読みと単語読みの混在する場合があります。
3. 電話回線をモデムとトリガフォンで共用する場合は，モデムに電話回線を接続し，モデムの電話機用モジュラージャックにトリガフォンを接続し，**モデムの「受信・発信の区別」は，「発信」で設定します。**「受信」，または「受発信」を設定する

とトリガフォンからの発信はできません。

4. TELstaff サービスを開始するとトリガフォンの接続確認を行います。トリガフォンを複数接続すると，TELstaff サービスを開始するまで時間がかかります。
5. TELstaff サービス開始中にトリガフォンの電源を入れ直すとトリガフォンの設定情報が初期状態に戻ります。TELstaff サービス開始中にトリガフォンの電源を入れ直した場合は，TELstaff サービスの再起動が必要です。
6. トリガフォンは，PBX 回線からの発信（内線発信）を動作保証しておりません。PBX 回線からの発信（内線発信）をご利用されたい場合，お客様にて事前検証の上，利用可否をご判断ください。
7. 交換機を経由した電話端末で受信し，ボタン操作を実施した場合，TELstaff 側でボタン操作を認識できない可能性があります。この場合，受話操作は未実施と判断されます。

1.4.5 シリアルポートについて

TELstaff で使用するシリアルポート(RS232C)には，19.2〔kbps〕以上の通信速度に対応しているものを使用してください。その他，トリガフォン，リレー制御器，接点入力ユニット装置，メッセージ表示ボードを使用する場合は，9600〔bps〕の通信速度に対応しているものを使用してください。

TELstaff は，最大 16 の RS232C まで制御できます。使用できる COM ポート名は，COM1 から COM16 となります。シリアルポートを増設する場合は，COM ポート名が COM1 から COM16 になるように増設しなければなりません。

複数の RS232C 機器を使用する場合は，使用する回線分のモデム，RS232C 機器と RS232C が必要です。多くの RS232C を使用する場合，Windows のシステムリソースが必要となります。

シリアルポートを追加する場合は，シリアルポートによってトリガフォンを接続できない場合があります。

TELstaff サービス起動中は，シリアルポート(RS232C)を他のアプリケーションで使用できません。TELstaff サービス開始時に RS232C ポートが他のアプリケーションで使用中の場合は，RS232C ポートに接続したモデム，またはトリガフォンを使用してないで TELstaff サービスを開始します。

1.4.6 パトランプおよび電気機器の作動について

TELstaff でパトランプ，または電気機器を作動させるには，専用のリレー装置（リレー装置一体型パトランプを含みます）と RS232C ケーブルが必要になります。使用する RS232C ケーブルは，使用するリレー装置のメーカーによって異なり，データシックス社製の装置ではクロスケーブルを，パトライト社製の装置ではストレートケーブルを使用します。

また，遠隔の場所に電気機器を設置する場合は，コンバータ（旧日立 IT 社製 IT-C10RE），ネットワーク対応型パトランプ，または AECL が必要になります。

コンバータを使用して電気機器を作動させる場合，またはネットワーク対応型パトランプを作動させる場合は，機種によりましては，複数の AEPE および AESE から作動指示をさせることができません。機器の仕様をご確認ください。

リレー装置，またはコンバータ，ネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニットの電源をオフの状態で使用した場合，各発信が遅延したり発信が滞留し，運用に支障を与えることになります。

一時的に使用しない運用を行う場合は，スケジュール機能を使用するか，または telspend コマンドでパトランプへの発信を抑止します。

(1) リレー装置について

リレー装置は，データシックス社製リレー装置とパトライト社製リレー装置の２種類が使用できます。

TELstaff が使用する標準のリレー装置は，次の方法で変更できます。出荷時の標準のリレー装置は，パトライト社製が設定されています。

1. インストール時のインストールウィザードで，標準で使用するリレー装置を設定する。
2. TELstaff ウィンドウ［オプション］－［使用するリレー装置の標準設定］メニューで，使用するリレー装置を設定する。AECL の場合は，スタートメニュー［TELstaff ツール］－［リレー接点テストツール］を選択して標準で使用するリレー装置を設定する。

(2) コンバータとネットワーク対応型パトランプについて

コンバータは，パトライト社製（PHN-3FB/PHN-R）と旧日立 IT 社製 IT-C10RE の 2 種類が使用できます。コンバータの使用方法を表 1.4-4 に示します。

表 1.4-4　コンバータの使用方法

コンバータに接続する装置	使用するコンバータの種類
シリアル接続型パトランプ リレー装置	標準のコンバータに設定された装置を使用します。

パトランプで使用する標準のコンバータ装置を，次の方法で変更できます。出荷時の標準のコンバータ装置は，パトライト社製（PHN-3FB/PHN-R）が設定されています。

1. インストール時のインストールウィザードで，標準で使用するコンバータ装置を設定する。
2. TELstaff ウィンドウ［オプション］－［使用するコンバータ装置の標準設定］－［パトランプ発信の場合］で使用するコンバータ装置を設定する。AECL の場合は，スタートメニュー［TELstaff ツール］－［リレー接点テストツール］を選択して標準で使用するコンバータ装置を設定する。

パトランプをコンバータに接続して使用する場合，同じシステム内で旧日立 IT 社製 IT-C10RE とパトライト社製（PHN-3FB/PHN-R）の **2 種類の併用はできません**。どちらかのコンバータに統一する必要があります。

1.4.7 SMS通知について

TELstaff で使用できる SMS 通知の種類を表 1.4-5 に示します。

表 1.4-5 SMSの種類一覧

SMS の種類	SMS 種別キーワード	使用可能な文字
NTT DoCoMo ショートメール（カナ）	Docomo4	半角英数字，および半角カナを表示できます。
NTT DoCoMo ショートメール（漢字）	Docomo5	半角英数字，半角カナ，および漢字を表示できます。

TELstaff のインストール直後では，「NTT DoCoMo ショートメール（漢字）」が標準で使用する SMS 通知に設定されています。

【関連説明】

- 4.1.1(3)　　環境設定－「SMS」タブ

その他の注意事項などについては「2.3.1(3) SMS 通知」を参照してください。

パスワード付きの SMS 通知には，パスワードの直後に，続けてメッセージを送信する方法に対応した SMS サービスに発信できます。これ以外の方法に対応した SMS サービスには発信できません。

一般に，SMS 通知では，回線障害や回線不通などの理由で物理的に発信できなくとも正常発信の扱いとなります。また，SMS センタが，送信メッセージが長すぎるなどの理由でメッセージ受信を拒否した場合でも正常発信扱いになります。

一定時間内に SMS 通知できる発信数は，3 分間の制約（2001 年）が緩和されましたがモデムによっては連続したダイヤリングを制限しているものがあります。使用するモデムによっては，SMS 通知ができない場合があります。

1.4.8 メール送信について

(1) メール送信について

TELstaff からインターネット経由でメール発信をする場合は，SMTP プロトコルに対応した SMTP メールサーバが必要になります。使用可能な認証方式は，POP Before SMTP 認証および SMTP 認証（SMTP-AUTH）です。

SMTP メールサーバの情報は，環境設定で設定しておきます。

インターネット経由でメール発信できる 1 行の最大文字数と題名（Subject）は，半角文字で 512 桁以内です。

SMTP サーバへの接続を監視するアプリケーションなどで，SMTP サーバへの接続を遮断する設定が行われている場合，メール送信はできません。メール送信を行う場合，次の TELstaff プロセスによる SMTP サーバへの接続を許可してください。

- telsmdem プロセス
- telagent プロセス

- telsmail プロセス

TELstaff は，文字コードが Shift_JIS（JIS X 0208）のメール通知文を読み込み，JIS (iso-2022-jp) に変換して送信します。もしメール通知文の中に JIS 変換できない文字がある場合，それらを文字「=」に変換して送信します。

(2) ダイヤルアップネットワーク接続について

TELstaff からダイヤルアップ（公衆回線経由）でメール発信をする場合は，ダイヤルアップネットワーク接続でインターネット接続事業者（プロバイダ）の SMTP メールサーバを使用します。

ダイヤルアップネットワーク接続は，ダイヤルアップ接続設定ダイアログボックスでダイヤルアップ接続方法を設定します。

ダイヤルアップ接続でメール発信をする場合は，ダイヤルアップ接続で使用する専用のモデムと電話回線が必要となり，TELstaff との共用使用はできません。

ローカルエリアネットワーク環境とダイヤルアップネットワーク環境の両方を使用する場合，ダイヤルアップネットワーク接続中にネットワーク通信を使用する PC のデスクトップ通知，AECL（または AEPE，AESE）接続のメッセージ表示ボード表示やパトランプ作動などの発信はできません。発信を行うと，ネットワーク通信エラーになり発信が不成功になります。これは，ダイヤルアップネットワーク接続中には，ローカルエリアネットワークへの通信ができないことによります。

このような場合，ダイヤルアップネットワーク接続が切断されたとき再発信できるように発信の繰り返しを設定しておく必要があります。

1.4.9 FAX送信について

TELstaff から FAX 発信するときは，次の注意事項があります。

- モデムは，クラス 1 コマンドに対応したものを使用します。なお，TELstaff で使用できるモデムは，限定されます。モデムによっては，ロール紙 FAX で，紙が出力され続ける場合があります。また，受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。
- 送信用紙は，A4 サイズで 1 枚です。送信メッセージが，A4 サイズで 2 枚以上になる場合は，モデムや受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。受信 FAX によっては，複数ページを送ると送信エラーになったり，ロール紙 FAX で，紙が出力され続ける場合があります。
- 使用するフォントは，12 ポイントの「MS 明朝」固定です。また罫線や画像は使用できません。
- モデムに接続する電話回線に関する注意事項等については 1.4.2 項を参照してください。

1.4.10IP電話について

(1) IP電話通知の方法

(a) VoIPゲートウェイを使用する場合

次のいずれかにより行います。

- TELstaff から IP 電話へ直接通知

  TELstaff のインストールされた PC から，IP ネットワーク接続された IP 電話端末に直接電話通知します。

- VoIP ゲートウェイを経由して電話通知

  TELstaff のインストールされた PC から，IP ネットワーク接続された VoIP ゲートウェイを経由して，固定電話や携帯電話に電話通知します。

(b) CTBXシリーズを使用する場合

- CTBX シリーズを経由して電話通知

  TELstaff のインストールされた PC から，IP ネットワーク接続された CTBX シリーズのハードウェアを経由し，光回線を通して，固定電話や携帯電話に電話通知します。

(2) IP電話通知に使用できる音声データ

TELstaff から IP 電話通知する場合の通知内容は，次のいずれかの音声データを使用します。

- 固定の音声ファイルを使用

  あらかじめ作成された音声ファイルを使用する場合です。使用する音声ファイルは，teldial コマンドの-fv オプションで指定します。TELstaff の変数は使用できません。表 1.4-6 に TELstaff の IP 電話通知で使用可能な音声ファイルの形式を示します。

表 1.4-6 音声ファイルの形式

項目	内容
ファイル形式	WAV 形式
音声形式	μ-law PCM，モノラル
サンプリングレート	8,000 Hz
量子化ビット数	8 bit

- 音声合成ソフトウェアを使用

  IP 電話発信の度に音声合成ソフトウェアにより作成された音声データを使用する場合です。IP 電話発信の度に音声データを作成するので，通知内容は可変です。使用できる音声合成ソフトウェアは，「(3)IP 電話通知で使用できる音声合成ソフトウェア」を参照してください。

使用するガイダンスメッセージや通知メッセージは，表 1.4-7 のとおり使用時の状態によって異なります。

表 1.4-7　IP電話発信で使用するメッセージ

		通知メッセージ	
		テキストファイル	wavファイル
音声合成	可	ガイダンスメッセージ，通知メッセージとも音声合成した内容を再生	ガイダンスメッセージは音声合成した内容を再生，通知メッセージは wav ファイルを再生
	不可 ※1	ガイダンスメッセージは標準の音声ガイダンスを再生，通知内容も標準の音声通知内容	ガイダンスメッセージは標準の音声ガイダンスを再生，通知内容は wav ファイルの内容

※1　ガイダンスメッセージの合成音声化，通知メッセージの合成音声化のどちらか一方でも不可の場合は，本項目に該当します。

(3) IP電話通知で使用できる音声合成ソフトウェア

TELstaff から IP 電話通知する場合に，音声合成ソフトウェアを使用できます。表 1.4-8 に IP 電話通知で使用可能な音声合成ソフトウェアを示します。

表 1.4-8　IP電話通知で使用可能な音声合成ソフトウェア

製品名	メーカー名
ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム（Type2）	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム２	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム４	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム英語	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム中国語	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト

※　音声合成ソフトウェアにより動作環境が異なります。詳しくは各製品の説明書等の資料を参照してください。

(a)　メモリ使用量の考え方

音声合成ソフトウェアを使用して IP 電話発信を行う場合の使用メモリ量を試算する場合，(1)TELstaff サービス起動と同時に確保されサービス終了まで使用し続けるベース使用量と，(2)個々の IP 電話発信時に使用する通知毎使用量の 2 種類を考える必要があります。これらの値は使用する音声合成ソフトウェアごとに異なります。表 1.4-9 に，音声合成ソフトウェアごとのメモリ使用量の目安を示します。

表 1.4-9　音声合成ソフトウェアごとのメモリ使用量の目安

音声合成ソフトウェア	ベース使用量	通知毎使用量
ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム	約 100 MB	約 5 MB
ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム（Type2）	約 15 MB	約 5 MB

音声合成ソフトウェア	ベース使用量	通知毎使用量
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム 2	約 100 MB	約 6 MB
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム 4	約 100 MB	約 6 MB
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム英語	約 100 MB	約 32 MB *1
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム中国語	約 350 MB	約 64MB *1

*1　通知するメッセージの量などに応じて大きくなることがあります。サイジング設計などでメモリ使用量の試算が必要な場合，実際に通知を行い計測することを推奨します。

(b)　音声合成ソフトウェアごとの使用可能な機能

TELstaff で使用可能な機能の範囲は，使用する音声合成ソフトウェアによって異なります。また使用する言語ごとにテキストファイルで使用すべき文字コードも異なります。したがって，使用する音声合成ソフトウェア・言語・文字コードを適切に組み合わせる必要があります。

音声合成ソフトウェアごとに使用可能な言語を表 1.4-10 に，それぞれ用の通知文ファイルで使用すべき文字コードとその最大サイズを表 1.4-11 に，文字の読み方の設定[4.3.3]を表 1.4-12 に，文字の読み上げ方法の設定[4.3.1(1)(e)]を表 1.4-13 に示します。

表 1.4-10　各音声合成ソフトウェアで使用可能な言語

音声合成ソフトウェア	言語（言語コード）
ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム	日本語（ja）
ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム（Type2）	日本語（ja）
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム 2	日本語（ja）
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム 4	日本語（ja）
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム英語	英語（en）
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム中国語	中国語（zh）

表 1.4-11　各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ

音声合成ソフトウェア	文字コード	通知文の最大長
ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム	Shift_JIS	10,000 バイト
ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム（Type2）	Shift_JIS	10,000 バイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム 2	Shift_JIS	10,000 バイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム 4	Shift_JIS	10,000 バイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム英語	ASCII	10,000 バイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム中国語	GBK	10,000 バイト

表 1.4-12　各音声合成ソフトウェアで指定可能な文字の読み方の設定

		ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム	ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム (Type2)	ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム 2	ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム 4	ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム英語	ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム中国語
読み上げる方法	声の種類	○	○	○	○	×	×
	声の高低	○	○	○	○	○	○
	声の音量	○	○	○	○	○	○
	読みの速さ	○	○	○	○	○	○
	抑揚の大きさ	○	○	○	○	×	×
読み方	数字	○	○	○	○	×	×
	英文文字列	○	○	○	○	×	×
	日付	○	○	○	○	×	×
	時刻	○	○	○	○	×	×
	曜日	○	○	○	○	×	×
	無声化母音の扱い	○	○	○	○	×	×

表 1.4-13　各音声合成ソフトウェアで指定可能な文字の読み上げ方法の設定

	ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム	ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム (Type2)	ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム 2	ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム 4	ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム英語	ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム中国語
読み上げない文字列	○	○	○	○	×	×
読み替える文字列	○	○	○	○	×	×

(4) IP電話発信時の注意事項

IP 電話に発信する場合，次の注意事項があります。

- VoIP ゲートウェイと CTBX シリーズは同時に使用できません。IP 電話通知の詳細設定ダイアログボックスの IP 電話発信方法の選択で選択した発信方法のみが使用できます。
- TELstaff をインストールするコンピュータの負荷が高くなったり，複数の IP 電話へ同時に通知したりするとき，再生される音声の音声品質が低くなる場合があります。
- IP 電話のダイアル入力では，音声データに含まれる DTMF 信号のみサポートし

ています。SIP の INFO メソッドなどはサポート外です。

- 日本語以外のガイダンスメッセージは変更できません。
- 使用するガイダンスメッセージ，通知メッセージは使用時の状態によって異なります。表 1.4-7 を参照してください。
- 受信者が話中などで通話を受信できない場合を想定し，連絡網の繰り返し機能を使用してください。
- TELstaff で使用する電話番号は，ハイフンなしで指定してください。
- 交換機を経由した電話端末で受信し，ボタン操作を実施した場合，TELstaff 側でボタン操作を認識できない可能性があります。この場合，受話操作は未実施と判断されます。

(a) VoIPゲートウェイを使用する場合

- VoIP ゲートウェイや SIP サーバと AEPE インストールサーバ間は，SIP および RTP の通信ができる環境をご用意ください。
- VoIP ゲートウェイでは，固定の IP アドレスを使用します。
- Windows Firewall やウィルス対策ソフトで，TELstaff が使用するプログラム(tliptsrv.exe)または IP 電話通知の詳細設定ダイアログボックスで指定した UDP ポートの通信許可設定が必要です。
- コンピュータに複数の IP アドレスが存在する場合は VoIP ゲートウェイの設定「送信元アドレス」（4.1.11(h)参照）を必ず設定してください。この設定を行わないと電話発信が正常に行えない場合があります。
- VoIP ゲートウェイを複数接続する場合，VoIP ゲートウェイに障害が発生した時に通報を完了するまでに時間がかかる場合があります。
- VoIP ゲートウェイを複数台接続する場合で，同時通知数に VoIP ゲートウェイに接続している総電話回線数と同じ値を指定すると，VoIP ゲートウェイに障害が生じた場合に，IP 電話の発信ができない場合があります。このような場合は，発信を繰り返すことにより解消することがあります。

(b) CTBXシリーズを使用する場合

- TELstaff と CTBX シリーズを連携する場合に使用する電話回線は，光回線です。光回線以外の電話回線では，IP 電話通知はできません。
- CTBX シリーズの対応機器は，光回線に対応した CTBX-704V，CTBX-712V，CTBX-724V の 3 機種です。
- CTBX シリーズ機器で使用できる電話回線には制限があります。詳しくは，CTBX シリーズ機器のマニュアルを参照してください。
- CTBX シリーズ機器を使用する場合，前提プログラムである CTBX シリーズ制御プログラムの CT System Builder for Network が必要となります。TELstaff サポートサービスよりインストーラを入手し，インストール・セットアップしてください。CT System Builder for Network がインストールされていない場合，環境設定－「IP 電話通知の詳細設定ダイアログボックス」の「IP 電話発信方法の選択」グループボックスで，「CTBX シリーズ」ラジオボタンは選択できません。
- TELstaff サービスを起動するとき，CT System Builder for Network のサービ

スが停止している場合は，起動します。

- CT System Builder for Network のサービスが起動している時は，TELstaff サーバと CTBX シリーズ機器との間で常時 TCP 接続がされた状態となります。このとき，CTBX シリーズ機器は，他の TELstaff サーバからの電話発信を受け付けることはできません。
- 2 台並列稼動機能を利用する場合を含め，1 台の CTBX シリーズ機器を複数の TELstaff から利用することはできません。
- １台の CTBX シリーズ機器を同時に利用しない場合でも，正副構成含め，複数の TELstaff サーバから 1 台の CTBX シリーズ機器にアクセス可能な構成とすることは推奨しません。電話発信に利用しない TELstaff サーバおいて TELstaff サービスや CT System Builder for Network サービスの起動により，その TELstaff サーバと CTBX シリーズ機器の間で TCP 接続され，電話発信が必要となる TELstaff サーバからの電話発信を受け付けられなくなることがあります。
- CT System Builder for Network をインストールした場合には，サーバの再起動が必要となります。

1.4.11音声合成ソフトウェアについて

AEPE，AESE，および AECL では，音声合成ソフトウェアを使用して文字情報を音声に変換し，各種通知で使用することが可能です。

使用できる音声合成ソフトウェアを表 1.4-14 に示します。

表 1.4-14　使用できる音声合成ソフトウェア

製品名	メーカー名
ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
ボイスソムリエ マリアージュ ランタイム（Type2）	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム２	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム４	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム英語	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト
ボイスソムリエ ネオ マリアージュ ランタイム中国語	株式会社日立ソリューションズ・クリエイト

※　音声合成ソフトウェアにより動作環境が異なります。詳しくは各社の説明書等の資料を参照してください。

1.4.12ネットワーク監視について

HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 と連携してネットワーク

監視をするには，HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 ソフトウェアが必要になります。HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 と連携して使用する場合は，HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 をインストールした Windows に AEPE または AESE をインストールします。

AEPE または AESE の Ping 監視機能を使用する場合，HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 などのネットワーク監視ツールは必要ありません。

Ping 監視では，全監視ホストに対して Ping 監視を行ったあと発信します。

Ping 監視とポーリング監視からの発信は，発信制限できません。

HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 と連携できるバージョンは，次のバージョンです。このバージョン以外で使用する場合は，hosts ファイルを使用したネットワーク監視機能をご使用ください。

- HP Network Node Manager software 5.01 から 7.51
- 日立 JP1/Cm2 05-00 から 08-00

1.4.13 メール監視について

メール監視機能を使用すると，さまざまなサーバ監視アプリケーションやネットワーク機器が送信するメールを監視できます。メール監視機能は，AEPE および AESE で使用可能です。

メール監視機能を利用することで，メールだけの通知から電話，SMS 通知，FAX，メール，PC のデスクトップ，メッセージ表示ボード，信号灯や電気機器，および任意のコマンドなど多彩な方法で通知方法が拡大できるようになります。また，メール監視機能を利用することで，重要度情報を付けたメールに変更でき，TELstaff のメール開封確認機能が使用できるようになります。

メール監視の監視方法には，リアルタイム監視と POP3 監視の 2 つの監視方法があります。メール監視できる受信メールは，次の文字コード（Content-Type: text/plain ヘッダ）で作成されたメールに限られます。

```
Content-Type: text/plain; charset=iso-2022-jp
Content-Type: text/plain; charset=shift-jis
Content-Type: text/plain; charset=shift_jis
Content-Type: text/plain; charset=us-ascii
Content-Type: text/plain; charset=utf-8
Content-Type: text/plain; charset=iso-8859-1
```

(1) リアルタイム監視

リアルタイム監視機能は，送受信メールを TELstaff が中継し，監視対象のメールを検出することでメールを監視します。

なお，SMTP メールサーバ環境が無くても使用でき，また実在しないメールアドレス宛のメールを監視対象とすることも可能ですが，いずれの場合もそのメールはどこにも配送されません。

設定手順

1. 既存の SMTP メールサーバがある場合，SMTP メールサーバとは別の通信ポート 25/tcp が使用できる PC（サーバ）に TELstaff をインストールします。
2. サーバ監視アプリケーションのメールサーバの設定を TELstaff をインストールしたサーバに変更します。通信ポートは，25/tcp 固定になります。
3. 送受信メールを TELstaff が中継した後のメールの配送先（既存の SMTP メールサーバの場所）を環境設定－「E メール」タブ（図 4.1-9）に設定します。
   SMTP メールサーバを使用しない場合は，環境設定－「E メール」タブには，SMTP メールサーバの設定を省略します。
   環境設定－「E メール」タブに複数のメールサーバを登録している場合では，「メールサーバ一覧」リストボックスの上から下の順で，中のメールサーバ（ダイヤルアップネットワーク接続のメールサーバ，ローカル IP アドレス，この PC の IP アドレスは除きます）を使用して配送を行います。すべてのメールサーバが使用できない場合は，メール送信元に配送エラーメールを送信します。

注意事項

1. TELstaff が送信するメールは，メール監視できません。
2. TELstaff が中継したメールの配送先メールサーバにダイヤルアップネットワーク接続のメールサーバ，TLS を使用する ESMTP メールサーバ，POP Before SMTP 認証および SMTP-AUTH で認証を行うメールサーバは，使用できません。
3. メールサーバからの配送通知（Delivery Status Notification 通知）を受け取ることはできません。
4. 分割メールでは，分割された最初のメールがメール監視の対象になります。
5. TELstaff サービス停止中にサーバ監視アプリケーションが送信するメールは，メール監視できません。この場合，サーバ監視アプリケーションではメール送信エラーとなります。
6. メール監視できるメールアドレス形式は，完全修飾ドメイン名形式（FQDN 形式）でなければなりません。
7. SMTP メールサーバに登録されていないメールアドレスをメール監視する場合，TELstaff が中継した後のメールの配送はできません。このため，メール監視定義で監視対象にするメールは削除の設定が必要です。メールを保管する場合は，メール監視のプロパティダイアログボックス（図 8.2-1）の「受信メールの保存方法」フィールドと，メール監視－「全般」タブ（図 8.3-1），またはフィルタリングの設定ダイアログボックス－「条件設定」タブ（図 8.3-4）の「メールの保存」フィールドで受信箱に保存する設定を行います。

8. 監視対象のメールを削除するよう設定している場合，または環境設定－［E メール］タブにて SMTP メールサーバ（ただし自コンピュータに同居するメールサーバは除く）を一つも登録していない場合，次のフォルダに 3 日間メールを保管します。

{MSGBOX}¥MTABox¥BackUpMail¥25¥　　（※）

   ※ただし｛MSGBOX｝の部分は，メッセージエージェント構成の設定－「メッセージ保存」タブの「メッセージ記録フォルダ」テキストボックスに指定したフォルダです

9. 中継した後のメールの配送ができない場合で，メール送信元に配送エラーメールの送信ができない場合，次のフォルダに 3 日間メールを保管します。

{MSGBOX}¥MTABox¥ErrMail¥25¥　　（※）

※ただし {MSGBOX} の部分は，メッセージエージェント構成の設定－「メッセージ保存」タブの「メッセージ記録フォルダ」テキストボックスに指定したフォルダです

(2) POP3監視

POP3 監視機能は，定期的にメールサーバへ問い合わせを行うことで監視対象アカウント宛のメールが届いているかどうかを監視して，その内容に応じた通知を行う機能です。

POP3 監視機能が対応しているプロトコルは，POP3，POP3+STLS，POP3S です。IMAP4 には対応していません。なおここでの「POP3+STLS」は，POP3 でメールサーバに接続した後で STLS コマンドを発行し，暗号通信を開始する方式を指しています。

POP3 監視機能で通知を行う際，通知の契機となったメールを保存しておくことも可能です。メールを保存するには，メール監視のプロパティダイアログボックス（図 8.2-1）の「受信メールの保存方法」フィールドと，メール監視－「全般」タブ（図 8.3-1），またはフィルタリングの設定ダイアログボックス－「条件設定」タブ（図 8.3-4）の「メールの保存」フィールドで受信箱に保存する設定を行います。

POP3 監視機能に関する注意事項を以下に記します。

- TELstaff サービスが停止している間に監視対象アカウント宛にメールが届いていた場合，それらにメールに関する通知は次回の TELstaff サービス起動時に行われます。
- 受信メールをサーバに残すよう設定する場合，バックアップ・リストア時の注意事項があります。詳細は「1.5.2(2)　定義情報の回復（リストア）」を参照してください。

1.4.14SNMPトラップ監視について

(1) SNMPトラップ対応バージョン

SNMP トラップ監視で対応する SNMP バージョンは，SNMPv1 および SNMPv2c となります。SNMPv3 には対応していません。また SNMPv2c の inform-Request は対応しません。

(2) SNMPv1トラップ受信時の注意事項

SNMP トラップ監視で使用できる変数~variableBindings~（検出した TRAP の variableBindings 情報）には受信した SNMPv1 トラップ中の variableBindings 情報に含まれていない以下の情報が追加して出力されます。追加で出力される内容を表 1.4-15 に示します。

表 1.4-15　SNMPv1トラップに追加出力される内容

オブジェクト ID	値の種別	値
.1.3.6.1.2.1.1.3.0	TimeTicks	SNMP エージェントが起動してからの経過時間
.1.3.6.1.6.3.1.1.4.1.0	-	SNMP トラップ OID
.1.3.6.1.3.1057.1	IpAddress	agentAddress

オブジェクト ID	値の種別	値
.1.3.6.1.6.3.1.1.4.3.0	-	enterpriseOID

(3) SNMPv2cトラップ受信時の注意事項

TELstaff では SNMPv2c トラップ中の variableBindings に含まれる snmpTrapOID の値から genericTrap 値，specificTrap 値を取得します。snmpTrapOID の値と genericTrap 値との関係を表 1.4-16 に示します。snmpTrapOID は.1.3.6.1.6.3.1.1.4.1.0 で示されます。

表 1.4-16　snmpTrapOIDとgenericTrapの関係

snmpTrapOID の値	genericTrap 値
.1.3.6.1.6.3.1.1.5.1	coldStart(0)
.1.3.6.1.6.3.1.1.5.2	warmStart(1)
.1.3.6.1.6.3.1.1.5.3	linkDown(2)
.1.3.6.1.6.3.1.1.5.4	linkUp(3)
.1.3.6.1.6.3.1.1.5.5	authenticationFailure(4)
.1.3.6.1.6.3.1.1.5.6	egpNeighborLoss(5)
上記以外（汎用トラップ以外）	enterpriseSpecific(6)

snmpTrapOID が汎用トラップ以外の場合，genericTrap 値は enterpriseSpecific(6)とします。また specificTrap 値は snmpTrapOID の値の末尾のオブジェクト識別子とします。

例） snmpTrapOID の値が 1.3.6.1.4.1.xx.2.3.2.3.0.10 の場合
　　genericTrap 値：　enterpriseSpecific (6)
　　specificTrap 値：　10

SNMPv2c トラップ受信時は，制限事項があります。

- agentAddress によるフィルタリングはできません。
- 通知文中の~snmptrap_agentAddress~変数は空白に置き換えられます。

また，受信する SNMPv2c トラップの variableBindings 情報に snmpTrapEnterprise（1.3.6.1.6.3.1.1.4.3.0）が含まれていない場合，次の制限事項があります。

- enterpriseID によるフィルタリングはできません。
- 通知文中の~snmptrap_enterprise~変数は空白に置き換えられます。

1.4.15接点入力監視について

TELstaff で接点入力監視を行うには，接点入力ユニットが必要です。TELstaff で使用できる接点入力ユニットを表 1.4-17 に示します。

表 1.4-17　TELstaffで使用できる接点入力ユニット

製品名（メーカー名）	接続方法
４接点入力ユニット （株式会社データシックス）	シリアル接続，またはネットワーク接続です。 ネットワーク接続する場合は，コンバータが必要です。

製品名（メーカー名）	接続方法
１６接点入力ユニット （株式会社データシックス）	
PW-501 （シスメックスＲＡ株式会社）	ネットワーク接続です。

1.4.16通信ポート番号について

TELstaff で使用する標準通信ポート番号の一覧を表 1.4-18 に示します。通信ポート番号は，運用に合わせたポート番号に変更できます。

表 1.4-18　TELstaffが使用する通信ポート番号一覧

項番	通信内容	標準ポート番号
1	1. AEPE，AESE，AECL または AEAV から，AEPE，AESE，または AECL への送信。 2. AEPE，AESE，または AECL から，AEPE，AESE，または AECL に接続したパトランプやメッセージ表示ボードの動作指示の送信。 3. TELstaff 監視（機器稼動監視）の稼動確認送信 4. TELstaff ポップアップ通知 ポート番号は，図 4.4-1　メッセージエージェント構成の設定－「全般」タブで設定します。	35000/TCP ※1
2	デスクトップ通知。 待ち受けポート番号は図 6.3-4　環境設定－「その他」タブで設定します。	39000/TCP ※1
3	TELstaff からネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニット，またはコンバータへの送信。 ポート番号は，図 5.3-5　パトランプのプロパティダイアログボックスまたは図 4.6-3　監視方法の設定ダイアログボックスまたは図 4.6-4　接点入力ユニットの設定ダイアログボックス（ネットワーク接続）で設定します。	設定値/TCP
4	接点入力監視で，ポーリングモードでは，接点入力ユニットへ送信，イベントモードでは，接点入力ユニットから受信。	35001/TCP ※1
5	SMTP メールサーバへのメール送信。 メール監視で送受信メールを中継した後のメールの配送。 ポート番号は，環境設定の「E メール」タブで設定します。	25/TCP 465/TCP ※2
6	メール監視で SMTP メールサーバからのメール受信。	25/TCP ※2 ※4
7	POP3 サーバに対して開封確認通知メールの取出し要求を送信。ポート番号は，環境設定の「メール開封確認」タブで設定します。 メール送信時の POP Before SMTP 認証で送信。 ポート番号は，環境設定の「E メール」タブで設定します。 メール監視で POP3 サーバに対してメールの取出し要求を送信。ポート番号は，図 8.3-1 メール監視ダイアログボックスの「全般」タブで設定します。	110/TCP ※3

項番	通信内容	標準ポート番号
8	SNMP Trap Service で使用し SNMP トラップを受信。	162/UDP ※1
9	Syslog サーバへの Syslog メッセージ送信。 メッセージ通知方法の設定－「syslog」タブで設定。	514/UDP ※1
10	AEPE から SIP サーバ経由での IP 電話発信。 ポート番号は，図 4.1-23　環境設定－「IP 電話」タブで設定します。	5060/UDP
11	AEPE から VoIP ゲートウェイ経由での IP 電話発信。 ポート番号は，図 4.1-23　環境設定－「IP 電話」タブで設定します。	5060/UDP
12	AEPE から IP 電話発信。 TELstaff サービス起動時に UDP/IP ポートを１つ使用。 １回の IP 電話通知に２つの UDP/IP ポートを使用。 ポート番号は，図 4.1-35　IP 電話通知の詳細設定ダイアログボックスで使用する範囲を設定します。	最小 5004/UDP 最大 8060/UDP
13	telnet 接続用。稼動状況監視のプロパティダイアログボックスまたは，稼動状況監視の監視対象プロパティダイアログの「全般」タブで指定。	23/TCP
14	ISA 社製信号灯の制御時に使用するローカル（接続元）ポート番号。このポート番号の範囲はカスタマイズできません。	1011/TCP ～ 1023/TCP
15	ISA 社製信号灯の制御時に使用するリモート（接続先）ポート番号。このポート番号はカスタマイズできません。	514/TCP
16	CTBX シリーズが使用するポート番号。	22009/TCP 22010/UDP
17	トリガフォン（TP2000）が使用するポート番号。	50000/TCP 22010/UDP ※4 ※5

注※1　Windows ファイアウォールを使用する場合は，受信側でこのポート番号を Windows ファイアウォールの適用外にしてください。

注※2　SMTP サーバへの接続を監視するアプリケーションなどで，SMTP サーバへの接続を遮断している場合，「1.4.8(1)メール送信について」に示す TELstaff プロセスに対して SMTP サーバ接続を許可してください。

注※3　POP3 サーバへの接続を監視するアプリケーションなどで，POP3 サーバへの接続を遮断する設定している場合，「1.4.8(1)メール送信について」に示す TELstaff プロセスに対して POP3 サーバ接続を許可してください。POP3 サーバとの通信は，メールサーバの機器稼動監視で行います。

注※4　ポート番号の変更はできません。

注※5　22010/UDP は，TP2000 に付属する保守用管理ツールを利用する時，使用されます。

1.4.17使用するWindowsサービスについて

TELstaff で使用する Windows サービスの一覧を表 1.4-19 に示します。

表 1.4-19　TELstaffが使用するWindowsサービス一覧

Windows サービス名	使用する機能名
SNMP Trap Service	SNMP トラップ監視

1.4.18Windows 7以降のWindowsの留意事項について

(1) Alarm Viewの制限事項

Windows 8, Windows 10, Windows 11，Windows Server 2012，Windows Server 2016, Windows Server 2019 および Windows Server 2022 において，スタート画面では Alarm View を使用できません。Alarm View はデスクトップ画面で運用してください。

(2) 操作に関する留意事項

(a)　TELstaffウィンドウを開く場合の操作

ユーザーアカウント制御（UAC)を使用する場合は，管理者権限への昇格確認ダイアログボックスが表示されます。管理者権限への昇格確認ダイアログボックスで管理者権限への昇格操作が必要になります。

(b)　Alarm Viewの開始操作

ユーザーアカウント制御（UAC)を使用する場合は，Windows へのログオン後にデスクトップ画面にて Alarm View プロセス（teldtpcl）のスタートアップ確認用のバルーンが表示されます。Alarm View を開始するには，管理者権限への昇格確認ダイアログボックスで管理者権限への昇格操作が必要になります。

(3) 使用できない機能について

次の機能は，Windows 7 以降の Windows では使用できません。

- Windows Messenger サービスを使用したポップアップ通知（Messenger 通知）。代替手段等については 2.3.1(12)「デスクトップへの簡易なポップアップ通知」を参照してください。
- telsping コマンドの結果を画面表示する機能（-o オプションに pingmsg を指定）

次の機能は，Windows 7 以降の Windows では使用できない場合があります。ただし環境設定の「読み上げやサウンド再生に MCI を使用する」チェックボックスにチェックすることで，読み上げができる場合があります。また，Windows 8, Windows 10, Windows 11, Windows Server 2012, Windows Server 2016, Windows Server 2019 および Windows Server 2022 では使用できません。

- ✧　エージェント通知受信時のメッセージ読み上げ
- ✧　エージェント通知受信時の wav ファイル再生
- ✧　メール監視機能によるメッセージ読み上げ
- ✧　メール監視機能による wav ファイル再生
- ✧　「メッセージ通知方法の設定」での wav ファイル再生

(4) その他

(a) WindowsのタスクスケジュールでTELstaffのコマンドを実行する場合

タスクスケジュールプロパティで「最上位の特権で実行する」チェックボックスにチェックしてください。

1.4.19通信サービス連携について

(1) Slackへの発信と情報取得について

TELstaff から Slack への発信と情報取得を行う場合には，お客様にて，サービスのご契約や運用管理などが実施され，利用可能な Slack 環境を準備していただく必要があります。

TELstaff が導入されたサーバと Slack が通信するためには，https 通信のプロトコルが有効で，かつ Slack への接続が可能な環境が必要となります。https 通信ができない場合，または Slack との接続が不可能な場合には，Slack への発信と情報取得は行えません。

また，あらかじめ Slack の情報を TELstaff の設定ファイルに記載する必要があります。事前準備や注意事項に関しては，11.22(1)「Slack へ発信と情報取得する際の事前準備」，11.22(2)「Slack へ発信と情報取得する際の注意事項」を参照してください。

(2) LINE WORKSへの発信について

TELstaff から LINE WORKS への発信を行う場合には，お客様にて，サービスのご契約や運用管理などが実施され，利用可能な LINE WORKS 環境を準備していただく必要があります。

TELstaff が導入されたサーバと LINE WORKS が通信するためには，https 通信のプロトコルが有効で，かつ LINE WORKS への接続が可能な環境が必要となります。https 通信ができない場合，または LINE WORKS との接続が不可能な場合には，LINE WORKS への発信は行えません。

また，あらかじめ LINE WORKS の情報を TELstaff の設定ファイルに記載する必要があります。事前準備や注意事項に関しては，11.23(1)「LINE WORKS へ発信する際の事前準備」，11.23(2)「LINE WORKS へ発信する際の注意事項」を参照してください。

1.5運用上の留意事項

TELstaff を運用する上での留意事項について，説明します。

1.5.1 発信記録とファイルの削除

(1) 発信記録の削除

TELstaff には，応答機能と問い合わせ機能があります。

トリガフォンを使用すると，TELstaff からの通知内容を確認すると（応答機能），連絡網の後続通知先への発信を中止し，発信情報を削除します（内容が確認されても連絡網内のすべてのユーザに発信することもできます）。

また，電話での発信を受けるのが煩わしい，または SMS 通知，メール，および FAX で発信を受けた場合には，TELstaff に電話（トリガフォンを使用した場合）から，システムから発信の有無，連絡網 ID（通知 ID），発信内容を問い合わせることができます（問い合わせ機能）。

応答機能，問い合わせ機能を使用するときは，発信記録を保存するようにしておかなければなりません。

発信記録を保存するには，連絡網プロパティー「基本設定」タブの「問合わせ確認は行わない」オプションのチェックを外し，teldial コマンドの-k オプションを省略します。

発信記録は，メモリに記憶するため発信記録を削除しないと空きメモリを消費し，他のアプリケーションやシステムに影響する場合があります。このため，発信記録は，次の操作で発信記録を削除する運用を行ってください。

1. 発信キャンセルコマンド（telcan コマンド）で発信記録を削除
2. 問い合わせ確認を行い，発信記録を削除
3. TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを起動

(2) 送受信メッセージ

TELstaff の送受信メッセージを保存する場合は，運用で定期的に削除する必要があります。定期的に削除しない場合は，次の事象が発生します。

1. 空きディスク容量が不足し，送信メッセージの保存とメッセージ受信ができなくなります。
2. 送受信メッセージは，メッセージ毎に 1 つのファイルで保存します。Windows で作成できるファイル数の制限から送信メッセージの保存とメッセージ受信ができなくなります。
3. メッセージが多い場合「メッセージビューア」で閲覧するとき，ウィンドウに表示されるまで時間がかかります。

定期的に削除を行わない場合は，メッセージエージェント構成設定の「メッセージ保存」タブ送受信メッセージを保存しない設定を行います。

送受信メッセージの削除は，「メッセージビューア」で行います。ごみ箱，送信済箱，受信箱のメッセージ以外のメッセージを削除するときは，TELstaff サービスを停止させて

からメッセージビューアで削除します。エクスプローラで送信済箱と受信箱のメッセージ削除する場合は，次のフォルダ下にあるファイルを削除します。

```
（※）¥msgbox¥受信箱¥
（※）¥msgbox¥送信済み箱¥
```

注※　メッセージエージェント構成の設定ー「メッセージ保存」タブの「メッセージ記録フォルダ」テキストボックスに指定した場所

(3) 統計情報ファイルの削除

統計情報を出力する場合は，運用で定期的に統計情報を削除する必要があります。

1.5.2 定義情報関連のバックアップとリストア

TELstaff が提供している，定義情報をバックアップ・リストアする機能について説明します。バックアップした定義情報をリストアする場合，リストア先の TELstaff 製品は同一製品である必要があり，また，より古いバージョン・リビジョンの製品へとリストアすることはできません。

バックアップ・リストアを使用する場合，あらかじめ「1.5.2(4) バックアップ・リストアの注意事項」を必ず確認してください。

(1) 定義情報の保管（バックアップ）

環境設定などの設定情報や連絡網などの定義情報は，「定義情報の保管（バックアップ）」ツールまたは telsback コマンドでバックアップできます。これらのツールは，インストールされているすべての TELstaff 製品の定義情報をバックアップします。

「定義情報の保管（バックアップ）」ツールを使ったバックアップ操作を次に示します。

1. 「定義情報の保管（バックアップ）」ツールを実行します。

   TELstaff ウィンドウのメニュー［ファイル］－［定義情報の保管（バックアップ）］を選択して定義情報の保管ツールを実行します。AECL の場合は，スタートメニュー［TELstaff ツール］－［定義情報の保管（バックアップ）］を選択して実行します。

2. バックアップファイルを指定します。

   保存するバックアップファイルの名前を入力する画面が表示されるので，入力してください。ただし RestoreTempBackup.exp というファイル名は指定できません。

3. バックアップ対象製品の確認を行います。

   バックアップ対象になる製品が一覧表示されるので，確認してください。バックアップを行う場合は［OK］ボタン，行わない場合は［キャンセル］ボタンを押してください。

4. バックアップ終了の確認を行います。

   バックアップが完了すると次の画面が表示されます。内容を確認して［OK］ボタンを押してください。バックアップ処理の結果はログファイルに記録され，そのショートカットがデスクトップ上に作成されますので必ず内容を確認してください。なおショートカットは削除して問題ありません。

(2) 定義情報の回復（リストア）

「定義情報の回復（リストア）」ツールや telsback コマンドを使用すると，「定義情報の保管（バックアップ）」ツールや telsback コマンドで作成したバックアップファイルの内容を回復（リストア）することができます。なお，ある TELstaff 製品で取得したバックアップ内容を異なる TELstaff 製品にリストアすることはできません。

「定義情報の回復（リストア）」ツールを使った定義情報のリストア操作を次に示します。

1. すべての TELstaff サービスを停止させます。

   すべての TELstaff サービス，TELstaff のウィンドウやコマンド，teldial コマンドを実行するアプリケーションを停止・終了させてください。

2. 「定義情報の回復（リストア）」ツールを実行します。

   TELstaff ウィンドウのメニュー［ファイル］－［定義情報の回復（リストア）］を選択して定義情報の回復ツールを実行します。AECL の場合は，スタートメニューの【TELstaff ツール】から【定義情報の回復（リストア）】を選択して実行します。

3. もし TELstaff サービス・プログラムの動作が検出された場合は，動作している TELstaff サービス・プログラムを終了します。

   TELstaff のプログラムによっては終了指示を受けてから完全に終了処理が終わるまで時間がかかります。その場合，しばらく待った後で［再試行］ボタンを押してください。

4. リストアするバックアップファイルを指定します。

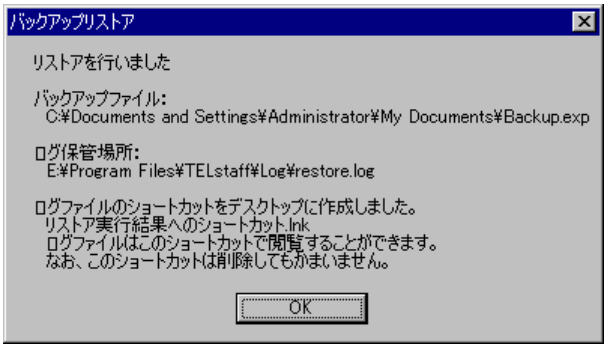
   ファイルを選択する画面が表示されますので，リストア対象のバックアップファイルを指定してください。

5. リストアの確認を行います。

   指定したバックアップファイルなどの詳細情報が表示されますので，内容を確認し，リストアを行う場合は［OK］ボタン，行わない場合は［キャンセル］ボタンを押してください。
   ［OK］ボタンを押した場合，リストア終了画面が表示されるまで TELstaff サービスおよび teldial コマンドを実行するすべてのアプリケーションの開始はできません。

6. リストア終了の確認を行います。

   リストア処理が完了すると次の画面が表示されます。内容を確認して［OK］ボタンを押してください。リストア処理の結果はログファイルに記録され，そのショートカットがデスクトップ上に作成されますので必ず内容を確認してください。なおショートカットは削除して問題ありません。またログファイル中の★印の付いたメッセージは，手動で再設定が必要な警告メッセージを示します。



7. リストア後に再設定を行います（再設定が必要な場合）。

   リストアされない設定項目については 1.5.2(4)(a)を参照してください。

8. 最新のアップデートプログラムのインストール

   リストアしたバージョンより新しいアップデートプログラムがリリースされている場合は，最新のアップデートプログラムをインストールします。

(3) 連絡網定義情報だけの回復

連絡網グループ定義情報，連絡網 ID 定義情報，ユーザ管理定義情報，連絡網およびユーザ管理のカレンダとスケジュール定義情報だけを回復（リストア）する場合は，連絡網定義情報の回復ツールを使用して行います。

連絡網定義情報の回復機能は，並列稼動機能で本番機と予備機の連絡網定義を同じ定義にする場合に使用します。

個別に作成した通知文ファイルやユーザコマンドファイルなどは，本ツールではリストアできません。また定義情報操作コマンド群または定義情報のバックアップコマンド実行中は，本ツールではリストアできません。

連絡網定義情報のリストアは，インストールされている製品に対してバックアップファイルに記録された連絡網定義情報を同じ PC または異なる PC の製品に対してリストアができます。

バックアップファイル内の製品バージョンとリストアする製品バージョンが異なる場合，下位バージョンへのリストアはできません。またバックアップファイル内の製品，対応ユーザ数がリストアする製品と異なる場合，下位製品，下位ユーザ対応版へのリストアはできません。

定義情報の回復ツールは，AEPE および AESE で使用できます。

定義情報のリストア操作を次に示します。

1. すべての TELstaff サービスを停止させます。

   すべての TELstaff サービス，teldial コマンドを実行するアプリケーションを停止させてください。TELstaff ウィンドウを開いている場合はすべて閉じてください。

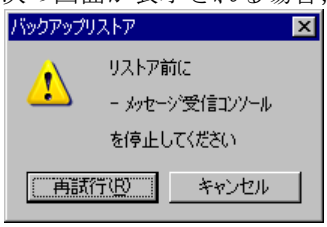
2. 定義情報の回復ツールを実行します。

   TELstaff ウィンドウ-【ファイル】メニューの【連絡網情報の回復（リストア）(N)】を選択して定義情報の回復ツールを実行します。

3. TELstaff サービスを開始している場合は，TELstaff サービスを終了します。

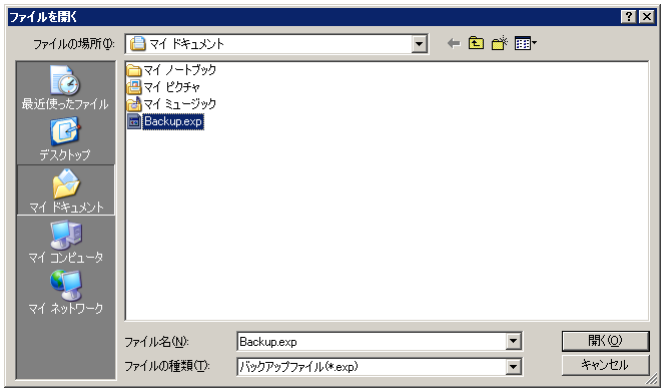
   TELstaff サービスを開始している場合は，確認画面を表示します。この画面が表示された場合は，すべての TELstaff サービスを停止し，teldial コマンドを実行するすべてのアプリケーションを停止してから，［再試行(R)］ボタンを押します。定義情報のリストアを取り消す場合は，［キャンセル］ボタンを押します。

次の画面が表示される場合，しばらくしてから［再試行(R)］ボタンを押します。



4. リストアするバックアップファイルを指定します。

定義情報の回復ツールを実行すると「ファイルを開く」ダイアログボックスを表示します。「ファイルを開く」ダイアログボックスでバックアップファイルを指定します。



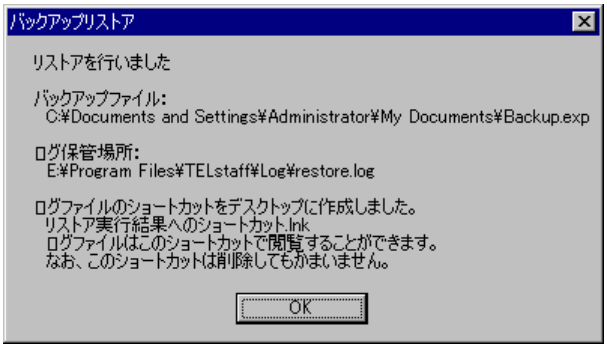
5. リストアの確認を行います。

リストアを行う場合は，［OK］ボタン，定義情報のリストアを取り消す場合は，［キャンセル］ボタンを押します。
［OK］ボタンを押した場合，リストア終了画面が表示されるまで TELstaff サービスおよび teldial コマンドを実行するすべてのアプリケーションの開始はできません。

6. リストア終了の確認を行います。

［OK］ボタンを押します。リストアの結果をログファイルに記録し，リストアログファイルのショートカット（リストア実行結果へのショートカット.lnk）をデスクト

ップ上に作成します。このショートカットは削除できます。
リストア後にログファイルを参照し，リストアの結果を確認してください。



7. リストア後に再設定を行います（再設定が必要な場合）。

   リストアされない設定項目については 1.5.2(4)(a)を参照してください。

(4) バックアップ・リストアの注意事項

(a) リストアされない項目

バックアップ・リストア機能は基本的にバックアップ環境の定義内容をそのまま再現するものですが，そのまま定義内容が引き継がれないような例外事項として以下の項目があります。

リストア処理中に再設定される項目

以下の項目は，リストア処理中にリストア先環境に合わせて再設定されます。

- 「メッセージエージェント構成の設定」＞「全般」タブ＞「IP アドレス」

設定値のファイルがリストア先に無いとリストアされない項目

以下の設定項目については，設定値のファイルパスがリストア先に存在しない場合はリストアされません。

- ［環境設定］－［全般］－［使用するテキストエディタ］
- ［環境設定］－［発信方法］－［電話**認証**用ｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞﾒｯｾｰｼﾞ］
- ［環境設定］－［発信方法］－［電話**受信**用ｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞﾒｯｾｰｼﾞ］
- ［環境設定］－［発信方法］－［IP 電話認証用ｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞﾒｯｾｰｼﾞ］
- ［環境設定］－［録画場所］－［画像保管フォルダ］(※1)
- ［環境設定］－［ログ］－［ログ作成フォルダ］
- ［環境設定］－［統計情報］タブの，各統計情報の［保存フォルダ］
- ［テキスト音声変換の設定］－［音声合成ｿﾌﾄｳｪｱ］－［ｲﾝｽﾄｰﾙﾌｫﾙﾀﾞ］
- ［テキスト音声変換の設定］－［音声合成ｿﾌﾄｳｪｱ］－［辞書の場所］
- ［メッセージエージェント構成の設定］－［メッセージ保存］－［保存フォルダ］
- ［ネットワーク監視の設定］－［OVW.DLL の場所］
- ［録画ビューア］－［映像ログ一覧の設定］－［使用するブラウザの場所］(※1)

注※1　JP1 版 TELstaff では使用しない項目のため対象外となります。

バックアップ対象とならない項目

以下の項目は，バックアップ処理の対象となりません。

- ファイル名を指定する設定項目にて指定した個々のファイル
  （運用のために作成した通知文ファイルやバッチファイルなど）
- TELstaff サービスを実行する OS のアカウント情報

- 各種の通知・監視の「抑止」の設定
- 未発信情報
- 日立ソリューションズ版 TELstaff では，バージョン 05-10 以前の AEPE または AESE で，(x)ISA 社製信号灯を使用するよう設定し，かつ(y)ISA 社製リモートシェルを使用するよう設定した場合，(y)の設定は対象外となります

その他

- ディスク容量監視は，監視対象に指定していたドライブが異なるディスクに変更されたことを検出すると，該当ドライブの監視を行いません。異なるコンピュータにリストアする場合，そのドライブに合わせた監視閾値を改めて設定する必要があります。

特にバックアップ環境で運用のために作成した通知文ファイルなどは，必ず別途バックアップ・リストアが必要になるので注意してください。

(b) その他の注意事項

- 「定義情報の保管（バックアップ）」，「定義情報の回復（リストア）」ツール，telsback コマンド，定義情報操作コマンド群は，同時に起動できません。
- JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff とでは，お互いのバックアップをリストアすることはできません。
- AESE のバックアップを AEPE にリストアすることを除き，ある TELstaff 製品で取得したバックアップ内容を異なる TELstaff 製品にリストアすることはできません。
- バックアップファイル内の製品の対応ユーザ数が，リストアする製品と異なる場合，次の点に注意してください。
  リストア先の対応ユーザ数を超えるユーザ情報を含むバックアップファイルをリストアした場合，TELstaff サービスは起動できません。
  （例） 500 ユーザ登録された AEPE (1000 ユーザ対応版)のバックアップファイルを，AEPE (300 ユーザ対応版)へリストアした場合
  以下の方法にて回復してください。
  - ✧ いったん TELstaff ウィンドウを開いてから，TELstaff サービスを起動してください。その場合，TELstaff 管理者以外のユーザ情報は削除されます。
  - ✧ TELstaff ウィンドウを開いた状態でリストアした場合は，いったん TELstaff ウィンドウを閉じ，再度 TELstaff ウィンドウを開いてから，TELstaff サービスを起動してください。その場合，TELstaff 管理者以外のユーザ情報は削除されます。
- リストア先の TELstaff インストールフォルダは，バックアップファイルを作成した TELstaff のインストールフォルダと同じフォルダを推奨します。リストア先の TELstaff インストールフォルダとバックアップファイルを作成した TELstaff のインストールフォルダが異なる場合で，バックアップファイルを作成した TELstaff のインストールフォルダパス情報を使用しているファイル情報はリストアされません。
- TELstaff サービスが起動中，または Alarm View が起動中，または定義情報操作コマンド群および定義情報のバックアップコマンド実行中は，本ツールではリストアできません。

- メール監視の POP3 監視を利用し受信メールをサーバに残す運用をされている場合，リストアを行うことにより，過去に POP3 監視で検出したメールを再度検出し，通知を行うことがあります。

  次の順序でバックアップとリストアを行う場合に再度検出します。

  ① バックアップを行いバックアップファイルを作成する
  ② POP3 監視で監視対象メールを検出
  ③ ①で作成したバックアップファイルをリストアする

  ①で作成したバックアップファイルには②の情報を含まないため，②で検出したメールは未検出扱いとなります。このため，①で作成したバックアップファイルを③でリストアすると，③のあと②のメールを再度検出し，通知することになります。再検出による通知を回避するためには，次のいずれかの手順を行ってください。

  - ✧ ③の直前にバックアップを行い，バックアップファイルを作成します。
  - ✧ ①で作成したバックアップファイルをリストアする場合，③の前に次のファイルを退避し，③の後にこのファイルをリストア先 TELstaff の同フォルダに上書きコピーします。
    ファイル：(TELstaff インストールフォルダ)¥MsgBox¥MlMonUidl.db

1.5.3 コマンドの実行

環境設定（「コマンド」タブ），連絡網発信，ネットワーク監視，メール監視，プロセス監視，ファイル監視，メッセージ監視，ドライバ監視，接点入力監視，サービス監視，SNMP トラップ監視，ディスク容量監視，稼動状況監視，機器稼動監視，TELstaff のメッセージ通知においてコマンドの実行を定義する場合，ウィンドウを表示し，応答を求めるコマンドを指定すると，画面が表示されないため，応答ができず，入力待ち状態のまま終了しません。コマンドに実行定義をする際は，あらかじめそのコマンドが入力要求をしないことを確認し，終了しないコマンド（常駐プログラムの起動など）は定義しないでください。

また，ネットワークドライブ接続したハードディスクにあるコマンドは使用できません。

1.5.4 障害を考慮した運用方法と留意事項

(1) 発信の滞留・遅延リスクを想定する

特に TELstaff 以外のシステムから teldial コマンドを実行することで TELstaff に発信指示を行うシステムを構築する場合，teldial コマンドが短期間に大量に発信されないよう対策することを推奨します。

(a) 想定されるリスク

原則として TELstaff は受け付けた通知要求をキューに入れ [i]，それを順に処理していき

---

[i] 厳密には，TELstaff は受け付けた発信を受け付けた順番に実行しません。詳細については

ます。また teldial コマンドは発信要求をキューに入れるコマンドであり，発信要求をキューに入れた時点で終了します。実際の発信が完了するまで待ちません。したがって，teldial コマンドが発信要求をキューに入れてから実際の発信が完了するまでの間隔より短い間隔で teldial コマンドを実行し続けるとキューに格納された発信要求が増加し続けてしまい，発信が滞留・遅延することになります。発信の滞留・遅延が進むと，次のような事象につながります。

- 重要な通知が実行されるまで長い時間がかかる
- 滞留・遅延した通知が，その通知が必要な時期を過ぎても実施され続ける（例：サーバ障害を通知する電話が障害復旧後も継続して何度もかかってくる）
- TELstaff が稼動するコンピュータが過負荷状態に陥る
- 連絡網に設定された２番目以降の通知が実行されるまで長い時間がかかる i

TELstaff サービスが受け付けた発信要求の状況は，「発信と監視の操作」ウィンドウや tlgetqc コマンドで確認できます。「発信と監視の操作」ウィンドウでは，発信途中あるいは発信待ち状態にある発信要求を一覧表示でき，選択した発信をキャンセルすることなどが可能です。詳細は「10.6 発信と監視の操作」を参照してください。tlgetqc コマンドでは，発信途中あるいは発信待ち状態にある発信要求の合計数を確認可能です。連絡網に本コマンドをコマンド通知として組み込むと，滞留状況に応じて通知方法を切り替える等の運用が可能になります。詳細は「11.17 未発信件数カウントコマンド（tlgetqc）」や「5.3.5(1) コマンドのプロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕」を参照してください。

(b) 対策方法１: teldialコマンドの実行頻度を減らす

一番効果的な対策方法は，teldial コマンドが実行される頻度を下げる方法です。TELstaff を含むシステム全体の設計上，突発的に teldial コマンドが大量に実行されるケースや，比較的高頻度でも定常的に teldial コマンドが実行され続けるようなケースがありましたら，実行頻度を低減できないか検討してください。

具体的な対策方法は teldial コマンドを実行しているシステムにより異なります。例えば，何らかの障害を監視する運用監視ソフトウェアから teldial コマンドを実行して通知を実施している場合，運用監視ソフトウェア側で不必要な監視対象を除外したり，TELstaff の発信制限機能と組み合わせて短時間に発生する同一の障害による重複通知を間引いたりする等の運用を検討してください。また，TELstaff のネットワーク監視機能を HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 と連携して使用する場合，監視対象ノードを絞り込む，監視対象に「親ノード」の設定を行う等の対策を検討してください。

(c) 対策方法２: 発信制限機能を使用する

TELstaff の発信制限機能を使用すると，突発的に大量の teldial コマンドが実行された場合に通知を間引くことが可能です。発信制限機能についての詳細は 2.3.27 項を参照してください。

(2) TELstaff自身の障害リスクを想定する

TELstaff 自身に障害が発生した場合， TELstaff による通報が正常に実施されなくなり

---

i 「2.3.26 先頭優先ルール」を参照してください。

ます。そのため，以下のような方法で TELstaff 自身の障害に対応できるよう運用することを推奨します。

- TELstaff 稼動通知機能で定期的に TELstaff の稼動状況を「システム管理者」に通知する
- ２台並列稼動機能を使用して冗長構成を組む
- メッセージ通知機能でサービスの状態に関するメッセージ（300-I，301-I，316-E）を監視して通知を行う
- 機器稼動監視機能を使用して，別のホストで稼動する TELstaff サービスの稼動状態を監視する
- 別の運用監視ソフトウェアで TELstaff サービスの稼動状態を監視する

なお TELstaff は，正常でない理由でサービスが停止した場合に自動でサービスを再起動する機能を備えています。

(3) モデム・トリガフォンの障害を想定した運用方法

モデムは，パーソナル向けの機器であり，一般的に長時間の運用を想定していません。このため，TELstaff サービスを開始する前に，常にモデムやトリガフォンなどの使用する関連機器の電源を入れ直し（オフ・オンする），一度リセットする運用を推奨します。

また，モデムやトリガフォンの稼動監視（モデム機器の機器稼動監視機能）を行い，事前にモデムやトリガフォンの障害を検出する運用を推奨します。

一定時間内にモデムやトリガフォンの電源がオンにならないと，モデムやトリガフォン接続を閉塞して TELstaff サービスを開始します。

TELstaff サービスの起動中は，モデムやトリガフォンなどの関連機器の電源をオフにしないでください。誤って TELstaff サービスの起動中にモデムの電源をオフにしてしまった場合は，次の手順で TELstaff サービスを再起動してください。

1. モデムの電源をオンにします。
2. TELstaff サービスを停止します。
3. TELstaff サービスを再起動します。

(a) モデムの障害処置について

モデムへの発信中にモデムで障害が発生した場合，TELstaff は，再接続を試み，使用できなければこのシリアルポートを閉塞し発信を中止します。次のモデムへの発信からは，他に使用できるモデムを探して割り当てるなどの運用の継続を試みます。その結果で，使用できるモデムがなくなると，モデムへの発信ができなくなります。

パルス回線を使用する場合，ダイヤル回数を多く使用するとパルス発生器が磨耗してダイヤルできなくなります。この場合モデムの交換となりますのでトーン回線のご使用をお勧めいたします

(b) トリガフォンの障害処置について

トリガフォンへの発信中にトリガフォンで障害が発生した場合，TELstaff は，再接続を試み，使用できないときは発信を中止し表 1.5-1 に示す方法で障害処置を行います。

表 1.5-1　トリガフォンの障害処置方法

状態	処置方法
他に使用できるトリガフォンがある	障害となったトリガフォンを閉塞し，次の発信から使用できるトリガフォンで発信します。
他に使用できるトリガフォンがなく発信できるモデムがある	モデムを使用してダイヤル音で通知します。
他にトリガフォン，モデムとも無い場合	このトリガフォンを使用して発信を試みます。

トリガフォンの障害例

トリガフォンの障害例として，次のような事象があります。

- トリガフォンに RS232C ケーブルが接続されていない
- トリガフォンの電源が入っていない
- TELstaff からトリガフォンに対してのデータ送信時にトリガフォンからの応答がない
- 電話回線が未接続状態
  環境設定－「電話・回線」タブの「回線不通時は使用しない」にチェックがある場合です。
- その他，トリガフォンに何らかの問題が生じて TELstaff からの信号を受け付けられない

(c)　障害を考慮した運用について

モデム・トリガフォンの障害を考慮して以下の運用を推奨します。

1. モデム・トリガフォンの障害をシステム管理者に通知する運用

   「環境設定」－「コマンド」タブで「モデム障害のとき」実行するコマンドを設定しておきモデム・トリガフォンの障害をシステム管理者に通知する運用。コマンドには，“teldial”コマンドなどを使用します。なお，１回線のみの場合は，モデムの障害は検出しませんので，「モデム障害のとき」で指定したコマンドは実行されません。

2. 定期的なテスト発信する運用

   定期的にモデム・トリガフォンへのテスト発信を行い，モデム・トリガフォンの障害を事前に検知する運用。

3. 連絡網の使用や連絡網発信の繰り返し

   モデム・トリガフォンの障害で通知できなくなったとき，他の人に通知できるように連絡網を使用する運用にします。また，モデム・トリガフォンへの発信中にモデム・トリガフォンで障害が発生した場合，この発信は中止します。
   連絡網の繰り返し機能を使用して，別のモデム・トリガフォンを使用して再発信が行われるようにしておきます。
   また，直接発信では，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の「電話繰り返し回数」を設定して，別のモデム・トリガフォンを使用して再発信が行われるようにしておきます。

4. メッセージ通知機能でシステム管理者に通知する運用

   メッセージ通知機能を使用して，TELstaff が出力するモデム・トリガフォンの障害メッセージをシステム管理者に通知する運用。

5. 多回線構成で運用

   モデム・トリガフォンが障害になっても別のモデム・トリガフォンで発信ができるように多回線構成で運用。

6. モデム・トリガフォンの予備

   モデム・トリガフォンが障害で使用できなると通報システムの運用ができなくなります。このためモデム・トリガフォンの予備機を保有しておくことを推奨します。

(4) 電話回線障害を想定した運用方法

TELstaff では，環境設定－「電話・回線」タブの「回線不通時は使用しない」オプションがチェックされていて，多回線構成で電話回線障害を検知（発信音がない）したとき回線（シリアルポート）を閉塞し，以降の発信からこの回線（トリガフォンやモデム）は使用しません（回線の閉塞機能）。回線の閉塞機能を使用する場合，「2.3.19 電話回線の閉塞」に示す注意事項があります。

電話回線の障害を考慮して以下の運用を推奨します。

1. 回線障害をシステム管理者に通知する運用

   「環境設定」－「コマンド」タブで「モデム障害のとき」実行するコマンドを設定しておき回線障害をシステム管理者に通知する運用。コマンドには，“teldial”コマンドなどを使用します。

2. 定期的なテスト発信する運用

   定期的にモデム・トリガフォンへのテスト発信を行い，モデム・トリガフォンの障害を事前に検知する運用。

3. 連絡網の使用や連絡網発信の繰り返し

   電話回線障害で通知できなくなっても，他の人に通知できるように連絡網の繰り返し機能を使用して，別のモデム・トリガフォンを使用して再発信が行われるようにしておきます。
   また，直接発信では，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の「電話繰り返し回数」を設定して，別のモデム・トリガフォンを使用して再発信が行われるようにしておきます。

4. メッセージ通知機能でシステム管理者に通知する運用

   メッセージ通知機能を使用して，TELstaff が出力するモデム・トリガフォンの障害メッセージをシステム管理者に通知する運用。

(5) 確実な通知を行う運用方法

電話，FAX，メール，PC，メッセージ表示ボードや信号灯などの電気機器への通知を確実にするために，連絡網を使用した連絡網発信の繰り返し機能の使用を推奨します。連絡

網の繰り返し通知では，通知ができなかった通知メディアについて繰り返し通知の対象になります。通知がおこなわれた通知メディアについては，通知は行われません。ただし，通信モデムを使用した電話通知，SMS 通知は，常に繰り返し通知が行われますので注意してください。

信号灯への点灯通知の確実性を向上させるには，パトランプの稼動監視（パトランプの機器稼動監視機能）を行い，事前にパトランプの障害を検出する運用を推奨します。

また，メール通知の確実性を向上させるには，SMTP サーバの稼動監視（メールサーバの機器稼動監視機能）を行い，事前に SMTP サーバの障害を検出する運用や，SMTP サーバの 2 重化構成を推奨します。

1.5.5 他製品・旧バージョンとの主な変更点

日立ソリューションズ版 TELstaff で，AESE または AECL から最新バージョン，または AEPE にアップグレードする場合における主な変更点と注意事項を表 1.5-2 に示します。

表 1.5-2　バージョンアップ時の注意事項

旧ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ	最新バージョンを使用するときの主な変更点と注意事項
全ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ共通	未発信情報の互換性は保証されません。
AESE 03-00 以前	ユーザ管理ウィンドウ（図 5.1-5）登録されているユーザ名の表示順が登録順からユーザ名順表示になります。
AESE 03-00	フィルタリングの設定ダイアログボックス（図 8.3-4）の「受信アシスト」タブは，「転送設定」タブと「返信設定」タブになります。また，「受信アシスト」タブの「サウンドを再生する」チェックボックス，および「メールを読み上げる」チェックボックス設定項目は，「その他」タブ（図 8.3-10）の設定になります。

2. TELstaffの機能

この章では，TELstaff の機能について説明します。

2.1 TELstaffスタートメニュー

2.2 TELstaffウィンドウ

2.3 AEPEおよびAESEの機能

2.4 AECLの機能

2.5 TELstaffのコマンド

2.6 カスタマイズ

2.1TELstaffスタートメニュー

TELstaff スタートメニューと機能を，表 2.1-1 に示します。Windows 8, Windows 10, Windows 11, Windows Server 2012, Windows Server 2016, Windows Server 2019 および Windows Server 2022 では，スタートメニューと同等なメニューを備えたランチャーがスタート画面に登録されますのでそちらをご利用ください。

表 2.1-1　TELstaffスタートメニューと機能

メニュー	サブメニュー	機能	AEPE	AESE	AECL
TELstaff サービスの操作	サービスの手動起動	TELstaff サービスを開始します。	○	○	○
	サービスの手動停止	TELstaff サービスを終了します。	○	○	○
	Alarm View の開始	Alarm View を開始します。	○	○	○
	Alarm View を無効または再開する	Alarm View を無効，または有効にします。	○	○	○
TELstaff のツール	バージョン情報	バージョン情報表示ウィンドウを開きます。	○	○	○
	メッセージビューア	メッセージビューアウィンドウを開きます。	○	○	○
	リレー装置の操作	【リレー全接点オフ（ﾛｰｶﾙ接続）】 最後に制御した，ローカル接続されているリレー装置の全接点をオフにします。	○	○	○
		【リレー全接点オフ（ｺﾝﾊﾞｰﾀ接続）】 最後に制御した，コンバータ接続されているリレー装置の全接点をオフにします。	○	○	○
		【パトランプ（NH シリーズ）の動作をクリア】 最後に制御した，NH シリーズパトランプの動作を停止します。	○	○	×
		【ISA 社製信号灯の動作をクリア】 最後に制御した，ISA 社製信号灯の動作を停止します。	○	○	×
		【リレー接点テスト】 RS232C に接続したパトランプの点灯/消灯の動作確認ダイアログボックスを開きます。	×	×	○
	ログビューア	ログビューアウィンドウを開きます。	○	○	○
	表示ボードの表示取り消し	直前に表示したメッセージ表示ボードの表示を消去します。	○	○	○
	発信と監視の操作	発信と監視の操作ダイアログボックスを開きます。	○	○	×
	監視の抑止と再開操作	監視の抑止と再開操作ダイアログボックスを開きます。	×	×	○
	録画ビューア	録画ビューアウィンドウを開きます。	○	○	○
	監視カメラモニタ	監視カメラモニタウィンドウを開きます。	○	○	○
	発信待ちを全て取り消す	発信待ちのすべての発信を取り消します。	×	×	○
	統計情報ビューア	統計情報ビューアウィンドウを開きます。	○	○	○
	メール開封状況一覧ビューア	メール開封状況一覧ビューアウィンドウを開きます。	○	○	×

メニュー	サブメニュー	機能	AEPE	AESE	AECL
	メール開封状況	メール開封状況ウィンドウを開きます。	○	○	×
	稼動状況監視ビューア	稼動状況監視ビューアウィンドウを開きます。	○	×	×
	パスワード暗号文字列生成ツール	パスワード暗号文字列生成ツールを開きます。	○	○	×
	定義情報の保管（ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ）	定義情報をファイルに保管します。	○	○	○
	定義情報の回復（ﾘｽﾄｱ）	定義情報を回復します。	○	○	○
	連絡網情報の回復（ﾘｽﾄｱ）	連絡網情報だけを回復します。	○	○	×
	問題調査用資料の採取	問題調査用資料をファイルに保存します。	○	○	○
TELstaff の設定	環境設定	環境設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	テキスト音声変換の設定	テキスト音声変換の設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	メッセージエージェント構成の設定	メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	メッセージ通知方法の設定	メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	ユーザ管理	ユーザ管理ウィンドウを開きます。	○	○	×
	実行コマンドの設定	実行コマンドの設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	プロセス監視の設定	プロセス監視の設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	ドライバ監視の設定	ドライバ監視の設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	接点入力監視の設定	接点入力監視の設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	ファイル監視の設定	ファイル監視の設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	メッセージ監視の設定	メッセージ監視の設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	イベントログ監視の設定	イベントログ監視の設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	SNMP トラップ監視の設定	SNMP トラップ監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。	○	○	×
	サービス監視の設定	サービス監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。	○	○	○
	ディスク容量監視の設定	ディスク容量監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。	○	○	○
	機器稼動監視の設定	機器稼動監視の設定ダイアログボックスを開きます。	○	○	○
	稼動状況監視の設定	稼動状況監視の設定ダイアログボックスを開きます。	○	×	○
TELstaff ウィンドウの起動		TELstaff ウィンドウを開きます。	○	○	×

メニュー	サブメニュー	機能	AEPE	AESE	AECL
マニュアル		PDF 形式のマニュアルを開きます。	○ (※1)	○	○

［記号］

○:　使用できます

×:　使用できません

※1　JP1/TELstaff AE Professional Edition では，この項目はありません。

2.2TELstaffウィンドウ

TELstaff ウィンドウのメニューと機能を，表 2.2-1 に示します。TELstaff ウィンドウは，Administrators 権限ユーザで使用できます。AECL には，TELstaff ウィンドウがありません。

表 2.2-1 TELstaffウィンドウのメニューと機能

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	サブメニュー（ニモニック）	機能
ファイル(F)	新規作成(N)	連絡網(N)	連絡網（新規）ウィンドウを開きます。
		グループ(G)	グループのプロパティダイアログボックスを開きます。
		メール監視(M)	メール監視（新規）ダイアログボックスを開きます。
		ネットワーク監視(H)	ネットワーク監視（新規）ダイアログボックスを開きます。
	プロパティ(P)		連絡網（ID）ウィンドウ，グループのプロパティダイアログボックス，およびネットワーク監視（名称）ダイアログボックスを開きます。
	定義情報の保管（ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ）(B)		定義情報をファイルに保管します。
	定義情報の回復（ﾘｽﾄｱ）(R)		定義情報を回復します。
	連絡網情報の回復（ﾘｽﾄｱ）(V)		連絡網情報だけを回復します。
	TELstaff の終了(T)		ウィンドウ操作を終了します。
編集(E)	コピー(C)		連絡網，グループ，メール監視，およびネットワーク監視のコピーダイアログボックスを開きます。
	削除(D)		連絡網，グループ，メール監視，およびネットワーク監視の削除ダイアログボックスを開きます。
表示(V)	最新情報に更新(R)		ウインドウの情報を最新のものに更新します。
	ツールバー(T)		ツールバーの表示の有無を指定します。
	ステータスバー(S)		ステータスバーの表示の有無を指定します。
	プレビューウィンドウ(P)		プレビューウィンドウの表示の有無を指定します。
ツール(T)	ユーザ管理(U)		ユーザ管理ウィンドウを開きます。
	ログビューア(L)		ログビューアウィンドウを開きます。
	メッセージビューア(M)		メッセージビューアウィンドウを開きます。
	リレー全接点オフ(O)	ローカル接続(L)	最後に制御した，ローカル接続されているリレー装置の全接点をオフにします。
		コンバータ接続(C)	最後に制御した，コンバータを用いリモート接続されているリレー装置の全接点をオフにします。
		パトランプ（NH シリーズ)	最後に制御した，NH シリーズパトランプの表示灯・ブザーを消灯・停止します。
		ISA 社製信号灯	最後に制御した，ISA 社製信号灯の表示灯・ブザー・音声ファイル再生の動作を停止します。
	表示ボードの表示取り消し(D)		直前に表示したメッセージ表示ボードの表示を消去します。
	発信と監視の操作(N)		発信と監視の操作ウィンドウを開きます。
	録画ビューア(I)		録画ビューアウィンドウを開きます。

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	サブメニュー（ニモニック）	機能
	統計情報ビューア(W)		統計情報ビューアウィンドウを開きます。
	メール開封状況一覧ビューア(X)		メール開封状況一覧ビューアウィンドウを開きます。
	メール開封状況(Y)		メール開封状況ウィンドウを開きます。
	稼動状況監視ビューア(F)		稼動状況監視ビューアウィンドウを開きます。
	パスワード暗号文字列生成ツール(R)		パスワード暗号文字列生成ツールを開きます。
	サービスの操作(S)	起動(S)	TELstaff サービスを開始します。
		再起動(S)	TELstaff サービスを終了させてから開始します。
		停止(T)	TELstaff サービスを終了します。
オプション(O)	環境設定(E)		環境設定ダイアログボックスを開きます。
	ネットワーク監視の設定(M)		ネットワーク監視の設定ダイアログボックスを開きます。
	メール監視の設定(A)		メール監視の設定ダイアログボックスを開きます。
	メッセージエージェント構成の設定(N)		メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスを開きます。
	テキスト音声変換の設定(T)		テキスト音声変換の設定ダイアログボックスを開きます。
	メッセージ通知方法の設定(S)		メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスを開きます。
	実行コマンドの設定(C)		実行コマンドの設定ダイアログボックスを開きます。
	使用するリレー装置の標準設定(D)		使用するリレー装置の標準を変更します。
	使用するコンバータの標準設定(H)		パトランプおよびメッセージ表示ボードで使用するコンバータの標準を変更します。
	接点入力監視の設定(R)		接点入力監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。
	プロセス監視の設定(P)		プロセス監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。
	ファイル監視の設定(L)		ファイル監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。
	メッセージ監視の設定(G)		メッセージ監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます
	イベントログ監視の設定(I)		イベントログ監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。
	ドライバ監視の設定(V)		ドライバ監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。
	SNMP トラップ監視(B)		SNMP トラップ監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。
	サービス監視(Q)		サービス監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます
	ディスク容量監視の設定(Y)		ディスク容量監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。
	稼動状況監視の設定(J)		稼動状況監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。
	カメラ映像監視の設定(F)		カメラ監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。
	機器稼動監視の設定(K)		機器稼動監視の設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽを開きます。
製品情報(H)	バージョン情報(A)		バージョン情報ダイアログボックスを開きます。

2.2.1 TELstaffウィンドウー連絡網グループ

連絡網一覧，連絡網 ID 一覧，および発信先一覧を表示します。TELstaff ウィンドウのメニューについては，「表 2.2-1　TELstaff ウィンドウのメニューと機能」を参照してください。TELstaff ウィンドウー連絡網グループを図 2.2-1 に示します。

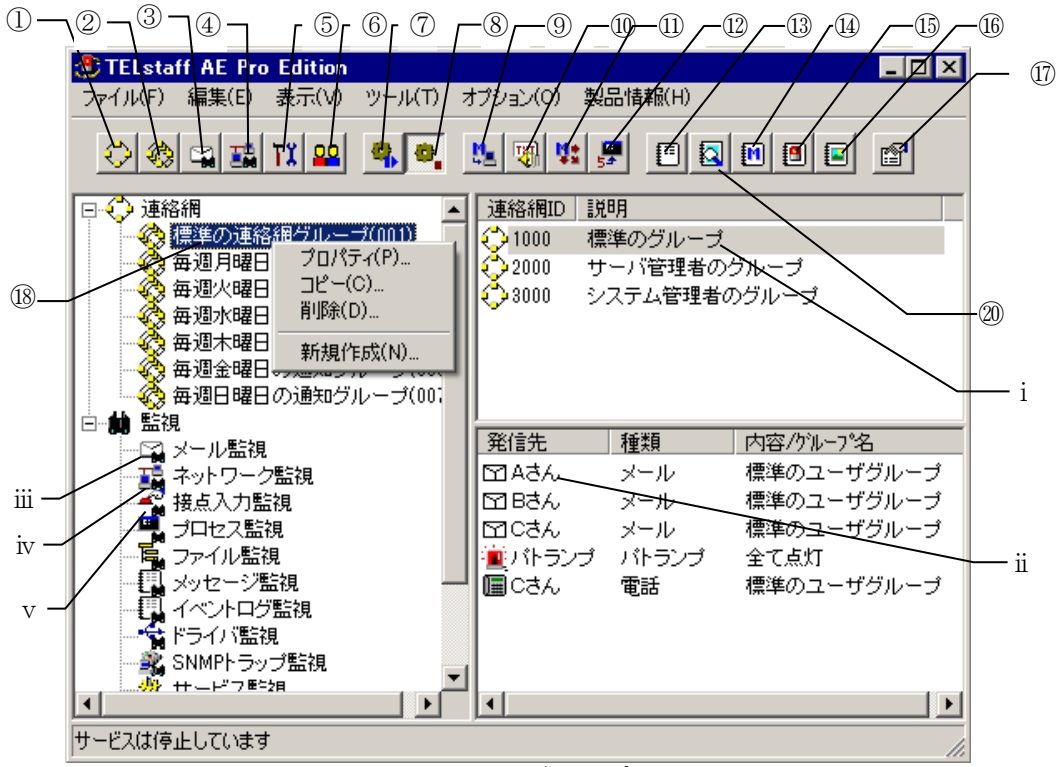
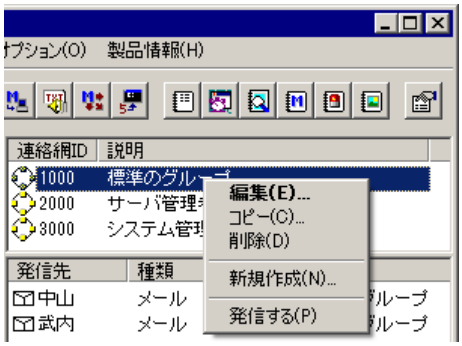
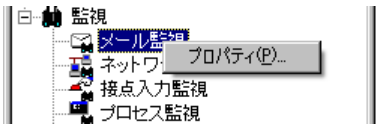
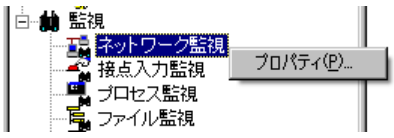
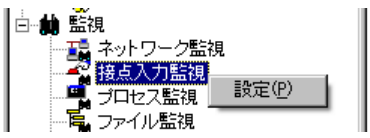


図 2.2-1　TELstaffウィンドウー連絡網グループ

ボタン	ボタン／フィールドの説明
①ボタン	連絡網（新規）ウィンドウを開きます。
②ボタン	連絡網グループのプロパティダイアログボックスを開きます。
③ボタン	メール監視ダイアログボックスを開きます。
④ボタン	ネットワーク監視ダイアログボックスを開きます。
⑤ボタン	TELstaff の環境設定ダイアログボックスを開きます。
⑥ボタン	TELstaff のユーザ管理ウィンドウ を開きます。
⑦ボタン	TELstaff サービスの起動ダイアログボックスを表示します。
⑧ボタン	TELstaff サービスを停止します。
⑨ボタン	メッセージエージェントの構成ダイアログボックスを開きます。
⑩ボタン	読み上げ方法設定ダイアログボックスを開きます。
⑪ボタン	メッセージ監視ダイアログボックスを開きます。
⑫ボタン	実行コマンドの設定ダイアログボックスを開きます。
⑬ボタン	ログビューアウィンドウを開きます。
⑭ボタン	メッセージビューアウィンドウを開きます。
⑮ボタン	発信・監視操作ウィンドウを開きます。
⑯ボタン	録画ビューアウィンドウを開きます。

<table>
<tr><th>ボタン</th><th colspan="2">ボタン／フィールドの説明</th></tr>
<tr><td>⑰ボタン</td><td colspan="2">連絡網（ID）ウィンドウ，グループのプロパティダイアログボックス，およびネットワーク監視のプロパティダイアログボックスを開きます。</td></tr>
<tr><td>⑱ﾌｨｰﾙﾄﾞ</td><td colspan="2">現在定義されている連絡網グループの一覧を表示します。
</td></tr>
<tr><td>⑳ボタン</td><td colspan="2">統計情報ビューアウィンドウを開きます。</td></tr>
<tr><td>(ｉ)
ﾌｨｰﾙﾄﾞ</td><td colspan="2">連絡網一覧で選択された連絡網グループに定義されている連絡網 ID の一覧を表示します。
 
</td></tr>
<tr><td>(ii)
ﾌｨｰﾙﾄﾞ</td><td colspan="2">連絡網 ID 一覧で選択された連絡網 ID に定義されている発信先の一覧を表示します</td></tr>
<tr><td rowspan="6">(iii)
ﾌｨｰﾙﾄﾞ
(iv)
ﾌｨｰﾙﾄﾞ
(v)
ﾌｨｰﾙﾄﾞ
※1</td><td>メール監視</td><td>メール監視の設定状況をメインウィンドウに表示します。
 
</td></tr>
<tr><td>ネットワーク監視</td><td>ネットワーク監視の設定状況をメインウィンドウに表示します。
 
</td></tr>
<tr><td>接点入力監視</td><td>接点入力監視の設定ダイアログボックスを開きます。
 
</td></tr>
<tr><td>プロセス監視</td><td>プロセス監視ダイアログボックスを開きます。</td></tr>
<tr><td>ファイル監視</td><td>ファイル監視ダイアログボックスを開きます。</td></tr>
<tr><td>メッセージ監視</td><td>メッセージ監視ダイアログボックスを開きます。</td></tr>
<tr><td>イベントログ監視</td><td>イベントログ監視ダイアログボックスを開きます。</td></tr>
<tr><td>ドライバ監視</td><td>ドライバ監視ダイアログボックスを開きます。</td></tr>
</table>

ボタン	ボタン／フィールドの説明	
	SNMP トラップ監視	SNMP トラップ監視ダイアログボックスを開きます。
	サービス監視	サービス監視ダイアログボックスを開きます。
	ディスク容量監視	ディスク容量監視の設定ダイアログボックスを開きます。
	カメラ監視	カメラ監視の設定ダイアログボックスを開きます。
	稼動状況監視※2	稼動状況監視の設定ダイアログボックスを開きます。
	機器稼動監視	機器稼動監視の設定ダイアログボックスを開きます。

※1　フィールドを選択してダブルクリックするとダイアログボックスを開きます。
※2　AEPE および AECL でのみ表示します。

2.2.2 TELstaffウィンドウーネットワーク監視

ネットワーク監視項目一覧を表示します。TELstaff ウィンドウーネットワーク監視を，図 2.2-2 に示します。

図 2.2-2　TELstaffウィンドウーネットワーク監視

2.2.3 TELstaffウィンドウーメール監視

メール監視の対象となっている，アカウント名一覧を表示します。TELstaff ウィンドウーメール監視を，図 2.2-3 に示します。

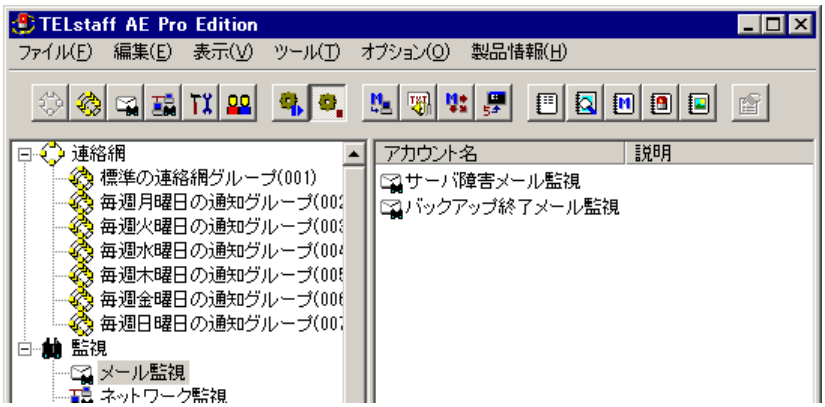


図 2.2-3　TELstaffウィンドウーメール監視

2.3AEPEおよびAESEの機能

2.3.1 発信機能

(1) 発信方法について

(a) TELstaffの呼び出しと発信

TELstaff の発信機能は，他アプリケーションなどからダイヤルコマンド（teldial コマンド）で呼び出す方法と，TELstaff の監視機能から間接的に呼び出す方法の 2 種類があります。

表 2.3-1 に TELstaff の呼び出し方法を示します。

表 2.3-1 TELstaffの呼び出し方法

呼出し種別	呼出し方法
直接呼出し	ダイヤルコマンド（teldial コマンド）の実行。
	発信依頼 [2.3.1(1)(h)]
	TELstaff ウィンドウの連絡網 ID 一覧から手動で発信する方法。
	トリガフォンを使用して電話からダイヤルコマンド（teldial コマンド）で発信する方法。
間接呼出し	ネットワーク監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。
	メール監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。
	プロセス監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。（※1）
	カメラ監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。（※1）(※2)
	ドライバ監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。（※1）
	ファイル監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。（※1）
	メッセージ監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。（※1）
	イベントログ監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。（※1）
	接点入力から，ダイヤルコマンド（teldial コマンド）で，通知メディアまたは連絡網へ自動発信する方法。
	機器稼動監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。（※1）
	サービス監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。（※1）
	SNMP トラップ監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。（※1）
	メール監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信す

呼出し種別	呼出し方法
	る方法。（※1）
	ディスク容量監視の発信先定義で，設定した通知メディア，または連絡網へ自動発信する方法。（※1）

注※1　連絡網発信では，TELstaff が teldial コマンドを使用して発信を行います。
注※2　JP1 版 TELstaff では使用しない項目のため対象外となります。

(b)　グループ（連絡網）発信と直接発信

連絡網グループ

連絡網グループは，後述の「連絡網」を複数まとめたものです。各連絡網グループは 3 桁の ID を付けて管理します。

連絡網グループを複数用意することができます。例えば，月曜日運用の連絡体制，火曜日運用の連絡体制と言うように，運用に合わせた連絡網を設定できます。連絡網グループを最大いくつ定義できるかは，製品により異なります。詳細は表 2.3-32 を参照してください。

グループ（連絡網）発信

グループ（連絡網）発信では，発信スケジュールを適用して複数の電話，SMS 通知，FAX，メール，PC のデスクトップ，メッセージ表示ボード，信号灯や電気機器，および任意のコマンドに順番に通知するときやエスカレーション通知するときに使用します。

連絡網への発信繰り返しの設定（再発信）を行うと，一定の間隔で連絡網への発信を繰り返します。

連絡網と電話，開封確認付きメールを利用すると通報の確実性と運用性を向上することができます。

連絡網は，4 桁の ID を付けて管理します。問題・障害のレベルや内容によって使用する連絡網を使い分けることができます。異なる通知を，同じ連絡網を使用して発信するときは，通知 ID で区別できます。この通知 ID は，~id2~変数で参照できます。

連絡網を最大いくつ定義できるかは，製品により異なります。詳細は表 2.3-32 を参照してください。

連絡網への発信では，TELstaff ウィンドウの発信先一覧に並んだ順に，発信スケジュールに従って発信先に一定の間隔で発信を行います。なお，連絡網内の通知メディアの追い越し発信は行いません。

トリガフォンからの電話発信，IP 電話発信，メール開封確認を行うメール発信では，受信者が発信の内容を確認すると，連絡網の後続ユーザへの発信を中止します。なお内容が確認されても連絡網内のすべてのユーザに発信することもできます。

同時に複数の連絡網からの発信を行った場合，連絡網の間では順不同であり優先順位はありません。

ある連絡網の発信の沈み込み（埋もれ）を防ぐため，まだ一度も発信されていない連絡網（未発信の連絡網と呼びます）は，既にいくつかの連絡先に通知済みの連絡網よりも先に発信されます。未発信の連絡網への発信は，連絡網の先頭の通知先に対して先に**第一通報先に対して**発信します。詳細は「2.3.26 先頭優先ルール」を参照してください。

直接発信

もう 1 つの発信方法として，連絡網を使わずに直接電話，SMS 通知，メール，FAX，AECL（または AEPE，AESE）に対して発信する方法があります。連絡網発信とは，発信スケジュールを行わずに，順番を待たずに即座に並行発信する点が異なります。連絡網発信と併用することで，順番を待たずに緊急連絡者に発信する運用が行えます。

複数のメール通知や PC へのメッセージ通知を，同時に発信を行った場合，1 つずつ発信を行います。1 つの発信に時間がかかる場合，他の発信は待たされて遅延や発信の沈み込み（埋もれ）が起きることがあります。

発信先の指定は，電話番号やメールアドレスを直接指定する方法とユーザ名を指定する間接指定する 2 つの方法があります。間接指定を行う場合は，ユーザプロパティダイアログボックス（図 5.1-6）で電話番号，SMS 通知番号，メールアドレス，エージェントアドレス，FAX 番号を指定しておきます。

グループ（連絡網）発信と直接発信の混在発信（一括発信）

1 つのダイヤルコマンド（teldial コマンド）で一度に複数のグループ（連絡網）発信と直接発信の混在発信ができます（一括発信と呼びます）。

一括発信は，あらかじめ一括発信する一括発信ファイルを作成しておき teldial コマンドの-nif オプションに指定して発信を行います。一括発信ファイルに指定した発信先への発信では，teldial コマンドの他のオプション（発信で有効になるオプション）を引き継いで発信します。一括発信での 2 台並列稼動機能では，一括発信ファイルに指定した個々の発信先毎に適用します。一括発信ファイルの詳細については「2.6.4 一括発信ファイルの作成」を参照してください。

また，一括発信では，一括発信ファイルに指定した特定の発信先にだけに発信することができます（発信先のフィルタリング）。発信先のフィルタリングは，teldial コマンドの-nik オプションを使用して行います。

一括発信を使用すると bat ファイルを使用しなくても 1 つのダイヤルコマンド（teldial コマンド）で簡単に複数のグループ（連絡網）発信と直接発信の混在発信ができますが，大量発信を引き起こす要因になります。一括発信ファイルに指定した発信は，発信制限の対象にならないため短時間に多くの teldial コマンドを実行してしまう可能性がある場合は，運用する上で注意が必要になります。

一括発信では，次の注意事項があります。

- 発信制限について
  一括発信する teldial コマンドは，発信制限に対象になりますが，一括発信ファイルに指定した個々の発信先への発信では，発信制限の対象になりません。
- 発信抑止について
  一括発信する teldial コマンドの発信抑止はできません。一括発信ファイルに指定した個々の発信について発信の抑止操作になります。
- 発信の取消しについて
  一括発信する teldial コマンドの発信取消しはできません。一括発信ファイルに指定した個々の発信について発信の取消し操作になります。

(c) 発信スケジュール

スケジュール機能を使用すると，時間帯によって通知メディアを使い分けることができ

ます。スケジュール機能はグループ（連絡網）発信で利用できます。例えば，昼間はパトランプを点灯させるが夜間や休日には電話と SMS に通知する，といった運用が可能です。スケジュールは，時間毎に休日と平日を持たせることができます。

連絡網またはシステムのスケジュールで「すべての」通知メディアが発信抑止状態である場合，その時間帯に行われた発信は発信可能な時間帯に入るまで発信保留されます。発信抑止および発信保留の詳細については 2.3.1(1)(f)を参照してください。

スケジュールには，以下の 4 種類があり，1 から 4 の順で，スケジュール（4 階層スケジュール）を使用します。

1. 個人のスケジュール
2. 連絡網に対するスケジュール
3. 連絡網グループに対するスケジュール
4. システムのスケジュール

スケジュールを分毎にきめ細かいスケジュールで発信制御するには，telspend コマンドを使用します。telspend コマンドは，Windows のタスクスケジューラ機能を利用するか，またはスケジューリング運用ツールを利用してスケジュールに従って実行させます。

(d) 発信の中止と取り消し

発信の中止

トリガフォンからの電話発信や IP 電話では，パスワード認証された電話受信者が発信の内容を確認することで，連絡網の後続ユーザへの発信を中止できます。

メール開封確認を行うメール発信では，メール受信者が発信の内容を確認することで，連絡網の後続ユーザへの発信を中止できます。

また，トリガフォンまたは通信モデムを使用して TELstaff に電話をかけ（問い合わせ）発信の確認を行うことでも中止できます。通信モデムでは，間違い電話でも発信が中止される場合があります。発信を中止する操作については，「6.2 電話の操作」を参照してください。

発信の取り消し

連絡網を使用して発信，直接発信，またはネットワーク監視など間接的に発信した発信を取り消すことができます。発信中のものは，この発信が終わってから発信が中止されます。パトランプへの発信やコマンド実行のように既に発信が開始されたものは取り消しすることはできません。また，AECL（または AEPE，AESE）経由でのパトランプ発信では，既に AECL（または AEPE，AESE）経由で依頼済みのパトランプ発信は取り消しすることはできません。

使用例として，ネットワーク障害となった機器が復旧したとき，未通報の発信を取り消すことができます。ポーリング監視では，正常域の監視に発信キャンセルコマンド（telcan コマンド）を，アクション監視では，ノードアップイベントに発信キャンセルコマンド（telcan コマンド）を指定します。

発信の取り消し方法と取り消し契機を次に示します。関連説明が「2.3.3(1)応答機能と問合わせ機能」，-k オプション，連絡網プロパティー「基本設定」タブの「問合わせ確認は行わない」オプションにあります。

- telcan コマンド，または発信と監視の操作ウィンドウで発信の取り消し操作を行

ったとき

- 発信制限により発信の取り消しを行ったとき
- 環境設定－「全般」タブの「サービス未起動のときコマンドでサービスを自動起動する」オプションにチェックがなく，「サービス未起動のとき teldial コマンドを無効にする」オプションをチェックしている場合で teldial コマンドを受け付けたとき
- 環境設定－「全般」タブの「サービス未起動のときコマンドでサービスを自動起動する」オプションにチェックがあり，「サービス未起動のとき teldial コマンドを無効にする」オプションをチェックしている場合で teldial コマンドを受け付けたとき。この teldial コマンドは，取り消しはしません。
- TELstaff サービスが開始状態にあり，環境設定－「全般」タブの「サービス未起動のとき teldial コマンドを無効にする」オプションをチェックしている場合で TELstaff サービスを停止したとき。
- 使用する連絡網グループとは異なる連絡網グループの発信待ち，問い合わせ待ち状態にある発信がある状態で TELstaff サービスを開始するとき，異なる連絡網グループの発信待ち，問い合わせ待ち状態にある発信は，TELstaff サービス開始時に無効（取り消し）にします。
- TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始するとき。
- -k オプションを指定した発信が終了したとき。または，連絡網プロパティー「基本設定」タブの「問合わせ確認は行わない」オプションにチェックしている連絡網 ID の発信が終了したとき。
- 電話受信者が，発信の確認操作を行ったとき
- 受信属性を与えないモデムを接続した構成で発信が終了したとき

(e) 発信制限

発信制限機能は，特定の条件を満たす発信命令の実行を制限する機能です。発信命令を適度に「間引く」用途で使用できます。詳細については 2.3.27 項を参照してください。

(f) 発信抑止と発信保留

発信抑止とは，指示された発信要求を実行せずに破棄することを指します。発信抑止の設定は telspend コマンド[11.3.2]で行えます。また，発信スケジュール機能にて「使用不可」と指定された時間帯・通知メディアへの発信も，発信抑止の対象となります。ただし発信スケジュール機能で使用不可と指定された発信でも後述の条件を満たすと「発信保留」の対象となり，発信抑止は行われません。

発信保留とは，指示された発信要求を即座に実行せず，発信可能な条件が整ってから実行することを指します。発信スケジュール機能にて，すべての通知メディアが「使用不可」となっている時間帯に指示された発信要求が発信保留の対象となります。

発信スケジュールを分単位で制御するには，telspend コマンドを Windows タスクスケジューラ等のスケジューリング運用ツールと併用してください。

ネットワーク監視の teldial コマンドでは，ネットワーク監視で発信条件を満たしたときにネットワーク監視ダイアログボックスで設定した発信について連絡網 ID，通知 ID，通知メディアで発信抑止ができます。

発信抑止機能は，AEPE および AESE で使用できます。

(g)　発信の繰り返しとエスカレーション

発信の繰り返し

発信の繰り返しには，連絡網全体の繰り返しと，電話，SMS 通知，メール，FAX，パトランプ，デスクトップ通知，メッセージ表示ボードの個々の繰り返しがあります。

連絡網の中に繰り返し指定のある電話，SMS 通知，メール，FAX，エージェント，パトランプ，デスクトップ通知，メッセージ表示ボード，メール一括送信が組み込まれていると，通知できないメディアに対して発信を繰り返した後に，次の通知メディアに通知します。受信確認されない電話発信，SMS 通知，通信モデムを使用した電話への発信，メール開封確認を行うメール発信では，繰り返し発信します。

繰り返し回数を多く設定すると繰り返しにより連絡網の次の通知メディアへの発信が遅延します。このため連絡網発信を使用する場合の発信の繰り返しは，連絡網全体の繰り返し方法を推奨します。

繰り返し回数の設定は［繰り返し回数の設定］ダイアログボックスで設定します。設定可能な値は以下の通りです。

- 直接発信の電話通知，SMS 通知，メール通知，FAX 通知，エージェント通知の繰り返し回数
- 連絡網発信のメール通知，FAX 通知，エージェント通知，パトランプ通知，デスクトップ通知，メッセージ表示ボード通知の繰り返し回数

ただし，メール通知，FAX 通知，エージェント通知の繰り返し回数は，直接発信用と連絡網発信用の設定値は共通となり，異なる回数を設定することはできません。

連絡網発信の電話，SMS 通知の繰り返し回数は，ユーザプロパティー「電話・SMS」タブの電話と SMS に設定します。

連絡網全体の繰り返し回数は，連絡網プロパティー「基本設定」タブの「繰り返し回数」スピンボックスで設定します

連絡網への繰り返し発信では，メール，FAX，エージェント，パトランプ，デスクトップ通知，メッセージ表示ボード，メール一括送信，および任意のコマンドに通知できたメディアへの繰り返しは行われません。受信確認されない電話発信，SMS 通知，通信モデムを使用した電話への発信は，繰り返し発信します。

トリガフォンを使用した電話発信，IP 電話発信，メール開封確認を行うメール発信では，受信者が発信の確認を行うと連絡網への発信を中止します（確認されても連絡網内のすべてのユーザに発信することもできます）。受信者が発信の確認を行わなければ，発信の繰り返しを行います。

グループ（連絡網）発信の繰り返し方法を表 2.3-2 に，直接発信の繰り返し方法を表 2.3-3 に示します。

表 2.3-2　グループ（連絡網）発信の繰り返し方法

発信先	繰り返し回数	繰り返し間隔	繰り返し方法
SMS 通知	ユーザプロパティ「電話・SMS」タブの「SMS 繰り返し回数」	環境設定-発信方法の「繰り返しの間隔」	繰り返し回数で再発信
電話(通信モデム)	ユーザプロパティ「電話・SMS」タブの「電話繰り返し回数」		
電話(トリガフォン)			確認されるまで繰り返し
電話(IP 電話)			
メール	「メール繰り返し回数」（※2）		発信できるまで繰り返し（※1）
FAX	「FAX 繰り返し回数」（※2）		発信できるまで繰り返し
エージェント	「ｴｰｼﾞｪﾝﾄ繰り返し回数」（※2）		
パトランプ	「パトランプ繰り返し回数」（※2）		
表示ボード	「表示ボード繰り返し回数」（※2）		
デスクトップ通知	「デスクトップ通知繰り返し回数」（※2）		

注※1　メール開封確認を行うメール発信では，確認されるまで繰り返します。
注※2　繰り返し回数の設定ダイアログボックス（図 4.1-30）の繰り返し回数の設定

表 2.3-3　直接発信の繰り返し方法

発信先	繰り返し回数	繰り返し間隔	繰り返し方法
SMS 通知	「SMS 繰り返し回数」（※3）	繰り返し回数の設定の「直接発信の繰り返しの間隔」	繰り返し回数で再発信
電話(通信モデム)	「電話繰り返し回数」（※3）		
電話(トリガフォン)			確認されるまで繰り返し
FAX	「FAX 繰り返し回数」（※3）		発信できるまで繰り返し
メール	「メール繰り返し回数」（※3）		
エージェント	「ｴｰｼﾞｪﾝﾄ繰り返し回数」（※3）		

注※3　繰り返し回数の設定ダイアログボックス（図 4.1-30）の繰り返し回数の設定

エスカレーション

連絡網への発信で，電話受信者による発信の確認が行われずに，すべての発信が終わると，他の連絡網に通知することができます。これをエスカレーションと言います。

エスカレーションを行うには，連絡網のプロパティダイアログボックスの「コマンド」タブで，「全ての発信が終了したとき」に実行するコマンドとして，%teldial コマンドを指定します。

エスカレーションは，連絡網連絡網内のすべての発信について確認が行われなかったとき，%teldial コマンドで指定された連絡網に発信を開始します。ただし，「全ての発信先に通知する」オプションが指定されているときは，発信の確認が行われても，%teldial コマンドで指定された連絡網に発信を開始します。

詳細は，「5.3.11(4)連絡網プロパティー「トリガーコマンド」タブ」を参照してくださ

い。

(h) 発信依頼

発信依頼は，別の TELstaff に対して発信の実行を依頼する機能です。この機能を使用することで，通報サーバの 2 重化・分散化を実現できます。発信依頼は AECL，AEPE，および AESE から，AEPE または AESE に対して行えます。

発信依頼は，AEPE / AESE では，teldial コマンド（-to オプション）を使用します。AECL では，teldial コマンド（-to オプション）を使用するか，-to オプションを使用しない場合は，発信依頼先サーバを設定しておくことで発信依頼ができます。発信依頼先サーバは，あらかじめ「メッセージエージェント構成の設定」画面で登録しておきます。詳細は 4.4.1(1)を参照してください。なお，発信依頼先の TELstaff で送受信パスワードが設定されている場合は依頼元の TELstaff でも同じパスワードを送受信パスワードとして設定しておく必要があります。送受信パスワードは「4.4.2(1)(b) 「送受信パスワード」テキストボックス」で設定します。

発信依頼する teldial コマンドは，エージェントメッセージで発信依頼先に送信します。発信依頼先に送信できない場合は，メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスー「全般」タブ（図 4.4-1）で設定した送信エラー再送間隔で送信エラー再送回数まで再送します。送信できない場合は，「送信エラー箱」に 5 日間保管します。

発信依頼には，次の注意事項があります。

- Administrators 権限ユーザ以外のユーザでは，使用できません。
- TELstaff の 2 台並列稼動機能を使用するとき，発信依頼機能は使用できません。
- 発信の抑止は，発信依頼先の TELstaff で行われます。
- TELstaff サービスを開始していない場合は，発信依頼メッセージは「送信箱」に保管され，TELstaff サービスを開始したときに送信（発信依頼）します。「送信箱」に保管された発信依頼メッセージを取り消して TELstaff サービスを開始する場合は，TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始します。
- ファイルを添付したメール発信で発信依頼をした場合，添付のファイルのファイル名が変更される場合があります。

(i) 発信の監視

発信状況（発信記録）は，メモリに保存するため発信記録を削除しないと空きメモリを消費していき，他のアプリケーションやシステム影響がでてきます。また，発信記録が多い状態で TELstaff サービスを開始すると，サービスが開始するまで時間がかかります。この場合，環境設定ー「全般」タブの「サービス未起動のとき teldial コマンドを無効にする」オプションをチェックしておくとサービスの起動時間が短くなります。

発信記録は，次の操作で発信を確認した段階で削除する運用を行ってください。

1. 発信キャンセルコマンド（telcan コマンド）で発信記録を削除
2. 発信と監視の操作ウィンドウで発信記録を削除
3. 問い合わせ確認を行い，発信記録を削除

(2) 電話発信

(a) 概要

電話発信機能は，NTT 公衆回線に接続された固定電話や携帯電話，IP 電話などに通知を行う機能です。電話発信機能では，あらかじめ登録されたユーザの電話番号へと発信することも，任意の電話番号へと直接発信することもできます。

複数の電話回線が利用可能な環境であっても，同じ電話番号に対して同時に複数の電話通知を行うよう TELstaff に指示した場合，一方の発信が終わるまで他方の発信は待ち状態となります。

(b) 通知の流れ

電話通知の基本的な流れ概要を図 2.3-1 に示します。なおこの図はパスワード認証が行われる場合の流れです。パスワード認証を行わない電話通知の場合，「通知文の再生」から通知の流れが始まります。

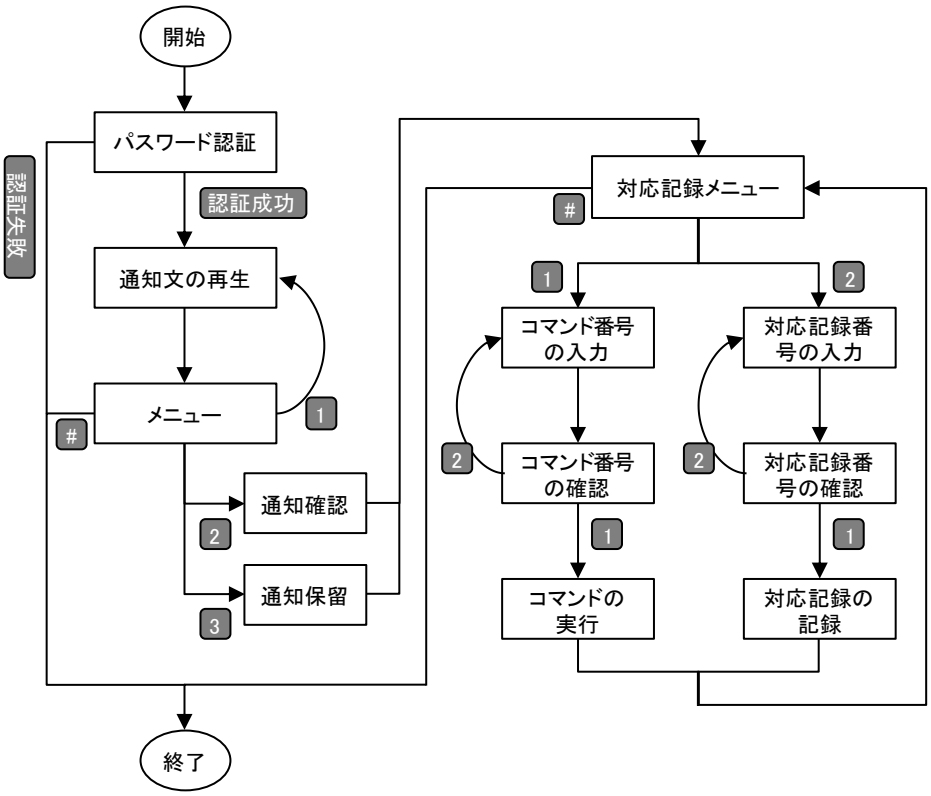


図 2.3-1 電話通知の基本的な流れの概要

(c) パスワード認証

パスワードが設定されたユーザへの通知時は，パスワード認証付きの電話通知が行われます。パスワード認証機能は，トリガフォンでの電話発信時または IP 電話発信を行う場合に利用可能です。ただし，パスワード認証を行うかどうかは以下の流れで判断されます：

- 「発信と受信時の認証方法ダイアログボックス」（図 4.1-26）でパスワード認証を無効にしている場合，パスワード認証は行わない
- 通知先ユーザにパスワードが設定されていない，または teldial コマンドでパスワード指定を付けずに引数 -p および引数 -pi を使用している場合，パスワード認証は行わない
- 通知先ユーザの電話 N（N は 1～4）に通知する場合で，その電話番号が「留守

電で使用する電話」と指定されている場合，パスワード認証は行わない [5.1.10(2)(f)]

パスワード認証を求める電話通知では，冒頭にてパスワードの入力を求めるガイダンスが流れ，通知先の電話機のプッシュボタン操作により正しいパスワードが入力されるのを待ちます。ここで正しいパスワードが入力されると通知内容が再生され，その後はパスワード認証を求めない電話通知と同じ流れで通知が進みます。正しいパスワードが入力されなかった場合，通知内容を伝えずに回線を切断します。通知の流れについてはトリガフォン，通信モデム，IP 電話のどれを使用するかによって異なります。詳細については，後述の説明を参照してください。

(d) トリガフォンを使用した電話発信

トリガフォンを使用した電話発信では，テキスト文字を扱え，テキスト文字を音声変換してテキスト情報を伝えます。

電話への通知文(ファイル)は，ファイル拡張子が tp のファイルで作成し，teldial コマンドの-fv パラメタ，連絡網プロパティー「発信内容」，ネットワーク監視－「電話・SMS」ホスト監視定義の各設定ダイアログボックスに電話通知文ファイルを指定します。

トリガフォンを使用した電話発信の繰り返し発信回数は，連絡網発信の場合，ユーザプロパティ「電話・SMS」タブの「電話繰り返し回数」で，直接発信（-p オプション指定の teldial コマンド）の場合，繰り返し回数の設定ダイアログボックスで指定します。

発信間隔は，連絡網発信では，環境設定「発信方法」タブの繰り返しの間隔時間で，直接発信では，繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で指定します。繰り返し回数を指定すると確認されるまで繰り返します。

トリガフォンを使用した電話発信の受信操作方法については「6.2.2 トリガフォンでの操作」を参照してください。

トリガフォンからの電話発信では，再生方法（読み上げ方法）をカスタマイズできます。再生方法（読み上げ方法）は，「4.3 テキスト音声変換の設定」を参照してください。

TELstaff サービス起動したとき，トリガフォンの接続ができないときは，トリガフォン未接続で TELstaff サービスを起動します。トリガフォンへの発信は，通信モデムが接続されていれば，モデムを使用して電話に発信を行います。トリガフォンを使用する場合，「1.4.4 トリガフォンについて」に示す注意事項があります。

トリガフォンを使用した電話発信では，パスワード認証を使用するときと使用しないときでは，発信方法が異なります。

●パスワード認証について

トリガフォンを使用した電話受信者の受信操作による発信方法を表 2.3-4，表 2.3-5 に示します。

表 2.3-4 連絡網からの発信

電話受信者の受信操作	発信方法
パスワード不正*1	次の通知メディアに発信します。
不在(受信者が電話を受けない)*2	
メッセージの通知中に切断	
受信者が受信確認しない*3	
受信者が受信を確認	連絡網の後続ユーザへの発信を中止します。（確認され

電話受信者の受信操作	発信方法
	ても連絡網内のすべてのユーザに発信することもできます）。

表 2.3-5　直接発信

電話受信者の受信操作	発信方法
パスワード不正*1	「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」で設定した「電話繰り返し回数」で発信を繰り返します。
不在(受信者が電話を受けない) *2	
メッセージの通知中に切断	
受信者が受信確認しない*3	
受信者が受信を確認	発信を終了します。

*1　電話受信者が，留守番電話のときもパスワード不正扱いとなります。

*2　一定時間以内に電話受信者が，電話を受けない場合は，不在として扱います。呼び出す時間は，トリガフォンの「システム設定」－発呼処理－リング回数になります。

*3　メッセージを再度聞き直す操作や，通知内容を確認する操作を行い，電話を終了した場合，確認保留操作した場合は，繰り返しの対象からは外れます。電話の確認操作については「6.2.2(3) 通知メッセージの確認操作」を参照ください。

トリガフォンを使用した電話受信者の受信操作による発信方法を表 2.3-4，表 2.3-5 に示します。

なお， ISDN を使用したとき，表 2.3-6，表 2.3-7 に示す発信方法にならない場合があります。パスワード認証を使用しない場合，「1.4.4 トリガフォンについて」に示す注意事項があります。

表 2.3-6　連絡網からの発信（トリガフォンの場合）

電話受信者の受信操作	発信方法
不在(受信者が電話を受けない) *1	次の通知メディアに発信します。
メッセージの通知中に切断	
留守番電話が受信	
受信者が受信確認しない*2	
最後まで内容を聞いて確認	連絡網の後続ユーザへの発信を中止します。（確認されても連絡網内のすべてのユーザに発信することもできます）。

表 2.3-7　直接発信（トリガフォンの場合）

電話受信者の受信操作	発信方法
不在(受信者が電話を受けない) *1	「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」で設定した「電話繰り返し回数」で発信を繰り返します。
メッセージの通知中に切断	
受信者が受信確認しない	
留守番電話が受信	発信を終了します。
最後まで内容を聞いて確認	

*1　一定時間以内に電話受信者が，電話を受けない場合は，不在として扱います。呼び出す時間は，トリガフォンの「システム設定」－発呼処理－リング回数になります。

*2　メッセージを再度聞き直す操作や，通知内容を確認する操作を行い，電話を終了した場合，確認保留操作した場合は，繰り返しの対象からは外れます。電話の確認操作については「6.2.2(3) 通知メッセージの確認操作」を参照ください。

● トリガフォンに発信できない場合の要因

1. ディップスイッチ１の１番スイッチ（DSW1-1）が OFF になっている。
2. RS232C と接続するケーブルが，クロスケーブルでないか，または RS232C が使用できない。
3. 電話回線をモデムとトリガフォンで共用する場合は，モデムの「受信・発信の区別」を「受信」または「受発信」で設定している。
4. パスワード認証機能がないトリガフォンを使用してパスワード設定をしている。
5. トリガフォンの通信速度設定が 9600bps 以外である。出荷時の初期設定は 9600bps ですのでディップスイッチを変更していなければ 9600bps です。

(e)　通信モデムを使用した電話発信

通信モデムを使用した電話発信は，旧型のトリガフォン（TP1000）を使用しない場合に使用でき，トリガフォンを接続している場合は，トリガフォンを使用して電話発信します。

通信モデムからの電話の呼び出しは，呼び出し待ち時間の経過後に，接続待ち時間の間ダイヤルトーン音で通知します。回線不通，話中，電源切り，圏外など着信できない場合も正常発信扱いとなります。ダイヤルトーン音は，接続待ち時間になるまで流れます。これを，電話繰り返し回数だけ電話のかけ直しを繰り返します。電話のかけ直しは，繰り返し間隔で指定した時間が経過後に行われます。

このダイヤルトーン音は，「環境設定」の「カスタマイズ」タブでカスタマイズができます。

ユーザのプロパティー「電話・SMS」タブで電話１，電話２，電話３，電話４の電話番号を設定するとすべての電話に対して発信を行います。

通信モデムを使用した電話発信の繰り返し発信回数は，連絡網発信の場合，ユーザプロパティ「電話・SMS」タブの「電話繰り返し回数」で，直接発信（-p オプション指定の teldial コマンド）の場合，繰り返し回数の設定ダイアログボックスで指定します。発信間隔は，連絡網発信では，環境設定「発信方法」タブの繰り返しの間隔時間で，直接発信では，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で指定します。繰り返し回数を指定すると発信できるまで繰り返します。

(f)　IP電話発信

● 概要

IP 電話発信では，IP 電話の端末を呼び出してテキスト情報（文字情報）を音声に変換して伝えるか，あらかじめ録音された音声データを送信して伝えることができます。IP 電話発信は，AEPE で使用可能です。

TELstaff が対応している IP 電話のプロトコルは SIP [RFC 3621]であり，同じプロトコルに対応した IP 電話機器などと連携可能です。また，音声合成ソフトウェアと連携することで通知の実行時にテキスト情報を音声に変換しつつ通知することが可能です（音声合成ソフトウェアを使用せず，あらかじめ録音された音声データファイルを使用して通知を行うことも可能です）。なお，SIP とは異なるプロトコルを使用する電話回線網と相互接続する機能を備えた VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズを使用すれば，例えば，公衆回線に接続された電話機や携帯電話などを呼び出すことも可能となります。

IP 電話で使用する通知文はテキストファイル形式で作成し，teldial コマンドの-fv パラ

メタ[連絡網発信:11.2.2(3)(n), 直接発信:11.2.4(3)(e), 一括発信 11.2.8(3)(w)]か，連絡網のプロパティ[5.3.11(3)]で指定します。使用する音声合成ソフトウェアごとの，IP 電話通知に関する動作の違いについては 1.4.10(3)を参照してください。

以下，IP 電話発信機能に関する注意点を記します。

- 連絡網発信における IP 電話発信の繰り返し回数は，ユーザプロパティ「電話・SMS」タブの「電話繰り返し回数」で指定します。
- 同一連絡網の中で IP 電話とトリガフォンを使用する電話を混在させる場合は，通知文ファイルの拡張子は tp にしてください。
- 連絡網発信における IP 電話発信の発信間隔は，環境設定「発信方法」タブの繰り返しの間隔時間で指定します。繰り返し回数を指定すると確認されるまで繰り返します。
- IP 電話発信の受信操作方法については，トリガフォンと同様です。「6.2.2 トリガフォンでの操作」を参照してください。

IP 電話発信では，再生方法（読み上げ方法）をカスタマイズできます。詳細については「4.3 テキスト音声変換の設定」を参照してください。

●日本語以外の言語での通知

• 概要

IP 電話発信の機能では，日本語以外の言語で通知を行うことができます。非日本語での IP 電話通知は，通知対象となるユーザの言語プロパティ[5.1.10(2)(d)]が日本語以外に設定されている場合や，teldial コマンドの引数 -sl で明示的に通知に使用する言語を指定した場合に行われます。

IP 電話通知で使用する言語は，以下の優先度で決定されます：

- teldial コマンドの引数 -sl で指定した言語
- 通知先ユーザの言語プロパティで指定された言語
- 標準の言語（日本語）

なお日本語以外の言語での通知処理に関連する設定等では，「言語コード」が頻繁に使用されるため，先にこれについて記します。言語コードは，TELstaff が言語を識別するために内部的に定義している半角小文字アルファベット 2 文字の文字列です。TELstaff が対応している言語とその言語コードを表 2.3-8 に示します。

表 2.3-8 TELstaffが対応している言語とその言語コード

通知の言語	言語コード
日本語	ja
英語	en
中国語	zh

日本語ではない言語での通知においては，日本語での通知時とは異なる通知文ファイル，音声合成ソフトウェア，ガイダンスメッセージを使用します。以下，それぞれについて説明を記します。

• 通知文ファイルの扱い

日本語でない言語での IP 電話通知における通知文ファイルは，日本語での通知用に指定した通知文ファイルの名前を元に自動的に決定されます。連絡網のプロパティでも，

teldial コマンドの引数 -fv でも，直接指定することはできません。例えば，日本語用の通知文ファイルの名前が message.txt である場合，通知文ファイルは message.txt と同じフォルダにある「message.##.txt」（##の部分は言語コード）になります。したがって日本語・英語・中国語で通知を行う場合，各言語の通知文ファイル名は表 2.3-9 のようになります。なお wav 形式の通知文ファイル（録音済み音声ファイル）を使用する場合でも，同様の方法でファイル名が決定されます。

表 2.3-9　通知言語に応じたIP電話通知の通知文ファイル名の決定例

通知の言語	通知文ファイルの名前
日本語	message.txt
英語	message.en.txt
中国語	message.zh.txt

また，通知文ファイル作成時に使用すべき文字コードは，通知に使用する言語ごとに異なります。各言語ごとの，使用すべき文字コードを表 2.3-10 に示します。

表 2.3-10　通知言語ごとの，通知文ファイルの文字コード

通知の言語	文字コード
日本語	Shift_JIS
英語	ASCII
中国語	GBK

● 音声合成ソフトウェアの扱い

通知に使用する言語ごとに，TELstaff は異なる音声合成ソフトウェアを使い分けます。詳細については 1.4.10(3)を参照してください。

● ガイダンスメッセージの扱い

TELstaff がサポートする言語ごとの標準ガイダンスメッセージが TELstaff には組み込まれています。そのため，各種のガイダンスも指定した言語での音声が使われます。

● 注意事項

- 日本語以外の言語での IP 電話通知は，連絡網発信または teldial コマンドによる直接発信（引数-pi や引数-pn など）でのみ使用可能であり，以下の機能では使用できません：
  - ✧ すべての監視機能
  - ✧ 発信依頼機能
- 日本語以外の言語での IP 電話通知の実行時，表 2.3-9 記載の方法で決定された通知文ファイルを正常に読み出せない場合，その通知は失敗します。

●パスワード認証について

パスワード認証付きの IP 電話通知における，通知受信者による受信操作とその後の流れを表 2.3-11 に示します。

表 2.3-11　IP電話通知の受信操作（パスワード認証あり）

電話受信者の受信操作	発信方法
パスワード不正*1	次の通知メディアに発信します。
電話を受けない（受信者が電話を受けない）*2	
メッセージの通知中に切断	
受信者が受信確認しない*3	
最後まで内容を聞いて確認	連絡網の後続ユーザへの発信を中止します。（確認されても連絡網内のすべてのユーザに発信することもできます）。

*1　通知先電話機等の留守番電話機能が応答した場合も該当します
*2　一定時間内に受信者が電話を受けなかった場合も該当します
*3　通知内容を確認する操作を行って電話を終了した場合，または確認保留の操作を行った場合は，繰り返しの対象から外れます。電話の確認操作については「6.2.2(3) 通知メッセージの確認操作」を参照ください。

パスワード認証を伴わない IP 電話通知における，通知受信者による受信操作とその後の流れについて表 2.3-12 に示します。

表 2.3-12　IP電話通知の受信操作（パスワード認証なし）

電話受信者の受信操作	発信方法
電話を受けない（受信者が電話を受けない） *1	次の通知メディアに発信します。
メッセージの通知中に切断	
留守番電話が受信	
最後まで内容を聞いて確認	連絡網の後続ユーザへの発信を中止します。（確認されても連絡網内のすべてのユーザに発信することもできます）。

*1　一定時間内に受信者が電話を受けなかった場合も該当します

(3) SMS通知

SMS 通知は，モデムまたはトリガフォンを使用して漢字かな混じりの文字情報を携帯電話などに通知します。

SMS 通知の中で，パスワードの後にメッセージを送信に対応するものは，SMS 通知番号の後ろに「:パスワード」の形式でパスワードを指定できます。SMS 通知の直接発信ではダイヤルコマンドの -b オプションで，連絡網発信ではユーザ管理の SMS 番号欄でパスワードを指定します。

SMS 通知における文字数の上限は，次の通りです。

- 文字列で指定，かつコード形式でない場合は，1022 バイトまで指定可能です。環境設定「SMS」タブの「SMS の設定ダイアログボックス」の最大メッセージ長を超える場合は，分割して送信します。
- ファイルに記載して指定する場合は，制限はありません。環境設定「SMS」タブの「SMS の設定ダイアログボックス」の最大メッセージ長を超える場合は，分割して送信します。

- SMS コードを直接記述，あるいはファイル内にコード形式で指定（ファイルの拡張子は.bel）し，文字数が環境設定「SMS」タブの「SMS の設定ダイアログボックス」の最大メッセージ長を超える場合は，分割せず切り捨てられます。

SMS 通知の繰り返し発信回数は，連絡網発信の場合はユーザプロパティ「電話・SMS」タブの「SMS 繰り返し回数」で，SMS 通知の直接発信（-b オプション指定の teldial コマンド）の場合，繰り返し回数の設定ダイアログボックスで指定します。

発信間隔は，連絡網発信では，環境設定「発信方法」タブの繰り返しの間隔時間で，直接発信では，繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で指定します。繰り返し回数を指定すると繰り返し回数で SMS 通知を繰り返します。

一般に，SMS 通知では，回線障害や回線不通などの理由で物理的に発信できなくても正常発信の扱いとなります。また，SMS のサービスセンターが，送信メッセージが長すぎるなどの理由でメッセージ受信を拒否した場合でも正常発信扱いになります。

一定時間内に SMS 通知できる発信数は，3 分間の制約（2001 年）が緩和されましたがモデムによっては連続したダイヤリングを制限しているものがあります。使用するモデムによっては，SMS 通知ができない場合があります。

複数の回線を利用して SMS 通知ができる環境で，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。

SMS 通知の確実性を向上させるには，モデムやトリガフォンの稼動監視（モデム機器の機器稼動監視機能）を行い，事前にモデムやトリガフォンの障害を検出する運用を推奨します。

使用できる SMS 種類一覧は，「表 1.4-5　SMS の種類」を参照してください。

(a)　SMS通知メッセージの指定方法

SMS 通知メッセージの指定方法は，直接指定する方法とメッセージを格納したファイルで指定する 2 つの方法があります。

SMS 通知メッセージをファイルで指定する場合，メッセージの記述形式にあわせたファイルの拡張子を使用してください。ファイルの拡張子ごとの，通知メッセージの記述形式を表 2.3-13 に示します。

表 2.3-13　SMS通知ファイルの拡張子とメッセージ記述形式

拡張子	説明
.txt	全角文字，半角カナ文字，英数字文字で SMS 通知メッセージを指定します。変数を使用できます。
.tp	全角文字，半角カナ文字，英数字文字で SMS 通知メッセージを指定します。変数は使用**できません**。
.bel	コードでメッセージを指定します。変数は使用できません。

※　.txt，.tp，.bel 以外の拡張子および拡張子の無いファイルを使用すると，SMS 通知メッセージの指定が行われなかった場合と同じ動作になります。

SMS 通知メッセージをコードで指定する場合，そのコードは使用する SMS の種類により異なります。

【関連説明】

- 5.3.11　　連絡網の設定ダイアログボックス
- 7.3.2　　ネットワーク監視－「電話・SMS」タブ
- 11.2.1　　teldial コマンド

(b)　SMS通知の表示形式

SMS 通知のメッセージ表示形式は，以下の通り条件により異なります。

●連絡網経由の場合

「連絡網 ID を通知しない」オプション，通知 ID 指定の有無，連絡網 ID 指定の有無でメッセージの表示形式が異なります。メッセージの表示形式を表 2.3-14 に示します。

表 2.3-14　連絡網発信のメッセージの表示形式

		「連絡網 ID を通知しないオプション」指定	
		あり	なし
通知 ID 指定	あり	「通知 ID メッセージ」	「通知 ID メッセージ」
	なし	「メッセージ」	「連絡網 ID メッセージ」
連絡網 ID 指定		「メッセージ」	「連絡網 ID メッセージ」

メッセージの指定がない場合は，「メッセージ」部分は空欄です。

●直接発信の場合

通知 ID 指定の有無でメッセージの表示形式が異なります。メッセージの表示形式を表 2.3-15 に示します。

表 2.3-15　直接発信のメッセージの表示形式

		表示形式
通知 ID 指定	あり	「通知 ID メッセージ」
	なし	「メッセージ」

メッセージの指定がない場合は，「メッセージ」部分は空欄です。

(c)　SMS通知でメッセージが正しく表示されない場合の原因

- メッセージ送出タイミングが合っていない。

  途中から受け付けられると表示不正になります。メッセージ送出待機時間を調整してください。SMS サービスセンタのガイダンス音声を，モデムのスピーカで聞きながら確認してください。

- メッセージ長が会社規定の文字数を超えている。

  メッセージ文字数を少なくしてください。

- 使用している文字が（半角カナ文字，漢字文字）が表示できない機種か，半角の「－」（ハイフン）や「，」（カンマ）は連続で使用している。

  SMS サービス種別指定が正しいか，また使用できない文字を送信していないか，確認してください。

- 回線が不通か，または SMS サービスセンタで受信拒否されている。

  SMS サービスセンタのガイダンス音声をモデムのスピーカで聞きながら確認してください。

(d) メッセージ長とメッセージ分割

SMS は短いメッセージを送受信する規格であるため，送信できる文字情報の長さには限りがあります。この問題を解決するため，TELstaff は設定された上限を超える長さのメッセージを分割して送信します。

TELstaff は自動的にメッセージを最大メッセージ長で分割し，90 秒間隔で送信します。分割送信を抑止したい場合は，「環境設定」－「SMS」タブで「メッセージが長いときは分割して送信する」チェックボックスのチェックをオフにしてください。

送信可能なメッセージ長の上限は SMS サービスセンターごとに異なっており，「SMS の種類」ごとに適切な上限値があらかじめ設定されています。

使用するモデムによっては，分割送信できないモデムがあります。分割送信できないモデムでは，メッセージを設定した長さ以降のメッセージを切り捨てて送信します。

SMS の設定ダイアログボックスで設定した最大メッセージ長以内であっても会社規定の最大文字数を超えるメッセージを送信すると SMS 通知できません。

コードで直接指定するメッセージは，設定した長さ以降のメッセージを切り捨てて送信します。コードで直接指定する場合は，メッセージファイル（ファイル拡張子 bel）で指定し，分割位置を.（ピリオド）で指定します。

(e) SMS通知の注意事項

SMS 通知に関する注意事項を，次に示します。

1. 対応していない文字がメッセージに含まれる場合，それらを空白文字に置換して通知を行います。
2. SMS 通知の機能としては半角英数字，半角カナ，漢字を使用できますが，受信端末が対応していない文字種をメッセージに含めて送信すると，正しく表示されません。
3. SMS 通知メッセージをファイルで指定する場合，ファイルの拡張子により解釈が変化します。詳細は 2.3.1(3)(a)を参照してください。
4. メッセージの指定がない場合は，「2.3.1(3)(b)SMS 通知の表示形式」に示すメッセージ表示形式で通知します。
5. メッセージをフリーワード形式で設定する場合，半角の「-」（ハイフン）や「,」（カンマ）は連続して設定しないでください。連続して設定した場合，表示不正になります。また，メッセージに "--"や"((", または"[["があると，それぞれ"*2*2", "*4*4"となり，機能コードと一致するため，これらはメッセージ不正（メッセージ指定なし）となります。"(("と"[["の扱いは，会社ごとに異なります。
6. パスワードの後に，メッセージを送信できる場合，発信先 SMS 番号の後ろに「:パスワード」の形式でパスワードを指定できます。SMS 通知の直接発信ではダイヤルコマンドの -b オプションで，連絡網ではユーザ管理の SMS 番号にパスワードを指定します。パスワードサービスを使用する場合は，パスワードに続いてメッセージを送信できる SMS サービスでなければなりません。
7. SMS 通知が行える文字コード種類や送信方法については，各社の説明書を参照してください。
   また，送信先番号の後に「#」が必要な SMS 通知が行える SMS サービスはダイヤルコマンドの -b オプション，またはユーザ管理の SMS 番号の後に「#」を入れてください。また，SMS 通知するとき，各社の SMS サービスセンタ番号を設定して

おかなければなりません。

8. SMS 通知が，話中，回線不通やセンタ受信拒否となった場合でも SMS 通知は，すべて正常発信扱いとなります。
   他から同じ番号に対して通信をしているとき，SMS センタから“只今込み合っています”の音声ガイダンスが流れ，センターでメッセージは受け取られず，メッセージは送信されません。これについて TELstaff の環境設定による回避できません。このような状況が考えられる場合は繰り返し発信する運用を推奨します。
9. 一定時間内に SMS 通知できる発信数は，3 分間の制約（2001 年）が緩和されましたがモデムによっては連続したダイヤリングを制限しているものがあります。使用するモデムによっては，SMS 通知ができない場合があります。
10. 複数の回線を利用して SMS 通知ができる環境で，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。

(4) メッセージ表示ボードへの通知

RS232C やネットワークに接続したメッセージ表示ボードに通知できます。メッセージ表示ボードは，全角 8 文字でスクロール表示します。メッセージ表示ボードに通知するメッセージは，全角 200 文字以内です。

コンバータを使用してメッセージ表示ボードを作動させる場合は，1 つのコンバータに対して複数の TELstaff から作動指示はできません。

メッセージ表示ボード発信の繰り返し発信回数は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の FAX 繰り返し回数で指定します。発信間隔は，環境設定「発信方法」タブの繰り返しの間隔時間で指定します。繰り返し回数を指定すると発信できるまで繰り返します。

(5) メール発信

メール一括送信を含むメール通知では，インターネットを使用した方法とダイヤルアップネットワーク接続を使用した 2 通りの方法で，表 2.3-1 からの通知の他に表 2.3-16 に示すメール通知ができます。

表 2.3-16　メール通知先一覧

メール通知の種類	通知先
TELstaff からのメッセージ通知	ユーザプロパティダイアログボックスで登録したメールアドレス。
TELstaff の稼動通知	ユーザプロパティダイアログボックスで，TELstaff の「システム管理者」で登録したメールアドレス。 AECL では，環境設定の「E メール」タブの TELstaff の通知先で登録したメールアドレス。

メール発信の繰り返し発信回数は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のメール繰り返し回数で指定します。発信間隔は，連絡網発信では，環境設定「発信方法」タブの繰り返しの間隔時間で，直接発信（-e オプション指定の teldial コマンド）では，繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で指定します。繰り返し回数を指定すると発信できるまで繰り返します。

複数のメールサーバを設定している場合で，すべてのメールサーバが使用できないとき，すべてのメールサーバを使用した後にメール発信繰り返しを行います。

メール発信の確実性を向上させるには，SMTP サーバの稼動監視（メールサーバの機器稼動監視機能）を行い，事前に SMTP サーバの障害を検出する運用や，SMTP サーバの 2 重化構成を推奨します。

(a)　インターネットからのメール送信

TELstaff からの通知をインターネット経由でメール通知ができます。インターネット経由でメール発信をする場合は，SMTP プロトコルに対応した SMTP メールサーバが必要になります。

POP Before SMTP 認証および SMTP 認証以外のメールサーバ認証は使用できません。

インターネット経由でメール発信できる１行の最大文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。

```
Subject: TELstaffからの連絡(受付番号: ~notifynumber~) [改行]
 [改行]
システムから通報がありましたのでお知らせします。通知IDは~id2~。 [改行]
通知の受け付けは ，~date1~で，受け付け時刻は，~time1~です。 [改行]
受付け番号は，~notifynumber~です。 [改行]
                                                発信者 TELstaff [改行]
```

送信者名について

送信メールの発信者情報（From:）は，環境設定の「E メール」タブで設定した送信者メールアドレスが使用されます。送信者名は，カスタマイズできます。カスタマイズする方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。

表題（題名）について

表題（題名）は，メール通知文の先頭行に記述する「Subject: 」で指定します。１行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。

通知文

メール通知文は，「Subject: 」行との間に１行以上の空行を挿入して記述します。

メールへの通知内容は，連絡網 ID，通知 ID と発信の発生日時を通知します。メール通知文は，TELstaff の標準通知文を使用しますが，ユーザ固有の通知文も使用できます。標準通知文ファイルの内容は，ユーザでカスタマイズができます。カスタマイズは，環境設定ー「カスタマイズ」で行います。カスタマイズの詳細については，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。

１行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。

最後の行は行末で改行してください。改行が無い場合，メールに添付したファイルが正しく表示されません。

(b)　ダイヤルアップでのメール送信

電話回線を使用できるシステムでは，ダイヤルコマンドからのメール通知，連絡網からのメール通知をダイヤルアップでメール通知できます。

TELstaff からダイヤルアップ（公衆回線経由）でメール発信をする場合は，ダイヤルアップネットワーク接続でインターネット接続事業者（プロバイダ）の SMTP メールサーバを使用します。

ダイヤルアップネットワーク接続は，ダイヤルアップ接続設定ダイアログボックスでダイヤルアップ接続方法を設定します。

ダイヤルアップ接続でメール発信をする場合は，ダイヤルアップ接続で使用する専用のモデムが必要となり，TELstaff と共用はできません。

```
Subject: TELstaffからの連絡(受付番号: ~notifynumber~) [改行]
 [改行]
システムから通報がありましたのでお知らせします。通知IDは~id2~。 [改行]
通知の受け付けは ，~date1~で，受け付け時刻は，~time1~です。 [改行]
受付け番号は，~notifynumber~です。 [改行]
                                                発信者 TELstaff [改行]
```

送信者名について

送信者名は，カスタマイズできます。カスタマイズする方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。

表題（題名）について

表題（題名）は，メール通知文の先頭行に記述する「Subject: 」で指定します。

通知文

メール通知文は，「Subject: 」行との間に 1 行以上の空行を挿入して記述します。

メールへの通知内容は，連絡網 ID，通知 ID と発信の発生日時を通知します。メール通知文は，TELstaff の標準通知文を使用しますが，ユーザ固有の通知文も使用できます。標準通知文ファイルの内容は，ユーザでカスタマイズができます。カスタマイズは，環境設定－「カスタマイズ」で行います。カスタマイズの詳細については，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。

メール通知文では，半角カナ文字は使用できません。

(c) メールの重要度

連絡網発信でのメール通知，直接発信でのメール通知（-e オプション指定の teldial コマンド），およびメール監視のメール転送では，重要度を指定したメールを送信できます。メールの重要度は，メールに含まれる特定のヘッダー情報に基づいて解釈されます。TELstaff がサポートしている，重要度とメールヘッダー指定の対応関係を表 2.3-17 に示します。

表 2.3-17 メールの重要度とメールヘッダーの対応関係

重要度	メールヘッダーの指定
無し	X-Priority，X-MSMail-Priority ともに指定無し
重要度低	X-Priority が 1，または X-MSMail-Priority が Low
重要度やや低	X-Priority が 2
通常	X-Priority が 3，または X-MSMail-Priority が Normal
重要度やや高	X-Priority が 4
重要度高	X-Priority が 5，または X-MSMail-Priority が High

なお重要度を表すメールヘッダーの解釈はメールクライアントアプリケーションごとに異なる場合があります。

(6) メール開封確認

メール開封確認は，TELstaff のメール通知をメール受信者が確認したかどうかを確認する機能です。メール通知などと同様に，連絡網の中に追加して使用します。

連絡網の流れの中でメール開封確認を行う段階になると，その連絡網でこれまでメール

通知を行ったユーザがメール通知の確認操作を行うまで TELstaff は連絡網の流れを中断して待ちます。そしてメール通知の確認操作が行われるか，一定時間が経過しても確認操作が行われなければ，中断していた連絡網の処理を再開して後続の通知を実施したり，連絡網発信全体を中止することができます。また確認操作が行われなかった場合には他の連絡網への発信を行うことも可能です。

メール受信者による確認操作は，TELstaff からメール通知で届いたメールに対して返信することで行います。TELstaff は，あらかじめ設定されたメールサーバ（POP3 サーバ）に返信メールが届いていないか定期的に確認し，届いていることを確認できたタイミングで「メール通知が確認された」と判断します。

メール受信者のメール開封確認状況は，メール開封状況一覧ビューアで確認できます。

メール開封確認には以下の注意事項があります。

- メール通知の受信者が返信するとき，TELstaff が通知に使用したメールアドレスを To に指定する必要があります。Cc または Bcc に指定して返信された場合，TELstaff は通知を確認したと判断しません。
- 次の場合，メール開封確認定義は無効になります。
    - ✧ メール発信が抑止されている
    - ✧ メール通知文ファイルが存在しない
    - ✧ 返信先メールアドレスとして指定したメールアドレスが不正
    - ✧ 返信メールを確認するためにアクセスするメールサーバのアドレスが不正
    - ✧ 連絡網の発信取り消し操作が行われた

●メール返信で連絡する場合のメール通知内容

表題（題名）

%メール識別番号%表題

メール発信時に TELstaff が表題の先頭に「%メール識別番号%」を付加します。表題の文字数に制限がある場合，表題は（最大表題文字数-「%メール識別番号%」文字数）の表示になります。

メール開封確認を連絡するメール返信では，この表題を使用して返信します。「%メール識別番号%」の内容を変更したり，削除してメール返信はできません。

本文

!! メールの内容を確認したら，必ず返信してください !! 本文内容

指定された開封確認通知要求メッセージをメール本文の先頭行に挿入します。

(7) FAX発信

FAX 発信では，表 2.3-1 からの通知ができ，「1.4.9 FAX 送信について」に示す注意事項があります。

送信用紙は，A4 サイズで 1 枚です。送信メッセージが，A4 サイズで 2 枚以上になる場合は，モデムや受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。受信 FAX によっては，複数ページを送ると送信エラーになったり，ロール紙 FAX で，紙が出力され続ける場合があります。

使用するフォントは，12 ポイントの MS 明朝固定です。また罫線や画像は使用できませ

ん。

モデムは，クラス 1 コマンドに対応したものを使用します。なお，TELstaff で使用できるモデムは，限定されます。モデムによっては，ロール紙 FAX で，紙が出力され続ける場合があります。また，受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

複数の回線を利用して FAX 発信ができる環境で，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。

FAX 発信の繰り返し発信回数は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の FAX 繰り返し回数で指定します。発信間隔は，連絡網発信では，環境設定「発信方法」タブの繰り返しの間隔時間で，直接発信（f オプション指定の teldial コマンド）では，繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で指定します。繰り返し回数を指定すると発信できるまで繰り返します。

FAX 発信の確実性を向上させるには，モデムの稼動監視（モデム機器の稼動監視機能）を行い，事前にモデムの障害を検出する運用を推奨します。

```
宛先　~UserName~
　　~UserExplanation~

システムから通報がありましたのでお知らせします。通知IDは~id2~。［改行］
通知の受け付けは，~date1~で，受け付け時刻は，~time1~です。［改行］
受付け番号は，~notifynumber~です。［改行］
                                                発信者 TELstaff［改行］
```

通知文

FAX への通知内容は，連絡網 ID，通知 ID と発信の発生日時を通知します。連絡網からの FAX 通知では，~UserName~と~UserExplanation~変数が使用できます。

FAX 通知文は，TELstaff の標準通知文を使用しますが，ユーザ固有の通知文も使用できます。標準通知文ファイルの内容は，ユーザでカスタマイズができます。カスタマイズは，環境設定－「カスタマイズ」で行います。カスタマイズの詳細については，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。

(8) エージェント発信

メッセージの通知以外に，AECL（または AEPE，AESE）と連携して次のことができます。

- 発信したメッセージを受信側の PC に音声で通知できます。
- 発信元から要求したコマンドを受信側の PC で実行できます。
- 発信元から要求した電気機器を作動させることができます。

これらの機能は，AECL（または AEPE，AESE）に送信する通知文中のプロトコルによって，PC 側での音声変換を指示したり，コマンドの実行を指示したりします。

エージェント通知文は，TELstaff の標準通知文を使用しますが，ユーザ固有の通知文も使用できます。

AEPE，AEPE への発信依頼や AECL（または AEPE，AESE）に接続したパトランプおよびメッセージ表示ボードの動作指示は，TELstaff 自身がエージェント発信を使用します。

電回線接続のエージェント発信の場合で複数の回線を利用してエージェント発信ができる環境で，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発

信が終了するまで待ち状態になります。

AECL（または AEPE，AESE）への繰り返し発信回数は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のエージェント繰り返し回数で指定します。発信間隔は，連絡網発信では，環境設定「発信方法」タブの繰り返しの間隔時間で，直接発信（c オプション指定の teldial コマンド）では，繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で指定します。繰り返し回数を指定すると発信できるまで繰り返します。

```
Subject: TELstaffからの連絡(受付番号: ~notifynumber~) [改行]
From:  TELstaff [改行]
 [改行]
システムから通報がありましたのでお知らせします。通知IDは~id2~。 [改行]
通知の受け付けは , ~date1~で, 受け付け時刻は, ~time1~です。 [改行]
受付け番号は, ~notifynumber~です。 [改行]
                                                発信者 TELstaff [改行]
```

- 送信者名について

  送信者名は，「From: 」で指定します。

- 表題（題名）について

  表題（題名）は，エージェント通知文の先頭行に記述する「Subject: 」で指定します。

- 通知文

  エージェント通知文は，「Subject:」行との間に 1 行以上の空行を挿入して記述します。

  エージェントへの通知内容は，連絡網 ID，通知 ID と発信の発生日時を通知します。エージェント通知文は，TELstaff の標準通知文を使用しますが，ユーザ固有の通知文も使用できます。標準通知文ファイルの内容は，ユーザでカスタマイズができます。カスタマイズは，環境設定ー「カスタマイズ」で行います。カスタマイズの詳細については，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。

(9) パトランプ発信

パトランプへの通知は，パトランプを接続したリレー装置のリレー番号に対して，動作指示（点灯，または消灯，ブザー鳴動）を行います。

１つの機器を複数の TELstaff から同時に使用できるかは機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

パトランプ発信の繰り返し発信回数は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のパトランプ繰り返し回数で指定します。発信間隔は，環境設定「発信方法」タブの繰り返しの間隔時間で指定します。繰り返し回数を指定すると発信できるまで繰り返します。

パトランプへの点灯通知の確実性を向上させるには，パトランプの稼動監視（パトランプの機器稼動監視機能）を行い，事前にパトランプの障害を検出する運用を推奨します。

(a) パトランプの設置場所と接続方法

パトランプの設置場所により接続方法が異なります。パトランプを設置する方法には，次の方法があります。

接続方法	設置場所
RS232C に接続	コンピュータ付近に設置
コンバータに接続 ネットワーク対応型パトランプ ネットワーク対応型リレーユニット	ネットワークを使用して離れた場所に設置
・AECL（または AEPE，AESE）がある PC の RS232C に接続 ・AEPE または AESE が稼働する PC の RS232C に接続	ネットワークを使用して離れた場所に設置 電話回線で離れた場所に設置

(b)　接点開放（オフ）方法

動作させたパトランプの消灯は，次の 3 つの方法があります。

1. パトランプに付いているスイッチ（リセットボタン）で消灯

   パトランプに付いているスイッチで消灯します。スイッチ操作では，全リレー接点がオフになります。特定のリレー接点だけをオフにはできません。まさに次の点灯動作指示がきているときスイッチで消灯操作を行うと，この点灯指示も消灯してしまう場合があります。なお，スイッチを押している間に動作指示を行うと，動作指示が不成功になります。

2. teldial コマンドで消灯

   パトランプ消灯用の連絡網 ID を作成します。パトランプ消灯用のパトランプ通知先を連絡網に定義し，この連絡網 ID で teldial コマンドを実行させます。

3. 消灯ツールで消灯

   TELstaff ウィンドウで，【ツール(T)】メニューから【リレー全接点オフ(O)】を使用して消灯できます。消灯ツールでは， RS232C に接続，コンバータに接続，または LAN に接続したパトランプを直前に点灯させたものを消灯できます。

【関連説明】

- 4.1.1(8)(a)　「コマンド一覧」リストボックス
- 5.3.1　連絡網 ID の追加

(10) コマンド発信

TELstaff では，通知先として，電話，SMS 通知，FAX，メール，PC のデスクトップ，メッセージ表示ボード，信号灯や電気機器がありますが，標準以外の通知先を使用する場合に使用します。

なお，ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

(11) デスクトップへの通知

AEPE および AESE から，AEPE，AESE または AECL（または AEPE，AESE）のデスクトップに，システムを運用しているときに発生した問題（業務運用の異常やネットワーク障害など）を通知することができます。AECL（または AEPE，AESE）では，Alarm View を使用して受信メッセージの参照や操作ができます。

デスクトップ発信の繰り返し発信回数は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のデスクトップ通知繰り返し回数で指定します。発信間隔は，環境設定「発信方法」タブの繰り返しの間隔時間で指定します。繰り返し回数を指定すると発信できるまで繰り返します。

(a) デスクトップへの通知方法

デスクトップへの通知方法には，次の 4 通りがあります。運用に合わせて通知方法を選択することができます。

- 詳細な問題内容を示すメッセージを表示する方法。メッセージは，問題内容に応じて文字色と背景色を指定できます。
- 信号灯のようにデスクトップ上に問題内容に応じて色表示（デスクトップパトランプと呼びます）する方法。
- パソコンに内蔵された警報音（ビープ音）を鳴動する方法。問題内容に応じて鳴動パターンを指定することができます。
- テキスト文字をスピーカに読み上げる方法。テキスト文字をスピーカに読み上げるには，PC にサウンドボード，スピーカと音声合成ソフトウェアが必要です。またサウンドデバイスを使用できることが必要です。

(b) デスクトップ通知の注意事項

受信側の注意事項

- Administrators グループに属するユーザでログインされている必要があります。ログオフした状態では Alarm View が起動しないため，デスクトップ通知を受信できません。
- Alarm View を開始していない場合で，ターミナルサービス接続やリモートデスクトップ接続のデスクトップから TELstaff サービスを起動すると，このリモートデスクトップで Alarm View を開始します。Alarm View を開始後にリモートデスクトップのログオフを行うと Alarm View は終了し，デスクトップ通知のメッセージ受信や操作はできなくなります。
- リモートデスクトップ接続の場合は，WAV 再生が無効になります。
- サウンドボードやスピーカーがない機種や，スピーカが装備されていても音量が小さい機種，サウンドデバイスを使用できない環境では，音声読み上げや音声再生機能は使用できません。
- ビープ音用のスピーカがない機種や，ビープ音用のスピーカが装備されていてもビープ音量が小さい機種，beep ドライバが起動されていない環境では，ビープ音を鳴らす機能は使用できません。
- 受信したメッセージは定期的に削除してください。受信メッセージの増加に伴い，ディスク容量の圧迫に繋がります。また受信メッセージの表示件数によってメモリ使用量が増加しますので，最大表示メッセージ数の指定を行ってください。最大表示メッセージ数の指定は，図 6.3-3　表示範囲設定ダイアログボックスで行います。

その他の注意事項

- Windows 7 以降の Windows での注意事項については 1.4.18 項を参照してください。

(12) デスクトップへの簡易なポップアップ通知

TELstaff はリモート PC のデスクトップ画面にメッセージボックスをポップアップ表示させることができます。通知先では即座にメッセージボックスが表示されますが，メッセージボックスはごくシンプルなものであるため詳細な情報を送ることはできません。

TELstaff は 2 種類の方式でポップアップ通知を行います。一つ目は Messenger サービスを使用する方式，二つ目は TELstaff ポップアップ通知を使用する方式です。

(a) Messengerサービスを使用する方式

Messenger サービスは Windows が標準で提供している機能（サービス）で，リモート PC にメッセージボックスを表示させることができます。Windows 標準機能であるため，通知先 PC に特別なソフトウェアをインストールせずに TELstaff からポップアップ通知を行うことができます。

しかし，同機能は Windows Vista および Windows Server 2008 で廃止されたため，通知元あるいは通知先が Vista 以降の Windows であると使用できません。また，宛先のコンピュータに複数のユーザがログオンしている場合は全員のデスクトップにメッセージボックスが表示され，特定ユーザだけに宛先を絞ることはできません。

Messenger サービスを使用した通知を受け取った際に表示されるメッセージボックスの例を図 2.3-2 に示します。

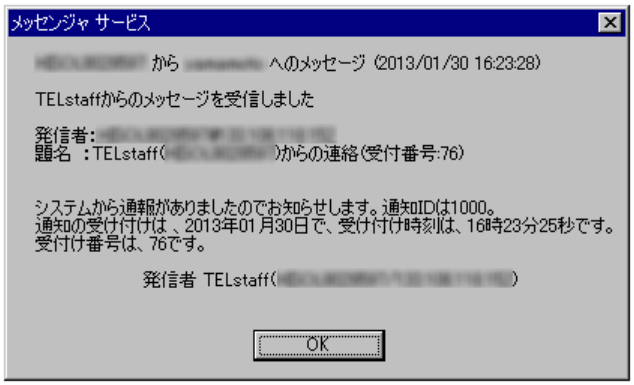


図 2.3-2 Messengerサービスによる通知で表示されるメッセージボックスの例

(b) TELstaffポップアップ通知を使用する方式

TELstaff ポップアップ通知は Messenger サービスによる通知と同様に簡単なメッセージボックスを表示させます。Messenger サービスがない環境でも，送信元，送信先ともに TELstaff がインストールされている場合，TELstaff ポップアップ通知を行うことができます。ただし，TELstaff 同士が通信する必要があるため，通知先 PC で TELstaff が稼動している場合にのみ使用できます。

TELstaff ポップアップ通知は，Messenger サービスによる通知とは異なり，宛先のコンピュータにログオンしているどのユーザのデスクトップにメッセージボックスが表示するかを指定できます。

TELstaff ポップアップ通知を受け取った際に表示されるメッセージボックスの例を図 2.3-3 に示します。

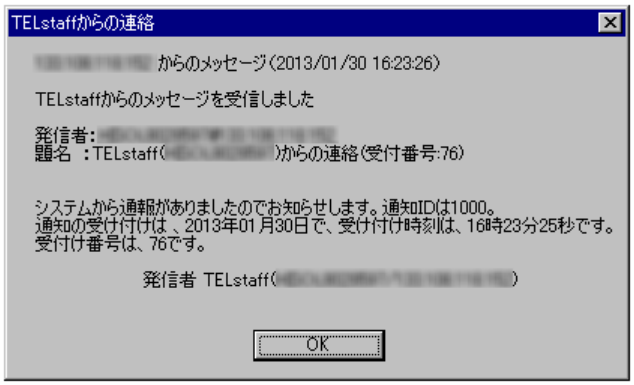


図 2.3-3　TELstaffポップアップ通知で表示されるメッセージボックスの例

(c)　方式の使い分け

TELstaff ポップアップ通知は Messenger サービスでの通知の代替品として導入されたため，設定欄は Messenger サービスでの通知と同じ欄となっています。従来の Messenger サービスでの通知と区別するため，宛先欄に **（ユーザ名）@（IP アドレス）** という形式の文字列を指定すると TELstaff ポップアップ通知と解釈し，IP アドレスだけが指定された場合は Messenger サービスでの通知と解釈します。なおユーザ名の部分に「*」（半角のアステリスク）を指定すると，送信先 PC にログオンしているすべてのユーザのデスクトップに TELstaff ポップアップ通知のメッセージボックスを表示します。

TELstaff ポップアップ通知を設定する画面例を図 2.3-4 に示します。

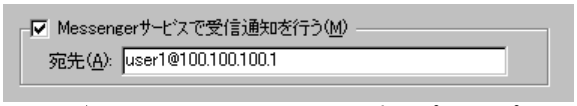


図 2.3-4　Messengerサービスの代わりにTELstaffポップアップ通知を設定する例

(d)　注意事項

- Messenger サービスで通知を行う場合は送信元・送信先ともに Windows の Messenger サービスが開始されている必要があります
- Messenger サービスでの通知を連続して行うと，Messenger サービスの受信通知が欠落する場合があります
- TELstaff ポップアップ通知は「エージェント発信」を内部的に使用して送信元 TELstaff から送信先 TELstaff にメッセージボックス表示の命令を指示します。そのためファイアウォール等が存在する場合，エージェント発信用の通信ポート番号を許可する設定が必要です。同ポート番号は 4.4.2「メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックス」で設定します。

2.3.2 パトランプと電気機器の作動

TELstaff には，パトランプの他に TELstaff がインストールされているコンピュータに接続されている電気機器（ローカル接続），回線またはネットワークでつながった他のコ

ンピュータに接続されている電気機器（リモート接続），コンバータに接続されている電気機器，およびネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニットを作動させる機能があります。

遠隔の場所に電気機器を設置する場合は，コンバータ（旧日立 IT 社製 IT-C10RE），ネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニット，または AECL（または AEPE，AESE）が必要になります。

コンバータを使用して電気機器を作動させる場合，またはネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニットを作動させる場合は，機種によりましては，複数の AEPE および AESE から作動指示をすることができません。機器の仕様をご確認ください。

(1) リレー装置について

リレー装置は，データシックス社製リレー装置とパトライト社製リレー装置の 2 種類が使用できます。

TELstaff が使用する標準のリレー装置は，次の方法で変更できます。出荷時の標準のリレー装置は，パトライト社製が設定されています。

1. インストール時のインストールウィザードで，標準で使用するリレー装置を設定する。
2. TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するリレー装置の標準設定(D)】で使用するリレー装置を設定する。AECL の場合は，スタートメニューの【TELstaff ツール】から【リレー接点テストツール】を選択して標準で使用するリレー装置を設定する。

(2) コンバータについて

コンバータは，パトライト社製（PHN-3FB/PHN-R）と旧日立 IT 社製 IT-C10RE の 2 種類が使用できます。コンバータの使用方法を表 2.3-18 に示します。

表 2.3-18　コンバータの使用方法

コンバータに接続する装置	使用するコンバータの種類
パトランプ リレー装置	TELstaff が使用する標準のコンバータ装置を使用します。

TELstaff が使用する標準のコンバータ装置は，次の方法で変更できます。出荷時の標準のコンバータ装置は，パトライト社製（PHN-3FB/PHN-R）が設定されています。

パトランプをコンバータに接続して使用する場合，同じシステム内で旧日立 IT 社製 IT-C10RE とパトライト社製（PHN-3FB/PHN-R）の 2 種類の併用はできません。どちらかのコンバータに統一する必要があります。

1. インストール時のインストールウィザードで，標準で使用するコンバータ装置を設定する。
2. TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の標準設定(H)】-【パトランプ発信の場合(L)】で使用するコンバータ装置を設定する。AECL の場合は，スタートメニューの【TELstaff ツール】から【リレー接点テストツール】を選択して標準で使用するコンバータ装置を設定する。

(3) パトランプと電気機器を動作させる場合の留意事項について

ネットワークを使用したリモート接続は，コンバータ接続に比べパトランプや電気機器の動作に時間がかかり，動作するまでの遅延が発生します。

パトランプや電気機器の使用を中止する場合は，パトランプや電気機器の電源をオフにしないでスケジュール機能を使用して中止させてください。

TELstaff は，パトランプや電気機器に発信できる時間帯であるとパトランプや電気機器に発信を行います。電源オフなどの理由で発信できない場合，数回の再発信を行うため 1 回の動作完了に時間がかかり，短時間に大量のパトランプや電気機器の動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。

リモート接続の電気機器を作動させる場合，作動させる電気機器が接続されているコンピュータに AEPE，AESE または AECL をインストールし，TELstaff サービスを起動しておく必要があります。

2.3.3 電話からの操作

(1) 応答機能と問合せ機能

(a) 応答機能

トリガフォンまたは IP 電話を使用すると，TELstaff からの通知内容を確認すると，連絡網の後続通知先への発信を中止し，発信情報削除します（内容が確認されても連絡網内のすべてのユーザに発信することもできます）。

通信モデムを使用すると，ダイヤルトーン信号音で TELstaff からの発信の有無を伝えます。

(b) 問い合わせ

電話での発信を受けるのが煩わしい，または SMS 通知，メール，および FAX で発信を受けた場合には，TELstaff に問い合わせると，システムから未確認の発信の有無，連絡網 ID（通知 ID），発信内容を応答します。対象となる発信は連絡網を使用した発信です。teldial コマンド実行時に連絡網グループ ID を指定した場合は本機能は使用できません。

トリガフォンを使用すると，TELstaff に電話をかけて発信内容を確認できます（問い合わせ確認）。

問い合わせ者が発信の内容を確認すると（問い合わせ確認），連絡網の後続ユーザへの発信を中止し，発信情報を削除します（内容が確認されても連絡網内のすべてのユーザに発信することもできます）。問い合わせをするときは，パスワードが必要です。

通信モデムを使用すると，ダイヤルトーン信号音で TELstaff からの発信の有無を伝えます。問い合わせ者が発信の内容を確認すると，連絡網の後続通知先への発信を中止し，発信情報削除します（内容が確認されても連絡網内のすべてのユーザに発信することもできます）。通信モデムでの問い合わせでは，間違い電話でも発信が中止される場合があります。また，通信モデムによっては，ダイヤルトーン信号音を出せないモデムがあります。問い合わせ操作につては，「6.2 電話の操作」を参照してください。

【関連説明】

- 5.3.11　　連絡網の設定ダイアログボックス　「問合わせ確認は行わない」
- 11.2.1　　teldial コマンド 注意事項
- 11.2.2　　teldial コマンド -k パラメタ
- 11.2.8　　teldial コマンド -k パラメタ
- 11.2.9　　teldial コマンド -k パラメタ

(2) 認証方法

トリガフォンを使用すると TELstaff に電話をかけて電話からコマンドの実行指示や情報の取り出し指示が行えます。

電話から TELstaff への接続では，接続者の認証を行います。認証は，発信者通知番号，10 桁の接続 ID とユーザパスワードを使用して確実な認証を行いますので，不正侵入できません。発信通知番号を使用するときは，NTT ナンバーディスプレイ回線契約が必要です。接続 ID は，TELstaff への不正な侵入を防ぐために，定期的に変更することを推奨します。

発信者通知番号による認証とユーザパスワードによる認証の両方を使用する場合で，通知番号登録番号ユーザとユーザパスワード登録ユーザが異なる場合は，ユーザパスワード登録ユーザで認証します。ユーザパスワード登録ユーザが TELstaff の「システム管理者」の場合，「システム管理者」で認証します。

【関連説明】

- 4.1.3　　発信と受信時の認証方法ダイアログボックス
- 6.2.2　　トリガフォンでの操作

(3) 電話から情報の取り出し操作

トリガフォンを使用すると外出先から電話で必要な情報を携帯電話（メール）や FAX で受け取ることができます。実際の情報の取り出し処理は，お客様が作成します。TELstaff は，お客様が作成した情報取り出しコマンドを呼出します。

【関連説明】

- 6.2.2　　トリガフォンでの操作

(4) 電話からのコマンド実行操作

トリガフォンを使用すると電話から必要なコマンドの実行ができます。実行させるコマンドは，運用に必要なものをあらかじめ実行コマンドの設定ダイアログボックスー「電話」タブで「コマンド番号」として登録しておきます。

電話からは，登録した「コマンド番号」をプッシュボタンで指定し実行させます。

また，電話通知の内容により別な連絡先に通知（エスカレーション）するなどのきめ細かい運用が行えます。

【関連説明】

- 4.5　　実行コマンドの設定
- 6.2.2　　トリガフォンでの操作

(5) 対応記録について

トリガフォンを使用すると TELstaff から電話通知を受けたとき，通知された内容に対して，電話受信者が対応記録を残したり，対応記録を管理者宛てにメール通知ができます。

対応記録内容は，ダイヤルボタンで入力した数字（対応記録番号）です。この記録番号の持つ意味は，あらかじめ運用で決めておきます。

例えば，「1111」は“対応者を別途アサインする必要がない”と言う意味を持たせてお

き，電話受信者が 1111 を記録して管理者にメール通知することで，管理者は対応者を別途アサインする必要がなく，的確な対応をとることができます。

【関連説明】
- 4.1.1(12)　環境設定－「統計情報」タブ
- 6.2.2　トリガフォンでの操作
- 12.1.1　変数一覧

2.3.4 ネットワーク機器の自動監視

詳細は，「7 ネットワーク監視」を参照してください。

2.3.5 接点入力監視

接点入力監視は，ネットワーク，Ethernet-RS232C コンバータ，または RS232C に接続されている接点入力ユニットを自動監視し，接点入力ユニットの接点入力を契機にコマンドを実行することができます。

接点入力監視は，AEPE，AESE，AECL で使用できます。

AECL で teldial コマンドを使用して接点入力監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておくか，または teldial コマンドの作成ダイアログボックスの「発信依頼先アドレス」テキストボックスに発信依頼ができる AEPE または AESE の IP アドレスを設定する必要があります。

コマンドの指定は接点毎に設定ができ，接点ごとに接点入力がオンの場合とオフの場合とに分けて設定することができます。

接点入力ユニット台数が多い場合，各接点入力ユニットの接点のオン（，またはオフ）状態で実行させるコマンドが多いと短時間に大量のコマンドを実行することになります。短時間に大量のコマンドを実行させた場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。

短時間に多数のコマンドが実行される可能性がある場合は，コマンドを順次実行することで，Windows のシステムリソース不足により Windows がハングアップするのを回避できる場合があります。

接点入力監視機能では，監視結果を統計情報として出力できます。統計情報に関する詳細については 2.3.22 を参照してください。

2.3.6 プロセス監視

プロセス監視は，Windows のサービスプロセスを監視します。監視方法には，「消滅」

と「生成」があります。「消滅」監視は，監視対象プロセスが消滅したときに設定された通報ルールに従って関係者に通知します。「生成」監視は，監視対象プロセスが生成されたときに設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

プロセス監視周期に到達したとき，前回の監視状態（または TELstaff を起動したときの監視状態）から変化が無い場合，通知されません。

監視対象プロセス毎に監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。また，計画監視の他に一時的に監視を抑止する運用も行えます。

プロセス監視機能を使用すると運用で重要なプロセスを TELstaff で監視できるようになります。

プロセス監視機能では，監視結果を統計情報として出力できます。統計情報に関する詳細については 2.3.22 を参照してください。

プロセス監視の設定は，プロセス監視ダイアログボックスで設定します。

プロセス監視を使用する場合は，パフォーマンスモニタ（Windows 提供）の Process カウンタが正しく使用できる状態が必要です。

プロセス監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【プロセス監視の設定】を選択して表示します。TELstaff プロセスは，プロセス監視できません。プロセス監視で使用できる変数を表 2.3-19 に示します。

プロセス監視は，AEPE，AESE，AECL で使用できます。

AECL でプロセス監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。

表 2.3-19　プロセス監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	通知の受付日（yyyy mm/dd 形式）
~date1~	通知の受付日（yyyy 年 mm 月 dd 日形式）
~date2~	通知の受付日（yyyy/mm/dd 形式）
~time~	通知の受け付け時刻（hh:mm:ss 形式）
~time1~	通知の受け付け時刻（hh 時 mm 分 ss 秒形式）
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~ProcessName~	プロセス監視結果のプロセス情報。 プロセス名（PID,xxx） PID：プロセス ID xxx：「消滅」または「出現」
~UserName~	ユーザ名（*1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（*1）
~UserInformation~	プロセス監視からの通知文では，プロセス監視結果のプロセス情報。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名（*2）
~IPaddress~	通知を実行したコンピュータの IP アドレス（*2）（*3）

注*1　~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注*2　~ComputerName~および~IPaddress~変数は，通知を行ったコンピュータの名前および IP アドレスに置換されます。AECL(または AEPE,AESE)での監視結果を，,発信依頼先の AEPE，AESE から通知する場合，これらの変数は発信依頼先の AEPE, AESE がインストールされたコンピュータの値となりますので注意してください。

注*3　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

2.3.7 ファイル監視

ファイル監視機能では任意のファイルが作成・更新・削除されていないかを定期的に確認（監視）し，作成・更新・削除等を検出すると，あらかじめ設定された通報ルールに従い通知を実行します。

監視対象ファイル毎に監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。また一時的に監視を抑止することも可能です。

ファイル監視機能を使用すると次のような運用が行えます。

- システムを運用する上で重要なファイルの更新管理の自動化運用が可能です。

  アプリケーションの設定ファイル，機器やシステムの設定ファイルや業務共通ファイルなどの更新を記録したり，更新されたファイルを運用管理者に通知と送付ができるようになります。

- システムを運用する上で重要なファイルのコピーを保管する運用が可能です。

  作成監視，または更新監視では，検出したファイルの写しを検出したコンピュータに自動的に保管することができるため，更新誤りしても更新前のファイルに戻す運用が可能です。

- 更新されたファイルをファイルサーバに自動的にバックアップしたり移動する運用が可能です。

ファイル監視の監視結果は統計情報として出力できます。統計情報に関する詳細については 2.3.22 を参照してください。

ファイル監視の設定方法については 4.8 節を参照してください。

ファイル監視は AEPE，AESE，AECL で使用できます。

AECL でファイル監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。

(a)　ファイル作成監視

ファイルの作成を監視します。作成された以降に削除された場合，再度作成監視をします。作成されたファイル拡張子が txt のファイル中に_$Command_Execution プロトコルコマンドの記述があるとプロトコルコマンドで指定したコマンドを実行します。プロトコルコマンドでのコマンド実行可否については「4.5 実行コマンドの設定」を参照してください。

(b) ファイル更新監視

ファイルが作成された以降，ファイルの更新を監視します。ファイルの最終更新日時が変化するごとに更新条件となります。更新が行われてもファイルの更新日時が変わらないファイルは，更新監視できません。また，更新せずにファイルの更新日時が変更されるファイルは，更新監視の対象になります。

更新されたファイル拡張子が txt のファイル中に_$Command_Execution プロトコルコマンドの記述があるとプロトコルコマンドで指定したコマンドを実行します。プロトコルコマンドでのコマンド実行可否については「4.5 実行コマンドの設定」を参照してください。

(c) ファイル削除監視

ファイルの削除を監視します。削除された以降に作成された場合，再度削除監視をします。ファイル削除監視では，ファイルサーバへのバックアップはできません。

(d) ファイル期限監視

指定した期限までにファイルの作成または更新が発生するかどうかを監視します。作成された以降に削除された場合，再び期限監視を行います。また，作成された以降に更新された場合も，期限監視が有効になります。

期限監視では，例えば毎朝 9 時に業務で使用するファイルが作成されていないと業務を開始することができない場合，運用管理者に連絡するような運用が実現できます。

なお，既にファイルが存在するような場合，期限監視条件の成立は次の二つです。

1. 二回目以降の監視周期までに削除されて，それ以降の監視周期までに作成されたとき
2. 二回目以降の監視周期までに更新されたとき

ファイル期限監視では，ファイルサーバへのバックアップはできません。

(e) 拡張機能

AEPE では，ファイル監視の拡張機能が使用できます。拡張機能を使用すると，監視対象ファイル中に特定の文字列を検出したときに「その文字列に後続する文字列」を変数として通知文などで使用可能になります。拡張機能の詳細については 4.8.5 項を参照してください。

(f) 使用可能な変数

ファイル監視で使用できる変数を表 2.3-20 に示します。

表 2.3-20 ファイル監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	通知の受付日（yyyy mm/dd 形式）
~date1~	通知の受付日（yyyy 年 mm 月 dd 日形式）
~date2~	通知の受付日（yyyy/mm/dd 形式）

変数名	変数の内容
~time~	通知の受け付け時刻（hh:mm:ss 形式）
~time1~	通知の受け付け時刻（hh 時 mm 分 ss 秒形式）
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~UserName~	ユーザ名（*1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（*1）
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名（*2）
~IPaddress~	通知を実行したコンピュータの IP アドレス（*2）（*3）
~FMonFile~	ファイル監視で検出したパス名を含まないファイル名
~FMonFileExt~	ファイル監視で検出したファイルの拡張子
~FMonFilePath~	ファイル監視で検出したファイル完全名
~FMonFileName~	ファイル監視で検出したファイル完全名の先頭または末尾の n 文字
~FMonFileContent~	ファイル監視で検出したファイルの内容。作成監視と更新監視で通知文に使用できます。
~FMonMethod~	ファイル監視方法

注*1　~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注*2　~ComputerName~および~IPaddress~変数は，通知を行ったコンピュータの名前および IP アドレスに置換されます。AECL(または AEPE,AESE)での監視結果を，発信依頼先の AEPE，AESE から通知する場合，これらの変数は発信依頼先の AEPE, AESE がインストールされたコンピュータの値となりますので注意してください。

注*3　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

(g)　留意事項

1. ファイルの作成監視で検出するファイルは，検出した時点の内容を使用します。ファイルサイズが大きいファイルやネットワーク接続で作成されるファイルなどは，ファイルが作成されるまでに時間がかかります。このため，ファイルの作成だけを契機に，関係者に通知する場合，必ずしも，データがすべて揃ったことにはなりません。このような理由から，ファイルの作成を契機に検出ファイルを使用する場合，それ自体のファイルが，単にファイル作成後の通知だけの役割を持つファイルにすることを推奨します。
2. ファイルの監視は，監視間隔周期で定期的に行われます。したがって，例えば，作成監視の場合，監視が終わってから，次の監視時刻に到達する前に，削除と作成が何回繰り返されても，作成を検知するのは，監視時刻に到達した時点です。なお，監視間隔を小さくすることでの回避策もありますが，常時ファイル監視で CPU を使用することになりますので，ファイルの運用方法と性能を考慮した適正値を設定してください。
3. 最初から監視条件が満たされている場合，監視条件は成立しません。監視条件の成立は二回目以降の監視周期で，監視対象になった以降，有効になります（ただし，ファイル到着監視の更新の場合を除きます）。例えば，ファイル作成監視で，既にファイルが存在するような場合，一回目の監視周期では，条件が成立しませんが，二回目以

降の監視周期までに削除されて，それ以降の監視周期までに作成された場合，条件が成立したことになります。

4. ファイルサイズが 0 の状態で作成されるファイルは，ファイルサイズが 0 以外になったときに検出されます。
5. ファイル拡張子が lnk のファイルは，ファイル監視の対象になりません。
6. ネットワークドライブにあるファイル，Windows システムフォルダにあるファイル，ファイル属性がシステムファイルと隠しファイルのファイル，データベースファイル，および TELstaff が参照できないファイルは，ファイル監視できません。
7. ファイルサーバに自動バックアップを行う場合は，ファイルサーバに AEPE，AESE，AECL が必要になります。

2.3.8 メッセージ監視

メッセージ監視は，任意のファイルに出力されるテキストメッセージ，または Windows のイベントログの監視を行い，出力内容が検索条件に合致するメッセージ，または Windows のイベントログが現れた時に，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

TELstaff の発信記録と動作記録は，メッセージ監視で監視することはできません。

監視対象のメッセージファイル毎に監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。また，計画監視の他に一時的に監視を抑止する運用も行えます。

メッセージ監視を使用すると，アプリケーションが出力する障害メッセージやイベントログに出力される Windows のエラーメッセージを監視して関係者に通知できます。

メッセージ監視機能では，監視結果を統計情報として出力できます。統計情報に関する詳細については 2.3.22 を参照してください。

メッセージ監視の設定は，メッセージ監視ダイアログボックスで設定します。

メッセージ監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【メッセージ監視の設定】を選択して表示します。

メッセージ監視は，AEPE，AESE，AECL で使用できます。

AECL でメッセージ監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。

メッセージ監視に次の留意事項があります。

1. 監視できる文字は，Shift_JIS 文字および半角英数字記号です。
2. 監視するメッセージファイルが削除してから再作成するメッセージファイルでは，ファイル終端付近のメッセージを検出できない場合があります。これは，メッセージを検知するのは，監視時刻に到達した時点のため，次の監視時刻に到達する前に，再作成されるためです。監視間隔を小さくすることで回避できますが完全に検出漏れをなくすことはできません。また，監視間隔を短くすると CPU を使用することになりますので，性能を考慮した適正値を設定してください。
3. また，監視するメッセージファイルが削除してから再作成するメッセージファイルでは，監視間隔によっては監視メッセージを検出できない場合があります。監視間隔が

長い場合，監視時刻到達するまでに，メッセージファイルが再作成されるためです。監視間隔を小さくすることで回避できますが完全に検出漏れをなくすことはできません。また，監視間隔を短くすると CPU を使用することになりますので，性能を考慮した適正値を設定してください。監視時間が短い場合，監視時間内に沢山のメッセージを出力するようなメッセージファイルの場合も同様に監視メッセージを検出できない場合があります。

4. 監視するメッセージファイルが大きい場合，小さいファイルに比べ CPU を使用します。

5. 監視するメッセージファイルは，TELstaff が参照できるファイル属性（権限）でなければなりません。また，ネットワークドライブのファイル，および Windows 外部デバイスファイルは，監視できません。

メッセージ監視で使用できる変数を表 2.3-21 に示します。

表 2.3-21　メッセージ監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	通知の受付日（yyyy mm/dd 形式）
~date1~	通知の受付日（yyyy 年 mm 月 dd 日形式）
~date2~	通知の受付日（yyyy/mm/dd 形式）
~time~	通知の受け付け時刻（hh:mm:ss 形式）
~time1~	通知の受け付け時刻（hh 時 mm 分 ss 秒形式）
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~UserName~	ユーザ名（*1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（*1）
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名（*2）
~IPaddress~	通知を実行したコンピュータの IP アドレス（*2）（*3）
~MsgMonFileName~	メッセージ監視で検出したファイル完全名
~MsgMonFindLine~	メッセージ監視で文字列が検出された行全体の内容
~MsgMonFindString~	メッセージ監視で検出された文字列（複数の場合は，カンマ区切りでそれらを並べた文字列）（*4）

注*1　~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注*2　~ComputerName~および~IPaddress~変数は，通知を行ったコンピュータの名前および IP アドレスに置換されます。AECL(または AEPE,AESE)での監視結果を，発信依頼先の AEPE，AESE から通知する場合，これらの変数は発信依頼先の AEPE, AESE がインストールされたコンピュータの値となりますので注意してください。

注*3　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

注*4　厳密にはフィルタリング条件を構成する個々の文字列のうち,条件に合致する文字列をカンマ区切りで並べた文字列に置換されます。例えば，「a を含む，かつ b を含まない，または c を含む」という条件で「apricot」という行が見つかった場合は「a,b,c」に，「apple」という行が見つかった場合は「a,b」に置換されます。

イベント監視で使用できる変数を表 2.3-22 に示します。

表 2.3-22　イベントログ監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	通知の受付日（yyyy mm/dd 形式）
~date1~	通知の受付日（yyyy 年 mm 月 dd 日形式）
~date2~	通知の受付日（yyyy/mm/dd 形式）
~time~	通知の受け付け時刻（hh:mm:ss 形式）
~time1~	通知の受け付け時刻（hh 時 mm 分 ss 秒形式）
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~UserName~	ユーザ名（*1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（*1）
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名（*2）
~IPaddress~	通知を実行したコンピュータの IP アドレス（*2）（*3）
~EventLogKind~	イベントログの種別
~EventLogSource~	イベントの発生元
~EventLogType~	イベントの種類
~EventLogMessage~	イベントの説明
~EventLogMessageStr~	改行を除くイベントの説明
~EventLogFindString~	イベントログ監視で検出された文字列（複数の場合は，カンマ区切りでそれらを並べた文字列）（*4）
~EventLogID~	イベントログの ID
~EventLogDate~	イベントの日付
~EventLogTime~	イベントの時刻
~EventLogComputer~	イベントのコンピュータ名
~EventLogUser~	イベントのユーザ名
~EventLogCategory~	イベントの分類

注*1　~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注*2　~ComputerName~および~IPaddress~変数は，通知を行ったコンピュータの名前および IP アドレスに置換されます。AECL(または AEPE,AESE)での監視結果を，発信依頼先の AEPE，AESE から通知する場合，これらの変数は発信依頼先の AEPE, AESE がインストールされたコンピュータの値となりますので注意してください。

注*3　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

注*4　厳密にはフィルタリング条件を構成する個々の文字列のうち,条件に合致する文字列をカンマ区切りで並べた文字列に置換されます。例えば，「a を含む，かつ b を含まない，または c を含む」という条件で「apricot」という行が見つかった場合は「a,b,c」に，「apple」という行が見つかった場合は「a,b」に置換されます。

2.3.9 ドライバ監視

(1) 概要

ドライバ監視は，Windows のドライバに対する開始，停止，追加，または削除の監視やドライバアプリケーションの停止と開始の監視を行い，その契機で，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

ドライバ監視機能を使用すると USB デバイスの接続監視を行うこともでき，USB 媒体を利用した機密情報の持ち出し監視ができるようになります。

監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。また，計画監視の他に一時的に監視を抑止する運用も行えます。

ドライバ監視機能では，監視結果を統計情報として出力できます。統計情報に関する詳細については 2.3.22 を参照してください。

ドライバ監視の設定は，ドライバ監視ダイアログボックスで設定します。

ドライバ監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【ドライバ監視の設定】を選択して表示します。

ドライバ監視は，AEPE，AESE，AECL で使用できます。

AECL でドライバ監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。

(2) 使用可能な変数

ドライバ監視で使用できる変数を表 2.3-23 に示します。

表 2.3-23 ドライバ監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	通知の受付日（yyyy mm/dd 形式）
~date1~	通知の受付日（yyyy 年 mm 月 dd 日形式）
~date2~	通知の受付日（yyyy/mm/dd 形式）
~time~	通知の受け付け時刻（hh:mm:ss 形式）
~time1~	通知の受け付け時刻（hh 時 mm 分 ss 秒形式）
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~UserName~	ユーザ名（*1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（*1）
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名（*2）
~IPaddress~	通知を実行したコンピュータの IP アドレス（*2）（*3）
~DrvMethod~	ドライバ監視の監視方法
~DriverID~	ドライバ監視で検出したドライバ ID
~DriverName~	ドライバ監視で検出したドライバ名称

注*1 ~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注*2 ~ComputerName~および~IPaddress~変数は，通知を行ったコンピュータの名前および IP アドレスに置換されます。 AECL(または AEPE,AESE)での監視結果を，

発信依頼先の AEPE，AESE から通知する場合，これらの変数は発信依頼先の AEPE, AESE がインストールされたコンピュータの値となりますので注意してください。

注*3　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

2.3.10サービス監視

(1) 概要

サービス監視は，Windows の Windows サービス（以下サービスと呼びます）に対する開始，停止，追加，削除，または無効の監視を行い，その契機で，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

AECL でサービス監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。

サービス監視機能を使用すると運用で必要な重要なサービスの監視を行うことができるようになります。

監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。また，計画監視の他に一時的に監視を抑止する運用も行えます。

サービス監視の設定は，Administrators 権限ユーザでサービスの監視ダイアログボックス（図 4.11-1）で設定します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。

サービス監視周期に到達したとき，前回の監視状態（または TELstaff を起動したときの監視状態）から変化が無い場合，通知されません。

サービスの監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【サービス監視の設定】を選択して表示します。

サービス監視は，AEPE，AESE，AECL で使用できます。

(2) 使用可能な変数

サービス監視で使用できる変数を表 2.3-24 に示します。

表 2.3-24　サービス監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	yyyy mm/dd 形式の日付
~date1~	yyyy 年 mm 月 dd 日形式の日付
~date2~	yyyy/mm/dd 形式の日付
~time~	hh:mm:ss 形式の時刻
~time1~	hh 時 mm 分 ss 秒形式の時刻
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~UserName~	ユーザ名（※1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（※1）
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名（※4）

変数名	変数の内容
~IPaddress~	通知を実行したコンピュータの IP アドレス（※3）（※4）
~ServiceMethod~	サービス監視の監視方法
~ServiceName~	サービス監視で検出したサービス名
~ServiceName1~	サービス監視でダブルコーテーションにて囲んだサービス名（※2）
~ServiceDisplayName~	サービス監視でサービス表示名
~ServiceDisplayName1~	サービス監視でダブルコーテーションにて囲んだサービス表示名（※2）
~ServiceStatus~	サービス監視で検出したサービスの状態
~ServiceStartUp~	サービス監視で検出したサービスのスタートアップ種別
~ServiceAccountName~	このサービスに使用されているアカウント名
~ServiceAccountName1~	ダブルコーテーションで囲んだアカウント名（※2）
~ServiceMonGroupName~	サービス監視の監視グループ名
~ServiceDisplayDescription~	サービス監視の監視グループの説明
~ServiceDisplayDescription1~	ダブルコーテーションで囲んだサービス監視の監視グループの説明（※2）

注※1　~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注※2　文字指定のユーザ付加情報，SMS 通知メッセージ，表示ボードメッセージおよびコマンドパラメタには使用できません。

注※3　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

注※4　~ComputerName~および~IPaddress~変数は，通知を行ったコンピュータの名前および IP アドレスに置換されます。 AECL(または AEPE,AESE)での監視結果を，発信依頼先の AEPE，AESE から通知する場合，これらの変数は発信依頼先の AEPE, AESE がインストールされたコンピュータの値となりますので注意してください。

2.3.11SNMPトラップ監視

(1) 概要

SNMP トラップ監視は，SNMP トラップを受信し，その契機で，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

SNMP トラップ監視を使用すると SNMP 対応のルータやスイッチ，ネットワーク機器の監視を行えるようになります。例えば，coldStart トラップ（トラップ番号 0）を監視すると，新たなネットワーク機器が追加されたことや，予定していない再起動を知ることができ，linkDown トラップ（トラップ番号 2）や linkUp トラップ（トラップ番号 3）を監視すると，インターフェースダウンや回復を知ることができます。

SNMP トラップ監視では，Windows SNMP Trap Service（Windows SNMP Trap サービスと呼びます）を使用します。このため SNMP トラップ監視を行う場合は，あらかじめ Windows の SNMP Trap サービスのスタートアップの種類を「自動」に設定しておき，TELstaff サービスを開始する前に Windows SNMP Trap サービスを開始しておかなければなりません。また，Windows ファイアウォールを使用する場合は，162 ポート番号

(UDP)を Windows ファイアウォールの適用外にしてください。

SNMP トラップ監視と HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 とを併用使用する場合で，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 をアンインストールする場合は，TELstaff サービスを停止させてからアンインストールしてください。

また，SNMP トラップを，通信ポート 162（UDP ポート）を使用して直接受信する監視ツールとの併用使用はできません。

SNMP トラップ監視は，AEPE および AESE で使用できます。SNMP トラップ監視で対応する SNMP バージョンは SNMPv1 および SNMPv2c となります。SNMPv3 には対応していません。

SNMP トラップ監視では，監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。

SNMP トラップ監視の設定は，Administrators 権限ユーザで SNMP トラップの監視ダイアログボックス（図 4.12-1）で設定します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。

SNMP トラップの監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【SNMP トラップ監視の設定】を選択して表示します。

SNMP トラップ監視は，AEPE および AESE で使用できます。

(2) 使用可能な変数

SNMP トラップ監視で使用できる変数を表 2.3-25 に示します。

表 2.3-25　SNMPトラップ監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	yyyy mm/dd 形式の日付
~date1~	yyyy 年 mm 月 dd 日形式の日付
~date2~	yyyy/mm/dd 形式の日付
~time~	hh:mm:ss 形式の時刻
~time1~	hh 時 mm 分 ss 秒形式の時刻
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~UserName~	ユーザ名（※1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（※1）
~ComputerName~	コンピュータ名
~IPaddress~	IP アドレス（※3）
~snmptrap_GroupName~	監視グループ
~snmptrap_agentAddress~	検出した TRAP の送出元 IP アドレス
~snmptrap_sourceAddress~	検出した TRAP の送出元 IP アドレス
~snmptrap_enterprise~	検出した TRAP の enterpriseID
~snmptrap_genericTrap~	検出した TRAP の genericTrap 値

変数名	変数の内容
~snmptrap_specificTrap~	検出した TRAP の specificTrap 値
~variableBindings~ [ii]	検出した TRAP の variableBindings 情報（※2）
~snmptrap_community~	検出した TRAP のコミュニティ名

注※1　~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注※2　文字指定のユーザ付加情報，SMS 通知メッセージ，表示ボードメッセージおよびコマンドパラメタには使用できません。

注※3　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

2.3.12 メール監視

詳細は，「8 メール監視」を参照してください。

2.3.13 ディスク容量監視

(1) 概要

ディスク容量監視は，ネットワークドライブおよび外部デバイス以外のディスクで，かつ FAT16，FAT32 および NTFS ファイルシステムのローカルディスクについて，設定した監視「しきい値」でディスクの使用状況の監視，または未使用状況の監視を行い，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

また，ディスクの使用状況を定期的に統計情報として出力することができます。

関係者への通知は，監視「しきい値」に到達したとき，または監視「しきい値」以前に戻った時に通知する 2 通りの方法があり，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」の 4 つの監視レベル毎に監視ができます。

ディスク容量監視では，監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。

ディスク容量監視の設定は，Administrators 権限ユーザで，ディスク容量監視ダイアログボックス（図 4.13-1）で設定します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。

ディスク容量監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【ディスク容量監視の設定】を選択して表示します。

ディスク容量監視は，AEPE，AESE，AECL で使用できます。

AECL でディスク容量監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。

[ii] 過去バージョンにおいてスペルの誤った変数名「~valiableBindings~」を使用していました。現在でも互換性のためこの変数名も使用可能です。

(2) 使用可能な変数

ディスク容量監視で使用できる変数を表 2.3-26 に示します。

表 2.3-26　ディスク容量監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	yyyy mm/dd 形式の日付
~date1~	yyyy 年 mm 月 dd 日形式の日付
~date2~	yyyy/mm/dd 形式の日付
~time~	hh:mm:ss 形式の時刻
~time1~	hh 時 mm 分 ss 秒形式の時刻
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~UserName~	ユーザ名（※1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（※1）
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名（※4）
~IPaddress~	通知を実行したコンピュータの IP アドレス（※3）（※4）
~DiskcapDetectReason~	検出内容 監視値に到達しました／監視値以前に戻りました
~DiskcapDetectValue~	検出値
~DiskcapDiskDriveFsys~	ファイルシステム名
~DiskcapDiskDriveLabel~	ディスクのラベル名
~DiskcapDiskDriveName~	ドライブ名
~DiskcapExplanation~	ディスク容量監視の監視グループの説明
~DiskcapExplanation1~	ダブルコーテーションで囲んだディスク容量監視の監視グループの説明（※2）
~DiskcapLevel~	レベル値 レベル 1／レベル 2／レベル 3／しきい値
~DiskcapLevelValue~	レベルごとに設定した監視値
~DiskcapMethod~	監視種別（未使用監視，または使用監視）
~DiskcapMonBy~	監視条件 （率(%)監視，容量値(MB)監視，容量値(KB)監視）
~DiskcapMonGroupName~	ディスク容量監視の監視グループ名
~DiskcapPreComparity~	前回との増減
~DiskcapRateCrtFree~	現在の未使用率
~DiskcapRateCrtUsed~	現在の使用率
~DiskcapReachCount~	到達回数
~DiskcapValueUnit~	レベルしきい値の単位（%，MB，KB）
~DiskcapVolCrtFreeMB~	現在の空き容量(MB)
~DiskcapVolCrtUsedMB~	現在の使用量(MB)
~DiskcapVolMaxUsedMB~	最大使用量(MB)
~DiskcapVolTotal~	全ディスク容量

注※1　~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注※2　文字指定のユーザ付加情報，SMS 通知メッセージ，表示ボードメッセージおよび

コマンドパラメタには使用できません。

注※3　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

注※4　~ComputerName~および~IPaddress~変数は，通知を行ったコンピュータの名前および IP アドレスに置換されます。AECL(または AEPE,AESE)での監視結果を，発信依頼先の AEPE，AESE から通知する場合，これらの変数は発信依頼先の AEPE, AESE がインストールされたコンピュータの値となりますので注意してください。

2.3.14電源オン・オフ監視

ネットワーク機器の電源オン・オフ監視をおこなえます。例えば，営業日の毎日午前０時にサーバの電源がオフでなければ関係者に通知したり，営業日の毎日午前８時にサーバの電源がオンでなければ関係者に通知します。ネットワーク機器の電源入れ忘れ，切り忘れを警告することができます。

電源オン・オフ監視は，Ping 機能を利用し，Ping 応答メッセージの有無で接続中および未接続（電源オン・オフ）状態を監視します。このため未接続にもかかわらず Ping 応答メッセージを返すようなネットワーク機器や Ping 機能に対応していないネットワーク機器に対しては使用できません。

定期的に監視するには，Windows のタスクスケジューラを利用するか，またはスケジューリング運用ツールを利用します。休業日は，監視しないで，営業日だけを監視するには，TELstaff のカレンダー・スケジュール機能を利用します。

電源オン・オフ監視は，AEPE，AESE または AECL で使用できます。

AECL で電源オン・オフ監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定ー「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。

2.3.15機器稼動監視

(1) 概要

機器稼動監視の機能では，パトランプの稼動状態，メールサーバ（SMTP サーバと POP3 サーバ），トリガフォンおよびモデムの稼動状態，そして他の TELstaff サービスの稼動状態を監視できます。

AECL で稼動監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定ー「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておくか，または機器稼動監視設定ダイアログボックスの「発信依頼先」テキストボックスに発信依頼ができる AEPE または AESE の IP アドレスを設定する必要があります。

AECL だけで通知を行う場合は，機器稼動監視が出力するメッセージ（1100-I，1101-I，1110-I，1111-I，1120-I，1121-I，1130-I，1131-I）を，TELstaff の「システム管理者」に通知する方法で行います。「システム管理者」への通知は，メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスで設定します。

機器稼動監視の設定は，Administrators 権限ユーザで，機器稼動監視設定ダイアログボ

ックスで設定します。

機器稼動監視設定ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【機器稼動監視の設定】を選択して表示します。

機器稼動監視の設定を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

機器稼動監視周期に到達したとき，前回の監視状態（または TELstaff を起動したときの監視状態）から変化が無い場合，通知されません。

監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。

なお AECL ではトリガフォンの監視はできません。

(2) 使用可能な変数

機器稼動監視で使用できる変数を表 2.3-27 に示します。

表 2.3-27 機器稼動監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	通知の受付日（yyyy mm/dd 形式）
~date1~	通知の受付日（yyyy 年 mm 月 dd 日形式）
~date2~	通知の受付日（yyyy/mm/dd 形式）
~time~	通知の受け付け時刻（hh:mm:ss 形式）
~time1~	通知の受け付け時刻（hh 時 mm 分 ss 秒形式）
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~UserName~	ユーザ名（*1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（*1）
~UserInformation~	機器稼動監視からの通知文では，機器稼動監視で検出した機器情報。機器稼動監視で検出した機器情報については，~Observation~変数を参照してください。
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名（*2）
~IPaddress~	通知を実行したコンピュータの IP アドレス（*2）（*3）
~Observation~	機器稼動監視で検出した機器情報 挿入内容は，メッセージ（1100-I，1101-I，1110-I，1111-I，1120-I，1121-I，1130-I，1131-I）の内容になります。

注*1 ~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注*2 ~ComputerName~および~IPaddress~変数は，通知を行ったコンピュータの名前および IP アドレスに置換されます。AECL(または AEPE,AESE)での監視結果を，発信依頼先の AEPE，AESE から通知する場合，これらの変数は発信依頼先の AEPE, AESE がインストールされたコンピュータの値となりますので注意してください。

注*3 複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

(3) TELstaffサービスの稼動監視

TELstaff サービスの稼動監視は，次の製品が稼動しているかどうかを監視できます。

- JP1/TELstaff AE Professional Edition
- TELstaff AE Professional Edition
- TELstaff AE Standard Edition
- TELstaff AE Client
- TELstaff Professional for RHEL
- TELstaff Enterprise for RHEL

TELstaff サービスの稼動監視は，PING による監視でなく，TELstaff 同士の専用の通信を行い，状態を確認します。

ネットワーク障害などでネットワーク通信できない場合は，非稼動として検出します。JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff とでは，お互いのサービスは監視できません。

(4) パトランプの稼動監視

ローカル接続，コンバータ接続のパトランプ，ネットワーク対応型パトランプ，およびネットワーク対応型リレーユニットの稼動監視ができます。この機能では定期的にパトランプと通信して動作状態（各色のランプの点灯状態など）を取得し，正常な応答が得られるかどうかを確認します。

ブザー故障，電球切れなどの物理的な故障については稼動監視できません。またネットワーク障害などでネットワーク通信できない場合は，非稼動として検出します。

(5) メールサーバの稼動監視

SMTP サーバと POP3 サーバの稼動監視ができます。ネットワーク障害などでネットワーク通信できない場合は，非稼動として検出します。

SMTP サーバの稼働監視では，SMTP プロトコルで通信できるかどうかを確認し，稼働状態を判定します。その際，メールを送信することはありません。POP3 サーバの稼働監視でも同様に，POP3 プロトコルで通信できるかどうかを確認して稼働状態を判定します。その際，メールを受信することはありません。いずれの場合でも，PING など他の手段での稼働状態判定は行いません。

メールサーバの稼動監視では，次の注意事項があります。

- 複数の TELstaff から同じメールアカウントで POP3 サーバの監視はできません。POP3 サーバの稼動監視を複数の TELstaff から行う場合は，TELstaff 毎にメールアカウントが必要になります。
- ダイヤルアップネットワーク接続でインターネット接続事業者（プロバイダ）が提供する SMTP メールサーバ，および POP3 サーバは監視できません。
- ネットワーク接続のメールサーバとダイヤルアップネットワーク接続のメールサーバの両方を使用する場合，ダイヤルアップネットワーク接続中は，メールサーバの稼動監視を抑止します。

(6) モデムの稼動監視

トリガフォン，またはモデムの稼動監視ができます。トリガフォン，またはモデムの稼動監視では，定期的にトリガフォン接続コマンド，モデムの AT コマンドを送信し正しい応答を得られるかどうかで稼動状態を確認します。電話回線未接続については稼動監視できません。

2.3.16稼動状況監視

(1) 概要

稼動状況監視は，クライアント PC などのネットワーク機器の Ping 応答や，CPU 使用率，メモリ使用率，ディスク使用率の情報から，対象機器の稼動状況の監視を行い，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。また通知の他，リモートで対象機器の電源操作を行います。

稼動状況監視における稼動状態の定義は，以下のとおりです。

- コンピュータの場合，PING 応答の有無が稼動状態となります。
- 機器の場合，監視対象としている電源ユニットの該当するコンセントが通電状態になっているかどうかが稼動状態となります。

稼動状況監視の設定は，Administrators 権限ユーザで，稼動状況監視ダイアログボックスを（図 4.15-1）で設定します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。

稼動状況監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【稼動状況監視の設定】を選択して表示します。

稼動状況監視は，AEPE および AECL で使用できます。AECL では自コンピュータの CPU 使用率およびメモリ使用率のみを監視可能です。AECL で稼動状況監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。

(2) 使用可能な変数

稼動状況監視で使用できる変数を表 2.3-28 に示します。

表 2.3-28　稼動状況監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	yyyy mm/dd 形式の日付
~date1~	yyyy 年 mm 月 dd 日形式の日付
~date2~	yyyy/mm/dd 形式の日付
~time~	hh:mm:ss 形式の時刻
~time1~	hh 時 mm 分 ss 秒形式の時刻
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~UserName~	ユーザ名（※1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（※1）
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名（※2）
~IPaddress~	通知を実行したコンピュータの IP アドレス（※2）（※3）
~PowerMonName~	監視対象の名称
~PowerMonName1~	ダブルコーテーションで囲んだ監視対象の名称
~PowerMonType~	監視対象の種別 監視対象の種別がコンピュータの場合は「コンピュータ」，監視対象の種別が機器の場合は「機器」

変数名	変数の内容
~PowerMonIPAddress~	監視対象の IP アドレス情報
~PowerMonComNo~	監視対象の種別が機器，かつ，接続方法がシリアル接続の場合の COM ポート番号
~PowerMonConsentNo~	監視対象の種別が機器の場合の電源ユニットのコンセント番号
~PowerMonDetectCondition~	監視対象の監視条件 「稼動状態検出時」「非稼動状態検出時」「CPU 使用率が n%以下」「他の監視対象が非稼動」のいずれか。n は監視条件として指定された CPU 使用率の値を示す。
~PowerMonDetectCPU~	監視対象の監視条件が「CPU 使用率が n%以下」のとき，検出した CPU 使用率
~PowerMonDetectReason~	監視対象が監視条件に一致した場合の監視結果 「稼動状態を検出しました」 「非稼動状態を検出しました」 「CPU 使用率 n%以下を検出しました」 「同一グループの他の監視対象の非稼動状態を検出しました」 「CPU 使用率を取得できませんでした」のいずれか。
~PowerMonStatus~	監視対象が監視条件に一致した場合の監視対象の状態 「稼動」「非稼動」のいずれか。
~PowerMonConnectType~	監視対象の接続方法 「ネットワーク」「シリアル」のいずれか。
~PowerMonAction~	監視対象が監視条件に一致した場合の電源制御 「シャットダウン」「再起動」「起動」「電源制御なし」のいずれか。
~PowerMonGroupName~	監視グループ名
~PowerMonDescription~	監視グループの説明
~PowerMonDescription1~	ダブルコーテーションで囲んだ監視グループの説明

注※1　~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注※2　~ComputerName~および~IPaddress~変数は，通知を行ったコンピュータの名前および IP アドレスに置換されます。AECL(または AEPE)での監視結果を，発信依頼先の AEPE，AESE から通知する場合，これらの変数は発信依頼先の AEPE，AESE がインストールされたコンピュータの値となりますので注意してください。

注※3　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

2.3.17メッセージエージェント機能

AEPE，AESE のメッセージエージェント機能は，TELstaff Enterprise (RHEL 版)，AEPE，AESE，AECL からのメッセージサービスをします。エージェントメッセージの一覧を表 2.3-29 に記します。

表 2.3-29　エージェントメッセージ一覧

メッセージの種類	説明
通知メッセージ	AEPE，AESE，AECL に対するメッセージ通知
発信依頼メッセージ	teldial コマンド実行による，AEPE または AESE に対する通報依頼メッセージ
TELstaff プロトコルコマンドメッセージ	発信のキャンセル（telcan），ネットワーク監視の一時抑止（telnethd），パトランプ点灯制御コマンドなどや，一般 Windows コマンドメッセージ

TELstaff Enterprise（RHEL 版），AEPE，AESE，AECL からのメッセージを中継し，目的の AEPE，AESE，AECL にメッセージを転送します。

例えば，公衆回線に接続されている AECL からネットワークに接続された AECL へのメッセージ送信要求は，AEPE，AESE が中継し，ネットワークに接続された AECL にメッセージを転送します。

JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff とでは，メッセージの送受信はできません。

2.3.18 TELstaffの2台並列稼動機能

TELstaff を 2 台（本番機と予備機）のコンピュータで実行させることで，信頼性の高い通報システムが構築できます。また，TELstaff サービスの稼動監視（機器稼動監視機能）を併用することで本番機，または予備機の TELstaff サービスの停止を管理者に通知することができ，より確実な通報システムが構築できます。

2 台並列稼動機能では，通常は，本番機の TELstaff が発信を行います。本番機の TELstaff が動作しなくなると，予備機（待機モード TELstaff と呼びます）の TELstaff が発信を行います。2 台並列稼動機能では，本番機と予備機の TELstaff に対して常に同じ teldial コマンドで発信要求しなければなりません。また，通報ルールなどの定義は，本番機と予備機に同じ定義を行います。

待機モードの TELstaff に対して teldial コマンドを実行すると，本番機の TELstaff が動作中であれば，teldial コマンドは，TELstaff サービスが受け付けるとすぐに終了します。待機モードの TELstaff が本番機の TELstaff の動作中を認識した直後に本番機の TELstaff に障害が発生して発信を実行できない状態に陥ると，どこにも発信されません。

本番機の TELstaff が動作していないと待機実行モードの TELstaff が teldial コマンドを実行します。このとき本番機が復旧すると本番機の teldial コマンドが実行され一時的に 2 重発信となります。

待機モードの TELstaff は，本番機の TELstaff に対する TCP/IP 接続が成功するかどうかで本番機の動作状態を確認します。このため，本番機の電源が切れていたり，ネットワーク障害などが発生していると，本番機の状態確認に時間がかかる場合があります。本番機の状態確認における接続タイムアウト時間は，メッセージエージェント構成の設定画面[4.4.2(1)(e)]で設定できます。本番機の状態確認時間が長すぎる，または短すぎる場合は，運用に合わせて適切な値に調整してください。

ネットワーク監視の teldial コマンドでは，ネットワーク監視で発信条件を満たしたときにネットワーク監視ダイアログボックスで設定した発信について並列稼動構成機能が適用

されます。

本番機と予備機を常時稼動させておく 2 台並列構成でコンバータに接続した電気機器，またはネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニットを作動させる場合は，機種によりましては，本番機と予備機から作動指示はできません。機器の仕様をご確認ください。

2.3.19電話回線の閉塞

トリガフォンを使用した電話通知，および SMS 通知，FAX 通知，電話回線を使用したエージェント通知で電話回線が不通（発信音が検出されない）のとき，次の発信からこの不通回線を使用しないようにできます（回線の閉塞機能）。一度，閉塞されると TELstaff サービスを再起動するまで閉塞されたままになります。復旧した回線を使用する場合は，TELstaff サービスの再起動が必要です。

回線の閉塞機能は，発信できる 2 回線以上の回線を使用するとき，環境設定－「電話・回線」タブの「回線不通時は使用しない」チェックボックスで設定します。回線の閉塞が行われ，発信できる回線が残り 1 回線になった場合は，この回線が不通回線になっても閉塞されません。

発信時に回線不通を検出したとき，他の回線（他のトリガフォン，またはモデム）を使用して発信します。不通回線を使用した電話，SMS 通知，FAX，電話回線を使用したエージェントへの発信は行われません。

回線の閉塞機能を使用する場合，発信を確実にするために，SMS 通知以外は，発信の繰り返しや連絡網発信の繰り返し機能を併用してください。SMS 通知では，発信の繰り返しや連絡網発信の繰り返しを使用すると常に繰り返し発信が行われます。直接発信の繰返しは，繰り返し回数の設定ダイアログボックスの「電話の繰り返し回数」で，連絡網発信の繰り返しは，連絡網プロパティー「基本設定」タブの「繰り返し回数」で設定します。

また，環境設定－「コマンド」タブの「モデム障害のとき」に実行するコマンドを使用して管理者に通知する運用を推奨します。

発信できる回線が 1 回線の場合，回線の閉塞機能は使用できません。

発信できる電話回線が 1 回線で，回線の閉塞機能が使用できない場合，次のトリガフォンの障害に関するメッセージはログファイルに出力されません。メッセージについての詳細は，「13.2 メッセージ一覧」を参照してください。

メッセージ ID	日本語メッセージテキスト
209-E	ポート名 のモデムからの応答がないためポートを閉塞します
214-E	回線不通のため ポート名のポートを閉塞します
215-E	ポート名 のモデム/トリガフォンでアクセスエラーが発生したためポートを閉塞します
216-E	ポート名 のモデム/トリガフォンの電源断を検出したためポートを閉塞します

2.3.20運用管理者への通知機能

(1) TELstaffの稼動通知

TELstaff の現在の稼動状況を，TELstaff の「システム管理者」にメールなどの手段で通知します。稼動状況の通知周期は環境設定ダイアログボックスで設定できます。

「システム管理者」は，この通知を受けることで，TELstaff が正常に動作していることが分かります。

「システム管理者」はユーザ管理ウィンドウで TELstaff 管理者として登録されているユーザです。ユーザ管理ではメールアドレスを 3 つまで指定できますが，稼動通知ではすべてのメールアドレスに対して通知します。

(2) TELstaffメッセージの通知

TELstaff が出力するログメッセージを TELstaff の「システム管理者」にメールで通知したり，音声ファイルを再生したり，syslog メッセージを別サーバに送信することなどが可能です。また，どのログメッセージを送信すべきかも設定可能です。「システム管理者」は，この通知を受けることで，TELstaff に何らかの障害が発生したことをいち早く知ることができます。

「システム管理者」は，ユーザ管理ウィンドウで TELstaff 管理者として登録されているユーザです。ユーザ管理ではメールアドレスを 3 つまで指定できますが，稼動通知は 1 番目のメールアドレスに対して行います。TELstaff コマンドを Administrators 権限のないユーザで実行させたとき，TELstaff コマンドが出力するメッセージは，通知できません。

また，Syslog サーバ送信を利用すると，「システム管理者」は，複数の TELstaff が出力するログメッセージを 1 つの管理 PC で閲覧ができるようになります。

(3) コマンドによる通知

TELstaff では，標準の通知先として，電話，SMS 通知，FAX，メール，PC のデスクトップ，メッセージ表示ボード，信号灯や電気機器を用意していますが，標準以外の通知先を使用する場合は，コマンドを利用できます。

ネットワークドライブを使用するコマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

2.3.21発信記録とTELstaffの動作記録

AEPE および AESE では，通知メディアへの発信記録と TELstaff の動作記録としてログ情報を記録します。

ログ情報は，ログビューアウインドウから閲覧できます。また，メッセージ通知機能を使用することでログ情報（メッセージ）を TELstaff の「システム管理者」に通知したり，Syslog サーバに送信することができます。

ログ情報ファイルの場所とファイル名は，ログビューアウインドウのステータスバーに表示されます。

ログメッセージは，最大 1024 桁までとなり，超える場合は，1024 桁で切り捨てられます。この場合，全角文字部で切り捨てがおこなわれると最終文字が不正文字になる場合があります。

ログ情報の作成周期は，「図 4.1-10　環境設定ー「ログ」タブ」で設定します。ログファイルの自動削除では，ファイル拡張子 old のファイルで 1 世代まで保存します。

ログ情報は，メッセージ監視で監視することはできません。

Slack への発信（tlsslack コマンド）で出力されるログ，LINE WORKS への発信（tlsline コマンド）で出力されるログは，ログビューアウインドウには表示されません。tlsslack コマンドのログファイルに関しては「11.22(1)(c)」を，tlsline コマンドのログファイルに関しては「11.23(1)(c)」を参照してください。

ログ情報の一覧を，表 2.3-30 に示します。

表 2.3-30　ログ情報一覧

ログの種類		記録内容	
TELstaff 動作記録の集約	※1	すべての TELstaff の動作記録	
TELstaff メッセージ記録		発信と TELstaff の動作記録	
TELstaff コマンド受付け記録		TELstaff の提供するコマンドの受付け記録	
コマンドの実行記録		TELstaff 内で実行したコマンドの記録	
リレー装置動作記録		パトランプ，リレー装置の動作記録	
メッセージ表示ボード動作記録		メッセージ表示ボードの動作記録	
メール開封確認記録		メール開封確認の記録	
定義情報操作コマンド実行記録		定義情報を操作する各種コマンドの動作記録	
電源制御コマンド実行記録	※3	電源制御コマンドの実行記録	※3
ネットワーク監視記録		ﾈｯﾄﾜｰｸ監視状況記録と，障害通知の記録	
プロセス監視記録		プロセス監視の動作記録	
ファイル監視記録		ファイル監視の動作記録	
バックアップ記録		バックアップの記録	
メッセージ／イベントログ監視記録		メッセージ監視の動作記録	
接点入力ユニット監視記録		接点入力ユニットの動作監視の記録	
ドライバ監視記録		ドライバ監視の動作記録	
ファイル削除記録		バックアップ後のファイル削除記録	
メール監視記録		メール監視の動作記録	
サービス監視記録		サービス監視の動作記録	
SNMP トラップ監視記録		SNMP トラップ監視の動作記録	
ディスク容量監視記録		ディスク容量監視の動作記録	
稼動状況監視記録	※4	稼動状況監視の動作記録	※4
機器稼動監視記録		機器の稼動状況の記録	
受信ファイル保存記録		バックアップファイルの保存記録	※2
ネットワーク通信の記録		他 TELstaff とのネットワーク通信記録	
メッセージエージェント記録		メッセージエージェント機能の動作記録	
プロトコルコマンド実行記録		プロトコルコマンドの実行記録 ※2	
メールサーバとの通信記録		メール送信時の，メールサーバとの通信結果の記録	

注※1　メッセージ通知方法の設定ー「ファイル出力」タブ（図 4.2-13）の「ファイルに出力する」チェックボックスにチェックしたとき記録されます。

注※2　このメッセージは，システム管理者に通知（メッセージ通知機能）できません。
注※3　電源制御コマンドが使用できる製品でのみ記録されます。
注※4　稼動状況監視記録が使用できる製品でのみ記録されます。

2.3.22 統計情報の記録

発信結果やネットワーク監視結果などについて，表 12.2-1 に示す統計情報を記録します。統計情報は，表計算ソフトなどでデータ加工して管理帳票の作成が容易にできます。例えば，発信の実績管理やネットワーク監視結果の統計情報を利用して障害機器の統計や発生頻度の把握，分析などがおこなえます。

統計情報記録ファイルは，環境設定ー「統計情報」タブで年，月，日毎に出力の選択ができ削除されるまで保存されます。

また，統計情報を出力する場合は，運用で定期的に統計情報を削除する必要があります。

統計情報の出力内容は，統計情報の種類によって異なります。なお，出力内容は，バージョンによって異なりますのでご注意ください。統計情報の出力内容や出力契機については，「12.2 統計情報の出力内容」を参照してください。

統計情報の出力内容を参照するには，統計情報ビューアを使用します。TELstaff サービス起動中は，現在出力中の統計情報ファイルを直接アプリケーションで開いたり，変更や削除はできません。

Slack への発信（tlsslack コマンド），LINE WORKS への発信（tlsline コマンド）では，統計情報の出力は行いません。ただし，tlsslack コマンド，tlsslack コマンドをコマンド通知として実行した場合には，コマンド内容が出力される統計情報にコマンド名が記録されます。

2.3.23 TELstaffコマンド

AEPE，AESE で使用できるコマンドの種類については「2.5 TELstaff のコマンド」を参照してください。

2.3.24 AEPEとAESEの差異

AEPE と AESE の差異を表 2.3-31 に示します。

表 2.3-31　AEPEとAESEの差異

差異項目	AEPE	AESE
IP 電話発信	○	×
300 を超える数のユーザに対応	○	×
音声読み上げ	○	○
ファイル監視の拡張機能	○	×
稼動状況監視機能	○	×

差異項目	AEPE	AESE
電源制御コマンド	○	×

［記号］

○:　使用できます

×:　使用できません

AEPE と AESE のそれぞれにおいて，登録可能な最大ユーザ数，ユーザグループ数，連絡網 ID 数，連絡網グループ数を表 2.3-32 に示します。

表 2.3-32　製品ごとのユーザ，ユーザグループ，連絡網，連絡網グループの定義可能な上限数

	AESE	AEPE (300)	AEPE (1000)	AEPE (2000)
最大ユーザ数（製品全体）	300	300	1000	2000
最大ユーザ数（1 ユーザグループ当たり）	300	300	300	500
最大ユーザグループ数	1	5	10	20
最大連絡網数（1 連絡網グループ当たり）	300	300	300	500
最大連絡網グループ数	100	100	100	200

［記号］

AEPE (N)　「N ユーザ版の AEPE」を示します。

2.3.25 カレンダー・スケジュール機能

TELstaff では，監視機能および通知機能においてカレンダー・スケジュール機能を利用します。カレンダー機能では，運用に合わせて休日と平日を指定します。スケジュール機能では，カレンダー機能で指定した休日・平日ごとに，監視や通知を行う時間帯や監視や通知を抑止する時間帯を指定します。

以下，監視機能，通知機能ごとにカレンダー・スケジュール機能を説明します。

(1) 監視機能とカレンダー・スケジュール機能について

監視機能において，休業日は監視せず営業日のみ監視するといった運用を行う場合，カレンダー・スケジュール機能を利用します。カレンダー・スケジュール機能を利用することで，詳細な監視スケジューリングができます。

カレンダー機能

次の設定順で，平日・休日のカレンダー設定を使用します。

優先度	カレンダー設定
高	監視グループのカレンダー
↑	監視全体のカレンダー
低	システムカレンダー

例えばネットワーク監視の場合，ネットワーク監視のカレンダー[7.3.1(7)]，ネットワーク監視全体のカレンダー[7.2.1(5)]，システムカレンダー[4.1.1(1)(g)]の順でカレンダー設定を使用します。監視グループのカレンダーで「指定しない」を選択した場合，監視全体のカレンダーの設定を使用します。監視全体のカレンダーで「指定しない」を選択した場合，システムカレンダーの設定を使用します。システムカレンダーについては 4.1.1(1)(g)を参

照してください。

スケジュール機能

次の設定順で，監視する時間帯・監視しない時間帯といったスケジュール設定を使用します。標準では，すべての時間帯を監視する設定です。

優先度	スケジュール設定
高	監視グループのスケジュール
低	監視機能全体のスケジュール

例えばネットワーク監視機能の場合，ネットワーク監視のスケジュール[7.3.1(8)]，ネットワーク監視全体のスケジュール[7.2.1(6)]の順でスケジュール設定を使用します。監視グループのスケジュールで「指定しない」を選択した場合，監視全体のスケジュールの設定を使用します。監視グループのスケジュール，監視全体のスケジュールともに「指定しない」を選択した場合，すべての時間帯で監視します。

(2) 通知機能とカレンダー・スケジュール機能について

通知機能において，休業日は電話通知し営業日はパトランプ通知をするとった運用を行う場合，カレンダー・スケジュール機能を利用します。カレンダー・スケジュール機能を利用することで，詳細な通知スケジューリングができます。

カレンダー機能（連絡網を使用する場合）

連絡網を使用して通知を行う場合，次の設定順で，平日・休日のカレンダー設定を使用します。

優先度	カレンダー設定
高	ユーザのカレンダー，連絡網の通知メディアのカレンダー(※1)
↑	連絡網のカレンダー
↑	連絡網グループのカレンダー
低	システムカレンダー

注※1　メール一括送信通知の場合，ユーザのカレンダー，連絡網のメール一括送信のカレンダーの順で使用します。

例えば連絡網を使用してメール通知を行う場合，ユーザのカレンダーで「指定しない」を選択したとき，連絡網のカレンダーの設定を使用します。パトランプ通知を行う場合，連絡網の通知メディアのカレンダーで「指定しない」を選択したとき，連絡網のカレンダーの設定を使用します。

カレンダー機能（連絡網を使用しない場合）

連絡網を使用せず通知を行う場合，次の設定順で，平日・休日のカレンダー設定を使用します。

優先度	カレンダー設定
高	ユーザのカレンダー
低	システムカレンダー

例えば teldial コマンドを使用してメール通知を行う場合，-en オプションを使用してメ

ール通知するユーザ名を指定するとき，ユーザのカレンダーの設定を使用します。teldial コマンドの-en オプションについては，「11.2.5(3)(b) -en ユーザ名」を参照してください。

各カレンダーの設定については，次の箇所を参照してください。

【関連説明】

- 4.1.1(1)(g)　システムカレンダー
- 5.2.5(4)　連絡網グループのカレンダー
- 5.3.11(1)(g)　連絡網のカレンダー
- 5.1.10(1)(f)　ユーザのカレンダー

スケジュール機能（連絡網を使用する場合）

連絡網を使用して通知を行う場合，次の設定順で，通知メディアごとに使用する時間帯・使用しない時間帯といったスケジュール設定を使用します。標準では，すべての通知メディアをすべての時間帯で使用する設定です。

優先度	スケジュール設定
高	ユーザのスケジュール，連絡網の通知メディアのスケジュール(※1)
↑	連絡網のスケジュール
↑	連絡網グループのスケジュール
低	システムスケジュール

注※1　メール一括送信通知の場合，ユーザのスケジュール，連絡網のメール一括送信のスケジュールの順で使用します。

例えばメール通知を行う場合，ユーザのスケジュールで「指定しない」を選択したとき，連絡網のスケジュールの設定を使用します。パトランプ通知を行う場合，連絡網の通知メディアのスケジュールで「指定しない」を選択したとき，連絡網のスケジュールの設定を使用します。

スケジュール機能（連絡網を使用しない場合）

連絡網を使用せず通知を行う場合，次の設定順で，通知メディアごとに使用する時間帯・使用しない時間帯といったスケジュール設定を使用します。

優先度	スケジュール設定
高	ユーザのスケジュール
低	システムスケジュール

例えば teldial コマンドを使用してメール通知を行う場合，-en オプションを使用してメール通知するユーザ名を指定するとき，ユーザのスケジュールの設定を使用します。teldial コマンドの-en オプションについては，「11.2.5(3)(b) -en ユーザ名」を参照してください。

各スケジュールの設定については，次の箇所を参照してください。

【関連説明】

- 4.1.1(1)(h)　システムスケジュール
- 5.2.5(5)　連絡網グループのスケジュール
- 5.3.11(1)(h)　連絡網のスケジュール
- 5.1.10(1)(g)　ユーザのスケジュール

2.3.26　先頭優先ルール

TELstaff は連絡網発信を複数の受け付けると，先頭優先ルールにしたがった順序で発信処理を行います。

ひとつの連絡網に，複数の通知メディア（パトランプなど）が登録されている場合で，そのような連絡網への発信を連続的に実施した場合，各連絡網内の先頭の通知メディアが優先的に発信されます。同一連絡網内の 2 番目以降の通知メディアへの発信は，他の連絡網の先頭の通知メディアより後に行われます。

複数の teldial コマンドを実行させた場合に，後続の通知が遅れることを防ぐため，各連絡網の先頭に登録された通知先への通知を優先して行います。

例えば，次のような連絡網 ID「1000」が登録されているとします。

登録順序	通知先
1	パトランプ通知
2	メール通知
3	電話通知

アプリケーション等から次のように連続的に teldial コマンドを実行するとします。

```
teldial.exe 1000 … 1件目のteldialコマンド … (a)とします。
teldial.exe 1000 … 2件目のteldialコマンド … (b)とします。
teldial.exe 1000 … 3件目のteldialコマンド … (c)とします。
```

この場合，発信は次の順序で行われます。

順序	通知先	備考
1	(a)で受け付けた発信のパトランプ通知	(※1)
2	(b)で受け付けた発信のパトランプ通知	(※1)
3	(c)で受け付けた発信のパトランプ通知	(※1)
4	(a)で受け付けた発信のメール通知	
5	(a)で受け付けた発信の電話通知	
6	(b)で受け付けた発信のメール通知	順序は保証されません
7	(b)で受け付けた発信の電話通知	
8	(c)で受け付けた発信のメール通知	
9	(c)で受け付けた発信の電話通知	

注※1 3 件それぞれのパトランプ通知が完了してから，メール通知・電話通知を行います。

この例は連続した 3 件のコマンド実行例ですが，N 件の teldial コマンドを実行すると，N 件分のパトランプの発信が終了しない限り 1 件目に実行した連絡網のメール，電話の発信は行われません。

2.3.27 発信制限機能の詳細

(1) 概要

発信制限機能とは，特定の条件を満たす発信命令の実行を制限する機能です。具体的には，teldial コマンドを実行する際に登録された条件を満たすかどうか確認し，満たしている場合は実行せずに命令を破棄します。例えば，同一内容の通知命令の大量発生が起こりうる運用をしている場合に本機能を用いれば通知を適度に「間引く」ことが可能です。あるいは，重要な通知が埋もれてしまわないように重要度の低い通知を積極的に間引く，といった運用も可能です。

発信制限機能は AEPE，AESE，AECL で使用できます。なお次の発信は発信制限の対象外となります。

- ネットワーク監視（ポーリング方式）からの発信
- ネットワーク監視（PING 方式）からの発信
- プロセス監視からの発信
- ファイル監視からの発信
- メッセージ監視からの発信
- イベントログ監視からの発信
- ドライバ監視からの発信
- サービス監視からの発信
- ディスク容量監視
- 稼動状況監視
- 機器稼動監視からの発信

メール監視での発信制限は，「8.3.3 フィルタリングの設定ダイアログボックス」を参照してください。

(2) 基本的な動作

発信制限機能の基本的な考え方は，「特定の条件を満たす発信命令を，T 秒に N 回を超える頻度で行わないよう制限する」というものです。TELstaff では制限対象と制限条件を合わせて「発信制限ルール」と呼び，これを複数登録できます。個々の発信制限ルールには 0 以上 9999 以下の数値が「発信制限ルール ID」(LID)として割り振られ，これは発信が制限された際に出力されるログメッセージに表示される他，teldlim コマンドで設定，削除，表示する際に使用します。

制限対象とする発信命令を絞り込む基準としては，連絡網グループ ID，連絡網 ID，通知 ID，優先度が使用可能です。制限するかどうかの判断条件としては，発信の頻度（T 秒間に N 回まで実行可能）を使用可能です。図 2.3-5 に，3 秒間に 2 回まで実行可能とした場合の動作例を示します。

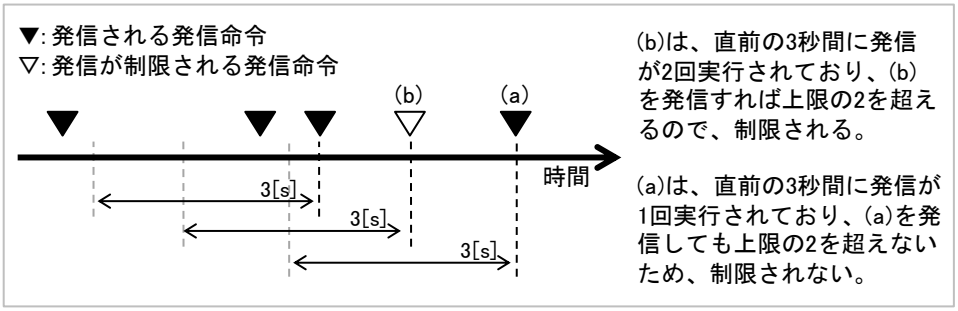


図 2.3-5 発信制限機能の動作例１（T=3, N=2, 発信制限したteldialを数えない）

(3) 発信制限されたteldialを数える場合の動作

標準では，発信制限機能は実行に移された発信命令を数えて制限するかどうか判定します。この動作は設定により，発信制限されて実行されなかった発信命令も数えるようにも変更可能です。もし発信制限された発信命令を数えると，「T 秒に N 回」を超える頻度で発信命令が発生し続けると発信が一切行われません。逆に標準設定（発信制限した発信命令を数えない）場合は，発信が定期的に実行されます。図 2.3-6，図 2.3-7 に各設定での動作例を示します。

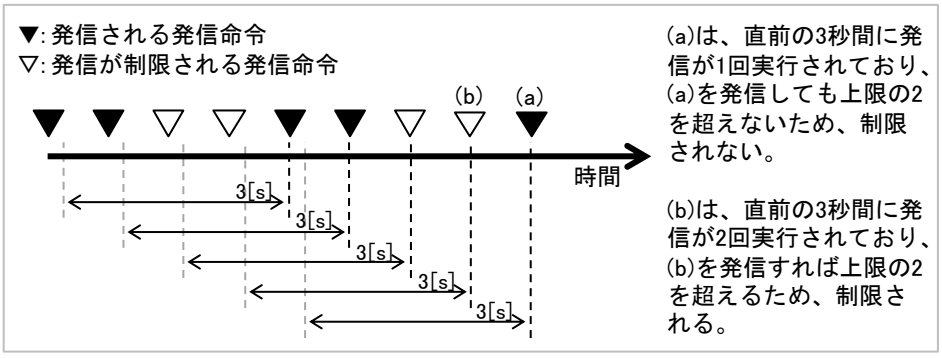


図 2.3-6 発信制限機能の動作例２（T=3, N=2, 発信制限したteldialを数えない）

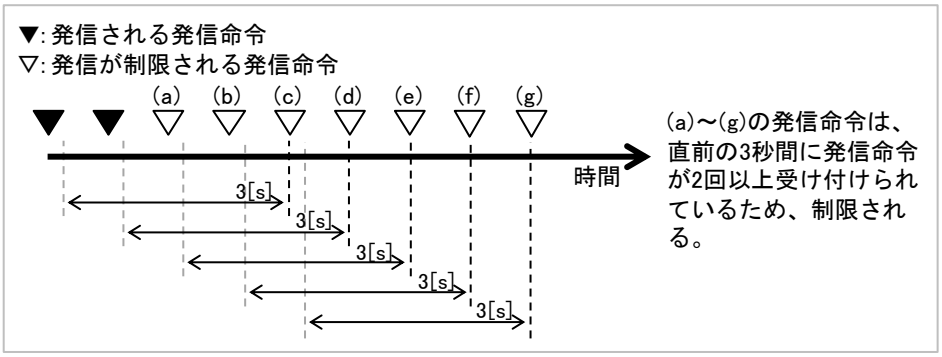


図 2.3-7 発信制限機能の動作例３（T=3, N=2, 発信制限したteldialを数える）

(4) 複数の連絡網IDを一括して指定した発信の場合

teldial コマンドで複数の連絡網 ID を同時に指定した場合も，発信制限機能では一回の teldial コマンドの実行を一回の発信命令と扱います。

複数の連絡網 ID が指定された場合の動作を説明します。まず，発信制限ルールの対象については，以下の条件を満たせば合致したと判定します。

- teldial コマンドに複数の連絡網 ID を指定した場合，その中に発信制限ルールの制限対象に合致する連絡網 ID が一つ以上がある
- teldial コマンドに連絡網 ID の総称指定を与えた場合，その総称指定に合致

する定義済み連絡網 ID の中に，発信制限ルールの制限対象に合致するものが一つ以上ある

- teldial コマンドに引数-nif を指定した場合，一括発信ファイルに記載された発信先のうち一つでも発信制限ルールの対象指定に合致するものがある

続いて発信制限ルールのカウント方法については，あくまで teldial コマンドの実行回数が数えられます。つまり，例えば，連絡網 ID「1*」を対象とした発信制限ルールがあって，一度の teldial コマンドで連絡網 1000 と 1001 を実行した場合であっても，一回の発信命令とカウントされます。

2.4AECLの機能

AECL のメッセージエージェント機能は，AEPE，AESE，AECL にメッセージを送受信するインターフェースを提供します。

AECL は，TELstaff Enterprise（RHEL 版），AEPE，AESE，AECL からのメッセージ受信や AEPE，AESE，AECL へのメッセージ送信をします。

また，AEPE または AESE から AECL のデスクトップにシステム運用時に発生した問題（業務運用の異常やネットワーク障害など）通知することができます。AECL では，Alarm View を使用して受信メッセージの参照や操作ができます。

AECL で使用できる機能一覧は，表 2.1-1 を参照してください。

2.4.1 パトランプと電気機器の作動

TELstaff Enterprise（RHEL 版），AEPE，AESE から AECL(または AEPE，AESE)がインストールされているコンピュータに接続されているパトランプや電気機器（ローカル接続）を作動できます。

リレー装置は，データシックス社製リレー装置とパトライト社製リレー装置の 2 種類が使用できます。AECL が使用するリレー装置は，スタートメニューの【TELstaff ツール】から【リレー接点テストツール】で設定した標準のリレー装置が使用されます 。

2.4.2 発信記録とTELstaffの動作記録

AECL では，通知メディアへの発信記録と TELstaff の動作記録としてログ情報を記録します。

ログ情報は，ログビューアウインドウから閲覧できます。

また，メッセージ通知機能を使用することでログ情報（メッセージ）をシステム管理者に通知したり，Syslog サーバに送信することができます。

ログ情報ファイルの所在場所とファイル名は，ログビューアウインドウのステータスバーに表示されます。

ログメッセージは，最大 1024 桁までとなり，超える場合は，1024 桁で切り捨てられます。この場合，全角文字部で切り捨てがおこなわれると最終文字が不正文字になります。

ログ情報の作成周期は，「図 4.1-10　環境設定－「ログ」タブ」で設定します。ログファイルの自動削除では，ファイル拡張子 old のファイルで 1 世代まで保存します。

ログ情報は，メッセージ監視で監視することはできません。

ログ情報ファイルの一覧は，表 2.3-30 を参照してください。

2.4.3 TELstaffコマンド

AECL で使用可能なコマンドの種類については「2.5 TELstaff のコマンド」を参照してください。

2.5TELstaffのコマンド

TELstaff のコマンドの種類を表 2.5-1 に示します。各コマンドの詳細説明にて記載の無い限り，TELstaff のコマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。OS のユーザーアカウント制御 (UAC)が有効である場合は，コマンドの実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。

表 2.5-1　TELstaffのコマンド

コマンド名	説明	AEPE	AESE	AECL
teldial ※1	TELstaff に対して，発信を指示します。	○	○	○
telcan	TELstaff に対して，現在未確認な発信の取り消しや連絡網への発信の取り消しを指示します。	○	○	△
telspend	TELstaff に対して，発信の抑止と発信抑止の解除を指示します。	○	○	△
teldlim	発信制限機能について，設定の追加・更新・削除・表示を行います。	○	○	○
telnethd	TELstaff に対して，ネットワーク監視の抑止と再開の指示をします。	○	○	×
tlpwrspd	稼動状況監視において，監視グループ毎に，監視の抑止と監視抑止の解除を行います。	○	×	×
telsback	TELstaff の環境設定などの設定情報や連絡網などの定義情報を保管（バックアップ）または回復（リストア）します。	○	○	○
telsping	ネットワーク機器の電源オン・オフ監視を行います。	○	○	×
telsndpl	WAV ファイルの再生を行います。	○	○	○
telsmart	テキストの読み上げを行います。	○	○	○
tlshdrbt	Windows OS のリモート PC を，シャットダウンまたは再起動します。	○	×	×
tlusrimp	ユーザ定義情報を CSV ファイルからインポートします。	○	○	×
tlusrexp	ユーザ定義情報を CSV ファイルにエクスポートします。	○	○	×
tlusrdel	ユーザ定義情報を削除します。	○	○	×
tlnetimp	連絡網情報をテキストファイルからインポートします。	○	○	×
tlnetexp	連絡網情報をテキストファイルにエクスポートします。	○	○	×
tlgetqc	未発信の通知件数を表示します。	○	○	×
telfput	データ（文字列）をファイルに追加出力します。	○	○	○
ﾌﾟﾛﾄｺﾙｺﾏﾝﾄﾞ	送信メッセージでコマンド実行を指示します。	○	○	○
teldtcmd	Alarm View の起動・停止を行います。	○	○	○
tlsslack	Slack に発信を行います	○	○	×
tlsline	LINE WORKS に発信を行います。	○	○	×

注※1teldial コマンドは，Administrators 権限ユーザ以外のユーザでも使用できますが，11.2.1(5)記載の制限事項があります。

[記号]

○:　使用できます

△:　一部の機能が使用できす

×:　使用できません

2.6カスタマイズ

2.6.1 通知文のカスタマイズ

TELstaff は，電話，SMS 通知などさまざまな通知メディアに対して通知できます。また，通知の内容もネットワーク監視による障害通知などさまざまです。TELstaff では，さまざまな通知に対応した標準的な通知文を提供しており，これらの通知文は環境設定ダイアログボックスの「カスタマイズ」タブで，ユーザの業務に合わせて自由にカスタマイズできます。

TELstaff のメール通知文で使用できる文字コードは，シフト JIS (JIS X 0208)です。メール通知文中の JIS 変換できない文字は「=」に変換して送信されます。

VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズと連携し，音声合成ソフトウェアを使用して電話通知する場合，標準電話通知文，標準エージェント通知文，標準メッセージ通知文，標準読み上げ通知文，標準通知文には，文字数の制限があります。文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

表 2.6-1 通知文カスタマイズ項目一覧

カスタマイズ項目	説明
連絡網発信用－ 標準メール通知文	発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
連絡網発信用－ 標準電話通知文	発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
連絡網発信用－ 標準エージェント通知文	発信先が AECL（または AEPE，AESE）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
連絡網発信用－ 標準 FAX 通知文	発信先が FAX の場合，FAX への通知文として使用されます。
連絡網発信用－標準ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟ画面送信用メール通知文	デスクトップ画面をメールで通知するときに使用される通知文です。
標準メッセンジャー通知文 （エージェント受信通知用）	エージェントメッセージの到着をポップアップ通知（Messenger 通知）で通知する場合に，Messenger サービスへの通知文として使用されます。
標準 TELstaff 稼動通知文	TELstaff の「システム管理者」に対して TELstaff の稼動状況を通知する場合に，使用される通知文です。
標準メッセージ通知文 （メール通知用）	TELstaff の「システム管理者」に対して TELstaff のメッセージを通知する場合に，使用されるメール通知文です。
標準メッセージ通知文 （メッセンジャー通知用）	TELstaff の「システム管理者」に対して TELstaff のメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合に，Messenger サービスへの通知文として使用されます。
プロセス監視用－ 標準電話通知文	プロセス監視で通知する発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
プロセス監視用－	プロセス監視で通知する発信先が AECL（または AEPE，AESE）で，通知内容

カスタマイズ項目	説明
標準エージェント通知文	が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
プロセス監視用－ 標準メール通知文	プロセス監視で通知する発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
プロセス監視用－ 標準 FAX 通知文	プロセス監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合，FAX への通知文として使用されます。
ファイル監視用－ 標準メール通知文	ファイル監視で通知する発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ファイル監視用－ 標準電話通知文	ファイル監視で通知する発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ファイル監視用－ 標準エージェント通知文	ファイル監視で通知する発信先が AECL（または AEPE，AESE）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ファイル監視用－ 標準 FAX 通知文	ファイル監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合，FAX への通知文として使用されます。
ファイル監視用－ 標準メッセンジャー通知文	ファイル監視で通知する発信先がポップアップ通知（Messenger 通知）の場合，Messenger サービスへの通知文として使用されます。
メッセージ監視用－ 標準メール通知文	メッセージ監視で通知する発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
メッセージ監視用－ 標準電話通知文	メッセージ監視で通知する発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
メッセージ監視用－ 標準エージェント通知文	メッセージ監視で通知する発信先が AECL（または AEPE，AESE）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
メッセージ監視用－ 標準 FAX 通知文	メッセージ監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合，FAX への通知文として使用されます。
メッセージ監視用－ 標準メッセンジャー通知文	ファイル監視で通知する発信先がポップアップ通知（Messenger 通知）の場合，Messenger サービスへの通知文として使用されます。
イベントログ監視用－ 標準メール通知文	イベントログ監視で通知する発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
イベントログ監視用－ 標準電話通知文	イベントログ監視で通知する発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
イベントログ監視用－ 標準エージェント通知文	イベントログ監視で通知する発信先が AECL（または AEPE，AESE）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
イベントログ監視用－ 標準 FAX 通知文	イベントログ監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合，FAX への通知文として使用されます。
イベントログ監視用－ 標準メッセンジャー通知文	イベントログ監視で通知する発信先がポップアップ通知（Messenger 通知）の場合，Messenger サービスへの通知文として使用されます。
ドライバ監視用－ 標準メール通知文	ドライバ監視で通知する発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ドライバ監視用－ 標準電話通知文	ドライバ監視で通知する発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ドライバ監視用－ 標準エージェント通知文	ドライバ監視で通知する発信先が AECL（または AEPE，AESE）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ドライバ監視用－ 標準 FAX 通知文	ドライバ監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合，FAX への通知文として使用されます。
ドライバ監視用－ 標準メッセンジャー通知文	ドライバ監視で通知する発信先がポップアップ通知（Messenger 通知）の場合，Messenger サービスへの通知文として使用されます。

カスタマイズ項目	説明
サービス監視用－ 標準電話通知文	サービス監視で通知する連絡網からの発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
サービス監視用－ 標準メッセージ通知文	サービス監視で発信先がメール，または通知する連絡網からの発信先がメール，デスクトップまたは PC で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
サービス監視用－ 標準 FAX 通知文	サービス監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
サービス監視用－ 標準表示ボード通知文	サービス監視で通知する連絡網からの発信先がメッセージ表示ボードの場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
サービス監視用－ 標準読み上げ通知文	サービス監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージ読み上げする場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
サービス監視用－ 標準メッセンジャー通知文	サービス監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。 または，発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合，標準で使用される通知文です。
SNMP トラップ監視用－ 標準電話通知文	SNMP トラップ監視で通知する連絡網からの発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
SNMP トラップ監視用－ 標準メッセージ通知文	SNMP トラップ監視で発信先がメール，または通知する連絡網からの発信先がメール，デスクトップまたは PC で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
SNMP トラップ監視用－ 標準 FAX 通知文	SNMP トラップ監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
SNMP トラップ監視用－ 標準表示ボード通知文	SNMP トラップ監視で通知する連絡網からの発信先がメッセージ表示ボードの場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
SNMP トラップ監視用－ 標準読み上げ通知文	SNMP トラップ監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージ読み上げする場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
SNMP トラップ監視用－ 標準メッセンジャー通知文	SNMP トラップ監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。 または，発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合，標準で使用される通知文です。
SNMP トラップ監視用－ 標準 SNMPTRAP サービス停止通知文	Windows SNMP Trap サービス停止を検出したとき，または Windows SNMP Trap サービスを開始できない場合，Windows SNMP Trap サービスの停止を TELstaff の「システム管理者」にメール通知する場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
メール監視用－ 標準電話通知文	メール監視で通知する連絡網からの発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
メール監視用－ 標準メッセージ通知文	メール監視で発信先がメール，または通知する連絡網からの発信先がメール，デスクトップまたは PC で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
メール監視用－ 標準 FAX 通知文	メール監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

カスタマイズ項目	説明
メール監視用－ 標準表示ボード通知文	メール監視で通知する連絡網からの発信先がメッセージ表示ボードの場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
メール監視用－ 標準読み上げ通知文	メール監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージ読み上げする場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
メール監視用－ 標準メッセンジャー通知文	メール監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。 または，発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合，標準で使用される通知文です。
ディスク容量監視用－ 標準電話通知文	ディスク容量監視で通知する連絡網からの発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ディスク容量監視用－ 標準メッセージ通知文	ディスク容量監視で発信先がメール，または通知する連絡網からの発信先がメール，デスクトップまたは PC で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ディスク容量監視用－ 標準 FAX 通知文	ディスク容量監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ディスク容量監視用－ 標準表示ボード通知文	ディスク容量監視で通知する連絡網からの発信先がメッセージ表示ボードの場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ディスク容量監視用－ 標準読み上げ通知文	ディスク容量監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージ読み上げする場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
ディスク容量監視用－ 標準メッセンジャー通知文	ディスク容量監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。 または，発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合，標準で使用される通知文です。
稼動状況監視用－ 標準電話通知文 ※1	稼動状況監視で通知する連絡網からの発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
稼動状況監視用－ 標準メッセージ通知文 ※1	稼動状況監視で発信先がメール，または通知する連絡網からの発信先がメール，デスクトップまたは PC で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
稼動状況監視用－ 標準 FAX 通知文 ※1	稼動状況監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
稼動状況監視用－ 標準表示ボード通知文 ※1	稼動状況監視で通知する連絡網からの発信先がメッセージ表示ボードの場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
稼動状況監視用－ 標準読み上げ通知文 ※1	稼動状況監視で通知する連絡網の中にデスクトップ通知があり，メッセージを読み上げするよう設定されているが，通知するメッセージ内容が指定されていない場合に使用される通知文です。
稼動状況監視用－ 標準メッセンジャー通知文 ※1	稼動状況監視で通知する連絡網の中にデスクトップ通知があり，メッセージを通知（Messenger 通知）するよう設定されているが，通知するメッセージ内容が指定されていない場合に使用される通知文です。または，発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合，標準で使用される

カスタマイズ項目	説明
	通知文です。
稼動状況監視用－ 稼動状況統計情報の標準メール通知文※１	稼動状況監視で稼動状況を統計情報として出力してメール通知する場合，標準で使用される通知文です。
稼動状況監視用－ 定義情報インポートサンプルファイル ※２	稼動状況監視の監視対象情報の定義情報をテキストエディタや表計算ソフト等を用いて作成し，稼動状況監視設定ダイアログボックスの全般タブの［インポート］ボタンを利用してインポートするためのサンプルファイルです。
稼動状況監視用－ シャットダウン時の標準メッセージ ※２	稼動状況監視で監視対象をシャットダウンする場合，標準で表示されるメッセージです。
稼動状況監視用－ 再起動時の標準メッセージ ※２	稼動状況監視で監視対象を再起動する場合，標準で表示されるメッセージです。
機器稼動監視用－標準通知文	機器稼動監視で通知する場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。
メール開封確認返信メール	メール開封確認時，メール送信者に確認通知するときに使用する標準通知文です。
カメラ監視用－ 標準メール通知文	本製品では使用されません。
カメラ監視用－ 標準メール通知文 （URL 通知用）	本製品では使用されません。
カメラ監視用－ 標準携帯電話メール通知文	本製品では使用されません。
カメラ監視用－ 標準携帯電話メール通知文 （URL 通知用）	本製品では使用されません。
カメラ監視用－ 標準電話通知文	本製品では使用されません。
カメラ監視用－ 標準エージェント通知文	本製品では使用されません。
カメラ監視用－ 標準 FAX 通知文	本製品では使用されません。
カメラ監視用－ 標準ブラウザ通知文	本製品では使用されません。
カメラ監視用－ 標準メッセンジャー通知文	本製品では使用されません。

※１　AEPE および AECL で出力します。

※２　AEPE で出力します。

(1) 連絡網発信用標準通知文

(a) 標準メール通知文

●用途

標準メール通知文は，発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メール通知文中で使用できる変数を，表 2.6-2 に示します。

表 2.6-2 標準の通知文中で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	通知の受付日（yyyy mm/dd 形式）
~date1~	通知の受付日（yyyy 年 mm 月 dd 日形式）
~date2~	通知の受付日（yyyy/mm/dd 形式）
~time~	通知の受け付け時刻（hh:mm:ss 形式）
~time1~	通知の受け付け時刻（hh 時 mm 分 ss 秒形式）
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~NotifyGroupID~	連絡網グループ ID
~MailConfirmID~	メール開封確認用の管理番号
~node~	teldial コマンドの -ih, -ip または -h パラメタで指定したノード名
~node1~	teldial コマンドの -ih, -ip または -h ｵﾌﾟｼｮﾝで指定したホスト名と対応する別名（*1）
~node2~	teldial コマンドの -ih, -ip または -h オプションで指定したホスト名に対応する別名（*1）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~ovtopodump~	ovtopodump ｺﾏﾝﾄﾞ実行結果（*2）
~UserName~	ユーザ名（*3）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（*3）
~UserInformation~	任意のユーザ付加情報（*4） teldial コマンドの -u，または -uf パラメタで指定したユーザ付加情報
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名
~IPaddress~	通知を実行したコンピュータの IP アドレス（*5）

注*1 teldial コマンドの -ih, -ip または -h オプションで指定するホスト名の別名の定義は，環境設定ー「カスタマイズ」タブの「別名定義ファイル」で行います。

注*2 HP Network Node Manager software または JP1/Cm2 が実行中のとき使用できます。

注*3 ~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注*4　プロセス監視からの通知文では，プロセス監視結果のプロセス情報。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。
機器稼動監視からの通知文では，機器稼動監視で検出した機器情報。機器稼動監視で検出した機器情報については，~Observation~変数を参照

注*5　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

(b)　標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.6-2 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。
- 英語，中国語の標準通知文ファイルを更新する場合は，各言語の標準電話通知文ファイルをテキストエディタ等で編集してください。また，編集の際は，言語に応じたエンコードを使用してください。標準電話通知文ファイルは<TELstaff のインストールフォルダ>¥Data¥Template フォルダ下に格納されています。各言語の標準電話通知文ファイルを表 2.6-3 に示します。

表 2.6-3　標準電話通知文ファイル一覧

内容	ファイル名称	エンコード
標準電話通知文ファイル（日本語）	lettertp.tp	シフト JIS
標準電話通知文ファイル（英語）	lettertp.en.tp	ASCII
標準電話通知文ファイル（中国語）	lettertp.zh.tp	GBK

(c)　標準エージェント通知文

●用途

標準エージェント通知文は，発信先が AECL（または AEPE，AESE）で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）

- 送信者情報（「From: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準エージェント通知文中で使用できる変数については，表 2.6-2 を参照してください。

●注意事項

- エージェント通知文ファイル（連絡網定義ダイアログボックスで指定したエージェント送信ファイルと，標準エージェント通知文ファイルの両方）に通知文が存在しない場合，AECL へは発信しません。
- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(d) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，連絡網からの発信先が FAX の場合に，FAX への通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 2.6-2 を参照してください。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。
- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(e) 標準デスクトップ画面送信用メール通知文

●用途

デスクトップ画面送信用メール通知文は，デスクトップ画面をメールで通知するときに使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

1 行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。

標準メール通知文中で使用できる変数は，表 2.6-2 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(2) 標準メッセンジャー通知文（エージェント受信通知用）

●用途

Messenger サービスの通知文は，エージェントメッセージの到着をポップアップ通知（Messenger 通知）で通知する場合に，Messenger サービスへの通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。Messenger サービスの通知文中で使用できる埋込み文字については，表 2.6-2 を参照してください。

●注意事項

- 受信したエージェントメッセージの形式によっては，上記の埋込み文字が正しく変換されない場合があります。また，変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(3) 標準TELstaff稼動通知文

●用途

TELstaff 稼動通知文は，TELstaff の「システム管理者」に対して，TELstaff の稼動状況を通知する場合に，使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される，変数があります。TELstaff 稼動通知文中で使用できる変数を，表 2.6-4 に示します。

表 2.6-4 TELstaff稼動通知文中で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date1~	稼動状況の通知日（yyyy 年 mm 月 dd 日形式）
~time1~	稼動状況の通知時刻（yyyy/mm/dd 形式）
~ComputerName~	コンピュータ名

変数名	変数の内容
~IPaddress~	IP アドレス（※1）

注※1　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

(4) 標準TELstaffメッセージ通知文

(a) 標準TELstaffメッセージ通知文（メール通知用）

●用途

標準 TELstaff メッセージ通知文（メール通知用）は，TELstaff のメッセージ通知機能で，TELstaff の「システム管理者」に対して，TELstaff のメッセージを通知する場合に，使用される通知文です。通知するメッセージの設定は，メッセージ通知方法の設定で行います。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される，変数があります。標準メッセージ通知メール文中で使用できる変数を，表 2.6-5 に示します。

表 2.6-5　標準メッセージ通知文で使用できる変数（メール通知用）

変数名	変数の内容
~date1~	yyyy 年 mm 月 dd 日形式の日付
~date2~	yyyy/mm/dd 形式の日付
~time1~	hh 時 mm 分 ss 秒形式の時刻
~ComputerName~	コンピュータ名
~IPaddress~	IP アドレス（※1）
~TELstaffMessageID~	メッセージ ID
~TELstaffMessage1~	554-I <162>［001,3000,8000］連絡網へ・・
~TELstaffMessage2~	<162>［001,3000,8000］連絡網へ・・
~TELstaffMessage3~	[2002/10/08 10:18:52] 554-I <162>［001,3000,8000］連絡
~TELstaffMessage11~	~TELstaffMessage1~と同一。ただし，改行記号は削除されます。
~TELstaffMessage21~	~TELstaffMessage2~と同一。ただし，改行記号は削除されます。
~TELstaffMessage31~	~TELstaffMessage3~と同一。ただし，改行記号は削除されます。
~AlterMessage~	簡略メッセージ
~SystemInformation~	次の 4 つのコンピュータ情報。 「コンピュータ名」の挿入位置は，変数の指定位置に挿入します。「コンピュータ名」以外は，行の 1 桁目から挿入します。 コンピュータ名：********* システムオーナー：*********　*********

変数名	変数の内容
	システムバージョン：********* IP アドレス：*********

注※1　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

(b)　標準TELstaffメッセージ通知文（メッセンジャー通知用）

●用途

標準 TELstaff メッセージ通知文（メッセンジャー通知用）は，TELstaff のメッセージ通知機能で，TELstaff の「システム管理者」に TELstaff のメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合に，Messenger サービスへの通知文として使用されます。通知するメッセージの設定は，メッセージ通知方法の設定で行います。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メッセージ通知メール文（Messenger サービス通知用）で使用できる埋込み文字を，表 2.6-5 に示します。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(5) プロセス監視用標準通知文

(a)　標準メール通知文

●用途

標準メール通知文は，プロセス監視で発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メール通知文中で使用できる変数は，表 2.3-19 を参照してください。

(b) 標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，プロセス監視で発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.3-19 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(c) 標準エージェント通知文

●用途

標準エージェント通知文は，プロセス監視で発信先が AECL（または AEPE，AESE）で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準エージェント通知文中で使用できる変数については，表 2.3-19 を参照してください。

●注意事項

- エージェント通知文ファイル（連絡網定義ダイアログボックスで指定したエージェント送信ファイルと，標準エージェント通知文ファイルの両方）に通知文が存在しない場合，AECL へは発信しません。

(d) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，プロセス監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合に，FAX への通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 2.3-19 を参照してください。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(6) ファイル監視用標準通知文

(a) 標準メール通知文

●用途

標準メール通知文は，ファイル監視で発信先がメールあるいは連絡網で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メール通知文中で使用できる変数は，表 2.3-20 を参照してください。

(b) 標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，ファイル監視で発信先が電話あるいは連絡網で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.3-20 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(c) 標準エージェント通知文

●用途

標準エージェント通知文は，ファイル監視で発信先が AECL（または AEPE，AESE）あるいは連絡網で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準エージェント通知文中で使用できる変数については，表 2.3-20 を参照してください。

●注意事項

- エージェント通知文ファイル（連絡網定義ダイアログボックスで指定したエージェント送信ファイルと，標準エージェント通知文ファイルの両方）に通知文が存在しない場合，AECL へは発信しません。

(d) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，ファイル監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合に，FAX への通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 2.3-20 を参照してください。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(e) 標準メッセンジャー通知文

●用途

標準メッセンジャー通知文は，発信先がポップアップ通知（Messenger 通知）の場合，Messenger サービスへの通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。Messenger サービスの通知文中で使用できる埋込み文字については，表 2.3-20 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(7) メッセージ監視用標準通知文

(a) 標準メール通知文

●用途

標準メール通知文は，メッセージ監視で発信先がメールあるいは連絡網で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メール通知文中で使用できる変数を，表 2.3-21 に示します。

(b) 標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，メッセージ監視で発信先が電話あるいは連絡網で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.3-21 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(c) 標準エージェント通知文

●用途

標準エージェント通知文は，メッセージ監視で発信先が AECL（または AEPE，AESE）あるいは連絡網で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準エージェント通知文中で使用できる変数については，表 2.3-21 を参照してください。

●注意事項

- エージェント通知文ファイル（連絡網定義ダイアログボックスで指定したエージェント送信ファイルと，標準エージェント通知文ファイルの両方）に通知文が存在しない場合，AECL へは発信しません。

(d) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，メッセージ監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合に，FAX への通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 2.3-21 を参照してください。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(e)　標準メッセンジャー通知文

●用途

標準メッセンジャー通知文は，発信先が Messenger 通知の場合，通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。Messenger サービスの通知文中で使用できる埋込み文字については，表 2.3-21 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(8) イベントログ監視用標準通知文

(a)　標準メール通知文

●用途

標準メール通知文は，イベントログ監視で発信先がメールあるいは連絡網で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メール通知文中で使用できる変数は，表 2.3-22 を参照してください。

(b)　標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，イベントログ監視で発信先が電話あるいは連絡網で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.3-22 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(c) 標準エージェント通知文

●用途

標準エージェント通知文は，イベントログ監視で発信先が AECL（または AEPE，AESE）あるいは連絡網で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準エージェント通知文中で使用できる変数については，表 2.3-22 を参照してください。

●注意事項

- エージェント通知文ファイル（連絡網定義ダイアログボックスで指定したエージェント送信ファイルと，標準エージェント通知文ファイルの両方）に通知文が存在しない場合，AECL へは発信しません。

(d) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，イベントログ監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合に，FAX への通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 2.3-22 を参照してください。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(e) 標準メッセンジャー通知文

●用途

標準メッセンジャー通知文は，発信先がポップアップ通知（Messenger 通知）の場合，Messenger サービスへの通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。Messenger サービスの通知文中で使用できる埋込み文字については，表 2.3-22 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(9) ドライバ監視用標準通知文

(a) 標準メール通知文

●用途

標準メール通知文は，ドライバ監視で発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メール通知文中で使用できる変数は，表 2.3-23 を参照してください。

(b) 標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，ドライバ監視で発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.3-23 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(c) 標準エージェント通知文

●用途

標準エージェント通知文は，ドライバ監視で発信先が AECL（または AEPE，AESE）で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準エージェント通知文中で使用できる変数については，表 2.3-23 を参照してください。

●注意事項

- エージェント通知文ファイル（連絡網定義ダイアログボックスで指定したエージェント送信ファイルと，標準エージェント通知文ファイルの両方）に通知文が存在しない場合，AECL（または AEPE，AESE）へは発信しません。

(d) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，ドライバ監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合に，FAX への通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 2.3-23 を参照してください。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(e)　標準メッセンジャー通知文

●用途

標準メッセンジャー通知文は，ドライバ監視で通知する発信先がポップアップ通知（Messenger 通知）の場合，Messenger サービスへの通知文として使用されます。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。Messenger サービスの通知文中で使用できる埋込み文字については，表 2.3-23 を参照してください。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(10) サービス監視用標準通知文

(a)　標準メッセージ通知文

●用途

標準メッセージ通知文は，サービス監視で発信先がメール，または通知する連絡網からの発信先がメール，デスクトップまたは PC で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行を半角 512 文字以内で本文を記述します。メール通知する場合，1 行に指定可能な文字数がありますので，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。

標準メッセージ通知文中で使用できる変数は，表 2.3-24 を参照してください。

変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(b)　標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，サービス監視で通知する連絡網からの発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。
標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.3-24 を参照してください。
変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(c) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，サービス監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 2.3-24 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(d) 標準表示ボード通知文

●用途

標準表示ボード通知文は，サービス監視で通知する連絡網からの発信先がメッセージ表示ボードの場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準

表示ボード通知文中で使用できる変数については，表 2.3-24 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(e) 標準読み上げ通知文

●用途

標準読み上げ通知文は，サービス監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージ読み上げする場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準読み上げ通知文中で使用できる変数については，表 2.3-24 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(f) 標準メッセンジャー通知文

●用途

標準メッセージ通知文は，サービス監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

または，発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。Messenger サービスの通知文中で使用できる埋込み文字については，表 2.3-24 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(11) SNMP トラップ監視用標準通知文

(a) 標準メッセージ通知文

●用途

標準メッセージ通知文は，SNMP トラップ監視で発信先がメール，または通知する連絡網からの発信先がメール，デスクトップまたは PC で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行を半角 512 文字以内で本文を記述します。メール通知する場合，1 行に指定可能な文字数がありますので，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メッセージ通知文中で使用できる変数は，表 2.3-25 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(b) 標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，SNMP トラップ監視で通知する連絡網からの発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.3-25 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(c) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，SNMP トラップ監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 2.3-25 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信

FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。

- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(d) 標準表示ボード通知文

●用途

標準表示ボード通知文は，SNMP トラップ監視で通知する連絡網からの発信先がメッセージ表示ボードの場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準表示ボード通知文中で使用できる変数については，表 2.3-25 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(e) 標準読み上げ通知文

●用途

標準読み上げ通知文は，SNMP トラップ監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージ読み上げする場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準読み上げ通知文中で使用できる変数については，表 2.3-25 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(f) 標準メッセンジャー通知文

●用途

標準メッセージ通知文は，SNMP トラップ監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

または，発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）す

る場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。Messenger サービスの通知文中で使用できる埋込み文字については，表 2.3-25 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(g) 標準SNMPTRAPサービス停止通知文

●用途

Windows SNMP Trap サービス停止を検出したとき，または開始できない場合，Windows SNMP Trap サービスの停止を TELstaff の「システム管理者」にメール通知する場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.3-25 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(12) メール監視用標準通知文

(a) 標準メッセージ通知文

●用途

標準メッセージ通知文は，メール監視で発信先がメール，または通知する連絡網からの発信先がメール，デスクトップまたは PC で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行を半角 512 文字以内で本文を記述します。メール通知する場合，1 行に指定可能な文字数がありますので，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メッセージ通知文中で使用できる変数は，表 8.1-1 を参照してください。変換する情報が見つからな

い場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(b)　標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，メール監視で通知する連絡網からの発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 8.1-1 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(c)　標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，メール監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 8.1-1 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(d)　標準表示ボード通知文

●用途

標準表示ボード通知文は，メール監視で通知する連絡網からの発信先がメッセージ表示ボードの場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準表示ボード通知文中で使用できる変数については，表 8.1-1 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(e)　標準読み上げ通知文

●用途

標準読み上げ通知文は，メール監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージ読み上げする場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準読み上げ通知文中で使用できる変数については，表 8.1-1 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(f)　標準メッセンジャー通知文

●用途

標準メッセージ通知文は，メール監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

または，発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。Messenger サービスの通知文中で使用できる埋込み文字については，表 8.1-1 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(13) ディスク容量監視用標準通知文

(a) 標準メッセージ通知文

●用途

標準メッセージ通知文は，ディスク容量監視で発信先がメール，または通知する連絡網からの発信先がメール，デスクトップまたは PC で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行を半角 512 文字以内で本文を記述します。メール通知する場合，1 行に指定可能な文字数がありますので，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メッセージ通知文中で使用できる変数は，表 2.3-26 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(b) 標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，ディスク容量監視で通知する連絡網からの発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.3-26 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(c) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，ディスク容量監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 2.3-26 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(d) 標準表示ボード通知文

●用途

標準表示ボード通知文は，ディスク容量監視で通知する連絡網からの発信先がメッセージ表示ボードの場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準表示ボード通知文中で使用できる変数については，表 2.3-26 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(e) 標準読み上げ通知文

●用途

標準読み上げ通知文は，ディスク容量監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージ読み上げする場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準読み上げ通知文中で使用できる変数については，表 2.3-26 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(f) 標準メッセンジャー通知文

●用途

標準メッセージ通知文は，ディスク容量監視で通知する連絡網からの発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

または，発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。Messenger サービスの通知文中で使用できる埋込み文字については，表 2.3-26 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(14) 機器稼動監視用標準通知文

●用途

機器稼動監視用標準通知文は，機器稼動監視で発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行を半角 512 文字以内で本文を記述します。メール通知する場合，1 行に指定可能な文字数がありますので，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メール通知文中で使用できる変数は，表 2.3-27 を参照してください。

(15) 稼動状況監視標準通知文

(a) 標準メッセージ通知文

●用途

標準メッセージ通知文は，稼動状況監視で発信先がメール，または通知する連絡網からの発信先がメール，デスクトップまたは PC で，通知内容が指定されていない場合，標準

で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行を半角 512 文字以内で本文を記述します。メール通知する場合，1 行に指定可能な文字数がありますので，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メッセージ通知文中で使用できる変数は，表 2.3-28 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(b) 標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，稼動状況監視で通知する連絡網からの発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準電話通知文中で使用できる変数については，表 2.3-28 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(c) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，稼動状況監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準 FAX 通知文中で使用できる変数は，表 2.3-28 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(d) 標準表示ボード通知文

●用途

標準表示ボード通知文は，稼動状況監視で通知する連絡網からの発信先がメッセージ表示ボードの場合で，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準表示ボード通知文中で使用できる変数については，表 2.3-28 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(e) 標準読み上げ通知文

●用途

標準読み上げ通知文は，稼動状況監視で通知する連絡網の中にデスクトップ通知があり，メッセージを読み上げするよう設定されているが，通知するメッセージ内容が指定されていない場合に使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。

標準読み上げ通知文中で使用できる変数については，表 2.3-28 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(f) 標準メッセンジャー通知文

●用途

標準メッセージ通知文は，稼動状況監視で通知する連絡網の中にデスクトップ通知があり，メッセージを通知（Messenger 通知）するよう設定されているが，通知するメッセー

ジ内容が指定されていない場合に使用される通知文です。
または，発信先がデスクトップにメッセージをポップアップ通知（Messenger 通知）する場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。
Messenger サービスの通知文中で使用できる埋込み文字については，表 2.3-28 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(g) 稼動状況統計情報の標準メール通知文

●用途

稼動状況統計情報の標準メール通知文は，稼動状況監視において，「稼動状況統計情報」をメールに添付して通知する場合に使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メッセージ通知文中で使用できる変数は，表 2.3-28 を参照してください。変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(h) 定義情報インポートサンプルファイル

●用途

稼動状況監視の監視対象情報の定義情報を，テキストエディタや表計算ソフトを用いて作成し，稼動状況監視設定ー「全般」タブ(図 4.15-5)の［インポート］ボタンからインポートするためのサンプルファイルです。

(i) シャットダウン時の標準メッセージ

●用途

電源制御するコンピュータにログインしているユーザへ通知するメッセージとして使用される通知文です。シャットダウン時に使用されます。

●注意事項

メッセージは，半角 256 文字以内で指定します。

(j)　再起動時の標準メッセージ

●用途

電源制御するコンピュータにログインしているユーザへ通知するメッセージとして使用される通知文です。再起動時に使用されます。

●注意事項

メッセージは，半角 256 文字以内で指定します。

(16) メール開封確認返信メール用標準通知文

●用途

メールの開封確認をメールの返信で開封確認する場合，メール開封確認時，メール送信者に確認通知するときに使用する標準通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行に指定可能な文字数に関しては，「2.6.3(1)通知文ファイルの規則」を参照してください。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。標準メール通知文中で使用できる変数は，表 2.6-6 を参照してください。

表 2.6-6　メール開封確認返信メール用標準通知文で使用できる変数

変数名	変数の内容
~MConf-Subject~	表題
~MConf-AcceptID~	メール送信受付番号
~MConf-ID~	メール識別番号
~MConf-UserName~	メール送信者名（ユーザ名）
~MConf-SendTime~	メール送信日時
~MConf-ConfirmTime~	メール開封確認日時
~MConf-ConfirmAddr~	メール開封確認者メールアドレス
~MConf-LastConfirmAddr~	最終メール開封確認者メールアドレス
~MConf-LastConfirmDate~	最終メール開封確認日時

(17) カメラ監視用標準通知文

JP1 版 TELstaff では本機能は使用できません。

(a)　標準メール通知文

●用途

標準メール通知文は，カメラ監視で通知する発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1)

通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行を半角 512 文字以内で本文を記述します。

(b) 標準メール通知文（URL通知用）

●用途

カメラ監視で検出画像を URL アドレスで通知する場合の通知する発信先がメールで，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行を半角 512 文字以内で本文を記述します。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。

(c) 標準携帯電話メール通知文

●用途

カメラ監視で通知する発信先が携帯電話へのメールで，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

1 行を半角 512 文字以内で本文を記述します。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。

(d) 標準携帯電話メール通知文（URL通知用）

●用途

カメラ監視で検出画像を URL アドレスで通知する場合の通知する発信先が携帯電話へのメールで，通知内容が指定されていない場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）

- 本文の内容

1 行を半角 512 文字以内で本文を記述します。また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。

(e) 標準電話通知文

●用途

標準電話通知文は，カメラ監視で通知する発信先が電話で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

(f) 標準エージェント通知文

●用途

標準エージェント通知文は，カメラ監視で通知する発信先が AECL で，通知内容が指定されていない場合に，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。

●注意事項

- エージェント通知文ファイル（連絡網定義ダイアログボックスで指定したエージェント送信ファイルと，標準エージェント通知文ファイルの両方）に通知文が存在しない場合，AECL へは発信しません。

(g) 標準FAX通知文

●用途

標準 FAX 通知文は，カメラ監視で通知する連絡網からの発信先が FAX の場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。

●注意事項

- 標準 FAX 通知文の最大は，A4 サイズ 1 枚以内です。1 枚を超える場合は，受信 FAX によっては正しく受信できない場合があります。1 行を超える文字は，次行に印字されます。また，1 行当たりの文字数は，半角文字換算で，最大 80 文字以内で FAX 送信メッセージを作成します。
- 標準 FAX 通知文が存在しない場合，FAX へは発信しません。
- 受信 FAX によっては，正しく受信できない場合があります。

(h) 標準ブラウザ通知文

●用途

このバージョンの TELstaff 製品では使用できません。

(i) 標準メッセンジャー通知文

●用途

標準メッセンジャー通知文は，発信先が Messenger 通知の場合，標準で使用される通知文です。

●カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。記述規則と注意事項については，「2.6.3(1) 通知文ファイルの規則」を参照してください。

- 本文の内容

また，通知文中に指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。

●注意事項

- 変換する情報が見つからない場合，埋込み文字は空白に置き換わります。

2.6.2 その他のカスタマイズ

その他，運用に合わせたカスタマイズを提供しています。その他のカスタマイズ項目一覧を表 2.6-7 に示します。

表 2.6-7 その他のカスタマイズ項目一覧

カスタマイズ項目	説明
別名定義ファイル	teldial コマンドの -ih, -ip または -h ｵﾌﾟｼｮﾝで指定するホスト名とホスト名の別名を対応付ける情報で，~node1~変数と~node2~変数で参照されるファイルです。
通報があるときのトーン音	発信があるときのトーン音として使用されます。
通報がないときのトーン音	発信がないときのトーン音として使用されます。
発信通知トーン音	発信があるときのトーン音として使用されます。
FAX カバーシート	直接 FAX 発信(teldial コマンドの-f パラメタ指定)の場合に，カバーシートとして使用されます。
FAX 送信ファイル一覧	FAX に送信するテキストファイル.TXT を，送信ファイル番号と対応付けて定義する情報です。
マルチメディアファイル定義	マルチメディア名をマルチメディアファイル名と対応付ける情報です。マルチメディア名は，teldial コマンドの-i パラメタで指定します。
電話認証用オープニングメッセージ	トリガフォンを使用した電話発信時のパスワードを要求するガイダンスメッセージとして使用されます。
電話受信用オープニングメッセージ	トリガフォンを使用して電話から接続 ID を使用して TELstaff に接続するときのガイダンスメッセージとして使用されます。
IP 電話認証用オープニングメッセージ	IP 電話発信時のパスワードを要求するガイダンスメッセージとして使用されます。
トリガフォン初期設定コマンド	トリガフォンの初期設定コマンドを追加するために使用します。詳細は，環境設定ー「カスタマイズ」タブの「トリガフォン初期設定コマンド」を参照してください。
ユーザ情報インポートサンプルファイル	ユーザ情報の定義情報をテキストエディタや表計算ソフトを用いて作成し，tlusrimp コマンドを利用してインポートするためのサンプルファイルです。
ユーザグループ情報インポートサンプルファイル	ユーザグループ情報の定義情報をテキストエディタや表計算ソフトを用いて作成し，tlusrimp コマンドを利用してインポートするためのサンプルファイルです。
カレンダー情報インポートサンプルファイル	ユーザのカレンダー情報の定義情報をテキストエディタや表計算ソフトを用いて作成し，tlusrimp コマンド等を利用してインポートするためのサンプルファイルです。
スケジュール情報インポートサンプルファイル	ユーザのスケジュール情報の定義情報をテキストエディタや表計算ソフトを用いて作成し，tlusrimp コマンド等を利用してインポートするためのサンプルファイルです。
連絡網情報インポートサンプルファイル	tlnetimp コマンドでインポートできる，連絡網グループ・連絡網の定義情報を含んだファイルのサンプルです。

(1) 別名定義ファイル

用途

別名定義ファイルは，teldial コマンドの -ih, -ip または -h オプションで指定するホスト名とホスト名の別名を対応付ける情報で，~node1~変数と~node2~変数で参照されるファイルです。

カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。

- ホスト名とホスト名の別名

注意事項

- ホスト名とホスト名の別名には空白と「,」（カンマ）および改行コードは使用できません。
- 別名文字数は，挿入後の文字数が半角文字で 256 文字以内，全角文字で 128 文字以内でなければなりません。
- 行の 1 文字目が#で始める行は注釈行となります。

(2) 発信通知／通報がないとき／あるときのトーン音

通報があるときのトーン音，通報がないときのトーン音，発信通知トーン音このトーン音をカスタマイズすることで，発信の種別や発信状況が，音で判断できます。

カスタマイズできるトーン音の種別とファイルの定義内容を表 2.6-8 に示します。

表 2.6-8 カスタマイズできるトーン音の種別とファイルの定義内容

トーン音の種別	カスタマイズする定義内容
発信通知のトーン音	at ATDT12345678901234567890123456789012345678901234567890; next,end
通報がない時のトーン音	at ATDT0000000000000000000000000000000000000000; at ATDT0000000000000000000000000000000000000000; next,end
通報がある時のトーン音	at ATDT9090909090909090909090909090909090909090; at ATDT9090909090909090909090909090909090909090; next,11

変更するのは，at ATDT の後の数字の部分です。ここには，0 から 9 の数字と「#」と「*」が定義できます。1 行に 28 文字まで指定できます。また，複数行指定できます。

(3) FAXカバーシート

用途

FAX カバーシートは，直接 FAX 発信(teldial コマンドの-f パラメタ指定)の場合に，カバーシートとして使用されます。カバーシートは，FAX 通知文(-ff パラメタで指定した FAX 通知文ファイル)の最初に送信されます。

カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。

- 表題（「Subject: 」以降の内容）
- 本文の内容

また，FAX カバーシートに指定して，送信時に内容が自動的に変換される変数があります。FAX カバーシート中で使用できる変数を，表 2.6-9 に示します。

表 2.6-9 FAXカバーシート中で使用できる変数

変数名	変数の内容
~faxfile~	送信ファイル名

●注意事項

- 「Subject: 」は，必ず先頭に指定してください。「Subject: 」の次は，半角の空白を入れて表題を記述してください。
- 「Subject: 」行と本文の間に，1 行以上の空行が必要です。
- 発信者名を変更する場合は，「Subject: 」行の直後に「FROM: 発信者名」を記述してください。「FROM: 」の次は，半角の空白を入れて発信者名を記述してください。「FROM: 」行と本文の間に，1 行以上の空行が必要です。
- FAX カバーシートおよび FAX 通知文の最大は，200 行（80 文字／行換算）です。これは，埋込み文字を変換した後のテキストサイズです。200 行を超えた場合の送信結果は，保証できません。
- テキストファイル中に，「行数を超えました」の文字列があった場合，その文字列以降は送信されませんので注意してください。

(4) FAX送信ファイル一覧

用途

FAX 送信ファイル一覧は，FAX に送信するテキストファイル.TXT を，送信ファイル番号と対応付けて定義する情報です。

カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。

- 送信ファイル番号
- 送信ファイル名

注意事項

送信ファイル名は，完全パス名で指定してください。

(5) マルチメディアファイル定義

用途

マルチメディアファイル定義一覧は，マルチメディア名をマルチメディアファイル名と対応付ける情報です。マルチメディア名は，teldial コマンドの-i パラメタで指定します。

カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。

- マルチメディア名
- マルチメディアファイル名

注意事項

- マルチメディアファイル名は，完全パス名で指定してください。

(6) 電話認証用オープニングメッセージ

用途

トリガフォンでの通知時に，パスワードを要求するガイダンスメッセージとして使用さ

れます。

カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。電話認証用オープニングメッセージで使用できる変数を，表 2.6-2 に示します。ただし，~ovtopodump~変数は使用できません。

- パスワードガイダンスの内容

注意事項

- パスワードガイダンスは 1 行で記述してください。複数行記述した場合は，先頭行だけを有効とします。

パスワードガイダンスは，変数の置換文字を含めて先頭から 98 文字（半角文字は 1 文字，全角文字は 2 文字と数える）までを有効とします。

(7) 電話受信用オープニングメッセージ

用途

トリガフォンを使用して電話から接続 ID を使用して TELstaff に接続するときのガイダンスメッセージとして使用されます。

カスタマイズ項目

カスタマイズできる項目は，次の項目です。

- オープニングメッセージの内容

注意事項

- オープニングメッセージは，全角 128 文字以内で記述してください。
- 文字間にスペースを入れても間は空きません。
- 電話受信時の音声ガイダンスは，セキュリティを確保するために，使われていない電話である旨の内容を，標準提供しています。あらかじめご了承ください。これは，偶然の間違い電話などで接続した場合に，不正に接続を試みることを未然に防止するためです。

2.6.3 ユーザ固有の通知文作成

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。ユーザ固有のメッセージをメール，エージェント，FAX に通知するには，ユーザが通知文ファイルを作成します。また，トリガフォンを使用した電話通知では，ユーザ固有の電話通知文ファイルを作成します。

(1) 通知文ファイルの規則

通知文ファイルの内容を以下に示します。

```
ヘッダ［改行］
 ［改行］
```

```
本文［改行］
```

(a)　ヘッダ

●題名（Subject:）

題名は，「Subject: 」形式で記述し，必ず先頭に記述します。「Subject: 」の次は，半角の空白を入れて題名を記述してください。1 行を 512 バイト単位で，TELstaff が改行を挿入します。分割位置に全角文字がまたがる場合には，511 バイト目で改行します。

(例 1)

```
Subject:△サーバの障害通知［改行］
```

△：半角スペース文字を表します。

題名を複数行に分けて記述する場合は，行の 1 文字目に半角スペース記述して題名を記述します。

(例 2)

```
Subject:△サーバの障害通知［改行］
△（サーバ名：Server1）［改行］
```

△：半角スペース文字を表します。

受信したときの題名は，「サーバの障害通知（サーバ名：Server1）」となります。

●送信者情報（From:）

送信者情報は，「From: 」形式で記述します。「From:」の次は，半角の空白を入れて送信者情報を記述してください。

メール送信の通知文およびエージェント送信の通知文以外の通知文では，指定できません。

メール送信の通知文

送信者情報を変更する場合は，送信者情報を記述します。送信者情報を記述しない場合は，図 4.1-9　環境設定－「E メール」タブの送信者名とメールアドレスを使用します。

(例)

```
From:△telstaff@telstaff.jp［改行］
```

△：半角スペース文字を表します。

エージェント送信の通知文

送信者情報を記述します。送信者情報は，メッセージビューアの差出人欄に表示します。

(例)

```
From:△Server1［改行］
```

△：半角スペース文字を表します。

(b)　本文

ヘッダと本文は，1 行以上の空行（行の先頭位置で改行した行）を挿入して区切ります。空行がないと表示が不正になるので必ず空行を挿入してください。

1 行を 512 バイト単位で，TELstaff が改行を挿入します。分割位置に全角文字がまたがる場合には，511 バイト目で改行します。

最後の行は行末で改行してください。改行が無い場合，メールに添付したファイルが正しく表示されません。

(2) 通知文ファイルの作成

ユーザ固有の通知文ファイルは，連絡網定義ダイアログボックス，teldial コマンドの-fc, -ff，-fm，-fv，-fb オプション，連絡網プロパティー「発信内容」タブ，ネットワーク監視ー「連絡網」タブ，ネットワーク監視ー「その他」タブで指定します。

(a) メール送信の通知文ファイル作成

```
Subject: TELstaffからの連絡（受付番号：~notifynumber~）
[改行]
システムから通報がありましたのでお知らせします。通知ＩＤは~id2~。
通知の受け付けは，~date1~で，受け付け時刻は，~time1~です。
受付け番号は，~notifynumber~です。
                                                発信者 TELstaff
```

図 2.6-1 メール送信の通知文作成例

- 本文は，表 2.6-2 に示す変数が使用できます。
- メール通知文ファイル（連絡網定義ダイアログボックスで指定したメール通知文ファイルと，標準提供のメール通知文ファイルの両方）にメール文が存在しない場合，メールは発信しません。

(b) FAX送信の通知文ファイル作成

```
宛先　~UserName~
      ~UserExplanation~
┌──────────────────────────────────────┐
│            TELstaffからのFAX通知            │
└──────────────────────────────────────┘
システムから通報がありましたのでお知らせします。通知ＩＤは~id2~。
通知の受け付けは，~date1~で，受け付け時刻は，~time1~です。
受付け番号は，~notifynumber~です。
                                                発信者 TELstaff
```

図 2.6-2 FAX送信の通知文作成例

- 本文は，表 2.6-2 に示す変数が使用できます。
- ~UserName~，~UserExplanation~変数は，連絡網からの FAX 発信で使用できます。

(c) エージェント送信の通知文ファイル作成

```
Subject: TELstaffからの連絡（受付番号：~notifynumber~）

システムから通報がありましたのでお知らせします。通知ＩＤは~id2~。
通知の受け付けは，~date1~で，受け付け時刻は，~time1~です。
受付け番号は，~notifynumber~です。
                                                発信者 TELstaff
```

図 2.6-3 エージェント送信の通知文作成例

- 本文は，表 2.6-2 に示す変数が使用できます。

(d) トリガフォンを使用する電話の通知文ファイル作成

```
システムから通報がありましたのでお知らせします。通知ＩＤは~id2~。
通知の受け付けは，~date1~で，受け付け時刻は，~time1~です。
受け付け番号は，~notifynumber~です。
```

図 2.6-4 電話通知文作成例

- 本文は，表 2.6-2 に示す変数が使用できます。
- 通知文ファイルは，ファイル拡張子が tp のファイル名で作成します。
- トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

2.6.4 一括発信ファイルの作成

一括発信（teldial コマンドの-nif オプション）を使用する場合は，事前に一括発信ファイルを作成しておく必要があります。

一括発信では，1 回のダイヤルコマンド（teldial コマンド）で複数のグループ（連絡網 ID）発信と直接発信を混在させて発信可能です。また一括発信ファイル内に記載した個々の発信は発信制限の対象になりません。そのため大量発信による遅延等が起こらないよう，注意して運用を設計してください。

(1) ファイル書式

一括発信ファイルの書式を図 2.6-5 に示します。発信先種別，発信先情報，文字列の説明と記述規則を，表 2.6-10 に示します。

```
発信先種別,発信先情報{改行}
文字列,発信先種別,発信先情報{改行}
```

図 2.6-5 一括発信ファイルの書式

1. 1 行毎に 1024 桁以内のカンマ区切りで発信先を記述します。発信先種別，文字列は，行の先頭 1 文字目から記述します。
2. 行の先頭 1 文字目が「;」で始まる行は，注釈行になります。
3. lamp 発信先情報の「,」（カンマ）は除き，文字列，発信先種別，発信先情報に改行コード，空白文字，「″」（ダブルコーテーション），「,」（カンマ）および文字として認識できないコードを含んだ文字は使用できません。
4. 発信先情報に空白文字を含む場合は，「″」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。
5. 文字列に表 2.6-10 に示す発信先種別は指定できません。
6. 発信先情報に「**!ユーザ名**」を指定する場合は，ユーザ管理（図 5.1-5）に登録している「ユーザ名」でなければなりません。
7. 一括発信を使用する場合は，発信するすべての発信先種別に対する通知文ファイル（または通知メッセージ）を指定しなければなりません。
8. 発信先種別が「net」以外の発信では，1 つの発信に時間がかかる場合，他の発信は待たされて遅延や発信の沈み込み（埋もれ）が起きることがあります。
   発信先種別が「net」の発信では，ある連絡網の発信の沈み込み（埋もれ）を防ぐため，まだ一度も発信されていない連絡網（未発信の連絡網と呼びます）は，既にい

くつかの連絡先に通知済みの連絡網よりも先に発信されます。未発信の連絡網への発信は，連絡網の先頭の通知先に対して先に**第一通報先に対して**発信します。詳細は「2.3.26 先頭優先ルール」を参照してください。

(2) 発信先種別，発信先情報，文字列の説明

一括発信ファイルの書式の発信先種別，発信先情報，文字列の指定項目と説明と記述規則を表 2.6-10 に示します。

表 2.6-10 発信先種別，発信先情報，文字列の説明

発信先種別	発信先情報	説明
tel	電話番号 ※1	電話番号に発信します。
	!ユーザ名 ※2	ユーザ名に定義された最初の電話に発信します。※3
IPphone	電話番号 ※1	電話番号に発信します。
	!ユーザ名 ※2	ユーザ名に定義された最初の電話に発信します。※3
telN	!ユーザ名 ※2	ユーザ名に定義された電話 N に発信します。※4
sms	SMS 番号	SMS 番号に発信します。
	!ユーザ名	ユーザ名に定義された SMS に発信します。
mail ※9	ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ ※5	メールアドレスへメール発信する。
	!ユーザ名	ユーザ名に定義されたすべての宛先に発信します。
mailN ※9	!ユーザ名	ユーザ名に定義されたメール N に発信します。※6
agent ※9	NET: IPAdd※7	IPAdd にエージェント発信します。
agentD※10	回線番号	回線番号にエージェント発信します。
	!ユーザ名 ※8	ユーザ名に定義されたエージェントに発信します。
fax ※9	FAX 番号	FAX 番号に発信します。
	!ユーザ名	ユーザ名に定義された FAX に発信します。
net	連絡網 ID	連絡網 ID に発信します。
	gID /連絡網 ID	gID 連絡網グループの連絡網 ID に発信します。
lamp	表 2.6-11 参照	パトランプを動作させます。
lampD※11	表 2.6-11 参照	パトランプを動作させます。
;	-	注釈行になります。
文字列	-	-nik オプションで指定する文字列を指定します。

注※1 トリガフォンから電話発信でパスワード認証を行う場合で，パスワードを指定するときは，「電話番号:パスワード」で指定します。

注※2 トリガフォンから電話発信でパスワード認証を行う場合，ユーザ定義したパスワードを使用します。パスワード認証機能がないトリガフォンを使用する場合は，パスワードを設定していないユーザ名を指定するか，または発信と受信時の認証方法ダイアログボックス（図 2.6-23）でパスワード認証を無効にします。teldial コマンドの-pn オプション参照してください。

注※3 電話番号の使用方法は，teldial コマンド（11.2.4 電話への発信）の-pn オプション参照してください。

注※4 電話 N は，電話 1 から電話 4 を指定します。

注※5 メールアドレスを複数指定する場合は，256 桁以内のカンマ区切りで指定します。teldial コマンドの-en オプション参照

注※6 メール N は，アドレス 1 からアドレス 3 を指定します。

注※7 通信ポートを指定する場合は，「NET: IPAdd:ポート番号」で指定します。

注※8 ユーザプロパティダイアログボックスー「他の連絡先」タブ（図 5.1-12）でエー

ジェントアドレスをネットワークアドレスと回線番号の両方を設定している場合は，最初に回線番号に通知し，次にネットワークアドレスの順番で両方に通知します。両方に通知できない場合は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のエージェント繰り返し回数に設定された回数の再通知行い，どちらかの AECL（または AEPE，AESE）が受信できたとき，通知を終了します。teldial コマンドの-cn オプション参照してください。

注※9　メール通知文（-fm オプション），エージェント通知文（-fc オプション），FAX 通知文（-ff オプション）を省略した場合は，連絡網発信で使用する標準通知文を使用します。標準通知文は，環境設定－「カスタマイズ」タブの「連絡網発信用－標準メール通知文」，「連絡網発信用－標準エージェント通知文」，「連絡網発信用－標準 FAX 通知文」になります。

注※10 「agent」とは以下の点が異なります。

- 発信抑止，発信取消，発信スケジュール機能，および並列稼動機能は，使用できません。
- エージェント発信統計情報は記録されません。
- 発信・監視操作ウィンドウ（「発信取り消し」タブ）に表示されません。
- TELstaff メッセージ記録には，エージェント発信記録は出力されません。エージェント通信の動作記録は，「ネットワーク通信の記録」を参照してください。
- エージェント発信ができない場合の発信の繰り返しは，使用できません。

注※11 「lamp」とは以下の点が異なります。

- 発信抑止，発信取消，発信スケジュール機能，および並列稼動機能は，使用できません。
- パトランプ発信統計情報は記録されません。
- 発信・監視操作ウィンドウ（「発信取り消し」タブ）に表示されません。
- TELstaff メッセージ記録には，パトランプ発信記録は出力されません。パトランプの動作記録は，「リレー装置動作記録」を参照してください。
- パトランプが動作できない場合の発信の繰り返しは，使用できません。

表 2.6-11　lamp発信先情報の説明

lamp の発信先情報	説明
COM 名,on,接点番号 ※1	COM 名に接続された接点番号をオンにします。
COM 名,on,all	COM 名に接続されたすべての接点をオンにします。
COM 名,off,接点番号	COM 名に接続された接点番号をオフにします。
COM 名,off,all	COM 名に接続されたすべての接点をオフにします。
NET:IPAddr,on,接点番号※2	IPAddr に接続された接点番号をオンにします。
NET:IPAddr,on,all	IPAddr に接続されたすべての接点をオンにします。
NET:IPAddr,off,接点番号	IPAddr に接続された接点番号をオフにします。
NET:IPAddr,off,all	IPAddr に接続されたすべての接点をオフにします。
agent:IPAddr,on,接点番号※3	IPAddr の AECL（または AEPE，AESE）に接続された接点番号をオンにします。
agent:IPAddr,on,all ※3	IPAddr の AECL（または AEPE，AESE）に接続されたすべての接点をオンにします。
agent:IPAddr,off,接点番号※3	IPAddr の AECL（または AEPE，AESE）に接続された接点番号をオフにします。
agent:IPAddr,off,all ※3	IPAddr の AECL（または AEPE，AESE）に接続されたすべての接点をオフにします。

注※1　接点番号は，「:」区切りで複数指定できます。
注※2　通信ポートを指定する場合は，「IPAddr:ポート番号」で指定します。
注※3　「agent」は，発信先種別が「lampD」の場合に使用できます。パトランプが接続されている RS232C のポート番号は，AECL（または AEPE，AESE）側の TELstaff 標準のポート番号を使用します。

(3) 作成例

一括発信ファイルの作成例を図 2.6-6 に示します。

```
tel,045-xxx-yyyy
tel,045-xxx-yyyy:1234
tel,"!TELstaff管理者"
tel2,!TELstaff管理者
sms,045-xxx-yyyy
sms,"!TELstaff管理者"
mail,telstaff@telstaff.jp
mail2,"!TELstaff管理者"
agent,NET:100.100.100.10
agent,NET:100.100.100.10:35000
agentD,NET:100.100.100.10:35000
agent,045-xyz-xxxx
agent,!TELstaff管理者
fax,045-xxx-yyyy
fax,!TELstaff管理者
net,100/2000
lamp,COM1,on,1:3
lamp,COM1,off,all
lamp,NET:100.100.100.10:30000,on, 1:3
lamp,NET:100.100.100.10:30000,off,all
lampD,NET:100.100.100.10:30000,on, 1:3
lampD,agent:100.100.100.10:30000,on, 1:3
緊急状態,mail,"!TELstaff管理者"
障害通知,mail2,!TELstaff管理者
障害通知,lamp,NET:100.100.100.10:30000,on, 1:3
```

図 2.6-6　一括発信ファイルの作成例

3.インストール

この章では，TELstaff のインストール手順について説明します。

3.1 TELstaffのインストール

3.2 Windowsの設定

3.3 その他のセットアップ

3.1TELstaffのインストール

3.1.1 インストール手順

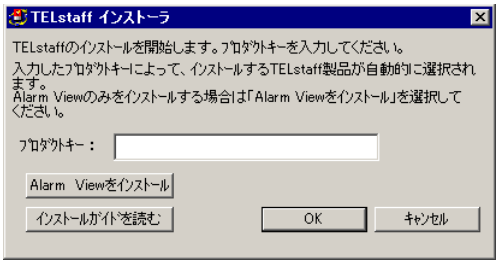
(1) 手順概要

以下の手順でインストールを行います。

1. Administrators 権限ユーザで Windows にログオンし，すべてのアプリケーションを終了させます
2. 提供媒体を CD-ROM 読み取り装置に挿入します。
3. 自動的に表示されるインストーラの画面に記載された指示に従ってインストールを実施します。
4. TELstaff のインストール完了後，必要に応じて「3.2 Windows の設定」に記載の設定を実施します。

(2) 日立ソリューションズ版に特有のインストール手順

日立ソリューションズ版の TELstaff をインストールする場合，最初に次のダイアログボックスが表示されます。



このダイアログボックスが表示されましたら，ご購入いただいた製品のプロダクトキーを入力して［OK］ボタンを押してください。確認画面の表示後に，ご購入いただいた製品のインストールが始まります。また AEAV をインストールする場合は［Alarm View をインストール］ボタンを押してください。これらの場合，プロダクトキーを指定する必要はありません。

(3) 注意事項

- TELstaff のインストールでは Windows に同梱されているプログラム「regedit.exe」が必要です。セキュリティ等の理由で当該プログラムを削除・移動等されている場合，TELstaff のインストール処理を始める前に，一時的に元の場所に戻してください。
- 異なるバージョン・リビジョンの評価版がすでにインストールされている場合，インストールを開始できません。先に評価版をアンインストールしてください。
- ある TELstaff 製品がインストールされた環境に，別の TELstaff 製品をインストールすることはできません。ただし，TELstaff AE Standard Edition がインストールされた環境に TELstaff AE Professional Edition をインストールすることは可能です。なお，その逆は不可能です。
- 日立ソリューションズ版 TELstaff をインストールする場合で，インストーラの

画面が自動的に表示されない場合，提供媒体に格納されている install.exe を実行してください。

- Windows ファイアウォールの利用を選択している場合，インストール完了後に TELstaff Message Console プログラムに対するセキュリティ警告画面が表示されることがあります。この画面が表示された場合，［ブロックを解除する］ボタンを押し，当該プログラムのネットワーク通信を許可してください。

3.1.2 バージョンアップ・上書きインストール

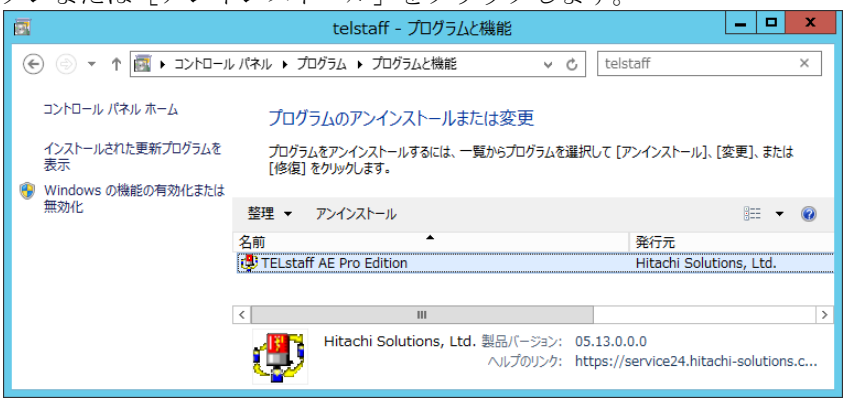
同一製品のバージョンアップまたは上書きインストールを行う際は，TELstaff サービスを停止し，開いている TELstaff のウィンドウをすべて閉じてから，上位バージョンの製品をインストールしてください。

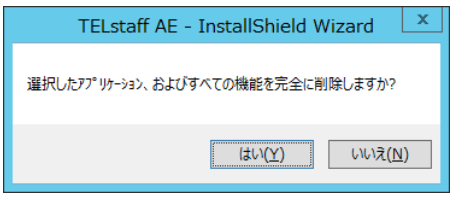
バージョンアップ・上書きインストール時は，下位バージョンの定義情報を引き継ぎます。

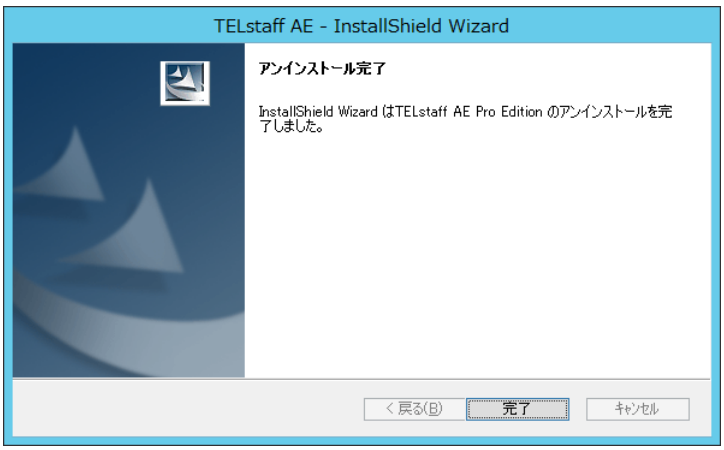
3.1.3 アンインストール

TELstaff のアンインストールは，次の手順で行います。

1. TELstaff サービスを停止し，開いている TELstaff のプログラムをすべて終了してください。また Windows のイベントビューア，およびその他のアプリケーションも閉じてください。
2. Windows のコントロールパネルにある「プログラムの追加と削除」または「プログラムと機能」にて，アンインストールしたい TELstaff 製品を選択し，［変更と削除］ボタンまたは［アンインストール］をクリックします。







3. 定義情報などを記録したファイルはアンインストールでは削除されません。これらの情報も含めて完全に削除する場合は，インストールフォルダをエクスプローラなどで削除してください。
4. 「3.2 Windows の設定」で設定した項目を手動で元に戻してください。

アンインストール完了時に，コンピュータの再起動が必要と表示される場合があります。そこでコンピュータの再起動を行わず，かつ再起動するまでの間に TELstaff 製品をインストールすることはできません。もしインストールすると正常にインストールされません。

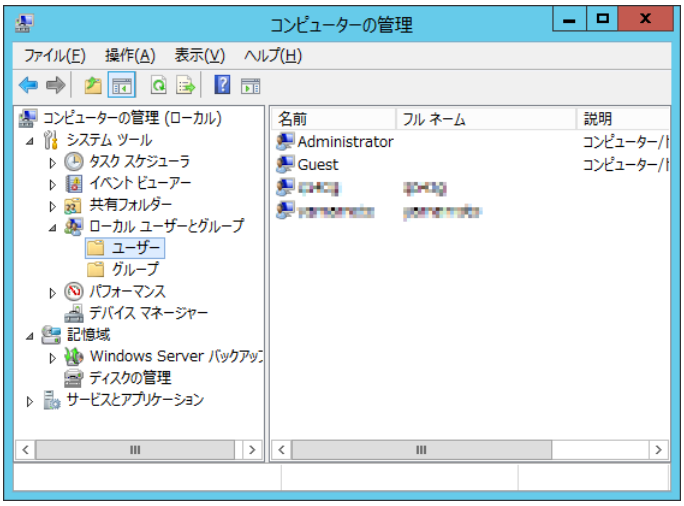
3.2Windowsの設定

3.2.1 サービスアカウントの設定

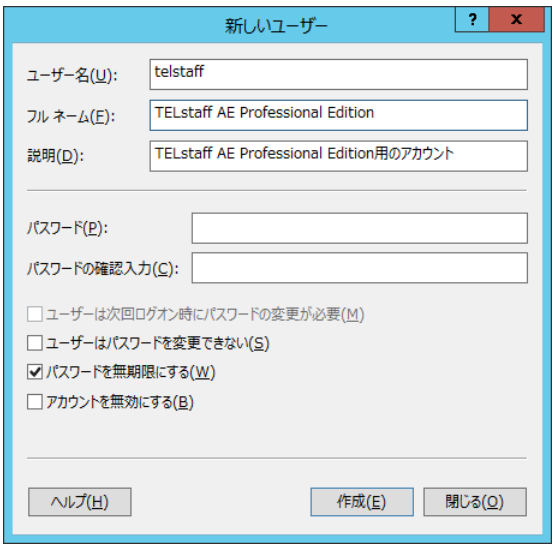
インストール完了後，TELstaff のサービスを実行するアカウントの設定を行います。なお本設定を行わなくとも製品は動作しますが，可能な限り設定することを推奨します [iii]。

以下，サービスアカウントの設定方法を Windows Server 2012 R2 を例に説明します。

1. 管理ツールからコンピュータの管理画面を開きます。



2. 「ローカルユーザーとグループ」の「ユーザー」を選択して TELstaff サービスのサービスアカウントで使用するユーザーアカウントを作成します。

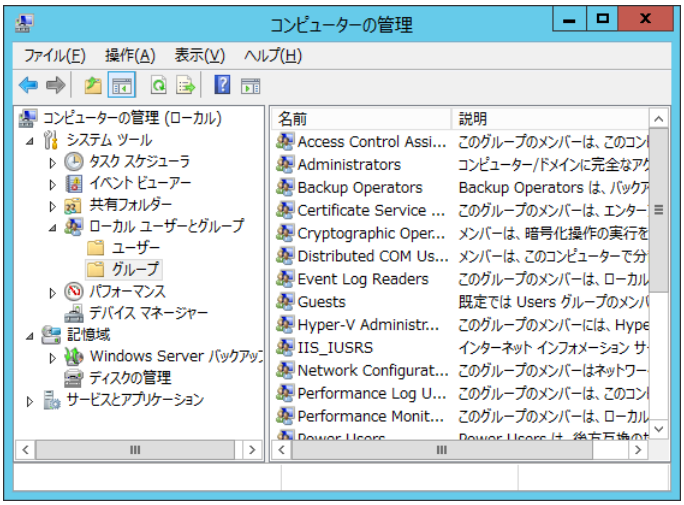


---

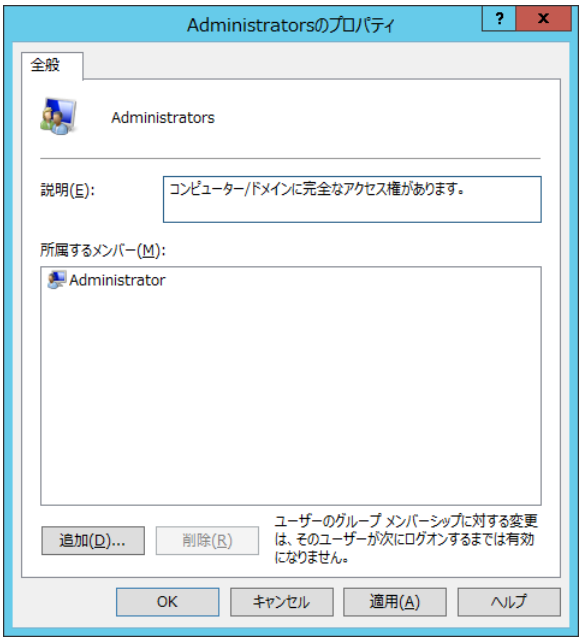
i　サービスの動作にはデスクトップヒープ領域と呼ばれるリソースが必要であり，これは OS がアカウントごとに割り振ります。ここで，インストールと同時に設定される「ローカルシステムアカウント」は他のサービスと共有であり，このリソース領域も他サービスと共有します。このため他サービスのデスクトップヒープの使用が TELstaff のデスクトップヒープ不足を引き起こす，あるいはその逆が起こりやすくなります。これを予防するため，専用アカウントの使用を推奨しています。

ii　メール受信監視あるいはメール開封確認で OAuth 認証を使用し，かつ Proxy を経由する場合には，専用アカウントが必要となる可能性があります。「ローカルシステムアカウント」で Proxy サーバを経由できない場合には，Proxy サーバの管理者へご相談ください。

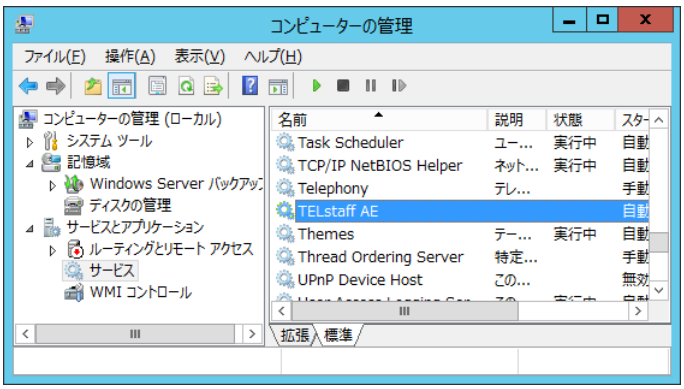
3. 「ローカルユーザーとグループ」の「グループ」を選択します。



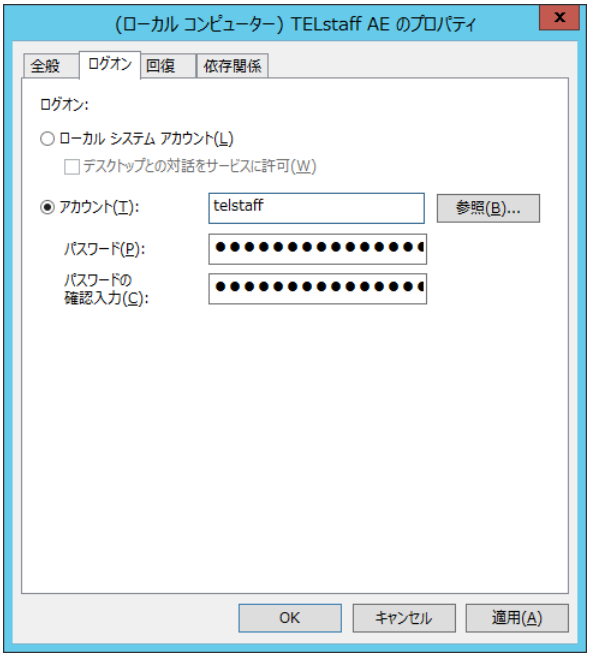
4. Administrators グループを選択して Administrators のプロパティ画面を開きます。
5. 追加ボタンを押して Administrators グループに TELstaff サービスのサービスアカウントで使用するユーザーアカウントを追加します。



6. 管理ツールの「サービス」から次の画面を開きます。



7. TELstaff サービスのサービスアカウントを設定する TELstaff 製品を選択してサービスプロパティ画面を開きます。
8. 「アカウント」ラジオボタンをチェックして TELstaff サービスのサービスアカウントで使用するユーザーアカウントを指定し，TELstaff サービスを再起動します。



3.2.2 Windowsファイアウォールの設定

(1) 受信ポートの例外登録

Windows ファイアウォールの利用を選択している場合は，TELstaff が使用する各ネットワーク通信ポートの使用許可設定が必要です。TELstaff の使用するポート番号については，1.4.16 を参照してください。

(2) プログラムの例外登録

使用する TELstaff の機能によっては，プログラムの例外登録が必要です。TELstaff の機能と，その機能を使用する場合に例外登録する必要のあるプログラム（プロセス名）は下表のとおりです。

TELstaff の機能	例外登録の必要なプログラム
IP 電話発信	<インストールフォルダ>¥PROGRAM¥tliptsrv.exe

3.3その他のセットアップ

3.3.1 ダイヤルアップ接続の構成設定

ダイヤルアップネットワーク接続でインターネット接続事業者（プロバイダ）の SMTP メールサーバを使用してメール発信する場合，Windows コマンドの rasphone コマンドでダイヤルアップ接続を構成しておく必要があります。

3.3.2 RS-232C-Ethernetコンバータの設定- PHN-Sをご使用の場合

(1) ファームウェアの更新

製造元より最新のファームウェアが提供されている場合があります。お使いの際にはファームウェアが最新であるかご確認の上，最新でない場合はアップデートすることをお勧めいたします。

(2) メッセージ表示ボードで使用する場合の設定方法

RS-232C-Ethernet コンバータ（PHN-S）を使用するには， IP アドレスや通信ポートなどの設定が必要になります。次の手順で IP アドレスや通信ポートなどの必要な項目を設定してください。設定終了後は，動作モード設定スイッチを 0（運転モード）に設定してください。

(a) 初期設定ネットワークへの接続

RS-232C-Ethernet コンバータ（PHN-S）を使用するネットワークに接続するために PHN-S の初期設定を行います。初期設定方法は，付属の取り扱い説明書を参照してください。

(b) 「PHN Manager」のインストール

付属の「PHN Manager」をパソコンにインストールします。インストール方法は，取り扱い説明書を参照してください。

(c) 設定

PHN Manager を使用するか，または telnet を使用して次の項目を設定します。PHN Manager の使用方法や telnet による設定方法については，付属の取り扱い説明書を参照してください。

設定項目	設定内容
サーバ/クライアント	サーバ
ユニット IP	使用する IP アドレス
ユニットポート	使用するポート番号

設定項目	設定内容
サブネットマスク	サブネットマスク
ボーレート	9600
通信監視	「無」
接続切替	「有」

3.3.3 接点入力ユニットで使用する場合の設定方法

RS-232C-Ethernet コンバータ（PHN-S）を使用するには， IP アドレスや通信ポートなどの設定が必要になります。次の手順で IP アドレスや通信ポートなどの必要な項目を設定してください。設定終了後は，動作モード設定スイッチを 0（運転モード）に設定してください。

(1) 初期設定ネットワークへの接続

RS-232C-Ethernet コンバータ（PHN-S）を使用するネットワークに接続するために PHN-S の初期設定を行います。初期設定方法は，付属の取り扱い説明書を参照してください。

(2) 「PHN Manager」のインストール

付属の「PHN Manager」をパソコンにインストールします。インストール方法は，取り扱い説明書を参照してください。

(3) 設定

接点入力ユニットを「ポーリングモード」で使用するときの設定内容

PHN Manager を使用するか，または telnet を使用して次の項目を設定します。PHN Manager の使用方法や telnet による設定方法については，付属の取り扱い説明書を参照してください。

設定項目	設定内容
サーバ/クライアント	サーバ
ユニット IP	使用する IP アドレス
ユニットポート	使用するポート番号
サブネットマスク	サブネットマスク
ボーレート	9600
通信監視	「無」
接続切替	「有」

接点入力ユニットを「イベントモード１」または「イベントモード２」で使用するときの設定内容

PHN Manager を使用するか，または telnet を使用して次の項目を設定します。PHN Manager の使用方法や telnet による設定方法については，付属の取り扱い説明書を参照してください。

設定項目	設定内容
サーバ/クライアント	クライアント
ユニット IP	使用する IP アドレス
ユニットポート	使用するポート番号
サーバ IP	TELstaff サーバの IP アドレス
サーバポート	TELstaff サーバのポート番号
サブネットマスク	サブネットマスク
ボーレート	9600
通信監視	「無」
接続切替	「有」

3.3.4 RS-232C-Ethernetコンバータの設定- IT-C10REをご使用の場合

(1) 信号灯・回転灯・メッセージ表示ボードで使用する場合

(a) ネットワークに接続して設定する場合

直接 Windows に接続する場合は LAN クロスケーブルで，HUB を介して接続する場合は LAN ストレートケーブルで接続します。telnet でコンバータの標準 IP アドレスでコンバータにログインします。コンバータの標準 IP アドレスは，取り扱い説明書を参照してください。

(b) RS232Cに接続して設定する場合

Windows の RS232C とコンバータの RS232C とをクロスケーブルで接続します。後面の MODE 設定スイッチを"CON"にしてターミナルソフトでログインします。ターミナルソフトの通信速度は，19200 bps に設定します。設定終了後は，後面の MODE 設定スイッチを"NOM"にします。

(c) 設定内容

コンバータの設定では，次の項目を設定します。設定情報を下に示します。設定の操作方法について取り扱い説明書を参照してください。

設定後信号灯が動作しない場合は，PC をリブートすることで動作する場合があります。

1. IP アドレス を指定します。
2. TCP/IP ポート番号 を指定します。
3. ゲートウェイアドレスが必要な場合は，ゲートウェイアドレスを指定します。
4. サブネットマスクの設定が必要な場合は，サブネットマスクを設定します。
5. 接続モードを ServerMode モードに設定します。
6. RS232C 通信速度を 9600 に設定します。

```
<<<<< Current Configuration >>>>>
<<< Ethernet >>>
< IP Address >      < Net Mask >      < Gateway Address >
  xxx.xxx.xxx.xxx  255.255.255.0          0.0.0.0
< Connect Mode >   < TCP Port Num. >  < Inactivity >
    Server Mode        nnnnn             180
```

```
<<< RS-232C >>>
< Baud Rate >     < Bit >    < Parity >   < Signal ER >  < Signal RS >
    9600           8         None          ON             ON
< Flow Control >   < Delimiter >   < Delimiter Code (hex) >
    None             None
```

(2) 接点入力ユニットで使用する場合

(a) ネットワークに接続して設定する場合

直接 Windows に接続する場合は，10 BASE-T クロスケーブルで接続します。HUB に接続する場合は，10BASE-T ストレートケーブルで接続します。コントロールパネルの「ネットワーク」から「プロトコル」を選択し，TCP/IP プロトコルプロパティを開き，デフォルトゲートウェイを Windows の IP アドレスと同じにします。telnet でコンバータの標準 IP アドレスでコンバータにログインします。コンバータの標準 IP アドレスは，取り扱い説明書を参照してください。

(b) RS232Cに接続して設定する場合

Windows の RS232C とコンバータの RS232C とをクロスケーブルで接続します。後面の MODE 設定スイッチを"CON"にしてターミナルソフトでログインします。ターミナルソフトの通信速度は，19200 bps に設定します。設定終了後は，後面の MODE 設定スイッチを"NOM"にします。

(c) 設定内容

接点入力ユニットを「ポーリングモード」で使用するときの設定内容

コンバータの設定では，次の項目を設定します。設定情報を下に示します。設定の操作方法について取り扱い説明書を参照してください。

1. IP アドレス を指定します。
2. TCP/IP ポート番号 を指定します。
3. ゲートウェイアドレスが必要な場合は，ゲートウェイアドレスを指定します。
4. サブネットマスクの設定が必要な場合は，サブネットマスクを設定します。
5. 接続モードを ServerMode モードに設定します 。
6. RS232C 通信速度を 9600 に設定します。

```
<<<<< Current Configuration >>>>>
<<< Ethernet >>>
< IP Address >      < Net Mask >      < Gateway Address >
  xxx.xxx.xxx.xxx  255.255.255.0          0.0.0.0
< Connect Mode >   < TCP Port Num. >  < Inactivity >
    Server Mode       nnnnn             180
<<< RS-232C >>>
< Baud Rate >     < Bit >    < Parity >   < Signal ER >  < Signal RS >
    9600           8         None          ON             ON
< Flow Control >   < Delimiter >   < Delimiter Code (hex) >
    None             None
```

接点入力ユニットを「イベントモード１」で使用するときの設定内容

コンバータの設定では，次の項目を設定します。設定情報を下に示します。設定の操作方法について取り扱い説明書を参照してください。

1. IP アドレス を指定します。
2. TCP/IP ポート番号 を指定します。
3. ゲートウェイアドレスが必要な場合は，ゲートウェイアドレスを指定します。
4. サブネットマスクの設定が必要な場合は，サブネットマスクを設定します。
5. 接続モードを ClientMode モードに設定します。
6. サーバーアドレスに接点入力監視機能を使用する AEPE または AESE の IP アドレスを指定します。
7. RS232C 通信速度を 9600 に設定します。

```
<<<<< Current Configuration >>>>>
<<< Ethernet >>>
< IP Address >      < Net Mask >      < Gateway Address >
  xxx.xxx.xxx.xxx  255.255.255.0          0.0.0.0
< Connect Mode >  < Server Address >  < TCP Port Num. >  < Inactivity >
    Client Mode    xxx.xxx.xxx.xxx        nnnnn             180
<<< RS-232C >>>
< Baud Rate >     < Bit >    < Parity >   < Signal ER >  < Signal RS >
    9600           8         None         ON             ON
< Flow Control >  < Delimiter >   < Delimiter Code (hex) >
    None            None
```

接点入力ユニットを「イベントモード２」で使用するときの設定内容

コンバータの設定では，次の項目を設定します。設定情報を下に示します。設定の操作方法について取り扱い説明書を参照してください。

1. IP アドレス を指定します。
2. TCP/IP ポート番号 を指定します。
3. ゲートウェイアドレスが必要な場合は，ゲートウェイアドレスを指定します。
4. サブネットマスクの設定が必要な場合は，サブネットマスクを設定します。
5. 接続モードを DemandMode モードに設定します。
6. RS232C 通信速度を 9600 に設定します。

```
<<<<< Current Configuration >>>>>
<<< Ethernet >>>
< IP Address >      < Net Mask >      < Gateway Address >
  xxx.xxx.xxx.xxx  255.255.255.0          0.0.0.0
< Connect Mode >   < TCP Port Num. >  < Inactivity >
    Demand Mode       nnnnn             180
<<< RS-232C >>>
< Baud Rate >     < Bit >    < Parity >   < Signal ER >  < Signal RS >
    9600           8         None         ON             ON
< Flow Control >  < Delimiter >   < Delimiter Code (hex) >
    None            None
```

3.3.5 ネットワーク対応型パトランプの設定

ネットワーク対応型パトランプ（PHN-3FBE1, PHN-R）の設定方法を以下に示します。

(1) ファームウェアの更新

製造元より最新のファームウェアが提供されている場合があります。お使いの際にはファームウェアが最新であるかご確認の上，最新でない場合はアップデートすることをお勧めいたします。

(2) 設定方法

RS-232C-Ethernet コンバータ（PHN-3FBE1, PHN-R）を使用するには， IP アドレスや通信ポートなどの設定が必要です。次の手順で IP アドレスや通信ポートなどの必要な項目を設定してください。設定終了後は，動作モード設定スイッチを 0（運転モード）に設定してください。

(a) 初期設定ネットワークへの接続

RS-232C-Ethernet コンバータ（PHN-3FBE1, PHN-R）を使用するネットワークに接続するために PHN-3FBE1 および PHN-R の初期設定を行います。初期設定方法は，付属の取り扱い説明書を参照してください。

(b) 「PHN Manager」のインストール

付属の「PHN Manager」をパソコンにインストールします。インストール方法は，取り扱い説明書を参照してください。

(c) 設定

PHN Manager を使用するか，または telnet を使用して次の項目を設定します。PHN Manager の使用方法や telnet による設定方法については，付属の取り扱い説明書を参照してください。

設定項目	設定内容
ユニット IP	使用する IP アドレス
ユニットポート	使用するポート番号
サブネットマスク	サブネットマスク
通信監視	「無」
接続切替	「有」

3.3.6 NHシリーズパトランプの設定

NH シリーズパトランプ（NHL-5FB1，他 NHx-yFB1(x には L, P, S のいずれか，y には 1~5 いずれかの数字が入ります)）の設定方法を以下に示します。各項目での操作・設定方法は，パトランプ付属の取扱説明書を参照してください。

(1) ファームウェアの更新

製造元より最新のファームウェアが提供されている場合があります。お使いの際にはファームウェアが最新であるかご確認の上，最新でない場合はアップデートすることをお勧めいたします。

(2) 設定方法

NH シリーズパトランプ（NHL-5FB1，他 NHx-yFB1）を使用するには，IP アドレスや通信ポートなどの設定が必要です。次の手順で IP アドレスや通信ポートなどの必要な項目を設定してください。設定終了後は，パトランプを再起動させてください。

(a) 設定

NH シリーズパトランプ（NHL-5FB1，他 NHx-yFB1）を使用するネットワークに接続するために，Web ブラウザを使用して次の項目を設定します。

「システム設定」にて設定する内容は以下のとおりです。

設定項目	設定内容
IP アドレス	使用する IP アドレス
サブネットマスク	TELstaff では使用しませんが，設定は必須です。
ホスト名	TELstaff では使用しませんが，設定は必須です。

「ソケット通信設定」にて設定する内容は以下のとおりです。

設定項目	設定内容
プロトコル	TCP
ポート番号	使用するポート番号

3.3.7 ISA社製信号灯の設定

ISA 社製信号灯を使用する場合，その設定方法を以下に示します。各項目での操作・設定方法は，機器の取扱説明書を参照してください。

(1) ファームウェアの更新

製造元より最新のファームウェアが提供されている場合があります。お使いの際にはファームウェアが最新であるかご確認の上，最新でない場合はアップデートすることをお勧めいたします。

(2) 設定方法

ISA 社製信号灯を使用するには，IP アドレスなどの設定が必要です。次の手順で必要な項目を設定してください。

(a) 設定

ISA 社製信号灯を使用するネットワークに接続するために，Web ブラウザを使用して次の項目を設定します。（DN-1500GX を例に以下記載いたします。）

「LAN 設定」にて以下の設定項目を設定します。

設定項目	設定内容
IPv4 アドレス	IP アドレス

TELstaff では必須ではありませんが，コマンド実行用パスワードを使用する場合，「コマンドアクセス設定」にて以下の設定項目を設定します。

設定項目	設定内容
ユーザ名	RSH アクセスユーザ名
コマンドパスワード	有効化

3.3.8 トリガフォンのご使用準備

ご購入後は，デュップスイッチ，ロータリスイッチを下表のように設定してください。工場出荷状態では，下表に設定されています。詳しくは，取り扱い説明書を参照してください。

スイッチ／機器	TP1000	TP1000/Ⅱ※1	TP2000
デュップスイッチ 1 (DSW1)	1 番スイッチを OFF(下)	1 番スイッチを ON(上)	設定は必要ありません
デュップスイッチ 2 (DSW2)	－	8 番スイッチを ON(上)	－
ロータリスイッチ	－	－	0 番に設定

※1： TP1000/Ⅱを TP1000 モードに設定して使用する場合，デュップスイッチ 2 の 5 番スイッチ(DSW2-5)を OFF(下)にして使用してください。

トリガフォンとモデムを同じ公衆回線で使用するときは，モデムは発信専用で使用してください。モデムの設定を受信または受発信で使用されますとトリガフォンへの発信ができなくなります。

携帯電話で受信するとき，場合によってはリングバックトーン検出時間を長めに設定する必要はあります。設定方法については，TriggerPhone（TP1000/Ⅱ）USER'S MANUAL，または，TP2000 ユーザーズ マニュアルを参照ください。

なお，トリガフォンが使用できない場合は次に原因が考えられます。

- （TP1000/Ⅱの場合）デュップスイッチ 1 の 1 番スイッチ(DSW 1-1)が OFF(下)になっている。
  （TP1000 の場合）デュップスイッチの 1 番スイッチ(DSW-1)が ON(上)になっている。

  （TP2000 の場合）ロータリスイッチの設定

  ・RS232C で接続するとき

  ロータリスイッチが 2 番になっていない。

  ・LAN 経由で接続するとき

  ロータリスイッチが 8 番になっていない。

  ・LAN 経由で接続し，通信方法として TLS を使用するとき

  ロータリスイッチが 9 番になっていない。
- 電話通知ファイルのファイル拡張子が，tp 以外である。

- RS232C と接続するケーブルが，クロスケーブルでないか，または RS232C が使用できない。
- 電話回線をモデムとトリガフォンで共用する場合は，モデムの属性を「受信」または「受発信」で設定している。
- Windows の RS232C プロパティでフロー制御を設定している。フロー制御は，（なし）に設定してください。
- （TP1000，TP1000/Ⅱの場合）トリガフォンの通信速度設定が 9600 bps 以外である。出荷時の初期設定は 9600 bps です。

3.3.9 接点入力ユニット（PW-501）のご使用準備

TELstaff AE Professional Edition 05-05 以降で，シスメックスＲＡ株式会社製の接点入力ユニット（PW-501）を使用する場合は，事前に IP アドレスなどの初期情報を設定しておく必要があります。その上で PC と WWW ブラウザを使用して接点入力ユニットに接続し，WWW ブラウザに表示される[アプリケーション動作パラメータの設定，参照]－[接点入出力転送設定]の項目から下記事項を設定します。

設定変更は，PC とシリアル接続，または，ネットワーク接続して行います。接点入力ユニットの取扱説明書をご参照下さい。下記の設定が TELstaff と連携する際に必要な設定になります。なお，[アプリケーション動作パラメータの設定，参照]－[シリアル転送設定]の[自ポート番号]と，[アプリケーション動作パラメータの設定，参照]－[接点入出力転送設定]の[自ポート番号]は，異なるポート番号を指定してください。

ポーリングモードの場合

設定項目	設定内容
接続方法	サーバ
自ポート番号	機器の待ち受けポート番号
入力データ定期通報	0

イベントモード１の場合

設定項目	設定内容
接続方法	クライアント
宛先 IP アドレス	TELstaffPC の IP アドレス
宛先ポート番号	接点入力監視で設定したポート番号
クライアント接続	常時接続
無通信監視タイマー	0
入力データ変化通報	有効
入力データ通報マスク	(有効)監視接点に 1

イベントモード２の場合

設定項目	設定内容
接続方法	クライアント
宛先 IP アドレス	TELstaffPC の IP アドレス

設定項目	設定内容
宛先ポート番号	接点入力監視で設定したポート番号
クライアント接続	通信時接続
無通信監視タイマー	通信切断タイマー(秒)
入力データ変化通報	有効
入力データ通報マスク	(有効)監視接点に 1

3.3.10 メッセージ表示ボードのご使用準備

(1) AC電源コードの接続

メッセージ表示ボード背面の端子台カバーを取り外し，端子台の「AC100V」の端子台ねじ（2 箇所）に電源コードを取り付けてください。

(2) 設定スイッチの変更

メッセージ表示ボード背面の端子台カバーを取り外し，設定スイッチ２（DSW2）の７を ON 状態にしてください。設定スイッチの操作方法は，メッセージ表示ボード付属の取り扱い説明書を参照してください。

(3) メッセージ表示ボードの接続

メッセージ表示ボードのシリアルポートと Windows パソコンのシリアルポートを RS-232C クロスケーブルで接続してください。

(4) 「VM-WinR」のインストール

付属の「VM-WinR」を，メッセージ表示ボードを接続したパソコンにインストールします。インストール方法は，メッセージ表示ボード付属の取り扱い説明書を参照してください。

(5) 初期設定データの作成

VM-WinR を使用して次の登録プロジェクトを作成してください。VM-WinR の使用方法については，メッセージ表示ボード付属の取り扱い説明書を参照してください。

VM-WinR のタブ名称	設定項目	設定内容
「プロジェクト情報」	表示器名称	「VM(S)96A-108TE」
	プロジェクト名	(任意の名称)
	用途設定	「情報板」
	動作モード	「通信モード」
	動作方式	「VSN 準拠」 「固定アドレス」
「通信詳細設定」	受信方式	「ENQ+ID+ESC+MODE+Ax＋Dx＋CR」
	返信方式	「ACK or NAK」
	送信方式	「STX+ID+Dx+CR+ETX」
	読み出し/出力モード	「読み出し」
「通信ポート設定」	ボーレート	「9600bps」

VM-WinR のタブ名称	設定項目	設定内容
	ストップビット	「1」
	データ長	「8」
	パリティ	「なし」

(6) 初期設定データの送信

以下の通信設定のもと，VM-WinR を使用してデータをメッセージ表示ボードに送信してください。VM-WinR の使用方法については，メッセージ表示ボード付属の取り扱い説明書を参照してください。

設定項目	設定内容
通信ポート	（任意のポート名）
ボーレート	「38400」
ストップビット	「1」
データ長	「8」
パリティ	「偶数」

(7) 設定スイッチの戻し

メッセージ表示ボード背面の端子台カバーを取り外し，設定スイッチ２（DSW2）の７を OFF 状態にしてください。設定スイッチの操作方法は，取り扱い説明書を参照してください。

(8) コンバータの設定

メッセージ表示ボードをネットワーク接続する場合はコンバータ（IT-C10RE または PHN-S）が必要です。コンバータの設定方法は，「3.3.4 RS-232C-Ethernet コンバータの設定- IT-C10RE」または「3.3.2 RS-232C-Ethernet コンバータの設定- PHN-S」以下を参照してください。

4.TELstaffの環境設定

この章では，TELstaff の環境設定方法について説明します。

4.1　TELstaffの環境設定

4.2　メッセージ通知方法の設定

4.3　テキスト音声変換の設定

4.4　メッセージエージェント構成の設定

4.5　実行コマンドの設定

4.6　接点入力監視の設定

4.7　プロセス監視の設定

4.8　ファイル監視の設定

4.9　メッセージ監視の設定

4.10　ドライバ監視の設定

4.11　サービス監視の設定

4.12　SNMPトラップ監視の設定

4.13　ディスク容量監視の設定

4.14　機器稼動監視の設定

4.15　稼動状況監視の設定

4.1TELstaffの環境設定

4.1.1 TELstaffの環境設定ダイアログボックス

TELstaff のシステム構成は，環境設定ダイアログボックスで，Administrators 権限ユーザで定義します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。

環境設定ダイアログボックスを，図 4.1-1 に示します。

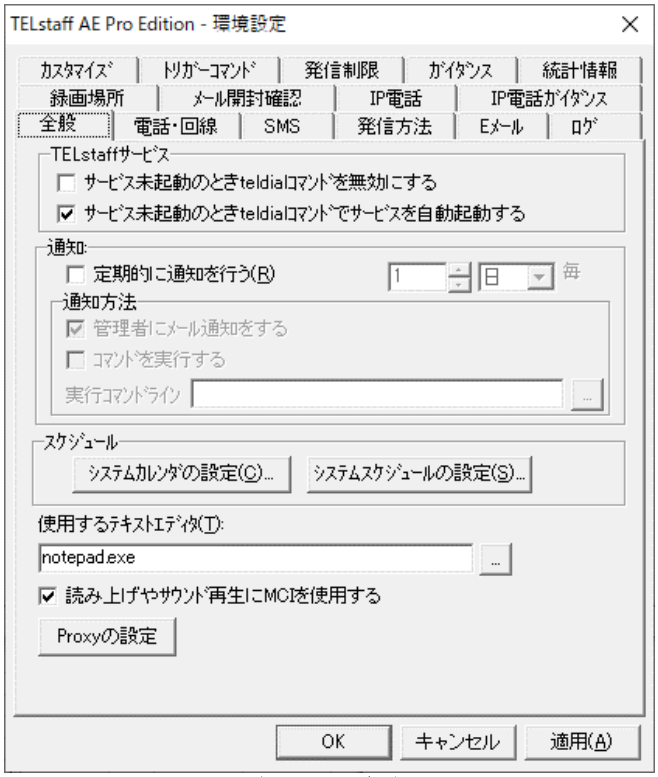


図 4.1-1 環境設定ダイアログボックス

環境設定ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff AE Professional Edition / Standard Edition】，【TELstaff AE Client】のどれかの【TELstaff の設定】から【環境設定】を選択して表示します。

環境設定ダイアログボックスには，次の 14 個のタブがあり，それぞれのタブで各種設定項目を設定します。環境設定ダイアログボックスで TELstaff のシステム構成を変更したときは，TELstaff サービスの再起動が必要です。

(1) 環境設定－「全般」タブ

TELstaff システム全般の設定をします。環境設定－「全般」タブを図 4.1-2 に示します。

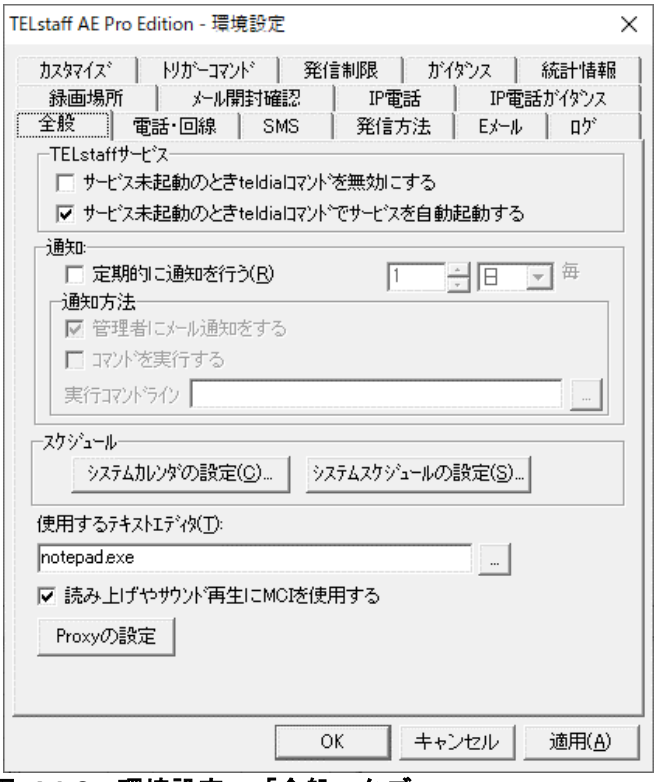


図 4.1-2　環境設定ー「全般」タブ

(a)　「サービス未起動のときteldialコマンドを無効にする」チェックボックス

TELstaff サービスが起動されていないときに実行された teldial コマンドや TELstaff サービスが起動中の発信の扱いを指定します。

AECL では，設定できません。

●チェックしたときの扱い

- TELstaff サービスが未起動のときに受け付けた teldial コマンドは，無効にして終了します。-to オプションを指定した teldial コマンドは，無効にしないで TELstaff サービスが開始したとき実行します。
- TELstaff サービスが起動中で，発信待ち，問い合わせ待ち状態にある発信は，TELstaff サービス停止時に無効にします。発信依頼の発信待ち（-to オプション指定の teldial コマンド）は，無効になりません。この場合，TELstaff サービスを停止し，-c オプション指定の telcan コマンドを使用するか，または TELstaff サービスを起動するときに，「図 6.1-1TELstaff サービスの起動ダイアログボックス」の「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして取り消します。
- TELstaff サービスが未起動の状態で，「サービス未起動のとき teldial コマンドでサービスを自動起動する」チェックボックスにチェックがない場合，発信待ち，問い合わせ待ち状態にある発信を無効にします。

●チェックしないときの扱い

- TELstaff サービスが未起動のとき受け付けた teldial コマンドは，未発信記録として保存され次回の TELstaff サービス起動されたときに実行します。

- TELstaff サービスが起動中で，発信待ちにある発信（未発信）が存在する状態で，サービスの停止または再起動をした場合，次回の TELstaff サービスの起動時に，発信対象として扱われます。
  問い合わせ待ち状態にある発信は，次回の TELstaff サービスの起動時に，引き続き問い合わせ待ち状態となります。

未発信記録や問い合わせ待ち状態にある発信記録が多い状態で TELstaff サービスを開始すると，サービスが開始するまで時間がかかります。このような場合，このオプションをチェックしておくとサービスの起動時間が短くなります。

なお，このオプションをチェックしない場合でも TELstaff サービス起動時に未発信記録を取り消す（削除）ことができます。

TELstaff サービス起動時に未発信記録を取り消すには，TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを起動します（推奨方法）。

(b) 「サービス未起動のときteldialコマンドでサービスを自動起動する」チェックボックス

TELstaff サービスが起動されていないときに TELstaff サービスの扱いを指定します。

●チェックしたときの扱い

- teldial コマンドを実行したときに，TELstaff サービスが起動されていない場合は，TELstaff サービスを自動起動します。Administrators 権限ユーザ以外のユーザ環境で teldial コマンドを実行する場合，TELstaff サービスの自動起動はできません。
- AECL の teldial コマンド，および発信依頼を行う teldial コマンドでは，TELstaff サービスを自動起動しません。
- TELstaff サービスの自動起動では，直前に使用していた連絡網グループを使用し，teldial コマンド終了後も TELstaff サービスは起動されたままとなります。
- 「サービス未起動のとき teldial コマンドを無効にする」チェックボックスにチェックがある場合で，teldial コマンドを実行すると，現在発信待ち，問い合わせ待ち状態になっている発信を取り消してから TELstaff サービスを開始して teldial コマンドを実行します。
- TELstaff サービスを開始できない場合は，「サービス未起動のとき teldial コマンドを無効にする」オプションに従います。

●チェックしないときの扱い

- 「サービス未起動のとき teldial コマンドを無効にする」オプションに従います。

(c) 「定期的に通知を行う」チェックボックス

TELstaff サービスの稼動状況の報告を TELstaff の「システム管理者」に通知するかどうか，および通知する場合は通知する間隔を時間，日，週，月のいずれかで指定します。

初回の稼動通知は，TELstaff サービスを起動した時点を起点とした間隔後に，2 回目以

降の稼動通知は，前回の稼動通知時刻を起点とした間隔後に通知します。その時の TELstaff サービスの状態により稼動通知間隔毎に通知されない場合があります。

現在時刻＋通知周期が 2038/01/19 03:14:07(UTC)を超える場合，TELstaff サービスの稼動状況の報告は行われません。

(d) 「管理者にメール通知をする」チェックボックス

このチェックボックスがチェックされている場合，TELstaff は指定された通知間隔で TELstaff の「システム管理者」にメールで稼動状況をメールで通知します。この通知によって「システム管理者」は，TELstaff サービスが正常に稼動しているかどうかを監視できます。TELstaff サービスの稼動状況通知機能を使用する場合は，「E メール」タブでメール環境を設定し，TELstaff の「システム管理者」で登録したユーザにメールアドレスの設定（AECL では，「E メール」タブで TELstaff の通知先の設定）がなければなりません。メールアドレスを複数指定すると複数箇所にメールを送信します。稼動状況のメール通知ができない場合は，繰り返し回数の設定ダイアログボックス（図 4.1-30）で設定した繰り返し回数と繰り返し間隔で再送します。

(e) 「コマンドを実行する」チェックボックス

このチェックボックスがチェックされている場合，TELstaff は指定された通知間隔で TELstaff の「システム管理者」にコマンドで稼動状況を通知します。このコマンド通知によって「システム管理者」は，TELstaff サービスが正常に稼動しているかどうかを監視できます。

(f) 「実行コマンドライン」テキストボックス

「コマンドを実行する」チェックボックスにチェックしたとき，実行するコマンドを完全ファイル名で指定します。teldial コマンドなど TELstaff コマンドが使用できます。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

(g) ［システムカレンダの設定(C)］ボタン

平日と休日，および時間帯によって発信する電話やメール通知などの発信を抑止できます。

このボタンをクリックすると，TELstaff 全体の平日と休日設定ができます（マスタカレンダ）。TELstaff サービス開始中でも有効になります。

カレンダーのダイアログボックスを図 4.1-3 に示します。

図 4.1-3　カレンダーダイアログボックス

- **［<］ボタン**
  現在表示されている月の前月のカレンダーを表示します。
- **［>］ボタン**
  現在表示されている月の次月のカレンダーを表示します。
- **「月」ドロップダウンリスト**
  休日設定をする月を，ドロップダウンリストから選択します。
- **「年」ドロップダウンリスト**
  休日設定をする年を，ドロップダウンリストから選択します。

- **曜日フィールド**
  特定の曜日を休日にする場合は，休日にする曜日にカーソルを合わせ，クリックして，赤色表示させます。もう 1 度クリックすると，赤色表示がリセットされ，休日設定が解除されます。特定の曜日の休日設定，解除は，すべての月に設定されます。
- **日付フィールド**
  特定の日を休日にする場合は，その日付にカーソルを合わせ，クリックして，赤色表示させます。もう 1 度クリックすると，赤色表示がリセットされ，休日設定が解除されます。

(h)　［システムスケジュールの設定(S)］ボタン

平日と休日，および時間帯によって発信する電話やメール通知などの発信を抑止できます。このボタンをクリックすると，スケジュールダイアログボックスで TELstaff 全体のスケジュール設定ができます。スケジュールは，連絡網グループごと，連絡網ごと，ユーザごとにも設定できます。TELstaff 全体のスケジュール設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。

それぞれの発信先に対して，発信抑止時間の設定をするスケジュールダイアログボックスを，図 4.1-4 に示します。

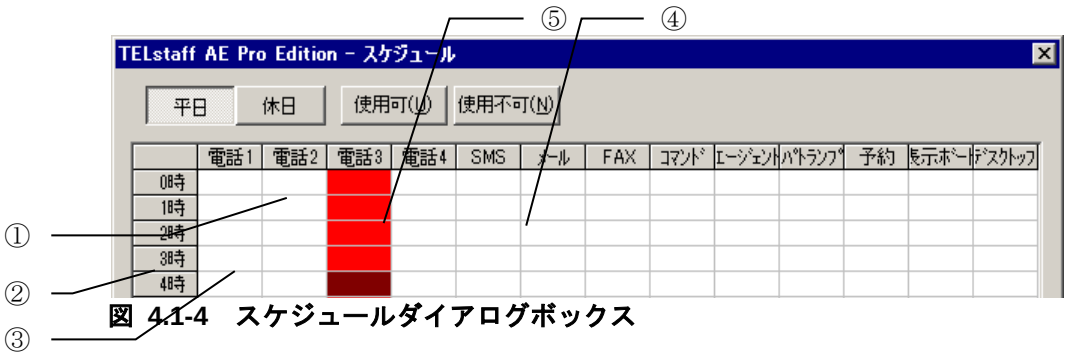


図 4.1-4　スケジュールダイアログボックス

●［平日］ボタン

平日の発信スケジュールを設定する場合，ここをクリックします。

●［休日］ボタン

休日の発信スケジュールを設定する場合，ここをクリックします。

●［使用可］ボタン

選択された発信抑止時間帯を，発信可能にする場合，ここをクリックします。

●［使用不可］ボタン

選択された時間帯を，発信抑止時間帯に設定する場合，ここをクリックします。

●①ボタン

ここをクリックすると，クリックした発信先のすべての時間帯を選択できます。

●②ボタン

ここをクリックすると，すべての時間帯での，すべての発信先を選択できます。

●③ボタン

ここをクリックすると，クリックした時間帯とその発信先を，選択できます。

●④フィールド

発信可能な時間帯です。

●⑤フィールド

発信抑止時間帯です。

●スケジュール設定上の注意事項

発信するとき，連絡網，またはシステムのスケジュールですべての通知メディアが発信抑止状態の場合は，発信できる時間になるまで発信を保留します。発信保留を抑止するには，未使用の通知メディアに対してすべての時間帯を発信可能状態にしておきます。

該当する通知メディアが，発信抑止状態でも発信したものとして次の通知メディアへの発信を行います。

(i)　「使用するテキストエディタ」テキストボックス

TELstaff で使用するテキストエディタを設定します。テキストエディタは，使用するテキストエディタの完全パス名で指定します。

(j)　「読み上げやサウンド再生にMCIを使用する」チェックボックス

テキスト読み上げ（再生）やサウンド再生（WAV ファイル再生）時に，MCI（Media Control Interface）を使用する場合，このチェックボックスにチェックします。

使用環境によっては，マルチメディアファイルの扱いを MCI インターフェースのみサポートしている場合があります。そのような環境では，本チェックボックスを使用してください。

(k)　「Proxyの設定」ボタン

本設定は，メール監視の「メール監視ダイアログボックス」，または 開封通知受信監視の「開封通知受信監視の設定ダイアログボックス」で，メールサーバとの認証方法に「OAuth2（OAuth2.0 認証）」を選択した場合に使用されます。OAuth2 の認証先サーバとの通信に Proxy サーバを経由する必要がある場合，このボタンをクリックし，Proxy 設

定ダイアログボックスで Proxy サーバの情報を設定します。Proxy 設定ダイアログボックスを図 4.1-5 に示します。

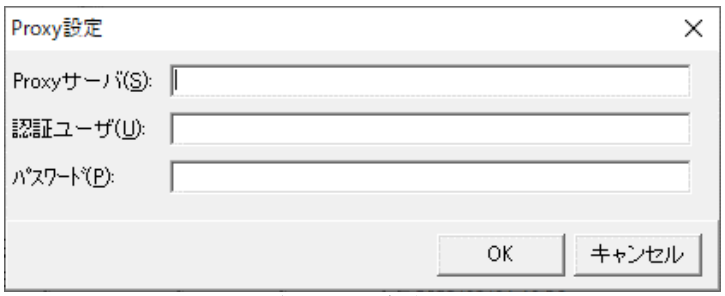


図 4.1-5　Proxy設定ダイアログボックス

- **［Proxyサーバ］テキストボックス**

Proxy サーバ名を 256 文字以内で指定します。本項目を省略した場合は，認証ユーザ，パスワードに入力した値を無視し，Proxy サーバを経由せずに OAuth2 の認証先サーバへ接続を行います。

- **［認証ユーザ］テキストボックス**

認証ユーザ名を 256 文字以内で指定します。本項目を省略した場合は，認証ユーザの指定なしで Proxy サーバを経由させます。

- **［パスワード］テキストボックス**

認証ユーザのパスワードを 256 文字以内で指定します。認証ユーザを指定した場合，本項目は必須となります。

- **［OK］ボタン**

設定された内容を保持し，環境設定－「全般」タブへ戻ります。

一度，設定した内容をクリアする場合は，Proxy サーバ，認証ユーザ，パスワードに設定した値をすべて削除して「OK」ボタンを押下してください。

- **［キャンセル］ボタン**

環境設定－「全般」タブへ戻ります。

(2) 環境設定－「電話・回線」タブ

電話発信，SMS 通知，エージェント発信や FAX 発信で使用するトリガフォン，またはモデムなど，通信構成を設定します。

トリガフォン，またはモデムの稼動監視を行っている場合，通信構成を変更した場合は，機器稼動監視－「モデム機器」タブでモデム機器稼動監視の設定も更新する必要があります。

環境設定－「電話・回線」タブを，図 4.1-6 に示します。

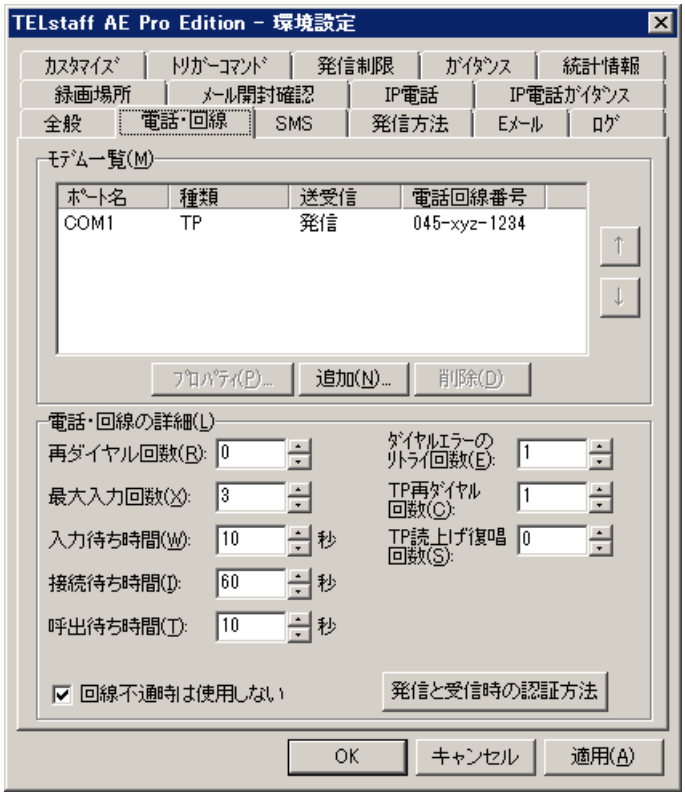


図 4.1-6　環境設定ー「電話・回線」タブ

(a)　「モデム一覧」リストボックス

現在定義されている，電話発信，SMS 通知，エージェント発信や FAX 発信で使用するモデム・トリガフォンの一覧を表示します。［↑］，［↓］ボタンでモデム・トリガフォンを使用する順番を決めることができます。

モデムやトリガフォンの障害を想定した運用を推奨します。詳しくは，「1.5.4(3)モデム・トリガフォンの障害を想定した運用方法」を参照してください。

● トリガフォンについて

発信専用，受信専用，または受発信のトリガフォンを複数個定義できます。複数のポートを使用する場合，次の注意事項があります。

- 複数の送信ポートが使用できる場合，発信間隔や連絡網間発信間隔は，指定にかかわらず，間隔を置かずに発信します。
- 複数の回線を利用して電話発信ができる環境で，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。

トリガフォンを使用する順序は，一覧の上から下の順で未使用の発信専用トリガフォンを使用します。未使用の発信専用トリガフォンがないときは，未使用の受発信できるトリガフォンを使用します。

発信中にトリガフォンの障害を検出すると，他に使用できるトリガフォンがある場合では，このトリガフォンを閉塞して次回の発信から使用しません。詳細は，「1.5.4(3)モデム・トリガフォンの障害を想定した運用方法」を参照してください。

発信ポートを使用する優先順位は，次のようになります。

1. 一覧の上から下の順で未使用の発信専用トリガフォンを使用します。
2. 未使用の発信専用トリガフォンがないときは，一覧の上から下の順で，最初に定義した順で，かつ，連絡網の発信間隔が無いか，前回発信した連絡網 ID と同一か，または前回の接続終了から連絡網発信間隔が経過しているかの，いずれかの条件が満たされたトリガフォンを使用します。

●モデムについて

発信専用，受信専用，または受発信のモデムを複数個定義できます。モデムでは，発信専用のモデムを複数個定義できます。複数のポートを使用する場合，次の注意事項があります。

- 複数の送信ポートが使用できる場合，発信間隔や連絡網間発信間隔は，指定にかかわらず，間隔を置かずに発信します。
- 複数の回線を利用して電話発信ができる環境で，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。

モデムを使用する順序は，一覧の上から下の順で未使用の発信専用モデムを使用します。未使用の発信専用モデムがないときは，未使用の受発信できるモデムを使用します。

発信中にモデムの障害を検出すると，他に使用できるトリガフォンがある場合では，このモデムを閉塞して次回の発信から使用しません。詳細は，「1.5.4(3)モデム・トリガフォンの障害を想定した運用方法」を参照してください。

発信ポートを使用する優先順位は，次のようになります。

1. 一覧の上から下の順で未使用の発信専用モデムを使用します。
2. 未使用の発信専用モデムがないときは，一覧の上から下の順で，最初に定義した順で，かつ，連絡網の発信間隔が無いか，前回発信した連絡網 ID と同一か，または前回の接続終了から連絡網発信間隔が経過しているかの，いずれかの条件が満たされたモデムを使用します

(b) ［プロパティ］ボタン

モデムの一覧で選択された機器のプロパティを表示します。

(c) ［追加］ボタン

使用するモデム，トリガフォンを追加するため，モデムのプロパティダイアログボックスを表示します。モデム，トリガフォンは，16 個まで追加できます。

TELstaff サービスを開始するとモデム，トリガフォンの接続確認を行います。モデム，トリガフォンを複数接続すると，発信を開始するまで時間がかかります。

(d) ［削除］ボタン

モデムの一覧で選択されたモデム，トリガフォンを削除します。

(e) 「再ダイヤル回数」スピンボックス

電話回線が話し中の場合，電話をかけ直す回数を 0～15 の範囲で指定します。0 を指定すると，再ダイヤルしません。再ダイヤル間隔は，90 秒です。

(f) 「最大入力回数」スピンボックス

電話（トリガフォンを使用した電話，IP 電話）からのダイヤル入力で，訂正入力の許容回数を 1～9 の範囲で指定します。最大入力回数を超えると，回線を切断します。

(g) 「入力待ち時間」スピンボックス

電話（トリガフォンを使用した電話，IP 電話）からのパスワード入力など，すべてのダイヤル入力操作で，ダイヤル入力するまでの待ち時間を，秒で指定します。指定できる値の範囲は，5～60 です。

入力待ち時間は，次の時間を指します。

- 音声ガイダンスが終了してから，最初にダイヤルするまでの間
- ダイヤル入力と次のダイヤル入力までの間

入力待ち時間内にダイヤル入力が確認できない場合，最大入力回数まで入力待ちを繰り返します。最大入力回数を超えた場合，TELstaff は回線を切断します。

(h) 「接続待ち時間」スピンボックス

通信モデムから発信する場合，ダイヤルトーン音を流す時間を，秒単位で指定します。指定できる値の範囲は 1～100 です。トリガフォンからの発信では，トリガフォンの「システム設定」－発呼処理－リング回数の時間になります。

(i) 「呼出待ち時間」スピンボックス

通信モデムから発信する場合の，ダイヤルトーン音を送出するまでの間隔を，秒単位で指定します。指定できる値の範囲は 1～100 です。

(j) 「ダイヤルエラーのリトライ回数」スピンボックス

電話（通信モデムを使用した電話，IP 電話），SMS 通知，FAX，エージェントへの発信で，ダイヤルに失敗したときの電話をかけ直す回数を指定します。ダイヤルに失敗する場合は，同じ電話回線で TELstaff からの発呼（ダイヤル）と着呼（外部からの呼び出し）とが重なった場合などがあります。0 を指定すると，電話がつながるまで再ダイヤルします。再ダイヤル間隔は，60 秒です。

(k) 「TP再ダイヤル回数」スピンボックス

トリガフォンへの発信に失敗した場合，再ダイヤルする回数を 1～30 の範囲で指定します。「TP 再ダイヤル回数」を 0 に設定すると確認が得られるまで発信を繰り返します。ユーザプロパティ（「電話・SMS」タブ）で電話繰り返し回数を指定している場合は，TP 再ダイヤル回数を繰り返した後にユーザプロパティの電話繰り返しを行います。

(l)　「TP読上げ復唱回数」スピンボックス

トリガフォン・モデルⅡでは，常に 1 回になります。

(m)　「回線不通時は使用しない」チェックボックス

トリガフォンを使用した電話通知，および SMS 通知，FAX 通知，電話回線を使用したエージェント通知で電話回線が不通（発信音が検出されない）のとき，次の発信から不通回線のトリガフォン，モデムを使用しないようにする（回線の閉塞機能）ときチェックします。

回線の閉塞機能を使用する場合，「2.3.19 電話回線の閉塞」に示す注意事項があります。

モデムを使用する場合で，「回線不通時は使用しない」チェックボックスにチェックするときは，モデムのプロパティダイアログボックスの「追加モデムコマンド」に次のモデムコマンドを半角英数字文字で指定ください。

ATX4

トリガフォンを使用する場合は，トリガフォン付属コントロールソフトの「システム設定」で「ダイヤルトーン検出時間」の設定を行います。設定方法については，トリガフォン付属のマニュアルを参照してください。

(n)　［発信と受信時の認証方法］ボタン

発信と受信時の認証方法ダイアログボックスを開き，発信と電話受信時の認証方法を設定します。

(3) 環境設定－「SMS」タブ

TELstaff で使用する SMS サービスの設定をします。環境設定－「SMS」タブを，図 4.1-7 に示します。

図 4.1-7　環境設定－「SMS」タブ

(a) 「SMS一覧」リストボックス

TELstaff で使用できる SMS サービスの一覧を表示します。この一覧には，携帯電話各社で提供されているメールサービスも含まれます。

TELstaff で使用できる SMS サービスの種類は，「表 1.4-5　SMS の種類」を参照してください。SMS 通知の注意事項については，2.3.1(3)(d)を参照してください。

(b) 「メッセージが長いときは分割して送信する」チェックボックス

SMS の設定ダイアログボックスで設定した最大メッセージ長を超えるメッセージを最大メッセージ長で分割して送信するときチェックします。最大メッセージ長を超えるメッセージを切り捨てて送信（分割して送信しない）するときは，チェックを外します。使用するモデムによっては，分割送信ができないモデムがあります。分割送信できないモデムを使用する場合は，チェックを外してください。

メッセージ分割送信についての注意事項については，「2.3.1(3)(d)メッセージ長とメッセージ分割」を参照してください。

(c) 「発信に使用するモデム」フィールド

SMS 通知はトリガフォンを使用して発信するか，モデムを使用して発信するかを指定します。

(d) 「トリガフォンを使用」ラジオボタン

トリガフォンを使用して SMS 通知を行うとき「トリガフォンを使用」ラジオボタンを選択します。「トリガフォンを使用」ラジオボタンを選択して，トリガフォンが接続されていないときは，モデムを使用して SMS 通知を行います。

ISDN 回線を使用する場合，トリガフォン内蔵スピーカから SMS センタに接続後ピィポッパ音（メッセージまたは電話番号の送信音）が流れるようにトリガフォンの「リングバックトーン検出時間」の調整が必要です。「リングバックトーン検出時間」の調整は，トリガフォン付属コントールソフトの「システム設定」で行います。システム設定方法については，「TriggerPhone USER'S MANUAL」を参照してください。

(e) 「モデムを使用」ラジオボタン

モデムを使用して SMS 通知を行うとき「モデムを使用」ラジオボタンを選択します。

(f) ［プロパティ］ボタン

SMS の設定ダイアログボックスを表示します。

(4) 環境設定－「発信方法」タブ

TELstaff が発信通知をするときの連絡網を設定します。環境設定－「発信方法」タブを図 4.1-8 に示します。

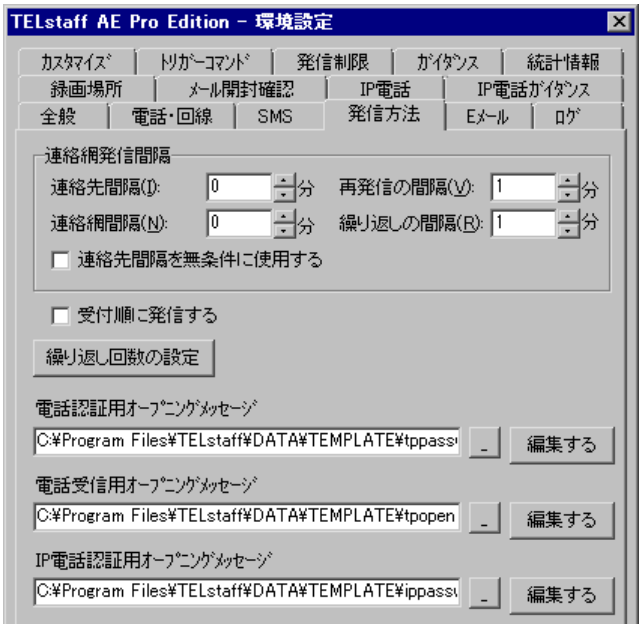


図 4.1-8　環境設定ー「発信方法」タブ

(a)　「連絡先間隔」スピンボックス

連絡網内の後続のユーザに発信する間隔を，0～60 分で設定します。

0 が指定された場合，発信間隔を空けないで発信します。ただし，一定時間内に SMS 通知できる発信数には，制約があるので注意してください。なお，次の場合，この値の指定にかかわらず，間隔を空けないで発信します。

- 受信用のポートがない場合
- 異なる連絡網への発信の場合
- 他の発信専用のモデム，または発信専用のトリガフォンで発信できる場合

(b)　「連絡網間隔」スピンボックス

電話，SMS 通知，FAX，電話回線接続のメッセージエージェント通知を含む異なる連絡網 ID の連絡網に発信する間隔，または電話，SMS 通知，FAX，電話回線接続のメッセージエージェント通知を直接発信する間隔を，0～60 分で設定します。

なお，次の場合，この値の指定にかかわらず，間隔を空けないで発信します。

- 受信用のポートがない場合
- 他の発信専用のモデム，または発信専用のトリガフォンで発信できる場合

(c)　「再発信の間隔」スピンボックス

連絡網への発信の繰り返し間隔を，0～60 分で設定します。0 が指定された場合，連絡網への発信は繰り返されません。

連絡網への発信の繰り返し回数は，連絡網プロパティー「基本設定」タブの「繰り返し回数」スピンボックスで設定します。

(d) 「繰り返しの間隔」スピンボックス

連絡網発信の電話，SMS 通知，パトランプ，デスクトップ通知，メッセージ表示ボード，メール，FAX，エージェントへの発信の繰り返し間隔を，1～30 分で指定します。

繰り返しの詳細については 2.3.1(1)(g)を参照してください。

(e) 「連絡先間隔を無条件に使用する」チェックボックス

連絡先間隔を無条件で使用するかチェックします。チェックされた場合は無条件で連絡先間隔時間をあけて発信を行います。チェックされていない場合は，以下の条件の場合に連絡先間隔時間を空けないですぐに発信を行います。

- モデム，またはトリガフォンが接続されていない場合
- 受信できるモデム，またはトリガフォンが接続されていない場合

(f) 「受付順に発信する」チェックボックス

teldial コマンドの実行順に発信する場合，ここをチェックします。

ここをチェックすると，短時間に多数の teldial コマンドを実行させた場合，発信要求が多数キューイングされ発信の滞留と遅延が起きる場合があります。

ここのチェックをオフにした場合，連絡網を使用した発信，直接発信，またはネットワーク監視など間接発信は，並行して発信を行います。なお，連絡網内の各通知メディアへの発信は，並行発信されません。

(g) ［繰り返し回数の設定］ボタン

発信の繰り返し回数を設定する「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」を開きます。

(h) 「電話認証用オープニングメッセージ」テキストボックス

トリガフォンを使用した電話発信，または電話受信で使用する認証用のオープニングメッセージファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

インストールでは，標準の電話認証用オープニングメッセージファイルを設定します。標準の電話認証用オープニングメッセージのカスタマイズは，環境設定－「カスタマイズ」タブの“電話認証用オープニングメッセージ”で行います。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

「電話認証用オープニングメッセージ」テキストボックスで電話認証用オープニングメッセージファイルを指定すると「カスタマイズ」タブの“電話認証用オープニングメッセージ”のオープニングメッセージは使用されません。

(i) 「電話受信用オープニングメッセージ」テキストボックス

トリガフォンを使用して TELstaff に接続するときのオープニングメッセージファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

オープニングメッセージは，全角 128 文字以内で記述します。

インストールでは，標準の電話受信用オープニングメッセージファイルを設定します。標準の電話受信用オープニングメッセージのカスタマイズは，環境設定－「カスタマイズ」タブの“電話受信用オープニングメッセージ”で行います。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

「電話受信用オープニングメッセージ」テキストボックスで電話受信用オープニングメッセージファイルを指定すると「カスタマイズ」タブの“電話受信用オープニングメッセージ”のオープニングメッセージは使用されません。

電話受信時の音声ガイダンスは，セキュリティを確保するために，使われていない電話である旨の内容を，標準提供しています。あらかじめご了承ください。これは，偶然の間違い電話などで接続した場合に，不正に接続を試みることを未然に防止するためです。

(j) 「IP電話認証用オープニングメッセージ」テキストボックス

IP 電話発信時に使用する認証用のオープニングメッセージファイル名を指定します。指定するオープニングメッセージファイルは，日本語で作成してください。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

英語，中国語でのオープニングメッセージファイルの名前は，ここで指定された日本語用のファイル名をもとに，IP 電話通知の通知文ファイル名と同じ方法で決定されます。詳細は表 2.3-9 を参照してください。

なお標準の IP 電話認証用オープニングメッセージは，環境設定－「発信方法」タブの「IP 電話認証用オープニングメッセージ」でカスタマイズできます。また，TELstaff サービスの起動時にここで指定したファイルと同一ファイル名の wav ファイルが同一フォルダに作成されることがあります。例えば日本語と英語での IP 電話通知を実施できる環境で C:¥msg.txt を指定していた場合，C:¥msg.wav と C:¥msg.en.wav が作成されることがあります。このファイルは TELstaff サービスが IP 電話通知を行うに当たり必要ですので，サービス起動中に削除しないよう注意してください。

(k) ［編集する］ボタン

電話認証用のオープニングメッセージファイルや電話受信用オープニングメッセージファイル，IP 電話認証用のオープニングメッセージファイルをテキストエディタで開きます。

「全般」タブで「使用するテキストエディタ」を設定していない場合は，使用できません。

(5) 環境設定－「Eメール」タブ

TELstaff でメール発信をするときに使用するメールサーバの設定や，メール監視を使用する場合のメールの配送先メールサーバの設定をします。

メール監視を使用する場合のメールの配送先メールサーバについては，「1.4.13 メール監視について」を参照してください。

環境設定－「E メール」タブを，図 4.1-9 に示します。

図 4.1-9 環境設定－「Eメール」タブ

(a) 「メールサーバー覧」リストボックス

現在定義されている，メールサーバの一覧を表示します。［↑］，［↓］ボタンでメールサーバの順番を移動してメールサーバを使用する順番を決めることができます。

メール発信でメールサーバを使用する順序は，一覧の上から下の順で稼動中のメールサーバを使用し，すべてのメールサーバが使用できない場合は，繰り返し発信を行います。

ネットワーク接続のメールサーバとダイヤルアップネットワーク接続のメールサーバの両方を使用する場合，ダイヤルアップネットワーク接続のメールサーバを最後になるようにしてください。

(b) ［プロパティ］ボタン

メールサーバ一覧で選択されたメールサーバのプロパティを表示します。

［プロパティ］ボタンを押すとメールサーバ情報の設定ダイアログボックスを開きます。

(c) ［追加］ボタン

使用するメールサーバを追加するため，メールサーバ情報の設定ダイアログボックスを表示します。

(d) ［削除］ボタン

メールサーバ一覧で選択されたメールサーバを削除します。

(e)　「TELstaffの通知先」テキストボックス

TELstaff が，TELstaff の「システム管理者」に対して行う TELstaff の稼動状況通知，メッセージ通知の通知先を指定します。この項目は，AECL の場合に指定できます。AEPE および AESE では「システム管理者」として登録されているユーザのメールアドレスが表示されます。通知先を変更する場合は，ユーザ定義ダイアログボックスで「システム管理者」のメールアドレスを変更してください。複数のメールアドレスを指定するときは，「,」カンマで区切ってください。

(6)　環境設定ー「ログ」タブ

TELstaff のログファイル作成フォルダと作成周期を設定します。環境設定ー「ログ」タブを，図 4.1-10 に示します。

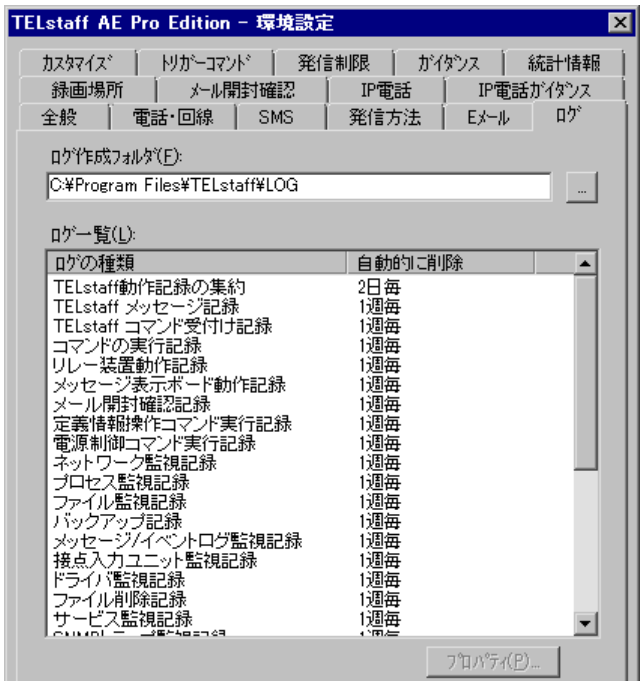


図 4.1-10　環境設定ー「ログ」タブ

(a)　「ログ作成フォルダ」テキストボックス

TELstaff のログファイルを作成するフォルダを設定します。

フォルダ名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてフォルダ名を選択します。ネットワークドライブのフォルダ名は，指定できません。

ログの種類に対応するログファイル名は，ログビューアウィンドウのステータスバーで確認できます。

(b)　「ログ一覧」リストボックス

TELstaff が採取するログ情報の一覧を表示します。ログの種類を表 2.3-30 に示します。ログ情報ファイルの所在場所とファイル名は，ログビューアウインドウのステータスバーに表示します。

(c)　［プロパティ］ボタン

ログのプロパティダイアログボックスを表示し，TELstaff のログファイルの作成周期を設定します。

出力量が多いログ情報を「ログビューア」で閲覧するとき，ウィンドウに表示されるまで時間がかかります。

ログのプロパティダイアログボックスを，図 4.1-11 に示します。

図 4.1-11　ログのプロパティダイアログボックス

●「ログの種類」メッセージボックス

TELstaff で取得するログの種類を表示します。

●「自動的に削除する」チェックボックス

ログファイルのサイズが無限に増加しないよう，ログファイルを自動的に削除する場合にチェックします。なお削除に先立って各ファイルのバックアップを 1 世代だけ保存します。バックアップファイルは，元のファイルの拡張子を old に変更したファイルとなります。ログファイルのファイル名はログビューアウィンドウのステータスバーに表示されますので，ファイル名が必要な場合はそちらでご確認ください。

バックアップファイルの作成処理では，まず.log ファイルの内容を.old ファイルに上書きコピーし，続いて.log ファイルの内容をクリアします。このため.log ファイルは再作成されません。

出力量が多いログ情報を「ログビューアウィンドウ」で閲覧するとき，ウィンドウに表示されるまで時間がかかります。このような場合，ログ出力量がなるべく少なくする作成周期を設定します。

●ログファイルの作成周期について

• 「kB」を指定した場合

ログファイルのサイズが，指定されたサイズを超えないように自動削除を行います。なお.log ファイルのサイズを基準にバックアップと自動削除を行うため，ログで使用する最大ディスク容量は指定値の 2 倍になります。

• 「日」を指定した場合

ログファイルの作成日から数えて，指定された日数が経過した後，最初のログ出力を行う際にバックアップと自動削除を行います。例えば，8/22 にログファイルが作成され，周期を「2 日毎」とした場合は，8/24 0:00 以降に最初にログ出力されるときに切り替わります。

- **「週」を指定した場合**

ログファイルが作成された週の日曜日から数えて，指定された数の週が経過した後，最初にログ出力を行う際にバックアップと自動削除を行います。例えば，8/22（火）にログファイルが作成され，周期を「2 週毎」とした場合は，9/3（日）0:00 以降に最初にログ出力されるときに切り替わり，「1 週毎」の場合は，8/27（日）になります。

- **「月」を指定した場合**

ログファイルが作成された月の 1 日から数えて，指定された月数が経過した後，最初にログ出力を行う際にバックアップと自動削除を行います。例えば，8/22 にログファイルが作成され，周期を「2 月毎」とした場合は，10/1 0:00 以降に最初にログ出力されるときに切り替わり，「1 月毎」の場合は 9/1 になります。

(d) 「メッセージの先頭に付加する文字列」テキストボックス

TELstaff が出力するメッセージを，TELstaff の「システム管理者」に通知する（メッセージ通知機能）場合に，通知対象のメッセージを集約して記録するとき，TELstaff のメッセージの先頭に付加する文字列を半角英数の 20 桁以内で指定します。また，この文字列は，TELstaff が出力する通知対象のメッセージを Syslog メッセージで Syslog サーバに送信するとき，Syslog プロトコルのプロセス名でも使用します。

通知対象メッセージの集約記録，および Syslog プロトコルのプロセス名については，メッセージ通知方法の設定－「ファイル出力」タブ（図 4.2-13），メッセージ通知方法の設定－「syslog」タブ（図 4.2-11）を参照してください。

付加する文字列により，Syslog サーバへの送信では，（999-ホスト名長-プロセス名長）桁に，「TELstaff 動作記録の集約」記録に出力するメッセージでは，（1024-付加文字数-1）桁になり，Syslog サーバに送信する TELstaff メッセージ，および「TELstaff 動作記録の集約」記録に出力できるメッセージの最大長がその分短くなります。標準で付加する文字列を，表 4.1-1 に示します。

表 4.1-1 標準の付加する文字列一覧

ログの種類	標準の付加する文字列
TELstaff 動作記録の集約	（なし）
TELstaff メッセージ記録	Notify
TELstaff コマンド受付け記録	teldial
コマンドの実行記録	Command
リレー装置動作記録	Relay
メッセージ表示ボード動作記録	Board
メール開封確認記録	Mconfirm
定義情報操作コマンド実行記録	Imprt
電源制御コマンド実行記録	PwerCmd
ネットワーク監視記録	Netmon
プロセス監視記録	Prcmon
ファイル監視記録	Filemon
バックアップ記録	Flbakup
メッセージ／イベントログ監視記録	Msgmon
接点入力ユニット監視記録	Rinmon
ドライバ監視記録	Drvcmon
ファイル削除記録	Filedel

ログの種類	標準の付加する文字列
メール監視記録	Mailmon
サービス監視記録	Srvcmon
SNMP トラップ監視記録	Snmpmon
ディスク容量監視記録	Dcapmon
稼動状況監視記録	Pwermon
機器稼動監視記録	Devmon
受信ファイル保存記録	（なし）
ネットワーク通信の記録	Nettcp
メッセージエージェント記録	Agent
プロトコルコマンド実行記録	（なし）
メールサーバとの通信記録	Mail
TELstaff システムログ	（なし）
TELstaff システムログ（SMTP 通信記録）	（なし）
TELstaff システムログ（サービス内部動作）	（なし）

(7) 環境設定－「カスタマイズ」タブ

TELstaff で発信通知をするときに使用する，通知文メッセージなどの変更を行います。環境設定－「カスタマイズ」タブを，図 4.1-12 に示します。

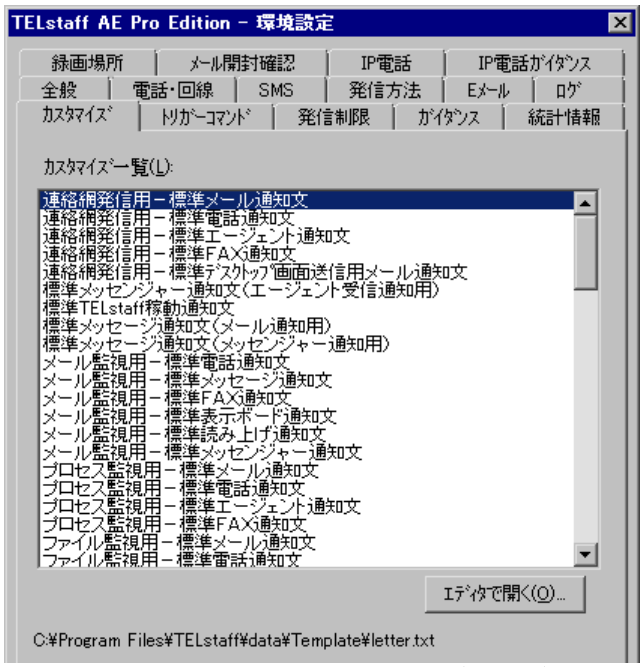


図 4.1-12　環境設定－「カスタマイズ」タブ

(a)　「カスタマイズ一覧」リストボックス

カスタマイズできる情報の一覧を表示します。それぞれの情報については，「2.6 カスタマイズ」を参照してください。

項目を選択するとファイルの所在場所とファイル名を［エディタで開く］ボタンの下に表示し，クリップボードにファイルパスを格納します。

(b)　［エディタで開く］ボタン

カスタマイズ一覧で選択された情報をテキストエディタで開きます。カスタマイズ一覧で選択された情報を選択してダブルクリックで開くことができます。

「全般」タブで「使用するテキストエディタ」を設定していない場合は，使用できません。

(8) 環境設定－「トリガーコマンド」タブ

TELstaff で実行するトリガーコマンドを設定します。環境設定－「トリガーコマンド」タブを，図 4.1-13 に示します。

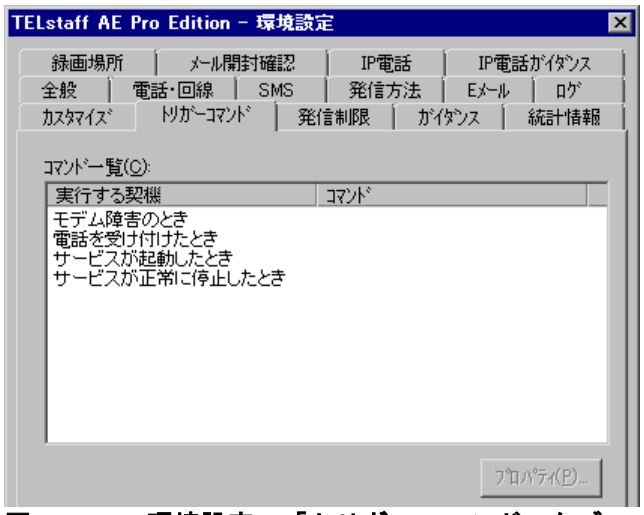


図 4.1-13　環境設定－「トリガーコマンド」タブ

(a)　「コマンド一覧」リストボックス

TELstaff がコマンドを実行する契機の一覧を表示します。各実行契機を表 4.1-2 に示します。

表 4.1-2　コマンド一覧

実行する契機	説明
モデム障害のとき	モデム，トリガフォンに障害が発生したときに実行するコマンド
電話を受け付けたとき*1，*2	電話を受け付けたとき実行するコマンドで認証許可後にコマンドを実行します。
サービスが起動したとき	サービスが起動したとき実行するコマンド
サービスが正常に停止したとき	サービスが正常に停止したとき実行するコマンド

注*1　電話着信でパスワード認証，または発信者通知番号での認証が行われときに設定したコマンドが実行されます。

注*2　トリガフォンでナンバーディスプレイ契約回線を使用している場合，~TelphoneCurrentNumber~変数と~LineNumber~変数が使用できます。
~TelphoneCurrentNumber~変数：発信者通知番号
~LineNumber~変数：電話受信した電話回線番号

(b)　［プロパティ］ボタン

コマンド一覧で選択されたコマンド実行契機の設定をするため，トリガーコマンドのプロパティダイアログボックス〔環境設定〕を表示します。

コマンド一覧で選択されたコマンド実行契機に実行するコマンドを，設定します。トリガーコマンドのプロパティダイアログボックス〔環境設定〕を，図 4.1-14 に示します。

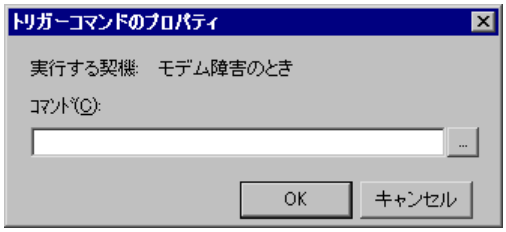


図 4.1-14　トリガーコマンドのプロパティダイアログボックス〔環境設定〕

●「コマンド」テキストボックス

実行するコマンドのコマンド名を，パス名から直接指定するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

TELstaff は，コマンドを実行するときコマンド実行用のプロセスを生成してコマンドの実行終了を待たずに実行させます。

(9)　環境設定－「発信制限」タブ

発信制限機能の設定を行います。発信制限機能の設定は即時反映され，設定反映のために TELstaff サービスを再起動させる必要はありません。発信制限機能についての詳細は 2.3.27 項を参照してください。

環境設定－「発信制限」タブを，図 4.1-15 に示します。

図 4.1-15　環境設定－「発信制限」タブ

(a) 「発信制限ルールの一覧」リストボックス

現在登録されている発信制限ルールを一覧表示します。発信制限ルールの一覧リストビューの列の意味を表 4.1-3 に示します。

表 4.1-3 発信制限ルールの一覧リストビューの列

項目名	説明
LID	発信制限ルール ID。
対象	発信制限ルールの対象。すべての発信を対象とする発信制限ルールについては「すべての発信」と表示します。
発生頻度	発信制限の実施条件とする，発信の発生頻度。
説明	この発信制限ルールの説明。設定された任意の文字列になります。

(b) ［プロパティ］ボタン

発信制限ルールの一覧リストビューで選択された，発信制限ルールを表示する発信制限ルールのプロパティダイアログボックス（図 4.1-16）を開きます。

(c) ［追加］ボタン

発信制限ルールを追加するため，発信制限ルールのプロパティダイアログボックス（図 4.1-16）を開きます。

(d) ［削除］ボタン

発信制限ルールの一覧リストビューで選択された，発信制限ルールを削除します。

(e) 「共通設定」フィールド

発信制限の実施を判断する基準を指定します。この設定値は，実施条件を指定していない発信制限ルールに適用されます。どの発信制限ルールにも該当しない発信に対して適用されることはありません。また発信制限ルール一覧に何も登録されていない場合，本フィールドの値は使用されません。

- 「単位時間」フィールド

  発信の頻度の計算に使う単位時間を 1～86400 秒で指定します（86400 秒=24 時間）。この設定値は，実施条件を指定していない発信制限ルールに適用されます。

- 「回数」フィールド

  「単位時間」フィールドで指定した時間内に，ここで指定した回数を超えて発信を実行しないように制限します。この値は 1～3600 で指定します。この設定値は，実施条件を指定していない発信制限ルールに適用されます。

- 「発信制限した teldial コマンドも数える」チェックボックス

  単位時間内に受け付けた発信で，発信制限の条件を満たして発信されなかったものも「回数」として数える場合にチェックします。

(10) 環境設定 - 「発信制限ルールのプロパティダイアログボックス」

本ダイアログでは，個々の発信制限ルールの情報を表示・設定します。本ダイアログの画面を図 4.1-16 に示します。

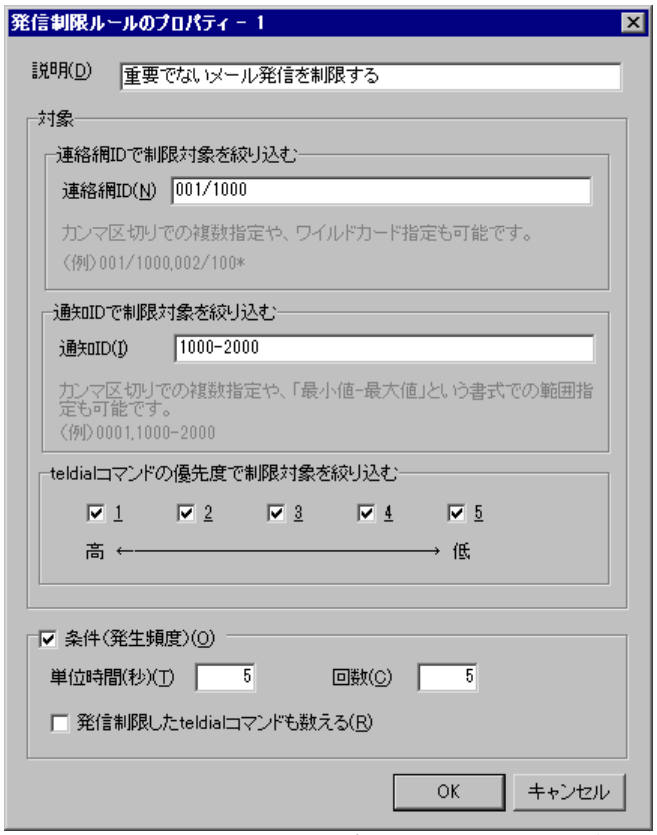


図 4.1-16　発信制限対象のプロパティダイアログボックス

(a)　「説明」テキストボックス

発信制限ルールを説明する簡単な文章を入力します。この欄は省略可能です。また文字数制限等は特にありません。

(b)　「対象」フィールド

発信制限の対象を絞り込む条件を指定します。ここで指定したすべての条件を同時に満たす発信が制限対象になります。

(c)　「連絡網IDで制限対象を絞り込む」フィールド

制限対象を絞り込む条件として，連絡網 ID を指定します。制限対象とする連絡網の，連絡網グループ ID と連絡網 ID を「/」(半角スラッシュ)で区切って指定します。

対象の指定は「,」(半角カンマ)で区切って複数指定できます。複数の指定を並べた場合，それらのうちいずれか一つの指定に該当すれば発信制限の対象となります。なお連絡網グループ ID，連絡網 ID の指定にはワイルドカードを使用できます。ワイルドカードについては「12.3 TELstaff におけるワイルドカード」を参照してください。なお何も入力しない場合，すべての連絡網発信に加え，連絡網発信でない発信も対象にします。

（例）　001/*,002/1000　　連絡網グループ 001 の全連絡網および，連絡網グループ

002 の連絡網 1000 を制限対象とする。

（例） 00*/* 連絡網グループ「001」～「009」の全連絡網を制限対象とする。

（例） 001/1* 連絡網グループ「001」の，「1000」～「1999」の連絡網を制限対象とする。

(d) 「通知IDで制限対象を絞り込む」フィールド

制限対象を絞り込む条件として，通知 ID を指定します（teldial コマンドの-id 引数）。制限対象とする通知 ID は 4 桁の数字で指定します。

複数の通知 ID を指定する場合は「,」（半角カンマ）で区切って指定してください。通知 ID を範囲で指定する場合は最小値と最大値を「-」（半角ハイフン）で区切って指定してください。なお何も入力しない場合，通知 ID を指定する発信すべてに加え，通知 ID を指定しない発信も対象にします。

（例） 1000,2000 通知 ID「1000」および「2000」が指定された teldial コマンドを制限対象とする。

（例） 3000-4000 通知 ID「3000」～「4000」が指定された teldial コマンドを制限対象とする。

(e) 「teldialコマンドの優先度で制限対象を絞り込む」フィールド

制限対象を絞り込む条件として，優先度を指定します（teldial コマンドの-ap 引数）。優先度すべてにチェックした場合，すべての teldial コマンドが発信制限対象となります。なお-ap 引数を指定しない teldial コマンドによる発信は，優先度 3 となります。すべての優先度についてチェックを外すことは，できません。

(f) 「条件(発生頻度)」フィールド

発信制限ルールごとに制限条件を指定する場合，ここに条件を指定します。ここで条件を指定しない場合，「環境設定-発信制限タブの共通設定フィールド」で指定した値が使用されます。詳細は「4.1.1(9)(e) 共通設定フィールド」を参照してください。

(11) 環境設定－「ガイダンス」タブ

トリガフォンを使用した電話発信，または電話受信（問い合わせ）したときのガイダンスメッセージをカスタマイズできます。環境設定－「ガイダンス」タブを，図 4.1-17 に示します。IP 電話使用時のガイダンスは，図 4.1-24 の環境設定－「IP 電話ガイダンス」タブでカスタマイズできます。

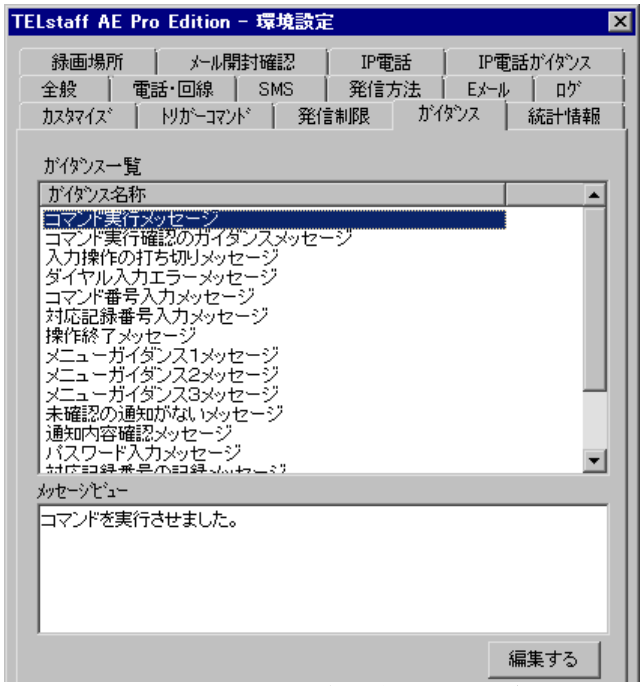


図 4.1-17　環境設定ー「ガイダンス」タブ

(a)　「ガイダンス一覧」リストボックス

ガイダンスメッセージの一覧を表示します。

(b)　「メッセージビュー」テキストボックス

ガイダンス一覧に表示されたガイダンス名称を選択すると，「メッセージビュー」テキストボックスにガイダンス名称のメッセージ内容を表示します。

(c)　［編集する］ボタン

ガイダンス一覧で選択されたガイダンス名称のガイダンスメッセージを開きます。ガイダンス一覧に表示されたガイダンス名称を選択してダブルクリックでガイダンスメッセージを開くことができます。ガイダンスメッセージ編集ダイアログボックスを，図 4.1-18 に示します。

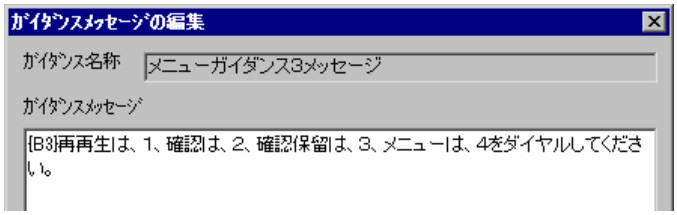


図 4.1-18　ガイダンスメッセージ編集ダイアログボックス

ガイダンスメッセージの変更は，次の注意事項があります。

- ガイダンスメッセージの文字数は，128 文字（全角文字）以内で記述してください。
- 文字すべてを削除することはできません。
- 文字間にスペースを入れても間は空きません。

(12) 環境設定－「統計情報」タブ

統計情報ファイル作成フォルダと作成周期を設定します。統計情報の出力内容は，統計情報の種類によって異なります。なお，出力内容は，バージョンによって異なりますのでご注意ください。統計情報の出力内容や出力契機については，「12.2 統計情報の出力内容」を参照してください。

統計情報の出力内容を参照するには，統計情報ビューアを使用します。TELstaff サービス起動中は，現在出力中の統計情報ファイルを直接アプリケーションで開いたり，変更や削除はできません。

環境設定－「統計情報」タブを，図 4.1-19 に示します。

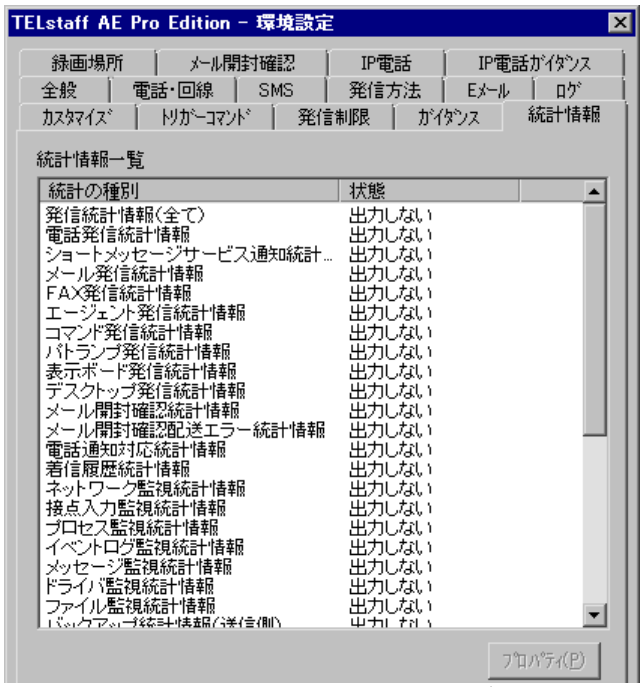


図 4.1-19 環境設定－「統計情報」タブ

(a) 「統計情報一覧」リストボックス

統計情報の一覧を表示します。統計情報の一覧は，表 12.2-1 を参照してください。

(b) ［プロパティ］ボタン

統計情報のプロパティダイアログボックスを表示し，統計情報ファイルの作成方法と統計情報ファイルの保存場所を設定します。統計情報の出力内容は，「12.2 統計情報の出力内容」を参照してください。

ネットワーク監視のアクション監視統計情報を出力する場合は，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 が必要となります。HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 を使用しない場合は，「状態」統計情報項目は出力されません。

(13) 環境設定－「録画場所」タブ

JP1 版 TELstaff では本機能は使用できません。

TELstaff Motion Detector から画像配信で受信する録画ファイル，またはデスクトップ

通知メディアで取得するデスクトップ画面を保存するフォルダを設定します。環境設定－「録画場所」タブを，図 4.1-20 に示します。

図 4.1-20　環境設定－「録画場所」タブ

(a)　「画像保管フォルダ」テキストボックス

画像配信で受信する録画ファイルを保存する NTFS 形式のディスクにあるフォルダ名を指定します。フォルダ名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてフォルダ名を選択します。ネットワークドライブのフォルダ名は，指定できません。別の PC から録画ビューアで動体検出画像，または録画画像を閲覧する場合は，指定したフォルダをネットワーク共有フォルダに設定をしておきます。

(b)　［認証設定］ボタン

暗号化された録画画像を閲覧するための認証情報を設定します。認証設定ボタンで認証情報の設定ダイアログボックスを開き，認証情報を設定します。認証情報の設定ダイアログボックスを，図 4.1-21 に示します。

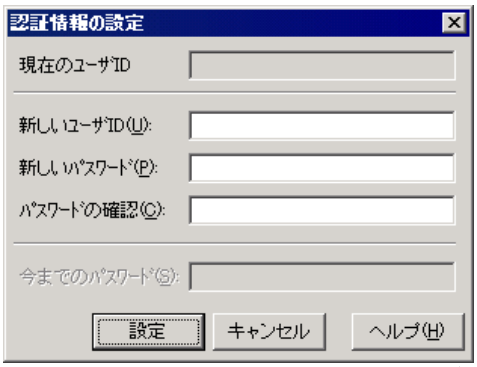


図 4.1-21　認証情報の設定ダイアログボックス

- **「新しいユーザID」テキストボックス**

  ユーザ ID を指定します。

- **「新しいパスワード」テキストボックス**

  ユーザ ID パスワードを指定します。

- **「パスワードの確認」テキストボックス**

  「新しいパスワード」に指定したパスワードを指定します。

- **「今までのパスワード」テキストボックス**

  一度登録した認証情報を変更する場合，今まで使用していたパスワードを指定します。

(c)　「画像ファイル削除周期」フィールド

この製品では，使用できません。

(14) 環境設定－「メール開封確認」タブ

開封確認通知メールを受信するメールサーバ（POP3 サーバ）の情報とメール開封確認方法を設定します。環境設定－「メール開封確認」タブを，図 4.1-22 に示します。

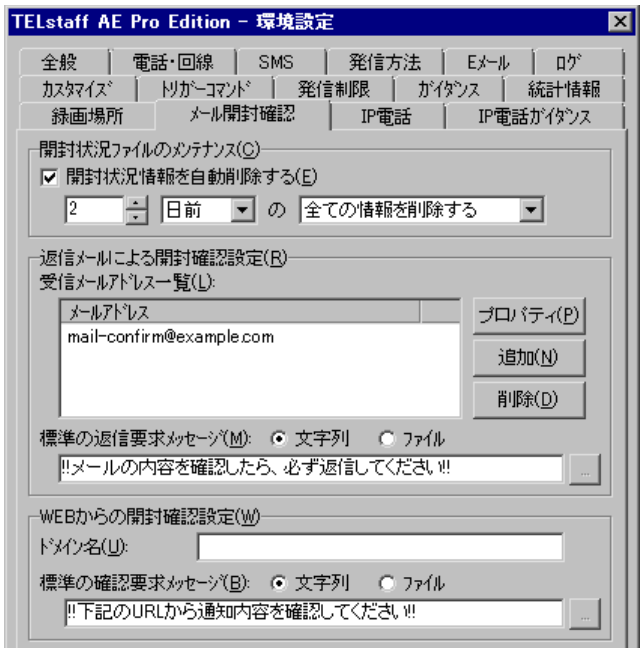


図 4.1-22　環境設定－「メール開封確認」タブ

(a)　「開封状況情報を自動削除する」チェックボックス

メール開封状況情報を定期的に削除する場合にここをチェックし，削除周期（1 から 100）と削除方法を指定します。

メール開封状況情報は，メール発信 1 件につき 2000 バイト使用します。削除周期を長くするとその分ディスク使用量が増加します。

また，メール開封確認を行うメール発信では，1 から 999999 までのメール識別番号を付与して開封管理を行います。メール識別番号が 999999 を超えるとメール開封確認を行わない通常のメール発信になります。このメール識別番号は，メール開封状況情報を削除したとき，削除されたメール識別番号を再使用します。

このため削除周期は，発信数を超えない十分な余裕を持たせた適切な日数を設定してください。目安としては，メール発信数にもよりますが 2 日程度で設定してください。

なお，メール開封確認待ち状態にあるとき，該当するメール開封状況情報が削除されるとメール開封確認待ち状態は，未確認扱いになります。

(b)　「返信メールによる開封確認設定」フィールド

メール通知先のユーザが開封確認のために返信したメールを確認するために，どのメールサーバ（POP3 サーバ）にどのような方法で確認するか等を指定します。

(c) 「受信メールアドレス一覧」リストボックス

現在定義されている，開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスの一覧を表示します。

- ［プロパティ］ボタン

  開封通知受信監視の設定ダイアログボックスを開き，受信メールアドレス一覧で選択されたメールアドレスのプロパティを表示します。

- ［追加］ボタン

  開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスを追加するため， 開封通知受信監視の設定ダイアログボックスを表示します。

- ［削除］ボタン

  受信メールアドレス一覧で選択されたメールアドレスを削除します。

(d) 「標準の返信要求メッセージ」テキストボックス

メール開封確認を行うメール発信の本文に挿入する開封確認通知要求メッセージを指定します。開封確認通知要求メッセージは，メール本文の先頭に挿入します。

開封確認通知要求メッセージは，下のラジオボタンで選択されたメッセージ種別によって異なります。

●「文字」の場合

開封確認通知要求メッセージを 520 半角文字以内で直接入力します。メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。

●「ファイル」の場合

開封確認通知要求メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(e) 「Webからの開封確認設定」フィールド

このバージョンの TELstaff 製品では使用できません。

(f) 「ドメイン名」テキストボックス

このバージョンの TELstaff 製品では使用できません。何も指定しないでください。

(g) 「標準の確認要求メッセージ」テキストボックス

このバージョンの TELstaff 製品では使用できません。

なお，メール開封確認をメール返信および Web の両方で使用するよう設定した場合，この開封確認通知要求メッセージが使用されます。

(15) 環境設定－「IP電話」タブ

IP 電話発信で使用する SIP サーバ，VoIP ゲートウェイ，CTBX シリーズなど，通信構成を設定します。環境設定－「IP 電話」タブを，図 4.1-23 に示します。

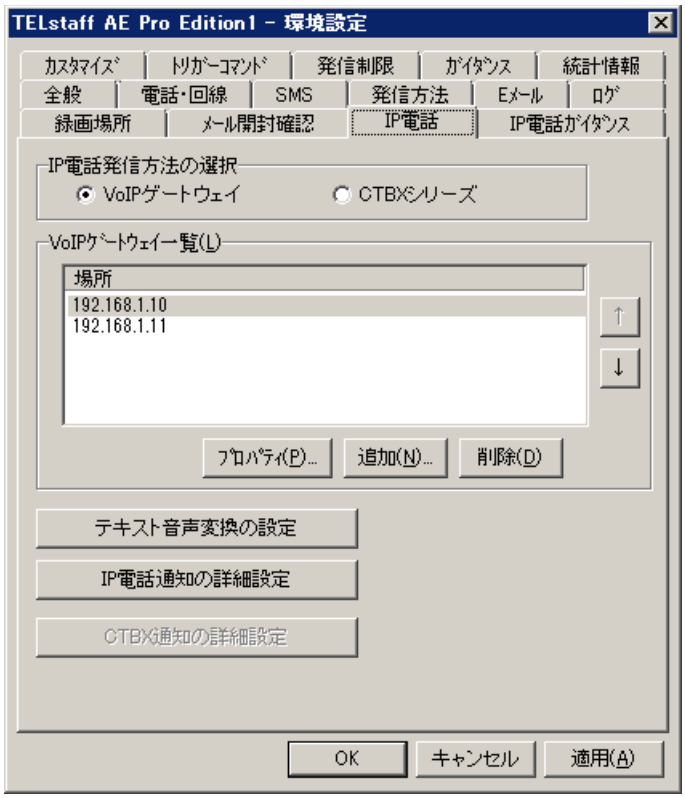


図 4.1-23　環境設定－「IP電話」タブ

(a)　IP電話発信方法の選択

IP 電話発信の発信方法を選択します。

- VoIP ゲートウェイ

  VoIP ゲートウェイを使用する場合に選択します。

- CTBX シリーズ

  CTBX シリーズを使用する場合に選択します。

  CT System Builder for Network がシステムにインストールされていない場合，「IP 電話発信方法の選択」グループボックスの「CTBX シリーズ」ラジオボタンは不活性となり，「VoIP ゲートウェイ」ラジオボタンが選択された状態となります。「CTBX シリーズ」を選択すると，[↑][↓][追加][削除][IP 電話通知の詳細設定]ボタンは不活性となり，利用可能な CTBX シリーズ機器の一覧を表示します。

(b)　VoIPゲートウェイ一覧

「VoIP ゲートウェイ」ラジオボタンを選択している場合に表示されます。

現在設定されている VoIP ゲートウェイの一覧を，優先順位の高い順に上から表示します。VoIP ゲートウェイの優先順位は［↑］ボタンと［↓］ボタンで変更できます。

IP 電話の発信では優先順位の高い VoIP ゲートウェイから順番に使用されます。ある通知先へ電話通知を行う場合，まず一番優先順位の高い VoIP ゲートウェイを使って通知を試みます。もしその VoIP ゲートウェイの障害を検出した場合には，次に優先順位の高い

VoIP ゲートウェイを使って通知を試みます。これを繰り返し，もし登録された全 VoIP ゲートウェイについて障害を検出すると，その電話通知を失敗と判定します。

(c) CTBX一覧

「CTBX シリーズ」ラジオボタンを選択している場合に表示されます。

利用可能な CTBX シリーズ機器の一覧を表示します。CT System Builder for Network 側で設定完了していない CTBX シリーズ機器は，CTBX 一覧には表示されません。CTBX 一覧に表示されない場合は，CT System Builder for Network 付属の「CT システム・ビルダー スタートガイド」を参照し，CT System Builder for Network 側のセットアップを実施してください。

なお，TELstaff がサポート対象としない CTBX シリーズの機種は CTBX 一覧には表示されません。TELstaff がサポート対象としている CTBX シリーズの機種の詳細は，1.4.10(4)(b)CTBX シリーズを使用する場合を参照してください。

(d) ［プロパティ］ボタン

- 「VoIP ゲートウェイ」ラジオボタンを選択している場合

  VoIP ゲートウェイ一覧で選択された VoIP ゲートウェイの内容を，VoIP ゲートウェイ情報の設定ダイアログボックスに表示します。
- 「CTBX シリーズ」ラジオボタンを選択している場合

  CTBX 一覧で選択された CTBX シリーズ機器の設定情報を，「CTBX の設定ダイアログボックス」に表示します。

(e) ［追加］ボタン

VoIP ゲートウェイの設定を追加するために VoIP ゲートウェイ情報の設定ダイアログを表示します。

(f) ［削除］ボタン

VoIP ゲートウェイの一覧で選択している VoIP ゲートウェイの設定を削除します。

(g) ［テキスト音声変換の設定］ボタン

音声合成ソフトウェアでの読み上げ方法を設定する［テキスト音声変換の設定］ダイアログボックスを開きます。IP 電話通知では，［テキスト音声変換の設定］で設定した音声合成ソフトウェアを使用します。同ダイアログボックスの詳細については 4.3.1 を参照してください。

(h) ［IP電話通知の詳細設定］ボタン

IP 電話通知の詳細設定ダイアログボックスを開きます。

(i) ［CTBX通知の詳細設定］ボタン

CTBX 通知の詳細設定ダイアログボックスを開きます。

(16) 環境設定－「IP電話ガイダンス」タブ

IP 電話発信するときのガイダンスメッセージをカスタマイズできます。環境設定－「IP電話ガイダンス」タブを，図 4.1-24 に示します。

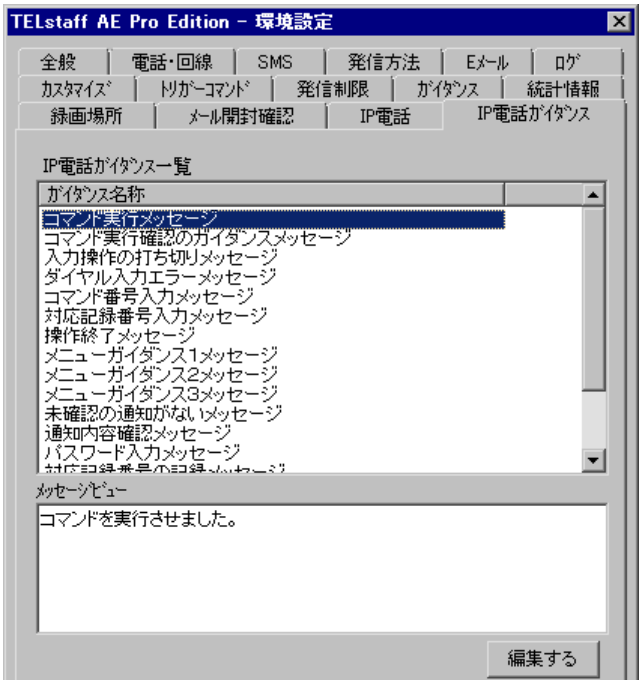


図 4.1-24　環境設定ー「IP電話ガイダンス」タブ

(a)　「IP電話ガイダンス一覧」リストボックス

IP 電話発信時に使用するガイダンスメッセージの一覧を表示します。

(b)　「メッセージビュー」テキストボックス

IP 電話ガイダンス一覧に表示されたガイダンス名称を選択すると，「メッセージビュー」テキストボックスにガイダンス名称のメッセージ内容を表示します。

(c)　［編集する］ボタン

IP 電話ガイダンス一覧で選択されたガイダンスメッセージを開きます。IP 電話ガイダンス一覧に表示されたガイダンス名称を選択してダブルクリックすることでもガイダンスメッセージを開くことができます。ガイダンスメッセージ編集ダイアログボックスは，図 4.1-18 を参照してください。

ガイダンスメッセージの変更は，次の注意事項があります。

- ガイダンスメッセージの文字数は，128 文字（全角文字）以内で記述してください。
- すべての文字を削除することはできません。
- 文字間にスペースを入れても間は空きません。

日本語以外の言語のガイダンスメッセージは，以下のフォルダに格納されたガイダンスファイルを直接テキストエディタ等で編集します。

<TELstaffインストールフォルダ>¥Data¥Script¥IpTelScript2¥GUIDANCE

各ガイダンスの名称と，ガイダンスファイルの名前の一覧を表 4.1-4 に示します。なお，ガイダンスファイルは表 2.3-10 に記載の通り言語に応じた文字コードで作成してください。

表 4.1-4　非日本語のガイダンスファイル一覧

ガイダンスの名称	ファイル名
コマンド実行メッセージ	cmdexec.##txt
コマンド実行確認のガイダンスメッセージ	cmdverify.##.txt
入力操作の打ち切りメッセージ	errexit.##.txt
ダイヤル入力エラーメッセージ	error.##.txt
コマンド番号入力メッセージ	getcmd.##.txt
応記録番号入力メッセージ	getrecord.##.txt
操作終了メッセージ	lineoff.##.txt
メニューガイダンス１メッセージ	menu1.##.txt
メニューガイダンス２メッセージ	menu2.##.txt
メニューガイダンス３メッセージ	menu3.##.txt
未確認の通知がないメッセージ	nonotify.##.txt
通知内容確認メッセージ	notifyok.##.txt
パスワード入力メッセージ	password.##.txt
対応記録番号の記録メッセージ	recordput.##.txt
対応番号記録の確認ガイダンスメッセージ	recordverify.##.txt
コマンド受付けメッセージ	verifycmd.##.txt
対応番号記録の確認ガイダンスメッセージ	verifyrecord.##.txt

※ ファイル名中の「##」部分には，そのファイルがどの言語用であるかを示す言語コードが入ります［表 2.3-8 参照］

4.1.2 モデムのプロパティダイアログボックス

TELstaff で使用するモデムとトリガフォンの詳細設定をします。モデムのプロパティダイアログボックスを，図 4.1-25 に示します。なお，トリガフォンは PBX 回線からの発信（内線発信）を動作保証しておりません。PBX 回線からの発信（内線発信）をご利用されたい場合，お客様にて事前検証の上，利用可否をご判断ください。

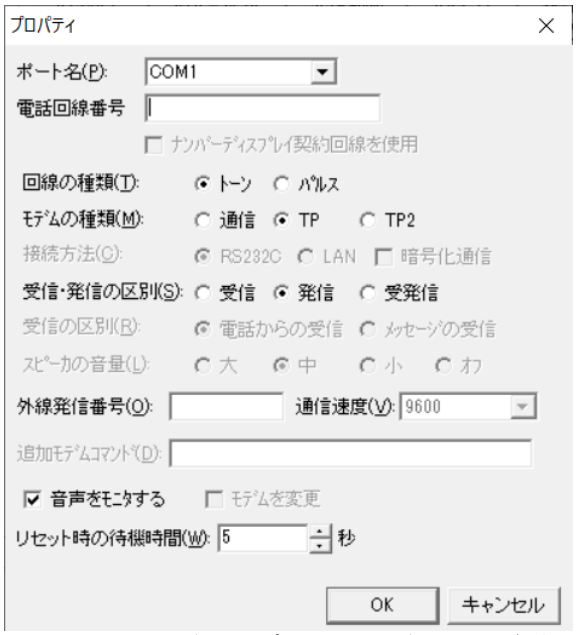


図 4.1-25　モデムのプロパティダイアログボックス

(1) 「ポート名」ドロップダウンリスト

使用する RS232C ポートのポート名を，ドロップダウンリストの中から選択して設定します。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。

TELstaff サービス起動中は，選択した RS232C ポートを他のアプリケーションで使用できません。TELstaff サービス開始時に RS232C ポートが他のアプリケーションで使用中の場合は，この RS232C ポートに接続したモデム，またはトリガフォンを使用してないで TELstaff サービスを開始します。

「IP アドレス」テキストボックス

「モデムの種類」ラジオボタンで「TP2」を選択し，「接続方法」のラジオボタンで「LAN」を選択した場合には，「ポート名」ドロップダウンリストは，「IP アドレス」テキストボックスに変化します。

「IP アドレス」テキストボックスには，トリガフォン（TP2000）の IP アドレスを指定します。

TELstaff サービス起動中は，指定したトリガフォン（TP2000）を他のアプリケーションで使用できません。TELstaff サービス開始時に指定したトリガフォン（TP2000）が他のアプリケーションで使用中の場合は，このトリガフォン（TP2000）を使用しないで TELstaff サービスを開始します。

(2) 「電話回線番号」テキストボックス

モデム，またはトリガフォンに接続する電話回線番号を，半角数字で設定します。モデム，またはトリガフォンに接続する電話回線番号には，半角文字の「－」（ハイフン）が使用できます。

トリガフォンとモデムで電話回線を共用する場合は，トリガフォンとモデムは，同じ電話回線番号を指定します。

複数のモデム，またはトリガフォンで異なる電話回線を使用する場合，電話回線番号に同じ番号を指定すると複数のモデム，またはトリガフォンを使用した同時発信はできません。

なお，トリガフォンとモデムで電話回線を共用する場合は，モデムに電話回線を接続し，モデムの電話機用モジュラージャックとトリガフォンを接続します。また，**モデムの「受信・発信の区別」は，「発信」で設定します。**「受信」または「受発信」を設定するとトリガフォンからの発信ができなくなります。

(3) 「ナンバーディスプレイ契約回線を使用」チェックボックス

トリガフォンに接続する電話回線がナンバーディスプレイ契約回線のときチェックします。「受信・発信の区別」で「受信」ラジオボタンまたは「受発信」ラジオボタンを選択したときチェックできます。

ナンバーディスプレイ契約回線を使用すると，電話受信（問い合わせ）したときに発信者の通知番号で発信者を認証できます。電話番号は，ユーザプロパティダイアログボックスー「電話・SMS」タブであらかじめ登録しておきます。

(4) 「回線の種類」ラジオボタン

(a) 「トーン」ラジオボタン

TELstaff に接続する電話回線がトーン回線（プッシュ回線）の場合は，「トーン」ラジオボタンを選択します。

(b) 「パルス」ラジオボタン

TELstaff に接続する電話回線がパルス回線（ダイヤル回線）の場合は，「パルス」ラジオボタンを選択します。

(5) 「モデムの種類」ラジオボタン

使用するモデムの種類を設定します。

(a) 「通信」ラジオボタン

「通信」ラジオボタンを選択した場合，通信モデムとして設定します。電話，SMS 通知，FAX，エージェント（回線経由）の通知でモデムを使用するとき，「通信」ラジオボタンを選択します。

通信モデムを使用して，発信の有無をダイヤルトーン音で通知できますが，モデムによってはダイヤルトーンを送信できないモデムがあります。

(b) 「TP」ラジオボタン

「TP」ラジオボタンを選択した場合，トリガフォンとして設定します。

電話への通知でトリガフォンを使用するとき，「TP」ラジオボタンを選択します。トリガフォンを使用して SMS 通知するとき，「TP」ラジオボタンを選択します。AECL では使用できません。

(c) 「TP2」ラジオボタン

「TP2」ラジオボタンを選択した場合，トリガフォン（TP2000）として設定します。電話への通知でトリガフォン（TP2000）を使用するとき，「TP2」ラジオボタンを選択します。トリガフォン（TP2000）を使用して SMS 通知するとき，「TP2」ラジオボタンを選択します。AECL では使用できません。

(6) 「接続方法」ラジオボタン

トリガフォン（TP2000）の接続方法を指定します。モデムの種類として「TP2」以外を選択したときは本項目は設定できません。

(a) 「RS232C」ラジオボタン

トリガフォン（TP2000）を PC と RS232C で接続するときに，「RS232C」ラジオボタンを選択します。RS232C 接続時の通信速度は 9600bps 固定とし，TP2000 のロータリスイッチは 2 番（RS232C 9600bps）に設定してください。

(b) 「LAN」ラジオボタン

トリガフォン（TP2000）を LAN 経由で接続するときに，「LAN」ラジオボタンを選択します。平文により通信を行うときは TP2000 のロータリスイッチは 8 番（LAN）に設定してください。

(c) 「暗号化通信」チェックボックス

トリガフォン（TP2000）を LAN 経由で接続し，通信方法として TLS を使用するときにチェックします。

使用する TLS バージョンは TLS1.0～TLS1.2 のいずれかになります。TP2000 のロータリスイッチは 9 番（LAN(TLS)）に設定してください。

(7) 「受信・発信の区別」ラジオボタン

使用するモデムの属性を設定します。

(a) 「受信」ラジオボタン

「受信」ラジオボタンを選択した場合，通信モデム，トリガフォンを受信専用として設定します。

TELstaff 側が通信モデムを使用している場合，発信の有無をダイヤルトーン音で識別できますが，モデムによってはダイヤルトーンを送信できないモデムがあります。

(b) 「発信」ラジオボタン

「発信」ラジオボタンを選択した場合，通信モデム，トリガフォンを発信専用として設定します。

(c) 「受発信」ラジオボタン

「受発信」ラジオボタンを選択した場合，通信モデム，トリガフォンを発信と受信の両方を使用できるように設定します。「受信の区別」で「電話からの受信」ラジオボタンを選択し，発信と受信の両方を使用できるようにした場合，ダイヤル中に着信（受信）があると着信を優先します。発信は，着信中エラーになります。着信中エラーの発信は，環境設定－「電話・回線」タブの「TP 再ダイヤル回数」まで発信を繰り返します。

発信専用と受発信の複数モデムまたはトリガフォンがあるとき，発信の使用順序は発信専用モデムまたはトリガフォンが先となります。詳しくは，環境設定－「電話・回線」タブを参照してください。**電話回線を，トリガフォンとモデムで共用する場合は，モデムの「受信・発信の区別」は，「発信」で設定します**。「受信」または「受発信」を設定するとトリガフォンからの発信ができなくなります。

(8) 「受信の区別」ラジオボタン

使用するモデムの受信情報種別を設定します。

(a) 「電話からの受信」ラジオボタン

「電話からの受信」ラジオボタンを選択した場合，TELstaff に電話をかけて，現在未確認な通知を確認できます。

(b) 「メッセージの受信」ラジオボタン

「メッセージの受信」ラジオボタンを選択した場合，AEPE，AESE，および AECL からのメッセージを受信します。AEPE，AESE，および AECL で設定できます。

(9) 「スピーカの音量」ラジオボタン

モデムのスピーカーからの音量を指定します。

(10) 「外線発信番号」テキストボックス

トリガフォンは PBX（Private Branch Exchange：構内交換機）回線からの発信（内線発信）を動作保証しておりませんが，お客様の判断で，PBX 回線から発信する場合は，本テキストボックスに外線への発信番号を 6 桁以内の半角文字で設定してください。

外線発信番号は，一般にゼロ発信と呼ばれているもので，通常は数字の 0 を設定します。0 以外の文字を設定する場合は，使用しているモデムの取扱説明書を参照してください。直通回線の場合には，設定を省略します。

トリガフォンの場合は，外線発信番号の後ろに半角文字”S”を指定します。（例：0S）

トリガフォンでは，PBX 回線からの発信では次の注意事項があります。

- NTT アナログ回線，またはそれと同等品質の回線に接続して使用することが前提となります。
- 構内交換機回線（PBX 回線）にトリガフォンを接続する場合は，PBX の機種により，リングバックトーン（相手局呼び出し時に受話器より聞こえるトウルルーという音）が NTT 回線と 微妙に異なったり，相手局が出たのを電気的に認識するための極性反転が無かったりします。リングバックトーン検出時間（トリガフォンのシステム設定）の間，リングバックトーンを待ちますが，認識できなかった場合，指定時間が経過した時点で，無条件に音声の再生が行われます。
- リングバックトーン検出時間をあまり短くすると，相手局として携帯電話，PHS を指定した場合に，相手局が出る前に音声再生が始まってしまう場合があります。携帯電話，PHS の場合，通常の電話機よりもリングバックトーンが返ってくる時間がかかるためです。詳細は，「1.4.4 トリガフォンについて」を参照してください。

PBX 回線を使用して，連絡網に内線と外線の電話番号が混在する場合，この外線発信番号を定義する必要がありますが，１つのモデムまたはトリガフォンと複数のモデムまたはトリガフォンでは，次に示す注意があります。

(a) １つのモデムまたはトリガフォンでPBX回線の場合

内線電話番号の先頭に，半角文字の「－」を付けてください。こうすることで内線電話番号には，外線発信番号が付加されません。

(b) 複数のモデムまたはトリガフォンでＰＢＸ回線と直通回線が混在する場合

使用するポートを TELstaff が自動的に検索して決定します（詳細は，「4.1.1(2)(a)「モデム一覧」リストボックス」を参照してください）。このため，直通回線に対して，内線番号で電話をかける場合がありますので，連絡網の内線番号は使用できません（外線

番号であれば，ポートごとに外線発信番号を定義できるので，混在しても問題ありません）。

(11)「通信速度」ドロップダウンリスト

使用する RS-232C ポートの通信速度を設定します。通信速度が 38.4〔kbps〕の場合は「38400」を，19.2〔kbps〕の場合は「19200」を，ドロップダウンリストから選択して設定します。通信速度が一致していない場合，モデムが正常に動作しなくなります。

(12)「追加モデムコマンド」テキストボックス

モデムを使用して発信をするときにモデムコマンドを追加する場合，ここに指定します。指定するコマンドについては，使用しているモデムの取扱説明書を参照してください。

環境設定－「電話・回線」タブの「回線不通時は使用しない」チェックボックスにチェック（回線の閉塞機能）したときは，次のモデムコマンドを半角英数字文字で指定してください。構内交換機回線（PBX 回線）を使用するときは，指定できません。回線の閉塞機能を使用する場合，「2.3.19 電話回線の閉塞」に示す
注意事項があります。

ATX4

(13)「音声をモニタする」チェックボックス

トリガフォンを使用して，電話の通話内容をモデム，トリガフォンのスピーカでモニタするときチェックします。モニタ音量は，「スピーカの音量」の設定では変更できません。

(14)「モデムを変更」チェックボックス

モデムを変更する場合に，ここをチェックして設定します。新規に使用するとき，または今まで使用したモデムとは別のモデムを使用する場合は，必ずチェックします。

(15)「リセット時の待機時間」スピンボックス

使用するモデムの種類として「TP」「TP2」を選択したときに指定します。TELstaff サービスの停止時にトリガフォンに対してリセット操作を行いますが，リセット操作後，TELstaff サービスを停止するまでの待機時間を 5～100 秒の間で指定します。「TP」の場合は 5 秒，「TP2」の場合は 35 秒以上を推奨します。

使用するモデムの種類として「通信」を指定したときは本項目は使用しません。

4.1.3 発信と受信時の認証方法ダイアログボックス

電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続（問い合わせ）するときの認証方法と，TELstaff から電話通知するときの電話受信者の認証方法を設定します。

発信と受信時の認証方法ダイアログボックスを，図 4.1-26 に示します。

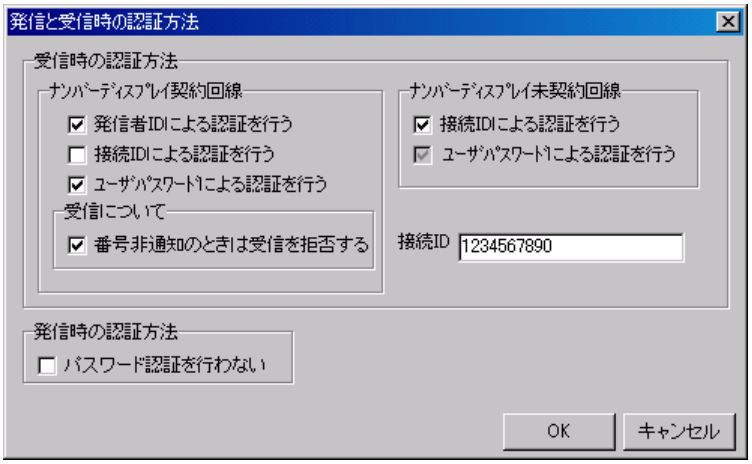


図 4.1-26　発信と受信時の認証方法ダイアログボックス

(1) 「受信時の認証方法」フィールド

電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続（問い合わせ）するときの認証方法を設定します。

電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続（問い合わせ）するときの認証方法には，発信者の通知番号（ナンバーディスプレイ）を使用する方法（ナンバーディスプレイ契約回線）と使用しない方法（ナンバーディスプレイ未契約回線）があります。

(2) 「ナンバーディスプレイ契約回線」フィールド

電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続（問い合わせ）するときの認証は，発信者通知番号（ナンバーディスプレイ）を使用して行う設定をします。

モデムのプロパティダイアログボックス「ナンバーディスプレイ契約回線を使用」チェックボックスにチェックがないときは設定できません。また，親子電話回線では発信者通知番号（ナンバーディスプレイ）を使用した認証はできません。

認証方法は，通知番号，接続 ID，ユーザパスワードの３つの情報を使用し，表 4.1-5 の 6 通りの方法が使用できます。

表 4.1-5　認証方法の種類

	通知番号	接続 ID	ﾕｰｻﾞﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ	番号非通知時の扱い
1	○	○	○	「番号非通知のときは受信を拒否する」チェックボックスにチェックしたときは，接続できません。
2	○	○	－	
3	○	－	○	
4	○	－	－	
5	－	○	○	－
6	－	－	○	－

※　発信者通知番号とユーザパスワードで認証するとき，TELstaff が取得するユーザ名は，ユーザパスワードから取得します。

※　番号非通知は，相手が番号を通知しない他に発信者通知番号を取得できない場合を含みます。

(a) 「発信者IDによる認証を行う」チェックボックス

発信者通知番号（ナンバーディスプレイ）を使用して認証する場合チェックします。

(b) 「接続IDによる認証を行う」チェックボックス

接続 ID を使用して認証する場合チェックします。

(c) 「ユーザパスワードよる認証を行う」チェックボックス

ユーザパスワードを使用して認証する場合チェックします。

(3) 「番号非通知のときは受信を拒否する」チェックボックス

発信者通知番号が非通知のとき接続を拒否するときチェックします。「番号非通知のときは受信を拒否する」チェックボックスにチェックしないとき，番号非通知のときはユーザパスワードで認証します。番号非通知は，相手が番号を通知しない他に発信者通知番号を取得できない場合を含みます。

(4) 「ナンバーディスプレイ未契約回線」フィールド

電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続（問い合わせ）するときの認証方法を設定します。

認証方法は，接続 ID とユーザパスワードの２つの情報を使用して行います。

(a) 「接続IDによる認証を行う」チェックボックス

接続 ID を使用して認証する場合チェックします。環境設定の「電話・回線」のモデムプロパティで「メッセージの受信」オプションを指定したときは，設定の必要はありません。

(b) 「ユーザパスワードよる認証を行う」チェックボックス

ユーザパスワードを使用して認証する場合チェックします。

(5) 「接続ID」テキストボックス

電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続（問い合わせ）するときの接続 ID を 10 桁の半角数字で指定します。

接続 ID は 4 桁以上 10 桁まで指定できます。1 桁以上 4 桁未満の時はエラーとなります。4 桁以上 10 桁未満の場合は確認のダイアログボックスを表示します。

接続 ID は，TELstaff への不正侵入を防ぐために，定期的に変更することを推奨します。

(6) 「発信時の認証方法」フィールド

TELstaff から電話通知するときの電話受信者の認証方法を設定します。

(7) 「パスワード認証は行わない」チェックボックス

トリガフォンからの電話への発信時，または IP 電話発信時にパスワード認証を行わないときチェックします。

パスワード認証を使用しない場合，「1.4.4 トリガフォンについて」，「2.3.1(2)(d) ト

リガフォンを使用した電話発信」に示す注意事項があります。

4.1.4 SMSの設定ダイアログボックス

TELstaff で使用する SMS 通知の詳細な設定をします。SMS 通知できる文字については，各社の説明書を参照ください。SMS 通知するときは，各社の SMS サービスセンタ番号を「SMS の設定ダイアログボックス」で設定しなければなりません。

使用できる SMS サービスの種類一覧は，「表 1.4-5 SMS の種類」を参照してください。

SMS のプロパティダイアログボックスを図 4.1-27 に示します。

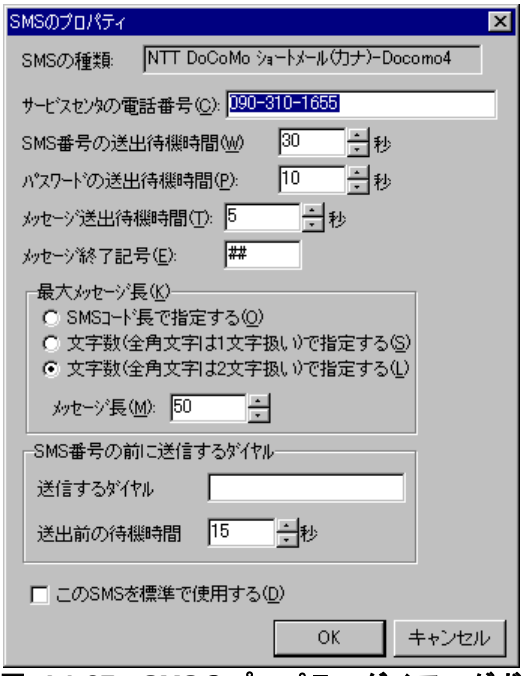


図 4.1-27 SMSのプロパティダイアログボックス

(a) 「SMSの種類」メッセージボックス

設定を変更している SMS サービスの種類が表示されます。

(b) 「サービスセンタの電話番号」テキストボックス

SMS サービスセンタの電話番号を指定します。各社のサービスセンタの電話番号は，各社にお問い合わせください。

(c) 「SMS番号の送出待機時間」スピンボックス

SMS 番号の送出待機時間とは，SMS サービスセンタにダイヤルしてから SMS 通知番号を送信開始するまでの待ち時間です。

センタに電話してから SMS 通知番号を送出するまでの送出待機時間を，秒単位で設定します。設定できる値の範囲は，1～100 秒です。

この値は，電話回線や会社によって異なるため，SMS 通知がセンタに受けられるように調整して決定してください。

調整方法は，モデムスピーカからセンタのガイダンス音声を聞きながら，ちょうどよいとき SMS 通知番号の送信音（ピポパ・・）が出るように調整します。

トリガフォンを使用する場合，SMS 通知番号の送出待機時間の設定は必要ありません。ISDN 回線を使用する場合，トリガフォン内蔵スピーカからセンタに接続後ピィポッパ音（メッセージまたは電話番号の送信音）が流れるようにトリガフォンの「リングバックトーン検出時間」の調整が必要です。「リングバックトーン検出時間」の調整は，トリガフォン付属コントールソフトの「システム設定」で行います。システム設定方法については，「TriggerPhone USER'S MANUAL」を参照してください。

(d) 「パスワードの送出待機時間」スピンボックス

パスワードの送出待機時間とは，SMS 通知番号をダイヤルしてからパスワードを送信開始するまでの待ち時間です。パスワードサービスがある携帯電話とない携帯電話で設定方法が異なり，パスワードサービスを使用した携帯電話への発信で必要となります。

●パスワードサービスがない携帯電話・PHS

パスワードサービスのない携帯電話では，「パスワード送出後の待機時間」の設定する必要はありません。

パスワードサービスのない携帯電話では，設定の必要はありません。また，携帯電話への発信でパスワードサービスを使用しないで運用する場合も設定の必要はありません。設定しても TELstaff では無視します。

●パスワードサービスがある携帯電話・PHS

SMS サービスセンタに SMS 通知番号をダイヤルしてからパスワードを送出するまでの送出待機時間を，秒単位で設定します。設定できる値の範囲は，1～100 秒です。

この値は，電話回線や会社によって異なるため，パスワードが送信できるように調整して決定してください。

調整方法は，モデムスピーカからのセンタのガイダンス音声を聞きながら，ちょうどよいときにパスワード送信音（ピポパ・・）がでるように調整します。

TELstaff が対応できるパスワードサービスは，パスワード送信の直後にメッセージを送信に対応する SMS サービスでなければなりません。

携帯電話番号を，045-xxx-yyyy:1234 のように指定するとパスワードサービスを使用する携帯電話発信となり，「：」の後の数字 1234 がパスワードとなります。この指定を行うときは，パスワードサービスを持つ携帯電話・PHS でなければなりません。

(e) 「メッセージ送出待機時間」スピンボックス

メッセージ送出待機時間とは，SMS 通知番号，またはパスワードをダイヤルしてからメッセージを送信開始するまでの待ち時間で，秒単位で設定します。設定できる値の範囲は，1～100 秒です。

この値は，電話回線や会社によって異なるため，メッセージが表示できるように調整して決定してください。

調整方法は，モデムスピーカからのセンタからのガイダンス音声を聞きながら，ちょうどよいときにメッセージ送信音（ピポパ・・）がでるように調整します。

(f) 「メッセージ終了記号」テキストボックス

メッセージ終了記号を半角 31 文字以内で設定します。

(g) 「最大メッセージ長」フィールド

「最大メッセージ長」スピンボックスでメッセージの最大文字数を設定するとき，文字数の扱い方法を指定します。会社により文字数の扱い方法が異なります。文字数の扱い方法については，各社の説明書をお読みください。

- **「SMSコード長で指定する」ラジオボタン**

  文字数の扱いが実際のコード数の場合，選択します。メッセージを文字指定する場合は，使用できません。

- **「文字数（全角文字は1文字扱い）で指定する」ラジオボタン**

  文字数の扱いが全角文字を 1 文字で扱う場合，選択します。メッセージをコードで指定する場合は，使用できません。

- **「文字数（全角文字は2文字扱い）で指定する」ラジオボタン**

  文字数の扱いが全角文字を 2 文字で扱う場合，選択します。メッセージをコードで指定する場合は，使用できません。

(h) 「最大メッセージ長」スピンボックス

編集中の SMS の種類で送信可能なメッセージの最大長を指定します。設定できる値の範囲は，0～2048 です。各社の最大メッセージ長やコードについては，各社の説明書をお読みください。

メッセージ長とメッセージ分割についての詳細は 2.3.1(3)(d)を参照してください。

(i) 「SMS番号の前に送信するダイヤル」フィールド

SMS サービスセンタに接続後，SMS 通知番号を送信する前にダイヤル番号の送信が必要な場合に使用します。センタへの接続方法については，各社にお問合わせください。

(j) 「送信するダイヤル」テキストボックス

SMS 通知番号の送信前に送信するダイヤル番号を指定します。以下いずれかの半角文字で 10 桁以内の長さで指定します。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 * #

(k) 「送信前の待機時間」スピンボックス

「送信するダイヤル」テキストボックスで指定したダイヤル番号を送信するまでの待機時間を指定します。

(l) 「このSMSを標準で使用する」チェックボックス

teldial コマンドの -bc パラメタを省略したときに，この SMS サービスを標準として使用する場合，ここをチェックします。

TELstaff をインストールしたときは，「NTT docomo ショートメール（漢字）」が，標準で設定されます。

4.1.5 統計情報のプロパティダイアログボックス

統計情報のプロパティダイアログボックスで統計情報ファイルの作成方法を設定します。統計情報の出力内容は，「12.2　統計情報の出力内容」を参照してください。統計情報のプロパティダイアログボックスを，図 4.1-28 に示します。

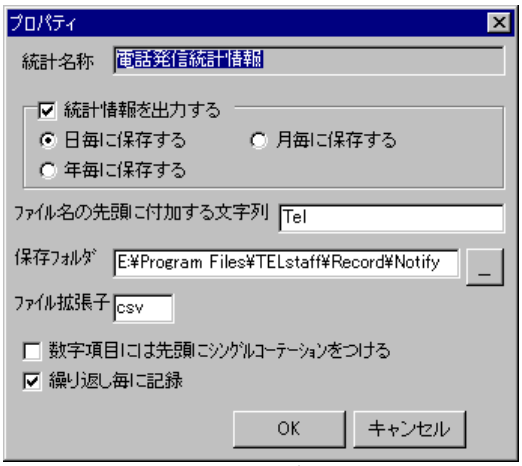


図 4.1-28　統計情報のプロパティダイアログボックス

(a)　「統計名称」テキストボックス

統計情報の種類を表示します。

(b)　「統計情報を出力する」チェックボックス

「統計名称」テキストボックスで表示された統計情報を出力するとき，「統計情報を出力する」チェックボックスにチェックします。

(c)　「日毎に保存する」ラジオボタン

統計情報ファイルを日毎に作成するとき選択します。

(d)　「月毎に保存する」ラジオボタン

統計情報ファイルを月毎に作成するとき選択します。

(e)　「年毎に保存する」ラジオボタン

統計情報ファイルを年毎に作成するとき選択します。

(f)　「ファイルの先頭に付加する文字列」テキストボックス

統計情報ファイル名の先頭に付ける名称を指定します。各統計情報のファイル名は，表 4.1-6 に示します。

表 4.1-6　各統計情報のファイル名

保存方法	ファイル名
日毎に保存する場合	*1yyyymmdd.*2

保存方法	ファイル名
月毎に保存する場合	*1yyyymm.*2
年毎に保存する場合	*1yyyy.*2

注*1　「ファイルの先頭に付加する文字列」テキストボックスの内容
注*2　「ファイル拡張子」テキストボックスの内容

(g)　「保存フォルダ」テキストボックス

統計情報を保存するフォルダ名を指定します。
フォルダ名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてフォルダ名を選択します。ネットワークドライブのフォルダ名は，指定できません。

(h)　「ファイル拡張子」テキストボックス

統計情報ファイルのファイル拡張子を指定します

(i)　「数字項目には先頭にシングルコーテーションをつける」チェックボックス

電話番号などの数字項目で先頭が 0 で始まる数字項目にはシングルコーテーションをつけるときチェックします。
(例) ‘045-xxx-yyyy

(j)　「繰り返し毎に記録」チェックボックス

発信の繰り返し毎に統計情報を出力する場合，ここをチェックします。
チェックをしない場合は，繰り返しを含めて 1 つの発信毎に統計情報を出力します。発信統計情報以外は，使用できません。
環境設定－「電話・回線」タブで TP 再ダイヤル回数を指定している場合で，ダイヤルに失敗したとき，TP 再ダイヤル回数で繰り返した発信に対する統計情報は出力されません。

4.1.6 ダイヤルアップ接続設定ダイアログボックス

ダイヤルアップ接続設定ダイアログボックス画面でダイヤルアップ接続方法を設定します。ダイヤルアップ接続方法を設定する前に Windows コマンドの rasphone コマンドでダイヤルアップ接続を構成しておかなければなりません。

ダイヤルアップ接続設定ダイアログボックスを図 4.1-29 に示します。

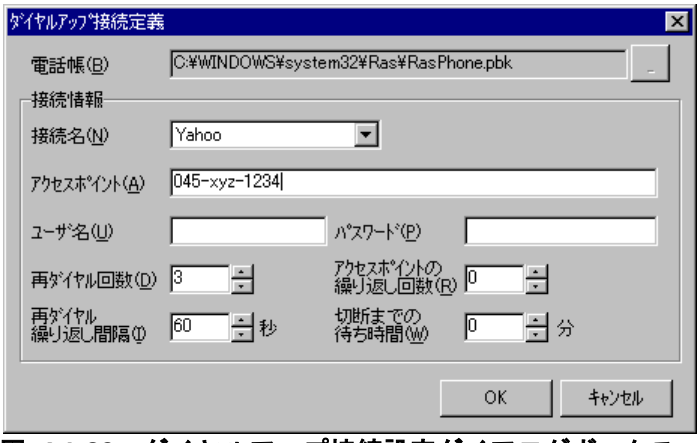


図 4.1-29　ダイヤルアップ接続設定ダイアログボックス

(a)　「電話帳」テキストボックス

電話帳ファイル（Rasphone.pbk）が作成されていない場合，Windows のダイヤルアップネットワーク接続ウィザード画面を表示します。ダイヤルアップネットワーク接続ウィザード画面に従って接続先情報を設定してください。

TELstaff が電話帳の所在場所を認識できない場合，Documents and Settings フォルダに対して Rasphone.pbk ファイルを検索して所在場所を確認してください。

(b)　「接続名」リストボックス

Windows コマンドの rasphone コマンドで作成したダイヤルアップ接続の接続名を選択します。

(c)　「アクセスポイント」テキストボックス

ダイヤルアップネットワーク接続するアクセスポイント（接続先電話番号）を指定します。ダイヤルパルス回線の場合は，接続先電話番号の前に「P」を指定します。構内交換機回線（PBX 回線）は，使用できません。

接続先電話番号を複数指定する場合は，「，」（半角カンマ）区切りで指定します。接続先電話番号を複数指定した場合は，先頭から順番に接続できたアクセスポイントを使用します。

（例）P045-xxx-yyyy,P045-xxxx-vvvvv
　　045-xxx-yyyy,045-xxxx-vvvvv

(d)　「ユーザ名」テキストボックス

ダイヤルアップ接続するときのユーザ名を指定します。

(e)　「パスワード」テキストボックス

ダイヤルアップ接続するときのパスワードを指定します。

(f)　「再ダイヤル回数」スピンボックス

接続先電話番号に接続できない場合の再ダイヤル回数を指定します。接続先電話番号を複数指定した場合は，接続先電話番号ごとに再ダイヤルがおこなわれます。0 を指定した

場合は，接続できないと再ダイヤルせずに次に接続先電話番号に接続を行います。

(g)　「再ダイヤル繰り返し間隔」スピンボックス

再ダイヤルと繰返しするときの間隔時間を指定します。

(h)　「アクセスポイントの繰り返し回数」スピンボックス

すべての接続先電話番号に接続できない場合の繰返し回数を指定します。0 を指定した場合は，繰返しは行いません。

(i)　「切断までの待ち時間」スピンボックス

メール送信した後の切断までの待ち時間を指定します。0 を指定するとメールを送信した後即座に切断します。待ち時間を指定すると切断時間になるまで電話回線が接続状態のままとなり通話料金がかかります。

4.1.7 繰り返し回数の設定ダイアログボックス

繰り返し回数の設定ダイアログボックスで直接発信の電話，SMS 通知への発信繰り返し回数を，連絡網発信のパトランプ，デスクトップ通知，メッセージ表示ボードへの発信繰り返し回数を，直接発信と連絡網発信のメール，FAX，エージェントへの発信繰り返し回数を設定します。

繰り返しについては 2.3.1(1)(g)を参照してください。

繰り返し回数の設定ダイアログボックスを図 4.1-30 に示します。

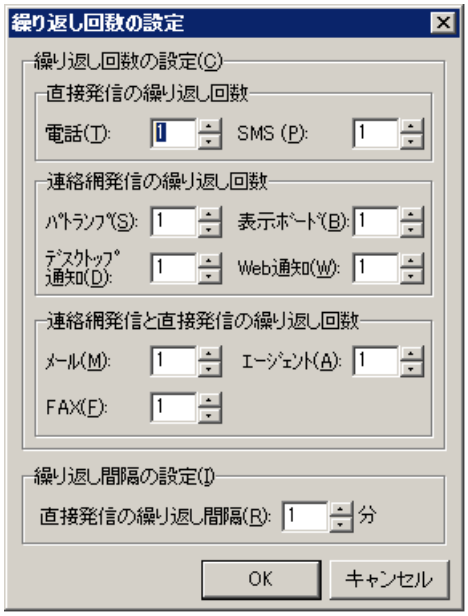


図 4.1-30　繰り返し回数の設定ダイアログボックス

(a)　「電話繰り返し回数」スピンボックス

電話に直接発信（-p オプション指定の teldial コマンド）をしたときに確認が得られない

電話発信，通信モデムを使用した電話への発信の再発信回数を 2 から 99 の範囲で指定します。1 を指定した場合，発信は繰り返されません。

環境設定ー「電話・回線」タブで TP 再ダイヤル回数を指定している場合で，ダイヤルに失敗したとき，TP 再ダイヤル回数を繰り返した後に電話繰り返しを行います。

(b) 「SMS繰り返し回数」スピンボックス

SMS 通知に直接発信（-b オプション指定の teldial コマンド）をしたときに，発信を繰り返す回数を 2 から 99 の範囲で指定します。1 を指定した場合，発信は繰り返されません。

(c) 「パトランプ繰り返し回数」スピンボックス

連絡網発信を使用したパトランプ発信で発信できないときに，発信の再発信回数を 2 から 99 の範囲で指定します。1 を指定した場合，発信は繰り返されません。

パトランプのプロパティダイアログボックスで「動作の完了を待たない」チェックボックスにチェックしている場合は，発信は繰り返されません。

(d) 「デスクトップ通知繰り返し回数」スピンボックス

連絡網発信を使用したデスクトップ通知で発信できないときに，発信の再発信回数を 2 から 99 の範囲で指定します。1 を指定した場合，発信は繰り返されません。

［デスクトップのプロパティ］―［全般］タブで「送信の完了を待たない」チェックボックスチェックボックスにチェックしている場合は，発信は繰り返されません。

(e) 「表示ボード繰り返し回数」スピンボックス

連絡網発信を使用したメッセージ表示ボード発信で発信できないときに，発信の再発信回数を 2 から 99 の範囲で指定します。1 を指定した場合，発信は繰り返されません。

メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスで「動作の完了を待たない」チェックボックスチェックボックスにチェックしている場合は，発信は繰り返されません。

(f) 「Web通知繰り返し回数」スピンボックス

このバージョンの TELstaff 製品では使用できません。

(g) 「メール繰り返し回数」スピンボックス

連絡網発信または直接発信（-e オプション指定の teldial コマンド）を使用したメール発信で発信できないときに，発信の再発信回数を 2 から 99 の範囲で指定します。1 を指定した場合，発信は繰り返されません。

複数のメールサーバを設定している場合で，すべてのメールサーバが使用できないとき，すべてのメールサーバを使用した後にメール発信繰り返しを行います。

(h)　「FAX繰り返し回数」スピンボックス

連絡網発信または直接発信（-f オプション指定の teldial コマンド）を使用した FAX 発信で発信できないときに，発信の再発信回数を 2 から 99 の範囲で指定します。1 を指定した場合，発信は繰り返されません。

(i)　「エージェント繰り返し回数」スピンボックス

連絡網発信または直接発信（-c オプション指定の teldial コマンド）を使用したエージェント発信で発信できないときに，発信の再発信回数を 2 から 99 の範囲で指定します。1 を指定した場合，発信は繰り返されません。

(j)　「直接発信の繰り返し間隔」スピンボックス

直接発信の電話，SMS 通知，メール，FAX，エージェントへの発信繰り返し間隔を，1～30 の範囲で指定します。

連絡網発信の電話，SMS 通知，パトランプ，デスクトップ通知，メッセージ表示ボード，メール，FAX，エージェントへの発信の繰り返し間隔は，環境設定－「発信方法」タブの「繰り返しの間隔」スピンボックスで設定します。

4.1.8 メールサーバ情報の設定ダイアログボックス

メール発信で使用するメールサーバの情報を設定します。
メールサーバ情報の設定ダイアログボックスを図 4.1-31 に示します。

図 4.1-31　メールサーバ情報の設定ダイアログボックス

(a)　「SMTPサーバ名」テキストボックス

TELstaff がメールを発信するときに使用する，SMTP サーバの場所を IP アドレスまたはホスト名で指定します。この値は 256 桁以内で指定してください。

(b)　「POP3サーバ名」テキストボックス

SMTP サーバが POP Before SMTP 認証を必要とするとき，POP3 サーバの場所を IP アドレスまたはホスト名で指定します。「メール送信に認証が必要」チェックボックスにチェックしたときに指定できます。

(c)　「メール送信に認証が必要」チェックボックス

POP Before SMTP 認証または SMTP 認証（SMTP-AUTH）の実施が必要な SMTP サーバを使用する場合，ここをチェックします。［認証設定］ボタンで認証設定ダイアログボックスを開き認証情報を設定します。

認証設定ダイアログボックスを，図 4.1-32 に示します。

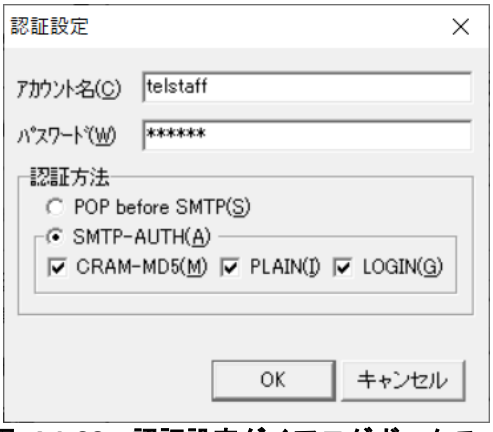


図 4.1-32　認証設定ダイアログボックス

- **「アカウント名」テキストボックス**

  メールのアカウント名を指定します。

- **「パスワード」テキストボックス**

  アカウント名に対するパスワードを指定します。

- **「認証方法」フィールド**

  POP Before SMTP 認証，SMTP-AUTH のどちらを使用するかを指定します。

  - 「POP Before SMTP」ラジオボタン

    POP Before SMTP 方式で認証を行います。

  - 「SMTP-AUTH」ラジオボタン

    SMTP-AUTH で認証を行います。

  「SMTP-AUTH」ラジオボタンを選択した場合，認証時に使用を許可する認証手続きを CRAM-MD5，PLAIN，LOGIN の中から一つ以上指定してください。TELstaff は SMTP サーバに接続すると SMTP サーバが対応している認証手続きを確認し，CRAM-MD5，PLAIN，LOGIN の優先順位で手続きを決定します。

(d)　「ダイヤルアップネットワーク接続を使用する」チェックボックス

ダイヤルアップ接続を使用してメール送信するときチェックします。

(e)　［設定］ボタン

ダイヤルアップ接続設定ダイアログボックスを開きます。ダイヤルアップ接続設定ダイアログボックス画面でダイヤルアップ接続方法を設定します。

(f)　「通信プロトコル」ドロップダウンリスト

SMTP サーバとの通信プロトコルを，「SMTP」「SMTPS」「SMTP+STARTTLS」から選択し設定します。標準は SMTP です。

(g)　［ポート番号］ボタン

ポート番号の設定ダイアログボックスを表示します。TELstaff で使用する SMTP，POP3 のポート番号を設定します。ポート番号の設定ダイアログボックスを，図 4.1-33 に示します。

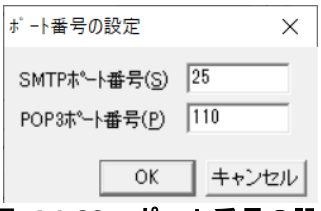


図 4.1-33　ポート番号の設定ダイアログボックス

(h)　「証明書を検証しない」チェックボックス

通信プロトコルとして「SMTPS」「SMTP+STARTTLS」が選択された場合のみ活性化します。

TLS による通信の暗号化を行うときにサーバ証明書を検証しない場合，ここをチェックします。証明書を検証するよう設定した場合，サーバ証明書の信頼性が確認できない場合にメール送信を行いません。標準では，サーバ証明書を検証しません。

●「SMTPポート番号」テキストボックス

SMTP サーバの通信ポートのポート番号を指定します。

●「POP3ポート番号」テキストボックス

POP3 サーバの通信ポートのポート番号を指定します。「メール送信に認証が必要」チェックボックスにチェックしたとき指定します。

(i)　「送信者名」テキストボックス

TELstaff がメールを発信するときに使用する，送信者名（From 情報）を指定します。

(j)　「メールアドレス」テキストボックス

TELstaff がメールを発信するときに使用する，差出人アドレスを指定します。メールサーバからのエラーメール（宛先不明等）は，このメールアドレスに通知されます。

SMTP サーバ名で指定したメールサーバドメイン名を持つメールアドレスのメール送信エラー（サーバ接続エラー等）は，TELstaff メッセージ記録　，またはメッセージエージェント記録に記録され，このメールアドレスには通知されません。

(k)　「返信先」テキストボックス

TELstaff が発信したメールの返信先を送信メールアドレスと変えたい場合に，返信先のメールアドレスを指定します。ここを省略すると，送信メールアドレスが返信先になります。

4.1.9 開封通知受信監視の設定ダイアログボックス

開封通知受信監視の設定ダイアログボックスで開封確認通知メールを受信するメールサーバ（POP3 サーバ）の情報を設定します。

開封通知受信監視の設定ダイアログボックスを図 4.1-34 に示します。

図 4.1-34　開封通知受信監視の設定ダイアログボックス

(a)　「メールアドレス」テキストボックス

開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスを指定します。このメールアドレスは，

メール開封確認を行うメール発信の返信先アドレス（From）に使用します。

(b) 「POP3サーバ」テキストボックス

開封確認通知メールを受信する POP3 サーバの場所を IP アドレスまたはホスト名で指定します。ダイヤルアップネットワーク接続でインターネット接続事業者（プロバイダ）が提供するメールサーバは指定できません。

(c) 「POP3アカウント」テキストボックス

メールアドレステキストボックスで指定したメールアドレスのアカウント名を指定します。

(d) 「POP3パスワード」テキストボックス

アカウント名に対するパスワードを指定します。

(e) 「認証方法」ドロップダウンリスト

メールサーバとの認証方法を指定します。基本（基本認証），OAuth2（OAuth2.0 認証）から選択します。標準は基本（基本認証）です。OAuth2 が選択されたとき「POP3 パスワード」は非活性となります。

OAuth2 を選択した場合「POP3 サーバ」には，outlook.office365.com（固定値）を入力してください。

OAuth2 を選択した場合，認証先サーバとの通信に Proxy サーバを経由する必要がある場合には，「4.1.1(1)環境設定－「全般」タブ」の 「(k)「Proxy の設定」ボタン」を使用して Proxy の設定を行ってください。

(f) 「ExChangeクライアント資格情報の設定」ボタン

認証方法で OAuth2 を選択した場合，ボタンが活性化します。このボタンを押すと資格情報を入力する「資格情報の入力」ダイアログが表示されます。OAuth2 を選択した場合，必ず「資格情報の入力」ダイアログの内容を設定してください。

「資格情報の入力」ダイアログに関しては「8.3.11 ExChange クライアント資格情報の設定ダイアログボックス」を参照ください。

(g) 「通信プロトコル」ドロップダウンリスト

POP3 サーバとの通信に使用するプロトコルを指定します。POP3，POP3S，および POP3+STLS のいずれかを選択します。標準は POP3 です。

(h) 「ポート番号」テキストボックス

POP3 サーバのポート番号を設定します。標準のポート番号は，110 です。

(i) 「監視間隔」スピンボックス

開封確認通知メールを受信する周期を 1 から 3600 秒で指定します。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，Windows のリソースを多く使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(j)　「開封確認通知メール以外も削除する」チェックボックス

受信したすべてのメールをメールサーバから削除する場合，ここをチェックします。開封確認通知メールだけをメールサーバから削除する場合，チェックを外します。

(k)　「エラーメールを自動再送する」チェックボックス

メール開封確認を行うメール発信を受信した SMTP サーバが，配送エラー返信した場合，再度自動再送するとき，ここをチェックします。

自動再送の対象となる配送エラー返信メールは，「RFC 1894」に準拠した形式で，配送エラーとなった元メールの情報があり，元メールの情報が配送エラー返信メールの「content-type: message/rfc822」のパートに記述されている形式でなければなりません。この形式でない配送エラー返信メールは，自動再送を行いません。

配送エラーになる場合は，送信先 SMTP サーバの障害，またはメールアドレスに誤りがあるなどがあります。メールアドレスの誤りによる配送エラーも再送の対象になります。

(l)　「サーバ証明書を検証しない」チェックボックス

ここにチェックを入れると，サーバと POP3S または POP3+STLS を使用して通信する際にサーバが提示する証明書を検証しません。標準では，サーバ証明書を検証します。

証明書を検証するよう設定し，さらにサーバ証明書の信頼性が確認できない場合，開封確認メールの到着を検出することができないため結果的に「未開封」の扱いとなります。なお，サーバ証明書の検証ができない場合，「メール開封確認記録」ログに 1502-E メッセージを出力します。

(m)　「開封確認メールのみ再送」ラジオボタン

メール開封確認を行うメール発信に対して配送エラー返信されたメールを再送対象にする場合，ここを選択チェックします。

(n)　「全てのエラーメールを再送」ラジオボタン

配送エラー返信されたすべてのメールを再送対象にする場合，ここを選択します。

(o)　「メール再送回数」スピンボックス

配送エラー返信されたメールの再送回数を 1 から 100 回で指定します。

(p)　「メール再送間隔」スピンボックスス

配送エラー返信されたメールの再送間隔を 1 から 3600 秒で指定します。

4.1.10IP電話通知の詳細設定ダイアログボックス

IP 電話通知の詳細設定ダイアログボックスで使用するポート番号や音声データの送信間隔を設定します。IP 電話通知の詳細設定ダイアログボックスを，図 4.1-35 に示します。

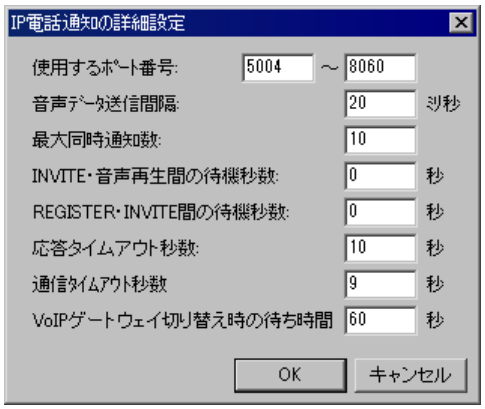


図 4.1-35　IP電話通知の詳細設定ダイアログボックス

(a)　「使用するポート番号」テキストボックス

IP 電話通知で使用するポート番号の範囲を設定します。1 回の IP 電話通知に 3 つの UDP/IP ポートを使用します。設定可能な値は，0～65535 です。最小の標準値は 5004，最大の標準値は 8060 です。

(b)　「音声データ送信間隔」テキストボックス

IP 電話通知における音声データの送信間隔を 10～30 の範囲で設定します。特別な理由が無い限り標準値の 20 を設定してください。

(c)　「最大同時通知数」テキストボックス

最大で何件までの IP 電話通知を同時に並行して実行できるかを，0～1000 の範囲で設定します。0 を指定した場合，同時通知数を制限しません。標準値は 10 です。

同時通知数は，運用にあわせて指定してください。

(d)　「INVITE・音声再生間の待機秒数」テキストボックス

IP 電話の通話セッションを確立してから音声データ送出を開始するまでの待ち時間を，秒単位で設定します。設定できる値の範囲は 0～300 で，標準値は 0 です。特別な理由が無い限り標準値の 0 を指定してください。

(e)　「REGISTER・INVITE間の待機秒数」テキストボックス

本バージョンでは使用できません。

(f)　「応答タイムアウト秒数」テキストボックス

IP 電話通知において，電話の呼び出しを開始してから電話のセッションが確立する（例：相手が電話に出る）までの最大待ち時間を指定します。設定できる値の範囲は 10～300 で，標準値は 60 秒です。

この値は，「通信タイムアウト秒数」以下に設定することはできません。

(g)　「通信タイムアウト秒数」テキストボックス

IP 電話端末・SIP サーバ・VoIP ゲートウェイとの通信時，TELstaff から送信した個々の要求に対する応答を最長で何秒待つかを設定します。設定できる値の範囲は 1～60 で，標準値は 10 秒です。

この値は，「応答タイムアウト秒数」よりも短くする必要があります。

(h)　「VoIPゲートウェイ切り替え時の待ち時間」テキストボックス

VoIP ゲートウェイを複数登録している場合は VoIP ゲートウェイの障害検出時に使用する VoIP ゲートウェイを切り替えて再発信を試みます。この切り替え時，ここで指定した秒数だけ待ってから新しい VoIP ゲートウェイを使用した発信を開始します。設定できる値の範囲は 0～60 で，標準値は 5 秒です。

4.1.11VoIPゲートウェイ情報の設定ダイアログボックス

VoIP ゲートウェイ情報の設定ダイアログボックスでは，IP 電話発信で使用する VoIP ゲートウェイの詳細情報を設定します。VoIP ゲートウェイ情報の設定ダイアログボックスを図 4.1-36 に示します。

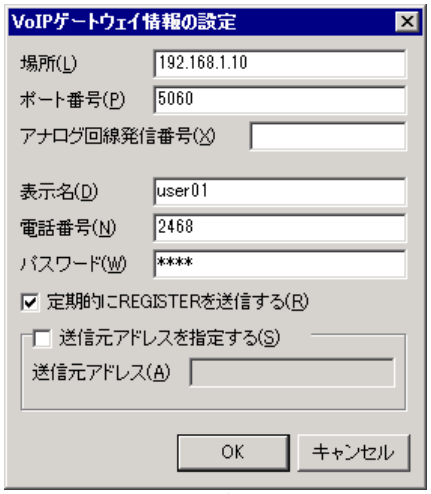


図 4.1-36　VoIPゲートウェイ情報の設定ダイアログボックス

(a)　「場所」テキストボックス

VoIP ゲートウェイの場所を IP アドレスまたはホスト名で指定します。VoIP ゲートウェイを経由して IP 電話通知を行う場合，「場所」テキストボックス，「電話番号」テキスト

ボックスの指定が必要です。

(b) 「ポート番号」テキストボックス

SIP サーバの通信ポートのポート番号を 0～65535 の範囲で指定します。標準のポート番号は，5060 です。

(c) 「表示名」テキストボックス

この VoIP ゲートウェイを使って電話発信する際に，発信者の名前として通知先に表示させる名前を指定します。標準の表示名は「TELstaff」です。なおここで指定した名前は，VoIP ゲートウェイから公衆一般回線を通して行う電話通知では使用されません。また，SIP に対応した IP 電話端末に電話通知する場合でも，発信元の表示名を表示する機能を備えていない端末であれば，この名前は表示されません。

(d) 「電話番号」テキストボックス

この VoIP ゲートウェイを使って電話発信する際に，発信元として使う電話番号（ユーザ名）を指定します。あらかじめ VoIP ゲートウェイに登録した電話番号を指定してください。

(e) 「パスワード」テキストボックス

この VoIP ゲートウェイを使った電話発信時の認証で使用するパスワードを指定します。「電話番号」テキストボックスで指定した電話番号用のパスワードを指定してください。

(f) 「定期的にREGISTERを送信する」チェックボックス

この VoIP ゲートウェイに対して定期的に発信元電話番号を登録する場合はチェックします。

(g) 「アナログ回線発信番号」テキストボックス

VoIP ゲートウェイ用の設定項目です。VoIP ゲートウェイの機種・設定によっては特別な番号で始まる電話番号だけを NTT 公衆回線への発信と判断します。そのような VoIP ゲートウェイを使用する場合には，VoIP ゲートウェイにて設定されている特別な番号をここで指定します。

(h) 「送信元アドレスを指定する」フィールド

TELstaff インストール PC が複数のネットワークに所属している場合に必ず指定します。このフィールドでは，VoIP ゲートウェイ情報の設定ダイアログボックスで設定した VoIP ゲートウェイと通信する際に，送信元アドレスとして IP アドレスを指定します。

● **「送信元アドレスを指定する」チェックボックス**

TELstaff インストール PC が複数のネットワークに所属している場合にチェックします。

● **「送信元アドレス」テキストボックス**

TELstaff インストール PC が複数のネットワークに所属している場合，VoIP ゲートウェイと通信する際に，送信元アドレスとして IP アドレスを指定します。

4.1.12CTBXの設定ダイアログボックス

CTBX の設定ダイアログボックスでは，IP 電話発信で使用する CTBX シリーズ機器の詳細情報を表示／設定します。回線契約チャネル数以外の項目は，CT System Builder for Network 側で設定された値を表示します，TELstaff 側からの変更はできません。CTBX の設定ダイアログボックスを図 4.1-37 に示します。

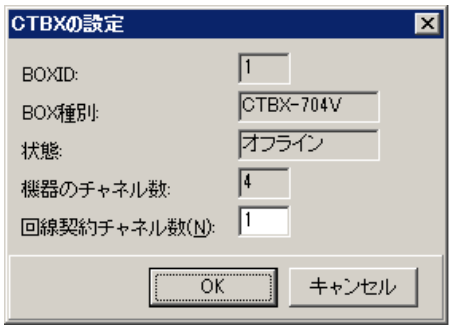


図 4.1-37　CTBXの設定ダイアログボックス

(a)　「BOXID」テキストボックス

CTBX 機器の ID を表示します。本テキストボックスは編集できません。

(b)　「BOX種別」テキストボックス

CTBX シリーズ機器の機種名を表示します。本テキストボックスは編集できません。

(c)　「状態」テキストボックス

CTBX シリーズ機器の状態を表示します。状態は，オンラインまたはオフラインのいずれかで表示します。本テキストボックスは編集できません。

(d)　「機器のチャネル数」テキストボックス

CTBX シリーズ機器の最大チャネル数を表示します。本テキストボックスは編集できません。

(e)　「回線契約チャネル数」テキストボックス

TELstaff で使用する最大チャネル数（同時可能通話数）を設定します。初期値は 1 です。

設定可能な値は 1～接続された回線の回線契約のチャネル数以下の値を設定します。

1 台の CTBX シリーズ機器での同時可能通話数は，機器のチャネル数と回線契約チャネル数の小さい方となります。例えば，機器のチャネルが 24 チャネルの CTBX-724 をご利用いただいた場合でも，回線契約のチャネル数が 4 の場合，同時可能通話数は回線契約のチャネル数の 4 までとなります。

複数の CTBX シリーズ機器を利用時の同時可能発信数は，各 CTBX シリーズ機器に接続された回線の契約チャネル数までの合計値となります。

4.1.13CTBX通知の詳細設定ダイアログボックス

CTBX 通知の詳細設定ダイアログボックスでは，IP 電話発信で使用する CTBX の通知の詳細を設定します。CTBX 通知の詳細設定ダイアログボックスを図 4.1-38 に示します。

図 4.1-38　CTBX通知の詳細設定ダイアログボックス

(a)　「同時発信数」テキストボックス

CTBX シリーズ機器を使用した IP 電話通知で最大で何件までの通知を同時に並行して実行できるかを設定します。初期値は 0 です。0 が設定されている場合は，全 CTBX シリーズ機器の回線契約チャネル数の合計値とします。設定した同時発信数が全 CTBX シリーズ機器の回線契約チャネル数の合計値を超えた場合は，0 を設定したものとみなして動作します。

4.1.14CTBXシリーズの設定ファイルについて

CTBX シリーズ機器を使用した IP 電話通知において，呼び出し待ち時間を変更する場合は，CT System Builder for Network の設定ファイルに指定します。
CT System Builder for Network の設定ファイル(ini ファイル形式)の場所は以下の通りです。

フォルダ名：<Windows システムドライブ>¥CTSDEV¥VoIP
ファイル名：BDVoIPnn.INI (nn はボックス番号(10 進二桁 01～16))

呼び出し待ち時間に関する設定項目を，表 4.1-7 に示します。

表 4.1-7　CT System Builder for Network設定ファイル

セクション名	キー名	説明	指定方法
SelfSignaling01	CallingTimer	発呼制限時間を指定します。発呼後，指定した時	10 進数で指定します。 1～180：秒

セクション名	キー名	説明	指定方法
		間経過すると，発呼を中断し「発呼タイムアウト」になります。	デフォルト値は 30（秒）です。 ※公衆網への接続時には 120 秒以内とする必要があります。

呼び出し待ち時間を 60 秒に設定した場合の例を以下に示します。

（例）

```
[SelfSignaling01]
CallingTimer=60
```

設定ファイルの内容を変更したときは，CT System Builder for Network のサービスの再起動が必要です。

4.2メッセージ通知方法の設定

4.2.1 メッセージ通知方法

TELstaff が出力するメッセージを，TELstaff の「システム管理者」に通知する場合の設定をします。通知するメッセージは，Administrators 権限ユーザでメッセージ通知方法の設定ダイアログボックスで設定します。

メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【メッセージ通知方法の設定】を選択して表示します。

設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

4.2.2 メッセージ通知ダイアログボックス

TELstaff が出力するメッセージを，TELstaff の「システム管理者」に通知するときの通知方法を設定します。

メッセージ通知ダイアログボックスを図 4.2-1 に示します。

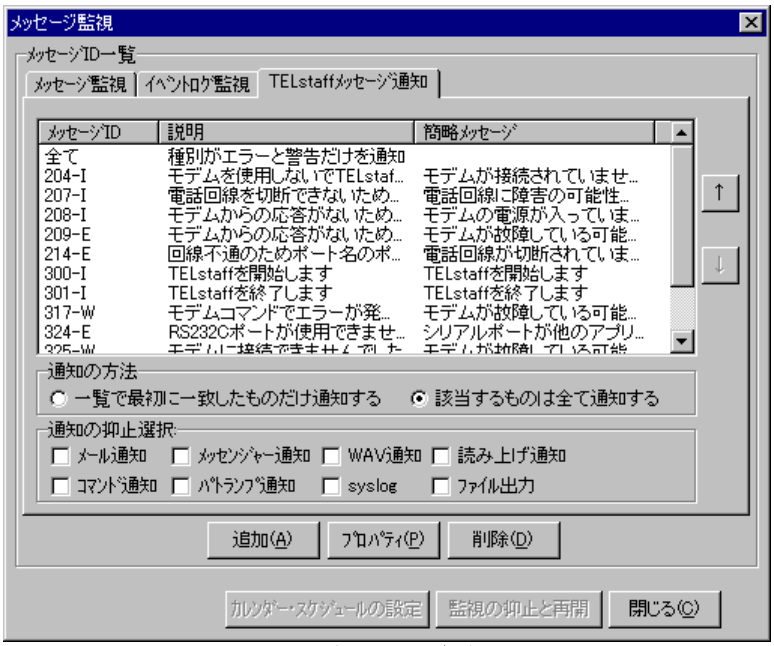


図 4.2-1 メッセージ通知ダイアログボックス

(a) 「メッセージID一覧」フィールド

TELstaff が出力する通知対象のメッセージ一覧を追加順に先頭から表示します。

(b) ［↑］ボタン

選択したメッセージの順序を一つ前に移動します。

(c) ［↓］ボタン

選択したメッセージの順序を一つ後ろに移動します。

(d) 「一覧で最初に一致したものだけ通知する」ラジオボタン

メッセージ ID 一覧の先頭から通知対象のメッセージだけを通知する場合，選択します。メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスの「指定種別」ドロップダウンリストで「全てのメッセージ」，または「範囲指定」を選択したメッセージがあるとき設定できます。

(e) 「該当するもの全て通知する」ラジオボタン

メッセージ ID 一覧のすべてのメッセージを通知する場合，選択します。メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスの「指定種別」ドロップダウンリストで「全てのメッセージ」，または「範囲指定」を選択したメッセージがあるとき設定できます。

(f) 「通知の抑止選択」フィールド

「通知の抑止選択」フィールドの通知先を抑止するときは，抑止する通知先のチェックボックスにチェックします。

抑止を解除するときは，抑止を解除する通知先のチェックボックスのチェックを外します。

(g) ［追加］ボタン

新規に通知対象にする通知するメッセージを追加するため，メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスを開きます。

(h) ［プロパティ］ボタン

メッセージ ID 一覧で選択されたメッセージのメッセージ通知方法の設定ダイアログボックスを表示します。

(i) ［削除］ボタン

メッセージ ID 一覧で選択した項目を削除します。複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

4.2.3 メッセージ通知方法の設定ダイアログボックス

(1) 「通知メッセージの指定」フィールド

TELstaff が出力するメッセージを，TELstaff の「システム管理者」に通知するときの通知するメッセージを設定します。通知するメッセージは，通知するメッセージは，メッセージ ID（「メッセージ番号-メッセージ種別」の形式を示します）毎に個別に設定する方法と，メッセージ番号の範囲で設定する方法と，すべてのメッセージを対象にする 3 つの方法で設定できます。

「通知メッセージの指定」フィールドー個別指定を図 4.2-2 に，「通知メッセージの指定」フィールドー全てのメッセージを図 4.2-3 に，「通知メッセージの指定」フィールドー範囲指定を図 4.2-4 に示します。

図 4.2-2 「通知メッセージの指定」フィールドー個別指定

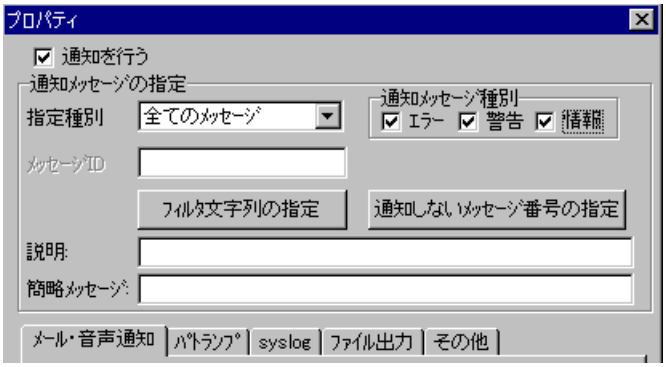


図 4.2-3 「通知メッセージの指定」フィールドー全てのメッセージ

図 4.2-4 「通知メッセージの指定」フィールドー範囲指定

(a) 「通知を行う」チェックボックス

このメッセージを通知する場合，ここをチェックします。

(b) 「指定種別」ドロップダウンリスト

メッセージ ID（「メッセージ番号-メッセージ種別」の形式を示します）毎に通知する場合，「個別指定」を，ある範囲のメッセージ番号だけを通知する場合，「範囲指定」を，すべてのメッセージを通知対象にする場合は，「全てのメッセージ」を選択します。

「範囲指定」，または「全てのメッセージ」を選択した場合は，音声通知，Messenger サービスを使用したメッセージ通知は使用できません。

(c) 「エラー」チェックボックス

メッセージ種別が「E」のメッセージを通知対象にする場合，チェックします。

「指定種別」ドロップダウンリストで「個別指定」を選択している場合は，チェックできません。

(d) 「警告」チェックボックス

メッセージ種別が「W」のメッセージを通知対象にする場合，チェックします。

「指定種別」ドロップダウンリストで「個別指定」を選択している場合は，チェックできません。

(e) 「情報」チェックボックス

メッセージ種別が「I」のメッセージを通知対象にする場合，チェックします。

「指定種別」ドロップダウンリストで「個別指定」を選択している場合は，チェックできません。

「情報」チェックボックスにチェックした場合は，メール通知，パトランプ通知，およびコマンド実行は，使用できません。

(f) 「メッセージID」テキストボックス

「指定種別」ドロップダウンリストで「個別指定」を選択している場合で，メッセージ通知を行う TELstaff のメッセージ ID（メッセージ番号-メッセージ種別）を指定します。

メッセージ ID は，使用するバージョンにより異なる場合があります。この場合は，定義の変更を行ってください。

(g) 「メッセージ番号」テキストボックス

「指定種別」ドロップダウンリストで「範囲指定」を選択している場合で，ある範囲のメッセージ番号だけを通知するとき，下限のメッセージ番号と下限のメッセージ番号より大きい上限のメッセージ番号を半角数字で指定します。

下限のメッセージ番号と上限のメッセージ番号が同じメッセージ番号は，指定できません。

メッセージ番号は，使用するバージョンにより異なる場合があります。この場合は，定義の変更を行ってください。

(h)　［フィルタ文字列の指定］ボタン

特定の文字列を含むメッセージだけを通知するためのフィルタ文字列の指定ダイアログボックス（図 4.2-15）を開きます。

(i)　［通知しないメッセージ番号の指定］ボタン

特定のメッセージ番号を通知対象外にするための通知しないメッセージ番号の指定ダイアログボックス（図 4.2-16）を開きます。

「指定種別」ドロップダウンリストで「個別指定」を選択している場合は，設定できません。

(j)　「説明」テキストボックス

メッセージの内容を分かりやすくするための簡単な説明を指定します。

この説明は，メッセージ通知ダイアログボックスの「メッセージ ID 一覧」フィールドに表示されます。

(k)　「簡略メッセージ」テキストボックス

メールや Messenger サービスを使用して，TELstaff が出力したメッセージを分かり易い内容で通知したいとき，代替メッセージを設定します。

この代替メッセージは，~AlterMessage~変数で参照できます。~AlterMessage~変数は，内容に空白を含むため「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。

(2)　「メール・音声通知」タブ

TELstaff が出力するメッセージをメール通知，または音声通知するときのメール通知，または音声通知方法を設定します。

メッセージ通知方法の設定－「メール・音声通知」タブを，図 4.2-5 に示します。

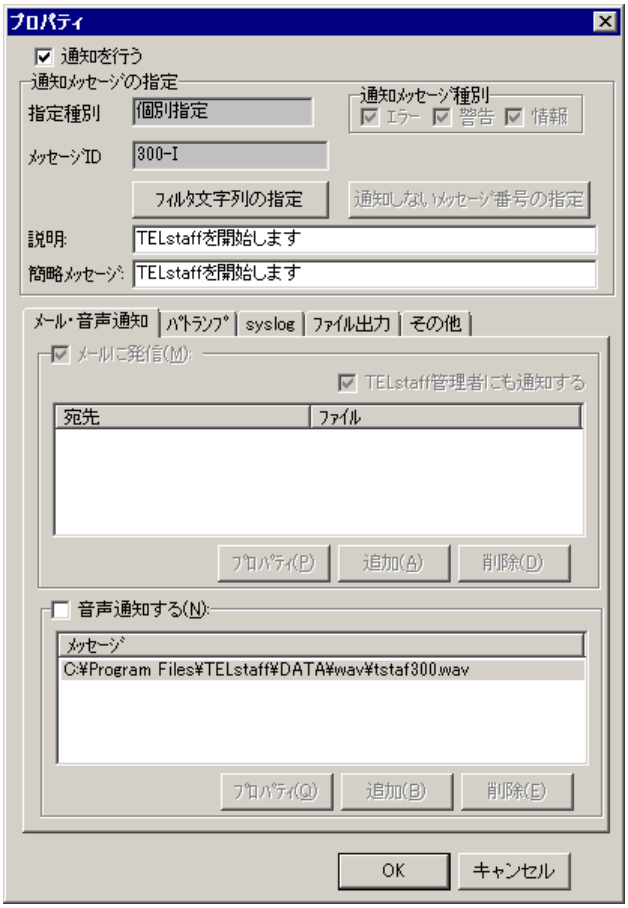


図 4.2-5　メッセージ通知方法の設定－「メール・音声通知」タブ

(a)　「メールに発信」チェックボックス

TELstaff が出力するメッセージをメールに通知する場合，ここをチェックします。通知メッセージ種別フィールドの「情報」チェックボックスにチェックしている場合，メール通知はできません。

メール通知する場合は，環境設定－「E メール」タブで SMTP サーバの設定が必要です。

メール通知ができない場合は，繰り返し回数の設定ダイアログボックス（図 4.1-30）で設定した繰り返し回数と繰り返し間隔で再送します。繰り返し間隔は，（直接発信の繰り返し間隔*60／4）の間隔（秒）になります。

(b)　「TELstaff管理者にも通知する」チェックボックス

ユーザ管理で登録した TELstaff の「システム管理者」のメール宛先にも通知する場合，ここをチェックします。「システム管理者」にメール通知する場合は，ユーザ管理で「システム管理者」にメール宛先の設定が必要です。

AECL では，環境設定－「E メール」タブの「TELstaff の通知先」で指定した宛先にメール送信します。

(c)　［プロパティ］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，宛先情報を変更します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.2-6 に示します。

(d)　［追加］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，メール通知する宛先を設定します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.2-6 に示します。

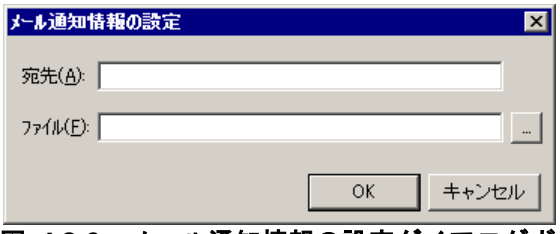


図 4.2-6　メール通知情報の設定ダイアログボックス

●「宛先」テキストボックス

発信通知するメールのメールアドレスを指定します。メール監視で監視対象にしている宛先（メールアドレス）は指定できません。

●「ファイル名」テキストボックス

メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，標準提供のメール通知文ファイルが使用されます。

標準提供のメール通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文の内容とカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(e)　［削除］ボタン

選択した宛先情報を削除します。

(f)　「音声通知する」チェックボックス

TELstaff が出力するメッセージを音声通知する場合，ここをチェックします。

「指定種別」ドロップダウンリストで「範囲指定」，または「全てのメッセージ」を選択した場合は，音声通知はできません。

音声通知中のときは，他の telsndpl コマンド，telsmart コマンド，メッセージエージェントの読み上げ，メッセージエージェントの WAV ファイルの再生，デスクトップ通知の読み上げ，デスクトップ通知のサウンド再生や TELstaff メッセージの音声通知が終了するまで実行されません。

Windows の sndrec32 コマンド，サウンドレコーダ，またはその他 MediaPlayer を使用する場合は，音声通知は使用できません

(g)　［プロパティ］ボタン

音声通知メッセージの設定ダイアログボックスを開き，音声通知方法を変更します。音声通知メッセージの設定ダイアログボックスを図 4.2-7 に示します。

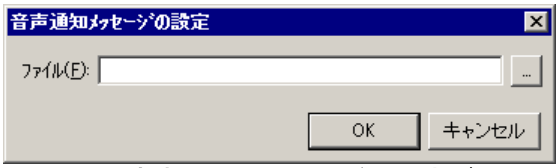


図 4.2-7　音声通知メッセージの設定ダイアログボックス

WAV ファイル名は，ファイルの完全パス名で直接指定するか，［...］ボタンをクリックして WAV ファイルを選択してください。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

WAV ファイルの大きさによっては，再生されない場合があります。WAV ファイルが再生されない場合は，WAV ファイルのサイズが小さいファイルを指定してください。

(h)　［追加］ボタン

音声通知メッセージの設定ダイアログボックスを開き，音声通知方法を設定します。音声通知メッセージの設定ダイアログボックスを図 4.2-4 に示します。

(i)　［削除］ボタン

選択した音声通知設定を削除します。

(3)　「パトランプ」タブ

TELstaff が出力するメッセージをパトランプ通知するときのパトランプの動作方法を設定します。パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。

通知メッセージ種別フィールドの「情報」チェックボックスにチェックしている場合，パトランプ通知はできません。

メッセージ通知方法の設定ー「パトランプ」タブを，図 4.2-8 に示します。

図 4.2-8　メッセージ通知方法の設定－「パトランプ」タブ

(a)　「パトランプに発信」チェックボックス

TELstaff が出力するメッセージをパトランプで通知するときに，パトランプに通知する場合，ここをチェックします。

(b)　「動作」ラジオボタン

パトランプの動作を指定します。

- ［点灯］ボタンをチェックした場合

  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させます。

- ［消灯］ボタンをチェックした場合

  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。

- ［点灯と消灯］ボタンをチェックした場合

  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させ，チェックされていないリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。すべてのリレー番号のパトランプを動作させるときは，「点灯と消灯」ボタンのチェックを推奨します。リレー番号個別の動作に比べて動作時間を短縮できます。

(c)　「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプの動作で「点灯」が指定されている場合に有効となり，パトランプ点灯後，自動的に消灯させる場合に，ここをチェックします。

自動消灯オプションを使用するとパトランプが消灯するまで，他からの同じ RS232C 接続，コンバータ接続のパトランプおよびネットワーク対応型パトランプへの動作指示は待ち状態になります。

自動消灯オプションを使用して短時間に大量のパトランプの動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。

複数のリレー接点を指定したときの「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で点灯後，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で消灯します。動作順序は，変えられません。

(d)　「自動的に消灯する」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ点灯後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

(e)　「リレー番号」チェックボックス

動作させたいパトランプが接続されているリレーの番号ボタンをチェックします。リレー番号の指定で「全て」がチェックされた場合，このボタンは指定できません。

複数のリレー接点を指定したときの「点灯」，「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で動作します。動作順序は，変えられません。

(f)　「全て」チェックボックス

すべてのリレーに接続されているパトランプの「点灯」，または「消灯」をする場合，ここをチェックします。

パトランプの動作ボタンで「点灯と消灯」が指定された場合，すべて点灯の動作になります。

(g)　［リレー種別］ボタン

使用するリレー装置の種別を設定します。設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するリレー装置の標準設定(D) 】で設定した標準のリレー装置が使用されます 。

(h)　「場所」テキストボックス

パトランプが接続されている場所を指定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択された場所によって異なります。

●パトランプが接続されている場所が，このPCの場合

パトランプが接続されている場所がこの PC の場合，「ローカル接続」ラジオボタンを選択し，「ポート名」ドロップダウンリストからパトランプが接続されている RS232C のポート番号を選択します。

使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると

直前で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

●パトランプの接続場所がコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータに接続されているときは，「コンバータ接続」ラジオボタンを選択し，「ネットワークアドレス」テキストボックスに IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telswnet ポート番号/tcp
```

使用するコンバータは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の標準設定(H) 】-【パトランプ発信の場合(L) 】で設定したコンバータ装置を使用します。

１つの機器を複数の TELstaff から同時に使用できるかは機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

(例)

100.100.100.1

100.100.100.1:35000

(i)　「チャンネル番号」ドロップダウンリスト

リレー装置が接続されている RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。

RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に使用したチャンネル番号の機器が動作します。

(j)　「カレンダー」フィールド

このパトランプで使用するカレンダーを指定します。パトランプのスケジュール設定と組み合わせることで，平日･休日，時間帯によって点灯させるパトランプを切り替える等，細かな通知スケジューリングが可能です。

- 「指定しない」をチェックした場合，システムのカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてパトランプ独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。パトランプのカレンダーダイアログボックスを図 4.2-9 に示します。

図 4.2-9　パトランプのカレンダーダイアログボックス

(k)　「スケジュール」フィールド

このパトランプで使用するスケジュールを指定します。パトランプのカレンダー設定と組み合わせることで，平日･休日，時間帯によって点灯させるパトランプを切り替える等，細かな通知スケジューリングが可能です。

- 「指定しない」をチェックした場合，システムのスケジュールを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてパトランプ独自のスケジュールを設定します。パトランプのスケジュールダイアログボックスを図 4.2-10 に示します。

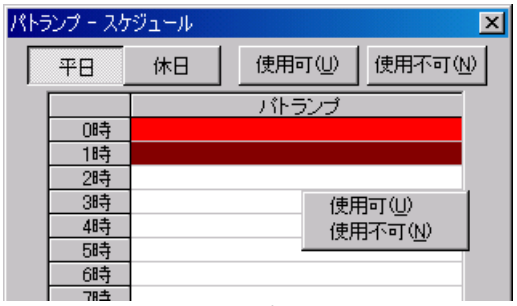


図 4.2-10　パトランプのスケジュールダイアログボックス

(4)　「syslog」タブ

TELstaff が出力する通知対象メッセージを Syslog メッセージで Syslog サーバに送信するときの送信方法を設定します。

Syslog サーバに送信する TELstaff メッセージの最大長は，（999-ホスト名長-プロセス名長）桁になります。最大長を超える場合は，最大長で送信します。

また，Syslog サーバへの Syslog メッセージ送信は，UDP 通信が持つ信頼性の範囲で送信されます。

「情報」チェックボックスにチェックしている場合など，メッセージ通知の対象になるメッセージが多い場合，ネットワークリソースや Windows リソースを消費しますので注意が必要になる場合があります。

メッセージ通知方法の設定－「syslog」タブを，図 4.2-11 に示します。

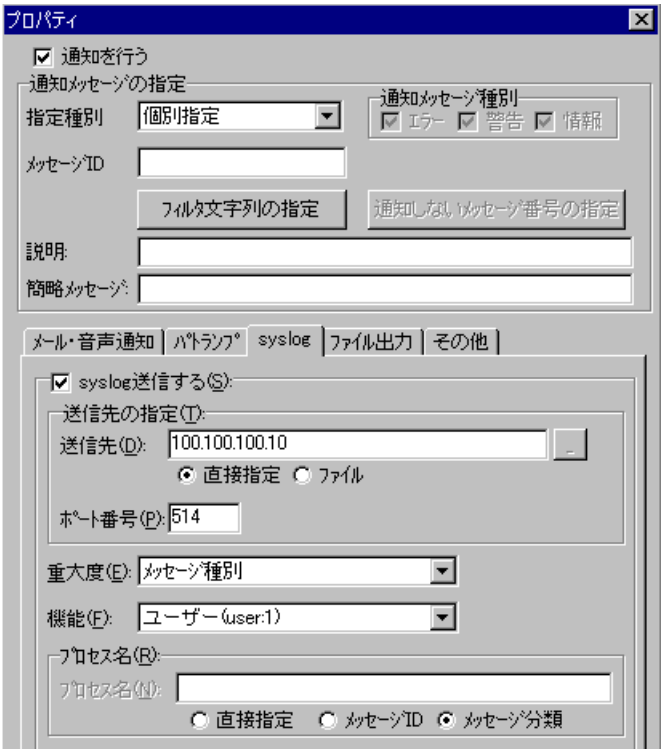


図 4.2-11　メッセージ通知方法の設定ー「syslog」タブ

(a)　「syslog送信する」チェックボックス

TELstaff が出力する通知対象メッセージを Syslog メッセージで Syslog サーバに送信する場合，ここをチェックします。

(b)　「送信先」テキストボックス

Syslog サーバの場所（Syslog メッセージの送信先）を指定します。

Syslog サーバの場所は，複数指定することができますが，短時間に多数のメッセージを送信するような場合，送信が遅延したり，ネットワークリソースや Windows リソースを消費しますので注意が必要になる場合があります。

●「直接指定」ラジオボタン

Syslog サーバの場所を IP アドレス，またはホスト名で指定します。Syslog サーバの場所を複数指定する場合は，「＋」区切りで，520 桁以内で指定します。

（例）server1+server2+server3

●「ファイル」ラジオボタン

Syslog サーバの場所を指定したファイルのファイル名を 520 桁以内で指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

Syslog サーバの場所を指定する記述形式を図 4.2-12 に示します。

- 1 つの Syslog サーバの場所を IP アドレス，またはホスト名で指定します。
- ポート番号を指定する場合は，「/」区切りで 0 から 65535 のポート番号（UDP）を指定します。0 から 65535 以外のポート番号を指定した場合は，514/UDP ポ

ートを使用します。ポート番号を省略した場合は，「ポート番号」テキストボックスで指定したポート番号を使用し，両方とも省略した場合は，514/UDP ポートを使用します。
また，「ポート番号」テキストボックスで指定している場合は，ここのポート番号を優先使用します。Windows ファイアウォールを使用する場合は，指定したポート番号(UDP)を Windows ファイアウォールの適用外にしてください。

- 行の 1 文字目が「#」で始まる行は，注釈になります。

```
IP アドレス（またはホスト名）1
IP アドレス（またはホスト名）2
IP アドレス（またはホスト名）3/ポート番号
        ・
        ・
        ・
```

図 4.2-12　syslogサーバの場所を指定する記述形式

(c)　「ポート番号」テキストボックス

syslog サーバと通信を行うためのポート番号（UDP ポート）を 0 から 65535 の 5 桁以内で指定します。0 から 65535 以外のポート番号を指定した場合は，514/UDP ポートを使用します。

Windows ファイアウォールを使用する場合は，指定したポート番号(UDP)を Windows ファイアウォールの適用外にしてください。

ポート番号を省略すると次のポート番号を使用します。

- 「直接指定」ラジオボタンで直接 syslog サーバの場所を指定した場合は，514/UDP ポートを使用します。
- 「ファイル」ラジオボタンで syslog サーバの場所をファイル指定した場合，ファイル内で指定したポート番号を使用します。

(d)　「重要度」ドロップダウンリスト

syslog プロトコル（RFC 3164）の重要度を設定します。「メッセージ種別」を指定した場合は，TELstaff メッセージのメッセージ種別で割り当てます。

表 4.2-1　TELstaffメッセージ種別とsyslogメッセージの重要度の対応関係

TELstaff メッセージ種別	使用する syslog メッセージの重要度
情報（I）	情報（6）
警告（W）	警告（4）
エラー（E）	エラー（3）

(e)　「機能」ドロップダウンリスト

syslog プロトコルの機能を設定します。

(f)　「プロセス名」フィールド

Syslog プロトコルのプロセス名を設定します。

Syslog サーバに送信する TELstaff メッセージの最大長は，（999-ホスト名長-プロセス名長）桁になります。最大長を超える場合は，最大長で送信します。

●直接指定

Syslog プロトコルのプロセス名を「プロセス名」テキストボックスに半角英数字で，20 桁以内で指定します。

●メッセージID

TELstaff のメッセージ ID（「メッセージ番号-メッセージ種別」の形式）をプロセス名として使用します。

●メッセージ分類

ログのプロパティダイアログボックス（図 4.1-11）の「メッセージの先頭に付加する文字列」テキストボックスで指定した文字列をプロセス名として使用します。

標準で使用するプロセス名は，表 4.1-1 を参照してください。

(5)　「ファイル出力」タブ

TELstaff が出力する通知対象メッセージを集約して記録するかどうかを設定します。メッセージ通知方法の設定ー「ファイル出力」タブを，図 4.2-13 に示します。

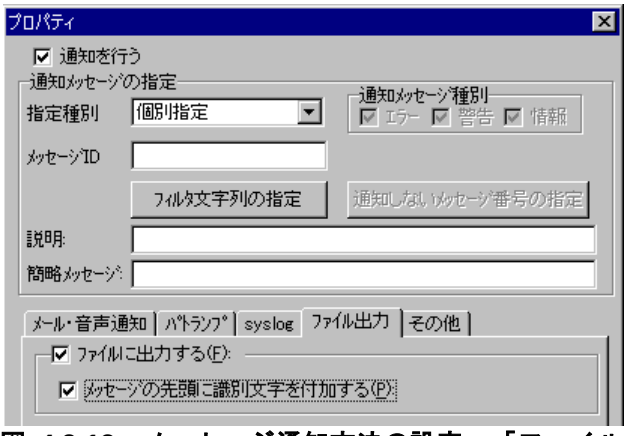


図 4.2-13　メッセージ通知方法の設定ー「ファイル出力」タブ

(a)　「ファイルに出力する」チェックボックス

通知対象のメッセージを集約して記録する場合，ここをチェックします。

集約した記録名は，「TELstaff 動作記録の集約」で，記録内容は，ログビューアで閲覧できます。

(b)　「メッセージの先頭に識別文字を付加する」チェックボックス

「TELstaff 動作記録の集約」記録に出力するメッセージの先頭に，ログのプロパティダイアログボックス（図 4.1-11）の「メッセージの先頭に付加する文字列」テキストボックスで指定した文字列を付加する場合，ここをチェックします。

標準で付加する文字列は，表 4.1-1 を参照してください。

メッセージの先頭に表 4.1-1 に示す文字列を付加すると，「TELstaff 動作記録の集約」記録に出力できるメッセージ長さは，付加する文字列の文字数分短くなります。「TELstaff 動作記録の集約」記録に出力するメッセージの最大長は，
（1024-付加文字数-1）桁になります。付加文字数を含め 1024 桁を超える場合は，1024 文字で切り捨てて記録します。この場合，全角文字部で切り捨てがおこなわれると最終文字が不正文字になる場合があります。

(6) 「その他」タブ

TELstaff が出力するメッセージをメッセージ通知，およびコマンド実行通知するときのメッセージ通知方法とコマンド実行通知方法を設定します。

メッセージ通知方法の設定－「その他」タブを，図 4.2-14 に示します。

図 4.2-14 メッセージ通知方法の設定－「その他」タブ

(a) 「Messengerサービスで通知を行う」チェックボックス

TELstaff が出力するメッセージを，Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知を使用して通知する場合，ここをチェックします。両者の違いや注意事項については 2.3.1(12)を参照してください。

「指定種別」ドロップダウンリストで「範囲指定」，または「全てのメッセージ」を選択した場合は，Messenger サービスを使用したメッセージ通知はできません。

メッセージ通知文は，標準提供のメッセージ通知文ファイルを使用します。標準提供のメッセージ通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

(b) 「宛先」テキストボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知の通知先を指定します。宛先指定方法については 2.3.1(12)(c)を参照してください。なお，宛先欄に何も指定しない場合は自コンピュータに Messenger 通知を行います。

宛先は，「，」（半角カンマ）区切りで，合計の文字数がカンマを含め半角 256 文字以内で複数指定できます。

(c) 「コマンドを実行する」チェックボックス

TELstaff が出力するメッセージを契機にコマンドを実行する場合，ここをチェックします。通知メッセージ種別フィールドの「情報」チェックボックスにチェックしている場合，コマンド実行はできません。

(d) 「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

TELstaff のコマンドは，指定できません。指定する場合は，繰返しメッセージ通知になるメッセージ ID は使用できません。

(e) 「パラメタ」テキストボックス

実行するコマンドのパラメタを指定します。コマンドパラメタには，以下の変数を使用可能です。

~date~	~date1~	~date2~	~time~
~time1~	~ComputerName~	~IPaddress~	~TELstaffMessageID~
~TELstaffMessage1~	~TELstaffMessage2~	~TELstaffMessage3~	~TELstaffMessage11~
~TELstaffMessage21~	~TELstaffMessage31~	~AlterMessage~	~MessageFile~

~TELstaffMessageID~, ~TELstaffMessage1~, ~TELstaffMessage2~, ~TELstaffMessage3~, ~TELstaffMessage11~, ~TELstaffMessage21~, ~TELstaffMessage31~, ~AlterMessage~変数は，内容に空白や「<」文字，「>」文字を含むため「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。

~MessageFile~変数は，一時ファイルに作成した TELstaff メッセージ通知文（メール通知用-2.6.1(4)(a)）ファイルの完全ファイル名に置き換えます。コマンドアプリケーションでこの一時ファイルに作成した TELstaff メッセージ通知文ファイルを削除しなければなりません。また，~MessageFile~変数は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定することはできません。

(f) ［登録］ボタン

「コマンド名」テキストボックスに指定したコマンドを登録します。［登録］ボタンを押すと「実行コマンド」リストボックスにコマンド名が表示されます。

(g)　［削除］ボタン

「実行コマンド」リストボックスで選択されたコマンドを削除します。

(h)　「実行コマンド」リストボックス

登録したコマンドの一覧を表示します。登録したコマンドの変更は，次の操作で変更できます。

1. 「実行コマンド」リストボックスで変更するコマンドを選択します。
2. ダブルクリックで登録コマンドの内容を「コマンド名」テキストボックスと「パラメタ」テキストボックスに表示させます。
3. コマンドを変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するコマンドの選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

4.2.4 フィルタ文字列の指定ダイアログボックス

フィルタ文字列の指定ダイアログボックスで特定の文字列を含むメッセージだけ，または特定の文字列を含まないメッセージだけを通知するためのフィルタ文字列を設定します。フィルタ文字列の指定ダイアログボックスを，図 4.2-15 に示します。

図 4.2-15　フィルタ文字列の指定ダイアログボックス

(1)　「フィルタ文字列を指定する」チェックボックス

フィルタ文字列を設定する場合，チェックします。

(2)　［登録］ボタン

「メッセージ中に」テキストボックスにフィルタ文字列を指定します。

フィルタ文字列を含むメッセージだけを通知対象にする場合は「を含む」を選択し，フィルタ文字列を含まないメッセージだけを通知対象にする場合は「を含まない」を選択して［登録］ボタンを押します。

(3)　「フィルタ文字列」リストボックス

設定したフィルタ文字列の一覧を表示します。登録したフィルタ文字列の変更は，次の操作で変更できます。

1. 「フィルタ文字列」リストボックスで変更するフィルタ文字列を選択します。

2. ダブルクリックで登録したフィルタ文字列の内容を表示させます。
3. フィルタ文字列を変更して，再度［登録］ボタンを押します。

(4) ［削除］ボタン

「フィルタ文字列」リストボックスで選択されたフィルタ文字列を削除します。

(5) 「これらの・・・」ドロップダウンリスト

複数のフィルタ文字列を設定している場合，すべてのフィルタ文字列に一致するときに通知する場合は，「全て」を，いずれかのフィルタ文字列に一致するときに通知する場合は，「いずれか」を選択します。

4.2.5 通知しないメッセージ番号の指定ダイアログボックス

通知しないメッセージ番号の指定ダイアログボックスでは，通知対象外にするための通知しないメッセージ番号を設定します。

「指定種別」ドロップダウンリストで「個別指定」を選択している場合は，設定できません。メッセージ番号は，使用するバージョンにより異なる場合があります。この場合は，定義の変更を行ってください。

通知しないメッセージ番号の指定ダイアログボックスを図 4.2-16 に示します。

図 4.2-16 通知しないメッセージ番号の指定ダイアログボックス

(1) 「通知しないメッセージ番号を指定する」チェックボックス

メッセージ番号を通知対象外にするための通知しないメッセージ番号を設定する場合，チェックします。

(2) 「個別指定」ラジオボタン

特定のメッセージ番号を指定する場合に選択します。

メッセージ番号を半角数字で指定し［登録］ボタンを押します。複数のメッセージ番号

が登録できます。

(3) 「範囲指定」ラジオボタン

範囲でメッセージ番号を指定する場合に選択します。

下限のメッセージ番号と下限のメッセージ番号より大きい上限のメッセージ番号を半角数字で指定し［登録］ボタンを押します。下限のメッセージ番号と上限のメッセージ番号が同じメッセージ番号は，指定できません。

複数の範囲が登録できます。

(4) 「通知しないメッセージ番号」リストボックス

設定したメッセージ番号の一覧を表示します。登録したメッセージ番号の変更は，次の操作で変更できます。

1. 「通知しないメッセージ番号」リストボックスで変更するメッセージ番号を選択します。
2. ダブルクリックで登録したメッセージ番号を表示させます。
3. メッセージ番号を変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するメッセージ番号の選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

(5) ［削除］ボタン

「通知しないメッセージ番号」リストボックスで選択されたメッセージ番号を削除します。

4.3テキスト音声変換の設定

4.3.1 テキスト音声変換の設定ダイアログボックス

テキスト音声変換の設定ダイアログボックスでは，TELstaff が音声読み上げ等の機能で文字情報をどのように音声へ変換するかを指定します。

このダイアログボックスはスタートメニューの【TELstaff の設定】から【テキスト音声変換の設定】を選択して表示します。なお，使用するにはログオンユーザが Administrators 権限を持っている必要があります。また，この画面で行った設定変更は次回の TELstaff サービス起動時から有効になります。

(1) 「音声合成ソフトウェア」タブ

以下の機能における，音声合成ソフトウェアを使用したテキスト音声変換の方法を指定します。

- IP 電話発信
- エージェントメッセージ通知の受信時のテキスト音声読み上げ
- デスクトップ通知でのテキスト音声読み上げ
- メール監視でのテキスト音声読み上げ
- telsmart コマンドでのテキスト音声読み上げ

音声合成ソフトウェアタブを，図 4.3-1 に示します。

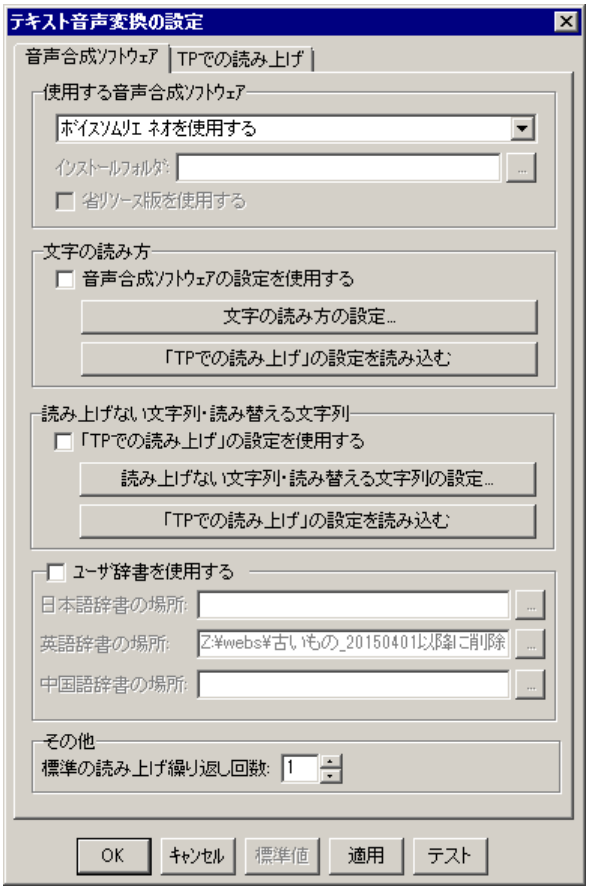


図 4.3-1 ［テキスト音声変換の設定］－［音声合成ソフトウェア］タブ

(a) 「使用する音声合成ソフトウェア」フィールド

使用する音声合成ソフトウェアを以下いずれかから選択します。

- 音声合成ソフトウェアを使用しない
  音声合成ソフトウェアを使用しません。
- 音声合成ソフトウェアのインストールフォルダを指定する
  使用する音声合成ソフトウェアがインストールされたフォルダを直接指定します。インストールフォルダは［インストールフォルダ］テキストボックスで指定してください。
- ボイスソムリエを使用する
  音声合成ソフトウェア「ボイスソムリエ マリアージュ」または「ボイスソムリエ マリアージュ（Type2）」を使用します。後者を使用する場合，［省リソース版を使用する］チェックボックスにチェックしてください。
- ボイスソムリエ ネオを使用する
  音声合成ソフトウェア「ボイスソムリエ ネオ マリアージュ」，「ボイスソムリエ ネオ マリアージュ 2」，「ボイスソムリエ ネオ マリアージュ 4」，「ボイスソムリエ ネオ マリアージュ英語」，「ボイスソムリエ ネオ マリアージュ中国語」の，いずれか（またはすべて）を使用します。

もし指定した音声合成ソフトウェアが見つからない場合は，TELstaff 製品が内蔵する録音済み音声ファイルが使用されます。

(b) 「文字の読み方の設定」フィールド

文字の読み方を設定します。

［音声合成ソフトウェアの設定を使用する］チェックボックスにチェックすると，使用する音声合成ソフトウェア側での設定通りの読み方で文字を読み上げます。ただし声の種類は TELstaff が常に指定しますので注意してください。

［文字の読み方の設定］ボタンを押すと［文字の読み方の設定］ダイアログボックスが開き，文字の読み方を詳細設定できます。同ダイアログボックスについての詳細は 4.3.3 を参照してください。

［「TP での読み上げ」の設定を読み込む］ボタンを押すと，現在の設定内容を破棄し，［TP での読み上げ］タブで設定された内容をコピーして採用します。

(c) 「読み上げない文字列・読み替える文字列の設定」フィールド

読み上げない文字列，および読み替える文字列を設定します。

［「TP での読み上げ」の設定を使用する］チェックボックスにチェックすると，「TP での読み上げ」タブで指定した設定内容をそのまま使用します。［TP での読み上げ］とは別の設定を行いたい場合はチェックを外してください。

［電話・テキスト読み方の設定］ボタンを押すと［読み上げない文字列・読み替える文字列の設定］ダイアログボックスが開き，読み上げない文字列および読み替える文字列を詳細に設定できます。同ダイアログボックスの詳細については 4.3.1(2)を参照してくださ

い。

［「TP での読み上げ」の設定を読み込む］ボタンを押すと，現在の内容を破棄し，［TP での読み上げ］タブで設定された内容をコピーして採用します。

(d) 「ユーザ辞書を使用する」チェックボックス

音声合成ソフトウェアが指定する形式のユーザ辞書を使用する場合，このチェックボックスにチェック入れ，言語ごとに辞書ファイルの名前を指定します。以下の言語の辞書を指定できます。

- 日本語辞書
- 英語辞書
- 中国語辞書

(e) 「標準の読み上げ繰り返し回数」スピンボックス

音声読み上げを標準で何回行うかを，1～30 回の間で指定します。0 を指定すると音声読み上げの停止指示があるまで繰り返します。また音声読み上げの開始から 5 分を超えると，それ以上の繰り返しは行わず打ち切ります。この設定は，以下の機能で使用されます：

- エージェントメッセージ通知の受信時のテキスト音声読み上げ
- メール監視でのテキスト音声読み上げ
- telsmart コマンドでのテキスト音声読み上げ（-n オプション指定時は除く）

IP 電話発信，およびデスクトップ通知での読み上げでは無効となります。

音声読み上げの繰り返し中に音声読み上げの停止指示を行うと音声読み上げを終了します。音声読み上げの停止指示は，次のコマンドで行います。

```
TELstaffｲﾝｽﾄｰﾙﾌｫﾙﾀﾞ¥PROGRAM¥teltkstp.exe
```

繰り返し回数を多く指定すると，他の telsndpl コマンド，telsmart コマンド，メッセージエージェントの読み上げ，メッセージエージェントの WAV ファイルの再生，デスクトップ通知の読み上げ，デスクトップ通知のサウンド再生や TELstaff メッセージの音声通知ができなくなることに注意してください。

(f) ［テスト］ボタン

現在の設定内容で音声読み上げを行う画面を開きます。なおこの画面では保存済みの設定値を使用して読み上げを行います。確認したい未保存の設定変更がある場合は［音声合成ソフトウェア］－［適用］ボタンを押し，設定を保存してからこの画面を開いてください。

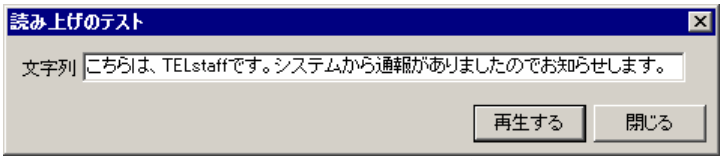


図 4.3-2 読み上げのテストダイアログボックス

(2) 「TPでの読み上げ」タブ

トリガフォンでの電話通知時に，どのようにテキスト音声変換を行うかを指定します。

このタブは，AEAV では使用できません。「TP での読み上げ」タブを，図 4.3-3 に示します。

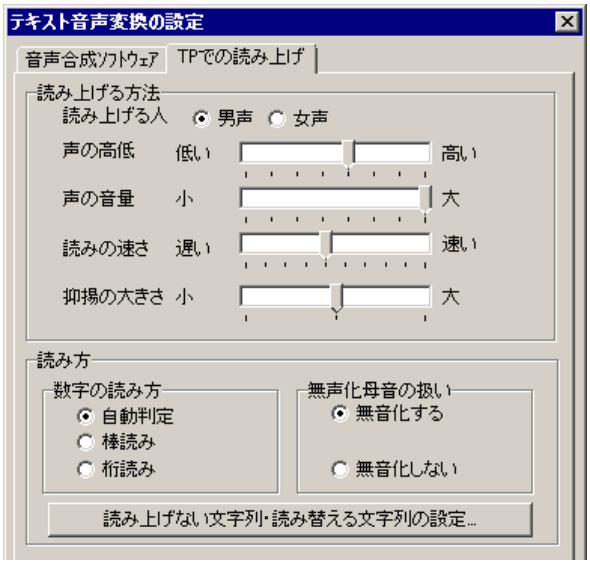


図 4.3-3 ［テキスト音声変換の設定］－［TPでの読み上げ］タブ

(a) 「読み上げる人」ラジオボタン

テキストの読み上げ音声を「男声」，「女声」から選択してください。

(b) 「声の高低」スライダ

読み上げ音声の声の高さを，8 段階で指定します。

(c) 「声の音量」スライダ

読み上げ音声の声の大きさを，8 段階で指定します。

(d) 「読みの速さ」スライダ

読み上げ音声の読み上げ速度を，10 段階で指定します。

(e) 「抑揚の大きさ」スライダ

読み上げ音声の声の抑揚を，3 段階で指定します。

(f) 「数字の読み方」ラジオボタン

テキストデータ中の数字の読み上げ方を指定します。

- 「自動判定」は，数字の文字列の最後に単位記号がある場合は「桁読み」になり，それ以外の場合は「棒読み」になります。
- 「棒読み」は，数字をそのまま読み上げます（例：「100」→「いちぜろぜろ」）。
- 「桁読み」は，数字の桁数を考慮して読み上げます（例：「120」→「ひゃくにじゅう」）。

(g) 「無声化母音の扱い」ラジオボタン

テキストデータ中に含まれる無声化母音の読み上げについて指定します。

- 無声化母音を読み上げない場合，「無音化する」をチェックします。

- 無声化母音も読み上げる場合，「無音化しない」をチェックします。

(h)　［読み上げない文字列・読み替える文字列の設定］ボタン

読み上げない文字列，および読み替える文字列を設定する［読み上げない文字列・読み替える文字列の設定］ダイアログボックスを開きます。詳細については 4.3.1(2)を参照してください。

4.3.2 読み上げない文字列・読み替える文字列の設定ダイアログボックス

特定の文字列を読み上げないよう設定したり，特定の文字列を異なる読み方に読み替えるよう設定します。

「読み上げない文字列」として登録された文字列から始まる行が読み上げ対象メッセージにあると，TELstaff はその行を読み上げしません。また「読み替える文字列」として登録された文字列が読み上げたい小メッセージにあると，その文字列を異なる文字列に置換した上で読み上げを実行します。

画面例を図 4.3-4 に示します。

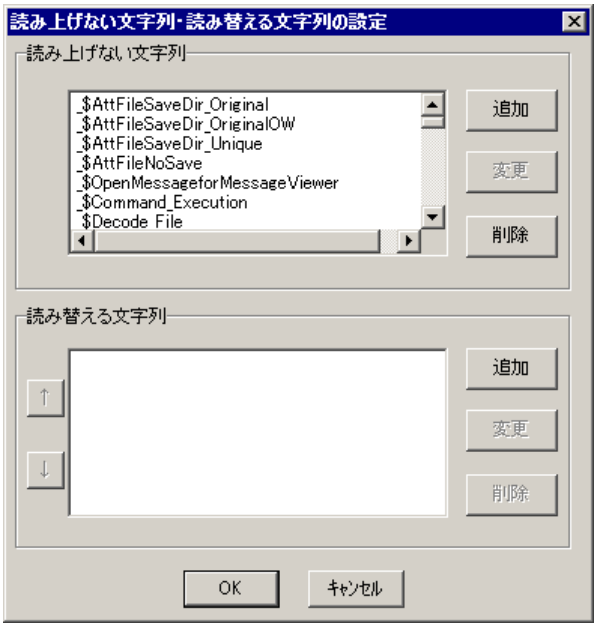


図 4.3-4　読み上げない文字列・読み替える文字列の設定ダイアログボックス

以下の注意事項があります。

- 音声合成ソフトウェア用のユーザ辞書の指定を併用した場合，読み上げない文字列・読み替える文字列の処理が先に実行されます。
- 読み上げない文字列として，空白を含む文字列は指定できません。
- 読み上げない文字列として，半角英数字を指定すると意図しない文字まで削除される場合がありますので注意してください。
- 読み替える文字列として，空白を含む文字列は指定できません。
- 読み替え前の文字列として，半角英数字文字を指定すると意図しない文字まで読

み替え後の文字列に置き換えられる場合があります。

- ［TP での読み上げ］タブで設定する読み上げない文字列および読み替える文字列は，トリガフォンを使用した電話発信および電話受信（問い合わせ）に使用されるガイダンスメッセージの処理でも使用されます。そのためトリガフォン用の制御文字列（{xxx}形式で記述された文字列）などを登録すると意図しない読み上げになることがありますので注意してください。

(1) 「読み上げない文字列」フィールド

現在登録されている，読み上げない文字列の一覧を設定します。読み上げない文字列は，［追加］ボタンで新しく追加，［変更］ボタンで登録済み文字列を変更，［削除］ボタンで登録済み文字列を削除できます。

(2) 「読み替える文字列」フィールド

現在登録されている，読み替える文字列の一覧を設定します。読み替える文字列は，［追加］ボタンで新しく追加，［変更］ボタンで登録済み文字列を変更，［削除］ボタンで登録済み文字列を削除できます。

4.3.3 「文字の読み方の設定」ダイアログボックス

音声合成ソフトウェアを使用した，IP 電話通知，デスクトップ通知，および telsmart コマンドでの音声変換方法を設定します。使用する音声合成ソフトウェアによっては，一部の設定項目は無効になります。詳細は表 1.4-12 を参照してください。

(1) 「読み上げる方法」タブ

音声合成ソフトウェアで使用する声の種類や，声の高低，音量，読みの速さなどを設定します。画面例を図 4.3-5 に示します。

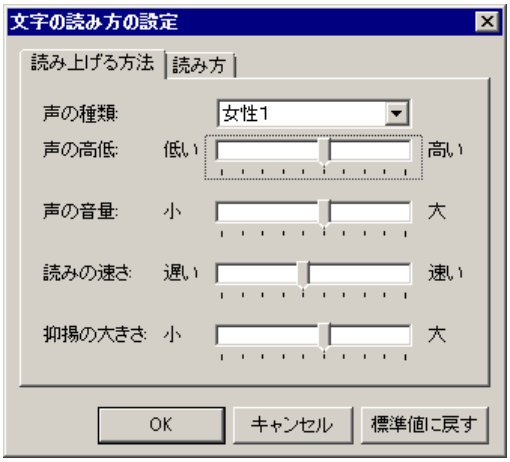


図 4.3-5 ［文字の読み方の設定］ー［読み上げる方法］タブ

(a) 「声の種類」ドロップダウンリスト

テキストの読み上げ音声を，「女性 1」「女性 2」「女性 3」「男性 1」「男性 2」から選択して下さい。標準値は「女性 1」です。

なお，音声合成ソフトウェアによっては使用できる音声の種類が限定されますので，そ

の場合には本設定項目は無効になります。また指定の音声データ（音素データ）が存在しない場合は，存在する音声データを使用して読み上げます。

(b)　「声の高低」スライダ

読み上げ音声の声の高さを，10 段階で指定します。

(c)　「声の音量」スライダ

読み上げ音声の声の大きさを，10 段階で指定します。

(d)　「読みの速さ」スライダ

読み上げ音声の読み上げ速度を，10 段階で指定します。

(e)　「抑揚の大きさ」スライダ

読み上げ音声の声の抑揚を，10 段階で指定します。

(f)　［標準値に戻す］ボタン

「読み上げる方法」タブと「読み方」タブの設定値を，標準値に設定します。

(2)　「読み方」タブ

IP 電話通知でのテキスト読み上げ（再生）に対する数字や英文文字列などの読み方を設定します。音声合成ソフトウェアによっては読み方が限定されますので，その場合には本設定項目は無効になります。

［文字の読み方の設定］－［読み方］タブを，図 4.3-6 に示します。

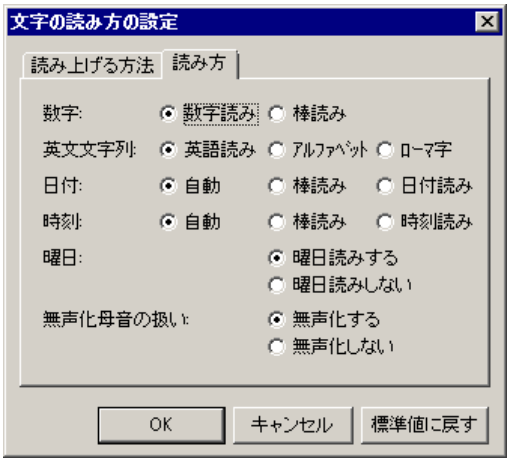


図 4.3-6　［文字の読み方の設定］－［読み方］タブ

(a)　「数字」ラジオボタン

テキストデータ中の数字の読み上げ方を指定します。標準値は「数字読み」です。

- 「数字読み」は，数字の桁数を考慮して読み上げます。(例：「123」→「ヒャクニジューサン」)
- 「棒読み」は，数字をそのまま読み上げます。(例：「123」→「イチニーサン」)

(b) 「英文文字列」ラジオボタン

テキストデータ中の英文文字列の読み上げ方を指定します。標準値は「英語読み」です。

- 「英語読み」は，文字列の英文文字列を考慮して読み上げます。(例：「tape」→「テープ」)
- 「アルファベット」は，英文文字列をアルファベットとして読み上げます。(例：「tape」→「ティーエーピーイー」)
- 「ローマ字」は，英文文字列をローマ字として読み上げます。(例：「tape」→「タペ」)

(c) 「日付」ラジオボタン

テキストデータ中の日付文字列の読み上げ方を指定します。標準値は「自動」です。

- 「自動」は，文字列を日付として読み上げるかそのまま読み上げるか，自動判定して読み上げます。
- 「棒読み」は，文字列をそのまま読み上げます。
- 「日付読み」は，文字列を日付として読み上げます。

例：「3/3」「30/3」の読み上げ方法

- 「自動」　→「さんがつみっか」「さんぶんのさんじゅー」
- 「棒読み」→「さん　さん」「さんじゅー　さん」
- 「日付読み」　→「さんがつみっか」「さんじゅーがつみっか」

(d) 「時刻」ラジオボタン

テキストデータ中の時刻文字列の読み上げ方を指定します。標準値は「自動」です。

- 「自動」は，文字列を時刻として読み上げるかそのまま読み上げるか，自動判定して読み上げます。
- 「棒読み」は，文字列をそのまま読み上げます。
- 「時刻読み」は，文字列を時刻として読み上げます。

例：「17:24」「9:99」の読み上げ方法

- 「自動」　→「じゅーしちじにじゅーよんぷん」「きゅーたいきゅーじゅーきゅー」
- 「棒読み」→「じゅーななにじゅーよん」「きゅーきゅーじゅーきゅー」
- 「時刻読み」　→「じゅーしちじにじゅーよんぷん」「くじきゅーじゅーきゅーふん」

(e) 「曜日」ラジオボタン

テキストデータ中の曜日文字列の読み上げ方を指定します。標準値は「曜日読みする」

です。

- 「曜日読みする」は，文字列の曜日を考慮して読み上げます。(例：「(日)」→「にちよーび」)
- 「曜日読みしない」は，文字列をそのまま読み上げます。(例：「(日)」→「ひ」)

(f) 「無声化母音の扱い」ラジオボタン

テキストデータ中の無声化母音の読み上げ方を指定します。標準値は「無音化する」です。

- 無声化母音を読み上げない場合，「無音化する」をチェックします。
- 無声化母音も読み上げる場合，「無音化しない」をチェックします。

4.4メッセージエージェント構成の設定

4.4.1 メッセージエージェント構成の設定について

TELstaff のメッセージエージェント機能を使用した構成定義は，Administrators 権限ユーザでメッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスで設定します。

また，次の場合にメッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスで通信情報の設定を行います。

1. Alarm View にデスクトップ通知する場合
2. AECL（または AEPE，AESE）に接続したパトランプに点灯指示する場合
3. ファイル監視で検出したファイルを指定したファイルサーバにバックアップする場合
4. 他の TELstaff の稼動監視機能を使用し，稼動監視される場合
5. 自 TELstaff の稼動監視を使用し，他の TELstaff の稼動監視を行う場合

この機能は，AEPE，AESE および AECL の機能です。

メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff AE Professional Edition / Standard Edition】，または【TELstaff AE Client】の【TELstaff の設定】から【メッセージエージェント構成の設定】を選択して表示します。

メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスのそれぞれのタブで各種設定項目を設定します。

メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスでメッセージエージェント構成を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

(1) AECLの設定

(a) 「全般」タブ

AECL の自局情報を設定します。

(b) 「サーバ」タブ

AECL が発信依頼する発信サーバ（AEPE または AESE）の場所を設定します。AECL と送信先の AEPE，AESE または AECL が直接通信できない場合は，配信サーバ（中継サーバ）を指定することで，配信サーバ経由で該当の発信サーバに対して発信依頼します。配信サーバでは AEPE，AESE または AECL が起動されていることが前提です。

(c) 「メッセージ受信」タブ

AECL がメッセージを受信したときに行う動作を設定します。

(d) 「メッセージ保存」タブ

AECL の送受信メッセージの保存方法および，メッセージ記録先フォルダの設定を行います。

(e) 「添付ファイル」タブ

エージェントメッセージに添付されたファイル（添付ファイル）の保存方法と保存先フォルダを設定します。添付ファイルは，teldial コマンド（-fa オプション），カメラ監視，

またはファイル監視で使用します。エージェントメッセージに添付された添付ファイルは，メッセージビューアツールでの閲覧はできません。

(2) AEPE / AESEの設定

(a) 「全般」タブ

AEPE または AESE の自局情報を設定します。

(b) 「サーバ」タブ

AEPE，AESE と送信先の AEPE，AESE，AECL の通信路が異なるとき，配信サーバ（中継サーバ）の場所を設定します。

(c) 「メッセージ受信」タブ

AEPE，AESE がメッセージを受信したときに行う動作を設定します。

(d) 「メッセージ保存」タブ

AEPE，AESE の送受信メッセージの保存方法および，メッセージ記録先フォルダの設定を行います。

(e) 「運用形態」タブ

TELstaff を並列運用する場合の，当該 TELstaff を待機運用モードで実行することを設定します。

(f) 「添付ファイル」タブ

エージェントメッセージに添付されたファイル（添付ファイル）の保存方法と保存先フォルダを設定します。添付ファイルは，teldial コマンド（-fa オプション），カメラ監視，またはファイル監視で使用します。エージェントメッセージに添付された添付ファイルは，メッセージビューアツールでの閲覧はできません。

4.4.2 メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックス

メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスについて，説明します。

(1) メッセージエージェント構成の設定－「全般」タブ

メッセージエージェント構成全般の設定をします。メッセージエージェント構成の設定－「全般」タブを，図 4.4-1 に示します。

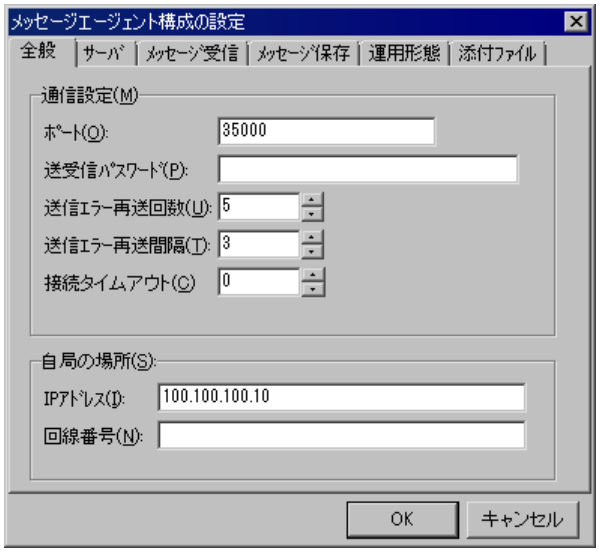


図 4.4-1　メッセージエージェント構成の設定－「全般」タブ

(a)　「ポート」テキストボックス

メッセージエージェント機能で使用する通信ポートのポート番号，またはサービス名を指定します。サービス名を指定したとき，services ファイルにこのサービス名を登録しておかなければなりません。

サービス名を使用する場合は，services ファイルに次のサービス名を登録しておきます。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

メッセージエージェント機能で通知メッセージの送受信をするときは，すべての AEPE，AESE，AECL は，同じポート番号を指定しなければなりません。

(b)　「送受信パスワード」テキストボックス

メッセージエージェント機能で通知メッセージの送受信をする際に使用するパスワードを半角 50 桁以内で指定します。すべての AEPE，AESE，AECL は，同じパスワードを指定しなければなりません。

(c)　「送信エラー再送回数」スピンボックス

エージェントメッセージを送信した時に送信エラーとなった場合の再送回数を指定します。再送回数で送信できない場合は，「送信エラー箱」に 5 日間保管します。

(d)　「送信エラー再送間隔」スピンボックス

エージェントメッセージを送信した時に送信エラーとなった場合の再送間隔を指定します。再送間隔の単位は〔分〕です。

(e)　「接続タイムアウト」スピンボックス

メッセージエージェント通信における接続処理のタイムアウト時間を 0～60 秒の間で指定します。タイムアウト時間として 0 を指定した場合，OS により接続処理が打ち切られるまで待ち続けます。

なおタイムアウト時間に長い値を指定した場合であっても，その時間が経過するよりも前に OS により接続処理が打ち切られることがあります。その場合は指定した時間よりも実際の待ち時間が短くなりますのでご留意ください。

(f)　「IPアドレス」テキストボックス

ネットワーク上の自局の IP アドレスを指定します。メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスを開いたときに，IP アドレスが標準で表示されます。

自局の設定で IP アドレスと回線番号の両方を指定した場合，配信サーバとしてメッセージの配信ができます。

(g)　「回線番号」テキストボックス

自局が電話回線で接続されている場合に，自局のデータ受信できる COM ポートの電話番号を指定します。複数受信ポートがあるときは，代表を 1 つ指定してください。

自局の設定で IP アドレスと回線番号の両方を指定した場合，配信サーバとしてメッセージの配信ができます。

(2)　メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブ

AECL のメッセージエージェント構成で，teldial コマンドを送信できる発信依頼先サーバと，配信サーバの設定をします。

TELstaff の 2 台並列稼動機能を使用するとき，発信依頼機能は使用できません。

メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブを，図 4.4-2 に示します。

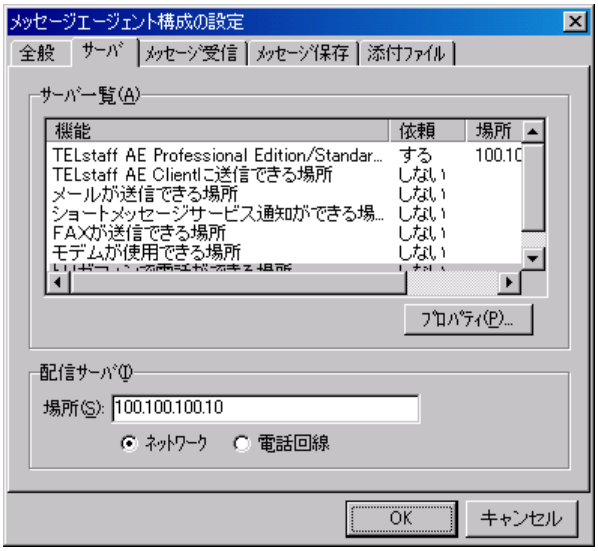


図 4.4-2　メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブ

(a)　「サーバー覧」リストボックス

発信の依頼先サーバー覧を表示します。発信依頼できるサーバの一覧を，表 4.4-1 に示します。

表 4.4-1　発信依頼できるサーバの一覧

発信依頼先 サーバの場所	用途
TELstaff AE Professional Edition / Standard Edition の場所	連絡網発信の teldial コマンドが実行されたときに発信依頼するサーバの場所

発信依頼先 サーバの場所	用途
TELstaff AE Client に送信できる場所	-c オプション，または-cn オプション指定の teldial コマンドが実行されたときに，発信依頼するサーバの場所。 設定していない場合は，「TELstaff AE Professional Edition / Standard Edition の場所」を使用します。
メールが送信できる場所	-e オプション，または-en オプション指定の teldial コマンドが実行されたときに，発信依頼するサーバの場所。 設定していない場合は，「TELstaff AE Professional Edition / Standard Edition の場所」を使用します。
SMS 通知ができる場所	-b オプション，または-bn オプション指定の teldial コマンドが実行されたときに，発信依頼するサーバの場所。 設定していない場合は，「TELstaff AE Professional Edition / Standard Edition の場所」を使用します。
トリガフォンで電話ができる場所	-p オプション，または-pn オプション指定の teldial コマンドで通知メッセージファイルの拡張子が「.tp」のときに，発信依頼するサーバの場所。 使用できない場合は，「モデムが使用できる場所」を使用します。
モデムが使用できる場所	-p オプション，または-pn オプション指定の teldial コマンドで「トリガフォン」で電話できる場所が指定されていないときに，発信依頼するサーバの場所。使用できない場合は，「FAX が送信できる場所」を使用します。
FAX が送信できる場所	-f オプション，または-fn オプション指定の teldial コマンドが実行されたときに，発信依頼するサーバの場所。 設定していない場合は，「TELstaff AE Professional Edition / Standard Edition の場所」を使用します。

(b) ［プロパティ］ボタン

サーバ一覧で選択された機能についての詳細な設定をするため，エージェントのプロパティダイアログボックス（図 4.4-7）を表示します。

(c) 「配信サーバ」フィールド

配信サーバと自局がネットワークで接続されている場合は「ネットワーク」ラジオボタンを選択し IP アドレスを指定します。

配信サーバと自局が電話回線で接続されている場合は「電話回線」ラジオボタンを選択し回線番号を指定します。

配信サーバと自局がネットワークで接続されている場合，自局の IP アドレスは指定できません。

(3) メッセージエージェント構成の設定－「メッセージ受信」タブ

自局の PC でエージェントメッセージを受信したときに行う動作を設定します。受信時に実行できる動作には以下の 5 種類があり，以下に記載の順序で実行します。

1. Messenger サービスでの受信通知

2. サウンド再生
3. コマンド実行
4. エージェントメッセージの自動読み上げ
5. プロトコルコマンド

メッセージエージェント構成の設定－「メッセージ受信」タブを，図 4.4-3 に示します。

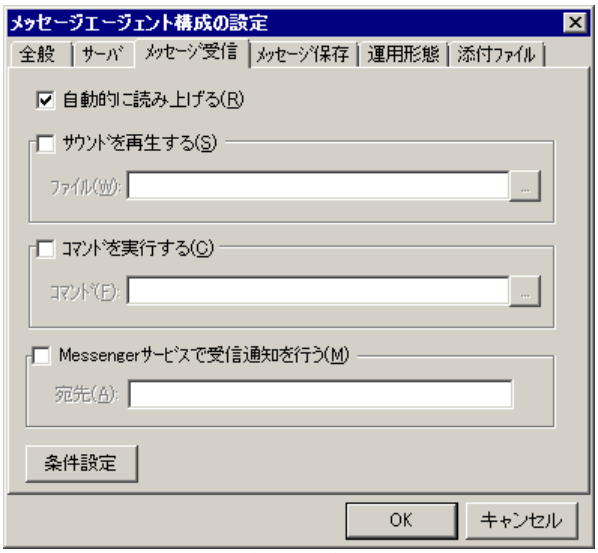


図 4.4-3 メッセージエージェント構成の設定－「メッセージ受信」タブ

(a) 「自動的に読み上げる」チェックボックス

エージェントメッセージ受信時に，受信したメッセージを音声で読み上げる場合，ここをチェックします。

自動的に読み上げる場合は，「メッセージ保存」タブの受信メッセージの保存方法フィールドにおいて，「メッセージ毎に保存する」，「メッセージをまとめて保存する」，「保存しない」のいずれかをチェックする必要があります

●音声合成ソフトウェアを使用する場合

音声で読み上げをする場合，音声合成ソフトウェアと WAV ファイルを再生できる環境が必要です。「サウンドを再生する」チェックボックスと共にチェックした場合，WAV ファイルの再生後，メッセージを読み上げます。

テキスト読み上げ（再生）に対する音声変換方法は，［テキスト音声変換の設定］－［音声合成ソフトウェア］タブで設定できます。

メッセージの読み上げを行う場合，次の注意事項があります。

- 音声読み上げの開始から 5 分を超えると，それ以上の繰り返しは行わず打ち切ります。
- メッセージの読み上げ中は，他の telsndpl コマンド，telsmart コマンド，メッセージエージェントの読み上げ，メッセージエージェントの WAV ファイルの再生，デスクトップ通知の読み上げ，デスクトップ通知のサウンド再生や TELstaff メッセージの音声通知は，telsmart コマンドが終了するまで実行されません。
- Windows の sndrec32 コマンド，サウンドレコーダ，またはその他 MediaPlayer

実行中のとき，メッセージの読み上げは使用できません。

- メッセージの読み上げでは，CPU やメモリなどのシステムリソースが多く使用されます。短時間に大量のメッセージの読み上げを行った場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。

(b) 「サウンドを再生する」チェックボックス

メッセージ受信時に WAV ファイルを再生させる場合，ここをチェックしてください。「自動的に読み上げる」チェックボックスと共にチェックした場合，最初に WAV ファイルを再生します。また他のプログラムにより WAV 再生環境が利用されている場合は，10 秒間隔で 12 回リトライします。

サウンド再生中は，他の telsndpl コマンド，telsmart コマンドや TELstaff メッセージの音声通知は，サウンド再生が終了するまで実行されません。

WAV ファイルの大きさによっては，再生されない場合があります。WAV ファイルが再生されない場合は，WAV ファイルのサイズが小さいファイルを指定してください。

(c) 「ファイル」テキストボックス

WAV ファイルを再生させる場合に，再生する WAV ファイルを指定してください。WAV ファイルの指定は，ファイルの完全名を直接指定するか，［...］ボタンをクリックし，ファイルを選択してください。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(d) 「コマンドを実行する」チェックボックス

メッセージ受信時にコマンドを実行させる場合，ここをチェックしてください。

(e) 「コマンド」テキストボックス

コマンドを実行させる場合に，実行するコマンドを指定します。コマンドの指定は，コマンドの完全名を直接指定するか，［...］ボタンをクリックし，コマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

ここで指定したコマンドの実行時間が 30 分経過しても終了しない場合は，実行を打ち切ります。

「コマンド」テキストボックスには，~ReceivedMail1，~ReceivedMail~，~MailSubject~，~MailSenderName~，~ReceivedFile~変数が使用できます。

電話に受信メッセージを通知するときは，~ReceivedMail1~変数を使用して次の teldial コマンドを指定します。トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

```
teldial -p 045-xxx-yyy:1234  -fv ~ReceivedMail1~  -d
```

(f)　「Messengerサービスで受信通知を行う」チェックボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知を使用して，メッセージ受信したことを通知する場合，ここをチェックしてください。両者の違いや注意事項については 2.3.1(12)を参照してください。

(g)　「宛先」テキストボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知の通知先を指定します。宛先指定方法については 2.3.1(12)(c)を参照してください。なお，宛先欄に何も指定しない場合は自コンピュータに Messenger 通知を行います。

宛先は，「，」（半角カンマ）区切りで，合計の文字数がカンマを含め半角 256 文字以内で複数指定できます。

Messenger サービスでの通知形式は，カスタマイズできます。

(h)　［条件設定］ボタン

実行条件の設定ダイアログボックス（図 4.4-9）を開きます。

実行条件の設定で「自動的に読み上げる」，「サウンドを再生する」，「コマンドを実行する」，「Messenger サービスで受信通知を行う」を特定のメッセージについてだけ実行させることができます。

(4) メッセージエージェント構成の設定－「メッセージ保存」タブ

エージェントおよび，メールの送受信メッセージの保存方法とメッセージ記録先フォルダを設定します。メッセージエージェント構成の設定－「メッセージ保存」タブを図 4.4-4 に示します。

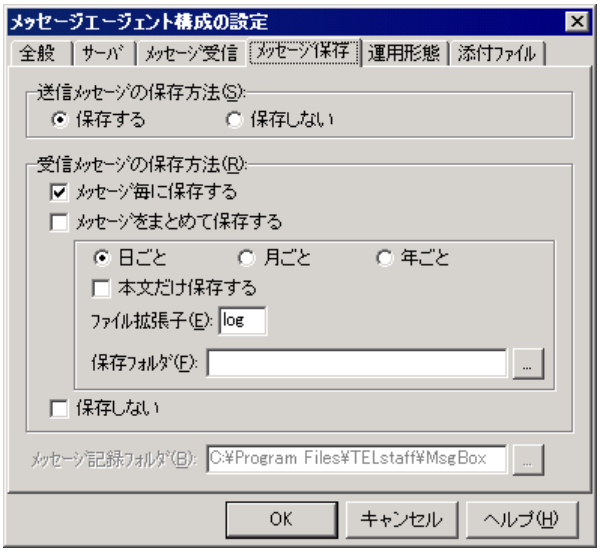


図 4.4-4　メッセージエージェント構成の設定－「メッセージ保存」タブ

(a) 「送信メッセージの保存方法」フィールド

TELstaff から送信したメールの控えを保存するか否かを指定します。

送信したメールは「送信済み箱」フォルダに保存する場合は「保存する」ラジオボタンを，送信したメールは送信終了後削除する場合は「保存しない」ラジオボタンを選択します。

(b) 「受信メッセージの保存方法」フィールド

受信したエージェントメッセージの保存方法を指定します。

- 受信したメッセージを受信箱フォルダに保存する場合は「メッセージ毎に保存する」チェックボックスをチェックします。
- 指定された保存周期毎に受信したメッセージをメッセージ保存ファイルにまとめて保存（バックアップ）する場合は，「メッセージをまとめて保存する」チェックボックスをチェックします。メッセージをまとめて保存する場合，メッセージビューアで受信メッセージは，閲覧できません
- 受信したメッセージを削除する場合は「保存しない」チェックボックスをチェックします。

●メッセージをまとめる周期

受信したメッセージをまとめて保存する場合の，メッセージをまとめる周期を指定します。

同一日に受信したメッセージをまとめてメッセージ保存ファイルに保存する場合，「日ごと」を指定します。この時，メッセージ保存ファイル名は「yyyymmdd.拡張子」となります。

- 同一月に受信したメッセージをまとめてメッセージ保存ファイルに保存する場合，「月ごと」を指定します。この時，メッセージ保存ファイル名は「yyyymm.拡張子」となります。
- 同一年に受信したメッセージをまとめてメッセージ保存ファイルに保存する場合，「年ごと」を指定します。この時，メッセージ保存ファイル名は「yyyy.拡張子」となります。

●メッセージの保存内容

受信したメッセージのヘッダー情報は削除し，メッセージ本文だけをメッセージ保存ファイルに保存する場合，「本文だけ保存する」チェックボックスにチェックします。

●メッセージ保存ファイルのファイル拡張子の指定

メッセージをまとめて保存するメッセージ保存ファイルの拡張子を指定します。

●メッセージ保存ファイルの保存フォルダの指定

メッセージをまとめて保存する（メッセージ保存ファイルを作成する）フォルダを指定します。

フォルダ名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてフォルダ名を選択します。ネットワークドライブのフォルダ名は，指定できません。

(c) 「メッセージ記録フォルダ」テキストボックス

エージェントメッセージの記録先フォルダを指定します。フォルダ名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてフォルダ名を選択します。ネットワークドライブのフォルダ名は，指定できません。

送信メッセージを保存する場合や，受信メッセージをメッセージ毎に保存する場合，ここに指定されたフォルダ下にメッセージを保存します。メッセージ記録先フォルダを変更した場合，変更前のフォルダの内容を変更後のフォルダにコピーします。TELstaff サービスが起動中の場合，フォルダを変更することはできません。

(d) 受信メッセージをまとめて保存する場合の注意事項

受信メッセージをまとめて保存する場合，以下に示す項目に注意して下さい。

1. メッセージ保存ファイルへの保存は，受信メッセージの内容をそのままメッセージ保存ファイルに追加書きしています。受信メッセージ毎に区切り記号等の識別子を付加したりしていません。
2. 「メッセージ本文だけ保存」を指定した場合，受信メッセージの最初の空行までをメッセージヘッダー情報として保存しません(例 1)。受信メッセージに空行が無い場合，メッセージヘッダー情報が無いものとしてすべての内容を保存します(例 2)。また，空行が受信メッセージの最後に一つだけある場合，メッセージ本文がないとして，メッセージ保存ファイルには何も保存されません。(例 3)
3. エージェント受信メッセージの保存方法をまとめて保存に設定した場合，メッセージをまとめる周期および，ファイル拡張子を同じにすると一つのメッセージ保存ファイルにメールメッセージとエージェントメッセージが混在して保存されます。メールメッセージとエージェントメッセージを別々にまとめたい場合，メッセージをまとめる周期，またはファイル拡張子を変えて指定して下さい。
4. 受信メッセージをまとめて保存した場合，受信メッセージをメッセージビューアで表示できません。

(例 1) ヘッダー情報とメッセージ本文が空行で分かれている場合

＜受信したメッセージ＞

```
Subject: メッセージ通知
From: TELstaff#100.100.100.1
[空行]
TELstaff からのメッセージ通知です。
```

＜メッセージ保存ファイル＞

```
TELstaff からのメッセージ通知です。
```

(例 2) 受信メッセージに空行が無い場合

＜受信したメッセージ＞

```
TELstaff からのメッセージ通知です。
ネットワークで障害が発生しました。
```

＜メッセージ保存ファイル＞

```
TELstaff からのメッセージ通知です。
ネットワークで障害が発生しました。
```

(例 3) 受信メッセージの最後に空行がある場合

＜受信したメッセージ＞

```
TELstaff からのメッセージ通知です。
ネットワークで障害が発生しました。
[空行]
```

＜メッセージ保存ファイル＞

何も保存されません。

(5) メッセージエージェント構成の設定－「運用形態」タブ

この TELstaff が，待機モードで実行することを設定します。

TELstaff を 2 重化することで通報システムの信頼性を上げることができます。2 重化構成では，本番機と待機機とを常時稼動させておき，通常は，本番機の TELstaff で発信を行います。本番機が障害になったとき，待機機の TELstaff が発信を行います。

待機モードの TELstaff に対して teldial コマンドを実行すると，本番機の TELstaff が動作中であれば，teldial コマンドは，TELstaff サービスが受け付けるとすぐに終了します。待機実行モードの TELstaff が本番機の TELstaff の動作中を認識した直後に本番機に障害が発生して発信を実行できない状態に陥ると，どこにも発信されません。本番機の TELstaff が動作していないと待機実行モードの TELstaff が teldial コマンドを実行します。このとき本番機が復旧すると本番機の teldial コマンドが実行され一時的に 2 重発信となります。

待機モードの TELstaff は，本番機の TELstaff と通信を行うことで本番機の TELstaff の動作状態を確認します。このため，本番機の電源オフやネットワーク環境などにより本番機の状態確認に時間がかかる場合があります。

TELstaff の 2 重化構成は，AEPE および AESE で使用できます。

メッセージエージェント構成の設定－「運用形態」タブを，図 4.4-5 に示します。

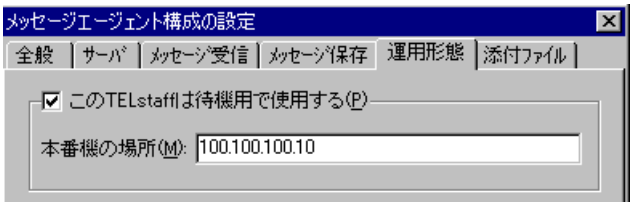


図 4.4-5 メッセージエージェント構成の設定－「運用形態」タブ

(a) 「このTELstaffは待機用で使用する」チェックボックス

この TELstaff を待機用で実行させる場合，ここをチェックします。

(b) 「本番機の場所」テキストボックス

本番機として実行する TELstaff の場所を IP アドレス（またはホスト名）で指定します。個別に通信ポートのポート番号を指定する場合は，：の後にポート番号を指定します。

（例）　100.100.100.1
　　100.100.100.1:35000

ポート番号を省略すると「全般」タブで設定したポート番号を使用します。「全般」タブでポート番号の設定を省略するときは，services ファイルに次のサービス名を登録しておきます。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

(6) メッセージエージェント構成の設定ー「添付ファイル」タブ

エージェントメッセージに添付されたファイル（添付ファイル）の保存方法と保存先フォルダを設定します。添付ファイルは，teldial コマンド（-fa オプション），カメラ監視，またはファイル監視で使用します。エージェントメッセージに添付された添付ファイルは，メッセージビューアツールでの閲覧はできません。

メッセージエージェント構成の設定ー「添付ファイル」タブを図 4.4-6 に示します。

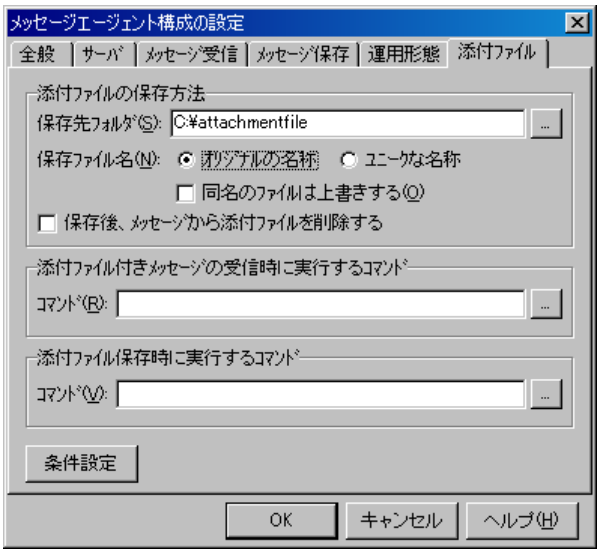


図 4.4-6　メッセージエージェント構成の設定ー「添付ファイル」タブ

(a)　「保存先フォルダ」テキストボックス

エージェントメッセージに添付された添付ファイル，または teldial コマンドの-fa オプションに指定した添付ファイルをどのフォルダに保存するかを指定します。保存先フォルダの指定がないときは，添付ファイルは保存されません。

フォルダ名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてフォルダ名を選択します。保存するフォルダが存在しない場合は，新規にフォルダが作成されます。ネットワークドライブのフォルダ名は，指定できません。

(b)　「オリジナルの名称」ラジオボタン

添付ファイルを付与されているファイル名で保存するとき選択します。

(c)　「ユニークな名称」ラジオボタン

添付ファイルを TELstaff で付与したファイル名で保存するとき選択します。

(d)　「同名のファイルは上書きする」チェックボックス

保存先フォルダに同じ名称のファイルがある場合，上書きで添付ファイルを保存すると

きチェックします。保存先フォルダにあるファイルが読み取り専用ファイル，隠しファイル，またはシステムファイルのときは，上書き保存されません。

(e) 「保存後メッセージから添付ファイルを削除する」チェックボックス

添付ファイルを削除してエージェントメッセージ本文だけを保存するときチェックします。

(f) 「コマンド」テキストボックス-添付ファイル付メッセージの受信時に実行するコマンド

添付ファイル付メッセージを受信したとき，またはバックアップファイルメッセージを受信したときに実行するコマンドを指定します。

コマンドの指定は，実行するコマンドの完全名を直接指定するか，［...］ボタンをクリックし，実行するコマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

「コマンド」テキストボックスには，~date~，~date1~，~date2~，~time~，~time1~，~MailSubject~，~MailSenderName~，~ReceivedFile~，~AttachmentFile~変数が使用できます。

(g) 「コマンド」テキストボックス-添付ファイル保存時に実行するコマンド

添付ファイル保存したとき，またはバックアップファイルを保存したときに実行するコマンドを指定します。

コマンドの指定は，実行するコマンドの完全名を直接指定するか，［...］ボタンをクリックし，実行するコマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

「コマンド」テキストボックスには，~date~，~date1~，~date2~，~time~，~time1~，~MailSubject~，~MailSenderName~，~ReceivedFile~，~AttachmentFile~変数が使用できます。

(h) ［条件設定］ボタン

実行条件の設定ダイアログボックス（図 4.4-9）を開きます。
実行条件の設定で添付ファイルの保存，添付ファイル付メッセージの受信時にコマンド実行，添付ファイル保存時にコマンド実行を特定のメッセージについてだけ実行させることができます。

(7) エージェントのプロパティダイアログボックス

JP1 版 TELstaff では本機能は使用できません。

発信依頼先サーバを設定します。エージェントのプロパティダイアログボックスを，図 4.4-7 に示します。

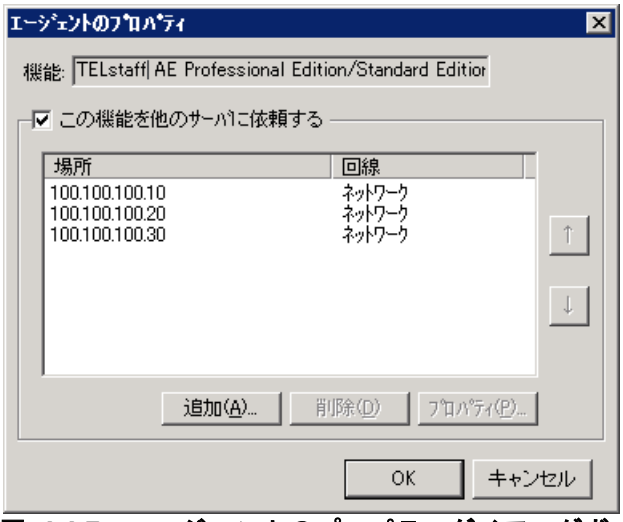


図 4.4-7　エージェントのプロパティダイアログボックス

(a)　「機能」のメッセージボックス

サーバ一覧に表示されている機能名が表示されます。

(b)　「この機能を他のサーバに依頼する」チェックボックス

他のサーバに発信を依頼する場合に，チェックします。

(c)　「この機能を他のサーバに依頼する」リストボックス

現在定義されている，依頼先サーバの一覧を表示します。

- 発信依頼先サーバがネットワーク指定で複数指定されている場合，指定されている発信依頼先サーバの先頭から発信依頼を行い，依頼が成功した時点で発信依頼を終了します。発信依頼が成功したサーバ以降に指定されているサーバには発信依頼を行いません。発信依頼先サーバの使用順序は，［↑］．［↓］ボタンで変更します。
- ネットワーク経由，回線経由，メール経由で発信依頼先サーバの場所が複数指定されているときは，次の順で 1 つの経路だけを使用します。
  - ✧　ネットワークで指定されたサーバ →回線で指定されたサーバ → メールで指定されたサーバの順
- 回線経由，メール経由で発信依頼先サーバの場所が複数指定されているときは最初に指定されたサーバに発信依頼を行います。

(d)　［追加］ボタン

依頼先サーバを追加するために，サーバのプロパティダイアログボックスを表示します。

(e)　［削除］ボタン

依頼先サーバ一覧で選択したサーバを削除します。

(f)　［プロパティ］ボタン

依頼先サーバ一覧で選択した依頼先サーバの定義を変更するために，サーバのプロパティダイアログボックスを表示します。

(8)　サーバのプロパティダイアログボックス

JP1 版 TELstaff では本機能は使用できません。

依頼先サーバの場所を設定します。依頼先サーバには，AEPE または AESE の場所を指定してください。

サーバのプロパティダイアログボックスを，図 4.4-8 に示します。

図 4.4-8　サーバのプロパティダイアログボックス

(a)　「場所」テキストボックス

依頼先サーバ（AEPE または AESE）の場所を指定します。

自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。TELstaff の 2 台並列稼動機能を使用するとき，発信依頼機能は使用できません。

指定する内容は，接続種別によって異なります。

- 「ネットワーク」の場合，依頼する AEPE または AESE がインストールされているコンピュータの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
- 「電話回線」の場合，依頼する AEPE または AESE がインストールされているコンピュータの電話回線番号を指定します。
- 「メール」の場合，依頼する AEPE, AESE でメール監視しているメールアドレスを指定します。

(9)　実行条件の設定ダイアログボックス

「メッセージ受信」タブと「添付ファイル」ダブで指定する動作の条件を指定します。条件を指定しない場合，「メッセージ受信」タブと「添付ファイル」ダブで指定する動作を常に実行します。

実行条件の設定ダイアログボックスを，図 4.4-9 に示します。

図 4.4-9　実行条件の設定ダイアログボックス

インストールすると条件 1 に「_!」の条件が設定されます。この条件は TELstaff の発信依頼やパトランプ等の動作を指示するメッセージを対象外にするために設定されています。それらについても動作の対象としたいのでない限り，この条件は削除しないでください。

AEPE または AESE への発信依頼や AECL（または，AEPE，AESE）に接続したパトランプおよびメッセージ表示ボードの動作指示は，エージェントメッセージを使用します。

4.5実行コマンドの設定

4.5.1 実行コマンドの設定について

実行コマンドの設定ダイアログボックスでは以下の設定をします。

1. プロトコルコマンドの実行可否の設定
2. _$Command_Execution プロトコルコマンドでの実行を許可するコマンドの指定
3. 電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続して実行させるコマンドの設定

実行コマンドの設定ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【実行コマンドの設定】を選択して表示します。設定内容の変更は，次回の TELstaff サービス起動時に有効になります。

本ダイアログボックスは Administrators 権限ユーザで使用してください。またネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

4.5.2 実行コマンドの設定ダイアログボックス

実行コマンドの設定ダイアログボックスでプロトコルコマンドの実行の可否，_$Command_Execution プロトコルコマンドで実行を許可するコマンドの指定，電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続して実行させるコマンドの設定をします。実行コマンドの設定ダイアログボックスを図 4.5-1 に示します。

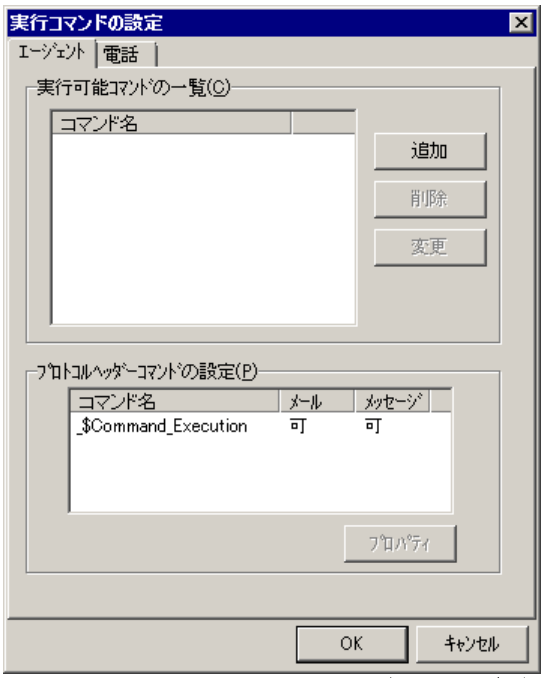


図 4.5-1 実行コマンドの設定ダイアログボックス

(1) 実行コマンドの設定ー「エージェント」タブ

プロトコルコマンドの実行の可否，_$Command_Execution プロトコルコマンドで実行可能なコマンドの設定を行います。「エージェント」タブは，AEPE，AESE，AECL で使用できます。実行コマンドの設定ー「エージェント」タブを図 4.5-2 に示します。

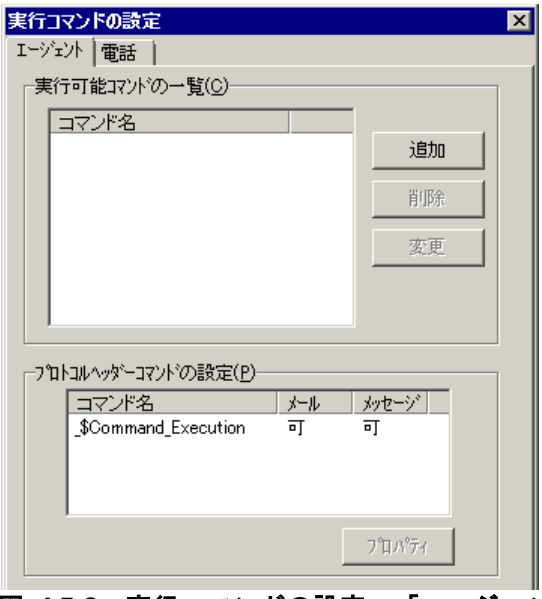


図 4.5-2　実行コマンドの設定ー「エージェント」タブ

(a)　「実行可能コマンドの一覧」リストボックス

現在，_$Command_Execution プロトコルコマンドで実行可能なコマンド名の一覧を表示します。実行可能なコマンドが一つも指定されていない場合，コマンドは実行されません。コマンド名を登録するときにファイル拡張子が省略された場合，".exe"をファイル拡張子として設定します。

(b)　［追加］ボタン

実行可能なコマンドを指定するために，コマンドの登録ダイアログボックスを表示します。コマンドの登録ダイアログボックスを図 4.5-3 に示します。

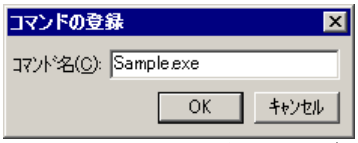


図 4.5-3　コマンドの登録ダイアログボックス

- **「コマンド名」テキストボックス**

_$Command_Execution プロトコルコマンドで実行可能なコマンド名を指定して下さい。パス名は指定できません。ファイル拡張子を省略した場合は，".exe"をファイル拡張子として仮定します。

(c)　［削除］ボタン

実行可能コマンド一覧で選択されたコマンドを削除します。

(d)　［変更］ボタン

実行可能コマンド一覧で選択されたコマンド名を変更するために，コマンドの登録ダイアログボックスを表示します。

(e)　「プロトコルヘッダコマンドの設定」リストボックス

現在の，プロトコルコマンドの実行の可否を表示します。

プロトコルコマンドごとにメールからの実行の可否とエージェントメッセージからの実行の可否が表示されます。

(f)　［プロパティ］ボタン

プロトコルコマンドの実行の可否を設定するために，プロトコルコマンドのプロパティダイアログボックスを表示します。プロトコルコマンドのプロパティダイアログボックスを図 4.5-4 に示します。

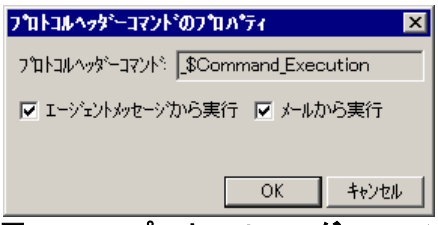


図 4.5-4　プロトコルヘッダーコマンドのプロパティダイアログボックス

●「プロトコルヘッダコマンド」テキストボックス

現在設定中のプロトコルコマンド名を表示しています。

●「エージェントメッセージからの実行」チェックボックス

受信したエージェントメッセージ中に当該プロトコルコマンドが指定されている場合に，当該プロトコルコマンドの実行を行うか否かを指定します。

●メールからの実行

受信したメール中に当該プロトコルコマンドが指定されている場合に，当該プロトコルコマンドの実行を行うか否かを指定します。

(2) 実行コマンドの設定－「電話」タブ

TELstaff からの電話通知で実行するコマンド，または，電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続して実行するコマンドの設定を行います。「電話」タブは，AEP および AESE で使用できます。実行コマンドの設定－「電話」タブを図 4.5-5 に示します。

図 4.5-5　実行コマンドの設定ー「電話」タブ

(a)　「コマンド番号一覧」リストボックス

TELstaff からの電話通知で実行するコマンド，または，電話からトリガフォンを使用して実行するために登録した一連のコマンド番号の一覧を表示します。

(b)　［プロパティ］ボタン

コマンド番号一覧で選択したコマンド番号の設定を変更するためにコマンド番号のプロパティダイアログボックスを表示します。

(c)　［追加］ボタン

コマンド番号を新規に追加するためにコマンド番号のプロパティダイアログボックスを表示します。

(d)　［削除］ボタン

コマンド番号一覧で選択したコマンド番号を削除します。

(3)　コマンド番号のプロパティダイアログボックス

実行する一連のコマンドについて詳細を設定します。コマンド番号のプロパティダイアログボックスを図 4.5-6 に示します。

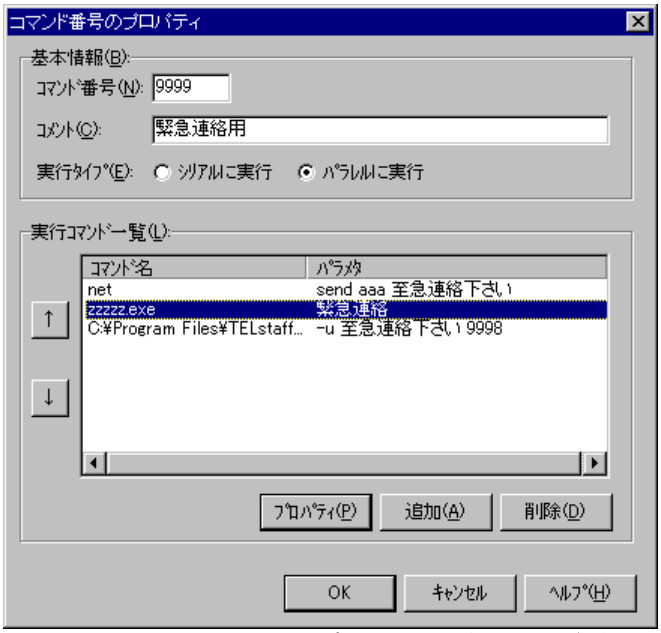


図 4.5-6　コマンド番号のプロパティダイアログボックス

(a)　「コマンド番号」テキストボックス

コマンド番号を 0000～9999 の 4 桁の数字で指定します。

(b)　「コメント」テキストボックス

定義したコマンドを分かりやすくするための簡単な説明を指定します。

(c)　「実行タイプ」ラジオボタン

登録した一連のコマンドの実行順序を指定します。登録順に逐次実行する場合は，「シリアルに実行」ラジオボタンをクリックし，登録したコマンドを同時に開始させ，並行実行させる場合は「パラレルに実行」ラジオボタンをクリックします。「シリアルに実行」ラジオボタンを選択した場合，コマンド実行中の通話は待機状態（無音状態）となります。

(d)　「実行コマンド一覧」リストボックス

設定されているコマンドの一覧を表示します。

(e)　［↑］ボタン

実行タイプで「シリアル」実行を指定した場合，選択したコマンドの実行順序を一つ前に移動します。

(f)　［↓］ボタン

実行タイプで「シリアル」実行を指定した場合，選択したコマンドの実行順序を一つ後に移動します。

(g)　［プロパティ］ボタン

実行コマンド一覧で選択された実行コマンドの設定を変更するために実行コマンドのプロパティダイアログボックスを表示します。

(h)　［追加］ボタン

新規に実行コマンドを追加するために実行コマンドのプロパティダイアログボックスを表示します。

(i)　［削除］ボタン

実行コマンド一覧で選択された実行コマンドを削除します。

(4) 実行コマンドのプロパティダイアログボックス

実行コマンドの詳細を設定します。実行コマンドのプロパティダイアログボックスを図 4.5-7 に示します。

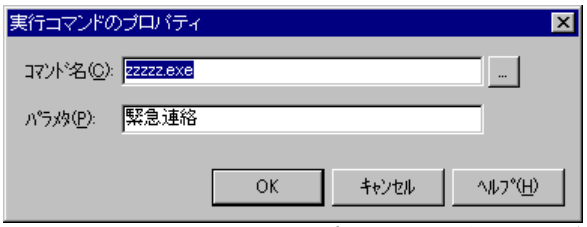


図 4.5-7　実行コマンドのプロパティダイアログボックス

(a)　「コマンド名」テキストボックス

実行コマンドを指定します。実行コマンドは，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして選択します。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

(b)　「パラメタ」テキストボックス

「コマンド名」テキストボックスで指定したコマンドに対するパラメタを指定します。電話からトリガフォンを使用して実行するコマンドパラメタには，表 4.5-1 に示す変数が使用できます。ただし，TELstaff に電話をかけての問い合わせ確認で使用される変数の内容は，最後に確認操作または確認保留操作された発信情報の内容と同一です。

表 4.5-1　コマンドパラメタに指定できる変数の種類

変数名	説明
~notifynumber~ *1	teldial コマンド受け付け番号
~CommandNumber~ *1	コマンド番号
~IPaddress~ *1	IP アドレス*3
~date~ *1	通知の受付日（yyyy mm/dd 形式）
~date1~ *1	通知の受付日（yyyy 年 mm 月 dd 日形式）
~date2~ *1	通知の受付日（yyyy/mm/dd 形式）
~time~ *1	通知の受け付け時刻（hh:mm:ss 形式）
~time1~ *1	通知の受け付け時刻（hh 時 mm 分 ss 秒形式）
~id1~ *1	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~ *1	通知 ID（nnnn 形式）
~RecordInformation~	対応番号
~UserInformation~*1	-u オプションで指定したユーザ付加情報
~UserName~	ユーザ名
~TelsLocalInstPath~	TELstaff インストールフォルダ
~TelsInstPath~	エージェントメッセージ受信先の TELstaff インストールフォルダ。この変数は，エージェントメッセージに指定できます。
~Mail1:manager~	TELstaff の「システム管理者」のメールアドレス 1

変数名	説明
~Mail2:manager~	TELstaff の「システム管理者」のメールアドレス 2
~Mail3:manager~	TELstaff の「システム管理者」のメールアドレス 3
~Mail1:ユーザ名~	“ユーザ名”のメールアドレス 1
~Mail2:ユーザ名~	“ユーザ名”のメールアドレス 2
~Mail3:ユーザ名~	“ユーザ名”のメールアドレス 3
~Telno1:manager~	TELstaff の「システム管理者」の電話番号 1
~Telno2:manager~	TELstaff の「システム管理者」の電話番号 2
~Telno3:manager~	TELstaff の「システム管理者」の電話番号 3
~Telno4:manager~	TELstaff の「システム管理者」の電話番号 4
~Telno1:ユーザ名~	“ユーザ名”の電話番号 1
~Telno2:ユーザ名~	“ユーザ名”の電話番号 2
~Telno3 ユーザ名~	“ユーザ名”の電話番号 3
~Telno4:ユーザ名~	“ユーザ名”の電話番号 4
~FAXno:ユーザ名~	“ユーザ名”の FAX 番号
~TelphoneCurrentNumber~*2	発信先電話番号または発信者通知番号
~FaxNumber~	現在のユーザの FAX 番号
~MailAddress~	現在のユーザのメールアドレス

注*1　TELstaff からの電話通知で実行するコマンドに指定できます。

注*2　TELstaff からの電話通知では，発信先電話番号。電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続したときは，発信者通知番号（ナンバーディスプレイ）。

注*3　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

4.6接点入力監視の設定

4.6.1 接点入力監視の設定について

他の機器からの接点出力信号の監視を行い，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。例えば，温度センサーが温度の超過を検知した際に，接点出力することができる場合，それを TELstaff にて検知し，その旨通知することができます。

■機能の利用について

- AECL で接点入力監視の結果を，teldial コマンドを使用して通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておくか，または teldial コマンドの作成ダイアログボックスの「発信依頼先アドレス」テキストボックスに発信依頼ができる AEPE または AESE の IP アドレスを設定する必要があります。
- ネットワーク，Ethernet-RS232C コンバータ，または RS232C に接続されている接点入力ユニットの監視方法や，接点入力ユニットの接点入力を契機に行うアクションを Administrators 権限ユーザで接点入力監視の設定ダイアログボックスで設定します。
- 接点入力監視の設定ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【接点入力監視の設定】を選択して表示します。
- 接点入力監視の構成を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

■留意事項

- 接点入力監視からの発信には，発信制限機能を適用可能です。

以下，シスメックス RA 社製接点入力ユニットおよび，コンバータに接続した接点入力ユニットの接続を，「ネットワーク接続」と記載します。

4.6.2 接点入力監視の設定ダイアログボックス

接点入力監視の設定状態を表示します。接点入力ユニットの追加・変更･削除を行います。接点入力監視の設定ダイアログボックス（ネットワーク接続）を図 4.6-1 に，接点入力監視の設定ダイアログボックス（RS232C 接続）を図 4.6-2 に示します。

図 4.6-1　接点入力監視の設定ダイアログボックス（ネットワーク接続）

図 4.6-2　接点入力監視の設定ダイアログボックス（RS232C接続）

(1)　「接点入力ユニット一覧」リストボックス

監視対象となっている接点入力ユニットの IP アドレス，あるいは接点入力ユニットが接続されている Ethernet-RS232C コンバータの IP アドレス，通信ポートのポート番号，使用チャンネル番号の一覧を表示します。ポート番号が空欄の場合は監視方法の設定ダイアログボックスにて設定されたポート番号を使用します。

RS232C 接続の場合，監視対象となっている接点入力ユニットが接続されている RS232C の COM ポート名，使用チャンネル番号の一覧を表示します。

(2)　［プロパティ］ボタン

接点入力ユニット一覧で選択された接点入力ユニットの設定ダイアログボックスを表示します。

(3)　［追加］ボタン

新規に接点入力ユニットの設定を追加するため，接点入力ユニットの設定ダイアログボ

ックスを開きます。

(4) ［削除］ボタン

接点入力ユニット一覧で選択された接点入力ユニットを削除します。

(5) ［設定］ボタン

接点入力ユニットの監視方法を設定するため，監視方法の設定ダイアログボックスを表示します。

4.6.3 監視方法の設定ダイアログボックス

すべての接点入力ユニットを監視する方法を設定します。監視方法の設定ダイアログボックスを図 4.6-3 に示します。

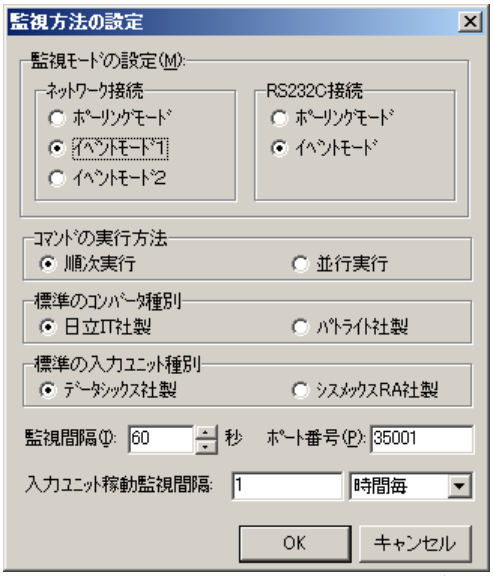


図 4.6-3 監視方法の設定ダイアログボックス

(1) 「監視モードの設定」フィールド

(a) 「ネットワーク接続」ラジオボックス

接点入力ユニットをネットワーク接続と RS232C 接続の混在で使用するときの監視モードは，ポーリングモード，またはイベントモードのどちらか 1 つの監視モードを設定します。

●ポーリングモード

指定された監視間隔ごとに接点入力ユニットに対して各接点のオン／オフ状態に変化がないかを監視する場合は，「ポーリングモード」ラジオボタンを選択します。ポーリングモードを使用する場合は，接点のオン（，またはオフ）状態を永続的に保持する機器でなければなりません。

入力ユニット種別がデータシックス社製接点入力ユニットの場合，Ethernet-RS232C コンバータ(IT-C10RE)の Connect Mode は，「サーバモード」に設定します。Ethernet-RS232C コンバータ(PHN-S)は，「サーバ」に設定します。

入力ユニット種別がシスメックス RA 社製接点制御 BOX の場合，接点制御 BOX の接点

入出力転送設定-接続方式は，「サーバ」に設定します。

●イベントモード１

接点のオン／オフ状態の変化をリアルタイムに監視するときは，「イベントモード 1」ラジオボタンを選択します。

データシックス社製接点入力ユニットを使用する場合は，「サンプリングタイマ」ドロップダウンリストで，接点短絡検出のサンプリングタイマを短くすることができます。

入力ユニット種別がデータシックス社製接点入力ユニットの場合，Ethernet-RS232C コンバータ(IT-C10RE)の Connect Mode は，「クライアントモード」に設定します。Ethernet-RS232C コンバータ(PHN-S)は，「クライアント」に設定します。

入力ユニット種別がシスメックス RA 社製接点制御 BOX の場合，接点制御 BOX の接点入出力転送設定-接続方式は「クライアント」，クライアント接続は「常時」に設定します。また接点入出力転送設定-入力データ変化通報は「有効」，入力データ通報マスクには監視対象とする接点マスクを「1」に設定します。

●イベントモード２

接点のオン／オフ状態の変化をリアルタイムに監視するときは，「イベントモード 2」ラジオボタンを選択します。イベントモード１との違いは，接点に変化がある度に，通信回線を接続・開放します。通信回線を常時接続できない場合に使用します。

データシックス社製接点入力ユニットを使用する場合は，「サンプリングタイマ」ドロップダウンリストで，接点短絡検出のサンプリングタイマを短くすることができます。

入力ユニット種別がデータシックス社製接点入力ユニットの場合，Ethernet-RS232C コンバータ(IT-C10RE)の Connect Mode は，「デマンドモード」に設定します。Ethernet-RS232C コンバータ(PHN-S)は，「クライアント」に設定します。

入力ユニット種別がシスメックス RA 社製接点制御 BOX の場合，接点制御 BOX の接点入出力転送設定-接続方式は「クライアント」，クライアント接続は「通信時接続」に設定し，無通信監視時間を 1 秒以上に設定します。また接点入出力転送設定-入力データ変化通報は「有効」，入力データ通報マスクには監視対象とする接点マスクを「1」に設定します。

(b)　「RS232C接続」ラジオボックス

接点入力ユニットをネットワーク接続と RS232C 接続の混在で使用するときの監視モードは，ポーリングモード，またはイベントモードのどちらか 1 つの監視モードを設定します。

●ポーリングモード

指定された監視間隔ごとに接点入力ユニットに対して各接点のオン／オフ状態に変化がないかを監視する場合は，「ポーリングモード」ラジオボタンを選択します。ポーリングモードを使用する場合は，接点のオン（，またはオフ）状態を永続的に保持する機器でなければなりません。

●イベントモード

接点のオン／オフ状態の変化をリアルタイムに監視するときは，「イベントモード」ラ

ジオボタンを選択します。

データシックス社製接点入力ユニットを使用する場合は，「サンプリングタイマ」ドロップダウンリストで，接点短絡検出のサンプリングタイマを短くすることができます。

(2) 「コマンドの実行方法」フィールド

各接点入力ユニットのコマンド一覧ダイアログボックスに表示されたコマンドの実行方法を設定します。コマンドを１つずつ順次に実行させるときは，［順次実行］ラジオボタンを選択します。すべてのコマンドを並行に実行させるときは，［並行実行］ラジオボタンを選択します。

並行実行では，コマンドを実行するときコマンド実行用のプロセスを生成してコマンドの実行終了を待たずに実行させます。

接点入力ユニット台数が多く（または接点数が多く），短時間に多数のコマンドが実行される可能性がある場合は，［順次実行］ラジオボタンを選択することで，Windows のシステムリソース不足により Windows がハングアップするのを回避できる場合があります。

コマンド一覧ダイアログボックスと監視方法の設定ダイアログボックスとの関係を下表に示します。

		コマンド一覧ダイアログボックス	
		順次実行	並行実行
監視方法の設定ダイアログボックス	順次実行	順次実行扱い	順次実行扱い
	並行実行	順次実行扱い	並行実行扱い

(3) 「標準のコンバータ種別」フィールド

データシックス社製接点入力ユニットをコンバータ経由でネットワーク接続する場合に，その使用するコンバータの種別を設定します。設定しないときは，パトライト社製のコンバータを使用します。本項目は，コンバータを使用しないシスメックス RA 社製接点入力ユニットの場合は，無効です。

(4) 「標準の入力ユニット種別」フィールド

接点入力監視で標準で使用する入力ユニット種別を選択します。標準では「データシックス社製」です。

●「データシックス社製」ラジオボタン

接点入力監視で標準で使用する入力ユニット種別としてデータシックス社製接点入力ユニットを使用する場合にチェックします。

●「シスメックスRA社製」ラジオボタン

接点入力監視で標準で使用する入力ユニット種別としてシスメックス RA 社製接点入力ユニットを使用する場合にチェックします。シスメックス RA 社製を選択した場合の注意事項を「4.6.9 シスメックス RA 社製入力ユニット使用時の注意事項」に示します。TELstaff で接点制御 BOX を使用する場合，接点制御 BOX 上で動作するプログラムは PSockSvCl5 としてください。

(5) 「監視周期」スピンボタン

監視モード設定が「ポーリングモード」の時の監視間隔を設定します。単位は秒で，設定できる範囲は 1 から 32767 までです。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，CPU を使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

接点が，オンからオフ（，またはオフからオン）する機器を使用する場合は，オン（，またはオフ）状態を検出できる監視周期を設定してください。

(6) 「ポート番号」テキストボックス

ネットワーク接続した接点入力ユニットと通信を行う TELstaff の通信ポート番号を指定します。ポート番号は，シスメックス RA 社製接点入力ユニット，または，コンバータに設定されたポート番号と同一の番号を指定します。

(7) 「入力ユニット稼動監視間隔」テキストボックス，ドロップダウンリスト

接点入力監視で使用する入力ユニットの稼動監視を行う場合，標準の稼動監視間隔を指定します。ポーリングモードの場合，本間隔は使用しません。ポーリングモードの場合，稼動監視は監視間隔で行われます。

ドロップダウンリストで選択できる単位を下表に示します。

分毎	監視間隔は 1～999 の値を指定します。
時間毎	監視間隔は 1～24 の値を指定します。 標準の監視間隔は，1 時間毎です。
日毎	監視間隔は 1～31 の値を指定します。

4.6.4 接点入力ユニットの設定ダイアログボックス

(1) ネットワーク接続の接点入力ユニットの設定ダイアログボックス

接点入力ユニットの IP アドレス，あるいは接点入力ユニットが接続されている Ethernet-RS232C コンバータの IP アドレス，通信ポートのポート番号の設定と，監視する端点を設定します。接点入力ユニットの設定ダイアログボックス（ネットワーク接続）を図 4.6-4 に示します。

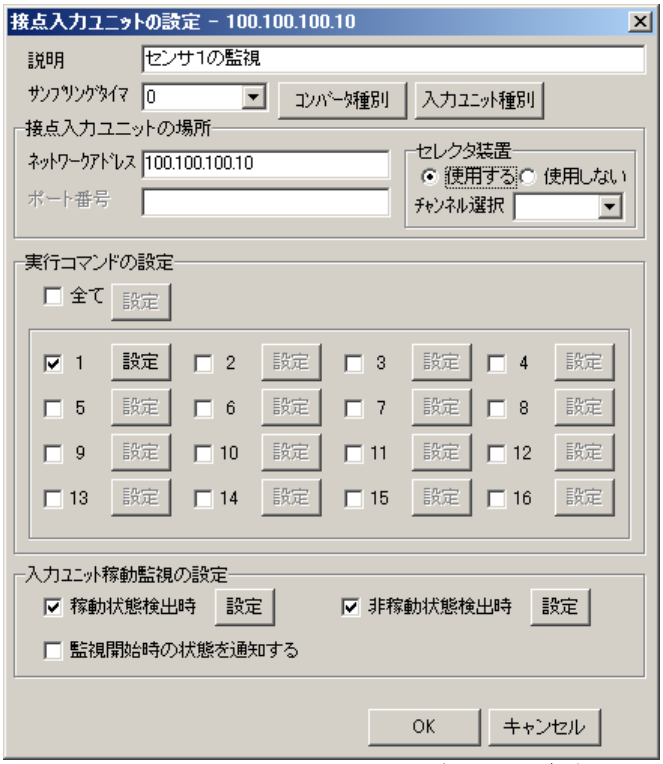


図 4.6-4　接点入力ユニットの設定ダイアログボックス（ネットワーク接続）

(a)　「説明」テキストボックス

新規にコマンドを定義した場合，定義内容が分かりやすくするための簡単な説明を設定します。既存のプロパティを表示した場合，その説明が表示され，変更もできます。

(b)　「サンプリングタイマ」ドロップダウンリスト

接点短絡検出のサンプリングタイマを 1 から 15 で設定します。0 を設定すると接点入力ユニットの設定値（初期値 1 秒）を使用します。

1 から 15 のサンプリングタイマ値は，100ms，200ms，300ms，400ms，500ms，600ms，700ms，800ms，900ms，1 秒，1.5 秒，2 秒，2.5 秒，5 秒，10 秒に対応します。

シスメックス RA 社製入力ユニットを使用する場合，本設定項目は無効です。

(c)　［コンバータ種別］ボタン

コンバータ種別の設定ダイアログボックスを表示します。コンバータ種別の設定ダイアログボックスで使用するコンバータの種別を設定します。

設定しないときは，監視方法の設定ダイアログボックスの「標準のコンバータ種別」フィールドで設定したコンバータ装置を使用します。

シスメックス RA 社製入力ユニットを使用する場合，本設定項目は無効です。

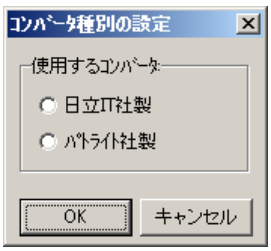


図 4.6-5　コンバータ種別の設定ダイアログボックス

(d)　［入力ユニット種別］ボタン

入力ユニット種別の設定ダイアログボックスを表示します。入力ユニット種別の設定ダイアログボックスで使用する入力ユニットの種別を選択します。入力ユニット種別としてシスメックス RA 社製を選択した場合の注意事項を「4.6.9 シスメックス RA 社製入力ユニット使用時の注意事項」に示します。

設定しないときは，監視方法の設定ダイアログボックスの「標準の入力ユニット種別」フィールドで設定した入力ユニットを使用します。

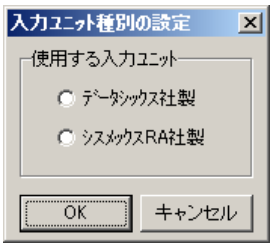


図 4.6-6　入力ユニット種別の設定ダイアログボックス

(e)　「ネットワークアドレス」テキストボックス

監視する接点入力ユニットの IP アドレス，あるいは接点入力ユニットが接続されている Ethernet-RS232C コンバータの IP アドレスを設定します。

(f)　「ポート番号」テキストボックス

接点入力ユニット，Ethernet-RS232C コンバータとの通信を行う際に使用するポート番号を指定します。ポート番号は，ネットワーク接続モードをポーリングモードで使用するとき設定します。ポート番号を設定しないときは，監視方法の設定ダイアログボックスで設定したポート番号を使用します。

(g)　「セレクタ装置」ラジオボックス

RS232C セレクタ装置，またはセレクタ入力ユニット装置に接点入力ユニットを接続するとき，［使用する］ラジオボタンを選択します。接続しないときは，［使用しない］ラジオボタンを選択します。

同じネットワークアドレスに接続した接点入力ユニットに対して RS232C セレクタ装置，またはセレクタ入力ユニット装置を使用する設定と使用しない設定の混在設定はできません。

(h)　「チャンネル選択」ドロップダウンリスト

RS232C セレクタ装置，またはセレクタ入力ユニット装置に接点入力ユニットを接続するとき，接続するチャンネル番号を選択します。

(i)　「実行コマンドの設定」フィールド

監視する接点と各接点のオン（，またはオフ）状態で実行させるコマンドを設定します。

接点入力ユニット台数が多い場合，各接点入力ユニットの接点のオン（，またはオフ）状態で実行させるコマンドが多いと短時間に大量のコマンドを実行することになります。短時間に大量のコマンドを実行させた場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。

入力ユニット種別としてシスメックス RA 社製を選択した場合，1～8 までが有効となります。9～16 がチェックされていても接点 9～16 の監視は行いません。

(j)　「全て」チェックボックス

すべての接点のオン（，またはオフ）状態を監視する時にチェックします。

［設定］ボタンですべての接点のオン／オフの状態のとき実行するコマンドをコマンド一覧ダイアログボックスで設定します。

(k)　「接点番号」チェックボックス

指定した接点のオン（，またはオフ）状態を監視する時にチェックします。［設定］ボタンで指定した接点のオン（，またはオフ）の状態のとき実行するコマンドをコマンド一覧ダイアログボックスで設定します。

(l)　「入力ユニット稼動監視の設定」フィールド

入力ユニットの稼動監視，非稼動監視の設定を行います。「稼動状態検出時」チェックボックス，「非稼動状態検出時」チェックボックスの両方のチェックがない場合，入力ユニットの稼動監視は行いません。監視方法の設定ダイアログボックスで監視モードにイベントモードを選択し，セレクタ装置を［使用する］に設定した場合や機器の設定が誤っている場合，入力ユニットの稼動監視は行いません。

- **「稼動状態検出時」チェックボックス**

入力ユニットの稼動状態を監視する場合にチェックします。［設定］ボタンで稼動状態検出時に実行するコマンドをコマンド一覧ダイアログボックスで設定します。

- **「非稼動状態検出時」チェックボックス**

入力ユニットの非稼動状態を監視する場合にチェックします。［設定］ボタンで非稼動状態検出時に実行するコマンドをコマンド一覧ダイアログボックスで設定します。

- **「監視開始時の状態を通知する」チェックボックス**

接点入力監視開始直後の入力ユニットの稼動監視結果を通知する場合にチェックします。

(2) RS232C接続の接点入力ユニットの設定ダイアログボックス

接点入力ユニットが接続されている RS232C シリアルポートのポート番号の設定と，監視する端点を設定します。接点入力ユニットの設定ダイアログボックス（RS232C 接続）接続を図 4.6-7 に示します。シスメックス RA 社製入力ユニットを使用する場合，本設定項目は無効です。

図 4.6-7　接点入力ユニットの設定ダイアログボックス（RS232C接続）

(a)　「説明」テキストボックス

新規にコマンドを定義した場合，定義内容が分かりやすくするための簡単な説明を設定します。既存のプロパティを表示した場合，その説明が表示され，変更もできます。

(b)　「サンプリングタイマ」ドロップダウンリスト

接点短絡検出のサンプリングタイマを 1 から 15 で設定します。0 を設定すると接点入力ユニットの設定値（初期値 1 秒）を使用します。

1 から 15 のサンプリングタイマ値は，100ms，200ms，300ms，400ms，500ms，600ms，700ms，800ms，900ms，1 秒，1.5 秒，2 秒，2.5 秒，5 秒，10 秒に対応します。

(c)　「COMポート名」ドロップダウンリスト

監視する接点入力ユニットが接続されている RS232C シリアルポートのポート名を設定します。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。TELstaff サービス起動中は，選択した RS232C ポートを他のアプリケーションで使用できません。

(d)　「セレクタ装置」ラジオボックス

RS232C セレクタ装置，またはセレクタ入力ユニット装置に接点入力ユニットを接続するとき，［使用する］ラジオボタンを選択します。接続しないときは，［使用しない］ラジオボタンを選択します。

同じネットワークアドレスに接続した接点入力ユニットに対して RS232C セレクタ装置，またはセレクタ入力ユニット装置を使用する設定と使用しない設定の混在設定はできません。

(e) 「チャンネル選択」ドロップダウンリスト

RS232C セレクタ装置，またはセレクタ入力ユニット装置に接点入力ユニットを接続するとき，接続するチャンネル番号を選択します。

(f) 「実行コマンドの設定」フィールド

監視する接点と各接点のオン／オフ状態で実行させるコマンドを設定します。

接点入力ユニット台数が多い場合，各接点入力ユニットの接点のオン／オフ状態で実行させるコマンドが多いと短時間に大量のコマンドを実行することになります。短時間に大量のコマンドを実行させた場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。

(g) 「全て」チェックボックス

すべての接点のオン（，またはオフ）状態を監視する時にチェックします。

［設定］ボタンですべての接点のオン／オフの状態のとき実行するコマンドをコマンド一覧ダイアログボックスで設定します。

(h) 「接点番号」チェックボックス

指定した接点のオン（，またはオフ）状態を監視する時にチェックします。［設定］ボタンで指定した接点のオン（，またはオフ）の状態のとき実行するコマンドをコマンド一覧ダイアログボックスで設定します。

(i) 「入力ユニット稼動監視の設定」フィールド

入力ユニットの稼動監視，非稼動監視の設定を行います。「稼動状態検出時」チェックボックス，「非稼動状態検出時」チェックボックスの両方のチェックがない場合，入力ユニットの稼動監視は行いません。監視方法の設定ダイアログボックスで監視モードにイベントモードを選択し，セレクタ装置を［使用する］に設定した場合や機器の設定が誤っている場合，入力ユニットの稼動監視は行いません。

- **「稼動状態検出時」チェックボックス**

  入力ユニットの稼動状態を監視する場合にチェックします。［設定］ボタンで稼動状態検出時に実行するコマンドをコマンド一覧ダイアログボックスで設定します。

- **「非稼動状態検出時」チェックボックス**

  入力ユニットの非稼動状態を監視する場合にチェックします。［設定］ボタンで非稼動状態検出時に実行するコマンドをコマンド一覧ダイアログボックスで設定します。

- **「監視開始時の状態を通知する」チェックボックス**

  サービス開始直後の入力ユニットの稼動監視結果を通知する場合にチェックします。

4.6.5 コマンド一覧ダイアログボックス

接点入力ユニットの接点がオン／オフ状態になった時に実行されるアクションの一覧を表示します。コマンド一覧ダイアログボックスを図 4.6-8 に示します。

図 4.6-8　コマンド一覧ダイアログボックス

(1)　「コマンドの実行方法」フィールド

「実行コマンド一覧」リストボックスに表示されたコマンドを上から順番に実行させるとき「順次実行」ラジオボタンを選択します。

「実行コマンド一覧」リストボックスに表示されたコマンドを並行に実行させるとき「並行実行」ラジオボタンを選択します。

並行実行では，コマンドを実行するときコマンド実行用のプロセスを生成してコマンドの実行終了を待たずに実行させます。

コマンド一覧ダイアログボックスと監視方法の設定ダイアログボックスとの関係を下表に示します。

		コマンド一覧ダイアログボックス	
		順次実行	並列実行
監視方法の設定ダイアログボックス	順次実行	順次実行扱い	順次実行扱い
	並列実行	順次実行扱い	並列実行扱い

(2)　「実行コマンド一覧」リストボックス

監視対象となっている接点がオン／オフ状態になった時に実行されるコマンドの一覧を表示します。TELstaff は一覧の上に表示されているコマンドから順番に実行します。

(3)　［↑］ボタン

実行コマンド一覧で選択されているコマンドを，１つ上に移動させます。コマンドの実行順序を上げたい場合に使用します。

(4)　［↓］ボタン

実行コマンド一覧で選択されているコマンドを，１つ下に移動させます。コマンドの実行順序を下げたい場合に使用します。

(5) ［プロパティ］ボタン

実行コマンド一覧で選択されたコマンドの設定内容を変更するため，コマンドのプロパティダイアログボックスを表示します。

(6) ［追加］ボタン

新規に実行するコマンドを追加するため，コマンドのプロパティダイアログボックスを表示します。

(7) ［削除］ボタン

実行コマンド一覧で選択されたコマンドを削除します。

4.6.6 コマンドのプロパティダイアログボックス

接点入力ユニットの接点がオン／オフ状態になった時に実行するコマンド名，パラメタを設定します。コマンドのプロパティダイアログボックスを図 4.6-9 に示します。

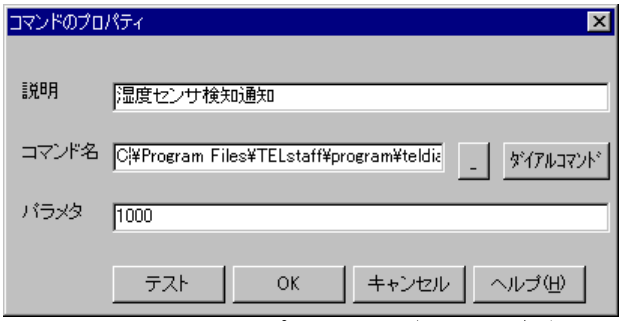


図 4.6-9 コマンドのプロパティダイアログボックス

(1) 「説明」テキストボックス

新規にコマンドを定義した場合，定義内容が分かりやすくするための簡単な説明を設定します。既存のプロパティを表示した場合，その説明が表示され，変更もできます。

(2) 「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名を直接指定するか，右の［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

AECL で接点入力監視の結果を，teldial コマンドを使用して通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定ー「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておくか，または teldial コマンドの作成ダイアログボックスの「発信依頼先アドレス」テキストボックスに発信依頼ができる AEPE または AESE の IP アドレスを設定する必要があります。

コマンドパラメタには，TELstaff の変数は指定できません。

(3) ［ダイヤルコマンド］ボタン

ここをクリックすると，teldial コマンドの作成ダイアログボックスを表示します。実行するコマンドを teldial コマンドに設定する場合，teldial コマンドのパラメタが簡単に作成できます。

(4) 「パラメタ」テキストボックス

「コマンド名」で指定したコマンドに対して指定するパラメタを設定します。

(5) ［テスト］ボタン

「コマンド名」および，「パラメタ」で設定した内容でコマンドを実行し，実行結果を表示します。

4.6.7 teldialコマンドの作成ダイアログボックス

teldial コマンドのコマンドラインの生成および，実行テストを行います。teldial コマンドの作成ダイアログボックスを図 4.6-10 に示します。

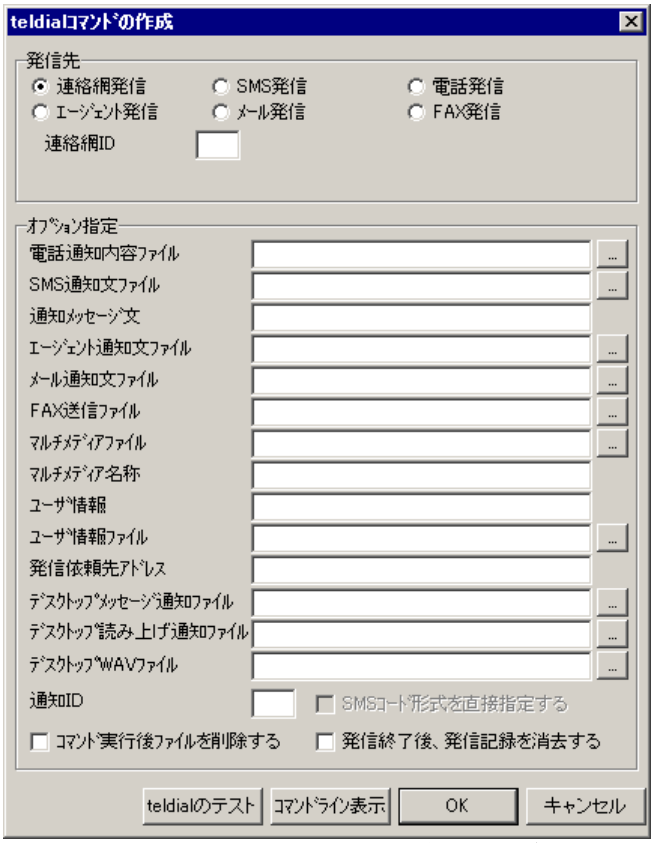


図 4.6-10 teldialコマンドの作成ダイアログボックス

(1) 「発信先」ラジオボックス

teldial コマンドの発信先種別を指定します。連絡網発信の場合，連絡網 ID の指定も必要です。

(2) 「電話通知内容ファイル」テキストボックス

音声通知するメッセージテキスト，または音声情報を格納したファイル名を，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

トリガフォンを使用して電話発信をするときは，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が tp のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のト

リガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

電話通知メッセージファイルを省略すると，標準提供の電話通知文ファイルが使用されます。標準提供の電話通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

電話通知文ファイルを指定しても teldial コマンドの-fv オプションで電話通知文ファイルの指定があれば-fv オプションで指定した電話通知文ファイルが使用されます。

(3) 「SMS通知文ファイル」テキストボックス

SMS 通知するメッセージテキストを格納したメッセージファイル名を，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイル名として 1022 バイト目まで有効となります。メッセージ長については，2.3.1(3)を参照してください。

(4) 「通知メッセージ文」テキストボックス

メッセージを英数字，カナ，漢字文字，またはコードで直接指定します。メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。送信対象は 1022 バイト目まで有効となります。

メッセージ長については，2.3.1(3)を参照してください。

(5) 「エージェント通知文ファイル」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）に送信するメッセージテキストを格納したファイル名を，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

(6) 「メール通知文ファイル」テキストボックス

E メールに送信するメッセージテキストを格納したファイル名を，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(7) 「FAX送信ファイル」テキストボックス

FAX に送信するメッセージテキストを格納したファイル名を，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(8) 「マルチメディアファイル」テキストボックス

デスクトップに通知するマルチメディアファイルを完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

連絡網 ID で指定する連絡網にデスクトップ通知メディアが追加されている場合，マル

チメディアファイルをデスクトップに通知することができます。デスクトップ通知では，デスクトップパトランプの表示設定ダイアログボックスで指定した 1 番のデスクトップパトランプを通知します。

マルチメディアファイルをデスクトップに通知する場合は，ファイル拡張子が bmp または jpg のマルチメディアファイルを指定し，図 5.3-19 ［デスクトップのプロパティ］－［デスクトップパトランプ］タブの「デスクトップパトランプに通知」チェックボックスにチェックしておきます。

(9) 「マルチメディアファイル名称」テキストボックス

デスクトップに通知するマルチメディアファイルを格納したファイル名を，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(10) 「ユーザ情報」テキストボックス

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（すべて全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。指定されたユーザ付加情報が最大文字数よりも長い場合，最大文字数で切り捨てられます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は「ユーザ情報ファイル」テキストボックスを使用してください。

ユーザ付加情報に改行コードを含めることはできません。ユーザ付加情報に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定する場合，ユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。（例：-u ″zzzzz¥″fffffff¥″xxxxxxxx″）

ユーザ付加情報を「;」（セミコロン）で区切ると，複数行に分割できます。ユーザ付加情報中の「;」（セミコロン）は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。（例：-u ″**ユーザ付加情報 1 行目;ユーザ付加情報 2 行目**″）

ここで指定されたユーザ付加情報は，通知するメッセージテキスト中の「~UserInformation~変数」と置き換えられます。「ユーザ情報ファイル」テキストボックスと同時には指定できません。

(11) 「ユーザ情報ファイル」テキストボックス

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(12) 「発信依頼先アドレス」テキストボックス

AEPE，AESE，AECL で使用する場合，発信依頼ができる AEPE または AESE の IP アドレスを設定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

発信依頼先アドレスに指定した AEPE または AESE にこの teldial コマンドの発信を依頼します。

発信依頼先を複数指定する場合は「+」区切りで指定します。発信依頼先の複数指定では，最初から順に発信依頼を行い正常に受信した発信依頼先だけに発信依頼を行います。

アドレスの指定方法は通信手段によって異なります。アドレスの指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」を参照してください。

個別に通信ポートのポート番号を指定する場合は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:」（半角コロン）を付けて指定します。ポート番号を省略した場合，「図 4.4-1 メ

ッセージエージェント構成の設定ー「全般」タブ」で設定したポート番号で送信します。

(13)「通知ID」テキストボックス

通知 ID を，4 桁の半角数字で指定します。ここで指定された内容は，通知するメッセージテキスト中の~id2~変数と置き換えられます。

(14)「コマンド実行後ファイルを削除する」チェックボックス

通知終了後，このダイアログで指定した通知文ファイルをすべて削除する場合にチェックします。ファイル毎には指定できません。

(15)「発信終了後，発信記録を削除する」チェックボックス

発信に対する確認の必要のない場合にチェックします。発信に対する確認が行われなくても発信が終了すると発信記録は削除されます。チェックしない場合，発信が終了しても発信に対する問い合せ確認が行われるまで発信記録は保存されます。

(16)「SMSコード形式を直接指定する」チェックボックス

コード形式で直接指定する場合にここをチェックします。文字形式で指定する場合には，チェックしないで下さい。

(17)「デスクトップメッセージ通知ファイル」テキストボックス

デスクトップに通知するメッセージテキストを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイル完全名の中に空白文字がある場合は，「"」（ダブルコーテーション）でファイル完全名を囲んで指定します。

この通知ファイルを省略するとデスクトップ通知のプロパティダイアログボックスの「デスクトップパトランプ」タブで指定した通知メッセージが使用されます。

この通知ファイルを指定する場合は，連絡網 ID で指定した連絡網にデスクトップ通知メディアを追加しておく必要があります。

(18)「デスクトップ読み上げ通知ファイル」テキストボックス

デスクトップに通知するメッセージテキストを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイル完全名の中に空白文字がある場合は，「"」（ダブルコーテーション）でファイル完全名を囲んで指定します。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

この通知ファイルを省略するとデスクトップ通知のプロパティダイアログボックスの「読み上げ」タブで指定した通知メッセージが使用されます。

この通知ファイルを指定する場合は，連絡網 ID で指定した連絡網にデスクトップ通知メディアを追加しておく必要があります。

(19)「デスクトップWAVファイル」テキストボックス

デスクトップに通知するオーディオメディアファイルを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイル完全名の中に空白文字がある場合は，「"」（ダブルコーテーション）でファイル完全名を囲んで指定します。

この WAV ファイルを省略するとデスクトップ通知のプロパティダイアログボックスの「サウンド」タブで指定した WAV 通知ファイルが使用されます。

この WAV ファイルを指定する場合は，連絡網 ID で指定した連絡網にデスクトップ通知メディアを追加しておく必要があります。

(20) ［teldialのテスト］ボタン

本ダイアログボックスで設定した teldial コマンドを実行します。

(21) ［コマンドライン表示］ボタン

本ダイアログボックスで設定した teldial コマンドのコマンドラインを表示します。

4.6.8 接点入力ユニット監視設定上の注意事項

接点入力ユニット監視の設定を行う場合の注意事項を以下に示します。

(1) モード設定における注意事項

監視方法の設定ダイアログボックスにて監視モードを設定する際，監視モードによって，動作上注意しなければいけない点があります。

(a) ポーリングモードに設定している場合

- 接点入力監視を開始した時点では TELstaff では全接点がオフであったとします。このため開始時点でオン状態であった場合，TELstaff 開始時にオンを検出しコマンドが実行されます。例を図 4.6-11 に示します。

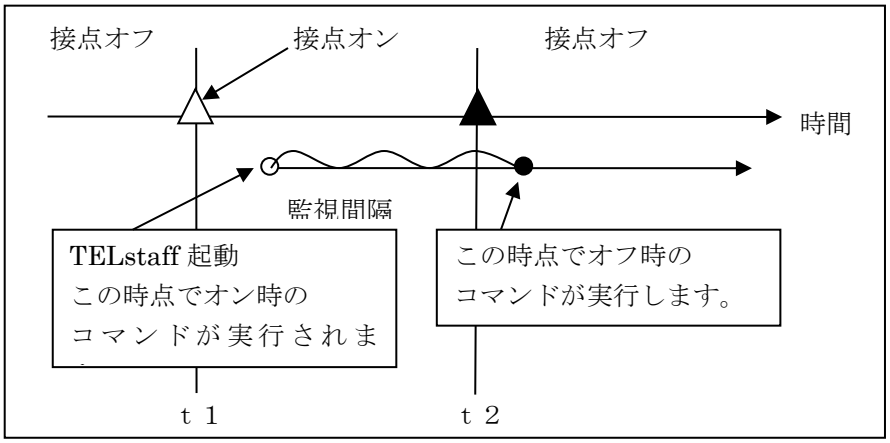


図 4.6-11 ポーリングモード時の注意事項（１）

- ポーリング間隔の間で状態がオン→オフ→オン（A）やオフ→オン→オフ（B）となった場合，状態の変化を TELstaff では検出できません。（A）の場合はいったん，オフになったことを認識されず，オン状態のままであったと認識します。（B）の場合はいったん，オンになったことを認識されず，ずっとオフ状態だったと認識します。例を図 4.6-12 に示します。

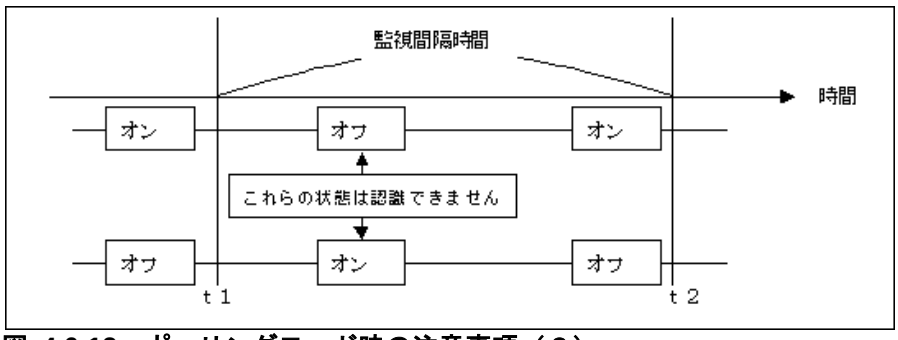


図 4.6-12　ポーリングモード時の注意事項（２）

(b)　イベントモードに設定している場合

- 監視開始時点では全接点がオフ状態であることが前提となります。そのため，既に接点がオン状態にある状態で監視を開始した場合，その接点がオフになったときに，その状態を正しく監視できません。例を図 4.6-13 に示します。

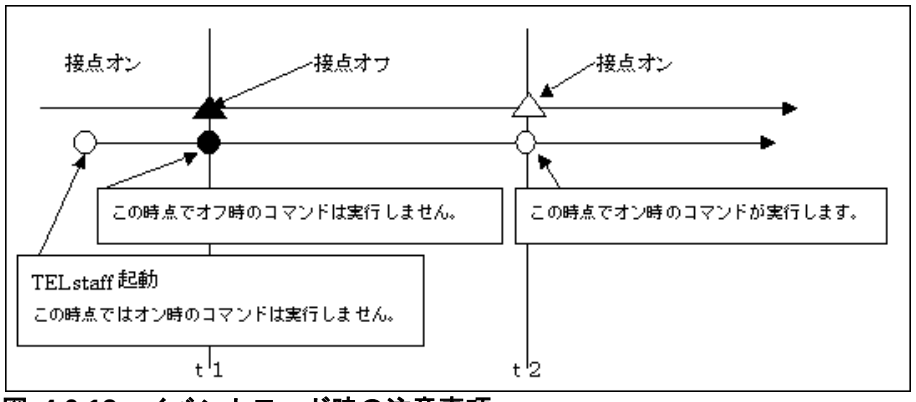


図 4.6-13　イベントモード時の注意事項

(2)　コマンド実行順序における注意事項

- ある１つの接点についてオン状態，オフ状態で実行するコマンドがそれぞれ定義されていて，その接点がオン→オフと連続して状態変更となった場合，実行されるコマンドの順序がオンのコマンド実行後にオフのコマンド実行となることは保障できません。システムの状態によってはオフのコマンド実行後にオンのコマンド実行となる場合もあります。
- 複数の接点が同時に状態変化したとき，並行実行設定ではコマンドが実行される順序については保障されません。

(3)　その他の注意事項

- RS232C 接続時，CTS/DSR 信号のチェックは行いません。
- セレクタ装置使用時に監視モードをイベントモードにした場合，稼動監視は行いません。
- 監視モードをイベントモード 2 にした場合，切断は機器側から行います。TELstaff 側からは行いません。切断するには機器側に無通信切断時間を設定する必要があります。
- 監視モードがイベントモード(ネットワーク)の場合，接続時点で「稼動」とします。切断時は「非稼動」としません。

- 監視モードがイベントモードで機器自体は動作中(PING が通る状態）で，かつ，動作モードが一致しない場合（サーバモード，シスメックス RA 社製入力ユニットの場合は「接続しない」を含む）は，「非稼動」を検出できません。

4.6.9 シスメックスRA社製入力ユニット使用時の注意事項

シスメックス RA 社製入力ユニット使用時の注意事項を以下に示します。

- RS232C での接続はできません。
- セレクタ装置は使用できません。
- 接点入力ユニットの設定ダイアログの「コンバータの設定」の指定は無効となります。
- 接点入力ユニットの設定ダイアログの「サンプリングタイマー」の指定は無効となります。
- 接点制御 BOX PW-501 上で動作するプログラムは PSockSvCl5 としてください。
- セレクタ指定された場合は監視は行いません。
- 接点制御 BOX PW-501 の入力接点と接点番号の関係を表 4.6-1 に示します。

表 4.6-1 接点番号

接点番号	PW-501 入力接点
1	AC 入力 1（AI1）
2	AC 入力 2（AI2）
3	接点入力 1(PI1)
4	接点入力 2(PI2)
5	接点入力 3(PI3)
6	接点入力 4(PI4)
7	接点入力 5(PI5)
8	接点入力 6(PI6)

4.7プロセス監視の設定

4.7.1 プロセス監視の設定について

プロセスの「消滅」と「生成」の監視を行い，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

■機能の利用について

- AECL でプロセス監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。
- プロセス監視の設定は，Administrators 権限ユーザで，プロセス監視ダイアログボックスで設定します。
- プロセス監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【プロセス監視の設定】を選択して表示します。
- プロセス監視の設定を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

■留意事項

- プロセス監視周期に到達したとき，前回の監視状態（または TELstaff を起動したときの監視状態）から変化が無い場合，通知されません。TELstaff プロセスは，プロセス監視できません。
- プロセス監視を使用する場合は，パフォーマンスモニタ（Windows 提供）の Process カウンタが正しく使用できる状態が必要です。

4.7.2 プロセス監視ダイアログボックス

プロセス監視方法を設定します。また，プロセス監視の一時監視中断と開始の操作を行います。プロセス監視ダイアログボックスを図 4.7-1 に示します。

図 4.7-1　プロセス監視ダイアログボックス

(1) 「監視グループ」フィールド

監視対象になっているプロセス名と監視方法の一覧を表示します。

(a)　［プロパティ］ボタン

監視グループ一覧で選択されたプロセス監視のプロセス監視設定ダイアログボックスを表示します。

(b)　［追加］ボタン

新規にプロセス監視の設定を追加するため，プロセス監視設定ダイアログボックスを開きます。

(c)　［削除］ボタン

監視グループ一覧で選択されたプロセス監視設定情報を削除します。

(2) 「監視プロセス」フィールド

プロセス監視の一時監視中断と開始の操作を行います。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

プロセス監視設定内容を変更して TELstaff サービスを再起動したときは，プロセス監視ダイアログボックスを一度閉じて再度表示すると最新の状態が表示されます。

(a)　「監視中のプロセス」リストボックス

現在監視中のプロセス一覧を表示します。

(b)　「監視抑止中のプロセス」リストボックス

現在監視抑止中のプロセス一覧を表示します。

(c)　［すべて抑止］ボタン

現在監視中のすべてのプロセスを一時監視中断状態にします。

(d)　［すべて監視］ボタン

現在一時監視中断状態のすべてのプロセスを監視状態にします。

(e)　［→］ボタン

「監視中のプロセス」リストボックスに表示されている１つまたは複数の監視中プロセスを選択して一時監視中断状態にします。１つのプロセスを選択したときは，ダブルクリックで一時監視中断状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(f)　［←］ボタン

「監視抑止中のプロセス」リストボックスに表示されている１つまたは複数の抑止中プロセスを選択して監視状態にします。１つのプロセスを選択したときは，ダブルクリックで監視状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(3)　［監視の設定］ボタン

プロセス監視のプロパティダイアログボックスを表示します。

4.7.3 プロセス監視のプロパティダイアログボックス

プロセス監視の方法を設定します。プロセス監視のプロパティダイアログボックスを図 4.7-2 に示します。

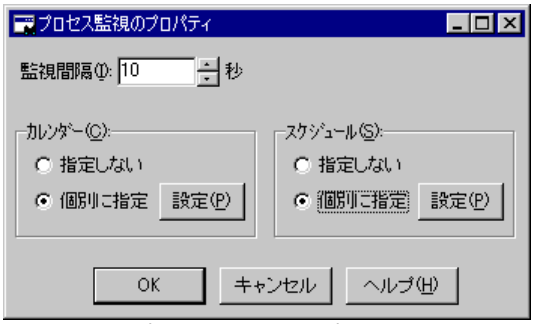


図 4.7-2　プロセス監視のプロパティダイアログボックス

(1)　「監視間隔」スピンボックス

プロセス監視の監視周期（監視間隔時間）を指定します。

プロセス監視は，監視間隔周期で定期的に行われます。したがって，例えば，生成監視の場合，監視が終わってから，次の監視時刻に到達する前に，生成と消滅が何回繰り返されても，生成を検知するのは，監視時刻に到達した時点です

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，CPU を使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(2)　「カレンダー」フィールド

プロセス監視全体で使用するカレンダーを指定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のプロセス監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

カレンダーダイアログボックスを図 4.7-3 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，TELstaff のシステムカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてプロセス監視独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。

図 4.7-3　カレンダーダイアログボックス

(3) 「スケジュール」フィールド

プロセス監視全体で使用する監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のプロセス監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。プロセス監視の抑止時間帯では，通知と統計情報の出力を抑止しますが監視は継続されます。スケジュールダイアログボックスを図 4.7-4 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，プロセス監視のスケジュールはしないで，常に監視します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてプロセス監視独自のスケジュールを設定します。プロセス監視の抑止時間帯では，通知と統計情報の出力が中断されますが，プロセス監視は継続されます。

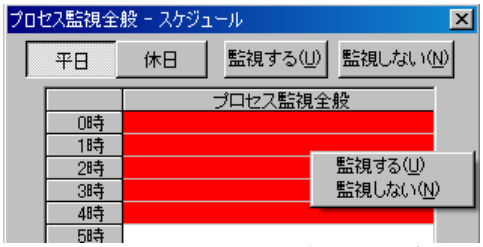


図 4.7-4　スケジュールダイアログボックス

4.7.4 プロセス監視設定ダイアログボックス

(1) プロセス監視設定－「全般」タブ

プロセス監視の全般を設定します。プロセス監視設定－「全般」タブを図 4.7-5 に示します。

図 4.7-5　プロセス監視設定ー「全般」タブ

(a)　「名称」テキストボックス

プロセス監視グループの名称を，20 桁以内で設定します。既に登録されているプロセス監視項目名は変更できません。プロセス監視グループ名を変更する場合は，いったん削除してから再度登録してください。

プロセスを監視する場合，監視する 1 つ，または複数のプロセスをグループ分けしてプロセス監視グループを作成します。プロセス監視グループで，プロセスごとに通知先を変更できます。プロセス監視グループに，次の文字を使用できません。

" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ;

(b)　「説明」テキストボックス

プロセス監視ダイアログボックスの「監視グループ」フィールドに表示する，プロセス監視グループに対する説明文を設定します。

(c)　「監視方法」ドロップダウンリスト

監視方法を「監視方法」ドロップダウンリストから選択します。監視方法には，生成監視と消滅監視の２種あります。

(d)　「監視するプロセス一覧」リストボックス

現在設定されているプロセス一覧を表示します。

(e)　［編集］ボタン

監視プロセス追加ダイアログボックスを表示します。監視プロセス追加ダイアログボックスで監視プロセスの登録，追加，削除を行います。

(f)　「カレンダー」フィールド

定義されたプロセス監視項目ごとに，カレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のプロセス監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，プロセス監視全体のカレンダーを使用します。プロセス監視全体のカレンダーは，プロセス監視のプロパティダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてプロセス監視項目ごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，プロセス監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.7-6　カレンダーダイアログボックス

(g)　「スケジュール」フィールド

定義されたプロセス監視項目ごとに，スケジュールを設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のプロセス監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。プロセス監視の抑止時間帯では，通知と統計情報の出力を抑止しますが監視は継続されます。

- 「指定しない」をチェックした場合，プロセス監視全体のスケジュールを使用します。プロセス監視全体のスケジュールは，プロセス監視のプロパティダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてプロセス監視項目ごとに独自のスケジュールを設定します。プロセス監視の抑止時間帯では，通知と統計情報の出力が中断されますが，プロセス監視は継続されます。

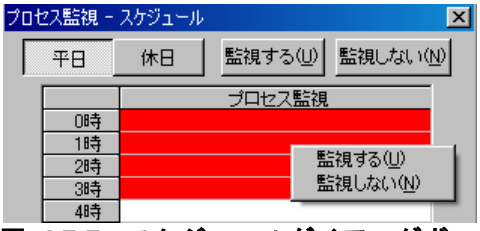


図 4.7-7　スケジュールダイアログボックス

(2)　プロセス監視設定－「電話・SMS」タブ

プロセス監視で通知する電話，および SMS 通知の設定をします。プロセス監視設定－「電話・SMS」タブを，図 4.7-8 に示します。

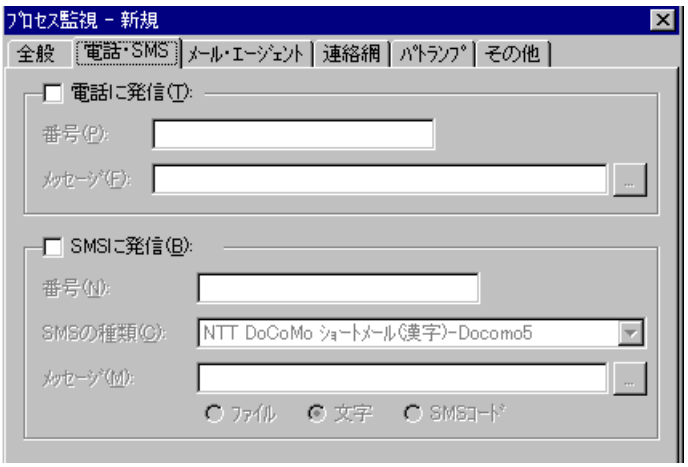


図 4.7-8　プロセス監視設定ー「電話・SMS」タブ

(a)　「電話に発信」チェックボックス

監視対象プロセスが設定された状態になったときに，電話に通知をする場合，ここをチェックします。

(b)　「番号（電話に発信）」テキストボックス

発信通知する電話番号を，半角数字で指定します。電話番号には半角文字の「ー」（ハイフン）が指定できます。

パスワード認証を行う時は，半角 4 桁数字のパスワードを電話番号の後に「：」（半角コロン）で区切って指定し，発信と受信時の認証方法ダイアログボックスの「パスワード認証は行わない」チェックボックスのチェックを外します。

(c)　「メッセージ（電話に発信）」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が tp のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

ファイル名は直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。

~UserInformation~変数は，プロセス監視結果のプロセス情報に置き換えられます。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。

電話通知メッセージファイルを省略すると，標準提供の電話通知文ファイルが使用されます。標準提供の電話通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

電話通知メッセージファイルでは，表 2.3-19 に示す変数が使用できます。

(d)　「SMSに発信」チェックボックス

監視対象プロセスが設定された状態になったときに，SMS 通知をする場合，ここをチェックします。

(e) 「番号（SMSに発信）」テキストボックス

通知する SMS 通知番号を，半角数字で設定します。番号には，半角文字の「－」（ハイフン）が使用できます。

番号の後に「#」が SMS 通知は番号の後に「#」を入れてください。

パスワードの後にメッセージを送信する SMS 通知の場合，番号の後ろに「:パスワード」の形式でパスワードを指定してください。

(f) 「SMSの種類」ドロップダウンリスト

ユーザが利用する SMS の種類を設定します。種類は，ドロップダウンリストの中から選択して設定します。

(g) 「メッセージ（SMSに発信）」テキストボックス

SMS 通知するメッセージを設定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。メッセージについての注意事項があります。詳細は，2.3.1(3)を参照してください。メッセージの文字数が最大文字数を超えた場合，最大文字数で分割して送信します。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字文字を直接入力します。使用できる文字は，各社の説明書をお読みください。

  メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。

  プロセス監視結果のプロセス情報は，~ProcessName~変数で参照できます。

  プロセス名(PID,監視種別)　PID：プロセス ID
  監視種別：「消滅」または「出現」

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

  ~UserInformation~変数は，プロセス監視結果のプロセス情報に置き換えられます。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。コードは，各社の説明書をお読みください。

(3) プロセス監視設定－「メール・エージェント」タブ

プロセス監視で通知するメール，および AECL（または AEPE，AESE）の設定をします。プロセス監視設定－「メール・エージェント」タブを，図 4.7-9 に示します。

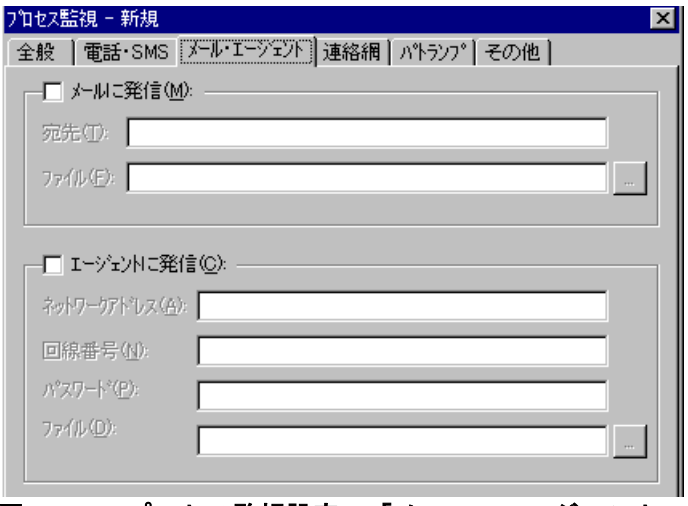


図 4.7-9　プロセス監視設定ー「メール・エージェント」タブ

(a)　「メールに発信」チェックボックス

監視対象プロセスが設定された状態になったときに，メールに通知をする場合，ここをチェックします。

(b)　「宛先」テキストボックス

発信通知するメールのメールアドレスを指定します。メールはメールが使用できます。通知先メールアドレスは，半角「，」カンマで区切って，複数指定できます。複数指定する場合は，宛先の合計の文字数が半角 256 文字以内（カンマを含みます）で指定して下さい。

(c)　「ファイル名（メールに発信）」テキストボックス

メールに発信通知する場合の，通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

メール通知文ファイルでは，表 2.3-19 に示す変数が使用できます。~UserInformation~変数は，プロセス監視結果のプロセス情報に置き換えられます。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，プロセス監視用の標準メール通知文ファイルを使用します。プロセス監視用の標準メール通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

(d)　「エージェントに発信」チェックボックス

監視対象プロセスが設定された状態になったときに，AECL（または AEPE，AESE）に通知をする場合，ここをクリックします。

(e) 「ネットワークアドレス」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）が動作する PC がネットワーク接続のとき，IP アドレス（またはホスト名）と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。ポート番号は，IP アドレス（またはホスト名）の後に「:ポート番号」で指定します。

（例） 100.100.100.10+100.100.100.20
100.100100.20:35000

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次のサービス名を登録しておきます。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE，AESE，AECL の場合，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合も，ポート番号を省略できます。

(f) 「回線番号」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）が動作する PC が電話回線接続のとき，半角数字で回線番号を設定します。回線番号には，半角文字の「－」（ハイフン）が使用できます。

ネットワークアドレスと回線番号の両方を設定すると，最初に回線番号に通知し，次にネットワークアドレスの順番で両方に通知します。両方に通知できない場合は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のエージェント繰り返し回数に設定された回数の再通知行い，どちらかの AECL（または AEPE，AESE）が受信できたとき，通知を終了します。

(g) 「パスワード」テキストボックス

AECL または AEPE，AESE に受信パスワードの設定があるとき，同じパスワードを指定します。AEPE，AESE，AECL でプロセス監視している場合は，メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスで同じパスワードを指定します。

(h) 「ファイル名（エージェントに発信）」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）に送信するファイルを設定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

エージェント通知文では，表 2.3-19 に示す変数が使用できます。~UserInformation~変数は，プロセス監視結果のプロセス情報に置き換えられます。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，プロセス監視用のエージェント通知文を使用します。プロセス監視用のエージェント通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有

の通知文の作成方法は，「2.6.3　ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

(4) プロセス監視設定－「連絡網」タブ

プロセス監視で通知する連絡網の設定をします。プロセス監視設定－「連絡網」タブを，図 4.7-10 に示します。

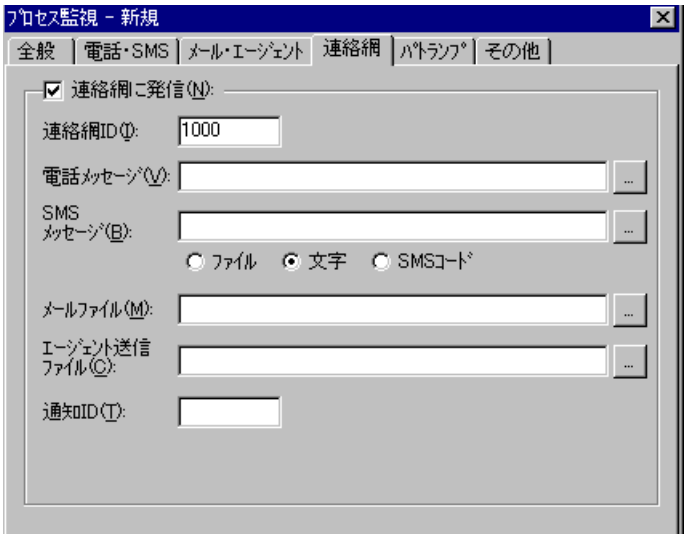


図 4.7-10　プロセス監視設定－「連絡網」タブ

(a)　「連絡網に発信」チェックボックス

監視対象プロセスが設定された状態になったときに，連絡網に発信をする場合，ここをチェックします。

(b)　「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

(c)　「電話メッセージ」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が tp のファイル名を指定します。ファイル名は直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

電話通知メッセージファイルでは，表 2.3-19 に示す変数を使用できます。

~UserInformation~変数は，プロセス監視結果のプロセス情報に置き換えられます。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。

電話通知メッセージファイルを省略すると，連絡網プロパティー「発信内容」タブの電話メッセージファイルを使用します。連絡網プロパティー「発信内容」タブの電話メッセ

ージファイルを使用する場合，~UserInformation~変数は使用できません。

(d) 「SMSメッセージ」テキストボックス

連絡網内に定義された SMS 通知で使用するメッセージを設定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字で直接入力します。

  プロセス監視結果のプロセス情報は，~ProcessName~変数で参照できます。

  プロセス名(PID,監視種別)　PID：プロセス ID
  監視種別：「消滅」または「出現」

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

  ~UserInformation~変数は，プロセス監視結果のプロセス情報に置き換えられます。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。コードは，各社の説明書をお読みください。

SMS 通知の注意事項については 2.3.1(3)(e)を参照してください。

(e) 「メールファイル」テキストボックス

メールに発信通知する場合の，通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

メール通知文ファイルでは，表 2.3-19 に示す変数が使用できます。

~UserInformation~変数は，プロセス監視結果のプロセス情報に置き換えられます。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。

メール通知文ファイルを省略すると，連絡網プロパティー「発信内容」タブのメール通知文ファイルを使用します。連絡網プロパティー「発信内容」タブのメールファイルを使用する場合，~UserInformation~変数は使用できません。

(f) 「エージェント送信ファイル」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）に送信するメッセージファイルを設定します。このメッセージファイルで TELstaff 製品がインストールされているパソコンのデスクトップにも通知します（デスクトップメッセージ通知）。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

エージェント通知文では，表 2.3-19 に示す変数が使用できます。

~UserInformation~変数は，プロセス監視結果のプロセス情報に置き換えられます。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。

エージェント通知文を省略すると，連絡網プロパティー「発信内容」タブのエージェント送信ファイルを使用します。連絡網プロパティー「発信内容」タブのエージェント送信ファイルを使用する場合，~UserInformation~変数は使用できません。

(g) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

(5) プロセス監視設定ー「パトランプ」タブ

プロセス監視で通知するパトランプの設定をします。

パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。プロセス監視設定ー「パトランプ」タブを，図 4.7-11 に示します。

図 4.7-11 プロセス監視設定ー「パトランプ」タブ

(a) 「パトランプに通知」チェックボックス

監視対象プロセスが設定された状態になったときに，パトランプに通知する場合，ここをチェックします。

(b) 「動作」ラジオボタン

パトランプの動作を指定します。

- **［点灯］ボタンをチェックした場合**
  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させます。
- **［消灯］ボタンをチェックした場合**
  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。
- **［点灯と消灯］ボタンをチェックした場合**
  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させ，チェックされていないリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。すべてのリレー番号のパトランプを動作させるときは，「点灯と消灯」ボタンのチェックを推奨します。リレー番号個別の動作に比べて動作時間を短縮できます。

(c) 「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプの動作で「点灯」が指定されている場合に有効となり，パトランプ点灯後，自動的に消灯させる場合に，ここをチェックします。

自動消灯オプションを使用するとパトランプが消灯するまで，他からの同じ RS232C 接続，コンバータ接続のパトランプおよびネットワーク対応型パトランプへの動作指示は待ち状態になります。

自動消灯オプションを使用して短時間に大量のパトランプの動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。

複数のリレー接点を指定したときの「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で点灯後，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で消灯します。動作順序は，変えられません。

(d) 「自動的に消灯する」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ点灯後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

(e) 「リレー番号」チェックボックス

動作させたいパトランプが接続されているリレーの番号ボタンをチェックします。リレー番号の指定で「全て」がチェックされた場合，このボタンは指定できません。

複数のリレー接点を指定したときの「点灯」，「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で動作します。動作順序は，変えられません。

(f) 「全て」チェックボックス

すべてのリレーに接続されているパトランプの「点灯」，または「消灯」をする場合，ここをチェックします。

パトランプの動作ボタンで「点灯と消灯」が指定された場合，すべて点灯の動作になります。

(g) ［リレー種別］ボタン

使用するリレー装置の種別を設定します。設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するリレー装置の標準設定(D) 】で設定した標準のリレー装置が使用されます 。

(h) 「ポート名」ドロップダウンリスト

パトランプが接続されている RS232C のポート番号を，ドロップダウンリストから選択してください。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると直前で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

(i) チャンネル番号

リレー装置が接続されている RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。

RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に使用したチャンネル番号の機器が動作します。

(j) 「リモートで使用」チェックボックス

別の場所に接続されているパトランプを動作させたい場合に，このボタンをチェックします。

AEPE，AESE，AECL のある PC にパトランプが接続されているとき，PC がネットワーク接続の場合は「ネットワーク」ラジオボタンを，電話回線でつながっている場合は「電話回線」ラジオボタンを選択します。

パトランプが接続されている場所が，コンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合は，「コンバータ」ラジオボタンを選択します。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプを接続した場合，コンバータ接続，またはネットワーク対応型パトランプに比べ動作に時間がかかり，動作するまでの遅延が発生する場合があります。

(k) 「場所」テキストボックス

パトランプが接続されている場所を指定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択された場所によって異なります。

●パトランプの接続場所が，AECL（またはAEPE，AESE）のあるPCの場合

ネットワークに接続されているときは，「ネットワーク」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL の場合，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。

●パトランプが接続されている場所が，電話回線の場合

パトランプが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，電話回線に接続されているときは，「電話回線」をチェックし，回線番号を指定します。

●パトランプの接続場所がコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータに接続されているときは，「コンバータ」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telswnet ポート番号/tcp
```

使用するコンバータは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の標準設定(H) 】-【パトランプ発信の場合(L) 】で設定したコンバータ装置を使用します。

１つの機器を複数の TELstaff から同時に使用できるかは機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

(例)

100.100.100.1

100.100.100.1:35000

(l)　「パスワード」テキストボックス

パトランプが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，ネットワークに接続または電話回線に接続されているとき，AECL（または AEPE，AESE）に受信パスワードの設定があるときは，AECL（または AEPE，AESE）の受信パスワードを指定します。

(6) プロセス監視設定－「その他」タブ

プロセス監視で通知する FAX と，実行するコマンドの設定をします。プロセス監視設定－「その他」タブを，図 4.7-12 に示します。

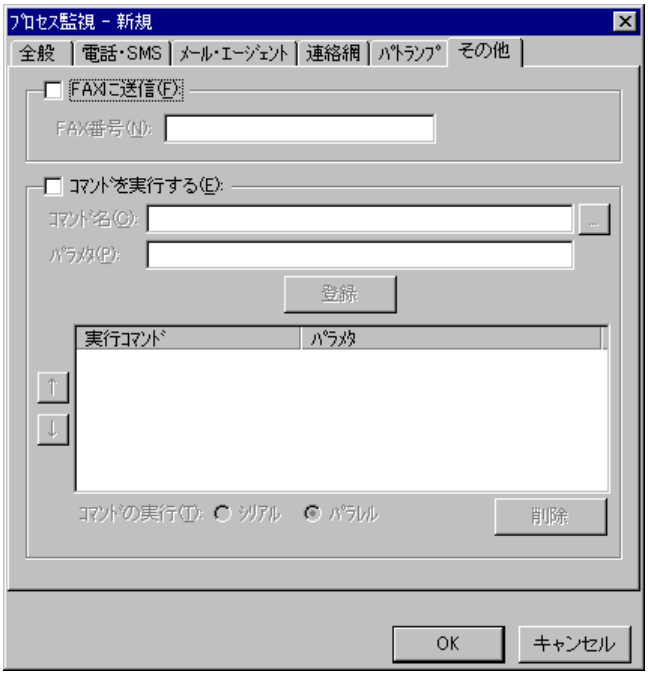


図 4.7-12　プロセス監視設定－「その他」タブ

(a) 「FAXに発信」チェックボックス

監視対象プロセスが設定された状態になったときに，FAX に通知をする場合，ここをチェックします。FAX 送信文は，標準提供の FAX 送信文ファイルが使用されます。標準提供の FAX 送信文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

FAX 通知文ファイルでは，表 2.3-19 に示す変数が使用できます。

(b) 「FAX番号」テキストボックス

発信通知を FAX で受けるときの FAX 番号を，半角数字で指定します。FAX 番号には半角文字の「ー」（ハイフン）が指定できます。

(c) 「コマンドを実行する」チェックボックス

監視対象プロセスが設定された状態になったときに，コマンドを実行する場合チェックします。

(d) 「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

(e) 「パラメタ」テキストボックス

実行するコマンドのパラメタを指定します。プロセス監視結果のプロセス情報は，~ProcessName~変数で参照できます。例えば，メール通知する場合，次の teldial コマンドを指定し，メール通知文には~UserInformation~変数を指定しておきます。

```
teldial -u ~ProcessName~ ...
```

プロセス情報は次の形式で置換されます。

```
プロセス名(PID,監視種別)
```

このうち，「PID」の部分はプロセス ID に，「監視種別」の部分は「消滅」または「出現」に置換されます。

(f) ［登録］ボタン

「コマンド名」テキストボックスに指定したコマンドを登録します。［登録］ボタンを押すと「実行コマンド」リストボックスにコマンド名が表示されます。

(g) ［削除］ボタン

「実行コマンド」リストボックスで選択されたコマンドを削除します。

(h)　「実行コマンド」リストボックス

登録したコマンドの一覧を表示します。登録したコマンドの変更は，次の操作で変更できます。

1. 「実行コマンド」リストボックスで変更するコマンドを選択します。
2. ダブルクリックで登録コマンドの内容を「コマンド名」テキストボックスと「パラメタ」テキストボックスに表示させます。
3. コマンドを変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するコマンドの選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

(i)　［↑］，［↓］ボタン

複数のコマンドを登録したとき実行する順番を変更します。「シリアル」ラジオボタンを選択したとき変更できます。

(j)　「シリアル」ラジオボタン

「実行コマンド」リストボックスに表示されたコマンドを上から順番に実行させるとき選択します。

(k)　「パラレル」ラジオボタン

「実行コマンド」リストボックスに表示されたコマンドを並行に実行させるとき選択します。

並行実行では，コマンドを実行するときコマンド実行用のプロセスを生成してコマンドの実行終了を待たずに実行させます。

4.7.5 監視プロセス追加ダイアログボックス

監視するプロセスを設定します。監視プロセス追加ダイアログボックスを図 4.7-13 に示します。

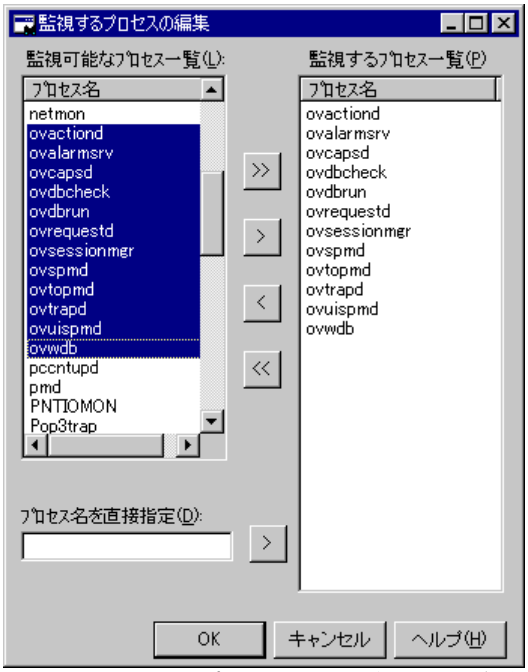


図 4.7-13　監視プロセス追加ダイアログボックス

(a)　「監視可能なプロセス一覧」リストボックス

現在，Windows で実行中のプロセスの一覧を表示します。カメラ監視サービスを開始しているときは，プロセス名に“カメラ監視プロセス”が表示されます。

プロセス ID(PID)が異なる同じ名前のプロセス名が複数あるときは，1 つだけ表示します。プロセス ID(PID)が異なる同じ名前のプロセス名が複数あるときは，プロセス ID ごとにプロセス監視が行われます。

(b)　「監視するプロセス一覧」リストボックス

現在監視中のプロセスの一覧を表示します。

(c)　［>］ボタン

「監視可能なプロセス一覧」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数のプロセスを選択して「監視するプロセス一覧」リストボックスに移動します（監視対象にします）。 1 つのプロセスを選択したときは，ダブルクリックで「監視するプロセス一覧」リストボックスに移動します。

(d)　［<］ボタン

「監視するプロセス一覧」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数のプロセスを削除します（監視対象から外します）。 1 つのプロセスを選択したときは，ダブルクリックで削除します。

(e)　［>>］ボタン

「監視可能なプロセス一覧」リストボックスに表示されているすべてのプロセスを「監

視するプロセス一覧」リストボックスに移動します（監視対象にします）。

(f)　［<<］ボタン

「監視するプロセス一覧」リストボックスに表示されているすべてのプロセスを削除します（監視対象から外します）。

(g)　「プロセス名直接指定」テキストボックス

「監視可能なプロセス一覧」リストボックスに表示されていないプロセスを監視する場合，直接監視するプロセス名を指定して［>］ボタンを押します。カメラ監視サービスプロセスを監視する場合は，プロセス名に「カメラ監視プロセス」と指定して［>］ボタンを押します。

プロセス名は，Windows のタスクマネージャーの「プロセス」タブに表示されるプロセスを指定します。デスクトップで実行するアプリケーションプロセスと TELstaff プロセスは，指定できません。

4.8ファイル監視の設定

4.8.1 ファイル監視の設定について

ファイル監視の設定は，Administrators 権限ユーザで，ファイル監視ダイアログボックスで設定します。ファイル監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【ファイル監視の設定】を選択して表示します。なお，設定変更は次回の TELstaff サービス再起動後に反映されます。

ファイル監視の機能自体について，また留意事項については 2.3.7 項を参照してください。

4.8.2 ファイル監視ダイアログボックス

ファイル監視ダイアログボックスでファイル監視方法を設定します。また，ファイル監視の一時監視中断と開始の操作を行います。ファイル監視ダイアログボックスを図 4.8-1 に示します。

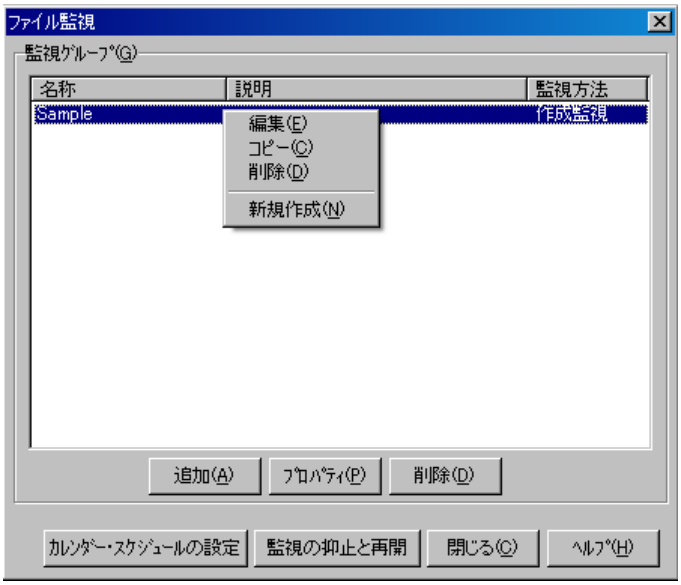


図 4.8-1 ファイル監視ダイアログボックス

(1) 「監視グループ」フィールド

監視対象になっている監視グループと監視方法の一覧を表示します。

(a) ［追加］ボタン

新規にファイル監視の設定を追加するため，ファイル監視設定ダイアログボックスを開きます。

(b)　［プロパティ］ボタン

監視グループ一覧で選択されたファイル監視のファイル監視設定ダイアログボックスを表示します。

(c)　［削除］ボタン

監視グループ一覧で選択されたファイル監視設定情報を削除します。ファイル監視設定情報を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(2)　［カレンダー・スケジュールの設定］ボタン

カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスを開きます。

(3)　［監視の抑止と再開］ボタン

ファイル監視の一時監視中断と開始の操作を行うためのファイル監視の抑止と再開ダイアログボックスを開きます。詳細は，「10.8 ファイル監視の操作用ツール」を参照してください。

4.8.3 カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックス

ファイル監視全体のカレンダとスケジュールを設定します。カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスを図 4.8-2 に示します。

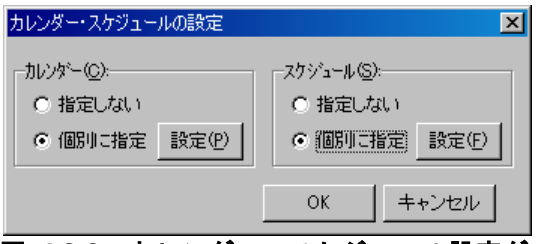


図 4.8-2　カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックス

(1)　「カレンダー」フィールド

ファイル監視全体で使用するカレンダーを指定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のファイル監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。カレンダーダイアログボックスを図 4.8-3 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，TELstaff のシステムカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてファイル監視独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。

図 4.8-3　カレンダーダイアログボックス

(2)　「スケジュール」フィールド

ファイル監視全体で使用する監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のファイル監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。ファイル監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。スケジュールダイアログボックスを図 4.8-4 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，ファイル監視のスケジュールはしないで，常に監視します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてファイル監視独自のスケジュールを設定します。ファイル監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力とファイル監視は継続されます。

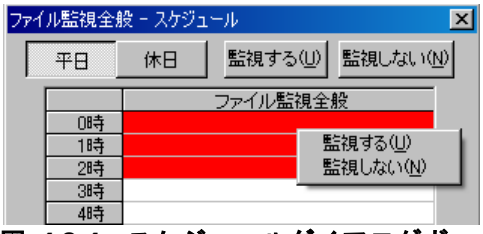


図 4.8-4　スケジュールダイアログボックス

4.8.4　ファイル監視設定ダイアログボックス

(1)　ファイル監視設定－「全般」タブ

ファイル監視の全般を設定します。ファイル監視設定－「全般」タブを図 4.8-5 に示します。

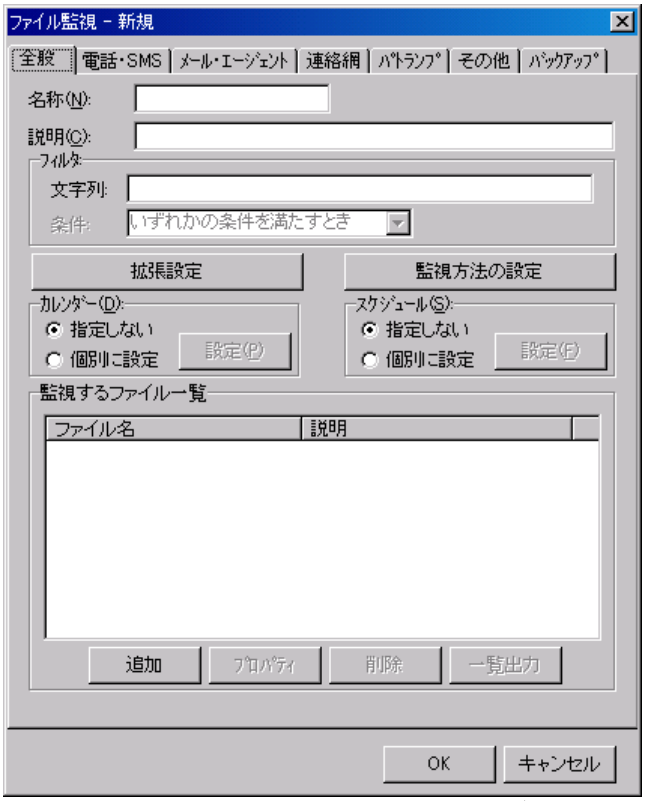


図 4.8-5　ファイル監視設定ー「全般」タブ

(a)　「名称」テキストボックス

ファイル監視グループの名称を，20 桁以内で設定します。既に登録されているファイル監視項目名は変更できません。ファイル監視グループ名を変更する場合は，いったん削除してから再度登録してください。

ファイルを監視する場合，監視する 1 つ，または複数のファイルをグループ分けしてファイル監視グループを作成します。ファイル監視グループで，ファイルごとに通知先を変更できます。ファイル監視グループに，次の文字を使用できません。

" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ;

(b)　「説明」テキストボックス

ファイル監視ダイアログボックスの「監視グループ」フィールドに表示する，ファイル監視グループに対する説明文を設定します。

(c)　「フィルタ」フィールド

フィルタ機能を使用すると，複数のファイル監視グループをファイルの記録内容によって使い分けることができます。フィルタ機能は，検出ファイル内容を TELstaff が参照でき，ファイルの拡張子が txt の検出ファイルで使用できます。

ただし，検出ファイルが他のアプリケーションで使用中の場合は，条件一致扱いになります。

(d)　「文字列」テキストボックス

このファイル監視グループを使用する条件（フィルタ文字列）を半角 256 文字以内で指

定します。条件を複数指定するときは，半角のカンマ（「，」）で区切って指定します。フィルタ文字列に，全角および半角スペース文字は指定できません。

(e)　「条件」ドロップダウンリスト

条件を複数指定したとき，AND 条件（「複数条件をすべて満たすとき」），または OR 条件（「いずれかの条件を満たすとき」）を「条件」ドロップダウンリストから選択します。

(f)　［拡張設定］ボタン

拡張設定ダイアログボックスを表示します。このボタンは，AEPE で使用できます。

(g)　［監視方法の設定］ボタン

監視方法の設定ダイアログボックスを表示します。ファイル監視方法設定ダイアログボックスで監視方法を設定します。

(h)　「カレンダー」フィールド

ファイル監視グループごとに，カレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のファイル監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，ファイル監視全体のカレンダーを使用します。ファイル監視全体のカレンダーは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてファイル監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，ファイル監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.8-6　カレンダーダイアログボックス

(i)　「スケジュール」フィールド

ファイル監視グループごとに，スケジュールを設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のファイル監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。ファイル監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。

- 「指定しない」をチェックした場合，ファイル監視全体のスケジュールを使用します。ファイル監視全体のスケジュールは，カレンダー・スケジュール設定ダイ

アログボックスで設定します。

- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてファイル監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。ファイル監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力とファイル監視は継続されます。

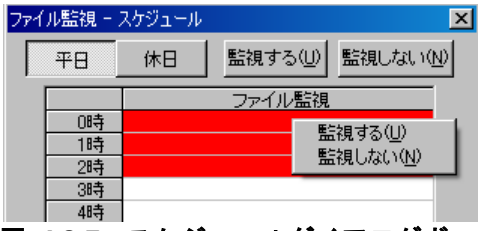


図 4.8-7　スケジュールダイアログボックス

(j)　「監視するファイル一覧」フィールド

監視対象になっているファイル名の一覧を表示します。

(k)　［追加］ボタン

監視対象ファイルを追加するために，監視するファイルの編集ダイアログボックスを表示します。沢山の監視対象ファイルを設定すると多くの CPU を消費し，検出も遅れます。

ファイル監視方法設定ダイアログボックスの監視間隔で設定する監視間隔内は，監視対象ファイル数を考慮した適正値を設定してください。

(l)　［プロパティ］ボタン

「監視するファイル一覧」リストボックスに表示されている監視対象ファイル一覧で選択した監視対象ファイルの設定をするために，監視するファイルの編集ダイアログボックスを表示します。

(m)　［削除］ボタン

「監視するファイル一覧」リストボックスに表示されている監視対象ファイル一覧で選択した監視対象ファイルを削除します。監視対象ファイルを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(n)　［一覧出力］ボタン

「監視するファイル一覧」リストボックスに表示されている監視対象ファイルを次のファイル名で保存します。

「名称」テキストボックスで指定した名称.txt

(2)　ファイル監視設定－「電話・SMS」タブ

ファイル監視で通知する電話，および SMS 通知の設定をします。ファイル監視設定－「電話・SMS」タブを，図 4.8-8 に示します。

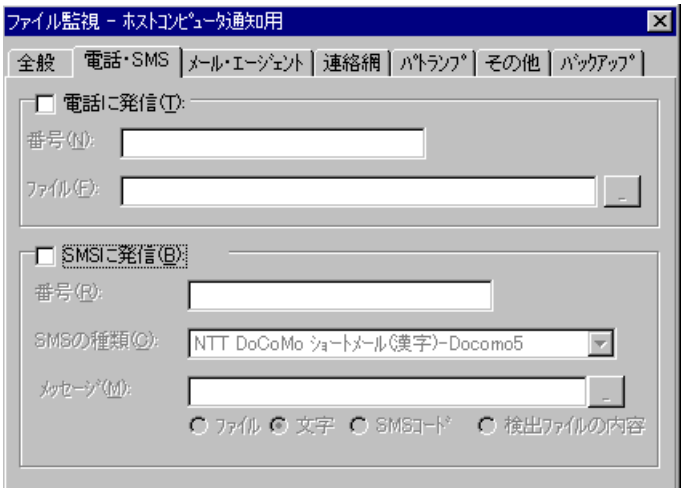


図 4.8-8　ファイル監視設定ー「電話・SMS」タブ

(a)　「電話に発信」チェックボックス

監視対象ファイルが設定された状態になったときに，電話に通知をする場合，ここをチェックします。

(b)　「番号（電話に発信）」テキストボックス

発信通知する電話番号を，半角数字で指定します。電話番号には半角文字の「ー」（ハイフン）が指定できます。

パスワード認証を行う時は，半角 4 桁数字のパスワードを電話番号の後に「：」（半角コロン）で区切って指定し，発信と受信時の認証方法ダイアログボックスの「パスワード認証は行わない」チェックボックスのチェックを外します。

(c)　「ファイル」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が tp のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

ファイル名は直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

電話通知メッセージファイルでは，表 2.3-20 に示す変数が使用できます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，ファイル監視用の標準電電話通知メッセージファイルを使用します。ファイル監視用の標準電話通知メッセージファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

(d) 「SMSに発信」チェックボックス

通知すべき条件を満たしたときに SMS 通知を行う場合，ここにチェックします。

(e) 「番号（SMSに発信）」テキストボックス

SMS 通知先の番号を半角文字で指定します。SMS 通知番号には，「-」（半角ハイフン）を使用できます。

送信先番号の後に「#」が必要な SMS 通知は SMS 通知番号の後に「#」を入れてください。

パスワードの後にメッセージを送信する SMS 通知の場合，番号の後ろに「:パスワード」の形式でパスワードを指定してください。

(f) 「SMSの種類」ドロップダウンリスト

SMS 通知で使用する SMS の種類を設定します。

(g) 「メッセージ」テキストボックス

SMS 通知メッセージを指定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

SMS 通知のメッセージ指定方法については 2.3.1(3)(a)を参照してください。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字文字を直接入力します。使用できる文字は，各社の説明書をお読みください。

  メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

  ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。コードは，各社の説明書をお読みください。

- 「検出ファイルの内容」の場合

  検出したファイルの拡張子が txt である場合，検出ファイルの内容を SMS 通知します。拡張子が txt 以外である場合，ファイル名を SMS 通知します。

  なお検出した時点の内容をメッセージとして使用するため，データがすべて揃っていない場合がありますので注意してください。

(3) ファイル監視設定－「メール・エージェント」タブ

ファイル監視で通知するメールと AECL（または AEPE，AESE）への通知の設定をし

ます。ファイル監視設定ー「メール・エージェント」タブを，図 4.8-9 に示します。

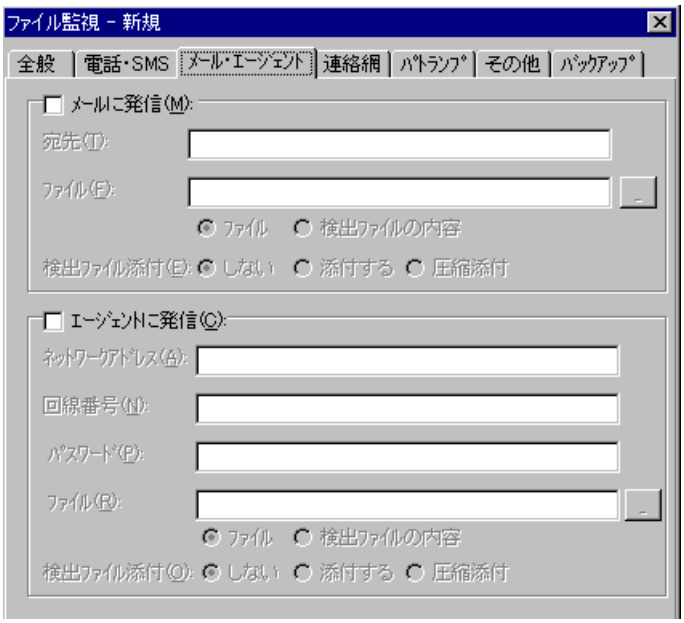


図 4.8-9　ファイル監視設定ー「メール・エージェント」タブ

(a)　「メールに発信」チェックボックス

監視対象ファイルが設定された状態になったときに，メールに通知をする場合，ここをチェックします。

(b)　「宛先」テキストボックス

発信通知するメールのメールアドレスを指定します。メールはメールが使用できます。通知先メールアドレスは，半角「，」カンマで区切って，複数指定できます。複数指定する場合は，宛先の合計の文字数が半角 256 文字以内（カンマを含みます）で指定して下さい。

(c)　「ファイル（メールに発信）」テキストボックス

メールに通知をするメッセージを設定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

- **「ファイル」の場合**

  メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。
  ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。
  メール通知文ファイルでは，表 2.3-20 に示す変数が使用できます。
  通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，ファイル監視用の標準メール通知文ファイルを使用します。ファイル監視用の標準メール通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」

を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

● **「検出ファイルの内容」の場合**

検出したファイルが拡張子 txt の場合，検出ファイルの内容をメールに通知します。検出したファイルが拡張子 txt 以外の場合は，標準提供のメール通知文をメールに通知します。ファイルの作成監視で検出するファイルは，検出した時点の内容を使用するため，データがすべて揃っていない場合があります。

(d) 検出ファイル添付（メールに発信）

メールに通知する場合，検出したファイルを添付しないとき「検出ファイル添付-しない」ラジオボタンを，検出したファイルを添付するとき「検出ファイル添付-検出ファイル」ラジオボタンを，検出したファイルを圧縮して添付するとき「検出ファイル添付-圧縮添付」ラジオボタンを選択します。

「検出ファイル添付-検出ファイル」のときのファイル名は，TELstaff が付与したファイル名で添付されます。ファイルの作成監視で検出するファイルは，検出した時点の内容を使用するため，データがすべて揃っていない場合があります。

(e) 「エージェントに発信」チェックボックス

監視対象ファイルが設定された状態になったときに，AECL（または AEPE, AESE）に通知をする場合，ここをクリックします。

(f) 「ネットワークアドレス」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）が動作する PC がネットワーク接続のとき，IP アドレス（またはホスト名）と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。ポート番号は，IP アドレス（またはホスト名）の後に「:ポート番号」で指定します。

（例） 100.100.100.10+100.100.100.20
100.100100.20:35000

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次のサービス名を登録しておきます。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL の場合，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合も，ポート番号を省略できます。

(g) 「回線番号」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）が動作する PC が電話回線接続のとき，半角数字で回線番号を設定します。回線番号には，半角文字の「－」（ハイフン）が使用できます。

ネットワークアドレスと回線番号の両方を設定すると，最初に回線番号に通知し，次にネットワークアドレスの順番で両方に通知します。両方に通知できない場合は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のエージェント繰り返し回数に設定された回数の再通知行い，どちらかの AECL（または AEPE, AESE）が受信できたとき，通知を終了します。

(h)　「パスワード」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）に受信パスワードの設定があるとき，同じパスワードを指定します。

(i)　「ファイル名（エージェントに発信）」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）に通知するメッセージを設定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

●「ファイル」の場合

AECL（または AEPE，AESE）に送信するメッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

エージェント通知文では，表 2.3-20 に示す変数が使用できます。通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，ファイル監視用のエージェント通知文を使用します。ファイル監視用のエージェント通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

●「検出ファイルの内容」の場合

検出したファイルが拡張子 txt の場合，検出ファイルの内容を AECL（または AEPE, AESE）に通知します。検出したファイルが拡張子 txt 以外の場合は，標準提供のエージェント通知文を AECL（または AEPE，AESE）に通知します。ファイルの作成監視で検出するファイルは，検出した時点の内容を使用するため，データがすべて揃っていない場合があります。

(j)　検出ファイル添付（エージェントに発信）

AECL（または AEPE，AESE）に通知する場合，検出したファイルを添付しないとき「検出ファイル添付-しない」ラジオボタンを，検出したファイルを添付するとき「検出ファイル添付-添付する」ラジオボタンを，検出したファイルを圧縮して添付するとき「検出ファイル添付-圧縮添付」ラジオボタンを選択します。

「検出ファイル添付-検出ファイル」のときのファイル名は，TELstaff が付与したファイル名で添付されます。ファイルの作成監視で検出するファイルは，検出した時点の内容を使用するため，データがすべて揃っていない場合があります。

検出したファイルを添付する場合，エージェントメッセージを受信する AECL（または AEPE, AESE）のメッセージエージェント構成の設定ー「添付ファイル」タブで添付ファ

イルの保存場所を設定しておきます。受信した添付ファイルは，メッセージビューアツールでは閲覧できません。

(4) ファイル監視設定ー「連絡網」タブ

ファイル監視で通知する連絡網の設定をします。ファイル監視設定ー「連絡網」タブを，図 4.8-10 に示します。

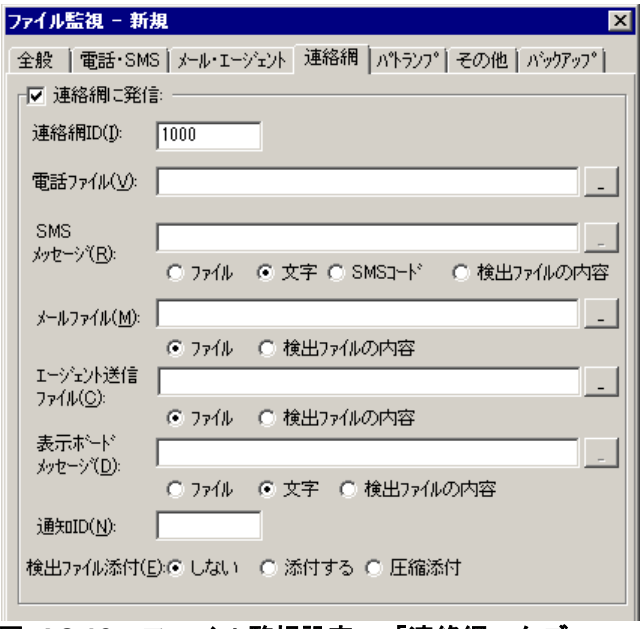


図 4.8-10 ファイル監視設定ー「連絡網」タブ

(a) 「連絡網に発信」チェックボックス

監視対象ファイルが設定された状態になったときに，連絡網に発信する場合，ここをチェックします。

(b) 「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

(c) 「電話ファイル」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が tp のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

ファイル名は直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

電話通知メッセージファイルでは，表 2.3-20 に示す変数が使用できます。

電話通知文を省略すると，ファイル監視用の標準電話通知文を使用します。

(d) 「SMSメッセージ」テキストボックス

連絡網内に定義された SMS 通知で使用するメッセージを設定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字で直接入力します。

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

  ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。コードは，各社の説明書をお読みください。

- 「検出ファイルの内容」の場合

  検出したファイルが拡張子 txt の場合，検出ファイルの内容を SMS 通知します。検出したファイルが拡張子 txt 以外の場合は，検出したファイル名を SMS 通知します。

SMS 通知の注意事項については 2.3.1(3)(e)を参照してください。

(e) 「メールファイル」テキストボックス

メールに通知するメッセージを設定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

●「ファイルの内容」の場合

メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。
ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。
ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，
ファイル名文字数の合計は 520 桁以内です。
メール通知文ファイルでは，表 2.3-20 に示す変数が使用できます。
メール通知文ファイルを省略すると，ファイル監視用の標準メール通知文を使用します。

●「検出ファイルの内容」の場合

検出したファイルが拡張子 txt の場合，検出ファイルの内容をメールに通知します。検出したファイルが拡張子 txt 以外の場合は，標準提供のメール通知文をメールに通知します。ファイルの作成監視で検出するファイルは，検出した時点の内容を使用するため，データがすべて揃っていない場合があります。

(f) 「エージェント送信ファイル」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）へ通知するメッセージを設定します。設定する内容は，

ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

● **「ファイルの内容」の場合**

AECL（または AEPE, AESE）に送信するメッセージファイルを設定します。このメッセージファイルで TELstaff 製品がインストールされているパソコンのデスクトップにも通知します（デスクトップメッセージ通知）。
ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。
ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，
ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。
「+」区切りで指定する，それぞれのファイル内の合計文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。
エージェント送信ファイルでは，表 2.3-20 に示す変数が使用できます。
エージェント送信ファイルを省略すると，ファイル監視用の標準のエージェント送信ファイルを使用します。

● **「検出ファイルの内容」の場合**

検出したファイルが拡張子 txt の場合，検出ファイルの内容を AECL（または AEPE, AESE）に通知します。検出したファイルが拡張子 txt 以外の場合は，標準提供のエージェント通知文を AECL（または AEPE，AESE）に通知します。
ファイルの作成監視で検出するファイルは，検出した時点の内容を使用するため，データがすべて揃っていない場合があります。

(g) 「表示ボードメッセージ」テキストボックス

メッセージ表示ボードに通知するメッセージを全角 200 文字以内で設定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択されたメッセージ種別によって異なります。「表示ボードメッセージ」フィールドでメッセージ指定を省略すると“表示するメッセージの指定がありません”のメッセージを通知します。

メッセージは，半角，全角文字が使用できます。使用できる文字の種類については，メッセージ表示ボードの「ユーザズマニュアル」を参照してください。

メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

変更項目	文字修飾/背景色/文字色の指定方法
文字修飾	normal(標準),bold(強調),shadow(影付き)
背景色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)
文字色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)

（例 1）文字修飾を強調，文字色を赤，背景色を緑で表示する場合
TELstaff は~Mode:bold/green/red~日立ソリューションズの製品です
（例 2）文字修飾を強調，文字色を赤で表示する場合
TELstaff は~Mode:bold//red~日立ソリューションズの製品です

●「ファイルの内容」の場合

メッセージ表示ボードに通知するメッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，
ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

メッセージ中に改行コードが含まれるときは，改行コードは削除します。

メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

メッセージ表示ボード通知文ファイルでは，表 2.3-20 に示す変数が使用できます。

●「文字」の場合

メッセージ表示ボードに通知するメッセージを全角 200 文字以内で指定します。メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

●「検出ファイルの内容」の場合

検出したファイルが拡張子 txt の場合，検出ファイルの内容をメッセージ表示ボードに通知します。検出したファイルが拡張子 txt 以外の場合は，検出したファイル名をメッセージ表示ボードに通知します。
ファイルの作成監視で検出するファイルは，検出した時点の内容を使用するため，データがすべて揃っていない場合があります。

(h) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

(i) 検出ファイル添付

メールと AECL（または AEPE，AESE）に通知する場合，検出したファイルを添付しないとき「検出ファイル添付-しない」ラジオボタンを，検出したファイルを添付するとき「検出ファイル添付-添付する」ラジオボタンを，検出したファイルを圧縮して添付するとき「検出ファイル添付-を圧縮添付」ラジオボタンを選択します。

「検出ファイル添付-添付する」のときのファイル名は，TELstaff が付与したファイル名で添付されます。ファイルの作成監視で検出するファイルは，検出した時点の内容を使用するため，データがすべて揃っていない場合があります。

検出したファイルを添付する場合，エージェントメッセージを受信する AECL（または AEPE, AESE）のメッセージエージェント構成の設定ー「添付ファイル」タブで添付ファイルの保存場所を設定しておきます。受信した添付ファイルは，メッセージビューアツールでは閲覧できません。

(5) ファイル監視設定ー「パトランプ」タブ

ファイル監視で通知するパトランプの設定をします。AECL では，使用できません。パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。

ファイル監視設定ー「パトランプ」タブを，図 4.8-11 に示します。

図 4.8-11　ファイル監視設定ー「パトランプ」タブ

(a)　「パトランプに通知」チェックボックス

監視対象ファイルが設定された状態になったときに，パトランプに通知する場合，ここをチェックします。

(b)　「動作」ラジオボタン

パトランプの動作を指定します。

- **［点灯］ボタンをチェックした場合**
  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させます。
- **［消灯］ボタンをチェックした場合**
  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。
- **［点灯と消灯］ボタンをチェックした場合**
  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させ，チェックされていないリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。すべてのリレー番号のパトランプを動作させるときは，「点灯と消灯」ボタンのチェックを推奨します。リレー番号個別の動作に比べて動作時間を短縮できます。

(c)　「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプの動作で「点灯」が指定されている場合に有効となり，パトランプ点灯後，

自動的に消灯させる場合に，ここをチェックします。

自動消灯オプションを使用するとパトランプが消灯するまで，他からの同じ RS232C 接続，コンバータ接続のパトランプおよびネットワーク対応型パトランプへの動作指示は待ち状態になります。

自動消灯オプションを使用して短時間に大量のパトランプの動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。

複数のリレー接点を指定したときの「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で点灯後，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で消灯します。動作順序は，変えられません。

(d) 「自動的に消灯する」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ点灯後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

(e) 「リレー番号」チェックボックス

動作させたいパトランプが接続されているリレーの番号ボタンをチェックします。リレー番号の指定で「全て」がチェックされた場合，このボタンは指定できません。

複数のリレー接点を指定したときの「点灯」，「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で動作します。動作順序は，変えられません。

(f) 「全て」チェックボックス

すべてのリレーに接続されているパトランプの「点灯」，または「消灯」をする場合，ここをチェックします。

パトランプの動作ボタンで「点灯と消灯」が指定された場合，すべて点灯の動作になります。

(g) ［リレー種別］ボタン

使用するリレー装置の種別を設定します。設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するリレー装置の標準設定(D) 】で設定した標準のリレー装置が使用されます 。

(h) 「ポート名」ドロップダウンリスト

パトランプが接続されている RS232C のポート番号を，ドロップダウンリストから選択してください。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると直前で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

(i) チャンネル番号

リレー装置が接続されている RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。

RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に使用したチャンネル番号の機器が動作します。

(j)　「リモートで使用」チェックボックス

別の場所に接続されているパトランプを動作させたい場合に，このボタンをチェックします。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプが接続されているとき，PC がネットワーク接続の場合は「ネットワーク」ラジオボタンを，電話回線でつながっている場合は「電話回線」ラジオボタンを選択します。

パトランプが接続されている場所が，コンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合は，「コンバータ」ラジオボタンを選択します。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプを接続した場合，コンバータ接続，またはネットワーク対応型パトランプに比べ動作に時間がかかり，動作するまでの遅延が発生する場合があります。

(k)　「場所」テキストボックス

パトランプが接続されている場所を指定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択された場所によって異なります。

●パトランプの接続場所が，AECL（またはAEPE，AESE）のあるPCの場合

ネットワークに接続されているときは，「ネットワーク」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL の場合，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。

●パトランプが接続されている場所が，電話回線の場合

パトランプが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，電話回線に接続されているときは，「電話回線」をチェックし，回線番号を指定します。

●パトランプの接続場所がコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータに接続されているときは，「コンバータ」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telswnet ポート番号/tcp
```

使用するコンバータは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の標準設定(H) 】-【パトランプ発信の場合(L) 】で設定したコンバータ装置を使用します。

１つの機器を複数の TELstaff から同時に使用できるかは機器により異なります。機器の

仕様をご確認ください。

(例) 100.100.100.1
100.100.100.1:35000

(l) 「パスワード」テキストボックス

パトランプが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，ネットワークに接続または電話回線に接続されているとき，AECL（または AEPE，AESE）に受信パスワードの設定があるときは，AECL（または AEPE，AESE）の受信パスワードを指定します。

(6) ファイル監視設定ー「その他」タブ

ファイル監視で通知する FAX と，実行するコマンドの設定をします。ファイル監視設定ー「その他」タブを，図 4.8-12 に示します。

図 4.8-12 ファイル監視設定ー「その他」タブ

(a) 「FAXに発信」チェックボックス

監視対象ファイルが設定された状態になったときに，FAX に通知をする場合，ここをチェックします。FAX 送信文は，標準提供の FAX 送信文ファイルが使用されます。標準提供の FAX 送信文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

FAX 送信文ファイルでは，表 2.3-20 に示す変数が使用できます。

(b) 「FAX番号」テキストボックス

通知を FAX で受けるときの FAX 番号を，半角数字で指定します。FAX 番号には半角文字の「ー」（ハイフン）が指定できます。

(c) 「Messengerサービスで通知を行う」チェックボックス

監視対象ファイルが設定された状態になったときに，Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知を使用して通知する場合，ここをチェックします。両者の違いや注意事項については 2.3.1(12)を参照してください。

メッセージ通知文は，標準提供のメッセージ通知文ファイルを使用します。標準提供のメッセージ通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

(d) 「宛先」テキストボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知の通知先を指定します。宛先指定方法については 2.3.1(12)(c)を参照してください。なお，宛先欄に何も指定しない場合は自コンピュータに Messenger 通知を行います。

宛先は，「，」（半角カンマ）区切りで，合計の文字数がカンマを含め半角 256 文字以内で複数指定できます。

(e) 「コマンドを実行する」チェックボックス

監視対象ファイルが設定された状態になったときに，コマンドを実行する場合チェックします。

(f) 「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

(g) 「パラメタ」テキストボックス

実行するコマンドのパラメタを指定します。パラメタには，~FMonFile~，~FMonFileExt~，~FMonFilePath~，~FMonFileName~，~FMonMethod~変数が使用できます。

(h) ［登録］ボタン

「コマンド名」テキストボックスに指定したコマンドを登録します。［登録］ボタンを押すと「実行コマンド」リストボックスにコマンド名が表示されます。

(i) ［削除］ボタン

「実行コマンド」リストボックスで選択されたコマンドを削除します。

(j) 「実行コマンド」リストボックス

登録したコマンドの一覧を表示します。登録したコマンドの変更は，次の操作で変更できます。

1. 「実行コマンド」リストボックスで変更するコマンドを選択します。
2. ダブルクリックで登録コマンドの内容を「コマンド名」テキストボックスと「パラ

メタ」テキストボックスに表示させます。

3. コマンドを変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するコマンドの選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

(k) ［↑］，［↓］ボタン

複数のコマンドを登録したとき実行する順番を変更します。「シリアル」ラジオボタンを選択したとき変更できます。

(l) 「シリアル」ラジオボタン

「実行コマンド」リストボックスに表示されたコマンドを上から順番に実行させるとき選択します。

(m) 「パラレル」ラジオボタン

「実行コマンド」リストボックスに表示されたコマンドを並行に実行させるとき選択します。

並行実行では，コマンドを実行するときコマンド実行用のプロセスを生成してコマンドの実行終了を待たずに実行させます。

(7) ファイル監視設定－「バックアップ」タブ

作成されたファイル，または更新されたファイルをバックアップする場所の設定をします。作成されたファイルをバックアップするときは，監視方法の設定ダイアログボックスの「作成されたファイルも保管する」チェックボックスにチェックします。ファイル監視設定－「バックアップ」タブを，図 4.8-13 に示します。

図 4.8-13　ファイル監視設定ー「バックアップ」タブ

(a)　「バックアップを行う」チェックボックス

作成されたファイル，または更新されたファイルを自パソコンのハードディスクやファイルサーバにバックアップするときここをチェックします。

(b)　「バックアップ先一覧」リストボックス

現在設定されているバックアップ先の一覧を表示します。

(c)　［↑］ボタン

選択したバックアップ先の優先順位を１つ上げます。

(d)　［↓］ボタン

選択したバックアップ先の優先順位を１つ下げます。

(e)　［追加］ボタン

新しくバックアップ先を追加するため，バックアップのプロパティダイアログボックスを開きます。

(f)　［プロパティ］ボタン

「バックアップ先一覧」リストボックスで選択されたバックアップ先の詳細情報を，バックアップのプロパティダイアログボックスを開いて表示します。

(g)　［削除］ボタン

「バックアップ先一覧」リストボックスで選択されたバックアップ先を削除します。

(h)　「保管したときの扱い」フィールド

バックアップしたあとにバックアップ元のファイルを削除するか保存しておくかを指定します。複数のバックアップ先を設定したときは，保存扱いになります。

監視するファイルの編集ダイアログボックスの「検出時，ファイルを削除する」チェックボックスは無効になります。

(i)　「保存しておく」ラジオボタン

バックアップしたあとにバックアップ元のファイルを保存しておくとき，選択します。

(j)　「保管後削除する」ラジオボタン

バックアップしたあとにバックアップ元のファイルを削除するとき，選択します。バックアップ先がファイルサーバのときは，ファイルサーバに保管できたときに削除します。保管できないとき，同じファイル名が存在していて上書きしないとき，アプリケーション

がバックアップ元のファイルを使用中，または読み取り専用ファイルは，削除されません。「保管後削除する」ラジオボタンを選択した場合，読み取り専用ファイルとファイル拡張子が tmp のファイルは，バックアップできません。

検出ファイルの削除機能を使用する場合は，ファイルの消失を防止するために，ファイルの写しを保管して定期的に写しファイルを削除する運用をお勧めします。

4.8.5 拡張設定ダイアログボックス

ファイル監視の拡張機能を設定します。ファイル監視の拡張機能は AEPE で使用できます。ファイル監視の拡張機能とは，監視対象ファイル中に特定の文字列を検出したとき，その文字列の後続の文字列を任意に設定した変数と置換する機能です。任意に設定した変数は通知文中で指定できます。

ファイル監視の拡張機能は，下記の条件をすべて満たす場合に使用できます。

- 監視対象ファイルの拡張子が「.txt」「.csv」のとき。監視対象ファイルの拡張子が「.csv」のとき，csv ファイル形式を意識せず，テキストファイルとして監視します。
- 監視種別が「作成監視」「更新監視」のとき
- 監視対象ファイル内の文字列が Shift_JIS で記載されているとき

拡張設定ダイアログボックスを図 4.8-14 に示します。

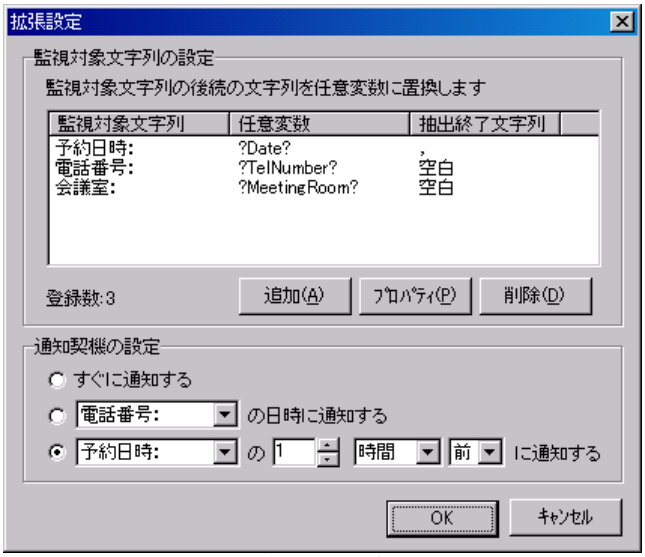


図 4.8-14 拡張設定ダイアログボックス

(a) 「監視対象文字列の設定」フィールド

監視対象文字列の後続の文字列を検出し，通知時に任意変数と置換する場合に設定します。

(b) 「監視対象文字列の設定」リストボックス

監視対象文字列の設定ダイアログボックス（図 4.8-15）で設定した，「監視対象文字列」・「任意変数」・「抽出終了文字列」を一覧に表示します。

(c)　［追加］ボタン

「監視対象文字列」・「任意変数」・「抽出終了文字列」を追加するために，監視対象文字列の設定ダイアログボックス（図 4.8-15）を表示します。

設定済みの「監視対象文字列」や「任意変数」と同じ文字列を，追加することはできません。

(d)　［プロパティ］ボタン

「監視対象文字列の設定」リストボックスで選択した「監視対象文字列」・「任意変数」・「抽出終了文字列」を編集するために，監視対象文字列の設定ダイアログボックス（図 4.8-15）を表示します。他の設定済みの「監視対象文字列」や「任意変数」と同じ文字列へ，変更することはできません。

(e)　［削除］ボタン

「監視対象文字列の設定」リストボックスで選択した「監視対象文字列」・「任意変数」・「抽出終了文字列」を削除します。

(f)　「通知契機の設定」フィールド

監視対象ファイルが監視方法に一致して通知するときの通知契機を指定します。通知契機の設定は電話，SMS，メール，エージェント，連絡網，FAX の通知に適用されます。パトランプ，Messanger，コマンド，バックアップには適用されません。

(g)　「すぐに通知する」ラジオボタン

監視対象ファイルが監視方法に一致したとき，すぐに通知する場合に，このラジオボタンを選択します。

(h)　「[監視対象文字列]の日時に通知する」ラジオボタン

監視対象ファイルが監視方法に一致したとき，「任意変数」に対応する文字列の日時に通知する場合に，このラジオボタンを選択します。「任意変数」に対応する文字列が日時として不正な場合や過去の日時の場合，すぐに通知します。日時を指定する文字列の形式は，「4.8.7 日時を指定する文字列の形式について」を参照してください。「監視対象文字列」・「任意変数」・「抽出終了文字列」が設定されていない場合，このラジオボタンを選択できません。

(i)　「[監視対象文字列]の[数値][単位][時刻の前後]に通知する」ラジオボタン

監視対象ファイルが監視方法に一致したとき，「任意変数」に対応する文字列の日時の前後に通知する場合に，このラジオボタンを選択します。前後の間隔は，「数値」テキストボックス・「単位」ドロップダウンリスト・「前後」ドロップダウンリストで設定します。「任意変数」に対応する文字列が日時として不正な場合や過去の日時の場合，すぐに通知します。日時を指定する文字列の形式は，「4.8.7 日時を指定する文字列の形式について」を参照してください。「監視対象文字列」・「任意変数」・「抽出終了文字列」が設定されていない場合，このラジオボタンを選択できません。

●「単位」ドロップダウンリスト

詳細な通知日時を指定する場合に，時間の単位を「分」「時間」のいずれかで指定します。

● **「数値」テキストボックス**

詳細な通知日時を指定する場合に，時間を数値で指定します。

時間	1～24 の値を指定します。
分	1～59 の値を指定します。

● **「時刻の前後」ドロップダウンリスト**

詳細な通知日時を指定する場合に，「数値」テキストボックス・「単位」ドロップダウンリストで指定した時間が，「任意変数」に対応する文字列の日時の前後どちらかを「前」「後」のいずれかで指定します。

(j)　［OK］ボタン

拡張設定ダイアログボックスで指定した情報を保存し，拡張設定ダイアログボックスを閉じます。

(k)　［キャンセル］ボタン

拡張設定ダイアログボックスを閉じます。

4.8.6 監視対象文字列の設定ダイアログボックス

監視対象文字列の設定ダイアログボックスで，「監視対象文字列」・「任意変数」・「抽出終了文字列」を指定します。「監視対象文字列」・「抽出終了文字列」では，全角文字と半角文字を区別します。また，大文字と小文字も区別します。「任意変数」では，全角文字と半角文字を区別します。また，全角文字では大文字・小文字を区別し，半角文字では大文字・小文字を区別しません。監視対象文字列の設定ダイアログボックスを，図 4.8-15 に示します。

図 4.8-15　監視対象文字列の設定ダイアログボックス

(a)　「監視対象文字列」テキストボックス

「監視対象文字列」を半角文字で 128 文字（すべて全角文字の場合，64 文字）以内で指定します。空白のみの文字列を指定できません。他の設定済みの「監視対象文字列」と同じ文字列を指定できません。

(b)　「任意変数」テキストボックス

「任意変数」を半角文字で 128 文字（すべて全角文字の場合，64 文字）以内で指定します。空白のみの文字列を指定できません。「任意変数」は，文字列の最初と最後を半角?で囲みます。最初と最後以外に，半角?を使用できません。TELstaff が提供する変数名を

「任意変数」として指定することはできません。他の設定済みの「任意変数」と同じ文字列を指定できません。

「任意変数」は TELstaff が提供する変数と同様に，以下の通知に使用できます。

- 電話（ファイル監視設定－「電話・SMS」タブ）

  番号テキストボックス，ファイルテキストボックスに任意変数を指定できます。ファイルテキストボックスに指定したファイル中に任意変数を指定できます。

- SMS（ファイル監視設定－「電話・SMS」タブ）

  番号テキストボックス，メッセージテキストボックスに任意変数を指定できます。メッセージ種別に「ファイル」または「検出ファイルの内容」を指定した場合，メッセージテキストボックスで指定したファイル内に任意変数を指定できます。

- メール（ファイル監視設定－「メール・エージェント」タブ）

  宛先テキストボックス，ファイルテキストボックスに任意変数を指定できます。ファイルテキストボックスに指定したファイル中に任意変数を指定できます。ファイル種別に「検出ファイルの内容」を指定した場合，検出ファイルに任意変数を指定できます。

- エージェント（ファイル監視設定－「メール・エージェント」タブ）

  ネットワークテキストボックス，回線番号テキストボックス，パスワードテキストボックス，ファイルテキストボックスに任意変数を指定できます。ファイルテキストボックスに指定したファイル中に任意変数を指定できます。ファイル種別に「検出ファイルの内容」を指定した場合，検出ファイルに任意変数を指定できます。

- 連絡網（ファイル監視設定－「連絡網」タブ）

  連絡網タブ内のすべてのテキストボックスに任意変数を指定できます。各通知文ファイルテキストボックスに指定したファイル中に任意変数を指定できます。各通知文ファイルのファイル種別に「検出ファイルの内容」を指定した場合，検出ファイルに任意変数を指定できます。

- FAX（ファイル監視設定－「その他」タブ）

  FAX 番号テキストボックスに任意変数を指定できます。

- コマンド（ファイル監視設定－「その他」タブ）

  コマンド名，パラメタともに任意変数を指定できます。

(c) 「抽出終了文字列」ドロップダウンリスト

「抽出終了文字列」を，「空白」「その他」のいずれかで指定します。空白を指定した場合，「監視対象文字列」の後続の文字列から半角空白，全角空白または改行までの文字列を「任意変数」に対応する文字列として抽出します。その他を指定した場合，「監視対象文字列」の後続の文字列から「抽出終了文字列」テキストボックスで指定した文字列または改行までの文字列を「任意変数」に対応する文字列として抽出します。

「任意変数」に対応する文字列として抽出できる文字列は，半角 256 文字(全角 128 文字)以内です。「監視対象文字列」の後続の文字列から半角 256 文字までの間に「抽出終了文字列」がない場合，半角 256 文字までを「任意変数」に対応する文字列として抽出します。半角 256 文字目が全角文字の 1 バイト目の場合，半角 255 文字までを「任意変数」に

対応する文字列として抽出します。

(d) 「抽出終了文字列」テキストボックス

空白以外の「抽出終了文字列」を半角 10 文字(全角 5 文字)以内指定します。空白文字やタブ文字は指定できません。

(e) ［OK］ボタン

監視対象文字列の設定ダイアログボックスで指定した情報を保存し，監視対象文字列の設定ダイアログボックスを閉じます。

(f) ［キャンセル］ボタン

監視対象文字列の設定ダイアログボックスを閉じます。

4.8.7 日時を指定する文字列の形式について

日時を指定する文字列の形式として，以下の形式の文字列をサポートします。yyyy は年度，mm は月，dd は日付，hh は時間，nn は分を示します。mm，dd，hh，nn，は半角文字 1 文字または半角文字 2 文字を示します。＿は半角空白を示します。

④⑤⑥⑩⑪⑫では，監視対象ファイルが監視方法に一致したときの年度を付加します。②③⑤⑥⑧⑨⑪⑫では，時間または分に 0 を付加します。例では監視対象ファイルが監視方法に一致したときの年度を「2010」とします。

	日時指定文字列の形式	「任意変数」に対応する文字列の例	通知日時
①	yyyy/mm/dd＿hh:nn	2010/10/15＿10:30	2010/10/15 10:30
②	yyyy/mm/dd＿hh	2010/10/15＿10	2010/10/15 10:00
③	yyyy/mm/dd	2010/10/15	2010/10/15 00:00
④	mm/dd＿hh:nn	10/15＿10:30	2010/10/15 10:30
⑤	mm/dd＿hh	10/15＿10	2010/10/15 10:00
⑥	mm/dd	10/15	2010/10/15 00:00
⑦	yyyy 年 mm 月 dd 日＿hh 時 nn 分	2010 年 10 月 15 日＿10 時 30 分	2010/10/15 10:30
⑧	yyyy 年 mm 月 dd 日＿hh 時	2010 年 10 月 15 日＿10 時	2010/10/15 10:00
⑨	yyyy 年 mm 月 dd 日	2010 年 10 月 15 日	2010/10/15 00:00
⑩	mm 月 dd 日＿hh 時 nn 分	10 月 15 日＿10 時 30 分	2010/10/15 10:30
⑪	mm 月 dd 日＿hh 時	10 月 15 日＿10 時	2010/10/15 10:00
⑫	mm 月 dd 日	10 月 15 日	2010/10/15 00:00

「任意変数」に対応する文字列が以下の場合，「任意変数」に対応する文字列が日時として不正となります。

- 「任意変数」に対応する文字列がないとき
- 「任意変数」に対応する文字列が日時指定文字列の形式に該当しないとき
- 「任意変数」に対応する文字列の日時が不正なとき
  （例）文字列「2010/13/10 40:00」では，「13 月」と「40 時」が不正

年度変更時点に「任意変数」に対応する文字列の日時に年度を付加するとき，TELstaff が大量の発信要求を受け付けている場合や，TELstaff インストールマシンの CPU 使用率が高い場合，付加する年度が変更後の年度になることがあります。

4.8.8 ファイル監視方法設定ダイアログボックス

ファイル監視の監視方法を設定します。ファイル監視方法設定ダイアログボックスを，図 4.8-16 に示します。

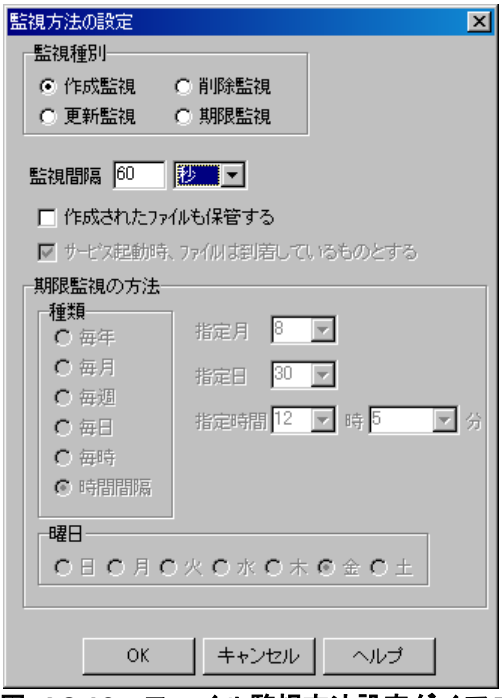


図 4.8-16　ファイル監視方法設定ダイアログボックス

(a)　「作成監視」ラジオボタン

ファイルの作成を監視します。作成された以降に削除された場合，再度作成監視をします。作成された拡張子が txt のファイル中に_$Command_Execution プロトコルコマンドの記述があるとプロトコルコマンドで指定したコマンドを実行します。ただし，検出ファイルが他のアプリケーションで使用中の場合は_$Command_Execution プロトコルコマンドは実行されません。その他の場合におけるプロトコルコマンドの実行可否については「4.5 実行コマンドの設定」を参照してください。

ファイルサイズが 0 の状態で作成されるファイルは，ファイルサイズが 0 以外になったときに検出されます。

ファイルサイズが大きい場合やネットワーク接続で作成されるファイルなどは，ファイルが作成されるまでに時間がかかります。このため，ファイルの作成だけを契機に，関係者に通知する場合，必ずしも，データがすべて揃ったことにはなりません。このため，ファイルの作成を契機に検出ファイルを使用する場合，それ自体のファイルが，単にファイル作成後の通知だけの役割を持つファイルにすることを推奨します。

(b)　「更新監視」ラジオボタン

ファイルが作成された以降，ファイルの更新を監視します。ファイルの最終更新日時が変化するごとに更新条件となります。更新が行われてもファイルの更新日時が変わらないファイルは，更新監視できません。また，更新せずにファイルの更新日時が変更されるファイルは，更新監視の対象になります。

更新されたファイル拡張子が txt のファイル中に_$Command_Execution プロトコルコマンドの記述があるとプロトコルコマンドで指定したコマンドを実行します。ただし，検出ファイルが他のアプリケーションで使用中の場合は_$Command_Execution プロトコルコマンドは実行されません。その他の場合におけるプロトコルコマンドの実行可否については「4.5 実行コマンドの設定」を参照してください。

(c)　「削除監視」ラジオボタン

ファイルの削除を監視します。削除された以降に作成された場合，再度削除監視をします。ファイル削除監視では，バックアップ機能は使用できません。

(d)　「期限監視」ラジオボタン

指定した期限までにファイルが作成されるか，または更新されるかを監視します。作成された以降に削除された場合，再度期限監視をします。また，作成された以降に更新された場合も，期限監視が有効になります。

ファイル期限監視では，バックアップ機能は使用できません。なお，既にファイルが存在するような場合，期限監視条件の成立は次の二つです。

1. 二回目以降の監視周期までに削除されて，それ以降の監視周期までに作成された
2. 二回目以降の監視周期までに更新された

(e)　「監視間隔」テキストボックス

ファイル監視の監視周期を秒，分，または時間で指定します。監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，CPU を使用することになりますので，ファイルの運用方法と性能を考慮した適正値を設定してください。

ファイルの監視は，監視間隔周期で定期的に行われます。したがって，例えば，作成監視の場合，監視が終わってから，次の監視時刻に到達する前に，削除と作成が何回繰り返されても，作成を検知するのは，監視時刻に到達した時点です。なお，監視間隔を小さくすることでの回避策もありますが，常時ファイル監視で CPU を使用することになりますので，ファイルの運用方法と性能を考慮した適正値を設定してください。

また，沢山の監視対象ファイルを設定すると多くの CPU を消費し，検出も遅れます。ファイル監視方法設定ダイアログボックスの監視間隔で設定する監視間隔内は，監視対象ファイル数を考慮した適正値を設定してください。

(f)　「作成されたファイルも保管する」チェックボックス

作成されたファイルをバックアップの対象にするとき，ここをチェックします。バックアップの設定は，「バックアップ」タブで行います。

ファイルの作成監視で検出するファイルは，検出した時点の内容を使用します。ファイ

ルサイズが大きいファイルやネットワーク接続で作成されるファイルなど，ファイルの作成に時間がかかるファイルをバックアップの対象にすると未完成のファイルがバックアップされる場合があります。ファイルの作成に時間がかかるようなファイルでは，チェックを外してください。

(g)　「サービス起動時，ファイルは到着しているものとする」チェックボックス

TELstaff サービス起動時から期限監視を開始するときは，チェックを外します。TELstaff サービスを起動したとき，最初の監視期限に到達してから期限監視を開始するときは，チェックします。チェックするとサービス起動後に最初におとずれる監視期限までは監視対象外となります。

(h)　「期限監視の方法」フィールド

監視種別の「期限監視」ラジオボタンを選択したとき，期限監視の監視方法を設定します。

監視の種類	説明
毎年	指定月，指定日，指定時間（時・分）で期限監視を行います。
毎月	指定日，指定時間（時・分）で期限監視を行います。
毎週	曜日，指定時間（時・分）で期限監視を行います。
毎日	指定時間（時・分）で期限監視を行います。
毎時	毎時の指定時間（分）で期限監視を行います。
時間間隔	「監視間隔」テキストボックスで指定した時間間隔で期限監視を行います。

4.8.9 監視するファイルの編集ダイアログボックス

ファイル監視を行うファイル名と検出ファイル名の通知方法を設定します。監視するファイルの編集ダイアログボックスを，図 4.8-17 に示します。

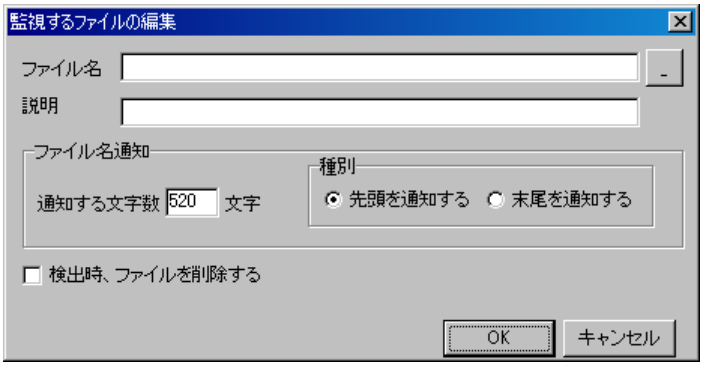


図 4.8-17　監視するファイルの編集ダイアログボックス

(a)　「ファイル名」テキストボックス

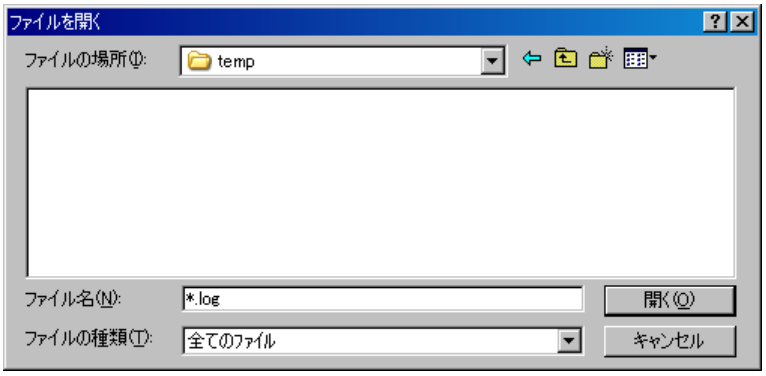
作成監視，更新監視，削除監視，または期限監視する監視ファイルを，ファイル名または総称名で指定します。ネットワークドライブにあるファイル，Windows システムフォルダにあるファイル，ファイル属性がシステムファイルと隠しファイルのファイル，および TELstaff が参照できないファイルは，ファイル監視できません。

拡張子が lnk のファイルは，ファイル監視の対象になりません。

監視するファイル数が多い場合，少ないファイル数に比べ CPU を使用します。

ファイル名を指定する場合は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイルを開くダイアログボックスから監視するファイル名を選択します。監視ファイルの追加で同じフォルダ内の監視ファイルを複数指定する場合は，ファイルを開くダイアログボックスで［Ctrl］キー，［Shift］キーで監視するファイルを選択します。

総称名を指定する場合は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして，ファイルを開くダイアログボックスで監視するフォルダを選択し，ファイル名テキストボックスに総称名を指定します。



総称名指定の指定例を下表に示します。

指定例	説明
Dir¥file.txt	File.txt のファイルを監視対象にします。
Dir¥file*	ファイル名の先頭が file で始まるファイルを監視対象にします。
Dir¥*file	ファイル名の末尾が file のファイルを監視対象にします。
Dir¥*file*	ファイル名中に file があるファイルを監視対象にします。
Dir¥file.*	任意の拡張子で file のファイルを監視対象にします。
Dir¥*	すべてのファイルを監視対象にします。
Dir¥*.*	すべてのファイルを監視対象にします。

（注）Dir：ファイルのパス名

(b)　「通知する文字数」テキストボックス

検出した完全ファイル名の抽出する文字数を 1 から 520 以内で指定します。抽出した文字列は，~FMonFileName~変数で参照します。

抽出位置は，「先頭を通知する」ラジオボタンを選択した場合は，完全ファイル名の先頭から，「末尾を通知する」ラジオボタンを選択した場合は，完全ファイル名の末尾から抽出します。

「完全ファイル名文字列数＜通知する文字数」の場合は，完全ファイル名の文字列数になります。

ファイル名の先頭，または末尾が固定文字でその他が任意文字のときアプリケーションが総称名で扱えるようにする機能です。

抽出方法の指定		~FMonFileName~変数値
検出ファイル	C:¥temp¥file20020822.txt	C:¥temp¥file
通知する文字数	12	
抽出位置	先頭を通知する	

(c)　「先頭を通知する」ラジオボタン

完全ファイル名の先頭から「通知する文字数」テキストボックスで指定した文字数を抽出するとき選択します。

(d)　「末尾を通知する」ラジオボタン

完全ファイル名の末尾から「通知する文字数」テキストボックスで指定した文字数を抽出するとき選択します。

(e)　「検出時にファイルを削除する」チェックボックス

作成監視，更新監視で監視対象ファイルが作成または更新されたとき，検出したファイルを削除するときチェックします。読み取り専用ファイルとシステムファイルは，削除されません。また，アプリケーションがこのファイルを使用中などの場合も削除されません。

「バックアップ」タブの「バックアップを行う」チェックボックスにチェックしたときは，ここのチェックボックスは無効になります。「バックアップ」タブの「保管したときの扱い」フィールドが優先されます。

検出ファイルの削除機能を使用する場合は，ファイルの消失を防止するために，ファイルの写しを保管して定期的に写しファイルを削除する運用をお勧めします。

4.8.10バックアップのプロパティダイアログボックス

作成監視，更新監視で検出したファイルのバックアップ先をバックアップのプロパティダイアログボックスで設定します。バックアップのプロパティダイアログボックスを，図 4.8-18 に示します。

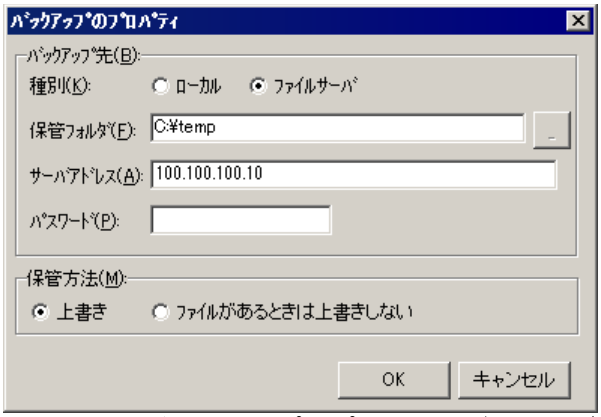


図 4.8-18　バックアップのプロパティダイアログボックス

(1)　「種別」ラジオボタン

バックアップ先の種別を設定します。自パソコンのハードディスクにバックアップする場合は，「ローカル」ラジオボタンを選択します。ファイルサーバにバックアップする場合は，「ファイルサーバ」ラジオボタンを選択します。

ファイルサーバにバックアップする場合は，ファイルサーバに AEPE，AESE，AECL が必要です。

(2) 「保管フォルダ」テキストボックス

バックアップ先のハードディスクにある保管フォルダ名を指定します。指定できる保管フォルダ名は，種別によって異なります。

保管フォルダテキストボックスには，~FMonFileFolder~変数が使用できます。~FMonFileFolder~変数を使用すると，バックアップ元と同じフォルダ構成で保管できます。

保管ファイル名	~FMonFileFolder~変数値
C:¥dir1¥dir2¥dir3¥file.txt	dir1¥dir2¥dir3

~FMonFileFolder~変数の使用例を下表に示します。

保管ファイル名	保管フォルダ指定	保管場所
C:¥dir1¥file.txt	F:¥telstaff¥~FMonFileFolder~	F:¥telstaff¥dir1
C:¥dir1¥file.txt	F:¥~FMonFileFolder~	F:¥dir1

●「ローカル」の場合

保管フォルダ名は，自パソコンのハードディスクにあるフォルダを完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてフォルダ名を選択します。ネットワークドライブのフォルダ名は，指定できません。

●「ファイルサーバ」の場合

保管フォルダ名は，完全名で直接入力します。ネットワークドライブのフォルダ名は，指定できません。ファイルサーバに指定したフォルダが存在しない場合は，新規にフォルダが作成されます。

(3) 「サーバアドレス」テキストボックス

「ファイルサーバ」ラジオボタンを選択したとき，ファイルサーバ（AECL，AESE，AEPE）の IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックス，またはサーバとの通信の設定ダイアログボックスでポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。

(4) 「パスワード」テキストボックス

ファイルサーバの AECL，AESE，AEPE に受信パスワードの設定があるとき，その受信パスワードを指定します。

バックアップ元（送信側）を制限するときは，ファイルサーバの AECL，AESE，AEPE にパスワードを設定しておきます。

パスワードの設定は，メッセージエージェント構成の設定で設定します。

(5) 「保管方法」フィールド

(a) 「上書きする」ラジオボタン

バックアップ先のファイルサーバに同じ名称のファイルが存在するとき，上書き保存する場合はここをチェックします。更新されたファイルをバックアップする場合は，ここを選択します。保管先フォルダにあるファイルが読み取り専用ファイル，隠しファイル，またはシステムファイルのときは，上書き保存されません。

(b) 「ファイルがあるときは上書きしない」ラジオボタン

バックアップ先のファイルサーバに同名ファイルが存在するとき，保存しない場合はここを選択します。作成されたファイルをバックアップする場合は，このオプション使用を推奨します。バックアップ先に同名ファイルが存在するとき，「保管後削除する」ラジオボタンが選択されていてもバックアップ元のファイルは，削除されません。

(c) 「常に最新ファイルを保管」ラジオボタン

自パソコンのハードディスクに検出したファイル名で上書き保存する場合は，ここをチェックします。保管先フォルダにあるファイルが読み取り専用ファイル，隠しファイル，またはシステムファイルのときは，上書き保存されません。

(d) 「検出ファイルごとに保管上書きする」ラジオボタン

自パソコンのハードディスクに検出したファイル毎に上書き保存する場合は，ここをチェックします。検出したファイルは，次のファイル名で保管されます。

ファイルの更新監視で更新されたファイルをすべて保管しておく場合に使用します。

XXXX_ yyymmddhhmmss_検出ファイル名

※ XXXX の部分は，作成監視の場合は「作成」，更新監視の場合は「更新」となります。また yyymmddhhmmss の部分は，保管する日時となります。

4.9メッセージ監視の設定

4.9.1 メッセージ監視の設定について

メッセージ監視機能は，任意のテキストファイルまたは Windows イベントログに書き込まれるメッセージを監視します。そして，あらかじめ指定しておいた条件に合致するメッセージを検出すると，あらかじめ設定した通報ルールに従って通知を実行します。

■機能の利用について

- AECL でメッセージ監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定ー「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。
- TELstaff の発信記録と動作記録は，メッセージ監視で監視することはできません。「メッセージ通知方法の設定」を使用してください[4.2]。
- 監視対象のメッセージファイル毎に監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。また，計画監視の他に一時的に監視を抑止する運用も行えます。
- メッセージファイル監視とイベントログ監視の設定は，Administrators 権限ユーザでメッセージファイル監視ダイアログボックスとイベントログ監視ダイアログボックスで設定します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。
- メッセージ監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【メッセージ監視の設定】を選択して表示します。
- イベントログ監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【イベントログ監視の設定】を選択して表示します。

■留意事項

メッセージ監視周期に到達したとき，前回の監視状態（または TELstaff を起動したときの監視状態）から変化が無い場合，通知されません。

メッセージ監視には次の留意事項があります。

1. 監視するメッセージファイルが削除してから再作成するメッセージファイルでは，ファイル終端付近のメッセージを検出できない場合があります。これは，メッセージを検知するのは，監視時刻に到達した時点のため，次の監視時刻に到達する前に，再作成されるためです。監視間隔を小さくすることで回避できますが完全に検出漏れをなくすことはできません。また，監視間隔を短くすると CPU を使用することになりますので，性能を考慮した適正値を設定してください。
2. また，監視するメッセージファイルが削除してから再作成するメッセージファイルでは，監視間隔によっては監視メッセージを検出できない場合があります。監視間隔が長い場合，監視時刻に到達する前にメッセージファイルが再作成されるためです。監視間隔を小さくすることで回避できますが完全に検出漏れを防ぐことはできません。また，監視間隔を短くすると CPU を使用することになりますので，性能を考慮した

適正値を設定してください。監視時間が短い場合，監視時間内に沢山のメッセージを出力するようなメッセージファイルの場合も同様に監視メッセージを検出できない場合があります。

3. 監視するメッセージファイルが大きい場合，小さいファイルに比べ CPU を使用します。
4. 監視するメッセージファイルは，TELstaff が参照できるファイル属性（権限）でなければなりません。また，ネットワークドライブのファイルは，監視できません。
5. TELstaff のメッセージは，監視できません。

4.9.2 メッセージ監視ダイアログボックス

メッセージファイル監視とイベントログ監視方法を設定します。また，メッセージファイル監視とイベントログ監視の一時監視中断と開始の操作を行います。

(1) メッセージファイル監視ダイアログボックス

メッセージファイル監視ダイアログボックスを図 4.9-1 に示します。

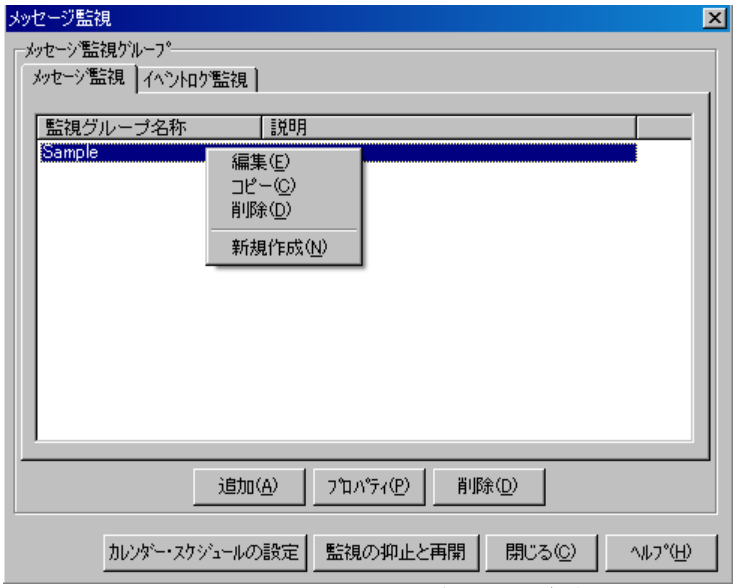


図 4.9-1 メッセージファイル監視ダイアログボックス

(a) 「メッセージ監視グループ」フィールド

監視対象になっているメッセージファイル監視グループ名を表示します。

- **［追加］ボタン**

新規にメッセージ監視の設定を追加するため，メッセージ監視設定ダイアログボックスを開きます。

- **［プロパティ］ボタン**

メッセージ監視グループ一覧で選択されたメッセージ監視のメッセージ監視設定ダイアログボックスを表示します。

● **［削除］ボタン**

メッセージ監視グループ一覧で選択されたメッセージ監視設定情報を削除します。メッセージ監視設定情報を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(b)　［カレンダー・スケジュールの設定］ボタン

カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスを開きます。

(c)　［監視の抑止と再開］ボタン

メッセージ監視の一時監視中断と開始の操作を行うための監視の抑止と再開ダイアログボックスを開きます。詳細は，「10.9 メッセージ監視の操作用ツール」を参照してください。

(2) イベントログ監視ダイアログボックス

イベントログ監視ダイアログボックスを図 4.9-2 に示します。

図 4.9-2　イベントログ監視ダイアログボックス

(a)　「イベントログ監視グループ」フィールド

監視対象になっているイベントログ監視グループを表示します。

● **［追加］ボタン**

新規にメッセージ監視の設定を追加するため，メッセージ監視設定ダイアログボックスを開きます。

● **［プロパティ］ボタン**

イベントログ監視グループ一覧で選択されたメッセージ監視のメッセージ監視設定ダイアログボックスを表示します。

- **［削除］ボタン**
  イベントログ監視グループ一覧で選択されたメッセージ監視設定情報を削除します。

(b)　［カレンダー・スケジュールの設定］ボタン

カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスを開きます。

(c)　［監視の抑止と再開］ボタン

メッセージ監視の一時監視中断と開始の操作を行うためのメッセージ監視の抑止と再開ダイアログボックスを開きます。詳細は，「10.9 メッセージ監視の操作用ツール」を参照してください。

4.9.3 カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックス

メッセージ監視全体のカレンダとスケジュールを設定します。カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスを図 4.9-3 に示します。

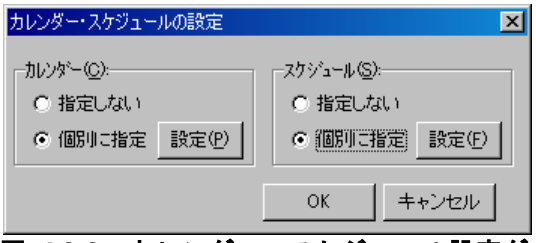


図 4.9-3　カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックス

(1)　「カレンダー」フィールド

メッセージ監視全体で使用するカレンダーを指定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のメッセージ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。カレンダーダイアログボックスを図 4.9-4 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，TELstaff のシステムカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてメッセージ監視独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。

図 4.9-4　カレンダーダイアログボックス

(2)　「スケジュール」フィールド

メッセージ監視全体で使用する監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のメッセージ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。メッセージ監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は

継続されます。

スケジュールダイアログボックスを図 4.9-5 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，メッセージ監視のスケジュールはしないで，常に監視します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてメッセージ監視独自のスケジュールを設定します。メッセージ監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力とメッセージ監視は継続されます。

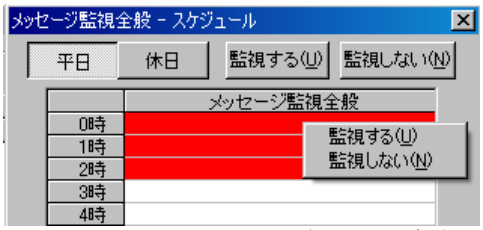


図 4.9-5　スケジュールダイアログボックス

4.9.4 メッセージ監視設定ダイアログボックス

(1) メッセージ監視設定－「全般」タブ

メッセージ監視の全般を設定します。メッセージ監視設定－「全般」タブを図 4.9-6 に，イベントログ監視設定－「全般」タブを図 4.9-7 に示します。

図 4.9-6　メッセージ監視設定－「全般」タブ

図 4.9-7　イベントログ監視設定ー「全般」タブ

(a)　「名称」テキストボックス

監視グループの名称を，20 桁以内で設定します。メッセージ監視グループ，またはイベントログ監視グループで既に登録されている名称は，使用できません。登録済みの監視グループ名を変更する場合は，いったん削除してから再度登録してください。

メッセージファイル，または異なるイベントを監視する場合，監視する 1 つ，または複数のメッセージファイル，または異なるイベントをグループ分けしてメッセージ監視グループを作成します。メッセージ監視グループで，メッセージファイル，または異なるイベントごとに通知先を変更できます。メッセージ監視グループに，次の文字を使用できません。

" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ;

(b)　「説明」テキストボックス

メッセージ監視ダイアログボックスの「監視グループ」フィールドに表示する，メッセージ監視グループに対する説明文を設定します。

(c)　「監視間隔」テキストボックス

メッセージ監視，またはイベントログ監視の監視周期（秒）を指定します。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，CPU を使用することになりますので，運用方法と性能を考慮した適正値を設定してください。

また，沢山の監視対象メッセージファイルを設定すると多くの CPU を消費し，検出も遅れます。監視間隔で設定する監視間隔内は，監視対象メッセージファイル数を考慮した適正値を設定してください。

(d)　「カレンダー」フィールド

メッセージ監視グループごとに，カレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のメッセージ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，メッセージ監視全体のカレンダーを使用します。メッセージ監視全体のカレンダーは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてメッセージ監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，メッセージ監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.9-8　カレンダーダイアログボックス

(e)　「スケジュール」フィールド

メッセージ監視グループごとに，スケジュールを設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のメッセージ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。メッセージ監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。

- 「指定しない」をチェックした場合，メッセージ監視全体のスケジュールを使用します。メッセージ監視全体のスケジュールは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてメッセージ監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。メッセージ監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力とメッセージ監視は継続されます。

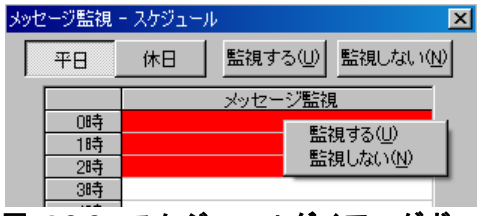


図 4.9-9　スケジュールダイアログボックス

(f)　「監視するファイル一覧」フィールド

監視対象になっているメッセージファイル名の一覧を表示します。

(g) 「監視するイベント一覧」フィールド

監視対象になっているイベントログの種別一覧を表示します。

(h) ［追加］ボタン

監視対象メッセージファイルを追加するために， 監視するファイルとメッセージの編集ダイアログボックスを表示します。

イベントログ監視では，監視するイベントログの編集ダイアログボックスを表示します。

沢山の監視対象メッセージファイルを設定すると多くの CPU を消費し，検出も遅れます。監視間隔で設定する監視間隔内は，監視対象メッセージファイル数を考慮した適正値を設定してください。

(i) ［プロパティ］ボタン

「監視するファイル一覧」リストボックスに表示されている監視対象メッセージファイル一覧で選択した監視対象メッセージファイルの設定をするために，監視するファイルとメッセージの編集ダイアログボックスを表示します。

イベントログ監視では，「監視するイベント一覧」リストボックスに表示されている監視対象イベントログ種別一覧で選択した監視対象イベントログの設定をするために，監視するイベントログの編集ダイアログボックスを表示します。

(j) ［削除］ボタン

「監視するファイル一覧」リストボックスに表示されている監視対象メッセージファイル一覧で選択した監視対象メッセージファイルを削除します。

イベントログ監視では，「監視するイベント一覧」リストボックスに表示されている監視対象イベントログ種別一覧で選択した監視対象イベントログを削除します。

監視対象メッセージファイル，または監視対象イベントログを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(k) ［一覧出力］ボタン

「監視するファイル一覧」リストボックスに表示されている監視対象メッセージファイルを次のファイル名で保存します。

イベントログ監視では，「監視するイベント一覧」リストボックスに表示されている監視対象イベントログ種別を次のファイル名で保存します。

「名称」テキストボックスで指定した名称.txt

(2) メッセージ監視設定－「電話・SMS」タブ

メッセージ監視で通知する電話，および SMS 通知の設定をします。メッセージ監視設定－「電話・SMS」タブを，図 4.9-10 に示します。

図 4.9-10　メッセージ監視設定ー「電話・SMS」タブ

(a)　「電話に発信」チェックボックス

通知すべき条件を満たしたときに電話通知を行う場合，ここをチェックします。

(b)　「番号（電話に発信）」テキストボックス

発信通知する電話番号を，半角数字で指定します。電話番号には半角文字の「ー」（ハイフン）が指定できます。

パスワード認証を行う時は，半角 4 桁数字のパスワードを電話番号の後に「：」（半角コロン）で区切って指定し，発信と受信時の認証方法ダイアログボックスの「パスワード認証は行わない」チェックボックスのチェックを外します。

(c)　「ファイル」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が tp のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

ファイル名は直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

電話通知メッセージファイルでは，表 2.3-21，表 2.3-22 に示す変数が使用できます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，メッセージ監視用の標準電話通知メッセージファイルを使用します。メッセージ監視用の標準電話通知メッセージファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

(d)　「SMSに発信」チェックボックス

通知すべき条件を満たしたときに SMS 通知を行う場合，ここをチェックします。

(e)　「番号（SMSに発信）」テキストボックス

通知する SMS 通知番号を，半角数字で設定します。SMS 通知番号には，半角文字の

「－」（ハイフン）が使用できます。

送信先番号の後に「#」が必要な SMS 通知は番号の後に「#」を入れてください。

パスワードの後にメッセージを送信する SMS 通知の場合，番号の後ろに「:パスワード」の形式でパスワードを指定してください。

(f) 「SMSの種類」ドロップダウンリスト

SMS 通知で使用する SMS の種類を指定します。

(g) 「メッセージ」テキストボックス

SMS 通知メッセージを設定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字で直接入力します。

  メッセージに「"」（ダブルコーテーション）を含めることはできません。

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

  ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。コードは，各社の説明書をお読みください。

SMS 通知の注意事項については 2.3.1(3)(e)を参照してください。

(3) メッセージ監視設定－「メール・エージェント」タブ

メッセージ監視で通知するメールと AECL（または AEPE，AESE）への通知の設定をします。メッセージ監視設定－「メール・エージェント」タブを，図 4.9-11 に示します。

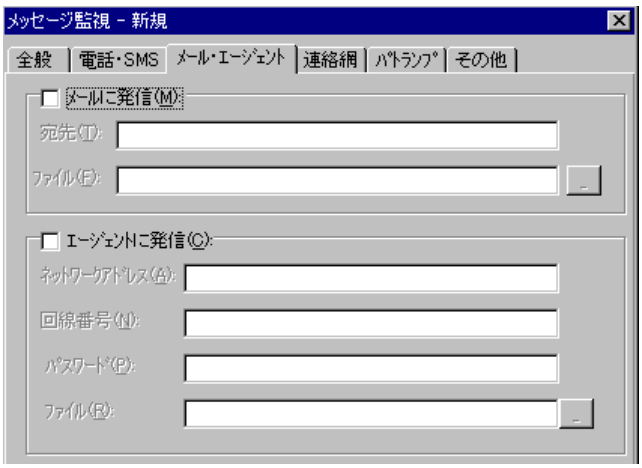


図 4.9-11 メッセージ監視設定－「メール・エージェント」タブ

(a) 「メールに発信」チェックボックス

監視対象のメッセージファイル，またはイベントログが設定された状態になったときに，

メールに通知をする場合，ここをチェックします。

(b) 「宛先」テキストボックス

発信通知するメールのメールアドレスを指定します。メールはメールが使用できます。通知先メールアドレスは，半角「，」カンマで区切って，複数指定できます。複数指定する場合は，宛先の合計の文字数が半角 256 文字以内（カンマを含みます）で指定して下さい。

(c) 「ファイル（メールに発信）」テキストボックス

メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

メール通知文ファイルでは， 通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，メッセージ監視用の標準メール通知文ファイルを使用します。メッセージ監視用の標準メール通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

(d) 「エージェントに発信」チェックボックス

監視対象ファイルが設定された状態になったときに，AECL（または AEPE, AESE）に通知をする場合，ここをクリックします。

(e) 「ネットワークアドレス」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）が動作する PC がネットワーク接続のとき，IP アドレス（またはホスト名）と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。ポート番号は，IP アドレス（またはホスト名）の後に「:ポート番号」で指定します。

（例） 100.100.100.10+100.100.100.20
100.100100.20:35000

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次のサービス名を登録しておきます。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL の場合，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合も，ポート番号を省略できます。

(f) 「回線番号」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）が動作する PC が電話回線接続のとき，半角数字で回線

番号を設定します。回線番号には，半角文字の「－」（ハイフン）が使用できます。

ネットワークアドレスと回線番号の両方を設定すると，最初に回線番号に通知し，次にネットワークアドレスの順番で両方に通知します。両方に通知できない場合は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のエージェント繰り返し回数に設定された回数の再通知行い，どちらかの AECL（または AEPE, AESE）が受信できたとき，通知を終了します。

(g) 「パスワード」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）に受信パスワードの設定があるとき，同じパスワードを指定します。

(h) 「ファイル（エージェントに発信）」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）に送信するメッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，

ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

エージェント通知文では，表 2.3-21，表 2.3-22 に示す変数が使用できます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，メッセージ監視用のエージェント通知文を使用します。

メッセージ監視用のエージェント通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

(4) メッセージ監視設定－「連絡網」タブ

メッセージ監視で通知する連絡網の設定をします。メッセージ監視設定－「連絡網」タブを，図 4.9-12 に示します。

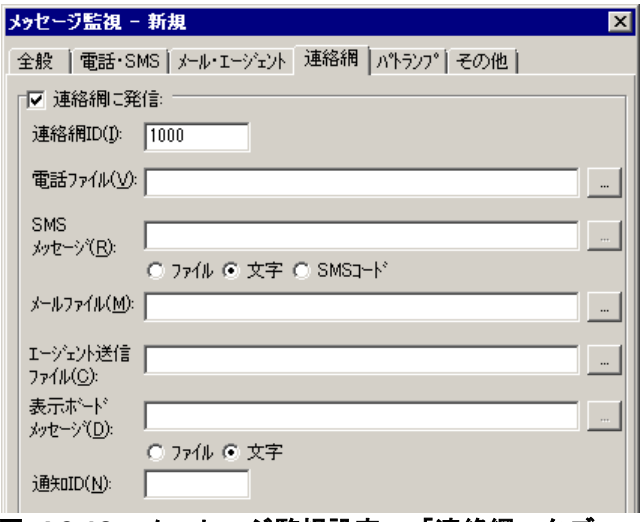


図 4.9-12　メッセージ監視設定ー「連絡網」タブ

(a)　「連絡網に発信」チェックボックス

監視対象のメッセージファイル，またはイベントログが設定された状態になったときに，連絡網に発信する場合，ここをチェックします。

(b)　「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

(c)　「電話ファイル」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が tp のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

ファイル名は直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

電話通知メッセージファイルでは，表 2.3-21，表 2.3-22 に示す変数が使用できます。

電話通知メッセージファイルを省略すると，メッセージ監視用の標準電話通知文を使用します。

(d)　「SMSメッセージ」テキストボックス

連絡網内に定義された SMS 通知で使用するメッセージを設定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字で直接入力します。

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

  ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。コードは，各社の説明書をお読みください。

- 「検出ファイルの内容」の場合

  SMS 通知のメッセージとして検出したファイルの内容を使用します。

SMS 通知の注意事項については 2.3.1(3)(e)を参照してください。

(e) 「メールファイル」テキストボックス

メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，
ファイル名文字数の合計は 520 桁以内です。

メール通知文ファイルでは，表 2.3-21，表 2.3-22 に示す変数が使用できます。

メール通知文ファイルを省略すると，メッセージ監視用の標準メール通知文を使用します。

(f) 「エージェント送信ファイル」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）に送信するメッセージファイルを設定します。このメッセージファイルで TELstaff 製品がインストールされているパソコンのデスクトップにも通知します（デスクトップメッセージ通知）。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，
ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

「+」区切りで指定する，それぞれのファイル内の合計文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

エージェント送信ファイルでは，表 2.3-21，表 2.3-22 に示す変数が使用できます。

エージェント送信ファイルを省略すると，メッセージ監視用の標準のエージェント送信ファイルを使用します。

(g) 「表示ボードメッセージ」テキストボックス

メッセージ表示ボードに通知するメッセージを全角 200 文字以内で設定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択されたメッセージ種別によって異なります。「表示ボ

ードメッセージ」フィールドでメッセージ指定を省略すると“表示するメッセージの指定がありません”のメッセージを通知します。

メッセージは，半角，全角文字が使用できます。使用できる文字の種類については，メッセージ表示ボードの「ユーザズマニュアル」を参照してください。

メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

変更項目	文字修飾/背景色/文字色の指定方法
文字修飾	normal(標準),bold(強調),shadow(影付き)
背景色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)
文字色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)

（例 1）文字修飾を強調，文字色を赤，背景色を緑で表示する場合

TELstaff は~Mode:bold/green/red~日立ソリューションズの製品です

（例 2）文字修飾を強調，文字色を赤で表示する場合

TELstaff は~Mode:bold//red~日立ソリューションズの製品です

- 「ファイルの内容」の場合

  メッセージ表示ボードに通知するメッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

  ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

  ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，

  ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

  メッセージ中に改行コードが含まれるときは，改行コードは削除します。

  メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

  メッセージ表示ボード通知文ファイルでは，表 2.3-21，表 2.3-22 に示す変数が使用できます。

- 「文字」の場合

  メッセージ表示ボードに通知するメッセージを全角 200 文字以内で指定します。メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

(h) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

(5) メッセージ監視設定－「パトランプ」タブ

メッセージ監視で通知するパトランプの設定をします。AECL では，使用できません。

パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があり

ます。メッセージ監視設定ー「パトランプ」タブを，図 4.9-13 に示します。

図 4.9-13　メッセージ監視設定ー「パトランプ」タブ

(a)　「パトランプに通知」チェックボックス

監視対象のメッセージファイル，またはイベントログが設定された状態になったときに，パトランプに通知する場合，ここをチェックします。

(b)　「動作」ラジオボタン

パトランプの動作を指定します。

- 「点灯」ボタンをチェックした場合

  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させます。

- 「消灯」ボタンをチェックした場合

  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。

- 「点灯と消灯」ボタンをチェックした場合

  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させ，チェックされていないリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。すべてのリレー番号のパトランプを動作させるときは，「点灯と消灯」ボタンのチェックを推奨します。リレー番号個別の動作に比べて動作時間を短縮できます。

(c)　「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプの動作で「点灯」が指定されている場合に有効となり，パトランプ点灯後，自動的に消灯させる場合に，ここをチェックします。

自動消灯オプションを使用するとパトランプが消灯するまで，他からの同じ RS232C 接続，コンバータ接続のパトランプおよびネットワーク対応型パトランプへの動作指示は待

ち状態になります。
自動消灯オプションを使用して短時間に大量のパトランプの動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。
複数のリレー接点を指定したときの「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で点灯後，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で消灯します。動作順序は，変えられません。

(d) 「自動的に消灯する」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ点灯後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

(e) 「リレー番号」チェックボックス

動作させたいパトランプが接続されているリレーの番号ボタンをチェックします。リレー番号の指定で「全て」がチェックされた場合，このボタンは指定できません。
複数のリレー接点を指定したときの「点灯」，「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で動作します。動作順序は，変えられません。

(f) 「全て」チェックボックス

すべてのリレーに接続されているパトランプの「点灯」，または「消灯」をする場合，ここをチェックします。
パトランプの動作ボタンで「点灯と消灯」が指定された場合，すべて点灯の動作になります。

(g) 「リレー種別」ボタン

使用するリレー装置の種別を設定します。設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するリレー装置の標準設定(D) 】で設定した標準のリレー装置が使用されます 。

(h) 「ポート名」ドロップダウンリスト

パトランプが接続されている RS232C のポート番号を，ドロップダウンリストから選択してください。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると直前で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

(i) チャンネル番号

リレー装置が接続されている RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。
RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に使用したチャンネル番号の機器が動作します。

(j)　「リモートで使用」チェックボックス

別の場所に接続されているパトランプを動作させたい場合に，このボタンをチェックします。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプが接続されているとき，PC がネットワーク接続の場合は「ネットワーク」ラジオボタンを，電話回線でつながっている場合は「電話回線」ラジオボタンを選択します。

パトランプが接続されている場所が，コンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合は，「コンバータ」ラジオボタンを選択します。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプを接続した場合，コンバータ接続，またはネットワーク対応型パトランプに比べ動作に時間がかかり，動作するまでの遅延が発生する場合があります。

(k)　「場所」テキストボックス

パトランプが接続されている場所を指定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択された場所によって異なります。

●パトランプの接続場所が，AECL（またはAEPE，AESE）のあるPCの場合

ネットワークに接続されているときは，「ネットワーク」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL の場合，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。

●パトランプが接続されている場所が，電話回線の場合

パトランプが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，電話回線に接続されているときは，「電話回線」をチェックし，回線番号を指定します。

●パトランプの接続場所がコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータに接続されているときは，「コンバータ」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telswnet ポート番号/tcp
```

使用するコンバータは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の標準設定(H) 】-【パトランプ発信の場合(L) 】で設定したコンバータ装置を使用します。

１つの機器を複数の TELstaff から同時に使用できるかは機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

(例)

100.100.100.1
100.100.100.1:35000

(l)　「パスワード」テキストボックス

パトランプが接続されている場所が AECL のある PC の場合で，ネットワークに接続または電話回線に接続されているとき，AECL に受信パスワードの設定があるときは，AECL の受信パスワードを指定します。

(6) メッセージ監視設定－「その他」タブ

メッセージ監視で通知する FAX と，実行するコマンドの設定をします。メッセージ監視設定－「その他」タブを，図 4.9-14 に示します。

図 4.9-14　メッセージ監視設定－「その他」タブ

(a)　「FAXに発信」チェックボックス

監視対象のメッセージファイル，またはイベントログが設定された状態になったときに，FAX に通知をする場合，ここをチェックします。FAX 送信文は，標準提供の FAX 送信文ファイルが使用されます。標準提供の FAX 送信文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。FAX 送信文ファイルでは，表 2.3-21，表 2.3-22 に示す変数が使用できます。

(b)　「FAX番号」テキストボックス

通知を FAX で受けるときの FAX 番号を，半角数字で指定します。FAX 番号には半角文字の「－」（ハイフン）が指定できます。

(c) 「Messengerサービスで通知を行う」チェックボックス

監視対象のメッセージファイル，またはイベントログが設定された状態になったときに，Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知を使用して通知する場合，ここをチェックします。両者の違いや注意事項については 2.3.1(12)を参照してください。

メッセージ通知文は，標準提供のメッセージ通知文ファイルを使用します。標準提供のメッセージ通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

イベントソース名「Application Popup」のイベントログを監視する場合は，Messenger サービスを使用してのメッセージ通知はできません。

(d) 「宛先」テキストボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知の通知先を指定します。宛先指定方法については 2.3.1(12)(c)を参照してください。なお，宛先欄に何も指定しない場合は自コンピュータに Messenger 通知を行います。

宛先は，「，」（半角カンマ）区切りで，合計の文字数がカンマを含め半角 256 文字以内で複数指定できます。

(e) 「コマンドを実行する」チェックボックス

監視対象のメッセージファイル，またはイベントログが設定された状態になったときに，コマンドを実行する場合チェックします。

(f) 「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

(g) 「パラメタ」テキストボックス

実行するコマンドのパラメタを指定します。メッセージ監視のコマンドパラメタには，~MsgMonFileName~，~MsgMonFindLine~，~MsgMonFindString~変数が使用できます。~MsgMonFindLine~変数は，内容に空白を含むため「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。

イベントログ監視のコマンドパラメタには，~EventLogKind~，~EventLogType~，~EventLogMessageStr~，~EventLogFindString~，~EventLogSource~，~EventLogID~，~EventLogDate~，~EventLogTime~，~EventLogComputer~，~EventLogUser~，~EventLogCategory~変数が使用できます。~EventLogMessage~変数は，使用できません。

(h) ［登録］ボタン

「コマンド名」テキストボックスに指定したコマンドを登録します。［登録］ボタンを押すと「実行コマンド」リストボックスにコマンド名が表示されます。

(i) ［削除］ボタン

「実行コマンド」リストボックスで選択されたコマンドを削除します。

(j)　「実行コマンド」リストボックス

登録したコマンドの一覧を表示します。登録したコマンドの変更は，次の操作で変更できます。

1. 「実行コマンド」リストボックスで変更するコマンドを選択します。
2. ダブルクリックで登録コマンドの内容を「コマンド名」テキストボックスと「パラメタ」テキストボックスに表示させます。
3. コマンドを変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するコマンドの選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

(k)　［↑］，［↓］ボタン

複数のコマンドを登録したとき実行する順番を変更します。「シリアル」ラジオボタンを選択したとき変更できます。

(l)　「シリアル」ラジオボタン

「実行コマンド」リストボックスに表示されたコマンドを上から順番に実行させるとき選択します。

(m)　「パラレル」ラジオボタン

「実行コマンド」リストボックスに表示されたコマンドを並行に実行させるとき選択します。

並行実行では，コマンドを実行するときコマンド実行用のプロセスを生成してコマンドの実行終了を待たずに実行させます。

4.9.5 監視するファイルとメッセージの編集ダイアログボックス

監視するファイルとメッセージの編集ダイアログボックスでメッセージファイルの監視方法を設定します。監視するファイルとメッセージの編集ダイアログボックスを図 4.9-15 に示します。

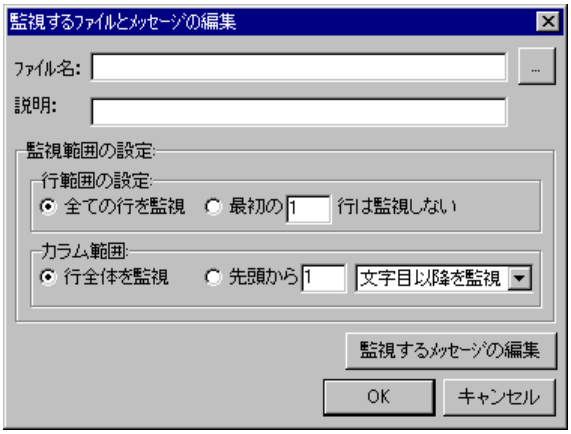


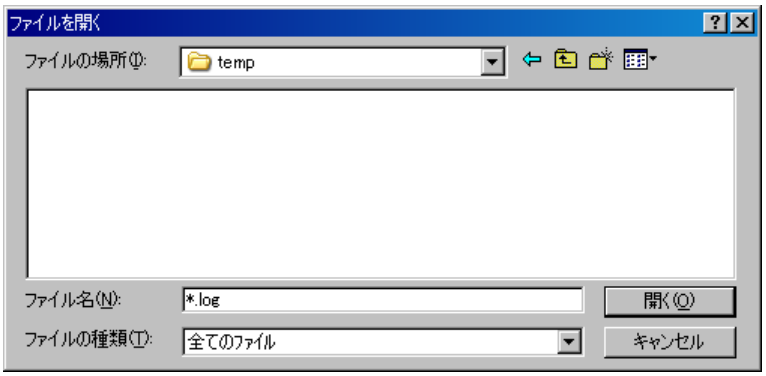
図 4.9-15　監視するファイルとメッセージの編集ダイアログボックス

(1) 「ファイル名」テキストボックス

監視するメッセージファイルのファイル名を指定します。ネットワークドライブのファイル名，Windows 外部デバイスファイル名，テキスト形式以外のファイル名，「*.txt」などのワイルドカードは，指定できません。また，TELstaff の発信記録と動作記録ファイル指定できません。

監視するファイルは，TELstaff が参照できるファイル属性（権限）でなければなりません。また，メッセージファイルを出力するアプリケーションが他プロセスのアクセスを禁止している場合があります。この場合，監視対象メッセージが出力されていても，検出できません。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイルを開くダイアログボックスから監視するメッセージファイルのファイル名を選択します。監視するメッセージファイルの追加で同じフォルダ内の監視するメッセージファイルを複数指定する場合は，ファイルを開くダイアログボックスで［Ctrl］キー，［Shift］キーで監視するメッセージファイルを選択します。



(2) 「説明」テキストボックス

ファイル監視ダイアログボックスの「監視グループ」フィールドに表示する，ファイル監視グループに対する説明文を設定します。

(3) 「行範囲の設定」フィールド

メッセージファイル内の監視範囲を指定します。メッセージファイル内をすべて監視対象にするときは，「全ての行を監視」ラジオボタンを選択します。

メッセージファイル内の最初の数行を監視対象外にするときは，「最初の」ラジオボタンを選択して行数を指定します。

(4) 「カラム範囲」フィールド

メッセージファイル内の各行についての監視範囲を指定します。行全体を監視対象にするときは，「行全体を監視」ラジオボタンを選択します。

行の最初から数文字を監視対象外にするときは，ドロップダウンリストから「文字目以降を監視」を選択して文字数を指定します。

行の最初から数文字を監視対象にするときは，ドロップダウンリストから「文字までを監視」を選択して文字数を指定します。

(5) ［監視するメッセージの編集］ボタン

監視するメッセージの編集ダイアログボックスを開きます。監視するメッセージの編集ダイアログボックスでメッセージファイル内の監視文字列を指定します。

監視文字列を指定しない場合，メッセージ監視は使用できません。

4.9.6 監視するメッセージの編集ダイアログボックス

メッセージファイル内の監視文字列を設定します。監視するメッセージの編集ダイアログボックスを図 4.9-16 に示します。

図 4.9-16 監視するメッセージの編集ダイアログボックス

(1) 「監視するメッセージ一覧」フィールド

監視対象になっている監視条件の一覧を表示します。

(2) ［↑］ボタン

選択した監視条件を１つ上に移動させます。

(3) ［↓］ボタン

選択した監視条件を１つ下に移動させます。

(4) ［追加］ボタン

新規に監視文字列を追加するため，監視する文字列の編集ダイアログボックスを開きます。

(5) ［プロパティ］ボタン

「監視するメッセージ一覧」リストボックスで選択された監視文字列の文字列の編集ダイアログボックスを表示します。

(6) ［削除］ボタン

「監視するメッセージ一覧」リストボックスで選択された監視文字列設定情報を削除します。

4.9.7 監視する文字列の編集ダイアログボックス

監視する文字列を設定します。監視する文字列の編集ダイアログボックスを図 4.9-17 に示します。

図 4.9-17　監視する文字列の編集ダイアログボックス

(1) 「文字列」テキストボックス

メッセージファイル内を監視する監視文字列を指定します。監視文字列の検出方法を下表に示します。

文字列の指定方法	監視文字列の検出方法
文字列	監視対象メッセージに指定した文字列が含まれる場合，条件に合致したと判定します
文字列$	監視対象メッセージが指定した文字列で終わっている場合，条件に合致したと判定します
^文字列	監視対象メッセージが指定した文字列で始まる場合，条件に合致したと判定します
^文字列$	監視対象メッセージが指定した文字列と完全に一致する場合，条件に合致したと判定します

※　「^」，「$」，「^$」とだけ指定した場合，常に条件に合致したと判定します

なお文字列の検出時には，全角文字と半角文字は区別されます。また大文字・小文字も区別されます。

(2) 「条件」ドロップダウンリストボックス

監視文字列を複数指定するとき，AND 条件，または OR 条件の監視条件を選択します。監視条件の優先順位は，前から後ろになります。下表に例を示します。

設定内容	解釈方法
str1 OR str2 AND str3	(str1 or str2) and str3
str1 OR str2 AND str3 AND str4	((str1 or str2) and str3) and str4

(3) 「条件判定の結果を反転」チェックボックス

指定した文字列が含まれないメッセージに対して「条件に合致した」と判定したい場合，このチェックボックスにチェックします。

4.9.8 監視するイベントログの編集ダイアログボックス

イベントログの監視方法を設定します。監視するイベントログの編集ダイアログボックスを図 4.9-18 に示します。

図 4.9-18　監視するイベントログの編集ダイアログボックス

(1) 「イベントログ種別」フィールド

監視の対象にするイベントの種別を指定します。

(2) 「イベントソース名」フィールド

監視するイベントソースを指定します。

すべてのイベントソースを監視するとき，「全て」ラジオボタンを選択します。特定のイベントソースを監視するときは，「個別指定」ラジオボタンを選択してドロップダウンリストから監視するイベントソースを選択します。

(3) 「イベント種類」フィールド

監視するイベントの種類を指定します。

すべてのイベントの種類を監視するとき，「全て」ラジオボタンを選択します。特定のイベント種類を監視するときは，「個別指定」ラジオボタンを選択して監視するイベントの種類を選択します。

(4) 「フィルタリング条件」フィールド

イベントログのイベント ID，コンピュータ名，ユーザ名，分類やイベントメッセージ（説明）中にある特定の文字列を監視するとき，「指定する」ラジオボタンを選択し，［フィルタリング条件の編集］ボタンを押してフィルタリング条件の編集ダイアログボックスを開きます。

4.9.9 フィルタリング条件の編集ダイアログボックス

イベントログの監視条件（フィルタリング条件）を設定します。フィルタリング条件の編集ダイアログボックスを図 4.9-19 します。

図 4.9-19　フィルタリング条件の編集ダイアログボックス

(1) 「フィルタリング条件一覧」リストボックス

現在，フィルタリング条件の設定ダイアログボックスで設定したイベントログの監視条件の一覧を表示します。

複数の条件に該当する場合は，最初の条件を適用して受信通知します。

条件を選択して右クリックすると，ポップアップメニューが表示され，フィルタリングのプロパティ表示・削除・追加ができます。

(2) ［↑］ボタン

選択した監視条件の順序を一つ前に移動します。

(3) ［↓］ボタン

選択した監視条件の順序を一つ後ろに移動します。

(4) ［追加］ボタン

監視条件を新規に追加するために，フィルタリング条件の設定ダイアログボックス（図 4.9-20）を表示します。

(5) ［プロパティ］ボタン

フィルタリング条件一覧で選択した監視条件の編集を行うために，フィルタリング条件の設定ダイアログボックス（図 4.9-20）を表示します。

(6) ［削除］ボタン

フィルタリング条件一覧で選択した監視条件を削除します。

4.9.10 フィルタリング条件の設定ダイアログボックス

フィルタリング条件の設定ダイアログボックスでイベントログの監視条件（フィルタリング条件）を設定します。フィルタリング条件の設定ダイアログボックスを図 4.9-20 に示します。

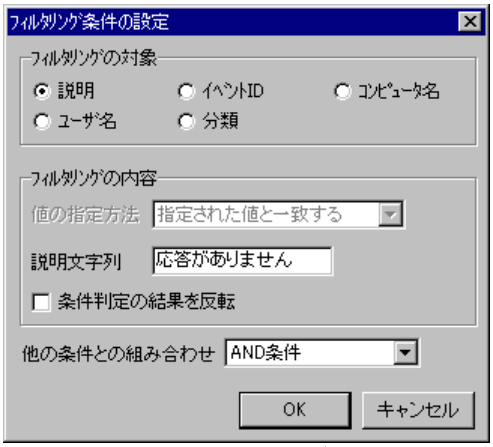


図 4.9-20　フィルタリング条件の設定ダイアログボックス

(1) 「フィルタリングの対象」フィールド

イベントログのどの項目を監視するかをラジオボタンで選択します。ラジオボタンの説明を表 4.9-1 に示します。

表 4.9-1　ラジオボタンの説明

ラジオボタン名	説明
説明	イベントログの「説明」を監視します。
イベント ID	イベントログの「イベント ID」を監視します。
コンピュータ名	イベントログの「コンピュータ名」を監視します。
ユーザ名	イベントログの「ユーザ名」を監視します。
分類	イベントログの「分類」を監視します。

(2) 「フィルタリングの内容」フィールド

「フィルタリングの対象」フィールドで指定したイベントログの監視項目に対する監視条件を設定します。このフィールドの内容は「フィルタリングの対象」により変化します。

(a) 「説明文字列」テキストボックス

イベントログの「説明」内を監視する監視文字列を指定します。文字列の指定方法と検出方法を表 4.9-2 に示します。

表 4.9-2　文字列の指定方法と検出方法

文字列の指定方法	文字列の検出方法
文字列	説明に指定した文字列が含まれる場合，条件に合致したと判定します
文字列$	説明が指定した文字列で終わる場合，条件に合致したと判定します
^文字列	説明が指定した文字列で始まる場合，条件に合致したと判定します
^文字列$	説明が指定した文字列と完全に一致する場合，条件に合致したと判定します

※　「^」，「$」，「^$」とだけ指定した場合，常に条件に合致したと判定します

(b) 「イベントID」テキストボックス

イベント ID の監視方法を「値の指定方法」ドロップダウンリストで指定し，監視するイベントログのイベント ID を半角数字の 0～65535 で指定します。「値の指定方法」ドロップダウンリストで「指定された範囲内の値」を選択した場合は，イベント ID の下限値

と上限値を指定します。下限値と上限値に同じ値は指定できません。また，上限値は下限値より大きな値でなければなりません。

(c) 「値の指定方法」ドロップダウンリスト

イベント ID の監視方法を指定します。イベント ID の監視方法一覧を表 4.9-3 に示します。「フィルタリングの対象」フィールドの「イベント ID」ラジオボタンを選択したとき設定できます。

表 4.9-3 イベントIDの監視方法

イベント ID の監視方法	説明
指定された値と一致する	指定のイベント ID を一致する場合
指定された値以下	イベント ID が指定のイベント ID 以下の場合
指定された値以上	イベント ID が指定のイベント ID 以上の場合
指定された範囲内の値	イベント ID が指定のイベント ID 範囲内の場合

(d) 「コンピュータ名」テキストボックス

監視するイベントログのコンピュータ名を指定します。コンピュータ名の指定方法は，表 4.9-2 を参照してください。

(e) 「ユーザ名」テキストボックス

監視するイベントログのユーザ名を指定します。ユーザ名の指定方法は，表 4.9-2 を参照してください。

(f) 「分類」テキストボックス

監視するイベントログの分類を指定します。分類の指定方法は，表 4.9-2 を参照してください。

(3) 「条件判定の結果を反転」チェックボックス

指定した条件を「満たさない」場合に条件に合致したと判定させたい場合，このチェックボックスにチェックします。

(4) 「他の条件との組み合わせ」ドロップダウンリスト

監視条件を複数指定するとき，AND 条件，または OR 条件の監視条件を選択します。監視条件の優先順位は，前から後ろになります。下表に例を示します。

設定内容	解釈方法
str1 OR str2 AND str3	(str1 or str2) and str3
str1 OR str2 AND str3 AND str4	((str1 or str2) and str3) and str4

4.10　ドライバ監視の設定

4.10.1 ドライバ監視の設定について

Windows のドライバに対する開始，停止，追加，または削除の監視やドライバアプリケーションの停止と開始の監視を行い，その契機で，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

■機能の利用について

- AECL でドライバ監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定ー「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。
- ドライバ監視機能を使用すると USB デバイスの接続監視を行うこともでき，USB 媒体を利用した機密情報の持ち出し監視ができるようになります。
- 監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。また，計画監視の他に一時的に監視を抑止する運用も行えます。
- ドライバ監視の設定は，Administrators 権限ユーザでドライバの監視ダイアログボックスで設定します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。
- ドライバ監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【ドライバ監視の設定】を選択して表示します。

■留意事項

- ドライバ監視周期に到達したとき，前回の監視状態（または TELstaff を起動したときの監視状態）から変化が無い場合，通知されません。

4.10.2 ドライバの監視ダイアログボックス

ドライバ監視方法を設定します。また，ドライバ監視の一時監視中断と開始の操作を行います。ドライバの監視ダイアログボックスを図 4.10-1 に示します。

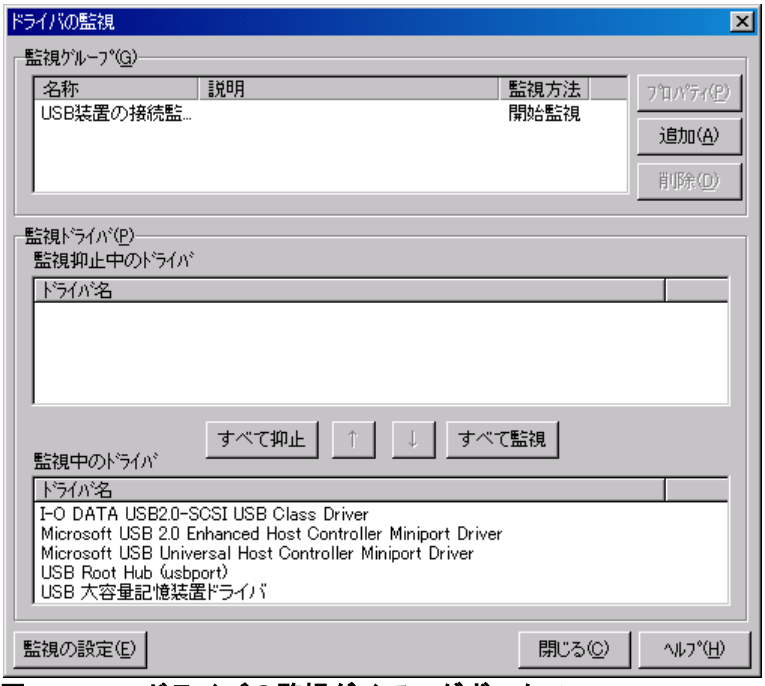


図 4.10-1　ドライバの監視ダイアログボックス

(1)　「監視グループ」フィールド

監視対象になっているドライバ監視グループ名を表示します。

(a)　［プロパティ］ボタン

監視グループ一覧で選択されたドライバ監視グループのドライバ監視設定ダイアログボックスを表示します。

(b)　［追加］ボタン

新規にドライバ監視グループの設定を追加するため，ドライバ監視設定ダイアログボックスを開きます。

(c)　［削除］ボタン

監視グループ一覧で選択されたドライバ監視グループを削除します。ドライバ監視グループを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択。

(2)　「監視ドライバ」フィールド

ドライバ監視の一時監視中断と開始の操作を行います。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

ドライバ監視設定内容を変更して TELstaff サービスを再起動したときは，ドライバ監視ダイアログボックスを一度閉じて再度表示すると最新の状態が表示されます。

(a)　「監視抑止中のドライバ」リストボックス

現在監視抑止中のドライバ一覧を表示します。

(b)　「監視中のドライバ」リストボックス

現在監視中のドライバ一覧を表示します。

(c)　［すべて抑止］ボタン

現在監視中のすべてのドライバを一時監視中断状態にします。

(d)　［すべて監視］ボタン

現在一時監視中断状態のすべてのドライバを監視状態にします。

(e)　［↑］ボタン

「監視中のドライバ」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の監視中ドライバを選択して一時監視中断状態にします。1 つのドライバを選択したときは，ダブルクリックで一時監視中断状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(f)　［↓］ボタン

「監視抑止中のドライバ」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の抑止中ドライバを選択して監視状態にします。1 つのドライバを選択したときは，ダブルクリックで監視状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(3)　［監視の設定］ボタン

ドライバ監視のプロパティダイアログボックスを表示します。

4.10.3 ドライバ監視のプロパティダイアログボックス

ドライバ監視の方法を設定します。ドライバ監視のプロパティダイアログボックスを図 4.10-2 に示します。

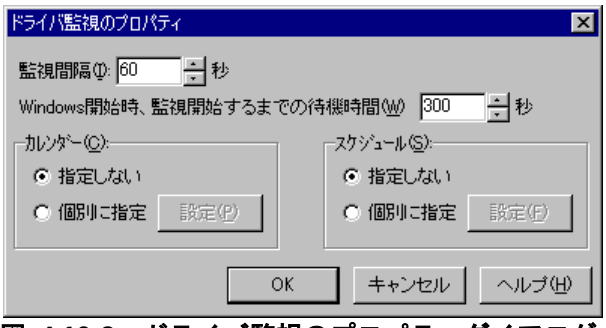


図 4.10-2　ドライバ監視のプロパティダイアログボックス

(1)　「監視間隔」スピンボックス

ドライバ監視の監視周期（監視間隔時間）を指定します。

ドライバ監視は，監視間隔周期で定期的に行われます。従って，例えば，開始監視の場合，監視が終わってから，次の監視時刻に到達する前に，開始と停止が何回繰り返されても，開始を検知するのは，監視時刻に到達した時点です。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，CPU を使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(2) 「Windows開始時，監視開始するまでの待機時間」スピンボックス

Windows の開始で TELstaff サービスを開始してからドライバ監視を開始するまでの時間を指定します。Windows の起動中は，ドライバ監視を抑止したいときに指定します。

(3) 「カレンダー」フィールド

ドライバ監視全体で使用するカレンダーを指定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のドライバ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。カレンダーダイアログボックスを図 4.10-3 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，TELstaff のシステムカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてドライバ監視独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。

図 4.10-3　カレンダーダイアログボックス

(4) 「スケジュール」フィールド

ドライバ監視全体で使用する監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のドライバ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。ドライバ監視の抑止時間帯では，通知と統計情報の出力を抑止しますが監視は継続されます。

スケジュールダイアログボックスを図 4.10-4 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，ドライバ監視のスケジュールはしないで，常に監視します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてドライバ監視独自のスケジュールを設定します。ドライバ監視の抑止時間帯では，通知と統計情報の出力が中断されますが，ドライバ監視は継続されます。

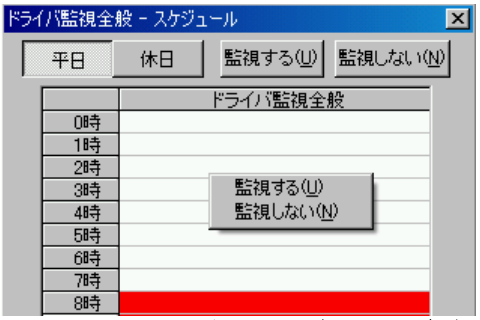


図 4.10-4　スケジュールダイアログボックス

4.10.4 ドライバ監視設定ダイアログボックス

(1) ドライバ監視設定－「全般」タブ

ドライバ監視の全般を設定します。ドライバ監視設定－「全般」タブを図 4.10-5 に示します。

図 4.10-5 ドライバ監視設定－「全般」タブ

(a) 「名称」テキストボックス

ドライバ監視の監視グループの名称を，20 桁以内で設定します。既に登録されているドライバ監視名称は変更できません。ドライバ監視グループ名を変更する場合は，いったん削除してから再度登録してください。

ドライバを監視する場合，監視する 1 つ，または複数のドライバをグループ分けしてドライバ監視グループを作成します。ドライバ監視グループで，ドライバごとに通知先を変更できます。ドライバ監視グループに，次の文字を使用できません。

" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ;

(b) 「説明」テキストボックス

ドライバ監視ダイアログボックスの「監視グループ」フィールドに表示する，ドライバ監視グループに対する説明文を設定します。

(c) 「監視方法」ドロップダウンリスト

監視方法を「監視方法」ドロップダウンリストから選択します。監視方法には，全て，追加，削除，開始，停止の 5 種あります。

(d)　「カレンダー」フィールド

ドライバ監視グループごとに，カレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のドライバ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，ドライバ監視全体のカレンダーを使用します。ドライバ監視全体のカレンダーは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてドライバ監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，ドライバ監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.10-6　カレンダーダイアログボックス

(e)　「スケジュール」フィールド

ドライバ監視グループごとに，スケジュールを設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のドライバ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。ドライバ監視の抑止時間帯では，通知と統計情報の出力を抑止しますが監視は継続されます。

- 「指定しない」をチェックした場合，ドライバ監視全体のスケジュールを使用します。ドライバ監視全体のスケジュールは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてドライバ監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。ドライバ監視の抑止時間帯では，通知と統計情報の出力が中断されますが，ドライバ監視は継続されます。

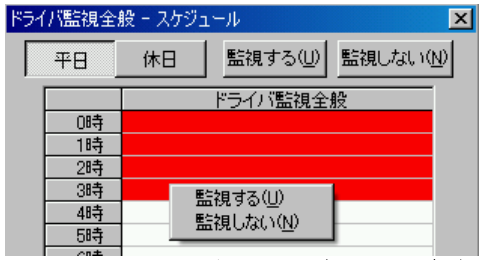


図 4.10-7　スケジュールダイアログボックス

(f)　「監視するドライバー覧」フィールド

監視対象になっているドライバ名の一覧を表示します。新規にドライバ監視グループを

追加したときは，現在，Windows で使用されているドライバが表示されます。「監視方法」ドロップダウンリストで「ドライバ追加を監視」を選択した場合は，このフィールドは使用されません。

(g) ［編集］ボタン

監視ドライバ追加ダイアログボックスを表示します。監視するドライバの編集ダイアログボックスで監視ドライバの登録，追加，削除を行います。

「監視方法」ドロップダウンリストで「ドライバ追加を監視」を選択した場合は，このボタンは使用できません。

(2) ドライバ監視設定－「電話・SMS」タブ

ドライバ監視で通知する電話，および SMS 通知の設定をします。ドライバ監視設定－「電話・SMS」タブを，図 4.10-8 に示します。

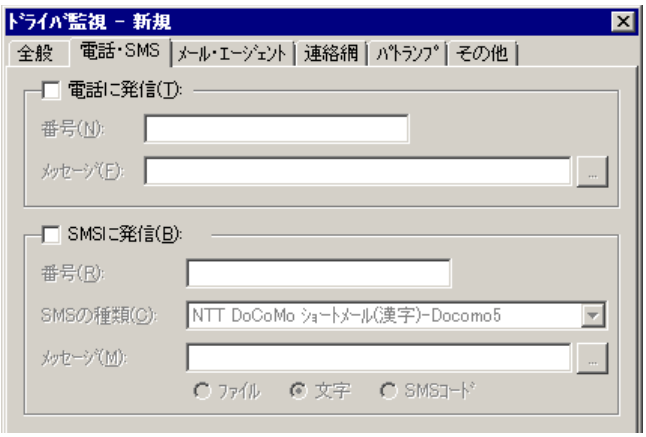


図 4.10-8 ドライバ監視設定－「電話・SMS」タブ

(a) 「電話に発信」チェックボックス

通知すべき条件を満たしたときに電話通知を行う場合，ここをチェックします。

(b) 「番号（電話に発信）」テキストボックス

発信通知する電話番号を，半角数字で指定します。電話番号には半角文字の「－」（ハイフン）が指定できます。

パスワード認証を行う時は，半角 4 桁数字のパスワードを電話番号の後に「：」（半角コロン）で区切って指定し，発信と受信時の認証方法ダイアログボックスの「パスワード認証は行わない」チェックボックスのチェックを外します。

(c) 「メッセージ」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が tp のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

ファイル名は直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文

字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

電話通知メッセージファイルでは，表 2.3-23 に示す変数が使用できます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，ドライバ監視用の標準電電話通知メッセージファイルを使用します。ドライバ監視用の標準電話通知メッセージファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3　ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

(d)　「SMSに発信」チェックボックス

通知すべき条件を満たしたときに SMS 通知を行う場合，ここをチェックします。

(e)　「番号（SMSに発信）」テキストボックス

通知する SMS 通知番号を，半角数字で設定します。SMS 通知番号には，半角文字の「ー」（ハイフン）が使用できます。

送信先番号の後に「#」が必要な SMS 通知は番号の後に「#」を入れてください。

パスワードの後にメッセージを送信する SMS 通知の場合，番号の後ろに「:パスワード」の形式でパスワードを指定してください。

(f)　「SMSの種類」ドロップダウンリスト

SMS 通知で使用する SMS の種類を指定します。

(g)　「メッセージ」テキストボックス

SMS 通知で使用するメッセージを指定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字で直接入力します。

  メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

  ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。コードは，各社の説明書をお読みください。

SMS 通知の注意事項については 2.3.1(3)(e)を参照してください。

(3) ドライバ監視設定ー「メール・エージェント」タブ

ドライバ監視で通知するメールと AECL（または AEPE，AESE）への通知の設定をします。ドライバ監視設定ー「メール・エージェント」タブを，図 4.10-9 に示します。

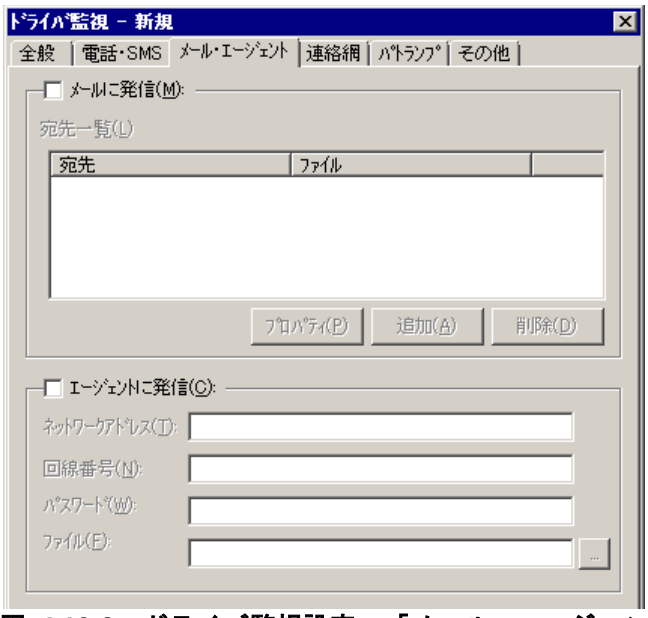


図 4.10-9　ドライバ監視設定ー「メール・エージェント」タブ

(a)　「メールに発信」チェックボックス

監視対象のドライバが設定された状態になったときに，メールに通知をする場合，ここをチェックします。

(b)　［プロパティ］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，宛先情報を変更します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.10-10 に示します。

(c)　［追加］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，メール通知する宛先を設定します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.10-10 に示します。

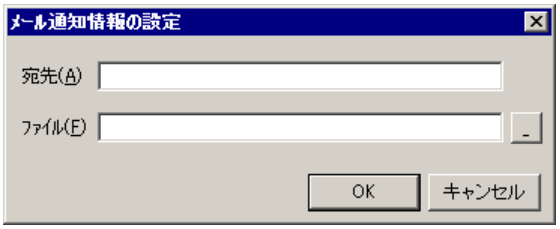


図 4.10-10　メール通知情報の設定ダイアログボックス

- **「宛先」テキストボックス**

発信通知するメールのメールアドレスを指定します。メールはメールが使用できます。

●「ファイル名」テキストボックス

メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

メール通知文ファイルでは，表 2.3-23 に示す変数が使用できます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，ドライバ監視用の標準メール通知文ファイルを使用します。ドライバ監視用の標準メール通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

(d) ［削除］ボタン

宛先情報を削除します。

(e) 「エージェントに発信」チェックボックス

監視対象のドライバが設定された状態になったときに，AECL（または AEPE, AESE）に通知をする場合，ここをクリックします。

(f) 「ネットワークアドレス」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）が動作する PC がネットワーク接続のとき，IP アドレス（またはホスト名）と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。ポート番号は，IP アドレス（またはホスト名）の後に「:ポート番号」で指定します。

（例） 100.100.100.10+100.100.100.20
100.100100.20:35000

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次のサービス名を登録しておきます。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL の場合，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合も，ポート番号を省略できます。

(g) 「回線番号」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）が動作する PC が電話回線接続のとき，半角数字で回線番号を設定します。回線番号には，半角文字の「－」（ハイフン）が使用できます。

ネットワークアドレスと回線番号の両方を設定すると，最初に回線番号に通知し，次にネットワークアドレスの順番で両方に通知します。両方に通知できない場合は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のエージェント繰り返し回数に設定された回数の再通

知行い，どちらかの AECL（または AEPE, AESE）が受信できたとき，通知を終了します。

(h)　「パスワード」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）に受信パスワードの設定があるとき，同じパスワードを指定します。

(i)　「ファイル（エージェントに発信）」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）に送信するメッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，

ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

エージェント通知文では，　表 2.3-23 に示す変数が使用できます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，ドライバ監視用のエージェント通知文を使用します。ドライバ監視用のエージェント通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

(4)　ドライバ監視設定－「連絡網」タブ

ドライバ監視で通知する連絡網の設定をします。ドライバ監視設定－「連絡網」タブを，図 4.10-11 に示します。

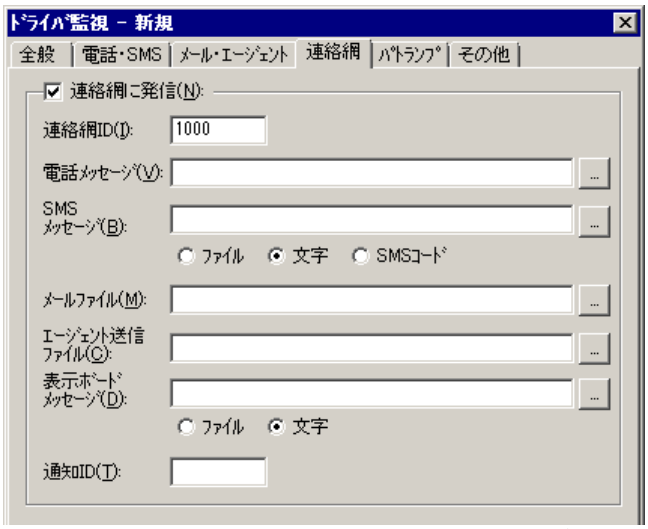


図 4.10-11 ドライバ監視設定－「連絡網」タブ

(a)　「連絡網に発信」チェックボックス

監視対象のドライバが設定された状態になったときに，連絡網に発信する場合，ここを

チェックします。

(b) 「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

(c) 「電話メッセージ」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が tp のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

ファイル名は直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

電話通知メッセージファイルでは，表 2.3-23 に示す変数が使用できます。

電話通知メッセージファイルを省略すると，連絡網プロパティー「発信内容」タブの電話メッセージファイルを使用します。連絡網プロパティー「発信内容」タブの電話メッセージファイルを使用する場合，ドライバ監視用の変数は使用できません。

(d) 「SMSメッセージ」テキストボックス

連絡網内に定義された SMS 通知で使用するメッセージを設定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字で直接入力します。

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

  ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。コードは，各社の説明書をお読みください。

SMS 通知の注意事項については 2.3.1(3)(e)を参照してください。

(e) 「メールファイル」テキストボックス

メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選

択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，
ファイル名文字数の合計は 520 桁以内です。

メール通知文ファイルでは，表 2.3-23 に示す変数が使用できます。

メール通知文ファイルを省略すると，連絡網プロパティー「発信内容」タブのメールファイルを使用します。連絡網プロパティー「発信内容」タブのメールファイルを使用する場合，ドライバ監視用の変数は使用できません。

(f) 「エージェント送信ファイル」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）に送信するメッセージファイルを設定します。このメッセージファイルで TELstaff 製品がインストールされているパソコンのデスクトップにも通知します（デスクトップメッセージ通知）。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，
ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

「+」区切りで指定する，それぞれのファイル内の合計文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

エージェント送信ファイルでは，表 2.3-23 に示す変数が使用できます。

エージェント送信ファイルを省略すると，連絡網プロパティー「発信内容」タブのエージェント送信ファイルを使用します。連絡網プロパティー「発信内容」タブのエージェント送信ファイルを使用する場合，ドライバ監視用の変数は使用できません。

(g) 「表示ボードメッセージ」テキストボックス

メッセージ表示ボードに通知するメッセージを全角 200 文字以内で設定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択されたメッセージ種別によって異なります。「表示ボードメッセージ」フィールドでメッセージ指定を省略すると“表示するメッセージの指定がありません”のメッセージを通知します。

メッセージは，半角，全角文字が使用できます。使用できる文字の種類については，メッセージ表示ボードの「ユーザズマニュアル」を参照してください。

メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

変更項目	文字修飾/背景色/文字色の指定方法
文字修飾	normal(標準),bold(強調),shadow(影付き)
背景色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)
文字色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)

（例 1）文字修飾を強調，文字色を赤，背景色を緑で表示する場合

TELstaff は~Mode:bold/green/red~日立ソリューションズの製品です

（例 2）文字修飾を強調，文字色を赤で表示する場合

TELstaff は~Mode:bold//red~日立ソリューションズの製品です

● **「ファイルの内容」の場合**

メッセージ表示ボードに通知するメッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

メッセージ中に改行コードが含まれるときは，改行コードは削除します。

メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

メッセージ表示ボード通知文ファイルでは，表 2.3-23 に示す変数が使用できます。

● **「文字」の場合**

メッセージ表示ボードに通知するメッセージを全角 200 文字以内で指定します。メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

(h) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

(5) ドライバ監視設定－「パトランプ」タブ

ドライバ監視で通知するパトランプの設定をします。AECL では，使用できません。

パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。

ドライバ監視設定－「パトランプ」タブを，図 4.10-12 に示します。

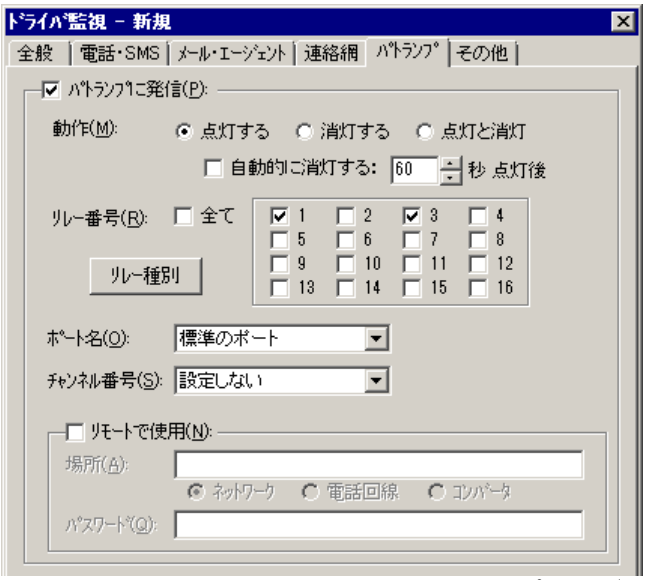


図 4.10-12 ドライバ監視設定－「パトランプ」タブ

(a) 「パトランプに通知」チェックボックス

監視対象のドライバが設定された状態になったときに，パトランプに通知する場合，ここをチェックします。

(b) 「動作」ラジオボタン

パトランプの動作を指定します。

- **「点灯」ボタンをチェックした場合**
  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させます。
- **「消灯」ボタンをチェックした場合**
  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。
- **「点灯と消灯」ボタンをチェックした場合**
  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させ，チェックされていないリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。すべてのリレー番号のパトランプを動作させるときは，「点灯と消灯」ボタンのチェックを推奨します。リレー番号個別の動作に比べて動作時間を短縮できます。

(c) 「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプの動作で「点灯」が指定されている場合に有効となり，パトランプ点灯後，自動的に消灯させる場合に，ここをチェックします。

自動消灯オプションを使用するとパトランプが消灯するまで，他からの同じ RS232C 接続，コンバータ接続のパトランプおよびネットワーク対応型パトランプへの動作指示は待ち状態になります。

自動消灯オプションを使用して短時間に大量のパトランプの動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。

複数のリレー接点を指定したときの「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で点灯後，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で消灯します。動作順序は，変えられません。

(d) 「自動的に消灯する」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ点灯後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

(e) 「リレー番号」チェックボックス

動作させたいパトランプが接続されているリレーの番号ボタンをチェックします。リレー番号の指定で「全て」がチェックされた場合，このボタンは指定できません。

複数のリレー接点を指定したときの「点灯」，「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で動作します。動作順序は，変えられません。

(f)　「全て」チェックボックス

すべてのリレーに接続されているパトランプの「点灯」，または「消灯」をする場合，ここをチェックします。

パトランプの動作ボタンで「点灯と消灯」が指定された場合，すべて点灯の動作になります。

(g)　「リレー種別」ボタン

使用するリレー装置の種別を設定します。設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するリレー装置の標準設定(D) 】で設定した標準のリレー装置が使用されます 。

(h)　「ポート名」ドロップダウンリスト

パトランプが接続されている RS232C のポート番号を，ドロップダウンリストから選択してください。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると直前で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

(i)　チャンネル番号

リレー装置が接続されている RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。

RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に使用したチャンネル番号の機器が動作します。

(j)　「リモートで使用」チェックボックス

別の場所に接続されているパトランプを動作させたい場合に，このボタンをチェックします。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプが接続されているとき，PC がネットワーク接続の場合は「ネットワーク」ラジオボタンを，電話回線でつながっている場合は「電話回線」ラジオボタンを選択します。

パトランプが接続されている場所が，コンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合は，「コンバータ」ラジオボタンを選択します。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプを接続した場合，コンバータ接続，またはネットワーク対応型パトランプに比べ動作に時間がかかり，動作するまでの遅延が発生する場合があります。

(k)　「場所」テキストボックス

パトランプが接続されている場所を指定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択された場所によって異なります。

●パトランプの接続場所が，AECL（またはAEPE，AESE）のあるPCの場合

ネットワークに接続されているときは，「ネットワーク」をチェックし，IP アドレス，

またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL の場合，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。

●パトランプが接続されている場所が，電話回線の場合

パトランプが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，電話回線に接続されているときは，「電話回線」をチェックし，回線番号を指定します。

●パトランプの接続場所がコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータに接続されているときは，「コンバータ」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telswnet ポート番号/tcp
```

使用するコンバータは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の標準設定(H) 】-【パトランプ発信の場合(L) 】で設定したコンバータ装置を使用します。

１つの機器を複数の TELstaff から同時に使用できるかは機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

(例)

100.100.100.1
100.100.100.1:35000

(l)　「パスワード」テキストボックス

パトランプが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，ネットワークに接続または電話回線に接続されているとき，AECL（または AEPE，AESE）に受信パスワードの設定があるときは，AECL（または AEPE，AESE）の受信パスワードを指定します。

(6) ドライバ監視設定－「その他」タブ

ドライバ監視で通知する FAX と，実行するコマンドの設定をします。ドライバ監視設定－「その他」タブを，図 4.10-13 に示します。

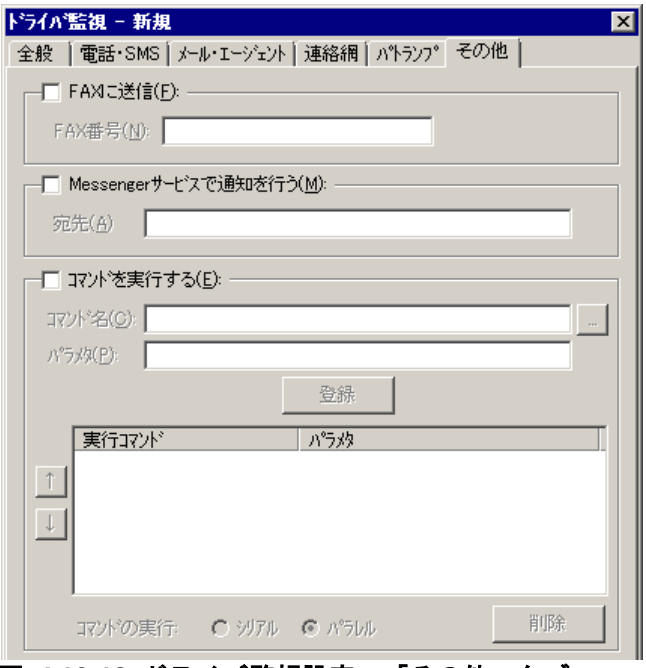


図 4.10-13 ドライバ監視設定ー「その他」タブ

(a) 「FAXに発信」チェックボックス

監視対象のドライバが設定された状態になったときに，FAX に通知をする場合，ここをチェックします。FAX 送信文は，標準提供の FAX 送信文ファイルが使用されます。標準提供の FAX 送信文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

FAX 送信文ファイルでは，表 2.3-23 に示す変数が使用できます。

(b) 「FAX番号」テキストボックス

通知を FAX で受けるときの FAX 番号を，半角数字で指定します。FAX 番号には半角文字の「ー」（ハイフン）が指定できます。

(c) 「Messengerサービスで通知を行う」チェックボックス

監視対象のドライバが設定された状態になったときに，Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知で通知する場合，ここをチェックします。両者の違いや注意事項については 2.3.1(12)を参照してください。

メッセージ通知文は，標準提供のメッセージ通知文ファイルを使用します。標準提供のメッセージ通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

(d) 「宛先」テキストボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知の通知先を指定します。宛先指定方法については 2.3.1(12)(c)を参照してください。なお，宛先欄に何も指定しない場合は自コンピュータに Messenger 通知を行います。

宛先は，「，」（半角カンマ）区切りで，合計の文字数がカンマを含め半角 256 文字以

内で複数指定できます。

(e) 「コマンドを実行する」チェックボックス

監視対象のドライバが設定された状態になったときに，コマンドを実行する場合チェックします。

(f) 「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

(g) 「パラメタ」テキストボックス

実行するコマンドのパラメタを指定します。ドライバ監視のコマンドパラメタには，~DrvMethod~，~DriverID~，~DriverName~変数が使用できます。

(h) ［登録］ボタン

「コマンド名」テキストボックスに指定したコマンドを登録します。［登録］ボタンを押すと「実行コマンド」リストボックスにコマンド名が表示されます。

(i) ［削除］ボタン

「実行コマンド」リストボックスで選択されたコマンドを削除します。

(j) 「実行コマンド」リストボックス

登録したコマンドの一覧を表示します。登録したコマンドの変更は，次の操作で変更できます。

1. 「実行コマンド」リストボックスで変更するコマンドを選択します。
2. ダブルクリックで登録コマンドの内容を「コマンド名」テキストボックスと「パラメタ」テキストボックスに表示させます。
3. コマンドを変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するコマンドの選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

(k) ［↑］，［↓］ボタン

複数のコマンドを登録したとき実行する順番を変更します。「シリアル」ラジオボタンを選択したとき変更できます。

(l) 「シリアル」ラジオボタン

「実行コマンド」リストボックスに表示されたコマンドを上から順番に実行させるとき選択します。

(m)　「パラレル」ラジオボタン

「実行コマンド」リストボックスに表示されたコマンドを並行に実行させるとき選択します。

並行実行では，コマンドを実行するときコマンド実行用のプロセスを生成してコマンドの実行終了を待たずに実行させます。

4.10.5監視するドライバの編集ダイアログボックス

監視するドライバを設定します。監視するドライバの編集ダイアログボックスを図 4.10-14 に示します。

図 4.10-14　監視するドライバの編集ダイアログボックス

(a)　「追加ドライバも監視する」チェックボックス

「開始」，「停止」または「全て」の監視方法で監視を行うとき，TELstaff サービス開始中に追加されたドライバについても「開始」，「停止」または「全て」について監視を行うときチェックします。

(b)　「監視するドライバー覧」リストボックス

現在監視中のドライバの一覧を表示します。新規にドライバ監視グループを追加したときは，現在，Windows で使用されているドライバが表示されます。

(c)　「監視可能なドライバ一覧」リストボックス

現在，Windows で使用されているドライバの一覧を表示します。

(d)　［↑］ボタン

「監視可能なドライバ一覧」リストボックスに表示されている１つまたは複数のドライバを選択して「監視するドライバ一覧」リストボックスに移動します（監視対象にします）。１つのドライバを選択したときは，ダブルクリックで「監視するドライバ一覧」リストボックスに移動します。

(e)　［↓］ボタン

「監視するドライバ一覧」リストボックスに表示されている１つまたは複数のドライバを削除します（監視対象から外します）。１つのドライバを選択したときは，ダブルクリックで削除します。

(f)　［全て監視対称にする］ボタン

「監視可能なドライバ一覧」リストボックスに表示されているすべてのドライバを「監視するドライバ一覧」リストボックスに移動します（監視対象にします）。

(g)　［全て監視対象から外す］ボタン

「監視するドライバ一覧」リストボックスに表示されているすべてのドライバを削除します（監視対象から外します）。

(h)　「フィルタ指定」フィールド

●「指定しない」ラジオボタン

現在，Windows で使用されているドライバを［一覧更新］ボタンで「監視可能なドライバ一覧」リストボックスに表示するとき選択します。

●「指定する」ラジオボタン

現在，Windows で使用されているドライバの中から「文字列」テキストボックスで指定した特定のドライバだけを「監視可能なドライバ一覧」リストボックスに表示するとき選択します。

●「文字列」テキストボックス

特定のドライバだけを「監視可能なドライバ一覧」リストボックスに表示するときドライバ名称の文字列を指定します。複数指定する場合は，半角のカンマ区切りで指定します。文字列の指定は，この文字列を含む場合は，「を含む」を，この文字列を含まないときは，「を含まない」を選択します。

（例）usbMicrosoft

●［一覧更新］ボタン

「監視可能なドライバ一覧」リストボックスに該当するドライバを表示します。

4.11 サービス監視の設定

4.11.1サービス監視の設定について

Windows サービス（以下サービスと呼びます）に対する開始，停止，追加，削除，または無効の監視を行い，その契機で，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

■機能の利用について

- AECL でサービス監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておく必要があります。
- サービス監視機能を使用すると運用で必要な重要なサービスの監視を行うことができるようになります。
- 監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。また，計画監視の他に一時的に監視を抑止する運用も行えます。
- サービス監視の設定は，Administrators 権限ユーザでサービスの監視ダイアログボックスで設定します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。
- サービスの監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【サービス監視の設定】を選択して表示します。
- サービス監視は，AEPE, AESE, AECL で使用できます。

■留意事項

- サービス監視周期に到達したとき，前回の監視状態（または TELstaff を起動したときの監視状態）から変化が無い場合，通知されません。

4.11.2サービスの監視ダイアログボックス

サービスの監視方法を設定します。サービスの監視ダイアログボックスを図 4.11-1 に示します。

図 4.11-1　サービスの監視ダイアログボックス

(1)　「監視グループ」フィールド

監視対象になっているサービス監視グループ名を表示します。

(a)　［追加］ボタン

新規にサービス監視グループの設定を追加するため，サービス監視設定ダイアログボックスを開きます。

(b)　［プロパティ］ボタン

監視グループ一覧で選択されたサービス監視グループのサービス監視設定ダイアログボックスを表示します。

(c)　［削除］ボタン

監視グループ一覧で選択されたサービス監視グループを削除します。サービス監視グループを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(d)　［一覧出力］ボタン

「監視グループ一覧」フィールドに表示されている監視グループの監視するサービス名と監視方法の一覧をファイルに保存します。

(e)　［監視の設定］ボタン

サービス監視のプロパティダイアログボックスを表示します。

4.11.3サービス監視のプロパティダイアログボックス

サービス監視の方法を設定します。サービス監視のプロパティダイアログボックスを図 4.11-2 に示します。

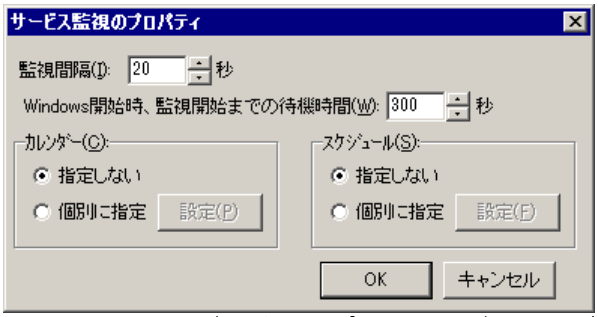


図 4.11-2　サービス監視のプロパティダイアログボックス

(1)　「監視間隔」スピンボックス

サービス監視の監視周期（監視間隔時間）を指定します。

サービス監視は，監視間隔周期で定期的に行われます。したがって，例えば，開始監視の場合，監視が終わってから，次の監視時刻に到達する前に，開始と停止が何回繰り返されても，開始を検知するのは，監視時刻に到達した時点です。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，CPU を使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(2)　「Windows開始時，監視開始までの待機時間」スピンボックス

Windows の開始時に TELstaff サービスが起動されると，ここで指定した秒数だけ待ってからサービスの状態監視を開始します。起動に時間のかかるサービスを監視する場合などに，この値を調整してください。

(3)　「カレンダー」フィールド

サービス監視全体で使用するカレンダーを指定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のサービス監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

カレンダーダイアログボックスを図 4.11-3 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，TELstaff のシステムカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてサービス監視独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。

図 4.11-3　カレンダーダイアログボックス

(4)　「スケジュール」フィールド

サービス監視全体で使用する監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のサービス監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。サービス監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続さ

れます。

スケジュールダイアログボックスを図 4.11-4 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，サービス監視のスケジュールはしないで，常に監視します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてサービス監視独自のスケジュールを設定します。サービス監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力とサービス監視は継続されます。

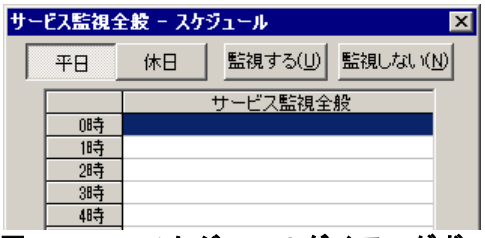


図 4.11-4　スケジュールダイアログボックス

4.11.4サービス監視設定ダイアログボックス

(1) サービス監視設定－「全般」タブ

サービス監視の全般を設定します。サービス監視設定－「全般」タブを図 4.11-5 に示します。

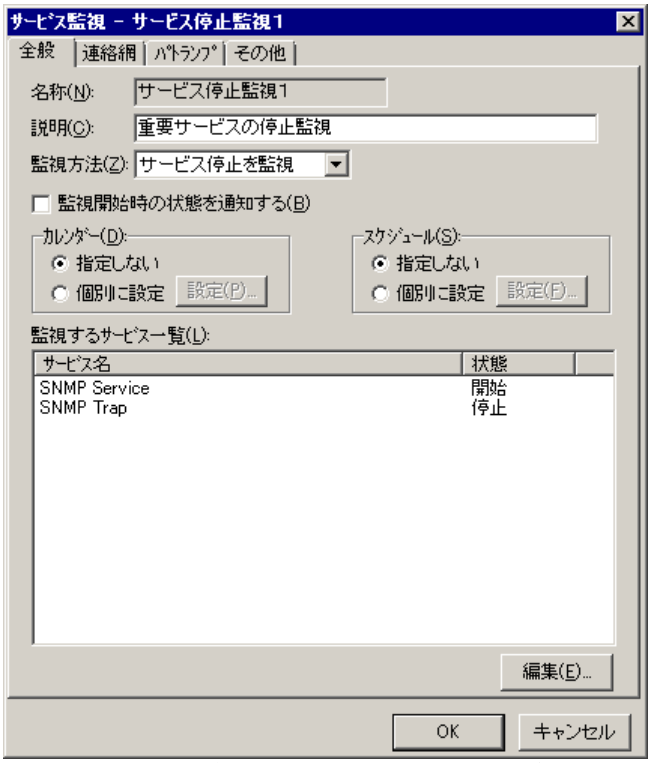


図 4.11-5　サービス監視設定－「全般」タブ

(a)　「名称」テキストボックス

サービス監視の監視グループの名称を，20 桁以内で設定します。既に登録されているサービス監視名称は変更できません。サービス監視グループ名を変更する場合は，一度削除

してから再度登録してください。

サービスを監視する場合，監視する 1 つ，または複数のサービスをグループ分けしてサービス監視グループを作成します。サービス監視グループで，サービスごとに通知先を変更できます。サービス監視グループに，次の文字および半角空白文字を使用できません。

" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % &,

(b) 「説明」テキストボックス

サービス監視ダイアログボックスの「監視グループ」フィールドに表示する，サービス監視グループに対する説明文を設定します。

(c) 「監視方法」ドロップダウンリスト

監視方法を「監視方法」ドロップダウンリストから選択します。監視方法には，全て，サービス追加を監視，サービス削除を監視，サービス開始を監視，サービス停止を監視，サービス無効を監視の 6 種類あります。「全て」監視では，追加，削除，開始，停止，無効の監視を行います。

(d) 「監視開始時の状態を通知する」チェックボックス

TELstaff サービス開始時，監視対象になっているサービスのうち，状態が「監視方法」ドロップダウンリストで設定した監視状態と一致しているものを通知する場合，ここをチェックします。

(e) 「カレンダー」フィールド

サービス監視グループごとのカレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のサービス監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。カレンダーダイアログボックスを図 4.11-6 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，サービス監視全体のカレンダーを使用します。サービス監視全体のカレンダーは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてサービス監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，サービス監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.11-6 カレンダーダイアログボックス

(f)　「スケジュール」フィールド

サービス監視グループごとの監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のサービス監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。サービス監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。

スケジュールダイアログボックスを図 4.11-7 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，サービス監視全体のスケジュールを使用します。サービス監視全体のスケジュールは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてサービス監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。サービス監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力とサービス監視は継続されます。

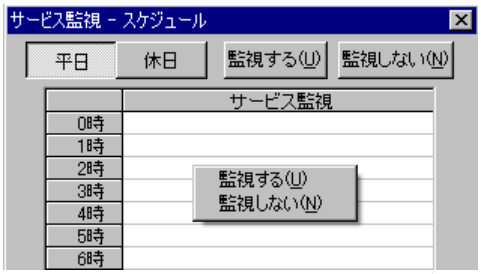


図 4.11-7　スケジュールダイアログボックス

(g)　「監視するサービス一覧」フィールド

監視対象になっているサービス名の一覧と現在のサービスの状態を表示します。状態が空白のサービスは，削除されたサービスを示します。「監視方法」ドロップダウンリストで「サービス追加を監視」を選択した場合は，このフィールドは使用されません。

(h)　［編集］ボタン

監視するサービスの編集ダイアログボックスを表示します。監視するサービスの編集ダイアログボックスで監視サービスの登録，追加，削除を行います。

「監視方法」ドロップダウンリストで「サービス追加を監視」を選択した場合は，このボタンは使用できません。

(i)　［OK］ボタン

監視対象になっているサービスが削除されている（「監視するサービス一覧」フィールドで状態が空白のサービス）場合，削除サービスの確認ダイアログボックスを表示します。

削除サービスの確認ダイアログボックスを図 4.11-8 に示します。

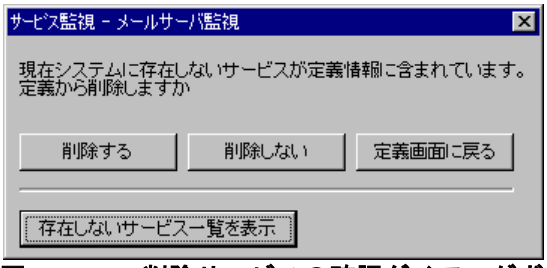


図 4.11-8　削除サービスの確認ダイアログボックス

- **［削除する］ボタン**
  削除されているすべてのサービスを監視対象から削除します。

- **［削除しない］ボタン**
  削除されているすべてのサービスは，監視対象にして残します。

- **［定義画面に戻る］ボタン**
  サービス監視設定ー「全般」タブ画面を表示します。

- **［存在しないサービス一覧を表示］ボタン**
  削除されているすべてのサービスの一覧を表示します。

- **［存在しないサービス一覧を閉じる］ボタン**
  削除されているすべてのサービスの一覧画面を閉じます。

(2)　サービス監視設定ー「連絡網」タブ

サービス監視で通知する連絡網の設定をします。

連絡網を使用した通知は，サービス監視が teldial コマンドを使用して通知を行います。サービス監視設定ー「連絡網」タブを，図 4.11-9 に示します。

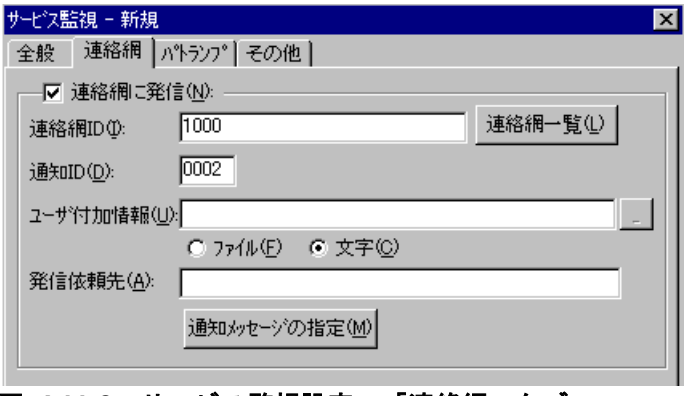


図 4.11-9　サービス監視設定ー「連絡網」タブ

(a)　「連絡網に発信」チェックボックス

監視対象のサービスが監視状態に変化したとき，連絡網に発信する場合，ここをチェックします。

(b) 「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

ここで指定した連絡網 ID は，teldial コマンドの-ni オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-ni オプションを参照してください。

監視対象のサービスが監視状態に変化したとき，複数の連絡網（ID）に対して発信できます。

連絡網 ID を複数指定するときは「，」（半角カンマ）区切りで指定します。

連絡網への発信では，サービス監視が teldial コマンドを生成して発信を行います。

連絡網 ID を複数指定すると，指定した連絡網 ID について同じオプションを使用した teldial コマンドを生成します。

連絡網 ID を多数指定した場合，発信要求が多数キューイングされ発信の滞留と遅延が発生する以外に，システムのリソースを消費しアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に影響を与える場合があります。

サービス監視が使用する teldial コマンドは，発信制限機能は適用されません。

(c) ［連絡網一覧］ボタン

連絡網 ID 一覧から通知する連絡網 ID を選択するために連絡網 ID の選択ダイアログボックス（図 4.11-16）を表示します。AECL では使用できません。

(d) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

ここで指定した通知 ID は，teldial コマンドの-id オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-id オプションを参照してください。

通知 ID は，通知するメッセージテキスト中の「~id2~」変数と置き換えられます。

通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。

(e) 「ユーザ付加情報」テキストボックス

ユーザ付加情報を文字で指定する場合は「文字」ラジオボタンを，ユーザ付加情報を格納したファイル名で指定する場合は「ファイル」ラジオボタンを選択します。

ユーザ付加情報は，通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えられます。ユーザ付加情報をファイル名で指定する場合は，FAX 送信ファイルと電話通知文ファイルに~UserInformation~ 変数は，使用できません。

● 「文字」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（すべて全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，ファイルを使用してください。

ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。ユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

（例）-u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「；」（半角セミコロン）で区切ると複数行に分割でき，「；」は，

改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例） -u "ユーザ付加情報 1 行目；ユーザ付加情報 2 行目"

ユーザ付加情報を文字で指定する場合は，teldial コマンドの-u オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-u オプションを参照してください。

ユーザ付加情報には，次のサービス監視の変数が使用できます。

~ServiceMethod~，~ServiceStatus~，~ServiceName~，~ServiceDisplayDescription~，~ServiceDisplayName~ ， ~ServiceAccountName~ ， ~ServiceMonGroupName~ ，~ServiceStartUp~

●「ファイル」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を，ファイル完全名で指定するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ユーザ付加情報をファイル名で指定する場合は，teldial コマンドの-uf オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-uf オプションを参照してください。

ユーザ付加情報を格納したファイルには，次のサービス監視の変数が使用できます。

^ServiceMethod^，^ServiceName^，^ServiceName1^，^ServiceDisplayName^，^ServiceDisplayName1^，^ServiceAccountName^，^ServiceAccountName1^，^ServiceMonGroupName^，^ServiceStatus^，^ServiceStartUp^，^ServiceDisplayDescription^，^Service DisplayDescription1^

(f) 「発信依頼先」テキストボックス

サービス監視の通知を発信依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

ここで指定した発信依頼先は，teldial コマンドの-to オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-to オプションを参照してください。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

AEPE および AESE では，指定のない場合は自コンピュータで発信を行います。

発信依頼には，「2.3.1(1)(h) 発信依頼」に示す注意事項があります。

(g) ［通知メッセージの指定］ボタン

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスを表示します。

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスで個別の通知メッセージや通知ファイルを設定します。個別の通知メッセージや通知ファイルを使用しない場合は，サービス監視の標準通知文を使用するため設定の必要はありません。

(3) サービス監視設定－「パトランプ」タブ

サービス監視で通知するパトランプの設定をします。AECL では，使用できません。

パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。サービス監視設定－「パトランプ」タブを，図 4.11-10 に示します。

図 4.11-10　サービス監視設定－「パトランプ」タブ

(a)　「パトランプに通知」チェックボックス

監視対象のサービスが監視状態に変化したときに，パトランプに通知する場合，ここをチェックします。

(b)　「動作」ラジオボタン

パトランプの動作を指定します。

- 「点灯」ボタンをチェックした場合

  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させます。

- 「消灯」ボタンをチェックした場合

  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。

- 「点灯と消灯」ボタンをチェックした場合

  リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させ，チェックされていないリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。

  すべてのリレー番号のパトランプを動作させるときは，「点灯と消灯」ボタンのチェックを推奨します。リレー番号個別の動作に比べて動作時間を短縮できます。

(c)　「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプの動作で「点灯」が指定されている場合に有効となり，パトランプ点灯後，

自動的に消灯させる場合に，ここをチェックします。
自動消灯オプションを使用するとパトランプが消灯するまで，他からの同じ RS232C 接続，コンバータ接続のパトランプおよびネットワーク対応型パトランプへの動作指示は待ち状態になります。
自動消灯オプションを使用して短時間に大量のパトランプの動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。
複数のリレー接点を指定したときの「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で点灯後，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で消灯します。動作順序は，変えられません。

(d) 「自動的に消灯する」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ点灯後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

(e) 「リレー番号」チェックボックス

動作させたいパトランプが接続されているリレーの番号ボタンをチェックします。リレー番号の指定で「全て」がチェックされた場合，このボタンは指定できません。
複数のリレー接点を指定したときの「点灯」，「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で動作します。動作順序は，変えられません。

(f) 「全て」チェックボックス

すべてのリレーに接続されているパトランプの「点灯」，または「消灯」をする場合，ここをチェックします。
パトランプの動作ボタンで「点灯と消灯」が指定された場合，すべて点灯の動作になります。

(g) 「リレー種別」ボタン

リレー種別の設定ダイアログボックスで使用するリレー装置の種別を設定します。設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するリレー装置の標準設定(D) 】で設定した標準のリレー装置が使用されます 。
リレー種別の設定ダイアログボックを，図 4.11-11 に示します。

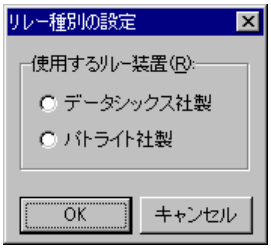


図 4.11-11 リレー種別の設定ダイアログボックス

(h) 「ポート名」ドロップダウンリスト

パトランプが接続されている RS232C のポート番号を，ドロップダウンリストから選択します。

AEPE, AESE, AECL のある PC に接続したパトランプを使用する場合は，そのパトランプが接続されている RS232C のポート番号を選択します。

使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると直前で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

(i)　チャンネル番号

リレー装置が接続されている RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。

RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に使用したチャンネル番号の機器が動作します。

(j)　「リモートで使用」チェックボックス

別の場所に接続されているパトランプを動作させたい場合に，このボタンをチェックします。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプが接続されているとき，PC がネットワーク接続の場合は「ネットワーク」ラジオボタンを，電話回線でつながっている場合は「電話回線」ラジオボタンを選択します。

パトランプが接続されている場所が，コンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合は，「コンバータ」ラジオボタンを選択します。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプを接続した場合，コンバータ接続，またはネットワーク対応型パトランプに比べ動作に時間がかかり，動作するまでの遅延が発生する場合があります。

(k)　「場所」テキストボックス

パトランプが接続されている場所を指定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択された場所によって異なります。

●パトランプの接続場所が，AEPE, AESE, AECLのあるPCの場合

パトランプが AEPE, AESE, AECL のある PC に接続されているときは，「ネットワーク」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名を指定します。

IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。

ポート番号は，「ポート番号」テキストボックスに指定します。ポート番号を IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定した場合は，指定したポート番号を「ポート番号」テキストボックスに移動します。

●パトランプが接続されている場所が，電話回線の場合

パトランプが接続されている場所が AEPE, AESE, AECL のある PC の場合で，電話回線に接続されているときは，「電話回線」をチェックし，回線番号を指定します。

●パトランプの接続場所がコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータに接続されているときは，「コンバータ」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名を指定します。

ポート番号は，「ポート番号」テキストボックスに指定します。ポート番号を IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定した場合は，指定したポート番号を「ポート番号」テキストボックスに移動します。

(l)　「ポート番号」テキストボックス

●パトランプの接続場所がAEPE, AESE, AECLのあるPCの場合

パトランプが AEPE, AESE, AECL のある PC に接続されている場合，AEPE, AESE, AECL の通信ポート番号を指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL の場合，「図 4.4-1　メッセージエージェント構成の設定－「全般」タブ」でポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。

●パトランプの接続場所がコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータに接続されている場合，ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータの通信ポート番号を指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telswnet ポート番号/tcp
```

１つの機器を複数の TELstaff から同時に使用できるかは機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

(例)

100.100.100.1
100.100.100.1:35000

(m)　［コンバータ種別］ボタン

コンバータ種別の設定ダイアログボックスを表示します。コンバータ種別の設定ダイアログボックスで使用するコンバータの種別を設定します。ネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニットの場合は，「パトライト社製」ラジオボタンを選択します。

設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の標準設定(H) 】-【パトランプ発信の場合(L) 】で設定したコンバータ装置を使用します。

コンバータ種別の設定ダイアログボックスを，図 4.11-12 に示します。

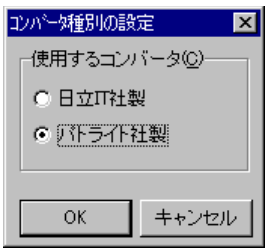


図 4.11-12　コンバータ種別の設定ダイアログボックス

(n)　「パスワード」テキストボックス

パトランプが接続されている場所が AEPE, AESE, AECL のある PC の場合で，ネットワークに接続または電話回線に接続されているとき，AEPE, AESE, AECL に受信パスワードの設定があるときは，AEPE, AESE, AECL の受信パスワードを指定します。

(4)　サービス監視設定－「その他」タブ

サービス監視で通知する Messenger サービスメッセージ，メール通知，実行するコマンドの設定をします。

サービス監視設定－「その他」タブを，図 4.11-13 に示します。

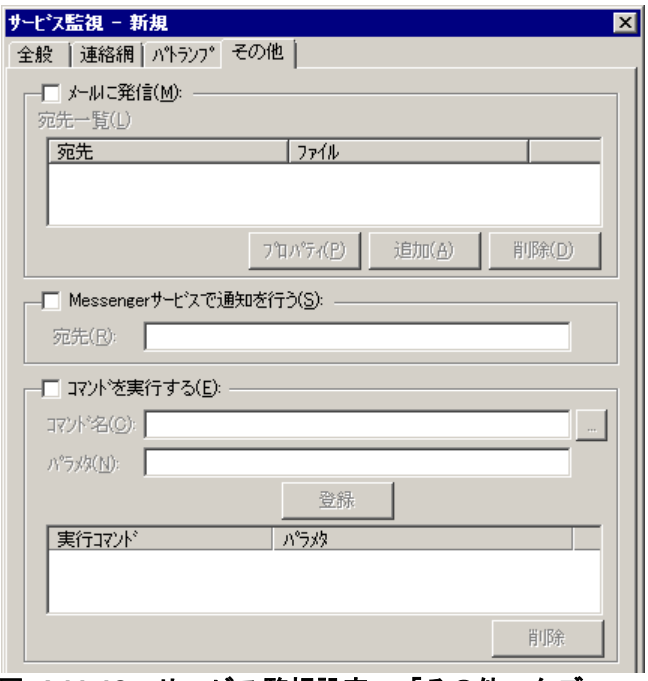


図 4.11-13　サービス監視設定－「その他」タブ

(a)　「メールに発信」チェックボックス

監視対象のサービスが監視状態に変化したときに，メールに通知をする場合，ここをチェックします。

(b)　［プロパティ］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，宛先情報を変更します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.11-14 に示します。

(c)　［追加］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，メール通知する宛先を設定します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.11-14 に示します。

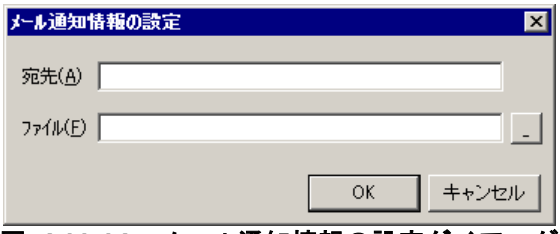


図 4.11-14　メール通知情報の設定ダイアログボックス

- **「宛先」テキストボックス**

  発信通知するメールのメールアドレスを指定します。

- **「ファイル名」テキストボックス**

  メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。

  ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

  通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，サービス監視用の標準メッセージ通知文を使用します。サービス監視用の標準メッセージ通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

  標準メッセージ通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

  メッセージ通知文では，表 2.3-24 に示す変数が使用できます。

(d)　［削除］ボタン

宛先情報を削除します。

(e)　「Messengerサービスで通知を行う」チェックボックス

監視対象のサービスが監視状態に変化したときに，Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知で通知する場合，ここをチェックします。両者の違いや注意事項については 2.3.1(12)を参照してください。

メッセンジャー通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，サービス監視用の標準メッセンジャー通知文を使用します。サービス監視用の標準メッセンジャー通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準メッセンジャー通知文のカスタマイズ方法については「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

メッセンジャー通知文では，表 2.3-24 に示す変数が使用できます。

(f)　「宛先」テキストボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知の通知先を指定します。宛先指定方法については 2.3.1(12)(c)を参照してください。なお，宛先欄に何も指定しない場合は

自コンピュータに Messenger 通知を行います。

宛先は，「，」（半角カンマ）区切りで，合計の文字数がカンマを含め半角 256 文字以内で複数指定できます。

(g) 「コマンドを実行する」チェックボックス

監視対象のサービスが監視状態に変化したときに，コマンドを実行する場合チェックします。

(h) 「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択します。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

ここで指定したコマンドの実行時間が 30 分経過しても終了しない場合は，実行を打ち切ります。

(i) 「パラメタ」テキストボックス

実行するコマンドのパラメタを指定します。コマンドパラメタには，次のサービス監視の変数が使用できます。
~ServiceMethod~，~ServiceStatus~，~ServiceName~，~ServiceDisplayDescription~，~ServiceDisplayName~ ， ~ServiceAccountName~ ， ~ServiceMonGroupName~ ，~ServiceStartUp~,

(j) ［登録］ボタン

「コマンド名」テキストボックスに指定したコマンドを登録します。［登録］ボタンを押すと「実行コマンド」リストボックスにコマンド名が表示されます。

(k) ［削除］ボタン

「実行コマンド」リストボックスで選択されたコマンドを削除します。

(l) 「実行コマンド」リストボックス

登録したコマンドの一覧を表示します。登録したコマンドの変更は，次の操作で変更できます。

1. 「実行コマンド」リストボックスで変更するコマンドを選択します。
2. ダブルクリックで登録コマンドの内容を「コマンド名」テキストボックスと「パラメタ」テキストボックスに表示させます。
3. コマンドを変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するコマンドの選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

4.11.5監視するサービスの編集ダイアログボックス

監視するサービスを設定します。監視するサービスの編集ダイアログボックスを図 4.11-15 に示します。

図 4.11-15　監視するサービスの編集ダイアログボックス

(a)　「監視するサービス一覧」リストボックス

現在監視中のサービスの一覧を表示します。

(b)　「追加サービスも監視する」チェックボックス

TELstaff サービス開始中に追加されたサービスを TELstaff サービスが終了するまで一時的に監視するとき，チェックします。次回の TELstaff サービス開始以降もこの追加されたサービスを監視する場合は，監視するサービスの編集ダイアログボックスでこのサービスを設定しておかなければなりません。

追加されたサービスの監視は，「開始監視」「停止監視」「全ての監視」の監視方法で使用できます。

(c)　［全て監視対象にする］ボタン

「監視可能なサービス一覧」リストボックスに表示されているすべてのサービスを「監視するサービス一覧」リストボックスに追加します（監視対象にします）。

(d)　［↑］ボタン

「監視可能なサービス一覧」リストボックスに表示されている１つまたは複数のサービスを選択して「監視するサービス一覧」リストボックスに移動します（監視対象にしま

す）。
サービスを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。
1 つのサービスを選択したときは，ダブルクリックで「監視するサービス一覧」リストボックスに移動します。

(e) ［↓］ボタン

「監視するサービス一覧」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数のサービスを削除します（監視対象から外します）。
サービスを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。
1 つのサービスを選択したときは，ダブルクリックで削除します。

(f) ［全て監視対象から外す］ボタン

「監視するサービス一覧」リストボックスに表示されているすべてのサービスを削除します（監視対象から外します）。

(g) 「監視可能なサービス一覧」リストボックス

現在，Windows で使用されているサービスの一覧と現在のサービスの状態を表示します。

(h) 「フィルタ指定」フィールド

- **「指定しない」ラジオボタン**

現在，Windows で使用されているサービスを［一覧更新］ボタンで「監視可能なサービス一覧」リストボックスに表示するとき選択します。

- **「指定する」ラジオボタン**

現在，Windows で使用されているサービスの中から「文字列」テキストボックスで指定した特定のサービスだけを「監視可能なサービス一覧」リストボックスに表示するとき選択します。

- **「文字列」テキストボックス**

特定のサービスだけを「監視可能なサービス一覧」リストボックスに表示するときサービス名称の文字列を指定します。複数指定する場合は，半角のカンマ区切りで指定します。文字列の指定は，この文字列を含む場合は，「を含む」を，この文字列を含まないときは，「を含まない」を選択します。
（例）snmp,messenger

- **［一覧更新］ボタン**

「監視可能なサービス一覧」リストボックスに該当するサービスを表示します。

(i) ［OK］ボタン

監視対象になっているサービスが削除されている場合，削除サービスの確認ダイアログ

ボックスを表示します。削除サービスの確認ダイアログボックスは，図 4.11-8 を参照してください。

4.11.6連絡網IDの選択ダイアログボックス

連絡網 ID の選択ダイアログボックスで，通知先で使用する 1 つまたは複数の連絡網 ID を選択します。

連絡網 ID の選択ダイアログボックスを図 4.11-16 に示します。

図 4.11-16　連絡網IDの選択ダイアログボックス

(a)　「グループID」ドロップダウンリストボックス

現在登録されている連絡網グループ ID を選択します。

(b)　「登録されている連絡網ID一覧」リストボックス

現在登録されている連絡網 ID の一覧を表示します。

(c)　［↓］ボタン

「登録されている連絡網 ID 一覧」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の連絡網 ID を選択して「通知先連絡網 ID」リストボックスに移動します（連絡網通知で使用します）。連絡網 ID を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択します。

1 つの連絡網 ID を選択したときは，ダブルクリックで「通知先連絡網 ID」リストボックスに移動します。

(d) ［↑］ボタン

「通知先連絡網 ID」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の連絡網 ID を削除します（連絡網通知から外します）。連絡網 ID を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択します。

1 つの連絡網 ID を選択したときは，ダブルクリックで削除します（連絡網通知から外します）。

(e) 「通知先連絡網ID」リストボックス

現在，連絡網通知で使用している連絡網 ID の一覧を表示します。

4.11.7連絡網メッセージの指定ダイアログボックス

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスで個別の通知メッセージや通知ファイルを設定します。個別の通知メッセージや通知ファイルを使用しない場合は，サービス監視の標準通知文を使用するため設定の必要はありません。

通知内容と連絡網に必要な通知メディア一覧を表 4.11-1 に示します。

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスを図 4.11-17 に示します。

表 4.11-1　通知内容と連絡網に必要な通知メディア一覧

通知内容	省略時	使用ｵﾌﾟｼｮﾝ	連絡網に必要なメディア
電話メッセージ	標準	-fv	電話
ショートメッセージ	-	-fb, -m	SMS
メッセージファイル	標準	-fm, -fdp, -fc	※1
メールにファイル添付	-	-fa	メール
表示ボードメッセージ	標準	-fs1, -s1	表示ボード
FAX メッセージ	標準	-ff	FAX
Wav ファイル	-	-fdw	デスクトップ
読み上げメッセージ	標準	-fdt	デスクトップ
フレームへの画像通知	-	-	デスクトップ

注※1　メール通知，デスクトップ通知，エージェント通知のいずれかが必要になります。
注※　「標準」は，省略ではサービス監視の標準通知文を使用。「-」は，標準はなく使用する場合は指定が必要な項目。

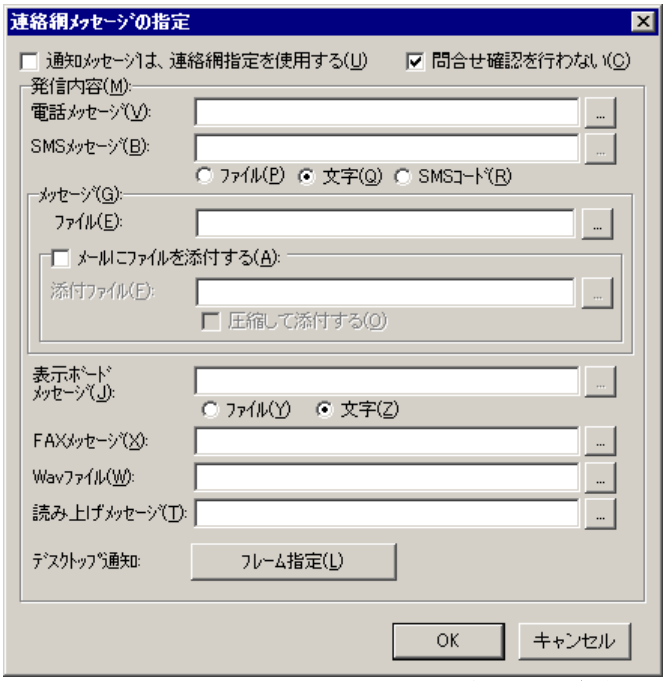


図 4.11-17　連絡網メッセージの指定ダイアログボックス

(a)　「通知メッセージは，連絡網指定を使用する」チェックボックス

すべての通知メッセージは，すべて連絡網で指定した通知メッセージを使用する場合，ここをチェックします。

連絡網で指定した通知メッセージを使用する場合，サービス監視の変数は使用できません。

(b)　「問合せ確認を行わない」チェックボックス

発信が終了したとき（問合せ確認を行わないとき）発信記録を削除する場合，ここをチェックします。

詳細は，連絡網プロパティー「基本設定」タブ（図 5.3-35）の「問合わせ確認は行わない」チェックボックス，および teldial コマンドの-k オプションを参照してください。

(c)　「電話メッセージ」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納した電話通知文のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

電話通知文には，表 2.3-24 に示す変数が使用できます。

電話通知文を省略すると，サービス監視用の標準電話通知文を使用します。

ここで指定した電話通知文は，teldial コマンドの-fv オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fv オプションを参照してください。

(d) 「SMSメッセージ」テキストボックス

SMS 通知で使用するメッセージを指定します。詳細は，2.3.1(3)を参照してください。

メッセージファイル指定では，表 2.3-24 に示す変数が使用でき，文字指定のメッセージでは，次のサービス監視の変数が使用できます。

~ServiceMethod~，~ServiceStatus~，~ServiceName~，~ServiceDisplayDescription~，~ServiceDisplayName~，~ServiceAccountName~，~ServiceMonGroupName~，~ServiceStartUp~，

ここで指定したメッセージは，teldial コマンドの-m オプションに，メッセージファイルでは-fb オプションに，コードでは-w オプションを使用します。

(e) 「メッセージファイル」テキストボックス

メール，デスクトップおよび PC にメッセージ通知するとき，通知メッセージを格納したメッセージ通知文のファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

メッセージ通知文では，表 2.3-24 に示す変数が使用できます。

メッセージ通知文を省略すると，サービス監視用の標準メッセージ通知文を使用します。

ここで指定したメッセージ通知文は，teldial コマンドの -fm，-fdp，-fc オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの -fm，-fdp，-fc オプションを参照してください。

(f) 「メールにファイルを添付する」チェックボックス

メールに通知するときで，メールにファイルを添付する場合，ここをチェックします。

(g) 「添付ファイル」テキストボックス

メールに添付するファイルを指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません

ここで指定した添付ファイルは，teldial コマンドの-fa オプションに使用します。

詳細は，teldial コマンドの-fa オプションを参照してください。

(h) 「圧縮して添付する」チェックボックス

メールに添付するファイルは圧縮して添付する場合，ここをチェックします。

圧縮したファイルのファイル拡張子は，cab になります。

(i) 「表示ボードメッセージ」テキストボックス

表示ボードに通知するメッセージを指定します。

表示ボードメッセージを文字で指定する場合は，「文字」ラジオボタンを，通知メッセージを格納した表示ボード通知文のファイル名を指定する場合は，「ファイル」ラジオボタンを選択します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

表示ボードメッセージを省略すると，サービス監視用の標準表示ボード通知文を使用します。

表示ボード通知文指定では，表 2.3-24 に示す変数が使用でき，文字指定の表示ボードメッセージでは，次のサービス監視の変数が使用できます。

~ServiceMethod~，~ServiceStatus~，~ServiceName~，~ServiceDisplayDescription~，~ServiceDisplayName~，~ServiceAccountName~，~ServiceMonGroupName~，~ServiceStartUp~，

ここで指定した表示ボードメッセージは，teldial コマンドの-s1 オプションに，表示ボード通知文では，-fs1 オプションを使用します。詳細は，teldial コマンドの-s1，-fs1 オプションを参照してください。

(j) 「FAXメッセージ」テキストボックス

FAX に通知するとき，通知メッセージを格納した FAX 通知文のファイル名を指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

FAX 通知文では，表 2.3-24 に示す変数が使用できます。

FAX 通知文を省略すると，サービス監視用の標準 FAX 通知文を使用します。

ここで指定した FAX 通知文は，teldial コマンドの-ff オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-ff オプションを参照してください。

(k) 「Wavファイル」テキストボックス

デスクトップ通知時にオーディオメディアファイルを再生させるとき，オーディオメディアファイルのファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ここで指定したオーディオメディアファイルは，teldial コマンドの-fdw オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fdw オプションを参照してください。

(l)　「読み上げメッセージ」テキストボックス

デスクトップ通知時にメッセージを読み上げさせるとき，通知メッセージを格納した読み上げ通知文のファイル名を指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

読み上げ通知文では，表 2.3-24 に示す変数が使用できます。

読み上げ通知文を省略すると，サービス監視用の標準読み上げ通知文を使用します。ここで指定した読み上げ通知文は，teldial コマンドの-fdt オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fdt オプションを参照してください。

(m)　［フレーム指定］ボタン

デスクトップ通知時，各フレームに表示する画像の指定ダイアログボックスを表示します。

4.11.8 フレームに表示する画像の指定ダイアログボックス

デスクトップ通知時，Alarm View のデスクトップパトランプフレーム（フレーム 1 からフレーム 8）に通知する画像（bmp ファイルまたは jpg ファイル）を設定します。

フレームに表示する画像の指定ダイアログボックスを図 4.11-18 に示します。

図 4.11-18　フレームに表示する画像の指定ダイアログボックス

画像を通知するフレーム番号をチェックし，画像ファイル（bmp ファイルまたは jpg ファイル）のファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択

します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

4.12 SNMPトラップ監視の設定

4.12.1SNMPトラップ監視の設定について

SNMP トラップ監視は，SNMP トラップを受信し，その契機で，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

SNMP トラップ監視を使用すると SNMP 対応のルータやスイッチ，ネットワーク機器の監視を行えるようになります。

例えば，coldStart トラップ（トラップ番号 0）を監視すると，新たなネットワーク機器が追加されたことや，予定していない再起動を知ることができ，linkDown トラップ（トラップ番号 2）や linkUp トラップ（トラップ番号 3）を監視すると，インターフェースダウンや回復を知ることができます。

■機能の利用について

- SNMP トラップ監視では，監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。
- SNMP トラップ監視の設定は，Administrators 権限ユーザで SNMP トラップの監視ダイアログボックスで設定します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。
- SNMP トラップの監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【SNMP トラップ監視の設定】を選択して表示します。

■留意事項

- SNMP トラップ監視では，Windows の SNMP Trap Service（Windows SNMP Trap サービスと呼びます）を使用します。このため SNMP トラップ監視を行う場合は，あらかじめ Windows の SNMP Trap サービスのスタートアップの種類を「自動」に設定しておき，TELstaff サービスを開始する前に Windows SNMP Trap サービスを開始しておかなければなりません。
- Windows ファイアウォールを使用する場合は，162 ポート番号(UDP)を Windows ファイアウォールの適用外にしてください。
- SNMP トラップ監視を使用する場合，SNMP トラップを受信する他のネットワーク管理製品等との共存はできません。ただし，OS 標準の SNMP Trap Service を使用して SNMP トラップを受信する他のネットワーク管理製品との共存は可能です。SNMP トラップを受信するネットワーク管理製品が，SNMP Trap Service を使用しているかについては，ネットワーク管理製品の製造元にご確認ください。
- SNMP トラップを，通信ポート 162（UDP ポート）を使用して直接受信する監視ツールとの併用使用はできません。
- SNMP トラップ監視は，AEPE または AESE で使用できます。
- SNMP トラップ監視で対応する SNMP バージョンは SNMPv1 および

SNMPv2c となります。SNMPv3 には対応していません。

4.12.2SNMPトラップの監視ダイアログボックス

SNMP トラップの監視方法を設定します。SNMP トラップの監視ダイアログボックスを図 4.12-1 に示します。

図 4.12-1　SNMPトラップの監視ダイアログボックス

(1) 「監視グループ」フィールド

監視対象になっている SNMP トラップ監視グループ名を表示します。

(a)　［追加］ボタン

新規に SNMP トラップ監視グループの設定を追加するため， SNMP トラップ監視設定ダイアログボックス（図 4.12-5）を開きます。

(b)　［プロパティ］ボタン

新規に SNMP トラップ監視グループの設定を追加するため， SNMP トラップ監視設定ダイアログボックス（図 4.12-5）を開きます。

(c)　［削除］ボタン

監視グループ一覧で選択された SNMP トラップ監視グループを削除します。SNMP トラップ監視グループを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(d)　［一覧出力］ボタン

「監視グループ一覧」フィールドに表示されている監視グループの監視内容の一覧をファイルに保存します。

(e)　［監視の設定］ボタン

SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックスを表示します。

4.12.3SNMPトラップ監視のプロパティダイアログボックス

SNMP トラップ監視の方法を設定します。SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックスを図 4.12-2 に示します。

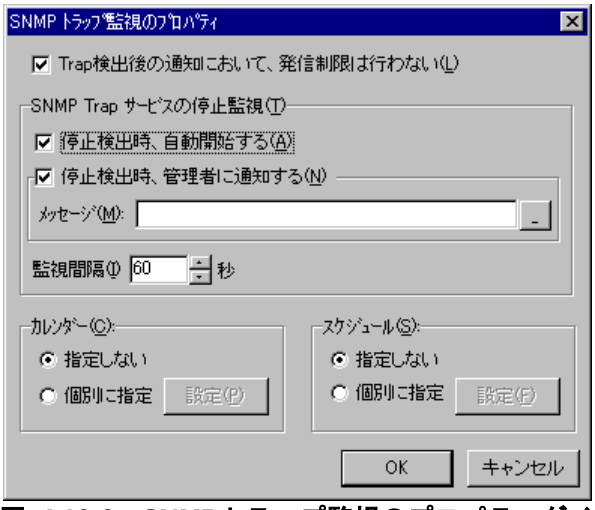


図 4.12-2　SNMPトラップ監視のプロパティダイアログボックス

(1)　**「Trap検出後の通知において，発信制限は行わない」**

SNMP トラップを通知するとき，発信制限を行わない場合，チェックします。

チェックしない場合は，SNMP トラップ監視が teldial コマンドを使用して通知を行うとき発信制限を適用して通知します。

短時間に大量の SNMP トラップが発生する場合は，短時間に大量の発信を回避するためにここのチェックをオフにすることを推奨します。

SNMP トラップ毎に発信制限を行う場合は，このチェックボックスをオフにし，通知 ID を使用して発信制限を適用させます。

(2)　**「停止検出時，自動開始する」チェックボックス**

Windows 開始時，または SNMP トラップ監視中に Windows SNMP Trap サービスの停止を検出したとき，TELstaff が Windows SNMP Trap サービスを自動開始する場合，ここをチェックします。

Windows SNMP Trap サービスのスタートアップの種類を「手動」に設定している場合で，ここをチェックしない場合，Windows 開始時から SNMP トラップ監視はできません。

また，Windows SNMP Trap サービスのスタートアップの種類を「手動」に設定している場合で，SNMP トラップを受信できない場合は，Windows SNMP Trap サービスのスタートアップの種類を「自動」に設定してください。

(3)　**「停止検出時，管理者に通知する」チェックボックス**

Windows SNMP Trap サービス停止を検出したとき，または「停止検出時，自動開始する」チェックボックスにチェックした場合で，Windows SNMP Trap サービスを開始でき

ない場合，ユーザ管理で登録した TELstaff の「システム管理者」のメール宛先にメール通知する場合，ここをチェックします。メール通知する場合は，環境設定－「E メール」タブで SMTP サーバの設定とユーザ管理で「システム管理者」にメール宛先の設定が必要です。

(4) 「メッセージ」テキストボックス

Windows SNMP Trap サービスの停止を TELstaff の「システム管理者」にメール通知するときの SNMP Trap サービス停止通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，標準 SNMPTRAP サービス停止通知文を使用します。標準 SNMP TRAP サービス停止通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

標準メッセージ通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

(5) 「監視間隔」スピンボックス

Windows SNMP Trap サービスの監視周期（監視間隔時間）を指定します。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，CPU を使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(6) 「カレンダー」フィールド

SNMP トラップ監視全体で使用するカレンダーを指定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日の SNMP トラップ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

カレンダーダイアログボックスを図 4.12-3 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，TELstaff のシステムカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックして SNMP トラップ監視独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。

図 4.12-3 カレンダーダイアログボックス

(7) 「スケジュール」フィールド

SNMP トラップ監視全体で使用する監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合

わせることで，平日，休日の SNMP トラップ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。SNMP トラップ監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。

スケジュールダイアログボックスを図 4.12-4 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，SNMP トラップ監視のスケジュールはしないで，常に監視します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックして SNMP トラップ監視独自のスケジュールを設定します。SNMP トラップ監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力と SNMP トラップ監視は継続されます。

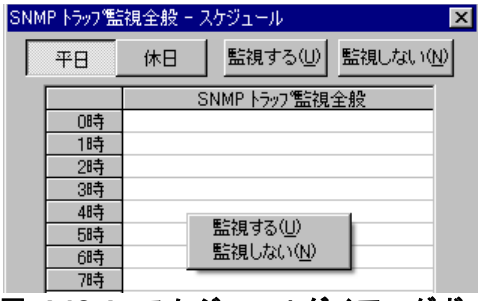


図 4.12-4　スケジュールダイアログボックス

4.12.4 SNMP トラップ監視設定ダイアログボックス

(1) SNMP トラップ監視設定ー「全般」タブ

SNMP トラップ監視の全般を設定します。SNMP トラップ監視設定ー「全般」タブを図 4.12-5 に示します。

図 4.12-5　SNMPトラップ監視設定ー「全般」タブ

(a)　「名称」テキストボックス

SNMP トラップ監視の監視グループの名称を，20 桁以内で設定します。既に登録されている SNMP トラップ監視名称は変更できません。SNMP トラップ監視グループ名を変更する場合は，一度削除してから再度登録してください。

SNMP トラップを監視する場合，監視する 1　つ，または複数の SNMP トラップをグループ分けして SNMP トラップ監視グループを作成します。SNMP トラップ監視グループで，SNMP トラップごとに通知先を変更できます。SNMP トラップ監視グループに，次の文字および半角空白文字を使用できません。

" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % &,

(b)　「説明」テキストボックス

SNMP トラップ監視ダイアログボックスの「監視グループ」フィールドに表示する，SNMP トラップ監視グループに対する説明文を設定します。

(c)　「カレンダー」フィールド

SNMP トラップ監視グループごとのカレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日の SNMP トラップ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。カレンダーダイアログボックスを図 4.12-6 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，SNMP トラップ監視全体のカレンダーを使用します。SNMP トラップ監視全体のカレンダーは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックして SNMP

トラップ監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，SNMP トラップ監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.12-6　カレンダーダイアログボックス

(d)　「スケジュール」フィールド

SNMP トラップ監視グループごとの監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日の SNMP トラップ監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。SNMP トラップ監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。

スケジュールダイアログボックスを図 4.12-7 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，SNMP トラップ監視全体のスケジュールを使用します。SNMP トラップ監視全体のスケジュールは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックして SNMP トラップ監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。SNMP トラップ監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力と SNMP トラップ監視は継続されます。

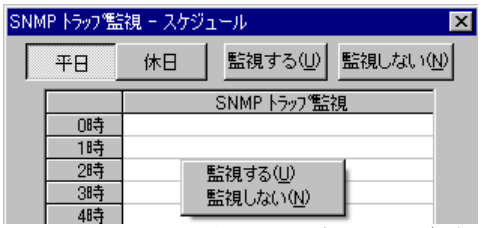


図 4.12-7　スケジュールダイアログボックス

(e)　「現在の設定」フィールド

監視対象になっている SNMP トラップ監視の設定内容を表示します。

(f)　［編集］ボタン

通報対象トラップの編集ダイアログボックスを表示します。通報対象トラップの編集ダイアログボックスで監視する SNMP トラップの登録，追加，削除を行います。

(2) SNMP トラップ監視設定ー「連絡網」タブ

SNMP トラップ監視で通知する連絡網の設定をします。連絡網を使用した通知は，SNMP トラップ監視が teldial コマンドを使用して通知を行います。SNMP トラップ監視設定ー「連絡網」タブを，図 4.12-8 に示します。

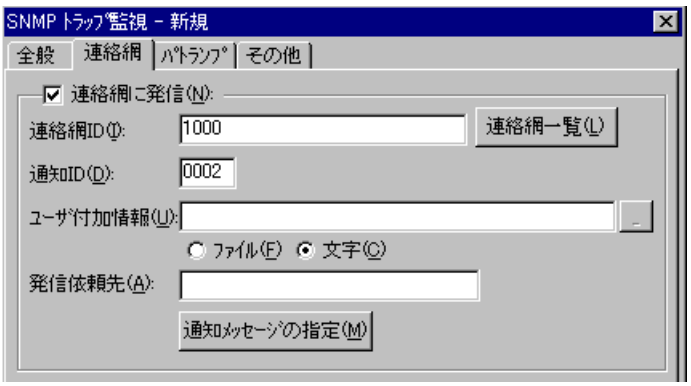


図 4.12-8　SNMPトラップ監視設定ー「連絡網」タブ

(a)　「連絡網に発信」チェックボックス

監視対象の SNMP トラップを受信したとき，連絡網に発信する場合，ここをチェックします。

(b)　「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

ここで指定した連絡網 ID は，teldial コマンドの-ni オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-ni オプションを参照してください。

監視対象の SNMP トラップを受信したとき，複数の連絡網（ID）に対して発信できます。

連絡網 ID を複数指定するときは「，」（半角カンマ）区切りで指定します。

連絡網への発信では，SNMP トラップ監視が teldial コマンドを生成して発信を行います。

連絡網 ID を複数指定すると，指定した連絡網 ID について同じオプションを使用した teldial コマンドを生成します。

連絡網 ID を多数指定した場合，発信要求が多数キューイングされ発信の滞留と遅延が発生する以外に，システムのリソースを消費しアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に影響を与える場合があります。

(c)　［連絡網一覧］ボタン

連絡網 ID 一覧から通知する連絡網 ID を選択するために連絡網 ID の選択ダイアログボックス（図 4.11-16）を表示します。AECL では使用できません。

(d)　「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

ここで指定した通知 ID は，teldial コマンドの-id オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-id オプションを参照してください。

通知 ID は，通知するメッセージテキスト中の「~id2~」変数と置き換えられます。

通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。

(e) 「ユーザ付加情報」テキストボックス

ユーザ付加情報を文字で指定する場合は「文字」ラジオボタンを，ユーザ付加情報を格納したファイル名で指定する場合は「ファイル」ラジオボタンを選択します。

ユーザ付加情報は，通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えられます。ユーザ付加情報をファイル名で指定する場合は，FAX 送信ファイルと電話通知文ファイルに~UserInformation~ 変数は，使用できません。

●「文字」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（すべて全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，ファイルを使用してください。

ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。ユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

（例）-u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「;」（半角セミコロン）で区切ると複数行に分割でき，「;」は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例） -u "ユーザ付加情報 1 行目；ユーザ付加情報 2 行目"

ユーザ付加情報を文字で指定する場合は，teldial コマンドの-u オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-u オプションを参照してください。

ユーザ付加情報には，次の SNMP トラップ監視の変数が使用できます。

~snmptrap_GroupName~, ~snmptrap_agentAddress~, ~snmptrap_sourceAddress~, ~snmptrap_enterprise~, ~snmptrap_genericTrap~, ~snmptrap_specificTrap~, ~snmptrap_community~

●「ファイル」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を，ファイル完全名で指定するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ユーザ付加情報をファイル名で指定する場合は，teldial コマンドの-uf オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-uf オプションを参照してください。

ユーザ付加情報を格納したファイルには，次の SNMP トラップ監視の変数が使用できます。

~snmptrap_GroupName~, ~snmptrap_agentAddress~, ~snmptrap_sourceAddress~, ~snmptrap_enterprise~, ~snmptrap_genericTrap~, ~snmptrap_specificTrap~, ~snmptrap_community~, ~variableBindings~

(f) 「発信依頼先」テキストボックス

SNMP トラップ監視の通知を発信依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

ここで指定した発信依頼先は，teldial コマンドの-to オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-to オプションを参照してください。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

指定のない場合は自コンピュータで発信を行います。

発信依頼には，「2.3.1(1)(h) 発信依頼」に示す注意事項があります。

(g) ［通知メッセージの指定］ボタン

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスを表示します。

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスで個別の通知メッセージや通知ファイルを設定します。個別の通知メッセージや通知ファイルを使用しない場合は，SNMP トラップ監視の標準通知文を使用するため設定の必要はありません。

(3) SNMPトラップ監視設定ー「パトランプ」タブ

SNMP トラップ監視で通知するパトランプの設定をします。

パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。SNMP トラップ監視設定ー「パトランプ」タブを，図 4.12-9 に示します。設定方法の詳細は，「4.11.4(3) サービス監視設定ー「パトランプ」タブ」を参照してください。

図 4.12-9 SNMPトラップ監視設定ー「パトランプ」タブ

(4) SNMPトラップ監視設定ー「その他」タブ

SNMP トラップ監視で通知する Messenger サービスメッセージ，メール通知，実行するコマンドの設定をします。

SNMP トラップ監視設定ー「その他」タブを，図 4.12-10 に示します。

図 4.12-10　SNMPトラップ監視設定ー「その他」タブ

(a)　「メールに発信」チェックボックス

監視対象の SNMP トラップを受信したときに，メールに通知をする場合，ここをチェックします。

(b)　［プロパティ］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，宛先情報を変更します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.11-14 に示します。

(c)　［追加］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，メール通知する宛先を設定します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.12-11 に示します。

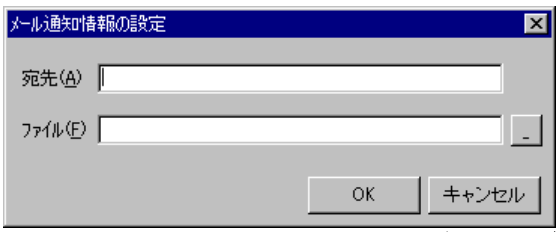


図 4.12-11　メール通知情報の設定ダイアログボックス

- **「宛先」テキストボックス**

発信通知するメールのメールアドレスを指定します。

●「ファイル名」テキストボックス

メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，SNMP トラップ監視用の標準メッセージ通知文を使用します。SNMP トラップ監視用の標準メッセージ通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

標準メッセージ通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

メッセージ通知文では，表 2.3-25 に示す変数が使用できます。

(d) ［削除］ボタン

宛先情報を削除します。

(e) 「Messengerサービスで通知を行う」チェックボックス

監視対象の SNMP トラップを受信したときに，Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知を使用して通知する場合，ここをチェックします。両者の違いや注意事項については 2.3.1(12)を参照してください。

メッセンジャー通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，SNMP トラップ監視用の標準メッセンジャー通知文を使用します。SNMP トラップ監視用の標準メッセンジャー通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

標準メッセンジャー通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

メッセンジャー通知文では，表 2.3-25 に示す変数が使用できます。

(f) 「宛先」テキストボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知の通知先を指定します。宛先指定方法については 2.3.1(12)(c)を参照してください。なお，宛先欄に何も指定しない場合は自コンピュータに Messenger 通知を行います。

宛先は，「，」（半角カンマ）区切りで，合計の文字数がカンマを含め半角 256 文字以内で複数指定できます。

(g) 「コマンドを実行する」チェックボックス

監視対象の SNMP トラップを受信したときに，コマンドを実行する場合チェックします。

(h) 「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択します。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

ここで指定したコマンドの実行時間が 30 分経過しても終了しない場合は，実行を打ち切ります。

(i) 「パラメタ」テキストボックス

実行するコマンドのパラメタを指定します。

コマンドパラメタには，次の SNMP トラップ監視の変数が使用できます。

~snmptrap_GroupName~，~snmptrap_agentAddress~，~snmptrap_sourceAddress~，~snmptrap_enterprise~，~snmptrap_genericTrap~，~snmptrap_specificTrap~，~snmptrap_community~

(j) ［登録］ボタン

「コマンド名」テキストボックスに指定したコマンドを登録します。［登録］ボタンを押すと「実行コマンド」リストボックスにコマンド名が表示されます。

(k) ［削除］ボタン

「実行コマンド」リストボックスで選択されたコマンドを削除します。

(l) 「実行コマンド」リストボックス

登録したコマンドの一覧を表示します。登録したコマンドの変更は，次の操作で変更できます。

1. 「実行コマンド」リストボックスで変更するコマンドを選択します。
2. ダブルクリックで登録コマンドの内容を「コマンド名」テキストボックスと「パラメタ」テキストボックスに表示させます。
3. コマンドを変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するコマンドの選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

4.12.5通報対象トラップの編集ダイアログボックス

SNMP トラップの監視方法を設定します。通報対象トラップの編集ダイアログボックスを図 4.12-12 に示します。

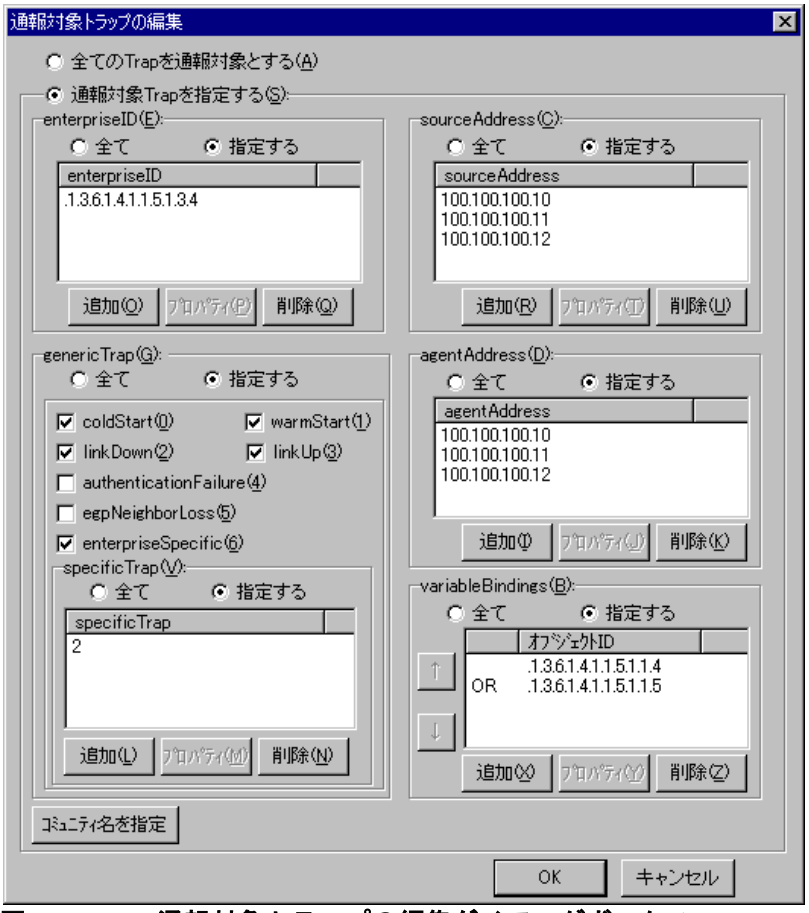


図 4.12-12　通報対象トラップの編集ダイアログボックス

(1) 「全てのTrapを通報対象にする」ラジオボタン

すべての SNMP トラップを監視するとき，ここを選択します。

(2) 「通報対象Trapを指定する」ラジオボタン

SNMP トラップ種別毎に監視するとき，ここを選択します。

(3) 「enterpriseID」フィールド

監視する enterpriseID を設定します。機器が使用する enterpriseID については，機器発売元にお問い合わせください。

(a) 「全て」ラジオボタン

すべての enterpriseID を監視するとき，選択します。

(b) 「指定する」ラジオボタン

監視する enterpriseID（1 つまたは複数）を設定します。enterpriseID を設定すると，設定したいずれかの enterpriseID と一致する SNMP トラップに対して通知します。

(c) 「enterpriseID」リストボックス

監視対象になっている enterpriseID を表示します。

enterpriseID を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範

囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(d) ［追加］ボタン

新規に enterpriseID を追加するための enterpriseID の指定ダイアログボックスを表示します。enterpriseID の指定ダイアログボックスで監視する「.」から始まる enterpriseID を指定します。

enterpriseID の指定ダイアログボックスを図 4.12-13 に示します。

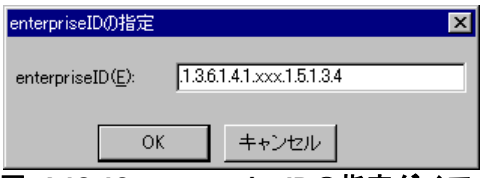


図 4.12-13 enterpriseIDの指定ダイアログボックス

(e) ［プロパティ］ボタン

「enterpriseID」リストボックスで選択された enterpriseID の enterpriseID の指定ダイアログボックスを表示します。

(f) ［削除］ボタン

「enterpriseID」リストボックスで選択された enterpriseID を削除します。enterpriseID オブジェクトを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(4) 「sourceAddress」フィールド

監視する 2 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレスを設定します。

トラップ送信元が 1 つの SNMP エージェントの場合は，「agentAddress」フィールドで設定し，sourceAddress の設定は必要ありません。

(a) 「全て」ラジオボタン

すべての 2 次送信元 SNMP エージェントを監視するとき，選択します。

(b) 「指定する」ラジオボタン

監視する 2 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレス（1 つまたは複数）を設定します。2 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレスを設定すると，設定したいずれかの IP アドレスと一致する SNMP トラップに対して通知します。

(c) 「sourceAddress」リストボックス

監視対象になっている 2 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレスを表示します。IP アドレスを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(d) ［追加］ボタン

新規に 2 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレスを追加するための sourceAddress の指定ダイアログボックスを表示します。sourceAddress の指定ダイアログボックスで監視する 2 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレスを指定します。sourceAddress の指定ダイアログボックスを図 4.12-14 に示します。

図 4.12-14 sourceAddressの指定ダイアログボックス

(e) ［プロパティ］ボタン

「sourceAddress」リストボックスで選択された 2 次送信元 SNMP エージェント IP アドレスの sourceAddress の指定ダイアログボックスを表示します。

(f) ［削除］ボタン

「sourceAddress」リストボックスで選択された 2 次送信元 SNMP エージェント IP アドレスを削除します。IP アドレスを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(5) 「agentAddress」フィールド

監視する 1 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレスを設定します。

(a) 「全て」ラジオボタン

すべての 1 次送信元 SNMP エージェントを監視するとき，選択します。

(b) 「指定する」ラジオボタン

監視する 1 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレス（1 つまたは複数）を設定します。1 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレスを設定すると，設定したいずれかの IP アドレスと一致する SNMP トラップに対して通知します。

(c) 「agentAddress」リストボックス

監視対象になっている 1 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレスを表示します。IP アドレスを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(d) ［追加］ボタン

新規に 1 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレスを追加するための agentAddress の指定ダイアログボックスを表示します。agentAddress の指定ダイアログボックスで監視する 2 次送信元 SNMP エージェントの IP アドレスを指定します。agentAddress の指定ダイアログボックスを図 4.12-15 に示します。

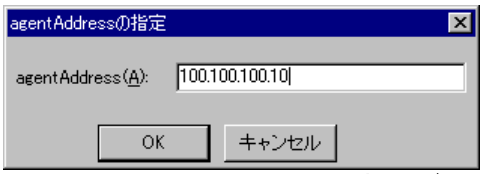


図 4.12-15　agentAddressの指定ダイアログボックス

(e)　［プロパティ］ボタン

「agentAddress」リストボックスで選択された 2 次送信元 SNMP エージェント IP アドレスの agentAddress の指定ダイアログボックスを表示します。

(f)　［削除］ボタン

「agentAddress」リストボックスで選択された 2 次送信元 SNMP エージェント IP アドレスを削除します。IP アドレスを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(6)　「genericTrap」フィールド

監視するトラップタイプを設定します。機器が使用するトラップタイプについては，機器発売元にお問い合わせください。

(a)　「全て」ラジオボタン

すべてのトラップを監視するとき，選択します。

(b)　「指定する」ラジオボタン

監視するトラップ名を設定します。トラップ名を指定すると，一致するトラップに対して通知します。

(c)　「coldStart(0)」チェックボックス

coldStart トラップ（トラップ番号 0）を監視するとき，チェックします。
coldStart トラップは，エージェントが再起動したことを示します。
このトラップで，新たな機器が追加されたことや，予定していない再起動を知ることができます。

(d)　「warmStart(1)」チェックボックス

warmStart トラップ（トラップ番号 1）を監視するとき，チェックします。
warmStart トラップは，エージェント自ら最初期化を行ったことを示します。

(e)　「linkDown(2)」チェックボックス

linkDown トラップ（トラップ番号 2）を監視するとき，チェックします。
linkDown トラップは，機器のインターフェースがダウンしたことを示します。

(f) 「linkUp(3)」チェックボックス

linkUp トラップ（トラップ番号 3）を監視するとき，チェックします。
linkUp トラップは，機器のインターフェースが回復したことを示します。

(g) 「authenticationFailure(4)」チェックボックス

authenticationFailure トラップ（トラップ番号 4）を監視するとき，チェックします。
authenticationFailure トラップは，不正なコミュニティ名を使用してエージェントに問い合わせたことを示します。

(h) 「egpNeighborLoss(5)」チェックボックス

egpNeighborLoss トラップ（トラップ番号 5）を監視するとき，チェックします。
egpNeighborLoss トラップは，外部ゲートウェイプロトコル（EGP:Exterior Gateway Protcol）の近接ルータがダウンしたことを示します。

(i) 「enterpriseSpecific(6)」チェックボックス

enterpriseSpecific トラップ（トラップ番号 6）を監視するとき，チェックします。
enterpriseSpecific トラップは，機器（ベンダー）固有のイベントが発生したことを示します。
特定の enterpriseSpecific トラップを監視する場合は，「specificTrap」フィールドで設定します。

(7) 「specificTrap」フィールド

監視する enterpriseSpecific トラップ（トラップ番号 6）に対する機器固有のトラップ番号を設定します。
機器固有のトラップ番号については，機器発売元にお問い合わせください。

(a) 「全て」ラジオボタン

すべての機器固有のトラップを監視するとき，選択します。

(b) 「指定する」ラジオボタン

監視する機器固有のトラップ番号（1 つまたは複数）を設定します。機器固有のトラップ番号を設定すると，設定したいずれかの機器固有のトラップ番号と一致する SNMP トラップに対して通知します。

(c) 「specificTrap」リストボックス

監視対象になっている機器固有のトラップ番号を表示します。機器固有のトラップ番号を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(d) ［追加］ボタン

新規に機器固有のトラップ番号を追加するための specificTrap の指定ダイアログボック

スを表示します。

specificTrap の指定ダイアログボックスで監視する機器固有のトラップ番号を指定します。specificTrap の指定ダイアログボックスを図 4.12-16 に示します。

図 4.12-16　specificTrapの指定ダイアログボックス

(e)　［プロパティ］ボタン

「specificTrap」リストボックスで機器固有のトラップ番号の specificTrap の指定ダイアログボックスを表示します。

(f)　［削除］ボタン

「specificTrap」リストボックスで選択された機器固有のトラップ番号を削除します。機器固有のトラップ番号を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(8)　「variableBindings」フィールド

監視する variableBindings 情報を設定します。

variableBindings 情報には，トラップに関する機器特有の情報が含まれます。

variableBindings 情報は，統計情報にだけ出力します。

機器が持つ variableBindings 情報と内容については，機器発売元にお問い合わせください。

(a)　「全て」ラジオボタン

すべての variableBinding 情報を監視するとき，選択します。

(b)　「指定する」ラジオボタン

監視する variableBinding 情報（1 つまたは複数）を設定します。variableBinding 情報を設定すると，設定したいずれかの Binding 情報（トラップの付加情報）と一致する SNMP トラップに対して通知します。

(c)　「variableBindings」リストボックス

監視対象になっている variableBinding 情報を表示します。variableBinding 情報を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(d)　［追加］ボタン

新規に variableBinding 情報を追加するための variableBindings の指定ダイアログボッ

クス（図 4.12-18）を表示します。

(e)　［プロパティ］ボタン

「variableBindings」リストボックスで variableBinding 情報の variableBinding の指定ダイアログボックス（図 4.12-18）を表示します。

(f)　［削除］ボタン

「variableBindings」リストボックスで選択された variableBinding 情報を削除します。variableBinding 情報を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(9)　［コミュニティ名を指定］ボタン

コミュニティ名の指定ダイアログボックスを表示します。コミュニティ名の指定ダイアログボックスを図 4.12-19 に示します。

コミュニティ名の指定ダイアログボックスを表示する前に管理者の認証ダイアログボックスを表示し，操作認証を行います。管理者の認証ダイアログボックスを図 4.12-17 に示します。

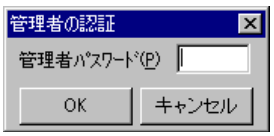


図 4.12-17　管理者の認証ダイアログボックス

(a)　「管理者パスワード」テキストボックス

TELstaff の「システム管理者」のパスワードを指定します。「システム管理者」のパスワードは，ユーザ管理ウィンドウで，「システム管理者」に対してあらかじめパスワードを登録しておきます。「システム管理者」にパスワードを設定していない場合は，［OK］ボタンを押します。

4.12.6variableBindingsの指定ダイアログボックス

variableBindings の指定ダイアログボックスで監視する variableBinding 情報のオブジェクト ID を指定します。

variableBindings の指定ダイアログボックスを図 4.12-18 に示します。

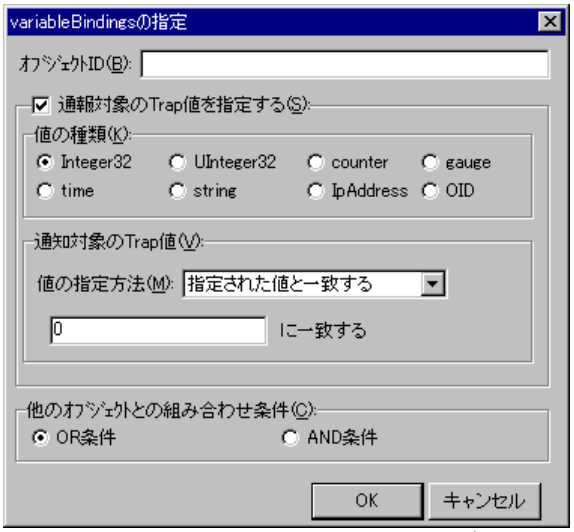


図 4.12-18　variableBindingsの指定ダイアログボックス

(a)　「オブジェクトID」テキストボックス

監視する variableBinding 情報の「.」から始まるオブジェクト ID を指定します。

(b)　「通報対象のTrap値を指定する」チェックボックス

variableBindings 情報の特定な値を条件にして通知するとき，チェックします。チェックしない場合は，オブジェクト ID に一致するものをすべて通知します。

(c)　「値の種類」フィールド

variableBindings 情報の特定な値を条件にするとき，値の種類（形式）を指定します。使用できる variableBindings 情報値の種類を表 4.12-1 に示します。

表 4.12-1　使用できるvariableBindings情報値の種類

値の種類	説明
Integer32	符号付き 32 ビット整数形式
UInteger32	符号なし 32 ビット整数形式
counter	COUNTER 型 32 ビット形式
gauge	GAUGE 型 32 ビット形式
time	タイムスタンプ形式
string	印字可能な半角英数字の文字形式
IpAddress	IP アドレス形式

(d)　「値の指定方法」ドロップダウンリスト

variableBindings 情報の特定な値を条件にするとき，値の指定方法をドロップダウンリストから選択し，条件にする値をテキストボックスに指定します。

(e)　「他オブジェクトとの組み合わせ条件」フィールド

監視する variableBinding 情報を複数指定する場合，他のオブジェクト ID との組み合わせ条件を指定します。

4.12.7コミュニティ名の指定ダイアログボックス

監視するコミュニティ名情報を設定します。コミュニティ名の指定ダイアログボックスを図 4.12-19 に示します。

図 4.12-19　コミュニティ名の指定ダイアログボックス

(a)　「全て」ラジオボタン

すべてのコミュニティ名を監視するとき，選択します。

(b)　「指定する」ラジオボタン

監視するコミュニティ名（1 つまたは複数）を設定します。コミュニティ名を設定すると，設定したいずれかのコミュニティ名と一致する SNMP トラップに対して通知します。

(c)　「コミュニティ名」リストボックス

監視対象になっているコミュニティ名を表示します。コミュニティ名を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(d)　［追加］ボタン

新規にコミュニティ名を追加するためのコミュニティ名の指定ダイアログボックスを表示します。

コミュニティ名の指定ダイアログボックスで監視するコミュニティ名を指定します。コミュニティ名の指定ダイアログボックスを図 4.12-20 に示します。

図 4.12-20　コミュニティ名の指定ダイアログボックス

(e)　［プロパティ］ボタン

「コミュニティ名」リストボックスでコミュニティ名の指定ダイアログボックスを表示

します。

(f)　［削除］ボタン

「コミュニティ名」リストボックスで選択されたコミュニティ名を削除します。コミュニティ名を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

4.12.8連絡網メッセージの指定ダイアログボックス

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスで個別の通知メッセージや通知ファイルを設定します。個別の通知メッセージや通知ファイルを使用しない場合は，SNMP トラップ監視の標準通知文を使用するため設定の必要はありません。

通知内容と連絡網に必要な通知メディア一覧を表 4.12-2 に示します。

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスを図 4.12-21 に示します。

表 4.12-2　通知内容と連絡網に必要な通知メディア一覧

通知内容	省略時	使用ｵﾌﾟｼｮﾝ	連絡網に必要なメディア
電話メッセージ	標準	-fv	電話
ショートメッセージ	-	-fb, -m	SMS
メッセージファイル	標準	-fm, -fdp, -fc	※1
メールにファイル添付	-	-fa	メール
表示ボードメッセージ	標準	-fs1, -s1	表示ボード
FAX メッセージ	標準	-ff	FAX
Wav ファイル	-	-fdw	デスクトップ
読み上げメッセージ	標準	-fdt	デスクトップ
フレームへの画像通知	-	-	デスクトップ

※1　　メール通知，デスクトップ通知，エージェント通知のいずれかが必要なります。

※　　「標準」は，省略では SNMP トラップ監視の標準通知文を使用。「-」は，標準はなく使用する場合は指定が必要な項目。

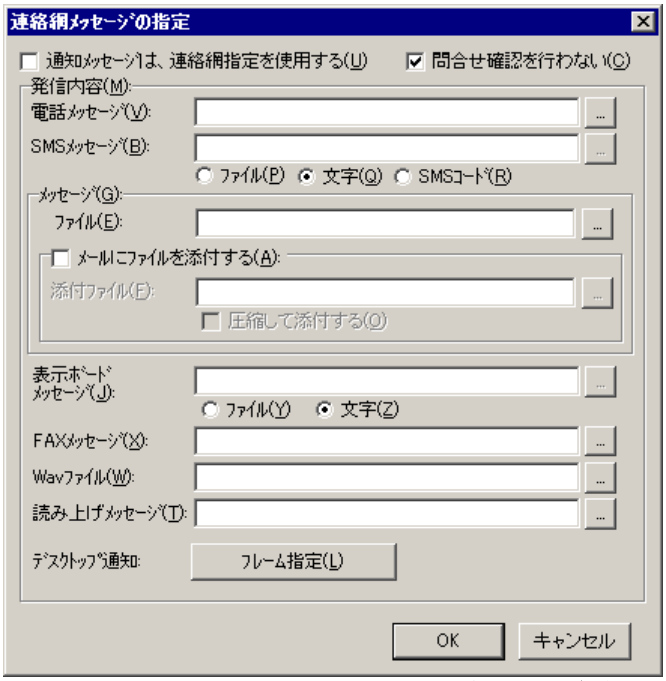


図 4.12-21　連絡網メッセージの指定ダイアログボックス

(a)　「通知メッセージは，連絡網指定を使用する」チェックボックス

すべての通知メッセージは，すべて連絡網で指定した通知メッセージを使用する場合，ここをチェックします。

連絡網で指定した通知メッセージを使用する場合，SNMP トラップ監視の変数は使用できません。

(b)　「問合せ確認を行わない」チェックボックス

発信が終了したとき（問合せ確認を行わないとき）発信記録を削除する場合，ここをチェックします。

詳細は，連絡網プロパティー「基本設定」タブ（図 5.3-35）の「問合わせ確認は行わない」チェックボックス，および teldial コマンドの-k オプションを参照してください。

(c)　「電話メッセージ」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納した電話通知文のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

電話通知文には，表 2.3-25 に示す変数が使用できます。

電話通知文を省略すると，SNMP トラップ監視用の標準電話通知文を使用します。

ここで指定した電話通知文は，teldial コマンドの-fv オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fv オプションを参照してください。

(d) 「SMSメッセージ」テキストボックス

SMS 通知で使用するメッセージを指定します。詳細は，2.3.1(3)を参照してください。

メッセージファイル指定では，表 2.3-25 に示す変数が使用でき，文字指定のメッセージでは，次の SNMP トラップ監視の変数が使用できます。

~snmptrap_GroupName~，~snmptrap_agentAddress~，~snmptrap_sourceAddress~，~snmptrap_enterprise~，~snmptrap_genericTrap~，~snmptrap_specificTrap~，~snmptrap_community~

ここで指定したメッセージは，teldial コマンドの-m オプションに，メッセージファイルでは-fb オプションに，コードでは-w オプションを使用します。

(e) 「メッセージファイル」テキストボックス

メール，デスクトップおよび PC にメッセージ通知するとき，通知メッセージを格納したメッセージ通知文のファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

メッセージ通知文では，表 2.3-25 に示す変数が使用できます。

メッセージ通知文を省略すると，SNMP トラップ監視用の標準メッセージ通知文を使用します。

ここで指定したメッセージ通知文は，teldial コマンドの -fm，-fdp，-fc オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの -fm，-fdp，-fc オプションを参照してください。

(f) 「メールにファイルを添付する」チェックボックス

メールに通知するときで，メールにファイルを添付する場合，ここをチェックします。

(g) 「添付ファイル」テキストボックス

メールに添付するファイルを指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません

ここで指定した添付ファイルは，teldial コマンドの-fa オプションに使用します。

詳細は，teldial コマンドの-fa オプションを参照してください。

(h) 「圧縮して添付する」チェックボックス

メールに添付するファイルは圧縮して添付する場合，ここをチェックします。
圧縮したファイルのファイル拡張子は，cab になります。

(i) 「表示ボードメッセージ」テキストボックス

表示ボードに通知するメッセージを指定します。

表示ボードメッセージを文字で指定する場合は，「文字」ラジオボタンを，通知メッセージを格納した表示ボード通知文のファイル名を指定する場合は，「ファイル」ラジオボタンを選択します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

表示ボードメッセージを省略すると，SNMP トラップ監視用の標準表示ボード通知文を使用します。

表示ボード通知文指定では，表 2.3-25 に示す変数が使用でき，文字指定の表示ボードメッセージでは，次の SNMP トラップ監視の変数が使用できます。
~snmptrap_GroupName~，~snmptrap_agentAddress~，~snmptrap_sourceAddress~，~snmptrap_enterprise~，~snmptrap_genericTrap~，~snmptrap_specificTrap~，~snmptrap_community~

ここで指定した表示ボードメッセージは，teldial コマンドの-s1 オプションに，表示ボード通知文では-fs1 オプションを使用します。詳細は，teldial コマンドの-s1，-fs1 オプションを参照してください。

(j) 「FAXメッセージ」テキストボックス

FAX に通知するとき，通知メッセージを格納した FAX 通知文のファイル名を指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

FAX 通知文では，表 2.3-25 に示す変数が使用できます。

FAX 通知文を省略すると，SNMP トラップ監視用の標準 FAX 通知文を使用します。

ここで指定した FAX 通知文は，teldial コマンドの-ff オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-ff オプションを参照してください。

(k) 「Wavファイル」テキストボックス

デスクトップ通知時にオーディオメディアファイルを再生させるとき，オーディオメディアファイルのファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ここで指定したオーディオメディアファイルは，teldial コマンドの-fdw オプションに使

用します。詳細は，teldial コマンドの-fdw オプションを参照してください。

(l) 「読み上げメッセージ」テキストボックス

デスクトップ通知時にメッセージを読み上げさせるとき，通知メッセージを格納した読み上げ通知文のファイル名を指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

読み上げ通知文では，表 2.3-25 に示す変数が使用できます。

読み上げ通知文を省略すると，SNMP トラップ監視用の標準読み上げ通知文を使用します。ここで指定した読み上げ通知文は，teldial コマンドの-fdt オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fdt オプションを参照してください。

(m) ［フレーム指定］ボタン

デスクトップ通知の各フレームに表示する画像の指定ダイアログボックスを表示します。

フレームに表示する画像の指定ダイアログボックスは，図 4.11-18 を参照してください。

4.13 ディスク容量監視の設定

4.13.1ディスク容量監視の設定について

ディスク容量監視は，ネットワークドライブおよび外部デバイス以外のディスクや FAT16，FAT32 および NTFS ファイルシステムのディスクについて，設定した監視「しきい値」でディスクの使用状況の監視，または未使用状況の監視を行い，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。

また，ディスクの使用状況を定期的に統計情報として出力することができます。

関係者への通知は，監視「しきい値」に到達したとき，または監視「しきい値」以前に戻った時に通知する 2 通りの方法があり，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」の 4 つの監視レベル毎に監視ができます。

■機能の利用について

- ディスク容量監視では，監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。
- ディスク容量監視は AEPE, AESE, AECL で使用できます。
- ディスク容量監視の設定は，Administrators 権限ユーザで，ディスク容量監視ダイアログボックス（図 4.13-1）で設定します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。
- ディスク容量監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【ディスク容量監視の設定】を選択して表示します。

■留意事項

・特に無し

4.13.2ディスク容量監視ダイアログボックス

ディスク容量監視方法を設定します。ディスク容量監視ダイアログボックスを図 4.13-1 に示します。

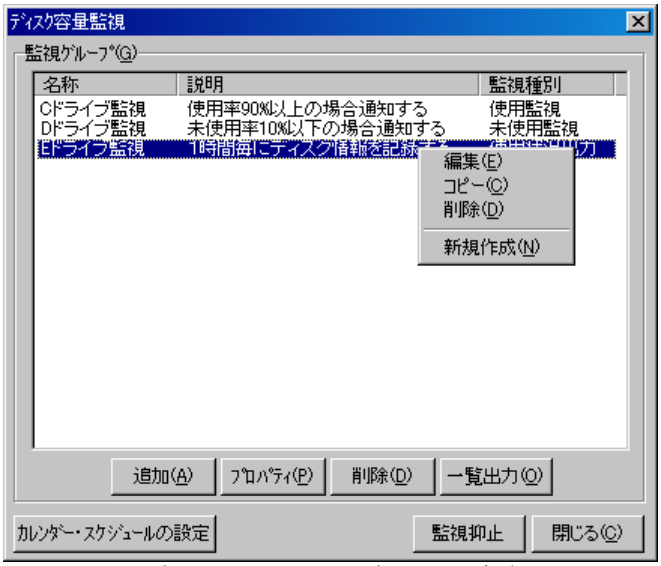


図 4.13-1　ディスク容量監視ダイアログボックス

(1)　「監視グループ」フィールド

ディスク容量監視設定ダイアログボックスで設定した，監視グループの名称を表示します。

監視グループを選択して右クリックすると，ポップアップメニューが表示され，ディスク容量監視グループの編集・コピー・削除・新規作成ができます。

(a)　「名称」項目

ディスク容量監視設定ダイアログボックスで設定した，監視グループの名称を表示します。

(b)　「説明」項目

ディスク容量監視設定ダイアログボックスで設定した，監視グループの説明を表示します。

(c)　「監視種別」項目

ディスク容量監視設定ダイアログボックスで設定した，監視グループの監視種別を表示します。

●使用状況出力

「ディスク容量監視設定ダイアログボックス」―「全般タブ」―「ディスク使用状況を統計情報として出力する」チェックボックスにチェックしたとき表示します。

●使用監視

「ディスク容量監視設定ダイアログボックス」―「全般タブ」―「監視種別」で「使用監視」を選択したとき表示します。

●未使用監視

「ディスク容量監視設定ダイアログボックス」―「全般タブ」―「監視種別」で「未使用監視」を選択したとき表示します。

(d)　［追加］ボタン

新規にディスク容量監視グループの設定を追加するため，ディスク容量監視設定ダイアログボックス（図 4.13-5）を開きます。

(e)　［プロパティ］ボタン

監視グループ一覧で選択されたディスク容量監視グループのディスク容量監視設定ダイアログボックス（図 4.13-5）を開きます。

(f)　［削除］ボタン

監視グループ一覧で選択されたディスク容量監視グループを削除します。ディスク容量監視グループを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(g)　［一覧出力］ボタン

「監視グループ一覧」フィールドに表示されている監視グループの監視内容の一覧をファイルに保存します。

(h)　［カレンダー・スケジュールの設定］ボタン

カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスを開きます。

(i)　［監視抑止］ボタン

すべての監視ディスクに対する監視を抑止します。ディスク容量監視が［監視抑止］ボタンの操作により抑止されている場合には表示されません。

(j)　［監視開始］ボタン

すべての監視ディスクに対する監視を再開します。ディスク容量監視が［監視抑止］ボタンの操作により抑止されている場合に表示されます。

4.13.3カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックス

ディスク容量監視全体のカレンダとスケジュールを設定します。カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスを図 4.13-2 に示します。

図 4.13-2　カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックス

(1) 「カレンダー」フィールド

ディスク容量監視全体で使用するカレンダーを指定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のディスク容量監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

カレンダーダイアログボックスを図 4.13-3 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，TELstaff のシステムカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてディスク容量監視独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。

図 4.13-3 カレンダーダイアログボックス

(2) 「スケジュール」フィールド

ディスク容量監視全体で使用する監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のディスク容量監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。ディスク容量監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。

スケジュールダイアログボックスを図 4.13-4 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，ディスク容量監視のスケジュールはしないで，常に監視します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてディスク容量監視独自のスケジュールを設定します。ディスク容量監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力とディスク容量監視は継続されます。

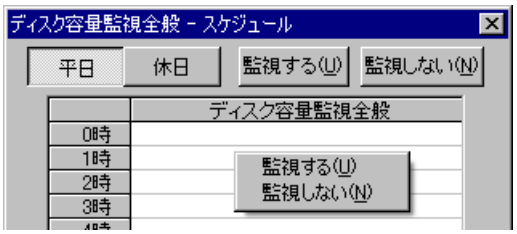


図 4.13-4 スケジュールダイアログボックス

4.13.4 ディスク容量監視設定ダイアログボックス

(1) ディスク容量監視設定－「全般」タブ

ディスク容量監視の全般を設定します。ディスク容量監視設定－「全般」タブを図 4.13-5 に示します。

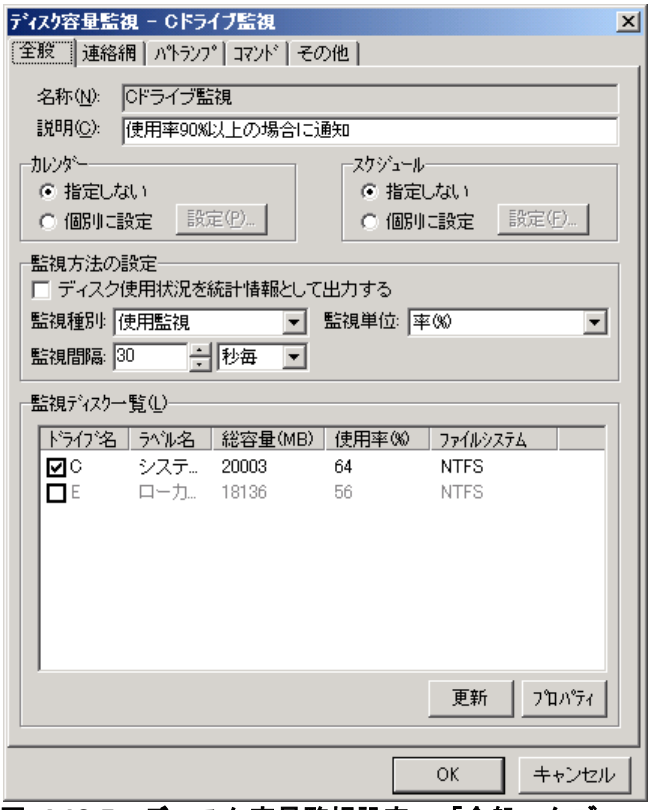


図 4.13-5　ディスク容量監視設定ー「全般」タブ

(a)　「名称」テキストボックス

ディスク容量監視の監視グループの名称を，半角で 20 文字（全角で 10 文字）以内で設定します。既に登録されているディスク容量監視名称は変更できません。ディスク容量監視グループ名を変更する場合は，一度削除してから再度登録してください。

ディスク容量を監視する場合，監視する 1 つのディスクを選択してディスク容量監視グループを作成します。ディスク容量監視グループで，監視するディスクごとに通知先を変更できます。ディスク容量監視グループに，次の文字および半角空白文字を使用できません。

" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ;

(b)　「説明」テキストボックス

ディスク容量監視ダイアログボックスの「監視グループ」フィールドに表示する，ディスク容量監視グループに対する説明文を設定します。

(c)　「カレンダー」フィールド

ディスク容量監視グループごとのカレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のディスク容量監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。カレンダーダイアログボックスを図 4.13-6 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，ディスク容量監視全体のカレンダーを使用します。ディスク容量監視全体のカレンダーは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。

- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてディスク容量監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，ディスク容量監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.13-6　カレンダーダイアログボックス

(d)　「スケジュール」フィールド

ディスク容量監視グループごとの監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のディスク容量監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。ディスク容量監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。

スケジュールダイアログボックスを図 4.13-7 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，ディスク容量監視全体のスケジュールを使用します。ディスク容量監視全体のスケジュールは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてディスク容量監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。ディスク容量監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力とディスク容量監視は継続されます。

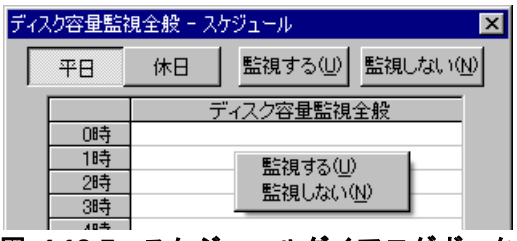


図 4.13-7　スケジュールダイアログボックス

(e)　「ディスク使用状況を統計情報として出力する」チェックボックス

ディスク使用状況を統計情報として出力します。このチェックボックスにチェックするには，あらかじめ，「環境設定」-「統計情報タブ」-「ディスク使用状況統計情報」を出力するよう設定して下さい。出力しない設定の場合は，このチェックボックスをチェックできません。本チェックボックスをチェックした後，出力しない設定に変更した場合は，統計情報を出力しません。

本チェックボックスをチェックしたとき，監視種別は「使用状況出力」となります。

(f) 「監視種別」ドロップダウンリスト

ディスクの使用状況を監視するときは「使用監視」を，ディスクの未使用状況を監視するときは「未使用監視」を選択します。

「ディスク使用状況を統計情報として出力する」チェックボックスにチェックした場合は，このドロップダウンリストは使用できません。このドロップダウンリストを変更した場合，「ディスク容量監視のプロパティダイアログボックス」で設定した「しきい値」は標準値に自動設定されます。

(g) 「監視単位」ドロップダウンリスト

「ディスク使用状況を統計情報として出力する」チェックボックスにチェックした場合は，このドロップダウンリストは使用できません。このドロップダウンリストを変更した場合，「ディスク容量監視のプロパティダイアログボックス」で設定した「しきい値」は標準値に自動設定されます。

●率（%）

ディスクの使用状況や未使用状況を，ディスクの総容量に対する割合で監視するとき選択します。

●容量値（MB，kB）

ディスクの使用状況や未使用状況を，ディスクの総容量に対する容量値で監視するとき選択します。標準では，MB で監視します。kB で監視する場合は，「ディスク容量監視のプロパティダイアログボックス」で設定します。

(h) 「監視間隔」スピンボックス

ディスク容量監視の監視間隔を秒毎（1～999），分毎（1～999），時間毎（1～24），日毎（1～31），週毎（1～5），月毎（1～12）のいずれかで設定します。監視種別が「使用状況出力」のとき，「秒毎」「分毎」の監視はできません。

(i) 「監視間隔」ドロップダウンリスト

ディスク容量監視の監視間隔の単位を秒毎・分毎・時間毎・日毎・週毎・月毎のいずれかで設定します。

(j) 「監視ディスク一覧」フィールド

現在利用可能なディスク情報を表示します。ネットワークドライブ，外部デバイスのディスクや FAT16，FAT32 および NTFS 以外のディスクは表示しません。

ドライブ名の前にあるチェックボックスをチェックして，監視ディスクを 1 つ選択します。選択できる監視ディスクは 1 つです。

監視ディスクを変更した場合，次のようなときに，「しきい値」が変更後の監視ディスクの標準値に自動設定されます。

1. 「監視単位」ドロップダウンリストで「率（%）」を設定している場合で，「ディスク容量監視のプロパティダイアログボックス」で設定した「しきい値」が，変更後の監視ディスクで設定できる「しきい値」範囲外のとき
2. 「監視単位」ドロップダウンリストで「容量値（MB,KB）」を設定しているとき

● ドライブ名
ディスクに設定されている「ドライブ文字」を表示します。

● ラベル名
ディスクに設定されている「ボリュームラベル」を表示します。

● 総容量(MB)
ディスクに設定されている「ディスク領域」を表示します。

● 使用率(%)
ディスクに設定されている「ディスク領域」に対する使用領域を割合で表示します。

● ファイルシステム
ディスクに設定されている「ファイルシステム」を表示します。

(k) ［更新］ボタン

「監視ディスク一覧」フィールドのディスク情報を更新表示します。選択した監視ディスクが削除された場合，「ディスク領域」が変更された場合，システムドライブがシステムドライブでなくなった場合(その逆も含む)，再度，監視ディスクを選択します。

(l) ［プロパティ］ボタン

監視ディスクの「ディスク容量監視のプロパティダイアログボックス」を表示します。「ディスク容量監視のプロパティダイアログボックス」で監視ディスクの「しきい値」を設定します。「ディスク使用状況を統計情報として出力する」チェックボックスにチェックした場合は，このボタンは使用できません。

(2) ディスク容量監視設定－「連絡網」タブ

ディスク容量監視で通知する連絡網の設定をします。連絡網を使用した通知は，ディスク容量監視が teldial コマンドを使用して通知を行います。ディスク容量監視設定－「連絡網」タブを，図 4.13-8 に示します。

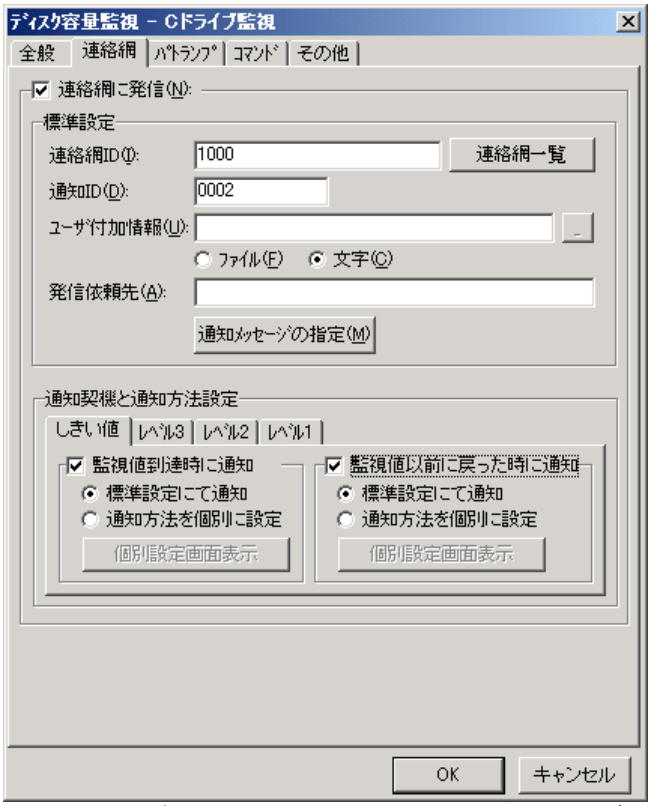


図 4.13-8　ディスク容量監視設定ー「連絡網」タブ

(a)　「連絡網に発信」チェックボックス

監視レベルに到達したときに，連絡網に発信する場合，ここをチェックします。

(b)　「標準設定」フィールド

標準の連絡網通知方法を設定します。「通知契機と通知方法設定」フィールドにおいて，「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスにチェックし，「標準設定にて通知」ラジオボタンを選択している場合，本フィールドで設定した方法で，連絡網通知を行います。

(c)　「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

ここで指定した連絡網 ID は，teldial コマンドの-ni オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-ni オプションを参照してください。

監視レベルに到達したとき，または到達以前に戻ったとき，複数の連絡網（ID）に対して発信できます。

連絡網 ID を複数指定するときは「，」（半角カンマ）区切りで指定します。

連絡網への発信では，ディスク容量監視が teldial コマンドを実行して発信を行います。

連絡網 ID を複数指定すると，指定した連絡網 ID について同じオプションを使用した teldial コマンドを実行します。

連絡網 ID を多数指定した場合，発信要求が多数キューイングされ発信の滞留と遅延が発生する以外に，システムのリソースを消費しアプリケーションの実行や Windows シス

テムなど全体に影響を与える場合があります。

(d) ［連絡網一覧］ボタン

連絡網 ID 一覧から通知する連絡網 ID を選択するために連絡網 ID の選択ダイアログボックス（図 4.11-16）を表示します。AECL では使用できません。

(e) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

ここで指定した通知 ID は，teldial コマンドの-id オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-id オプションを参照してください。

通知 ID は，通知するメッセージテキスト中の「~id2~」変数と置き換えられます。

通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。

(f) 「ユーザ付加情報」テキストボックス

ユーザ付加情報を文字で指定する場合は「文字」ラジオボタンを，ユーザ付加情報を格納したファイル名で指定する場合は「ファイル」ラジオボタンを選択します。

ユーザ付加情報は，通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えられます。ユーザ付加情報をファイル名で指定する場合は，FAX 送信ファイルと電話通知文ファイルに~UserInformation~ 変数は，使用できません。

●「文字」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（すべて全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，ファイルを使用してください。

ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。ユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

ユーザ付加情報を「；」（半角セミコロン）で区切ると複数行に分割でき，「；」は，改行コードに置き換えられて挿入されます。

ユーザ付加情報を文字で指定する場合は，teldial コマンドの-u オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-u オプションを参照してください。

ユーザ付加情報には，表 4.13-1 に示すディスク容量監視の変数が使用できます。

表 4.13-1 使用できる変数

使用できる変数	
~DiskcapDetectReason~	~DiskcapMonGroupName~
~DiskcapDetectValue~	~DiskcapPreComparity~
~DiskcapDiskDriveFsys~	~DiskcapRateCrtFree~
~DiskcapDiskDriveLabel~	~DiskcapRateCrtUsed~
~DiskcapDiskDriveName~	~DiskcapReachCount~
~DiskcapExplanation~	~DiskcapValueUnit~

使用できる変数	
~DiskcapExplanation1~	~DiskcapVolCrtFreeMB~
~DiskcapLevel~	~DiskcapVolCrtUsedMB~
~DiskcapLevelValue~	~DiskcapVolMaxUsedMB~
~DiskcapMethod~	~DiskcapVolTotal~
~DiskcapMonBy~	

●「ファイル」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を，ファイル完全名で指定するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ユーザ付加情報をファイル名で指定する場合は，teldial コマンドの-uf オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-uf オプションを参照してください。

ユーザ付加情報を格納したファイルには，表 4.13-1 に示すディスク容量監視の変数が使用できます。

(g) 「発信依頼先」テキストボックス

ディスク容量監視の通知を発信依頼する AEPE, AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

ここで設定した内容は，「標準設定にて通知」および「通知方法を個別に設定」でも適用されます。

ここで指定した発信依頼先は，teldial コマンドの-to オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-to オプションを参照してください。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

指定のない場合は自コンピュータで発信を行います。

発信依頼には，「2.3.1(1)(h) 発信依頼」に示す注意事項があります。

(h) ［通知メッセージの指定］ボタン

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスを表示します。

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスで個別の通知メッセージや通知ファイルを設定します。個別の通知メッセージや通知ファイルを使用しない場合は，ディスク容量監視の標準通知文を使用するため設定の必要はありません。

(i) 「通知契機と通知方法設定」フィールド

連絡網通知を行う通知契機と，通知方法を設定します。

通知契機は，「監視値到達時に通知」と「監視値以前に戻った時に通知」の 2 通りの方法があり，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」の監視レベル毎に設定します。

複数レベルを同時に満たした場合の通知動作例を表 4.13-2 に示します。

表 4.13-2　複数レベルを同時に満たした場合の通知動作例

監視時点の状態例	通知動作
レベル 1～しきい値すべてを満たす場合	しきい値で通知
レベル 1 とレベル 2 を満たす場合	レベル 2 で通知
レベル 2 とレベル 3 を満たす場合	レベル 3 で通知

通知方法は，「標準設定にて通知」と「通知方法を個別に設定」の 2 通りの方法があり，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」の監視レベル毎に設定します。

(j)　「監視値到達時に通知」チェックボックス

通知契機を監視値到達時に通知するときチェック（標準)します。

監視値以前に戻った場合で，再び監視値に到達すると監視値に到達したことを通知します。

(k)　「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックス

通知契機を監視値以前に戻った時に通知するときチェックします。

監視値に到達した場合で，再び監視値以前に戻ると監視値以前に戻ったことを通知します。

(l)　「標準設定にて通知」ラジオボタン

「標準設定」フィールドで設定した，標準の連絡網通知方法で連絡網通知を行うとき選択します。「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスがチェックされていない場合は，このラジオボタンは使用できません。

(m)　「通知方法を個別に設定」ラジオボタン

「標準設定」フィールドで設定した標準の連絡網通知方法で連絡網通知を行わず，個別に設定した連絡網通知方法で連絡網通知を行うとき選択します。「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスがチェックされていない場合は，このラジオボタンは使用できません。

(n)　［個別設定画面表示］ボタン

連絡網通知方法を個別に設定するとき選択します。個別設定の連絡網通知設定ダイアログボックスを表示します。「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスがチェックされておらず，「通知方法を個別に設定」ラジオボタンが選択されていない場合は，このボタンは使用できません。

(3) ディスク容量監視設定－「パトランプ」タブ

ディスク容量監視で通知するパトランプの設定をします。

パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。ディスク容量監視設定－「パトランプ」タブを，図 4.13-9 に示します。

このタブは，AECL では表示されません。

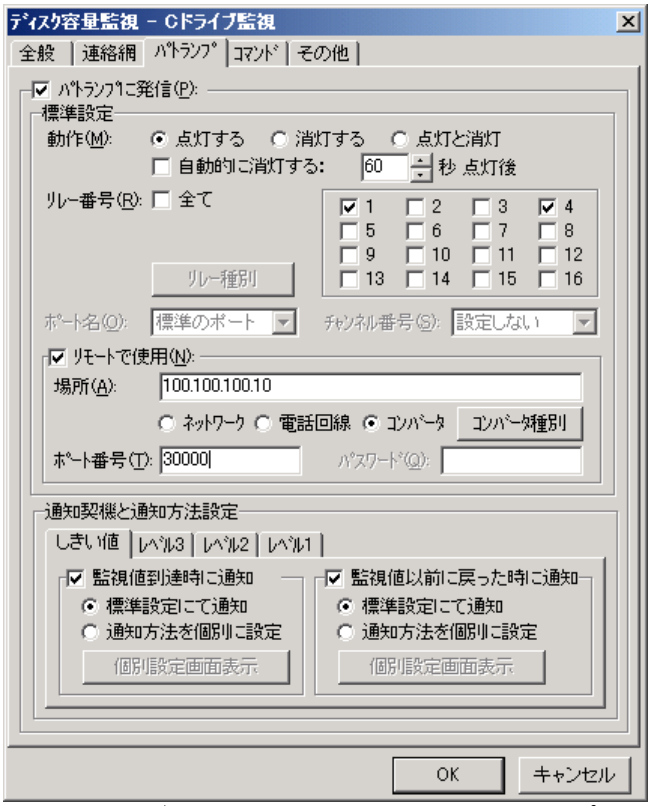


図 4.13-9　ディスク容量監視設定ー「パトランプ」タブ

(a)　「パトランプに発信」チェックボックス

監視レベルに到達したときに，または到達以前に戻ったとき，パトランプに発信する場合，ここをチェックします。

(b)　「標準設定」フィールド

標準のパトランプへの方法を設定します。「通知契機と通知方法設定」フィールドにおいて，「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスにチェックし，「標準設定にて通知」ラジオボタンを選択している場合，本フィールドで設定した方法で，パトランプに発信を行います。

設定方法の詳細は，「4.11.4(3) サービス監視設定ー「パトランプ」タブ」を参照してください。

(c)　「通知契機と通知方法設定」フィールド

パトランプに発信を行う通知契機と，通知方法を設定します。

通知契機は，「監視値到達時に通知」と「監視値以前に戻った時に通知」の 2 通りの方法があり，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」の監視レベル毎に設定します。

複数レベルを同時に満たした場合の通知動作例は，表 4.13-2 を参照してください。

通知方法は，「標準設定にて通知」と「通知方法を個別に設定」の 2 通りの方法があり，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」の監視レベル毎に設定します。

(d) 「監視値到達時に通知」チェックボックス

通知契機を監視値到達時に通知するときチェック（標準)します。

監視値以前に戻った場合で，再び監視値に到達すると監視値に到達したことを通知します。

(e) 「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックス

通知契機を監視値以前に戻った時に通知するときチェックします。

監視値に到達した場合で，再び監視値以前に戻ると監視値以前に戻ったことを通知します。

(f) 「標準設定にて通知」ラジオボタン

「標準設定」フィールドで設定した，標準のパトランプ通知方法でパトランプ通知を行うとき選択します。「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスがチェックされていない場合は，このラジオボタンは使用できません。

(g) 「通知方法を個別に設定」ラジオボタン

「標準設定」フィールドで設定した標準のパトランプ通知方法でパトランプ通知を行わず，個別に設定したパトランプ通知方法でパトランプ通知を行うとき選択します。「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスがチェックされていない場合は，このラジオボタンは使用できません。

(h) ［個別設定画面表示］ボタン

パトランプ通知方法を個別に設定するとき選択します。個別設定のパトランプ通知設定ダイアログボックスを表示します。「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスがチェックされておらず，「通知方法を個別に設定」ラジオボタンが選択されていない場合は，このボタンは使用できません。

(4) ディスク容量監視設定－「コマンド」タブ

ディスク容量監視で実行するコマンドの設定をします。

ディスク容量監視設定－「コマンド」タブを，図 4.13-10 に示します。

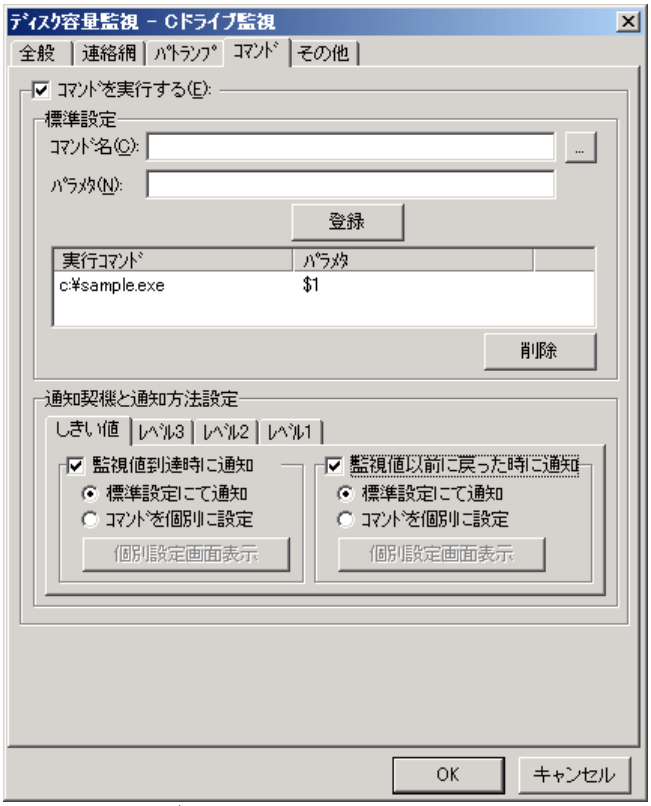


図 4.13-10　ディスク容量監視設定ー「コマンド」タブ

(a)　「コマンドを実行する」チェックボックス

監視レベルに到達したときに，コマンドを実行する場合チェックします。

(b)　「標準設定」フィールド

標準のコマンド実行方法を設定します。「通知契機と通知方法設定」フィールドにおいて，「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスにチェックし，「標準設定にて通知」ラジオボタンを選択している場合，本フィールドで設定した方法で，コマンド実行を行います。

(c)　「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択します。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

ここで指定したコマンドの実行時間が 30 分経過しても終了しない場合は，実行を打ち切ります。

(d)　「パラメタ」テキストボックス

実行するコマンドのパラメタを指定します。

コマンドパラメタには，表 4.13-1 に示すディスク容量監視の変数が使用できます。

(e) ［登録］ボタン

「コマンド名」テキストボックスに指定したコマンドを登録します。［登録］ボタンを押すと「実行コマンド」リストボックスにコマンド名が表示されます。

(f) ［削除］ボタン

「実行コマンド」リストボックスで選択されたコマンドを削除します。

(g) 「実行コマンド」リストボックス

登録したコマンドの一覧を表示します。登録したコマンドの変更は，次の操作で変更できます。

1. 「実行コマンド」リストボックスで変更するコマンドを選択します。
2. ダブルクリックで登録コマンドの内容を「コマンド名」テキストボックスと「パラメタ」テキストボックスに表示させます。
3. コマンドを変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するコマンドの選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

(h) 「通知契機と通知方法設定」フィールド

コマンド実行を行う通知契機と，通知方法を設定します。

通知契機は，「監視値到達時に通知」と「監視値以前に戻った時に通知」の 2 通りの方法があり，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」の監視レベル毎に設定します。

複数レベルを同時に満たした場合の通知動作例は，表 4.13-2 を参照してください。

通知方法は，「標準設定にて通知」と「通知方法を個別に設定」の 2 通りの方法があり，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」の監視レベル毎に設定します。

(i) 「監視値到達時に通知」チェックボックス

通知契機を監視値到達時に通知するときチェック（標準)します。
監視値以前に戻った場合で，再び監視値に到達すると監視値に到達したことを通知します。

(j) 「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックス

通知契機を監視値以前に戻った時に通知するときチェックします。
監視値に到達した場合で，再び監視値以前に戻ると監視値以前に戻ったことを通知します。

(k) 「標準設定にて通知」ラジオボタン

「標準設定」フィールドで設定した，標準のコマンド実行方法でコマンド実行を行うとき選択します。「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスがチェックされていない場合は，このラジオボタンは使用できません。

(l)　「通知方法を個別に設定」ラジオボタン

「標準設定」フィールドで設定した標準のコマンド実行方法でコマンド実行を行わず，個別に設定したコマンド実行方法でコマンド実行を行うとき選択します。「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスがチェックされていない場合は，このラジオボタンは使用できません。

(m)　［個別設定画面表示］ボタン

コマンド実行方法を個別に設定するとき選択します。個別設定のコマンド通知設定ダイアログボックスを表示します。「監視値到達時に通知」チェックボックス，または「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックスがチェックされておらず，「通知方法を個別に設定」ラジオボタンが選択されていない場合は，このボタンは使用できません。

(5)　ディスク容量監視設定ー「その他」タブ

ディスク容量監視で通知する Messenger サービスメッセージ，メール通知の設定をします。

ディスク容量監視設定ー「その他」タブを，図 4.13-11 に示します。

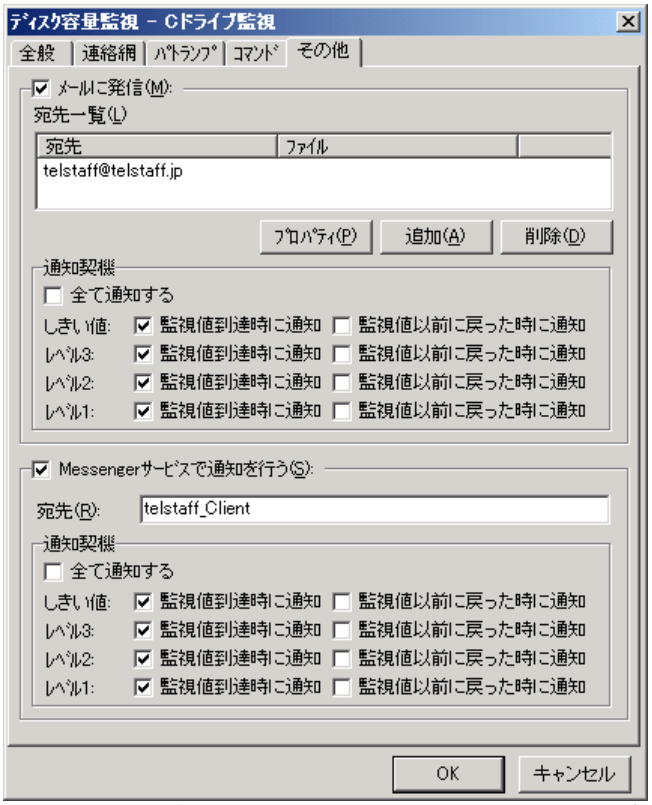


図 4.13-11　ディスク容量監視設定ー「その他」タブ

(a)　「メールに発信」チェックボックス

監視レベルに到達したときに，メールに通知をする場合，ここをチェックします。

(b)　［プロパティ］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，宛先情報を変更します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.13-12 に示します。

(c)　［追加］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，メール通知する宛先を設定します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.13-12 に示します。

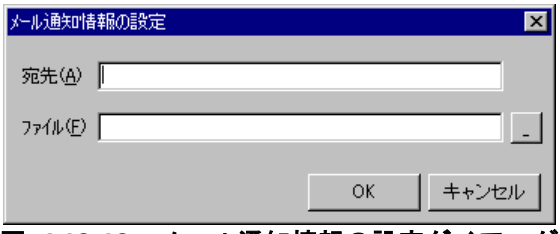


図 4.13-12　メール通知情報の設定ダイアログボックス

- **「宛先」テキストボックス**

発信通知するメールのメールアドレスを指定します。

- **「ファイル」テキストボックス**

メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，ディスク容量監視用の標準メッセージ通知文を使用します。ディスク容量監視用の標準メッセージ通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

標準メッセージ通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

メッセージ通知文では，表 4.13-1 に示す変数が使用できます。

(d)　［削除］ボタン

選択した宛先情報を削除します。

(e)　「通知契機」フィールド-メールに発信

メール通知を行う通知契機を設定します。

通知契機は，「監視値到達時に通知」と「監視値以前に戻った時に通知」の 2 通りの方法があり，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」の監視レベル毎に設定します。

複数レベルを同時に満たした場合の通知動作例は，表 4.13-2 を参照してください。

(f) 「全て通知する」チェックボックス-メール通知

すべての監視レベルで監視値到達時，および監視値以前に戻った時を契機にメール通知を行う場合，ここをチェックします。

(g) 「監視値到達時に通知」チェックボックス-メール通知

通知契機を監視値到達時に通知するときチェック（標準）します。

監視値以前に戻った場合で，再び監視値に到達すると監視値に到達したことを通知します。

「全て通知する」チェックボックスをチェックしている場合は，このチェックボックスは使用できません。

(h) 「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックス-メール通知

通知契機を監視値以前に戻った時に通知するときチェックします。

監視値に到達した場合で，再び監視値以前に戻ると監視値以前に戻ったことを通知します。

「全て通知する」チェックボックスをチェックしている場合は，このチェックボックスは使用できません。

(i) 「Messengerサービスで通知を行う」チェックボックス

監視レベルに到達したときに，Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知を使用して通知する場合，ここをチェックします。両者の違いや注意事項については 2.3.1(12)を参照してください。

メッセンジャー通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，ディスク容量監視用の標準メッセンジャー通知文を使用します。ディスク容量監視用の標準メッセンジャー通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

標準メッセンジャー通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

メッセンジャー通知文では，表 4.13-1 に示す変数が使用できます。

(j) 「宛先」テキストボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知の通知先を指定します。宛先指定方法については 2.3.1(12)(c)を参照してください。なお，宛先欄に何も指定しない場合は自コンピュータに Messenger 通知を行います。

宛先は，「，」（半角カンマ）区切りで，合計の文字数がカンマを含め半角 256 文字以内で複数指定できます。

(k) 「通知契機」フィールド- Messengerサービスで通知

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知で通知を行う通知契機を設定します。

通知契機は，「監視値到達時に通知」と「監視値以前に戻った時に通知」の 2 通りの方法があり，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」の監視レベル毎に設定します。

複数レベルを同時に満たした場合の通知動作例は，表 4.13-2 を参照してください。

(l) 「全て通知する」チェックボックス- Messengerサービスで通知

すべての監視レベルで監視値到達時，および監視値以前に戻った時を契機に通知を行う場合，ここをチェックします。

(m) 「監視値到達時に通知」チェックボックス- Messengerサービスで通知

通知契機を監視値到達時に通知するときチェック（標準)します。

監視値以前に戻った場合で，再び監視値に到達すると監視値に到達したことを通知します。

「全て通知する」チェックボックスをチェックしている場合は，このチェックボックスは使用できません。

(n) 「監視値以前に戻った時に通知」チェックボックス- Messengerサービスで通知

通知契機を監視値以前に戻った時に通知するときチェックします。

監視値に到達した場合で，再び監視値以前に戻ると監視値以前に戻ったことを通知します。

「全て通知する」チェックボックスをチェックしている場合は，このチェックボックスは使用できません。

4.13.5ディスク容量監視のプロパティダイアログボックス

ディスク容量監視のプロパティダイアログボックスで監視ディスクの監視方法を設定します。

ディスク容量監視のプロパティダイアログボックスを図 4.13-13 に示します。

図 4.13-13　ディスク容量監視のプロパティダイアログボックス

(a)　「項目」リストボックス

「ディスク容量監視設定ダイアログボックス」-「全般」タブ-「監視ディスク一覧」フィールドで選択した，監視ディスクの現在の情報を表示します。

(b)　「しきい値設定」フィールド

監視ディスクの「しきい値」を設定します。

(c)　「率」テキストボックス

「ディスク容量監視設定ダイアログボックス」-「全般」タブ-「監視単位」ドロップダウンリストで「率（%）」選択したとき，「しきい値」を設定します。

「容量値（MB,KB）」を選択したとき，このテキストボックスは使用できません。設定できる「しきい値」外の値や半角数字以外の文字列を入力した場合は，「しきい値」を自動的に標準値に設定します。

「しきい値」の標準値は，「ディスク容量監視設定ダイアログボックス」-「全般」タブ-「監視種別」ドロップダウンリストで「使用監視」を選択している場合は 90%，「未使用監視」を選択している場合は 10%です。

設定できる「しきい値」は，監視ディスクにより異なります。設定できる監視範囲を表 4.13-3 に示します。

表 4.13-3　設定できる「しきい値」の範囲

監視種別	システムドライブ	システムドライブ以外
使用監視	1%～90%	1%～99%
未使用監視	10%～99%	1%～99%

(d)　「容量値」テキストボックス

「ディスク容量監視設定ダイアログボックス」-「全般」タブ-「監視単位」ドロップダウンリストで「容量値（MB，または kB）」を選択したとき，「しきい値」を設定します。「率（%）」を選択したとき，このテキストボックスは使用できません。設定できる「し

きい値」外の値や半角数字以外の文字列を入力した場合は，「しきい値」を自動的に標準値に設定します。

「しきい値」の標準値は，「ディスク容量監視設定ダイアログボックス」-「全般」タブ-「監視種別」ドロップダウンリストの設定と「容量値」ドロップダウンリストの設定により異なります。「容量値」毎の「しきい値」の標準値を表 4.13-4 に示します。

表 4.13-4 「容量値」毎の「しきい値」の標準値

監視種別	容量値が MB の場合	容量値が kB の場合
使用監視	総容量（MB）の 90%	総容量（kB）の 90%
未使用監視	総容量（MB）の 10%	総容量（kB）の 10%

設定できる「容量値」毎の「しきい値」は，監視ディスクにより異なります。設定できる「容量値」毎の監視範囲を表 4.13-5，および表 4.13-6 に示します。

表 4.13-5 システムドライブの「しきい値」の監視範囲

監視種別	容量値が MB の場合	容量値が kB の場合
使用監視	総容量（MB）の 1%～90%	総容量（kB）の 1%～90%
未使用監視	総容量（MB）の 10%～99%	総容量（kB）の 10%～99%

表 4.13-6 システムドライブ以外の「しきい値」の監視範囲

監視種別	容量値が MB の場合	容量値が kB の場合
使用監視	総容量（MB）の 1%～99%	総容量（kB）の 1%～99%
未使用監視	総容量（MB）の 1%～99%	総容量（kB）の 1%～99%

(e) 「容量値」ドロップダウンリスト

「ディスク容量監視設定ダイアログボックス」-「全般」タブ-「監視単位」ドロップダウンリストで「容量値（MB，または kB）」を選択したとき，「しきい値」の単位を設定します。「率（%）」を選択したとき，このテキストボックスは使用できません。

●MB

「しきい値」を総容量（MB）で設定します。

●KB

「しきい値」を総容量（kB）で設定します。

(f) 「警告段階の監視値設定」フィールド

監視ディスクの「警告段階の監視値」を設定します。警告段階は，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」の 3 段階です。「しきい値」と警告段階の監視値の関係は，「ディスク容量監視設定ダイアログボックス」-「全般」タブ-「監視種別」ドロップダウンリストの設定により，以下の通りです。

●使用監視

レベル１≦レベル２≦レベル３≦しきい値

●未使用監視

しきい値≦レベル３≦レベル２≦レベル１

レベル毎の標準監視値を表 4.13-7 示します。

表 4.13-7　レベル毎の標準監視値

監視種別	使用監視の場合	未使用監視の場合
レベル 3	80%	20%
レベル 2	70%	30%
レベル 1	60%	40%

(g)　「警告段階の監視値設定」フィールドのスライダ

監視ディスクの「警告段階の監視値」を設定します。

(h)　「警告段階の監視値設定」フィールドのテキストボックス

「警告段階の監視値設定」フィールドのスライダで設定した，監視ディスクの「警告段階の監視値」を表示します。このテキストボックスで，「警告段階の監視値」は設定できません。

4.13.6個別設定の連絡網通知設定ダイアログボックス

個別設定の連絡網通知設定ダイアログボックスで，連絡網通知方法を個別に設定します。個別設定の連絡網通知設定ダイアログボックスを図 4.13-14 に示します。

図 4.13-14　個別設定の連絡網通知設定ダイアログボックス

(a)　「監視値: 通知契機」ラベル

個別設定する監視値と通知契機を表示します。監視値は，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」のいずれかで表示し，通知契機名は，「監視値に到達した時」，「監視値以前に戻った時」のいずれかを表示します。

(b)　その他の設定項目

ディスク容量監視設定ー「連絡網」タブ（図 4.13-8）を参照してください。

4.13.7個別設定のパトランプ通知設定ダイアログボックス

個別設定のパトランプ通知設定ダイアログボックスで，パトランプ通知方法を個別に設定します。個別設定のパトランプ通知設定ダイアログボックスを図 4.13-15 に示します。

図 4.13-15　個別設定のパトランプ通知設定ダイアログボックス

(a)　「監視値: 通知契機」ラベル

個別設定する監視値と通知契機を表示します。監視値は，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」のいずれかで表示し，通知契機名は，「監視値に到達した時」，「監視値以前に戻った時」のいずれかを表示します。

(b)　その他の設定項目

ディスク容量監視設定ー「パトランプ」タブ（図 4.13-9）を参照してください。

4.13.8個別設定のコマンド通知設定ダイアログボックス

個別設定のコマンド通知設定ダイアログボックスで，コマンド実行方を個別に設定します。個別設定のコマンド通知設定ダイアログボックスを図 4.13-16 に示します。

図 4.13-16　個別設定のコマンド通知設定ダイアログボックス

(a)　「監視値: 通知契機」ラベル

個別設定する監視値と通知契機を表示します。監視値は，「レベル 1」，「レベル 2」，「レベル 3」，「しきい値」のいずれかで表示し，通知契機名は，「監視値に到達した時」，「監視値以前に戻った時」のいずれかを表示します。

(b)　その他の設定項目

ディスク容量監視設定ー「その他」タブ（図 4.13-10）を参照してください。

4.13.9連絡網メッセージの指定ダイアログボックス

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスで個別の通知メッセージや通知ファイルを設定します。個別の通知メッセージや通知ファイルを使用しない場合は，ディスク容量監視の標準通知文を使用するため設定の必要はありません。

通知内容と連絡網に必要な通知メディア一覧を表 4.13-8 に，連絡網メッセージの指定ダイアログボックスを図 4.13-17 に示します。

表 4.13-8　通知内容と連絡網に必要な通知メディア一覧

通知内容	省略時	使用ｵﾌﾟｼｮﾝ	連絡網に必要なメディア
電話メッセージ	標準	-fv	電話
ショートメッセージ	-	-fb, -m	SMS
メッセージファイル	標準	-fm, -fdp, -fc	※1
メールにファイル添付	-	-fa	メール
表示ボードメッセージ	標準	-fs1, -s1	表示ボード
FAX メッセージ	標準	-ff	FAX
Wav ファイル	-	-fdw	デスクトップ
読み上げメッセージ	標準	-fdt	デスクトップ
フレームへの画像通知	-	-	デスクトップ

注※１　メール通知，デスクトップ通知，エージェント通知のいずれかが必要になります。
注※２　「標準」は，省略ではディスク容量監視の標準通知文を使用。
　　「-」は，標準はなく使用する場合は指定が必要な項目。

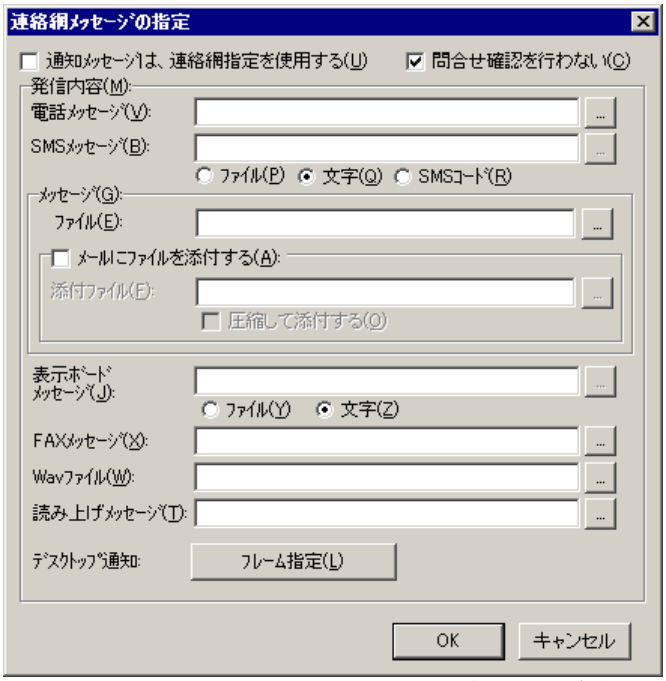


図 4.13-17　連絡網メッセージの指定ダイアログボックス

(a)　「通知メッセージは，連絡網指定を使用する」チェックボックス

すべての通知メッセージは，すべて連絡網で指定した通知メッセージを使用する場合，ここをチェックします。

連絡網で指定した通知メッセージを使用する場合，ディスク容量監視の変数は使用できません。

(b)　「問合せ確認を行わない」チェックボックス

発信が終了したとき（問合せ確認を行わないとき）発信記録を削除する場合，ここをチェックします。

詳細は，連絡網プロパティー「基本設定」タブ（図 5.3-35）の「問合わせ確認は行わない」チェックボックス，および teldial コマンドの-k オプションを参照してください。

(c)　「電話メッセージ」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納した電話通知文のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

電話通知文には，表 2.3-26 に示す変数が使用できます。

電話通知文を省略すると，ディスク容量監視用の標準電話通知文を使用します。

ここで指定した電話通知文は，teldial コマンドの-fv オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fv オプションを参照してください。

(d) 「SMSメッセージ」テキストボックス

SMS 通知で使用するメッセージを指定します。詳細は，2.3.1(3)を参照してください。

メッセージファイル指定では，表 2.3-26 に示す変数が使用でき，文字指定のメッセージでは，表 4.13-1 に示すディスク容量監視の変数が使用できます。

ここで指定したメッセージは，teldial コマンドの-m オプションに，メッセージファイルでは-fb オプションに，コードでは-w オプションを使用します。

(e) 「メッセージファイル」テキストボックス

メール，デスクトップおよび PC にメッセージ通知するとき，通知メッセージを格納したメッセージ通知文のファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

メッセージ通知文では，表 2.3-26 に示す変数が使用できます。

メッセージ通知文を省略すると，ディスク容量監視用の標準メッセージ通知文を使用します。

ここで指定したメッセージ通知文は，teldial コマンドの -fm，-fdp，-fc オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの -fm，-fdp，-fc オプションを参照してください。

(f) 「メールにファイルを添付する」チェックボックス

メールに通知するときで，メールにファイルを添付する場合，ここをチェックします。

(g) 「添付ファイル」テキストボックス

メールに添付するファイルを指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません

ここで指定した添付ファイルは，teldial コマンドの-fa オプションに使用します。

詳細は，teldial コマンドの-fa オプションを参照してください。

(h) 「圧縮して添付する」チェックボックス

メールに添付するファイルは圧縮して添付する場合，ここをチェックします。

圧縮したファイルのファイル拡張子は，cab になります。

(i) 「表示ボードメッセージ」テキストボックス

表示ボードに通知するメッセージを指定します。

表示ボードメッセージを文字で指定する場合は，「文字」ラジオボタンを，通知メッセージを格納した表示ボード通知文のファイル名を指定する場合は，「ファイル」ラジオボタンを選択します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

表示ボードメッセージを省略すると，ディスク容量監視用の標準表示ボード通知文を使用します。

表示ボード通知文指定では，表 2.3-26 に示す変数が使用でき，文字指定の表示ボードメッセージでは，表 4.13-1 に示すディスク容量監視の変数が使用できます。

ここで指定した表示ボードメッセージは，teldial コマンドの-s1 オプションに，表示ボード通知文では，-fs1 オプションを使用します。詳細は，teldial コマンドの-s1，-fs1 オプションを参照してください。

(j) 「FAXメッセージ」テキストボックス

FAX に通知するとき，通知メッセージを格納した FAX 通知文のファイル名を指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

FAX 通知文では，表 2.3-26 に示す変数が使用できます。

FAX 通知文を省略すると，ディスク容量監視用の標準 FAX 通知文を使用します。

ここで指定した FAX 通知文は，teldial コマンドの-ff オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-ff オプションを参照してください。

(k) 「Wavファイル」テキストボックス

デスクトップ通知時にオーディオメディアファイルを再生させるとき，オーディオメディアファイルのファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ここで指定したオーディオメディアファイルは，teldial コマンドの-fdw オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fdw オプションを参照してください。

(l) 「読み上げメッセージ」テキストボックス

デスクトップ通知時にメッセージを読み上げさせるとき，通知メッセージを格納した読み上げ通知文のファイル名を指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

読み上げ通知文では，表 2.3-26 に示す変数が使用できます。

読み上げ通知文を省略すると，ディスク容量監視用の標準読み上げ通知文を使用します。ここで指定した読み上げ通知文は，teldial コマンドの-fdt オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fdt オプションを参照してください。

(m) ［フレーム指定］ボタン

デスクトップ通知時，各フレームに表示する画像の指定ダイアログボックスを表示します。 フレームに表示する画像の指定ダイアログボックスは，図 4.11-18 を参照してください。

4.14 機器稼動監視の設定

4.14.1機器稼動監視について

機器稼動監視は，TELstaff サービスの稼動状態，パトランプの稼動状態，メールサーバ（SMTP サーバと POP3 サーバ），トリガフォンおよびモデムの稼動状態を監視できます。

■機能の利用について

- 機器稼動監視の設定は，Administrators 権限ユーザで，機器稼動監視設定ダイアログボックスで設定します。
- 機器稼動監視の結果を通知する場合は，AEPE または AESE を使用します。
- AECL で稼動監視の結果を通知する場合は，図 4.4-2 メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先サーバを設定しておくか，または機器稼動監視設定ダイアログボックスの「発信依頼先」テキストボックスに発信依頼ができる AEPE または AESE の IP アドレスを設定する必要があります。
- AECL だけで通知を行う場合は，機器稼動監視が出力するメッセージ（1100-I, 1101-I, 1110-I, 1111-I, 1120-I, 1121-I, 1130-I, 1131-I）を，TELstaff の「システム管理者」に通知する方法で行います。
- 「システム管理者」への通知は，メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスで設定します。
- 機器稼動監視設定ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【機器稼動監視の設定】を選択して表示します。
- 機器稼動監視の設定を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。
- 監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。

■留意事項

- 機器稼動監視周期に到達したとき，前回の監視状態（または TELstaff を起動したときの監視状態）から変化が無い場合，通知されません。

4.14.2機器稼動監視設定ダイアログボックス

機器稼動監視の全般を設定します。機器稼動監視－「全般」タブを，図 4.14-1 に示します。

図 4.14-1　機器稼動監視ー「全般」タブ

(a)　［機器稼動監視カレンダー］ボタン

機器稼動監視全体で使用するカレンダーを指定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日の機器稼動監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。カレンダーダイアログボックスを図 4.14-2 に示します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。

図 4.14-2　カレンダーダイアログボックス

(b)　［機器稼動監視スケジュール］ボタン

機器稼動監視全体で使用する監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のファイル監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

機器稼動監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と機器稼動監視は継続されます。

スケジュールダイアログボックスを図 4.14-3 に示します。

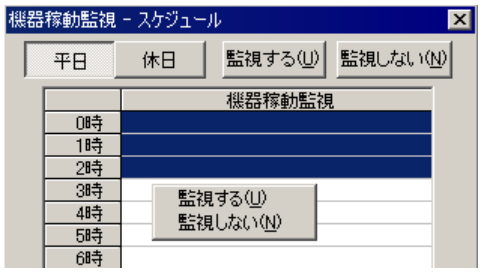


図 4.14-3　スケジュールダイアログボックス

4.14.3機器稼動監視ーサービス監視

TELstaff サービスの稼動監視方法を設定します。監視可能な TELstaff 製品は次の 6 種です。

- JP1/TELstaff AE Professional Edition
- TELstaff AE Professional Edition
- TELstaff AE Standard Edition
- TELstaff AE Client
- TELstaff Professional for RHEL

- TELstaff Enterprise for RHEL

JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff とでは，お互いのサービスは監視できません。

機器稼動監視ー「サービス」タブを，図 4.14-4 に示します。

図 4.14-4　機器稼動監視ー「サービス」タブ

(a)　「監視間隔」スピンボックス

TELstaff の稼動監視の監視周期（監視間隔時間）を指定します。

TELstaff の稼動監視は，監視間隔周期で定期的に行われます。したがって，監視が終わってから，次の監視時刻に到達する前に，TELstaff の開始と停止が繰り返されても，開始または停止を検知するのは，監視時刻に到達した時点です。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，Windows のリソースを多く使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(b)　「監視種別」ラジオボタン

稼動監視対象になっている TELstaff を「監視サービス一覧」の上から順番に 1 つずつ稼動監視を行う場合は，「順次」ラジオボタンを，並行して同時に稼動監視を行う場合は，「同時」ラジオボタンを選択します。

「同時」ラジオボタンを選択した場合は，並行して同時に監視する個数を「同時監視数」ドロップダウンリストで指定します。

並行して同時に稼動監視する場合は，検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，Windows のリソースを多く使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

機器稼動監視記録に 1102-I メッセージが表示される場合は，Windows のリソースが不足していますので，順次監視にするか，または同時に監視する個数を減らしてください。

(c) 「監視開始時の稼動状態を通知する」チェックボックス

TELstaff サービス起動時，稼動監視対象になっているすべての TELstaff について稼動通知，または非稼動通知を行う場合，ここをチェックします。

(d) 「カレンダー」フィールド

機器稼動監視グループごとに，カレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日の機器稼動監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，機器稼動監視全体のカレンダーを使用します。機器稼動監視全体のカレンダーは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(A)］ボタンをクリックして機器稼動監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，機器稼動監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.14-5 カレンダーダイアログボックス

(e) 「スケジュール」フィールド

機器稼動監視グループごとに，スケジュールを設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日の機器稼動監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。機器稼動監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と機器稼動監視は継続されます。

- 「指定しない」をチェックした場合，機器稼動監視全体のスケジュールを使用します。機器稼動監視全体のスケジュールは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックして機器稼動監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。機器稼動監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力と機器稼動監視は継続されます。

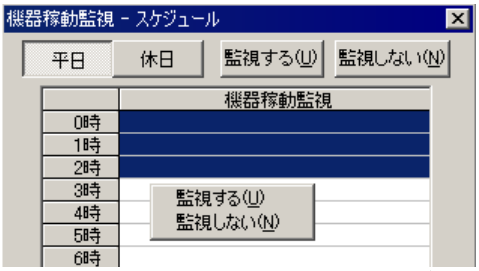


図 4.14-6　スケジュールダイアログボックス

(f)　「監視サービス一覧」フィールド

稼動監視対象になっている TELstaff の一覧を表示します。

(g)　［↑］ボタン

選択した TELstaff の監視順序を一つ前に移動します。

(h)　［↓］ボタン

選択した TELstaff の監視順序を一つ後に移動します。

(i)　［追加］ボタン

監視対象にする TELstaff を追加します。監視サービスの設定ダイアログボックスを図 4.14-7 に表示します。

図 4.14-7　監視サービスの設定ダイアログボックス

- **「説明」テキストボックス**

機器稼動監視－「サービス」タブ画面の「監視サービス一覧」フィールドに表示する，TELstaff の稼動監視に対する説明文を設定します。

- **「アドレス」テキストボックス**

稼動監視を行う TELstaff が動作する PC の IP アドレス（またはホスト名）を指定します。ホスト名で指定する場合は，「_」（アンダーバー）文字を含めることはできません。

（例）　100.100.100.10

- **「ポート番号」テキストボックス**

稼動監視を行う TELstaff の通信ポート番号を指定します。ポート番号は，標準では下表

に示すポート番号を使用します。

TELstaff 製品	ポート番号
JP1/TELstaff AE Professional Edition	35000
TELstaff AE Professional Edition	35000
TELstaff AE Standard Edition	35000
TELstaff AE Client	35000
TELstaff Professional for RHEL	35000
TELstaff Enterprise for RHEL	35000

● **「パスワード」テキストボックス**

AECL（または AEPE, AESE）に受信パスワードの設定があるとき，同じパスワードを指定します。

● **「監視開始時の稼動状態を通知する」チェックボックス**

TELstaff サービス起動時，この TELstaff について稼動通知，または非稼動通知を行う場合，ここをチェックします。

(j)　［プロパティ］ボタン

「監視サービス一覧」リストボックスに表示されている監視対象の TELstaff の設定変更をするために，監視サービスの設定ダイアログボックスを表示します。

(k)　［削除］ボタン

「監視サービス一覧」リストボックスに表示されている監視対象の TELstaff を削除します。

(l)　「通知方法の設定」フィールド

監視の結果，稼動状態の変化を検出したときの通知方法を設定します。

「稼動検出時」タブでは非稼動状態だった TELstaff が稼動状態になったときの通知方法を，「非稼動検出時」タブでは稼動状態だった TELstaff が非稼動状態になったときの通知方法を設定します。AECL で使用する場合は，発信依頼ができる AEPE または AESE が必要になります。

「監視開始時の稼動状態を通知する」チェックボックスにチェックしている場合で，非稼動通知の方法として自 TELstaff のサービスを再起動することはできません。監視している TELstaff が非稼動の場合，サービス再起動の繰り返し状態になります。

AECL だけで通知を行う場合は，機器稼動監視が出力するメッセージ（1100-I，1101-I）を，TELstaff の「システム管理者」に通知する方法で行います。「システム管理者」への通知は，メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスで設定します。

(m)　「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

(n) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

(o) 「通知文ファイル」テキストボックス

稼動監視の結果を teldial コマンドで通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

稼動監視の結果を通知する通知文ファイルは，teldial コマンドの-fm，-fdp，-fdt オプションに指定されます。また，-u オプションには，メッセージ（1100-I，1101-I）の内容がユーザ情報として指定されます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，機器稼動監視用標準通知文ファイルを使用します。

機器稼動監視用標準通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

通知文ファイルでは，表 2.3-27 に示す変数が使用でき，~UserInformation~変数は，機器稼動監視結果の検出した機器情報に置き換えられます。

検出した機器情報については，~Observation~変数を参照してください。

(p) 「フレーム番号」ドロップダウンリスト

Alarm View に画像を表示する場合，表示する場所（フレーム）を設定します。

(q) 「画像ファイル」テキストボックス

Alarm View に画像を表示する場合，表示する画像ファイル名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(r) 「発信依頼先」テキストボックス

稼動通知，または非稼動通知を発信依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

ここで指定した発信依頼先は，teldial コマンドの-to オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-to オプションを参照してください。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

AEPE および AESE では，指定のない場合は自コンピュータで発信を行います。

発信依頼の注意事項については「2.3.1(1)(h) 発信依頼」を参照してください。

4.14.4機器稼動監視－パトランプ監視

パトランプおよびリレー装置の稼動監視方法を設定します。機器稼動監視－「パトランプ」タブを，図 4.14-8 に示します。

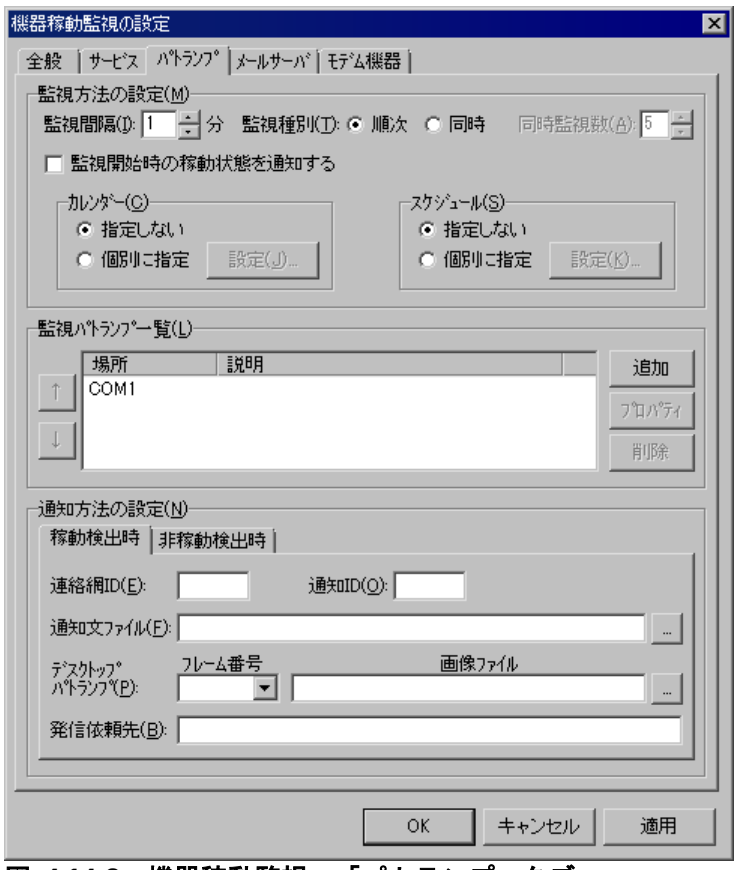


図 4.14-8　機器稼動監視－「パトランプ」タブ

(a)　「監視間隔」スピンボックス

パトランプおよびリレー装置の稼動監視の監視周期（監視間隔時間）を指定します。

パトランプおよびリレー装置の稼動監視は，監視間隔周期で定期的に行われます。したがって，監視が終わってから，次の監視時刻に到達する前に，パトランプおよびリレー装置の稼動と停止が繰り返されても，稼動または停止を検知するのは，監視時刻に到達した時点です。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，Windows のリソースを多く使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(b)　「監視種別」ラジオボタン

稼動監視対象になっているパトランプおよびリレー装置を「監視パトランプ一覧」の上から順番に 1 つずつ稼動監視を行う場合は，「順次」ラジオボタンを，並行して同時に稼動監視を行う場合は，「同時」ラジオボタンを選択します。

「同時」ラジオボタンを選択した場合は，並行して同時に監視する個数を「同時監視数」ドロップダウンリストで指定します。

並行して同時に稼動監視する場合は，検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，Windows のリソースを多く使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

機器稼動監視記録に 1112-I メッセージが表示される場合は，Windows のリソースが不足していますので，順次監視にするか，または同時に監視する個数を減らしてください。

(c) 「監視開始時の稼動状態を通知する」チェックボックス

TELstaff サービス起動時，稼動監視対象になっているすべてのパトランプおよびリレー装置について稼動通知，または非稼動通知を行う場合，ここをチェックします。

(d) 「カレンダー」フィールド

機器稼動監視グループごとに，カレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日の機器稼動監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，機器稼動監視全体のカレンダーを使用します。機器稼動監視全体のカレンダーは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(A)］ボタンをクリックして機器稼動監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，機器稼動監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.14-9 カレンダーダイアログボックス

(e) 「スケジュール」フィールド

機器稼動監視グループごとに，スケジュールを設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日の機器稼動監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。機器稼動監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と機器稼動監視は継続されます。

- 「指定しない」をチェックした場合，機器稼動監視全体のスケジュールを使用します。機器稼動監視全体のスケジュールは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックして機器稼動監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。機器稼動監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力と機器稼動監視は継続されます。

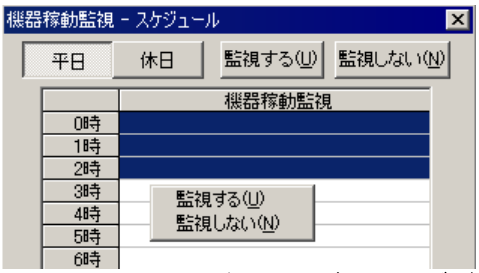


図 4.14-10　スケジュールダイアログボックス

(f)　「監視パトランプ一覧」フィールド

稼動監視対象になっているパトランプおよびリレー装置の一覧を表示します。

(g)　［↑］ボタン

選択したパトランプおよびリレー装置の監視順序を一つ前に移動します。

(h)　［↓］ボタン

選択したパトランプおよびリレー装置の監視順序を一つ後に移動します。

(i)　［追加］ボタン

監視対象にするパトランプおよびリレー装置を追加するために，監視パトランプの設定ダイアログボックスを，図 4.14-11 に表示します。

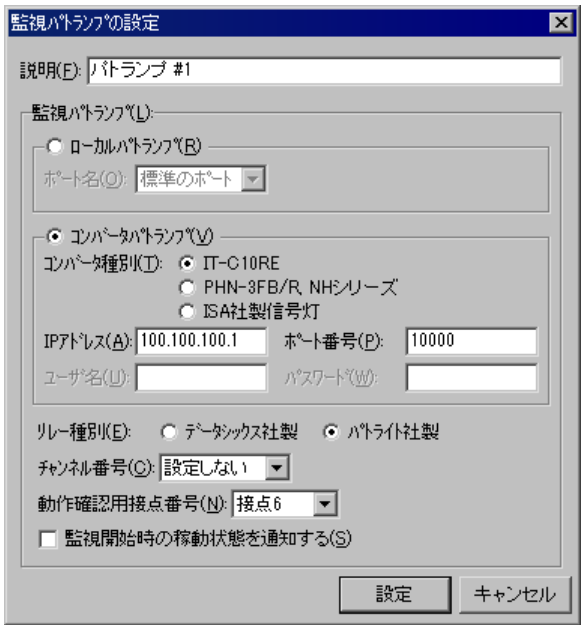


図 4.14-11　監視パトランプの設定ダイアログボックス

●「説明」テキストボックス

機器稼動監視－「パトランプ」タブ画面の「監視パトランプ一覧」フィールドに表示する，パトランプおよびリレー装置の稼動監視に対する説明文を設定します。

●「ローカルパトランプ」ラジオボタン

監視対象にするパトランプおよびリレー装置がこの PC のシリアルポートに接続されている場合，「ローカルパトランプ」ラジオボタンを選択します。

●「ボート名」ドロップダウンリスト

「ローカルパトランプ」ラジオボタンを選択した場合，「ポート名」ドロップダウンリストからパトランプおよびリレー装置が接続されている RS232C のポート番号を選択します。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。

「標準のポート」を選択すると直前で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

●「コンバータパトランプ」ラジオボタン

監視対象にするパトランプおよびリレー装置がネットワーク対応型パトランプの場合，またはコンバータに接続されている場合，「コンバータパトランプ」ラジオボタンを選択します。

●「コンバータ種別」ラジオボタン

使用するコンバータ種別に応じて以下いずれかから選択します。

- IT-C10RE:
  旧日立 IT 社製 IT-C10RE
- PHN-3FB/R, NH シリーズ:
  パトライト社製パトランプ（PHN-3FB，PHN-R，NH シリーズ）
- ISA 社製信号灯:
  ISA 社製の信号灯

●「IPアドレス」テキストボックス

「コンバータパトランプ」ラジオボタンを選択した場合，ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータの IP アドレス，またはホスト名を指定します。

ホスト名で指定する場合は，「_」（アンダーバー）文字を含めることはできません。

１つの機器を複数の TELstaff から同時に使用（稼動監視）できるかは機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

(例)

100.100.100.1

●「ポート番号」テキストボックス

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータのポート番号を指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telswnet ポート番号/tcp
```

●「ユーザ名」テキストボックス

ISA 社製信号灯を使用する場合，コマンド（リモートシェル）実行用のログインユーザ名を指定します。ユーザ名は，半角 16 文字以内で指定します。

●「パスワード」テキストボックス

ISA 社製信号灯を使用する場合，パトランプ側で設定されているコマンド実行用パスワードを指定します。パスワードは，半角 50 文字以内で指定します。パトランプ側でパスワ

ードが設定されていない場合，何も指定しないでください。

●「リレー種別」ラジオボタン

監視対象にするパトランプおよびリレー装置の種別を指定します。

●「チャンネル番号」ドロップダウンリスト

RS232C セレクタ装置にパトランプおよびリレー装置が接続されている場合，RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。

RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に使用したチャンネル番号の機器が動作します。

●「動作確認用接点番号」ドロップダウンリスト

パトライト社製のリレー装置，または一体型パトランプの場合，稼動監視用のリレー番号が 1 つ必要になります。稼動監視用に使用するリレー番号を「動作確認用接点番号」ドロップダウンリストから選択します。選択したリレー番号は，発信用には使用できません。

●「監視開始時の稼動状態を通知する」チェックボックス

TELstaff サービス起動時，このパトランプおよびリレー装置について稼動通知，または非稼動通知を行う場合，ここをチェックします。

(j)　［プロパティ］ボタン

「監視パトランプ一覧」リストボックスに表示されている監視対象のパトランプおよびリレー装置の設定変更をするために，監視パトランプの設定ダイアログボックスを表示します。

(k)　［削除］ボタン

「監視パトランプ一覧」リストボックスに表示されている監視対象のパトランプおよびリレー装置を削除します。

(l)　「通知方法の設定」フィールド

パトランプおよびリレー装置の稼動監視で稼動通知と非稼動通知の通知方法を設定します。

通知方法の設定は，稼動通知は，「稼動検出時」タブで，非稼動通知は，「非稼動検出時」タブで行います。AECL で使用する場合は，発信依頼ができる AEPE，AESE が必要になります。

AECL だけで通知を行う場合は，機器稼動監視が出力するメッセージ（1110-I メッセージと 1111-I メッセージ）を，TELstaff の「システム管理者」に通知する方法で行います。「システム管理者」への通知は，メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスで設定します。

(m)　「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

(n) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

(o) 「通知文ファイル」テキストボックス

稼動監視の結果を teldial コマンドで通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

稼動監視の結果を通知する通知文ファイルは，teldial コマンドの-fm，-fdp，-fdt オプションに指定されます。

また，-u オプションには，1110-I メッセージまたは 1111-I メッセージの内容がユーザ情報として指定されます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，機器稼動監視用標準通知文ファイルを使用します。

機器稼動監視用標準通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

通知文ファイルでは，表 2.3-27 に示す変数が使用でき，~UserInformation~変数は，機器稼動監視結果の検出した機器情報に置き換えられます。

検出した機器情報については，~Observation~変数を参照してください。

(p) 「フレーム番号」ドロップダウンリスト

Alarm View に画像を表示する場合，表示する場所（フレーム）を設定します。

(q) 「画像ファイル」テキストボックス

Alarm View に画像を表示する場合，表示する画像ファイル名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(r) 「発信依頼先」テキストボックス

稼動通知，または非稼動通知を発信依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

ここで指定した発信依頼先は，teldial コマンドの-to オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-to オプションを参照してください。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

AEPE および AESE では，指定のない場合は自コンピュータで発信を行います。

発信依頼の注意事項については「2.3.1(1)(h) 発信依頼」を参照してください。

4.14.5機器稼動監視－メールサーバ監視

SMTP サーバまたは POP3 サーバの稼動監視方法を設定します。機器稼動監視－「メールサーバ」タブを，図 4.14-12 に示します。

図 4.14-12 機器稼動監視－「メールサーバ」タブ

(a) 「監視間隔」スピンボックス

SMTP サーバまたは POP3 サーバの稼動監視の監視周期（監視間隔時間）を指定します。

SMTP サーバまたは POP3 サーバの稼動監視は，監視間隔周期で定期的に行われます。したがって，監視が終わってから，次の監視時刻に到達する前に，SMTP サーバまたは POP3 サーバの稼動と停止が繰り返されても，稼動または停止を検知するのは，監視時刻に到達した時点です。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，Windows のリソースを多く使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(b)　「監視種別」ラジオボタン

稼動監視対象になっている SMTP サーバまたは POP3 サーバを「監視メールサーバ一覧」の上から順番に 1 つずつ稼動監視を行う場合は，「順次」ラジオボタンを，並行して同時に稼動監視を行う場合は，「同時」ラジオボタンを選択します。

「同時」ラジオボタンを選択した場合は，並行して同時に監視する個数を「同時監視数」ドロップダウンリストで指定します。

並行して同時に稼動監視する場合は，検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，Windows のリソースを多く使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(c)　「監視開始時の稼動状態を通知する」チェックボックス

TELstaff サービス起動時，稼動監視対象になっているすべての SMTP サーバまたは POP3 サーバについて稼動通知，または非稼動通知を行う場合，ここをチェックします。ダイヤルアップネットワーク接続中は，ダイヤルアップネットワーク接続が切断されたときに稼動通知，または非稼動通知を行います。

(d)　「カレンダー」フィールド

機器稼動監視グループごとに，カレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日の機器稼動監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，機器稼動監視全体のカレンダーを使用します。機器稼動監視全体のカレンダーは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(A)］ボタンをクリックして機器稼動監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，機器稼動監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.14-13　カレンダーダイアログボックス

(e)　「スケジュール」フィールド

機器稼動監視グループごとに，スケジュールを設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日の機器稼動監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

機器稼動監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と機器稼動監視は継続されます。

- 「指定しない」をチェックした場合，機器稼動監視全体のスケジュールを使用し

ます。機器稼動監視全体のスケジュールは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。

- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックして機器稼動監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。機器稼動監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力と機器稼動監視は継続されます。

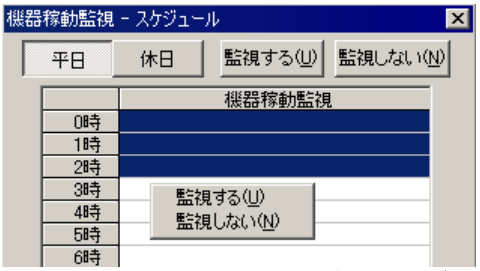


図 4.14-14　スケジュールダイアログボックス

(f)　「監視メールサーバー覧」フィールド

稼動監視対象になっている SMTP サーバまたは POP3 サーバの一覧を表示します。

(g)　［↑］ボタン

選択した SMTP サーバまたは POP3 サーバの監視順序を一つ前に移動します。

(h)　［↓］ボタン

選択した SMTP サーバまたは POP3 サーバの監視順序を一つ後に移動します。

(i)　［追加］ボタン

監視対象にする SMTP サーバまたは POP3 サーバを追加するために，監視メールサーバの設定ダイアログボックスを，図 4.14-15 に表示します。

図 4.14-15　監視メールサーバの設定ダイアログボックス

●「説明」テキストボックス

機器稼動監視－「メールサーバ」タブ画面の「監視メールサーバ一覧」フィールドに表示する，SMTP サーバまたは POP3 サーバの稼動監視に対する説明文を設定します。

●「監視開始時の稼動状態を通知する」チェックボックス

TELstaff サービス起動時，この SMTP サーバまたは POP3 サーバについて稼動通知，または非稼動通知を行う場合，ここをチェックします。ダイヤルアップネットワーク接続中は，ダイヤルアップネットワーク接続が切断されたときに稼動通知，または非稼動通知を行います。

●「SMTPサーバを監視する」ラジオボタン

監視するサーバが SMTP サーバである場合に選択します。

●「サーバ名」テキストボックス

SMTP サーバの場所を IP アドレスまたはホスト名で指定します。

既に設定してある SMTP サーバと同じ SMTP サーバ名は指定できません。

ダイヤルアップネットワーク接続でインターネット接続事業者（プロバイダ）が提供するメールサーバは指定できません。

●「通信プロトコル」ドロップダウンリスト

SMTP サーバとの通信プロトコルを，「SMTP」「SMTPS」から選択し設定します。標準は SMTP です。

● **「サーバ証明書を検証しない」チェックボックス**

通信プロトコルとして「SMTPS」が選択された場合のみ活性化します。

ここにチェックを入れると，TLS による通信の暗号化を行うときにサーバ証明書を検証しません。標準では，サーバ証明書を検証します。

● **「ポート番号」テキストボックス**

SMTP サーバのポート番号を設定します。標準のポート番号は，25 です。

● **「メール送信に認証が必要」チェックボックス**

SMTP サーバが POP Before SMTP 認証が必要なときここをチェックします。

● **「認証設定」ボタン**

認証設定ダイアログボックスを開き認証情報を設定します。認証設定ダイアログボックスを，図 4.14-16 に示します。

図 4.14-16　認証設定ダイアログボックス

- **「POP3サーバ名」テキストボックス**

SMTP サーバが POP Before SMTP 認証が必要なとき，認証する POP3 サーバの IP アドレスまたはホスト名で指定します。

- **「ポート番号」テキストボックス**

POP3 サーバのポート番号を設定します。標準のポート番号は，110 です。

- **「アカウント名」テキストボックス**

認証で使用するメールのアカウント名を指定します。

- **「パスワード」テキストボックス**

アカウント名に対するパスワードを指定します。

● **「POP3サーバを監視する」ラジオボタン**

POP3 サーバを監視する場合，選択します。

● **「サーバ名」テキストボックス**

監視する POP3 サーバの場所を IP アドレスまたはホスト名で指定します。

既に設定してある POP3 サーバと同じ POP3 サーバ名は指定できません。

ダイヤルアップネットワーク接続でインターネット接続事業者（プロバイダ）が提供するメールサーバは指定できません。

● **「通信プロトコル」ドロップダウンリスト**

POP3 サーバとの通信に使用するプロトコルを指定します。POP3，POP3S，および POP3+STLS のいずれかを選択します。標準は POP3 です。

● **「サーバ証明書を検証しない」チェックボックス**

ここにチェックを入れると，サーバと POP3S または POP3+STLS を使用して通信する際にサーバが提示する証明書を検証しません。標準では，サーバ証明書を検証します。

● **「ポート番号」テキストボックス**

POP3 サーバのポート番号を設定します。標準のポート番号は，110 です。

● **「アカウント名」テキストボックス**

POP3 サーバの監視を行うためのメールのアカウント名を指定します。

既に設定してあるアカウント名と同じアカウント名で使用しているアカウント名は指定できません。

● **「パスワード」テキストボックス**

アカウント名に対するパスワードを指定します。

(j)　［プロパティ］ボタン

「監視メールサーバ一覧」リストボックスに表示されている監視対象の SMTP サーバまたは POP3 サーバの設定変更をするために，監視メールサーバの設定ダイアログボックスを表示します。

(k)　［削除］ボタン

「監視メールサーバ一覧」リストボックスに表示されている監視対象の SMTP サーバまたは POP3 サーバを削除します。

(l)　「通知方法の設定」フィールド

SMTP サーバまたは POP3 サーバの稼動監視で稼動通知と非稼動通知の通知方法を設定します。

通知方法の設定は，稼動通知は，「稼動検出時」タブで，非稼動通知は，「非稼動検出

時」タブで行います。AECL で使用する場合は，発信依頼ができる AEPE または AESE が必要になります。

AECL だけで通知を行う場合は，機器稼動監視が出力するメッセージ（1120-I メッセージと 1121-I メッセージ）を，TELstaff の「システム管理者」に通知する方法で行います。「システム管理者」への通知は，メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスで設定します。

(m) 「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

(n) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

(o) 「通知文ファイル」テキストボックス

稼動監視の結果を teldial コマンドで通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

稼動監視の結果を通知する通知文ファイルは，teldial コマンドの-fm，-fdp，-fdt オプションに指定されます。

また，-u オプションには，1120-I メッセージまたは 1121-I メッセージの内容がユーザ情報として指定されます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，機器稼動監視用標準通知文ファイルを使用します。

機器稼動監視用標準通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

通知文ファイルでは，表 2.3-27 に示す変数が使用でき，~UserInformation~変数は，機器稼動監視結果の検出した機器情報に置き換えられます。

検出した機器情報については，~Observation~変数を参照してください。

(p) 「フレーム番号」ドロップダウンリスト

Alarm View に画像を表示する場合，表示する場所（フレーム）を設定します。

(q) 「画像ファイル」テキストボックス

Alarm View に画像を表示する場合，表示する画像ファイル名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(r) 「発信依頼先」テキストボックス

稼動通知，または非稼動通知を発信依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

ここで指定した発信依頼先は，teldial コマンドの-to オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-to オプションを参照してください。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

AEPE および AESE では，指定のない場合は自コンピュータで発信を行います。

発信依頼の注意事項については「2.3.1(1)(h) 発信依頼」を参照してください。

4.14.6 機器稼動監視－モデム機器監視

トリガフォン，またはモデムの稼動監視方法を設定します。

AECL では，トリガフォンの稼動監視はできません。

機器稼動監視－「モデム機器」タブを，図 4.14-17 に示します。

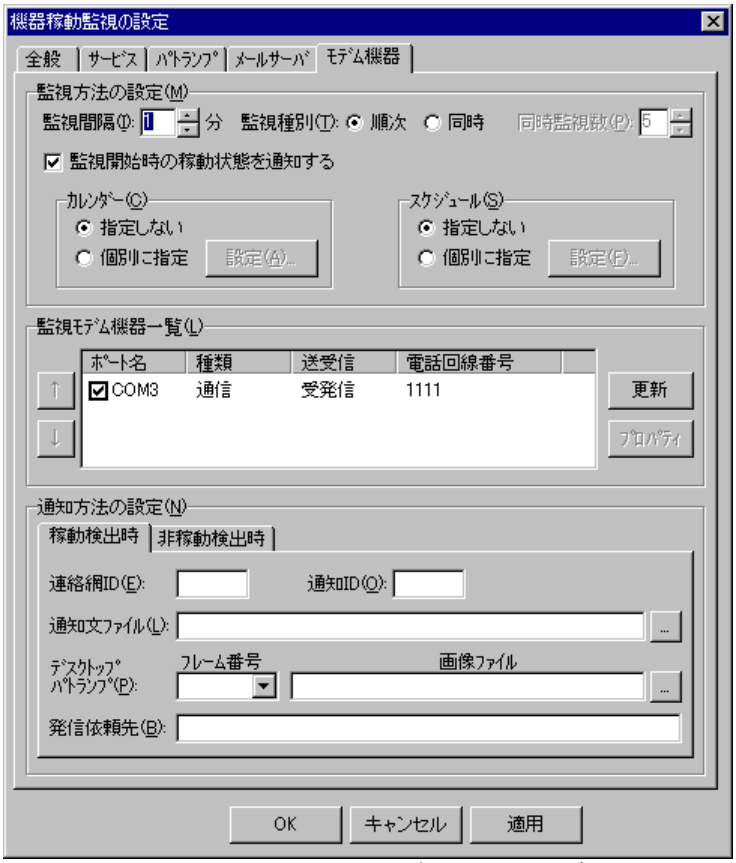


図 4.14-17　機器稼動監視ー「モデム機器」タブ

(a)　「監視間隔」スピンボックス

トリガフォン，またはモデムの稼動監視の監視周期（監視間隔時間）を指定します。

トリガフォン，またはモデムの稼動監視は，監視間隔周期で定期的に行われます。したがって，監視が終わってから，次の監視時刻に到達する前に，トリガフォン，またはモデムの稼動と停止が繰り返されても，稼動または停止を検知するのは，監視時刻に到達した時点です。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，Windows のリソースを多く使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(b)　「監視種別」ラジオボタン

稼動監視対象になっているトリガフォン，またはモデムを「監視モデム機器一覧」の上から順番に 1 つずつ稼動監視を行う場合は，「順次」ラジオボタンを，並行して同時に稼動監視を行う場合は，「同時」ラジオボタンを選択します。

「同時」ラジオボタンを選択した場合は，並行して同時に監視する個数を「同時監視数」ドロップダウンリストで指定します。

並行して同時に稼動監視する場合は，検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，Windows のリソースを多く使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(c)　「監視開始時の稼動状態を通知する」チェックボックス

TELstaff サービス起動時，稼動監視対象になっているすべてのトリガフォン，またはモデムについて稼動通知，または非稼動通知を行う場合，ここをチェックします。

(d)　「カレンダー」フィールド

機器稼動監視グループごとに，カレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日の機器稼動監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，機器稼動監視全体のカレンダーを使用します。機器稼動監視全体のカレンダーは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(A)］ボタンをクリックして機器稼動監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，機器稼動監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.14-18　カレンダーダイアログボックス

(e)　「スケジュール」フィールド

機器稼動監視グループごとに，スケジュールを設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日の機器稼動監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

機器稼動監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と機器稼動監視は継続されます。

- 「指定しない」をチェックした場合，機器稼動監視全体のスケジュールを使用します。機器稼動監視全体のスケジュールは，カレンダー・スケジュール設定ダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックして機器稼動監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。機器稼動監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力と機器稼動監視は継続されます。

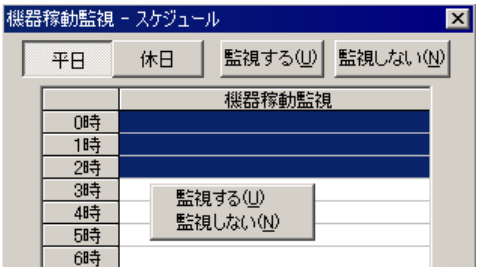


図 4.14-19　スケジュールダイアログボックス

(f)　「監視モデム機器一覧」フィールド

トリガフォン，またはモデムの一覧を表示します。

トリガフォン，またはモデムを監視する場合は，ポート名ラベルに表示されているシリアルポート名（COMx），または IP アドレスのチェックボックスにチェックします。

トリガフォン（TP2000）を LAN 接続で使用している場合，ポート名には，IP アドレスを表示し，種類には「TP2」と表示します。

(g)　［↑］ボタン

選択したトリガフォン，またはモデムの監視順序を一つ前に移動します。

(h)　［↓］ボタン

選択したトリガフォン，またはモデムの監視順序を一つ後に移動します。

(i)　［更新］ボタン

環境設定－「電話・回線」タブでトリガフォン，またはモデムを追加，削除，または更新した（「電話番号」「受信・発信の区別」「機種変更」のいずれか）場合に「監視モデム機器一覧」フィールドを最新の状態で表示します。

(j)　［プロパティ］ボタン

監視対象にするトリガフォン，またはモデムを追加するために，監視モデムの設定ダイアログボックスを，図 4.14-20 に表示します。

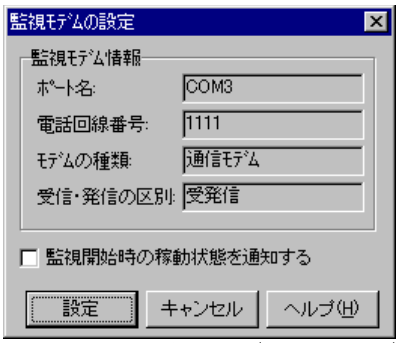


図 4.14-20　監視モデムの設定ダイアログボックス

●「ポート名」テキストボックス

稼動監視するトリガフォン，またはモデムのシリアルポート名を表示します。

トリガフォン（TP2000）を LAN 接続で使用している場合，ポート名には，IP アドレスを表示します。

●「電話回線番号」テキストボックス

現在トリガフォン，またはモデムに設定されている電話回線の番号を表示します。

●「モデムの種別」テキストボックス

現在シリアルポートに接続してあるモデム種別を表示します。

トリガフォン（TP2000）を LAN 接続で使用している場合，モデムの種別には「トリガフォン 2000」と表示します。

●「受信・発信の区別」テキストボックス

現在トリガフォン，またはモデムに設定されている受信・発信の区別の番号を表示します。

●「監視開始時の稼動状態を通知する」チェックボックス

TELstaff サービス起動時，このトリガフォン，またはモデムについて稼動通知，または非稼動通知を行う場合，ここをチェックします。

(k)　「通知方法の設定」フィールド

トリガフォン，またはモデムの稼動監視で稼動通知と非稼動通知の通知方法を設定します。

通知方法の設定は，稼動通知は，「稼動検出時」タブで，非稼動通知は，「非稼動検出時」タブで行います。AECL でモデムの稼動監視を行う場合は，発信依頼ができる AEPE または AESE が必要になります。

AECL だけで通知を行う場合は，機器稼動監視が出力するメッセージ（1130-I メッセージと 1131-I メッセージ）を，TELstaff の「システム管理者」に通知する方法で行います。「システム管理者」への通知は，メッセージ通知方法の設定ダイアログボックスで設定します。

(l)　「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

(m)　「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

(n)　「通知文ファイル」テキストボックス

稼動監視の結果を teldial コマンドで通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル

名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

稼動監視の結果を通知する通知文ファイルは，teldial コマンドの-fm，-fdp，-fdt オプションに指定されます。

また，-u オプションには，1130-I メッセージまたは 1131-I メッセージの内容がユーザ情報として指定されます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，機器稼動監視用標準通知文ファイルを使用します。

機器稼動監視用標準通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

通知文ファイルでは，表 2.3-27 に示す変数が使用でき，~UserInformation~変数は，機器稼動監視結果の検出した機器情報に置き換えられます。

検出した機器情報については，~Observation~変数を参照してください。

(o) 「フレーム番号」ドロップダウンリスト

Alarm View に画像を表示する場合，表示する場所（フレーム）を設定します。

(p) 「画像ファイル」テキストボックス

Alarm View に画像を表示する場合，表示する画像ファイル名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(q) 「発信依頼先」テキストボックス

稼動通知，または非稼動通知を発信依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

ここで指定した発信依頼先は，teldial コマンドの-to オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-to オプションを参照してください。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

AEPE および AESE では，指定のない場合は自コンピュータで発信を行います。

発信依頼の注意事項については「2.3.1(1)(h) 発信依頼」を参照してください。

4.15 稼動状況監視の設定

4.15.1稼動状況監視について

稼動状況監視は，クライアント PC などのネットワーク機器の Ping 応答や，CPU 使用率，メモリ使用率，ディスク使用率の情報から，対象機器の稼動状況の監視を行い，設定された通報ルールに従って関係者に通知します。また通知の他，リモートで対象機器の電源操作を行います。

■機能の利用について

- 稼動状況監視は，AEPE および AECL で使用できます。AECL では，自コンピュータの CPU 使用率，メモリ使用率のみを監視できます。
- 稼動状況監視の設定は，Administrators 権限ユーザで，稼動状況監視ダイアログボックスを（図 4.15-1）で設定します。
- 稼動状況監視ダイアログボックスは，スタートメニューの【TELstaff の設定】から【稼動状況監視の設定】を選択して表示します。
- 監視スケジュールを与えておくと計画的に監視を行う運用が可能です。

■留意事項

- 設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。稼動状況監視周期に到達したとき，前回の監視状態（または TELstaff を起動したときの監視状態）から変化が無い場合，通知されません。
- AECL を使用せずに，他マシンの稼動状況を監視する場合，SNMP または WMI を使用いたします。それぞれの注意事項は，「監視グループのコンピュータ情報取得方法を設定する」チェックボックスの説明を参照してください。
- 仮想マシンの CPU 使用率の監視には，対応していません[iv]。

[iv] 監視対象の PC が仮想マシンであると，SNMP，WMI のいずれを使用しても正しい CPU 使用率が得られないことがあります。

4.15.2稼動状況監視ダイアログボックス

稼動状況監視方法を設定します。稼動状況監視ダイアログボックスを図 4.15-1 に示します。

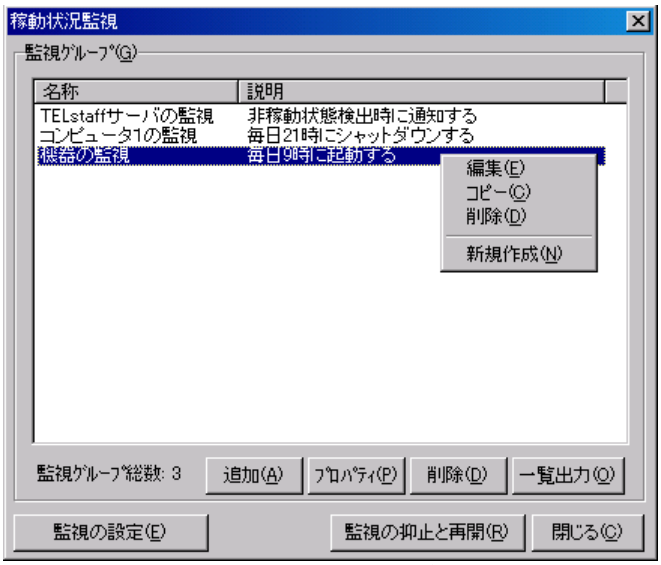


図 4.15-1　稼動状況監視ダイアログボックス

(a)　「監視グループ」フィールド

稼動状況監視設定ダイアログボックスで設定した，監視グループの名称を表示します。監視グループを選択して右クリックすると，ポップアップメニューが表示され，稼動状況監視グループの編集・コピー・削除・新規作成ができます。

- 「名称」項目

  稼動状況監視設定ダイアログボックスで設定した，監視グループの名称を表示します。

- 「説明」項目

  稼動状況監視設定ダイアログボックスで設定した，監視グループの説明を表示します。

(b)　［追加］ボタン

新規に稼動状況監視グループの設定を追加するため，稼動状況監視設定ダイアログボックス（図 4.15-5）を開きます。

(c)　［プロパティ］ボタン

「監視グループ」フィールドで選択された稼動状況監視グループの稼動状況監視設定ダイアログボックス（図 4.15-5）を開きます。

(d)　［削除］ボタン

「監視グループ」フィールドで選択された稼動状況監視グループを削除します。稼動状況監視グループを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(e)　［一覧出力］ボタン

「監視グループ」フィールドに表示されている監視グループの監視内容の一覧をファイルに保存します。

(f)　［監視の設定］ボタン

稼動状況監視のプロパティダイアログボックス（図 4.15-2）を開きます。

(g)　［監視の抑止と再開］ボタン

稼動状況監視の一時監視中断と開始の操作を行うための稼動状況監視の抑止と再開ダイアログボックス（図 10.11-1）を開きます。

4.15.3稼動状況監視のプロパティダイアログボックス

稼動状況監視の方法を設定します。稼動状況監視のプロパティダイアログボックスを図 4.15-2 に示します。

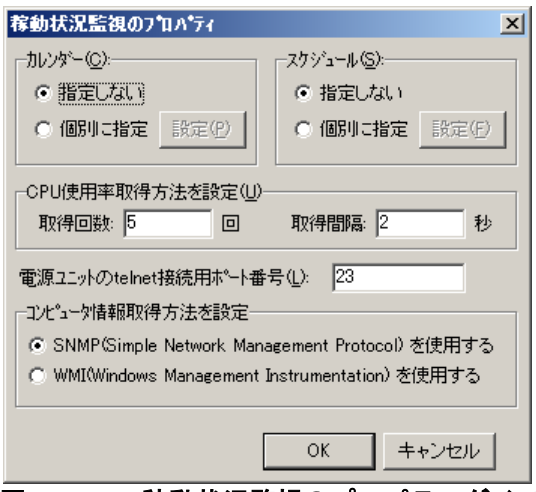


図 4.15-2　稼動状況監視のプロパティダイアログボックス

(a)　「カレンダー」フィールド

稼動状況監視全体で使用するカレンダーを指定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日の稼動状況監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

カレンダーダイアログボックスを図 4.15-3 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，TELstaff のシステムカレンダーを使用します。

- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックして稼動状況監視独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。

図 4.15-3　カレンダーダイアログボックス

(b)　「スケジュール」フィールド

稼動状況監視全体で使用する監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日の稼動状況監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。稼動状況監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。

スケジュールダイアログボックスを図 4.15-4 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，稼動状況監視のスケジュールはしないで，常に監視します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックして稼動状況監視独自のスケジュールを設定します。稼動状況監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力と稼動状況監視は継続されます。

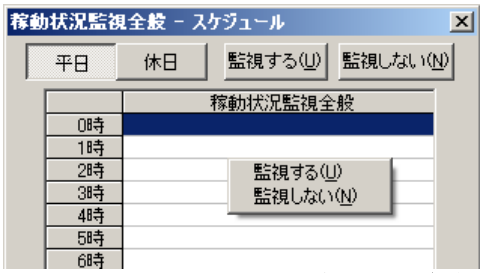


図 4.15-4　スケジュールダイアログボックス

(c)　「CPU使用率取得方法を設定」フィールド

監視条件として「CPU 使用率が監視値以下のとき」を選択するとき，監視条件に一致するかどうかを判断する CPU 使用率の取得方法を指定します。本設定項目で指定した回数分 CPU 使用率を取得し，すべての CPU 使用率が監視値以下の場合，監視条件に一致すると判断します。

●「取得回数」テキストボックス

取得回数を，1 から 100 の範囲で指定します。標準の回数は 5 回です。

●「取得間隔」テキストボックス

取得間隔（秒）を，1 から 60 の範囲で指定します。標準の間隔は 2 秒です。

(d) 「電源ユニットのtelnet接続用ポート番号」テキストボックス

電源ユニットにネットワーク接続するポート番号を 1 から 65535 の 5 桁以内で設定します。このテキストボックスは，AECL では指定できません。

(e) 「コンピュータ情報取得方法を設定」フィールド

監視対象コンピュータの情報（CPU 使用率・メモリ使用率・ディスク使用率）の取得方法を指定します。このフィールドは，AECL では表示されません。AECL では，WMI を利用して自コンピュータの CPU 使用率情報・メモリ使用率情報を取得します。

●「SNMP（Simple Network Management Protocol）を使用する」ラジオボタン

SNMP を使用して情報（CPU 使用率・メモリ使用率・ディスク使用率）を取得するとき選択します。コンピュータの情報取得には，RFC 2790 で定義される Host Resources MIB を使用します。SNMP を使用する場合，コミュニティ名は「public」固定となります。

●「WMI（Windows Management Instrumentation）を使用する」ラジオボタン

WMI を使用して情報（CPU 使用率・メモリ使用率・ディスク使用率）を取得するとき選択します。

• WMIを使用する場合の注意事項

- 監視対象 PC がローカルセキュリティポリシーのセキュリティオプションのネットワークアクセス: ローカルアカウントの共有とセキュリティモデルのプロパティが「クラッシック - ローカルユーザがローカルユーザとして認証する」に設定されている必要があります。
- TELstaff サービスのアカウントはローカルシステムアカウント以外で Administrators グループに属するアカウントを指定する必要があります。
- 監視対象 PC が Vista 以降の Windows である場合，監視対象 PC で built-in Administrator アカウントが有効に設定されている必要があります。
- 監視対象 PC が Vista 以降の Windows の場合，アカウント情報には built-in Administrator アカウントを指定する必要があります。

4.15.4稼動状況監視設定ダイアログボックス

(1) 稼動状況監視設定－「全般」タブ

稼動状況監視の全般を設定します。稼動状況監視設定－「全般」タブを図 4.15-5 に示します。

図 4.15-5　稼動状況監視設定ー「全般」タブ

(a)　「名称」テキストボックス

稼動状況監視の監視グループの名称を，半角で 20 文字（全角で 10 文字）以内で設定します。既に登録されている稼動状況監視名称は変更できません。稼動状況監視グループ名を変更する場合は，一度削除してから再度登録してください。稼動状況を監視する場合，監視するコンピュータまたは機器を指定して稼動状況監視グループを作成します。稼動状況監視グループに，次の文字および半角空白文字を使用できません。

" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ;

(b)　「説明」テキストボックス

稼動状況監視ダイアログボックスの「監視グループ」フィールドに表示する，稼動状況監視グループに対する説明文を設定します。

(c)　「カレンダー」フィールド

稼動状況監視グループごとのカレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日の稼動状況監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。カレンダーダイアログボックスを図 4.15-6 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，稼動状況監視全体のカレンダーを使用します。稼動状況監視全体のカレンダーは，稼動状況監視のプロパティダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(E)］ボタンをクリックして稼動状

況監視グループごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，稼動状況監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

図 4.15-6　カレンダーダイアログボックス

(d)　「スケジュール」フィールド

稼動状況監視グループごとの監視時間帯を設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日の稼動状況監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。稼動状況監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，監視は継続されます。スケジュールダイアログボックスを図 4.15-7 に示します。

- 「指定しない」をチェックした場合，稼動状況監視全体のスケジュールを使用します。稼動状況監視全体のスケジュールは，稼動状況監視のプロパティダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックして稼動状況監視グループごとに独自のスケジュールを設定します。稼動状況監視の抑止時間帯では，通知が中断されますが，統計情報の出力と稼動状況監視は継続されます。

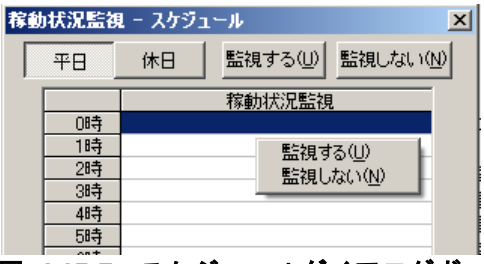


図 4.15-7　スケジュールダイアログボックス

(e)　「稼動状況を統計情報として出力する」チェックボックス

監視契機で設定した監視契機に，監視対象の稼動状況を統計情報として出力します。このチェックボックスにチェックするには，あらかじめ，「環境設定」-「統計情報タブ」-「稼動状況統計情報」を出力するよう設定して下さい。「環境設定」-「統計情報タブ」において出力しない設定の場合は，このチェックボックスをチェックできません。本チェックボックスをチェックした後，「環境設定」-「統計情報タブ」において出力しない設定に変更した場合は，統計情報を出力しません。

本チェックボックスをチェックしたとき，監視間隔毎に監視対象の稼動状況を取得して統計情報として出力します。通知および電源制御は行いません。その設定下では，連絡網・パトランプ・その他タブを選択できません。

(f) 「メールアドレス」テキストボックス

「稼動状況を統計情報として出力する」チェックボックスにチェックし，出力した「稼動状況統計情報」をメールに添付して通知する場合の通知先メールアドレスを半角 256 文字以内で設定します。複数のメールアドレスを指定する場合は，半角カンマ”,”で区切って設定します。半角空白文字を使用できません。「稼動状況統計情報」をメールに添付して通知する場合のメール通知文は，「環境設定」-「カスタマイズタブ」-「稼動状況監視用ー稼動状況統計情報の標準メール通知文」を使用します。監視抑止中あるいは監視抑止時間帯は，統計情報の出力は行いますが，メールでの通知は行いません。監視契機で設定した監視契機に，監視対象の稼動状況を統計情報として出力してメールで通知するため，監視抑止中あるいは監視抑止時間帯は，監視契機毎に「稼動状況監視記録」ログに「2110-I」「2111-I」を出力します。

(g) 「監視契機」フィールド

監視間隔または特定の監視時刻を設定します。

- 「監視間隔」ラジオボタン

  一定の監視間隔毎に監視する場合に選択します。このラジオボタンを選択した場合，前回の監視結果と今回の監視結果を比較して，状態が変化しており，かつ今回の監視結果が監視条件に一致するとき，通知します。

分毎	監視間隔は 1～999 の値を指定します。
時間毎	監視間隔は 1～24 の値を指定します。 標準の監視間隔は，1 時間毎です。
日毎	監視間隔は 1～31 の値を指定します。

- 「特定時刻」ラジオボタン

  特定の時刻に監視する場合に選択します。このラジオボタンを選択した場合，監視結果が監視条件に一致するとき，通知します。

時間	0～23 の値を指定します。
分	0～59 の値を指定します。

(h) 「監視開始時と監視再開時の状態を通知する」チェックボックス

初回の監視の稼動状況，または，監視再開後の稼動状況が監視条件に一致するとき，通知する場合にチェックします。「稼動状況を統計情報として出力する」チェックボックスにチェックしている場合，この項目を設定できません。

(i) ［標準の監視条件を設定］ボタン

標準の監視条件を設定ダイアログボックス（図 4.15-14）を表示します。

(j) ［標準の電源制御設定］ボタン

標準の電源制御設定ダイアログボックス（図 4.15-17）を表示します。「稼動状況を統計情報として出力する」チェックボックスにチェックしている場合，この項目を選択できません。このボタンは，AECL では選択できず不活性となります。

(k) 「監視対象の設定」リストボックス

監視対象のコンピュータまたは機器情報を表示します。最大 5000 の監視対象を指定できます。

● **「種別」**

監視対象の種別を表示します。

コンピュータ	「コンピュータ」と表示します。
機器	「機器」と表示します。

● **「名称」**

監視対象のプロパティダイアログボックスー「全般」タブ（図 4.15-18）で設定した「名称」テキストボックスの値を表示します。

● **「監視条件」**

監視対象のプロパティダイアログボックスー「監視条件」タブ（図 4.15-20）で設定した監視条件を表示します。

表示内容	監視条件の説明
標準の監視条件	標準の監視条件を設定ダイアログボックスで設定した監視条件のとき。
稼動状態検出時	監視対象が稼動中を検出したとき。
非稼動状態検出時	監視対象が非稼動中を検出したとき。AECL の場合，選択できません。
CPU 使用量 N%以下/以上	監視対象の CPU 使用率が N%以下/以上を検出したとき。 本項目は監視対象の種別が機器の場合，選択できません。不活性となります。
メモリ使用量 N%以下/以上 ([メモリ種別])	監視対象のメモリ使用率が N%以下/以上を検出したとき。[メモリ種別]には，「仮想メモリ」「物理メモリ」のいずれかを表示します。本項目は監視対象の種別が機器の場合，選択できません。不活性となります。
ドライブ使用率 N%以下/以上（[ドライブ名]ドライブ)	監視対象の特定のドライブの使用率が N%以下/以上を検出したとき。[ドライブ名]には，監視するドライブを表示します。本項目は監視対象の種別が機器の場合，または，AECL の場合，選択できません。不活性となります。
他の監視対象が非稼動	「同じ監視グループの他の監視対象が全て非稼動中」を検出したとき

(l) ［インポート］ボタン

監視対象の設定をファイルから読み込む場合に選択します。読み込むファイルの形式は，カンマテキスト形式です。ファイルの書式については，「環境設定」-「カスタマイズタブ」-「稼動状況監視用ー定義情報インポートサンプルファイル」を参照してください。監視対象の設定をファイルから読み込む場合，既存の監視対象の設定をすべて削除します。ファイルに設定されている監視対象情報が不正な場合，監視対象として読み込みません。ファ

イルに複数の監視対象情報が設定されている場合，監視対象情報が正しい監視対象のみ読み込みます。読み込みできる監視対象数は，最大 5000 です。監視対象の設定をファイルから読み込んでいる間は，稼動状況監視設定ダイアログボックスの操作ができません。このボタンは，AECL では選択できません。不活性となります。

(m) ［エクスポート］ボタン

監視対象の設定をファイルへ出力する場合に選択します。出力するファイルの形式は，カンマテキスト形式です。監視対象の設定をファイルへ出力している間は，稼動状況監視設定ダイアログボックスの操作ができません。このボタンは，AECL では選択できません。不活性となります。

(n) ［追加］ボタン

監視対象を追加するために，監視対象のプロパティダイアログボックス（図 4.15-18）を開きます。「監視対象の設定」リストボックスに設定されている監視対象数が 5000 の場合，追加できません。

(o) ［プロパティ］ボタン

「監視対象の設定」リストボックスで選択された監視対象の，監視対象のプロパティダイアログボックス（図 4.15-18）を表示します。

(p) ［削除］ボタン

「監視対象の設定」リストボックスで選択された監視対象を削除します。監視対象を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。

(2) 稼動状況監視設定－「連絡網」タブ

稼動状況監視で通知する連絡網の設定をします。連絡網を使用した通知は，稼動状況監視が teldial コマンドを使用して通知を行います。稼動状況監視－「連絡網」タブを，図 4.15-8 に示します。

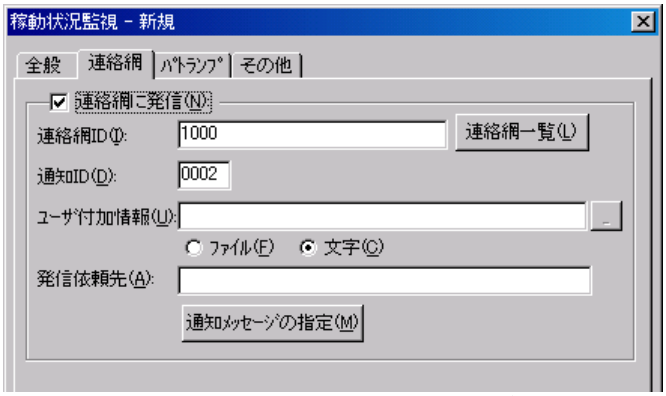


図 4.15-8 稼動状況監視－「連絡網」タブ

(a) 「連絡網に発信」チェックボックス

監視対象のコンピュータまたは機器が監視状態に変化したとき，連絡網に発信する場合，ここをチェックします。

(b) 「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

ここで指定した連絡網 ID は，teldial コマンドの-ni オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-ni オプションを参照してください。

監視対象のコンピュータまたは機器が監視状態に変化したとき，複数の連絡網（ID）に対して発信できます。

連絡網 ID を複数指定するときは「，」（半角カンマ）区切りで指定します。

連絡網への発信では，稼動状況監視が teldial コマンドを生成して発信を行います。

連絡網 ID を複数指定すると，指定した連絡網 ID について同じオプションを使用した teldial コマンドを生成します。

連絡網 ID を多数指定した場合，発信要求が多数キューイングされ発信の滞留と遅延が発生する以外に，システムのリソースを消費しアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に影響を与える場合があります。

稼動状況監視が使用する teldial コマンドは，発信制限機能は適用されません。

(c) ［連絡網一覧］ボタン

連絡網 ID 一覧から通知する連絡網 ID を選択するために連絡網 ID の選択ダイアログボックス（図 4.11-16）を表示します。

(d) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

ここで指定した通知 ID は，teldial コマンドの-id オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-id オプションを参照してください。

通知 ID は，通知するメッセージテキスト中の「~id2~」変数と置き換えられます。

通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。

(e) 「ユーザ付加情報」テキストボックス

ユーザ付加情報を文字で指定する場合は「文字」ラジオボタンを，ユーザ付加情報を格納したファイル名で指定する場合は「ファイル」ラジオボタンを選択します。

ユーザ付加情報は，通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えられます。ユーザ付加情報をファイル名で指定する場合は，FAX 送信ファイルと電話通知文ファイルに~UserInformation~ 変数は，使用できません。

●「文字」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（すべて全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，ファイルを使用してください。

ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識

できないコードを含めることはできません。ユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

（例）-u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「；」（半角セミコロン）で区切ると複数行に分割でき，「；」は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例） -u "ユーザ付加情報 1 行目；ユーザ付加情報 2 行目"

ユーザ付加情報を文字で指定する場合は，teldial コマンドの-u オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-u オプションを参照してください。

ユーザ付加情報には， 表 2.3-28 に示す稼動状況監視の変数が使用できます。

●「ファイル」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を，ファイル完全名で指定するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ユーザ付加情報をファイル名で指定する場合は，teldial コマンドの-uf オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-uf オプションを参照してください。

ユーザ付加情報を格納したファイルには，表 2.3-28 に示す稼動状況監視の変数が使用できます。

(f) 「発信依頼先」テキストボックス

稼動状況監視の通知を発信依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

ここで指定した発信依頼先は，teldial コマンドの-to オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-to オプションを参照してください。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

指定のない場合は自コンピュータで発信を行います。

発信依頼には，「2.3.1(1)(h) 発信依頼」に示す注意事項があります。

(g) ［通知メッセージの指定］ボタン

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスを表示します。

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスで個別の通知メッセージや通知ファイルを設定します。個別の通知メッセージや通知ファイルを使用しない場合は，稼動状況監視の標準通知文を使用するため設定の必要はありません。

(3) 稼動状況監視設定－「パトランプ」タブ

稼動状況監視で通知するパトランプの設定をします。

このタブは，AECL では表示されません。

パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。稼動状況監視監－「パトランプ」タブを，図 4.15-9 に示します。

図 4.15-9　稼動状況監視設定ー「パトランプ」タブ

(a)　「パトランプに発信」チェックボックス

監視対象のコンピュータまたは機器が監視状態に変化したとき，パトランプに発信する場合，ここをチェックします。

(b)　「動作」ラジオボタン

パトランプの動作を指定します。

- **「点灯」ボタンをチェックした場合**

リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させます。

- **「消灯」ボタンをチェックした場合**

リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。

- **「点灯と消灯」ボタンをチェックした場合**

リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させ，チェックされていないリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。

すべてのリレー番号のパトランプを動作させるときは，「点灯と消灯」ボタンのチェックを推奨します。リレー番号個別の動作に比べて動作時間を短縮できます。

(c)　「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプの動作で「点灯」が指定されている場合に有効となり，パトランプ点灯後，自動的に消灯させる場合に，ここをチェックします。

自動消灯オプションを使用するとパトランプが消灯するまで，他からの同じ RS232C 接

続，コンバータ接続のパトランプおよびネットワーク対応型パトランプへの動作指示は待ち状態になります。

自動消灯オプションを使用して短時間に大量のパトランプの動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。

複数のリレー接点を指定したときの「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で点灯後，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で消灯します。動作順序は，変えられません。

(d)　「自動的に消灯する」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ点灯後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

(e)　「リレー番号」チェックボックス

動作させたいパトランプが接続されているリレーの番号ボタンをチェックします。リレー番号の指定で「全て」がチェックされた場合，このボタンは指定できません。

複数のリレー接点を指定したときの「点灯」，「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で動作します。動作順序は，変えられません。

(f)　「全て」チェックボックス

すべてのリレーに接続されているパトランプの「点灯」，または「消灯」をする場合，ここをチェックします。

パトランプの動作ボタンで「点灯と消灯」が指定された場合，すべて点灯の動作になります。

(g)　「リレー種別」ボタン

リレー種別の設定ダイアログボックスで使用するリレー装置の種別を設定します。設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するリレー装置の標準設定(D) 】で設定した標準のリレー装置が使用されます。

リレー種別の設定ダイアログボックスを，図 4.15-10 に示します。

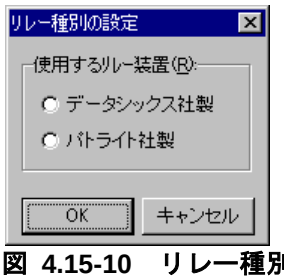


図 4.15-10　リレー種別の設定ダイアログボックス

(h)　「ポート名」ドロップダウンリスト

パトランプが接続されている RS232C のポート番号を，ドロップダウンリストから選択します。

AEPE, AESE, AECL のある PC に接続したパトランプを使用する場合は，そのパトラ

ンプが接続されている RS232C のポート番号を選択します。

使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると直前で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

(i)　チャンネル番号

リレー装置が接続されている RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。

RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に使用したチャンネル番号の機器が動作します。

(j)　「リモートで使用」チェックボックス

別の場所に接続されているパトランプを動作させたい場合に，このボタンをチェックします。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプが接続されているとき，PC がネットワーク接続の場合は「ネットワーク」ラジオボタンを，電話回線でつながっている場合は「電話回線」ラジオボタンを選択します。

パトランプが接続されている場所が，コンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合は，「コンバータ」ラジオボタンを選択します。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプを接続した場合，コンバータ接続，またはネットワーク対応型パトランプに比べ動作に時間がかかり，動作するまでの遅延が発生する場合があります。

(k)　「場所」テキストボックス

パトランプが接続されている場所を指定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択された場所によって異なります。

●パトランプの接続場所が，AEPE, AESE, AECLのあるPCの場合

パトランプが AEPE, AESE, AECL のある PC に接続されているときは，「ネットワーク」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名を指定します。

IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。

ポート番号は，「ポート番号」テキストボックスに指定します。ポート番号を IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定した場合は，指定したポート番号を「ポート番号」テキストボックスに移動します。

●パトランプが接続されている場所が，電話回線の場合

パトランプが接続されている場所が AEPE, AESE, AECL のある PC の場合で，電話回線に接続されているときは，「電話回線」をチェックし，回線番号を指定します。

●パトランプの接続場所がコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータに接続されているときは，「コンバータ」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名を指定します。

ポート番号は，「ポート番号」テキストボックスに指定します。ポート番号を IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定した場合は，指定したポート番号を「ポート番号」テキストボックスに移動します。

(l)　「ポート番号」テキストボックス

●パトランプの接続場所が，AEPE, AESE, AECLのあるPCの場合

パトランプが AEPE, AESE, AECL のある PC に接続されている場合，AEPE, AESE, AECL の通信ポート番号を指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL の場合，「図 4.4-1　メッセージエージェント構成の設定－「全般」タブ」でポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。

●パトランプの接続場所がコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータに接続されている場合，ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータの通信ポート番号を指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telswnet ポート番号/tcp
```

１つの機器を複数の TELstaff から同時に使用できるかは機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

(例)

100.100.100.1
100.100.100.1:35000

(m)　［コンバータ種別］ボタン

コンバータ種別の設定ダイアログボックスを表示します。コンバータ種別の設定ダイアログボックスで使用するコンバータの種別を設定します。ネットワーク対応型パトランプ，ネットワーク対応型リレーユニットの場合は，「パトライト社製」ラジオボタンを選択します。

設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の標準設定(H) 】-【パトランプ発信の場合(L) 】で設定したコンバータ装置を使用します。

コンバータ種別の設定ダイアログボックスを，図 4.15-11 に示します。

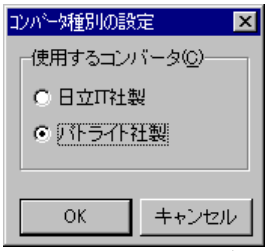


図 4.15-11　コンバータ種別の設定ダイアログボックス

(n)　「パスワード」テキストボックス

パトランプが接続されている場所が AEPE, AESE, AECL のある PC の場合で，ネットワークに接続または電話回線に接続されているとき，AEPE, AESE, AECL に受信パスワードの設定があるときは，AEPE, AESE, AECL の受信パスワードを指定します。

(4)　稼動状況監視設定－「その他」タブ

稼動状況監視で通知する Messenger サービスメッセージ，メール通知，実行するコマンドの設定をします。このタブは，AECL では表示されません。

稼動状況監視－「その他」タブを，図 4.15-12 に示します。

図 4.15-12　稼動状況監視－「その他」タブ

(a)　「メールに発信」チェックボックス

監視対象のコンピュータまたは機器が監視状態に変化したとき，メールに通知をする場合，ここをチェックします。

(b)　［プロパティ］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，宛先情報を変更します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.11-14 に示します。

(c)　［追加］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，メール通知する宛先を設定します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 4.15-13 に示します。

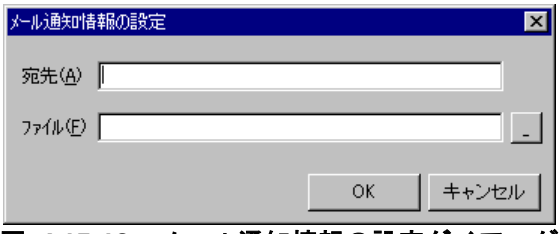


図 4.15-13　メール通知情報の設定ダイアログボックス

- **「宛先」テキストボックス**

発信通知するメールのメールアドレスを指定します。

- **「ファイル名」テキストボックス**

メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，稼動状況監視用の標準メッセージ通知文を使用します。稼動状況監視用の標準メッセージ通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

標準メッセージ通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

メッセージ通知文では，表 2.3-28 に示す変数が使用できます。

(d)　［削除］ボタン

宛先情報を削除します。

(e)　「Messengerサービスで通知を行う」チェックボックス

監視対象のサービスが監視状態に変化したときに，Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知を使用して，メッセージ通知をする場合，ここをチェックします。両者の違いや注意事項については 2.3.1(12)を参照してください。

メッセンジャー通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，稼動状況監視用の標準メッセンジャー通知文を使用します。稼動状況監視用の標準メッセンジャー通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

標準メッセンジャー通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してくださ

い。
メッセンジャー通知文では，表 2.3-28 に示す変数が使用できます。

(f) 「宛先」テキストボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知の通知先を指定します。宛先指定方法については 2.3.1(12)(c)を参照してください。なお，宛先欄に何も指定しない場合は自コンピュータに Messenger 通知を行います。
宛先は，「，」（半角カンマ）区切りで，合計の文字数がカンマを含め半角 256 文字以内で複数指定できます。

(g) 「コマンドを実行する」チェックボックス

監視対象のサービスが監視状態に変化したときに，コマンドを実行する場合チェックします。

(h) 「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択します。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

ここで指定したコマンドの実行時間が 30 分経過しても終了しない場合は，実行を打ち切ります。

(i) 「パラメタ」テキストボックス

実行するコマンドのパラメタを指定します。
コマンドパラメタには，表 2.3-28 に示す稼動状況監視の変数が使用できます。

(j) ［登録］ボタン

「コマンド名」テキストボックスに指定したコマンドを登録します。［登録］ボタンを押すと「実行コマンド」リストボックスにコマンド名が表示されます。

(k) ［削除］ボタン

「実行コマンド」リストボックスで選択されたコマンドを削除します。

(l) 「実行コマンド」リストボックス

登録したコマンドの一覧を表示します。登録したコマンドの変更は，次の操作で変更できます。

1. 「実行コマンド」リストボックスで変更するコマンドを選択します。
2. ダブルクリックで登録コマンドの内容を「コマンド名」テキストボックスと「パラメタ」テキストボックスに表示させます。
3. コマンドを変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するコマンドの選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

4.15.5標準の監視条件を設定ダイアログボックス

(1) 標準の監視条件を設定ダイアログボックスー「コンピュータの監視方法」タブ

監視対象の種別がコンピュータの場合の標準の監視条件を設定します。標準の監視条件を設定ダイアログボックスー「コンピュータの監視方法」タブを図 4.15-14 に示します。

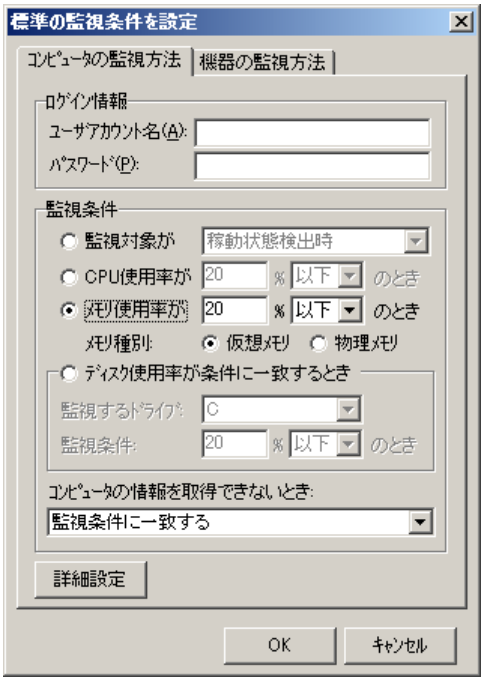


図 4.15-14 標準の監視条件を設定ダイアログボックス ー「コンピュータの監視方法」タブ

(a) 「ログイン情報」フィールド

監視対象の種別がコンピュータのとき，標準のログイン情報を設定します。

●ユーザアカウント名

標準ログインユーザアカウントを，半角 1025 文字以内で指定します。監視対象毎にログインユーザアカウントを設定する場合，本項目の設定は不要です。「図 4.15-2 稼動状況監視のプロパティダイアログボックス」または「図 4.15-15 詳細設定ダイアログボックス」の「コンピュータ情報取得方法を設定」フィールドにおいて，「WMI（Windows Management Instrumentation）を使用する」ラジオボタンを選択する場合，「ドメイン名¥ユーザアカウント名」の形式で指定します。

ドメイン名が「DomainA.co.jp」，ユーザアカウント名が「telstaff」の場合は，下記例のように指定してください。

（例）DomainA.co.jp¥telstaff

●パスワード

標準ログインユーザアカウントのパスワードを，半角 1025 文字以内で指定します。監視対象毎にログインユーザアカウントのパスワードを設定する場合，本項目の設定は不要

です。

(b) 「監視条件」フィールド

監視対象の種別がコンピュータのとき，標準の監視条件を設定します。

●「監視対象」ラジオボタン

監視対象の稼動状況が，「稼動状態検出時」または「非稼動状態検出時」に通知する場合，このラジオボタンを選択します。

●「監視対象」ドロップダウンリスト

監視対象の稼動状況を，「稼動状態検出時」または「非稼動状態検出時」のいずれかで選択します。「非稼動状態検出時」は，AECL の場合，選択できません。

●「CPU使用率」ラジオボタン

監視対象の CPU 使用率が，「CPU 使用率」テキストボックスで設定された値以下または以上のときに通知する場合，このラジオボタンを選択します。「CPU 使用率」テキストボックスでは，監視対象の CPU 使用率を割合として 0～100 の範囲で設定します。「CPU 使用率」ドロップダウンリストでは，「以上」「以下」のいずれかを選択します。

●「メモリ使用率」ラジオボタン

監視対象のメモリ使用率が，「メモリ使用率」テキストボックスで設定された値以下または以上のときに通知する場合，このラジオボタンを選択します。「メモリ使用率」テキストボックスでは，監視対象のメモリ使用量を割合として 0～100 の範囲で設定します。「メモリ使用率」ドロップダウンリストでは，「以上」「以下」のいずれかを選択します。「メモリ種別」ラジオボタンでは，監視するメモリ種別を「仮想メモリ」「物理メモリ」のいずれかで指定します。

●「ディスク使用率が条件に一致するとき」ラジオボタン

監視対象のディスク使用率が，設定された監視条件に一致するときに通知する場合，このラジオボタンを選択します。AECL の場合，選択できません。不活性となります。

●「監視するドライブ」ドロップダウンリスト

「ディスク使用率が条件に一致するとき」ラジオボタンを選択しているとき，監視するディスク情報を選択します。ネットワークドライブ，外部デバイスのディスクや FAT16, FAT32 および NTFS 以外のディスクを選択した場合，ディスク容量を取得できない可能性があります。また，実際に稼動状況監視を行うときにここで選択したディスクが存在しない場合，ディスク容量を取得できない扱いとなります。このとき監視条件に一致するかどうかは，「コンピュータの情報を取得できないとき」ドロップダウンリストの設定に従います。AECL の場合，選択できません。不活性となります。

●「ディスク監視条件」テキストボックス

監視対象のディスク使用量を割合として 0～100 の範囲で設定します。「ディスク監視

条件」ドロップダウンリストでは，「以上」「以下」のいずれかを選択します。AECL の場合，選択できません。不活性となります。

●「コンピュータの情報を取得できないとき」ドロップダウンリスト

監視対象コンピュータの情報（CPU 使用率・メモリ使用率・ディスク使用率）を取得できないときの扱いを選択します。

項目	説明
監視条件に一致しない	監視対象コンピュータの情報を取得できないとき，監視条件に一致しない扱いとして通知しない場合に選択します。
監視条件に一致する	監視対象コンピュータの情報を取得できないとき，監視条件に一致する扱いとして通知する場合に選択します。

(c) 「詳細設定」ボタン

監視対象コンピュータの情報（CPU 使用率・メモリ使用率・ディスク使用率）の取得方法を指定します。このボタンは，AECL では使用できません。不活性となります。AECL では，WMI を利用して自コンピュータの CPU 使用率情報・メモリ使用率情報を取得します。

詳細設定ダイアログボックスを図 4.15-15 に示します。

図 4.15-15 詳細設定ダイアログボックス

●「監視グループのコンピュータ情報取得方法を設定する」チェックボックス

監視グループごとに監視対象コンピュータの情報（CPU 使用率・メモリ使用率・ディスク使用率）の取得方法を指定するとき，このチェックボックスにチェックします。チェックしないとき，稼動状況監視プロパティダイアログボックスの「コンピュータ情報取得方法を設定」フィールドで設定した方法で，監視対象コンピュータの情報（CPU 使用率・メモリ使用率・ディスク使用率）を取得します。

●「SNMP（Simple Network Management Protocol）を使用する」ラジオボタン

SNMP を使用して情報（CPU 使用率・メモリ使用率・ディスク使用率）を取得するとき選択します。コンピュータの情報取得には RFC 2790 で定義される Host Resources MIB を使用します。SNMP を使用する場合，コミュニティ名は「public」固定となります。

●「WMI（Windows Management Instrumentation）を使用する」ラジオボタン

WMI を使用して情報（CPU 使用率・メモリ使用率・ディスク使用率）を取得するとき選択します。

• WMIを使用する場合の注意事項

- 監視対象 PC がローカルセキュリティポリシーのセキュリティオプションのネットワークアクセス: ローカルアカウントの共有とセキュリティモデルのプロパテ

ィが「クラッシック - ローカルユーザがローカルユーザとして認証する」に設定されている必要があります。

- TELstaff サービスのアカウントはローカルシステムアカウント以外で Administrators グループに属するアカウントを指定する必要があります。
- 監視対象 PC が Vista 以降の Windows である場合，監視対象 PC で built-in Administrator アカウントが有効に設定されている必要があります。
- 監視対象 PC が Vista 以降の Windows の場合，アカウント情報には built-in Administrator アカウントを指定する必要があります。

(2) 標準の監視条件を設定ダイアログボックスー「機器の監視方法」タブ

監視対象の種別が機器のとき，標準の監視条件を設定します。このタブは，AECL では表示されません。

標準の監視条件を設定ダイアログボックスー「機器の監視方法」タブを図 4.15-16 に示します。

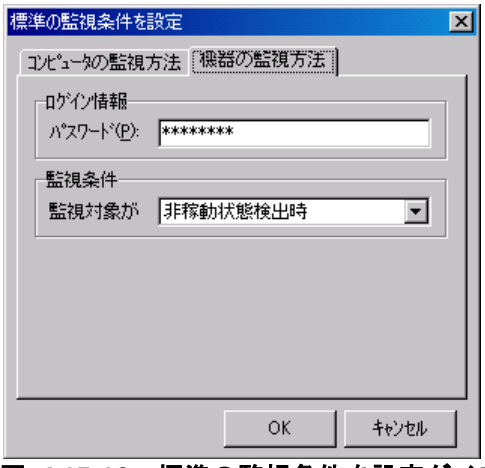


図 4.15-16 標準の監視条件を設定ダイアログボックスー「機器の監視方法」タブ

(a) 「ログイン情報」フィールド

監視対象の種別が機器のとき，標準のログイン情報を設定します。

●パスワード

監視対象機器の標準パスワードを，半角 1025 文字以内で指定します。監視対象毎にパスワードを設定する場合，本項目の設定は不要です。

(b) 「監視条件」フィールド

監視対象機器の標準の監視条件を設定します。

●「監視対象」ドロップダウンリスト

監視対象の稼動状況を，「稼動状態検出時」または「非稼動状態検出時」のいずれかで選択します。

4.15.6標準の電源制御設定ダイアログボックス

標準の電源制御を設定します。稼動状況監視ー「全般」タブの「稼動状況を統計情報として出力する」チェックボックスをチェックしている場合，このダイアログボックスを表示しません。標準の電源制御設定ダイアログボックスを図 4.15-17 に示します。

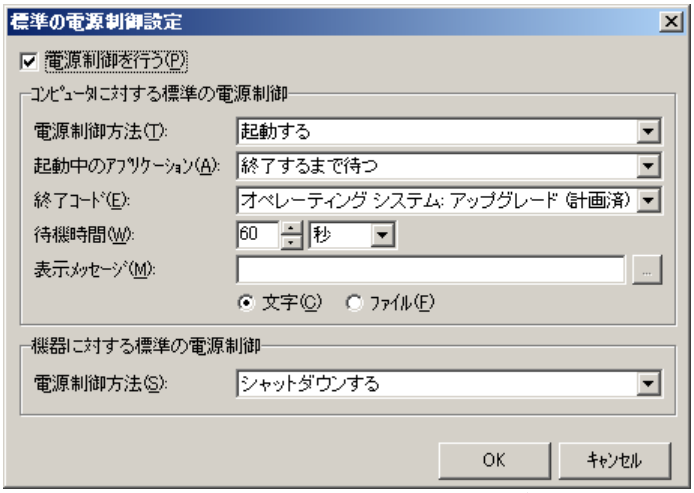


図 4.15-17　標準の電源制御設定ダイアログボックス

(a)　「電源制御を行う」チェックボックス

監視対象が監視条件に一致したときに，電源制御を行う場合，ここをチェックします。電源制御を行わない場合や，監視対象毎に電源制御を設定する場合，本項目の設定は不要です。

(b)　「コンピュータに対する標準の電源制御」フィールド

監視対象の種別がコンピュータのとき，コンピュータに対する標準の電源制御方法を設定します。

●「電源制御方法」ドロップダウンリスト

電源制御方法を，「シャットダウンする」「再起動する」または「起動する」のいずれかで指定します。「4.15.8 コンピュータの電源制御」に注意事項があります。

下記がすべて該当する場合，監視対象のプロパティダイアログボックスー「全般」タブの「MAC アドレス」テキストボックスに，監視対象コンピュータの MAC アドレス(物理アドレス)を指定します。

- 本ダイアログの「電源制御を行う」チェックボックスにチェック。
- 本項目で「起動する」を選択。
- 監視対象のプロパティダイアログボックスー「全般」タブで監視対象種別として「コンピュータ」を選択。
- 監視対象のプロパティダイアログボックスー「電源制御」タブの「個別に電源制御を設定する」チェックボックスにチェックしない。

●「起動中のアプリケーション」ドロップダウンリスト

本設定項目は「電源制御方法」としてシャットダウンまたは再起動を選択した場合に有効です。

本設定項目で「終了するまで待つ」を選択した場合，電源制御するコンピュータに対して起動しているアプリケーションを通常通りに終了するのを待った上で，シャットダウンまたは再起動を実施するよう要求します。通常通りにアプリケーションを終了するため，例えば，ワープロソフトで文書を編集中であれば文書を保存するダイアログが表示され，保存する機会がユーザに与えられます（実際の動作はアプリケーションごとに異なります）。ただし，コンピュータがロックされている場合や，動作中のアプリケーションがユーザからの応答を待ち続けた場合には，シャットダウンまたは再起動できないことがあります。

本設定項目で「強制終了する」を選択した場合，電源制御するコンピュータに対して起動しているアプリケーションを強制終了した上でシャットダウンまたは再起動を実施するよう要求します。アプリケーションを強制終了するため，例えば，ワープロソフトで文書を編集中であれば編集内容が失われることがあります。ただし，本設定ではコンピュータがロックされている場合でも強制的に電源制御を実施できます。

●「終了コード」ドロップダウンリスト

シャットダウンまたは再起動するときの，シャットダウンの理由を次のいずれかから選択します。

項目
その他 (計画済)
その他 (計画外)
ハードウェア: メンテナンス (計画外)
ハードウェア: メンテナンス (計画済)
ハードウェア: インストール (計画外)
ハードウェア: インストール (計画済)
オペレーティング システム: アップグレード (計画済)
オペレーティング システム: 再構成 (計画外)
オペレーティング システム: 再構成 (計画済)
アプリケーション: メンテナンス (計画外)
アプリケーション: メンテナンス (計画済)
アプリケーション: 応答なし
アプリケーション: 不安定

●「待機時間」

シャットダウンまたは再起動実行までの待機時間を指定します。

秒	0～60 の値を指定します。
分	0～60 の値を指定します。

●「表示メッセージ」テキストボックス

電源制御するコンピュータにログインしているユーザへ通知するメッセージを指定します。本項目を指定しない場合や指定されたファイルがない場合，［環境設定］－［カスタ

マイズ］タブの［稼動状況監視用－シャットダウン時の標準メッセージ］または［稼動状況監視用－再起動時の標準メッセージ］を使用します。

文字	半角 256 文字以内で指定します。
ファイル	完全ファイルパスを指定します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は指定できません。半角 256 文字以内をメッセージとして表示します。

(c) 「機器に対する標準の電源制御」フィールド

監視対象の種別が機器のとき，機器に対する標準の電源制御方法を設定します。

- **「電源制御方法」ドロップダウンリスト**

電源制御方法を，「シャットダウンする」，「再起動する」または「起動する」のいずれかで指定します。

4.15.7 監視対象のプロパティダイアログボックス

(1) 監視対象のプロパティダイアログボックス－「全般」タブ

監視対象の全般を設定します。監視対象のプロパティダイアログボックス－「全般」タブを，図 4.15-18 に示します。

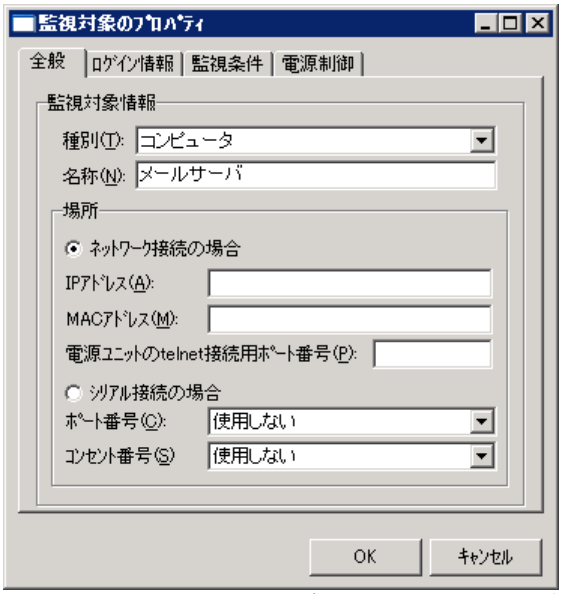


図 4.15-18 監視対象のプロパティダイアログボックス－「全般」タブ

(a) 「種別」ドロップダウンリスト

監視対象の種別を，「コンピュータ」または「機器」のいずれかで指定します。AECL では「機器」を選択できません。

(b) 「名称」テキストボックス

監視対象の名称を，半角 1025 文字以内で指定します。

(c) 「場所」フィールド

監視対象コンピュータまたは監視対象機器の場所を設定します。AECL では「ネットワーク接続の場合」ラジオボタンが選択されます。AECL では「シリアル接続の場合」ラジオボタンを選択したり，他の項目を設定したりすることはできません。

●「ネットワーク接続の場合」ラジオボタン

監視対象の種別が「コンピュータ」のとき，または，監視対象の種別が「機器」かつ電源ユニットをネットワーク経由で接続しているときに選択します。

●「IPアドレス」テキストボックス

「ネットワーク接続の場合」ラジオボタンを選択しているとき，監視対象の IP アドレスまたはホスト名を，半角 252 文字以内で指定します。

●「MACアドレス」テキストボックス

監視対象コンピュータの MAC アドレス(物理アドレス)を指定します。指定可能な文字列長は，半角 20 文字です。空白のみの文字列を指定できません。MAC アドレスの書式は，コロン区切り，ハイフン区切りのどちらも指定可能です。電源制御機能で「起動する」を選択する場合は，必ず本項目を指定します。

●「電源ユニットのtelnet接続用ポート番号」テキストボックス

監視対象の種別が「機器」のとき，電源ユニットにネットワーク接続するポート番号を 1 以上 65535 以下の数値で設定します。この項目を指定しない場合，稼動状況監視のプロパティダイアログボックスの「電源ユニットの telnet 接続用ポート番号」テキストボックスで指定したポート番号を使用します。ファイアウォールを使用する場合は，指定したポート番号をファイアウォールの適用外にしてください。監視対象の種別が「コンピュータ」のとき，この項目を指定できません。

●「シリアル接続の場合」ラジオボタン

監視対象の種別が「機器」のとき，かつ電源ユニットをシリアルポート経由で接続しているときに選択します。監視対象の種別が「コンピュータ」のとき，このラジオボタンを選択できません。

●「ポート番号」ドロップダウンリスト

監視対象の種別が「機器」のとき，かつ電源ユニットをシリアルポート経由で接続しているときに，機器を接続している RS-232C のポート番号をドロップダウンリストから選択します。使用できるポート番号は，COM1 から COM16 までです。監視対象の種別が「コンピュータ」のとき，この項目を指定できません。

● **「コンセント番号」ドロップダウンリスト**

監視対象種別が「機器」のとき，電源ユニットのコンセント番号を 1～4 のいずれかで指定します。監視対象の種別が「コンピュータ」のとき，この項目を指定できません。

(2) 監視対象のプロパティダイアログボックス－「ログイン情報」タブ

監視対象のログイン情報を設定します。監視対象のプロパティダイアログボックス－「ログイン情報」タブを，図 4.15-19 に示します。

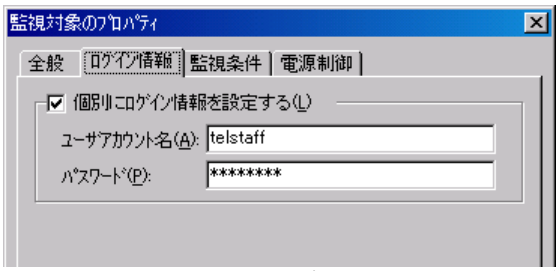


図 4.15-19　監視対象のプロパティダイアログボックス－「ログイン情報」タブ

(a) 「個別にログイン情報を設定する」チェックボックス

監視対象毎にログイン情報を設定する場合，ここをチェックします。チェックしない場合，標準の監視条件を設定ダイアログボックスで指定したログイン情報を使用します。

(b) 「ユーザアカウント名」テキストボックス

ログインユーザアカウントを，半角 1025 文字以内で指定します。監視対象種別が「機器」のとき，本項目の設定は不要です。「図 4.15-2　稼動状況監視のプロパティダイアログボックス」または「図 4.15-15　詳細設定ダイアログボックス」の「コンピュータ情報取得方法を設定」フィールドにおいて，「WMI（Windows Management Instrumentation）を使用する」ラジオボタンを選択する場合，「ドメイン名¥ユーザアカウント名」の形式で指定します。

(c) 「パスワード」テキストボックス

パスワードを，半角 1025 文字以内で指定します。

(3) 監視対象のプロパティダイアログボックス－「監視条件」タブ

監視対象の監視条件を設定します。監視対象のプロパティダイアログボックス－「監視条件」タブを，図 4.15-20 に示します。

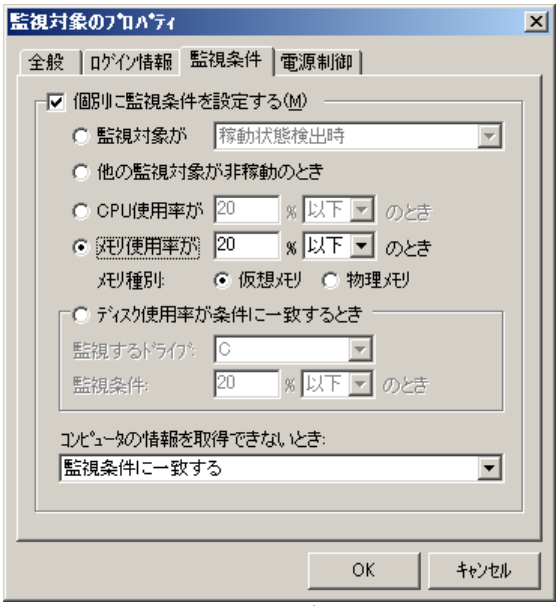


図 4.15-20　監視対象のプロパティダイアログボックスー「監視条件」タブ

(a)　「個別に監視条件を設定する」チェックボックス

監視対象のプロパティダイアログボックスー「全般」タブで設定した監視対象に対して，個別に監視条件を設定する場合にチェックします。チェックしない場合，標準の監視条件を設定ダイアログボックスで指定した監視条件を使用します。

●「監視対象」ラジオボタン

監視対象の稼動状況が，「稼動状態検出時」または「非稼動状態検出時」に通知する場合，このラジオボタンを選択します。

●「監視対象」ドロップダウンリスト

監視対象の稼動状況を，「稼動状態検出時」または「非稼動状態検出時」のいずれかで選択します。「非稼動状態検出時」は，AECL の場合，選択できません。

●「他の監視対象が非稼動のとき」ラジオボタン

同じ監視グループ内の，監視条件が「他の監視対象が非稼動のとき」以外の監視対象がすべて非稼動状態のときに通知する場合，選択します。AECL の場合，選択できません。不活性となります。

●「CPU使用率」ラジオボタン

監視対象の CPU 使用率が，「CPU 使用率」テキストボックスで設定された値以下または以上のときに通知する場合，このラジオボタンを選択します。「CPU 使用率」テキストボックスでは，監視対象の CPU 使用率を割合として 0～100 の範囲で設定します。「CPU 使用率」ドロップダウンリストでは，「以上」「以下」のいずれかを選択します。「全般」タブの監視対象情報の種別が「機器」のとき，このラジオボタンを選択できません。不活性となります。

●「メモリ使用率」ラジオボタン

監視対象のメモリ使用率が，「メモリ使用率」テキストボックスで設定された値以下または以上のときに通知する場合，このラジオボタンを選択します。「メモリ使用率」テキストボックスでは，監視対象のメモリ使用量を割合として 0～100 の範囲で設定します。「メモリ使用率」ドロップダウンリストでは，「以上」「以下」のいずれかを選択します。「メモリ種別」ラジオボタンでは，監視するメモリ種別を「仮想メモリ」「物理メモリ」のいずれかで指定します。「全般」タブの監視対象情報の種別が「機器」のとき，このラジオボタンを選択できません。不活性となります。

●「ディスク使用率が条件に一致するとき」ラジオボタン

監視対象のディスク使用率が，設定された監視条件に一致するときに通知する場合，このラジオボタンを選択します。AECL の場合，選択できません。「全般」タブの監視対象情報の種別が「機器」のとき，このラジオボタンを選択できません。不活性となります。

●「監視するドライブ」ドロップダウンリスト

「ディスク使用率が条件に一致するとき」ラジオボタンを選択しているとき，監視するディスク情報を選択します。ネットワークドライブ，外部デバイスのディスクや FAT16, FAT32 および NTFS 以外のディスクを選択した場合，ディスク容量を取得できない可能性があります。また，実際に稼動状況監視を行うときにここで選択したディスクが存在しない場合，ディスク容量を取得できない扱いとなります。このとき監視条件に一致するかどうかは，「コンピュータの情報を取得できないとき」ドロップダウンリストの設定に従います。AECL の場合，選択できません。「全般」タブの監視対象情報の種別が「機器」のとき，このラジオボタンを選択できません。不活性となります。

●「ディスク監視条件」テキストボックス

監視対象のディスク使用量を割合として 0～100 の範囲で設定します。「ディスク監視条件」ドロップダウンリストでは，「以上」「以下」のいずれかを選択します。AECL の場合，選択できません。「全般」タブの監視対象情報の種別が「機器」のとき，このラジオボタンを選択できません。不活性となります。

●「コンピュータの情報を取得できないとき」ドロップダウンリスト

監視対象コンピュータの情報（CPU 使用率・メモリ使用率・ディスク使用率）を取得できないときの扱いを選択します。本項目は，監視対象が「稼動」の場合が対象です。監視対象が「非稼動」の場合，本設定項目は無効です。

項目	説明
監視条件に一致しない	監視対象コンピュータの情報を取得できないとき，監視条件に一致しない扱いとして通知しない場合に選択します。
監視条件に一致する	監視対象コンピュータの情報を取得できないとき，監視条件に一致する扱いとして通知する場合に選択します。

(4) 監視対象のプロパティダイアログボックスー「電源制御」タブ

監視対象の電源制御を設定します。このタブは，AECL では表示されません。監視対象のプロパティダイアログボックスー「電源制御」タブを，図 4.15-21 に示します。

稼動状況監視－「全般」タブの「稼動状況を統計情報として出力する」チェックボックスをチェックしている場合，このダイアログボックスで指定された電源制御を行いません。

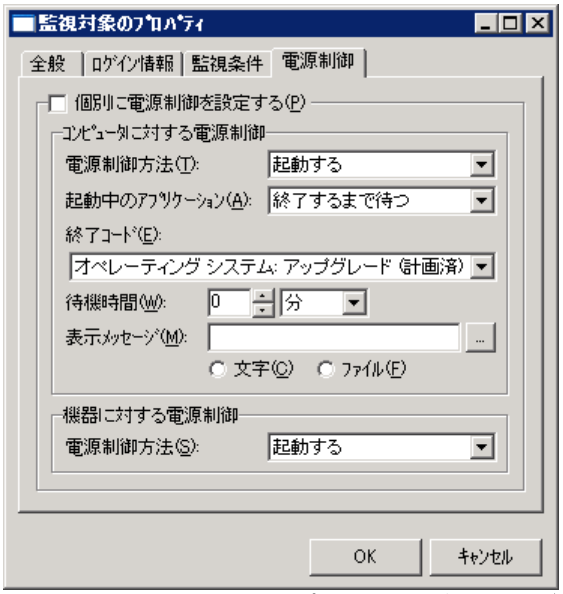


図 4.15-21　監視対象のプロパティダイアログボックス－「電源制御」タブ

(a)　「個別に電源制御を設定する」チェックボックス

監視対象毎に電源制御を設定する場合，ここをチェックします。チェックしない場合，標準の電源制御設定ダイアログボックスで指定した電源制御を行います。

(b)　「コンピュータに対する電源制御」フィールド

監視対象の種別がコンピュータのとき，コンピュータに対する電源制御方法を設定します。

●「電源制御方法」ドロップダウンリスト

電源制御方法を，「シャットダウンする」「再起動する」または「起動する」のいずれかで指定します。「4.15.8 コンピュータの電源制御」に注意事項があります。

なお，「起動する」を選択した場合，コンピュータの MAC アドレスを指定する必要があります。

コンピュータの MAC アドレスは，4.15.7(1)(c)「場所」フィールドの「MAC アドレス」テキストボックスで設定します。

●「起動中のアプリケーション」ドロップダウンリスト

本設定項目は「電源制御方法」としてシャットダウンまたは再起動を選択した場合に有効です。

本設定項目で「終了するまで待つ」を選択した場合，電源制御するコンピュータに対して起動しているアプリケーションを通常通りに終了するのを待った上で，シャットダウンまたは再起動を実施するよう要求します。通常通りにアプリケーションを終了するため，例えば，ワープロソフトで文書を編集中であれば文書を保存するダイアログが表示され，保存する機会がユーザに与えられます（実際の動作はアプリケーションごとに異なります）。ただし，コンピュータがロックされている場合や，動作中のアプリケーションがユ

ーザからの応答を待ち続けた場合には，シャットダウンまたは再起動できないことがあります。

本設定項目で「強制終了する」を選択した場合，電源制御するコンピュータに対して起動しているアプリケーションを強制終了した上でシャットダウンまたは再起動を実施するよう要求します。アプリケーションを強制終了するため，例えば，ワープロソフトで文書を編集中であれば編集内容が失われることがあります。ただし，本設定ではコンピュータがロックされている場合でも強制的に電源制御を実施できます。

●「終了コード」ドロップダウンリスト

シャットダウンまたは再起動するときの，シャットダウンの理由を選択します。

その他（計画済）
その他（計画外）
ハードウェア：メンテナンス（計画外）
ハードウェア：メンテナンス（計画済）
ハードウェア：インストール（計画外）
ハードウェア：インストール（計画済）
オペレーティング システム：アップグレード（計画済）
オペレーティング システム：再構成（計画外）
オペレーティング システム：再構成（計画済）
アプリケーション：メンテナンス（計画外）
アプリケーション：メンテナンス（計画済）
アプリケーション：応答なし
アプリケーション：不安定

●「待機時間」

シャットダウンまたは再起動実行までの待機時間を指定します。

秒	0～60 の値を指定します。
分	0～60 の値を指定します。

●「表示メッセージ」テキストボックス

電源制御するコンピュータにログインしているユーザへ通知するメッセージを指定します。本項目を指定しない場合や指定されたファイルがない場合，「環境設定」-「カスタマイズタブ」-「稼動状況監視用－シャットダウン時の標準メッセージ」または「環境設定」-「カスタマイズタブ」-「稼動状況監視用－再起動時の標準メッセージ」を使用します。

文字	半角 256 文字以内で指定します。
ファイル	完全ファイルパスを指定します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は指定できません。半角 256 文字以内をメッセージとして表示します。

(c) 「機器に対する電源制御」フィールド

監視対象の種別が機器のとき，機器に対する電源制御方法を設定します。

●「電源制御方法」ドロップダウンリスト

電源制御方法を，「シャットダウンする」「再起動する」または「起動する」のいずれかで指定します。

4.15.8コンピュータの電源制御

稼動状況監視機能や，電源制御コマンドでコンピュータを電源制御する場合，以下の注意事項があります。

- TELstaff サービスのサービスアカウントがローカルシステムアカウントの場合，コンピュータの電源制御ができない場合があります。

- シャットダウンまたは再起動する電源制御される側のコンピュータとの通信には NetBIOS プロトコルを使用します。対象のコンピュータのファイアウォール設定で NetBIOS (137-139/tcp) の受信を許可してください。

- 電源制御される側のコンピュータがロックされていると，そのコンピュータのシャットダウンおよび再起動ができない場合があります。その場合，以下いずれかの設定箇所にて「強制終了する」を設定することを検討してください。
  4.15.6(b)「起動中のアプリケーション」ドロップダウンリスト
  4.15.7(4)(b)「起動中のアプリケーション」ドロップダウンリスト

- Vista 以降の Windows のコンピュータに電源制御を行う場合，下記のいずれかの設定が必要です。セキュリティ管理者に確認の上設定してください。

1. 標準の監視条件を設定ダイアログボックスー「コンピュータの監視方法」タブの「ユーザアカウント名」と「パスワード」，または，監視対象のプロパティダイアログボックスー「ログイン情報」タブの「ユーザアカウント名」と「パスワード」に，電源制御される側のコンピュータのユーザ「Administrator」を有効化し，そのアカウントとパスワードを指定する。

2. 電源制御される側のコンピュータの UAC 機能を無効にする。

なお，(2)の設定は電源制御される側のコンピュータの セキュリティおよび他のアプリケーションの動作に影響を与える場合がありますので， (1)の設定を推奨します。

- 電源制御される側のコンピュータがログオン中のユーザによってロックされている場合，電源制御に失敗することがあります。その場合は起動中のアプリケーションを強制終了させるオプションを使用すると解決することがあります。本オプションの設定方法については，4.15.6(b)「コンピュータに対する標準の電源制御」フィールドを参照してください。なお，電源制御コマンドの場合は引数-a に auto を指定してください。

- 電源制御される側のコンピュータを起動するには，対象コンピュータが WOL に対応しており，WOL 機能が有効化されている必要があります。

5.連絡網の作成

この章では，連絡網の作成方法について説明します。

5.1　ユーザの作成

5.2　連絡網グループの作成

5.3　連絡網IDの作成

5.1ユーザの作成

5.1.1 ユーザの管理

TELstaff を利用するユーザの管理は，Administrators 権限ユーザでユーザ管理ウィンドウを使用して行います。ユーザ管理ウィンドウは，TELstaff ウィンドウで，【ツール(T)】メニューから【ユーザ管理(U)...】を選択して表示します。

AEPE または AESE をインストールすると，ユーザ名が「TELstaff 管理者」のユーザが登録されます。AEPE では，ユーザグループ名が「標準のユーザグループ」のグループが作成され，「TELstaff 管理者」は，その「標準のユーザグループ」に所属します。ユーザ名以外の登録情報は，ユーザのプロパティダイアログボックスで変更できます。

電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続（問い合わせ）するときの認証は，発信者の通知番号（ナンバーディスプレイ）を使用して認証ができます。発信者通知番号での認証は，発信者通知番号と登録したユーザの電話番号（電話番号 1～4）の番号との照合で行われます。

ユーザを新規登録したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

5.1.2 ユーザグループの作成

AEPE では，複数のユーザグループを作成することが可能です。登録できるユーザグループの最大数は製品ごとに異なります。詳細は表 2.3-32 を参照してください。

ユーザグループの作成は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウで，【ツール(T)】メニューから【ユーザ管理(U)...】を選択して，ユーザ管理ウィンドウを表示します。
2. ユーザ管理ウィンドウで，【ユーザ(U)】メニューから【新規グループの作成(G)】を選択し，図 5.1-1 に示す「新規グループの作成ダイアログボックス」を表示します。

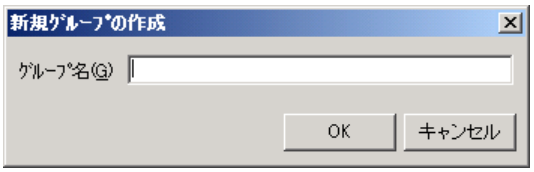


図 5.1-1　新規グループの作成ダイアログボックス

3. 新規グループの作成ダイアログボックスで，グループ名を半角 1020 文字（全角 510 文字）以内で設定し，［OK］ボタンをクリックします。なお，グループ名に半角空白文字および次の文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & ,

5.1.3 ユーザグループの削除

AEPE での既存ユーザグループの削除は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウで，【ツール(T)】メニューから【ユーザ管理(U)...】を選択して，ユーザ管理ウィンドウを表示します。
2. ユーザ管理ウィンドウで，【ユーザ(U)】メニューから【グループの削除(E)】を選択し，図 5.1-2 に示す「ユーザグループ削除の確認ダイアログボックス」を表示します。

図 5.1-2　ユーザグループ削除の確認ダイアログボックス

3. 削除してもよければ，［はい(Y)］ボタンをクリックします。なお，TELstaff の「システム管理者」として登録されているユーザが所属するユーザグループは，削除できません。

5.1.4 ユーザグループ名の変更

AEPE でのユーザグループ名の変更は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウで，【ツール(T)】メニューから【ユーザ管理(U)...】を選択して，ユーザ管理ウィンドウを表示します。
2. ユーザ管理ウィンドウで，【ユーザ(U)】メニューから【グループ名の変更(V)】を選択し，図 5.1-3 に示す「グループ名の変更ダイアログボックス」を表示します。

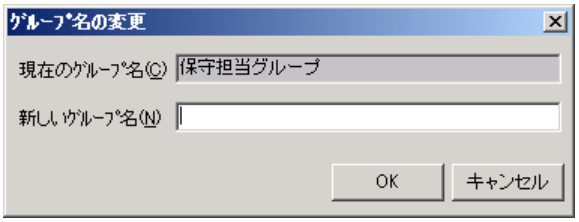


図 5.1-3　グループ名の変更ダイアログボックス

3. 新しいグループ名を半角 1020 文字(全角 510 文字)以内で設定し，［OK］ボタンをクリックします。なお，グループ名に半角空白文字および次の文字は使用できません。

```
" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & ,
```

5.1.5 ユーザの追加

新規ユーザの追加は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウで，【ツール(T)】メニューから【ユーザ管理(U)...】を選択して，

ユーザ管理ウィンドウを表示します。
2. ユーザ管理ウィンドウで，【ユーザ(U)】メニューから【新しいユーザ(N)...】を選択し，ユーザのプロパティダイアログボックスを表示します。
3. ユーザのプロパティダイアログボックスで，必要な情報を設定します。

登録できるユーザ数の上限については表 2.3-32 を参照してください。

5.1.6 ユーザの複写

既存ユーザの複写は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウで，【ツール(T)】メニューから【ユーザ管理(U)...】を選択して，ユーザ管理ウィンドウを表示します。
2. ユーザ管理ウィンドウのユーザ一覧で，複写元のユーザを選択します。
3. 【ユーザ(U)】メニューから【コピー(C)...】を選択し，ユーザのプロパティダイアログボックスを表示します。またはマウスの右ボタンをクリックし，【コピー(C)...】を選択することでも表示できます。
4. ユーザのプロパティダイアログボックスで，複写先のユーザの情報を設定します。

5.1.7 ユーザの削除

ユーザの削除操作をした場合，削除操作以降のカレンダおよびスケジュール以外の変更は次回の TELstaff サービス起動から有効になります。

既存ユーザの削除は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウで，【ツール(T)】メニューから【ユーザ管理(U)...】を選択して，ユーザ管理ウィンドウを表示します。
2. ユーザ管理ウィンドウのユーザ一覧で，削除するユーザを選択します。
3. 【ユーザ(U)】メニューから【削除(D)】を選択し， 図 5.1-4 に示す「削除の確認ダイアログ」を表示します。また，マウスの右ボタンをクリックし，【削除(D)】を選択することでも表示できます。削除の確認ダイアログボックスを図 5.1-4 に示します。

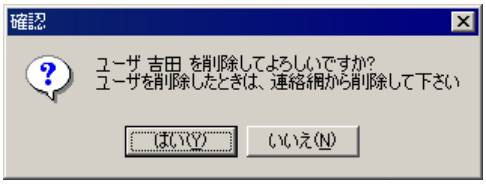


図 5.1-4 削除の確認ダイアログボックス

4. 削除してもよければ，［はい(Y)］ボタンをクリックします。なお，TELstaff の「システム管理者」として登録されているユーザは，他のユーザを「システム管理者」に設定しないと削除できません。連絡網に定義済みユーザを削除したときは，各連絡網から削除したユーザの発信先も削除しなければなりません。

5.1.8 ユーザの変更

既存ユーザの変更は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウで，【ツール(T)】メニューから【ユーザ管理(U)...】を選択して，ユーザ管理ウィンドウを表示します。
2. ユーザ管理ウィンドウのユーザ一覧で，変更するユーザを選択します。
3. 【ユーザ(U)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択し，ユーザのプロパティダイアログボックスを表示します。またはダブルクリックしたり，マウスの右ボタンをクリックして【プロパティ(P)...】を選択したりすることでも表示できます。
4. ユーザのプロパティダイアログボックスで，変更するユーザの情報を設定します。

既存ユーザの変更は，TELstaff サービス開始中にユーザの削除操作をしていない場合に限り TELstaff サービス開始中でも有効になります。ユーザの削除操作をした場合，削除操作以降のカレンダおよびスケジュール以外の変更は次回の TELstaff サービス起動から有効になります。

なお，パスワードおよび電話番号（電話１から電話４）の変更は，トリガフォンを使用して問合せ確認する場合，次回の TELstaff サービス起動から有効になります。

5.1.9 ユーザ管理ウィンドウ

ユーザの追加，変更，削除を行います。ユーザ管理ウィンドウを，図 5.1-5 に示します。

図 5.1-5　ユーザ管理ウィンドウ

ユーザ管理ウィンドウのメニューと機能を，表 5.1-1 に示します。

表 5.1-1　ユーザ管理ウィンドウのメニューと機能

メニュー（ニーモニック）	プルダウンメニュー（ニーモニック）	機能
ユーザ(U)	新しいユーザ(N)	ユーザ（新規）のプロパティダイアログボックス を開きます。
	コピー(C)	既存のユーザの設定内容をコピーします。
	削除(D)	既存のユーザを削除します。
	プロパティ(P)	選択されたユーザのプロパティダイアログボックスを開きます。
	新規グループの作成(G)(※１)	新規グループの作成ダイアログボックスを開きます。
	グループの削除(E)(※１)	選択中のユーザグループを削除します。
	グループ名の変更(V)(※１)	グループ名の変更ダイアログボックスを開きます。
	ユーザ管理の終了(X)	ユーザ管理ウィンドウを閉じます。

※１　AEPE で使用可能です。

(1) ①ボタン

新規のユーザを登録するための，ユーザのプロパティダイアログボックスを表示します。

(2) ②ボタン

ユーザ一覧で選択されたユーザ登録情報を複写します。

(3) ③ボタン

ユーザ一覧で選択されたユーザ登録を削除します。

(4) ④ボタン

ユーザ一覧で選択されたユーザのプロパティダイアログボックスを開きます。

(5) ⑤フィールド

登録されているユーザ名を表示します。

ユーザ名「TELstaff 管理者」は，TELstaff をインストールしたとき，TELstaff の「システム管理者」として作成されます。

(6) ⑥フィールド

登録されているユーザの説明を表示します。このフィールドを選択してクリックすると説明の変更ができます。

(7) ⑦フィールド

登録されているユーザのメールアドレス 1 を表示します。このフィールドを選択してクリックするとメールアドレス 1 の変更ができます。

(8) ⑧フィールド

登録されているユーザのメールアドレス 2 を表示します。このフィールドを選択してクリックするとメールアドレス 2 の変更ができます。

(9) ⑨フィールド

登録されているユーザのメールアドレス 3 を表示します。このフィールドを選択してクリックするとメールアドレス 3 の変更ができます。

(10) ⑩フィールド

登録されているユーザの電話番号 1 を表示します。このフィールドを選択してクリックすると電話番号 1 の変更ができます。

(11) ⑪ドロップダウンリスト

ユーザグループを指定します。ユーザグループは AEPE で使用可能です。

5.1.10ユーザの「プロパティ」ダイアログボックス

(1) ユーザのプロパティー「全般」タブ

登録するユーザの基本的な項目を設定します。登録ユーザ数が登録可能な上限数に達している場合，［追加］ボタンは使用できません。

ユーザのプロパティー「全般」タブを図 5.1-6 に示します。

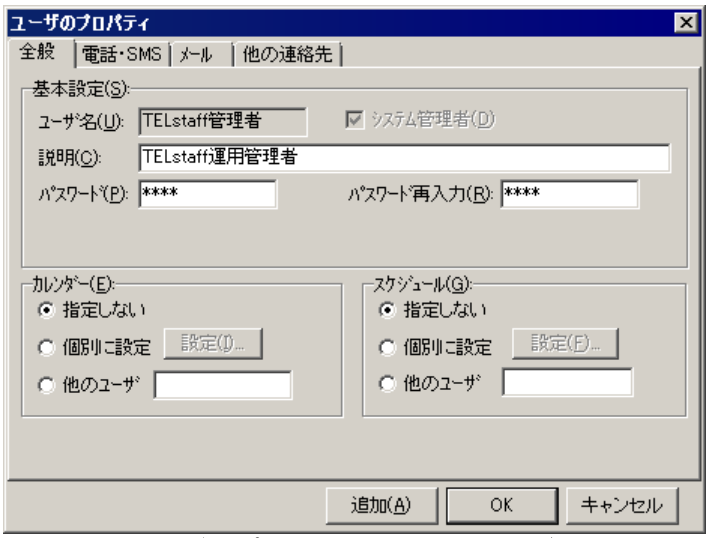


図 5.1-6 ユーザのプロパティー「全般」タブ

(a) 「ユーザ名」メッセージボックス

TELstaff からの発信を受けるユーザの名前を，半角で 20 文字，全角で 10 文字以内で設定します。

既に登録されているユーザ名は変更できません。ユーザ名を変更する場合は，1 度削除してから再度登録してください。なお，ユーザ名に半角空白文字および次の文字は使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ;

(b) 「システム管理者」チェックボックス

登録するユーザが TELstaff の「システム管理者」の場合は，このチェックボックスにチェックします。このチェックのあるユーザは「TELstaff 管理者」とされ，稼動通知メールやメッセージ通知メールの受信者になります。複数のユーザを「TELstaff 管理者」として登録することはできません。また TELstaff に電話をかけて発信内容を確認する場合，未確認のすべての発信内容を対象とします。

TELstaff の「システム管理者」を変更する場合は，管理者の認証ダイアログボックスで変更前の TELstaff の「システム管理者」のパスワードを指定してください。変更前の TELstaff の「システム管理者」にパスワードの設定が無い場合は，管理者の認証ダイアロ

グボックスは表示しません。図 5.1-7 に管理者の認証ダイアログボックスを示します。

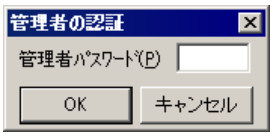


図 5.1-7　管理者の認証ダイアログボックス

(c)　「説明」テキストボックス

ユーザ名一覧に表示する登録ユーザの説明を指定します。

(d)　「パスワード」テキストボックス

4 桁の半角数字で設定します。既に他のユーザが使用しているパスワードは設定できません。パスワードを変更するときは，他のユーザが使用していないパスワードを指定します。ここで指定したパスワードは，電話通知や電話着信時の冒頭の認証，telcan コマンド，または，telspend コマンドの実行時の認証に利用します。認証を行わないユーザに対してはパスワードの設定は必要ありません。

●電話通知を受けるとき

パスワード認証機能がないトリガフォンを使用する場合，発信と受信時の認証方法ダイアログボックスー「パスワード認証は行わない」をチェックするか，ユーザのパスワードの指定を省略してください。

●電話から TELstaff に接続するとき

電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続（問い合わせ）するときは，発信と受信時の認証方法ダイアログボックスでユーザパスワード認証を行う設定のときは，パスワードを省略できません。詳細は，「表 4.1-5　認証方法の種類」を参照してください。

発信者通知番号による認証とユーザパスワードによる認証の両方を使用する場合で，通知番号登録番号ユーザとユーザパスワード登録ユーザが異なる場合は，ユーザパスワード登録ユーザで認証します。ユーザパスワード登録ユーザが TELstaff の「システム管理者」の場合，「システム管理者」で認証します。

(e)　「パスワード再入力」テキストボックス

設定したパスワードを確認するために，パスワードで設定した 4 桁の半角数字と同じ内容を，再度設定します。

(f)　「カレンダー」フィールド

登録するユーザのカレンダーを設定します。

- 「指定しない」をチェックした場合，このユーザの上位（連絡網→連絡網グループ→システムの順）に定義されたカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(I)］ボタンをクリックして「カレンダーのダイアログボックス」でユーザ独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。個別設定を使用している場合では，カレンダー設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。

「カレンダーのダイアログボックス」の説明は 4.1.1(1)(g)を参照してください。

- 「他のユーザ」をチェックした場合，登録されている他のユーザに設定されているカレンダーを使用します。「他のユーザ」をチェックしたときは，登録されているユーザ名を指定してください。
  本操作にてカレンダー設定するユーザ名と同一のユーザ名を設定した場合，「指定しない」を選択した場合と同様に扱われます。また，存在しないユーザ名を指定した場合も同様です。

(g) 「スケジュール」フィールド

登録するユーザのスケジュールを指定します。ユーザ独自のスケジュールは，連絡網スケジュールが発信可能時間帯のとき有効になります。

連絡網への発信で，発信しようとする発信先が発信抑止時間帯であれば発信しないで次の発信先に発信します。

ユーザのスケジュールで「コマンド」，「パトランプ」，「表示ボード通知」，「デスクトップ」のスケジュール設定をしても有効になりません。

- 「指定しない」をチェックした場合，このユーザの上位（連絡網→連絡網グループ→システムの順）に定義されたスケジュールを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックして「スケジュールダイアログボックス」でユーザ独自のスケジュールを設定します。個別設定を使用している場合では，スケジュール設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。「スケジュールダイアログボックス」の説明は 4.1.1(1)(h)を参照してください。
- 「他のユーザ」をチェックした場合，登録されている他のユーザに設定されているスケジュールを使用します。「他のユーザ」をチェックしたときは，登録されているユーザ名を指定してください。
  本操作にてスケジュール設定するユーザ名と同一のユーザ名を設定した場合，「指定しない」を選択した場合と同様に扱われます。また，存在しないユーザ名を指定した場合も同様です。

(h) 「追加」ボタン

画面を閉じずに，新たにユーザを作成します。

(2) ユーザのプロパティー「電話・SMS」タブ

TELstaff からの発信通知を電話，または SMS 通知で受ける場合の情報を設定します。

ユーザのプロパティー「電話・SMS」タブを図 5.1-8 に示します。

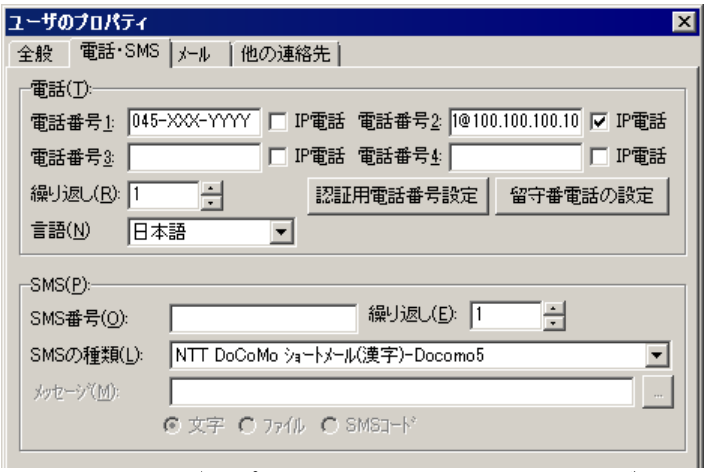


図 5.1-8　ユーザのプロパティー「電話・SMS」タブ

(a)　「電話番号1～4」テキストボックス

発信通知を受ける電話番号を，半角数字で電話 1 から電話 4 に指定します。4 つの電話番号で，自宅電話，会社電話，携帯電話，IP 電話などを使い分けられます。

トリガフォン経由で電話発信する場合は，「IP 電話」チェックボックスのチェックをせずに，電話番号を指定します。

IP 電話および VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズ経由で電話発信する場合は，「IP 電話」チェックボックスのチェックをし，電話番号を指定します。

SIP サーバを経由して電話通知する場合を除き，電話番号には半角文字の「ー」（ハイフン）が指定できます。電話番号が指定されてパスワードが設定されていない場合，警告ダイアログボックスが表示されます。

電話番号の指定例を表 5.1-2 に示します。

表 5.1-2　電話番号の指定例

通知方法	形式	IP 電話欄
ﾄﾘｶﾞﾌｫﾝ経由 電話発信	通知先電話番号 (例)0451234567	チェックなし
IP 電話端末へ 直接通知	IP 電話の電話番号@IP 電話の IP ｱﾄﾞﾚｽ(※1) (例) 111@222.222.222.222	チェックあり
VoIP ｹﾞｰﾄｳｪｲ経由 IP 電話通知	IP 電話の電話番号 (例)111	チェックあり
CTBX シリース機器 による電話発信	IP 電話の電話番号 (例) 0451234567	チェックあり

注※1　IP アドレスまたはホスト名を指定します。

電話への発信では，発信できる電話に対して電話１，電話２，電話３，電話４の順に発信を行います。発信する電話の順序は，変えられません。

電話１，電話２，電話３，電話４への発信間隔は，環境設定ー「発信方法」タブの「繰り返しの間隔」で設定した時間を使用します。

トリガフォンを使用した電話発信，および IP 電話，VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズを使用した電話発信では，1 つの電話で内容を確認すると，その他の電話への発

信を行わず連絡網の後続ユーザへの発信を中止します。通信モデムを使用した電話発信では，電話１，電話２，電話３，電話４のすべてに対して発信を行います。

電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続（問い合わせ）するときの認証を発信者の通知番号（ナンバーディスプレイ）を使用して認証する場合は，市外局番をつけた電話番号を指定してください。

また，複数のユーザで同じ電話番号を使用する場合は，すべて同じ形式の番号で指定してください。例えば，市外局番を使用する場合は，すべてに市外局番を付加し，割引用番号を使用する場合は，すべてに割引用番号を付加してください。

複数の回線を利用して電話発信ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。電話番号が同じでも記述形式が異なると同じ電話番号に対して同時発信を行います。

(b) 「IP電話」チェックボックス

「電話番号１～４」に IP 電話の電話番号や，VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズを経由して通知する電話番号を指定する場合，チェックします。

(c) 「繰り返し（電話）」スピンボックス

電話に発信をしたときに確認が得られなかった場合，または通信モデムを使用した電話への発信で，同じユーザへの電話への発信繰り返し回数を，2～30 の範囲で指定します。1 を指定した場合，発信は繰り返されません。

発信電話が複数設定されている場合，電話ごとにこの回数分発信を繰り返し，次の通知メディアに通知します。

繰り返し間隔時間は，環境設定－「発信方法」タブの「繰り返しの間隔」で設定した時間となります。

連絡網の中に繰り返し指定のある電話が組み込まれていると，受信確認されない電話発信，または通信モデムを使用した電話を繰り返した後に，次の通知メディアに通知します。繰り返し回数を多く設定すると繰り返しにより連絡網の次の通知メディアへの発信が遅延します。このため連絡網発信を使用する場合の発信の繰り返しは，連絡網全体の繰り返し方法を推奨します。

環境設定－「電話・回線」タブで TP 再ダイヤル回数を指定している場合で，ダイヤルに失敗したとき，TP 再ダイヤル回数を繰り返した後に電話繰り返しを行います。

(d) 「言語」ドロップダウンリスト

このユーザへの IP 電話通知にて，どの言語での音声読み上げを行うべきかを指定します。指定可能な選択肢には，日本語，英語，中国語があります。

使用する音声合成ソフトウェアにより，実際に使用できる言語は異なります。詳細は 1.4.10(3)を参照してください。

(e) ［認証用電話番号設定］ボタン

電話からトリガフォンを使用して TELstaff に接続（問い合わせ）するときの認証は，発

信者の通知番号（ナンバーディスプレイ）を使用して認証ができます。発信者通知番号を認証で使用する電話番号を認証電話の設定ダイアログボックスで設定します。認証で使用する電話番号は，登録ユーザだけが使用する電話番号を登録してください。共通電話番号や共用電話番号を登録するとユーザを特定できなくなります。図 5.1-9 に認証電話の設定ダイアログボックスを示します。

発信者通知番号での認証については，「4.1.3 発信と受信時の認証方法ダイアログボックス」を参照してください。

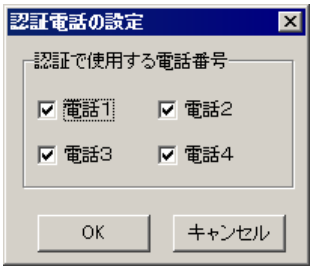


図 5.1-9　認証電話の設定ダイアログボックス

(f)　［留守番電話の設定］ボタン

留守番電話の設定ダイアログボックスを開きます。留守番電話の設定ダイアログボックスで留守番電話に通知を受けるとき，留守番電話として使用する電話を設定します。留守番電話の設定ダイアログボックスを，図 5.1-10 に示します。

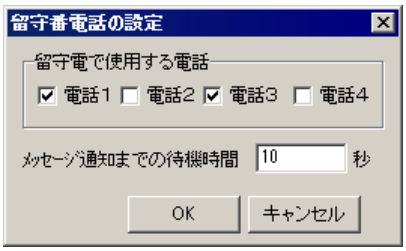


図 5.1-10　留守番電話の設定ダイアログボックス

● 「留守電で使用する電話」フィールド

電話 1 から電話 4 で留守番電話扱いにする電話を選択します。

• 留守番電話扱いに設定した場合

トリガフォンでは，パスワード認証を行わないで「メッセージ通知までの待機時間」テキストボックスに指定した待機時間を待って通知メッセージを通知し（留守番電話には，通知メッセージが録音されます），旧型のトリガフォン（TP1000）では，電話受信者が電話をとったときに通知メッセージを通知します（留守番電話には，通知メッセージが録音されます）。また，留守番電話扱いに設定した電話が留守番電話状態のあると，電話受信未確認扱いになります。

• 留守番電話扱いに設定しない場合

トリガフォンでは，パスワード認証を行う場合は，パスワード認証後に通知メッセージを通知し，パスワード認証をしない場合は，電話受信者が電話をとったとき通知メッセージを通知します。

留守番電話扱いに設定すると，例えば携帯電話で通知を受ける場合，携帯電話を所有するのは本人であるため，いちいちパスワード認証が行われる煩わしさを無くすことができ

ます。

●「メッセージ通知までの待機時間」テキストボックス

トリガフォンを使用する場合で，留守番電話に設定した電話に電話通知するとき，通知メッセージの通知開始までの待機時間を 1 から 60 秒の範囲で指定します。旧型のトリガフォン（TP1000）を使用する場合，メッセージ通知までの待機時間指定は無効になりすぐに通知が行われます。

(g) 「SMS番号」テキストボックス

発信通知を SMS 通知で受ける場合の SMS 通知番号（電話番号）を，半角数字で指定します。番号には，半角文字の「ー」（ハイフン）が指定できます。送信先番号の後に「#」が必要な SMS 通知では，番号の後に「#」を入れてください。

複数のユーザで同じ番号を使用する場合は，すべて同じ形式の番号で指定してください。例えば，市外局番を使用する場合は，すべてに市外局番を付加し，割引用番号を使用する場合は，すべてに割引用番号を付加してください。

複数の回線を利用して SMS 通知ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。番号が同じでも記述形式が異なると同じ番号に対して同時発信を行います。

送信先番号の指定については種類によって異なります。送信先番号の指定方法を表 5.1-3 に示します。使用できる SMS の種類一覧は，「表 1.4-5 SMS の種類」を参照してください。

表 5.1-3 SMS通知番号の指定方法

SMS の種類	指定方法
NTT docomo ショートメール	携帯電話番号を指定します

パスワードが必要な番号の場合は，「番号：パスワード」の形式でパスワードを指定することができます（例：090-xxx-yyyy:1234）。なおパスワード指定は，パスワードの次にメッセージを送信する方法に対応した SMS 通知に限ります。

(h) 「繰り返し（SMS）」スピンボックス

SMS 通知の繰り返し回数を，2～30 の範囲で設定します。1 を指定した場合，発信は繰り返されません。SMS 通知は，回線の混雑具合や時間帯などでメッセージを発信できないことがあります。確実にメッセージを送るためには，繰り返し回数を複数回に設定しておくことを推奨します。

繰り返し間隔時間は，環境設定ー「発信方法」タブの「繰り返しの間隔」で設定した時間となります。

連絡網の中に繰り返し指定のある SMS 通知が組み込まれていると，SMS 通知を繰り返した後に，次の通知メディアに通知します。繰り返し回数を多く設定すると繰り返しにより連絡網の次の通知メディアへの発信が遅延します。

このため連絡網発信を使用する場合の発信の繰り返しは，連絡網全体の繰り返し方法を

推奨します。

(i)　「SMSの種類」ドロップダウンリスト

SMS 通知で使用する SMS の種類を指定します。

(j)　「メッセージ」テキストボックス

現バージョンでは，使用していません。

(3) ユーザのプロパティー「メール」タブ

TELstaff からの発信通知をメールで受ける場合の情報を設定します。ユーザのプロパティー「メール」タブを図 5.1-11 に示します。

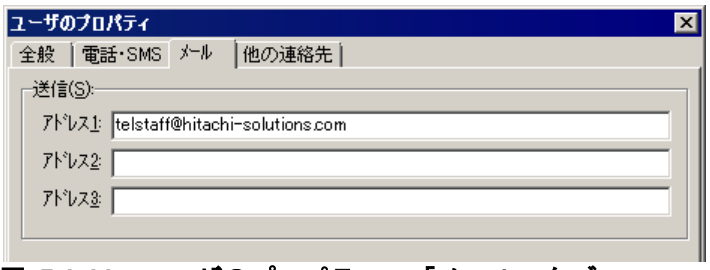


図 5.1-11　ユーザのプロパティー「メール」タブ

(a)　「アドレス1～3」テキストボックス

発信通知を電子メールで受ける場合，受信するメールアドレスをアドレス 1 から 3 に指定します。電子メールは E メールだけが使用できます。各アドレス欄には半角 256 文字まで入力できます。

個々のメールアドレス欄には「，」（半角カンマ）で区切って，複数のメールアドレスを指定できます。複数のアドレスを指定する場合は，カンマを含めて合計文字数が半角 256 文字以内になるよう指定して下さい。複数のアドレスを指定したユーザへメール発信した場合，それらのアドレスすべてを To 指定にした E メールを送信します。

(4) ユーザのプロパティー「他の連絡先」タブ

TELstaff からの発信通知を FAX，または TELstaff メッセージエージェント（AEPE, AESE, AECL）で受ける場合の情報を設定します。

ユーザのプロパティー「他の連絡先」タブを図 5.1-12 に示します。

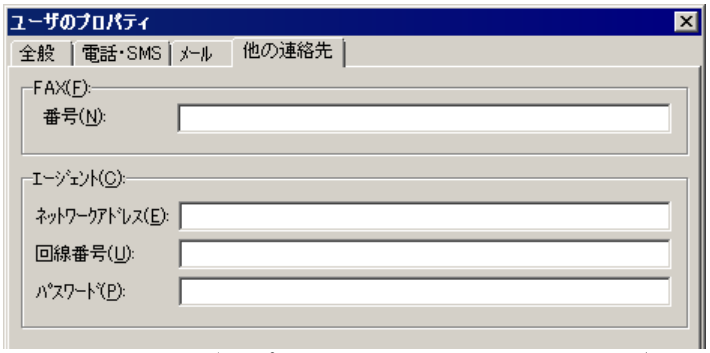


図 5.1-12　ユーザのプロパティー「他の連絡先」タブ

(a) 「番号」テキストボックス

発信通知を FAX で受けるときの FAX 番号を，半角数字で指定します。FAX 番号には半角文字の「－」（ハイフン）が指定できます。

FAX 番号は，すべて同じ形式の番号で指定してください。例えば，市外局番を使用する場合は，すべてに市外局番を付加し，割引用番号を使用する場合は，すべてに割引用番号を付加してください。

複数の回線を利用して FAX 発信ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。FAX 番号が同じでも記述形式が異なると同じ FAX 番号に対して同時発信を行います。

(b) 「ネットワークアドレス」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）が動作する PC がネットワーク接続のとき，IP アドレス（またはホスト名）と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。ポート番号は，IP アドレス（またはホスト名）の後に「:ポート番号」で指定します。

（例） 100.100.100.10+100.100.100.20
100.100.100.20：35000

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次のサービス名を登録しておきます。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL の場合，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合も，ポート番号を省略できます。

(c) 「回線番号」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）が動作する PC が電話回線接続のとき，半角数字で回線番号を設定します。回線番号には，半角文字の「－」（ハイフン）が使用できます。

複数のユーザで同じ電話番号を使用する場合は，すべて同じ形式の番号で指定してください。例えば，市外局番を使用する場合は，すべてに市外局番を付加し，割引用番号を使用する場合は，すべてに割引用番号を付加してください。

複数の回線を利用してエージェント発信ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。電話番号が同じでも記述形式が異なると同じ電話番号に対して同時発信を行います。

ネットワークアドレスと回線番号の両方を設定すると，最初に回線番号に通知し，次にネットワークアドレスの順番で両方に通知します。両方に通知できない場合は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のエージェント繰り返し回数に設定された回数の再通知行い，どちらかの AECL（または AEPE, AESE）が受信できたとき，通知を終了します。

(d) 「パスワード」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）に送受信パスワードの設定があるとき，同じパスワードを指定します。本項目には半角 50 桁以内の値を指定可能です。

5.2連絡網グループの作成

5.2.1 連絡網グループの追加

新規連絡網グループの追加は，次の手順で行います。連絡網グループは，100 個まで作成できます。連絡網グループの新規登録や登録内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

1. TELstaff ウィンドウで，【ファイル(F)】メニューの【新規作成(N)】から【グループ(G)】を選択して，グループのプロパティダイアログボックスを表示します。また，連絡網一覧で連絡網グループを選択してマウスの右ボタンをクリックし，【新規作成(N)...】を選択することでも表示できます。
2. グループのプロパティダイアログボックスで，001～998 までの 3 桁の半角数字の連絡網グループ ID，連絡網グループの説明，連絡網グループで使用するカレンダー，およびスケジュールを設定します。

5.2.2 連絡網グループの複写

既存の連絡網グループの複写は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウの連絡網一覧で，複写元の連絡網を選択します。
2. 【編集(E)】メニューから【コピー(C)...】を選択して，図 5.2-1 に示す「グループのコピーダイアログボックス」を表示します。また，マウスの右ボタンをクリックし，【コピー(C)...】を選択することでも表示できます。

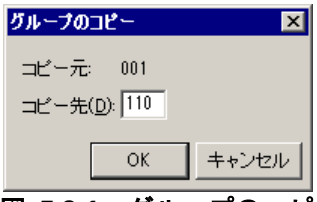


図 5.2-1 グループのコピーダイアログボックス

3. グループのコピーダイアログボックスで，複写先の連絡網グループ ID を設定します。
4. 連絡網グループの変更手順に従って，複写した連絡網グループの設定情報を変更します。

5.2.3 連絡網グループの削除

連絡網グループの削除は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウの連絡網一覧で，削除する連絡網グループを選択します。
2. 【編集(E)】メニューから【削除(D)】を選択して，連絡網グループの削除の確認ダイ

アログボックスを表示します。また，マウスの右ボタンをクリックし，【削除(D)】を選択することでも表示できます。　連絡網グループの削除の確認ダイアログボックスを図 5.2-2 に示します。

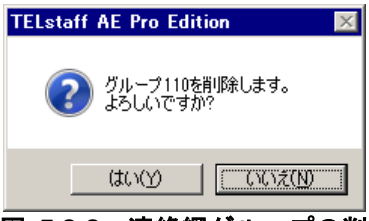


図 5.2-2　連絡網グループの削除の確認ダイアログボックス

3. 削除してもよければ，［はい(Y)］ボタンをクリックします。

5.2.4 連絡網グループの変更

既存の連絡網グループの変更は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウの連絡網一覧で，変更する連絡網グループを選択します。
2. 【ファイル(F)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択して，グループのプロパティダイアログボックスを表示します。また，マウスの右ボタンをクリックし，【プロパティ(P)...】を選択することでも表示できます。
3. グループのプロパティダイアログボックスで，連絡網グループの設定情報を変更します。

5.2.5 グループのプロパティダイアログボックス

連絡網グループを定義するためのダイアログボックスです。
グループのプロパティダイアログボックスを，図 5.2-3 に示します。

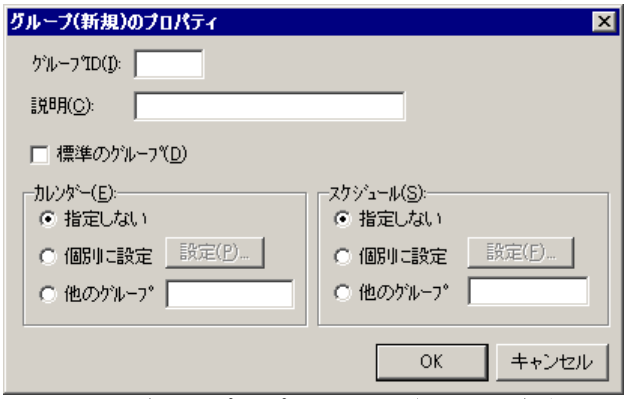


図 5.2-3　グループのプロパティダイアログボックス

(1) 「グループID」テキストボックス

連絡網グループのグループ ID を，001～998 の 3 桁の数字で指定します。
001 は，TELstaff インストール時に標準の連絡網グループとして設定されています。

(2) 「説明」テキストボックス

連絡網グループの内容が分かるように，簡単な説明を指定します。

(3) 「標準のグループ」チェックボックス

連絡網グループを，標準の連絡網グループとして定義するときに，ここをチェックします。

(4) 「カレンダー」フィールド

連絡網グループで使用するカレンダーを設定します。

- 「指定しない」ラジオボタンを選択した場合，このグループの上位（システム）に定義されたカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」ラジオボタンを選択した場合，［設定(I)］ボタンをクリックして「カレンダーのダイアログボックス」でグループ独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。個別設定を使用している場合では，カレンダー設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。「カレンダーのダイアログボックス」の説明は 4.1.1(1)(g)を参照してください。
- 「他のグループ」ラジオボタンを選択した場合，登録されている他の連絡網グループに設定されているカレンダーを使用します。グループ ID を指定してください。

(5) 「スケジュール」フィールド

連絡網グループで使用するスケジュールを設定します。

- 「指定しない」をチェックした場合，グループの上位（システム）に定義されたスケジュールを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックして「スケジュールダイアログボックス」でグループ独自のスケジュールを設定します。個別設定を使用している場合では，スケジュール設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。「スケジュールダイアログボックス」の説明は，「4.1.1(1)(h) ［システムスケジュールの設定(S)］ボタン」を参照してください。
- 「他のグループ」をチェックした場合，登録されている他の連絡網グループに設定されているスケジュールを使用します。グループ ID を指定してください。

5.3連絡網IDの作成

5.3.1 連絡網IDの追加

新規連絡網 ID の追加は，次の手順で行います。登録された連絡網の数が，登録可能な上限数に達している場合，追加はできません。

連絡網 ID の新規登録や登録内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

同時に複数の連絡網からの発信を行った場合，連絡網の間では順不同であり優先順位はありません。ある連絡網の発信の沈み込み（埋もれ）を防ぐため，まだ一度も発信されていない連絡網（未発信の連絡網と呼びます）は，既にいくつかの連絡先に通知済みの連絡網よりも先に発信されます。未発信の連絡網への発信は，連絡網の先頭の通知先に対して先に発信します。なお，連絡網内の通知メディアの追い越し発信は行いません。

1. TELstaff ウィンドウで，【ファイル(F)】メニューの【新規作成(N)】から【連絡網(N)】を選択して，連絡網（新規）ウィンドウを表示します。また，連絡網 ID 一覧で連絡網 ID を選択してマウスの右ボタンをクリックし，【新規作成(N)...】を選択することでも表示できます。
2. 連絡網（新規）ウィンドウで，【ファイル(F)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択し，連絡網の設定ダイアログボックスを表示します。
3. 連絡網の設定ダイアログボックスで，必要な情報を設定します。なお，連絡網 ID には，「0000」と「9999」は設定できません。

5.3.2 連絡網IDの複写

既存の連絡網 ID の複写は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウの連絡網 ID 一覧で，複写元の連絡網 ID を選択します。
2. 【編集(E)】メニューから【コピー(C)...】を選択し，図 5.3-1 に示す「連絡網のコピーダイアログボックス」を表示します。また，マウスの右ボタンをクリックし，【コピー(C)...】を選択することでも表示できます。

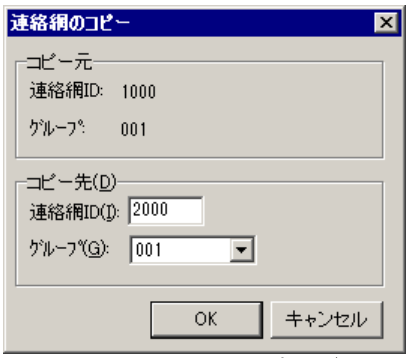


図 5.3-1 連絡網のコピーダイアログボックス

3. 連絡網のコピーダイアログボックスで，複写先の連絡網 ID と所属する連絡網グルー

プを設定します。なお，連絡網 ID には，「0000」と「9999」は設定できません。

5.3.3 連絡網IDの削除

連絡網 ID の削除は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウの連絡網 ID 一覧で，削除する連絡網 ID を選択します。
2. 【編集(E)】メニューから【削除(D)】を選択し，図 5.3-2 に示す連絡網 ID の削除の確認ダイアログボックスを表示します。また，マウスの右ボタンをクリックし，【削除(D)】を選択することでも表示できます。

図 5.3-2 連絡網IDの削除の確認ダイアログボックス

3. 削除してもよければ，［はい(Y)］ボタンをクリックします。

5.3.4 連絡網IDの変更

既存の連絡網 ID の変更は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウの連絡網 ID 一覧で，変更する連絡網 ID を選択します。
2. 【ファイル(F)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択し，連絡網（ID）ウィンドウを表示します。また，ダブルクリックしたり，マウスの右ボタンをクリックして【プロパティ(P)...】を選択したりすることでも表示できます。
3. 連絡網（ID）ウィンドウで，連絡網 ID に設定されている発信先を変更できます。
4. 連絡網 ID の設定情報を変更する場合は，連絡網（ID）ウィンドウで，【ファイル(F)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択し，連絡網の設定ダイアログボックスを表示します。
5. 連絡網の設定ダイアログボックスで，必要な情報を設定します。

5.3.5 発信先の追加

連絡網に新規の発信先を追加する場合，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウの連絡網 ID 一覧で連絡網 ID を選択し，【ファイル(F)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択して連絡網（新規）ウィンドウを表示します。また，ダブルクリックしたり，マウスの右ボタンをクリックして【編集(E)...】を選択したり

することでも表示できます。

2. 連絡網（新規）ウィンドウの利用可能な発信先一覧から，各ユーザに設定されている発信先やコマンド，パトランプ，メッセージ表示ボード，デスクトップ通知（これらを通知メディアと呼びます），メール開封確認やメール一括送信を選択し，【編集(E)】メニューから【追加(A)】を選択して発信先一覧に追加します。また，利用可能な発信先一覧から発信先一覧に直接ドラッグ・ドロップしたり，「→」アイコンをクリックすることでも追加できます。なお，Alarm View を使用しないよう設定されている場合は，利用可能な発信先一覧にデスクトップ通知は表示されません。Alarm View を使用しない設定，および使用を再開始する設定は，6.3.1 を参照してください。AEPE では，表示するユーザグループを変更することで，複数のユーザグループに所属するユーザの通知メディアを追加することが可能です。

- 利用可能な発信先一覧からコマンドを追加する場合は，コマンドのプロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕が表示されます。
- 利用可能な発信先一覧からパトランプを追加する場合は，パトランプのプロパティダイアログボックスが表示されます。
- 利用可能な発信先一覧から表示ボードを追加する場合は，メッセージ表示ボードのプロパティダイアログボックスが表示されます。
- 利用可能な発信先一覧からデスクトップ通知を追加する場合は，デスクトップ通知のプロパティダイアログボックスが表示されます。
- 利用可能な発信先一覧からメール開封確認を追加する場合は，メール開封確認の設定プロパティダイアログボックスが表示されます。
- 利用可能な発信先一覧からメール一括送信を追加する場合は，メール一括送信の設定プロパティダイアログボックスが表示されます。

図 5.3-3　連絡網ウィンドウ

(1) コマンドのプロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕

連絡網の発信先として，実行するコマンドを指定します。また，実行したコマンドの終了を指定時間まで待ち，戻り値に応じて，指定のコマンドを実行することもできます。コ

マンドのプロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕を図 5.3-4 に示します。

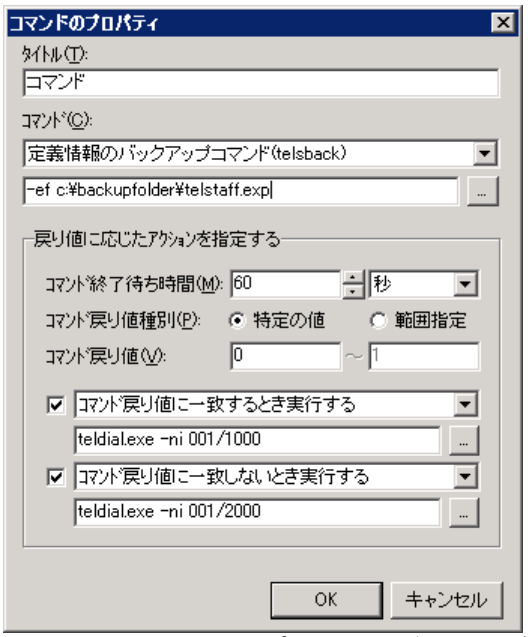


図 5.3-4　コマンドのプロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕

(a)　「タイトル」テキストボックス

実行するコマンドの内容が分かるように，コマンドの説明を指定します。この内容は，発信先一覧に表示されます。

(b)　コマンドドロップダウンリスト

実行するコマンドが TELstaff のコマンドの場合，そのコマンドを選択します。

「その他のコマンド」を選択する場合，「コマンド」テキストボックスに実行するコマンドと引数を指定します。

「その他のコマンド」以外を選択する場合，TELstaff のコマンドを選択し，「コマンド」テキストボックスに引数を指定します。選択した TELstaff のコマンドは，ダブルコーテーションで括られた完全名として，次のような形式で登録されます。

＜コマンド完全名（*1）＞　＜引数（*2）＞

(*1) ダブルコーテーションで括られた完全名

(*2) 「コマンド」テキストボックスで指定された引数

表 5.3-1　コマンドドロップダウンリスト選択項目一覧

選択項目	AEPE	AESE
その他のコマンド	○	○
ダイヤルコマンド（teldial）	○	○
発信取り消しコマンド（telcan）	○	○
発信抑止コマンド（telspend）	○	○
ネットワーク監視抑止と抑止解除コマンド（telnethd）	○	○
定義情報のバックアップコマンド（telsback）	○	○
電源オン・オフ監視コマンド（telsping）	○	○
WAV ファイル再生コマンド（telsndpl）	○	○

選択項目	AEPE	AESE
テキスト読み上げコマンド（telsmart）	○	○
ユーザインポートコマンド（tlusrimp）	○	○
その他運用ツールコマンド（telfput）	○	○
電源制御コマンド（tlshdrbt）	○	×

［記号］

○ :選択できます

× :選択できません

「戻り値に応じたアクションを指定する」の「コマンド実行条件」チェックボックスにチェックがないときに，ここで指定したコマンドの実行時間が 30 分経過しても終了しない場合は，実行を打ち切ります。

(c) 「コマンド」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択してください。コマンドドロップダウンリストで TELstaff のコマンドを選択している場合は，コマンドの引数を指定してください。テキストボックスには以下の変数を使用できます。

~date~	~date1~	~date2~	~time~
~time1~	~id1~	~id2~	~notifynumber~
~IPaddress~ (*1)	~ComputerName~		

注*1 複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

~UserInformation~ 変数を指定すると，~UserInformation~変数がユーザ付加情報に置き換えられてコマンドが実行されます。

ネットワーク監視で連絡網に障害通知をする場合，~node~ ，~node1~，~node2~変数を指定するとホスト名，ホスト名の別名に置き換えられます。

コマンドを実行するとコマンドの実行終了を待たずに，連絡網の次の通知メディアに発信が行われます。

ネットワークドライブを使用するコマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

(d) 「コマンド終了待ち時間」テキストボックス・スピンボックス

コマンド終了待ち時間を，1～300 秒または 1～5 分の範囲で指定します。実行したコマンドが指定したコマンド終了待ち時間を経過しても終了しない場合も，コマンドを強制終了しません。

(e) 「コマンド終了待ち時間」ドロップダウンリスト

コマンド終了待ち時間の単位を，秒・分のいずれかで指定します。

(f) 「コマンド戻り値種別」ラジオボタン

コマンド戻り値の種別を指定します。

- 「特定の値」ラジオボタンをチェックした場合

  「コマンド戻り値」テキストボックスに，コマンドの戻り値を指定します。

- 「範囲指定」ラジオボタンをチェックした場合

  「コマンド戻り値」テキストボックスに，コマンドの戻り値を範囲指定します。

(g) 「コマンド戻り値」テキストボックス

実行したコマンドの戻り値に応じたアクションを実行する場合の，コマンドの戻り値を指定します。この値は-2147483648 から 2147483647 の範囲で指定してください。

(h) 「コマンド実行条件」チェックボックス

コマンドの戻り値に応じてコマンドを実行する場合にチェックします。２つのチェックボックスのいずれかまたは両方がチェックされている場合にはコマンドの終了を待ち，ともにチェックされていない場合にはコマンドの終了を待ちません。

(i) 「コマンド実行条件」ドロップダウンリスト

コマンドの戻り値に応じてコマンドを実行する条件を指定します。

●「特定の値」ラジオボタンをチェックした場合

下記いずれかの条件を選択します。

選択項目
コマンド戻り値に一致するとき実行する
コマンド戻り値に一致しないとき実行する
コマンド戻り値より小さい値のとき実行する
コマンド戻り値より大きい値のとき実行する
終了待ち時間以内に終了しないとき実行する

●「範囲指定」ラジオボタンをチェックした場合

下記いずれかの条件を選択します。

選択項目
コマンド戻り値範囲以内の値のとき実行する
コマンド戻り値範囲外の値のとき実行する
終了待ち時間以内に終了しないとき実行する

(j) 「コマンド」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択します。テキストボックスには，「表 4.5-1　コマンドパラメタに指定できる変数の種類」に記載された変数および，~cmdreturnvalue~変数が使用できます。また，%teldial コマンドの指定もできます。%teldial コマンドについては「5.3.12 %teldial コマンド」を参照してください。

● **~cmdreturnvalue~ 変数**

~cmdreturnvalue~変数は，実行したコマンドがコマンド終了待ち時間内に終了した場合に，コマンド戻り値に置換されます。実行したコマンドがコマンド終了待ち時間内に終了しない場合や，コマンド戻り値を取得できない場合は，空の文字列（値なし）に置換されます。

● **「戻り値に応じたアクションを指定する」機能の注意事項**

２つの「コマンド実行条件」チェックボックスのいずれかまたは両方がチェックされている場合，実行するコマンドによっては，一部が正しく動作しない場合があります。この場合はコマンドの終了を待つことができません。正しく動作しないコマンドの例は，以下の通りです。

- ユーザインターフェース(UI)を作成するアプリケーション
- ウィンドウメッセージを送信するアプリケーション
- 画面のプロパティ情報を取得するアプリケーション
- ローカルオブジェクトでサービスと同期をとるアプリケーション

(2) パトランプのプロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕

連絡網の発信先として，パトランプへの通知は，設定したパトランプが接続されているリレー番号に対して，パトランプを点灯するか，消灯するかといった動作の通知を行います。

パトランプ動作は，接続場所が異なっても順次に（シリアルに）動作します。

また，連絡網 ID 毎に１つのパトランプ通知メディアを発信先一覧に追加し，同時に連絡網 ID に対して発信しても順次に（シリアルに）動作します。

「動作の完了を待たない」チェックボックスにチェックするとネットワーク，コンバータまたは RS232C シリアルポートに接続したパトランプは，動作完了を待たずに連絡網の次の通知メディアに発信できるようになります。

パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。

パトランプのプロパティダイアログボックスを，図 5.3-5 に示します。

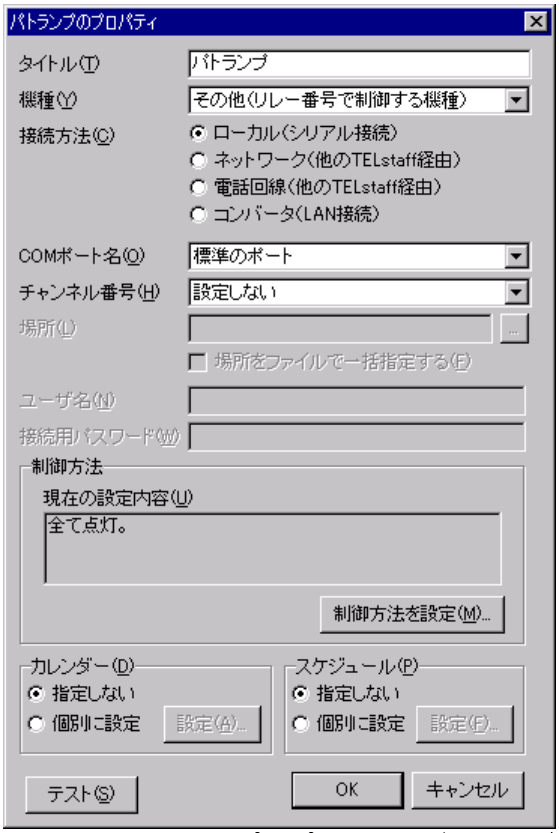


図 5.3-5　パトランプのプロパティダイアログボックス

(a)　「タイトル」テキストボックス

新規にパトランプ通知を定義した場合，定義したパトランプ通知を分かりやすくするための簡単な説明を指定します。この説明は，発信先一覧に表示されます。

既存のパトランプ通知のプロパティを表示した場合，その説明が表示され，変更もできます。

(b)　「機種」ドロップダウンリスト

通知先パトランプの機種を選択します。

●NHシリーズ

パトライト社製 NH シリーズパトランプを使用する場合に選択します。

●ISA社製信号灯

ISA 社製信号灯を使用する場合に選択します。

●その他（リレー番号で制御する機種）

リレー番号を指定して制御するパトランプを使用する場合に選択します。RS232C 接続のパトランプ，コンバータ接続のパトランプ，およびネットワーク対応型パトランプ（パトライト社製 PHN-3FB）を使用する場合に選択します。

(c)　「接続方法」ラジオボタン

パトランプの接続方法を選択します。「(b)「機種」ドロップダウンリスト」で「NH シ

リーズ」を選択した場合，「コンバータ」のみ選択できます。

●ローカル（シリアル接続）

PC のシリアルポートに接続されたパトランプを使用する場合に選択します。

●ネットワーク（他のTELstaff経由）

TCP/IP ネットワーク経由で別の TELstaff がインストールされた PC に接続し，その PC のシリアルポートに接続されたパトランプを使用する場合に選択します。

●電話回線（他のTELstaff経由）

電話回線経由で別の TELstaff がインストールされた PC に接続し，その PC のシリアルポートに接続されたパトランプを使用する場合に選択します。接続先 PC は電話回線に接続した通信モデムが必要です。

●コンバータ（LAN接続）

コンバータ接続のパトランプ，ネットワーク対応型パトランプ（パトライト社製 PHN-3FB），NH シリーズパトランプ，または ISA 社製信号灯を使用する場合に選択します。

(d) 「COMポート名」ドロップダウンリスト

パトランプが接続されている RS232C ポート番号を，ドロップダウンリストから選択してください。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると直前で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

(e) 「チャンネル番号」ドロップダウンリスト

リレー装置が接続されている RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。

RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に使用したチャンネル番号の機器が動作します。

(f) 「場所」テキストボックス

パトランプの場所を半角 256 文字以内で指定します。設定する内容は「(c)「接続方法」ラジオボタン」の選択により次の通り異なります。

●ローカル接続（シリアル接続）

このテキストボックスは使用できません。

●ネットワーク（他のTELstaff経由）

接続先 PC の IP アドレスまたはホスト名と，接続先 PC の TELstaff が待ち受ける通信ポート番号を指定します。ポート番号は IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。

IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

接続元 TELstaff のメッセージエージェントエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。

（例）IP アドレスまたはホスト名を指定する場合
100.100.100.1
100.100.100.1:35000
100.100.100.1+100.100.100.2
100.100.100.1+100.100.100.2:35000

●電話回線（他のTELstaff経由）

接続先 PC の通信モデムに接続された電話回線の回線番号を指定します。

（例）0001112222

●コンバータ（LAN接続）

コンバータ接続のパトランプ，ネットワーク対応型パトランプ，NH シリーズパトランプを使用する場合，その IP アドレスまたはホスト名と，パトランプが待ち受ける通信ポート番号を指定します。ISA 社製信号灯を使用する場合，パトランプの IP アドレスまたはホスト名を指定します。

設定する内容は，「(g)「場所をファイルで一括指定する」チェックボックス」の指定により異なります。

「(g)「場所をファイルで一括指定する」チェックボックス」のチェックなしの場合は文字列を指定します。チェックありの場合はファイルを指定します。

文字列	パトランプの IP アドレスまたはホスト名と，パトランプが待ち受ける通信ポート番号を半角 256 文字以内で指定します。 IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで 50 箇所以内で指定します。 ポート番号は IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。複数の IP アドレス，ホスト名を指定した場合はポート番号は最後にひとつだけ指定可能で，すべての IP アドレス，ホスト名への通信は同一ポート番号を使用します。ISA 社製信号灯を使用する場合はポート番号を指定しないでください。 (例) IP アドレス，ホスト名を指定する場合 100.100.100.1 100.100.100.1:10000 100.100.100.1+100.100.100.2 100.100.100.1+100.100.100.2:10000
ファイル	パトランプの IP アドレスまたはホスト名と，パトランプが待ち受ける通信ポート番号を記述したファイルの完全名を半角 256 文字以内で指定します。ファイル名にはネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。 IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時はホスト名を 1 行毎に記述します。ファイル中に記載できる IP アドレス，またはホスト名は 50 箇所以内で記述します。

	ポート番号はファイル名の後ろに「:ポート番号」で指定します。ファイル名で指定されたファイル中にポート番号の記載がある場合はそちらを優先します。なお ISA 社製信号灯を使用する場合はポート番号を指定しないでください。 ファイルの記述方法は「パトランプの場所ファイル記述方法」を参照してください。 (例)ファイル名を指定する場合 C:¥Program Files¥TELstaff¥lamplist.txt C:¥Program Files¥TELstaff¥lamplist.txt:10000

• パトランプの場所ファイル記述方法

ファイル内には IP アドレス，またはホスト名を 1 行毎に記述します。#から始まる行はコメントとして扱い，その行を無視します。ポート番号は IP アドレスまたはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。ポート番号を省略した場合は，ファイル名の後ろに指定したポート番号を使用します。各行はポート番号を含めて半角 256 文字以内で指定します。

(例)

```
# パトランプの接続場所
100.100.100.1[改行]
100.100.100.2[改行]
100.100.100.3:35000[改行]
100.100.100.4:30000[改行]
```

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telswnet ポート番号/tcp
```

使用するコンバータは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の　標準設定(H) 】-【パトランプ発信の場合(L) 】で設定したコンバータ装置を使用します。複数の TELstaff から同じコンバータ接続のパトランプ，ネットワーク対応型パトランプを同時に使用できるかは，機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

パトランプの IP アドレス，またはホスト名を複数指定する場合，文字列・ファイル指定ともに，次の注意事項があります。

1. すべてのパトランプは同一機種とする必要があります。
2. すべてのパトランプを同時に制御します。
3. 同じ IP アドレスのパトランプの制御は 1 度だけ行います。
4. 50 箇所以上指定されている場合は先頭の 50 箇所に対して制御します。

(g) 「場所をファイルで一括指定する」チェックボックス

「(c)「接続方法」ラジオボタン」で「コンバータ（LAN 接続）」を選択した場合のみ，このチェックボックスを使用できます。このチェックボックスにチェックする場合，「(f)「場所」テキストボックス」にパトランプの場所ファイルを完全ファイル名で指定します。詳細は，「(f)「場所」テキストボックス」を参照してください。

(h)　「ユーザ名」テキストボックス

ISA 社製信号灯を使用する場合，ログイン用ユーザ名を半角 16 文字以下の長さで指定します。これを空欄にした場合，ユーザ名として root を使用します。

(i)　「接続用パスワード」テキストボックス

パトランプの制御にパスワードが必要になる場合，ここで指定します。パスワードが必要になる場合には，(1)別の TELstaff がインストールされた PC に接続されたパトランプを制御する場合で接続先 TELstaff に受信パスワードの設定がある場合と，(2)ISA 社製信号灯を制御する場合があります。(1)の場合におけるパスワードは，接続先 TELstaff のメッセージエージェント機能で通知メッセージを送受信するためのパスワードです。詳細は，「4.4.2(1)(b) 送受信パスワード」を参照してください。(2)の場合におけるパスワードは，コマンド実行用パスワードとしてパトランプ側で設定された値を指定してください。パスワードは，半角 50 文字以内で指定します。本プロパティを省略すると，パスワードを使用せずにコマンドを送信します。

(j)　「制御方法」テキストボックス

パトランプの制御方法を表示します。このテキストボックスを編集することはできません。制御方法は，「(k)　制御方法を設定ボタン」より指定します。

(k)　［制御方法を設定］ボタン

パトランプの制御方法を指定する制御方法ダイアログボックスを開きます。

「(b)「機種」ドロップダウンリスト」の指定により，開くダイアログボックスが異なります。詳細は，「(o)「制御方法」ダイアログボックス」を参照してください。

(l)　「カレンダー」フィールド

このパトランプで使用するカレンダーを指定します。パトランプのスケジュール設定と組み合わせることで，平日･休日，時間帯によって点灯させるパトランプを切り替える等，細かな通知スケジューリングが可能です。

- 「指定しない」をチェックした場合，このパトランプの上位（連絡網→連絡網グループ→システムの順）に定義されたカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(A)］ボタンをクリックしてパトランプ独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。個別設定を使用している場合では，カレンダー設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。パトランプのカレンダーダイアログボックスを図 5.3-6 に示します。

図 5.3-6　パトランプのカレンダーダイアログボックス

(m) 「スケジュール」フィールド

このパトランプで使用するスケジュールを指定します。パトランプのカレンダー設定と組み合わせることで，平日･休日，時間帯によって点灯させるパトランプを切り替える等，細かな通知スケジューリングが可能です。

- 「指定しない」をチェックした場合，この連絡網の上位（連絡網→連絡網グループ→システムの順）に定義されたスケジュールを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてパトランプ独自のスケジュールを設定します。個別設定を使用している場合では，スケジュール設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。パトランプのスケジュールダイアログボックスを図 5.3-7 に示します。

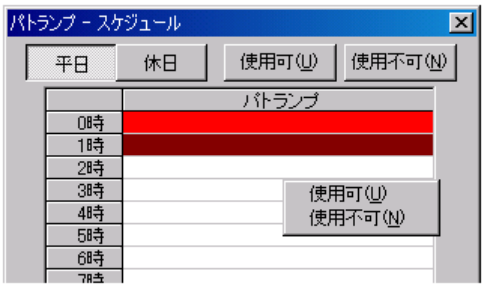


図 5.3-7 パトランプのスケジュールダイアログボックス

(n) ［テスト］ボタン

パトランプの動作確認を行います。「(f)「場所」テキストボックス」にパトランプを複数指定した場合，またはパトランプの場所ファイルを指定した場合，パトランプの動作確認を行いません。

(o) 「制御方法」ダイアログボックス

パトランプの制御方法ダイアログボックスでパトランプの動作方法を指定します。パトランプの制御方法ダイアログボックスを，図 5.3-8，図 5.3-10 に示します。

図 5.3-8 制御方法（NHシリーズ）ダイアログボックス

「(b)「機種」ドロップダウンリスト」で「NH シリーズ」を選択している場合，「図 5.3-8 制御方法（NH シリーズ）ダイアログボックス」を開きます。このダイアログボッ

クスでは，NH シリーズパトランプの制御方法を指定します。

なお，赤・黄・緑・青・白の表示灯およびブザーすべてに，「（何もしない）」を指定することはできません。

●「赤」ドロップダウンリスト

赤色灯の制御方法を選択します。

制御方法	動作
（何もしない）	表示灯の状態を変更しません
消灯	表示灯を消灯します
点灯	表示灯を点灯します
点滅１	表示灯を点滅パターン１で点滅します
点滅２	表示灯を点滅パターン２で点滅します

●「黄」ドロップダウンリスト

黄色灯の制御方法を赤色灯と同様に選択します。

●「緑」ドロップダウンリスト

緑色灯の制御方法を赤色灯と同様に選択します。

●「青」ドロップダウンリスト

青色灯の制御方法を赤色灯と同様に選択します。

●「白」ドロップダウンリスト

白色灯の制御方法を赤色灯と同様に選択します。

●「ブザー」ドロップダウンリスト

ブザーの制御方法を選択します。

制御方法	動作
（何もしない）	ブザーの状態を変更しません
オフ	ブザーの鳴動を停止します
パターン１	ブザーをパターン１で鳴動します
パターン２	ブザーをパターン２で鳴動します
パターン３	ブザーをパターン３で鳴動します
パターン４	ブザーをパターン４で鳴動します

●「動作の完了を待たない」チェックボックス

パトランプの動作完了を待たずに連絡網の次の通知メディアに発信する場合に，このチェックボックスにチェックします。「動作の完了を待たない」オプションを使用する場合の注意事項については，「(p) パトランプ制御に関する注意事項」を参照してください。

●「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプ動作後，自動的に消灯させる場合にチェックします。

ここをチェックした場合，パトランプが消灯するまで，連絡網の次の通知メディアへの通報は行いません。自動消灯オプションを使用するとパトランプが消灯するまで，他からの同じ NH シリーズパトランプへの動作指示は待ち状態になります。「自動的に消灯する」

オプションを使用する場合の注意事項については，「(p) パトランプ制御に関する注意事項」を参照してください。

●「消灯までの待ち時間（秒）」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ動作後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

図 5.3-9　制御方法（ISA社製信号灯）ダイアログボックス

「(b)「機種」ドロップダウンリスト」で「ISA 社製信号灯」を選択している場合，「図 5.3-9　制御方法（ISA 社製信号灯）ダイアログボックス」を開きます。このダイアログボックスでは，ISA 社製信号灯の制御方法を指定します。

なお，赤・黄・緑・青・白の表示灯，ブザー，音声ファイル再生のすべてに「（何もしない）」を指定することはできません。

●「赤」ドロップダウンリスト

赤色灯の制御方法を選択します。赤・黄・緑・青・白の表示灯およびブザーすべてに「（何もしない）」を指定することはできません。

制御方法	動作
（何もしない）	表示灯の状態を変更しません
消灯	表示灯を消灯します
点灯	表示灯を点灯します
点滅１	表示灯を点滅パターン１で点滅します
点滅２	表示灯を点滅パターン２で点滅します

●「黄」ドロップダウンリスト

黄色灯の制御方法を赤色灯と同様に選択します。

●「緑」ドロップダウンリスト

緑色灯の制御方法を赤色灯と同様に選択します。

●「青」ドロップダウンリスト

青色灯の制御方法を赤色灯と同様に選択します。

●「白」ドロップダウンリスト

白色灯の制御方法を赤色灯と同様に選択します。

●「ブザー」ドロップダウンリスト

ブザーの制御方法を選択します。

制御方法	動作
（何もしない）	ブザーの状態を変更しません
オフ	ブザーの鳴動を停止します
パターン１	ブザーをパターン１で鳴動します
パターン２	ブザーをパターン２で鳴動します
パターン３	ブザーをパターン３で鳴動します

例: DN-1500GX では次のようなパターンとなります：

パターン１「ピピピピピピピピピピピピピピピ…」

パターン２「ピピピピ．．．．ピピピピ．．．．…」

パターン３「ピーーーー．．．．ピーーーー．．．．…」

●「音声ファイル再生」ドロップダウンリスト

ISA 社製信号灯に登録された音声ファイルの再生制御方法を選択します。

制御方法	動作
（何もしない）	音声ファイルの再生状態を変更しません
停止	音声ファイルの再生を停止します
再生する	音声ファイルを再生します

●「音声ファイル再生方法」チェックボックス

音声ファイルの再生方法として，再生する音声ファイルの番号と再生回数を指定します。再生回数を 0 にすると，無限に繰り返し再生し続けます。再生回数は最大で 99 まで指定可能です。

●「動作の完了を待たない」チェックボックス

パトランプの動作完了を待たずに連絡網の次の通知メディアに発信する場合に，このチェックボックスにチェックします。「動作の完了を待たない」オプションを使用する場合の注意事項については，「(p) パトランプ制御に関する注意事項」を参照してください。

●「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプ動作後，自動的に消灯させる場合にチェックします。

ここをチェックした場合，パトランプが消灯するまで連絡網の次の通知メディアへの通報は行いません。「自動的に消灯する」オプションを使用する場合の注意事項については，「(p) パトランプ制御に関する注意事項」を参照してください。

●「消灯までの待ち時間（秒）」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ動作後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

図 5.3-10　制御方法（リレー番号で制御する機種）ダイアログボックス

「(b)「機種」ドロップダウンリスト」で「その他（リレー番号で制御する機種）」を選択している場合，「図 5.3-10　制御方法（リレー番号で制御する機種）ダイアログボックス」 を開きます。このダイアログボックスでは，リレー番号で制御するパトランプの制御方法を指定します。

●「動作」フィールド

パトランプの制御方法を指定します。

制御方法	動作
点灯	リレー番号フィールドでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯します。
消灯	リレー番号フィールドでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを消灯します。
点灯と消灯	リレー番号フィールドでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯し，チェックされていないリレー番号に，接続されているパトランプを消灯します。すべてのリレー番号のパトランプを動作させるときは，「点灯と消灯」ボタンのチェックを推奨します。リレー番号個別の動作に比べて動作時間を短縮できます。

●「リレー番号」フィールド

動作させたいパトランプが接続されているリレーの番号ボタンをチェックします。リレー番号の指定で「全て」がチェックされた場合，リレーの番号ボタンは指定できません。複数のリレー接点を指定したときの「点灯」，「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で動作します。動作順序は，変えられません。

●［リレー種別］ボタン

使用するリレー装置の種別を設定します。設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するリレー装置の標準設定(D) 】で設定した標準のリレー装置が使用されます。

●「動作の完了を待たない」チェックボックス

ネットワーク，コンバータまたは RS232C シリアルポートに接続したパトランプの動作完了を待たずに連絡網の次の通知メディアに発信する場合に，このチェックボックスにチェックします。電話回線に接続したパトランプの場合は，動作の完了を待ってから連絡網の次の通知メディアに発信します。

「動作の完了を待たない」オプションを使用する場合の注意事項については，「(p) パトランプ制御に関する注意事項」を参照してください。

●「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプの動作で「点灯」が指定されている場合に有効となり，パトランプ点灯後，自動的に消灯させる場合に，ここをチェックします。ここをチェックした場合，RS232C 接続，コンバータ接続のパトランプおよびネットワーク対応型パトランプでは，パトランプが消灯するまで，連絡網の次の通知メディアへの通報は行いません。自動消灯オプションを使用するとパトランプが消灯するまで，他からの同じ RS232C 接続，コンバータ接続のパトランプおよびネットワーク対応型パトランプへの動作指示は待ち状態になります。複数のリレー接点を指定したときの「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で点灯後，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で消灯します。動作順序は，変えられません。

「自動的に消灯する」オプションを使用する場合の注意事項については，「(p) パトランプ制御に関する注意事項」を参照してください。

●「消灯までの待ち時間（秒）」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ動作後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

(p)　パトランプ制御に関する注意事項

●「動作の完了を待たない」オプションを使用する場合の注意事項

1. ネットワーク，コンバータまたは RS232C シリアルポートに接続したパトランプの動作は，ネットワーク障害やシリアルポートの障害で動作できない場合でもが正常発信扱いになります。
2. 連絡網の繰り返し発信では，再発信の対象になりません。
3. 連絡網の定義したパトランプ通知メディアの順に動作する保証はありません。点灯（または消灯）動作は，順不同になります。
4. telcan コマンド，または発信と監視の操作ウィンドウで連絡網への発信の取り消しはできますが，動作待ちにあるパトランプ発信の取り消しはできません。
   また，AECL（または AEPE，AESE）のある PC に接続したパトランプを動作させ

た場合もパトランプ発信の取り消しはできません。

5. 既に受付けられた発信はパトランプの動作が完了していない場合もログビューアに動作完了が出力され，発信と監視の操作ウィンドウに表示がされません。

●「自動的に消灯する」オプションを使用する場合の注意事項

自動消灯オプションを使用して短時間に大量のパトランプの動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。自動消灯オプションを使用する場合は，「動作の完了を待たない」チェックボックスにチェックし，パトランプの動作完了を待たずに連絡網の次の通知メディアに発信する運用を推奨します。ただし，パトランプ動作の未発信の滞留や発信の遅延が起きます。

(3) メッセージ表示ボードのプロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕

連絡網の発信先として，メッセージ表示ボードへの通知を指定します。連絡網の発信先として，メッセージ表示ボードへの通知は，設定したメッセージ表示ボードに対して，表示するか，表示消去するかといった動作の通知を行います。

メッセージ表示ボード動作は，接続場所が異なっても順次に（シリアルに）動作します。

また，連絡網 ID 毎に 1 つのメッセージ表示ボード通知メディアを発信先一覧に追加し，同時に連絡網 ID に対して発信しても順次に（シリアルに）動作します。

「動作の完了を待たない」チェックボックスにチェックするとネットワーク，コンバータまたは RS232C シリアルポートに接続したメッセージ表示ボードは，動作完了を待たずに連絡網の次の通知メディアに発信できるようになります。

ただし，連続してメッセージ表示ボードにメッセージを表示する場合，最後のメッセージが表示されます。

メッセージ表示ボード通知を抑止する場合は，メッセージ表示ボードの電源をオフにしないでスケジュール機能を使用するか，または telspend コマンドでメッセージ表示ボードへの発信を抑止します。

電源をオフの状態で使用した場合，各発信が遅延したり発信が滞留し，運用に支障を与えることになります。

TELstaff は，メッセージ表示ボードに発信できる時間帯であるとメッセージ表示ボードに発信を行います。電源オフなどの理由で発信できない場合，数回の再発信を行うため 1 回の動作完了に時間がかかり，短時間に大量のメッセージ表示ボードの動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。

リモート接続のメッセージ表示ボードを作動させる場合，作動させるメッセージ表示ボードが接続されているコンピュータに AEPE, AESE, AECL をインストールし，TELstaff サービスを起動しておく必要があります。

メッセージ表示ボードのプロパティダイアログボックスを図 5.3-11 に示します。

図 5.3-11　メッセージ表示ボードのプロパティダイアログボックス

(a)　「タイトル」テキストボックス

新規にメッセージ表示ボード通知を定義した場合，定義したメッセージ表示ボード通知を分かりやすくするための簡単な説明を指定します。この説明は，発信先一覧に表示されます。

既存のメッセージ表示ボード通知のプロパティを表示した場合，その説明が表示され，変更もできます。

(b)　「動作設定を行う」ボタン

メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスを開きます。メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスでメッセージ表示ボードの動作方法を設定します。

(c)　「表示ボードの場所」フィールド

別の場所に接続されているメッセージ表示ボードを動作させる場合に，「リモートで使用」チェックボックスにチェックします。「メール」ラジオボタンは，本製品では使用できません。

- AECL（または AEPE，AESE）のある PC にメッセージ表示ボードが接続されているとき，PC がネットワーク接続の場合は「ネットワーク」ラジオボタンを選択します。
- AECL（または AEPE，AESE）のある PC にメッセージ表示ボードが接続されているとき，PC が電話回線でつながっている場合は「電話回線」ラジオボタンを選択します。
- メッセージ表示ボードが接続されている場所がコンバータの場合は，「コンバータ」ラジオボタンを選択します。使用するコンバータは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の標準設定(H) 】-【表示

ボード発信の場合(L)】で設定したコンバータ装置を使用します。
メッセージ表示ボードをコンバータに接続して使用する場合，同じシステム内で旧日立 IT 社製（IT-C10RE）とパトライト社製（PHN-S）の 2 種類の併用はできません。どちらかのコンバータに統一する必要があります。

- メール受信監視している AEPE / AESE に接続しているメッセージ表示ボードをメールで動作依頼する場合は「メール」ラジオボタンを選択します。

(d) 「COMポート名」ドロップダウンリスト

メッセージ表示ボードが接続されている RS232C のポート番号を，ドロップダウンリストから選択してください。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると「COM1」を使用します。

(e) 「チャンネル番号」ドロップダウンリスト

メッセージ表示ボードが接続されている RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。

(f) 「場所」テキストボックス

- 「ネットワーク」ラジオボタンを選択した場合

  メッセージ表示ボードが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，ネットワークに接続されているときは，IP アドレス，またはホスト名を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。

- 「電話回線」ラジオボタンを選択した場合

  メッセージ表示ボードが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，電話回線に接続されているときは，回線番号を指定します。

- 「コンバータ」ラジオボタンを選択した場合

  メッセージ表示ボードが接続されている場所がコンバータの場合コンバータに接続されているときは，IP アドレス，またはホスト名を指定します。

  複数の TELstaff から同じコンバータに接続されたメッセージ表示ボードへの表示・表示消去指示はできません。

- 「メール」ラジオボタンを選択した場合

  AEPE または AESE のある PC にメッセージ表示ボードが接続されているとき，AEPE, AESE, AECL からメールでメッセージ表示ボードの動作依頼するときのメールアドレスを指定します。このメールアドレスは，AEPE または AESE にてメール監視の対象となっているメールアドレスでなければなりません。

  メールでメッセージ表示ボードの動作依頼するときは，環境設定－「E メール」タブで SMTP サーバの設定が必要です。

(g) 「ポート番号」テキストボックス

●「ネットワーク」ラジオボタンを選択した場合

メッセージ表示ボードが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，ネットワークに接続されているときは，ポート番号を指定します。ポート番

号を省略するときは，services ファイルに次のように定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL では，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。

● **「コンバータ」ラジオボタンを選択した場合**

メッセージ表示ボードが接続されている場所がコンバータの場合コンバータに接続されているときは，通信ポートのポート番号を指定します。ポート番号を省略するときは，services ファイルに次のように定義します。

```
telstaffbord ポート番号/tcp
```

(h) 「パスワード」テキストボックス

メッセージ表示ボードを接続した AECL（または AEPE，AESE）が動作する PC にネットワーク・電話回線経由で接続して通知する場合，AECL（または AEPE，AESE）側で設定されている送受信パスワードを指定します。AECL（または AEPE，AESE）側で送受信パスワードが設定されていない場合，本項目は空欄にしてください。送受信パスワードについては「4.4.2(1)(b)「送受信パスワード」テキストボックス」を参照してください。

(i) 「コマンド実行パスワード」テキストボックス

本製品では，使用できません。

(j) 「カレンダー」フィールド

このメッセージ表示ボードで使用するカレンダーを指定します。メッセージ表示ボードのスケジュール設定と組み合わせることで，平日･休日，時間帯によって点灯させるメッセージ表示ボードを切り替える等，細かな通知スケジューリングが可能です。

- 「指定しない」をチェックした場合，このメッセージ表示ボードの上位（連絡網→連絡網グループ→システムの順）に定義されたカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(D)］ボタンをクリックしてメッセージ表示ボード独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。個別設定を使用している場合では，カレンダー設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。メッセージ表示ボードのカレンダーダイアログボックスを図 5.3-12 に示します。

図 5.3-12 メッセージ表示ボードのカレンダーダイアログボックス

(k)　「スケジュール」フィールド

このメッセージ表示ボードで使用するスケジュールを指定します。メッセージ表示ボードのカレンダー設定と組み合わせることで，平日･休日，時間帯によって点灯させるメッセージ表示ボードを切り替える等，細かな通知スケジューリングが可能です。

- 「指定しない」をチェックした場合，この連絡網の上位（連絡網→連絡網グループ→システムの順）に定義されたスケジュールを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(H)］ボタンをクリックしてメッセージ表示ボード独自のスケジュールを設定します。個別設定を使用している場合では，スケジュール設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。メッセージ表示ボードのスケジュールダイアログボックスを図 5.3-13 に示します。

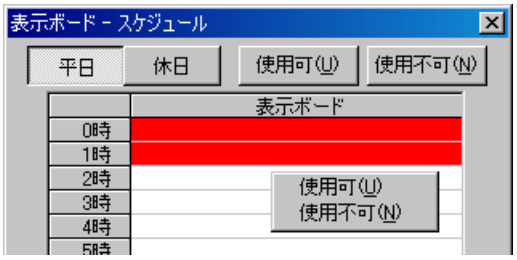


図 5.3-13　メッセージ表示ボードのスケジュールダイアログボックス

(l)　［テスト］ボタン

メッセージ表示ボードの動作確認を行います。「表示後消去」ラジオボタンを設定しているときは，表示動作になります。「リモートで使用」チェックボックスにチェックしないときと「コンバータ」ラジオボタンを選択したとき動作確認テストができます。

(m)　メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックス

メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスでメッセージ表示ボードの動作方法を設定します。メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスを，図 5.3-14 に示します。

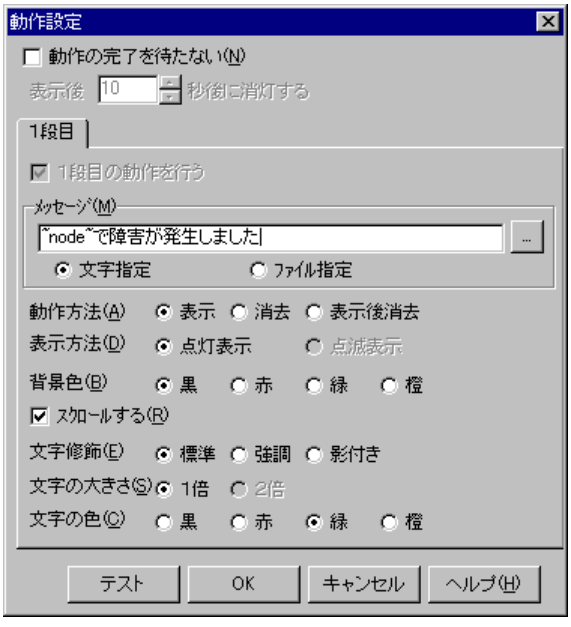


図 5.3-14　メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックス

●「動作の完了を待たない」チェックボックス

ネットワーク，コンバータまたは RS232C シリアルポートに接続したメッセージ表示ボードの動作完了を待たずに連絡網の次の通知メディアに発信する場合に，このチェックボックスにチェックします。電話回線に接続したメッセージ表示ボードの場合は，動作の完了を待ってから連絡網の次の通知メディアに発信します。「動作の完了を待たない」チェックボックスにチェックした場合次の注意事項があります。

1. ネットワーク，コンバータまたは RS232C シリアルポートに接続したメッセージ表示ボードの動作は，ネットワーク障害やシリアルポートの障害で動作できない場合でもが正常発信扱いになります。
2. 連絡網の繰り返し発信では，再発信の対象になりません。
3. 連絡網の定義したメッセージ表示ボード通知メディアの順に動作する保証はありません。
4. telcan コマンド，または発信と監視の操作ウィンドウで連絡網への発信の取り消しはできますが，動作待ちにあるメッセージ表示ボード発信の取り消しはできません。
   また，AECL（または AEPE，AESE）のある PC に接続したメッセージ表示ボードを動作させた場合もメッセージ表示ボード発信の取り消しはできません。
5. 連続してメッセージ表示ボードにメッセージを表示する場合，最後のメッセージが表示されます。
6. 短時間に大量の teldial コマンドを実行させた場合，teldial コマンドの実行数分のメッセージ表示ボードを動作させます。大量にメッセージ表示ボードを動作させると，Windows でメッセージ表示ボード動作要求がキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。
7. 自動消去オプション（「表示後消去」ラジオボタンを選択）を使用して短時間に大量のメッセージ表示ボード動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。自動消去オプションを使用する場合は，「動作の完了を待たない」チェックボックスにチェックし，メッセージ表示ボードの動作完了を待たずに連絡網の次の通知メディアに発信する運用を推奨します。ただし，メッセージ表示ボード動作の未発信の滞留や発信の遅延が起きます

●「表示後」スピンボックス

動作方法で「表示後消去」ラジオボタンを選択したとき，メッセージ表示ボードに表示した後消去するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

●「１段目の動作を行う」チェックボックス

本バージョンでは，使用できません

●「メッセージ」フィールド

メッセージ表示ボードに通知するメッセージを全角 200 文字以内で設定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択されたメッセージ種別によって異なります。

teldial コマンドの-fs1 または-s1 オプションでメッセージ表示ボードメッセージの指定があるときは，-fs1 または-s1 オプションで指定したメッセージが使用されます。teldial コマンドの-fs1 または-s1 オプションの指定がなく，「メッセージ」フィールドでメッセー

ジ指定を省略すると“表示するメッセージの指定がありません”のメッセージを通知します。

メッセージは，半角，全角文字が使用できます。使用できる文字の種類については，メッセージ表示ボードの「ユーザズマニュアル」を参照してください。

メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

変更項目	文字修飾/背景色/文字色の指定方法
文字修飾	normal(標準),bold(強調),shadow(影付き)
背景色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)
文字色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)

（例 1）文字修飾を強調，文字色を赤，背景色を緑で表示する場合
TELstaff は~Mode:bold/green/red~日立ソリューションズの製品です
（例 2）文字修飾を強調，文字色を赤で表示する場合
TELstaff は~Mode:bold//red~日立ソリューションズの製品です

- 「文字指定」の場合，メッセージ表示ボードに通知するメッセージを全角 200 文字以内でメッセージテキストボックス，またはメッセージの編集ダイアログボックスに直接入力します。メッセージの編集ダイアログボックスは，右のボタンをクリックして開きます。メッセージ中に改行コードが含まれるときは，改行コードは削除します。メッセージには，~node~，~node1~，~node2~，~date~，~date1~，~date2~，~time~，~time1~，~id1~，~id2~，~UserInformation~，~notifynumber~変数が使用できます。メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。
- 「ファイル指定」の場合，メッセージ表示ボードに通知するメッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。メッセージ中に改行コードが含まれるときは，改行コードは削除します。メッセージには，~node~，~node1~，~node2~，~date~，~date1~，~date2~，~time~，~time1~，~id1~，~id2~，~UserInformation~，~notifynumber~変数が使用できます。
  メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

●動作方法

メッセージ表示ボードにメッセージを表示するときは，「表示」ラジオボタンを，メッセージを消去するときは，「消去」ラジオボタンを，メッセージを表示したあと自動消去するときは，「表示後消去」ラジオボタンを選択します。

「消去」ラジオボタンを選択した場合，スクロール表示中のメッセージを表示している場合でもメッセージを消去します。

「表示後消去」ラジオボタンを選択した場合，メッセージを消去するまで，連絡網の次の通知メディアへの通報は行いません。

自動消去オプションを使用するとメッセージを消去するまで，他からの同じ RS232C 接続，コンバータ接続のメッセージ表示ボードへの動作指示は待ち状態になります。

自動消去オプションを使用して短時間に大量のメッセージ表示ボード動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。自動消去オプションを使用する場合は，「動作の完了を待たない」チェックボックスにチェックし，メッセージ表示ボードの動作完了を待たずに連絡網の次の通知メディアに発信する運用を推奨します。ただし，メッセージ表示ボード動作の未発信の滞留や発信の遅延が起きます。

●表示方法

メッセージを表示するときは，「点灯表示」ラジオボタンを，点滅表示するときは，「点滅表示」ラジオボタンを選択します。点滅表示するときは，スクロール表示はできません。

●「スクロールする」チェックボックス

メッセージをスクロールで表示するときチェックします。メッセージをスクロール表示するときは，点滅表示はできません。

新たなメッセージ表示やメッセージ消去，またはメッセージを表示したあとの自動消去では，スクロール表示を中止します。

スクロールしない場合，またはスクロールする場合では，メッセージ表示ボードの上限表示文字まで表示します。

●文字修飾

メッセージを標準文字で表示するときは，「標準」ラジオボタンを，強調文字で表示するときは，「強調」ラジオボタンを，影付き文字で表示するときは，「影付き」ラジオボタンを選択します。

●文字の大きさ

現バージョンでは，1 倍表示です。

●文字の色と背景色

背景または文字を黒色で表示するときは，「黒」ラジオボタンを，赤色で表示するときは，「赤」ラジオボタンを，緑色で表示するときは，「緑」ラジオボタンを，橙色で表示するときは，「橙」ラジオボタンを選択します。

●［テスト］ボタン

メッセージ表示ボードの動作確認を行います。「表示後消去」ラジオボタンを設定しているときは，表示動作になります。「リモートで使用」チェックボックスにチェックしないときと「コンバータ」ラジオボタンを選択したとき動作確認テストができます。

(4) デスクトップのプロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕

連絡網の発信先として，自コンピュータまたは TELstaff 製品がインストールされた PC のデスクトップへの通知を指定します。

(a)　デスクトップのプロパティダイアログボックスー「全般」タブ

デスクトップのプロパティダイアログボックスで自コンピュータまたは TELstaff 製品がインストールされた PC のデスクトップへの通知方法などを設定します。

デスクトップのプロパティダイアログボックスー「全般」タブを図 5.3-15 に示します。

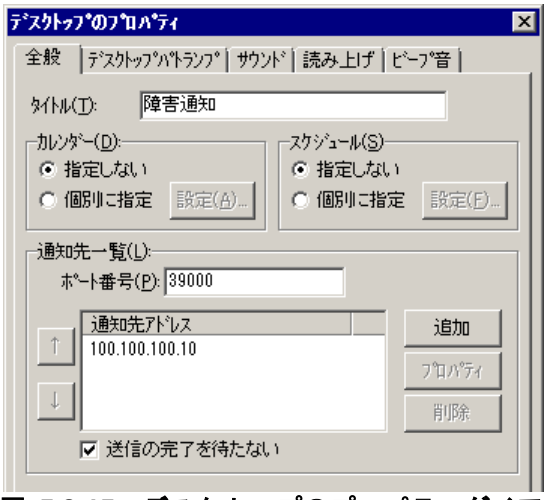


図 5.3-15　デスクトップのプロパティダイアログボックスー「全般」タブ

●「タイトル」テキストボックス

新規にデスクトップを定義した場合，定義したデスクトップを分かりやすくするための簡単な説明を指定します。この説明は，発信先一覧に表示されます。

既存のデスクトップのプロパティを表示した場合，その説明が表示され，変更もできます。

●「カレンダー」フィールド

このデスクトップで使用するカレンダーを指定します。デスクトップのスケジュール設定と組み合わせることで，平日･休日，時間帯によって動作させるデスクトップを切り替える等，細かな通知スケジューリングが可能です。

- 「指定しない」をチェックした場合，このデスクトップの上位（連絡網→連絡網グループ→システムの順）に定義されたカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(A)］ボタンをクリックしてデスクトップ独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。個別設定を使用している場合では，カレンダー設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。デスクトップのカレンダーダイアログボックスを図 5.3-16 に示します。

図 5.3-16　デスクトップのカレンダーダイアログボックス

●「スケジュール」フィールド

このデスクトップで使用するスケジュールを指定します。デスクトップのカレンダー設定と組み合わせることで，平日･休日，時間帯によって動作させるデスクトップを切り替える等，細かな通知スケジューリングが可能です。

- 「指定しない」をチェックした場合，この連絡網の上位（連絡網→連絡網グループ→システムの順）に定義されたスケジュールを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてデスクトップ独自のスケジュールを設定します。個別設定を使用している場合では，スケジュール設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。デスクトップのスケジュールダイアログボックスを図 5.3-17 に示します。

図 5.3-17　デスクトップのスケジュールダイアログボックス

●ポート番号

デスクトップ通知で使用する通信ポートのポート番号を指定します。デスクトップ通知を受信する Alarm View もこの同じポート番号を設定する必要があります。

●通知先アドレス

デスクトップ通知を送る通知先の一覧を表示します。通知先を選択してダブルクリックもしくは［プロパティ］ボタンを押すと通知先アドレスのダイアログボックスを開き通知先情報の変更が行えます。

TELstaff はここに登録した通知先すべてに通知を行います。［送信の完了を待たない］チェックボックスにチェックを入れた場合は登録された先頭の通知先から順に通知を行い，チェックを入れない場合は各通知先へと順不同で同時に通知を行います。通知の成功・失敗は［送信の完了を待たない］のチェックを入れるかどうかによって次表の通り判断されます。

送信の完了	各通知先アドレスへの送信結果	通知の成否
待つ	すべて送信成功	成功
	一つ以上，送信成功	成功
	すべて送信失敗	失敗
待たない	—	成功

※通知が失敗と判断された場合，連絡網の繰り返し再発信の対象となります

【注意事項】

1. 送信の完了を待たない場合，telcan コマンド，または発信と監視の操作ウィンドウで連絡網への発信の取り消しはできますが，通知待ちにあるデスクトップ通知の取り消しはできません。

● **［追加］ボタン**

通知先アドレスダイアログボックスを開き，通知先情報を設定します。通知先アドレスダイアログボックスを図 5.3-18 に示します。

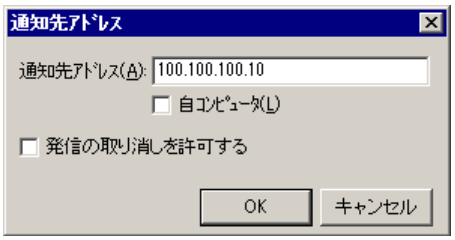


図 5.3-18　通知先アドレスダイアログボックス

● **［通知先アドレス］テキストボックス**

デスクトップ通知する宛先を IP アドレス（またはホスト名）で指定します。通知先の PC では，Administrators 権限のユーザがログインして AEPE，AESE，または AECL の Alarm View が動作した状態である必要があります。

● **［自コンピュータ］チェックボックス**

自コンピュータのデスクトップに通知する場合にチェックします。自コンピュータの登録は，1 つだけできます。

● **［発信の取り消しを許可する］チェックボックス**

Alarm View から発信中の連絡網の発信取り消し操作権限を与える場合にチェックします。

発信の取り消し操作ではデスクトップ通知を受信した PC から送信した PC へと TCP/IP 接続を行います。そのため「通知先アドレス」テキストボックスには送信元と送信先の両方で使用できるホスト名か，IP アドレスを指定してください。またシステム管理者に指定された TELstaff ユーザにパスワードが設定されていない場合，発信の取り消し操作はできませんので注意してください。

● **［OK］ボタン**

設定情報を登録します。

● **［キャンセル］ボタン**

入力した設定情報を取り消します。

● **［プロパティ］ボタン**

通知先アドレスダイアログボックスを開き，選択された通知先の情報を変更します。

● **［削除］ボタン**

選択された通知先の情報を削除します。

● **［送信の完了を待たない］チェックボックス**

チェックを入れると登録された通知先アドレスすべてに対して送信結果を確認せず同時に通知を行い，チェックをはずすと送信結果を確認しつつ順に通知を行います。

［通知先アドレス］の説明も参照してください。

(b)　デスクトップのプロパティダイアログボックスー「デスクトップパトランプ」タブ

デスクトップ通知のデスクトップパトランプの動作方法を設定します。デスクトップパ

トランプは，PC のデスクトップ上に信号灯のように色を使用して通知する手段です。デスクトップのプロパティダイアログボックスー「デスクトップパトランプ」タブを図 5.3-19 に示します。

図 5.3-19 ［デスクトップのプロパティ］ー［デスクトップパトランプ］タブ

- **「デスクトップパトランプに通知」チェックボックス**

  デスクトップ通知時にデスクトップパトランプを動作させる場合にチェックします。

- **「動作」ラジオボタン**

  デスクトップパトランプの動作を以下いずれかから選択します。

  - ［なし］

    デスクトップパトランプの動作を抑止させます。

  - ［点灯］

    表示チェックボタンでチェックされた番号で指定されている色をデスクトップ点灯（デスクトップに表示）させます。

  - ［消灯］

    表示チェックボタンでチェックされた番号で指定されている色をデスクトップ消灯（デスクトップに非表示）させます。

  - ［点滅］

    表示チェックボタンでチェックされた番号で指定されている色をデスクトップ点滅（デスクトップに表示）させます。Alarm View の参照モードでは，点灯（デスクトップに表示）させます。

  - ［点灯と消灯］

    表示チェックボタンでチェックされた番号に指定されている色をデスクトップ点灯させ，チェックされていない番号に指定されている色をデスクトップ消灯させます。

  - ［点滅と消灯］

    表示チェックボタンでチェックされた番号に指定されている色をデスクトップ点滅させ，チェックされていない番号に指定されている色をデスクトップ消灯させます。

● **「自動的に消灯する」チェックボックス**

デスクトップパトランプの動作で「点灯」，または「点滅」が指定されている場合に有効となり，デスクトップ点灯後，自動的に消灯させる場合に，ここをチェックします。

● **「自動的に消灯する」スピンボックス**

デスクトップパトランプの自動消灯をする場合に，デスクトップ点灯後，消灯するまでの時間を 1～300 の間で指定します。

● **「表示」チェックボックス**

表示動作させたいデスクトップパトランプの番号ボタンをチェックします。番号の指定で「全て」がチェックされた場合，このボタンは指定できません。

● **［番号］ボタン**

デスクトップパトランプの表示設定ダイアログボックスを開き，１から８までの各番号と表示色の対応を設定します。teldial コマンドの-fi，-i オプションを使用する場合，1 番目のデスクトップパトランプは使用できません。1 番目のデスクトップパトランプには，-fi，-i オプションで指定した画像ファイルを表示します。

デスクトップパトランプの表示設定ダイアログボックスを図 5.3-20 に示します。

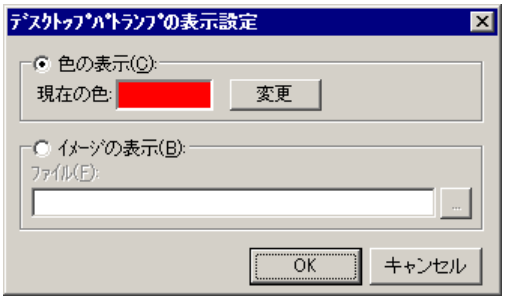


図 5.3-20　デスクトップパトランプの表示設定ダイアログボックス

- 「色の表示」ラジオボタン

  選択した番号に色を対応付ける場合に選択します。

- 「現在の色」ラベル

  選択した番号に対応付けられている色を表示します。

- ［変更］ボタン

  選択した番号に対応付けられている色を変更する場合に使用します。

- 「イメージの表示」ラジオボタン

  選択した番号にファイル拡張子が bmp または jpg のデスクトップパトランプ画像ファイルを対応付ける場合に選択します。

- 「ファイル」テキストボックス

  ファイル拡張子が bmp または jpg のデスクトップパトランプ画像ファイル名を直接指定するか，右の［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名と読み取

り専用のファイル名は，指定できません。

● **「ブザーを鳴動」チェックボックス**

デスクトップ通知時にブザー（PC のビープ音）を鳴動させる場合にチェックします。

● **「繰り返し」スピンボックス**

ブザーの鳴動を繰り返す場合に，繰り返し回数を 0～300 の間で指定します。繰り返し回数に 0 を指定すると，停止操作を行うまで鳴動します。

● **［鳴動パターンの設定］ボタン**

ビープ音の設定ダイアログボックスを開き，ビープ音の鳴動パターンを設定します。ビープ音の設定ダイアログボックスを図 5.3-21 に示します。

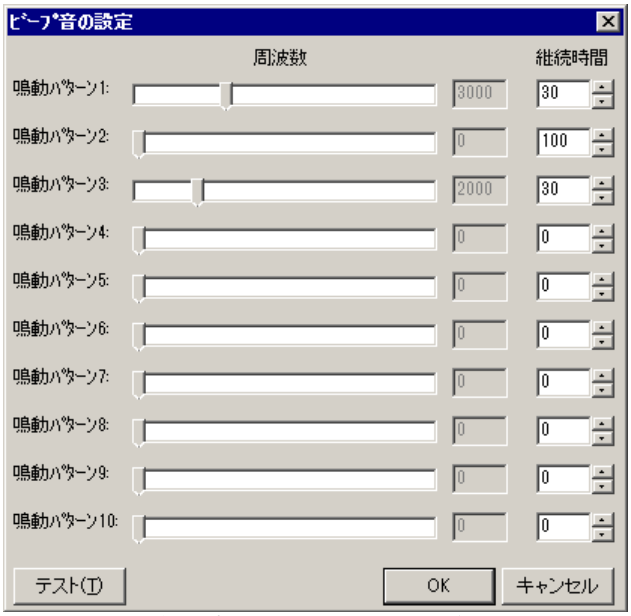


図 5.3-21　ビープ音の設定ダイアログボックス

- 「鳴動パターン」スライダ

  ビープ音の周波数を指定します。周波数を 0 にすると無音になります。

- 「継続時間」スピンボックス

  鳴動パターンで指定したビープ音（周波数）の鳴動継続時間をミリ秒で指定します。

  Alarm View でビープ音の鳴動停止操作を行った場合は，この継続時間経過後に停止します。

- ［テスト］ボタン

  ビープ音の鳴動内容の確認を行います。

● **「メッセージを送信」チェックボックス**

デスクトップ通知時にメッセージ（文字列）を送信させる場合にチェックします。

● **「メッセージ」テキストボックス**

デスクトップに通知するメッセージを設定します。ここで指定したメッセージは，Alarm View のメッセージ表示ウィンドウに表示します。メッセージ通知文には，表 2.6-2 に示す変数が使用できます。

teldial コマンドの-fdp オプションを指定した場合は，-fdp オプションのデスクトップメッセージ通知ファイルを使用します。

設定する内容は，下のラジオボタンで選択されたメッセージ種別によって異なります。teldial コマンドの-fdp オプションでデスクトップメッセージ通知ファイルを指定した場合は，-fdp オプションのデスクトップメッセージが使用されます。

- 「文字」の場合，メッセージを直接入力します。
- 「ファイル」の場合，メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名と読み取り専用のファイル名は，指定できません。

● **［文字色］ボタン**

Alarm View のメッセージ表示ウィンドウに表示する文字色を設定します。

● **［背景色］ボタン**

Alarm View のメッセージ表示ウィンドウの背景色を設定します。

(c)　デスクトップのプロパティダイアログボックスー「サウンド」タブ

デスクトップ通知のオーディオメディアファイルの再生方法を設定します。

デスクトップのプロパティダイアログボックスー「サウンド」タブを図 5.3-22 に示します。

図 5.3-22　［デスクトップのプロパティ］ー［サウンド］タブ

● **「サウンドを再生」チェックボックス**

デスクトップ通知時にオーディオメディアファイルを再生させる場合にチェックします。

ここをチェックして一度でもオーディオメディアファイルを再生すると以降，オーディオメディアファイルの再生，telsndpl コマンドの WAV ファイルの再生，メッセージエージェントの WAV ファイルの再生や TELstaff メッセージの音声通知とデスクトップ通知の読み上げ，telsmart コマンド，メッセージエージェントの読み上げは，同時に再生されます。

●「再生ファイル」テキストボックス

再生するオーディオメディアファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。teldial コマンドの-fdw オプションを指定した場合は，-fdw オプション指定のファイルを使用します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名と読み取り専用のファイル名は，指定できません。

●「繰返し回数」スピンボックス

サウンド再生を繰り返す場合に，繰り返し回数を 1～100 の間で指定します。

(d) デスクトップのプロパティダイアログボックスー「読み上げ」タブ

デスクトップ通知のメッセージの読み上げ方法を設定します。

テキスト文字をスピーカに読み上げるには，通知を受ける PC に音声合成ソフトウェアがインストールされている必要があります。またサウンドボード，スピーカが必要です。またサウンドデバイスを使用できることが必要です。

テキスト読み上げ（再生）に対する音声変換方法は，［テキスト音声変換の設定］ダイアログボックスで設定します。詳細については 4.3.1 を参照してください。

メッセージの読み上げを行う場合，次の注意事項があります。

- オーディオメディアファイルの再生とメッセージの読み上げを同時に行うと重複して再生されます。
- 音声読み上げの開始から 5 分を超えると，それ以上の繰り返しは行わず打ち切ります。
- メッセージの読み上げ中は，他の telsndpl コマンド，telsmart コマンド，メッセージエージェントの読み上げ，メッセージエージェントの WAV ファイルの再生，デスクトップ通知の読み上げ，デスクトップ通知のサウンド再生や TELstaff メッセージの音声通知は，telsmart コマンドが終了するまで実行されません。
- Windows の sndrec32 コマンド，サウンドレコーダ，またはその他 MediaPlayer 実行中のとき，メッセージの読み上げは使用できません。
- サウンドデバイスの使用できない環境では，メッセージの読み上げは使用できません。
- メッセージの読み上げでは，CPU やメモリなどのシステムリソースが多く使用されます。短時間に大量のメッセージの読み上げを行った場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。
- メッセージ読み上げ通知を行った場合，通知先において滞留している読み上げ通知情報を削除します。そのため，通知を複数回行ったときに，回数分の読み上げが行われないことがあります。

デスクトップのプロパティダイアログボックスー「読み上げ」タブを図 5.3-23 に示します。

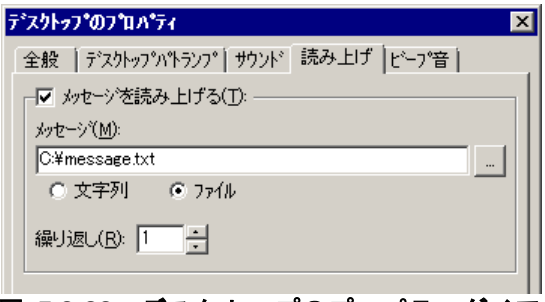


図 5.3-23　デスクトップのプロパティダイアログボックスー「読み上げ」タブ

●「メッセージを読み上げる通知」チェックボックス

デスクトップ通知時にメッセージの読み上げさせる場合にチェックします。

音声読み上げの開始から 5 分を超えると，それ以上の繰り返しは行わず打ち切ります。

ここをチェックして一度でもメッセージ読み上げを行うと以降，オーディオメディアファイルの再生，telsndpl コマンドの WAV ファイルの再生，メッセージエージェントの WAV ファイルの再生や TELstaff メッセージの音声通知とデスクトップ通知の読み上げ，telsmart コマンド，メッセージエージェントの読み上げは，同時に再生されます。

●「メッセージ」テキストボックス

読み上げるメッセージを設定します。メッセージ通知文には，表 2.6-2 に示す変数が使用できます。teldial コマンドの-fdt オプションを指定した場合は，-fdt オプションのデスクトップテキスト読み上げ通知ファイルを使用します。

設定する内容は，下のラジオボタンで選択されたメッセージ種別によって異なります。

- 「文字」の場合，読み上げるメッセージを直接入力します。文字の場合，520 バイトまで指定可能です。

- 「ファイル」の場合，読み上げるメッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名と読み取り専用のファイル名は，指定できません。通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

●「繰返し回数」スピンボックス

読み上げを繰り返す場合に，繰り返し回数を 0～100 の間で指定します。

Alarm View で受信通知の停止通知操作を行った場合，1 回の読み上げが終了したときに停止します。

繰り返し回数を多く指定すると，telsmart コマンド，メッセージエージェントの読み上げ，デスクトップ通知の読み上げや TELstaff メッセージの音声通知ができなくなることに注意してください。

(e)　デスクトップのプロパティダイアログボックスー「ビープ音」タブ

デスクトップ通知のブザー（PC のビープ音）の通知方法を設定します。

デスクトップのプロパティダイアログボックスー「ビープ音」タブを図 5.3-24 示します。

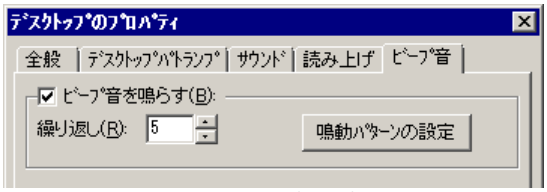


図 5.3-24　デスクトップのプロパティダイアログボックスー「ビープ音」タブ

●「ビープ音を鳴らす」チェックボックス

デスクトップ通知時にブザー（PC のビープ音）を鳴動させる場合にチェックします。

●「繰り返し」スピンボックス

ブザーの鳴動を繰り返す場合に，繰り返し回数を 0～300 の間で指定します。繰り返し回数に 0 を指定すると，停止操作を行うまで鳴動します。

●［鳴動パターンの設定］ボタン

ビープ音の設定ダイアログボックスを開き，ビープ音の鳴動パターンを設定します。ビープ音の設定ダイアログボックスは，「5.3.5(4)(b) デスクトップのプロパティダイアログボックスー「デスクトップパトランプ」タブ」を参照してください。

(5) メール開封確認の設定プロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕

メール開封確認の方法を設定します。メール開封確認機能の詳細については 2.3.1(6)を参照してください。

メール開封確認の設定プロパティダイアログボックスを，図 5.3-25 に示します。

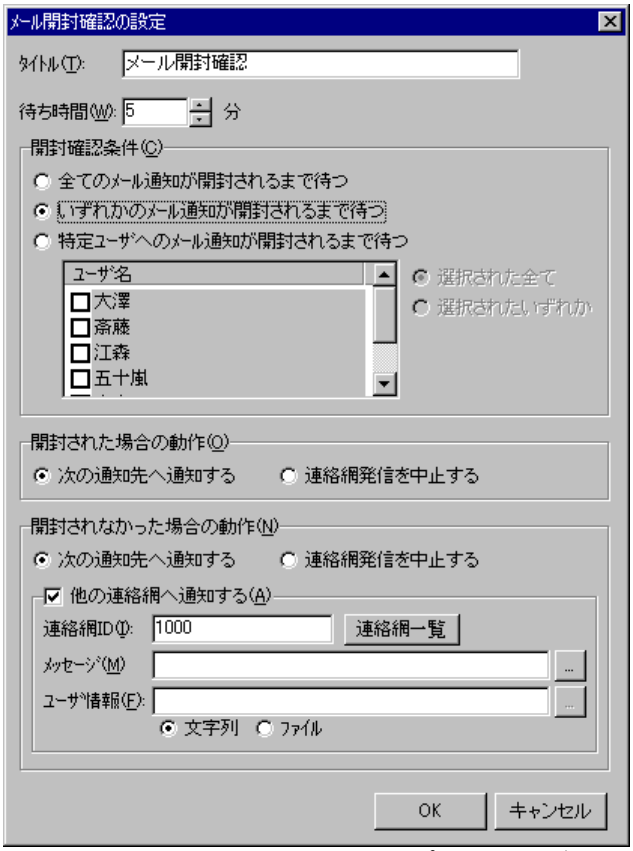


図 5.3-25　メール開封確認の設定プロパティダイアログボックス

(a)　「タイトル」テキストボックス

新規にメール開封確認定義した場合，定義したメール開封確認定義を分かりやすくするための簡単な説明を指定します。この説明は，発信先一覧に表示されます。

既存のメール開封確認のプロパティを表示した場合，その説明が表示され，変更もできます。

(b)　「待ち時間」スピンボックス

メール開封確認を行うメールを発信後，開封確認されるまでの待ち時間を 1 から 60 分で指定します。この時間内に開封確認が行われると開封確認扱いになります。

(c)　「全てのメール通知が開封されるまで待つ」ラジオボタン

このメール開封確認定義以前のメール通知ですべてのメール通知の開封確認を行う場合，ここを選択します。

(d)　「いずれかのメール通知が開封されるまで待つ」ラジオボタン

このメール開封確認定義以前のメール通知でいずれかのメール通知の開封確認を行う場合，ここを選択します。

(e)　「特定ユーザへのメール通知が開封されるまで待つ」ラジオボタン

連絡網の並び順においてこのメール開封確認よりも前にあるメール通知の中から，特定の通知での宛先だけを開封確認の対象とする場合，ここを選択します。

(f)　「ユーザ名」リストボックス

このメール開封確認定義以前に定義されたユーザ（メール通知先）の一覧を表示します。

(g)　「選択された全て」ラジオボタン

特定のメール通知だけを開封確認を行う場合で，「ユーザ名」リストボックスに選択した（チェックした）すべてのメール通知の開封確認を行う場合，ここを選択します。

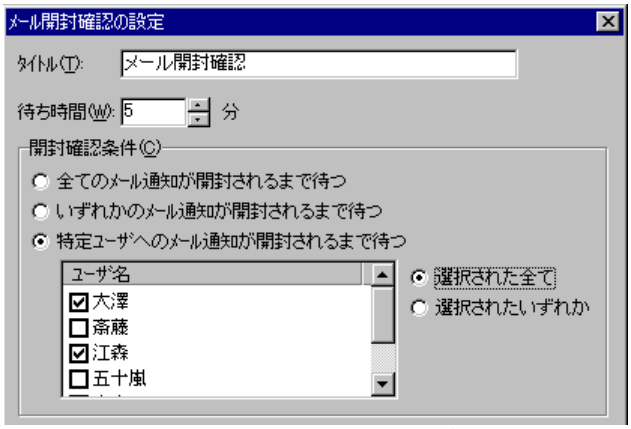


図 5.3-26　全てのメール通知の開封確認を行う場合

(h)　「選択されたいずれか」ラジオボタン

特定のメール通知だけを開封確認を行う場合で，「ユーザ名」リストボックスに選択した（チェックした）いずれかのメール通知の開封確認を行う場合，ここを選択します。

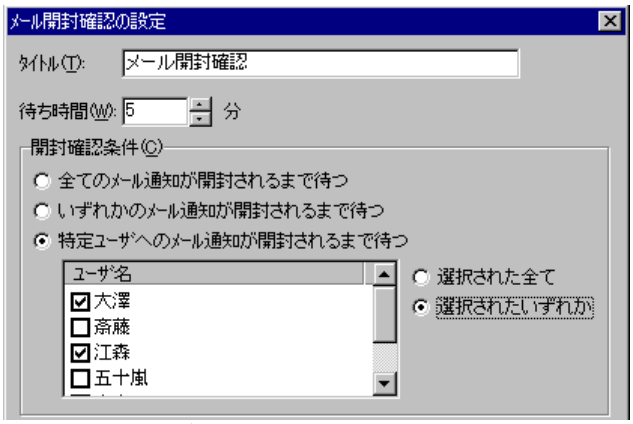


図 5.3-27　いずれかのメール通知の開封確認を行う場合

(i)　「開封された場合の動作」フィールド

メール開封確認を行うメールを発信後，開封確認が行われたときの動作方法を設定します。

開封確認が行われたとき，メール開封確認定義以降の通知先に通知する場合は，「次の通知先へ通知する」ラジオボタンを選択します。連絡網の発信を中止する場合は，「連絡網発信を中止する」ラジオボタンを選択します。

(j)　「開封されなかった場合の動作」フォールド

メール開封確認を行うメールを発信後，開封確認が行われなかったときの動作方法を設定します。

開封確認が行われないとき，メール開封確認定義以降の通知先に通知する場合は，「次の通知先へ通知する」ラジオボタンを選択します。連絡網の発信を中止する場合は，「連

絡網発信を中止する」ラジオボタンを選択します。

次の場合，開封確認が行われない扱いになります。

- メール開封確認を行うメールを発信後，開封確認されるまでの待ち時間以内に開封確認が行われない場合
- メール開封確認を行うメールを発信後，開封確認待ち中に該当するメール開封状況情報が削除された場合。
- メール発信ができない場合

(k) 「他の連絡網へ通知する」チェックボックス

開封確認が行われないとき，他の連絡網に通知する場合，ここをチェックします。

(l) 「連絡網ID」テキストボックス

他の連絡網に通知する連絡網 ID を指定します。連絡網 ID を複数指定する場合は，カンマ区切りで指定します。連絡網 ID は，5 つまで指定できます。

(m) ［連絡網一覧］ボタン

連絡網 ID 一覧から他の連絡網に通知する連絡網 ID を選択するために
連絡網 ID の選択ダイアログボックスを表示します。連絡網 ID は，5 つまで指定できます。
連絡網 ID の選択ダイアログボックは，図 4.11-16 を参照してください。

(n) 「メッセージ」テキストボックス

メール，デスクトップおよび PC にメッセージ通知するとき，通知メッセージを格納したメッセージ通知文のファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。メッセージ通知文では，表 2.3-24 に示す変数が使用できます。

ここで指定したメッセージ通知文は，teldial コマンドの -fm，-fdp，-fc オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの -fm，-fdp，-fc オプションを参照してください。

メッセージ通知文を省略すると，元の連絡網発信に使用したメッセージ通知文を使用します。

(o) 「ユーザ情報」テキストボックス

ユーザ情報を文字で指定する場合は「文字」ラジオボタンを，ユーザ情報を格納したファイル名で指定する場合は「ファイル」ラジオボタンを選択します。

ユーザ情報は，通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えられます。ユーザ情報をファイル名で指定する場合は，FAX 送信ファイルと電話通知文ファイルに~UserInformation~ 変数は，使用できません。

●「文字」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ情報を半角文字で，520 半角文字（すべて全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上のユーザ情報を指定する場合は，ユーザ情報ファイルを使用し

てください。

ユーザ情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。ユーザ情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

（例）-u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ情報を「;」（半角セミコロン）で区切ると複数行に分割でき，「;」は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例）-u "ユーザ付加情報1行目；ユーザ付加情報2行目"

ユーザ情報を文字で指定する場合は，teldial コマンドの -u オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの -u オプションを参照してください。

ユーザ付加情報には，次の変数が使用できます。

~date1~	~date2~	~date~	~time1~
~time~	~id1~	~id2~	~NotifyGroupID~
~notifynumber~	~ComputerName~	~IPaddress~ (*1)	~TelsLocalInstPath~

注*1　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

●「ファイル」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ情報が格納されているファイルのファイル名を，ファイル完全名で指定するか，[...] ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ユーザ情報をファイル名で指定する場合は，teldial コマンドの-uf オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-uf オプションを参照してください。

ユーザ情報には，次の変数が使用できます。

~date1~	~date2~	~date~	~time1~
~time~	~id1~	~id2~	~NotifyGroupID~
~notifynumber~	~ComputerName~	~IPaddress~ (*1)	~TelsLocalInstPath~

注*1　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

(6) メール一括送信の設定プロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕

連絡網の発信先として，メール一括送信は，設定した複数のユーザ宛に対して，To，Cc，Bcc で一度にメール通知を行います。メール一括送信によるメールでは，メール開封確認はできません。

メール一括送信でメール送信ができない場合は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」（図 4.1-30）「メール(M)」スピンボックスで設定した回数で再送します。メール一括送信のプロパティダイアログを図 5.3-28 に示します。

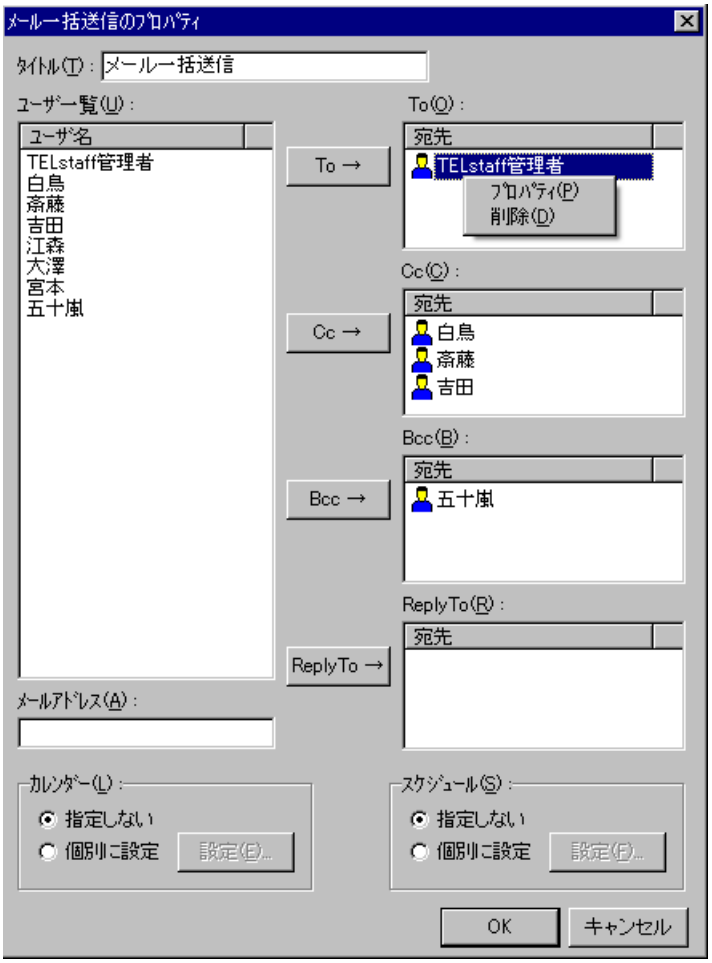


図 5.3-28　メール一括送信のプロパティダイアログボックス

(a)　「タイトル」テキストボックス

新規にメール一括送信を定義した場合，定義したメール一括送信を分かりやすくするための簡単な説明を 50 半角文字以内で指定します。この説明は，発信先一覧に表示されます。

既存のメール一括送信のプロパティを表示した場合，その説明が表示され，変更もできます。

(b)　「ユーザー覧」リストボックス

ユーザプロパティダイアログボックスー「メール」タブ（図 5.1-11）でメールアドレスを設定しているユーザ名を表示します。

(c)　「メールアドレス」テキストボックス

メールアドレスを直接指定する場合，送信先のメールアドレスを 128 桁以内で指定します。

(d)　［To→］ボタン

送信方法を「To」で送信する場合，「ユーザー覧」リストボックスのユーザ名を選択，または「メールアドレス」テキストボックスにマウスを置いてこのボタンを押します。

「ユーザ一覧」リストボックスのユーザ名を選択した場合は，メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックス（図 5.3-29）を開きます。

(e) ［Cc→］ボタン

送信方法を「Cc」で送信する場合，「ユーザ一覧」リストボックスのユーザ名を選択，または「メールアドレス」テキストボックスにマウスを置いてこのボタンを押します。「ユーザ一覧」リストボックスのユーザ名を選択した場合は，メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックス（図 5.3-29）を開きます。

(f) ［Bcc→］ボタン

送信方法を「Bcc」で送信する場合，「ユーザ一覧」リストボックスのユーザ名を選択，または「メールアドレス」テキストボックスにマウスを置いてこのボタンを押します。「ユーザ一覧」リストボックスのユーザ名を選択した場合は，メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックス（図 5.3-29）を開きます。

(g) ［ReplyTo→］ボタン

メールの返信先アドレス（Reply-To 情報）を指定する場合，「ユーザ一覧」リストボックスのユーザ名を選択，または「メールアドレス」テキストボックスにマウスを置いてこのボタンを押します。「ユーザ一覧」リストボックスのユーザ名を選択した場合は，メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックス（図 5.3-29）を開きます。

メールの返信先アドレスを省略した場合，「メールサーバ情報の設定ダイアログボックス（図 4.1-31）」の「メールアドレス」テキストボックスに指定したメールアドレスが返信先アドレスとして使用します。

(h) 「To宛先」リストボックス

指定した To 宛先一覧を表示します。

宛先を選択して右クリックすると，ポップアップメニューが表示され，メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックスの表示および宛先の削除ができます。「メールアドレス」テキストボックスに指定したメールアドレスでは，宛先の削除だけができます。

メール通知文に宛先（To）を指定している場合は，この宛先にも送信します。

(i) 「Cc宛先」リストボックス

指定した Cc 宛先一覧を表示します。

宛先を選択して右クリックすると，ポップアップメニューが表示され，メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックスの表示および宛先の削除ができます。「メールアドレス」テキストボックスに指定したメールアドレスでは，宛先の削除だけができます。

メール通知文に宛先（Cc）を指定している場合は，この宛先にも送信します。

(j) 「Bcc宛先」リストボックス

指定した Bcc 宛先一覧を表示します。

宛先を選択して右クリックすると，ポップアップメニューが表示され，メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックスの表示および宛先の削除ができます。「メールア

ドレス」テキストボックスに指定したメールアドレスでは，宛先の削除だけができます。
メール通知文に宛先（Bcc）を指定している場合は，この宛先にも送信します。

(k) 「ReplyTo宛先」リストボックス

指定した返信先一覧を表示します。
返信先を選択して右クリックすると，ポップアップメニューが表示され，メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックスの表示および返信先の削除ができます。「メールアドレス」テキストボックスに指定したメールアドレスでは，返信先の削除だけができます。
メール通知文に返信先（ReplyTo）を指定している場合は，この返信先も使用します。

(l) メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックス

ユーザプロパティダイアログボックスー「メール」タブ（図 5.1-11）で設定してある，どのメールアドレスを宛先，または返信先で使用するかを「メールアドレス」フィールドのラジオボタンで選択します。
メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックスを図 5.3-29 に示します。

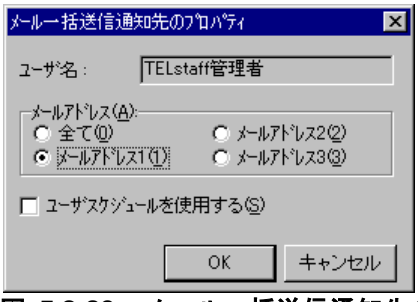


図 5.3-29 メール一括送信通知先のプロパティダイアログボックス

●「メールアドレス」フィールド

宛先，または返信先で使用するメールアドレスをラジオボタンで選択します。
使用するメールアドレスは，ユーザプロパティダイアログボックスー「メール」タブ（図 5.1-11）で設定しておく必要があります。

●「ユーザスケジュールを使用する」チェックボックス

メール一括送信のスケジュール設定でメール一括送信できる時間帯の場合，このユーザだけをユーザのプロパティー「全般」タブ（図 5.1-6）で設定したスケジュール方法を適用する場合，ここをチェックします。ユーザのプロパティー「全般」タブ（図 5.1-6）で設定したスケジュールを適用することで，このユーザのメール送信だけを抑止することができます。

(m) 「カレンダー」フィールド

このメール一括送信で使用するカレンダーを指定します。メール一括送信のスケジュール設定と組み合わせることで，平日･休日，時間帯によってメール一括送信の細かな通知スケジューリングが可能です。

- 「指定しない」をチェックした場合，この連絡網の上位（連絡網→連絡網グループ→システムの順）に定義されたカレンダーを使用します。

- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(E)］ボタンをクリックしてメール一括送信独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。メール一括送信のカレンダーダイアログボックスを図 5.3-30 に示します。

図 5.3-30　メール一括送信のカレンダーダイアログボックス

(n)　「スケジュール」フィールド

このメール一括送信で使用するスケジュールを指定します。メール一括送信のカレンダー設定と組み合わせることで，平日･休日，時間帯によってメール一括送信の細かな通知スケジューリングが可能です。

- 「指定しない」をチェックした場合，この連絡網の上位（連絡網→連絡網グループ→システムの順）に定義されたメールスケジュールを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてメール一括送信独自のスケジュールを設定します。メール一括送信のスケジュールダイアログボックスを図 5.3-31 に示します。

図 5.3-31　メール一括送信のスケジュールダイアログボックス

5.3.6 発信先の移動

連絡網に定義されている発信先の発信順序を変更する場合，次の手順で行います。

1. 連絡網（ID）ウィンドウの発信先一覧から，発信順序を変更する発信先を選択し，［↑］ボタン，および［↓］ボタンをクリックして上下に移動します。また，発信先一覧の中で直接ドラッグアンドドロップしても移動できます。
2. 連絡網（ID）ウィンドウの【ファイル(F)】メニューから【保存(S)】または【保存して閉じる(L)】を選択して，発信先の移動を終了します。

5.3.7 発信先の削除

連絡網に定義されている発信先を削除する場合，次の手順で行います。

1. 連絡網（ID）ウィンドウの発信先一覧から，削除する発信先を選択し，【編集(E)】メニューから【削除(D)】を選択して発信先一覧から削除します。また，［←］ボタンをクリックすることでも削除できます。
2. 連絡網（ID）ウィンドウの【ファイル(F)】メニューから【保存(S)】または【保存して閉じる(L)】を選択して，発信先の削除を終了します。

5.3.8 連絡網（新規）ウィンドウ

新規連絡網を設定します。連絡網（新規）ウィンドウを図 5.3-32 に示します。

図 5.3-32　連絡網（新規）ウィンドウ

(1) 「保存ファイル」ボタン

定義した連絡網を保存するために，連絡網の保存ダイアログボックスを表示します。

(2) 「設定ファイル」ボタン

連絡網の設定ダイアログボックスを表示します。

(3) 「利用可能な発信先」リストボックス

現在定義されている利用できる発信先の一覧が表示されます。

(4) ［→］ボタン

利用可能な発信先で選択された発信先を，発信先一覧に追加します。

(5) ［←］ボタン

発信先一覧で選択された発信先を削除します。

(6) ［↑］ボタン

発信先一覧で選択されている発信先を，1 つ上に移動させます。TELstaff の通知順序を上げたい場合に使用します。

(7) ［↓］ボタン

発信先一覧で選択されている発信先を，1 つ下に移動させます。TELstaff の通知順序を下げたい場合に使用します。

(8) 「発信先の一覧」フィールド

連絡網の発信先として選択された発信先の一覧を表示します。

TELstaff は，この一覧の上に表示されている発信先（通知メディア）から順番に，発信スケジュールに従って通知メディアに一定の間隔で発信を行います。各通知メディアへの通知は，通知が完了してから次の通知メディアに通知が行われます。

この一覧に表示されている先頭の通知メディアが第一通報先になり重要な意味を持ちます。

例えば，複数のパトランプ通知メディアを発信先一覧に追加した場合，パトランプ動作が終了してから次のパトランプ通知が行われます。

同時に複数の連絡網からの発信を行った場合，連絡網の間では順不同であり優先順位はありません。ある連絡網の発信の沈み込み（埋もれ）を防ぐため，まだ一度も発信されていない連絡網（未発信の連絡網と呼びます）は，既にいくつかの連絡先に通知済みの連絡網よりも先に第一通報先に対して発信されます。未発信の連絡網への発信は，連絡網の先頭の通知先に対して先に発信します。なお，連絡網内の通知メディアの追い越し発信は行いません。詳細は「2.3.26 先頭優先ルール」を参照してください。

パトランプを発信先に追加すると，パトランプのプロパティダイアログボックスで，パトランプを設定します。

コマンドを発信先に追加すると，コマンドのプロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕で，実行するコマンドを設定します。

メッセージ表示ボードを発信先に追加すると，メッセージ表示ボードのプロパティダイアログボックスで，メッセージ表示ボード通知を設定します。

デスクトップを発信先に追加すると，デスクトップのプロパティダイアログボックスで，デスクトップ通知を設定します。

メール一括送信を発信先に追加すると，メール一括送信のプロパティダイアログボックスで，メール一括送信を設定します。

連絡網（新規）ウィンドウのメニューと機能を，表 5.3-2 に示します。

表 5.3-2 連絡網（新規）ウィンドウのメニューと機能

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	機　能
ファイル(F)	保存(S)	連絡網の設定を保存します。
	保存して閉じる(L)	連絡網の設定を保存して，連絡網（新規）ウィンドウを閉じます。
	プロパティ(P)	連絡網の設定ダイアログボックスを開きます。

	閉じる(C)	連絡網（新規）ウィンドウを閉じます。
編集(E)	追加(A)	連絡網に発信先を追加します。
	削除(D)	連絡網から発信先を削除します。
表示(V)	ユーザの再読み込み(U)	ユーザの情報を再読み込みします。
	すべて開く(A)	ユーザの持つ発信先をすべて表示します。

注　　連絡網（ID）ウィンドウのメニューは，連絡網（新規）ウィンドウと同じです。

5.3.9 連絡網（ID）ウィンドウ

連絡網 ID に対応する発信先を設定します。表示されるウィンドウは連絡網（新規）ウィンドウと同じウィンドウです。連絡網（ID）ウィンドウを，図 5.3-33 に示します。

図 5.3-33　連絡網（ID）ウィンドウ

5.3.10 連絡網の保存ダイアログボックス

新規に作成した連絡網を保存するときに表示します。連絡網の保存ダイアログボックスを，図 5.3-34 に示します。

図 5.3-34　連絡網の保存ダイアログボックス

(1) 「連絡網ID」テキストボックス

定義した連絡網の連絡網 ID を，0001～9998 の 4 桁の数字で指定します。

(2) 「説明」テキストボックス

定義した連絡網を分かりやすくするための簡単な説明を指定します。

(3) 「グループ内の連絡網」フィールド

既に定義されている連絡網 ID と説明の一覧を表示します。

5.3.11 連絡網の設定ダイアログボックス

連絡網の設定ダイアログボックスのそれぞれのタブで各種設定項目を設定します。

(1) 連絡網プロパティー「基本設定」タブ

連絡網の基本項目を設定します。連絡網プロパティー「基本設定」タブを図 5.3-35 に示します。

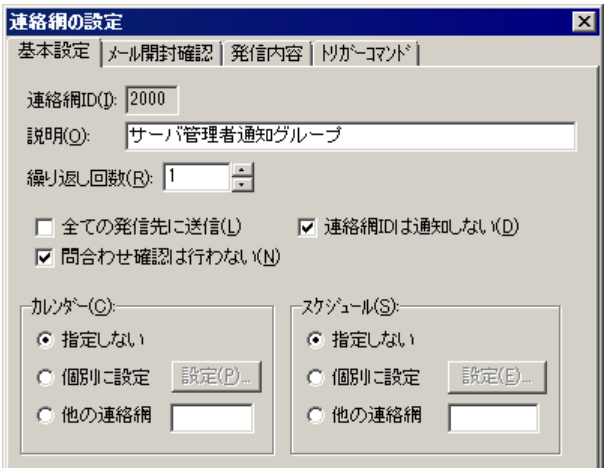


図 5.3-35　連絡網プロパティー「基本設定」タブ

(a)　「連絡網ID」テキストボックス

新規に作成する連絡網の ID を，0001～9998 の 4 桁の数字で指定します。既存の連絡網

の設定を表示した場合，その連絡網の ID がこのテキストボックスに表示され，変更はできません。

(b) 「説明」テキストボックス

連絡網を分かりやすくするための簡単な説明を指定します。

(c) 「繰り返し回数」スピンボックス

連絡網全体の繰り返し回数を，2～30 の範囲で指定します。1 を指定した場合，連絡網への発信は繰り返されません。なお［環境設定］－［発信方法］タブで再発信の間隔に 0 が指定された場合，繰り返し回数の値にかかわらず，1 回だけの発信となります。

繰り返しの詳細については 2.3.1(1)(g)を参照してください。

(d) 「全ての発信先に送信」チェックボックス

トリガフォンを使用した電話発信や IP 電話発信で，受信者が発信の確認を行ったときに連絡網への発信を中止するかどうかを指定します。

チェックがない場合，連絡網に登録された発信のいずれか一つに対する確認が得られた時点で連絡網への発信を中止します。

チェックがある場合，連絡網に登録された発信に対する確認が得られた場合にも発信を中止せず，連絡網に登録されたすべての発信先に発信します。ただし，連絡網の繰り返しが行われた場合，確認が行われた通知メディアへの発信は省略します。

なお，あるユーザへの電話通知が確認されると，そのユーザへの SMS 通知も確認されたとみなします。そのため連絡網に同一ユーザへの電話通知と SMS 通知が登録されており，電話通知に対して確認が行われた場合，SMS 通知も以後行いません。

通信モデムを使用した電話発信では，すべての電話に対して発信を行います。

(e) 「連絡網IDは通知しない」チェックボックス

発信先に通知する情報に連絡網 ID を含めるか，含めないかを指定します。この指定は発信先が SMS 通知の場合に有効となります。SMS の種類によっては，先頭に半角数字（連絡網 ID）を指定できない場合があります。

チェックがある場合，メッセージだけを通知します。

チェックがない場合，連絡網 ID とメッセージを通知します。

「連絡網 ID を通知しない」オプション，通知 ID 指定の有無，連絡網 ID 指定の有無でメッセージの表示形式が異なります。詳細は，「2.3.1(3)SMS 発信」を参照してください。

(f) 「問合わせ確認は行わない」チェックボックス

teldial コマンドの-k オプションを省略するとき，発信に対する確認があるまで発信記録を保存するか，しないかを指定します。

teldial コマンドで-k オプションを指定したときは，-k オプションが優先されます。

発信記録を保存する運用では，「1.5.1 発信記録とファイルの削除」に示す注意事項があり，次の操作で発信記録を削除してください。発信記録は，メモリに保存するため発信記録を削除しないと空きメモリを消費していきます。また，発信記録が多い状態でTELstaff サービスを開始すると，サービスが開始するまで時間がかかります。この場合，環境設定ー「全般」タブの「サービス未起動のとき teldial コマンドを無効にする」オプションをチェックしておくとサービスの起動時間が短くなります。発信記録は，次の操作で発信を確認した段階で削除する運用を行ってください。

1. 発信キャンセルコマンド（telcan コマンド）で発信記録を削除
2. 問い合わせ確認を行い，発信記録を削除

●チェックがある場合

発信に対する確認（トリガフォンからの電話発信で確認）が行われなくても発信が終了すると発信記録は削除されます。teldial コマンド，の-d オプションの指定があると-uf, -fc，-ff，-fm，-fv，-fb，-fi，-fa，-fs1，-uf，-fdp，-fdw，-fdt オプションで指定したファイルが削除されます。

●チェックがない場合

発信が終了しても発信に対する問い合わせ確認（トリガフォンで電話からの問い合わせ確認）が行われるまでは発信記録と teldial コマンドの-fb, -fm, -ff, -fv, -fc オプションで指定したファイルは保存されます。ただし，次の条件のときは，発信記録と-fc, -ff, -fm, -fv, -fb, -fi, -fa, -fs1, -uf, -fdp, -fdw, -fdt オプションで指定したファイルは削除されます。

- teldial コマンドの-k オプションを指定
- トリガフォンを未使用
- 受信属性のないモデムまたはトリガフォンを使用（すべて発信専用モデム・トリガフォン）

(g) 「カレンダー」フィールド

この連絡網で使用するカレンダーを指定します。

- 「指定しない」をチェックした場合，この連絡網の上位（連絡網グループ→システムの順）に定義されたカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックして「カレンダーのダイアログボックス」で連絡網独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。個別設定を使用している場合では，カレンダー設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。「カレンダーのダイアログボックス」の説明は 4.1.1(1)(g)を参照してください。
- 「他の連絡網」をチェックした場合，同一連絡網グループ内の他の連絡網に設定されているカレンダーを使用します。連絡網 ID を指定してください。

(h) 「スケジュール」フィールド

この連絡網で使用するスケジュールを指定します。

- 「指定しない」をチェックした場合，この連絡網の上位（連絡網グループ→システムの順）に定義されたスケジュールを使用します。

- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(E)］ボタンをクリックして「スケジュールダイアログボックス」で連絡網独自のスケジュールを設定します。個別設定を使用している場合では，スケジュール設定は，TELstaff サービス開始中でも有効になります。「スケジュールダイアログボックス」の説明は，「4.1.1(1)(h)　［システムスケジュールの設定(S)］ボタン」を参照してください。
- 「他の連絡網」をチェックした場合，同一連絡網グループ内の他の連絡網に設定されているスケジュールを使用します。連絡網 ID を指定してください。
- 発信するとき，連絡網，またはシステムのスケジュールですべての通知メディアが発信抑止状態の場合は，発信できる時間になるまで発信を保留します。発信保留を抑止するには，未使用の通知メディアに対してすべての時間帯を発信可能状態にしておきます。該当する通知メディアが，発信抑止状態でも発信したものとして次の通知メディアへの発信を行います。

(2) 連絡網プロパティー「メール開封確認」タブ

この連絡網に対して TELstaff がメール通知するときのメール開封確認方法を設定します。連絡網プロパティー「メール開封確認」タブを図 5.3-36 に示します。

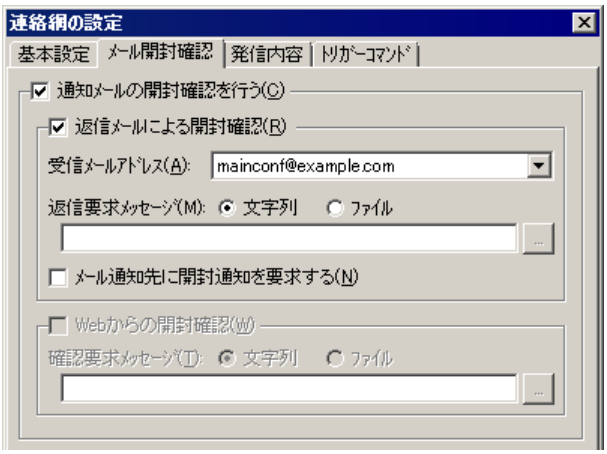


図 5.3-36　連絡網プロパティー「メール開封確認」タブ

(a)　「通知メールの開封確認を行う」チェックボックス

メール発信でメール開封確認を行う場合，ここをチェックします。

(b)　「返信メールによる開封確認」チェックボックス

メールの開封確認をメールの返信で開封確認する場合，ここをチェックします。

(c)　「受信メールアドレス」ドロップダウンリスト

開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスをドロップダウンリストから選択します。連絡網の発信先として登録するメールアドレスとは，異なるメールアドレスを選択してください。このメールアドレスは，メール開封確認を行うメール発信の返信先アドレス（From 情報）に使用します。

「受信メールアドレス」ドロップダウンリストには，環境設定ー「メール開封確認」タ

ブで登録したメールアドレスを表示します。

開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスを設定した後，環境設定ー「メール開封確認」タブで開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスを削除，または変更した場合は，再設定が必要です。

(d) 「返信要求メッセージ」テキストボックス

メールの開封確認をメールの返信で開封確認する場合で，メール開封確認を行うメール発信の本文に挿入する開封確認通知要求メッセージを指定します。開封確認通知要求メッセージは，メール本文の先頭に挿入します。

省略すると環境設定ー「メール開封確認」タブで指定した開封確認通知要求メッセージを使用します。

開封確認通知要求メッセージは，下のラジオボタンで選択されたメッセージ種別によって異なります。

- **「文字」の場合**
  開封確認通知要求メッセージを 520 半角文字以内で直接入力します。メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。
- **「ファイル」の場合**
  開封確認通知要求メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(e) 「メール通知先に開封確認通知を要求する」チェックボックス

メール開封確認を行うメール発信を受信するメールクライアントに対して開封確認通知を要求する場合，ここをチェックします。開封確認通知要求を受けられるかどうかは，使用するメールクライアントに依存します。開封確認通知要求を受けられるメールクライアントでも送信元の表題（Subject:）を使用しないメールクライアントでは使用できません。

なお，携帯電話のメールクライアントでは開封確認通知要求は使用できません。

(f) 「Webからの開封確認」チェックボックス

このバージョンの TELstaff 製品では使用できません。チェックしないでください。

(g) 「確認要求メッセージ」テキストボックス

このバージョンの TELstaff 製品では使用できません。

(3) 連絡網プロパティー「発信内容」タブ

この連絡網に対して TELstaff が発信する内容を設定します。連絡網プロパティー「発信内容」タブを図 5.3-37 に示します。

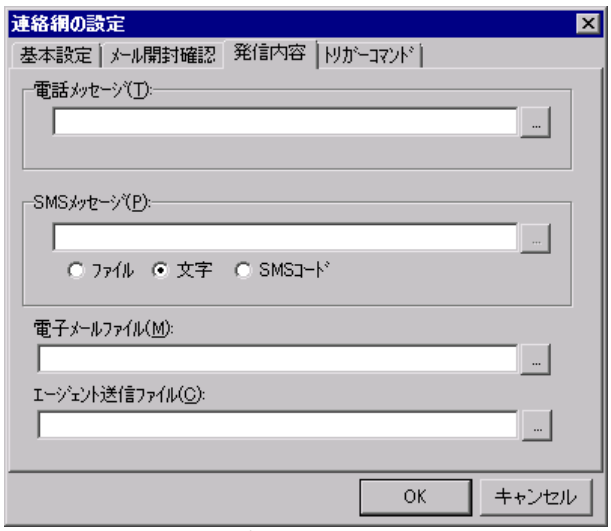


図 5.3-37　連絡網プロパティー「発信内容」タブ

(a)　「電話メッセージ」フィールド

電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル名を指定します。

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，または同一連絡網内に IP 電話とトリガフォンを使用する電話を混在させる場合は，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が「tp」のファイル名を指定します。IP 電話のみを使用する場合は，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が「tp」または「txt」または「wav」のファイル名を指定します。ファイル拡張子が「wav」の音声ファイル名を指定する場合，その音声ファイルは表 1.4-6 に示す形式でなければなりません。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 260 桁以内です。

IP 電話の場合，送信できる文字数や文字コード等が使用する音声合成ソフトウェアにより異なります。詳細は 1.4.10(3)(b)を参照してください。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

電話通知メッセージファイルを省略すると，標準提供の電話通知文ファイルが使用されます。標準提供の電話通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

電話通知文ファイルを指定しても teldial コマンドの-fv オプションで電話通知文ファイルの指定があれば-fv オプションで指定した電話通知文ファイルが使用されます。

IP 電話通知では，日本語以外の言語で使用する通知文ファイルの名前がここで指定したファイル名を元に自動的に決定されます。詳細については表 2.3-9 を参照してください。

(b) 「SMSメッセージ」フィールド

SMS 通知で使用するメッセージを設定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択されたメッセージ種別によって異なります。

メッセージの文字数が最大文字数を超えた場合，最大文字数で分割して送信します。

メッセージの表示形式は，「連絡網 ID を通知しない」オプション，通知 ID 指定の有無，連絡網 ID 指定の有無で異なります。詳細は，「2.3.1(3) SMS 通知」を参照してください。

漢字やカナのメッセージを使用する場合，漢字やカナが表示できる SMS の種別で統一してください。表示できない場合は，メッセージが文字化けをして表示されます。メッセージについての注意事項があります。注意事項については，「2.3.1(3) SMS 通知」を参照してください。

メッセージを指定しても teldial コマンドの-fb または-m オプションでメッセージの指定があれば-fb または-m オプションで指定したメッセージが使用されます。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字で直接入力します。メッセージは 260 バイトまで指定可能です。

  メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。環境設定「SMS」タブの「SMS の設定ダイアログボックス」の最大メッセージ長で指定したバイト数のみ通知します。コードは，各社の説明書をお読みください。

(c) 「電子メールファイル」テキストボックス

メールに発信通知する場合の，通知文を格納したメール通知文ファイル名を指定します。

ファイル名は，メール通知文ファイル名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてメール通知文ファイル名を選択してください。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 260 桁以内です。省略すると標準提供のメール通知文ファイルを使用します。

メール通知文には，標準メール通知文とユーザ作成の固有のメール通知文があります。メール通知文ファイルと teldial コマンドの-fm オプションの両方を省略すると，標準提供のメール通知文ファイルを使用します。標準提供のメール通知文ファイルがないとメールには発信されません。標準提供のメール通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

メール通知文ファイルを指定しても teldial コマンドの-fm オプションでメール通知文フ

ファイルの指定があれば-fm オプションで指定したメール通知文ファイルが使用されます。メール通知文ファイルは，2.6.1(1)に示す注意事項があります。

(d) 「エージェント送信ファイル」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）に送信するエージェント送信ファイルを指定します。

ファイル名は，エージェント送信ファイル名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてエージェント送信ファイル名を選択してください。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 260 桁以内です。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

エージェント送信ファイルには，標準エージェント送信ファイルとユーザ作成の固有のエージェント送信ファイルがあります。エージェント送信ファイルと teldial コマンドの-fc オプションの両方を省略すると，標準提供のエージェント送信ファイルを使用します。標準提供のエージェント送信ファイルがないとエージェントには発信されません。標準提供のエージェント送信ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

エージェント送信ファイルを指定しても teldial コマンドの-fc オプションでエージェント送信ファイルの指定があれば-fc オプションで指定したエージェント送信ファイルが使用されます。

(4) 連絡網プロパティー「トリガーコマンド」タブ

この連絡網の発信における特定の契機に実行するコマンド（トリガーコマンド）を設定します。連絡網プロパティー「トリガーコマンド」タブを図 5.3-38 に示します。

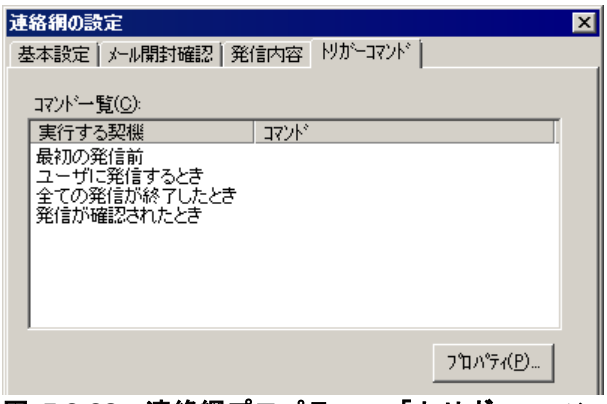


図 5.3-38 連絡網プロパティー「トリガーコマンド」タブ

(a) 「コマンド一覧」フィールド

トリガーコマンドの実行契機と，そのコマンドラインを表示します。それぞれの実行契機を選択して［プロパティ(P)］ボタンをクリックすると実行するコマンドを指定できます。

各実行契機の意味は，次のとおりです。

実行契機	説明
最初の発信前	連絡網中の通知先に発信を始める前に実行するコマンド。

実行契機	説明
ユーザに発信するとき	連絡網中の各通知を実行する直前に実行されるコマンド。
すべての発信が終了したとき	連絡網中のすべての通知先に発信した後で実行するコマンド。ここに%teldial コマンドを記述すると，連絡網のエスカレーションができます。%teldial コマンドについては「5.3.12 %teldial コマンド」を参照してください。
発信が確認されたとき	当該連絡網の発信が確認されたときに実行するコマンド。

(b) 「プロパティ」ボタン

コマンドのプロパティダイアログボックス〔連絡網の設定〕を表示します。

● トリガーコマンドのプロパティダイアログボックス〔連絡網の設定〕

実行するコマンドを指定します。画面例を図 5.3-39 に示します。

図 5.3-39　トリガーコマンドのプロパティダイアログボックス〔連絡網の設定〕

• 「コマンド」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択してください。コマンドパラメタには，以下の TELstaff の変数を使用することもできます。各変数の意味などについては表 12.1-1 を参照してください。

- ~date~, ~date1~, ~date2~
- ~time~, ~time1~
- ~id1~, ~id2~, ~NotifyGroupID~
- ~notifynumber~
- ~IPaddress~ (*1)
- ~ComputerName~
- ~TelsLocalInstPath~
- ~UserName~ (*2)
- ~UserExplanation~ (*2)
- ~UserInformation~ (*3)
- ~node~, ~node1~, ~node2~ (*4)
- **環境変数** (*5)
- **任意変数** (*6)

*1　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

*2　「ユーザに発信するとき」および「発信が確認されたとき」のトリガーコマンドでのみ使用可能です。

*3　teldial コマンドに-u オプションを指定した場合のみ使用可能です。

*4　teldial コマンドに-h オプションを指定した場合のみ使用可能です。

*5　　teldial コマンドに-ev オプションを指定した場合のみ使用可能です。
*6　　teldial コマンドに-fav オプションを指定した場合のみ使用可能です。

TELstaff は，コマンドを実行するときコマンド実行用のプロセスを生成してコマンドの実行終了を待たずに実行させます。

ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

5.3.12%teldialコマンド

(a)　機能

連絡網発信の teldial コマンドで指定されたパラメタを引き継いで，%teldial コマンドで指定された連絡網への発信を開始します。

(b)　形式

%teldial/ [teldialコマンドパラメタ] [連絡網グループID/]連絡網ID

(c)　引数

● teldialコマンドパラメタ

%teldial コマンドで発信を開始する連絡網に対する teldial コマンドパラメタを指定します。ここに指定したパラメタが，先の teldial コマンドで既に指定されている場合は，ここに指定したパラメタを有効にします。

teldial コマンドパラメタのうち，-b，-c，-p，-e，-f，-ih，-ip，-ni，-nif，-nik，-nfd オプションは指定できません。

●連絡網ID

%teldial コマンドで発信を開始する連絡網の連絡網 ID を 4 桁の半角数字で「teldial コマンドパラメタ」の最後に指定します。「0000」と「9999」の連絡網 ID は指定できません。連絡網 ID は省略できません。また，-ni オプションは使用できません。

連絡網グループ ID を指定する場合は，「連絡網グループ ID/」を連絡網 ID の前に指定します。連絡網グループ ID を省略すると，先の teldial コマンドの連絡網グループ ID 情報を使用します。

連絡網 ID は，表 11.2-1 に示す方法で前方一致形式の総称指定ができます。

連絡網 ID を複数指定する場合は，「+」区切りで，5 つ以内で指定します。同じ連絡網 ID を複数指定したり，連絡網 ID 個別指定して総称指定に含まれる場合は，重複して発信します。連絡網 ID を複数指定した場合の発信は，順不同になります。

総称指定の teldial コマンド，および「+」区切りの複数連絡網 ID 指定では，該当する連絡網 ID 分の teldial コマンドを生成し，発信制限を適用しないで実行します。

総称指定については，teldial コマンドの連絡網 ID オプションを参照してください。

（例） %teldial/ 1000
%teldial/ 100*
%teldial/ 200/1000
%teldial/ 200/100*
%teldial/ 1000+200/5000+200*+200/100*

●注意事項

- ~UserName~，~UserExplanation~，~date1~，~date2~，~date~，~time1~，~time~，~IPaddress~，~ComputerName~，~notifynumber~，~NotifyGroupID~変数など後続の連絡網への発信には引き継がれない変数があります。
- 先の teldial コマンドで 1 つのおよび連絡網グループ ID 指定の連絡網 ID を指定し，%teldial コマンドでは 1 つの連絡網グループ ID を省略した連絡網 ID を指定した場合は，先の teldial コマンドで指定した連絡網グループ ID を使用します。
- %teldial コマンドで 1 つの連絡網グループ ID 指定の連絡網 ID を指定した場合は，%teldial コマンドで指定した連絡網グループ ID 指定の連絡網 ID を使用します。
- %teldial コマンドで連絡網 ID の複数指定，または連絡網 ID を前方一致形式の総称指定した場合は，%teldial コマンドで指定した連絡網 ID 情報を使用します。

6.操作

この章では，TELstaff の基本的な操作方法について説明します。

6.1 TELstaffの起動と停止の操作

6.2 電話の操作

6.3 Alarm Viewの操作

6.4 問題調査用資料の採取

6.1TELstaffの起動と停止の操作

6.1.1 TELstaffサービスの起動方法

TELstaff をインストールすると，「TELstaff」というサービス名（表示名は「TELstaff AE」または「TELstaff AE Client」）で，OS 起動時に自動的に起動するように TELstaff サービスが登録されます。TELstaff サービスは，OS が提供する各種のサービス制御ツールで制御できます。

TELstaff サービスの起動方法には，次の 4 通りの方法があります。

- 自動で Windows 起動時に起動する方法
- 手動で起動する方法
- 他のアプリケーションから起動する方法
- teldial コマンドによる TELstaff サービスの自動起動

AEPE および AESE では，TELstaff サービスの起動時に使用する連絡網グループを指定します。TELstaff サービスの起動時に使用する連絡網グループは，明示的に指定しなければ「標準で使用するグループ」として定義されている連絡網グループを使用します。

使用する連絡網グループを明示的に指定できるのは，TELstaff ウィンドウから起動する場合と，telsscmd.exe を実行して起動する場合です。

TELstaff サービス起動時に指定する連絡網グループ(※1)が，前回の TELstaff サービス起動時とは異なる場合，発信待ち・問い合わせ待ち状態にある連絡網発信情報の中で，明示的に連絡網グループ ID が指定されていないものは無効（取り消し）となります。

注※1「TELstaff サービス起動時に指定する連絡網グループ」とは，「11.20 TELstaff サービス起動・停止コマンド（telsscmd）」の引数で指定した連絡網グループ，あるいは，「図 6.1-1 TELstaff サービスの起動ダイアログボックス」で指定した連絡網グループを意味します。

なお，TELstaff の設定情報や定義情報を変更したときは，TELstaff サービスの再起動が必要です。

TELstaff サービス起動操作は，Administrators 権限ユーザで操作できます。

(1) 自動でWindows起動時に起動する方法

TELstaff をインストールした時点で，OS 起動時に TELstaff サービスも自動起動するように設定されます。なお自動起動しないよう設定を変更する場合は，ご利用の Windows の操作方法に従って設定変更してください。

(2) 手動で起動する方法

(a) 管理ツールのサービスから起動する方法

管理ツールの【サービス】で「TELstaff AE」を選択し【開始(S)】ボタンを押すことで，TELstaff サービスを起動します。

(b) コマンドプロンプトから起動する方法

OS が提供するサービス起動用コマンドを使用すると，コマンドプロンプトからサービスを起動させることが可能です。また TELstaff が提供するサービス起動・停止コマンド telsscmd を使用することもできます。telsscmd コマンドの詳細については 11.20 節を参照してください。

(c) TELstaffウィンドウから起動する方法

TELstaff ウィンドウの【ツール(T)】メニューの【サービスの操作(S)】から【起動(S)】，または【再起動(S)】を選択すると，AEPE および AESE では図 6.1-1 に示す TELstaff サービスの起動ダイアログボックスを表示します。TELstaff サービスの起動ダイアログボックスから使用するグループを選択して，TELstaff サービスを起動します。

なお TELstaff ウィンドウ起動中に telsscmd コマンド等で TELstaff サービスを停止したすると【起動(S)】，または【再起動(S)】が不活性になり選択できないことがあります。その場合，TELstaff ウィンドウの【表示(V)】メニューで【最新情報に更新(R)】を選択してください。

(d) スタートメニューから起動する方法

スタートメニューの【TELstaff サービスの操作】から【サービスの手動起動】を選択すると，AEPE および AESE では，図 6.1-1 に示す TELstaff サービスの起動ダイアログボックスを表示します。

TELstaff サービスの起動ダイアログボックスから使用するグループを選択して，TELstaff サービスを起動します。

(3) 他のアプリケーションから起動する方法

TELstaff が提供するサービス起動・停止コマンド telsscmd をアプリケーションから実行させて，TELstaff サービスを起動します。telsscmd コマンドの詳細については 11.20 節を参照してください。

(4) teldialコマンドによるTELstaffサービスの自動起動

環境設定ダイアログボックスで「サービス未起動のとき teldial コマンドでサービスを自動起動する」オプションが指定されている場合，teldial コマンドの実行を契機に直前に使用していた連絡網グループを使用して TELstaff サービスは自動起動します。

インストール直後の場合は，「連絡網グループ 001」を使用して自動起動します。

6.1.2 TELstaffサービスの起動ダイアログボックス

AEPE および AESE では，TELstaff サービスを起動するときに表示され，起動する連絡網グループを指定します。TELstaff サービスの起動ダイアログボックスを，図 6.1-1 に示します。

図 6.1-1　TELstaffサービスの起動ダイアログボックス

(1)　「標準のグループ（グループID）で起動する」チェックボックス

TELstaff サービスを標準の連絡網グループで起動するときに，このチェックボックスにチェックします。

このチェックボックスは，TELstaff サービス起動時に標準でチェックされているので，最も良く使う連絡網グループを，標準の連絡網グループとして定義しておくことを推奨します。標準の連絡網グループは，グループのプロパティダイアログボックスで設定できます。

(2)　「グループを指定して起動する」チェックボックス

TELstaff サービスを標準の連絡網グループ以外で起動する場合に，このチェックボックスにチェックします。

このチェックボックスにチェックすると，連絡網グループ一覧で起動する連絡網グループを選択できます。

(3)　「グループを指定して起動する」リストボックス

現在定義されている連絡網グループの一覧を表示します。

TELstaff を標準の連絡網グループ以外で起動する場合，ここで起動する連絡網グループを選択してください。

(4)　「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックス

次の発信を取り消してから TELstaff サービスを起動する場合に，このチェックボックスにチェックします。この操作で発信を取り消す場合，teldial コマンドの-d オプションは無効になります。

- 現在未発信となっている発信や問い合わせ待ち状態にある発信。
- 未処理のエージェント受信メッセージ
- 未処理のエージェント送信メッセージ
- 発信依頼先に未送信の teldial コマンド

未発信記録や問い合わせ待ち状態にある発信記録が多い状態で TELstaff サービスを開始すると，サービスが開始するまで時間がかかります。

このような場合，このオプションをチェックしておくとサービスの起動時間が短くなります。

6.1.3 TELstaffサービスの停止方法

TELstaff サービスの停止方法には，次の 2 つがあります。

- 管理ツールのサービスから停止する方法
- コマンドラインから停止する方法

TELstaff サービス停止操作は，Administrators 権限ユーザで操作できます。

メール監視を使用し受信メールを取り出し中の場合では，TELstaff サービスの停止には時間がかかる場合があります。

SNMP トラップ監視と HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 とを併用使用する場合で，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 をアンインストールする場合は，TELstaff サービスを停止させてからアンインストールしてください。

(1) 手動で停止する方法

(a) 管理ツールのサービスから停止する方法

管理ツールの【サービス】で「TELstaff AE」を選択し，【停止(T)】ボタンを押すことで，TELstaff サービスを停止します。

(b) コマンドプロンプトから停止する方法

OS が提供するサービス停止用コマンドを使用すると，コマンドプロンプトからサービスを停止させることが可能です。また TELstaff が提供するサービス起動・停止コマンド telsscmd を使用することもできます。telsscmd コマンドの詳細については 11.20 節を参照してください。

(c) TELstaffウィンドウから停止する方法

AEPE または AESE で TELstaff ウィンドウの【ツール(T)】メニューの【サービスの操作(S)】から【停止(T)...】を選択すると，図 6.1-2 に示す TELstaff サービスの停止確認ダイアログボックスを表示します。

図 6.1-2 「TELstaffサービスの停止確認」ダイアログボックス

ここで，［はい(Y)］ボタンを押すと TELstaff サービスを停止します。

なお TELstaff ウィンドウ起動中に telsscmd コマンド等で TELstaff サービスを停止したすると【起動(S)】，または【再起動(S)】が不活性になり選択できないことがあります。その場合，TELstaff ウインドウの【表示(V)】メニューで【最新情報に更新(R)】を選択してください。

(d) スタートメニューから停止する方法

スタートメニューの【TELstaff サービスの操作】から【サービスの手動停止】を選択すると，図 6.1-2 に示す TELstaff サービスの停止確認ダイアログボックスを表示します。

(2) 他のアプリケーションから停止する方法

TELstaff が提供するサービス起動・停止コマンド telsscmd をアプリケーションから実行させて，TELstaff サービスを停止します。telsscmd コマンドの詳細については 11.20 節を参照してください。

6.1.4 ウィンドウ操作の開始と終了

ウィンドウ操作の開始と終了方法について，次に示します。TELstaff ウィンドウ操作は，Administrators 権限ユーザで操作できます。

(1) ウィンドウ操作の開始

プログラムスタートメニューまたはランチャーの【TELstaff ウィンドウの起動】を選択すると，TELstaff ウィンドウが開きます。

(2) ウィンドウ操作の終了

ウィンドウ操作を終了するときは，【ファイル(F)】メニューから【TELstaff の終了(T)】を選びます。

6.2電話の操作

6.2.1 通信モデムでの操作

(1) 発信電話を受けたときの接続操作

ダイヤルトーン信号音が，呼び出し待ち時間を経過してから，接続待ち時間中，受話器から繰り返して流れます。このダイヤルトーン信号音の電話を受けた場合は，TELstaff からの発信に対する処置をしてください。

ダイヤルトーン音は，任意の音に変更できます。詳細は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。回線不通などで電話通知ができないときでも，正常に発信したものとして扱います。回線不通などで電話通知ができない場合でも，正常に発信したものとして扱います。モデムによってはダイヤルトーンが出ないモデムがあります。

(2) TELstaffに電話をかけたときの接続操作

TELstaff に電話をかけたとき発信の有無が，ダイヤルトーン音で識別できます。モデムによってはダイヤルトーンが出ないモデムがあります。また teldial コマンドで電話番号を直接指定して発信するとダイヤルエラーとなりますので注意してください。

ダイヤル音を聞いた後で，電話を切ることによって，現在システムに発生しているすべての発信記録を取り消し（発信の確認扱い），以降の連絡網への発信は中止します。

ダイヤルトーン音は任意の音に変更ができます。詳細は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。

未確認の通知の有無によって，ダイヤルトーン音が次の様に異なります。

- 通知なし：「ピッピッピッピッピッピッ」のダイヤル音
- 通知あり：「ピッポッピッポッピッポッ」のダイヤル音

(3) 発信内容の確認操作

TELstaff に電話をかけたとき TELstaff は，連絡網への発信中であれば，連絡網への発信を取り止めます。発信の有無が，ダイヤルトーン音で識別できます。モデムによってはダイヤルトーンが出ないモデムがあります。

ダイヤル音を聞いた後で，電話を切ることにより，現在システムに発生しているすべての発信記録を取り消し，以降の連絡網への発信は中止します。間違い電話でも同様です。

6.2.2 トリガフォンでの操作

トリガフォンを使用するときの電話操作方法を示します。

(1) ダイヤル入力操作

TELstaff からの電話通知の中などで，ダイヤル入力を求めるガイダンスメッセージが流れることがあります。このような場合，ガイダンスに従って電話端末のボタンを操作する

ことでダイヤル入力を行ってください。

交換機を経由した電話端末で受信し，ボタン操作を実施した場合，TELstaff 側でボタン操作を認識できない可能性があります。この場合，受話操作は未実施と判断されます。

ダイヤル入力すべき番号の桁数が決まっている場合，それ以上の回数ダイヤルをしても，規定桁数でダイヤル入力は終了します。もし規定桁数をダイヤルしても次のガイダンスメッセージが流れない場合は，一部のダイヤル入力が検知できなかった可能性があります。このような場合，何かの番号をダイヤルし（規定桁数を満たすことで入力を完結させ），その後のガイダンスメッセージに進めてください。

ダイヤル入力は「入力待ち時間」内に行う必要があります。ダイヤル入力操作を行う前に入力待ち時間が経過すると，不正な番号を入力した場合と同様の入力エラーと扱われます。ダイヤル入力がエラーになった場合，「最大入力回数」まで入力を繰り返すことができます。最大入力回数を超えると，電話回線を切断し，連絡網の次の通知先に発信します。

なお短い間隔でダイヤル入力を行うと，番号を検出できないことがあります。また，ダイヤル入力操作を行うにはトーン信号を送出できる電話機で電話通知を受ける必要があります。

【関連説明】

- 4.1.1(2)(g)　環境設定―「入力待ち時間」の設定
- 4.1.1(2)(f)　環境設定―「最大入力回数」の設定

(2) TELstaffへの接続操作

(a) 発信電話を受けたときの操作

電話受信者の受信操作に対する発信方法を表 6.2-1，表 6.2-2，表 6.2-3，表 6.2-4 に示します。なお， ISDN の TA の機種によっては発信方法が通常と異なる場合があります。詳細は，「1.4.4 トリガフォンについて」に示す注意事項を参照してください。

パスワード入力操作が必要な発信の場合，パスワード入力操作が必要になります。

パスワード入力操作付き電話発信では，受話器を取るとまずパスワード入力のガイダンスメッセージが流れますのでガイダンスメッセージ終了後に 4 桁の数字で入力します。正しいパスワードが入力されると通知メッセージを再生します。

パスワード入力のガイダンスメッセージは，「環境設定」－「カスタマイズ」の“電話認証用オープニングメッセージ”でカスタマイズできます。また，環境設定－「発信方法」タブの「発信用オープニングメッセージ」テキストボックスでユーザ固有のパスワード入力のガイダンスメッセージを指定することができます。

パスワード入力操作のない電話発信では，パスワード入力のガイダンスメッセージはなく通知メッセージが再生されます。

パスワードが不正な場合，最大入力回数まで再入力ができます。最大入力回数を超えるときの発信方法を表 6.2-1，表 6.2-2 に示します。

パスワード入力操作付き電話発信で電話受信者が留守番電話の場合，パスワード入力のガイダンスメッセージが録音されてパスワード不正扱いとなります。

電話受信者が留守番電話の場合は，「ユーザプロパティ」の留守番電話の設定ダイアログボックスで受信電話番号を留守番電話として使用する電話に設定します。

パスワード入力操作付きで電話発信するときは，次の方法で行います。パスワード入力操作をしない電話発信は，発信と受信時の認証方法ダイアログボックス－「パスワード認

証は行わない」チェックボックスにチェックします。連絡網からの発信では，「ユーザプロパティ」の留守番電話の設定ダイアログボックスで受信電話番号を留守番電話として使用する電話に設定します。

留守番電話への電話発信機能を使用すると，携帯電話で通知を受ける場合，携帯電話を所有するのは本人であるため，いちいちパスワード認証が行われる煩わしさを解消できます。

●連絡網からの発信

1. 発信と受信時の認証方法ダイアログボックスー「パスワード認証は行わない」チェックを外します。
2. 「ユーザプロパティ」でパスワードを登録します。パスワード入力操作付きで電話発信は，電話受信者のユーザプロパティでパスワードを必ず登録しなければなりません。
3. 「ユーザプロパティ」の留守番電話の設定ダイアログボックスで留守番電話設定を外します。

●直接電話発信

1. 発信と受信時の認証方法ダイアログボックスー「パスワード認証は行わない」チェックを外します。
2. teldial コマンドの -p パラメタに電話受信者のパスワードを指定します。パスワード入力操作付き電話発信では，パスワードを必ず指定しなければなりません。

```
teldial -p 電話番号:パスワード -fv 電話通知文ファイル名
```

表 6.2-1　連絡網からのパスワード入力操作付き電話発信

電話受信者の受信操作	発信方法
パスワード不正 ※1	ユーザプロパティー「電話・SMS」タブの「電話繰り返し回数」で発信を繰り返します。
不在(受信者が電話を受けない）※2	
メッセージの通知中に切断	
受信者が受信確認しない	次の通知メディアに発信します。
受信者が受信を確認	連絡網の後続通知メディアへの発信を中止します（確認されても連絡網内のすべての通知メディアに発信することもできます）。

表 6.2-2　パスワード入力操作付き直接電話発信

電話受信者の受信操作	発信方法
パスワード不正 ※1	「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」で設定した「電話繰り返し回数」で発信を繰り返します。
不在(受信者が電話を受けない）※2	
メッセージの通知中に切断	
受信者が受信確認しない	発信を終了します。
受信者が受信を確認	

注※1　電話受信者が，留守番電話のときもパスワード不正扱いとなります。

注※2　一定時間以内に電話受信者が，電話を受けない場合は，不在として扱います。呼び出す時間は，トリガフォンの「システム設定」ー発呼処理ーリング回数になります。

表 6.2-3　連絡網からのパスワード入力操作が無い電話発信

電話受信者の受信操作	発信方法
不在(受信者が電話を受けない）※1	ユーザプロパティー「電話・SMS」タブの「電話繰り返

電話受信者の受信操作	発信方法
メッセージの通知中に切断	し回数」で発信を繰り返します。
留守番電話が受信	
受信者が受信確認しない	連絡網の後続通知メディアへの発信を中止します（確認されても連絡網内のすべての通知メディアに発信することもできます）。
受信者が受信を確認	

表 6.2-4　パスワード入力操作が無い直接電話発信

電話受信者の受信操作	発信方法
不在(受信者が電話を受けない）※1	「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」で設定した「電話繰り返し回数」で発信を繰り返します。
メッセージの通知中に切断	
留守番電話が受信	
受信者が受信確認しない	発信を終了します。
受信者が受信を確認	

注※1　一定時間以内に電話受信者が，電話を受けない場合は，不在として扱います。呼び出す時間は，トリガフォンの「システム設定」－発呼処理－リング回数になります。

(b)　TELstaffに電話をかけたときの操作

トリガフォンを使用して TELstaff に電話をかけると，2 回から 3 回の呼び出しで電話を接続します。ただし，「発信と受信時の認証方法ダイアログボックス」で発信者通知番号（ナンバーディスプレイ）を使用して認証を行う設定のとき，登録されていない電話番号からの着信は接続されません。

TELstaff に電話をかけたとき，話し中の場合，TELstaff が発信中（受信中）です。1 度電話を切って，時間をおいてから，かけ直してください。

TELstaff は，着信を受けると着信履歴統計情報に記録します。着信履歴統計情報で正当な着信か，不正な着信かを分析するときに利用できます。

TELstaff に接続する場合は，発信者通知番号（ナンバーディスプレイ），接続 ID，ユーザパスワードの 3 つの情報を使用して認証を行います。認証方法の詳細は，「4.1.3 発信と受信時の認証方法ダイアログボックス」を参照してください。

●接続IDでの認証操作

「発信と受信時の認証方法ダイアログボックス」で接続 ID での認証方法を設定したときは，TELstaff が電話の着信を受けると，ガイダンスメッセージを再生します。

ガイダンスメッセージの後で，設定した接続 ID を入力します。接続 ID が不正の場合は，入力エラーとなり，最大入力回数まで，再入力できます。最大入力回数を超えると，電話回線を切断します。

接続 ID の入力を求めるガイダンスメッセージは，セキュリティを確保するために，使われていない電話である旨の内容を，標準提供しています。あらかじめご了承ください。これは，偶然の間違い電話などで接続した場合に，不正に接続 ID の入力を試みることを未然に防止するためです。ガイダンスメッセージは，「環境設定」－「カスタマイズ」の“電話受信用オープニングメッセージ”でカスタマイズできます。また，環境設定－「発信方法」タブの「電話受信用オープニングメッセージ」テキストボックスでユーザ固有のガイダンスメッセージを指定することができます。

●ユーザパスワードでの認証操作

「発信と受信時の認証方法ダイアログボックス」でユーザパスワードでの認証方法を設

定したときは，TELstaff が電話の着信を受けると，パスワード入力のガイダンスメッセージを再生します。ガイダンスメッセージ終了後に 4 桁の数字で入力します。正しいパスワードが入力されると通知メッセージを再生します。

パスワードが不正な場合，最大入力回数まで再入力ができます。最大入力回数を超えると，電話回線を切断します。

発信者通知番号による認証とユーザパスワードによる認証の両方を使用する場合で，通知番号登録番号ユーザとユーザパスワード登録ユーザが異なる場合は，ユーザパスワード登録ユーザで認証します。ユーザパスワード登録ユーザが TELstaff の「システム管理者」の場合，「システム管理者」で認証します。

(3) 通知メッセージの確認操作

(a) 発信電話を受けたとき

電話受信者は通知メッセージを確認し，ガイダンスメッセージに従って表 6.2-5 に示す受信操作を行います。

表 6.2-5 通知メッセージの受信操作方法

受信操作	操作ボタン	TELstaff の動作
ﾒｯｾｰｼﾞを再度聞き直す	1	再度メッセージを通知します。
通知内容を確認する	2	連絡網の後続通知メディアへの発信を中止します。
確認を保留する	3	連絡網の後続通知メディアに発信します。※1
回線を切断する	#	

注※1 繰り返しの指定があり「3」または「#」が押下された場合，通知メッセージの内容が伝わったものとして，繰り返しの対象から外れます。
電話通知の繰り返し設定に関しては，以下を参照ください。
- 4.1.7 繰り返し回数の設定ダイアログボックス (a)「電話繰り返し回数」スピンボックス
- 5.1.10 ユーザの「プロパティ」ダイアログボックス (2) ユーザのプロパティー「電話・SMS」タブ (c)「繰り返し（電話）」スピンボックス
- 5.3.11 連絡網の設定ダイアログボックス (c)「繰り返し回数」スピンボックス

(b) TELstaffに電話をかけたとき

電話受信者は，通知メッセージを確認し，ガイダンスメッセージに従い表 6.2-6 に示す受信操作を行います。

一般ユーザで接続した場合は，一般ユーザに関係する確認されていないすべての通知メッセージを 1 メッセージずつ通知します。TELstaff の「システム管理者」ユーザで接続した場合は，確認されていないすべての通知メッセージを 1 メッセージずつ通知します。

表 6.2-6 通知メッセージの受信操作方法

受信操作	操作ボタン	TELstaff の動作
ﾒｯｾｰｼﾞを再度聞き直す	1	再度メッセージを通知します。
通知内容を確認する	2	発信記録を削除します。
確認を保留する	3	受信者が通知内容を確認しない扱いで発信記録を残します。
すべての確認を保留する	4	

(4) 対応記録操作

メニューガイダンスメッセージで「対応記録」ダイヤルボタンを入力し，対応記録番号

入力ガイダンスメッセージの指示に従って対応記録番号を入力します。

- 対応記録番号は，対応記録番号の最後に#ダイヤルボタンを付けて xxxxxxxx#の形式で入力します。入力された対応記録番号は，電話通知対応統計情報に記録されます。一度に入力できる字数は最大 128 字です。

  対応記録番号を関係者にメールなどで通知するときは，対応記録番号とコマンド番号を一緒に xxxxxxxx*1nnnn#の形式で入力します。

  対応記録番号を TELstaff の「システム管理者」のメールアドレス 1 宛てにメール通知する例を以下に示します。

1. 実行コマンドの設定ダイアログボックスー「電話・SMS」に次のコマンドをコマンド番号 2000 で登録します。

```
teldial -e ~Mail1:manager~ -fm letter.txt -u ~RecordInformation~ -h ~UserName~
```

2. 次の形式の letter.txt ファイルを作成します。

```
Subject: 対応記録番号の通知（受付番号：~notifynumber~）

~node~からの対応記録番号を連絡します。
記録日は ，~date1~で，記録時刻は，~time1~です。
対応記録は，~UserInformation~です。
```

3. 電話から対応記録番号として 123456 を次の形式で入力します。

```
123456*12000#
```

(5) コマンド実行操作

メニューガイダンスメッセージで「コマンド」ダイヤルボタンを入力し，コマンド入力ガイダンスメッセージの指示に従ってコマンド番号を入力します。

コマンド番号は，実行コマンドの設定ダイアログボックスー「電話」タブで設定した 4 桁のコマンド番号 nnnn を 1nnnn#の形式で入力します。一度に入力できる字数は最大 128 字です。

複数のコマンド番号を入力する場合は，＊ダイヤルボタンで区切って 1nnnn*1nnnn*……#の形式で入力します。

(6) 電話を終了するときの操作

電話を終わらせる場合は，ガイダンスメッセージで，終了操作の指示があった後に，＃ボタンを押して，受話器を置いてください。

TELstaff と通話中にキャッチ（他からの電話）が入った場合は，TELstaff との通話を終了させてから，キャッチ電話を受けるようにしてください。

6.3Alarm Viewの操作

6.3.1 Alarm Viewウィンドウ

Alarm View は，受信したデスクトップ通知のメッセージを一覧表示します。

(1) Alarm Viewの開始

Alarm View は次のような契機で自動的に開始します。

- Windows にユーザがログオンする
- （AEPE, AESE, AECL の場合）TELstaff サービスが起動していない状態で，スタートメニュー［TELstaff サービスの操作］－［サービスの手動起動］を選択して TELstaff サービスを起動する
- （AEPE, AESE の場合）TELstaff サービスが起動していない状態で，TELstaff ウィンドウの操作により TELstaff サービスを起動する

以下の操作により，手動で開始することも可能です。

- teldtcmd コマンドで起動を指示する
- （AEPE, AESE, AECL の場合）スタートメニュー［TELstaff サービスの操作］－［Alarm View の開始］を選択する
- （AEAV の場合）スタートメニュー［Alarm View の開始］を選択する

telsscmd コマンド，Windows が提供する net コマンド等によるサービス起動操作，および TELstaff ウィンドウのメニュー［ツール］－［サービスの操作］－［再起動］でのサービス再起動では，Alarm View は開始しません。

【関連項目】

- 11.21　teldtcmd コマンド
- 1.4.18　Windows 7 以降の Windows における注意事項

(2) Alarm Viewの終了

Alarm View は，次のような契機で自動的に停止します。

- Windows からユーザがログオフする
- （AEPE, AESE, AECL の場合）スタートメニュー［TELstaff サービスの操作］－［サービスの手動停止］を選択して TELstaff サービスを停止する
- （AEPE, AESE の場合）TELstaff ウィンドウのメニュー［ツール］－［サービスの操作］－［停止］を選択して TELstaff サービスを停止する

以下の操作により，手動で停止することも可能です。

- teldtcmd コマンドで停止を指示する
- TELstaff サービスを開始していない場合で，Alarm View のメニュー［終了］を選択する
- TELstaff サービスが起動していない状態で，Alarm View タスクトレイメニュー［終了］を選択する

なお，Alarm View を使用しないようにする場合，または使用を再開始する場合は，次のコマンドを使用するか，またはスタートメニューの［TELstaff サービスの操作］から［Alarm View を無効または再開する］を選択します。

```
<TELstaffインストールフォルダ>¥program¥teldtstp
```

【関連項目】

- 11.21　teldtcmd コマンド

(3) メニュー

Alarm View ウィンドウのメニューと機能を，表 6.3-1 に示します。

表 6.3-1　Alarm Viewウィンドウのメニューと機能

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	サブメニュー（ニモニック）	機能
操作(F)	参照モードに変更する(R) 受信モードに変更する(R)		モードを切り替えます。
	ﾒｯｾｰｼﾞの削除(D)	確認済みのものを削除する(N)	確認済みのメッセージをすべて削除します。
		選択されたﾒｯｾｰｼﾞを削除する(S)	選択されたメッセージを削除します。
		選択されたﾒｯｾｰｼﾞ以前の確認済みを削除する(C)	選択されたメッセージ以前の確認済みを削除します。
		受信メッセージを全て削除する(A)	すべての受信済みメッセージを削除します。
	ﾒｯｾｰｼﾞの確認(N)	選択されたﾒｯｾｰｼﾞを確認済みにする(S)	選択されたメッセージを確認済みにします。
		受信メッセージを全て確認済みにする(A)	受信済みの全てのメッセージを確認済みにします。
	受信通知を停止する(S)		ビープ鳴動などの受信通知を停止させます。
	全ての通知を取り消す(A)		通知待ちのすべての通知を取り消します。
	連絡網への発信を中止する(C)		発信中の連絡網の発信を中止します。
	Alarm View を閉じる(Z)		Alarm View ウィンドウを閉じます。
設定(S)	環境設定(E)		環境設定画面を開きます。
	ﾒｯｾｰｼﾞ表示(M)	未確認ﾒｯｾｰｼﾞだけを表示する(U)	メッセージ受信一覧ウィンドウに表示する方法を指定します。
		確認済みﾒｯｾｰｼﾞだけを表示する(C)	
		両方表示する(B)	

(4) Alarm Viewウィンドウ

Alarm View ウィンドウを図 6.3-1 に示します。

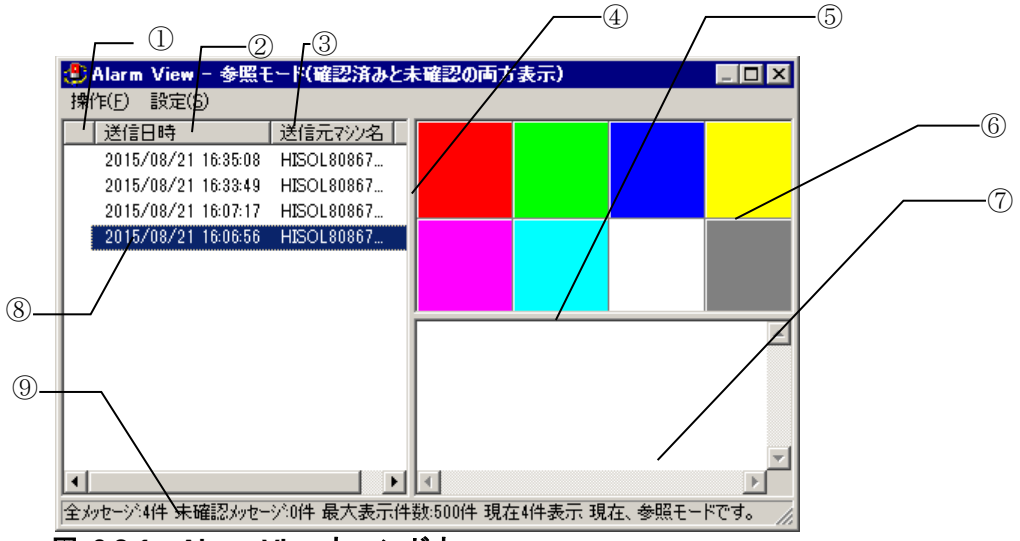


図 6.3-1 Alarm Viewウィンドウ

ﾌｨｰﾙﾄﾞ	フィールドの説明
①	未確認のメッセージにアイコンが表示されます。
②	送信日時でソートします。
③	送信元のマシン名でソートします。
④	パトランプウィンドウとメッセージ表示ウィンドウの幅を変更します。
⑤	パトランプウィンドウとメッセージ表示ウィンドウの幅を変更します。
⑥	**パトランプウィンドウ** AEPE, AESE で指定された色または画像の表示動作（点灯，消灯，点滅，点灯と消灯）に従って表示します。表示動作が点滅表示の場合，参照モードでは点灯表示になります。 表示する色または画像がない場合は，環境設定ー「ウィンドウ設定」タブで指定した背景色で表示します。 パトランプウィンドウをダブルクリックすることで，デスクトップ通知の受信通知（デスクトップパトランプ，ビープ音鳴動，WAV ファイル再生，テキスト音声読み上げ）を取り消すことができます。
⑦	**メッセージ表示ウィンドウ** 受信したメッセージ，または選択されたメッセージを AEPE, AESE で指定された文字色と背景色で表示します。 環境設定ー「ウィンドウ設定」タブで文字色と背景色を設定している場合は，ここで指定した文字色と背景色で表示します。 表示するメッセージがない場合は，Windows 標準の背景色を使用します。 メッセージ表示ウィンドウをダブルクリックすることで，受信したメッセージを環境設定ー「全般」タブ（図 4.1-2）で指定したテキストエディタで表示できます。なお，テキストエディタで表示した受信したメッセージは，変更できません。
⑧	**受信メッセージ一覧ウィンドウ** 受信したメッセージの送信日時と送信元マシン名の一覧を表示条件（未確認のメッセージだけを表示する，または確認済のメッセージだけを表示する，または両方のメッセージを表示する）で表示します。 参照モードの場合で新たにメッセージを受信したときは，受信したメッセージの一覧だ

ﾌｨｰﾙﾄﾞ	フィールドの説明
	けを表示します。ただし，受信したメッセージ一覧の表示条件が確認済のメッセージだけを表示する場合は，表示されません。 受信したメッセージの表示件数は，図 6.3-3「表示範囲設定」ダイアログボックスで設定した表示範囲で表示します。 またマウスの右クリック操作から，Alarm View ウィンドウのメニューと同じメニューを指定することができます。 受信メッセージ一覧ウィンドウの表示を最新にするには，［F5］キー，または Alarm View ウィンドウのメニュー［操作］－［最新の情報に更新］を選択します。
⑨	Alarm View の状態を表示します。

(5) 動作モード

Alarm View は「受信モード」と「参照モード」の 2 種類のモードがあります。「受信モード」は，メッセージを受信し常に最新情報を表示するモードで，「参照モード」は受信済のメッセージを参照するモードで確認操作やメッセージ削除操作などのメンテナンス操作をするモードです。

「受信モード」と「参照モード」が切り替わるタイミングを表 6.3-2 に示します。

表 6.3-2 「受信モード」と「参照モード」が切り替わるタイミング

モード名	切り替わるタイミング
受信 モード	・メニュー［操作］－［受信モードに変更する］を選択したとき ・Alarm View ウィンドウを自動表示したとき ・Alarm View ウィンドウを手動表示したとき ・受信メッセージが無いとき（，または無くなったとき） ・参照モードで n 分経過し，その間にメッセージを受信した場合（n 分は「表示範囲設定」ダイアログボックスで設定した時間）
参照 モード	・メニュー［操作］－［参照モードに変更する］を選択したとき ・メニュー［操作］－［ﾒｯｾｰｼﾞの削除］を選択して削除操作を行ったとき ・メニュー［操作］－［ﾒｯｾｰｼﾞの確認］を選択して確認操作を行ったとき ・メッセージを選択したとき

(6) 注意事項

- スタートメニュー［TELstaff サービスの操作］－［Alarm View を無効または再開する］で Alarm View を使用しないよう設定すると，(1)Windows ログオン時に Alarm View は自動起動しなくなり，さらに(2)デスクトップ通知を送信することもできなくなります。
- 「連絡網への発信を中止する」機能を使用する場合，プロトコルコマンド _$Command_Execution で telcan.exe を実行できるよう設定しておく必要があります。プロトコルコマンドについての詳細は 11.19(1)を参照してください。
- 「連絡網への発信を中止する」機能では Alarm View は，そのデスクトップ通知のメッセージ中に記載された IP アドレスに接続します。この IP アドレスはデスクトップ通知の送信元コンピュータが持つ IP アドレスのうち，最初にリストアップされるものです。したがって複数の IP アドレスを持つコンピュータからデスクトップ通知を行う場合，「連絡網への発信を中止する」機能は使用できないことがあります。
- 一般権限ユーザで起動することはできません。

6.3.2　ウィンドウ表示のカスタマイズと環境設定

Alarm View ウィンドウの［設定］メニュー，またはタスクトレイメニューの［環境設定］から「環境設定」ダイアログボックスを開き，Alarm View ウィンドウの表示方法の変更や環境を設定します。

(1) 環境設定ー「ウィンドウ設定」タブ

デスクトップパトランプウィンドウの表示方法に関する設定を行います。

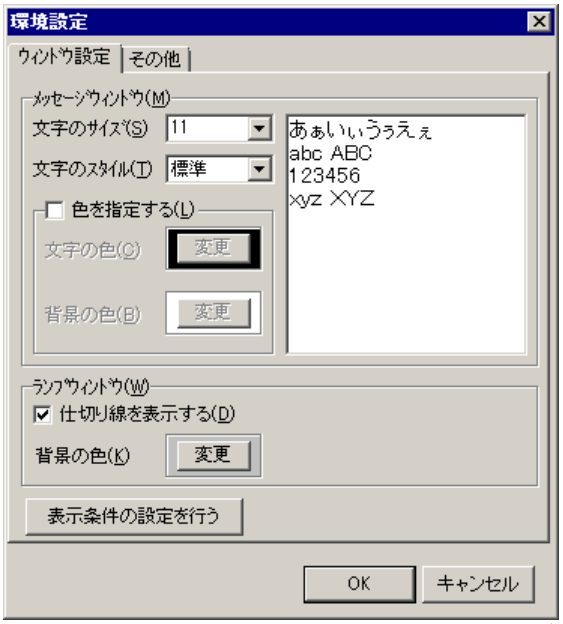


図 6.3-2　環境設定ー「ウィンドウ設定」タブ

(a)　「文字のサイズ」ドロップダウンリスト

デスクトップパトランプウィンドウに表示するメッセージの文字サイズを指定します。

(b)　「文字のスタイル」ドロップダウンリスト

デスクトップパトランプウィンドウに表示するメッセージの文字スタイルを指定します。

(c)　「色を指定する」チェックボックス

デスクトップパトランプウィンドウに表示するメッセージの文字色や背景色を変更する場合にチェックします。チェックしない場合，図 5.3-19 デスクトップのプロパティダイアログボックスー「デスクトップパトランプ」タブで設定した文字色と背景色で表示します。

(d)　「文字の色」変更ボタン

デスクトップパトランプウィンドウに表示するメッセージの文字色を指定します。

(e)　「背景の色」変更ボタン

デスクトップパトランプウィンドウに表示するメッセージの背景色を指定します。

(f)　「仕切り線を表示する」チェックボックス

デスクトップパトランプウィンドウの色・画像表示に仕切り線を表示する場合にチェックします。

(g)　「背景の色」変更ボタン

デスクトップパトランプウィンドウの色・画像表示領域の背景色を指定します。

(h)　「表示条件の設定を行う」ボタン

「表示範囲設定」ダイアログボックスを開き，表示条件を設定します。「表示範囲設定」ダイアログボックスを図 6.3-3 に示します。

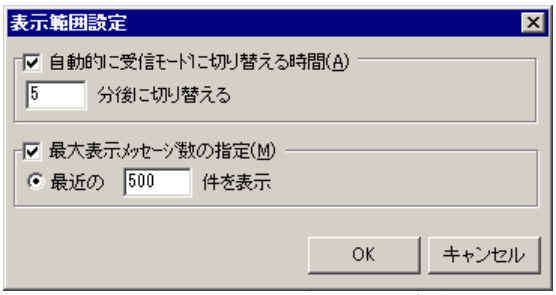


図 6.3-3　表示範囲設定ダイアログボックス

- **「自動的に受信モードに切り替える」チェックボックス**

参照モードで動作している場合に，一定時間後に自動的に受信モードに切り替える場合にチェックし，切り替え時間を指定します。

- **「最大表示メッセージ数の指定」チェックボックス**

デスクトップパトランプウィンドウに一覧表示するメッセージを件数で絞り込む場合にチェックし，件数を 1 から 2000 の範囲で指定します。

受信したメッセージをすべて表示する場合，一覧表示するためのメモリが必要になります。使用するメモリは，受信メッセージに依存しますので，表示件数の指定を推奨します。

(2)　環境設定－「その他」タブ

AEPE，AESE と通信するための TCP ポート番号の設定を行います。

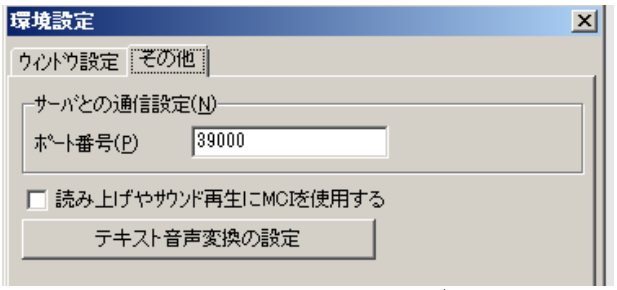


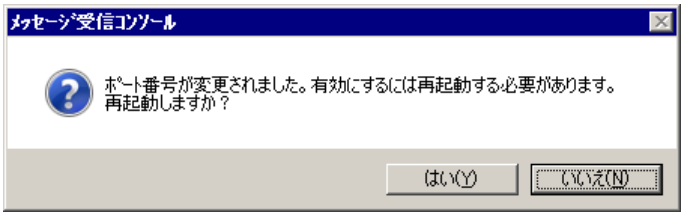
図 6.3-4　環境設定－「その他」タブ

(a)　「ポート番号」テキストボックス

AEPE，AESE と通信するための TCP ポート番号を指定します。

ここで指定する TCP ポート番号は AEPE，AESE で設定（図 5.3-15　デスクトップのプロパティダイアログボックス－「全般」タブのポート番号）した同じポート番号でなければなりません。Windows ファイアウォールを使用する場合は，このポートを TCP 通信で使用できるように設定してください。

ポート番号を変更した場合は，次のようなダイアログボックスが表示されますので，Alarm View を再起動してください。



変更したポート番号は，Alarm View の再起動後に有効となります。

(b)　「読み上げやサウンド再生にMCIを使用する」チェックボックス

テキスト読み上げ（再生）やサウンド再生（WAV ファイル再生）時に，MCI（Media Control Interface）を使用する場合，本チェックボックスにチェックを付与します。

使用環境によっては，マルチメディアファイルの扱いを MCI インターフェースのみサポートしている場合があります。そのような環境では，本チェックボックスにチェックを付与してください。

本設定は AEAV でのみ有効です。AEPE,AESE,AECL で MCI を使用したい場合は，TELstaff の環境設定「全般」タブの「読み上げやサウンド再生に MCI を使用する」チェックボックスで本設定を行ってください。

(c)　［テキスト音声変換の設定］ボタン

テキスト音声変換の設定画面を開きます。詳細については 4.3 を参照してください。

6.3.3 Alarm Viewの操作

(1) 受信方法の操作

(a)　Alarm Viewウィンドウの表示操作

●メッセージを受信したとき表示する方法

メッセージを受信したとき Alarm View ウィンドウを自動的に表示する場合には，タスクトレイアイコン を右クリックして表示されるタスクトレイメニューで，［ウィンドウの表示方法］－［受信したとき自動表示する］を選択します。タスクトレイメニューの画面例を図 6.3-5 に示します。

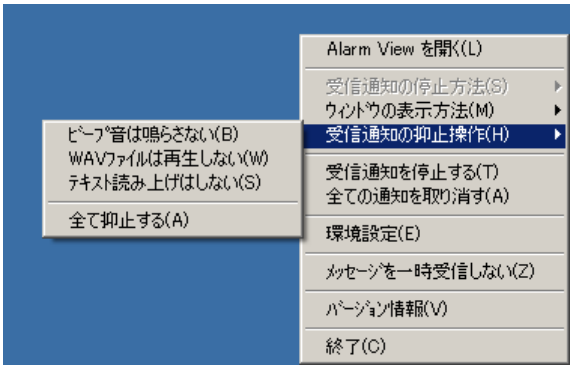


図 6.3-5　Alarm Viewのタスクトレイメニュー

Alarm View ウィンドウの自動的表示を設定している場合，TELstaff サービス開始時に未確認のメッセージがあると Alarm View ウィンドウを表示します。

ターミナルサービス接続やリモートデスクトップ接続のデスクトップから TELstaff サービスを起動するとこのリモートデスクトップで Alarm View を開始します。Alarm View を開始後にリモートデスクトップのログオフを行うと Alarm View は終了し，デスクトップ通知のメッセージ受信や操作はできなくなります。

●操作で表示する方法

タスクトレイメニューの［Alarm View を開く］を選択します。また，デスクトップパトランプ通知または通知メッセージのあるデスクトップ通知を受信した場合は，タスクトレイアイコンをダブルクリックすることでも表示できます。

デスクトップパトランプ通知，通知メッセージのいずれも無いデスクトップ通知を受信した場合，タスクトレイアイコンをダブルクリックすると受信通知を停止します。

(b) 受信通知の動作方法操作

デスクトップ通知の受信通知は，ビープ音鳴動，WAV ファイル再生，テキスト音声読み上げがあり，それぞれの受信通知を抑止・抑止解除することができます。受信通知の抑止および抑止解除は，タスクトレイメニューの［受信通知の抑止操作］で行います。

タスクトレイメニューの［受信通知の抑止操作］のサブメニューと機能を表 6.3 -3 に示します。

表 6.3-3 タスクトレイメニュー［受信通知の抑止操作］のサブメニューと機能

サブメニュー	機能
ビープ音は鳴らさない	選択した場合，デスクトップ通知受信時のビープ音を鳴らしません
WAV ファイルは再生しない	選択した場合，デスクトップ通知受信時の WAV ファイルを再生しません
テキスト読み上げはしない	選択した場合，デスクトップ通知受信時のテキスト音声読み上げはしません
全てを抑止する	選択した場合，すべての受信通知をしません

(c) メッセージを一時的に受信しないよう設定する

タスクトレイメニュー［メッセージを一時受信しない］を選択すると，一時的にメッセージを受信しないよう設定できます。この設定を行うと，タスクトレイメニューの［メッセージを一時受信しない］が［メッセージ受信を再開する］に切り替わります。再び受信するよう設定するには［メッセージ受信を再開する］を選択してください。

(d) 表示アイコンの種類

メッセージの受信状態でアイコンの種類が異なります。表示アイコンの種類を表 6.3-4 に示します。

表 6.3-4　表示アイコンの種類

アイコンの種類	説明
	1.　現在，デスクトップ通知がないとき 2.　すべてのデスクトップ通知が確認されているとき 3.　デスクトップ通知の受信を一時的に抑止しているとき
	1.　まだ確認されていないデスクトップ通知が 1 つ以上あるとき

(2)　表示操作

(a)　メッセージの表示操作

メッセージの表示は，図 6.3-1 に示す Alarm View ウィンドウで行います。

受信メッセージ一覧ウィンドウに表示されるメッセージの先頭に アイコンが表示されるものは未確認（未開封）のメッセージです。 アイコンが表示されないものは確認済のメッセージです。未確認のメッセージだけを表示する，または確認済のメッセージだけを表示する，または両方のメッセージを表示する場合は，Alarm View ウィンドウのメニュー［設定］－［メッセージ表示］から表示方法を選択します。受信モードでは，確認済のメッセージだけを表示することはできません。

受信メッセージ一覧は，「送信日時」または「送信元マシン名」により並べ替えができます。

受信メッセージ一覧ウィンドウでメッセージを選択すると，受信モードであった場合には参照モードに変更して，パトランプウィンドウに受信した色や画像を表示し，メッセージ表示ウィンドウにそのメッセージを表示します。この場合メッセージに対するビープ音，WAV ファイルは鳴動しません。

デスクトップパトランプ（パトランプウィンドウ）の表示動作が点滅表示の場合，参照モードでは点灯表示になります。

メッセージに対応したデスクトップ画面が存在する場合には，一覧の表示のメッセージをダブルクリックするとデスクトップ画面を表示します。

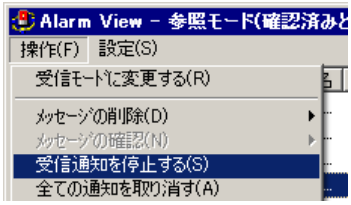
(3)　受信通知の取り消し操作

デスクトップ通知の受信通知（デスクトップパトランプ，ビープ音鳴動，WAV ファイル再生，テキスト音声読み上げ）を取り消す場合，次の方法があります。

テキスト音声読み上げ受信通知の取り消しは，テキスト音声読み上げ終了後に取り消します。繰り返し通知の場合は，1 回のテキスト音声読み上げ終了後に取り消します。

1.　図 6.3-1 に示す Alarm View ウィンドウの受信メッセージ一覧ウィンドウで受信した該当メッセージを確認（開封）する方法。
2.　参照モードに変更する方法。
3.　マウスのカーソルをパトランプウィンドウ上に移動させダブルクリックする方法。
4.　Alarm View ウィンドウのメニュー［操作］－［受信通知の停止］を選択する，また

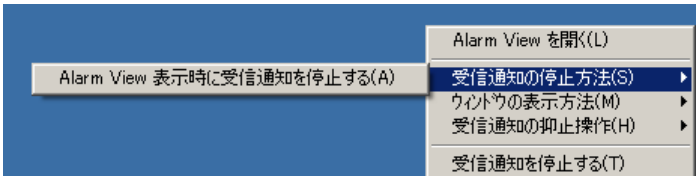
はタスクトレイメニュー［受信通知を停止する］を選択する方法。



5. Alarm View ウィンドウのメニュー［操作］－［全ての通知を取り消す］を選択，またはタスクトレイメニュー［全ての通知を取り消す］を選択する方法。

6. メッセージを受信したとき Alarm View ウィンドウを自動的に表示しない場合で，Alarm View ウィンドウを表示する方法。

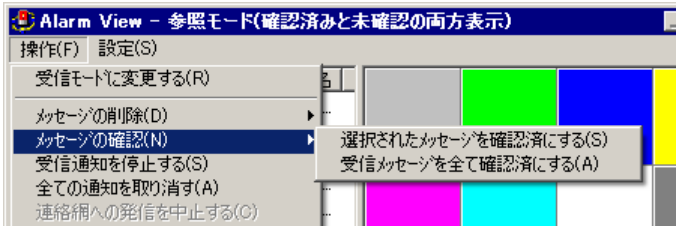
Alarm View ウィンドウの表示操作で受信通知を停止するには，タスクトレイメニュー［受信通知の停止方法］－［Alarm View 表示時に受信通知を停止する］選択します。



7. デスクトップパトランプ通知，通知メッセージやデスクトップ画面通知のいずれもないデスクトップ通知では，タスクトレイアイコンをダブルクリックする方法。

(4) メッセージの確認操作

メッセージの確認は，受信メッセージ一覧ウィンドウに表示されるメッセージを選択することで行えます。また，Alarm View ウィンドウのメニュー［操作］－［メッセージの確認］から，またはマウスの右メニュー操作からも行えます。メッセージの選択操作には，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択します。



表示条件を［未確認メッセージだけを表示する］にしている場合は，メッセージを選択してダブルクリックすることで行えます。メッセージを確認すると，そのメッセージは受信メッセージ一覧ウィンドウから表示上は削除されます。

「表示範囲設定」ダイアログボックスで表示範囲を設定している場合で残りの未確認メッセージを受信メッセージ一覧ウィンドウに表示する場合は，［F5］キー，または Alarm View ウィンドウのメニュー［操作］－［最新の情報に更新］を選択します。

すべてのメッセージの確認操作では，いったん Alarm View ウィンドウを閉じ，確認状態に変更したあと表示されます。確認状態への変更中に受信したメッセージは，変更が終

わるまで保留されます。また，変更中は，Alarm View の操作はできません。

(5) メッセージの削除操作

メッセージの削除は，Alarm View ウィンドウのメニュー［操作］－［メッセージの削除］から，またはマウスの右クリックメニュー操作から行います。また，削除するメッセージを選択し［Delete］キー操作でも削除できます。メッセージの選択操作には，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，［Ctrl］＋［A］キーで全選択することもできます。

すべてのメッセージの削除操作では，いったん Alarm View ウィンドウを閉じ，削除が終わったあと表示されます。削除中に受信したメッセージは，削除が終わるまで保留されます。また，削除中は Alarm View の操作はできません。受信したメッセージのデスクトップパトランプ画像ファイル，メッセージファイルは，メッセージを削除するまで保存します。

受信メッセージを確認した場合は，確認済みのメッセージを早い時期に削除してください。

表 6.3-5 メッセージの削除メニュー一覧

サブメニュー（ニモニック）	機　能
確認済みのものを削除する(N)	確認済みのすべてのメッセージを削除します
選択されたメッセージを削除する(S)	選択されたメッセージを削除します
選択されたメッセージ以前の確認済みを削除する(C)	選択されたメッセージ以前のすべての確認済みのメッセージを削除します
受信メッセージを全て削除する(A)	すべてのメッセージを削除します

(6) 通知の取り消し操作

(a) 未通知の発信取り消し操作

未発信の teldial コマンドを除いて，現在未通知のすべてを取り消す場合は，【操作(F)】－【全ての通知を取り消す(A)】を選択します。

6.3.4 イメージビューウィンドウの操作

受信メッセージにデスクトップ画面が送付されている場合に，イメージビューウィンドウでそのデスクトップ画面を表示します。

(1) イメージビューウィンドウのメニュー

イメージビューウィンドウのメニューと機能を，表 6.3-6 に示します。

表 6.3-6　イメージビューウィンドウのメニューと機能

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	サブメニュー（ニモニック）	機能
ファイル(F)	指定アプリケーションで開く(H)		画像の拡張子に登録されているアプリケーションで開きます
	終了		イメージビューウィンドウを閉じます
表示(V)	元の画像を表示(*)		画像の元の大きさで表示します(*1)
	拡大(+)		画像を 10%拡大します(*1)
	縮小(-)		画像を 10%縮小します(*1)
	拡大と縮小(C)	25%	25%に縮小して表示します
		50%	50%に縮小して表示します
		75%	75%に縮小して表示します
		125%	125%に拡大して表示します
		150%	150%に拡大して表示します
		175%	175%に拡大して表示します
		200%	200%に拡大して表示します
	最大化で表示(M)		ウィンドウを最大化して表示します
	全画面で表示(F)		ウィンドウを全画面で表示します
オプション(O)	設定(E)		ウィンドウの背景色の設定をします
	ｳｨﾝﾄﾞｳｻｲｽﾞを画像ｻｲｽﾞに合わせる		ウィンドウサイズを画像の大きさに合わせて表示します。
	終了時のｳｨﾝﾄﾞｳｻｲｽﾞを保存する		イメージビュー終了時に現在のウィンドウサイズを保存します。

注*1　テンキーでの操作で有効です。

(2) イメージビューウィンドウの操作

イメージビューウィンドウを図 6.3-6 に示します。

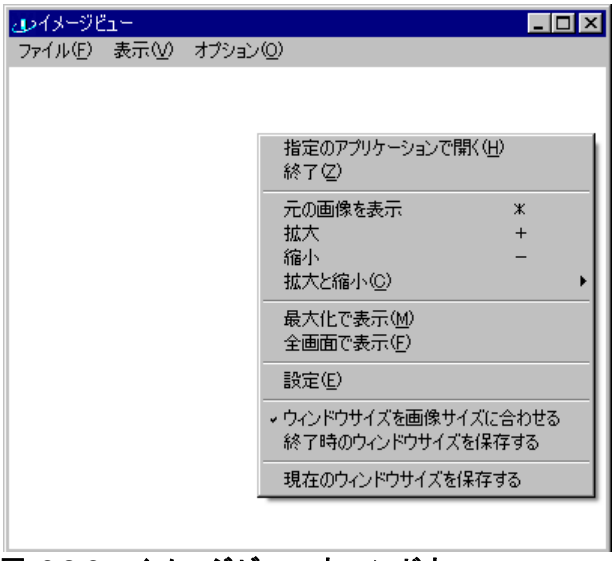


図 6.3-6　イメージビューウィンドウ

イメージビューウィンドウ操作を表 6.3-7 に示します。

表 6.3-7　イメージビューウィンドウ操作

操作内容	操作方法
全画面表示の解除操作	ダブルクリック，または［Esc］キーを押す
拡大操作	テンキーの［+］キーを押す（10%拡大）
縮小操作	テンキーの［-］キーを押す（10%縮小）
元のサイズに戻す	ダブルクリック，またはテンキーの［*］キーを押す

6.4問題調査用資料の採取

TELstaff には，製品で発生した問題を調査するための「問題調査用資料」を自動的に採取する機能を備えています。何らかの問題が発生してアフターセールスサポート窓口へお問い合わせいただく際には，あらかじめ問題調査用資料を採取していただくことを推奨いたします。なお問題発生時点から問題調査用資料の採取までに時間が空いてしまいますと，問題発生時点の製品動作記録などが消失してしまい問題調査ができないことがあります。そのため障害発生時には，できる限り早く問題調査用資料を採取していただけますようお願いいたします。

問題調査用資料は，以下の手順で採取できます。

【採取手順】

1. 問題調査用資料の採取ツールを起動します

   スタートメニュー［TELstaff のツール］－［問題調査用資料の採取］－［資料をディスクに保存する］を選択します。

   Windows 8, Windows 10, Windows 11, Windows Server 2012, Windows Server 2016, Windows Server 2019 および Windows Server 2022 をご利用の場合，ランチャーで［TELstaff のツール］－［問題調査用資料の採取］を選択します。

2. 項目選択後，［圧縮ファイル名の指定］ウィンドウが表示されるまで待ちます
3. ［圧縮ファイル名の指定］ウィンドウで，任意のフォルダおよびファイル名を指定して，問題調査用資料ファイルを保存します

7.ネットワーク監視

この章では，ネットワーク監視について説明します。

7.1　ネットワーク監視について

7.2　ネットワーク監視の設定方法

7.3　ネットワーク監視ダイアログボックス

7.1ネットワーク監視について

7.1.1 ノードの自動監視機能について

TELstaffは，HP Network Node Manager softwareや日立JP1/Cm2と連携して，HP Network Node Manager softwareや日立JP1/Cm2が管理するすべてのノード情報からネットワーク内のノードの自動監視ができます。

TELstaffのネットワーク監視機能には，アクション監視，ポーリング監視，PING監視の3つの監視方法があります。アクション監視を使用するときは，HP Network Node Manager softwareや日立JP1/Cm2の各イベントに対するアクションにteldialコマンドを登録しておきます。

HP Network Node Manager softwareや日立JP1/Cm2のノード情報を使用する場合は，ovstartコマンドでネットワーク管理機能を開始しておきます。詳細は，各ネットワーク管理機能のマニュアルを参照してください。

HP Network Node Manager softwareや日立JP1/Cm2を使用しなくてもTELstaffは，小規模なネットワーク環境向けにhostsファイルに記述した機器の自動監視（PING監視機能）ができます。PING監視では，ping応答が無い（危険域）場合に通知する機能と，ping応答が返ってくる（正常域）ようになった場合に通知できます。ただし，ネットワーク構成や使用するネットワーク機器によっては，PING監視できないことがありますのでご注意ください。

監視対象とするノード（ホスト）をHP Network Node Manager softwareや日立JP1/Cm2のノード情報から設定する場合，ノード情報の抽出を行い，TELstaffのネットワーク監視ダイアログボックスで各監視機器，または監視域ごとに設定しておきます。監視対象ノードの危険域，警告域などの状態が通知されると，TELstaffは，連絡網，電話，SMS通知，メール，パソコン，パトランプやコマンドで通知します。メール通知文やエージェント通知文に~ovtopodump~変数を指定しておくと，そのときのノード状態の一覧を通知文に挿入して通知します。

ネットワーク障害となった機器が復旧したとき，未通報の発信を取り消すことができます。ポーリング監視では，正常域の監視に発信キャンセルコマンド（telcanコマンド）を，アクション監視では，ノードアップイベントに発信キャンセルコマンド（telcanコマンド）を指定しておきます。

ネットワーク監視方法が，アクション監視，ポーリング監視，PING監視のいずれであっても，ネットワーク監視のteldialコマンドを実行すると，コマンドが受け付けられます。このため，ポーリング監視でノードの危険域を監視しているときに，HP Network Node Manager softwareや日立JP1/Cm2でノードダウンのイベントアクションにteldialコマンドの実行が定義されていると，監視対象のノードが危険域になったとき，ポーリング監視の通報と，アクション監視の通報の２つの通報が行われます。

HP Network Node Manager software，または日立JP1/Cm2のご使用バージョンが異なる場合は，HP Network Node Manager softwareのノード情報を取り込めませんので，ノード情報は，hostsファイルに定義してご使用ください。ノードの監視方法とその特徴を表 7.1-1に示します。

ネットワーク監視は，AEPE および AESE で使用できます。

表 7.1-1 ノードの監視方法と特徴

監視方法	特徴	前提製品
アクション方式	ネットワーク監視機能の，すべてのイベントに対して通知できます。	なし
	ノード障害については，ノードごとに通知先を設定できます。	
	監視するイベントごとに，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 に対してアクション定義が必要です。	
	HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 のない環境でも，監視機器を hosts ファイルに定義しておくことで，アクション監視ができます。	
ポーリング方式	監視域（ノードのステータス）ごとのノード障害を自動検出し，自動通知できます。	HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2*
	HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 に対するアクション定義が不要になります。	
PING 方式	HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 などのネットワーク監視ツールがなくても，簡易ネットワーク監視ができます。	なし
	監視できる機器は，PING が使える機器に限ります。	
	監視機器からの PING 応答が返ってこない場合の通知と， PING 応答なし→ PING 応答ありになった場合の通知ができます。	
	ネットワーク構成や使用するネットワーク機器によっては，PING 監視できないことがあります。	

注* HP Network Node Manager software，日立 JP1/Cm2 のバージョンは，次のとおりです。

- HP Network Node Manager software：5.01 から 7.51
- 日立 JP1/Cm2：05-00 から 7i

7.1.2 アクション方式による監視

アクション監視方式による監視をする場合の，TELstaff との連携方法を示します。

1. HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 が管理するノードデータベースから，すべてのノード情報を抽出します。この時，ネットワーク管理機能を開始した後にノード情報の抽出を行ってください。HP Network Node Manager software および，日立 JP1/Cm2 の環境が無いシステムでは，hosts ファイルに定義されているノード情報を抽出して監視することができます。
2. TELstaff の監視するホストの編集ダイアログボックスで，監視するノードを選択し，ノードに対する通知先を設定して監視ノードデータベースに格納します。
3. 監視ノード，機器に対する，アクション定義をします。アクション定義には，ノード

環境変数を使用した TELstaff の teldial コマンドを指定します。

4. 監視対象ノードからのアクションであれば，TELstaff のネットワーク監視ダイアログボックスの設定内容に従って，発信先に通知します。
5. ノード障害以外のイベントについては，個々のイベントごとに，アクション定義をします。アクション定義には，TELstaff の teldial コマンドを指定します。

アクション監視方式による監視をする場合，次に示す注意事項があります。

- teldial コマンドで指定されたノード名が複数の監視グループに定義されている場合，ノード名が定義されているすべての監視グループの通知先に通知します。
- 1 つの監視グループ内に同じノード名が定義されている場合は，1 回だけの通知となります。
- ネットワーク監視（アクション方式）からの発信には，発信制限機能を適用可能です。

また，ネットワーク障害となった機器が，復旧したとき，未通報の発信を取り消すことができます。アクション監視では，ノードアップイベントに発信キャンセルコマンド（telcan コマンド）を指定します。

7.1.3 ポーリング方式による監視

ポーリング監視方式による監視をする場合の，TELstaff との連携方法を示します。

1. HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 が管理するノードデータベースから，すべてのノード情報を抽出します。この時，ネットワーク管理機能を開始した後にノード情報の抽出を行って下さい。
2. TELstaff の監視するホストの編集ダイアログボックスで，監視するノードを選択し，ノードに対する通知先を設定して，監視ノードデータベースに格納します。
3. TELstaff は，HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 が管理するノードデータベース(ovwdb)を一定間隔で監視し，監視対象ノードのステータスが監視域への変更を検出すると，TELstaff のネットワーク監視ダイアログボックスの設定内容に従って，発信先に通知します。

ポーリング監視方式による監視をする場合，次に示す注意事項があります。

- ネットワーク監視（ポーリング方式）からの発信には，発信制限機能が適用**されません**。
- 表 7.1-2 に示すように，ホスト名が同一で IP アドレスが複数ある場合，同じ監視域で監視すると，1 回のイベントで複数の発信が行われます。これは，ノードの情報を監視しているためです。
- ポーリング監視では，同じホスト名が複数ある場合は，1 つだけを監視対象にします。
- 監視対象ノードが TELstaff サービス開始時点で既に指定した監視域になっている場合，通知は行いません。いったん，異なる監視域になり，再度指定した監視域にステータス変更した時点で通知します。

- ポーリング監視ではノードデータベース(ovwdb)のノード自体のステータスを監視しています。よってそのノード上で起動しているアプリケーションのステータスの変化を検出することはできません。またノードデータベースの情報はマップで表示される情報とは異なりますので，マップ表示の変化と通報契機は必ずしも一致しません。

また，ネットワーク障害となった機器が，復旧したとき，未通報の発信を取り消すことができます。ポーリング監視では，正常域の監視で発信キャンセルコマンド（telcan コマンド）を指定します。

表 7.1-2　ホスト名とIPアドレス

ホスト名	IP アドレス
100.100.100.1	100.100.100.1
100.100.100.1	100.100.100.18

7.1.4 PING方式による監視

TELstaff は，いわゆる「PING」機能を使用した機器・コンピュータの自動監視を行う機能を備えています（以下，PING 監視機能と呼びます）。この機能を使用することで，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 が導入されていない環境においてTELstaff 単体での監視を実現可能です。

PING 監視機能は小規模なネットワーク環境向けに設計されており，Windows の hosts ファイルにアドレスが記述されている機器等を監視対象として登録できます。また IP アドレスやホスト名を直接指定して登録することも可能です。PING 監視では，監視対象からの PING 応答の有無が「あり」から「なし」に変化した際に「危険域」と判定し，「なし」から「あり」に変化した際に「正常域」と判定します。他の方式を使用する場合と同様，監視対象が危険域または正常域になったことを契機に，通知を実行することが可能です。

(1) PING監視方式による監視をする場合の，処理や作業の流れを次に示します。

1. Windows の hosts ファイルから，すべてのホスト名（IP アドレス）情報を抽出します。
2. TELstaff の監視するホストの編集ダイアログボックスで，監視するホスト名（IP アドレス）を選択し，ホスト名（IP アドレス）に対する通知先を設定して，監視ホスト名（IP アドレス）データベースに格納します。
3. TELstaff サービス開始時に監視対象のホスト名（IP アドレス）に対して PING を発行して現在の状態を取得します。
4. TELstaff サービス開始以降，監視対象のホスト名（IP アドレス）に対して一定間隔で PING を発行し，状態が変わったとき，ネットワーク監視ダイアログボックスの設定内容に従って，発信先に通知します。

(2) PING監視方式による監視をする場合，次に示す注意事項があります。

- ネットワーク監視（PING 方式）からの発信には，発信制限機能が適用**されません**。

- Ping 監視では，全監視ホストに対して Ping 監視を行った後に通報を行います。
- 複数の監視グループに同じホスト名が定義されている場合，ホスト名が定義されているすべての監視グループの通知先に通知します。
- 1 つの監視グループ内に同じホスト名が定義されている場合も，定義されているホスト名分に対して通知を行います。
- Ping 監視機能は，Ping 応答メッセージの有無で接続中および未接続を認識します。PING によるネットワーク監視では，ネットワーク構成や使用するネットワーク機器によっては， PING 監視できないことがあります。
- 監視対象ノードが TELstaff サービス開始時点で既に指定した監視域になっている場合，通知は行いません。TELstaff サービス開始時に現在のすべてのホストの状態を取得したあと状態が変化したときに通知します。

7.1.5 ネットワーク監視の監視制限

ネットワーク監視の監視スケジュールを設定できます。ネットワーク監視の監視スケジュールの設定は，ネットワーク監視のプロパティダイアログボックスでネットワーク監視全体の監視スケジュールを設定できる他に，ネットワーク監視ダイアログボックスでネットワーク監視項目ごとに個別に監視スケジュールを設定できます。

ネットワーク監視の監視スケジュールは，計画的に監視制限を行う機能です。この他に監視スケジュールを分毎にきめ細かいスケジュールで監視するときや運用中に一時的に特定ノードだけを監視に対象外にしたりすることができます。

一時的に特定ノードだけを監視に対象外にするときは，telnethd コマンドや「発信と監視の操作」を使用して行います。

分毎にきめ細かいスケジュールで監視するときは，Windows のタスクスケジューラ機能，またはスケジューリング運用ツールを利用してスケジュールに従って telnethd コマンドを実行させます。

telnethd コマンドで，監視対象ホストごとにネットワーク監視を一時的に停止させたり，停止中のネットワーク監視を再開させることができ，計画的に監視スケジュールを決められない場合や予定外の機器のメンテナンスのために電源を切るときなど，TELstaff サービスを停止させなくても一時的にネットワーク監視対象から外したり，計画的に監視スケジュールを設定できないときの運用が行えます。

(1) ネットワーク監視全体のスケジュールの設定

1. TELstaff のネットワーク監視のプロパティダイアログボックスを開きます。
2. カレンダーの設定で「個別に指定」を選択し，［設定］ボタンをクリックすると，カレンダーダイアログボックスが表示されます。ここで休日を設定します。初めて設定するときは，システムカレンダーと同じ休日が設定されています。
3. スケジュールの設定で「個別に指定」を選択し，［設定］ボタンをクリックすると，監視スケジュールダイアログボックスが表示されます。ここでネットワーク監視全体について，平日の監視スケジュールと休日の監視スケジュールを設定します。初めて設定するときは，すべての時間帯が「監視する」状態です。

(2) ネットワーク監視項目ごとのスケジュールの設定

1. TELstaff のネットワーク監視ダイアログボックスを開きます。「全般」タブの中にカレンダーの設定とスケジュールの設定があります。
2. カレンダーの設定で「個別に指定」を選択し，［設定］ボタンをクリックすると，カレンダーダイアログボックスが表示されます。ここで休日を設定します。初めて設定するときは，ネットワーク監視全体のカレンダーと同じ休日が設定されています。
3. スケジュールの設定で「個別に指定」を選択し，［設定］ボタンをクリックすると，監視スケジュールダイアログボックスが表示されます。ここでネットワーク監視全体について，平日の監視スケジュールと休日の監視スケジュールを設定します。初めて設定するときは，ネットワーク監視全体のスケジュールと同じ監視スケジュールが設定されています。

7.1.6 関連ノードの通知抑止

親ノードと親ノードに関連するノード関係を設定しておくと親ノードに関連する機器（ノード）が危険域のとき親ノードが危険域であれば通知を抑止し，親ノードが正常域であれば通知を行います。

一般にルータやスイッチなどの機器が障害になるとルータやスイッチに接続されている全ての機器も障害となり発信されます。親ノードを設定しておくことで親ノードの障害についてだけ発信し，親ノードに接続されている機器に対する発信を抑止できます。

TELstaff では，機器の危険域を検出したときに，この機器の親ノードの状態を確認します。機器の状態が危険域に変化したときに親ノードの状態が同時に危険域にならない場合があります。

アクション監視，またはポーリング監視を使用して親ノード指定によるネットワーク監視を行う場合，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 が必要となります。

アクション監視では，OV_Node_Down または OV_IF_Down イベントで使用できます。ポーリング監視では，正常域から危険域に状態が変化したときに動作します。

7.1.7 ネットワーク監視グループのフィルタ

アクション監視では，teldial コマンド(-ih オプションまたは-ip オプション指定)で複数のネットワーク監視グループを使い分けることができます。

ネットワーク監視グループのフィルタ機能を使用すると，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 のイベントカテゴリに対応させて通知することができます。

例えば，「エラー・アラーム」カテゴリに「危険域」で記録される機器に対して通知する運用が可能です。

7.2ネットワーク監視の設定方法

7.2.1 ネットワーク監視のプロパティダイアログボックス

Administrators 権限ユーザでネットワーク監視の監視方式を設定します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

ネットワーク監視のプロパティダイアログを，図 7.2-1 に示します。

図 7.2-1 ネットワーク監視のプロパティダイアログボックス

(1) 「監視方法」フィールド

ネットワーク監視の監視方法を選択します。

ポーリング監視，またはアクション監視から新たに PING 監視に変更する場合，PING 監視用にネットワーク監視定義が必要になります。

また，PING 監視から新たにポーリング監視，またはアクション監視に変更する場合，ポーリング監視，またはアクション監視用にネットワーク監視定義が必要になります。

(2) 「監視間隔」スピンボックス

ポーリング監視，または PING 監視をするときの監視間隔時間を，1～32767 秒で指定します。この監視間隔時間は，全監視ホストに対して Ping 監視，またはポーリング監視が終了した後，次回の監視を行うまでの時間です。なお，監視周期は，監視するホスト数とレスポンスを考慮した上で，十分大きな値を設定することを推奨します。

監視周期に到達した時点で，前回の監視状態（または TELstaff を起動したときの監視状態）から変化が無い場合，発信はしません。

監視間隔を短くすると検出時間を短くでき，また監視精度が上がりますが，CPU を使用することになりますので，運用面と性能を考慮した適正値を設定してください。

(3) 「タイムアウト」スピンボックス

PING 監視にて，監視対象からの PING 応答を最大で何秒待つかを 1～60 秒の範囲で指定します。PING 監視機能は各監視対象ごとに PING の要求を送信した後，ここで指定し

た時間だけ応答を待ちます。これを応答が得られるまで最大 3 回繰り返し，最終的に応答を受信できなかった場合にその監視対象が「危険域」であると判定します。

(4) 「OVW.DLLの場所」テキストボックス

ポーリング監視を使用する場合，またはアクション監視を使用してネットワーク監視統計情報を出力する場合，OVW.DLL ファイルがあるフォルダのパス名を，完全名で直接入力します。フォルダ一覧から選択するときは，［...］ボタンをクリックします。ネットワークドライブのフォルダ名は，指定できません。

(5) 「カレンダー」フィールド

ネットワーク監視全体で使用するカレンダーを指定します。

- 「指定しない」をチェックした場合，TELstaff のシステムカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてネットワーク監視独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成は，システムカレンダーを引き継ぎます。

(6) 「スケジュール」フィールド

ネットワーク監視全体で使用するスケジュールを指定します。ネットワーク監視のスケジュールは，監視するかどうかをスケジュールします。

ネットワーク監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。

- 「指定しない」をチェックした場合，ネットワーク監視のスケジュールはしないで，常に監視します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(E)］ボタンをクリックしてネットワーク監視独自のスケジュールを設定します。

ネットワーク監視の監視時間帯を設定します。設定をするスケジュールダイアログボックスを図 7.2-2 に示します。

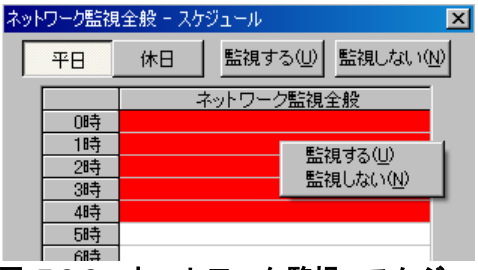


図 7.2-2　ネットワーク監視ースケジュールダイアログボックス

7.2.2 ネットワーク監視方法の設定

ネットワーク監視方法は，ネットワーク監視のプロパティダイアログボックスで設定します。ネットワーク監視のプロパティダイアログボックスは，TELstaff ウィンドウでネットワーク監視を選択し，【ファイル(F)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択して表示します。また，マウスの右ボタンをクリックして【プロパティ(P)...】を選択することでも表示できます。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

TELstaff ウィンドウーネットワーク監視の設定を，図 7.2-3 に示します。

図 7.2-3 TELstaff ウィンドウーネットワーク監視の設定

7.2.3 ネットワーク監視項目の追加

新規ネットワーク監視項目の追加は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウで，【ファイル(F)】メニューの【新規作成(N)】から【ネットワーク監視(H)...】を選択して，ネットワーク監視ダイアログボックスを表示します。また，ネットワーク監視一覧でネットワーク監視項目を選択してマウスの右ボタンをクリックし，【新規作成(N)...】を選択することでも表示できます。
2. ネットワーク監視ダイアログボックスで，必要な情報を設定します。

7.2.4 ネットワーク監視項目の複写

ネットワーク監視項目の複写は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウのネットワーク監視一覧で，複写元のネットワーク監視項目を選択します。
2. 【編集(E)】メニューから【コピー(C)...】を選択し，ネットワーク監視のコピーダイアログボックスを表示します。また，マウスの右ボタンをクリックし，【コピー(C)...】を選択することでも表示できます。
3. ネットワーク監視のコピーダイアログボックスで，複写先のネットワーク監視項目の

名称を設定します。ネットワーク監視項目の名称に，次の文字を使用できません。

" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ;

(1) ネットワーク監視のコピーダイアログボックス

ネットワーク監視のコピーダイアログボックスを図 7.2-4 に示します。

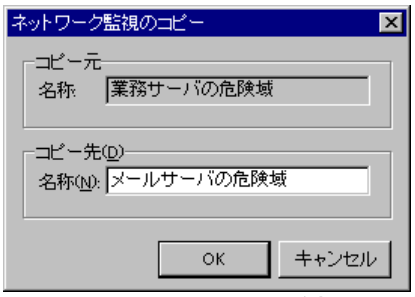


図 7.2-4 ネットワーク監視のコピーダイアログボックス

7.2.5 ネットワーク監視項目の削除

ネットワーク監視の削除は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウのネットワーク監視一覧で，削除するネットワーク監視項目を選択します。
2. 【編集(E)】メニューから【削除(D)】を選択し，削除の確認ダイアログボックスを表示します。また，マウスの右ボタンをクリックし，【削除(D)】を選択することでも表示できます。
3. ［はい(Y)］ボタンを押します。

(1) 削除の確認ダイアログボックス

削除の確認ダイアログボックスを図 7.2-5 に示します。

図 7.2-5 削除の確認ダイアログボックス

7.2.6 ネットワーク監視項目の変更

ネットワーク監視の変更は，次の手順で行います。

1. TELstaff ウィンドウのネットワーク監視一覧で，変更するネットワーク監視項目を選択します。
2. 【ファイル(F)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択し，ネットワーク監視ダイア

ログボックスを表示します。

また，マウスの右ボタンをクリックして【プロパティ(P)...】を選択したり，マウスをダブルクリックしたりすることでも表示できます。

3. ネットワーク監視ダイアログボックスで，現在設定されているネットワーク監視項目を変更できます。

監視するノードを変更する場合は，監視するホストの編集ダイアログボックスを表示して，ノードを追加，変更，削除してください。

7.2.7 ネットワーク監視の設定

ネットワーク監視では，ネットワーク監視項目に関する基本事項を設定します。

ネットワーク監視は，ネットワーク監視ダイアログボックスで設定します。ネットワーク監視ダイアログボックスは，TELstaff ウィンドウのネットワーク監視一覧でネットワーク監視項目を選択し，【ファイル(F)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択して表示します。また，マウスの右ボタンをクリックして【プロパティ(P)...】を選択したり，マウスをダブルクリックしたりすることでも表示できます。

ネットワーク監視ダイアログボックスのそれぞれのタブで各種設定項目を設定します。タブの一覧を表 7.2-1 に示します。

表 7.2-1　ネットワーク監視ダイアログボックスタブの一覧

タブ名	説明
「全般」タブ	ネットワーク監視項目名などの基本的な設定をします。
「電話・SMS」タブ	ネットワーク監視で，発信通知する電話および，SMS の設定をします。
「メール・エージェント」タブ	ネットワーク監視で，発信通知するメール，および AECL（または AEPE，AESE）の設定をします。
「連絡網」タブ	ネットワーク監視で，連絡網に発信通知する場合の，連絡網の設定をします。
「パトランプ」タブ	ネットワーク監視で，パトランプを動作させる場合の，パトランプの設定をします。
「その他」タブ	ネットワーク監視で，発信通知する FAX，パトランプ，およびコマンド実行の設定をします。

7.2.8 ネットワーク監視の通知方法

アクション監視方法でネットワーク監視をするには，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 に，イベント発生時のアクションコマンドとしてダイヤルコマンド（teldial コマンド）を定義します。イベントが発生すると当該アクションコマンド（ダイヤルコマンド）が実行されて，関係者に通知できます。ノード障害イベントでは，監視対象ノードの障害であれば，ノードに対応する通知先に通知します。

ポーリング監視および PING 監視でネットワーク監視を行うときは，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 へのアクションコマンドの定義は必要ありません。

ダイヤルコマンド（teldial コマンド）の指定方法については 11.1 節を参照してください。

7.3ネットワーク監視ダイアログボックス

7.3.1 ネットワーク監視－「全般」タブ

ネットワーク監視全般の設定をします。ネットワーク監視－「全般」タブを，図 7.3-1 に示します。

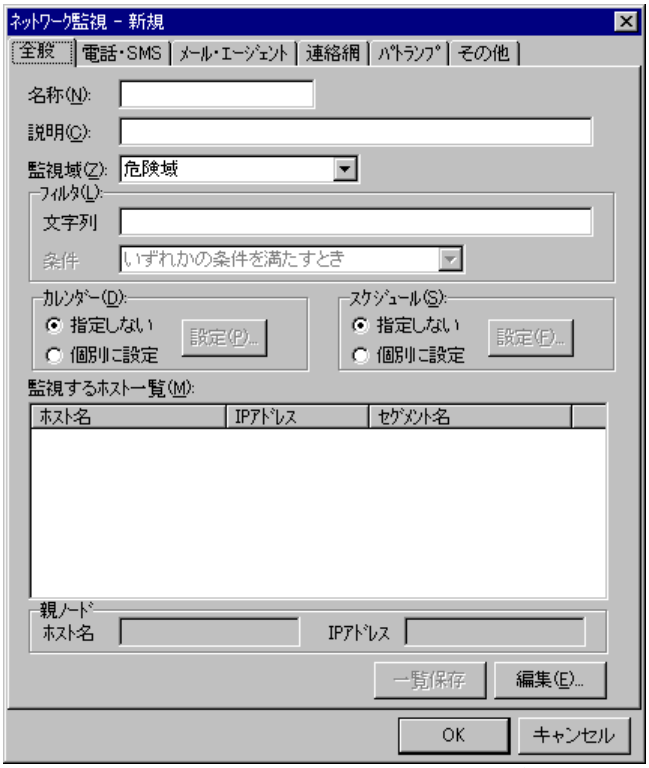


図 7.3-1 ネットワーク監視－「全般」タブ

(1) 「名称」メッセージボックス

ネットワーク監視グループの名称を，20 桁以内で設定します。既に登録されているネットワーク監視項目名は変更できません。ネットワーク監視グループ名を変更する場合は，いったん削除してから再度登録してください。

ネットワーク機器を監視する場合，監視する 1 つ，または複数のネットワーク機器をグループ分けしてネットワーク監視グループを作成します。ネットワーク監視グループで，機器ごとに通知先を変更できます。また，ポーリング監視では，同じ機器でも監視域ごとに通知先を変更できます。

ネットワーク監視グループの名称に，次の文字は使用できません。

″ ¥ / ＊ ? [ ] = < > ! ’ $ % & , ;

(2) 「説明」テキストボックス

TELstaff ウィンドウのネットワーク監視一覧に表示する，ネットワーク監視グループに対する説明文を設定します。

(3) 「監視域」ドロップダウンリスト

ポーリング監視または ping 監視をするとき，ネットワーク監視の監視種別を，ドロップダウンリストから選択してください。

監視種別の「その他」は，本バージョンでは使用できません。ping 監視の場合，「正常域」「危険域」の監視になります。

(4) 「フィルタ」フィールド

アクション監視では，teldial コマンド(-ih オプションまたは-ip オプション指定)で複数のネットワーク監視グループを使い分けることができます。

ネットワーク監視グループのフィルタ機能を使用すると，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 のイベントカテゴリに対応させて通知することができます。

例えば，「エラー・アラーム」カテゴリに「危険域」で記録される機器に対して通知する運用が可能です。

(5) 「文字列」テキストボックス

このネットワーク監視グループを使用する条件を半角 256 文字以内で指定します。条件を複数指定するときは，半角のカンマ（「，」）で区切って指定します。

文字列に，全角および半角スペース文字は指定できません。

(例)

エラー・アラーム

危険域

エラー・アラーム,危険域

(6) 「条件」ドロップダウンリスト

条件を複数指定したとき，AND 条件（「複数条件を全て満たすとき」），または OR 条件（「いずれかが含まれていたら通報する」）を「条件」ドロップダウンリストから選択します。

(7) 「カレンダー」フィールド

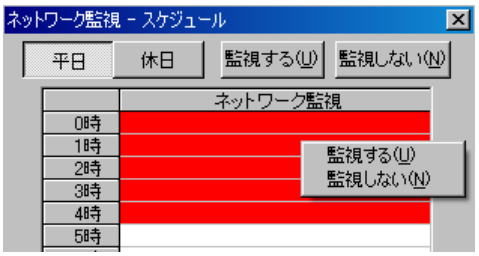
定義されたネットワーク監視項目ごとに，カレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日，休日のネットワーク監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，ネットワーク監視全体のカレンダーを使用します。ネットワーク監視全体のカレンダーは，ネットワーク監視のプロパティダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(P)］ボタンをクリックしてネットワーク監視項目ごとに独自のカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，ネットワーク監視全体のカレンダーを引き継ぎます。

(8) 「スケジュール」フィールド

定義されたネットワーク監視項目ごとに，スケジュールを設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日，休日のネットワーク監視の有無など詳細な監視スケジューリングができます。ネットワーク監視の抑止時間帯では，通知が抑止されますが，統計情報の出力と監視は継続されます。

- 「指定しない」をチェックした場合，ネットワーク監視全体のスケジュールを使用します。ネットワーク監視全体のスケジュールは，ネットワーク監視のプロパティダイアログボックスで設定します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(F)］ボタンをクリックしてネットワーク監視項目ごとに独自のスケジュールを設定します。



(9) 「監視するホスト一覧」リストボックス

ネットワーク監視の対象となるホストの一覧を表示します。［ホスト名］ボタン，［セグメント名］ボタン，［IP アドレス］ボタンで表示順を変えられます。セグメント名がない機器は，セグメント名を空白で表示します。監視するホスト一覧へのホスト名の追加，変更，削除は，［編集(E)］ボタンをクリックしてください。

(10) 「親ノード」フィールド

現在設定されている親ノード情報を，「ホスト名」テキストボックスと「IP アドレス」テキストボックスに表示します。

(11) ［一覧保存］ボタン

「監視するホスト一覧」リストボックスに表示されているネットワーク監視の対象となるホストの一覧を次のファイル名で保存します。

「名称」メッセージボックスで指定した名称.txt

(12) ［編集］ボタン

監視するホストの編集ダイアログボックスを開きます。

7.3.2 ネットワーク監視－「電話・SMS」タブ

ネットワーク監視で通知する電話，および SMS 通知の設定をします。ネットワーク監視－「電話・SMS」タブを，図 7.3-2 に示します。

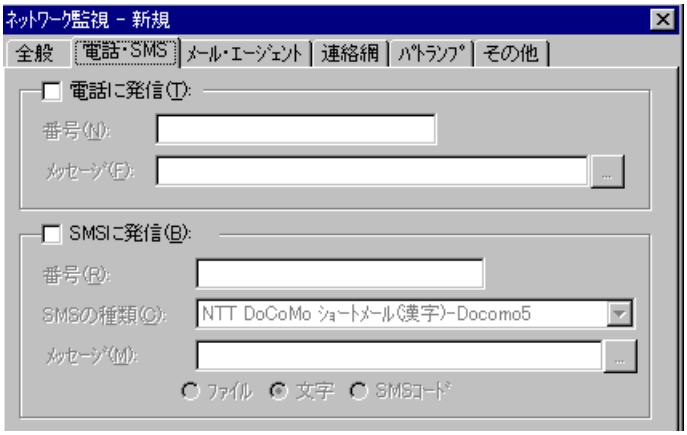


図 7.3-2　ネットワーク監視ー「電話・SMS」タブ

(1)　「電話に発信」チェックボックス

監視対象ホストが設定された状態になったときに，電話に通知をする場合，ここをチェックします。

(2)　「番号（電話に発信）」テキストボックス

発信通知する電話番号を，半角数字で指定します。電話番号には半角文字の「ー」（ハイフン）が指定できます。

パスワード認証を行う時は，半角 4 桁数字のパスワードを電話番号の後に「：」（半角コロン）で区切って指定し，発信と受信時の認証方法ダイアログボックスの「パスワード認証は行わない」チェックボックスのチェックを外します。

(3)　「メッセージ（電話に発信）」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が tp のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

ファイル名は直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

電話通知メッセージファイルを省略すると，標準提供の電話通知文ファイルが使用されます。標準提供の電話通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

(4)　「SMSに発信」チェックボックス

監視対象ホストが設定された状態になったときに SMS 通知を行う場合，ここをチェックします。

(5)　「番号（SMSに発信）」テキストボックス

通知する SMS 通知番号を，半角数字で設定します。番号には，半角文字の「ー」（ハイフン）が使用できます。

送信先番号の後に「#」が必要な SMS 通知は番号の後に「#」を入れてください。

パスワードの後にメッセージを送信する SMS 通知の場合，番号の後ろに「:パスワード」の形式でパスワードを指定してください。

(6) 「SMSの種類」ドロップダウンリスト

SMS 通知で使用する SMS の種類を指定します。

(7) 「メッセージ」テキストボックス

SMS 通知で使用するメッセージを設定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字で直接入力します。文字の場合，520 バイトまで指定可能です。

  メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できますただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

- 「コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。コードは，各社の説明書を参照してください。

SMS 通知の注意事項については 2.3.1(3)(e)を参照してください。

7.3.3 ネットワーク監視－「メール・エージェント」タブ

ネットワーク監視で通知するメール，および AECL（または AEPE，AESE）の設定をします。ネットワーク監視－「メール・エージェント」タブを，図 7.3-3 に示します。

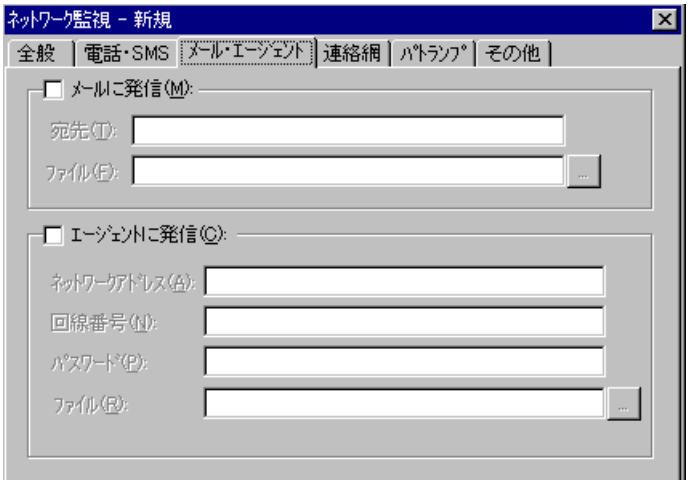


図 7.3-3 ネットワーク監視－「メール・エージェント」タブ

(1) 「メールに発信」チェックボックス

監視対象ホストが設定された状態になったときに，メールに通知をする場合，ここをチェックします。

(2) 「宛先」テキストボックス

発信通知するメールのメールアドレスを指定します。メールはメールが使用できます。通知先メールアドレスは，半角「，」カンマで区切って，複数指定できます。複数指定する場合は，宛先の合計の文字数が半角 256 文字以内（カンマを含みます）で指定して下さい。

(3) 「ファイル名（メールに発信）」テキストボックス

メールに発信通知する場合の，通知文を格納したファイル名を指定します。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，標準提供のメール通知文ファイルが使用されます。標準提供のメール通知文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。標準通知文の内容とカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

(4) 「エージェントに発信」チェックボックス

監視対象ホストが設定された状態になったときに，AECL（または AEPE, AESE）に発信通知をする場合，ここをクリックします。

(5) 「ネットワークアドレス」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）が動作する PC がネットワーク接続のとき，IP アドレス（またはホスト名）と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。ポート番号は，IP アドレス（またはホスト名）の後に「:ポート番号」で指定します。

（例） 100.100.100.10+100.100.100.20
100.100100.20:35000

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次のサービス名を登録しておきます。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL では，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合も，ポート番号を省略できます。

(6) 「回線番号」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）が動作する PC が電話回線接続のとき，半角数字で回線番号を設定します。回線番号には，半角文字の「－」（ハイフン）が使用できます。

ネットワークアドレスと回線番号の両方を設定すると，最初に回線番号に通知し，次にネットワークアドレスの順番で両方に通知します。両方に通知できない場合は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のエージェント繰り返し回数に設定された回数の再通

知行い，どちらかの AECL（または AEPE, AESE）が受信できたとき，通知を終了します。

(7) 「パスワード」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）に受信パスワードの設定があるとき，同じパスワードを指定します。

(8) 「ファイル名（エージェントに発信）」テキストボックス

AECL（または AEPE，AESE）に送信するファイルを設定します。

省略すると，標準提供のエージェント通知文を使用します。標準提供のエージェント通知文は，カスタマイズできます。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，

ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

7.3.4 ネットワーク監視－「連絡網」タブ

ネットワーク監視で通知する連絡網の設定をします。ネットワーク監視－「連絡網」タブを，図 7.3-4 に示します。

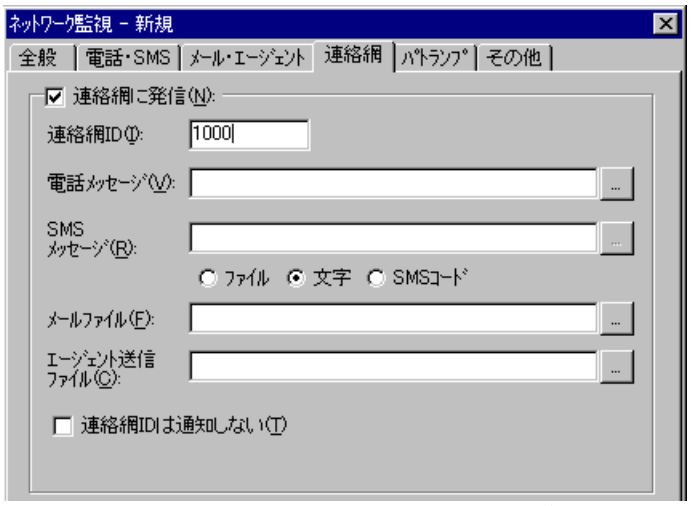


図 7.3-4 ネットワーク監視－「連絡網」タブ

(1) 「連絡網に発信」チェックボックス

監視対象ホストが設定された状態になったときに，連絡網に発信をする場合，ここをチェックします。

(2) 「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

(3) 「電話メッセージ」テキストボックス

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，電話通知メッセージを格納したファイル

拡張子が tp のファイル名を指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

電話通知メッセージファイルを省略すると，連絡網プロパティー「発信内容」タブの電話メッセージファイルを使用します。

(4) 「SMSメッセージ」テキストボックス

SMS 通知で使用するメッセージを指定します。設定する内容は，ラジオボタンで選択したメッセージ種別によって異なります。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字文字を直接入力します。文字の場合，520 バイトまで指定可能です。使用できる文字は，各社の説明書をお読みください。

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。コードは，各社の説明書をお読みください。

SMS 通知の注意事項については 2.3.1(3)(e)を参照してください。

(5) 「メールファイル」テキストボックス

メールに発信通知する場合の，通知文を格納したファイル名を指定します。

メール通知文ファイルを省略すると，連絡網プロパティー「発信内容」タブのメールファイルを使用します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，

ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

(6) 「エージェント送信ファイル」テキストボックス

AECL（または AEPE, AESE）に送信するファイルを設定します。

エージェント送信ファイルを省略すると，連絡網プロパティー「発信内容」タブのエージェント送信ファイルを使用します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，

ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

(7) 「連絡網IDは通知しない」チェックボックス

発信先に通知する情報に連絡網 ID を含めるか，含めないかを指定します。この指定は発信先が SMS 通知の場合に有効となります。

- チェックがある場合，メッセージだけを通知します。
- チェックがない場合，連絡網 ID とメッセージを通知します。

7.3.5 ネットワーク監視ー「パトランプ」タブ

ネットワーク監視で通知するパトランプの設定をします。パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。
ネットワーク監視ー「パトランプ」タブを，図 7.3-5 に示します。

図 7.3-5 ネットワーク監視ー「パトランプ」タブ

(1) 「パトランプに通知」チェックボックス

監視対象ホストが設定された状態になったときに，パトランプに通知する場合，ここをチェックします。

(2) 「動作」ラジオボタン

パトランプの動作を指定します。

- **「点灯」ボタンをチェックした場合**

リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させます。

- **「消灯」ボタンをチェックした場合**

リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。

- **「点灯と消灯」ボタンをチェックした場合**

リレー番号チェックボタンでチェックされたリレー番号に，接続されているパトランプを点灯させ，チェックされていないリレー番号に，接続されているパトランプを消灯させます。全てのリレー番号のパトランプを動作させるときは，「点灯と消灯」ボタンのチェックを推奨します。リレー番号個別の動作に比べて動作時間を短縮できます。

(3) 「自動的に消灯する」チェックボックス

パトランプの動作で「点灯」が指定されている場合に有効となり，パトランプ点灯後，自動的に消灯させる場合に，ここをチェックします。

自動消灯オプションを使用するとパトランプが消灯するまで，他からの同じ RS232C 接続，コンバータ接続のパトランプおよびネットワーク対応型パトランプへの動作指示は待ち状態になります。

自動消灯オプションを使用して短時間に大量のパトランプの動作を行うと未発信の滞留や発信の遅延が起きます。

複数のリレー接点を指定したときの「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で点灯後，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で消灯します。動作順序は，変えられません。

(4) 「自動的に消灯する」スピンボックス

パトランプの自動消灯をする場合に，パトランプ点灯後，消灯するまでの時間を 1～300 秒の間で指定します。

(5) 「リレー番号」チェックボックス

動作させたいパトランプが接続されているリレーの番号ボタンをチェックします。リレー番号の指定で「全て」がチェックされた場合，このボタンは指定できません。

複数のリレー接点を指定したときの「点灯」，「消灯」動作は，1 接点ずつ小さい接点番号から大きい接点番号の順で動作します。動作順序は，変えられません。

(6) 「全て」チェックボックス

すべてのリレーに接続されているパトランプの「点灯」，または「消灯」をする場合，ここをチェックします。

パトランプの動作ボタンで「点灯と消灯」が指定された場合，全て点灯の動作になります。

(7) 「リレー種別」ボタン

使用するリレー装置の種別を設定します。設定しないときは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するリレー装置の標準設定(D) 】で設定した標準のリレー装置が使用されます 。

(8) 「ポート名」ドロップダウンリスト

パトランプが接続されている RS232C のポート番号を，ドロップダウンリストから選択してください。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると直前で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

(9) チャンネル番号

リレー装置が接続されている RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を設定します。RS232C セレクタ装置を使用しない場合，チャンネル番号は設定できません。

RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に使用したチャンネル番号の機器が動作します。

(10)「リモートで使用」チェックボックス

別の場所に接続されているパトランプを動作させたい場合に，このボタンをチェックします。

AECL（または AEPE, AESE）のある PC にパトランプが接続されているとき，PC がネットワーク接続の場合は「ネットワーク」ラジオボタンを，電話回線でつながっている場合は「電話回線」ラジオボタンを選択します。

パトランプが接続されている場所が，コンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合は，「コンバータ」ラジオボタンを選択します。

AEPE, AESE, AECL のある PC にパトランプを接続した場合，コンバータ接続，またはネットワーク対応型パトランプに比べ動作に時間がかかり，動作するまでの遅延が発生する場合があります。

(11)「場所」テキストボックス

パトランプが接続されている場所を指定します。設定する内容は，下のラジオボタンで選択された場所によって異なります。

(a) パトランプの接続場所が，AECL（またはAEPE，AESE）のあるPCの場合

ネットワークに接続されているときは，「ネットワーク」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。場所の複数指定では，最初から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE, AESE, AECL では，メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。

(b)　パトランプが接続されている場所が，電話回線の場合

パトランプが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，電話回線に接続されているときは，「電話回線」ラジオボタンを選択し，回線番号を指定します。

(c)　パトランプの接続場所がコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの場合

ネットワーク対応型パトランプ，またはコンバータに接続されているときは，「コンバータ」をチェックし，IP アドレス，またはホスト名と通信ポートのポート番号を指定します。

ポート番号は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「:ポート番号」で指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telswnet ポート番号/tcp
```

使用するコンバータは，TELstaff ウィンドウ-【オプション】メニューの【使用するコンバータ装置の標準設定(H) 】-【パトランプ発信の場合(L) 】で設定したコンバータ装置を使用します。

複数の TELstaff から同じコンバータ接続のパトランプ，ネットワーク対応型パトランプを同時に使用できるかは，機器により異なります。機器の仕様をご確認ください。

(例)

100.100.100.1:35000

(12) 「パスワード」テキストボックス

パトランプが接続されている場所が AECL（または AEPE，AESE）のある PC の場合で，ネットワークに接続または電話回線に接続されているとき，AECL（または AEPE，AESE）に受信パスワードの設定があるときは，AECL（または AEPE，AESE）の受信パスワードを指定します。

7.3.6 ネットワーク監視－「その他」タブ

ネットワーク監視で通知する FAX と，実行するコマンドの設定をします。ネットワーク監視－「その他」タブを，図 7.3-6 に示します。

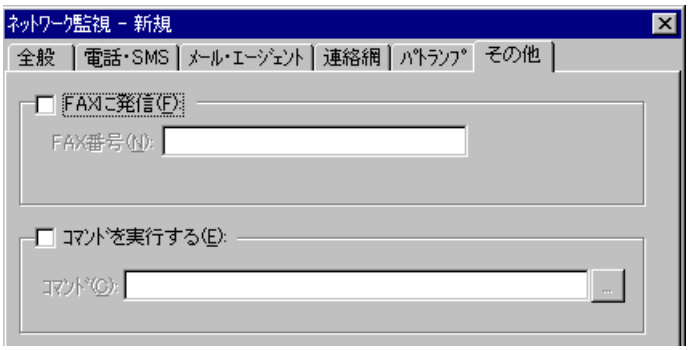


図 7.3-6　ネットワーク監視－「その他」タブ

(1) 「FAXに発信」チェックボックス

監視対象ホストが設定された状態になったときに，FAX に通知をする場合，ここをチェックします。FAX 送信文は，標準提供の FAX 送信文ファイルが使用されます。標準提供の FAX 送信文ファイルは，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

(2) 「FAX番号」テキストボックス

発信通知を FAX で受けるときの FAX 番号を，半角数字で指定します。FAX 番号には半角文字の「ー」（ハイフン）が指定できます。

(3) 「コマンドを実行する」チェックボックス

監視対象ホストが設定された状態になったときに，コマンドを実行する場合，ここをチェックします。

(4) 「コマンド」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択してください。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

ここで ~node~ ，~node1~，~node2~変数，または ~UserInformation~ 変数を指定すると，~node~ ，~node1~変数がホスト名に，~node1~，~node2~変数がホスト名の別名に，~UserInformation~ 変数がユーザ付加情報に置き換えられて，コマンドが実行されます。

TELstaff は，コマンドを実行するときコマンド実行用のプロセスを生成してコマンドの実行終了を待たずに実行させます。

実行時間の長いコマンドを多く定義した場合，一時点で多くのプロセスが生成されるため Windows のシステムリソースをその分消費します。短時間に監視対象
ノード(ホスト)が設定した監視域に変化すると，変化したノード(ホスト)数分のコマンドを実行します。大量のコマンド実行では，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。

7.3.7 監視するホストの編集ダイアログボックス

ネットワーク監視の対象とするホストの設定をします。監視するホストの編集ダイアログボックスを，図 7.3-7 に示します。

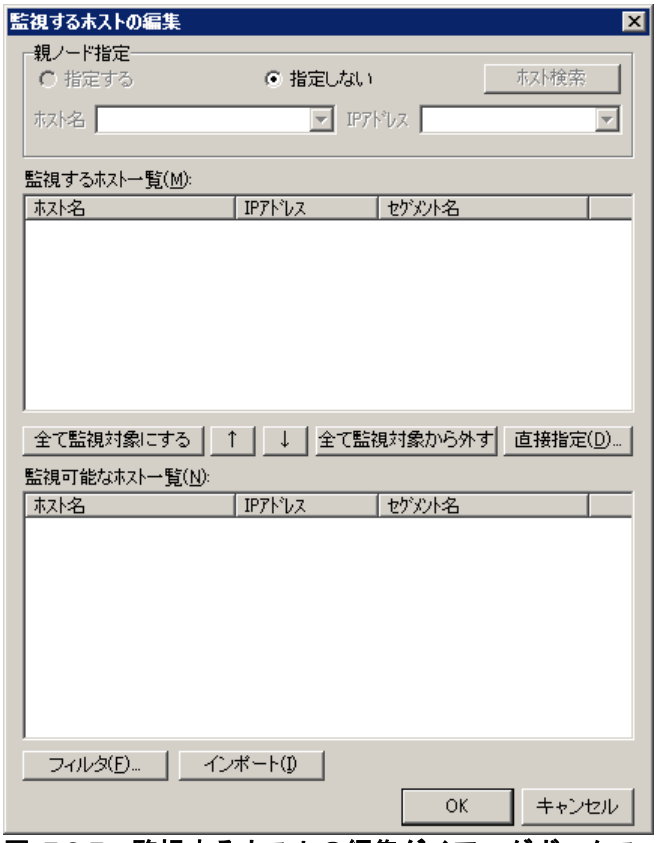


図 7.3-7　監視するホストの編集ダイアログボックス

(1) 「親ノード指定」フィールド

親ノード情報を設定するときは，「設定する」ラジオボタンを選択します。親ノード情報の設定を取り消すときは，「設定しない」ラジオボタンを選択します。

親ノード情報の設定は，「ホスト名」ドロップダウンリスト，「IP アドレス」ドロップダウンリストに指定します。［ホスト検索］ボタンで監視するホストの検索の指定ダイアログボックスを開き，検索したホスト一覧から選択して設定することもできます。

親ノード情報は，「監視可能なホスト一覧」リストボックス，または「監視するホスト一覧」リストボックスに表示されているホスト名でなければなりません。親ノード情報設定時には存在していて，その後 HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 のノード情報からなくなると親ノード情報の無い扱いとなります。

アクション監視，またはポーリング監視を使用して親ノード指定によるネットワーク監視を行う場合，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 が必要となります。

アクション監視では，OV_Node_Down または OV_IF_Down イベントで使用できます。ポーリング監視では，正常域から危険域に状態が変化したときに動作します。

親ノードを設定すると「監視するホスト一覧」リストボックスに表示されている機器が危険域のとき親ノードが危険域であれば通知を抑止し，親ノードが正常域であれば通知を行います。一般にルータやスイッチなどの機器が障害になるとルータやスイッチに接続されている全ての機器も障害となり発信されます。親ノードを設定しておくことで親ノードの障害についてだけ発信し，親ノードに接続されている機器に対する発信を抑止できます。

なお親ノードの状態確認は，HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 のノード情報を参照し，その情報を元に行います。そのため HP Network Node Manager software や日立 JP1/Cm2 のポーリングタイミングによっては親ノードの情報が最新でな

い場合があります。その場合には，親ノードに障害が発生していても通知は抑止されません。

(2) 「ホスト名」ドロップダウンリスト

親ノードとして使用するホスト名を指定します。親ノードのホスト名を直接入力するか，または「ホスト名」ドロップダウンリストからホスト名を選択します。

(3) 「IPアドレス」ドロップダウンリスト

親ノードとして使用する IP アドレス名を指定します。親ノードのホスト名を直接入力するか，または IP アドレス」ドロップダウンリストからホスト名を選択します。

(4) ［ホスト検索］ボタン

監視するホストの検索の指定ダイアログボックスを開きます。

(5) 「監視するホスト一覧」リストボックス

ネットワーク監視の対象となるホストの一覧を表示します。［ホスト名］ボタン，［セグメント名］ボタン，［IP アドレス］ボタンで表示順を変えられます。セグメント名がない機器は，セグメント名を空白で表示します。

ホスト名を選択して右ボタンメニューで次の操作ができます。

1. ネットワーク監視の対象ホストから削除。ダブルクリックで削除ができます。
2. 親ノードに設定。

(6) ［全て監視対象にする］ボタン

監視可能なホスト一覧に表示されている全てのホストを，ネットワーク監視の対象ホストに追加します。

(7) ［全て監視対象から外す］ボタン

監視するホスト一覧に表示されている全てのホストを，ネットワーク監視の対象ホストから削除します。

(8) ［↑］ボタン

監視可能なホスト一覧の中から選択したホストを，ネットワーク監視の対象ホストに追加します。複数選択は，エクスプローラの操作で選択します。ホスト名の頭文字の入力でも選択できます。

(9) ［↓］ボタン

監視するホスト一覧の中から選択されたホストを，ネットワーク監視の対象ホストから削除します。

(10) ［直接指定］ボタン

ネットワーク監視の対象ホスト，または IP アドレスを直接指定する場合に，ここをクリックします。ホスト名の指定ダイアログボックスでネットワーク監視の対象とするホスト，または IP アドレスを，直接指定します。同じホストを複数登録できますが，同じホストは

登録しないでください。

このボタンは PING 監視の場合だけ有効となります。同じホスト，または IP アドレスを複数登録できますが，同じホスト，または IP アドレスは登録しないでください。

ホスト名の指定ダイアログボックスを図 7.3-8 に示します。

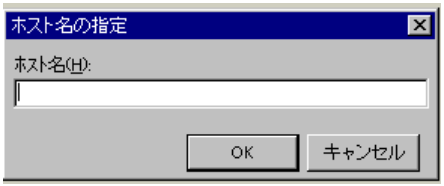


図 7.3-8　ホスト名の指定ダイアログボックス

- **「ホスト名」テキストボックス**

  監視の対象とするホストのホスト名，または IP アドレスを指定します。

(11) 「監視可能なホスト一覧」リストボックス

監視できるホストの一覧を表示します。［ホスト名］ボタン，［IP アドレス］ボタン，［セグメント名］ボタンで表示順を変更できます。セグメント名がない機器は，セグメント名を空白で表示します。

なお，1 つの機器に複数の IP アドレスを持つ機器は，この IP アドレス分，監視できるホストとして表示します。ポーリング監視では，1 つだけを監視ホストとして追加します。IP アドレスが異なる同じホスト名を複数追加すると，登録した分発信が行われます。

ホスト名を選択して右ボタンメニューで次の操作ができます。

1. ネットワーク監視の対象ホストに追加（ダブルクリックでも追加できます）
2. 親ノードに設定

(12) ［フィルタ］ボタン

フィルターダイアログボックスを表示します。

フィルターダイアログボックスは，ネットワーク監視ができるホストを，任意の文字列で抽出します。フィルタダイアログボックスを図 7.3-9 に示します。

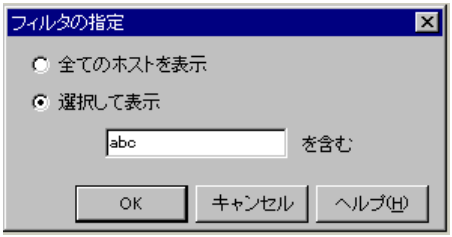


図 7.3-9　フィルタダイアログボックス

(a)　「全てのホストを表示」ラジオボタン

現在抽出しているすべてのホストを監視可能なホスト一覧に表示します。

(b)　「選択して表示」ラジオボタン

現在抽出しているすべてのホストの中から，ホスト名中に指定された文字列を含むホストを，監視可能なホスト一覧に表示します。

(c) 「選択して表示」テキストボックス

監視できるホストを選択するために，選択するホスト名に含まれる文字列を指定します。

(13) ［インポート］ボタン

ネットワークホストの一覧を以下いずれかから読み込み，［監視可能なホスト一覧］に表示します。なおこの機能でインポートするだけでは監視対象とならない点に注意してください。

- hosts ファイル
- テキストファイル
- HP Network Node Manager software または日立 JP1/Cm2

hosts ファイルとは，Windows の標準状態で以下のパスに格納されているファイルです。

```
%systemroot%¥system32¥drivers¥etc¥hosts
```

hosts ファイルからのインポートは，アクション監視または PING 監視を使用する場合に実行できます。

テキストファイルからホスト一覧を読み込む場合，hosts ファイルと同じ書式でホスト名の定義を記載したファイルを指定してください。テキストファイルからのインポートは，アクション監視または PING 監視を使用する場合に実行できます。

HP Network Node Manager software または日立 JP1/Cm2 からのインポートは，アクション監視，およびポーリング監視を使用する場合に実行できます。監視可能なホストの取得は，ネットワーク管理機能を開始した後に行ってください。

7.3.8 監視するホストの検索の指定ダイアログボックス

親ノードとして使用するホスト名を検索します。監視するホストの検索の指定ダイアログボックスを図 7.3-10 に示します。

図 7.3-10　監視するホストの検索の指定ダイアログボックス

(1) 「検索条件」フィールド

検索条件を指定します。

(2) 「ホスト名」テキストボックス

ホスト名で検索するとき検索するホスト名を指定します。完全一致で検索するときは，「と一致する」を選択します。部分一致で検索するときは，「を含む」を選択します。

(3) 「IPアドレス」テキストボックス

IP アドレスで検索するとき検索する IP アドレスを指定します。完全一致で検索するときは，「と一致する」を選択します。部分一致で検索するときは，「を含む」を選択します。

(4) 「セグメント名」ドロップダウンリスト

セグメント名で検索するとき検索するセグメント名を直接指定か，またはドロップダウンリストからセグメント名を選択します。完全一致で検索するときは，「と一致する」を選択します。部分一致で検索するときは，「を含む」を選択します。

(5) 「上記条件の」ドロップダウンリスト

「ホスト名」テキストボックス，「IP アドレス」テキストボックス，「セグメント名」ドロップダウンリストで指定した AND 条件で検索するときは，「全てを満たす」を選択します。OR 条件で検索するときは，「いずれかを満たす」を選択します。

(6) ［検索］ボタン

検索条件に一致するホスト名の一覧を「条件に一致したホスト一覧」リストボックスに表示します。

(7) 「条件に一致したホスト一覧」リストボックス

検索条件に一致したホスト名の一覧を表示します。［ホスト名］ボタン，［セグメント名］ボタン，［IP アドレス］ボタンで表示順を変えられます。

セグメント名がない機器は，セグメント名を空白で表示します。

親ノードに設定するときは，ホスト名を選択して OK ボタンを押します。

8. メール監視

この章では，メール監視について説明します。

8.1　メール監視について

8.2　メール監視の設定方法

8.3　メール監視ダイアログボックス

8.1メール監視について

8.1.1 メールの受信について

AEPE と AESE が備えるメール監視機能では，さまざまなサーバ監視アプリケーションやネットワーク機器などが送信するメールを監視することが可能です。

メール監視機能を利用することで，メールだけの通知から電話，SMS 通知，FAX，メール，PC のデスクトップ，メッセージ表示ボード，信号灯や電気機器，および任意のコマンドなど多彩な方法で通知ができるようになります。また，メール監視機能を利用することで，重要度情報を付けたメールに変更したり，TELstaff のメール開封確認機能が使用できるようになります。

メール監視の監視方法には，リアルタイム監視と POP3 監視の 2 つの監視方法があります。

- リアルタイム監視機能は，送受信メールを AEPE または AESE が中継し，対象のメールを監視します。なおリアルタイム監視機能では，SMTP メールサーバ環境が無くても使用でき，また実在しないメールアドレス宛のメールを監視対象とすることも可能ですが，いずれの場合もそのメールはどこにも配送されません。
- POP3 監視機能は，一定間隔で監視対象メールアカウント宛のメールがメールサーバ（POP3 サーバ）に到着しているか問い合わせることでメールを監視します。TELstaff サービス停止中に受信したメールは，TELstaff サービスを開始したときにメール監視を行います。対応するプロトコルは POP3，POP3+STLS，および POP3S のいずれかで，IMAP4 には対応していません。なおここでの「POP3+STLS」は，POP3 でメールサーバに接続した後で STLS コマンドを発行し，暗号通信を開始する方式を指しています。

受信メールを保管する場合は，メール監視のプロパティダイアログボックス（図 8.2-1）の「受信メールの保存方法」フィールドと，メール監視－「全般」タブ（図 8.3-1），またはフィルタリングの設定ダイアログボックス－「条件設定」タブ（図 8.3-4）の「メールの保存」フィールドで受信箱に保存する設定を行います。

分割メールでは，分割された全てのメールがメール監視の対象になります。また，メール監視できる受信メールは，次の文字コード（Content-Type: text/plain ヘッダ）で作成されたメールに限られます。

```
Content-Type: text/plain; charset=iso-2022-jp
Content-Type: text/plain; charset=shift-jis
Content-Type: text/plain; charset=shift_jis
Content-Type: text/plain; charset=us-ascii
Content-Type: text/plain; charset=utf-8
Content-Type: text/plain; charset=iso-8859-1
```

その他のメール監視の注意事項については，「1.4.13 メール監視について」を参照してください。メール監視で使用できる変数を表 8.1-1 に示します。

表 8.1-1 メール監視で使用できる変数

変数名	変数の内容
~date~	yyyy mm/dd 形式の日付

変数名	変数の内容
~date1~	yyyy 年 mm 月 dd 日形式の日付
~date2~	yyyy/mm/dd 形式の日付
~time~	hh:mm:ss 形式の時刻
~time1~	hh 時 mm 分 ss 秒形式の時刻
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~notifynumber~	teldial コマンド受け付け番号
~UserName~	ユーザ名（※1）
~UserExplanation~	ユーザの説明情報（※1）
~ComputerName~	コンピュータ名
~IPaddress~	IP アドレス（※6）
~MailSenderName~ ※5	メール差出人
~MailSenderAddr~ ※5	差出人メールアドレス
~MailSubject~ ※5	メール標題
~MailMonAccount~ ※5	監視グループ名（アカウント名）
~MailMonComment~ ※5	監視グループの説明
~MailMonComment2~ ※5	ダブルコーテーションで囲んだメール監視の監視グループの説明（※2）
~MailMonAddress~ ※5	監視するメールアドレス
~MailMonFilter~ ※5	フィルタリング名。フィルタリング指定が無い場合は，「**NONE**」
~MailMonNumber~ ※5	メール監視通知の通し番号
~MailMonType~ ※5	メール監視種別。 リアルタイム監視の場合は「MTA」，POP3 監視の場合は「POP3」
~MailMonCorrespondAddress~ ※5	メール監視の監視対象に該当したメールアドレス。リアルタイム監視で個別に監視対象メールアドレスを指定した場合，および POP3 監視の場合は，~MailMonAddress~と同じ
~ReceivedMailTo~ ※5	受信メールの To 情報
~ReceivedMailCc~ ※5	受信メールの Cc 情報
~ReceivedMailPriority~ ※5	受信メールの重要度
~ReceivedMailReplyTo~ ※5	受信メールの返信先情報
~ReceivedMailDate~ ※5	受信メールの日付情報
~ReceivedMailMessage-ID~	受信メールのメッセージ ID 情報 ※5
~ReceivedMail~ ※5	添付ファイル情報を含まないメール本文（※3）
~ReceivedMail1~	添付ファイル情報を含まないメール本文（※4）
~ReceivedMailHeader~ ※5	受信メール先頭行から空行までのヘッダー情報（※3）
~ReceivedMailBody~ ※5	受信メールのヘッダー情報を除くボディ部情報（※3）
~MailMonField:X~ ※5	変数名に含まれる「X」の部分と同じ名前を持つフィールドの値に置換されます。フィールドの詳細については 8.1.1(5)を参照してください。

注※1　~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

注※2　文字指定のユーザ付加情報，SMS 通知メッセージ，表示ボードメッセージおよび

コマンドパラメタには使用できません。

注※3　通知文ファイルの中に指定すると通知文ファイルの中に直接挿入します。フィルタリングの設定ダイアログボックス（図 8.3-10）－「その他」タブのコマンドパラメタで使用する場合は，一時ファイルで作成し，「"」（ダブルコーテーション）で囲まれた拡張子が「.txt」の一時ファイル名と置き換えます。この一時ファイルは，参照するアプリケーションが削除する必要があります。~ReceivedMail~変数では，受信したメールが添付ファイル付きメール等，複数のパートに分かれているメールの場合，正しく取得できない場合があります。

注※4　この変数は，フィルタリングの設定ダイアログボックス（図 8.3-10）－「その他」タブのコマンドパラメタで使用できます。メール本文を一時ファイルに作成し，「"」（ダブルコーテーション）で囲まれた拡張子が「.tp」の一時ファイル名と置き換えます。この一時ファイルは，参照するアプリケーションが削除する必要があります。受信したメールが添付ファイル付きメール等，複数のパートに分かれているメールの場合，正しく取得できない場合があります。

注※5　フィルタリングの設定ダイアログボックスの「連絡網」タブ，または「その他」タブでメール監視固有の変数を指定できる変数。

注※6　複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

(1) メール受信通知機能

監視対象のメールを検出すると電話，SMS 通知，FAX，メール，PC のデスクトップ，メッセージ表示ボード，信号灯や電気機器，音声通知，および任意のコマンドなど多彩な方法で受信通知ができます。

受信通知によって，離席や外出などでメールの確認ができない場合なども，メールが送られてきたことを知ることができます。通知内容もメール本文をそのまま通知したり，メールの標題だけを通知したりできます。

(2) 自動メール転送機能

監視対象のメールを他の人に自動転送できます。

メール自動転送では自動転送のスケジューリングを設定でき，平日・休日および，受信した時間帯によってメールの自動転送，または抑止したり，平日･休日によってメールの転送先を変えることができます。

また，重要度情報を付けたメールに変更したり，TELstaff のメール開封確認機能が使用できます。

メール転送機能には以下の注意点があります：

- 発信制限機能は適用されません。
- メール監視しているメールアドレスが，環境設定の「E メール」タブで指定したメールアドレスと同じ場合，自動転送できません。
- メール転送先にメール監視しているメールアドレスを含む場合は，自動転送できません。

(3) 自動メール返信機能

監視対象のメール（の差出人）に対して自動返信できます。

メール送信元が回線，またはネットワークの場合は，メールを中継した中継サーバの環境設定の「E メール」タブに設定されているメールアドレスに返信されます。また，メール差出人が自メールアドレスの場合は，メールの返信は行いません。

メール自動返信では自動返信のスケジューリングを設定でき，平日・休日および，受信した時間帯によってメールの自動返信，または抑止することができます。

返信メールの内容は，平日･休日で返信内容を変えることができます。

監視しているメールアドレスが，環境設定の「E メール」タブで設定したメールアドレスの場合は，自動返信できません。メールサーバからのエラーメールに対しても返信することになります。

(4) プロトコルコマンド実行機能

メールのメール本文にプロトコルコマンドを指定すると，指定したプロトコルコマンドを実行します。プロトコルコマンドの実行は，次のいずれかの方法で制限できます。

1. メール監視のプロパティダイアログボックスで受信パスワードを指定し，メール受信を制限する。
2. 実行コマンドの設定ダイアログボックスで，実行可能なコマンドを指定する。

(5) メール本文中の「フィールド」について

(a) フィールドとは

メール監視の機能では，メール本文中にある特定の書式で記された行を認識し，その内容でフィルタリング処理を行ったり，通知処理でその内容を使用したりすることが可能です。このような TELstaff が認識可能な書式で書かれた行は，「フィールド」と呼びます。

フィールドは，フィールド名，「:」（半角コロン），フィールドの値，を続けて一行で記します。次に例を記します：

```
Severity: 2
Category: ハードウェア障害
```

この例では「Severity」という名前のフィールドと「Category」という名前のフィールドがあり，それぞれの値は「2」および「ハードウェア障害」となっています。

なおフィールド名には，「:」（半角コロン）と「~」（半角チルダ）を除く印字可能な ASCII 文字が使用可能で，最大 64 文字の長さまで指定可能です。またフィールド名の前後に一つ以上の半角空白・タブ文字がある場合，それらの半角空白・タブ文字は無視されます。したがって，先頭または最後が半角空白・タブ文字であるようなフィールド名を使うことはできません。

フィールドの値として指定可能な文字種や長さに制限は無く，行末までが値として扱われます。ただしフィールドの値の前後に一つ以上の半角空白・タブ文字がある場合，それらは無視されます。

なお同じ名前のフィールドが複数存在していた場合，メールの先頭に一番近いものが使用され，その他は無視されます。

(b) フィールドの値をフィルタリング処理で評価する

メール本文中のフィールドは，フィルタリング処理の条件として利用できます。例えば，指定した名前のフィールドの値が，特定の文字列を含んでいるか，あるいは特定のフレーズから始まっているかどうか，といったフィルタリング条件を定義できます。

フィールドの値を数値として解釈し，その大小などをフィルタリング条件にすることも可能です。扱える数値の範囲は-2147483.648 以上 2147483.647 以下で，小数点以下は 3 桁まで扱えます。フィールド値の解釈は，先頭から数値として解釈できる部分をできるだけ長く取り出して解釈します。例えば，フィールドの値が「123.4m」であれば 123.4 と解釈し，フィールドの値が「3.141592」であれば 3.141 と解釈します。また，フィールドの値が扱える数値の範囲外であったり数値として解釈できない（数字でも負数記号でもない文字で始まる）場合，フィルタリング評価の結果は常に「合致しない」となります。なお桁区切りの「,」（カンマ）には対応していません。

フィールドの値の評価方法については 8.3.4(4)を参照してください。

(c) フィールドの値を通知処理で使用する

メール本文中のフィールドは，メール監視機能による通知処理でも使用できます。通知処理でフィールドの値を使用するには，仮に使用したいフィールドの名前を X とすると，変数 ~MailMonField:X~ を通知メッセージの文面やコマンドライン文字列などで使用してください。例えば，メール監視の結果を電話通知する場合，メール本文の内容をそのまま電話通知に利用するとメッセージが冗長になることもあるでしょう。そのような場合にメール本文に含まれるいくつかのフィールドの値を取り出して，電話でも聞き取りやすい簡潔な通知文を構成する，といったことが可能です。

8.2メール監視の設定方法

8.2.1 メール監視方法の設定

メールの監視方法は，Administrators 権限ユーザでメール監視のプロパティダイアログボックスとメール監視ダイアログボックスで設定します。

メール監視のプロパティダイアログボックスでは，受信メールの保存方法などの設定を行い，メール監視ダイアログボックスでは，メール監視方法などの基本的な設定をします。

メール監視のプロパティダイアログボックスは，TELstaff ウィンドウでメール監視を選択し，【ファイル(F)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択して表示します。また，マウスの右ボタンをクリックして【プロパティ(P)...】を選択することでも表示できます。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

メール監視のプロパティダイアログボックスを図 8.2-1 に示します。

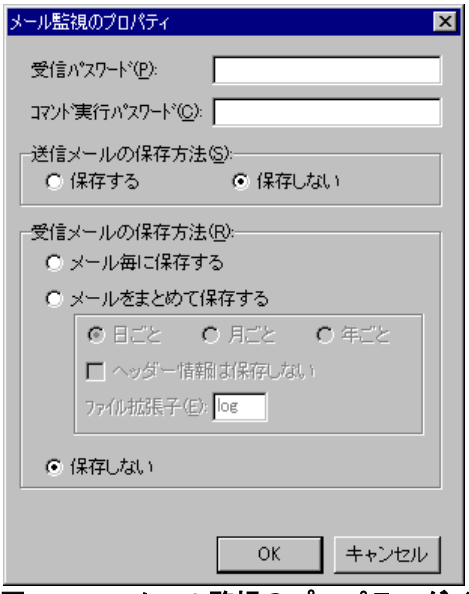


図 8.2-1 メール監視のプロパティダイアログボックス

(1) 「受信パスワード」テキストボックス

メール監視の対象とするメールを特定したいときは，受信パスワード文字列を設定しておきます。受信パスワードの設定があるときは，メール本文の先頭行 1 カラムにパスワード文字列を挿入しておかなければなりません。TELstaff はここで指定されたパスワード文字列を受信メール中に見つけた場合だけ，監視の対象とします。

(2) 「コマンド実行パスワード」テキストボックス

受信したメールにプロトコルコマンドが指定されている時にコマンドの実行を制限したい場合は，コマンド実行パスワードを設定しておきます。コマンド実行パスワードの設定があるときは，メール本文の先頭行（受信パスワードが設定されている場合は次の行）の 1 カラムにパスワード文字列を挿入しておかなければなりません。TELstaff はここで指定された文字列を受信メール中に見つけた場合だけ，コマンドの実行を行います。

(3) 「送信メールの保存方法」フィールド

メールの転送や返信で TELstaff から送信したメールの控えを保存するか否かを指定します。

送信したメールは「送信済み箱」フォルダに保存する場合は「保存する」ラジオボタンを，送信したメールは送信終了後に削除する場合は，「保存しない」ラジオボタンを選択します。

(4) 「受信メールの保存方法」フィールド

受信したメールの保存方法を指定します。受信したメールを保存する場合は，メール監視ー「全般」タブ（図 8.3-1）の「メールを受信箱に保存」チェックボックスにチェックしておく必要があります。

受信したメールを受信箱フォルダに保存する場合は「メール毎に保存する」ラジオボタンを選択します。指定された保存周期毎に受信したメールを保存ファイルにまとめて保存する場合は「メールをまとめて保存する」ラジオボタンを選択します。受信したメールを削除する場合は「保存しない」ラジオボタンを選択します。

「メールをまとめて保存する」を選択したとき，メッセージエージェント構成の設定ー「メッセージ保存」タブ（図 4.4-4）の「保存フォルダ」テキストボックスに指定した保存場所に受信メールを保存します。

メッセージビューアで受信したメールは，閲覧できません。

(a) メールをまとめる周期

受信したメールをまとめて保存する場合の，受信メールをまとめる周期を指定します。

- 同一日に受信したメールをまとめて保存ファイルに保存する場合，「日ごと」ラジオボタンを選択します。この時，保存ファイル名は「yyyymmdd.拡張子」となります。
- 同一月に受信したメールをまとめて保存ファイルに保存する場合，「月ごと」ラジオボタンを選択します。この時，保存ファイル名は「yyyymm.拡張子」となります。
- 同一年に受信したメールをまとめて保存ファイルに保存する場合，「年ごと」ラジオボタンを選択します。この時，保存ファイル名は「yyyy.拡張子」となります。

(b) メールの保存内容

受信したメールのヘッダー情報は削除し，本文だけを保存ファイルに保存する場合，「ヘッダー情報は保存しない」チェックボックスにチェックします。受信したメールが添付ファイル付きの場合，保存ファイルに添付ファイルも保存します。

(c) メール保存ファイルのファイル拡張子の指定

メールをまとめて保存する保存ファイルの拡張子を指定します。

(d) 受信メールをまとめて保存する場合の注意事項

受信したメールをまとめて保存する場合，以下の注意事項があります。

1. 保存ファイルへの保存は，受信したメールの内容をそのまま保存ファイルに追加書きします。受信したメール毎に区切り記号等の識別子はありません。
2. 「ヘッダー情報は保存しない」チェックボックスにチェックした場合，受信メールの最初の空行までをメールヘッダー情報として保存しません。
3. ヘッダー情報は保存しないをまとめて保存した場合，受信したメールをメッセージビューアで閲覧できません。

8.2.2 メール監視項目の追加

新規メール監視項目の追加は，次の手順でします。

1. TELstaff ウィンドウで，【ファイル(F)】メニューの【新規作成(N)】から【メール監視(M)...】を選択して，メール監視ダイアログボックスを表示します。また，メール監視一覧でメール監視項目を選択してマウスの右ボタンをクリックし，【新規作成(N)...】を選択することでも表示できます。
2. メール監視ダイアログボックスで，必要な情報を設定します。
3. 追加したメール監視項目の設定を有効にする場合は，TELstaff サービスの再起動が必要です。
4. POP3 監視のメール監視項目は最大で 64 個まで定義できます。

8.2.3 メール監視項目の変更

メール監視項目の変更は，Administrators 権限ユーザで次の手順でします。

1. TELstaff ウィンドウのメール監視一覧で，変更するメール監視項目を選択します。
2. 【ファイル(F)】メニューから【プロパティ(P)...】を選択し，メール監視ダイアログボックスを表示します。また，マウスの右ボタンをクリックして【編集(E)...】を選択したり，マウスをダブルクリックしたりすることでも表示できます。
3. メール監視ダイアログボックスで，現在設定されているメール監視項目の設定を変更できます。
4. 変更したメール監視項目の設定を有効にする場合は，TELstaff サービスの再起動が必要です。

8.2.4 メール監視項目の複写

メール監視項目の複写は，Administrators 権限ユーザで次の手順でします。

1. TELstaff ウィンドウのメール監視一覧で，複写元のメール監視項目を選択します。
2. 【編集(E)】メニューから【コピー(C)...】を選択し，メール監視のコピーダイアログボックスを表示します。また，マウスの右ボタンをクリックし，【コピー(C)...】を選択することでも表示できます。

リアルタイム監視のコピーダイアログボックスを，図 8.2-2 に，POP3 監視のコピーダイアログボックスを，図 8.2-3 示します。

図 8.2-2 メール監視のコピーダイアログボックスーリアルタイム監視

図 8.2-3 メール監視のコピーダイアログボックスーPOP3監視

3. メール監視のコピーダイアログボックスで，複写先のアカウント名（監視グループ名）を 50 桁以内で設定します。アカウント名（監視グループ名）については，メール監視ー「全般」タブ（図 8.3-1）の「アカウント名」テキストボックス参照してください。
4. メール監視のコピーダイアログボックスで，複写先の監視するメールアドレスを 256 桁以内で設定します。リアルタイム監視では，複写元の監視しているメールアドレスを表示します。監視するメールアドレスについては，メール監視ー「全般」タブ（図 8.3-1）の「メールアドレス」テキストボックス参照してください。
5. POP3 監視のコピーダイアログボックスでは，複写先の POP3 アカウント名を 256 桁以内で設定します。
6. POP3 監視のコピーダイアログボックスでは，複写先の POP3 アカウント名の，パスワードを 256 桁以内で設定します。
7. 複写したメール監視項目の設定を有効にする場合は，TELstaff サービスの再起動が必要です。

8.2.5 メール監視項目の削除

メール監視項目の削除は，Administrators 権限ユーザで次の手順でします。

1. TELstaff ウィンドウのメール監視一覧で，削除するメール監視項目を選択します。
2. 【編集(E)】メニューから【削除(D)】を選択し，削除の確認ダイアログボックスを表示します。また，マウスの右ボタンをクリックし，【削除(D)】を選択することでも表示できます。

図 8.2-4　削除の確認ダイアログボックス

3. ［はい(Y)］ボタンを押します。
4. 削除したメール監視項目の設定を有効にする場合は，TELstaff サービスの再起動が必要です。

8.3メール監視ダイアログボックス

8.3.1 メール監視－「全般」タブ

メール監視ダイアログボックスでメール監視方法などの基本的な設定をします。

メール監視ダイアログボックスは，Administrators 権限ユーザで「8.2.2 メール監視項目の追加」に示す方法で表示します。設定内容を変更したときは，次回の TELstaff サービス起動から変更内容が有効になります。

メール監視－「全般」タブを，図 8.3-1 に示します。

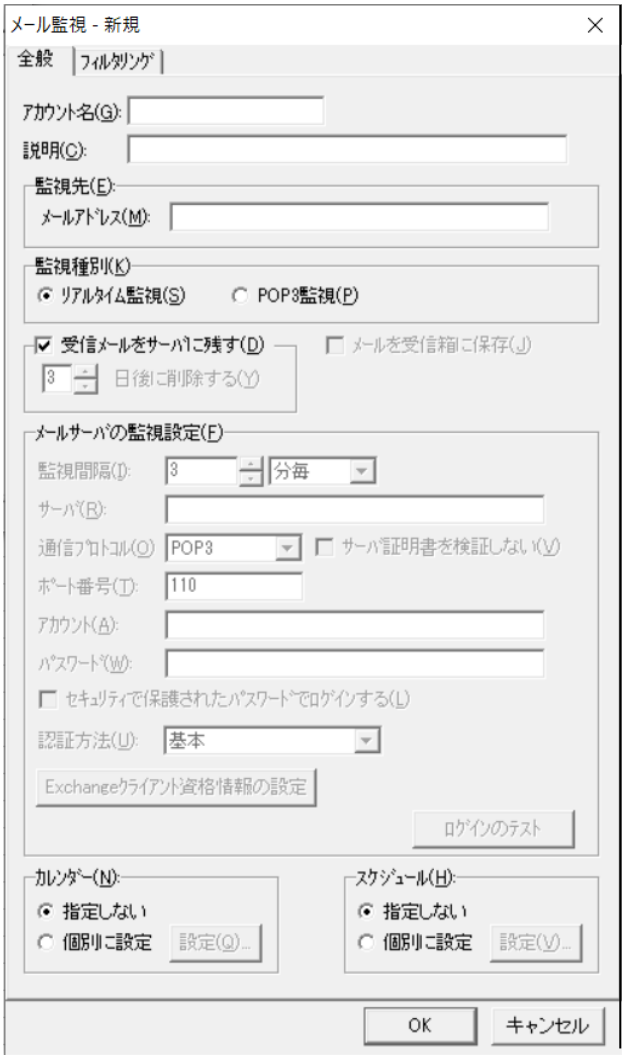


図 8.3-1 メール監視－「全般」タブ

(1) 「アカウント名」テキストボックス

アカウント名（監視グループ名）の名称を，50 桁以内で設定します。既に登録されている監視グループ名は指定できません。監視グループ名を変更する場合は，一度削除してから再度登録してください。アカウント名に，次の文字を使用できません。

″ ¥ / : ; * ? [ ] = < > | ! ’ $ % & , _ 半角空白

(2) 「説明」テキストボックス

TELstaff ウィンドウのメール監視一覧に表示する，メール監視項目に対する説明を 100 桁以内で設定します。

(3) 「メールアドレス」テキストボックス

メール監視するメールアドレスを完全修飾ドメイン名形式（「アカウント名@ドメイン名」の FQDN 形式）で，256 桁以内で設定します。リアルタイム監視では，表 8.3-1 に示すメールアドレスの総称指定（総称アドレス指定）ができます。

メール監視するメールアドレスの指定では，次の注意事項があります。

- POP3 監視では，総称アドレス指定，および異なる POP3 監視グループで同じ POP3 サーバアドレスを使用する同じメールアドレスは指定できません。
- フィルタリングの設定ダイアログボックスの「連絡網」タブでメール送信，「その他」タブでメール送信，「その他」タブのコマンド実行でメール送信する場合，メール送信で使用するメールアドレス，総称アドレスは指定できません。指定した場合は，メール監視の繰返し状態になります。
- フィルタリングの設定ダイアログボックスー「転送設定」タブ（図 8.3-5）で設定した転送先で使用するメールアドレス，総称アドレス指定できません。指定した場合は，メール監視の繰返し状態になります。

表 8.3-1 総称指定方法

総称指定	説明
abc*@telstaff.jp	アカウント部が「abc」で始まり，ドメイン部が「telstaff.jp」のメールアドレスが対象になります。
abc*de@telstaff.jp	アカウント部が「abc」で始まり，「de」で終わり，ドメイン部が「telstaff.jp」のメールアドレスが対象になります。
*abc@telstaff.jp	アカウント部が「abc」で終わり，ドメイン部が「telstaff.jp」のメールアドレスが対象になります。
abc@telstaff.jp	アカウント部に「abc」が含まれ，ドメイン部が「telstaff.jp」のメールアドレスが対象になります。
*@telstaff.jp @telstaff.jp	ドメイン部が「telstaff.jp」のメールアドレスが対象になります。
abc@telstaff*	ドメイン部が「telstaff」で始まり，アカウント部が「abc」のメールアドレスが対象になります。
abc@tel*jp	ドメイン部が「tel」で始まり，「jp」で終わり，アカウント部が「abc」のメールアドレスが対象になります。
abc@*jp	ドメイン部が「jp」で終わり，アカウント部が「abc」のメールアドレスが対象になります。
abc@*telstaff*	ドメイン部に「telstaff」が含まれ，アカウント部が「abc」のメールアドレスが対象になります。
abc@* abc@	アカウント部が「abc」のメールアドレスが対象になります。
@ @ *	全てのメールアドレスが対象になります。

(4) 「リアルタイム監視」ラジオボタン

リアルタイム監視を行う場合，ここにチェックします。

(5) 「POP3監視」ラジオボタン

POP3 監視を行う場合，ここにチェックします。

(6) 「受信メールをサーバに残す」チェックボックス

リアルタイム監視の場合

ここにチェックを入れると，AEPE または AESE がメールを監視した後，他の既存 SMTP メールサーバへと中継します。

中継先となる SMTP メールサーバは各種メール通知などで使用するメールサーバです。設定方法などについては 4.1.1(5)を参照してください。

なお実在しない架空のメールアドレスを監視する場合は，ここのチェックを外してください。チェックをすると，その架空アドレス宛のメールが SMTP メールサーバへと中継されてしまい，メール送信元に配送エラーメールが送信されることがあります。

その他のリアルタイム監視の注意事項については，1.4.13 も参照してください。

POP3 監視の場合

ここにチェックを入れると，監視のために POP3 サーバから受信したメールをサーバから削除せず残します。

受信メールをサーバに残す運用をする場合，バックアップ・リストア時の注意事項があります。詳細については 1.5.2(2)を参照してください。

(7) 「x 日後に削除する」スピンボックス

POP3 監視機能で，監視対象メールアカウントの受信メールのうち，最初にそのメールを検知した日時から，ここで指定した日数が経過したものをメールサーバから削除します。日数は，0 から 30 の値で指定します。0 を指定すると，削除はしません。なお，メール削除は受信メールを確認する際に実施します。

リアルタイム監視では，この項目は設定できません。

(8) 「メールを受信箱に保存」チェックボックス

監視対象のメールをメール監視のプロパティダイアログボックス（図 8.2-1）の受信メールの保存方法に従って保存する場合，ここをチェックします。チェックしない場合，メールの受信通知だけをします。

メールを保管する場合は，メール監視のプロパティダイアログボックス（図 8.2-1）の「受信メールの保存方法」フィールドと，「メールを受信箱に保存」チェックボックス，またはフィルタリングの設定ダイアログボックスー「条件設定」タブ（図 8.3-4）の「メールの保存」フィールドで受信箱に保存する設定を行います。

(9) 「メールサーバの監視設定」フィールド

POP3 監視を使用する場合に，監視対象とする POP3 サーバの情報を設定します。リアルタイム監視を使用する場合，設定できません。

(10) 「監視間隔」スピンボックス

POP3 監視を行うときの，監視するメールアカウントについてメールが到着しているかを問い合わせる間隔を秒毎では 10 から 3600，分毎では 1 から 120，時間毎では 1 から 24 の範囲で指定します。

(11)「サーバ」テキストボックス

監視するメールアドレスの，POP3 サーバアドレスを 256 桁以内で設定します。

(12)「通信プロトコル」ドロップダウンリスト

POP3 サーバとの通信に使用するプロトコルを指定します。POP3，POP3S，および POP3+STLS のいずれかを選択します。標準は POP3 です。

(13)「サーバ証明書を検証しない」チェックボックス

ここにチェックを入れると，サーバと POP3S または POP3+STLS を使用して通信する際にサーバが提示する証明書を検証しません。標準では，サーバ証明書を検証します。

(14)「ポート番号」テキストボックス

POP3 サーバの通信ポート番号を設定します。標準は，110 です。

(15)「アカウント」テキストボックス

監視するメールアドレスの，POP3 アカウント名を 256 桁以内で設定します。

(16)「パスワード」テキストボックス

POP3 アカウント名の，パスワードを 256 桁以内で設定します。

(17)「セキュリティで保護されたパスワードでログインする」チェックボックス

ここにチェックを入れると，サーバログイン時に APOP 方式を使用します。標準では APOP 方式を使用しません。

(18)「認証方法」ドロップダウンリスト

メールサーバとの認証方法を指定します。基本（基本認証），OAuth2（OAuth2.0 認証）から選択します。標準は基本（基本認証）です。OAuth2 が選択されたときは「POP3 パスワード」「セキュリティで保護されたパスワードでログインする」は非活性となります。

OAuth2 を選択した場合「サーバ」には，outlook.office365.com（固定値）を設定してください。

OAuth2 を選択した場合，認証先サーバとの通信に Proxy サーバを経由する必要がある場合には，「4.1.1(1)環境設定－「全般」タブ」の 「(k)「Proxy の設定」ボタン」を使用して Proxy の設定を行ってください。

(19)「ExChangeクライアント資格情報の設定」ボタン

認証方法で OAuth2 を選択した場合，ボタンが活性化します。このボタンを押すと資格情報を入力する「資格情報の入力」ダイアログが表示されます。OAuth2 を選択した場合，必ず「資格情報の入力」ダイアログの内容を設定してください。

「資格情報の入力」ダイアログに関しては「8.3.11 ExChange クライアント資格情報の設定ダイアログボックス」を参照ください。

(20) ［ログインのテスト］ボタン

入力した POP3 サーバ等の設定値を用いて実際にログインを試行します。このボタンを

押すと［ログインのテスト］ウィンドウが開き，通信記録とともにログインに成功したかどうかが表示されます。

POP3 サーバに接続できない場合は，POP3 サーバとの通信記録を参考に設定内容が正しいかどうかを確認してください。ログインのテストウィンドウを閉じるには，［閉じる］ボタンを押します。ログインのテストウィンドウを図 8.3-2 に示します。

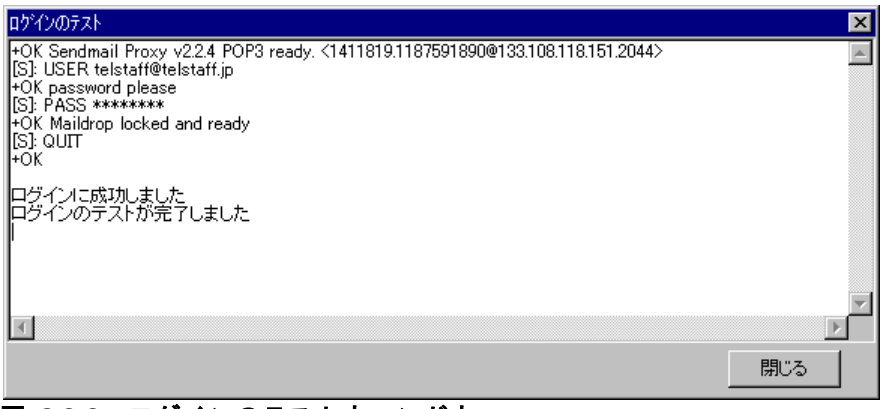


図 8.3-2　ログインのテストウィンドウ

(21)「カレンダー」フィールド

監視グループ毎にカレンダーを設定します。スケジュール設定と組み合わせることで，平日・休日とでメール監視する／しない，自動転送する／しない，自動返信する／しないなど細かな監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，システムのカレンダーを使用します。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(Q)］ボタンで監視グループのカレンダーを設定します。最初のカレンダー作成では，システムのカレンダーを引き継ぎます。

(22)「スケジュール」フィールド

監視グループ毎にスケジュールを設定します。カレンダー設定と組み合わせることで，平日・休日とでメール監視する／しない，自動転送する／しない，自動返信する／しないなど細かな監視スケジューリングができます。

- 「指定しない」をチェックした場合，常にメール監視を行います。
- 「個別に指定」をチェックした場合，［設定(V)］ボタンで監視グループのスケジュールを設定します。

メール監視の監視スケジュールを設定した場合，リアルタイム監視と POP3 監視とでは，メール監視抑止時間帯の動作が異なります。

POP3 監視の場合，メール監視抑止時間帯では，メールサーバに対して監視するメールアカウントについてメールが到着しているかの問い合わせを抑止（通知を抑止）し，メール監視抑止時間帯からメール監視時間帯に移った時点で問い合わせを再開始します。メール監視時間帯に移った時点で**既に**監視するメールアカウントについてメールが到着していると通知を行います。

リアルタイム監視の場合，メール監視抑止時間帯に監視するメールアカウントに対するメールは受信し，通知を抑止します。メール監視時間帯に移った時点では，以降に**新たに**監視するメールアカウントについてメールを受信すると通知を行います。

8.3.2 メール監視ー「フィルタリング」タブ

メール監視項目の，フィルタリング条件とフィルタリング条件ごとの通知先の設定を行います。メール監視ー「フィルタリング」タブを，図 8.3-3 に示します。

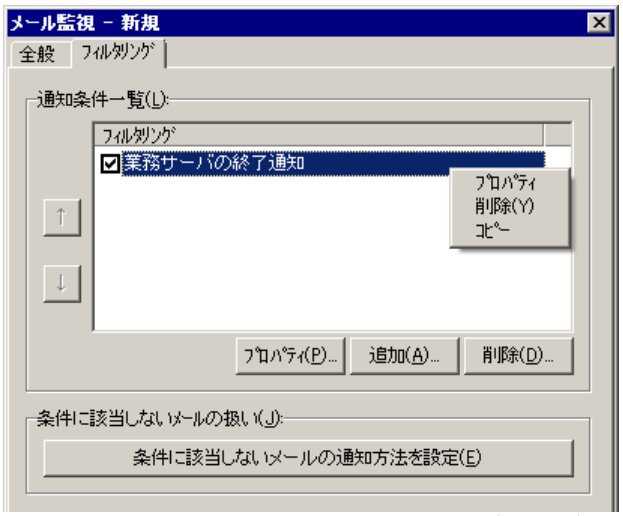


図 8.3-3 メール監視ー「フィルタリング」タブ

(1) 「通知条件一覧」リストボックス

現在，メール監視項目に定義されているフィルタリング条件の一覧を表示します。条件のチェックボックスにチェックした条件が監視条件になります。

複数の条件（チェックボックスにチェックした条件）に該当する場合は，最初の条件を適用して受信通知します。

条件を選択して右クリックすると，ポップアップメニューが表示され，フィルタリングのプロパティ表示・削除・コピーができます。

(2) ［↑］ボタン

選択したフィルタリング条件の順序を一つ前に移動します。

(3) ［↓］ボタン

選択したフィルタリング条件の順序を一つ後ろに移動します。

(4) ［プロパティ］ボタン

フィルタリング条件一覧で指定されたフィルタリングの編集を行うために，フィルタリングの設定ダイアログボックス（図 8.3-4）を表示します。

(5) ［追加］ボタン

フィルタリング条件を新規に追加するために，フィルタリングの設定ダイアログボックス（図 8.3-4）を表示します。

(6) ［削除］ボタン

フィルタリング条件一覧で指定されたフィルタリングを削除します。

(7) ［条件に該当しないメールの通知方法を設定］ボタン

フィルタリング条件一覧の中で，フィルタリング条件のいずれにも該当しない場合の通知方法を設定するために，設定ダイアログボックス（図 8.3-4）を表示します。

8.3.3 フィルタリングの設定ダイアログボックス

フィルタリングの設定ダイアログボックスで監視対象にするメールの種類や監視対象のメールを受信したときの受信通知方法を設定します。

フィルタリングの設定ダイアログボックスを，図 8.3-4 に示します。

(1) 「条件設定」タブ

監視対象にするメールの種類（条件）を設定します。「条件設定」タブを，図 8.3-4 に示します。

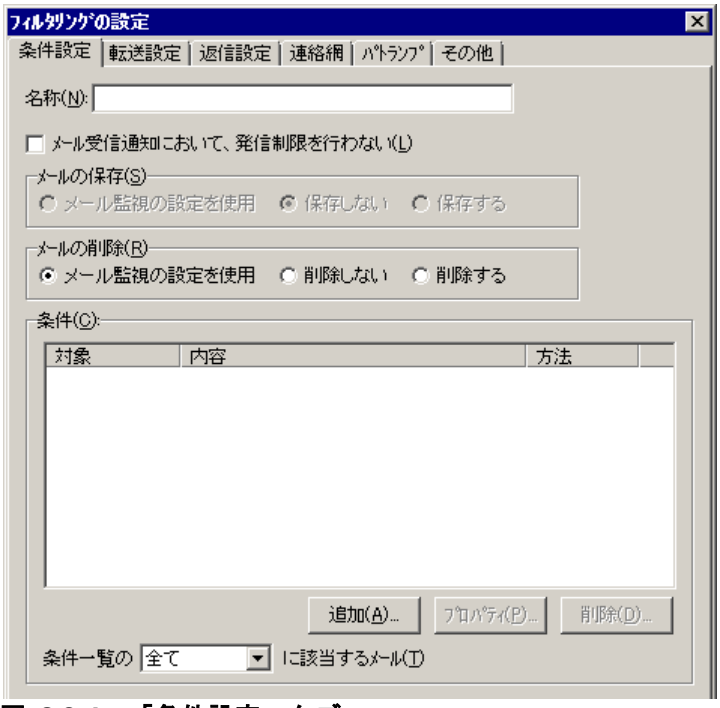


図 8.3-4 「条件設定」タブ

(a) 「名称」メッセージボックス

このメール監視条件の名称（フィルタリング名）を，50 桁以内で設定します。この名称は，メール監視ー「フィルタリング」タブの通知条件一覧フィールドに表示されます。フィルタリング名に，次の文字を使用できません。

″ ¥ / * ? [ ] = < > ! ’ $ % & ,

(b) 「メール受信通知において，発信制限を行なわない」チェックボックス

メールの受信通知時に発信制限しない場合，チェックします。

発信制限は，「連絡網」タブで設定した連絡網への発信，「その他」タブ「メールに発信」で設定したメール発信が対象となります。その他のタブで設定した発信は，発信制限の対象となりません。

発信制限機能の詳細については 2.3.27 項を参照してください。

(c) 「メールの保存」フィールド

フィルタリング条件に一致したメールの保存方法を設定します。

- メール監視－「全般」タブ（図 8.3-1）の「メールを受信箱に保存」チェックボックスの設定を使用する場合，「メール監視の設定を使用」ラジオボタンを選択します。
- フィルタリング条件に一致したメールを保存しない場合，「保存しない」ラジオボタンを選択します。
- フィルタリング条件に一致したメールをメール監視のプロパティダイアログボックス（図 8.2-1）の受信メールの保存方法に従って保存する場合，「保存する」ラジオボタンを選択します。メール監視のプロパティダイアログボックスの受信メールの保存方法で「保存しない」ラジオボタンを選択している場合は，保存できません。

(d) 「メールの削除」フィールド

リアルタイム監視の場合で，フィルタリング条件に一致したメールの削除方法を設定します。POP3 監視では，この項目は設定できません。

- メール監視－「全般」タブ（図 8.3-1）の「受信メールをサーバに残す」チェックボックスのチェックを外して使用する場合，「メール監視の設定を使用」ラジオボタンを選択します。
- フィルタリング条件に一致したメールを削除しない場合，「削除しない」ラジオボタンを選択します。
- フィルタリング条件に一致したメールを削除する場合，「削除する」ラジオボタンを選択します。

「削除する」ラジオボタンを選択すると AEPE または AESE が中継した後のメールの配送先（既存の SMTP メールサーバの場所）を環境設定－「E メール」タブ（図 4.1-9）に設定している場合で，中継した後，メール配送先への配送を抑止します。

また，SMTP メールサーバに登録されていないメールアドレス（架空アドレス）をメール監視する場合は，ここをチェックするか，またはメール監視－「全般」タブ（図 8.3-1）の「受信メールをサーバに残す」チェックボックスのチェックを外しておく必要があります。チェックしない場合，メール送信元に配送エラーメールが送信されます。

メールを保管する場合は，メール監視のプロパティダイアログボックス（図 8.2-1）の「受信メールの保存方法」フィールドと，メール監視－「全般」タブ（図 8.3-1），または「メールの保存」フィールドで受信箱に保存する設定を行います。

リアルタイム監視の注意事項は，「1.4.13 メール監視について」を参照してください。

(e) 「条件」フィールド

フィルタリング条件を設定します。［条件に該当しないメールの通知方法を設定］ボタンでフィルタリングの設定ダイアログボックスを表示した場合は，設定できません。

(f)　「条件」リストボックス

フィルタリング条件の設定ダイアログボックスで設定した条件を表示します。

(g)　［追加］ボタン

監視対象にするメールの種類（条件）を新規に追加するために，フィルタリング条件の設定ダイアログボックス（図 8.3-12）を表示します。

(h)　［プロパティ］ボタン

条件一覧で指定された条件の編集を行うために，フィルタリング条件の設定ダイアログボックス（図 8.3-12）を表示します。

(i)　［削除］ボタン

条件一覧で指定された条件を削除します。

(j)　「条件一覧の・・」ドロップダウンリスト

複数の条件を設定している場合，「全て該当」するか，「いずれかに該当する」するかの条件を選択します。

(2)　「転送設定」タブ

フィルタリング条件に一致したメールを受信したとき，自動転送の設定を行います。「転送設定」タブを，図 8.3-5 に示します。

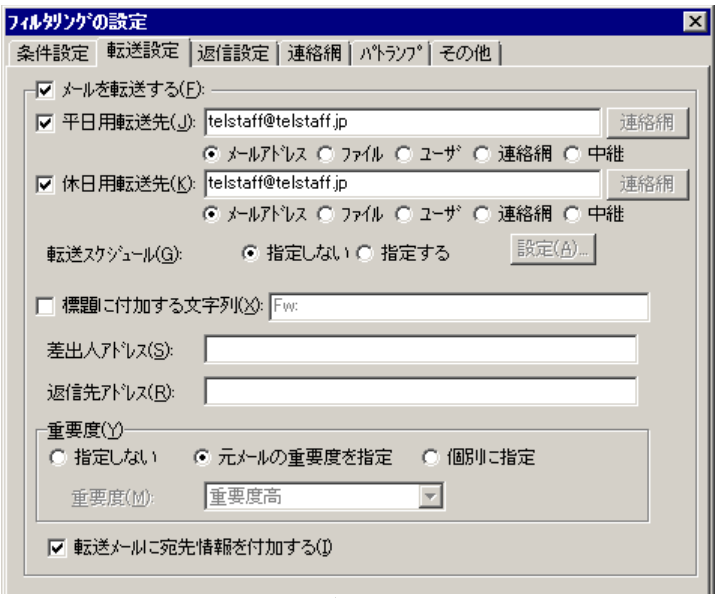


図 8.3-5　「転送設定」タブ

(a)　「メールを転送する」チェックボックス

フィルタリング条件に一致したメールを他のユーザに転送する場合，ここをチェックし

ます。メール監視するメールアドレスが環境設定－「E メール」タブで指定した送信者メールアドレスと同じ場合は，メールの転送はできません。

(b) 「平日用転送先」チェックボックス

平日にフィルタリング条件に一致したメールを転送する場合，ここをチェックします。平日と休日カレンダーは，メール監視－「全般」タブで設定します。メール監視－「全般」タブでカレンダーを設定していない場合は，システムカレンダーを使用します。

(c) 「平日用転送先」テキストボックス

フィルタリング条件に一致したメールの平日の転送先を設定します。平日の転送先の設定は，ラジオボタンで選択した種別によって異なります。

(d) 「休日用転送先」チェックボックス

休日にフィルタリング条件に一致したメールを転送する場合，ここをチェックします。平日と休日カレンダーは，メール監視－「全般」タブで設定します。メール監視－「全般」タブでカレンダーを設定していない場合は，システムカレンダーを使用します。

(e) 「休日用転送先」テキストボックス

フィルタリング条件に一致したメールの休日の転送先を設定します。休日の転送先の設定は，ラジオボタンで選択した種別によって異なります。

(f) 「メールアドレス」ラジオボタン

フィルタリング条件に一致したメールの転送先メールアドレスを完全修飾ドメイン名形式（「アカウント名@ドメイン名」の FQDN 形式）の 4096 桁以内で設定します。転送先メールアドレスは半角カンマで区切り複数指定することができます。同じメールアドレスを複数指定した場合は，各々に対してメール転送します。

転送先メールアドレスにメール監視するメールアドレスを指定した場合，または監視するメールアドレスを総称指定し，転送先メールアドレスを含む場合は，転送先メールアドレスへのメール転送を抑止します。

(g) 「ファイル」ラジオボタン

フィルタリング条件に一致したメールの転送先メールアドレスを指定したアドレスファイル名を 4096 桁以内指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［ファイル］ボタンでアドレスファイルの指定ダイアログボックスを開いてアドレスファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

アドレスファイルは，1 行に一つのメールアドレスを記述します。メールアドレスは，完全修飾ドメイン名形式（「アカウント名@ドメイン名」の FQDN 形式）で，行の先頭 1 文字目から記述します。同じメールアドレスを複数指定した場合は，各々に対してメール転送します。

転送先メールアドレスにメール監視するメールアドレスを指定した場合，または監視するメールアドレスを総称アドレス指定し，転送先メールアドレスを含む場合は，転送先メールアドレスへのメール転送を抑止します。アドレスファイルの形式を図 8.3-6 に示します。

```
転送先メールアドレス1
転送先メールアドレス2
        .
        .
        .
```

図 8.3-6　アドレスファイルの形式

(h)　「ユーザ」ラジオボタン

フィルタリング条件に一致したメールの転送先を，ユーザのプロパティー「メール」タブ（図 5.1-11）でメールアドレスを設定しているユーザ名を直接入力するか，［ユーザ］ボタンでユーザの選択ダイアログボックス（図 8.3-15）を開いてユーザ名を選択します。

ユーザ名は半角カンマで，区切りで，4096 桁以内で複数指定することができます。

指定したユーザに複数のメールアドレスを設定している場合，全てのメールアドレスに対してフィルタリング条件に一致したメールを転送します。また，ユーザ名を直接入力する場合では，同じユーザ名を複数指定した場合は，各々に対してメール転送します。

ユーザのプロパティダイアログボックス（図 5.1-6）に登録していないユーザ名および，メールアドレスを設定していないユーザ名は指定できません。未登録のユーザ名およびメールアドレスが未設定のユーザ名を指定した場合は，削除ユーザ名の確認ダイアログボックス（図 8.3-16）を表示します。

(i)　「連絡網」ラジオボタン

フィルタリング条件に一致したメールの転送先を，メール通知メディアだけを指定している連絡網 ID を直接入力するか，［連絡網］ボタンで連絡網 ID の選択ダイアログボックス（図 4.11-16）を開いて連絡網 ID を選択します。

連絡網 ID は半角カンマで，区切りで，4096 桁以内で複数指定することができます。連絡網 ID を直接入力する場合で，同じ連絡網 ID を複数指定した場合は，各々に対してメール転送します。メール通知メディア以外の通知先を指定した連絡網 ID を指定した場合は，その通知先にも発信を行います。

登録していない連絡網 ID は，指定できません。未登録の連絡網 ID を指定した場合は，削除連絡網 ID の確認ダイアログボックス（図 8.3-17）を表示します。

(j)　「中継」ラジオボタン

フィルタリング条件に一致したメールをこのメールの宛先に再送します（中継機能と呼びます）。中継機能は，TELstaff のメール開封確認機能を使用する場合や，元メールのメール重要度情報を削除したり変更する場合に使用します。

中継機能には，次に注意事項があります。

- 中継機能は，リアルタイム監視で使用でき，POP3 監視では使用できません。
- 中継機能では，転送先の指定はできません。

- フィルタリング条件に一致したメール（元メール）は，削除されます。元メールを保管する場合は，メール監視のプロパティダイアログボックス（図 8.2-1）の「受信メールの保存方法」フィールドで受信箱に保存する設定をしておきます。
- 中継方法は，teldial コマンドを使用して新たにメール送信を行います。このため元メールのメールヘッダー情報の一部が変更されます。

(k) ［開封確認］ボタン

メール開封確認機能の設定を行うためにメール開封確認ダイアログボックス（図 8.3-18）を表示します。

中継機能では，TELstaff のメール開封確認機能が使用できます。メール開封確認機能を使用する場合は，環境設定－「メール開封確認」タブ（図 4.1-22）でメール開封確認方法の設定が必要です。

(l) 「転送スケジュール」

転送スケジュールを設定します。平日と休日それぞれの時間帯のメールを転送する，転送しないなど細かなスケジューリングができます。

- 「指定しない」ラジオボタンを選択した場合，常にメール転送を行います。
- 「指定する」ラジオボタンを選択した場合，［設定(A)］ボタンをクリックしてメール転送のスケジュールを設定します。平日と休日カレンダーは，メール監視－「全般」タブで設定します。メール監視－「全般」タブでカレンダーを設定していない場合は，システムカレンダーを使用します。

(m) 「標題に付加する文字列」チェックボックス

メール転送時に，標題の先頭に付加する文字を指定する場合は，ここをチェックし，付加する文字列を 64 桁以内で指定します。文字列を付加しない場合は，省略します。このチェックボックスにチェックしない場合は，標題の先頭に「Fw:」を付加します。

(n) 「差出人アドレス」テキストボックス

フィルタリング条件に一致したメールの差出人アドレス（From 情報）を変更してメール転送する場合，変更する差出人アドレスを 256 桁以内で指定します。省略した場合は，このメールの差出人アドレスを使用します。

(o) 「返信先アドレス」テキストボックス

フィルタリング条件に一致したメールの返信先アドレス（Reply-To 情報）を変更してメール転送する場合，変更する返信先アドレスを 256 桁以内で指定します。省略した場合は，このメールの返信先アドレス（Reply-To 情報）を使用し，返信先アドレスが無い場合は差出人アドレス（From 情報）を使用します。

(p) 「重要度」フィールド

フィルタリング条件に一致したメールの重要度を変更または削除して，メール転送やメール中継を行います。選択肢の意味を以下に示します。

- 「指定しない」を選択した場合，重要度を指定せずに（削除して）メール転送を行います。
- 「元メールの重要度を指定」を選択した場合，そのメールに元々指定されていた重要度を維持したままメール転送を行います。
- 「個別に指定」を選択した場合，「重要度」ドロップダウンリストで選択した重要度でメール転送を行います。

TELstaff のメール重要度の扱いについては 2.3.1(5)(c)を参照してください。

(q) 「重要度」ドロップダウンリスト

「重要度」フィールドで「個別に指定」を選択した場合に，どの重要度でメールを転送するかを指定します。重要度高，重要度やや高，通常，重要度やや低，重要度低のいずれかを選択可能です。

(r) 「転送メールに宛先情報を付加する」チェックボックス

フィルタリング条件に一致したメールを他のユーザに転送する場合，宛先情報を付加するときチェックします。添付ファイル付きメール，受信メールが複数のパートに分かれている場合など，受信したメールによっては，宛先情報が付加されない場合があります。宛先情報は，メール本文の先頭に次の形式の宛先情報が付加されます。中継機能を使用する場合，宛先情報の付加はできません。

```
---------------- Original Mail Information ----------------
From: xxxxxxxxxx
Reply-To: xxxxxxx
To: xxxxxx
Cc: xxxxxxxx
-----------------------------------------------------------------
```

(3) 「返信設定」タブ

フィルタリング条件に一致したメールを受信したとき，自動返信の設定を行います。「返信設定」タブを，図 8.3-7 に示します。

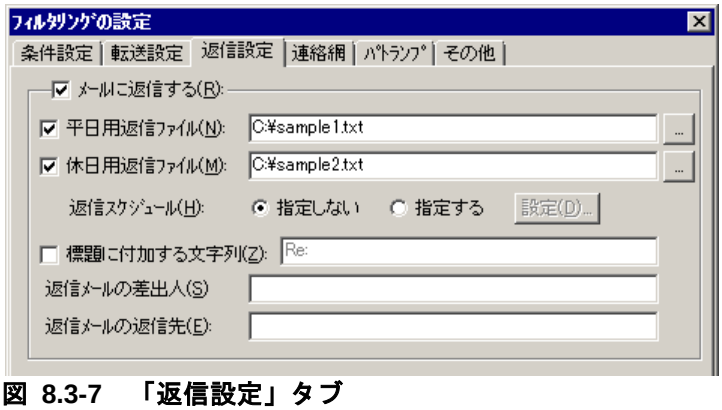


図 8.3-7 「返信設定」タブ

(a) 「メールに返信する」チェックボックス

フィルタリング条件に一致したメールに返信する場合，ここをチェックします。

(b) 「平日用返信ファイル」チェックボックス

平日にフィルタリング条件に一致したメールに返信を行う場合，ここをチェックします。平日と休日カレンダーは，メール監視－「全般」タブで設定します。メール監視－「全般」タブでカレンダーを設定していない場合は，システムカレンダーを使用します。

(c) 「平日用返信ファイル」テキストボックス

フィルタリング条件に一致したメールに返信する場合の，平日用の返信ファイル名を 520 桁以内で指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(d) 「休日用返信ファイル」チェックボックス

休日にフィルタリング条件に一致したメールに返信を行う場合，ここをチェックします。平日と休日カレンダーは，メール監視－「全般」タブで設定します。メール監視－「全般」タブでカレンダーを設定していない場合は，システムカレンダーを使用します。

(e) 「休日用返信ファイル」テキストボックス

フィルタリング条件に一致したメールに返信する場合の，休日用の返信ファイル名を 520 桁以内で指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(f) 「返信スケジュール」

返信スケジュールを設定します。平日と休日それぞれの時間帯のメールを返信する，返信しないなど細かなスケジューリングができます。

- 「指定しない」ラジオボタンを選択した場合，常にメール返信を行います。
- 「指定する」ラジオボタンを選択した場合，［設定(D)］ボタンをクリックしてメール返信のスケジュールを設定します。平日と休日カレンダーは，メール監視－「全般」タブで設定します。メール監視－「全般」タブでカレンダーを設定していない場合は，システムカレンダーを使用します。

(g) 「標題に付加する文字列」チェックボックス

メール返信時に，標題の先頭に付加する文字を指定する場合は，ここをチェックし，付加する文字列を 64 桁以内で指定します。文字列を付加しない場合は，省略します。このチェックボックスにチェックしない場合は，標題の先頭に「Re:」を付加します。

(h) 「返信メールの差出人」テキストボックス

返信メールの差出人アドレス（From 情報）を 256 桁以内で指定します。省略した場合は，メール監視ー「全般」タブの「メールアドレス」テキストボックスで設定したメールアドレスアドレスを使用します。「メールアドレス」テキストボックスで総称アドレス指定している場合は，該当したメールアドレスを使用します。

(i) 「返信メールの返信先」テキストボックス

返信メールの返信先アドレス（Reply-To 情報）を 256 桁以内で指定します。省略した場合は，「返信メールの差出人」テキストボックスの差出人アドレスとなります。

返信メールの返信先アドレスにメール監視するメールアドレスを指定した場合，または監視するメールアドレスを総称アドレス指定し，返信メールの返信先アドレスを含む場合は，自動返信を抑止します。

(4) 「連絡網」タブ

フィルタリング条件に一致したメールを受信したとき，連絡網発信の設定をします。連絡網を使用した通知は，メール監視が teldial コマンドを使用して通知を行います。「連絡網」タブを，図 8.3-8 に示します。

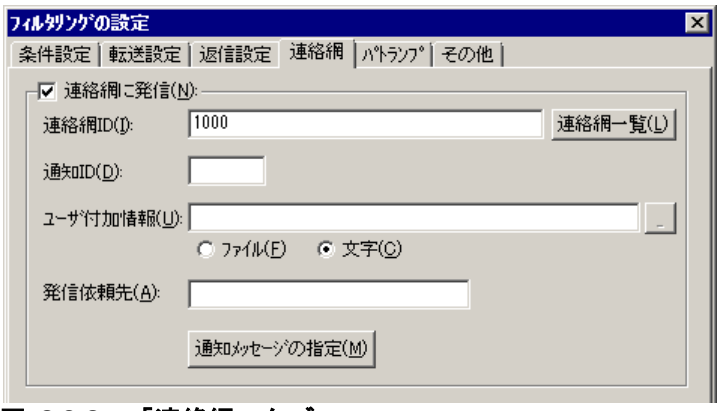


図 8.3-8 「連絡網」タブ

(a) 「連絡網に発信」チェックボックス

フィルタリング条件に一致したメールを受信したとき，連絡網に発信する場合，ここをチェックします。

(b) 「連絡網ID」テキストボックス

発信する連絡網 ID を，0001～9998 までの 4 桁の半角数字で設定します。

ここで指定した連絡網 ID は，teldial コマンドの-ni オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-ni オプションを参照してください。

フィルタリング条件に一致したメールを受信したとき，複数の連絡網（ID）に対して発信できます。

連絡網 ID を複数指定するときは「，」（半角カンマ）区切りで指定します。

連絡網への発信では，メール監視が teldial コマンドを生成して発信を行います。

連絡網 ID を複数指定すると，指定した連絡網 ID について同じオプションを使用した

teldial コマンドを生成します。

連絡網 ID を多数指定した場合，発信要求が多数キューイングされ発信の滞留と遅延が発生する以外に，システムのリソースを消費しアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に影響を与える場合があります。

(c) ［連絡網一覧］ボタン

連絡網 ID の選択ダイアログボックスを表示します。

(d) 「通知ID」テキストボックス

通知 ID を 4 桁の半角数字で指定します。

ここで指定した通知 ID は，teldial コマンドの-id オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-id オプションを参照してください。

通知 ID は，通知するメッセージテキスト中の「~id2~」変数と置き換えられます。

通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。

(e) 「ユーザ付加情報」テキストボックス

ユーザ付加情報を文字で指定する場合は「文字」ラジオボタンを，ユーザ付加情報を格納したファイル名で指定する場合は「ファイル」ラジオボタンを選択します。

ユーザ付加情報は，通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えられます。ユーザ付加情報をファイル名で指定する場合は，FAX 送信ファイルと電話通知文ファイルに~UserInformation~ 変数は，使用できません。

●「文字」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（全て全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，ファイルを使用してください。

ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。ユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

（例）-u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「；」（半角セミコロン）で区切ると複数行に分割でき，「；」は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例） -u "ユーザ付加情報 1 行目；ユーザ付加情報 2 行目"

ユーザ付加情報を文字で指定する場合は，teldial コマンドの-u オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-u オプションを参照してください。

ユーザ付加情報には，表 8.1-1 に示す※5 の変数が使用できます。

●「ファイル」ラジオボタンを選択した場合

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を，ファイル完全名で指定するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ユーザ付加情報をファイル名で指定する場合は，teldial コマンドの-uf オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-uf オプションを参照してください。

ユーザ付加情報を格納したファイル中には，表 8.1-1 に示す※5 の変数と※6 の変数が使用できます。

(f) 「発信依頼先」テキストボックス

メール監視の通知を発信依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

ここで指定した発信依頼先は，teldial コマンドの-to オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-to オプションを参照してください。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

指定のない場合は自コンピュータで発信を行います。

発信依頼には，「2.3.1(1)(h) 発信依頼」に示す注意事項があります。

(g) ［通知メッセージの指定］ボタン

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスを表示します。

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスで個別の通知メッセージや通知ファイルを設定します。個別の通知メッセージや通知ファイルを使用しない場合は，メール監視の標準通知文を使用するため設定の必要はありません。

(5) 「パトランプ」タブ

フィルタリング条件に一致したメールを受信したとき，パトランプ通知の設定をします。パトランプを使用する場合，「2.3.2 パトランプと電気機器の作動」に注意事項があります。

「パトランプ」タブを，図 8.3-9 に示します。設定方法の詳細は，「4.11.4(3) サービス監視設定－「パトランプ」タブ」を参照してください。

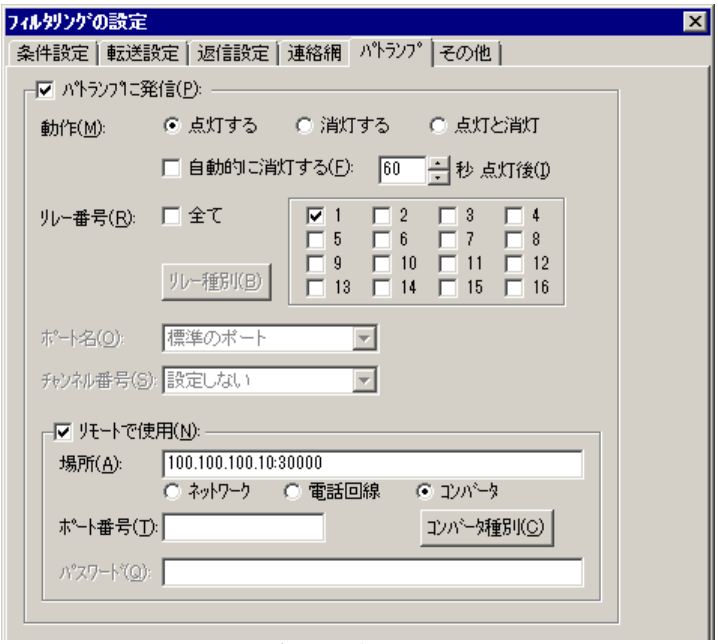


図 8.3-9 「パトランプ」タブ

(6) 「その他」タブ

フィルタリング条件に一致したメールの受信時に Messenger サービスでのメッセージ通知，メール通知，サウンド再生，および受信メールの読み上げを行う場合，ここで通知方法を設定します。「その他」タブを，図 8.3-10 に示します。

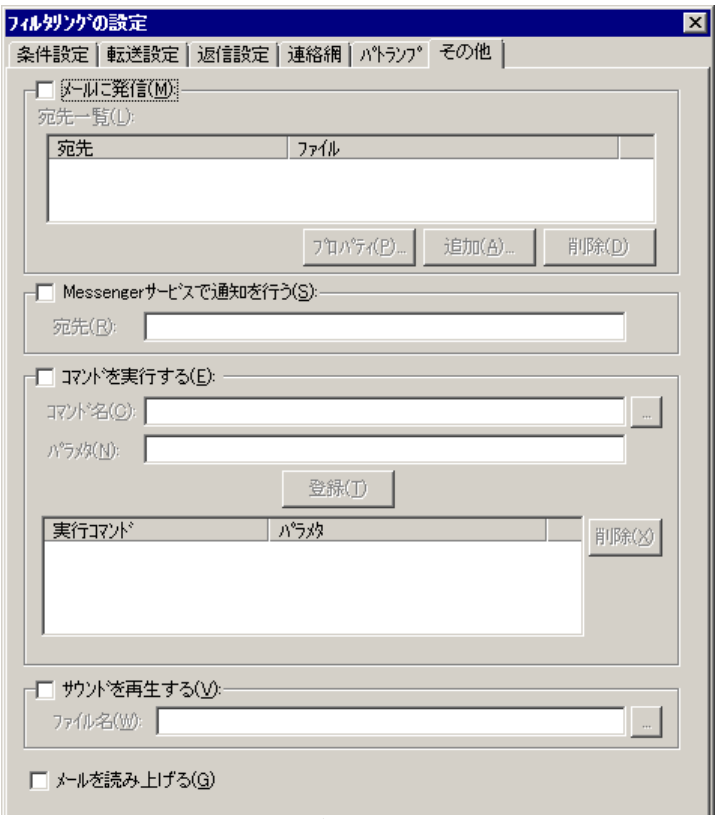


図 8.3-10 「その他」タブ

(a) 「メールに発信」チェックボックス

フィルタリング条件に一致したメールを受信したときに，メールに通知をする場合，こ

こをチェックします。

(b)　［プロパティ］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，宛先情報を変更します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 8.3-11 に示します。

(c)　［追加］ボタン

メール通知情報の設定ダイアログボックスを開き，メール通知する宛先を設定します。メール通知情報の設定ダイアログボックスを図 8.3-11 に示します。

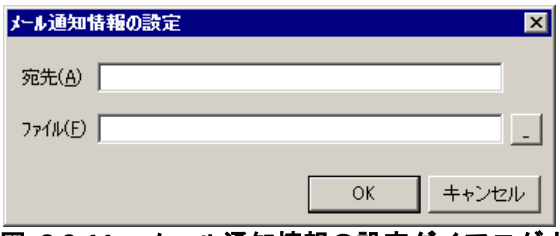


図 8.3-11　メール通知情報の設定ダイアログボックス

- **「宛先」テキストボックス**

通知の宛先メールアドレスを指定します。

なおメール監視機能での監視対象メールアドレスを指定する場合は注意が必要です。例えば，もし TELstaff からの通知メールを契機に通知メールが送信されるような設定になっていると，通知メールを検知して通知メールが送信され，無限に繰り返しメールが送信され続ける状態になってしまいます。

- **「ファイル」テキストボックス**

メールに通知するときの通知文を格納したファイル名を指定します。

ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，メール監視用の標準メッセージ通知文を使用します。メール監視用の標準メッセージ通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

標準メッセージ通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。メッセージ通知文では，表 8.1-1 に示す変数が使用できます。

(d)　［削除］ボタン

宛先情報を削除します。

(e)　「Messengerサービスで通知を行う」チェックボックス

フィルタリング条件に一致したメールを受信したときに，Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知を使用して通知する場合，ここをチェックします。両者の違いや注意事項については 2.3.1(12)を参照してください。

メッセンジャー通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。省略すると，メール監視用の標準メッセンジャー通知文を使用します。メール監視用の標準メッセンジャー通知文は，カスタマイズできます。カスタマイズは，「環境設定」の「カスタマイズ」タブで行います。

標準メッセンジャー通知文のカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を，ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

メッセンジャー通知文では，表 8.1-1 に示す変数が使用できます。

(f) 「宛先」テキストボックス

Messenger サービスまたは TELstaff ポップアップ通知の通知先を指定します。宛先指定方法については 2.3.1(12)(c)を参照してください。なお，宛先欄に何も指定しない場合は自コンピュータに Messenger 通知を行います。

宛先は，「，」（半角カンマ）区切りで，合計の文字数がカンマを含め半角 256 文字以内で複数指定できます。

(g) 「コマンドを実行する」チェックボックス

フィルタリング条件に一致したメールを受信したときに，コマンドを実行する場合チェックします。

(h) 「コマンド名」テキストボックス

実行するコマンド名を完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして実行するコマンドを選択します。ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

ここで指定したコマンドの実行時間が 30 分経過しても終了しない場合は，実行を打ち切ります。

(i) 「パラメタ」テキストボックス

実行するコマンドのパラメタを指定します。

コマンドパラメタには，表 8.1-1 に示す※5 の変数と~ReceivedMail~，~ReceivedMail1~，~ReceivedMailHeader~，~ReceivedMailBody~変数が使用できます。~ReceivedMail~，~ReceivedMail1~，~ReceivedMailHeader~，~ReceivedMailBody~変数を使用する場合は，表 8.1-1 に示す（注※3）（注※4）の注意事項があります。

(j) ［登録］ボタン

「コマンド名」テキストボックスに指定したコマンドを登録します。［登録］ボタンを押すと「実行コマンド」リストボックスにコマンド名が表示されます。

(k)　［削除］ボタン

「実行コマンド」リストボックスで選択されたコマンドを削除します。

(l)　「実行コマンド」リストボックス

登録したコマンドの一覧を表示します。登録したコマンドの変更は，次の操作で変更できます。

1. 「実行コマンド」リストボックスで変更するコマンドを選択します。
2. ダブルクリックで登録コマンドの内容を「コマンド名」テキストボックスと「パラメタ」テキストボックスに表示させます。
3. コマンドを変更して，再度［登録］ボタンを押します。変更するコマンドの選択状態を解除して［登録］ボタンを押した場合，追加登録になります。

(m)　「サウンドを再生する」チェックボックス

フィルタリング条件に一致したメールを受信したとき，サウンドの再生を行う場合，ここをチェックします。

(n)　「ファイル名」テキストボックス

再生するサウンドファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

(o)　「メールを読み上げる」チェックボックス

フィルタリング条件に一致したメールを音声合成ソフトウェアを使用して音声で読み上げる場合，ここをチェックします。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

音声読み上げ時の注意事項は，次の関連説明の項を参照してください。

【関連説明】

- 4.3　テキスト音声変換の設定
- 4.4.2(3)(a)　［メッセージエージェント構成の設定］－［自動的に読み上げる］チェックボックス

8.3.4 フィルタリング条件の設定ダイアログボックス

受信したメールのフィルタリング条件の設定と，フィルタリングに該当した場合の通知先の設定を行います。

フィルタリング条件の設定ダイアログボックスを図 8.3-12 に示します。

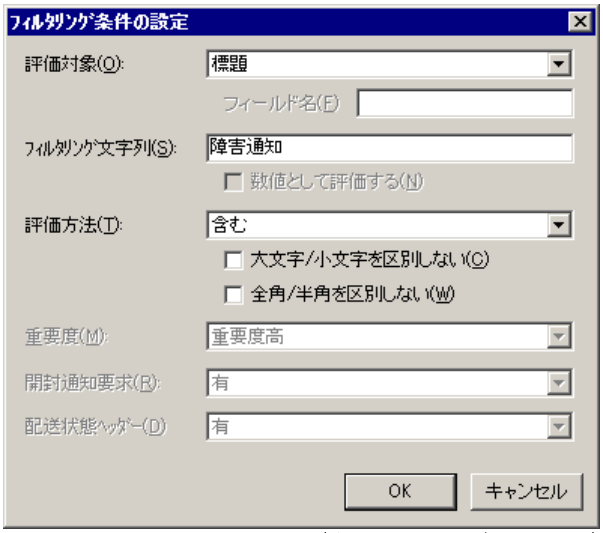


図 8.3-12　フィルタリング条件の設定ダイアログボックス

(1) 「評価対象」ドロップダウンリスト

フィルタリング処理で何を評価対象とするかをドロップダウンリストから選択します。選択可能な値の一覧を表 8.3-2 に示します。

表 8.3-2　フィルタリング処理で評価対象に指定可能な項目

評価対象	説明
標題	メールの標題を評価対象としたフィルタリング処理を行います。
差出人	メールの差出人（From 情報）を評価対象としたフィルタリング処理を行います。
メール本文	メールの本文を評価対象としたフィルタリング処理を行います。分割メールの場合は，分割された最初のメールの本文を使用します。
メールヘッダー	メールヘッダー情報全体を評価対象としたフィルタリング処理を行います。
To ヘッダー	メールの To 情報を評価対象としたフィルタリング処理を行います。
Cc ヘッダー	メールの Cc 情報を評価対象としたフィルタリング処理を行います。
Reply-To ヘッダー	メールの Reply-To 情報を評価対象としたフィルタリング処理を行います。
重要度	メールの重要度を評価対象としたフィルタリング処理を行います。
開封通知要求	メールの開封通知要求情報を評価対象としたフィルタリング処理を行います。
配送状態ヘッダー	配送状態通知情報を評価対象としたフィルタリング処理を行います。
メール本文中のフィールド	メール本文中にある特定のフィールドを評価対象としたフィルタリング処理を行います。フィールドについての詳細は 8.1.1(5)を参照してください。

(2) 「フィールド名」テキストボックス

メール本文中にある特定のフィールドの値でフィルタリング処理を行う場合，ここに評価対象にするフィールド名を指定します。指定したフィールドの値が満たすべき条件は，「フィルタリング文字列」欄および「評価方法」欄で指定してください。

もし指定した名前のフィールドがメール本文中に無い場合，常に「フィルタ条件に合致しない」と判定します。またフィールド名における大文字・小文字の違い，および全角・半角の違いは常に区別されます。フィールドに関する詳細については 8.1.1(5)を参照して

ください。

(3) 「フィルタリング文字列」テキストボックス

条件にする文字列を 4096 桁以内で指定します。文字列は，半角セミコロン区切り，または半角空白区切りで複数指定できます。条件にする文字列に半角セミコロン，または半角空白を含める場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。ただし評価対象として「本文中のフィールド」を選択し，かつ評価方法に「以上である」，「以下である」を指定した場合は，半角セミコロン・半角空白区切りによる複数指定はできません。

フィルタリングの評価対象として「重要度」，「開封通知要求」，「配送状態ヘッダー」を選択した場合，この入力欄は使用できません。フィルタリング文字列と評価方法の組み合わせについては 8.3.4(11)の指定例も参照してください。

(4) 「数値として扱う」チェックボックス

このチェックボックスをチェックすると，評価対象とする本文中フィールドの値を数値として解釈します。フィールドの値が数値として解釈できない場合は，常に「フィルタ条件に一致しない」とみなします。なお本チェックボックスにチェックを入れる場合，「フィルタリング文字列」欄には半角文字で数値を入力してください。詳細は 8.1.1(5)を参照してください。

本項目は，フィルタリングの対象項目として「本文中のフィールド」を選択した場合のみ有効です。

(5) 「評価方法」ドロップダウンリスト

評価対象の文字列値または数値を，「フィルタリング文字列」欄で指定した値とどのように比較・評価するかを指定します。選択可能な値の一覧を表 8.3-3 に示します。

フィルタリングの評価対象として「重要度」，「開封通知要求」，「配送状態ヘッダー」を選択した場合，この入力欄は使用できません。

表 8.3-3 メール監視のフィルタリング処理で指定可能な評価方法

評価方法	説明
一致する	評価対象に指定した文字列または数値が，指定したフィルタリング文字列の**いずれかと一致する**場合に，フィルタリング条件に合致したと判断します。
一致しない	評価対象に指定した文字列または数値が，指定したフィルタリング文字列の**いずれにも一致しない**場合に，フィルタリング条件に合致したと判断します。
含む	評価対象に指定した文字列が，指定したフィルタリング文字列の**いずれかを含む**場合に，フィルタリング条件に合致したと判断します。
含まない	評価対象に指定した文字列が，指定したフィルタリング文字列の**いずれも含まない**場合に，フィルタリング条件に合致したと判断します。
始まる	評価対象に指定した文字列の**先頭部分が**，指定したフィルタリング文字列の**いずれかに一致する**場合に，フィルタリング条件に合致したと判断します。
始まらない	評価対象に指定した文字列の**先頭部分が**，指定したフィルタリング文字列の**いずれにも一致しない**場合に，フィルタリング条件に合致したと判断し

評価方法	説明
	ます。
終わる	評価対象に指定した文字列の**末尾部分が**，指定したフィルタリング文字列の**いずれかに一致する**場合に，フィルタリング条件に合致したと判断します。
終わらない	評価対象に指定した文字列の**末尾部分が**，指定したフィルタリング文字列の**いずれにも一致しない**場合に，フィルタリング条件に合致したと判断します。
以上である	評価対象に指定したメール本文中のフィールドの値が，「フィルタリング文字列」欄で指定した数値**以上**である場合に，フィルタリング条件に合致したと判断します。
以下である	評価対象に指定したメール本文中のフィールドの値が，「フィルタリング文字列」欄で指定した数値**以下**である場合に，フィルタリング条件に合致したと判断します。

フィルタリング文字列と評価方法の組み合わせについては 8.3.4(11)の指定例も参照してください。

(a) 注意事項

- フィルタリング評価対象として差出人（From ヘッダー），メールヘッダー，To ヘッダー，Cc ヘッダー，または Reply-To ヘッダーを選択する場合，評価方法として「含む」または「含まない」を使用することを推奨します。E メールの仕様上，これらのヘッダーにはメールアドレスが複数指定されたり，メールアドレス以外のコメント情報などが含まれたりするためです。
- フィールドの値を数値として解釈する機能を使用する場合，動作の詳細について 8.1.1(5)(b)で確認してください。

(6) 「大文字／小文字を区別しない」チェックボックス

「フィルタリング文字列」テキストボックスで指定した文字列を大文字／小文字で区別しないときチェックします。

フィルタリングの対象項目の「重要度」，「開封通知要求」，「配送状態ヘッダー」を選択した場合は，指定できません。

(7) 「全角／半角を区別しない」チェックボックス

「フィルタリング文字列」テキストボックスで指定した文字列を全角／半角で区別しないときチェックします。

フィルタリングの対象項目の「重要度」，「開封通知要求」，「配送状態ヘッダー」を選択した場合は，指定できません。

(8) 「重要度」ドロップダウンリスト

メールの重要度指定をどのようにフィルタリング評価するかを指定します。この項目は，フィルタリングの対象項目として「重要度」を選択した場合にのみ設定できます。

TELstaff のメール重要度の扱いについては 2.3.1(5)(c)を参照してください。

(9) 「開封通知要求」ドロップダウンリスト

メールの開封通知要求情報を条件にする場合で，開封通知要求情報があるメールを条件にする場合は「有」を，開封通知要求情報がないメールを条件にする場合は，「無」を選択します。

フィルタリングの対象に「開封通知要求」を選択したとき設定できます。

開封通知要求情報は，「Disposition-Notification-To」情報を参照します。

(10)「配送状態ヘッダー」ドロップダウンリスト

メールサーバからの配送状態通知（配送エラー通知や配送通知など）を条件にする場合で，配送状態通知メールを条件にする場合は「有」を，条件にしないときは，「無」を選択します。

フィルタリングの対象に「配送状態ヘッダー」を選択したとき設定できます。配送状態通知情報は，「Content-Type: multipart/report; report-type=delivery-status;」情報を参照します。

(11) フィルタリング文字列と評価方法の指定例

メールの標題を評価対象に指定しており，かつ次のような標題のメールを受信した場合：

[障害]サーバ dns01 のPING応答が消失しました

フィルタリング文字列と評価方法の組み合わせによって次のように評価されます。

フィルタリング文字列	評価方法	結果
[障害];[警告]	始まる	合致する
サーバ dns01	含む	合致する
サーバ dns02	含む	合致する
サーバ dns01	含まない	合致しない
サーバ dns02	含まない	合致しない
"サーバ dns01"	含む	合致する
"サーバ dns02"	含む	合致しない

8.3.5 連絡網IDの選択ダイアログボックス

連絡網 ID の選択ダイアログボックスで，通知先で使用する 1 つまたは複数の連絡網 ID を選択します。設定方法の詳細は，「4.11.6 連絡網 ID の選択ダイアログボックス」を参照してください。

連絡網 ID の選択ダイアログボックスを図 8.3-13 に示します。

図 8.3-13　連絡網IDの選択ダイアログボックス

8.3.6 連絡網メッセージの指定ダイアログボックス

連絡網メッセージの指定ダイアログボックスで個別の通知メッセージや通知ファイルを設定します。個別の通知メッセージや通知ファイルを使用しない場合は，メール監視の標準通知文を使用するため設定の必要はありません。

通知内容と連絡網に必要な通知メディア一覧を表 8.3-4 に，連絡網メッセージの指定ダイアログボックスを図 8.3-14 に示します。

表 8.3-4　通知内容と連絡網に必要な通知メディア一覧

通知内容	省略時	使用ｵﾌﾟｼｮﾝ	連絡網に必要なメディア
電話メッセージ	標準	-fv	電話
ショートメッセージ	-	-fb，-m	SMS
メッセージファイル	標準	-fm,-fdp,-fc	※1
メールにファイル添付	-	-fa	メール
表示ボードメッセージ	標準	-fs1，-s1	表示ボード
FAX メッセージ	標準	-ff	FAX
Wav ファイル	-	-fdw	デスクトップ
読み上げメッセージ	標準	-fdt	デスクトップ
フレームへの画像通知	-	-	デスクトップ

注※１　メール通知，デスクトップ通知，エージェント通知のいずれかが必要になります。
注※２　「標準」は，省略時にはメール監視の標準通知文を使用します。「-」は，省略できず指定が必要な項目です。

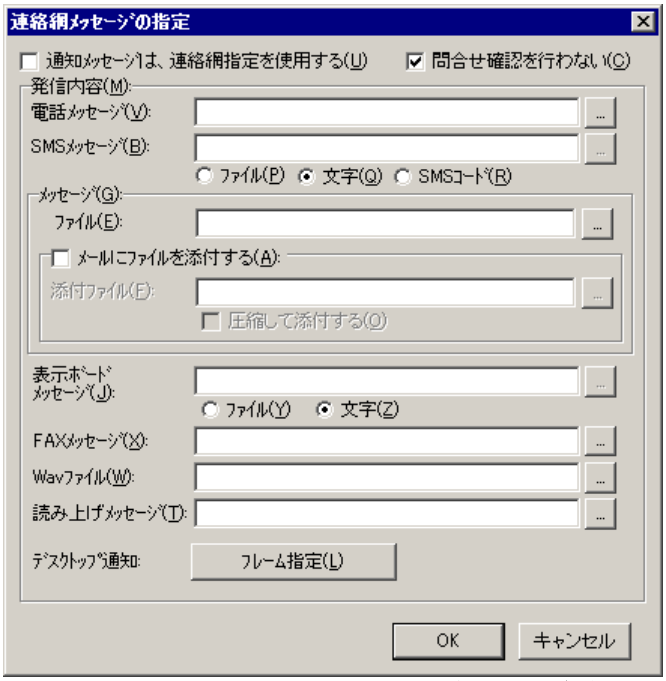


図 8.3-14　連絡網メッセージの指定ダイアログボックス

(a)　「通知メッセージは，連絡網指定を使用する」チェックボックス

全ての通知メッセージは，全て連絡網で指定した通知メッセージを使用する場合，ここをチェックします。

連絡網で指定した通知メッセージを使用する場合，メール監視の変数は使用できません。

(b)　「問合せ確認を行わない」チェックボックス

発信が終了したとき（問合せ確認を行わないとき）発信記録を削除する場合，ここをチェックします。

詳細は，連絡網プロパティー「基本設定」タブ（図 5.3-35）の「問合わせ確認は行わない」チェックボックス，および teldial コマンドの -k オプションを参照してください。

(c)　「電話メッセージ」テキストボックス

電話発信を行う場合，電話通知メッセージを格納した電話通知文のファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。
音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

電話通知文には，表 8.1-1 に示す変数が使用できます。

電話通知文を省略すると，メール監視用の標準電話通知文を使用します。

ここで指定した電話通知文は，teldial コマンドの-fv オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fv オプションを参照してください。

(d) 「SMSメッセージ」テキストボックス

SMS 通知で使用するメッセージを指定します。詳細は，連絡網プロパティー「発信内容」タブ（図 5.3-37）の「SMS メッセージ」フィールドを参照してください。

メッセージファイル指定では，表 8.1-1 に示す変数が使用でき，文字指定のメッセージでは，表 8.1-1 に示す※5 の変数が使用できます。

ここで指定したメッセージは，teldial コマンドの-m オプションに，メッセージファイルでは，-fb オプションに，コードでは，-w オプションを使用します。

- 「文字」の場合

  メッセージを英数字，カナ，漢字で直接入力します。メッセージは 260 バイトまで指定可能です。

  メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。

- 「ファイル」の場合

  メッセージが格納されたファイルのファイル名を指定します。ファイル名は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。ファイルは，「+」区切りで 3 つのファイルまで複数指定できます。ただし，ファイル名文字数の合計は「+」文字を含め 520 桁以内です。

- 「SMS コード」の場合

  メッセージをコードで入力します。環境設定「SMS」タブの「SMS の設定ダイアログボックス」の最大メッセージ長で指定したバイト数のみ通知します。コードは，各社の説明書をお読みください。

(e) 「メッセージファイル」テキストボックス

メール，デスクトップおよび PC にメッセージ通知するとき，通知メッセージを格納したメッセージ通知文のファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

メッセージ通知文では，表 8.1-1 に示す変数が使用できます。

メッセージ通知文を省略すると，メール監視用の標準メッセージ通知文を使用します。

ここで指定したメッセージ通知文は，teldial コマンドの -fm，-fdp，-fc オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの -fm，-fdp，-fc オプションを参照してください。

(f) 「メールにファイルを添付する」チェックボックス

メールに通知するときで，メールにファイルを添付する場合，ここをチェックします。

(g) 「添付ファイル」テキストボックス

メールに添付するファイルを指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません

ここで指定した添付ファイルは，teldial コマンドの-fa オプションに使用します。

詳細は，teldial コマンドの-fa オプションを参照してください。

(h) 「圧縮して添付する」チェックボックス

メールに添付するファイルは圧縮して添付する場合，ここをチェックします。
圧縮したファイルのファイル拡張子は，cab になります。

(i) 「表示ボードメッセージ」テキストボックス

表示ボードに通知するメッセージを指定します。

表示ボードメッセージを文字で指定する場合は，「文字」ラジオボタンを，通知メッセージを格納した表示ボード通知文のファイル名を指定する場合は，「ファイル」ラジオボタンを選択します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

表示ボードメッセージを省略すると，メール監視用の標準表示ボード通知文を使用します。

表示ボード通知文指定では，表 8.1-1 に示す変数が使用でき，文字指定の表示ボードメッセージでは，表 8.1-1 に示す※5 の変数が使用できます。

ここで指定した表示ボードメッセージは，teldial コマンドの-s1 オプションに，表示ボード通知文では，-fs1 オプションを使用します。詳細は，teldial コマンドの-s1，-fs1 オプションを参照してください。

(j) 「FAXメッセージ」テキストボックス

FAX に通知するとき，通知メッセージを格納した FAX 通知文のファイル名を指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

FAX 通知文では，表 8.1-1 に示す変数が使用できます。

FAX 通知文を省略すると，メール監視用の標準 FAX 通知文を使用します。

ここで指定した FAX 通知文は，teldial コマンドの-ff オプションに使用します。詳細は，

teldial コマンドの-ff オプションを参照してください。

(k) 「Wavファイル」テキストボックス

デスクトップ通知時にオーディオメディアファイルを再生させるとき，オーディオメディアファイルのファイル名を指定します。

ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。

ここで指定したオーディオメディアファイルは，teldial コマンドの-fdw オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fdw オプションを参照してください。

(l) 「読み上げメッセージ」テキストボックス

デスクトップ通知時にメッセージを読み上げさせるとき，通知メッセージを格納した読み上げ通知文のファイル名を指定します。ファイル名は完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックしてファイル名を選択します。ネットワークドライブのファイル名，および Windows 外部デバイスファイル名は，指定できません。読み上げ通知文では，表 8.1-1 に示す変数が使用できます。

読み上げ通知文を省略すると，メール監視用の標準読み上げ通知文を使用します。ここで指定した読み上げ通知文は，teldial コマンドの-fdt オプションに使用します。詳細は，teldial コマンドの-fdt オプションを参照してください。

(m) ［フレーム指定］ボタン

デスクトップ通知時，各フレームに表示する画像の指定ダイアログボックスを表示します。

フレームに表示する画像の指定ダイアログボックスは，図 4.11-18 を参照してください。

8.3.7 ユーザの選択ダイアログボックス

ユーザのプロパティー「メール」タブ（図 5.1-11）でメールアドレスを設定しているユーザを表示します。メールアドレスを設定しているユーザが 1 つも無い場合は，ユーザの選択ダイアログボックスを表示できません。

ユーザの選択ダイアログボックスを図 8.3-15 に示します。

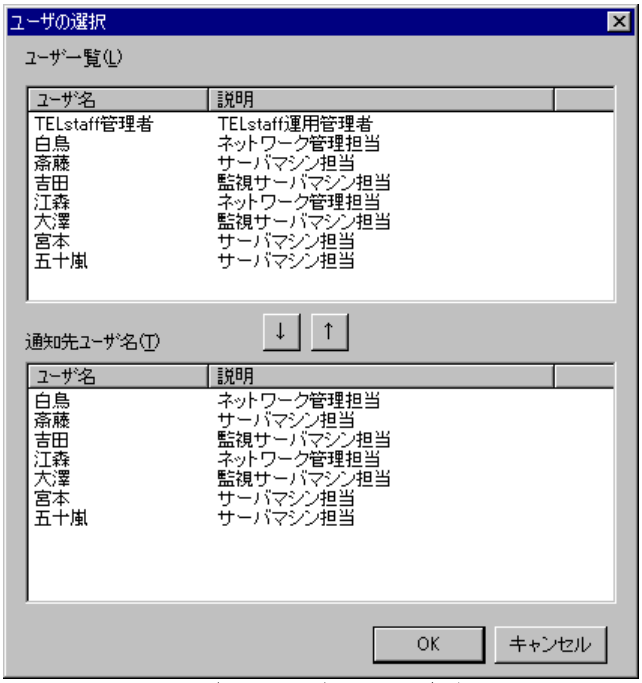


図 8.3-15　ユーザの選択ダイアログボックス

(a)　「ユーザー覧」リストボックス

現在，プロパティー「メール」タブ（図 5.1-11）でメールアドレスを設定している全てのユーザを表示します。

(b)　［↓］ボタン

「ユーザー覧」リストボックスに表示されている 1 つまたはユーザ名を選択して「通知先ユーザ名」リストボックスに移動します（メール転送時の送信先で使用します）。ユーザ名を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択します。

1 つのユーザ名を選択したときは，ダブルクリックで「通知先ユーザ名」リストボックスに移動します。

(c)　［↑］ボタン

「通知先ユーザ名」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数のユーザ名を削除します（メール転送時の送信先から外します）。ユーザ名を複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択します。

1 つのユーザ名を選択したときは，ダブルクリックで削除します（メール転送時の送信先から外します）。

(d)　「通知先ユーザ名」リストボックス

現在，メール転送先で使用しているユーザ名の一覧を表示します。

8.3.8 削除ユーザ名の確認ダイアログボックス

未登録のユーザ名およびメールアドレスが未設定のユーザ名を指定した場合，削除ユーザ名の確認ダイアログボックスを表示します。削除ユーザ名の確認ダイアログボックスを図 8.3-16 示します。

図 8.3-16　削除ユーザ名の確認ダイアログボックス

(a)　［削除する］ボタン

未登録のユーザ名およびメールアドレスが未設定のユーザ名をメールの転送先から削除します。

(b)　［削除しない］ボタン

未登録のユーザ名およびメールアドレスが未設定のユーザ名をメールの転送先にして残します。

(c)　［定義画面に戻る］ボタン

「転送設定」タブ画面を表示します。

(d)　［詳細を表示する］ボタン

未登録のユーザ名およびメールアドレスが未設定のユーザ名一覧を表示します。

(e)　［詳細を表示しない］ボタン

未登録のユーザ名およびメールアドレスが未設定のユーザ名一覧画面を閉じます。

8.3.9 削除連絡網IDの確認ダイアログボックス

未登録の連絡網 ID を指定した場合，削除連絡網 ID の確認ダイアログボックスを表示します。削除連絡網 ID の確認ダイアログボックスを図 8.3-17 に示します。

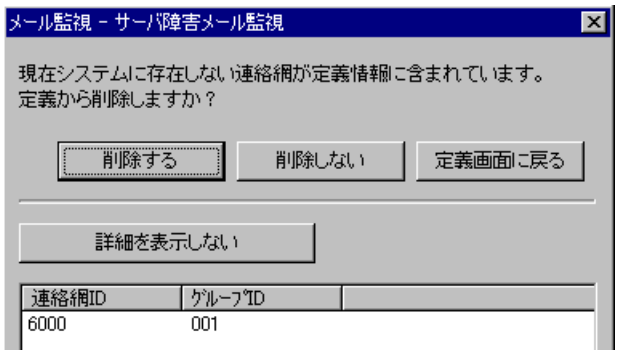


図 8.3-17 削除連絡網IDの確認ダイアログボックス

(a) ［削除する］ボタン

未登録の連絡網 ID をメールの転送先から削除します。

(b) ［削除しない］ボタン

未登録の連絡網 ID をメールの転送先にして残します。

(c) ［定義画面に戻る］ボタン

「転送設定」タブ画面を表示します。

(d) ［詳細を表示する］ボタン

未登録の連絡網 ID 一覧を表示します。

(e) ［詳細を表示しない］ボタン

未登録の連絡網 ID 一覧画面を閉じます。

8.3.10 メール開封確認ダイアログボックス

中継機能で，メール開封確認機能を適用するためのメール開封確認機能の設定を行います。メール開封確認ダイアログボックスを図 8.3-18 に示します。

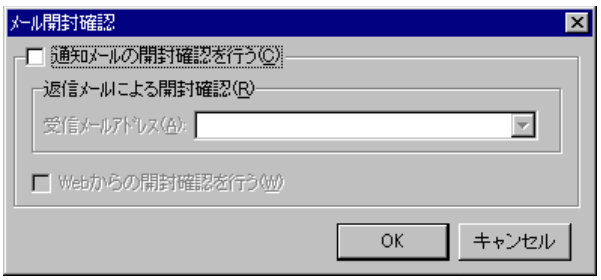


図 8.3-18 メール開封確認ダイアログボックス

(a) 「通知メールの開封確認を行う」チェックボックス

メール中継でメール開封確認を使用する場合，ここをチェックします。

(b) 「返信メールによる開封確認」チェックボックス

メールの開封確認をメールの返信で開封確認する場合，ここをチェックします。

返信要求メッセージは，環境設定－「メール開封確認」タブ（図 4.1-22）の「標準の返信要求メッセージ」を使用します。

(c) 「受信メールアドレス」ドロップダウンリスト

開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスをドロップダウンリストから選択します。このメールアドレスは，メール開封確認を行うメール発信の返信先アドレス（From 情報）に使用します。

「受信メールアドレス」ドロップダウンリストには，環境設定－「メール開封確認」タブで登録したメールアドレスを表示します。

開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスを設定した後，環境設定－「メール開封確認」タブで開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスを削除，または変更した場合は，再設定が必要です。

(d) 「Webからの開封確認」チェックボックス

このバージョンの TELstaff 製品では使用できません。

8.3.11 ExChangeクライアント資格情報の設定ダイアログボックス

メール監視，開封通知受信監視で監視するメールサーバとの認証方法に OAuth2（OAuth2.0 認証）を指定した場合，メールサーバとの認証で使用する Microsoft ExChange Online のクライアント資格情報を設定します。

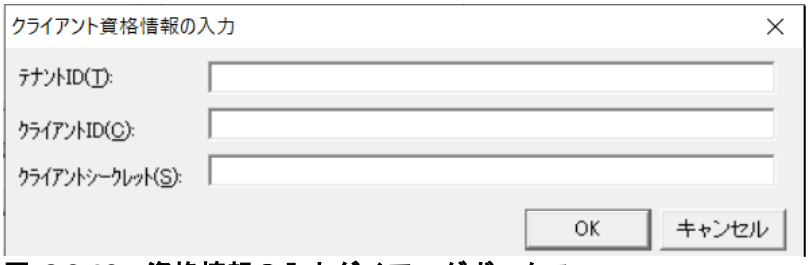


図 8.3-19 資格情報の入力ダイアログボックス

- OAuth2.0 認証は，Microsoft Azure を使用して，お客様がご使用のメールサーバの資格情報を作成・取得して使用します。お客様がご利用のメールサーバの情報となりますので，お客様（メールシステムの管理者）の責任で資格情報を作成・取得し（必要な手順の学習や操作を含む），本ダイアログに設定していただきます。資格情報を入手できない場合，OAuth2 を使用したメールサーバとの認証は行えません。
- 資格情報を作成・取得する手順の概要は，Microsoft Azure ポータルへアクセスし，Azure Active Directory を使用して，ExChange サーバにアプリケーション

を登録します。ExChange サーバのテナント管理者でアプリケーションにアクセス許可（API のアクセス許可）を設定します。Exchange Online Powershell を使用して，監視するメールボックスへのアクセス許可を設定します。アクセストークンを OAuth2 認証トークンに変換します。作成した資格情報（テナント ID，クライアント ID，クライアントシークレット）を取得します。詳細な手順に関しては，Microsoft Azure の Azure Active Directory 側へお問い合わせください。

- 本マニュアルでは，資格情報（テナント ID，クライアント ID，クライアントシークレット）は，お客様にて入手済の前提で記載させていただきます。

(a) 「テナントID」テキストボックス

Azure Active Directory から取得した，テナント ID を 36 文字で指定します。テナント ID は必須項目です。

(b) 「クライアントID」テキストボックス

Azure Active Directory から取得した，クライアント ID を 36 文字で指定します。クライアント ID は必須項目です。

(c) 「クライアントシークレット」テキストボックス

Azure Active Directory から取得した，アプリケーションのクライアントシークレットを 80 文字以内で指定します。クライアントシークレットは必須項目です。

クライアントシークレットは有効期限が最長でも 2 年のため，期限内にクライアントシークレットを Azure Active Directory で新規に発行し，再設定する必要があります。クライアントシークレットの有効期限が切れた場合，メールサーバとの認証はエラーとなります。

9. メッセージエージェントについて

この章では，メッセージエージェントについて説明します。

9.1　メッセージの種類

9.2　メッセージの受信

9.3　メッセージの送信

9.4　メッセージエージェントの宛先

9.1メッセージの種類

9.1.1 メッセージの種類

AEPE，AESE，AECL は，次の 4 種類のメッセージをサービスします。

(1) 通知メッセージ

AEPE，AESE，AECL に対するメッセージ通知です。

メッセージを受信したとき，Messenger 通知の設定があればデスクトップにメッセージの受信通知をします。受信メッセージの内容は，メッセージビューアで参照できます。

(2) TELstaff発信依頼メッセージ

AECL から AEPE または AESE に対して teldial コマンドの実行を依頼するメッセージです。

(3) TELstaffプロトコルコマンドメッセージ

プロトコルコマンドを記述したメッセージや，AEPE，AESE または AECL に対するパトランプやメッセージ表示ボードの動作指示メッセージです。

AEPE，AESE または AECL がプロトコルコマンドメッセージを受信すると，指定されたコマンドを受信した Windows の元で実行します。

(4) 通信メッセージ

TELstaff 同士が通信するメッセージです。

9.2メッセージの受信

AEPE，AESE，AECL は，他の TELstaff から送信されるメッセージを受信できます。

JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff とでは，メッセージを送受信することはできません。

メッセージエージェント構成の設定で自局の設定がない場合は，ネットワーク，および公衆回線からのメッセージ受信ができません。

メッセージを受信したとき，Messenger 通知の設定があればデスクトップにメッセージの受信通知をします。受信メッセージの内容は，メッセージビューアで参照できます。

また，AEPE，AESE は，TELstaff Enterprise (RHEL 版)，AEPE，AESE，AECL からのメッセージを中継し，目的の AEPE，AESE，AECL にメッセージを転送します。例えば，公衆回線に接続されている AECL からネットワークに接続された AECL へのメッセージ送信は，AEPE または AESE が中継し，ネットワークに接続された AECL にメッセージを転送します。

回線からのメッセージ受信をする場合，次の設定が必要です。

- モデムのプロパティダイアログボックスで，受信の区別にデータ受信を設定する。
- メッセージエージェント構成の設定の「全般」タブで，自局の場所の回線番号を設定する。

AEPE，AESE，AECL でメッセージ受信するときは，受信制限ができます。

(1) ネットワークからの受信制限

TELstaff システム以外からのメッセージ受信を制限します。受信制限をするには，送信側と受信側 TELstaff のパスワードを設定します。パスワードは，TELstaff システムで共通となります。

また，パスワードで通過しても発信依頼メッセージ，プロトコルコマンドメッセージだけを受信制限できます。

(2) 公衆回線からの受信制限

RS232C の受発信区別を指定します。発信属性だけ与えれば受信の制限をします。RS232C の受発信区別に受信属性を持たせ，TELstaff システム以外からのメッセージを受信制限するには，送信側と受信側 TELstaff のパスワードを設定します。パスワードは，TELstaff システムで共通となります。またパスワードで通過しても発信依頼メッセージ，プロトコルコマンドメッセージの受信を制限できます。

(3) メールからの受信制限

TELstaff システム運用関係者以外からのメッセージ受信を制限します。受信側 TELstaff にパスワードを設定し，メール送信では受信パスワードを指定して送信します。パスワードは，TELstaff システムで共通となります。また，パスワードで通過しても発信依頼メッセージ，プロトコルコマンドメッセージだけを受信制限できます。

9.3メッセージの送信

9.3.1 メッセージの送信

AEPE, AESE, AECL, TELstaff Enterprise（RHEL 版）は，他の AECL，AESE，AEPE に対して，メッセージ送信することができます。

JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff とでは，メッセージを送受信することはできません。

メッセージエージェント構成の設定で自局の設定がない場合は，ネットワーク，および公衆回線でのメッセージ送信ができません。また，環境設定の「E メール」タブでメールの設定が設定されていない場合，メールは送信できません。

(1) メッセージの送信方法

AEPE, AESE, または AECL に対してメッセージ，発信依頼メッセージ，プロトコルコマンドメッセージをネットワーク，公衆回線，メールを使用して送信できます。

メッセージを送信できない場合は，メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックスー「全般」タブ（図 4.4-1）で設定した送信エラー再送間隔で送信エラー再送回数まで再送します。送信できない場合は，「送信エラー箱」に 5 日間保管します。

- メールクライアントから，コマンド実行を依頼するときは，実行するコマンドをプロトコルコマンドで記述し，メール送信します。
- ネットワークでメッセージ送信をする場合に使用する通信ポートのポート番号は，「送信宛先に指定されたポート番号」，「メッセージエージェント構成の設定で指定されたポート番号」，「services ファイルに定義された telstaffagent サービス名」の順番で使用します。

(2) 送信宛先の指定方法

AEPE, AESE, または AECL に対してメッセージを送信するときの宛先は，送信先の AEPE, AESE, または AECL がネットワーク接続なのか，公衆回線接続なのかで異なります。

(3) 通知メディアを分散させて発信

AECL から発信を分散化するには，図 4.4-2　メッセージエージェント構成の設定ー「サーバ」タブで通知メディアの振り分け情報を設定しておきます。

振り分け情報を使用しないで，直接目的の AEPE または AESE に送信するときは，teldial コマンドで -to パラメタを指定して送信します。

(4) 通報システムの多重化を考慮した送信

AECL から複数ある AEPE，AESE の中から受信可能な状態にあるものにだけ送信できます。通報システムの信頼性を得るために AEPE, AESE の多重化運用するときに使用します。

AEPE, AESE を多重化構成にするには，図 4.4-2　メッセージエージェント構成の設定

－「サーバ」タブで通知メディアの振り分け情報を 2 つ以上設定しておきます。AEPE, AESE の多重化は，AECL と AEPE または AESE とをネットワーク接続する場合にのみ使用でき，公衆回線接続では使用できません。

9.4メッセージエージェントの宛先

9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定

AEPE，AESE および AECL 間でメッセージの送受信をする場合の宛先と差出人の指定方法および teldial コマンドの-to オプションで指定する宛先（発信依頼先の TELstaff のアドレス）の指定方法を，次に示します。

JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff とでは，メッセージを送受信することはできません。

(1) 宛先（To:）の記述方法

宛先の記述は，メッセージ送信の送信方法によって異なります。宛先の記述方法を表 9.4-1 に示します。

表 9.4-1 宛先の記述方法

宛先の種類	宛先の記述方法
メールで送信する場合	name@abc.def.co.jp
ネットワークで送信する場合	name#100.100.100.1[:ﾎﾟｰﾄ番号]
	name #100.100.100.1+100.100.100.2[:ﾎﾟｰﾄ番号]
	anywhere#100.100.100.1+100.100.100.2[:ﾎﾟｰﾄ番号]
電話回線で送信する場合	name*045-xxx-yyyy

●メールで送信する場合

メールアドレス形式で記述します。teldial コマンドの-to オプション（発信依頼先アドレス）には使用できません。

（例）

```
telstaff@telstaff.jp
```

●ネットワークで送信する場合

名称（name）と IP アドレス，またはホスト名を「#」で連結して記述します。

複数の宛先に送信する場合は，送信先の複数の IP アドレスを「+」区切りで指定します。

通信ポートのポート番号を指定する場合は，IP アドレス，またはホスト名の後ろに「：」（半角コロン）を付けて指定します。

ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

AEPE，AESE，または AECL では，ポート番号を省略すると，「図 4.4-1 メッセージエージェント構成の設定ー「全般」タブ」で設定したポート番号を使用します。

名称（name）は，任意の文字列を半角 10 文字以内で記述します。複数の宛先に送信する場合では，以下に示すように扱いが異なります。

● 名称（name）を記述する場合

全ての宛先に対して送信します。

（例）

```
Server1#100.100.100.1
Server1#100.100.100.1+100.100.100.2+100.100.100.3
Server1#100.100.100.1+100.100.100.2+100.100.100.3:ポート番号
```

● anywhereを記述する場合

最初の宛先から順に送信し，送信できた時点で終了します。最初の宛先から順に送信を行い正常に受信した場所だけに送信します。

（例）

```
anywhere #100.100.100.1+100.100.100.2+100.100.100.3
anywhere #100.100.100.1+100.100.100.2+100.100.100.3:ポート番号
```

●電話回線で送信する場合

名称（name）と電話回線番号を「*」で連結して記述します。名称（name）は，任意の文字列を半角 10 文字以内で記述します。

電話回線で送信する場合は，メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックス（「全般」タブ）で回線番号を設定しておく必要があります。

（例）

```
Server1*045-xxx-yyyy
```

(2) 差出人（From:）の記述方法

差出人の記述は，自コンピュータの環境によって異なります。差出人の記述方法を表 9.4-2 に示します。

表 9.4-2 差出人の記述方法

発信者の環境	差出人の記述方法	説明
メール環境がある場合	name@abc.def.co.jp	自分のメールアドレス
ネットワーク環境がある場合	name#100.100.100.1 name#100.100.100.1:ﾎﾟｰﾄ番号	自コンピュータの IP アドレス
電話回線環境がある場合	name＊045-xxx-yyyy	自コンピュータの電話番号

(3) メールからの転送指定（_$To:）

通信環境がメール環境しかない場合に，中継サーバを経由して，ネットワークまたは回線にメッセージを送信できます。送信方法を次に示します。

1. 送信するメッセージ本文の先頭に「_$To:」プロトコルヘッダー情報を付加します。指定方法を次に示します。「_$To:」と送信先の間には必ず半角スペースを 1 文字入れてください。

（例）ネットワークに送信する場合

```
_$To:  name#100.100.100.1（相手の IP アドレス）
_$To:  name#100.100.100.1:ポート番号（相手の IP アドレス）
```

（例）回線に送信する場合

_$To:　name＊045-xxx-yyyy（相手の電話番号）

2. 中継サーバに対してメッセージをメールで送信します。このとき，中継サーバのメールアドレスは，中継サーバでメール監視をしているメールアドレスでなければなりません。
3. 中継サーバが，「_$To:」プロトコルヘッダー情報のあるメールを受信すると，そこで指定された送信先に受信したメールを転送します。このとき，「_$To:」プロトコルヘッダー情報は，取り除かれます。

10. TELstaffのツール

この章では，TELstaff のツールについて説明します。

10.1　ログビューア

10.2　メッセージビューア

10.3　メール開封状況一覧ビューア

10.4　稼動状況監視ビューア

10.5　リレー全接点オフ

10.6　発信と監視の操作

10.7　プロセス監視の操作用ツール

10.8　ファイル監視の操作用ツール

10.9　メッセージ監視の操作用ツール

10.10 ドライバ監視の操作用ツール

10.11 稼動状況監視の操作用ツール

10.12 録画ビューア

10.13 統計情報ビューア

10.14 パトランプ動作確認ツール

10.15 ランチャー

10.16 パスワード暗号文字列生成ツール

10.1　ログビューア

10.1.1 ログビューアとは

ログビューアは，TELstaff の動作を記録したログを表示するツールです。次の特徴があります。

- 指定したログファイルに記録されたログメッセージを，古い順に一覧表示します。
- 検索キーワードを指定すると，そのキーワードを含む，または含まないログメッセージだけに絞り込んで表示できます。
- 表示中のログファイルへのログメッセージ追記を自動的に検出し，表示を更新できます。

ログビューアは，スタートメニュー［TELstaff のツール］－［ログビューア］を選択することで起動できます。

ログビューアの注意事項を次に記します。

- ログメッセージが非常に長い場合，先頭の一部分だけを一覧表示では表示します。そのようなメッセージの全体を確認するには［ログの詳細］ダイアログボックスを開いてください。

10.1.2 ログビューアウインドウ

ログビューアウインドウを，図 10.1-1 に示します。

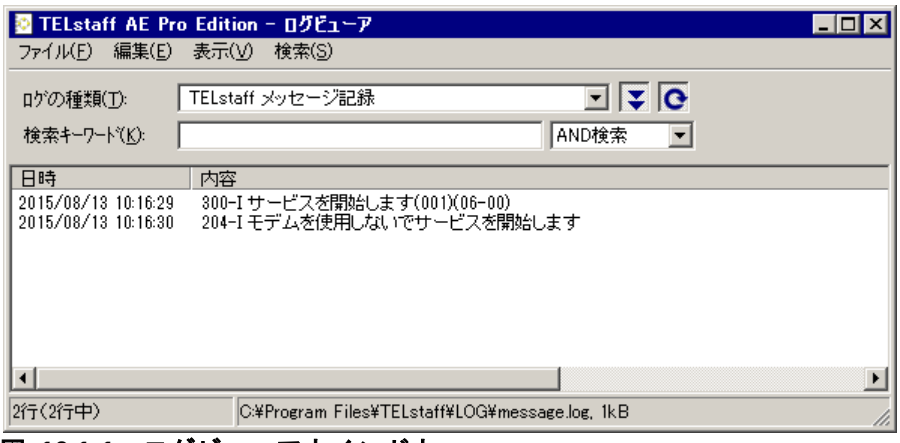


図 10.1-1　ログビューアウインドウ

(1)　［ログの種類］ドロップダウンリスト

ログビューアで表示するログの種類（ログファイル）を指定します。

TELstaff は，設定された基準に従ってログファイルをローテーションする際にバックアップを作成します。このようなバックアップファイルが存在する場合，「*」が先頭に付いた名称でここにリストアップされます。また，標準状態では出力内容の無いログファイルはリストアップされません。そのようなログファイルも表示させたい場合，メニュー［表

示］－［出力内容の無いログの種類を除外する］のチェックを外してください。

ログ情報の一覧については，表 2.3-30 を参照してください。

(2) ［検索キーワード］テキストボックス

指定されたログファイルのうち，どのようなログメッセージを表示対象とするかを指定します。また，キーワードをどのように評価するかを AND 検索，OR 検索，Not OR 検索のいずれかから選択します。

- AND 検索を選択した場合

  ［検索キーワード］テキストボックスに入力された単語すべてを含むログメッセージを表示対象とします。

- OR 検索を選択した場合

  ［検索キーワード］テキストボックスに入力された単語のうちいずれか一つ以上を含むログメッセージを表示対象とします。

- Not OR 検索を選択した場合

  ［検索キーワード］テキストボックスに入力された単語のいずれも含まれないログメッセージを表示対象とします。

（例）

次のようなログメッセージがあった場合：

```
300-I サービスを開始します(001)(06-00)
```

これを表示対象とするかどうかの判定は，次の表のようになります。

［検索キーワード］の指定	検索方法	判定結果
サービス　開始	AND 検索	表示する
サービス　開始	OR 検索	表示する
サービス　開始	Not OR 検索	表示しない
300-I　301-I　316-E	AND 検索	表示しない
300-I　301-I　316-E	OR 検索	表示する
300-I　301-I　316-E	Not OR 検索	表示しない

(3) ［ログの情報］リストボックス

［ログの種類］で指定されたログファイルの内容を，古い順に一覧表示します。

(4) メニュー

ログビューアウィンドウのメニューを表 10.1-1 に示します。

表 10.1-1　ログビューアウィンドウのメニューと機能

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	サブメニュー（ニモニック）	機能
ファイル(F)	終了(X)		ログビューアを終了します。
編集(E)	コピー(C)		選択中のログメッセージの内容をクリップボードにコピーします。
	ログの詳細を表示(D)...		選択中のログメッセージの詳細を［ログの詳細］

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	サブメニュー（ニモニック）	機能
			ダイアログボックスで表示します。
表示(V)	最新の情報に更新(R)		現在の最新ログ情報を表示します。
	更新間隔(I)		表示中ログファイルの更新を監視する間隔を指定します。1 秒，5 秒，10 秒から間隔を選択するか，自動更新を行わないかを選択できます。
	最新のログに自動スクロールする(S)		ここにチェックを付けると，表示中ログファイルに新しいログメッセージが追記されたときに，そのログが表示されるよう自動的に［ログの情報］リストビューをスクロールするかどうかを指定します。
	出力内容の無いログを除外する(E)		ここにチェックを付けると，ログファイルが存在しない，または存在するものの内容が空であるようなログの種類を，［ログの種類］ドロップダウンリストに表示しません。
検索(S)	検索キーワードの入力(F)		［検索キーワード］テキストボックスにフォーカスを移動し，キーワード入力ができる状態にします。
	すべての単語を含むログを検索する(AND 検索)		［検索キーワード］テキストボックスに入力された各単語を AND 検索で評価します。
	いずれかの単語を含むログを検索する(OR 検索)		［検索キーワード］テキストボックスに入力された各単語を OR 検索で評価します。
	いずれの単語も含まないログを検索する(Not OR 検索)		［検索キーワード］テキストボックスに入力された各単語を Not OR 検索で評価します。

(5) ステータスバー

ステータスバーには，以下の情報が表示されます。

- 現在表示中のログメッセージの行数（検索での絞り込み結果）
- ログファイルに存在するログメッセージの総数
- 現在表示しているログファイルの完全名
- 現在表示しているログファイルのファイルサイズ

10.1.3 ログの詳細ダイアログボックス

ログの詳細ダイアログボックスは，ログビューアで表示された個々のログメッセージの詳細情報を表示します。ログの詳細ダイアログボックスを，図 10.1-2 に示します。

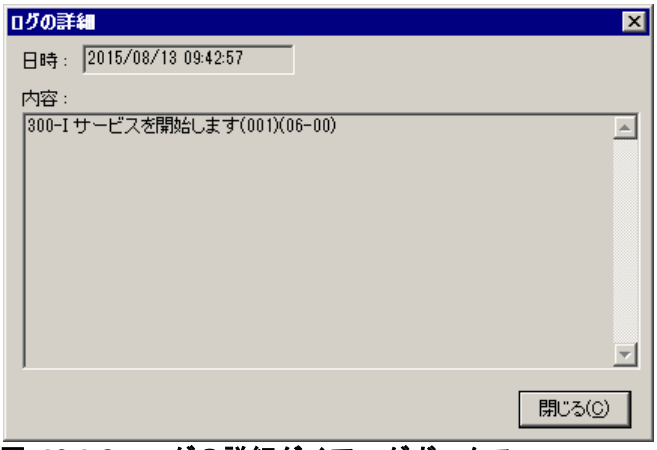


図 10.1-2　ログの詳細ダイアログボックス

(1)　［日時］テキストボックス

ログメッセージに記載された，ログが出力された日時が表示されます。

(2)　［内容］テキストボックス

ログメッセージに記載された，メッセージの文面が表示されます。

10.2　メッセージビューア

メッセージビューアは，AEPE, AESE, AECL の送受信メッセージの簡易ビューアです。メッセージビューアでエージェントメッセージ，メール監視で保存したメールを参照できますが，編集や添付ファイルの閲覧はできません。また，メール監視で保存したメールでマルチパート形式のメールは，表示できません。

TELstaff サービス起動中は，受信箱，送信済み箱，ごみ箱のメッセージだけ削除できます。送信箱，送信待機箱，送信エラー箱のメッセージは，TELstaff サービス起動中は，削除できません。

ごみ箱と送信エラー箱以外のメッセージは，運用で定期的に削除する必要があります。ごみ箱と送信エラー箱のメッセージは，5 日以前のメッセージを削除します。

また，メッセージが多い場合「メッセージビューア」で閲覧するとき，ウィンドウに表示されるまで時間がかかります。

メッセージビューアウィンドウは，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff のツール】の【メッセージビューア】から表示します。

メッセージビューアウィンドウを，図 10.2-1 に示します。

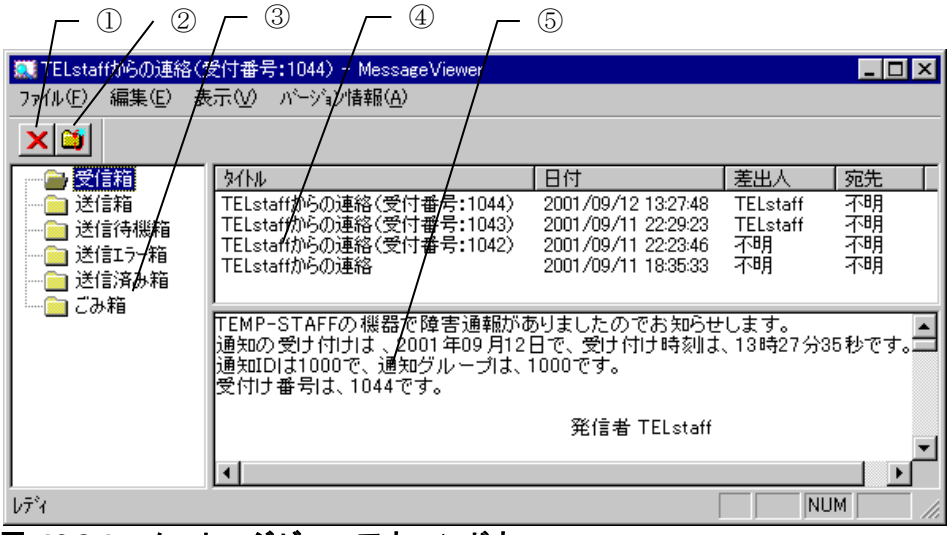


図 10.2-1　メッセージビューアウィンドウ

(1) ①ボタン

選択されたメッセージ，またはフォルダ内の全てのメッセージを削除します。

TELstaff サービス起動中は，受信箱，送信済み箱，ごみ箱のメッセージだけ削除できます。送信箱，送信待機箱，送信エラー箱のメッセージは，TELstaff サービス起動中は，削除できません。

(2) ②ボタン

メッセージビューアの表示内容を最新の状態に更新します。

(3) ③フィールド

AEPE, AESE, AECL の送受信フォルダ一覧を表示します。

(4) ④フィールド

フォルダ一覧で選択されたフォルダに格納されているメッセージの一覧を表示します。

差出人情報は，「From:」情報を表示します。「From:」情報がないメッセージは，「なし」で表示します。

宛先情報は，メールメッセージの「To:」情報を表示します。エージェントメッセージの場合で，宛先情報がない場合は，自コンピュータの IP アドレスを表示します。

(5) ⑤フィールド

メッセージ一覧で選択されたメッセージの内容を表示します。

選択したメッセージの内容が表示されない場合は，このフィールドに一度マウスを置き，メッセージビューアウィンドウメニューー【表示(V)】－【ヘッダーの表示をする(H)】をチェックします。

メッセージビューアの操作方法を次に示します。

1. メッセージビューアを起動すると，簡易ビューアウィンドウが表示されます。出力量の多いメッセージがあると，表示されるまで時間がかかり，システムリソースを多量に使用します。
2. 簡易ビューアウィンドウの左ウィンドウ（「③」フィールド）には MsgBox フォルダ内のフォルダ一覧が表示されます。
3. フォルダ一覧から任意のフォルダをクリックすると，右ウィンドウ上段（「④」フィール）に，クリックしたフォルダに格納されているメッセージの一覧が表示されます。メッセージ一覧は日付の新しい順でソートされています。
4. メッセージ一覧から任意のメッセージをクリックすると，右ウィンドウ下段（「⑤」フィールド）に，クリックしたメッセージの内容が表示されます。メッセージのヘッダを表示する場合は，右ウィンドウ下段（「⑤」フィールド）のウィンドウをクリックして【表示(V)】メニューで【ヘッダの表示をする】を選択してください。
5. メッセージビューアで表示されている内容を最新の状態に更新する場合は，②ボタンをクリックするか，【表示(V)】メニューで【最新の状態に更新】を選択してください。
6. メッセージビューアでメッセージを削除する場合は，メッセージ一覧から削除するメッセージを選択して，①ボタンをクリックするか，［Delete］キーを押すか，【編集(E)】メニューで【削除(D)】を選択してください。
7. フォルダ一覧で選択したフォルダ内の全てのメッセージを削除する場合は，フォルダを選択して，①ボタンをクリックするか，［Delete］キーを押すか，【編集(E)】メニューで【削除(D)】を選択します。

10.3 メール開封状況一覧ビューア

メール開封確認を行うメール発信では，メール受信者がメールを確認したかどうかを，開封確認を行うことができます。

メール受信者が，メールを確認したことを TELstaff に通知する方法は，メールの返信で開封確認を通知する方法があり，メール開封状況一覧ビューアでメール受信者のメール開封確認状況を確認することができます。

メール開封状況一覧ビューアを初めて使用する場合，管理者登録ダイアログボックスを表示します。管理者登録ダイアログボックスでメール開封状況一覧ビューアの管理者を登録し，登録ユーザ一覧ウィンドウでメール開封状況一覧ビューアの利用者とメール開封状況一覧ビューア表示を行うとき，利用者を認証するかどうかを設定します。

登録ユーザ一覧ウィンドウで利用者登録後は，メール開封状況一覧ビューアを表示できます。登録ユーザ一覧ウィンドウでメール開封状況一覧ビューア表示を行うとき利用者を認証する場合は，利用者の認証を行い，メール開封状況一覧ビューアを表示します。利用者を認証しない場合は，利用者の認証を行わずメール開封状況一覧ビューアを表示します。

メール開封状況一覧ビューア表示中に利用者を変更することはできません。利用者を変更する場合は，メール開封状況一覧ビューアをいったん終了してから別の利用者でメール開封状況一覧ビューアを表示させます。

メール開封状況一覧ビューアは，スタートメニューの【TELstaff のツール】の【メール開封状況一覧ビューア】を選択して表示します。

10.3.1 管理者登録ダイアログボックス

管理者登録ダイアログボックスで，メール開封状況一覧ビューアの管理者を登録します。メール開封状況一覧ビューアの管理者は，登録ユーザ一覧ウィンドウでメール開封状況一覧ビューアの利用者とメール開封状況一覧ビューア表示を行うとき，利用者を認証するかどうかを設定します。

管理者登録ダイアログボックスは，メール開封状況一覧ビューアを初めて使用する場合，表示されます。

管理者登録ダイアログボックスで登録した管理者情報は，パスワード以外は変更できません。管理者のパスワードを忘れた場合は，次のファイルを削除してからメール開封状況一覧ビューアを表示して，管理者登録ダイアログボックスにて管理者を再度登録してください。

```
<TELstaffインストールフォルダ>¥DATA¥tlmlvusr.ini
```

管理者登録ダイアログボックスは，Administrators 権限ユーザで使用できます。管理者登録ダイアログボックスを，図 10.3-1 に示します。

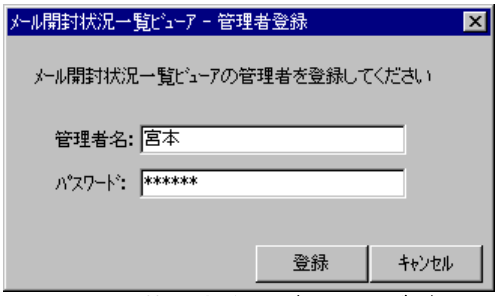


図 10.3-1　管理者登録ダイアログボックス

(1) 「管理者名」テキストボックス

メール開封状況一覧ビューアの管理者名を登録します。一度登録した管理者名は変更できません。

(2) 「パスワード」テキストボックス

メール開封状況一覧ビューアの管理者のパスワードを登録します。

(3) ［登録］ボタン

指定した設定情報を登録し，管理者登録ダイアログボックスを閉じて，登録ユーザ一覧ウィンドウを表示します。

(4) ［キャンセル］ボタン

設定を取り消して管理者登録ダイアログボックスを閉じます。

10.3.2 管理者ログインダイアログボックス

管理者ログインダイアログボックスで，メール開封状況一覧ビューアの管理者を認証します。メール開封状況一覧ビューアの管理者を認証すると登録ユーザ一覧ウィンドウを表示します。

管理者ログインダイアログボックスは，メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【ファイル(F)】の【管理画面を開く(G)】を選択して表示します。

管理者ログインダイアログボックスは，Administrators 権限ユーザで使用できます。管理者ログインダイアログボックスを，図 10.3-2 に示します。

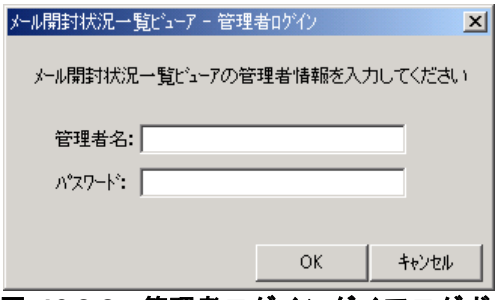


図 10.3-2　管理者ログインダイアログボックス

(1) 「管理者名」テキストボックス

メール開封状況一覧ビューアの管理者名を指定します。

(2) 「パスワード」テキストボックス

メール開封状況一覧ビューアの管理者のパスワードを指定します。

(3) ［OK］ボタン

管理者ログインダイアログボックスを閉じて，登録ユーザ一覧ウィンドウを表示します。

(4) ［キャンセル］ボタン

設定を取り消して管理者ログインダイアログボックスを閉じます。

10.3.3登録ユーザー覧ウィンドウ

登録ユーザ一覧ウィンドウで，メール開封状況一覧ビューアの利用者とメール開封状況一覧ビューア表示を行うとき，利用者を認証するかどうかを設定します。

登録ユーザ一覧ウィンドウは，管理者登録ダイアログボックスで管理者を登録したとき，または管理者ログインダイアログボックスで管理者を認証すると表示します。登録ユーザ一覧ウィンドウは，Administrators 権限ユーザで使用できます。

登録ユーザ一覧ウィンドウを，図 10.3-3 に示します。

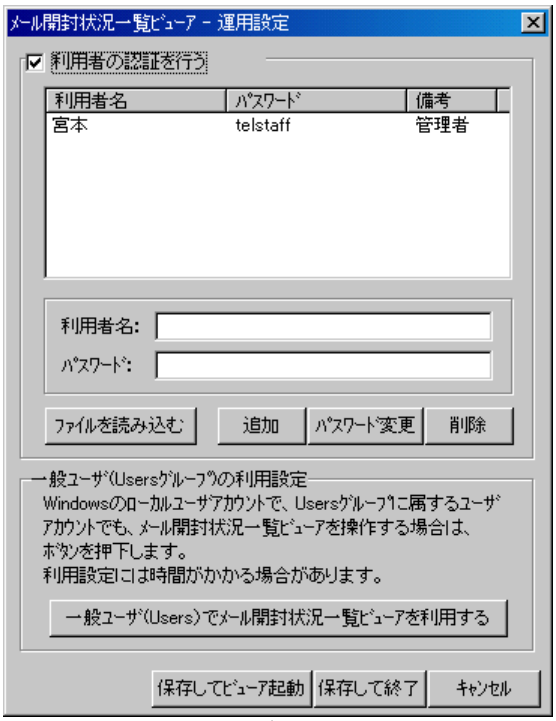


図 10.3-3　登録ユーザー覧ウィンドウ

(1) 「利用者の認証を行う」チェックボックス

メール開封状況一覧ビューアの利用者が認証を行う必要がある場合は，このチェックボックスにチェックします。チェックしている場合，メール開封状況一覧ビューア開始時，利用者の選択ダイアログボックスを表示します。

(2) 「利用者名」リストボックス

メール開封状況一覧ビューアの利用者名とパスワードを表示します。備考欄に管理者の表示がある利用者はメール開封状況一覧ビューアの管理者です。一度登録した利用者名は変更できません。

(3) 「利用者名」テキストボックス

登録する利用者名を指定します。

(4) 「パスワード」テキストボックス

登録する利用者名に対応するパスワードを指定します。

(5) ［ファイルを読み込む］ボタン

利用者とパスワード情報をファイルから読み込みます。ファイル形式はテキストファイルで，「利用者名,パスワード(改行)」で 1 行ごとに利用者とパスワードを記載します。

(6) ［追加］ボタン

利用者名とパスワードを登録します。既に登録している利用者名と同じ利用者名は指定できません。

(7) ［パスワード変更］ボタン

登録済みのパスワードを変更します。「利用者名」リストボックスからパスワードを変更する利用者を選択し，パスワードを変更します。管理者のパスワードを変更する場合は，変更前に確認メッセージを表示します。

(8) ［削除］ボタン

「利用者名」リストボックスで選択している登録済みの利用者名とパスワードを削除します。メール開封状況一覧ビューアの管理者情報は削除できません。

(9) ［一般ユーザ(Users)でメール開封状況一覧ビューアを利用する］ボタン

メール開封状況一覧ビューアウィンドウを Users グループに属する Windows のローカルユーザアカウント（以降，一般権限ユーザと略します）で使用できるようにします。本設定は，一般権限ユーザで使用するときに，1 度だけ設定します。

設定には時間がかかる場合があり，設定中は，登録ユーザ一覧ウィンドウの操作はできません。

一般権限ユーザでメール開封状況一覧ビューアウィンドウを使用する場合，使用できない操作があります。詳細は，「表 10.3-1 メール開封状況一覧ビューアウィンドウのメニューと機能」を参照してください。

本設定を行わない場合では，メール開封状況一覧ビューアウィンドウは，Administrators 権限ユーザだけで使用できます。

(10) ［保存してビューア起動］ボタン

登録された利用者情報を保存して登録ユーザ一覧ウィンドウを閉じ，開封状況一覧ビューアを開始します。「利用者の認証を行う」チェックボックスがチェックしている場合，

管理者名と管理者のパスワードで自動的に利用者を認証し，開封状況一覧ビューアを開始します。

(11) ［保存して終了］ボタン

登録された利用者情報を保存して登録ユーザ一覧ウィンドウを閉じます。

(12) ［キャンセル］ボタン

設定を取り消して登録ユーザ一覧ウィンドウを閉じます。

10.3.4 利用者の選択ダイアログボックス

利用者の選択ダイアログボックスで，メール開封状況一覧ビューアの利用者を認証します。メール開封状況一覧ビューアの利用者を認証するとメール開封状況一覧ビューアを表示します。

利用者の選択ダイアログボックスは，登録ユーザ一覧ウィンドウで「利用者の認証を行う」チェックボックスにチェックしている場合に表示します。

利用者の選択ダイアログボックスを，図 10.3-4 に示します。

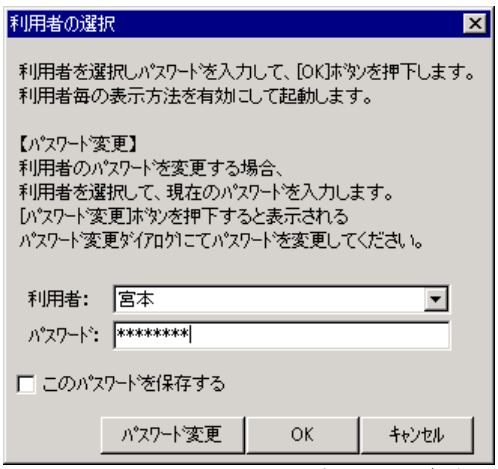


図 10.3-4　利用者の選択ダイアログボックス

(1) 「利用者」テキストボックス

メール開封状況一覧ビューアの利用者名を指定します。

(2) 「パスワード」テキストボックス

メール開封状況一覧ビューアの利用者のパスワードを指定します。

(3) 「このパスワードを保存する」チェックボックス

「パスワード」テキストボックスに入力したパスワードを保存するときは，このチェックボックスにチェックしてメール開封状況一覧ビューアを表示します。保存したパスワードは，次から利用者の選択ダイアログボックスに表示します。

また，「このパスワードを保存する」チェックボックスにチェックしないでメール開封状況一覧ビューアを表示する場合は，入力したパスワードは保存しません。 ただし，次回

利用者の選択ダイアログボックスを表示したときには，前回このチェックボックスにチェックして保存したパスワードをテキストボックスに表示します。

(4) ［パスワード変更］ボタン

「利用者」テキストボックスに指定した利用者のパスワードを変更します。利用者のパスワード認証が失敗する場合は変更できません。利用者のパスワード認証が成功すると，パスワード変更ダイアログボックスを表示します。

(5) ［OK］ボタン

利用者の選択ダイアログボックスを閉じて，「利用者」テキストボックスに指定された利用者でメール開封状況一覧ビューアを開始します。

(6) ［キャンセル］ボタン

設定を取り消して利用者の選択ダイアログボックスを閉じます。

10.3.5パスワード変更ダイアログボックス

パスワード変更ダイアログボックスで，メール開封状況一覧ビューアの利用者のパスワードを変更します。

パスワード変更ダイアログボックスを，図 10.3-5 に示します。

図 10.3-5　利用者の選択ダイアログボックス

(1) 「現在のパスワード」テキストボックス

メール開封状況一覧ビューアのパスワードを表示します。

(2) 「新しいパスワード」テキストボックス

メール開封状況一覧ビューアの新しいパスワードを指定します。

(3) ［OK］ボタン

パスワード変更ダイアログボックス，利用者の選択ダイアログボックスを閉じて，「利用者」テキストボックスに指定された利用者と新しいパスワードで開封状況一覧ビューアを開始します。

(4) ［キャンセル］ボタン

設定を取り消してパスワード変更ダイアログボックスを閉じます。

10.3.6メール開封状況一覧ビューアウィンドウ

メール開封状況一覧ビューアでメール受信者のメール開封確認状況の一覧を表示します。

メール開封状況一覧ビューアウィンドウの状態は，ウィンドウ終了時に保存されます。登録ユーザ一覧ウィンドウの「利用者の認証を行う」チェックボックスにチェックしている場合，ウィンドウ終了時にウィンドウの状態を利用者ごとに保存し，次回この保存した情報で表示します。同じ利用者で複数のメール開封状況一覧ビューアを表示すると，最後にウィンドウを終了した状態を利用者ごとに保存します。

登録ユーザ一覧ウィンドウの「利用者の認証を行う」チェックボックスにチェックしていない場合は，ウィンドウ終了時にウィンドウの状態をログイン中の Windows ユーザごとに保存し，次回この保存した情報で表示します。同じ Windows ユーザで複数のメール開封状況一覧ビューアを表示すると，最後にウィンドウを終了した状態をログイン中の Windows ユーザごとに保存します。

登録ユーザ一覧ウィンドウの「利用者の認証を行う」チェックボックスにチェックしていない場合では，定義情報の回復（リストア）を使用してメール開封状況一覧ビューアウィンドウの状態を回復できません。

次のような場合では，メール開封状況一覧ビューアウィンドウの操作はできません。

1. 開封状況メッセージの表示更新中の場合
2. 開封状況メッセージの開封済への変更操作で表示更新中の場合
3. 開封状況メッセージの削除操作で削除中の場合
4. メモ情報の削除操作で削除中の場合

また，2 つ以上のメール開封状況一覧ビューアウィンドウを表示している場合で，1 つのメール開封状況一覧ビューアウィンドウで開封済への変更操作や削除操作を行った場合，他のメール開封状況一覧ビューアウィンドウに対しても表示更新します。

このような場合でも，他のメール開封状況一覧ビューアウィンドウの表示更新中は，メール開封状況一覧ビューアウィンドウの操作ができません。

開封状況メッセージが多数ある場合，メール開封状況一覧ビューアウィンドウの開始や表示に時間がかかります。開封状況メッセージを定期的に削除するか，または開封状況メッセージの自動削除を行うことで表示時間を短くすることができます。また，開封状況一覧ビューアウィンドウに表示する開封状況メッセージ数の数を少なくすることでウィンドウ表示時間を短くできます。

メール開封状況一覧ビューアウィンドウの削除操作は，メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【編集(E)】で行います。開封状況メッセージの自動削除は，環境設定ダイアログボックスの「メール開封確認」タブで行います。

開封状況一覧ビューアウィンドウに表示する開封状況メッセージ数は，オプションダイアログボックスの「最大表示メッセージ数」テキストボックスで指定します。

メール開封状況一覧ビューアウィンドウは，TELstaff ウィンドウ-【ツール(T)】メニューの【メール開封状況一覧ビューア(X)】，またはスタートメニューの【TELstaff のツール】の【メール開封状況一覧ビューア】を選択して表示します。メール開封状況一覧ビューアウィンドウを，図 10.3-6 に示します。

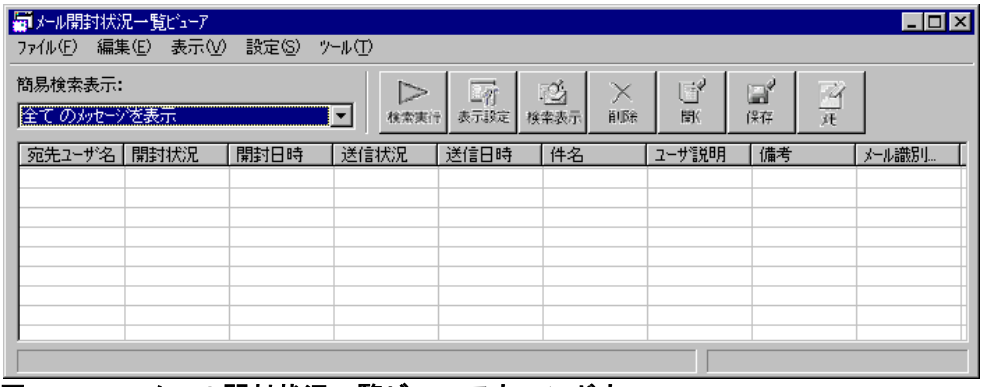


図 10.3-6　メール開封状況一覧ビューアウィンドウ

(1) ウィンドウメニュー

メール開封状況一覧ビューアウィンドウのメニューと機能を表 10.3-1 に示します。

表 10.3-1　メール開封状況一覧ビューアウィンドウのメニューと機能

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	サブメニュー（ニモニック）	機能
ファイル(F)	指定のｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝで開く(H) ※1	ｶﾝﾏ区切りで開く(C)	メール開封状況一覧ビューアに表示している開封状況メッセージの項目をカンマ区切りで開きます。
		ﾀﾌﾞ区切りで開く(T)	メール開封状況一覧ビューアに表示している開封状況メッセージの項目をタブ区切りで開きます。
	標準のｴﾃﾞｨﾀで開く(E) ※1 ※2	ｶﾝﾏ区切りで開く(C)	メール開封状況一覧ビューアに表示している開封状況メッセージの項目をカンマ区切りで開きます。
		ﾀﾌﾞ区切りで開く(T)	メール開封状況一覧ビューアに表示している開封状況メッセージの項目をタブ区切りで開きます。
	上書き保存(S) ※1 ※3		メール開封状況一覧ビューアに表示している開封状況メッセージを保存します。
	名前を付けて保存(A) ※1	ｶﾝﾏ区切りで保存(C)	メール開封状況一覧ビューアに表示している開封状況メッセージの項目をカンマ区切りで保存します。
		ﾀﾌﾞ区切りで保存(T)	メール開封状況一覧ビューアに表示している開封状況メッセージの項目をタブ区切りで保存します。
	メール開封状況を開く(C)		メール開封状況ウィンドウを開きます。
	管理画面を開く(G) ※4		メール開封状況一覧ビューア管理画面を開きます。
	ユーザ管理画面を開く(U) ※4 ※5		ユーザ管理ダイアログを開きます。
	連絡網の詳細画面を開く(N) ※1 ※4 ※6 ※7		連絡網ウィンドウを開きます。
	ウィンドウを閉じる(X)		メール開封状況一覧ビューアを終了します。

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	サブメニュー（ニモニック）	機能
編集(E)	開封済に変更(C) ※1 ※8		メール開封状況一覧ビューアで選択した開封状況メッセージの開封状況を開封済に変更します。
	選択されたﾒｯｾｰｼﾞを削除(Y) Del ※1 ※6		メール開封状況一覧ビューアで選択した開封状況メッセージを削除します。
	選択されたﾒｯｾｰｼﾞ以前のﾒｯｾｰｼﾞを削除(T) ※1 ※6	送信日時で削除(S)	メール開封状況一覧ビューアで選択した開封状況メッセージの送信日時以前の送信日時の開封状況メッセージを削除します。
		開封日時で削除(C)	メール開封状況一覧ビューアで選択した開封状況メッセージの開封日時以前の開封日時の開封状況メッセージを削除します。未開封の開封状況メッセージは削除できません。
	期日指定で削除(U)		期日指定削除ダイアログボックスを開きます。
	全て削除(A)		全ての開封状況メッセージを削除します。
	全て選択(Z) Ctrl+A ※1		メール開封状況一覧ビューアに表示している全ての開封状況メッセージを選択します。
	選択されたメッセージのメモを削除(S) ※1 ※6		メール開封状況一覧ビューアで選択された開封状況メッセージのメモ情報を削除します。
	全てのメッセージのメモを削除(M) ※1		全ての開封状況メッセージのメモ情報を削除します。
表示(V)	簡易検索表示(Z)	全て(L)	全ての開封状況メッセージを表示します。
		未開封(N)	未開封の開封状況メッセージを表示します。
		開封済(O)	開封済の開封状況メッセージを表示します。
		送信中(U)	送信中の開封状況メッセージを表示します。
		再送中(R)	再送中の開封状況メッセージを表示します。
		送信ｴﾗｰ(E)	送信エラーの開封状況メッセージを表示します。
		配送ｴﾗｰ(D)	配送エラーの開封状況メッセージを表示します。
		送信済(Z)	送信済の開封状況メッセージを表示します。
	検索表示(Y)	解除(R)	検索表示を解除します。
		実行(E)	検索表示を実行します。
	詳細(D) ※1 ※6		詳細情報ダイアログを開きます。
	選択されたメッセージの情報を更新(U) ※1 ※6		メール開封状況一覧ビューアで選択した開封状況メッセージの情報を更新します。
	常に最大化で表示(M)		ウィンドウを最大化して表示します。 メール開封状況一覧ビューアを終了するとき，このメニューにチェックがあると，次回からのメール開封状況一覧ビューアウィンドウでは，最大化で表示します。

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	サブメニュー（ニモニック）	機能
	最新の情報に更新(X)　F5		開封状況メッセージを最新の情報に更新します。
設定(S)	表示設定(L)		表示設定ダイアログを開きます。
	検索表示設定(F)		検索表示設定ダイアログを開きます。
	オプション(O)		オプションダイアログを開きます。
ツール(T)	メモ設定(Z) ※1 ※6		メール開封状況一覧ビューアで選択した 1 つの開封状況メッセージのメモ情報を設定します。
	メール再送(M) ※1 ※6 ※9		送信状況が送信エラー，配送エラーの開封状況メッセージを再送します。
	エラーメールを表示(E) ※1 ※6 ※10		開封状況メッセージの送信状況が配送エラーのエラー返信メールの内容（本文）を表示します。

注※1　開封状況メッセージがメール開封状況一覧ビューアに表示されていない場合は使用できません。

注※2　環境設定ダイアログボックスの「全般」タブの「使用するテキストエディタ」を指定していない場合は使用できません。

注※3　一度も「名前をつけて保存」で開封状況メッセージを保存していない場合は使用できません。

注※4　Administrators 権限ユーザ以外のユーザでメール開封状況一覧ビューアを起動した場合，メニューは表示されません。

注※5　登録ユーザ一覧ウィンドウで「利用者の認証を行う」チェックボックスにチェックしている場合，利用者の認証が必要です。

注※6　開封状況メッセージを選択していない場合は使用できません。

注※7　開封状況メッセージが連絡網発信でない場合は使用できません。

注※8　開封状況が「未開封」の開封状況メッセージを選択していない場合は使用できません。

注※9　メール開封確認を行うメール発信において SMTP サーバとの通信エラーになった場合で，通信エラーが起きた日から 5 日以内の場合に使用できます。

注※10 SMTP サーバが，配送エラー返信した場合，配送エラーが起きた日から 5 日以内で，SMTP サーバからの配送エラー返信メールが「RFC 1894」に準拠した形式で，配送エラーとなった元メールの情報があり，元メールの情報が配送エラー返信メールの「content-type: message/rfc822」のパートに記述されている形式の場合に使用できます。
詳細は，開封通知受信監視の設定ダイアログボックスの「エラーメールを自動再送する」チェックボックスを参照してください。

(2) 「簡易検索表示」ドロップダウンリスト

選択されたリストの内容に一致する開封状況メッセージを表示します。
検索表示中は，「簡易検索表示」ドロップダウンリストを使用できません。
簡易検索を使用する場合は，次のいずれかの操作で検索表示を解除してください。

1. メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【表示(V)】→【検索表示(Y)】→【解除(R)】を選択。
2. 右クリックポップアップメニューの【検索表示(O)】→【解除(Y)】を選択。
3. メール開封状況一覧ビューアウィンドウの［検索解除］ボタンを押す。

簡易検索表示の種類を表 10.3-2 に示します。

表 10.3-2　簡易検索表示の種類

表示方法の種類	表示内容
全てのメッセージを表示	全ての開封状況メッセージを表示します
未開封のメッセージを表示	未開封の開封状況メッセージを表示します
開封済のメッセージを表示	開封済の開封状況メッセージを表示します
送信中のメッセージを表示	送信中の開封状況メッセージを表示します
再送中のメッセージを表示	再送中の開封状況メッセージを表示します
送信エラーのメッセージを表示	送信エラーの開封状況メッセージを表示します
配送エラーのメッセージを表示	配送エラーの開封状況メッセージを表示します
送信済のメッセージを表示	送信済の開封状況メッセージを表示します

(3)　［検索実行］ボタン

検索表示設定ダイアログで設定された条件に一致する開封状況メッセージの表示を実行または解除します。

検索表示中は，「簡易検索」ドロップダウンリストを使用できません。

(4)　［検索解除］ボタン

検索表示設定ダイアログで設定された条件に一致する開封状況メッセージの表示を実行または解除します。

検索表示を解除すると，「簡易検索」ドロップダウンリストが使用できます。

(5)　［表示設定］ボタン

表示設定ダイアログを表示します。

(6)　［検索表示］ボタン

検索表示設定ダイアログを表示します。

(7)　［削除］ボタン

メール開封状況一覧ビューアで選択された開封状況メッセージを削除します。開封状況メッセージを選択していない場合は使用できません。

(8)　［開く］ボタン

「開封状況メッセージ」リストボックスに表示している開封状況メッセージを，アプリケーションを使用して開きます。［開く］ボタンを押すと使用するアプリケーションの一覧画面を表示します。

「開封状況メッセージ」リストボックスに表示している開封状況メッセージを印刷する場合に使用します。開封状況メッセージがメール開封状況一覧ビューアに表示されていない場合は使用できません。

(9)　［保存］ボタン

「開封状況メッセージ」リストボックスに表示している開封状況メッセージを項目毎にカンマ区切りで保存します。開封状況メッセージがメール開封状況一覧ビューアに表示されていない場合は使用できません。

(10) ［備考］ボタン

メモダイアログボックスを開きます。開封状況メッセージを選択していない場合は使用できません。

メール開封状況一覧ビューアに表示している開封状況メッセージの項目を選択してダブルクリックすると，メモダイアログボックスを開きます。

(11)「開封状況メッセージ」リストボックス

メールの開封状況の一覧を表示します。

2 つ以上のメール開封状況一覧ビューアウィンドウを表示している場合で，1 つのメール開封状況一覧ビューアウィンドウで開封済への変更操作や削除操作を行った場合，他のメール開封状況一覧ビューアウィンドウに対しても表示更新します。

開封状況メッセージは，オプションダイアログの「最大表示メッセージ数」テキストボックスで指定したメッセージ数で表示します。表示されない開封状況メッセージを表示する場合は，最大表示メッセージ数を多くしてください。最大表示メッセージ数を多くするとウィンドウ表示に時間がかかります。詳細は，オプションダイアログボックスの「最大表示メッセージ数」を参照してください。

最新の開封状況メッセージは，常に最上位に表示します。表示順序の並び替えをしていても最新の開封状況メッセージは，常に最上位に表示します。

［F5］キーで最新の開封状況メッセージを表示します。

開封状況メッセージは複数同時に選択することもできますは，［Ctrl］キーで，選択範囲を連続選択は，［Shift］キーを押しながらマウスまたは［↑］，［↓］キーで，全選択は，［Ctrl］＋［A］キーでできます。全選択は，メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【編集(E)】→【全て選択(Z)】を選択するか，または右クリックポップアップメニューの【全て選択(K)】を選択でもできます。

［Home］キーを使用すると最上位の開封状況メッセージを表示できます。［End］キーを使用すると，最下位の開封状況メッセージを表示できます。

［PageUp］キーを使用すると，表示している開封状況メッセージの上位に表示している開封状況メッセージを表示できます。［PageDown］キーを使用すると，表示している開封状況メッセージの下位に表示している開封状況メッセージを表示できます。

特定の開封状況メッセージを削除する場合は，削除する開封状況メッセージを 1 つまたは複数選択し［Delete］キーで削除できます。メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューから開封状況メッセージを削除する方法は，表 10.3-1 を参照してください。

10.3.7オプションダイアログボックス

オプションダイアログボックスで「開封状況メッセージ」リストボックスに表示する最大メッセージ数や表示更新方法を設定します。

オプションダイアログボックスを使用する場合は，メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【設定(S)】→【オプション(O)】を選択して，オプションダイアログボックスを表示します。

オプションダイアログボックスを，図 10.3-7 に示します。

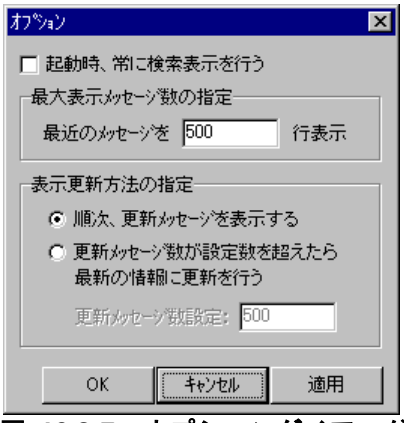


図 10.3-7　オプションダイアログボックス

(1) 「最大表示メッセージ数」テキストボックス

「開封状況メッセージ」リストボックスに表示する開封状況メッセージ数を指定します。標準は，500 メッセージです。

最大表示メッセージ数を多くすると開封状況メッセージを多く表示できますが，開封状況メッセージの表示に時間がかかり，開封状況メッセージの表示中は，メール開封状況一覧ビューアウィンドウの操作ができなくなる他，CPU を使用することになります。保存する開封状況メッセージ数，同時に使用するメール開封状況一覧ビューア数と使用する PC の性能を考慮した適正値を設定してください。

また，開封状況メッセージが多い場合，「開封状況メッセージ」リストボックスに表示する開封状況メッセージ数を少なくしても表示に時間がかかり，メール開封状況一覧ビューアウィンドウの操作ができなくなる場合があります。

また，開封状況メッセージ数を前回より多い数に変更すると，「開封状況メッセージ」リストボックスの全ての開封状況メッセージを最新の情報で表示し直します。

この場合も開封状況メッセージの表示更新中は，メール開封状況一覧ビューアウィンドウの操作ができなくなります。

開封状況メッセージの表示時間を短くするには，次の操作を行います。

1. 開封状況メッセージを定期的に削除して開封状況メッセージ数を減らす。削除操作は，メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【編集(E)】で行います。
2. 開封状況メッセージの自動削除を使用して開封状況メッセージ数を減らす。開封状況メッセージの自動削除は，環境設定ダイアログボックスの「メール開封確認」タブで設定します。
3. 最大表示メッセージ数を少なくして開封状況メッセージの表示数を減らす。

(2) 「起動時，常に検索表示を行う」チェックボックス

簡易検索表示または検索表示を，次回メール開封状況一覧ビューア開始時にも有効にする場合に，このチェックボックスにチェックします。チェックしていない場合，次回のメール開封状況一覧ビューアの開始時では，検索表示（簡易検索表示，または検索表示）を行わずに開封状況メッセージを表示します。

(3) 「順次，更新メッセージを表示する」ラジオボタン

開封状況メッセージに対して開封済への変更操作や削除操作を行った場合，開封状況メッセージを 1 メッセージごとに表示更新する場合に，このラジオボタンを選択します。

メール開封確認を行うメール発信の開封状況メッセージでは，常に 1 メッセージごとに表示更新します。

(4) 「更新メッセージ数が設定数を超えたら最新の情報に更新を行う」ラジオボタン

複数の開封状況メッセージを一度に開封済への変更操作や削除操作を行った場合，全ての開封状況メッセージを最新の情報に表示更新する場合に，このラジオボタンを選択します。

メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【表示(V)】の【最新の情報に更新(X) 】と同じ操作になります。

この更新方法を使用すると，開封状況メッセージの表示更新中は，メール開封状況一覧ビューアウィンドウの操作ができなくなります。

複数の開封状況メッセージを一度に開封済への変更操作や削除操作を行った場合，開封状況メッセージを 1 メッセージごとに表示更新するか，全ての開封状況メッセージを最新の情報に表示更新するかは，保存する開封状況メッセージ数，同時に使用するメール開封状況一覧ビューア数と使用する PC の性能を考慮した適正値を設定してください。

(5) 「更新メッセージ数設定」テキストボックス

複数の開封状況メッセージを一度に開封済への変更操作や削除操作を行った場合，全ての開封状況メッセージを最新の情報に表示更新する方法を適用するメッセージ数を指定します。一度に開封済への変更操作や削除操作を行う開封状況メッセージ数が，更新メッセージ数設定数以下の場合では，1 メッセージごとに表示更新します。

(6) ［OK］ボタン

オプションダイアログを閉じて，指定した設定情報を「開封状況メッセージ」リストボックスに反映します。

(7) ［キャンセル］ボタン

設定を取り消してオプションダイアログボックスを閉じます。

(8) ［適用］ボタン

オプションダイアログを閉じずに，指定した設定情報を「開封状況メッセージ」リストボックスに反映します。

10.3.8表示設定ダイアログボックス

表示設定ダイアログボックスで「開封状況メッセージ」リストボックスに表示する開封状況メッセージの文字色，背景色，優先順序や文字サイズ，表示項目と表示順序，およびメール開封状況一覧ビューアウィンドウのメニューボタンの表示/非表示を設定します。

表示設定ダイアログボックスを使用する場合は，次のいずれかの操作で表示します。

1. メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【設定(S)】→【表示設定(L)】を選択。
2. 右クリックポップアップメニューの【表示設定(R)】を選択。

3. メール開封状況一覧ビューアウィンドウの［表示設定］ボタンを押す。

(1) 「表示色と文字サイズ」タブ

「開封状況メッセージ」リストボックスに表示する開封状況メッセージの文字色，背景色，優先順序や文字サイズを設定します。「表示色と文字サイズ」タブを図 10.3-8 に示します。

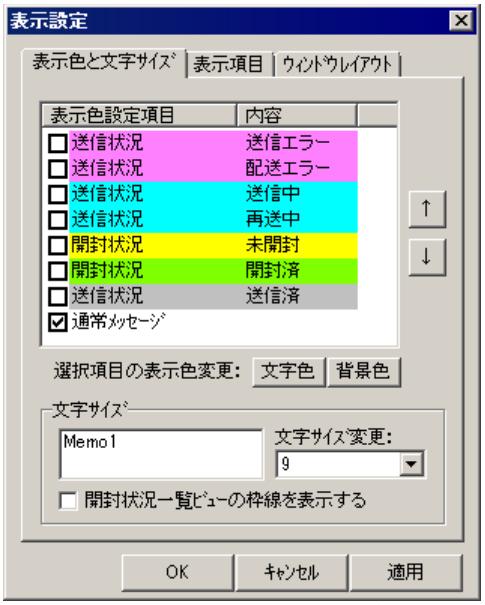


図 10.3-8 表示設定ダイアログボックス－「表示色と文字サイズ」タブ

(a) 「表示色設定項目」リストボックス

「開封状況メッセージ」リストボックスに表示される開封状況メッセージの表示色を指定します。リストボックスの上位に設定される項目の表示色を優先して表示します。各項目先頭のチェックボックスにチェックしている項目の表示色で表示します。通常メッセージを最下位から移動することはできません。通常メッセージのチェックボックスのチェックを外すことはできません。

(b) ［文字色］ボタン

「表示色設定項目」リストボックスで選択された項目の文字色を指定します。

(c) ［背景色］ボタン

「表示色設定項目」リストボックスで選択された項目の背景色を指定します。

(d) ［↑］，［↓］ボタン

「表示色設定項目」リストボックスに表示された項目の優先順位を変更します。

(e) 「文字サイズ変更」ドロップダウンリスト

「開封状況メッセージ」リストボックスに表示する開封状況メッセージの文字サイズを 8～20 の範囲で指定します。

(f) 「開封状況一覧ビューの枠線を表示する」チェックボックス

「開封状況メッセージ」リストボックスに表示する開封状況メッセージのメッセージ間，項目間に枠線を表示する場合，この項目にチェックします。

(g)　［OK］ボタン

表示設定ダイアログボックスを閉じて，指定した設定情報を「開封状況メッセージ」リストボックスに反映します。

(h)　［キャンセル］ボタン

設定を取り消して表示設定ダイアログボックスを閉じます。

(i)　［適用］ボタン

表示設定ダイアログボックスを閉じずに，指定した設定情報を「開封状況メッセージ」リストボックスに反映します。

(2)　「表示項目」タブ

「開封状況メッセージ」リストボックスに表示する開封状況メッセージの表示項目と表示順序を設定します。

ユーザ説明，備考，連絡網説明，連絡網グループ説明を表示する場合では，開封状況メッセージの表示に時間がかかる場合があります。

「表示項目」タブを図 10.3-9 に示します。

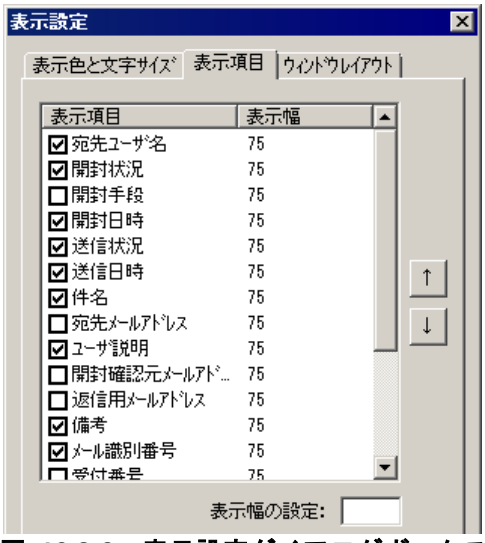


図 10.3-9　表示設定ダイアログボックス－「表示項目」タブ

(a)　「表示項目」リストボックス

「開封状況メッセージ」リストボックスに表示される開封状況メッセージの項目と表示順序を指定します。

「表示項目」リストボックスの上位の項目から各項目のチェックボックスにチェックした項目を「開封状況メッセージ」リストボックスの左側から表示します。

表示項目の種類を表 10.3-3 に示します。

表 10.3-3　表示項目の種類

表示項目	表示内容
宛先ユーザ名	連絡網を使用してメールの開封確認を行う場合，メールの宛先ユーザ名を表示します。宛先ユーザ名は，ユーザ管理ダイアログで設定されたユーザ名となります。

表示項目	表示内容
	直接メール発信では空白を表示します。
開封状況	メールの開封状況を未開封，開封済で表示します。
開封手段	メールの開封確認方法を返信，手動で表示します。
開封日時	メールが開封された日時を表示します。
送信状況	メールの送信状況を送信中，送信エラー，再送中，配送エラー，送信済で表示します。
送信日時	メールの送信日時を表示します。
件名	メールの件名を表示します。
宛先メールアドレス※1	メールの宛先メールアドレスを表示します。
ユーザ説明	宛先ユーザ名の説明を表示します。直接メール発信では空白を表示します。
開封確認元メールアドレス※1	開封確認通知メールの送信元に指定しているメールアドレスを表示します。
返信用メールアドレス※1	開封確認通知メールの宛先に指定しているメールアドレスを表示します。
備考	メモダイアログボックスに入力した内容を表示します。 複数のメール開封状況一覧ビューアウィンドウを開始している場合，1 つのメール開封状況一覧ビューアウィンドウで備考情報の設定を行うと，他のメール開封状況一覧ビューアウィンドウにも備考情報を表示します。
メール識別番号	メールを識別する番号を表示します。
受付番号	受付番号を表示します。
連絡網 ID	連絡網 ID を表示します。直接メール発信では空白を表示します。
連絡網説明	連絡網 ID の説明を表示します。直接メール発信では空白を表示します。
通知 ID	通知 ID を表示します。通知 ID を指定していない場合，空白を表示します。
連絡網グループ ID	連絡網グループ ID を表示します。直接メール発信では空白を表示します。
連絡網グループ説明	連絡網グループ ID の説明を表示します。直接メール発信では空白を表示します。

※1　登録ユーザ一覧ウィンドウで「利用者の認証を行う」チェックボックスにチェックしている場合は，項目をチェックするには利用者の認証が必要です。

(b)　［↑］，［↓］ボタン

「表示項目」リストボックスに表示された項目の表示順序を変更します。

(c)　「表示幅の設定」テキストボックス

「表示項目」リストボックスで選択された項目を「開封状況メッセージ」リストボックスに表示する際の表示幅を指定します。

(3)　「ウィンドウレイアウト」タブ

メール開封状況一覧ビューアウィンドウのメニューボタンの表示/非表示を設定します。

「ウィンドウレイアウト」タブを図 10.3-10 に示します。

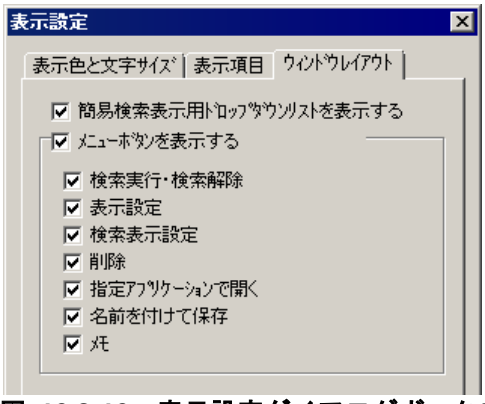


図 10.3-10　表示設定ダイアログボックスー「ウィンドウレイアウト」タブ

(a)　「簡易検索表示用ドロップダウンリストを表示する」チェックボックス

メール開封状況一覧ビューアウィンドウに「簡易検索表示」ドロップダウンリストを表示する場合，このチェックボックスにチェックします。

(b)　「メニューボタンを表示する」チェックボックス

メール開封状況一覧ビューアウィンドウにメニューボタンを表示する場合，このチェックボックスにチェックします。

(c)　「検索実行・検索解除」チェックボックス

メール開封状況一覧ビューアウィンドウに［検索実行］ボタンまたは［検索解除］ボタンを表示する場合，このチェックボックスにチェックします。

(d)　「表示設定」チェックボックス

メール開封状況一覧ビューアウィンドウに［表示設定］ボタンを表示する場合，このチェックボックスにチェックします。

(e)　「検索表示設定」チェックボックス

メール開封状況一覧ビューアウィンドウに［検索表示設定］ボタンを表示する場合，このチェックボックスにチェックします。

(f)　「削除」チェックボックス

メール開封状況一覧ビューアウィンドウに［削除］ボタンを表示する場合，このチェックボックスにチェックします。

(g)　「指定アプリケーションで開く」チェックボックス

メール開封状況一覧ビューアウィンドウに［開く］ボタンを表示する場合，このチェックボックスにチェックします。

(h) 「名前をつけて保存」チェックボックス

メール開封状況一覧ビューアウィンドウに［保存］ボタンを表示する場合，このチェックボックスにチェックします。

(i) 「メモ」チェックボックス

メール開封状況一覧ビューアウィンドウに［メモ］ボタンを表示する場合，このチェックボックスにチェックします。

10.3.9検索表示設定ダイアログボックス

検索表示設定ダイアログボックスで「開封状況メッセージ」リストボックスに表示するメッセージの検索表示条件を設定します。

多数の開封状況メッセージがある場合，開封状況メッセージの表示に時間がかかる場合があります。

検索表示中は，「簡易検索」ドロップダウンリストを使用できません。

検索表示を行う場合は，次のいずれかの操作で行います。

1. メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【表示(V)】→【検索表示(Y)】→【実行(E)】
2. 右クリックポップアップメニューの【検索表示(O)】→【実行(Z)】
3. メール開封状況一覧ビューアウィンドウの［検索実行］ボタン
4. 検索表示設定ダイアログボックスの［OK］ボタンまたは［適用］ボタン

検索表示を解除する場合は，次のいずれかの操作で行います。

1. メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【表示(V)】→【検索表示(Y)】→【解除(R)】
2. 右クリックポップアップメニューの【検索表示(O)】→【解除(Y)】
3. メール開封状況一覧ビューアウィンドウの［検索解除］ボタン

検索表示設定ダイアログボックスは，次のいずれかの操作で表示します。検索表示設定ダイアログボックスを，図 10.3-11，図 10.3-12 に示します。

1. メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【設定(S)】→【検索表示設定(F)】を選択。
2. 右クリックポップアップメニューの【検索表示設定(S)】を選択。
3. メール開封状況一覧ビューアウィンドウの［検索表示］ボタンを押す。

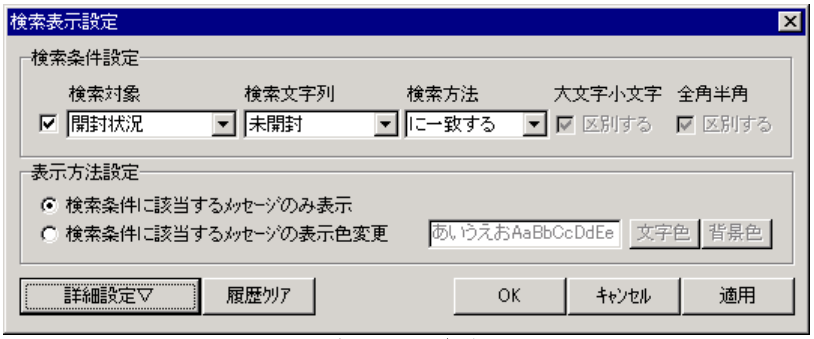


図 10.3-11　検索表示設定ダイアログボックス

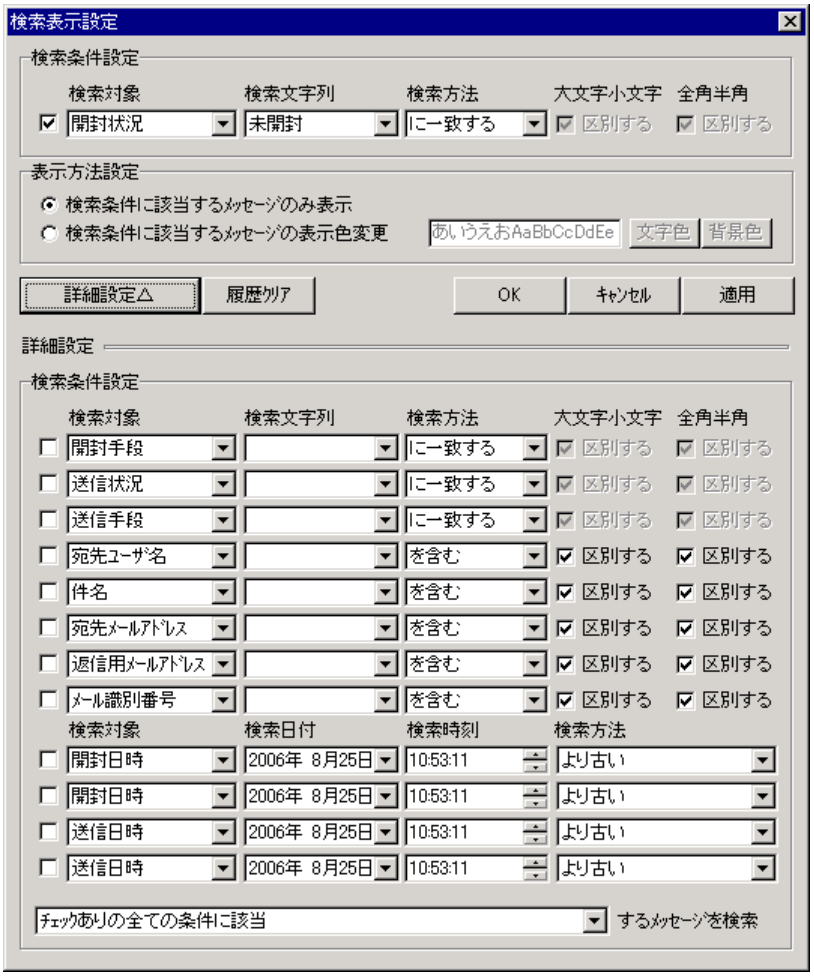


図 10.3-12　検索表示設定ダイアログボックス-詳細設定

(1)　**「検索条件設定」フィールド**

検索条件を指定します。

(2)　**「検索条件設定」チェックボックス**

指定した検索条件を有効にする場合，このチェックボックスにチェックします。

(3)　**「検索対象」ドロップダウンリスト**

検索を行う項目を選択します。「表示項目」リストボックスに表示している全ての項目から，開封日時，送信日時，ユーザ説明，開封確認元メールアドレス，備考，連絡網説明，連絡網グループ説明を除いた項目から，検索を行う項目を選択します。

(4) 「検索文字列」ドロップダウンリスト

検索する文字列を指定します。送信状況・送信手段・開封状況・開封手段では，検索する文字列をリストより選択します。他の項目では，検索する文字列を入力します。

(5) 「検索方法」ドロップダウンリスト

検索方法を指定します。送信状況・送信手段・開封状況・開封手段では，「一致する / 一致しない」をリストより選択します。他の項目では，「一致する / 含む / 含まない / 始まる / 始まらない / 終わる / 終わらない / 以上 / 以下」をリストより選択します。

(6) 「大文字小文字を区別する」チェックボックス

大文字小文字を区別して文字列を検索する場合，このチェックボックスにチェックします。送信状況・送信手段・開封状況・開封手段では，このチェックボックスは指定できません。他の項目では，「検索方法」ドロップダウンリストで「以上 / 以下」を選択している場合，このチェックボックスは指定できません。

(7) 「全角半角を区別する」チェックボックス

全角半角を区別して文字列を検索する場合，このチェックボックスにチェックします。送信状況・送信手段・開封状況・開封手段では，このチェックボックスは指定できません。他の項目では，「検索方法」ドロップダウンリストで「以上 / 以下」を選択している場合，このチェックボックスは指定できません。

(8) 「表示方法設定」フィールド

検索条件に一致する開封状況メッセージを「開封状況メッセージ」リストボックスへ表示する方法を指定します。

(9) 「検索条件に該当するメッセージのみ表示」ラジオボタン

検索条件に一致する開封状況メッセージを「開封状況メッセージ」リストボックスへ表示します。

(10) 「検索条件に該当するメッセージの表示色変更」ラジオボタン

検索条件に一致する開封状況メッセージを指定された表示色で「開封状況メッセージ」リストボックスへ表示します。

(11) ［文字色］ボタン

検索条件に一致する開封状況メッセージの文字色を指定します。

(12) ［背景色］ボタン

検索条件に一致する開封状況メッセージの背景色を指定します。

(13) ［詳細設定▽］，［詳細設定△］ボタン

検索表示設定ダイアログボックスの詳細設定画面を表示，非表示にします。

(14) ［履歴クリア］ボタン

「検索文字列」ドロップダウンリストに入力された文字列の履歴を削除します。

(15) ［OK］ボタン

検索表示設定ダイアログボックスを閉じて，検索表示を開始します。

(16) ［キャンセル］ボタン

設定を取り消して検索表示設定ダイアログボックスを閉じます。

(17) ［適用］ボタン

検索表示設定ダイアログボックスを閉じずに，検索表示を開始します。

(18)「詳細設定」フィールド

検索条件を指定します。

(19)「検索条件設定」チェックボックス – 日時指定

指定した検索条件を有効にする場合，このチェックボックスにチェックします。

(20)「検索対象」ドロップダウンリスト – 日時指定

検索を行う項目を選択します。送信日時 / 開封日時のいずれかを選択します。

(21)「検索日付」ドロップダウンリスト – 日時設定

検索する日付を指定します。

(22)「検索時刻」スピンボックス – 日時設定

検索する時刻を指定します。

(23)「検索方法」ドロップダウンリスト – 日時設定

検索方法を指定します。「より古い / 以前 / 以降 / より新しい」をリストより選択します。

(24)「全体の検索条件の検索方法」ドロップダウンリスト

個々に指定した検索条件全体の検索方法を指定します。下記のいずれかをリストより選択します。検索条件と検索方法を表 10.3-4 に示します。

表 10.3-4　検索条件と検索方法

検索条件	検索方法
チェックありの全ての条件に該当	チェックありの全ての条件に該当する開封状況メッセージを検索します。
チェックありのいずれかの条件に該当	チェックありのいずれかの条件に該当する開封状況メッセージを検索します。
チェックありの全ての条件に該当し，チェックなしのいずれかの条件に該当	チェックありの全ての条件に該当し，チェックなしのいずれかの条件に該当する開封状況メッセージを検索します。
チェックありのいずれかの条件に該当し，チェックなしの全ての条件に該当	チェックありのいずれかの条件に該当し，チェックなしの全ての条件に該当する開封状況メッセージを検索します。

10.3.10　メモダイアログボックス

メモダイアログボックスで「開封状況メッセージ」リストボックスの「備考」欄に表示

する文字列を指定します。

メモダイアログボックスを使用する場合は，「開封状況メッセージ」リストボックスの開封状況メッセージを選択して，次のいずれかの操作で表示します。メモダイアログボックスを，図 10.3-13 に示します。

1. メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【ツール(T)】→【メモ設定(Z)】
2. 右クリックポップアップメニューの【メモ設定(D)】
3. メール開封状況一覧ビューアウィンドウの［メモ］ボタンを押す。
4. ダブルクリックを行う。

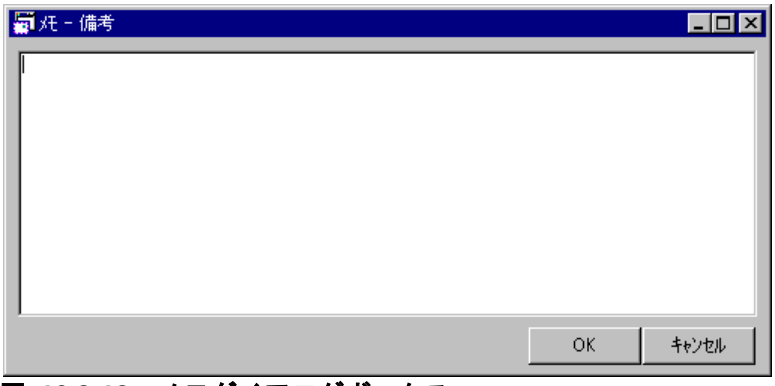


図 10.3-13　メモダイアログボックス

(1) 「メモ」テキストボックス

「開封状況メッセージ」リストボックスの「備考」欄に表示する文字列を指定します。改行は半角コロンに変換して「備考」欄に表示します。

(2) ［OK］ボタン

メモダイアログボックスを閉じて，指定した文字列を「備考」欄に表示します。

(3) ［キャンセル］ボタン

指定した文字列を取り消します。

10.3.11　期日指定削除ダイアログボックス

期日指定削除ダイアログボックスで削除する開封状況メッセージを指定します。

期日指定削除ダイアログボックスを使用する場合は，次のいずれかの操作で表示します。期日指定削除ダイアログボックスを，図 10.3-14 に示します。

1. メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【編集(E)】→【期日指定で削除(U)】
2. 右クリックポップアップメニューの【期日指定で削除(I)】

図 10.3-14　期日指定削除ダイアログボックス

(1) 「期日種別」ラジオボタン

削除する開封状況メッセージの期日の種別を指定します。開封日時を選択した場合，開封状況が未開封の開封状況メッセージは削除できません。

(2) 「削除期日指定」フィールド

削除する開封状況メッセージの日付，時刻を指定します。

(3) 「日付設定」チェックボックス

削除する開封状況メッセージの期日を日付で指定する場合，このチェックボックスにチェックします。

(4) 「日付設定」ドロップダウンリスト

日付を指定します。

(5) 「時刻設定」チェックボックス

削除する開封状況メッセージの期日を時刻で指定する場合，このチェックボックスにチェックします。

(6) 「時刻設定」スピンボックス

時刻を指定します。

(7) ［削除］ボタン

指定した設定情報で開封状況メッセージを削除します。

(8) ［キャンセル］ボタン

指定した設定情報を取り消します。

10.3.12　エラーメールウィンドウ

開封状況メッセージの送信状況が配送エラーのエラー返信メールの内容（本文）を表示します。元メールの情報は，表示できません。

エラーメールウィンドウは，配送エラーが起きた日から 5 日以内で，SMTP サーバからの配送エラー返信メールが「RFC 1894」に準拠した形式で，配送エラーとなった元メールの情報があり，元メールの情報が配送エラー返信メールの「content-type: message/rfc822」のパートに記述されている形式の場合表示できます。

エラーメールウィンドウは，配送エラーの開封状況メッセージを選択して，次のいずれかの操作で表示します。エラーメールウィンドウを，図 10.3-15 に示します。

1. メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【ツール(T)】→【エラーメールを表示(E)】

2. 右クリックポップアップメニューの【エラーメールを表示(F)】

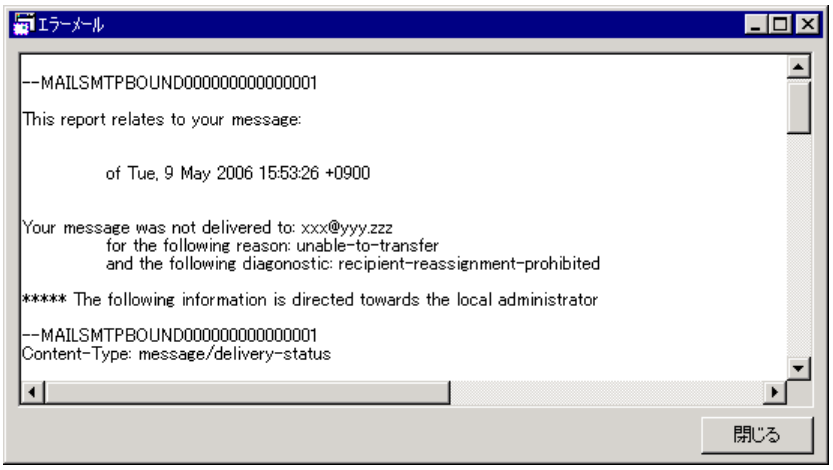


図 10.3-15 エラーメールウィンドウ

(1) 「エラーメール」テキストボックス

開封状況メッセージの送信状況が配送エラーのエラー返信メールの内容（本文）を表示します。元メールの情報は，表示できません。表示内容の編集はできません。

(2) ［閉じる］ボタン

エラーメールウィンドウを閉じます。

10.3.13 詳細ダイアログボックス

詳細ダイアログボックスで開封状況メッセージごとに全ての表示項目を表示します。詳細ダイアログボックスを表示している間は，開封状況メッセージの表示更新とメール開封状況一覧ビューアウィンドウの操作はできません。

メール発信中に「図 6.1-1 TELstaff サービスの起動ダイアログボックス」の「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを再起動した場合，「送信状況」欄が「送信中」表示のままになる場合があります。

詳細ダイアログボックスを使用する場合は，「開封状況メッセージ」リストボックスの開封状況メッセージを選択して，次のいずれかの操作で表示します。詳細ダイアログボックスを，図 10.3-16 に示します。

1. メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【表示(V)】→【詳細(D)】
2. 右クリックポップアップメニューの【詳細(A)】

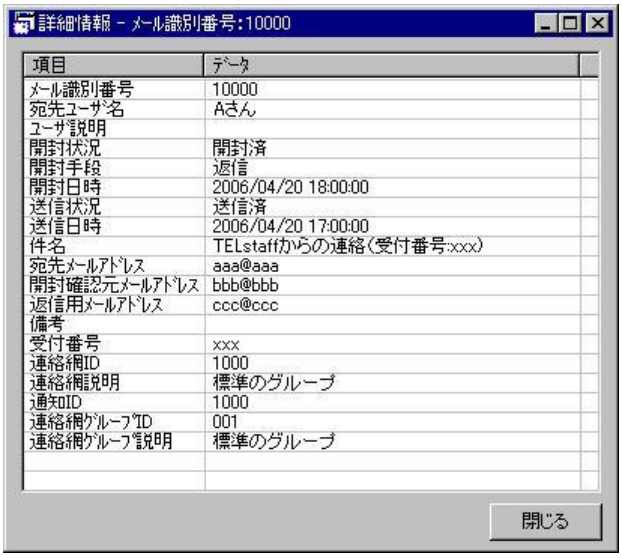


図 10.3-16　詳細ダイアログボックス

(1) 「開封状況メッセージ詳細」リストボックス

開封状況メッセージの全ての表示項目を表示します。

登録ユーザ一覧ウィンドウで「利用者の認証を行う」チェックボックスにチェックしている場合で，表示設定ダイアログボックスの「表示項目」タブで宛先メールアドレス，開封確認元メールアドレス，返信用メールアドレスのいずれにもチェックしていない場合は，メールアドレス情報を表示しません。

メールアドレス情報を表示する場合は，表示設定ダイアログボックスの「表示項目」タブで，宛先メールアドレス，開封確認元メールアドレス，返信用メールアドレスのいずれかにチェックして，詳細ダイアログボックスを表示してください。

(2) ［閉じる］ボタン

詳細ダイアログボックスを閉じます。

10.3.14　メール開封状況ウィンドウ

メール開封状況を表示します。

TELstaff ウィンドウ-【ツール(T)】メニューの【メール開封状況(Y)】，またはスタートメニューの【TELstaff のツール】の【メール開封状況】でメール開封状況ウィンドウを表示した場合，メール開封状況ウィンドウでの開封状況メッセージ更新に伴うメッセージ数の更新は，オプションダイアログボックスの「順次，更新メッセージを表示する」ラジオボタンにチェックした方法でメッセージ数を更新します。

メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【ファイル(F)】→【メール開封状況を開く(C)】でメール開封状況ウィンドウを表示した場合，表示を行ったメール開封状況一覧ビューアのオプションダイアログで設定した方法でメッセージ数を更新します。

メール開封状況ウィンドウは，次のいずれかの操作で表示します。メール開封状況ウィンドウを，図 10.3-17 に示します。

1. TELstaff ウィンドウ-【ツール(T)】メニューの【メール開封状況(Y)】

2. スタートメニューの【TELstaff のツール】の【メール開封状況】
3. メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【ファイル(F)】→【メール開封状況を開く(C)】

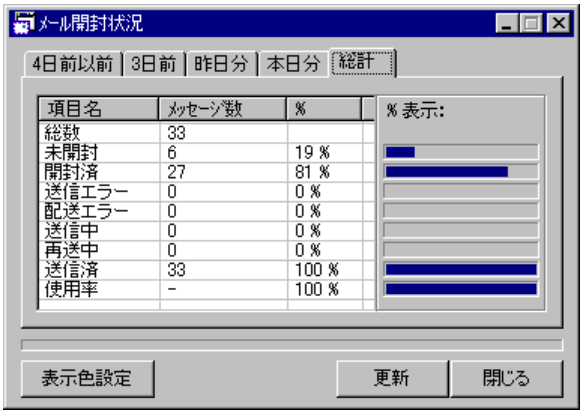


図 10.3-17　メール開封状況ウィンドウ

(1) 「4日前以前」タブ

送信日時が 4 日前以前の開封状況メッセージ数を表示します。

(2) 「3日前」タブ

送信日時が 3 日前の開封状況メッセージ数を表示します。

(3) 「昨日分」タブ

送信日時が昨日の開封状況メッセージ数を表示します。

(4) 「本日分」タブ

送信日時が本日の開封状況メッセージ数を表示します。

(5) 「総計」タブ

開封状況ファイルに登録されている全ての開封状況メッセージ数を表示します。

(6) 「メッセージ数」リストボックス

項目毎に開封状況メッセージ数，総数に対する割合を表示します。

［更新］ボタンまたは［F5］キーで，メール開封状況ウィンドウの情報を最新の情報に更新します。

表示項目と表示内容を表 10.3-5 に示します。

表 10.3-5　表示項目と表示内容

項目名	表示内容
総数	開封状況メッセージ数の合計
未開封	未開封の開封状況メッセージ数
開封済	開封済の開封状況メッセージ数
送信エラー	送信エラーの開封状況メッセージ数
配送エラー	配送エラーの開封状況メッセージ数
送信中	送信中の開封状況メッセージ数
配送中	配送中の開封状況メッセージ数
送信済	送信済の開封状況メッセージ数

項目名	表示内容
使用率	「総数」タブに開封状況ファイルの使用率を割合で表示

(7) 「%表示」フィールド

項目毎に開封状況メッセージ総数に対する割合を棒グラフで表示します。

(8) 「表示色設定」ボタン

表示色設定ダイアログボックスを開きます。

(9) ［更新］ボタン

メール開封状況ウィンドウの情報を最新の情報に更新します。

(10) ［閉じる］ボタン

メール開封状況ウィンドウを終了します。

10.3.15 表示色設定ダイアログボックス

表示色設定ダイアログボックスでメール開封状況ウィンドウの「メッセージ数」リストボックスに表示する文字色と背景色を設定します。

メール開封状況一覧ビューアウィンドウメニューの【ファイル(F)】→【メール開封状況を開く(C)】でメール開封状況ウィンドウを表示した場合，表示を行ったメール開封状況一覧ビューアの表示設定ダイアログの「表示色」タブで設定した表示色で，メール開封状況ウィンドウの項目を表示します。

表示色設定ダイアログボックスは，メール開封状況ウィンドウの［表示色設定］ボタンから表示します。表示色設定ダイアログボックスを，図 10.3-18 に示します。

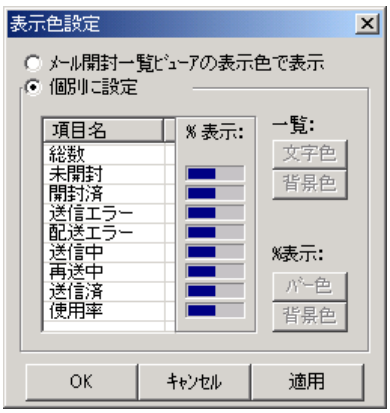


図 10.3-18 表示色設定ダイアログボックス

(1) 「メール開封一覧ビューアの表示色で表示」ラジオボタン

メール開封状況一覧ビューアの表示設定ダイアログボックスで設定した表示色で，「メッセージ数」リストボックスを表示します。メール開封状況一覧ビューアからメール開封状況ウィンドウを開いた場合だけ選択できます。

(2) 「個別に設定」ラジオボタン

「メッセージ数」リストボックスの表示色を指定します。

(3) 「項目名」リストボックス

項目毎の表示色を表示します。

(4) 「%表示」フィールド

項目毎の棒グラフの表示色を表示します。

(5) ［文字色］ボタン

「項目名」リストボックスで選択された項目の文字色を指定します。

(6) ［背景色］ボタン

「項目名」リストボックスで選択された項目の背景色を指定します。

(7) ［バー色］ボタン

「項目名」リストボックスで選択された項目の棒グラフのバー色を指定します。

(8) ［背景色］ボタン

「項目名」リストボックスで選択された項目の棒グラフの背景色を指定します。

(9) ［OK］ボタン

表示色設定ダイアログボックスを閉じて，指定した設定情報をメール開封状況ウィンドウに反映します。

(10) ［キャンセル］ボタン

指定した設定情報を取り消します。

(11) ［適用］ボタン

表示色設定ダイアログボックスを閉じずに，指定した設定情報をメール開封状況ウィンドウに反映します。

10.4　稼動状況監視ビューア

稼動状況監視の監視対象が現在どのような状態にあるかをリアルタイムに確認できます。稼動状況監視ビューアは，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff のツール】から【稼動状況監視ビューア】を選択して表示します。

稼動状況監視ビューアは，AEPE で使用できます。

(1) 稼動状況監視ビューア－メイン画面

稼動状況監視の監視対象が現在どのような状態にあるかをリアルタイムに確認できます。稼動状況監視ビューアは，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff のツール】から【稼動状況監視ビューア】を選択して表示します。稼動状況監視ビューアを図 10.6 1 に示します。

図 10.4-1　稼動状況監視ビューア

稼動状況監視ビューアは現在実行中の稼動状況監視の状態を表示するため，サービス起動時の情報が常に表示されます。そのため，サービス起動後に稼動状況監視の設定を更新した場合は TELstaff サービスを再起動するまで稼動状況監視ビューアの表示に反映されません。

(a) メニュー

稼動状況監視ビューアのメニューを表 10.4-1 に示します。

表 10.4-1　稼動状況監視ビューアのメニュー

メニュー	項目	説明
ファイル(F)	名前をつけて保存(A)...	表示内容を CSV ファイルとして保存します。
	閉じる(C)	ウィンドウを閉じます。
表示(V)	表示を更新(R)	表示を最新の状態に更新します。
	自動的に表示を更新(A)	本項目をチェックすると，1 秒間隔で自動的に表示を更新します。
	表示設定(S)...	図 10.4-2　表示設定ダイアログボックスを表示します。
	検索条件を設定(F)...	図 10.4-5　検索条件を設定ダイアログボックスを表示します。

(b) ステータスバー

メイン画面のステータスバーには以下の情報が表示されます。

- 定義されている監視対象の総数
- 表示中の監視対象の数（現在の検索条件に合致している監視対象の数）
- 稼動状況監視プロセスが稼動しているかどうか

これらの情報は自動的に更新され，表示を更新するためにユーザによる操作は不要です。

(c) 「クイック検索」テキストボックス

クイック検索テキストボックスでは，すばやく表示したい監視対象を絞り込むことができます。監視対象の中で，このテキストボックスに入力した文字列が「監視グループの名称 / 名称 / 場所」のいずれかに含まれるものが検索対象となります。なお，クイック検索テキストボックスによる検索は，「図 10.4-5　検索条件を設定ダイアログボックス」による検索結果に対して適用されます。

検索する文字列は，半角で 1025 文字以内で指定します。また，入力された文字列の大文字小文字は区別せずに検索し，空白文字やワイルドカードといった文字は特別扱いしません。

(d) リストビュー

メイン画面のリストビューには，検索条件に合致した監視対象の情報を表示します。列見出しをクリックすると表示内容をその列でソートします。なお，列の幅，並び順，表示する列については「図 10.4-2　表示設定ダイアログボックス」でカスタマイズ可能です。リストビューの列と表示内容を表 10.4-2 に示します。

表 10.4-2　リストビューの列と表示内容

列	表示内容
監視グループの名称	監視対象が所属している監視グループの名称を表示します。
監視グループの説明	監視対象が所属している監視グループの説明を表示します。
名称	監視対象の名称を表示します。
種別	監視対象の種別を表示します。
場所	監視対象の場所を表示します。
監視条件	監視対象の監視条件を表示します。 下記いずれかの監視条件を表示します。 ・稼動状態検出時 ・非稼動状態検出時 ・他の監視対象が非稼動 ・CPU 使用率が N%以下 ・CPU 使用率が N%以上 ・物理メモリ使用率が N%以下 ・物理メモリ使用率が N%以上 ・仮想メモリ使用率が N%以下 ・仮想メモリ使用率が N%以上 ・ディスク使用率が N%以下 ・ディスク使用率が N%以上

列	表示内容
状態	監視対象が稼動状態にあるか非稼動状態にあるかを表示します。
状態確認時刻	監視対象の状態を最後に確認した時刻を表示します。
使用率	監視対象の状態を最後に確認したときに検出した，監視対象の CPU 使用率・物理メモリ使用率・仮想メモリ使用率・ディスク使用率のいずれかの値を表示します。種別がコンピュータで，CPU 使用率・物理メモリ使用率・仮想メモリ使用率・ディスク使用率のいずれかを監視条件にしている監視対象にのみ表示します。
電源制御結果	監視対象に対して最後に行った電源制御の結果を「成功」または「失敗」のいずれかで表示します。電源制御を行うよう設定された監視対象にのみ表示します。
電源制御時刻	監視対象に対して最後に電源制御を行った時刻を表示します。電源制御を行うよう設定された監視対象にのみ表示します。
電源制御方法	監視対象に対して行う電源制御の方法を表示します。電源制御を行うよう設定された監視対象にのみ表示します。

(2) 表示設定ダイアログボックス

表示設定ダイアログボックスでは，「図 10.4-1 稼動状況監視ビューア」の表示に関する設定を行います。表示設定ダイアログボックスを図 10.4-2 に示します。

図 10.4-2 表示設定ダイアログボックス

(a) 「全般」タブ

全般タブでは，表示全般に関する設定を行います。表示設定ダイアログボックス-「全般」タブを図 10.4-3 に示します。

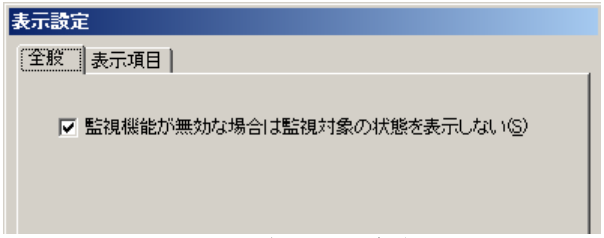


図 10.4-3 表示設定ダイアログボックス-「全般」タブ

●「監視機能が無効な場合は監視対象の状態を表示しない」チェックボックス

本チェックボックスをチェックすると，TELstaff サービスが起動していない場合に監視対象の状態を表示しません。本チェックボックスをチェックしない場合，各監視対象について最後に確認した状態が表示されます。

(b) 「表示項目」タブ

表示項目タブでは， メイン画面のリストビューに表示する項目に関する設定を行います。表示設定ダイアログボックス-「表示項目」タブを図 10.4-4 に示します。

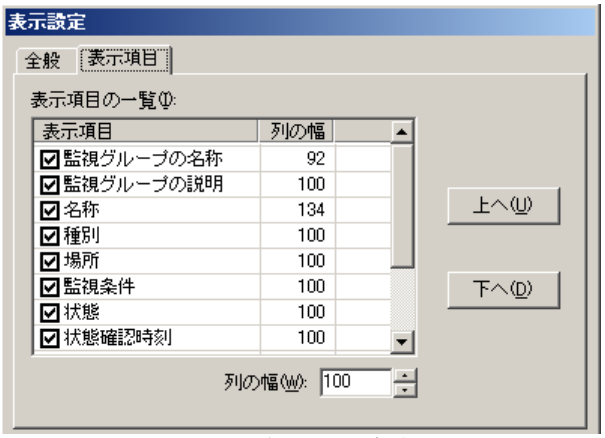


図 10.4-4 表示設定ダイアログボックス-「表示項目」タブ

●「表示項目の一覧(I)」リストビュー

メイン画面のリストビューに表示する項目と表示順序などを設定します。「表示項目の一覧」リストボックスの上にある項目から順番に，チェックボックスにチェックした項目をメイン画面のリストビューの左側から順番に表示します。

●「列の幅(W)」スピンボックス

「表示項目の一覧」リストビューで選択されている項目の幅を指定します。

●「上へ(U)」ボタンと「下へ(D)」ボタン

「表示項目の一覧」リストビューでの項目の並び順を変更します。

(3) 検索条件を設定ダイアログボックス

検索条件を設定ダイアログボックスでは，どのような監視対象を「図 10.4-1 稼動状況監視ビューア」で表示するかを決定する検索条件を設定します。検索条件を設定ダイアログボックスを図 10.4-5 に示します。

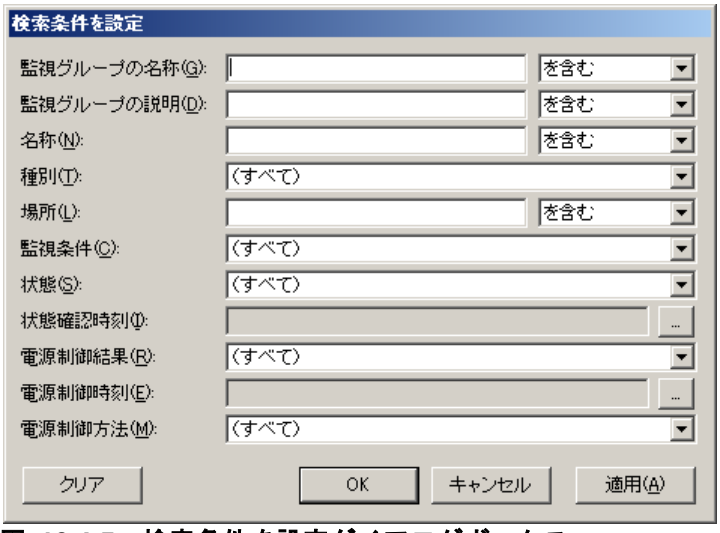


図 10.4-5　検索条件を設定ダイアログボックス

●「監視グループの名称」テキストボックス

どのような監視対象を表示するかを，所属する監視グループの名称で指定します。監視グループの名称から文字列を検索する方法については「文字列の検索方法について」を参照してください。

●「監視グループの説明」テキストボックス

どのような監視対象を表示するかを，所属する監視グループの説明で指定します。監視グループの説明から文字列を検索する方法については「文字列の検索方法について」を参照してください。検索する文字列は，半角で 1025 文字以内で指定します。

●「名称」テキストボックス

どのような監視対象を表示するかを，監視対象の名称で指定します。名称から文字列を検索する方法については「文字列の検索方法について」を参照してください。検索する文字列は，半角 1025 文字以内で指定します。

●「種別」ドロップダウンリスト

どのような監視対象を表示するかを，監視対象の種別で指定します。種別は「（すべて）/ コンピュータ / 機器」の中から選択します。「（すべて）」を選択すると，すべての種別が検索対象となります。

●「場所」テキストボックス

どのような監視対象を表示するかを，監視対象の場所で指定します。場所から文字列を検索する方法については「文字列の検索方法について」を参照してください。検索する文字列は，半角 252 文字以内で指定します。

●「監視条件」ドロップダウンリスト

どのような監視対象を表示するかを，監視対象の監視条件で指定します。監視条件は「（すべて） / 稼動状態検出時 / 非稼動状態検出時/ 他の監視対象が非稼動 / CPU が N%以下 / CPU が N%以上 / 物理メモリ使用率が N%以下 / 物理メモリ使用率が N%以上 / 仮想メモリ使用率が N%以下 / 仮想メモリ使用率が N%以上 / ディスク使用率が N%以下 / ディスク使用率が N%以上」の中から選択します。「（すべて）」を選択すると，すべての監視条件が検索対象となります。

●「状態」ドロップダウンリスト

どのような監視対象を表示するかを，監視対象の状態で指定します。状態は「（すべて）/ 非稼動中 / 稼動中」の中から選択します。「（すべて）」を選択すると，すべての状態が検索対象となります。

●「状態確認時刻」ドロップダウンリスト

どのような監視対象を表示するかを，最後に状態を確認した時刻で指定します。表示する状態確認時刻の範囲は，「...」ボタンを押すと表示される図 10.4-6　日時の範囲を指定ダイアログボックスで指定してください。

●「電源制御結果」ドロップダウンリスト

どのような監視対象を表示するかを，最後に行った電源制御の結果で指定します。電源制御結果は「（すべて） /（制御しない） / 失敗 / 成功」の中から選択します。「（すべて）」を選択すると，すべての電源制御結果が検索対象となります。

●「電源制御方法」ドロップダウンリスト

どのような監視対象を表示するかを，電源制御の方法で指定します。電源制御方法は「（すべて） /（制御しない） / シャットダウン / 再起動 / 起動」の中から選択します。「（すべて）」を選択すると，すべての電源制御方法が検索対象となります。

●「電源制御実行時刻」ドロップダウンリスト

どのような監視対象を表示するかを，最後に電源制御を実行した時刻で指定します。表示する時刻の範囲は，「...」ボタンを押すと表示される図 10.4-6　日時の範囲を指定ダイアログボックスで指定してください。

●文字列の検索方法について

検索条件ダイアログボックスでは，テキストボックスに入力した文字列を検索する条件として「一致する / 含む / 含まない / 始まる / 始まらない / 終わる / 終わらない」から選択できます。検索時にはアルファベットの大文字・小文字を区別しません。また半角文字と全角文字は区別します。

(4)　日時の範囲を指定ダイアログボックス

日時の範囲を指定ダイアログボックスでは，日時の範囲を指定します。日時の範囲を指定ダイアログボックスを図 10.4-6 に示します。

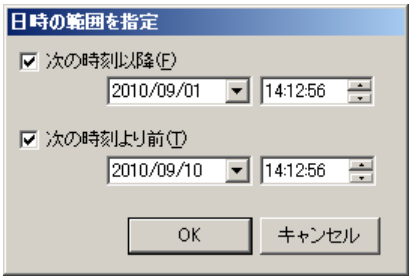


図 10.4-6　日時の範囲を指定ダイアログボックス

「次の時刻以降」チェックボックス，および「次の時刻より前」チェックボックスの両方にチェックをしない場合，すべての日時が範囲に含まれます。

●「次の時刻以降(F)」チェックボックス

このチェックボックスにチェックすると，指定した日時以降が範囲に含まれます。指定

した時刻そのものは，検索対象となります。「次の時刻より前」チェックボックスと組み合わせて使用可能です。

●「次の時刻より前(T)」チェックボックス

このチェックボックスにチェックすると，指定した日時より前が範囲に含まれます。指定した時刻そのものは，検索対象外です。「次の時刻以降」チェックボックスと組み合わせて使用可能です。

10.5 リレー全接点オフ

リレー全接点オフは，TELstaff で使用するリレー制御装置の全接点をオフにする機能です。リレー全接点オフには，ローカル接続のリレー制御装置の接点オフと，リモート接続のリレー制御装置の接点オフがあります。

この機能を使うことによって，TELstaff で点灯させたパトランプを簡単に消灯できます。

リレー全接点オフ操作は，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff のツール】の【リレー装置の操作】から操作します。

「図 5.3-5 パトランプのプロパティダイアログボックス」の場所テキストボックスにパトランプを複数指定した場合，「リレー全接点オフ」では，全てのパトランプを消灯させることはできません。直前に点灯させたパトランプ 1 台のみを消灯します。

10.6　発信と監視の操作

「発信と監視の操作」ツールでは，現在発信途中または待機中である発信要求の削除や，ネットワーク監視の抑止と再開，サービス監視の抑止と再開，および機器稼動監視の抑止と再開を行います。AECL では，サービス監視の抑止と再開および機器稼動監視の抑止と再開を行えます。

発信・監視操作ウィンドウは，スタートメニューの【TELstaff のツール】の【監視の抑止と再開操作】から Administrators 権限ユーザで表示します。

10.6.1 発信の取り消し操作

Administrators 権限ユーザで，現在連絡網を使用した発信，または直接発信の中で発信待ち，問い合わせ待ち状態にある発信を削除します。

発信中のものは，この発信が終わってから発信が中止されます。パトランプへの発信のように既に発信が開始されたものは取り消しすることはできません。

発信・監視操作ー「発信取り消し」タブを図 10.6-1 に示します。

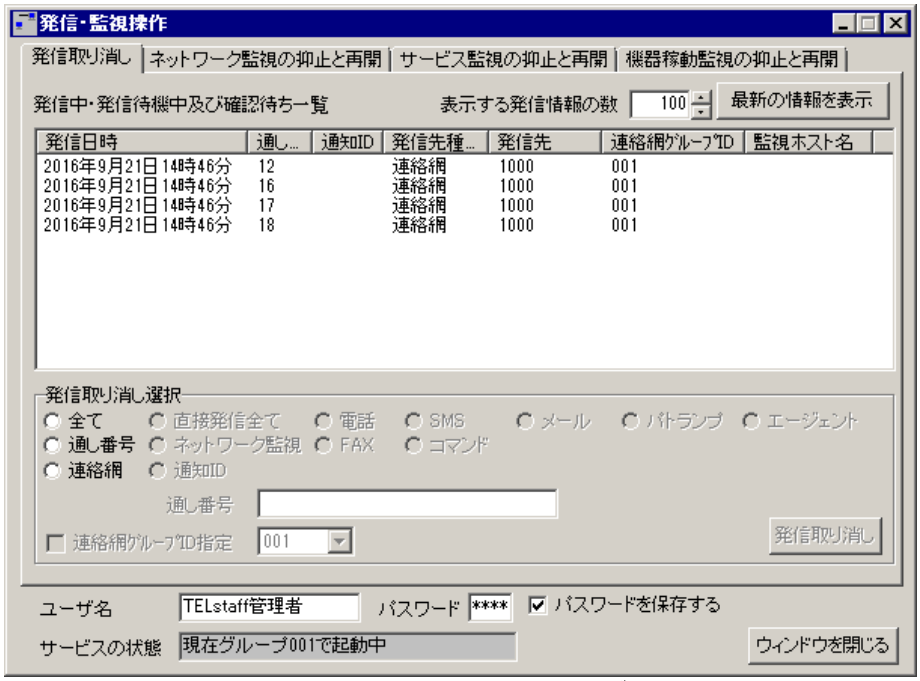


図 10.6-1　発信・監視操作ー「発信取り消し」タブ

(1) 「発信中及び発信待機中一覧」リストボックス

現在発信途中，または発信待機中の発信要求リスト一覧が表示されます。発信依頼の発信（-to オプション指定の teldial コマンド）は，表示されません。

TELstaff サービスが発信情報を使用中の場合，発信要求リスト一覧が表示されない場合があります。この場合，しばらくしてから［最新の情報を表示］ボタンで再表示してください。

各列に表示される内容は以下の通りです。各列のボタンをクリックするとクリックされた内容でソートされます。

- 「発信日時」：発信要求を受け付けた日時です。
- 「通し番号」：発信要求の受付順につけられた番号です。
- 「通知 ID」：通知 ID を持つ発信要求はここに通知 ID が表示されます。
- 「発信先種別」：連絡網，電話，FAX，メール，エージェント，SMS 通知 ，パトランプといった発信先のメディアが表示されます。
- 「発信先」：電話番号，メールアドレスなどの発信先が表示されます。発信先の間接指定では，そのユーザ名を表示します。
- 「連絡網グループ ID」：この発信で使用した連絡網グループ ID が表示されます。TELstaff サービスを開始していない場合は，表示されません。
- 「監視ホスト名」：ネットワーク監視による発信要求の場合は，ここにその監視ホスト名もしくは IP アドレスが表示されます。

複数選択は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択で，リスト一覧から 1 つ，または複数の発信を選択して発信取り消しボタンか，ポップアップメニューで「発信取り消し」を選択して取り消しが行えます。

(2) 「表示する発信情報の数」スピンボックス

「発信中及び発信待機中一覧」リストボックスに発信情報を最大で何件表示するかを指定します。

発信情報の取得は，比較的時間のかかる処理です。そのため標準では最大 100 件だけ取得・表示するよう制限しています。100 件を超える発信情報を表示させたい場合，本スピンボックスで件数を指定してください。件数は 0 以上 32767 以下で指定可能であり，0 を指定した場合は全件を表示します。

(3) ［最新の情報を表示］ボタン

このボタンをクリックすると，現在の発信状況についての最新情報が表示されます。TELstaff サービスが，発信情報を参照中の場合，現在の発信状況が表示されない場合があります。この場合，少し時間を置いて表示させてください。

(4) 「発信取り消し選択」ラジオボックス

特定の条件を持つ発信要求をまとめて発信取り消ししたい場合に，ここで条件を指定することにより，条件に該当する発信要求を選択状態にすることができます。

なお，選択状態になるのは現在一覧リストに表示されている発信要求だけであり，未表示の発信要求は選択の対象にはなりません。

指定可能な選択条件は以下の通りです。

(a) 「全て」ラジオボタン

現在表示されている発信要求全てが選択状態になります。

(b) 「通し番号」ラジオボタン

このオプションを選択後，削除したいリストの通し番号を指定すれば選択状態になり，発信取り消しボタンか，ポップアップメニューで「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定もできます。

(c) 「連絡網」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，連絡網への発信要求全てが選択状態になります。

特定の連絡網への発信を取り消すには，「連絡網 ID」テキストボックスに取り消したい連絡網の ID を指定すると，それに該当する発信が選択状態になり，発信取り消しボタンかポップアップメニュー「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定もできます。

特定の連絡網グループの連絡網への発信を取り消すには，「連絡網グループ ID 指定」チェックボックスにチェックし，ドロップダウンリストから取り消し対象の連絡網グループ ID を選択してから「連絡網 ID」テキストボックスに取り消したい連絡網の ID を指定します。

(d) 「直接発信全て」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，連絡網発信や，「起動時に決定」となっている発信要求を除いた全ての発信要求が選択状態になり，発信取り消しボタンか，ポップアップメニューで「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。

(e) 「ネットワーク監視」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，ネットワーク監視からの発信要求が全て選択状態になります。特定のホストからの要求を取り消したい場合は，ホスト名記入欄に，ホスト名を指定すれば指定したホスト名に該当する発信要求だけが選択状態になり，発信取り消しボタンかポップアップメニュー「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定もできます。

(f) 「通知ID」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，通知 ID を持つ発信要求全てが選択状態になります。特定の通知 ID を持つ発信を取り消すには，「通知 ID」テキストボックスに通知 ID を指定すると該当する発信が選択状態になり，発信取り消しボタンかポップアップメニュー「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定もできます。

(g) 「電話」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，電話への発信要求全てが選択状態になります。特定の電話番号への発信を取り消したい場合は，電話番号記入欄に電話番号を指定すると該当する発信要求が選択状態になり，発信取り消しボタンかポップアップメニュー「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定もできます。

(h) 「FAX」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，FAX への発信全てが選択状態になります。特定の FAX 番号への発信を取り消したい場合は，FAX 番号記入欄に FAX 番号を指定すると該当する発信要求が選択状態になり，発信取り消しボタンかポップアップメニュー「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定もできます。

(i) 「SMS」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，SMS 通知への発信要求全てが選択状態になります。特定の SMS 通知番号への発信を取り消したい場合は，SMS 番号記入欄に SMS 通知番号を指定すると該当する発信要求が選択状態になり，発信取り消しボタンかポップアップメニュー「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定もできます。

「コマンド」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，コマンド実行の発信要求全てが選択状態になります。特定のコマンド実行の発信を取り消したい場合は，コマンドライン記入欄に実行を釣り消したいコマンドのコマンドラインを指定すると該当する発信要求が選択状態になり，発信取り消しボタンかポップアップメニュー「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定もできます。

(j) 「メール」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，メールへの発信要求全てが選択状態になります。特定のメールアドレスへの発信を取り消したい場合は，メールアドレス記入欄にメールアドレスを指定すると該当する発信要求が選択状態になり，発信取り消しボタンかポップアップメニュー「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定もできます。

(k) 「パトランプ」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，パトランプへの発信要求全てが選択状態になります。特定のパトランプへの発信を取り消したい場合は，発信先パトランプの欄にパトランプの場所（「local」，回線番号または IP アドレス）を指定すると該当する発信要求が選択状態になり，発信取り消しボタンかポップアップメニュー「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定もできます。

(l) 「エージェント」ラジオボタン

表示されている発信要求のうち，エージェントへの発信要求全てが選択状態になります。特定のエージェントへの発信を取り消したい場合は，通知先エージェントの欄に通知先エージェントの場所を指定すると該当する発信要求が選択状態になり，発信取り消しボタンかポップアップメニュー「発信取り消し」を選択することで取り消せるようになります。総称指定も可能です。なお，ネットワーク経由の場合は，通知先エージェントの場所の先頭に「NET:」を付加して下さい。

(5) 総称指定について

上記選択条件の中で総称指定が可能な選択条件については，可変部分を「*」で指定できます。全ての総称指定は以下のルールに従います。

- 総称指定で「aaa*」と指定すると，「aaa」で始まる文字列を全て該当となります。

- 総称指定で「*bbb」と指定すると，「bbb」で終わる文字列を全て該当となります。
- 総称指定で「*ccc*」と指定すると，「ccc」が含まれる文字列を全て該当となります。

(6) ［発信取り消し］ボタン

選択された発信要求を取り消します。発信要求を取り消すには，ユーザ名とパスワードの指定が必要です。

(7) 「ユーザ名」テキストボックス

操作を行うユーザのユーザ名を指定してください。TELstaff サービスが起動中のときは，TELstaff サービスを開始する前に登録してあるユーザ名でなければなりません。

(8) 「パスワード」テキストボックス

ユーザのパスワードを指定してください。TELstaff サービスが起動中のときは，TELstaff サービスを開始する前に登録してあるユーザ名に対するパスワードでなければなりません。

(9) 「パスワードを保存する」チェックボックス

ここをチェックすると，ウィンドウを閉じるときに指定されていたユーザ名・パスワードが，次回ウィンドウを開いたときに表示されます。

10.6.2 ネットワーク監視の抑止と再開操作

Administrators 権限ユーザでネットワーク監視対象ホストの監視の抑止と再開の操作を行います。TELstaff サービス未起動のときは操作できません。

発信・監視操作ー「ネットワーク監視の抑止と再開」タブを図 10.6-5 に示します。

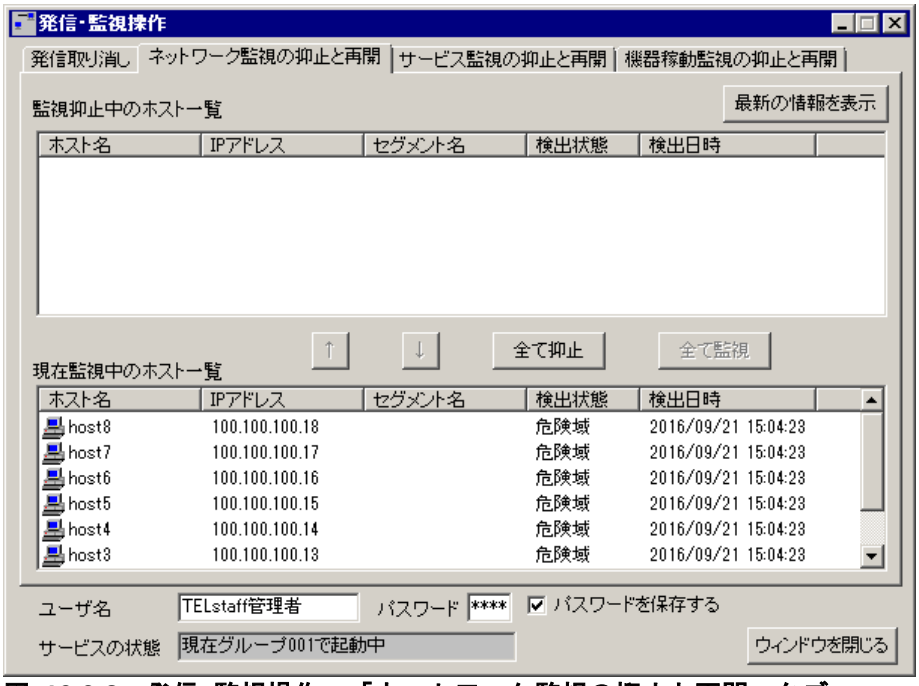


図 10.6-2　発信･監視操作ー「ネットワーク監視の抑止と再開」タブ

(1)　「監視抑止中のホストー覧」リストボックス

現在，ネットワーク監視は行っているものの，通報の対象とはならないホストのホスト名，IP アドレス，セグメント名，検出状態と状態検出日時が一覧表示されます。ここで，ホスト名を選択してマウスの右クリックを行うとポップアップメニューが表示されます。

- 「監視する」：選択されたホストが監視状態となり，通報の対象となります。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。ホストを選択してダブルクリックした場合も同様に，監視抑止→監視状態になります。
- 「全て監視する」：監視抑止中のホスト全てが監視状態となり，通報の対象となります。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(2)　最新の情報を表示ボタン

このボタンをクリックすると，現在のネットワーク監視中のホストおよび監視抑止中のホストについての最新情報が表示されます。

(3)　［↑］ボタン

このボタンをクリックすると，現在監視中のホスト一覧で選択されたホストを監視抑止状態にします。監視対象ホストを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択します。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(4)　［↓］ボタン

このボタンをクリックすると，監視抑止中のホスト一覧で選択されたホストを監視状態にします。監視抑止中のホストを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択します。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(5) ［全て抑止］ボタン

このボタンをクリックすると，現在監視中のホストが全て監視抑止状態になり，通報の対象からはずれます。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(6) ［全て監視］ボタン

このボタンをクリックすると，監視抑止中のホストが全て監視状態になり，通報の対象となります。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(7) 「現在監視中のホスト一覧」リストボックス

現在，ネットワーク監視を行っており，通報の対象となるホストのホスト名と IP アドレス，セグメント名，検出状態と状態検出日時が一覧表示されます。ここで，ホスト名を選択してマウスの右クリックを行うとポップアップメニューが表示されます。

- 「抑止する」：選択されたホストが監視抑止状態となり，通報の対象から外れます。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。ホストを選択してダブルクリックした場合も同様に，監視→監視抑止状態になります。
- 「全て抑止する」：監視中のホスト全てが監視抑止状態となり，通報の対象から外れます。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(8) 「ユーザ名」テキストボックス

操作を行うユーザのユーザ名を指定してください。TELstaff サービスが起動中のときは，TELstaff サービスを開始する前に登録してあるユーザ名でなければなりません。

(9) 「パスワード」テキストボックス

ユーザのパスワードを指定してください。TELstaff サービスが起動中のときは，TELstaff サービスを開始する前に登録してあるユーザ名に対するパスワードでなければなりません。

(10) 「パスワードを保存する」チェックボックス

ここをチェックすると，ウィンドウを閉じるときに指定されていたユーザ名・パスワードが，次回ウィンドウを開いたときに表示されます。

10.6.3サービス監視の抑止と再開操作

Administrators 権限ユーザで監視対象サービスの監視の抑止と再開の操作を行います。TELstaff サービス未起動のときは操作できません。

発信・監視操作ー「サービス監視の抑止と再開」タブを図 10.6-6 に示します。

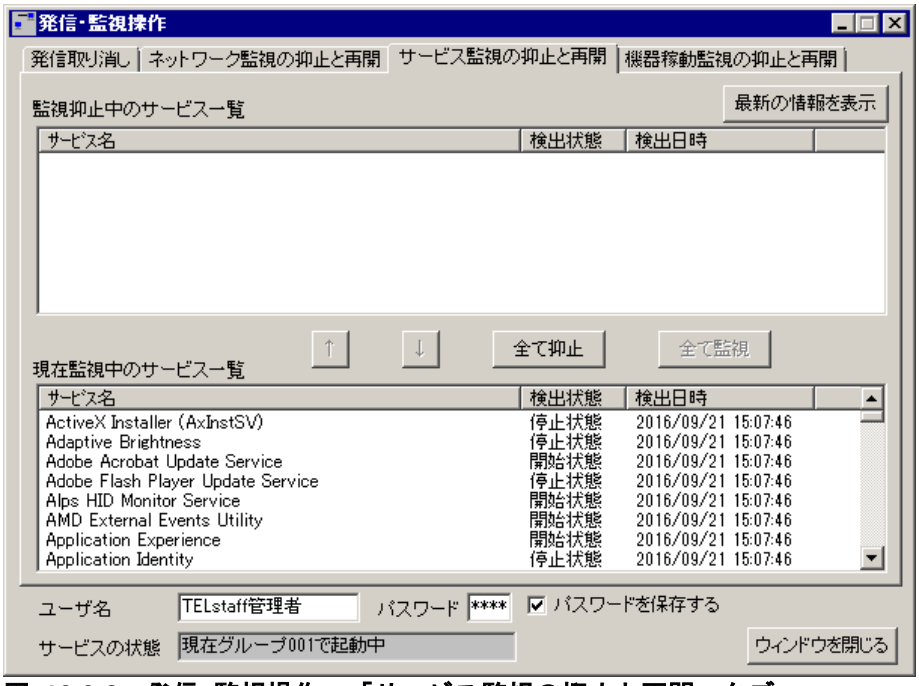


図 10.6-3　発信･監視操作ー「サービス監視の抑止と再開」タブ

(1)　「監視抑止中のサービス一覧」リストボックス

現在，サービス監視は行っているものの，通報の対象とはならないサービス名，サービスの検出状態と検出日時が一覧表示されます。ここで，サービス名を選択してマウスの右クリックを行うとポップアップメニューが表示されます。

- 「監視する」：選択されたサービスが監視状態となり，通報の対象となります。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。サービスを選択してダブルクリックした場合も同様に，監視抑止→監視状態になります。
- 「全て監視する」：監視抑止中のサービス全てが監視状態となり，通報の対象となります。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(2)　［最新の情報を表示］ボタン

このボタンをクリックすると，現在監視中のサービスおよび監視抑止中のサービスについての最新情報が表示されます。

(3)　［↑］ボタン

このボタンをクリックすると，現在監視中のサービス一覧で選択されたサービスを監視抑止状態にします。監視対象サービスを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択します。

この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(4)　［↓］ボタン

このボタンをクリックすると，監視抑止中のサービス一覧で選択されたサービスを監視状態にします。監視抑止中のサービスを複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択します。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(5) ［全て抑止］ボタン

このボタンをクリックすると，現在監視中のサービスが全て監視抑止状態になり，通報の対象からはずれます。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(6) ［全て監視］ボタン

このボタンをクリックすると，監視抑止中のサービスが全て監視状態になり，通報の対象となります。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(7) 「現在監視中のサービス一覧」リストボックス

現在，サービス監視を行っており，通報の対象となるサービス名，サービスの検出状態と検出日時が一覧表示されます。ここで，サービス名を選択してマウスの右クリックを行うとポップアップメニューが表示されます。

- 「抑止する」：選択されたサービスが監視抑止状態となり，通報の対象から外れます。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。サービス名を選択してダブルクリックした場合も同様に，監視→監視抑止状態になります。
- 「全て抑止する」：監視中のサービス全てが監視抑止状態となり，通報の対象から外れます。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(8) 「ユーザ名」テキストボックス

ネットワーク監視の操作を行うユーザのユーザ名を指定してください。ネットワーク監視の操作を行う場合，ユーザ名は必須です。

AECL には，このテキストボックスはありません。

(9) 「ユーザ名」テキストボックス

操作を行うユーザのユーザ名を指定してください。TELstaff サービスが起動中のときは，TELstaff サービスを開始する前に登録してあるユーザ名でなければなりません。

AECL には，このテキストボックスはありません。

(10) 「パスワード」テキストボックス

ユーザのパスワードを指定してください。TELstaff サービスが起動中のときは，TELstaff サービスを開始する前に登録してあるユーザ名に対するパスワードでなければなりません。

AECL には，このチェックボックスはありません。

10.6.4 機器稼動監視の抑止と再開操作

Administrators 権限ユーザで機器稼動監視の抑止と再開の操作を行います。TELstaff サービス未起動のときは操作できません。

発信・監視操作ー「機器稼動監視の抑止と再開」タブを図 10.6-7 に示します。

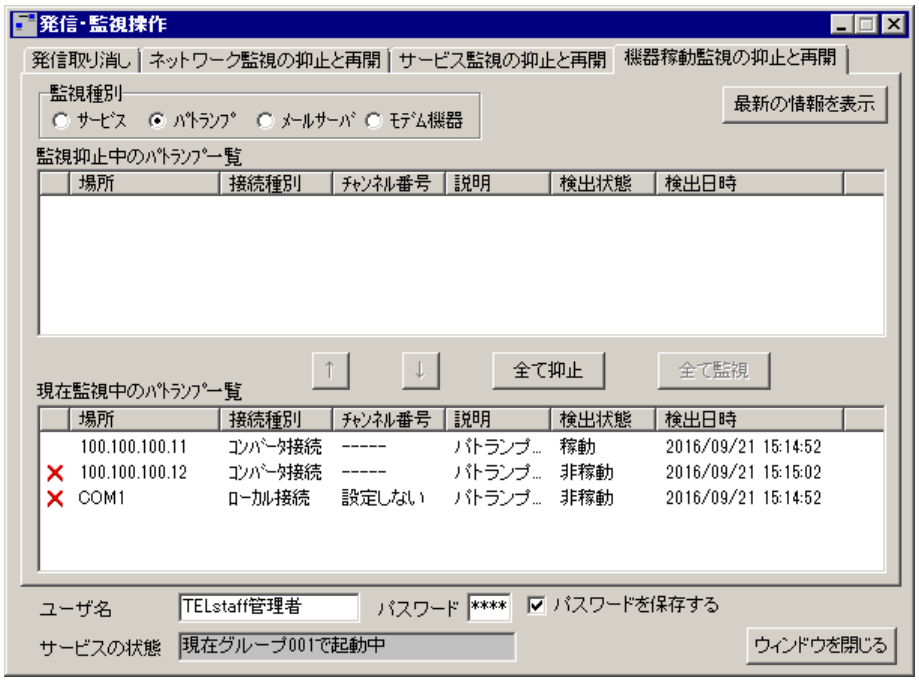


図 10.6-4　発信･監視操作ー「機器稼動監視の抑止と再開」タブ

(1)　「監視種別」フィールド

TELstaff サービスの稼動監視を操作する場合は，「サービス」ラジオボタンを選択します。

パトランプの稼動監視を操作する場合は，「パトランプ」ラジオボタンを選択します。

メールサーバの稼動監視を操作する場合は，「メールサーバ」ラジオボタンを選択します。

トリガフォンなどモデム機器の稼動監視を操作する場合は，「モデム機器」ラジオボタンを選択します。

(2)　「監視抑止中の一覧」リストボックス

現在，抑止中の一覧が表示されます。ここで，選択してマウスの右クリックを行うとポップアップメニューが表示されます。

- 「監視する」：監視状態となり，通報の対象となります。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。選択してダブルクリックした場合も同様に，監視抑止→監視状態になります。
- 「全て監視する」：全てが監視状態となり，通報の対象となります。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(3)　［最新の情報を表示］ボタン

このボタンをクリックすると，最新情報が表示されます。

(4) ［↑］ボタン

このボタンをクリックすると，選択されたものを監視抑止状態にします。複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択します。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(5) ［↓］ボタン

このボタンをクリックすると，選択されたものを監視状態にします。複数選択する場合は，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択します。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(6) ［全て抑止］ボタン

このボタンをクリックすると，現在監視中の全てが監視抑止状態になり，通報の対象からはずれます。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(7) ［全て監視］ボタン

このボタンをクリックすると，監視抑止中の全てが監視状態になり，通報の対象となります。この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(8) 「現在監視中の一覧」リストボックス

現在，監視中の一覧状態が表示されます。ここで，選択してマウスの右クリックを行うとポップアップメニューが表示されます。

- 「抑止する」：監視抑止状態となり，通報の対象から外れます。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。選択してダブルクリックした場合も同様に，監視→監視抑止状態になります。
- 「全て抑止する」：全てが監視抑止状態となり，通報の対象から外れます。なお，この操作を行う前にユーザ名とパスワードを指定する必要があります。パスワードのないユーザは操作できません。

(9) 「ユーザ名」テキストボックス

操作を行うユーザのユーザ名を指定してください。TELstaff サービスが起動中のときは，TELstaff サービスを開始する前に登録してあるユーザ名でなければなりません。

AECL には，このテキストボックスはありません。

(10) 「パスワード」テキストボックス

ユーザのパスワードを指定してください。TELstaff サービスが起動中のときは，TELstaff サービスを開始する前に登録してあるユーザ名に対するパスワードでなければなりません。

AECL には，このテキストボックスはありません。

(11) 「パスワードを保存する」チェックボックス

ここをチェックすると，ウィンドウを閉じるときに指定されていたユーザ名・パスワード

が，次回ウィンドウを開いたときに表示されます。
AECL には，このチェックボックスはありません。

10.7　プロセス監視の操作用ツール

プロセス監視ダイアログボックスでプロセス監視の一時監視中断と開始の操作を行います。プロセス監視の抑止中は，通知が中断されますが，統計情報の出力とプロセス監視は行われます。

プロセス監視ダイアログボックスは，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff の設定】から【プロセス監視の設定】を選択して表示します。

プロセス監視ダイアログボックスを図 10.7-1 に示します。

図 10.7-1　プロセス監視ダイアログボックス

プロセス監視の一時監視中断と開始の操作を行います。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

プロセス監視設定内容を変更して TELstaff サービスを再起動したときは，プロセス監視ダイアログボックスを一度閉じて再度表示すると最新の状態が表示されます。

(a)　「監視中のプロセス」リストボックス

現在監視中のプロセス一覧を表示します。

(b)　「監視抑止中のプロセス」リストボックス

現在監視抑止中のプロセス一覧を表示します。

(c)　［すべて抑止］ボタン

現在監視中の全てのプロセスを一時監視中断状態にします。

(d)　［すべて監視］ボタン

現在一時監視中断状態の全てのプロセスを監視状態にします。

(e)　［→］ボタン

「監視中のプロセス」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の監視中プロセスを選択して一時監視中断状態にします。1 つのプロセスを選択したときは，ダブルクリックで一時監視中断状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(f)　［←］ボタン

「監視抑止中のプロセス」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の抑止中プロセスを選択して監視状態にします。1 つのプロセスを選択したときは，ダブルクリックで監視状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

10.8　ファイル監視の操作用ツール

ファイル監視の抑止と再開ダイアログボックスでファイル監視の一時監視中断と開始の操作を行います。ファイル監視の一時監視中断と開始の操作は，監視ファイル定義ごとに行い，監視種別ごとには，操作できません。

ファイル監視の抑止中は，通知が中断されますが，統計情報の出力とファイル監視は行われます。

ファイル監視の一時監視中断と開始の操作は，TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

ファイル監視の抑止と再開ダイアログボックスは，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff の設定】から【ファイル監視の設定】でファイル監視ダイアログボックス表示して［監視の抑止と再開］ボタンを押して表示します。

ファイル監視の抑止と再開ダイアログボックスを図 10.8-1 に示します。

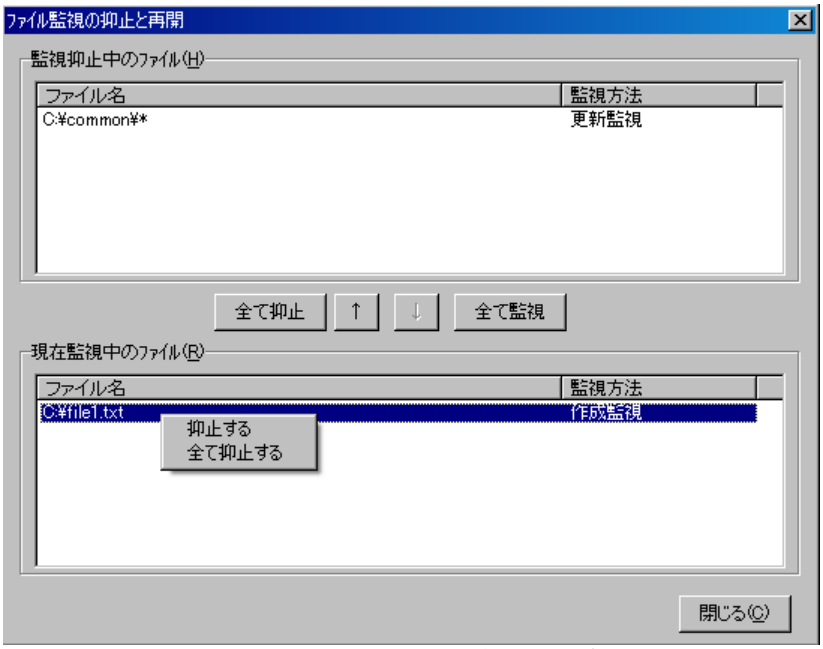


図 10.8-1　ファイル監視の抑止と再開ダイアログボックス

(a)　「監視抑止中のファイル」リストボックス

現在監視抑止中の監視ファイル定義一覧を表示します。

(b)　「現在監視中のファイル」リストボックス

現在監視中の監視ファイル定義一覧を表示します。異なるファイル監視グループに同じ監視ファイルが複数定義されている場合は，１つの監視ファイルを表示します。

TELstaff サービス開始中に変更した監視ファイル定義情報は，次回の TELstaff サービス開始時に表示されます。

(c) ［全て抑止］ボタン

現在監視中の全ての監視ファイル定義を一時監視中断状態にします。

(d) ［全て監視］ボタン

現在一時監視中断状態の全ての監視ファイル定義を監視状態にします。

(e) ［↑］ボタン

「現在監視中のファイル」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の監視中監視ファイル定義を選択して一時監視中断状態にします。 1 つの監視ファイル定義を選択したときは，ダブルクリックで一時監視中断状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(f) ［↓］ボタン

「監視抑止中のファイル」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の抑止中監視ファイル定義を選択して監視状態にします。 1 つの監視ファイル定義を選択したときは，ダブルクリックで監視状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

10.9　メッセージ監視の操作用ツール

メッセージ監視の抑止と再開ダイアログボックスでメッセージ監視の一時監視中断と開始の操作を行います。メッセージ監視の一時監視中断と開始の操作は，監視ファイル定義ごとに行い，監視文字列ごとには，操作できません。

メッセージ監視の抑止中は，通知が中断されますが，統計情報の出力とメッセージ監視は行われます。

メッセージ監視の一時監視中断と開始の操作は，TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

メッセージ監視の抑止と再開ダイアログボックスは，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff の設定】から【メッセージ監視の設定】でメッセージ監視ダイアログボックス表示し［監視の抑止と再開］ボタンを押して表示します。

(1)　メッセージ監視の抑止と再開ダイアログボックス

メッセージ監視の抑止と再開ダイアログボックスを図 10.9-1 に示します。

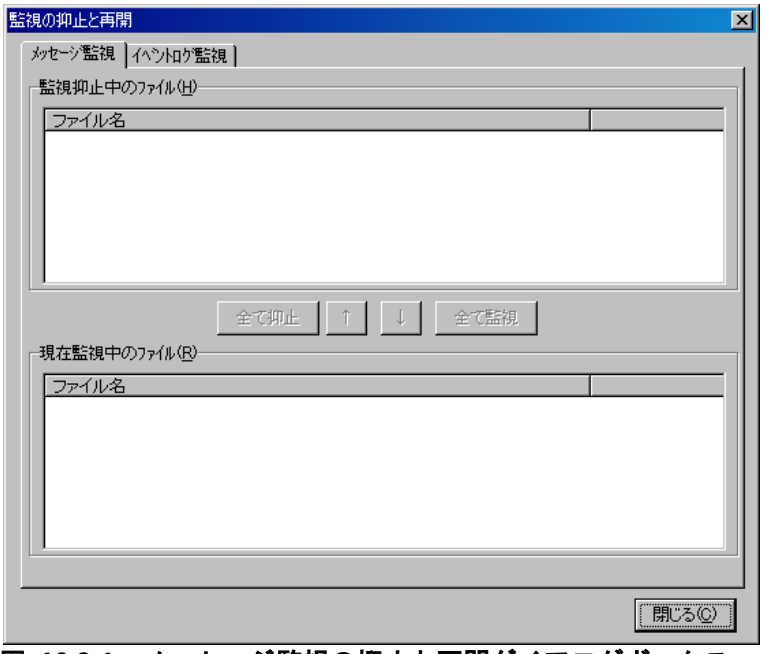


図 10.9-1　メッセージ監視の抑止と再開ダイアログボックス

(a)　「監視抑止中のファイル」リストボックス

現在監視抑止中の監視ファイル一覧を表示します。

(b)　「現在監視中のファイル」リストボックス

現在監視中のファイル一覧を表示します。異なる監視グループに同じ監視ファイルが複数定義されている場合は，１つの監視ファイルを表示します。TELstaff サービス開始中に変更した監視ファイル定義情報は，次回の TELstaff サービス開始時に表示されます。

(c)　［全て抑止］ボタン

現在監視中の全てのメッセージファイルを一時監視中断状態にします。

(d)　［全て監視］ボタン

現在一時監視中断状態の全てのメッセージファイルを監視状態にします。

(e)　［↑］ボタン

「現在監視中のファイル」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の監視中メッセージファイルを選択して一時監視中断状態にします。1 つのメッセージファイルを選択したときは，ダブルクリックで一時監視中断状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(f)　［↓］ボタン

「監視抑止中のファイル」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の抑止中メッセージファイルを選択して監視状態にします。1 つのメッセージファイルを選択したときは，ダブルクリックで監視状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(2)　イベントログ監視の抑止と再開ダイアログボックス

イベントログ監視の抑止と再開ダイアログボックスを図 10.9-2 に示します。

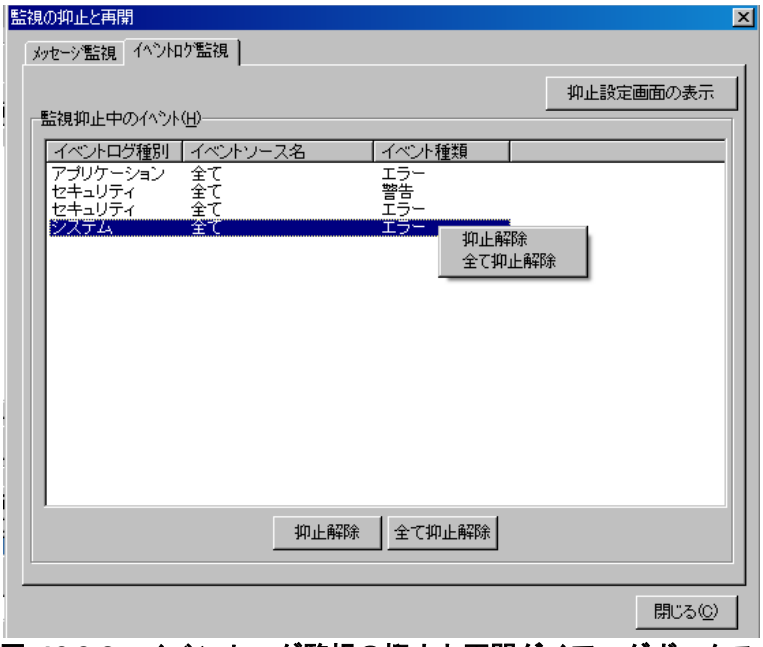


図 10.9-2　イベントログ監視の抑止と再開ダイアログボックス

(a)　「監視抑止中のイベント」リストボックス

現在監視抑止中のイベント一覧を表示します。

(b)　［抑止解除］ボタン

「監視抑止中のイベント」リストボックスに表示されている１つまたは複数の監視抑止中イベントを選択して監視状態にします。１つのイベントを選択したときは，ダブルクリックで監視状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(c)　［全て抑止解除］ボタン

現在一時監視中断状態の全てのイベントログを監視状態にします。

(d)　［抑止設定画面の表示］ボタン

イベントログ監視の抑止と再開設定ダイアログボックス。

(3)　イベントログ監視の抑止と再開設定ダイアログボックス

イベントログ監視の抑止と再開設定ダイアログボックスを図 10.9-3 に示します。

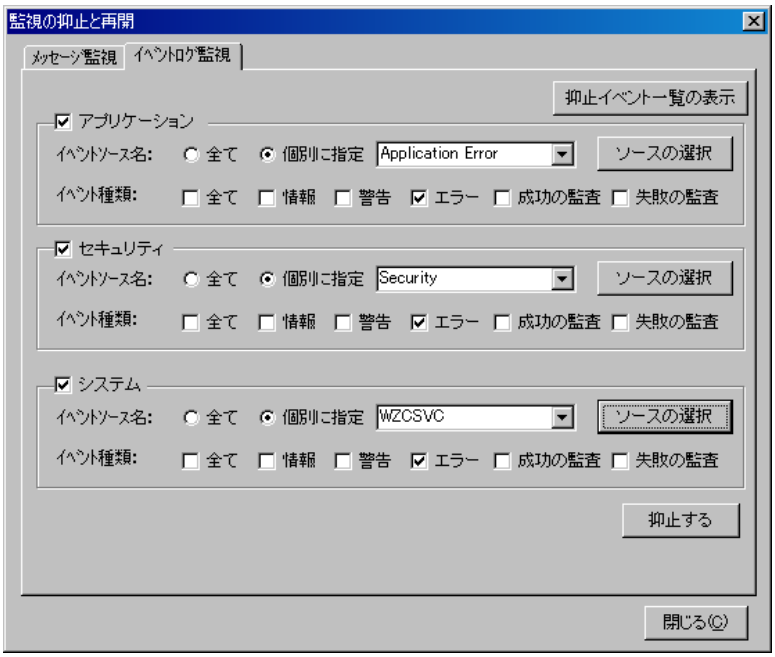


図 10.9-3　イベントログ監視の抑止と再開設定ダイアログボックス

一時監視中断状態にするイベントログの種別，イベントソース名，イベント種類を指定して抑止するボタンを押します。

１つのイベントソースを指定する場合は，「個別に設定する」ラジオボタンを選択してリストボックスから選択します。

複数のイベントソースを指定する場合は，「個別に設定する」ラジオボタンをチェックして［ソースの選択］ボタンでイベントソース一覧ダイアログボックスを開いて選択します。

「監視する文字列」フィールドで指定した特定の文字列のイベントだけを抑止することはできません。

イベントソース一覧ダイアログボックスを図 10.9-4 に示します。

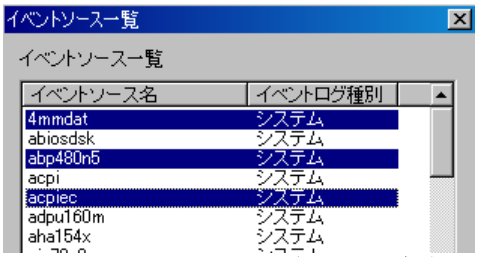


図 10.9-4　ソース一覧ダイアログボックス

10.10 ドライバ監視の操作用ツール

ドライバ監視ダイアログボックスでドライバ監視の一時監視中断と開始の操作を行います。ドライバ監視の抑止中は，通知が中断されますが，統計情報の出力とプロセス監視は行われます。

ドライバ監視ダイアログボックスは，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff の設定】から【ドライバ監視の設定】を選択して表示します。

ドライバ監視ダイアログボックスを図 10.10-1 に示します。

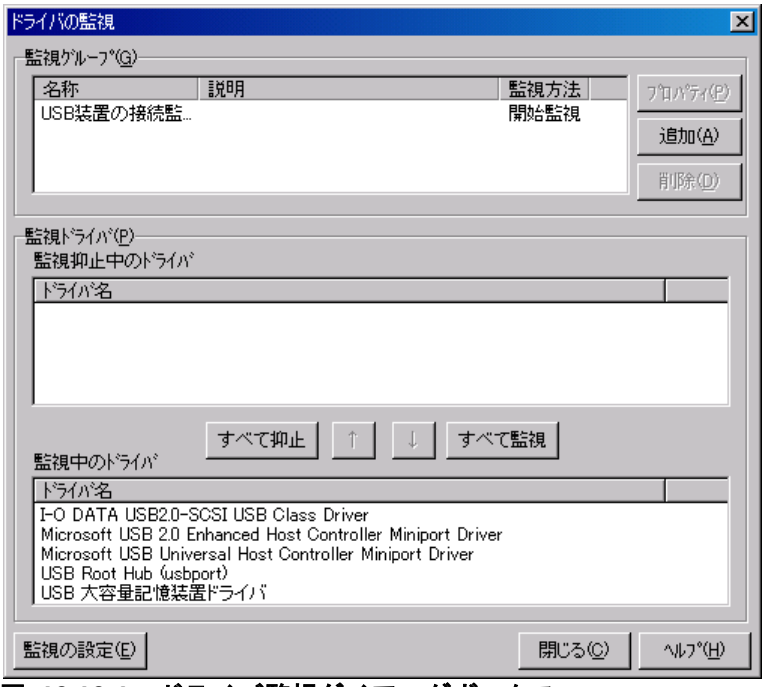


図 10.10-1　ドライバ監視ダイアログボックス

(a)　「監視抑止中のドライバ」リストボックス

現在監視抑止中のドライバ一覧を表示します。

(b)　「監視中のドライバ」リストボックス

現在監視中のドライバ一覧を表示します。

(c)　［すべて抑止］ボタン

現在監視中の全てのドライバを一時監視中断状態にします。

(d)　［すべて監視］ボタン

現在一時監視中断状態の全てのドライバを監視状態にします。

(e)　［↑］ボタン

「監視中のドライバ」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の監視中ドライ

バを選択して一時監視中断状態にします。１つのドライバを選択したときは，ダブルクリックで一時監視中断状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(f)　［↓］ボタン

「監視抑止中のドライバ」リストボックスに表示されている１つまたは複数の抑止中ドライバを選択して監視状態にします。１つのドライバを選択したときは，ダブルクリックで監視状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

10.11 稼動状況監視の操作用ツール

稼動状況監視の抑止と再開ダイアログボックスで稼動状況監視の一時監視中断と開始の操作を行います。稼動状況監視の一時監視中断と開始の操作は，監視グループごとに行い，監視対象ごとには，操作できません。稼動状況監視の抑止中は，通知が中断されますが，統計情報の出力と稼動状況監視は行われます。

稼動状況監視の一時監視中断と開始の操作は，TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

稼動状況監視の抑止と再開ダイアログボックスは，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff の設定】から【稼動状況監視の設定】で稼動状況監視ダイアログボックス表示して［監視の抑止と再開］ボタンを押して表示します。

稼動状況監視の抑止と再開ダイアログボックスを図 10.11-1 に示します。

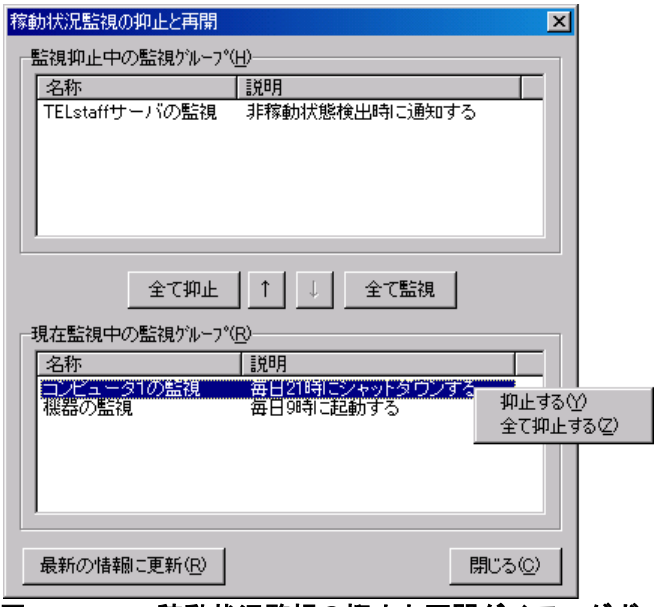


図 10.11-1　稼動状況監視の抑止と再開ダイアログボックス

(a)　「監視抑止中の監視グループ」リストボックス

現在監視抑止中の監視グループを表示します。

(b)　「現在監視中の監視グループ」リストボックス

現在監視中の監視グループを表示します。TELstaff サービス開始中に変更した監視グループ設定情報は，次回の TELstaff サービス開始時に表示されます。

(c)　［全て抑止］ボタン

現在監視中の全ての監視グループを一時監視中断状態にします。

(d)　［全て監視］ボタン

現在一時監視中断状態の全ての監視グループを監視状態にします。

(e)　［↑］ボタン

「現在監視中の監視グループ」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の監視中の監視グループを選択して一時監視中断状態にします。 1 つの監視グループを選択したときは，ダブルクリックで一時監視中断状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(f)　［↓］ボタン

「監視抑止中の監視グループ」リストボックスに表示されている 1 つまたは複数の抑止中の監視グループを選択して監視状態にします。 1 つの監視グループを選択したときは，ダブルクリックで監視状態にできます。TELstaff サービスが開始しているとき操作できます。

(g)　［最新の情報に更新］ボタン

「現在監視中の監視グループ」リストボックスと「監視抑止中の監視グループ」リストボックスに最新の情報を表示します。

10.12 録画ビューア

10.12.1　録画ビューアウィンドウ

TELstaff Motion Detector で記録された記録画像を閲覧するビューアです。記録画像が多い場合，最初の画像が表示されるまで時間がかかります。録画ビューアウィンドウを表示するには，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff のツール】の【録画ビューア】から表示します。

JP1 版 TELstaff では本機能は使用できません。

録画ビューアウィンドウを図 10.12-1 に示します。

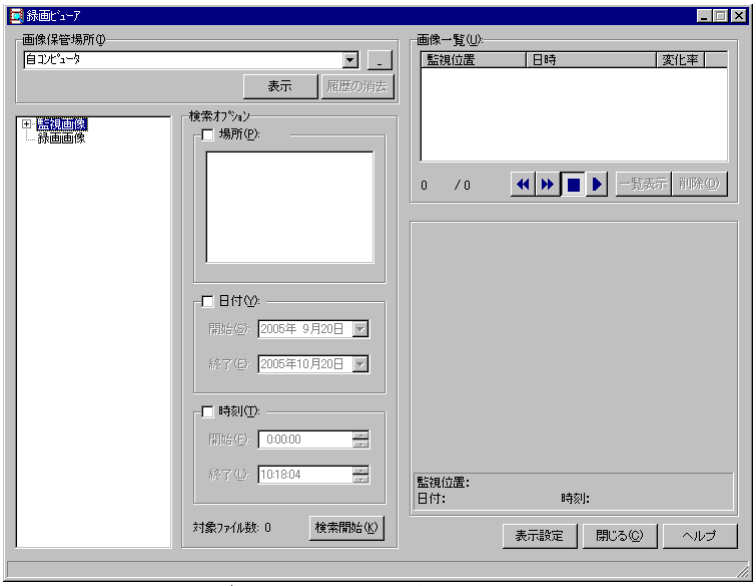


図 10.12-1　録画ビューアウィンドウ

(1) 「画像保管場所」フィールド

画像の保管場所をドロップダウンリストから指定します。保管場所を直接指定する場合は，完全名で直接入力するか，［...］ボタンをクリックして選択します。

ネットワーク共用名（¥¥ComputerName¥.....）を使用する場合，Netscape Navigator ブラウザは使用できません。

「自コンピュータ」を選択したとき画像の保管場所は，下表のようになります。

使用製品形態	使用する画像保管場所
TELstaff 製品と Motion Detector を使用して場合	Motion Detector の画像保管場所
TELstaff 製品だけ使用している場合	TELstaff 製品の画像保管場所
Motion Detector 製品だけ使用している場合	Motion Detector の画像保管場所
TELstaff 製品と Motion Detector 共に未使用	「自ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」は表示されません
統計情報を使用する場合	Motion Detector の画像保管場所

(2) 「表示」ボタン

録画保管場所ドロップダウンリストで指定した画像保管場所の画像を表示します。

「統計情報を使用する」を選択した場合，統計情報ファイル選択ダイアログボックスで使用する統計情報ファイルを選択します。図 10.12-2 に示す統計情報ファイル選択ダイアログボックスを示します。

図 10.12-2　統計情報ファイル選択ダイアログボックス

(3) 「履歴の消去」ボタン

指定した画像保管場所の履歴を削除します。「自コンピュータ」，または「統計情報を使用するは削除できません。

(4) 「画像選択」ツリー

指定した画像保管場所の画像種類（監視画像，録画画像）－コンピュータ名－カメラ名称を選択します。

記録画像が多い場合，最初の画像が表示されるまで時間がかかります。

(5) 「場所」チェックボックス

特定の監視位置を表示する場合，「場所」チェックボックスにチェックし，表示されている監視位置を選択します。「場所」チェックボックスにチェックしないときは，全ての監視位置について表示します。

(6) 「日付」チェックボックス

表示する期間を指定する場合，「日付」チェックボックスにチェックし，「開始」ドロップダウンリストと「終了」ドロップダウンリストで表示期間を指定します。

表示期間を設定しない場合は，全て表示されます。

(7) 「開始（日付）」ドロップダウンリスト

表示する開始日を「開始」ドロップダウンリストで指定します。開始日を直接入力する場合は，年，月，日を選択して入力します。

(8) 「終了（日付）」ドロップダウンリスト

表示する終了日を「終了」ドロップダウンリストで指定します。終了日を直接入力する場合は，年，月，日を選択して入力します。

(9) 「時刻」チェックボックス

表示する時間を指定する場合，「時刻」チェックボックスにチェックし，「開始」スピンボックスと「終了」スピンボックスで表示時間を指定します。

表示時間を設定しない場合は，全て表示されます。

(10) 「開始（時刻）」スピンボックス

表示する開始時刻を「開始」スピンボックスで指定します。時，分，秒を選択してスピンボックスで時，分，秒を設定します。開始時刻を直接入力する場合は，時，分，秒を選択して入力します。

(11)「終了（時刻）」スピンボックス

表示する終了時刻を「終了」スピンボックスで指定します。時，分，秒を選択してスピンボックスで時，分，秒を設定します。終了時刻を直接入力する場合は，時，分，秒を選択して入力します。

(12)［検索開始］ボタン

「ログ種別」ドロップダウンリスト，「監視位置」チェックボックス，「日付」チェックボックス，「時刻」チェックボックスで表示する範囲を設定したあと［検索］ボタンを押します。［検索］ボタンを押すと「画像一覧」フィールドに画像ログファイルの一覧が表示されます。

(13)「画像一覧」フィールド

「画像一覧」フィールドに表示されている画像ログファイルを選択するとその画像が表示されます。［↑］キー，［↓］キーでも画像を表示できます。［Home］キー，［PageUp］キーで画像ログ一覧の先頭の画像ログファイルを表示します。［End］キー，［PageDown］キーで画像ログ一覧の最後の画像ログファイルを表示します。

統計情報ファイルを使用している場合は，変化率を表示します。

映像ログ一覧設定ダイアログボックスの「画像は全てイメージビューで開く」チェックボックスにチェックしている場合は，選択した画像ログファイルをイメージビューウィンドで開きます。

映像ログ一覧設定ダイアログボックスの「画像は全てイメージビューで開く」チェックボックスにチェックしていない場合は，選択した画像ログファイルをダブルクリック操作で，イメージビューウィンドで開くことができます。

イメージビューウィンドの使用方法は，「6.3.4 イメージビューウィンドウの操作」を参照してください。

(14) ボタン

「画像一覧」フィールドに表示されている最初の画像ログファイルを表示します。
映像ログ一覧設定ダイアログボックスの「画像は全てイメージビューで開く」チェックボックスにチェックしている場合は，最初の画像ログファイルをイメージビューウィンドで開きます。イメージビューウィンドの使用方法は，「6.3.4 イメージビューウィンドウの操作」を参照してください。

(15) ボタン

「画像一覧」フィールドに表示されている最後の画像ログファイルを表示します。
映像ログ一覧設定ダイアログボックスの「画像は全てイメージビューで開く」チェックボックスにチェックしている場合は，最後の画像ログファイルをイメージビューウィンドで開きます。イメージビューウィンドの使用方法は，「6.3.4 イメージビューウィンドウの操作」を参照してください。

(16) ボタン

画像ログファイルの自動再生を停止します。

(17) ボタン

「画像一覧」フィールドに表示されている画像ログファイルを自動再生します。

映像ログ一覧設定ダイアログボックスの「画像は全てイメージビューで開く」チェックボックスにチェックしている場合は，画像ログファイルを，イメージビューウィンドを使用して自動再生します。イメージビューウィンドの使用方法は，「6.3.4 イメージビューウィンドウの操作」を参照してください。

(18) ［削除］ボタン

画像ログファイルを削除します。「画像一覧」フィールドに表示されている画像ログファイルを選択して［削除］ボタンを押します。複数の画像ログファイルを削除する場合は，［Ctrl］キーを押しながら画像ログファイルを選択して［削除］ボタンを押します。全ての画像ログファイルを削除する場合は，［Ctrl］＋［A］キーを押して［削除］ボタンを押します。

(19) ［一覧表示］ボタン

画像ログファイルの一覧を表示します。画像ログファイルの一覧を表示するには，Microsoft Internet Explorer，または Netscape Navigator が必要です。

画像ログファイルの一覧を表示中に表示する範囲を変更して［検索開始］ボタンを押した場合は，Microsoft Internet Explorer，または Netscape Navigator 画面の更新操作で表示を更新させてください。

他のコンピュータから録画ビューアを表示する場合，画像ログファイルの一覧表示はできません。

(20) ［表示設定］ボタン

映像ログ一覧設定ダイアログボックスを開きます。映像ログ一覧設定ダイアログボックスで画像ログファイルの一覧表示方法を設定します。

10.12.2 映像ログ一覧設定ダイアログボックス

映像ログ一覧設定ダイアログボックスを図 10.12-3 に示します。

図 10.12-3　映像ログ一覧設定ダイアログボックス

(1) 「画像の横幅（ピクセル）」スライダ

画像の横幅を 80 から 320 の範囲で設定します。
他のコンピュータから録画ビューアを表示する場合，設定できません。

(2) 「１段の表示数」スライダ

1 段（横 1 列）に表示する画像数を 3 から 10 の範囲で設定します。
他のコンピュータから録画ビューアを表示する場合，設定できません。

(3) 「画像あたりの表示数」スライダ

縦並びに表示する数を 5 から 30 の範囲で設定します。
他のコンピュータから録画ビューアを表示する場合，設定できません。

(4) 「Microsoft Internet Explorer」ラジオボタン

使用するブラウザが Microsoft Internet Explorer の場合，「Microsoft Internet Explorer」ラジオボタンを選択します。標準は，Microsoft Internet Explorer が使用されます。
他のコンピュータから録画ビューアを表示する場合，設定できません。

(5) 「Netscape Navigator」ラジオボタン

使用するブラウザが Netscape Navigator の場合，「Netscape Navigator」ラジオボタンを選択します。Netscape Navigator を使用する場合，表示する画像ログファイル数が多いと，表示されるまで時間がかかります。
他のコンピュータから録画ビューアを表示する場合，設定できません。

(6) 「使用するブラウザの場所」テキストボックス

次の場合，使用するブラウザの所在場所を完全ファイル名で設定します。設定を省略すると html 拡張子が関連付けられているブラウザを使用します。他のコンピュータから録画ビューアを表示する場合，設定できません。

1. html 拡張子の関連付けがないとき
2. html 拡張子が関連付けられているブラウザとは違うブラウザを使用するとき

(7) 「イメージビュー開く画像の倍率」ドロップダウンリスト

イメージビューウィンドウで画像を開くときの大きさ（%）を指定します。

(8) 「画像は全てイメージビューで開く」チェックボックス

画像をイメージビューウィンドで開くときチェックします。

イメージビューウィンドの使用方法は，「6.3.4 イメージビューウィンドウの操作」を参照してください。

(9) 「再生間隔」スライダ

画像ログファイルの自動再生間隔を 0.5 秒から 10 秒の範囲で設定します。

(10)「連続画像を全て表示する」チェックボックス

動体検出時の検出前と検出後の全ての画像を表示する場合，ここをチェックします。画像保管場所に統計情報ファイルを選択した場合，使用できます。

このチェックボックスは，［検索開始］ボタンを押したときか，またはカメラ名称を選択したとき有効になります。

(11)［設定］ボタン

画像ログファイルの一覧表示方法を設定します。画像ログファイルの一覧を表示中は，録画ビューアウィンドウの［一覧表示］ボタンを押し，Microsoft Internet Explorer，または Netscape Navigator 画面の更新操作で表示を更新させてください。

10.13 統計情報ビューア

統計情報ビューアは，統計情報を閲覧するビューアです。統計情報ビューアウィンドウは，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff のツール】の【統計情報ビューア】から表示します。

統計情報の一覧は，「表 12.2-1　統計情報一覧」を参照してください。

統計情報ビューアウィンドウを，図 10.13-1 に示します。

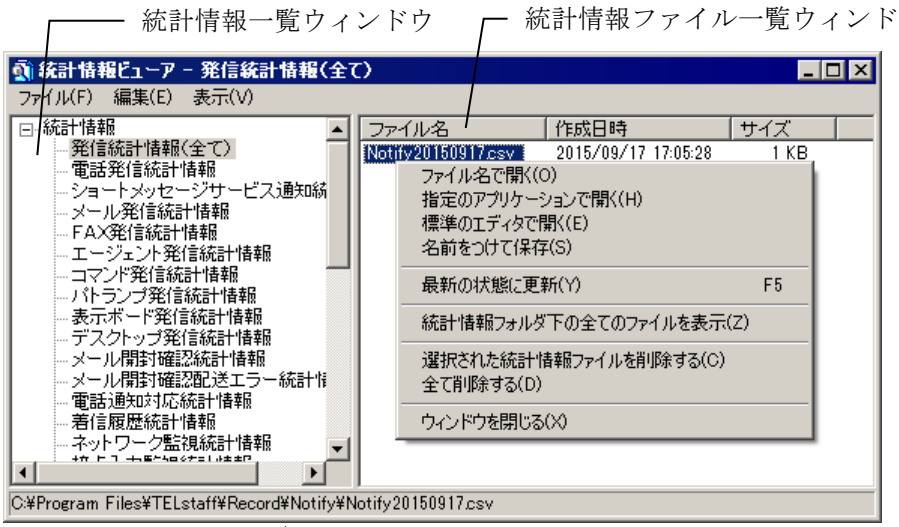


図 10.13-1　統計情報ビューアウィンドウ

(1) 統計情報ビューアウィンドウのメニュー

統計情報ビューアウィンドウのメニューと機能を表 10.13-1 に示します。

表 10.13-1　統計情報ビューアウィンドウのメニューと機能

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	機能
ファイル(F)	ファイル名で開く(O)	選択したファイルを関連付けられたアプリケーションで開きます。関連付けられていない場合は，使用するアプリケーションの一覧画面を表示します。
	指定のアプリケーションで開く(H)	使用するアプリケーションの一覧画面を表示します。
	標準のエディタで開く(E)*1	環境設定－「全般」タブで指定したテキストエディタで開きます。
	名前をつけて保存(S)	選択したファイルに名前を付けて保存します。
	ウィンドウを閉じる(X)	統計情報ビューアウィンドウを閉じます。
編集(E)	選択された統計情報ファイルを削除する(C)	選択した 1 つのファイル，または複数のファイルを削除します。複数のファイルを選択するときは，［Ctrl］キーで複数選択，［Shift］キーで選択範囲を連続選択，全てを選択するときは，［Ctrl］＋［A］キーを使用します。最新のファイルは，削除できません。
	全て削除する(D)	最新ファイル以外の全てのファイルを削除します。

メニュー（ニモニック）	プルダウンメニュー（ニモニック）	機能
		最新のファイルは，削除できません。
表示(V)	最新の状態に更新(Y)	一覧を最新の状態で表示します。
	統計情報フォルダ下の全てのファイルを表示(Z)	統計情報フォルダ下の全てのファイルを表示します。 全てのファイルを表示する場合，統計情報ファイルの削除はできません。

注*1 環境設定－「全般」タブで「使用するテキストエディタ」を設定していない場合は，使用できません

(2) 統計情報ビューアウィンドウの操作方法

統計情報ビューアウィンドウの操作方法を次に示します。

1. 統計情報一覧ウィンドウから，参照する統計情報を選択します。
   統計情報を選択すると統計情報ファイル一覧ウィンドウに現在出力されている統計情報ファイルが新しい順に表示されます。統計情報ファイルがないか，または統計情報出力を設定していない場合は，表示されません。
2. 統計情報ファイル一覧ウィンドウから表示する統計情報ファイルを選択して開きます。
   統計情報ファイルを開く方法は，ファイル名で開く，指定のアプリケーションで開く，標準のエディタで開く，の 3 通りがあります。
   ダブルクリック操作では，関連付けられたアプリケーションで開きます（ファイル名で開く）。

最新の統計情報ファイルを開く場合は，統計情報ファイルを「**＜インストールフォルダ＞¥temp**」フォルダに一時ファイル名でコピーして開きます。コピー場所は，統計情報ビューアウィンドウのステータスバーに表示します。この一時ファイルは，5 日後に削除します。

10.14 パトランプ動作確認ツール

RS232C シリアルポートに接続したパトランプの動作確認，および標準で使用するリレー種別やコンバータ種別を設定するツールです。パトランプ動作確認ツールは AECL で使用できます。

パトランプ動作確認ウィンドウは，Administrators 権限ユーザでスタートメニューの【TELstaff のツール】－【リレー装置の操作】－【リレー接点テスト】から表示します。

パトランプ動作確認ウィンドウを，図 10.14-1 に示します。

図 10.14-1 パトランプ動作確認ウィンドウ

(a) 「リレー番号」チェックボックス

動作確認するリレーの番号ボタンをチェックします。リレー番号の指定で「全て」がチェックされた場合，このボタンは指定できません。

(b) 「全て」チェックボックス

全てのリレーに接続されているパトランプの動作確認を行うとき，ここをチェックします。

(c) 「COMポート名」ドロップダウンリスト

パトランプが接続されている RS232C のポート番号を，ドロップダウンリストから選択してください。使用できるポート名は，COM1 から COM16 までです。「標準のポート」を選択すると直前に正常動作で使用された RS232C ポートを使用します。初めて使用する場合は，「COM1」を使用します。

［標準で使用する］ボタンを押すと設定したポート番号が TELstaff 標準のポート番号になります。

(d) 「セレクタ装置」ラジオボタン

PC の RS232C シリアルポートにリレー装置を接続しているとき，「使用しない」ラジオボタンを選択します。

RS232C セレクタ装置にリレー装置を接続しているとき，「使用する」ラジオボタンを選択し，「チャンネル番号」ドロップダウンリストからリレー装置を接続した RS232C セレクタ装置のチャンネル番号を選択します。RS232C セレクタ装置を使用し，チャンネル番号を省略すると，直前に正常動作で使用したチャンネル番号の機器が動作します。

(e) 「リレー種別」ラジオボタン

使用するリレー装置の種別を設定します。［標準で使用する］ボタンを押すと設定したリレー種別が TELstaff 標準のリレー装置になります。

(f) 「コンバータ種別」ラジオボタン

パトランプで使用するコンバータ装置の種別を設定します。［標準で使用する］ボタンを押すと設定したコンバータ種別が TELstaff 標準のコンバータ装置になります。

「日立 IT 社製」を標準使用に設定した場合，パトライト社製は使用できません。また，「パトライト社製」を標準使用に設定した場合，旧日立 IT 社製は使用できません。

コンバータ種別	製品名
日立 IT 社製	IT-C10RE
パトライト社製	PHN-3FB，PHN-R

(g) ［点灯させる］ボタン

PC の RS232C シリアルポートにリレー装置を接続したパトランプを点灯させます。コンバータ接続のパトランプ点灯動作確認はできません。

(h) ［消灯させる］ボタン

PC の RS232C シリアルポートにリレー装置を接続したパトランプを消灯させます。コンバータ接続のパトランプ消灯動作確認はできません。

10.15 ランチャー

10.15.1　ランチャーウインドウ

ランチャーは Windows 8, Windows 10 , Windows 11 , Windows Server 2012, Windows Server 2016, Windows Server 2019 および Windows Server 2022 におけるスタートメニューの代替ツールです。ランチャーにはスタートメニューと同じメニューが登録されているので，従来の TELstaff 製品と同じ操作ができます。

ランチャーウインドウを，図 10.15-1 に示します。

ランチャーのメニューの機能については，「表 2.1-1TELstaff スタートメニューと機能」を参照してください。

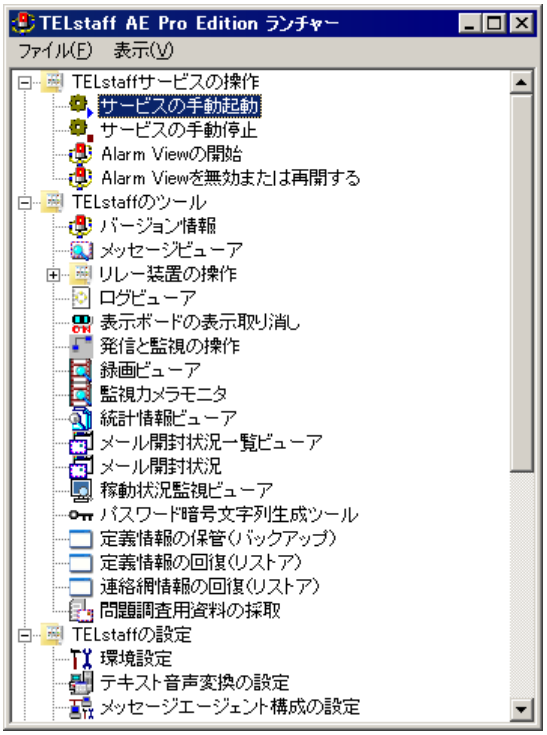


図 10.15-1　ランチャーウィンドウ

10.15.2　ランチャーウィンドウのメニュー

ランチャーウィンドウのメニューを表 10.15-1 に示します。

表 10.15-1　ランチャーウィンドウのメニューと機能

メニュー （ニモニック）	サブメニュー （ニモニック）	機能
ファイル(F)	終了(X)	ランチャーを終了します。
表示(V)	全て展開して表示(T)	全て展開して表示します。
	全て折りたたんで表示(O)	全て折りたたんで表示します。

10.16 パスワード暗号文字列生成ツール

パスワード暗号文字列生成ツールを使用すると，ユーザインポートファイルや連絡網インポートファイルのパスワード指定箇所で使用できる暗号文字列を生成できます。エクスポートしたファイルを修正したりインポートファイルを新規作成する場合は，パスワードを平文で記載する代わりに本ツールで作成した暗号文字列を使用することを推奨します。

パスワード暗号文字列生成ツールは，AEPE および AESE で使用できます。スタートメニューの【TELstaff のツール】－【パスワード暗号文字列生成ツール】から表示します。

パスワード暗号文字列生成ツールの画面例を図 10.16-1 に示します。

図 10.16-1　パスワード暗号文字列生成ツール

(a)　「パスワード」テキストボックス

パスワードテキストボックスには，暗号化したいパスワード文字列を入力します。

パスワードとして指定可能な文字列は，その暗号化結果を使用する設定項目ごとに使用可能な文字種・文字数の条件を満たす必要があります。その条件を満たさない文字列は，本ツールで生成できたとしても動作保証対象外となりますのでご注意ください。

(b)　「暗号文字列」テキストボックス

暗号文字列テキストボックスには，パスワードテキストボックスに入力した文字列を暗号化した結果が表示されます。このテキストボックスは読み取り専用です。

(c)　［生成］ボタン

生成ボタンを押すと，パスワードテキストボックスに入力した文字列を暗号化します。暗号化した結果は「暗号文字列」テキストボックスに設定され，クリップボードにもコピーされます。

11. コマンド

この章では，コマンドについて説明します。

11.1　コマンド共通の注意事項

11.2　ダイヤルコマンド（teldial）

11.3　発信操作コマンド（telcan, telspend）

11.4　発信制限定義コマンド（teldlim）

11.5　ネットワーク監視抑止と抑止解除コマンド（telnethd）

11.6　稼動状況監視の監視と抑止のコマンド（tlpwrspd）

11.7　定義情報のバックアップ・リストアコマンド（telsback）

11.8　電源オン・オフ監視コマンド（telsping）

11.9　WAVファイル再生コマンド（telsndpl）

11.10 テキスト読み上げコマンド（telsmart）

11.11 電源制御コマンド（tlshdrbt）

11.12 ユーザインポートコマンド （tlusrimp）

11.13 ユーザエクスポートコマンド （tlusrexp）

11.14 ユーザ削除コマンド（tlusrdel）

11.15 連絡網インポートコマンド （tlnetimp）

11.16 連絡網エクスポートコマンド （tlnetexp）

11.17 未発信件数カウントコマンド（tlgetqc）

11.18 その他運用ツールコマンド（telfput）

11.19 プロトコルコマンド

11.20 TELstaffサービス起動・停止コマンド（telsscmd）

11.21 Alarm View起動・停止コマンド（teldtcmd）

11.22 Slackへの発信と情報取得のコマンド（tlsslack）

11.23 LINE WORKSへの発信コマンド（tlsline）

11.1 コマンド共通の注意事項

TELstaff のコマンドには，共通して以下の注意事項があります。

- ファイル名を指定するコマンドにおいては，ネットワークドライブ上のファイルや Windows 外部デバイスファイルの名前は指定できません。またファイル完全名に空白文字が含まれる場合は，「"」（ダブルコーテーション）でファイル完全名を囲んで指定する必要があります。
- 各コマンドの詳細説明にて記載の無い限り，TELstaff のコマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。OS のユーザーアカウント制御（UAC)が有効である場合は，コマンドの実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。また，コマンドプロンプトから TELstaff のコマンドを実行する場合は，コマンドプロンプトを管理者権限で起動してください。

11.2 ダイヤルコマンド（teldial）

11.2.1teldialコマンド

(1) 機能

TELstaff に対して，発信を指示します。

AECL で teldial コマンドを実行すると，メッセージエージェント構成の設定ダイアログボックス（「サーバ」タブ）で設定した発信依頼先サーバに teldial コマンドが送信されます。

また，AECL，AEPE，AESE で -to オプションを指定すると，-to オプションで指定した AEPE，AESE に teldial コマンドが送信されます。

(2) 形式

発信先によって，コマンドの形式が異なります。

- 連絡網に対して発信する場合，「11.2.2 連絡網への発信」を参照してください。
- SMS 通知に対して発信する場合，「11.2.3 SMS 通知」を参照してください。
- 電話に対して発信する場合，「11.2.4 電話への発信」を参照してください。
- メールに対して発信する場合，「11.2.5 メールへの発信」を参照してください。
- AECL（または AEPE，AESE）に対して発信する場合，「11.2.6 エージェントへの発信」を参照してください。
- FAX に対して発信する場合，「11.2.7 FAX への発信」を参照してください。
- 一括発信する場合，「11.2.8 一括発信」を参照してください。
- ネットワーク監視で指定された発信先に対して発信する場合，「11.2.9 ネットワーク監視」を参照してください。

(3) 発信制御

(a) 連絡網，電話発信，SMS通知，メール発信，エージェント発信，FAX発信のteldialコマンド

●発信抑止

teldial コマンドで指示した発信が発信抑止の対象となった場合でも，teldial コマンドの戻り値は 0 となります。発信抑止機能の詳細については 2.3.1(1)(f)を参照してください。

●発信制限

発信制限機能とは，特定の条件を満たす発信命令の実行を制限する機能です。詳細については 2.3.27 項を参照してください。

●発信中止

待機モードの TELstaff に対して teldial コマンドを実行すると，本番機の TELstaff が動作中であれば，teldial コマンドは，TELstaff サービスが受け付けるとすぐに終了します。待機モードの TELstaff が本番機の TELstaff の動作中を認識した直後に本番機に障害が発

生して発信を実行できない状態に陥ると，どこにも発信されません。本番機の TELstaff が動作していないと待機実行モードの TELstaff が teldial コマンドを実行します。このとき本番機が復旧すると本番機の teldial コマンドが実行され一時的に 2 重発信となります。

(b) ネットワーク監視のteldialコマンド

●発信抑止

ネットワーク監視で発信条件を満たしたときにネットワーク監視ダイアログボックスで設定した発信については発信抑止ができます。発信抑止機能の詳細については 2.3.1(1)(f)を参照してください。

●発信制限

発信制限機能とは，特定の条件を満たす発信命令の実行を制限する機能です。詳細については 2.3.27 項を参照してください。

●発信中止

ネットワーク監視で発信条件を満たしたときにネットワーク監視ダイアログボックスで設定した発信について 2 台並列稼動構成機能が適用されます。

(4) 変数

teldial コマンドの各オプションで使用できる変数を下表に示します。

オプション名	使用できる変数
-fb, -fc, -ff, -fm, -fv, -fdp, -fdt, -fdw , -m	~node~, ~node1~, ~node2~, ~date~, ~date1~, ~date2~, ~time~, ~time1~, ~id1~, ~id2~, ~ComputerName~, ~IPaddress~, ~MailConfirmID~, ~NotifyGroupID~, ~notifynumber~, ~ovtopodump~, ~UserExplanation~(※1) , ~UserName~(※1) , ~UserInformation ~
-fs1, -s1	~node~, ~node1~, ~node2~, ~date~, ~date1~, ~date2~, ~time~, ~time1~, ~id1~, ~id2~, ~ComputerName~, ~IPaddress~, ~MailConfirmID~, ~NotifyGroupID~, ~notifynumber~, ~UserInformation ~

注※1　~UserName~変数，~UserExplanation~変数は，連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用できます。

(5) 注意事項

- teldial コマンドは「<TELstaff インストールフォルダ>¥Program」フォルダにあります。使用する場合は，完全パスで指定するか，Windows の PATH 設定をしてください。
- 受け付けた teldial コマンドは，TELstaff 動作記録の「TELstaff コマンド受付け記録」に 1024 桁まで記録します。
- teldial コマンドは，TELstaff サービスが受け付けると終了します。実際の発信は，TELstaff サービスが非同期に行うためアプリケーションは，teldial コマンドの戻り値で正常に発信が行われたかどうかの判断はできません。
  また，-fb，-fc，-ff，-fi，-fm，-fs1，-fv，-fa，-uf，-fdp，-fdt，-fdw，-fav オプションで指定するファイルは，teldial コマンドが終了してもアプリケーションで

内容を変更したり，削除することはできません。ファイルを削除する場合は，-d オプションを，-nif オプションでは-nfd オプション指定します。
AECL では，teldial コマンドを受け付けたあと AEPE または AESE に発信依頼します。-to オプションのときも同様です。

- teldial コマンドで直接発信指示をした場合，TELstaff の発信スケジュールは適用されないで，すぐに発信されます。
- 発信するとき，全ての通知メディアが発信スケジュールで発信抑止状態の場合は，発信できる時間になるまで発信を保留します。発信保留を抑止するには，未使用の通知メディアに対して全て発信可能状態にしておきます。該当する通知メディアが，発信抑止状態でも発信したものとして次の通知メディアへの発信を行います。
- TELstaff の環境設定で，TELstaff サービス未起動時に teldial コマンドで自動起動するように設定されている場合，teldial コマンドの実行を契機に TELstaff サービスを自動起動します。自動起動で使用される連絡網グループは直前に使用された連絡網グループです。インストール直後では，「連絡網グループ 001」を使用して自動起動します。
- 連絡網グループ ID を指定した連絡網発信では，応答機能，問合せ機能は使用できません。応答機能，問合せ機能については，「2.3.3(1) 応答機能と問合せ機能」を参照してください。
- 環境設定－「全般」タブの「サービス未起動のときコマンドでサービスを自動起動する」オプションにチェックしていない場合で TELstaff サービスを開始していないときに teldial コマンドを実行した場合，発信内容は保存されます。
この場合，次回 TELstaff サービスを開始したときに，保存した発信内容を自動的に発信します。ただし，TELstaff の環境設定で，TELstaff サービス未起動時に teldial コマンドを無効にするように設定されているか，telcan コマンドで未発信を取り消すか，または TELstaff サービスを起動するときに，
「図 6.1-1TELstaff サービスの起動ダイアログボックス」の「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始する場合，teldial コマンドの要求は無視され，TELstaff サービスを開始しても実行されません。TELstaff の環境設定で，TELstaff サービス未起動時に teldial コマンドを無効にするように設定している場合，TELstaff サービスを開始中で，発信中，発信待ち，問い合わせ待ち状態にある発信は，TELstaff サービス停止時に無効にします。
- 発信途中に TELstaff サービスを停止し，その後 TELstaff サービスを監視すると，発信途中の発信は再度発信を行います。
- -fb，-fc，-ff，-fi，-fm，-fs1，-fv，-fa，-uf，-fdp，-fdt，-fdw，-nif，-fav オプションで指定するファイル名は，完全ファイル名で指定します。ファイル名に空白が入る場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。本オプションで指定するファイル名は，TELstaff が参照できるファイルを指定します。記述する文字は，半角英数記号と全角文字では Shift_JIS コードを使用しなければなりません。ただし，日本語でない言語で IP 電話発信を行う場合には 指定した言語に応じた文字コードで作成したファイルを-fv，-uf で指定してください。-fc，-ff，-fm，-fv，-fb，-fa オプションで指定するファイル名は，複数ファイルを指定できます。複数ファイル指定は，「+」で区切って指定します。指定できる

ファイル数は，-fc，-ff，-fm，-fv，-fb，-fa で指定する文字数が半角 512 文字までとなります。-to オプションを指定した場合は，複数ファイルを指定はできません。

- AECL（または発信依頼元の AEPE，AESE）の teldial コマンド，または発信依頼では，-fc，-ff，-fi，-fm，-fv，-fb，-fa，-fs1，-fdp，-fdt，-fdw，-uf，-fav オプションで指定するファイル名は，AECL（または発信依頼元の AEPE，AESE）がインストールされている PC にあるファイルを指定します。
- SMS 通知，電話，FAX，メール，エージェントへの直接発信で，再発信間隔は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で指定した間隔で発信します。直接発信の繰り返し方法については，「2.3.1(1)(b) グループ（連絡網）発信と直接発信」を参照してください。連絡網発信の繰り返し方法と直接発信の繰り返し方法については，表 2.3-2 と表 2.3-3 を参照してください。
- -b，-p，-c，-f オプションで指定する電話番号は，全て同じ形式の番号で指定してください。例えば，市外局番を使用する場合は，全てに市外局番を付加し，割引用番号を使用する場合は，全てに割引用番号を付加してください。複数の回線を利用して発信ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。電話番号が同じでも記述形式が異なると同じ電話番号に対して同時発信を行います。
- TELstaff サービスが通知メディアに発信している間に teldial コマンドを実行すると，TELstaff サービスが受け付けるとすぐに終了しますが，発信要求は TELstaff サービスの発信処理が終わるまでキューイングされます。したがって，短時間に大量の teldial コマンドを実行すると，発信要求が大量にキューイングされ，システムリソース不足となる場合があります。未発信の処理を削除して再起動する方法は，「1.5.1(1) 発信記録の削除」を参照してください。短時間に大量の teldial コマンドを実行する場合の注意事項については，「1.5.4(1) 発信の滞留・遅延リスクを想定する」を参照してください。
  発信制限により実行が制限された teldial コマンドは，TELstaff サービスが受け付けるとすぐに終了します。発信制限機能の詳細については 2.3.27 項を参照してください。
- 待機モードの TELstaff に対して teldial コマンドを実行すると，本番機の TELstaff が動作中であれば，teldial コマンドは，TELstaff サービスが受け付けるとすぐに終了します。待機モードの TELstaff が本番機の TELstaff の動作中を認識した直後に本番機の TELstaff に障害が発生して発信を実行できない状態に陥ると，どこにも発信されません。本番機の TELstaff が動作していないと待機実行モードの TELstaff が teldial コマンドを実行します。このとき本番機が復旧すると本番機の teldial コマンドが実行され一時的に 2 重発信となります。
- メールへの発信を行う場合は，環境設定の「E メール」タブに SMTP サーバ名などのメールサーバ環境を設定しておかなければなりません。
- 複数の回線を利用して電話発信，SMS 通知，FAX 発信，電話回線を使用したエージェント発信ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。
- 各オプションで指定するパラメタには，「<」文字，「>」文字，「|」文字，および文字として認識できないコードを含めることはできません。
- 各オプションは，Windows システムの規則にしたがって切り出されます。

TELstaff の変数に"」（ダブルコーテーション）を含む文字列を扱う場合には注意が必要です。各オプションで指定するダブルコーテーションと TELstaff の変数中で使用されるダブルコーテーションを含め，ダブルコーテーションが正しく指定されない場合，不正なダブルコーテーションの指定箇所で実行コマンドラインを切り捨てる場合があります。その場合には発信の内容が途中で切られたり，発信自体がされない可能性があります。

- teldial コマンドを Windows の rsh コマンドや cmd コマンドで実行させることは，Windows の問題により推奨できません。
- teldial コマンドは Administrators 権限ユーザ以外のユーザでも実行できますが，以下の機能制限があります。
  - ✧ インストール後に一回以上，Administrators 権限ユーザでサービスを起動しておく必要があります。
  - ✧ コマンドの受け付け記録は「TELstaff コマンド受付け記録」に出力されません
  - ✧ -ev オプションは使用できません（発信は行われません）
  - ✧ 他のマシンにインストールされた TELstaff への発信依頼は実行できません（発信は行われません）
  - ✧ -d オプションと，通知ファイルの指定と，連絡網 ID の総称指定あるいは複数指定を，同時に指定できません（発信は行われません）
  - ✧ 環境設定－「全般」タブの「サービス未起動のときコマンドでサービスを自動起動する」オプションにチェックしている場合で，かつ TELstaff サービス停止中に teldial コマンドを実行した場合，TELstaff サービスは起動されません（その発信も行われません）
  - ✧ 環境設定－「全般」タブの「サービス未起動のとき teldial コマンドを無効にする」オプションにチェックしていない場合で，かつ TELstaff サービス停止中に teldial コマンドを実行した場合，その発信は次回サービス起動時に発信されません
  - ✧ 発信制限が有効にならない場合があります
  - ✧ 自コンピュータのデスクトップ画面をデスクトップ通知で送信できません

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	teldial コマンドを正常に受け付けました。
0 以外	・TELstaff サービスが起動されていない ・TELstaff サービス停止処理中 ・発信制限により発信を中止 ・コマンドの引数指定が誤っている，またはコマンドラインが長すぎる ・その他システム環境によりコマンド処理ができない ・-to オプションを指定しており，かつ-fb，-fc，-ff，-fi，-fm，-fs1，-fv，-fa，-uf，-fdp，-fdt，-fdw，-fav オプションで指定するファイルが無い

teldial コマンド実行結果は，ログビューアウィンドウの「TELstaff メッセージ記録」で確認できます。

teldial コマンド受け付け結果は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

11.2.2連絡網への発信

(1) 機能

TELstaff に対して，連絡網を指定して発信（グループ発信）を指示します。

連絡網への発信は，TELstaff ウィンドウの発信先一覧に並んだ順に，発信スケジュールに従って発信先に一定の間隔で発信を行います。なお，連絡網内の通知メディアの追い越し発信は行いません。

同時に複数の連絡網からの発信を行った場合，連絡網の間では順不同であり優先順位はありません。ある連絡網の発信の沈み込み（埋もれ）を防ぐため，まだ一度も発信されていない連絡網（未発信の連絡網と呼びます）は，既にいくつかの連絡先に通知済みの連絡網よりも先に発信されます。未発信の連絡網への発信は，連絡網の先頭の通知先に対して先に第一通報先に対して発信します。詳細は「2.3.26 先頭優先ルール」を参照してください。

(2) 形式

```
teldial     [ { -fb SMS通知ファイル名 | -m SMS通知メッセージ [-w] } ]
            [ -fc エージェント送信ファイル名 [-fa 添付ファイル名] ]
            [ -fdp デスクトップメッセージ通知ファイル名 ]
            [ -fdt デスクトップテキスト読み上げ通知ファイル名 ]
            [ -fdw デスクトップWAV通知ファイル名 ]
            [ -ff  FAX通知文ファイル名 ]
            [ { -fi マルチメディアファイル名 | -i マルチメディア名 } ]
            [ -fm メール通知文ファイル名 ]
            [ -fa 添付ファイル名 ]
            [ -pri メール重要度 ]
            [ { -fs1  表示ボード通知メッセージファイル名
                | -s1 表示ボード通知メッセージ }          ]
            [ -fv  電話通知文ファイル名 ]
            [ -mdn on|off ] [ -mde 受信メールアドレス ]
            [ -to 発信依頼先アドレス[:ポート番号] ]
            [ { -u ユーザ付加情報 | -uf ユーザ付加情報ファイル名 } ]
            [ -nosch ]
            [ -h ホスト名 ]
            [ -id 通知ID ]
            [ -sl { ja | en | zh } ]
            [ -np 1 ]
            [ -ev ]
            [ -d ]
            [ -k ]
            [ -fav 任意変数ファイル名 ]
            [ -nt { yyyy/mm/dd/hh/nn | afterNNN {min | hour | day} } ]
            [ -ap {1|2|3|4|5} ]

            { [連絡網グループID/]連絡網ID
```

| -ni [連絡網グループID/]連絡網ID }

(3) 引数

(a) -fa 添付ファイル名

メール通知またはエージェント通知にて，指定されたファイルを添付します。ファイル名は 520 桁以内の完全名で指定してください。

エージェントメッセージにファイルを添付して送信した場合，エージェントメッセージを受信する AEPE，AESE，または AECL のメッセージエージェント構成の設定－「添付ファイル」タブで添付ファイルの保存場所を設定しておきます。受信した添付ファイルは，メッセージビューアツールでは閲覧できません。

ファイルサイズの大きい添付ファイルを指定すると，送信に時間がかかります。極力ファイルサイズの小さい添付ファイルの使用を推奨します。

（例） -fa C:¥sample.gif
-fa C:¥sample1.gif+C:¥sample2.gif

(b) -fb SMS通知ファイル名

SMS 通知で使用するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。

-fb オプションと -m オプションの両方を省略した場合，［連絡網プロパティ］－［発信内容］タブで指定された通知メッセージが使用されます。

SMS 通知の詳細については 2.3.1(3)を参照してください。

（例） -fb C:¥sample.txt

(c) -m SMS通知メッセージ

SMS 通知で使用するメッセージを，英数字，カナ，および漢字を使って指定します。空白を含むメッセージを使用する場合は「"」（ダブルコーテーション）でメッセージ全体を囲んで指定してください。また改行コードなど文字として認識できないコードを含めることはできません。なお -w オプションを指定するとテキストではなく各社が定義している SMS コードで直接指定できます。

-fb オプションと -m オプションの両方を省略した場合，［連絡網プロパティ］－［発信内容］タブで指定された通知メッセージが使用されます。

SMS 通知の詳細については 2.3.1(3)を参照してください。

（例） -m コノヨウニシテイシマス
-m "クウハク ガアルバアイ"

(d) -w

-m オプションで SMS コードを直接指定する場合に指定します。テキストで指定する場合には，指定しないでください。

(e) -fc エージェント送信ファイル名

エージェント通知で使用する通知文ファイルを完全名で指定します。

このオプションを省略すると［連絡網プロパティ］－［発信内容］－［エージェント送信ファイル］で指定した通知ファイルが使用されます。その指定が無い場合，標準の通知

文ファイルが使用されます。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。標準通知文の内容とカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。

（例） -fc C:¥sample.txt

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

(f) -fdp デスクトップメッセージ通知ファイル名

デスクトップ通知で使用するメッセージを記載したファイルを完全名で指定します。

このオプションを省略すると，デスクトップ通知の場合はデスクトップ通知のプロパティダイアログボックスの「デスクトップパトランプ」タブで指定した通知メッセージが使用されます。

-fdp オプションを使用する場合は，連絡網 ID で指定した連絡網にデスクトップ通知メディアを追加しておく必要があります。

（例） -fdp C:¥sample.txt

(g) -fdt デスクトップテキスト読み上げ通知ファイル名

デスクトップ通知のテキスト音声読み上げで使用するメッセージを記載したファイルを完全名で指定します。

このオプションを省略するとデスクトップ通知のプロパティダイアログボックスの「読み上げ」タブで指定した通知メッセージが使用されます。

-fdt オプションを使用する場合は，連絡網 ID で指定した連絡網にデスクトップ通知メディアを追加しておく必要があります。

（例） -fdt C:¥sample.txt

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

(h) -fdw デスクトップWAV通知ファイル名

デスクトップ通知のサウンド再生で使用する WAV ファイルを完全名で指定します。

このオプションを省略するとデスクトップ通知のプロパティダイアログボックスの「サウンド」タブで指定した WAV 通知ファイルが使用されます。

-fdw オプションを使用する場合は，連絡網 ID で指定した連絡網にデスクトップ通知メディアを追加しておく必要があります。

（例） -fdw C:¥sample.wav

(i) -ff FAX通知文ファイル名

FAX 通知で使用する通知文ファイルを完全名で指定します。

このオプションを省略した場合，標準 FAX 通知文の内容を送信します。

（例） -ff C:¥sample.txt

(j) -fi マルチメディアファイル名

デスクトップ通知のデスクトップパトランプの一つ目のランプ部分に表示するマルチメディアファイルを，ファイル完全名で指定します。

指定できるマルチメディアファイルは，拡張子が bmp または jpg である必要があります。

このオプションは，AECL では使用できません。

（例） -fi C:¥sample.gif

(k) -i マルチメディア名

マルチメディア名に対応するマルチメディアファイルの内容を，デスクトップパトランプの一つ目のランプ部分に表示します。

マルチメディア名は，半角英数字で指定します。マルチメディア名の中に空白文字は指定できません。

マルチメディア名は，環境設定の「カスタマイズ」タブにある「マルチメディアファイル定義」にあらかじめ定義しておきます。「マルチメディアファイル定義」からマルチメディア名称を元にマルチメディアファイル名に置き換わります。

(例) -i 100.100.100.1

```
[imagelist]
;ホスト名=画像ファイル名　の形式で定義します。
printer=c:¥printer.jpg
100.100.100.1=c:¥ws1.bmp
100.100.100.2=c:¥ws1.wav
100.100.100.3=c:¥ws1.avi
```

(l) -fm メール通知文ファイル名

メール通知で使用する通知文ファイルを完全名で指定します。

このオプションを省略すると［連絡網プロパティ］－［発信内容］－［メールファイル］で指定した通知ファイルが使用されます。その指定が無い場合，標準の通知文ファイルが使用されます。

メール通知文ファイルに関する注意事項については 2.6.1(1)を参照してください。

（例） -fm C:¥sample.txt

(m) -pri メール重要度

メール通知で使用する，メールの重要度を半角数字の 1 から 5 で指定します。それぞれの値の意味は以下の通りです。

重要度値	重要度
1	重要度高
2	重要度やや高
3	通常

重要度値	重要度
4	重要度やや低
5	重要度低

メール重要度の詳細については 2.3.1(5)(c)を参照してください。

(n) -fv 電話通知文ファイル名

電話通知（IP 電話通知を含む）で使用する通知文ファイルを完全名で指定します。

このオプションを省略すると［連絡網プロパティ］－［発信内容］－［電話メッセージファイル］で指定した通知ファイルが使用されます。その指定が無い場合，標準の通知文ファイルを使用します。

トリガフォンを使用して電話発信をする場合，また同一連絡網内に IP 電話とトリガフォンを使用する電話を混在させる場合は，拡張子が「tp」であるファイルを指定してください。トリガフォンを使用する場合でファイルの拡張子が「tp」でない場合では，通信モデムを使用して電話通知を行います。

IP 電話のみを使用する場合は，電話通知メッセージを格納したファイル拡張子が「tp」または「txt」または「wav」のファイル名を指定します。ファイル拡張子が「wav」の音声ファイル名を指定する場合，その音声ファイルは表 1.4-6 に示す形式でなければなりません。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

IP 電話通知では，日本語以外の言語で使用する通知文ファイルの名前がここで指定したファイル名を元に自動的に決定されます。詳細については表 2.3-9 を参照してください。

（例） -fv C:¥sample.wav
-fv C:¥sample.tp

(o) -fs1 表示ボード通知メッセージファイル名

表示ボード通知メッセージファイル名で指定したファイルの内容を，メッセージ表示ボードに通知します。ファイル名は完全名で，拡張子が「txt」であるファイルを指定してください。

このオプションを省略するとメッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスで指定した通知ファイルが使用されます。メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスの通知ファイル指定を省略すると，“表示するメッセージの指定がありません”のメッセージを通知します。

メッセージは，全角 200 文字以内で半角，全角文字が使用できます。使用できる文字の種類については，メッセージ表示ボードの「ユーザズマニュアル」を参照してください。

メッセージ中に改行コードが含まれるときは，改行コードは削除します。

メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

変更項目	文字修飾/背景色/文字色の指定方法
文字修飾	normal(標準),bold(強調),shadow(影付き)
背景色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)
文字色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)

（例 1）文字修飾を強調，文字色を赤，背景色を緑で表示する場合
TELstaff は~Mode:bold/green/red~日立ソリューションズの製品です
（例 2）文字修飾を強調，文字色を赤で表示する場合
TELstaff は~Mode:bold//red~日立ソリューションズの製品です

(p) -s1 表示ボード通知メッセージ

表示ボード通知メッセージで指定した文字を，メッセージ表示ボードに通知します。このオプションを省略するとメッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスで指定した通知ファイルが使用されます。メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスの通知ファイル指定を省略すると，「表示するメッセージの指定がありません」というメッセージを通知します。

メッセージ表示ボードに通知するメッセージを全角 200 文字以内の半角，全角文字で指定します。使用できる文字の種類については，メッセージ表示ボードの「ユーザズマニュアル」を参照してください。

メッセージに空白文字を使用する場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。

メッセージ中に改行コードが含まれるときは，改行コードは削除します。

メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

(q) -mdn {on|off}

メール発信時，メール開封確認を行うかどうかを指定します。

- on

  メール開封確認を行います。

- off

  メール開封確認を抑止してメール発信を行います。

このオプションを省略すると［環境設定］－［メール開封確認］タブの設定に従ってメール発信を行います。

［連絡網プロパティ］－［メール開封確認］－［通知メールの開封確認を行う］チェックボックスにチェックしていない場合で，メール開封確認を行うメール発信を行う場合は，on を指定した上で -mde オプションを指定します。

(r) -mde

メール開封確認をメールの返信で開封確認する場合，開封確認通知メールの宛先にする

メールアドレスを指定します。このメールアドレスは，メール開封確認を行うメール発信の返信先アドレス（From）に使用します。

このオプションを省略すると連絡網プロパティー「メール開封確認」タブで指定した受信メールアドレスを使用します。

(s) 受信メールアドレス

環境設定－「メール開封確認」タブで設定した受信メールアドレスの中から使用する受信メールアドレスを指定します。

(t) -id 通知ID

通知 ID を，4 桁の半角数字で指定します。

このオプションで指定した内容は，通知するメッセージテキスト中の「~id2~」変数と置き換えられます。また，メッセージには，この通知 ID が表示されます。メッセージの表示形式については，「2.3.1(3) SMS 通知」を参照してください。通知 ID は，同じ連絡網 ID で電話や SMS 通知するとき，4 桁の番号で発信要因を区別するときに使用します。発信要因は，あらかじめ決めておく必要があります。また，通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，特定の teldial コマンドだけを発信制限したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。

このオプションを省略すると，連絡網 ID が表示されます。

(u) -sl { ja | en | zh }

IP 電話発信にて，どの言語で通知メッセージの音声読み上げを行うかを言語コードで指定します。なお通知先がユーザであり，かつ本引数で言語を指定した場合，通知先ユーザの「言語」プロパティよりも本引数の指定が優先されます。

使用する音声合成ソフトウェアごとに使用可能な言語は異なります。各音声合成ソフトウェアで使用可能な言語の言語コード，および通知文ファイルで使用すべき文字コードについては表 1.4-10 を参照してください。なお同表に無い言語コードを指定した場合，日本語での通知を行います。

(v) -nosch

すべてのスケジュール機能を無効にして発信します。

（例） -ni 1000 -nosch

(w) -np 1

複数の電話発信を並行して発信します。このオプションを省略すると，連絡網に定義した電話通知メディアを１つずつ発信の終了を待って順に発信します。

このオプションを使用する場合，次の注意事項があります。

- １つ以上のトリガフォンが必要です。
- 連絡網の繰り返し発信機能は，使用できません。
- 連絡網の定義した全ての電話通知メディアに発信されます。

- 連絡網の定義した電話通知メディアの順に発信する保証はありません。

(x) -u ユーザ付加情報

ユーザ付加情報を通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えます。-uf オプションと同時には指定できません。

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（全て全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，-uf オプションを使用してください。

ユーザ付加情報に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。-u オプションのユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

（例） -u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「；」（セミコロン）で区切ると，複数行に分割できます。ユーザ付加情報中の「；」（セミコロン）は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例） -u "ユーザ付加情報1行目;ユーザ付加情報2行目"

なお，日本語ではない言語で IP 電話通知を行う場合，半角英数字（ASCII 文字）だけを含んだ値を指定してください。

(y) -uf ユーザ付加情報ファイル名

このオプションで指定したファイルの内容が，通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えられます。-u オプションと同時には指定できません。また-uf オプションを指定する場合，FAX 送信の通知文ファイル，電話発信の通知文ファイル，およびメールの件名には，~UserInformation~ 変数を使えません。

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を完全名で指定します。ユーザ付加情報ファイルは，1 行当たり 511 文字（すべて全角文字の場合，255 文字）以下で作成してください。

(z) -to 発信依頼先アドレス[:ポート番号]

指定したアドレス・ポート番号で待ち受ける AEPE または AESE に対し，teldial コマンドの発信依頼を行います。

発信依頼には，「2.3.1(1)(h)発信依頼」に示す注意事項があります。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

(aa) -h

ホスト名を通知するメッセージテキスト中の~node~，~node1~，~node2~変数と置き換えます。-ih, -ip オプションと同時には指定できません。

(bb) ホスト名

~node~，~node1~，~node2~に置き換えるホスト名を半角英数字文字の 50 文字以内で指定します。50 文字以上のホスト名を指定すると teldial コマンドは，エラー終了となります。ホスト名に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。

ホスト名の代わりに任意の文字列を指定できますが，任意の文字列を指定する場合は，50 桁以内（全角文字の場合，25 文字）で指定します。文字列に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

(cc) -ev

通知内容に環境変数名を含んでいる場合，それら環境変数の内容を teldial.exe 実行時の環境変数の内容と置き換えて発信します。

システム環境変数を通知内容に使用する方法については，「12.1.2 環境変数」を参照してください。

(dd) -d

通知終了後発信記録を削除するとき-uf，-fc，-ff，-fm，-fv，-fb，-fi，-fa，-fs1，-uf，-fdp，-fdw，-fdt オプションで指定したファイルを全て削除する場合に指定します。ファイルごとには指定できません。

teldial コマンドオプションに誤りがあるオプションを指定した場合，または TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始した場合，-d オプションは，無効になり削除されません。

発信記録を削除する契機については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し-発信の取り消し」を参照してください。

(ee) -k

-k オプションは，以下の条件が全て成立するときに利用されます。成立しない場合は発信が終了すると，-k オプションの指定有無によらず発信記録は削除されます。

- 環境設定ウィンドウ[電話・回線]タブ[モデム一覧]（図 4.1-6）にトリガフォンが登録されている。
- 登録されているトリガフォンの中で[プロパティ]ウィンドウ（図 4.1-25）[受信・発信の区別]において「受信」または「受発信」を選択されたものが少なくとも 1 つ存在する。

これらの条件が全て成立するときに，-k オプションを指定すると，発信に対する確認がされなくても発信記録は削除され，省略した場合は，連絡網プロパティー「基本設定」

タブの「問合わせ確認は行わない」チェックボックスの設定に従います。

-k オプションを使用しないときは，注意事項があります。注意事項は，連絡網プロパティー「基本設定」タブ（図 5.3-35）の「問合わせ確認は行わない」オプション，および「1.5.1 発信記録とファイルの削除」を参照してください。

(ff) -fav 任意変数ファイル名

通知内容に任意変数名を含んでいる場合，それら任意変数の内容を任意変数ファイル名に記載された任意変数の値と置き換えて発信します。

-fav オプションで指定可能な「任意変数ファイル」は 1 ファイルのみです。

以下の場合，通知文中の任意変数を置き換えずに発信します。

- -fav オプションなしの通報で通知文中に「任意変数」が指定されていた場合
- 通知文中で指定された「任意変数」が「任意変数ファイル」に存在しない場合
- -fa で指定した添付ファイル内の「任意変数」
- -uf で指定したファイル内の「任意変数」
- 通知文中の~attachfile:***~変数で指定されたファイル内の「任意変数」

「任意変数ファイル」のファイル形式は，以下となります。

```
「任意変数」=「任意変数」に対応する文字列
```

●「任意変数」

任意変数名は，最初と最後を半角?で囲んで，半角 260 文字を超えない長さで指定します。任意変数名が半角 260 文字を超える場合，半角?で囲まれていない場合，定義は無効です。半角=および，TELstaff が提供する変数は指定できません。任意変数名は，全角文字と半角文字を区別します。また，全角文字では大文字・小文字を区別し，半角文字では大文字・小文字を区別しません。

●「=」

「任意変数」と「任意変数」に対応する文字列の区切り文字として指定します。

●「任意変数」に対応する文字列

半角 1023 文字を超えない長さで指定します。それ以上の長さの文字列を指定した場合，半角 1023 文字分までを使用します。

（例） 通知文ファイルが次の内容であり：

```
あなたは次の施設を予約しています。
日時：?ReserveDate?
施設名：?MeetingRoom?
予約施設が不要になった場合は，予約をキャンセルして解放してください。
```

次の内容の任意変数ファイルを使用した場合：

```
?MeetingRoom?= 第一会議室
?ReserveDate?= 2010年04月10日13時～15時
```

通知文は次の内容になります：

```
あなたは次の施設を予約しています。
日時：2010年04月10日13時～15時
施設名：第一会議室
予約施設が不要になった場合は，予約をキャンセルして解放してください。
```

(gg) -nt 通報日時

teldial コマンド受け付け後，従来の通報のようにすぐに通報せず，指定された「通報日時」に通報を開始します。

以下の場合は，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

- -nt オプションで指定された「通知日時」が日時として不正な場合
- -nt オプションで指定された「通知日時」が通報コマンド実行日時と比べて過去の日時の場合

発信の取り消し方法については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し」を参照してください。

●yyyy/mm/dd/hh/nn

特定の通知日時を指定するときに指定します。yyyy は年度，mm は月，dd は日付，hh は時間，nn は分を示します。mm，dd，hh，nn，は半角文字 1 文字または半角文字 2 文字で指定します。通知日時は 1970 年 1 月 1 日 9 時 0 分から 2037 年 12 月 31 日 23 時 59 分の範囲で指定します。

例：2009 年 10 月 20 日 10 時 00 分に連絡網グループ 001 の連絡網 1000 を実行する例を示します。

（例） teldial.exe -nt “2009/10/20/10/00” -ni 001/1000

●afterNNN { min | hour | day }

TELstaff サービスが teldial コマンドを受け付けた時点から，NNN 分後・時間後・日後，に通知するとき指定します。after は半角小文字で指定します。min，hour，day，は半角小文字で指定します。NNN は半角数字で指定します。NNN が半角数字でない場合，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

分後・時間後・日後それぞれの，NNN の範囲は以下の通りです。

分後	0～10,080。0 または 10,081 以上の場合はすぐに通知する。
時間後	0～168。0 または 169 以上の場合はすぐに通知する。
日後	0～7。0 または 8 以上の場合はすぐに通知する。

（例 1）-nt after30min ... 30 分後に通知
（例 2）-nt after1hour ... 1 時間後に通知
（例 3）-nt after7days ... 7 日後に通知

(hh) -ap { 1 | 2 | 3 | 4 | 5 }

teldial コマンドの優先度を 1 から 5 で指定します。数値が小さいほど優先度が高くなり，優先度オプションを指定しない場合は，優先度は 3 となります。

詳細については，11.2.10 teldial コマンドの優先度を参照してください。

(ii) {[連絡網グループID/]連絡網ID | -ni [連絡網グループID/]連絡網ID}

連絡網 ID を，「0000」と「9999」以外の 4 桁の半角数字で指定します。存在しない連絡網 ID を指定した場合，発信されません。

「連絡網 ID」で指定する場合は，すべてのオプションの最後に指定します。

連絡網グループ ID を指定する場合は，「連絡網グループ ID/」を連絡網 ID の前に指定します。連絡網 ID は，表 11.2-1 に示す方法で前方一致形式の総称指定ができます。

連絡網グループ ID を指定した連絡網発信では確認操作機能・問い合わせ機能は使用できません。

連絡網 ID を複数指定する場合は，「+」区切りで指定します。同じ連絡網 ID を複数指定したり，連絡網 ID 個別指定して総称指定に含まれる場合は，重複して発信します。連絡網 ID を複数指定した場合の発信は，順不同になります。

総称指定の teldial コマンド，および「+」区切りの複数連絡網 ID 指定では，該当する連絡網 ID 分の teldial コマンドを生成し，発信制限を適用しないで実行します。

連絡網 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，特定の teldial コマンドの発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。

（例） -fm sample.txt 1000
-fm sample.txt -ni 1000
-fm sample.txt -ni 100*
-fm sample.txt -ni 200/1000
-fm sample.txt -ni 200/100*
-fm sample.txt -ni 1000+200/5000+200*+200/10*
-fm sample.txt 1000+200/5000+200*+200/10*

表 11.2-1 連絡網IDの総称指定方法

指定方法	発信対象の連絡網
*	現在の連絡網グループの全ての連絡網
n*	現在の連絡網グループで先頭 1 桁が一致する連絡網
nn*	現在の連絡網グループで先頭 2 桁が一致する連絡網
nnn*	現在の連絡網グループで先頭 3 桁が一致する連絡網
gID/*	gID で指定した連絡網グループの全ての連絡網
gID /n*	gID で指定した連絡網グループで先頭 1 桁が一致する連絡網
gID /nn*	gID で指定した連絡網グループで先頭 2 桁が一致する連絡網
gID /nnn*	gID で指定した連絡網グループで先頭 3 桁が一致する連絡網

注 n：半角数字
gID：3 桁の連絡網グループ ID

(4) 使用例

例 1：

連絡網（1000）を使用して電話通知ファイル（c:¥telmessage.tp）で電話発信します。

```
teldial  -fv c:¥telmessage.tp -ni 1000
```

例 2：

連絡網（1000）を使用してメール通知ファイル（C:¥mail.txt）でメール送信します。このとき，通知 ID を「2000」に設定します。

```
teldial  -fm C:¥mail.txt  -id 2000  -ni 1000
```

11.2.3SMS通知

(1) 機能

TELstaff に対して，SMS 通知番号を指定して発信の指示をします。「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の「SMS 繰り返し回数」を指定すると，直接発信の繰り返し間隔時間で発信を繰り返します。

一定時間内に SMS 通知できる発信数は，3 分間の制約（2001 年）が緩和されましたがモデムによっては連続したダイヤリングを制限しているものがあります。使用するモデムによっては，SMS 通知ができない場合があります。

(2) 形式

```
teldial     { -b SMS通知番号[:パスワード]|
              -bn ユーザ名 }
            { -fb SMS通知ファイル名 |
              -m SMS通知メッセージ [-w] }
            [ -bc SMS種別キーワード ]
            [ -id 通知ID ]
            [ { -u ユーザ付加情報 | -uf ユーザ付加情報ファイル名 } ]
            [ -to 発信依頼先アドレス[:ポート番号]]
            [ -h ホスト名 ]
            [ -ev ]
            [ -d ]
            [ -fav  任意変数ファイル名 ]
            [ -nt { yyyy/mm/dd/hh/nn | afterNNN {min | hour | day} } ]
            [ -ap {1|2|3|4|5} ]
```

(3) 引数

(a) -b SMS通知番号[:パスワード]

通知をする SMS 通知番号を半角文字の数字で指定します。番号には，半角文字で「－」（ハイフン）が指定できます。

送信先番号の後に「#」が必要な SMS 通知は番号の後に「#」を入れてください。

パスワードが必要な番号の場合は「SMS 通知番号：パスワード」の形式でパスワードを指定することができます（例：045-xxx-yyyy:1234）。なおパスワード指定は，パスワードの次にメッセージを送信する方法に対応した SMS サービスに限ります。

複数の回線を利用して SMS 通知ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。

番号は，全て同じ形式の番号で指定してください。例えば，市外局番を使用する場合は，全てに市外局番を付加し，割引用番号を使用する場合は，全てに割引用番号を付加してください。

番号が同じでも記述形式が異なると同じ番号に対して同時発信を行います。

（例）　-b 045-xxx-yyyy
　　-b 045-xxx-yyyy

(b) -bn ユーザ名

SMS 通知するユーザ名を指定します。SMS 通知番号は，ユーザプロパティダイアログボックスー「電話・SMS」タブ（図 5.1-8）で指定しておきます。

複数の回線を利用して SMS 通知ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。

ユーザ名に使用できない文字や文字数の上限については「5.1.10(1)(a) 「ユーザ名」メッセージボックス」を参照してください。

（例） -bn User1

(c) -fb SMS通知ファイル名

連絡網発信の場合と同様です。2.3.1(3)を参照してください。

(d) -m SMS通知メッセージ

指定された SMS 通知メッセージを使用します。SMS 通知メッセージは英数字，カナ，漢字，またはコードで指定します。メッセージに空白文字が含まれる場合，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。

SMS 通知の詳細や注意事項については 2.3.1(3)を参照してください。

（例） -m コノヨウニシテイシマス
-m "クウハク ガアルバアイ"

(e) -w

-m オプションで指定するメッセージに，コード形式で直接指定する場合に指定します。文字形式で指定する場合には，省略します。

(f) -bc SMS種別キーワード

SMS 種別キーワードで指定した SMS の種類を通知に使用します。指定を省略すると，標準の SMS の種類を使用します。SMS の種類は，「4.1.1(3) 環境設定ー「SMS」タブ」を参照してください。

（例） -bc Docomo5

(g) -id 通知ID

4 桁の数字で通知 ID を指定します。

このオプションで指定した内容は，通知するメッセージテキスト中の ~id2~ 変数と置き換えられます。また，メッセージには，この通知 ID が表示されます。また，通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，特定の teldial コマンドだけを発信制限したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。このオプションを省略すると，~id2~ 変数は「0000」に置き換えられます。通知 ID（~id2~）変数は，4 桁の番号で発信要因を伝えるときに使用します。発信要因は，あらかじめ決めておく必要があります。

(h) -u

ユーザ付加情報を通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~変数と置き換えます。-uf オプションと同時には指定できません。

(i) ユーザ付加情報

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（全て全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，-uf オプションを使用してください。

ユーザ付加情報に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション）や文字として認識できないコードを含めることはできません。-u オプションのユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

（例）-u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「；」（セミコロン）で区切ると，複数行に分割できます。ユーザ付加情報中の「；」（セミコロン）は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例） -u "ユーザ付加情報 1 行目；ユーザ付加情報 2 行目"

(j) -uf

このオプションで指定したファイルの内容が，通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えられます。-u オプションと同時には指定できません。

(k) ユーザ付加情報ファイル名

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を，ファイル完全名で指定します。ユーザ付加情報ファイルは，1 行当たり 511 文字（全て全角文字の場合は 255 文字）以下で作成してください。

(l) -to

この teldial コマンドの発信は，AEPE または AESE に発信依頼を行います。

発信依頼には，「2.3.1(1)(h) 発信依頼」に示す注意事項があります。

(m) 発信依頼先アドレス［：ポート番号］

発信を依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

(n) -h

ホスト名を通知するメッセージテキスト中の~node~，~node1~，~node2~変数と置き換え

ます。-ih,-ip オプションと同時には指定できません。

(o) ホスト名

~node~，~node1~，~node2~に置き換えるホスト名を半角英数字文字の 50 文字以内で指定します。50 文字以上のホスト名を指定すると teldial コマンドは，エラー終了となります。ホスト名に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。

ホスト名の代わりに任意の文字列を指定できますが，任意の文字列を指定する場合は，50 桁以内（全角文字の場合，25 文字）で指定します。文字列に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

(p) -ev

通知内容に環境変数名を含んでいる場合，それら環境変数の内容を teldial.exe 実行時の環境変数の内容と置き換えて発信します。

システム環境変数を通知内容に使用する方法については，「12.1.2 環境変数」を参照してください。

(q) -d

通知終了後発信記録を削除するとき-fb，-uf オプションで指定したファイルを削除する場合に指定します。ファイルごとには指定できません。

teldial コマンドオプションに誤りがあるオプションを指定した場合，または TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始した場合，-d オプションは，無効になり削除されません。

発信記録を削除する契機については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し-発信の取り消し」を参照してください。

(r) -fav 任意変数ファイル名

通知内容に任意変数名を含んでいる場合，それら任意変数の内容を任意変数ファイル名に記載された任意変数の値と置き換えて発信します。

任意変数，任意変数ファイルについての詳細は 11.2.2(3)(ff)を参照してください。

(s) -nt 通報日時

teldial コマンド受け付け後，従来の通報のようにすぐに通報せず，指定された「通報日時」に通報を開始します。以下の場合は，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

- -nt オプションで指定された「通知日時」が日時として不正な場合
- -nt オプションで指定された「通知日時」が通報コマンド実行日時と比べて過去の日時の場合

発信の取り消し方法については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し」を参照してください。

●yyyy/mm/dd/hh/nn

特定の通知日時を指定するときに指定します。yyyy は年度，mm は月，dd は日付，hh は時間，nn は分を示します。mm，dd，hh，nn，は半角文字 1 文字または半角文字 2 文字で指定します。通知日時は 1970 年 1 月 1 日 9 時 0 分から 2037 年 12 月 31 日 23 時 59 分の範囲で指定します。

例：2009 年 10 月 20 日 10 時 00 分に連絡網グループ 001 の連絡網 1000 を実行する例を示します。

（例） teldial.exe -nt “2009/10/20/10/00” -ni 001/1000

●afterNNN { min | hour | day }

TELstaff サービスが teldial コマンドを受け付けた時点から，NNN 分後・時間後・日後，に通知するとき指定します。after は半角小文字で指定します。min，hour，day，は半角小文字で指定します。NNN は半角数字で指定します。NNN が半角数字でない場合，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

分後・時間後・日後それぞれの，NNN の範囲は以下の通りです。

分後	0～10,080。0 または 10,081 以上の場合はすぐに通知する。
時間後	0～168。0 または 169 以上の場合はすぐに通知する。
日後	0～7。0 または 8 以上の場合はすぐに通知する。

（例 1）-nt after30min ... 30 分後に通知

（例 2）-nt after1hour ... 1 時間後に通知

（例 3）-nt after7days ... 7 日後に通知

(t) -ap { 1 | 2 | 3 | 4 | 5 }

teldial コマンドの優先度を 1 から 5 で指定します。数値が小さいほど優先度が高くなり，優先度オプションを指定しない場合は，優先度は 3 となります。

詳細については，「11.2.10 teldial コマンドの優先度」を参照してください。

(4) 使用例

例 1：

SMS 通知番号（045-xxx-yyyy）に，メッセージ（ショウガイ　ハッセイ）を送信します。発信終了後，この通知内容は問い合わせがなくても削除します。

```
teldial  -b 045-xxx-yyyy   -m "ショウガイ ハッセイ"
```

例 2：

SMS 通知番号（045-xxx-yyyy）に，ファイル（C:¥belmessabe.txt）の内容を送信します。この時，通知 ID（1234）を設定します。

```
teldial  -b 045-xxx-yyyy  -fb C:¥belmessage.txt  -id 1234
```

11.2.4電話への発信

(1) 機能

TELstaff に対して，電話番号を指定して発信の指示をします。「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の「電話繰り返し回数」を指定すると，トリガフォンを使用した電話発信では，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で設定した間隔で確認されるまで発信を繰り返します。

通信モデムを使用した電話発信では，直接発信の繰り返し間隔で設定した間隔で発信を繰り返します。

(2) 形式

```
teldial     { -p 通知先電話番号[:パスワード]
              | -pi 通知先電話番号[:パスワード]
              | -pn ユーザ名
              | -pnN ユーザ名 }
            [ -fv 電話通知文ファイル名 ]
            [ -id 通知ID ]
            [ -u ユーザ付加情報 ]
            [ -to 発信依頼先アドレス[:ポート番号] ]
            [ -h ホスト名 ]
            [ -ev ]
            [ -d ]
            [ -fav  任意変数ファイル名 ]
            [ -nt { yyyy/mm/dd/hh/nn | afterNNN {min | hour | day} } ]
            [ -sl { ja | en | zh } ]
            [ -ap { 1|2|3|4|5 } ]
```

(3) 引数

(a) -p 通知先電話番号[:パスワード]

トリガフォン，モデムを使用する環境で通知先電話番号を直接指定する場合，通知先の電話番号を半角の数字で指定します。番号には，「-」（半角ハイフン）が指定できます。

複数の回線を利用して電話発信ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。

電話番号は，全て同じ形式の番号で指定してください。例えば，市外局番を使用する場合は，全てに市外局番を付加し，割引用番号を使用する場合は，全てに割引用番号を付加してください。

電話番号が同じでも記述形式が異なると同じ電話番号に対して同時発信を行います。

トリガフォンから電話発信でパスワード認証を行うときは，連絡先電話番号にパスワードが必要です。パスワードは「通知先電話番号：パスワード」の形式で指定します。パスワードを指定しない場合は，パスワード認証を行わずに通知メッセージを再生し，再生終了後に電話回線を切断します。パスワードに認証を行わない場合，「2.3.1(2)(d) トリガフォンを使用した電話発信」に示す注意事項があります。

パスワード認証機能がないトリガフォンを使用する場合，パスワードを省略します。

通信モデムを使用している場合は，ダイヤルトーン音で通知します。

（例） -p 045-xxx-yyyy:1234

(b) -pi 通知先電話番号[:パスワード]

指定した電話番号に IP 電話通知を行います。電話番号は，表 5.1-2 に記載の書式で指定します。電話番号に続けて「:」（半角コロン）とパスワードを記すと，そのパスワードでの認証を求める IP 電話通知が行われます。パスワード認証の有無による違いについては表 2.3-11 および表 2.3-12 を参照してください。

この引数は-p，-pn と同時に使用することはできません。

（例）-pi 1000@192.168.0.32:1234

(c) -pn ユーザ名

指定した名前のユーザに電話通知を行います。

ユーザプロパティダイアログボックスで 1 つ以上の電話番号（電話 1 から電話 4）を定義している場合は，電話 1 から使用します。電話 1 を定義していない場合は電話 2 を使用し，電話 2 を定義していない場合は電話 3 を使用し，電話 3 を定義していない場合は電話 4 を使用します。

指定したユーザにパスワードが設定されている場合，トリガフォンからの電話発信または IP 電話発信であればそのパスワードでの認証を求める電話通知が行われます。ただし，「発信と受信時の認証方法ダイアログボックス」（図 4.1-26）でパスワード認証を無効にした場合は，認証は行われません。

（例）-pn User1

(d) -pnN ユーザ名

指定した名前のユーザの「電話 N」として設定された電話番号へと電話通知を行います。ここでの「電話 N」の「N」は，引数 -pnN の「N」の部分で指定した番号です。

ユーザプロパティダイアログボックスで 1 つ以上の電話番号（電話 1 から電話 4）を定義している場合で，電話通知で使用する電話番号（電話 1 から電話 4）を「N」で指定します。電話 1 の番号を使用する場合は「-pn1」，電話 2 の番号を使用する場合は「-pn2」，電話 3 の番号を使用する場合は「-pn3」，電話 4 の番号を使用する場合は「-pn4」で指定します。

トリガフォンから電話発信でパスワード認証を行う場合，ユーザプロパティダイアログボックス定義したパスワードを使用します。パスワード認証機能がないトリガフォンを使用する場合は，パスワードを設定していないユーザ名を指定するか，または発信と受信時の認証方法ダイアログボックス（図 11.2-23）でパスワード認証を無効にします。

（例） -pn2 User1 （ユーザ「User1」の「電話2」に通知）

(e) -fv

電話通知文ファイル名で指定したファイルの内容を，電話に音声通知します。

-fv オプションを省略すると，トリガフォンを接続している場合は，標準の電話通知文ファイルを使用し，トリガフォンを接続していない場合は，通信モデムを使用して電話発信

します。

(f) 電話通知文ファイル名

トリガフォンを使用して電話発信をするとき，ファイル拡張子が「tp」のファイル名をファイル完全名で指定します。ファイルの拡張子が，「tp」以外の場合では，通信モデムを使用します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

IP 電話通知では，日本語以外の言語で使用する通知文ファイルの名前がここで指定したファイル名を元に自動的に決定されます。詳細については表 2.3-9 を参照してください。

（例） -fv C:¥winnt¥sample.tp

(g) -id

このオプションで指定された内容は，通知するメッセージテキスト中の「 ~id2~ 変数」と置き換えられます。また，通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，特定の teldial コマンドだけを発信制限したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。このオプションを省略すると，「~id2~変数」は「0000」が置き換えられます。通知 ID（~id2~ 変数）は，4 桁の番号で発信要因を伝えるときに使用します。発信要因は，あらかじめ決めておく必要があります。

(h) 通知ID

通知 ID を，4 桁の半角数字で指定します。

(i) -u

ユーザ付加情報を通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~変数と置き換えます。

(j) ユーザ付加情報

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（すべて全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。

ユーザ付加情報に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション）や文字として認識できないコードを含めることはできません。-u オプションのユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，「¥」（エスケープ文字）を使用します。

（例）-u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「;」（半角セミコロン）で区切ると，複数行に分割できます。ユーザ

付加情報中の「;」（半角セミコロン）は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例）-u ″ユーザ付加情報 1行目;ユーザ付加情報 2行目″

なお，日本語ではない言語で IP 電話通知を行う場合，半角英数字（ASCII 文字）だけを含んだ値を指定してください。

(k) -to

この teldial コマンドの発信は，AEPE または AESE に発信依頼を行います。

発信依頼には，「2.3.1(1)(h)発信依頼」に示す注意事項があります。

(l) 発信依頼先アドレス［：ポート番号］

発信を依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

(m) -h

ホスト名を通知するメッセージテキスト中の~node~，~node1~，~node2~変数と置き換えます。-ih, -ip オプションと同時には指定できません。

(n) ホスト名

~node~，~node1~，~node2~に置き換えるホスト名を半角英数字文字の 50 文字以内で指定します。50 文字以上のホスト名を指定すると teldial コマンドは，エラー終了となります。ホスト名に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。

ホスト名の代わりに任意の文字列を指定できますが，任意の文字列を指定する場合は，50 桁以内（全角文字の場合，25 文字）で指定します。文字列に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

(o) -ev

通知内容に環境変数名を含んでいる場合，それら環境変数の内容を teldial.exe 実行時の環境変数の内容と置き換えて発信します。

システム環境変数を通知内容に使用する方法については，「12.1.2 環境変数」を参照してください。

(p) -d

通知終了後発信記録を削除するとき-fv，-uf オプションで指定したファイルを削除する場合に指定します。ファイルごとには指定できません。

teldial コマンドオプションに誤りがあるオプションを指定した場合，または TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始した場合，-d オプションは，無効になり削除されません。

発信記録を削除する契機については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し-発信の取り消し」を参照してください。

(q) -fav 任意変数ファイル名

通知内容に任意変数名を含んでいる場合，それら任意変数の内容を任意変数ファイル名に記載された任意変数の値と置き換えて発信します。

任意変数，任意変数ファイルについての詳細は 11.2.2(3)(ff)を参照してください。

(r) -sl { ja | en | zh }

IP 電話発信にて，どの言語で通知メッセージの音声読み上げを行うかを言語コードで指定します。なお通知先がユーザであり，かつ本引数で言語を指定した場合，通知先ユーザの「言語」プロパティよりも本引数の指定が優先されます。

使用する音声合成ソフトウェアごとに使用可能な言語は異なります。各音声合成ソフトウェアで使用可能な言語の言語コード，および通知文ファイルで使用すべき文字コードについては表 1.4-10 を参照してください。なお同表に無い言語コードを指定した場合，日本語での通知を行います。

(s) -nt 通報日時

teldial コマンド受け付け後，即座には通知を開始せず「通報日時」で指定したタイミングで通報を開始します。

以下の場合は，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

- -nt オプションで指定された「通知日時」が日時として不正な場合
- -nt オプションで指定された「通知日時」が通報コマンド実行日時と比べて過去の日時の場合

発信の取り消し方法については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し」を参照してください。

●yyyy/mm/dd/hh/nn

特定の通知日時を指定するときに指定します。yyyy は年度，mm は月，dd は日付，hh は時間，nn は分を示します。mm，dd，hh，nn，は半角文字 1 文字または半角文字 2 文字で指定します。

例：2009 年 10 月 20 日 10 時 00 分に連絡網グループ 001 の連絡網 1000 を実行する例を示します。通知日時は 1970 年 1 月 1 日 9 時 0 分から 2037 年 12 月 31 日 23 時 59 分の範囲で指定します。

（例） teldial.exe -nt “2009/10/20/10/00” -ni 001/1000

● afterNNN { min | hour | day }

TELstaff サービスが teldial コマンドを受け付けた時点から，NNN 分後・時間後・日後，に通知するとき指定します。after は半角小文字で指定します。min，hour，day，は半角小文字で指定します。NNN は半角数字で指定します。NNN が半角数字でない場合，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

分後・時間後・日後それぞれの，NNN の範囲は以下の通りです。

分後	0～10,080。0 または 10,081 以上の場合はすぐに通知する。
時間後	0～168。0 または 169 以上の場合はすぐに通知する。
日後	0～7。0 または 8 以上の場合はすぐに通知する。

（例 1）-nt after30min ... 30 分後に通知

（例 2）-nt after1hour ... 1 時間後に通知

（例 3）-nt after7days ... 7 日後に通知

(t) -ap { 1 | 2 | 3 | 4 | 5 }

teldial コマンドの優先度を 1 から 5 で指定します。数値が小さいほど優先度が高くなり，優先度オプションを指定しない場合は，優先度は 3 となります。

詳細については，11.2.10 teldial コマンドの優先度を参照してください。

(4) 使用例

例：

電話番号（045-xxx-yyyy）で指定した電話に，ファイル（C:¥telmessage.tp）の内容を送信します。

```
teldial  -p 045-xxx-yyyy:1234  -fv C:¥telmessage.tp
```

11.2.5 メールへの発信

(1) 機能

TELstaff に対して，メールアドレスを指定して発信の指示をします。メールへの発信を行う場合は，環境設定の「E メール」タブに SMTP サーバ名などのメールサーバ環境を設定しておかなければなりません。

TELstaff からダイヤルアップ（公衆回線経由）でメール発信をする場合は，ダイヤルアップネットワーク接続でインターネット接続事業者（プロバイダ）の SMTP メールサーバを使用します。

ダイヤルアップネットワーク接続は，ダイヤルアップ接続設定ダイアログボックスでダイヤルアップ接続方法を設定しておきます。

「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の「メール繰り返し回数」を指定すると，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で設定した間隔で発信できるまで繰り返します。

(2) 形式

```
teldial    { -e メールアドレス | {-en ユーザ名 | -enN ユーザ名} }
           -fm メール通知文ファイル名
           [ -fa 添付ファイル名 ]
           [ -mdn on [-mde 返信アドレス] ]
           [ -id 通知ID ]
           [ {-u ユーザ付加情報 | -uf ユーザ付加情報ファイル名} ]
           [ -to 発信依頼先アドレス[:ポート番号] ]
           [ -h ホスト名 ]
           [ -ev ]
           [ -d ]
           [ -pri メール重要度 ]
           [ -fav 任意変数ファイル名 ]
           [ -nt { yyyy/mm/dd/hh/nn | afterNNN {min | hour | day} } ]
           [ -ap { 1|2|3|4|5 } ]
```

(3) 引数

(a) -e メールアドレス

通知先のメールアドレスを指定します。宛先を複数指定する場合は，アドレスを半角「，」カンマ区切りで，全体を「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。宛先の合計文字数は半角 512 文字以内（カンマを含みます）で指定してください。

```
（例）  -e telstaff@telstaff.jp
        -e "telstaff@telstaff.jp, tels-faq@hitachisoft.jp"
```

(b) -en ユーザ名

メール通知するユーザ名を指定します。メールアドレスは，ユーザプロパティダイアログボックスー「メール」タブ（図 5.1-11）で指定しておきます。

ユーザプロパティダイアログボックスで 1 つ以上の宛先（メールアドレス 1 からメールアドレス 3）を定義している場合は，全ての宛先にメール通知します。

ユーザ名に使用できない文字や文字数の上限については「5.1.10(1)(a) 「ユーザ名」メッセージボックス」を参照してください。

（例） -en User1

(c) -enN ユーザ名

メール通知するユーザ名を指定します。メールアドレスは，ユーザプロパティダイアログボックスー「メール」タブ（図 5.1-11）で指定しておきます。

ユーザプロパティダイアログボックスで 1 つ以上の宛先（メールアドレス 1 からメールアドレス 3）を定義している場合で，メール通知で使用する宛先を「N」で指定します。メールアドレス 1 の宛先を使用する場合は「-en1」，メールアドレス 2 の宛先を使用する場合は「-en2」，メールアドレス 3 の宛先を使用する場合は「-en3」で指定します。

ユーザ名に使用できない文字や文字数の上限については「5.1.10(1)(a) 「ユーザ名」メッセージボックス」を参照してください。

（例） -en2 User1

(d) -fm

メールで，メール通知文ファイル名で指定したファイルの内容を送信します。メール通知文ファイルは，「2.6.1(1) 連絡網発信用標準通知文」に示す注意事項があります。

(e) メール通知文ファイル名

メールに送信するメッセージテキストを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例） -fm C:¥sample.txt

(f) -fa

メールで，添付ファイルを付けて送信します。ファイルサイズの大きい添付ファイルを指定すると，送信に時間がかかります。極力ファイルサイズの小さい添付ファイルの使用を推奨します。

(g) 添付ファイル名

添付ファイルを格納したファイル名を，520 桁以内のファイル完全名で指定します。

（例） -fa C:¥sample.gif
-fa C:¥sample1.gif+C:¥sample2.gif

(h) -mdn on

メール開封確認を行うメール発信を行う場合，指定します。このオプションを指定する場合は，-mde オプションの指定が必要です。

(i) -mde

メール開封確認をメールの返信で開封確認する場合，開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスを指定します。このメールアドレスは，メール開封確認を行うメール発信の返信先アドレス（From）に使用します。

(j) 受信メールアドレス

環境設定－「メール開封確認」タブで設定した受信メールアドレスの中から使用する受信メールアドレスを指定します。

(k) -id

このオプションで指定した内容は，通知するメッセージテキスト中の「 ~id2~ 変数」と置き換えられます。また，通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，特定の teldial コマンドだけを発信制限したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。このオプションを省略すると，~id2~ 変数は「0000」に置き換えられます。通知 ID（~id2~ 変数）は，4 桁の番号で発信要因を伝えるときに使用します。発信要因は，あらかじめ決めておく必要があります。

(l) 通知ID

通知 ID を，4 桁の半角数字で指定します。

(m) -u

ユーザ付加情報を通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えます。-uf オプションと同時には指定できません。

(n) ユーザ付加情報

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（全て全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，-uf オプションを使用してください。

ユーザ付加情報に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション）や文字として認識できないコードを含めることはできません。-u オプションのユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

（例） -u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「；」（セミコロン）で区切ると，複数行に分割できます。ユーザ付加情報中の「；」（セミコロン）は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例） -u "ユーザ付加情報 1行目；ユーザ付加情報 2行目"

(o) -uf

このオプションで指定したファイルの内容が，通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えられます。-u オプションと同時には指定できません。また，-uf オプションを指定する場合，メールの件名に~UserInformation~ 変数は，使用できません。

(p) ユーザ付加情報ファイル名

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を，ファイル完全名で指定します。ユーザ付加情報ファイルは，1 行当たり 511 文字（全て全角文字の場合，255 文字）以下で作成してください。

(q) -to

この teldial コマンドの発信は，AEPE または AESE に発信依頼を行います。

発信依頼には，「2.3.1(1)(h) 発信依頼」に示す注意事項があります。

(r) 発信依頼先アドレス［：ポート番号］

発信を依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

(s) -h

ホスト名を通知するメッセージテキスト中の~node~，~node1~，~node2~変数と置き換えます。-ih, -ip オプションと同時には指定できません。

(t) ホスト名

~node~，~node1~，~node2~に置き換えるホスト名を半角英数字文字の 50 文字以内で指定します。50 文字以上のホスト名を指定すると teldial コマンドは，エラー終了となります。ホスト名に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。

ホスト名の代わりに任意の文字列を指定できますが，任意の文字列を指定する場合は，50 桁以内（全角文字の場合，25 文字）で指定します。文字列に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

(u) -ev

通知内容に環境変数名を含んでいる場合，それら環境変数の内容を teldial.exe 実行時の環境変数の内容と置き換えて発信します。

システム環境変数を通知内容に使用する方法については，「12.1.2 環境変数」を参照し

てください。

(v) -d

通知終了後発信記録を削除するとき-fm オプション，-fa，-uf オプションで指定したファイルを削除する場合に指定します。ファイルごとには指定できません。

teldial コマンドオプションに誤りがあるオプションを指定した場合，または TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始した場合，-d オプションは，無効になり削除されません。

発信記録を削除する契機については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し-発信の取り消し」を参照してください。

(w) -pri メール重要度

このオプションの意味は連絡網への発信時と同様です。詳細は 11.2.2(3)(m)を参照してください。

(x) -fav 任意変数ファイル名

通知内容に任意変数名を含んでいる場合，それら任意変数の内容を任意変数ファイル名に記載された任意変数の値と置き換えて発信します。

任意変数，任意変数ファイルについての詳細は 11.2.2(3)(ff)を参照してください。

(y) -nt 通報日時

teldial コマンド受け付け後，従来の通報のようにすぐに通報せず，指定された「通報日時」に通報を開始します。以下の場合は，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

- -nt オプションで指定された「通知日時」が日時として不正な場合
- -nt オプションで指定された「通知日時」が通報コマンド実行日時と比べて過去の日時の場合

発信の取り消し方法については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し」を参照してください。

●yyyy/mm/dd/hh/nn

特定の通知日時を指定するときに指定します。yyyy は年度，mm は月，dd は日付，hh は時間，nn は分を示します。mm，dd，hh，nn，は半角文字 1 文字または半角文字 2 文字で指定します。

例：2009 年 10 月 20 日 10 時 00 分に連絡網グループ 001 の連絡網 1000 を実行する例を示します。通知日時は 1970 年 1 月 1 日 9 時 0 分から 2037 年 12 月 31 日 23 時 59 分の範囲で指定します。

（例） teldial.exe -nt "2009/10/20/10/00" -ni 001/1000

● afterNNN { min | hour | day }

TELstaff サービスが teldial コマンドを受け付けた時点から，NNN 分後・時間後・日後，に通知するとき指定します。after は半角小文字で指定します。min，hour，day，は半角小文字で指定します。NNN は半角数字で指定します。NNN が半角数字でない場合，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

分後・時間後・日後それぞれの，NNN の範囲は以下の通りです。

分後	0～10,080。0 または 10,081 以上の場合はすぐに通知する。
時間後	0～168。0 または 169 以上の場合はすぐに通知する。
日後	0～7。0 または 8 以上の場合はすぐに通知する。

（例 1）-nt after30min ... 30 分後に通知

（例 2）-nt after1hour ... 1 時間後に通知

（例 3）-nt after7days ... 7 日後に通知

(z) -ap { 1 | 2 | 3 | 4 | 5 }

teldial コマンドの優先度を 1 から 5 で指定します。数値が小さいほど優先度が高くなり，優先度オプションを指定しない場合は，優先度は 3 となります。

詳細については，11.2.10 を参照してください。

(4) 使用例

例 1：

メールアドレス（user1@abcdefg.co.jp）で指定した宛先に，ファイル（C:¥¥mail01.txt）の内容を送信します。

```
teldial  -e user1@abcdefg.co.jp  -fm C:¥mail01.txt
```

例 2：

メールアドレス（user2@abcdefg.co.jp）で指定した宛先に，ファイル（C:¥ mail02.txt）の内容を送信します。このとき，通知 ID（9876）を設定します。

```
teldial  -e user2@abcdefg.co.jp  -fm C:¥ mail02.txt  -id 9876
```

11.2.6 エージェントへの発信

(1) 機能

TELstaff に対して，AECL（または AEPE，AESE）アドレスを指定して発信の指示をします。

「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の「エージェント繰り返し回数」を指定すると，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で設定した間隔で発信できるまで繰り返します。

(2) 形式

```
teldial     { -c { NET:{IPアドレス|ホスト名}[:ポート番号] |
                   AECL回線番号 }
              | -cn ユーザ名 }
            -fc エージェント送信ファイル名 [-fa 添付ファイル名]
            [ -id 通知ID ]
            [ {-u ユーザ付加情報 | -uf ユーザ付加情報ファイル名 } ]
            [ -to 発信依頼先アドレス[:ポート番号] ]
            [ -h ホスト名 ]
            [ -ev ]
            [ -d ]
            [ -fav 任意変数ファイル名 ]
            [ -nt { yyyy/mm/dd/hh/nn | afterNNN { min | hour | day }} ]
            [ -ap {1|2|3|4|5} ]
```

(3) 引数

(a) -c

AECL 回線番号，IP アドレス，またはホスト名で指定した AECL（または AEPE，AESE）に，メッセージを送信します。

(b) NET:{IPアドレス|ホスト名}[:ポート番号]

ネットワーク内の PC の AECL（または AEPE，AESE）にメッセージを送信する場合に，「NET:」に続けて，IP アドレスまたはホスト名を指定します。IP アドレス，またはホスト名を複数指定する時は「+」区切りで指定します。

メッセージエージェント構成の設定でポート番号を指定している場合，ポート番号を省略できます。ポート番号を省略するときは，services ファイルに次の内容を定義します。

```
telstaffagent ポート番号/tcp
```

（例） -c NET:100.100.100.100:35000
-c NET:host1:35000
-c NET:100.100.100.100+100.100.100.200

(c) AECL回線番号

電話回線で接続されている PC の AECL（または AEPE, AESE）にメッセージを送信する場合に，電話番号を半角数字で指定します。AECL 番号には，半角の「－」（ハイフン）が指定できます。

複数の回線を利用してエージェント発信ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。

エージェント番号は，全て同じ形式の番号で指定してください。例えば，市外局番を使用する場合は，全てに市外局番を付加し，割引用番号を使用する場合は，全てに割引用番号を付加してください。

エージェント番号が同じでも記述形式が異なると同じエージェント番号に対して同時発信を行います。

（例） -c 045-xxx-yyyy

(d) -cn ユーザ名

エージェントメッセージ送信するユーザ名を指定します。エージェントアドレスは，ユーザプロパティダイアログボックスー「他の連絡先」タブ（図 5.1-12）で指定しておきます。

ユーザプロパティダイアログボックスでエージェントアドレスをネットワークアドレスと回線番号の両方を設定している場合は，最初に回線番号に通知し，次にネットワークアドレスの順番で両方に通知します。両方に通知できない場合は，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」のエージェント繰り返し回数に設定された回数の再通知行い，どちらかの AECL（または AEPE, AESE）が受信できたとき，通知を終了します。

ユーザ名に使用できない文字や文字数の上限については「5.1.10(1)(a) 「ユーザ名」メッセージボックス」を参照してください。

（例） -cn User1

(e) -fa

エージェントメッセージに添付ファイルを付けて送信します。ファイルサイズの大きい添付ファイルを指定すると，送信に時間がかかります。極力ファイルサイズの小さい添付ファイルの使用を推奨します。

エージェントメッセージに添付ファイルを付けて送信場合，エージェントメッセージを受信する AECL（または AEPE, AESE）のメッセージエージェント構成の設定ー「添付ファイル」タブで添付ファイルの保存場所を設定しておきます。

受信した添付ファイルは，メッセージビューアツールでは閲覧できません。

(f) 添付ファイル名

添付ファイルを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例） -fa C:¥sample.gif
-fa C:¥sample1.gif+C:¥sample2.gif

(g) -fc

AECL（または AEPE，AESE）に，エージェント送信ファイル名で指定したファイルの内容を送信します。

(h) エージェント送信ファイル名

AECL（または AEPE，AESE）に送信するメッセージテキストを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例） -fc C:¥sample.txt

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

(i) -id

このオプションで指定した内容は，通知するメッセージテキスト中の「 ~id2~ 変数」と置き換えられます。また，通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，特定の teldial コマンドだけを発信制限したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。このオプションを省略すると，~id2~ 変数は「0000」に置き換えられます。通知 ID（~id2~ 変数）は，4 桁の番号で発信要因を伝えるときに使用します。発信要因は，あらかじめ決めておく必要があります。

(j) 通知ID

通知 ID を，4 桁の半角数字で指定します。

(k) -u

ユーザ付加情報を通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えます。-uf オプションと同時には指定できません。

(l) ユーザ付加情報

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（全て全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，-uf オプションを使用してください。

ユーザ付加情報に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション）や文字として認識できないコードを含めることはできません。-u オプションのユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

（例） -u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「；」（セミコロン）で区切ると，複数行に分割できます。ユーザ付加情報中の「；」（セミコロン）は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例） -u "ユーザ付加情報 1行目；ユーザ付加情報 2行目"

(m) -uf

このオプションで指定したファイルの内容が，通知するメッセージテキスト中の ~UserInformation~ 変数と置き換えられます。-u オプションと同時には指定できません。

(n) ユーザ付加情報ファイル名

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を，ファイル完全名で指定します。ユーザ付加情報ファイルは，1 行当たり 511 文字（全て全角文字の場合，255 文字）以下で作成してください。

(o) -to

この teldial コマンドの発信は，AEPE または AESE に発信依頼を行います。

(p) 発信依頼先アドレス［：ポート番号］

発信を依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

(q) -h

ホスト名を通知するメッセージテキスト中の~node~，~node1~，~node2~変数と置き換えます。-ih, -ip オプションと同時には指定できません。

(r) ホスト名

~node~，~node1~，~node2~に置き換えるホスト名を半角英数字文字の 50 文字以内で指定します。50 文字以上のホスト名を指定すると teldial コマンドは，エラー終了となります。ホスト名に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。

ホスト名の代わりに任意の文字列を指定できますが，任意の文字列を指定する場合は，50 桁以内（全角文字の場合，25 文字）で指定します。文字列に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

(s) -ev

通知内容に環境変数名を含んでいる場合，それら環境変数の内容を teldial.exe 実行時の環境変数の内容と置き換えて発信します。

システム環境変数を通知内容に使用する方法については，「12.1.2 環境変数」を参照してください。

(t) -d

通知終了後発信記録を削除するとき-fc，-uf オプションで指定したファイルを削除する場合に指定します。ファイルごとには指定できません。

teldial コマンドオプションに誤りがあるオプションを指定した場合，または TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始した場合，-d オプションは，無効になり削除されません。

発信記録を削除する契機については，2.3.1(1)(d)を参照してください。

(u) -fav 任意変数ファイル名

通知内容に任意変数名を含んでいる場合，それら任意変数の内容を任意変数ファイル名に記載された任意変数の値と置き換えて発信します。

任意変数，任意変数ファイルについての詳細は 11.2.2(3)(ff)を参照してください。

(v) -nt 通報日時

teldial コマンド受け付け後，従来の通報のようにすぐに通報せず，指定された「通報日時」に通報を開始します。以下の場合は，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

- -nt オプションで指定された「通知日時」が日時として不正な場合
- -nt オプションで指定された「通知日時」が通報コマンド実行日時と比べて過去の日時の場合

発信の取り消し方法については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し」を参照してください。

●yyyy/mm/dd/hh/nn

特定の通知日時を指定するときに指定します。yyyy は年度，mm は月，dd は日付，hh は時間，nn は分を示します。mm，dd，hh，nn，は半角文字 1 文字または半角文字 2 文字で指定します。

例：2009 年 10 月 20 日 10 時 00 分に連絡網グループ 001 の連絡網 1000 を実行する例を示します。通知日時は 1970 年 1 月 1 日 9 時 0 分から 2037 年 12 月 31 日 23 時 59 分の範囲で指定します。

（例） teldial.exe -nt “2009/10/20/10/00” -ni 001/1000

●afterNNN { min | hour | day }

TELstaff サービスが teldial コマンドを受け付けた時点から，NNN 分後・時間後・日後，に通知するとき指定します。after は半角小文字で指定します。min，hour，day，は半角小文字で指定します。NNN は半角数字で指定します。NNN が半角数字でない場合，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

分後・時間後・日後それぞれの，NNN の範囲は以下の通りです。

分後	0～10,080。0 または 10,081 以上の場合はすぐに通知する。
時間後	0～168。0 または 169 以上の場合はすぐに通知する。
日後	0～7。0 または 8 以上の場合はすぐに通知する。

（例 1）-nt after30min ... 30 分後に通知

（例 2）-nt after1hour ... 1 時間後に通知

（例 3）-nt after7days ... 7 日後に通知

(w) -ap { 1 | 2 | 3 | 4 | 5 }

teldial コマンドの優先度を 1 から 5 で指定します。数値が小さいほど優先度が高くなり，優先度オプションを指定しない場合は，優先度は 3 となります。

詳細については，「11.2.10 teldial コマンドの優先度」を参照してください。

(4) 使用例

例 1：

IP アドレス（123.456.789.1）で指定したネットワーク内の AECL に，ファイル（C:¥ mscatch1）の内容を送信します。

```
teldial  -c NET:123.456.789.1  -fc C:¥ mscatch1.txt
```

例 2：

AECL 番号（045-xxx-yyyy）で指定した AECL に，ファイル（C:¥ mscatch2）の内容を送信します。

```
teldial  -c 045-xxx-yyyy  -fc C:¥ mscatch2.txt
```

例 3：

ホスト名（HOST01），ポート番号（35000）で指定したネットワーク内の AECL に，ファイル（C:¥ mscatch3txt）の内容を送信します。

```
teldial  -c NET:HOST01:35000  -fc C:¥ mscatch3txt
```

11.2.7FAXへの発信

(1) 機能

TELstaff に対して，FAX 番号を指定して発信の指示をします。「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の「FAX 繰り返し回数」を指定すると，「繰り返し回数の設定ダイアログボックス」の直接発信の繰り返し間隔で設定した間隔で発信できるまで繰り返します。

(2) 形式

```
teldial     { -f FAX番号 | -fn ユーザ名 }
            -ff FAX通知文ファイル名
            [ -id 通知ID ]
            [ -u ユーザ付加情報 ]
            [ -to 発信依頼先アドレス[:ポート番号]]
            [ -h ホスト名 ]
            [ -ev ]
            [ -d ]
            [ -fav 任意変数ファイル名 ]
            [ -nt { yyyy/mm/dd/hh/nn | afterNNN {min | hour | day}} ]
            [ -ap {1|2|3|4|5} ]
```

(3) 引数

(a) -f FAX番号

発信通知を FAX で受けるときの FAX 番号を，半角数字で指定します。FAX 番号には半角文字の「－」（ハイフン）が指定できます。

複数の回線を利用して FAX 発信ができる環境では，同時に同じ番号に対して発信を行う場合，どちらか一方の発信はもう一方の発信が終了するまで待ち状態になります。

FAX 番号は，全て同じ形式の番号で指定してください。例えば，市外局番を使用する場合は，全てに市外局番を付加し，割引用番号を使用する場合は，全てに割引用番号を付加してください。

FAX 番号が同じでも記述形式が異なると同じ FAX 番号に対して同時発信を行います。

(b) -fn ユーザ名

FAX 通知するユーザ名を指定します。FAX 番号は，ユーザプロパティダイアログボックスー「他の連絡先」タブ（図 5.1-12）で指定しておきます。

ユーザ名に使用できない文字や文字数の上限については「5.1.10(1)(a) 「ユーザ名」メッセージボックス」を参照してください。

（例） -fn User1

(c) -ff

FAX に，FAX 通知文ファイル名で指定したファイルの内容を送信します。

(d) FAX通知文ファイル名

FAX に送信するメッセージテキストを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例） -ff C:¥winnt¥sample.txt

(e) -id

このオプションで指定した内容は，FAX に通知するメッセージテキスト中の「~id2~ 変数」と置き換えられます。また，通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，特定の teldial コマンドだけを発信制限したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。このオプションを省略すると，~id2~ 変数は「0000」に置き換えられます。通知 ID（~id2~ 変数）は，4 桁の番号で発信要因を伝えるときに使用します。発信要因は，あらかじめ決めておく必要があります。

(f) 通知ID

通知 ID を，4 桁の半角数字で指定します。

(g) -u

ユーザ付加情報を通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えます。-uf オプションと同時には指定できません。

(h) ユーザ付加情報

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（全て全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，-uf オプションを使用してください。

ユーザ付加情報に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション）や文字として認識できないコードを含めることはできません。-u オプションのユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

（例）-u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「；」（セミコロン）で区切ると，複数行に分割できます。ユーザ付加情報中の「；」（セミコロン）は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例） -u "ユーザ付加情報 1 行目；ユーザ付加情報 2 行目"

(i) -to

この teldial コマンドの発信は，AEPE または AESE に発信依頼を行います。

(j) 発信依頼先アドレス［：ポート番号］

発信を依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。

依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，

「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

(k) -h

ホスト名を通知するメッセージテキスト中の~node~，~node1~，~node2~変数と置き換えます。-ih,-ip オプションと同時には指定できません。

(l) ホスト名

~node~，~node1~，~node2~に置き換えるホスト名を半角英数字文字の 50 文字以内で指定します。50 文字以上のホスト名を指定すると teldial コマンドは，エラー終了となります。ホスト名に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。

ホスト名の代わりに任意の文字列を指定できますが，任意の文字列を指定する場合は，50 桁以内（全角文字の場合，25 文字）で指定します。文字列に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

(m) -ev

通知内容に環境変数名を含んでいる場合，それら環境変数の内容を teldial.exe 実行時の環境変数の内容と置き換えて発信します。

システム環境変数を通知内容に使用する方法については，「12.1.2 環境変数」を参照してください。

(n) -d

通知終了後発信記録を削除するとき-ff，-uf オプションで指定したファイルを削除する場合に指定します。ファイルごとには指定できません。

teldial コマンドオプションに誤りがあるオプションを指定した場合，または TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始した場合，-d オプションは，無効になり削除されません。

発信記録を削除する契機については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し-発信の取り消し」を参照してください。

(o) -fav 任意変数ファイル名

通知内容に任意変数名を含んでいる場合，それら任意変数の内容を任意変数ファイル名に記載された任意変数の値と置き換えて発信します。

任意変数，任意変数ファイルについての詳細は 11.2.2(3)(ff)を参照してください。

(p) -nt 通報日時

teldial コマンド受け付け後，従来の通報のようにすぐに通報せず，指定された「通報日時」に通報を開始します。以下の場合は，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

- -nt オプションで指定された「通知日時」が日時として不正な場合
- -nt オプションで指定された「通知日時」が通報コマンド実行日時と比べて過去の日時の場合

発信の取り消し方法については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し」を参照してください。

●yyyy/mm/dd/hh/nn

特定の通知日時を指定するときに指定します。yyyy は年度，mm は月，dd は日付，hh は時間，nn は分を示します。mm，dd，hh，nn，は半角文字 1 文字または半角文字 2 文字で指定します。

例：2009 年 10 月 20 日 10 時 00 分に連絡網グループ 001 の連絡網 1000 を実行する例を示します。通知日時は 1970 年 1 月 1 日 9 時 0 分から 2037 年 12 月 31 日 23 時 59 分の範囲で指定します。

（例） teldial.exe -nt “2009/10/20/10/00” -ni 001/1000

●afterNNN { min | hour | day }

TELstaff サービスが teldial コマンドを受け付けた時点から，NNN 分後・時間後・日後，に通知するとき指定します。after は半角小文字で指定します。min，hour，day，は半角小文字で指定します。NNN は半角数字で指定します。NNN が半角数字でない場合，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

分後・時間後・日後それぞれの，NNN の範囲は以下の通りです。

分後	0～10,080。0 または 10,081 以上の場合はすぐに通知する。
時間後	0～168。0 または 169 以上の場合はすぐに通知する。
日後	0～7。0 または 8 以上の場合はすぐに通知する。

（例 1）-nt after30min ... 30 分後に通知

（例 2）-nt after1hour ... 1 時間後に通知

（例 3）-nt after7days ... 7 日後に通知

(q) -ap { 1 | 2 | 3 | 4 | 5 }

teldial コマンドの優先度を 1 から 5 で指定します。数値が小さいほど優先度が高くなり，優先度オプションを指定しない場合は，優先度は 3 となります。

詳細については，11.2.10 teldial コマンドの優先度を参照してください。

(4) 使用例

例 1：

FAX 番号（045-xxx-yyyy）で指定した FAX に，ファイル（C: ¥faxmessage.txt）の内容を送信します。

```
teldial  -f 045-xxx-yyyy  -ff C:¥faxmessage.txt
```

11.2.8一括発信

(1) 機能

TELstaff に対して，一度に複数の連絡網発信と直接発信を指示します。一括発信は，あらかじめ一括発信する一括発信ファイルを作成しておき teldial コマンドの-nif オプションに指定して発信を行います。一括発信ファイルに指定した発信先への発信では，teldial コマンドの他のオプション（発信で有効になるオプション）を引き継いで発信します。一括発信ファイルについての詳細は 2.6.4 を参照してください。

(2) 形式

```
teldial     [ { -fb SMS通知ファイル名
                | -m SMS通知メッセージ [-w] } ]
            [ -fc  エージェント送信ファイル名
              [ -fa 添付ファイル名 ] ]
            [ -fdp  デスクトップメッセージ通知ファイル名 ]
            [ -fdt  デスクトップテキスト読み上げ通知ファイル名 ]
            [ -fdw  デスクトップWAV通知ファイル名 ]
            [ -ff  FAX通知文ファイル名 ]
            [ { -fi  マルチメディアファイル名 | -i マルチメディア名 } ]
            [ -fm メール通知文ファイル名
              [ -fa 添付ファイル名 ]
              [ -pri {1|2|3|4|5} ] ]
            [ { -fs1 表示ボード通知メッセージファイル名
                | -s1 表示ボード通知メッセージ } ]
            [ -fv 電話通知文ファイル名 ]
            [ -mdn {on|off} ]
            [ -mde 受信メールアドレス ]
            [ -to 発信依頼先アドレス[:ポート番号] ]
            [ { -u ユーザ付加情報 | -uf ユーザ付加情報ファイル名 } ]
            [ -nosch ]
            [ -h  ホスト名 ]
            [ -id 通知ID ]
            [ -np 1 ]
            [ -ev ]
            [ -d ]
            [ -k ]
            [ -nif 一括発信ファイル名
              [ -nik フィルタリング文字列 ]
              [ -nfd ] ]
            [ -sl {ja | en | zh} ]
            [ -ap {1|2|3|4|5} ]
```

(3) 引数

(a) -fa

エージェントメッセージおよびメールに付ける添付ファイルを 520 桁以内指定します。

ファイルサイズの大きい添付ファイルを指定すると，送信に時間がかかります。極力ファイルサイズの小さい添付ファイルの使用を推奨します。

エージェントメッセージに添付ファイルを付けて送信場合，エージェントメッセージを受信する AECL（または AEPE, AESE）のメッセージエージェント構成の設定ー「添付ファイル」タブで添付ファイルの保存場所を設定しておきます。受信した添付ファイルは，メッセージビューアツールでは閲覧できません。

(b) 添付ファイル名

添付ファイルを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例） -fa C:¥sample.gif
-fa C:¥sample1.gif+C:¥sample2.gif

(c) -fb

SMS 通知で使用するメッセージを格納したファイルの名前を指定します。使用できるメッセージの長さは，SMS の設定ダイアログボックスで設定した長さです。

メッセージの文字数が最大文字数を超えた場合，最大文字数で分割して送信します。

メッセージの表示形式は，「連絡網 ID を通知しない」オプション，通知 ID 指定の有無，連絡網 ID 指定の有無で異なります。詳細は，「2.3.1(3) SMS 通知」を参照してください。

SMS 通知は，メッセージファイルの拡張子が txt，または tp の場合は文字形式で，ファイル拡張子が bel の場合はコード形式で送信されます。ファイル拡張子が txt，bel および tp 以外のメッセージファイルは，指定できません。なお変数はファイル拡張子が txt の場合のみ使用できます。

-fb，-m オプションを省略した場合，連絡網プロパティー「発信内容」タブで指定された SMS 通知メッセージを送信します。

メッセージについて，注意事項があります。詳細は，「2.3.1(3) SMS 通知」を参照してください。

(d) SMS通知ファイル名

SMS 通知メッセージを格納したテキストファイルの名前を，ファイル完全名で指定します。

（例） -fb C:¥winnt¥sample.txt

(e) -m

SMS 通知メッセージを，英数字，カナ，または漢字文字で指定します。-ｗオプションを指定すると半角数字と＊でコードを直接定義できます。使用できるメッセージの長さは，SMS の設定ダイアログボックスで設定した長さです。メッセージの文字数が最大文字数を超えた場合，最大文字数で分割して送信します。

メッセージの表示形式は，「連絡網 ID を通知しない」オプション，通知 ID 指定の有無，連絡網 ID 指定の有無で異なります。詳細は，「2.3.1(3) SMS 通知」を参照してください。

メッセージについて，注意事項があります。詳細は，「2.3.1(3) SMS 通知」を参照してください。コードは，各社の説明書を参照してください。

(f) SMS通知メッセージ

SMS 通知メッセージサービス通知するメッセージを，英数字，カナ，漢字文字，または

コードで指定します。使用できない文字は，空白文字を送信します。メッセージに空白文字を使用する場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。

メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。メッセージについて，注意事項があります。詳細は，「2.3.1(3) SMS 通知」を参照してください。

（例） -m コノヨウニシテイシマス
-m "クウハク ガアルバアイ"

(g) -w

-m オプションで指定する SMS 通知メッセージに，コード形式で直接指定する場合に指定します。文字形式で指定する場合には，省略します。

(h) -fc

AECL（または AEPE，AESE）に，エージェント送信ファイル名で指定したファイルの内容を送信します。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。標準通知文の内容とカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。このオプションを省略すると連絡網プロパティー「発信内容」タブのエージェント送信ファイルで指定した通知ファイルが使用されます。連絡網プロパティー「発信内容」タブのエージェント送信ファイル指定を省略すると，標準提供の通知文ファイルを使用します。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

(i) エージェント送信ファイル名

AEPE, AESE または AECL に送信するメッセージテキストを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例） -fc C:¥winnt¥sample.txt

(j) -fdp

TELstaff 製品がインストールされているパソコンのデスクトップに，デスクトップメッセージ通知ファイル名で指定したメッセージを通知します。

-fdp オプションを省略するとデスクトップ通知のプロパティダイアログボックスの「デスクトップパトランプ」タブで指定した通知メッセージが使用されます。

-fdp オプションを使用する場合は，連絡網 ID で指定した連絡網にデスクトップ通知メディアを追加しておく必要があります。

(k) デスクトップメッセージ通知ファイル名

デスクトップに通知するメッセージテキストを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例） -fdp C:¥winnt¥sample.txt

(l) -fdt

TELstaff 製品がインストールされているパソコンのデスクトップに，デスクトップテキスト読み上げ通知ファイル名で指定したメッセージを通知します。

-fdt オプションを省略するとデスクトップ通知のプロパティダイアログボックスの「読み上げ」タブで指定した通知メッセージが使用されます。

-fdt オプションを使用する場合は，連絡網 ID で指定した連絡網にデスクトップ通知メディアを追加しておく必要があります。

通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

(m) デスクトップテキスト読み上げ通知ファイル名

デスクトップに通知するメッセージテキストを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例） -fdt C:¥winnt¥sample.txt

(n) -fdw

TELstaff 製品がインストールされているパソコンのデスクトップに，デスクトップ WAV 通知ファイル名で指定しオーディオメディアファイルを再生します。

このオプションを省略するとデスクトップ通知のプロパティダイアログボックスの「サウンド」タブで指定した WAV 通知ファイルが使用されます。

-fdw オプションを使用する場合は，連絡網 ID で指定した連絡網にデスクトップ通知メディアを追加しておく必要があります。

(o) デスクトップWAV通知ファイル名

デスクトップに通知するオーディオメディアファイルを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例） -fdw C:¥winnt¥sample.wav

(p) -ff

FAX に，FAX 通知文ファイル名で指定したファイルの内容を送信します。このオプションを省略した場合，標準 FAX 通知文の内容を送信します。標準 FAX 通知文はカスタマイズできます。

(q) FAX通知文ファイル名

FAX に送信するメッセージテキストを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例） -ff C:¥winnt¥sample.txt

(r)　-fi

デスクトップ通知のデスクトップパトランプの一つ目のランプ部分に表示するマルチメディアファイルを，ファイル完全名で指定します。

指定できるマルチメディアファイルは，拡張子が bmp または jpg である必要があります。

このオプションは，AECL では使用できません。

（例）　-fi C:¥sample.gif

(s)　-i

マルチメディア名に対応するマルチメディアファイルの内容を，デスクトップパトランプの一つ目のランプ部分に表示します。

マルチメディア名は，半角英数字で指定します。マルチメディア名の中に空白文字は指定できません。

マルチメディア名は，環境設定の「カスタマイズ」タブにある「マルチメディアファイル定義」にあらかじめ定義しておきます。「マルチメディアファイル定義」からマルチメディア名称を元にマルチメディアファイル名に置き換わります。

（例）-i 100.100.100.1

```
[imagelist]
;ホスト名=画像ファイル名　の形式で定義します。
printer=c:¥printer.jpg
100.100.100.1=c:¥ws1.bmp
100.100.100.2=c:¥ws1.wav
100.100.100.3=c:¥ws1.avi
```

(t)　-fm

メールで，メール通知文ファイル名で指定したファイルの内容を送信します。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。標準通知文の内容とカスタマイズ方法は，「2.6.1(1) 連絡網発信用標準通知文」を参照してください。ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。このオプションを省略すると連絡網プロパティー「発信内容」タブのメールファイルで指定した通知ファイルが使用されます。連絡網プロパティー「発信内容」タブのメールファイル指定を省略すると，標準提供の通知文ファイルを使用します。メール通知文ファイルは，「2.6.1(1) 連絡網発信用標準通知文」に示す注意事項があります。

(u)　メール通知文ファイル名

メールで送信するメッセージテキストを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

（例）　-fm C:¥winnt¥sample.txt

(v)　-pri メール重要度

このオプションの意味は連絡網への発信時と同様です。詳細は 11.2.2(3)(m)を参照してください。

(w) -fv

電話通知文ファイル名で指定したファイルの内容を，電話に音声通知します。

通知文には，標準通知文とユーザ作成の固有の通知文があります。標準通知文の内容とカスタマイズ方法は，「2.6.1 通知文のカスタマイズ」を参照してください。ユーザ固有の通知文の作成方法は，「2.6.3 ユーザ固有の通知文作成」を参照してください。このオプションを省略すると連絡網プロパティー「発信内容」タブの電話メッセージファイルで指定した通知ファイルが使用されます。連絡網プロパティー「発信内容」タブの電話メッセージファイル指定を省略すると，標準提供の通知文ファイルを使用します。

(x) 電話通知文ファイル名

IP 電話発信をするとき，テキスト形式のファイルまたは音声ファイルを完全名で指定します。音声ファイルを指定する場合，その音声ファイルは表 1.4-6 に示す形式でなければなりません。

トリガフォンを使用して電話発信をするときは，ファイル拡張子が「tp」のファイル名をファイル完全名で指定します。IP 電話発信以外の電話発信時で，ファイルの拡張子が「tp」以外の場合では，通信モデムを使用します。

同一連絡網内に IP 電話とトリガフォンを使用する電話を混在させる場合は，ファイル拡張子が「tp」のファイル名をファイル完全名で指定します。

トリガフォンで再生できる文字数には制限があります。詳細は「1.4.4(d) その他のトリガフォンを使用するときの注意事項」を参照してください。

音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

（例） -fv C:¥winnt¥sample.wav
-fv C:¥winnt¥sample.tp

(y) -fs1

表示ボード通知メッセージファイル名で指定したファイルの内容を，メッセージ表示ボードに通知します。

このオプションを省略するとメッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスで指定した通知ファイルが使用されます。メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスの通知ファイル指定を省略すると，“表示するメッセージの指定がありません”のメッセージを通知します。

メッセージは，全角 200 文字以内で半角，全角文字が使用できます。使用できる文字の種類については，メッセージ表示ボードの「ユーザズマニュアル」を参照してください。

メッセージ中に改行コードが含まれるときは，改行コードは削除します。

メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，
~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

変更項目	文字修飾/背景色/文字色の指定方法
文字修飾	normal(標準),bold(強調),shadow(影付き)
背景色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)
文字色	black(黒),red(赤),green(緑),orange(橙)

（例 1）文字修飾を強調，文字色を赤，背景色を緑で表示する場合
TELstaff は~Mode:bold/green/red~日立ソリューションズの製品です
（例 2）文字修飾を強調，文字色を赤で表示する場合
TELstaff は~Mode:bold//red~日立ソリューションズの製品です

(z)　表示ボード通知メッセージファイル名

メッセージ表示ボードに表示するメッセージを格納したファイル名を，ファイル完全名で指定します。

(aa)　-s1

表示ボード通知メッセージで指定した文字を，メッセージ表示ボードに通知します。このオプションを省略するとメッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスで指定した通知ファイルが使用されます。メッセージ表示ボードの動作設定ダイアログボックスの通知ファイル指定を省略すると，“表示するメッセージの指定がありません”のメッセージを通知します。

(bb)　表示ボード通知メッセージ

メッセージ表示ボードに通知するメッセージを全角 200 文字以内の半角，全角文字で指定します。使用できる文字の種類については，メッセージ表示ボードの「ユーザズマニュアル」を参照してください。

メッセージに空白文字を使用する場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。メッセージに改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。

メッセージ中に改行コードが含まれるときは，改行コードは削除します。メッセージの途中文字に対して文字色，背景色，文字修飾を変更する場合は，
~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数を挿入します。

(cc)　-mdn on|off

メール発信時，メール開封確認を行うかどうかを指定します。

このオプションを省略すると環境設定ー「メール開封確認」タブの設定に従ってメール発信を行います。

off パラメタ指定では，メール開封確認を抑止してメール発信を行います。

連絡網プロパティー「メール開封確認」タブの「通知メールの開封確認を行う」チェックボックスにチェックしていない場合で，メール開封確認を行うメール発信を行う場合は，on パラメタおよび -mde オプションを指定します。

(dd)　-mde

メール開封確認をメールの返信で開封確認する場合，開封確認通知メールの宛先にするメールアドレスを指定します。このメールアドレスは，メール開封確認を行うメール発信の返信先アドレス（From）に使用します。

このオプションを省略すると連絡網プロパティー「メール開封確認」タブで指定した 受信メールアドレスを使用します。

(ee) 受信メールアドレス

環境設定－「メール開封確認」タブで設定した受信メールアドレスの中から使用する受信メールアドレスを指定します。

(ff) -id

このオプションで指定した内容は，通知するメッセージテキスト中の「~id2~」変数と置き換えられます。また，メッセージには，この通知 ID が表示されます。このオプションを省略すると，連絡網 ID が表示されます。メッセージの表示形式については，「2.3.1(3) SMS 通知」を参照してください。通知 ID は，同じ連絡網 ID で電話や SMS 通知するとき，4 桁の番号で発信要因を区別するときに使用します。発信要因は，あらかじめ決めておく必要があります。

また，通知 ID は，特定の発信を抑止（発信抑止）するための識別に使用したり，特定の teldial コマンドだけを発信制限したり，発信取り消し(telcan コマンド)を行うためにも使用します。

(gg) 通知ID

通知 ID を，4 桁の半角数字で指定します。

(hh) -nosch

すべてのスケジュール機能を無効にして発信します。
（例） -ni 1000 -nosch

(ii) -np 1

複数の電話発信を並行して発信します。このオプションを省略すると，連絡網に定義した電話通知メディアを 1 つずつ発信の終了を待って順に発信します。

このオプションを使用する場合，次の注意事項があります。

- １つ以上のトリガフォンが必要です。
- 連絡網の繰り返し発信機能は，使用できません。
- 連絡網の定義した全ての電話通知メディアに発信されます。
- 連絡網の定義した電話通知メディアの順に発信する保証はありません。

(jj) -u

ユーザ付加情報を通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えます。-uf オプションと同時には指定できません。

(kk) ユーザ付加情報

ユーザ付加情報を半角文字で，520 文字（全て全角文字の場合，260 文字）以内で指定します。最大文字数以上ユーザ付加情報を指定すると最大文字数で切り捨てます。最大文字数以上のユーザ付加情報を指定する場合は，-uf オプションを使用してください。

ユーザ付加情報に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。ユーザ付加情報に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字とし

て認識できないコードを含めることはできません。-u オプションのユーザ付加情報に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，「¥」（エスケープ文字）を使用します。

（例）-u "zzzzz¥"fffffff¥"xxxxxxxx"

ユーザ付加情報を「;」（セミコロン）で区切ると，複数行に分割できます。ユーザ付加情報中の「;」（セミコロン）は，改行コードに置き換えられて挿入されます。ただしコマンド通知では改行コードへの置換は行われません。

（例）-u "ユーザ付加情報1行目;ユーザ付加情報2行目"

なお，日本語ではない言語で IP 電話通知を行う場合，半角英数字（ASCII 文字）だけを含んだ値を指定してください。

(ll)　-uf

このオプションで指定したファイルの内容が，通知するメッセージテキスト中の~UserInformation~ 変数と置き換えられます。-u オプションと同時には指定できません。また-uf オプションを指定する場合，FAX 送信と電話通知文ファイル（ファイル拡張子が tp のファイル），メールの件名に~UserInformation~ 変数は，使用できません。

(mm)ユーザ付加情報ファイル名

ユーザ付加情報が格納されているファイルのファイル名を，ファイル完全名で指定します。ここで指定したファイルの内容はそのまま~UserInformation~変数の値として挿入されます。そのため非日本語の IP 電話通知を行う場合，使用する音声合成ソフトウェアに合わせた文字コード[1.4.10(3)(b)]で作成したファイルを指定するよう注意してください。ユーザ付加情報ファイルは，1 行当たり 511 文字（全て全角文字の場合，255 文字）以下で作成してください。

(nn) -to

この teldial コマンドの発信は，AEPE または AESE に発信依頼を行います。
発信依頼には，「2.3.1(1)(h)発信依頼」に示す注意事項があります。

(oo) 発信依頼先アドレス［：ポート番号］

発信を依頼する AEPE または AESE のアドレスを指定します。自コンピュータの IP アドレスは，指定できません。
依頼先の指定方法は通信手段によって異なります。依頼先の指定方法については，「9.4.1 メッセージエージェントの宛先指定」の表 9.4-1 を参照してください。

(pp) -h

ホスト名を通知するメッセージテキスト中の~node~，~node1~，~node2~変数と置き換えます。-ih,-ip オプションと同時には指定できません。

(qq) ホスト名

~node~，~node1~，~node2~に置き換えるホスト名を半角英数字文字の 50 文字以内で指定します。50 文字以上のホスト名を指定すると teldial コマンドは，エラー終了となり

ます。ホスト名に半角空白を含む場合は，「"」（ダブルコーテーション）で囲んで指定します。

ホスト名の代わりに任意の文字列を指定できますが，任意の文字列を指定する場合は，50 桁以内（全角文字の場合，25 文字）で指定します。文字列に改行コード，「"」（ダブルコーテーション），または文字として認識できないコードを含めることはできません。「"」（ダブルコーテーション）を含む文字を指定する場合は，¥（エスケープ文字）を使用します。

(rr) -ev

通知内容に環境変数名を含んでいる場合，それら環境変数の内容を teldial.exe 実行時の環境変数の内容と置き換えて発信します。
システム環境変数を通知内容に使用する方法については，「12.1.2 環境変数」を参照してください。

(ss) -d

通知終了後発信記録を削除するとき-uf，-fc，-ff，-fm，-fv，-fb，-fi，-fa，-fs1，-uf，-fdp，-fdw，-fdt オプションで指定したファイルを全て削除する場合に指定します。ファイルごとには指定できません。

teldial コマンドオプションに誤りがあるオプションを指定した場合，または TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始した場合，-d オプションは，無効になり削除されません。

発信記録を削除する契機については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し-発信の取り消し」を参照してください。

(tt) -k

-k オプションは，以下の条件が全て成立するときに利用されます。成立しない場合は発信が終了すると，-k オプションの指定有無によらず発信記録は削除されます。

- 環境設定ウィンドウ[電話・回線]タブ[モデム一覧]（図 4.1-6）にトリガフォンが登録されている。
- 登録されているトリガフォンの中で[プロパティ]ウィンドウ（図 4.1-25）[受信・発信の区別]において「受信」または「受発信」を選択されたものが少なくとも１つ存在する。

これらの条件が全て成立するときに，-k オプションを指定すると，発信に対する確認がされなくても発信記録は削除され，省略した場合は，連絡網プロパティー「基本設定」タブの「問合わせ確認は行わない」チェックボックスの設定に従います。

-k オプションを使用しないときは，注意事項があります。注意事項は，連絡網プロパティー「基本設定」タブ（図 5.3-35）の「問合わせ確認は行わない」オプション，および「1.5.1 発信記録とファイルの削除」を参照してください。

(uu) -nif

一括発信ファイルを使用して発信を行います（一括発信ファイルについては，「2.6.4

一括発信ファイルの作成」参照）。一括発信を使用する場合は，発信する全ての発信先種別に対する通知文ファイル（または通知メッセージ）を指定しなければなりません。

本オプションを指定する場合は，連絡網 ID および -ni オプションは使用できません。一括発信ファイルに指定した発信先への発信では，他のオプション（発信で有効になるオプション）を引き継いで発信します。-nosch オプションを指定した場合は，全ての発信に対してスケジュール機能を無効にして発信します。

一括発信では，1 つの teldial コマンドで簡単に複数のグループ（連絡網 ID）発信と直接発信の混在発信ができますが，大量発信を引き起こす要因になります。短時間に多くの teldial コマンドを実行してしまう可能性がある場合は，運用する上で注意が必要になります。また，-nif オプションでは，次の注意事項があります。

●発信制限について

-nif オプションを指定した teldial コマンドがどのように発信制限されるかについては 2.3.27(4)小項を参照してください。

●発信依頼について

一括発信ファイルを発信依頼先に送信し，発信依頼先で一括発信ファイルに指定した発信先へ発信します。

●発信抑止について

-nif オプションを指定した teldial コマンドの発信抑止はできません。一括発信ファイルに指定した個々の発信について発信の抑止操作ができます。

●発信の取消しについて

-nif オプションを指定した teldial コマンドの発信取消しはできません。一括発信ファイルに指定した個々の発信について発信の取消し操作ができます。

●メール開封確認について

一括発信ファイルに指定した個々のメール発信についてメール開封確認操作ができます。

(vv) 一括発信ファイル名

一括発信する発信先を定義したファイル名を，ファイル完全名で指定します。
一括発信ファイルについては，「2.6.4 一括発信ファイルの作成」を参照してください。

(ww) -nik

一括発信ファイルに指定した発信先で特定の発信先にだけに発信する場合にフィルタリング情報を指定します。-nik オプションを省略すると一括発信ファイルに指定した全ての発信先に発信します。

(xx) フィルタリング文字列

一括発信ファイルの 1 番目の項目（発信先種別，または文字列）に一致する文字列を指定します。フィルタリング文字列は，「+」区切りで複数指定できます。また，フィルタリング文字列は，前方一致形式の総称指定で指定できます。
フィルタリング文字列に改行コード，空白文字，「"」（ダブルコーテーション），および文字として認識できないコードを含んだ文字は使用できません。

一括発信ファイルについては，「2.6.4 一括発信ファイルの作成」を参照してください。

（例） -nik tel1+mail*+lamp+telstaff*
-nik 緊急
-nik 全員の連絡先

(yy) -nfd

発信終了後-nif オプションで指定した一括発信ファイルを削除する場合に指定します。teldial コマンドオプションに誤りがあるオプションを指定した場合，または TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始した場合，-nfd オプションは，無効になり削除されません。

(zz) -sl { ja | en | zh }

IP 電話にて，どの言語で通知メッセージの音声読み上げを行うかを言語コードで指定します。なお通知先がユーザであり，かつ本引数で言語を指定した場合，通知先ユーザの「言語」プロパティよりも本引数の指定が優先されます。

使用する音声合成ソフトウェアごとに使用可能な言語は異なります。各音声合成ソフトウェアで使用可能な言語の言語コード，および通知文ファイルで使用すべき文字コードについては表 1.4-10 を参照してください。なお同表に無い言語コードを指定した場合，日本語での通知を行います。

(aaa) -ap { 1 | 2 | 3 | 4 | 5 }

一括発信ファイルに指定している発信先へ発信を行う時の優先度を 1 から 5 で指定します。数値が小さいほど優先度が高くなり，優先度オプションを指定しない場合は，優先度は 3 となります。

詳細については，11.2.10 を参照してください。

(4) 使用例

例 1：

一括発信ファイル（lampfile.txt）を使用して電話通知ファイル（c:¥telmessage.tp）で電話発信します。

```
teldial -fv c:¥telmessage.tp -nif c:¥lampfile.txt
```

11.2.9ネットワーク監視

(1) 機能

TELstaff に対して，ネットワーク監視で指定された通知先に発信の指示をします。AECL でこのコマンドを実行する場合，または -to オプションを指定して発信依頼をする場合，依頼先の TELstaff にネットワーク監視の設定をしておく必要があります。

(2) 形式

```
teldial     { -ih ホスト名 | -ip IPアドレス }
            [ { -fb SMS通知ファイル名 | -m SMS通知メッセージ } [-w] ]
            [ -fc エージェント送信ファイル名 [-fa 添付ファイル名] ]
            [ -fdp デスクトップメッセージ通知ファイル名 ]
            [ -fdt デスクトップテキスト読み上げ通知ファイル名 ]
            [ -fdw デスクトップWAV通知ファイル名 ]
            [ -ff FAX通知文ファイル名 ]
            [ { -fi マルチメディアファイル名 | -i マルチメディア名 } ]
            [ -fm メール通知文ファイル名
              [ -fa 添付ファイル名 ]
              [ -pri {1 | 2 | 3 | 4 | 5} ] ]
            [ { -fs1 表示ボード通知メッセージファイル名 |
                -s1 表示ボード通知メッセージ } ]
            [ -fv 電話通知文ファイル名 ]
            [ -id 通知ID ]
            [ -nf 条件1[+条件2[+...]] ]
            [ { -u ユーザ付加情報 | -uf ユーザ付加情報ファイル名 } ]
            [ -to 発信依頼先アドレス[:ポート番号] ]
            [ -ev ]
            [ -d ]
            [ -k ]
            [ -fav 任意変数ファイル名 ]
            [ -nt { yyyy/mm/dd/hh/nn | afterNNN {min | hour | day} } ]
            [ -ap {1 | 2 | 3 | 4 | 5} ]
            [ 連絡網ID | -ni 連絡網ID ]
```

(3) 引数

(a) -ih ホスト名

ネットワーク監視の対象ホストのホスト名を指定します。-ip オプションと同時には指定できません。

（例） -ih HOST1

(b) -ip IPアドレス

ネットワーク監視の対象ホストの，IP アドレスを指定します。-ih オプションと同時には指定できません。

（例） -ip 100.100.100.1

(c) -nf 条件

フィルタ条件を指定したネットワーク監視グループを使用する場合，その条件を指定します。本オプションの指定のない場合や，指定した条件が一致しない場合は，フィルタ条件を指定したネットワーク監視グループは適用されません。

条件を複数指定するときは，半角の+文字で区切って指定します。文字列に，全角および半角スペース文字は指定できません。ネットワーク監視グループには，ネットワーク監視ダイアログボックスー「全般」タブの「フィルタ」フィールドで設定します。-nf オプションは，アクション監視で使用できます。

「フィルタ」フィールドの文字列に a,b を AND 条件で指定し，-nf a+b+c を指定したときは，このグループが適用されます。

		ネットワーク監視グループのフィルタ指定	
		あり	なし
-nf 指定	あり	条件に合致した場合，このグループを適用する	このグループを適用しない
	なし	このグループを適用しない	―

（例） -ih 100.100.100.1 -nf エラー・アラーム
-ih 100.100.100.1 -nf エラー・アラーム+危険域
-ih $r -nf $c+$s

(d) -fav 任意変数ファイル名

通知内容に任意変数名を含んでいる場合，それら任意変数の内容を任意変数ファイル名に記載された任意変数の値と置き換えて発信します。

任意変数，任意変数ファイルについての詳細は 11.2.2(3)(ff)を参照してください。

(e) -nt 通報日時

teldial コマンド受け付け後，従来の通報のようにすぐに通報せず，指定された「通報日時」に通報を開始します。

以下の場合は,「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

- -nt オプションで指定された「通知日時」が日時として不正な場合
- -nt オプションで指定された「通知日時」が通報コマンド実行日時と比べて過去の日時の場合

発信の取り消し方法については，「2.3.1(1)(d) 発信の中止と取り消し」を参照してください。

●yyyy/mm/dd/hh/nn

特定の通知日時を指定するときに指定します。yyyy は年度，mm は月，dd は日付，hh は時間，nn は分を示します。mm，dd，hh，nn，は半角文字 1 文字または半角文字 2 文字で指定します。

例：2009 年 10 月 20 日 10 時 00 分に連絡網グループ 001 の連絡網 1000 を実行する例を示します。通知日時は 1970 年 1 月 1 日 9 時 0 分から 2037 年 12 月 31 日 23 時 59 分の

範囲で指定します。

（例） teldial.exe -nt “2009/10/20/10/00” -ni 001/1000

● afterNNN { min | hour | day }

TELstaff サービスが teldial コマンドを受け付けた時点から，NNN 分後・時間後・日後，に通知するとき指定します。after は半角小文字で指定します。min，hour，day，は半角小文字で指定します。NNN は半角数字で指定します。NNN が半角数字でない場合，「通知日時」に通報せず，すぐに通報を開始します。

分後・時間後・日後それぞれの，NNN の範囲は以下の通りです。

分後	0～10,080。0 または 10,081 以上の場合はすぐに通知する。
時間後	0～168。0 または 169 以上の場合はすぐに通知する。
日後	0～7。0 または 8 以上の場合はすぐに通知する。

（例 1）-nt after30min ... 30 分後に通知

（例 2）-nt after1hour ... 1 時間後に通知

（例 3）-nt after7days ... 7 日後に通知

(f) -ap { 1 | 2 | 3 | 4 | 5 }

teldial コマンドの優先度を 1 から 5 で指定します。数値が小さいほど優先度が高くなり，優先度オプションを指定しない場合は，優先度は 3 となります。

詳細については，11.2.10 teldial コマンドの優先度を参照してください。

(g) {連絡網ID | -ni連絡網ID}

連絡網 ID を 4 桁の半角数字で指定します。連絡網 ID は，すべてのオプションの最後に指定してください。引数 -ih で指定されたホスト名あるいは -ip で指定された IP アドレスが監視対象であった場合，この連絡網に対して通知を行います。

監視対象のグループに連絡網への発信が定義されていた場合は，その連絡網には通知を行わず，連絡網 ID で指定された連絡網へ通知を行います。

例えば，ノードダウンのときは連絡網 ID 1000（パトランプ点灯）で，ノードアップのときは連絡網 ID 2000（パトランプ消灯）で通知するとき指定します。

(4) 注意事項

1. -fi，-i，-fdp，-fdt，-dfw，-fs1，-s1 オプションは，連絡網 ID を指定したときだけ有効となります。
2. 特定の発信を抑止（発信抑止），または特定の teldial コマンドだけを発信制限する場合は，通知 ID を指定します。
3. 連絡網への発信で自コンピュータのデスクトップ画面の Alarm View への通知（デスクトップ通知）はできません。
4. その他の引数については，「11.2.2 連絡網への発信」を参照してください。

(5) 使用例

例 1：

ホスト名（HOST01）をネットワーク監視の対象にしている，ネットワーク監視項目に

設定されているメール通知に，c:¥mail.txt ファイルの内容でメール通知します。

```
teldial  -ih HOST01  -fm c:¥mail.txt
```

例 2：

IP アドレス（100.100.100.1）をネットワーク監視の対象にしている，ネットワーク監視項目に設定されている AECL（または AEPE，AESE）に，C:¥sample.txt の内容を送信します。

```
teldial  -ip 100.100.100.1  -fc C:¥sample.txt
```

11.2.10 teldialコマンドの優先度

teldial コマンドの-ap オプションでは，通知の優先度を 1 から 5 で指定します。数値が小さいほど優先度が高くなり，優先度オプションを指定しない場合は，優先度は 3 となります。-ap オプションで優先度を指定した場合の，通報順序と通報のエスカレーションについて説明します。

(1) 通報順序

TELstaff サービスでは，優先度が高い通知から通報を行います。同じ優先度の通知では以下の順に通報を行います。

(1) まだ一度も発信されていない通知

（ある時点で複数の発信要求を受け付けている場合は受け付け順）

(2) 発信された通知の 2 番目以降に登録された通知メディア

（ある時点で複数の発信要求を受け付けている場合は受け付け順）

連絡網発信ではなく個別のメディアへ teldial コマンドで通知を行った場合，その通知の優先度は「そのメディアへの発信が一つだけ含まれるような連絡網」へ発信した場合と同じように扱われます。

優先度が高い通報がスケジュールにより抑止（保留）された場合は，優先度が低い通報が先に通報される場合があります。スケジュールを無効にするには-nosch オプションを指定してください。

（例）連絡網 1000 に＜デスクトップ通知→メール通知→電話通知＞
の順序で通知メディアを登録します。

次のように連続的に teldial コマンドを実行した場合：

teldial -ap 5 -ni 1000・・・1 件目の teldial コマンド・・・(a)とします。
teldial -ap 5 -ni 1000・・・2 件目の teldial コマンド・・・(b)とします。
teldial -ap 5 -ni 1000・・・3 件目の teldial コマンド・・・(c)とします。
teldial -ap 1 -ni 1000・・・4 件目の teldial コマンド・・・(d)とします。
teldial -ap 1 -ni 1000・・・5 件目の teldial コマンド・・・(e)とします。

通知の順番は，下記の順となります。

1. (d)で受け付けた発信のデスクトップ通知
2. (e)で受け付けた発信のデスクトップ通知
3. (d)で受け付けた発信のメール通知
4. (e)で受け付けた発信のメール通知
5. (d)で受け付けた発信の電話通知
6. (e)で受け付けた発信の電話通知
7. (a)で受け付けた発信のデスクトップ通知

8. (b)で受け付けた発信のデスクトップ通知
9. (c)で受け付けた発信のデスクトップ通知
10. (a)で受け付けた発信のメール通知
11. (b)で受け付けた発信のメール通知
12. (c)で受け付けた発信のメール通知
13. (a)で受け付けた発信の電話通知
14. (b)で受け付けた発信の電話通知
15. (c)で受け付けた発信の電話通知

(2) 通報のエスカレーション

連絡網のプロパティダイアログボックスの「コマンド」タブで指定可能な%teldial コマンドにおいて，-ap オプションを明示的に指定しない場合の優先度は，元の通報の優先度を引き継ぎます。

メール開封確認で「開封されなかった場合の動作」に「他の連絡網に通知する」が指定されている場合の優先度は，元の通報の優先度を引き継ぎ，優先度を変更することはできません。

11.3 発信操作コマンド（telcan, telspend）

11.3.1発信取り消しコマンド（telcan）

(1) 機能

TELstaff に対して，現在発信待ち，問い合わせ待ち状態にある発信の取り消しを指示します。発信中のものは，この発信が終わってから発信が中止されます（繰り返しも中止されます）。電話への発信のように既に発信が開始されたものは取り消しすることはできません。

telcan コマンドを使用できるユーザは，TELstaff ユーザ管理でユーザ登録したユーザの中で，パスワードの指定があるユーザだけです。telcan コマンドは AEPE，AESE で使用できます。

(2) 形式

```
telcan      -u ユーザ名
            -p パスワード
            [ { -d
                | -id 通知ID
                | -ih ホスト名
                | [連絡網グループID/]連絡網ID
                | -ap 優先度 }
                | -seq 発信の受付番号 ]

telcan      -c
            -u ユーザ名
            -p パスワード
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

TELstaff サービス開始前に TELstaff に登録されているユーザ名を指定します。ユーザ名に使用できない文字や文字数の上限については「5.1.10(1)(a) 「ユーザ名」メッセージボックス」を参照してください。

（例） -u user001

(b) -p パスワード

-u オプションで指定したユーザのパスワードを指定します。

（例） -p 1234

(c) -d

現在未確認な発信の中で，連絡網を使用していない発信をすべて取り消します。メール発信のように既に発信が開始されたものは取り消しすることはできません。

(d) -id 通知ID

現在未確認な発信の中で，通知 ID が指定した値である発信を取り消します。TELstaff は，指定された通知 ID を持つすべての未確認発信を取り消します。

（例） -id 0100

(e) -ih ホスト名

現在未確認な発信の中で，ホスト名が指定した値であるネットワーク監視からの発信を取り消します。

（例） -ih HOST001

(f) 連絡網ID

現在未確認な発信の中で，連絡網 ID が指定した値である発信を取り消します。TELstaff は，指定された連絡網を使用しているすべての未確認発信を取り消します。

連絡網 ID は，表 11.2-1 に示す方法で総称指定ができます。連絡網グループ ID を指定する場合は，「連絡網グループ ID/」を連絡網 ID の前に指定します。

（例） 1000
10*
001/1000
001/10*

(g) -c

TELstaff サービスが停止している場合，次の発信を取り消します。-c オプションで発信を取り消す場合は，teldial コマンドの-d オプションは無効になります。

- 現在未発信となっている発信や問い合わせ待ち状態にある発信。
- 未処理のエージェント受信メッセージ
- 未処理のエージェント送信メッセージ
- 発信依頼先に未送信の teldial コマンド
- 未発信となっているパトランプ発信およびメッセージ表示ボード発信

TELstaff サービスを起動するときに，「図 6.1-1TELstaff サービスの起動ダイアログボックス」の「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして取り消すこともできます。AECL の場合は，スタートメニューの【ツール】から【発信待ちを全て取り消す】を選択して取り消します。

(h) -ap 優先度

現在未確認な発信の中で，優先度が指定した値である発信を取り消します。TELstaff は，指定された優先度のすべての未確認発信を取り消します。

（例） -ap 4

(i) -seq 発信の受付番号

現在未確認な発信の中で，受付番号が指定した値である発信を取り消します。

（例） -seq 3485701

(4) 注意事項

- -d，-id，-ih，連絡網 ID，-ap のどのオプションも指定しない場合，現在未発信，または未確認なすべての発信を取り消します。ただし，発信依頼の発信（-to オプション指定の teldial コマンド）は，取り消しすることはできません。
- ユーザ名とパスワードは，TELstaff に登録されているユーザのユーザ名とパスワードを指定します。TELstaff サービス起動中にユーザを登録した場合は，TELstaff サービスを再起動したあとに登録したユーザ名とパスワードが使用できます。
- 短時間に大量のコマンド実行させた場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。
- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	telcan コマンドを正常に受け付けました。
0 以外	telcan コマンドの受け付けができませんでした。エラーの詳細は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

telcan コマンド実行結果は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

(6) 使用例

例 1：

未確認な発信の中で，連絡網を使用していない発信をすべて取り消します。

```
telcan -u user001 -p 0001 -d
```

例 2：

未確認な発信の中で，連絡網 ID が「1000」の連絡網を使用した発信をすべて取り消します。

```
telcan -u user001 -p 0001 1000
```

11.3.2発信抑止コマンド（telspend）

(1) 機能

TELstaff に対して，発信の抑止，発信抑止の解除，および現在の発信抑止の状況表示を指示します。

AEPE および AESE で telspend コマンドを使用して発信の抑止，および発信抑止の解除を実行するには，TELstaff ユーザ管理でパスワードを指定した TELstaff ユーザの情報を入力する必要があります。

(2) 形式

```
telspend    [ -u ユーザ名 ]
            [ -p パスワード ]
            [ -t {suspend | release | list} ]
            [ -m {all | 通知メディアリスト} ]
            [ -i {all | 通知IDリスト} ]
            [ -n {all | 連絡網IDリスト} ]
            [ -user 通知先ユーザ名 ]
```

注※　-t オプションに list 以外を指定した場合，-u および-p オプションは省略できません。

注※　-t オプションに list 以外を指定した場合，-m，-i，-n，-user オプションのうち，いずれか１つ以上を指定する必要があります。

注※　-t オプションに list を指定した場合，他のオプションの指定は無視されます。

注※　AECL では本形式は使用できません。

```
telspend    [ -u ユーザ名 ]
            [ -p パスワード ]
            [ -t {suspend | release | list} ]
            [ -ds {all | TELstaffサービスの場所リスト} ]
            [ -dp {all | パトランプの場所リスト} ]
            [ -dm {all | メールサーバの場所リスト} ]
            [ -dc {all | モデムの場所リスト} ]
            [ -c {all | カメラの場所リスト} ]
```

注※　AEPE，AESE で-t オプションに list 以外を指定した場合，-u および-p オプションは省略できません。

注※　-t オプションに list 以外を指定した場合，-ds, -dp, -dm, -dc, -c オプションのうち，いずれか１つ以上を指定する必要があります。

注※　-t オプションに list を指定した場合，他のオプションの指定は無視されます。

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

AEPE または AESE で使用する場合，TELstaff サービス開始前に TELstaff に登録されているユーザ名を指定します。現在の抑止状態の表示を行う場合は，指定を省略できます。

ユーザ名に使用できない文字や文字数の上限については「5.1.10(1)(a) 「ユーザ名」メッセージボックス」を参照してください。

（例） -u user001

(b) -p パスワード

AEPE または AESE で使用する場合，-u オプションで指定したユーザのパスワードを指定します。現在の抑止状態の表示を行う場合は，省略できます。

（例） -p 1234

(c) -t {suspend | release | list}

発信抑止を行う場合は，suspend を指定します。発信抑止の解除をおこなう場合は，release を指定します。現在の発信抑止の状態を表示する場合は，list を指定します。なお list を指定した場合で発信抑止の設定が何も行われていなければ，telspend コマンドは何も表示しません。

このオプションを省略した場合，発信抑止を行います。

(d) -m {all | 通知メディアリスト}

発信を抑止する，または発信抑止を解除する通知メディアを指定します。

抑止または抑止解除の対象とする通知メディアは，「:」（半角コロン）で区切って複数指定できます。すべての通知メディアを対象とする場合は「all」を指定してください。

指定できる通知メディア名と値を下表に示します。

指定値	対応する通知メディア
tel	電話通知
pager	SMS 通知
lamp	パトランプ通知
cmd	コマンド通知
fax	FAX 通知
mail	メール通知，メール一括送信
agent	ﾒｯｾｰｼﾞｴｰｼﾞｪﾝﾄ通知
board	メッセージ表示ボード通知
desktop	デスクトップ通知

（例） -m tel:lamp:pager

以下の注意事項があります。

- -m オプションは AECL では使用できません。
- all を指定して全通知メディアを抑止した場合，通知メディア単位での抑止解除はできません。
- 既に発信中であるものを，発信抑止することはできません。

(e) -i {all | 通知IDリスト}

発信を抑止する，または発信抑止を解除する通知 ID を 4 桁の数字で指定します。

抑止または抑止解除の対象とする通知 ID は，「:」（半角コロン）で区切って複数指定

できます。すべての通知 ID を対象とする場合は「all」を指定してください。

以下の注意事項があります。

- -i オプションは AECL では使用できません。
- 既に発信中のものは，抑止できません。
- all パラメタを指定して全通知 ID を発信抑止した場合，通知 ID 単位での抑止解除はできません。

（例） -i 1100:1200:1300

(f) -n {all | 連絡網IDリスト}

発信を抑止する，または発信抑止を解除する連絡網 ID を 4 桁の数字で指定します。あるいは「連絡網グループ ID/連絡網 ID」の書式を使用することで，どの連絡網グループの連絡網 ID であるかを明示することも可能です。

抑止または抑止解除の対象とする連絡網 ID は，「:」（半角コロン）で区切って複数指定できます。すべての連絡網 ID を対象とする場合は「all」を指定してください。

以下の注意事項があります。

- -n オプションは，AECL では使用できません。
- all パラメタを指定して全連絡網 ID を抑止対象とした場合，連絡網 ID 単位での抑止解除はできません。

（例） -n 1000:3000:4000
-n 001/1000
-n 001/all
-n all

(g) -user 通知先ユーザ名

特定のユーザに対する発信を抑止する，または発信抑止を解除する場合に指定します。

以下の注意事項があります。

- -user オプションは，AECL では使用できません。
- メール一括送信ではユーザ名を指定した発信抑止は適用されません。

（例） -user TELstaff管理者

(h) -ds {all | TELstaffサービスの場所リスト}

TELstaff サービスの稼動監視で通知を抑止する，または抑止解除を行う TELstaff サービスの場所を「**アドレス_ポート番号**」形式で指定します。なお「**アドレス**」の部分には［監視サービスの設定］－［アドレス］欄に使用したアドレス文字列を指定してください。

抑止または抑止解除の対象とするアドレスは，「:」（半角コロン）で区切って複数指定できます。すべてのアドレスを対象とする場合は「all」を指定してください。

全ての TELstaff サービスに対して通知を抑止する，または抑止の解除を行う場合は，all を指定します。

（例） -ds 100.100.100.20_35000: 100.100.100.30_35000
-ds all

(i) -dp {all | パトランプの場所リスト}

パトランプの稼動監視による通知を抑止する，または抑止解除を行うパトランプの場所を指定します。場所は，シリアル接続パトランプの場所は「**ポート番号**」または「**ポート番号_チャンネル番号**」の書式で，ネットワーク接続型パトランプの場所は「**IP アドレス**」または「**IP アドレス_チャンネル番号**」（セレクタ装置の使用時）の書式で指定してください。なお「**IP アドレス**」の部分には，［監視パトランプの設定］－［IP アドレス］欄で使用したアドレス文字列を指定します。

抑止または抑止解除の対象とするパトランプの場所は，「:」（半角コロン）で区切って複数指定できます。すべてのパトランプを対象とする場合は「all」を指定してください。

```
（例）  -dp COM1:COM2:COM3
        -dp COM1_2:COM2:COM3_4
        -dp 100.100.100.10: 100.100.100.20: 100.100.100.30
        -dp 100.100.100.10_1: 100.100.100.20_2
        -dp all
```

(j) -dm {all | メールサーバの場所リスト}

メールサーバの稼動監視による通知を抑止する，または抑止解除を行うメールサーバの場所を指定します。メールサーバの場所は，SMTP サーバの場合は「**S_アドレス**」の書式で，POP3 サーバの場合は「**P_アドレス**」の書式で指定してください。なお「**アドレス**」の部分には［監視メールサーバの設定］－［サーバ名］で使用したアドレス文字列を指定します。

抑止または抑止解除の対象とするメールサーバの場所は，「:」（半角コロン）で区切って複数指定できます。すべてのメールサーバを対象とする場合は「all」を指定してください。

```
（例）  -dm S_100.100.100.10:S_100.100.100.20
        -dm P_100.100.100.10:P_100.100.100.20
        -dm all
```

(k) -dc {all | モデムの場所リスト}

モデム機器の稼動監視による通知を抑止する，または抑止解除を行うモデムが接続されているシリアルポート名を「**COMx**」形式で指定します。なお「**x**」の部分にはポート番号を指定してください。

抑止または抑止解除の対象とするもモデムの場所は，「:」（半角コロン）で区切って複数指定できます。すべてのモデムを対象とする場合は「all」を指定してください。

```
（例）  -dc COM1:COM2
        -dc all
```

(l) -c {all | カメラの場所リスト}

JP1 版 TELstaff では本オプションは使用できません。

カメラ監視による通知を抑止する，または抑止解除を行うカメラの IP アドレスを指定します。

抑止または抑止解除の対象とするもカメラの場所は，「:」（半角コロン）で区切って複

数指定できます。すべてのカメラを対象とする場合は「all」を指定してください。

（例） -c 100.100.100.10:100.100.100.20
-c all

(4) 注意事項

- 現在の抑止状態は telspend コマンドの-t オプションに list を指定すると確認できます。
- -n オプションには，同じ連絡網 ID は指定できません。また，-i オプションには，同じ通知 ID は指定できません。
- -m オプション，-i オプション，-n オプションをすべて省略できません。
- ユーザ名とパスワードは，TELstaff に登録されているユーザのユーザ名とパスワードを指定します。TELstaff サービス起動中にユーザを登録した場合は，TELstaff サービスを再起動したあとに登録したユーザ名とパスワードが使用できます。
- 短時間に大量のコマンド実行させた場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。
- AESE および AEPE で本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	telspend コマンドを正常に受け付けました。
0 以外	telspend コマンドの受け付けができませんでした。エラーの詳細は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

telspend コマンド実行結果は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

(6) 使用例

例 1：

パトランプ通知だけを発信抑止を行います。

```
telspend -u ユーザ名 -p パスワード -t suspend -m lamp
```

例 2：

パトランプ通知だけを発信抑止の解除を行います。

```
telspend -u ユーザ名 -p パスワード -t release -m lamp
```

例 3：

現在の発信抑止の状況を表示します。

```
C:¥Program Files¥TELstaff¥PROGRAM> telspend.exe -t list
[通知メディア]
電話
[連絡網ID]
1000
100/全て
```

200/1000

11.4 発信制限定義コマンド（teldlim）

11.4.1発信制限ルールの設定

(1) 機能

発信制限ルールの追加または更新を行います。発信制限機能の設定は即時反映され，設定反映のために TELstaff サービスを再起動させる必要はありません。発信制限機能の詳細については「2.3.27 発信制限機能について」を参照してください。

(2) 形式

```
teldlim     set
            { -common |
              { -lid 発信制限ルールID
                [ -ni 連絡網ID ] [ -id 通知ID ] [ -ap 優先度 ] } }
            [ -t 秒数 -n 回数 [ -l ] ]
            [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -common

個別に制限条件を指定しない発信制限ルールに適用される，共通設定を更新する場合に指定します。

(b) -lid 発信制限ルールID

定義済みの発信制限ルールの設定内容を更新する場合は，その ID を指定します。発信制限ルールを追加する場合は，「new」という文字列を指定してください。

(c) -id 通知ID

発信制限の対象を通知 ID で絞り込む場合，通知 ID を 4 桁の数字で指定します。複数の通知 ID を指定する場合は「;」（半角セミコロン）区切りで指定してください。また通知 ID を範囲で指定する場合は最小値と最大値を「-」（半角ハイフン）で区切って指定します。

発信制限の対象を通知 ID で絞り込まない場合，「any」と指定してください。any を指定した場合は通知 ID を指定しない発信も対象になります。

この引数の指定を省略すると，発信制限ルールの追加時は通知 ID で対象を絞り込まないルールを作成します（any を指定した場合と同じ）。定義済み発信制限ルールの更新時は，通知 ID での絞り込み方法を変更しません。

（例）	-id 1000;2000	通知 ID「1000」および「2000」が指定された teldial コマンドを制限対象とする。
（例）	-id 3000-4000	通知 ID「3000」～「4000」が指定された teldial コマ

ンドを制限対象とする。

(d)　-ni 連絡網ID

発信制限の対象を連絡網の ID で絞り込む場合，連絡網グループ ID と連絡網 ID を指定します。対象とする連絡網グループ ID，連絡網 ID を「/」（半角スラッシュ）区切りで指定してください。複数の連絡網を制限する場合は「;」（半角セミコロン）で区切って指定してください。なお連絡網グループ ID，連絡網 ID の指定にはワイルドカードを使用できます。ワイルドカードについては「12.3 TELstaff におけるワイルドカード」を参照してください。

発信制限の対象を連絡網 ID で絞り込まない場合，「any」と指定してください。any を指定した場合は連絡網ではない発信も対象となります。

この引数を指定しない場合，発信制限ルールの追加時は連絡網 ID で対象を絞り込まないルールを作成します（any を指定した場合と同じ）。定義済み発信制限ルールの更新時は，連絡網 ID での絞り込み方法を変更しません。

（例）	-ni 001/*,002/1000	連絡網グループ 001 の全連絡網および，連絡網グループ 002 の連絡網 1000 を制限対象とする。
（例）	-ni 00*/*	連絡網グループ 001～009 の全連絡網を制限対象とする。
（例）	-ni 001/1*	連絡網グループ 001 の 1000～1999 の連絡網を制限対象とする。

(e)　-ap 優先度

発信制限の対象を発信の優先度で絞り込む場合，その優先度を指定します。優先度は teldial コマンドの-ap 引数で指定する値です。複数の優先度を制限する場合は「;」（半角セミコロン）区切りで指定してください。優先度に 1～5 の全てを指定した場合，全ての teldial コマンドが発信制限対象となります。なお，-ap 引数を指定せずに実行した teldial コマンドによる発信の優先度は 3 となります。

この引数の指定を省略した場合，発信制限ルールの追加時は優先度で対象を絞り込みません（すべての優先度を指定した場合と同じ）。定義済み発信制限ルールの更新時は，優先度での絞り込み方法を変更しません。

（例）	-ap 4;5	優先度が 4 および 5 を制限する場合

(f)　-t 秒数

実行頻度の計算に使う単位時間を秒単位で指定します。指定可能な値は 1～86400 です（86400 秒=24 時間）。なお本引数の指定時は，-n も同時に指定する必要があります。

共通設定の更新時に本引数を省略すると，単位時間は 5 秒になります。発信制限ルールの追加・更新時に本引数を省略すると，共通設定で指定した値が使用されます。

【関連項目】

- 4.1.1(9)(e) 環境設定 - 発信制限タブ - 共通設定 フィールド

(g) -n 回数

引数-t で指定した単位時間内に，この引数で指定した回数を超えて発信を実行しないように制限します。指定可能な値は 1～3600 です。なお本引数の指定時は，-t も同時に指定する必要があります。

共通設定の更新時に本引数を省略すると，上限回数は 1 になります。発信制限ルールの追加・更新時に本引数を省略すると，共通設定で指定した値が使用されます。

【関連項目】

- 4.1.1(9)(e) 環境設定 - 発信制限タブ - 共通設定 フィールド

(h) -l

単位時間内に受け付けた発信要求のうち，発信制限の条件を満たして発信されなかったものも「回数」として数える場合に指定します。この引数は，引数-t および引数-n と同時に指定する必要があります。

本引数の指定を省略した場合，発信制限された発信要求を数えません。

【関連項目】

- 2.3.27(3) 発信制限された teldial を数える場合の動作

(i) -h

本コマンドの使用方法を表示します。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには Administrators 権限が必要です。
- 同一引数を複数指定した場合は，最後の引数が使われます。

以下のような場合は，設定変更は行われません。

- コマンドライン引数の指定が不正
- コマンドを実行するユーザが Administrators 権限を持っていない
- -lid 引数で指定された発信制限ルール ID が存在しない

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
0 以外	発信制限ルールの設定変更に失敗しました。

コマンドの実行結果は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

(6) 使用例

例 1 ：

「発信 ID が 1000 でかつ，連絡網が 100/2000 の発信」を対象とした発信制限ルールを追加します。その制限の条件（発生頻度）は 10 秒間に 3 回とし，発信制限された発信も回数に入れます。

```
teldlim set -lid new -id 1000 -ni 100/2000 -t 10 -n 3 -l
```

例２：

LID が 7 である発信制限ルールを，対象は「優先度が 3～5 である発信」，制限条件は「10 秒間に 3 回」となるよう変更します。

```
teldlim set -lid 7 -ap 3;4;5 -t 10 -n 3
```

11.4.2 発信制限ルールの削除

(1) 機能

発信制限ルールの削除を行います。発信制限機能の設定は即時反映され，設定反映のために TELstaff サービスを再起動させる必要はありません。発信制限機能の詳細については 2.3.27 を参照してください。

(2) 形式

```
teldlim     delete
            { -all | -lid 発信制限ルールID }
            [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -all

既存の発信制限ルールを全て削除します。

(b) -lid 発信制限ルールID

削除する発信制限ルールの ID を指定します。

(c) -h

本コマンドの使用方法を表示します。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには Administrators 権限が必要です。
- 同一引数を複数指定した場合は，最後の引数が使われます。

以下のような場合は，発信制限ルールの削除は行われません。

- コマンドライン引数の指定が不正
- コマンドを実行するユーザが Administrators 権限を持っていない
- -lid 引数で指定された発信制限ルール ID が存在しない

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。

戻り値	説明
0 以外	発信制限ルールの削除に失敗しました。

コマンドの実行結果は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

(6) 使用例

例 1：

全ての発信制限ルールを削除する。

```
teldlim delete -all
```

11.4.3発信制限ルールの表示

(1) 機能

発信制限ルールの表示を行います。発信制限機能の詳細については 2.3.27 を参照してください。

(2) 形式

```
teldlim     list
            [ -lid 発信制限ルールID ]
            [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -lid 発信制限定義ID

特定の発信制限ルールの情報だけを表示する場合，そのルールの ID を指定します。この引数を省略するとすべての発信制限ルールを表示します。

(b) -h

本コマンドの使用方法を表示します。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには Administrators 権限が必要です。
- 同一引数を複数指定した場合は，最後の引数が使われます。

以下のような場合は，発信制限ルールの表示は行われません。

- コマンドライン引数の指定が不正
- コマンドを実行するユーザが Administrators 権限を持っていない
- -lid 引数で指定された発信制限ルール ID が存在しない

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
0 以外	発信制限ルールの表示に失敗しました。

コマンドの実行結果は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

(6) 使用例

例 1：

全ての発信制限ルールを表示する。

```
teldlim list
```

(7) 発信制限ルールの表示例

発信制限ルールの表示例を以下に示します。

```
[共通設定]
条件: 1回 / 5秒。

[発信制限ルール1]
対象:
連絡網: 001/1000,002/*,003/10*
優先度: 全て
条件: 1回 / 5秒。

[発信制限ルール2]
対象:
通知ID: 1000-2000
優先度: 3,4
条件: 10回 / 60秒。発信制限されたteldialも数える。
```

11.4.4 発信制限ルールの状態リセット

(1) 機能

発信制限ルールの状態リセット，つまり発信制限ルールごとに記憶している「そのルールに適合する発信を検出した履歴」をクリアします。発信制限機能の詳細については 2.3.27 を参照してください。

(2) 形式

```
teldlim     reset
            { -all | -lid 発信制限ルールID }
            [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -all

発信制限ルールすべてについて，その状態リセットを実行します。

(b) -lid 発信制限定義ID

特定の発信制限ルールの状態だけをリセットする場合，そのルールの ID を指定します。

(c) -h

本コマンドの使用方法を表示します。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには Administrators 権限が必要です。
- 同一引数を複数指定した場合は，最後の引数が使われます。

以下のような場合は，発信制限ルールの状態リセットは行われません。

- コマンドライン引数の指定が不正
- コマンドを実行するユーザが Administrators 権限を持っていない
- -lid 引数で指定された発信制限ルール ID が存在しない

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
0 以外	発信制限ルールの状態クリアに失敗しました。

コマンドの実行結果は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

(6) 使用例

例 1：

LID が 3 である発信制限ルールの状態をリセットする。

```
teldlim reset -lid 3
```

11.5 ネットワーク監視抑止と抑止解除コマンド（telnethd）

(1) 機能

TELstaff に対して，ネットワーク監視の抑止と再開の指示をします。telnethd コマンドを使用できる人は，TELstaff ユーザ管理でユーザ登録した人の中で，パスワードの指定があるユーザだけです。telnethd コマンドは，AEPE および AESE で使用できます。

(2) 形式

```
telnethd    { -h {ホスト名 | ホスト総称名＊}
              | -r {ホスト名 | ホスト総称名＊} }
            -u ユーザ名
            -p パスワード
```

(3) 引数

(a) -u ユーザ名

TELstaff サービス開始前に TELstaff に登録されているユーザ名を指定します。
ユーザ名に使用できない文字や文字数の上限については「5.1.10(1)(a) 「ユーザ名」メッセージボックス」を参照してください。

（例） -u user001

(b) -p パスワード

-u オプションで指定したユーザのパスワードを指定します。
（例） -p 0001

(c) -h

ネットワーク監視を一時的に中断するホストをホスト名，またはホスト総称名＊で指定します。-r オプションと同時には指定できません。
（例） -h HOST1

(d) -r

一時的に中断しているホストのネットワーク監視を再開させる場合に，再開させたいホストをホスト名，またはホスト総称名＊で指定します。-h オプションと同時には指定できません。
（例） -r HOST＊

(e) ホスト名

ある特定のホストのネットワーク監視を一時的に中断する，または再開する場合に，ホスト名を指定します。
（例） -h HOST001
-r HOST001

(f)　ホスト総称名＊

ホスト名の先頭数文字が同じ複数のホストのネットワーク監視を一時的に中断する，または再開する場合に，先頭数文字をホスト総称名とし，「＊」を付加して指定します。「＊」だけの指定は，全てのホスト名が対象になります。

（例）　-h HOST＊
　　-r HOST＊
　　-h ＊
　　-r ＊

(4) 注意事項

- このコマンドは，TELstaff サービスが起動中の場合だけ実行できます。サービス未起動時にこのコマンドを実行しても，その要求は無効となります。
- 総称名を指定した場合は，その総称名に一致する既に監視状態にあるホストだけが対象となります。
- ユーザ名とパスワードは，TELstaff に登録されているユーザのユーザ名とパスワードを指定します。TELstaff サービス起動中にユーザを登録した場合は，TELstaff サービスを再起動したあとに登録したユーザ名とパスワードが使用できます。
- 短時間に大量のコマンド実行させた場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。
- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	telnethd コマンドを正常に受け付けました。
0 以外	telnethd コマンドの受け付けができませんでした。エラーの詳細は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

telnethd コマンド実行結果は，ログビューアウィンドウの「TELstaff メッセージ記録」と「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

(6) 使用例

例 1：

ホスト名（HOST01）のネットワーク監視を一時的に中断します。

```
telnethd  -u user001  -p 0001  -h HOST01
```

例 2：

ホスト名が「HOST」で始まる，すべてのホスト名のネットワーク監視を再開します。

```
telnethd  -u user001  -p 0001  -r HOST*
```

例 3：

```
telnethd  -u user001  -p 0001  -r *
```

11.6 稼動状況監視の監視と抑止のコマンド（tlpwrspd）

(1) 機能

稼動状況監視の監視グループごとに，監視の抑止または抑止解除を行います。このコマンドは，AEPE で使用できます。

(2) 形式

```
tlpwrspd    [ -t {suspend | release} ]
            { -gn 監視グループ名 | -all }
```

(3) 引数

(a) -t { suspend | release }

監視の抑止を行う場合は，suspend を指定します。監視抑止の解除を行う場合は，release を指定します。このオプションを省略すると監視の抑止を行います。

(b) -gn 監視グループ名

監視の抑止または監視抑止の解除を行う監視グループ名を，半角 255 文字以内で指定します。

複数の監視グループ名を指定する場合は「,」（半角カンマ）で区切って指定します。

監視グループ名に空白や「"」（ダブルコーテション）を含む場合は，監視グループ名を「"」（ダブルコーテション）で囲って指定します。

本引数を-all 引数と同時に指定する場合，コマンドは-all 引数に従って動作します。

(c) -all

全ての監視グループに対して，監視の抑止または監視抑止の解除を行う場合に指定します。本引数を-gn 引数と同時に指定する場合，コマンドは本引数に従って動作します。

(4) 注意事項

- 本コマンドを同時に複数実行することはできません。
- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	コマンドの実行に成功しました。
0 以外	コマンドの実行に失敗しました。

(6) 使用例

例 1：

「メールサーバの監視」という名称の監視グループの監視を抑止します。

```
tlpwrspd  -t  suspend  -gn  メールサーバの監視
```

例 2：

全ての監視グループの監視抑止を解除します。

```
tlpwrspd  -t  release  -all
```

11.7 定義情報のバックアップ・リストアコマンド（telsback）

(1) 機能

TELstaff の環境設定などの設定情報や連絡網などの定義情報を保管（バックアップ）または回復（リストア）します。

telsback コマンドは AEPE, AESE, AECL で使用でき，インストールされている全ての製品の設定情報と定義情報をバックアップまたはリストアします。

(2) 形式

```
telsback    { -m backup [ -ef バックアップファイル名 ] [ -ow ]
              | -m restore [ -if リストアファイル名 ] }
            [ -nd ]
```

(3) 引数

(a) -m

バックアップを行う場合は backup，リストアを行う場合は restore と指定します。引数 -m の指定を省略すると，バックアップを実行します。

(b) -ef バックアップファイル名

バックアップファイル名をファイル完全名で指定します。作成するバックアップファイルには，「読み取り専用」属性を付加します。

バックアップファイル名の拡張子は，「.exp」を指定してください。拡張子を指定しない場合や，その他の拡張子を指定した場合，バックアップファイル名の拡張子を「.exp」に変更します。-ef を省略すると，「名前を付けて保存」ダイアログボックスを表示します。-ef を指定し，バックアップファイル名を指定しない場合や，存在しないフォルダを指定した場合，定義情報の保管（バックアップ）はできません。

（例） -ef "C:¥telstaffbackup.exp"

(c) -ow

-ef で指定するバックアップファイルが既に存在するとき，上書き保存する場合に指定します。-ow を省略すると，既に存在するバックアップファイルを別のファイル名（yyyymmddhhmmss の情報を付与したファイル名）で保存して定義情報の保管（バックアップ）を行います。

(d) -if リストアファイル名

リストアする内容を含んだバックアップファイル名を完全名で指定します。

また引数 -if を省略すると，「ファイルを開く」ダイアログボックスを表示します。

（例） -if "C:¥telstaffbackup.exp"

(e) -nd

引数 -nd を指定すると，バックアップ・リストアの処理実行後にログファイルを開かずに終了します。

ログファイルは Windows 標準の「メモ帳」を起動して開きます。そのため本コマンドをバッチファイル等に組み込んで自動運用する場合，本オプションの指定をお勧めします。

(4) 注意事項

- TELstaff ウィンドウ-【ファイル】メニューの【定義情報の保管（バックアップ）(B)】を選択して定義情報の保管ツールを実行中の場合や，スタートメニューの【TELstaff ツール】から【定義情報の保管（バックアップ）】を選択して定義情報の保管ツールを実行中の場合，本コマンドは実行できません。
- TELstaff ウィンドウ-【ファイル】メニューの【定義情報の回復（リストア）(R)】を選択して定義情報の回復ツールを実行中の場合や，スタートメニューの【TELstaff ツール】から【定義情報の回復（リストア）】定義情報の回復ツールを実行中の場合，本コマンドによる定義情報の保管（バックアップ）はできません。
- TELstaff サービスが起動中，または Alarm View が起動中の場合，本コマンドによる定義情報の回復（リストア）はできません。定義情報の保管（バックアップ）は可能です。定義情報操作コマンドが実行中の場合，本コマンドによる定義情報の保管（バックアップ）・回復（リストア）はできません。
- 個別に作成した通知文ファイルやユーザコマンドファイルなどは，バックアップできません。
- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	定義情報の保管（バックアップ）・回復（リストア）が正常に終了しました。
0 以外	定義情報の保管（バックアップ）・回復（リストア）ができませんでした。

telsback コマンドの実行結果は，コマンド実行後にデスクトップに作成される「バックアップ実行結果へのショートカット」ファイルまたは「リストア実行結果へのショートカット」ファイルを開いて確認できます。

(6) 使用例

例 1：

ファイル「C:¥telstaffbackup.exp」に定義情報のバックアップを取得します。

```
telsback  -ef "C:¥telstaffbackup.exp"
```

例 2：

「C:¥telstaffbackup.exp」が既に存在する場合，上書きして定義情報のバックアップを取得します。

```
telsback  -ef "C:¥telstaffbackup.exp"  -ow
```

例 3：

「C:¥telstaffbackup.exp」が既に存在する場合，自動的に別名保存し，新たに「C:¥telstaffbackup.exp」に定義情報のバックアップを取得します。既存の「C:¥telstaffbackup.exp」は，「C:¥telstaffbackup _yyyymmddhhmmss.exp」の形式で別名保存されます。

```
telsback  -ef "C:¥telstaffbackup.exp"
```

例 4 ：

「C:¥telstaffbackup.exp」を作成した時点における TELstaff の定義内容を現在の TELstaff にリストアします。

```
telsback  -m  restore  -if "C:¥telstaffbackup.exp"
```

11.8 電源オン・オフ監視コマンド（telsping）

(1) 機能

ネットワーク機器の電源オン・オフ監視を行います。例えば，営業日の毎日午前 0 時にサーバの電源がオフでなければ関係者に通知し，営業日の毎日午前 8 時にサーバの電源がオンでなければ関係者に通知します。ネットワーク機器の電源入れ忘れ，切り忘れの警告ができます。

電源オン・オフ監視は，Ping 機能を利用し，Ping 応答メッセージの有無で接続中および未接続（電源オン・オフ）状態を監視します。このため未接続にもかかわらず Ping 応答メッセージを返すようなネットワーク機器や Ping 機能に対応していないネットワーク機器に対しては使用できません。

定期的に監視するには，Windows のタスクスケジューラを利用するか，またはスケジューリング運用ツールを利用します。休業日は，監視しないで，営業日だけを監視するには，TELstaff のカレンダー・スケジュール機能を利用します。

(2) 形式

```
telsping    { -c { IPアドレス | ホスト名[:説明] }
              | -l ファイル名 }
            [ -t 待ち時間(秒) ]
            [ -n 回数:間隔(秒) ]
            [ -m 回数:間隔(秒) ]
            [ -s {alive | die} ]
            [ -p "teldialコマンドパラメタ" ]
            [ -o delete ]
            [ -a ]
```

(3) 引数

(a) -c { IPアドレス | ホスト名[:説明] }

電源オン・オフを監視する機器の IP アドレス，またはホスト名を指定します。ホスト名を指定するときは，Hosts ファイルへの登録，または DNS への登録が必要です。

-l オプションと同時に指定できません。-l パラメタを指定した場合は，-l オプションを使用します。

IP アドレス，またはホスト名は，~node~変数で参照できます。~node~変数は，-p オプションで使用します。

ホスト名に対する説明を半角コロン「:」の後に指定します。説明には空白文字は，使用できません。説明文字数は，全角文字で 20 文字，半角文字では 40 文字まで指定できます。

説明内容は，~remark~変数で参照できます。説明がないとき~remark~変数は，半角スペースとなります。~remark~変数は，-p オプションで使用します。

（例１）　-c 100.100.100.10:ＤＢサーバ

（例２）　-c [2002:xxxx:xxxx::xxxx:xxxx]:ＤＢサーバ

(b) -I ファイル名

電源オン・オフを監視する機器の IP アドレスまたはホスト名を定義したファイル名を拡

張子が txt の完全名で指定します。-c オプションと同時に指定できません。-c オプションを指定した場合は，-l オプションが使用されます。-l オプションを省略する場合は，必ず-c パラメタを指定しなければなりません。-l オプションは，~node~，~remarak~変数は使用できません。

監視する IP アドレスまたはホスト名の定義形式を以下に示します。

```
ホスト名
ホスト名:説明
IPv4形式IPアドレス
IPv4形式IPアドレス:説明
```

- ホスト名：ホスト名または IP アドレスを指定します。
- 説明：ホスト名に対する説明を「:」の後に指定します。説明には空白は指定できません。文字数は，全角文字で 20 文字，半角文字では 40 文字まで指定できます。
- #で始まる行は，注釈行となります。

（例）

```
#
100.100.100.1
100.100.100.2:DBサーバ
100.100.100.3
host1
host2
host3
```

（例） -l C:¥hostlist.txt

(c) -t 待ち時間

Ping メッセージ待ち時間を秒で指定します。-t オプションを省略した場合，3 秒となります。

（例） -t 5

(d) -n 回数:間隔

Ping 繰り返し回数を 2 からｎ回で指定します。繰り返し間隔時間（秒）を半角コロン「：」のあとに指定します。繰り返し間隔時間を指定するときは，回数は省略できません。繰り返し間隔を省略すると 120 秒となります。

-n オプションを省略すると１回となります。-n オプションと-m オプションを指定した場合は，最後の-n オプションまたは-m オプションを使用します。

-n オプション指定では，１回でも状態が成立すれば，-p のパラメタで teldial コマンドを実行します（OR 条件）。

- -s alive 指定：
  ｎ回のうち１回でも Ping 成功のとき teldial コマンド実行。
- -s die 指定：
  ｎ回のうち１回でも Ping エラーのとき teldial コマンドを実行。

（例）-n 3:100

(e) -m 回数:間隔

Ping 繰り返し回数を 2 から m 回で指定します。繰り返し間隔時間（秒）を「:」（半角コロン）のあとに指定します。繰り返し間隔時間を指定するときは，回数は省略できません。繰り返し間隔を省略すると 120 秒となります。

-m オプションを省略すると 1 回となります。-n オプションと-m オプションを指定した場合は，最後の-n オプションまたは-m オプションを使用します。

-m オプション指定では，m 回全て同じ状態のとき，-p のオプションで teldial コマンドを実行します（AND 条件）。

- -s alive 指定：
  m 回全て Ping 成功のとき teldial コマンド実行。
- -s die 指定：
  m 回全て Ping エラーのとき teldial コマンドを実行。

（例） -m 3:100

(f) -s { alive | die }

動作条件を指定します。-s 省略は die 指定となります。

-s ｵﾌﾟｼｮﾝ	監視方法	説　　明
alive	オン監視	接続中のとき-p で指定されたパラメタで teldial コマンドを実行します。
die	オフ監視	未接続であれば，-p で指定されたパラメタで teldial コマンドを実行します。

（例）-s die

(g) -p ″teldialコマンドパラメタ″

-p オプションで teldial コマンドを実行します。パラメタに空白があるときは「″」（半角ダブルコーテーション）で囲んで指定します。

~node~変数があると-c オプションで指定した IP アドレスまたはホスト名と置き換えます。~remark~変数があると，-c パラメタの説明と置き換えます。また，-ih ~node~または-ip ~node~を使用することで，ネットワーク監視機能を利用できます。-p オプションを省略すると，teldial コマンドを実行しません。

-p パラメタでは，-ff，-fm，-fc，-fb，-fv，-uf，-fi オプションには空白を含むファイル名は指定できません。

-l オプションを指定した場合，-s の動作条件に一致したホスト名/IP アドレスの一覧を~hostfile~変数で参照でき，通知文には，~UserInformation~変数で挿入できます。

-p オプションの指定

```
-p ″-uf  ~hostfile~
```

通知文の例

```
Subject: 電源切り忘れ警告メール

以下の機器の電源切り忘れがありました。
```

```
チェックしたのは，~date1~ の ~time1~ です。

-------電源切り忘れ機器一覧----------------
~UserInformation~
```

（例）-c 100.100.100.1:サーバ -p "-u ~node~/~remark~ 1000"

(h) -o delete

-l オプションで指定したファイルをコマンド実行終了後に削除します。オプションの値としいて，必ず delete と指定してください。

(i) -a

このオプションを指定すると，複数回の ping を行うよう -m または -n のオプションで指定した場合で，指定された回数の ping を実行せずに監視対象の稼働状態を判定できる場合に，繰り返しを行わず処理を切り上げます。

使用する繰り返しオプション	-s オプションの指定	動作
-m	alive	PING エラーが発生すると繰り返しを打ち切ります
-m	die *1	PING 成功が発生すると繰り返しを打ち切ります
-n	alive	PING 成功が発生すると繰り返しを打ち切ります
-n	die *1	PING エラーが発生すると繰り返しを打ち切ります

*1　　-s オプションを指定しない場合も含みます

（例）-m 2 -s die　　（1回目のpingで応答あれば2回目のpingは省略します）

(4) 注意事項

- telsping コマンドは，使用するネットワーク機器やネットワーク構成で使用できない場合があります。使用する前には事前にテストをおこなってください。
- -l オプションで監視ホストを複数指定した場合，teldial コマンドを監視ホスト分一度に実行させます。このため，指定できるホスト数は，Windows のリソースにより制限があります。
- 同じオプションを指定した場合は，最後のオプションが使用されます。
- -c オプションと-l オプションを両方指定したときは，-l オプションが使用されます。
- -m オプションと-n オプションを両方指定したときは，最後のオプションが使用されます。
- オプション全て省略したときは，監視記録情報を削除します。ネットワーク構成変更を行った場合は，監視記録情報を削除してください。
- ~hostfile~変数で作成されるホスト名/IP アドレス一覧ファイルは，TELstaff インストールフォルダの temp フォルダに host?????.tmp のファイル名で作成します。telsping コマンドが終了してもこのホスト名/ IP アドレス一覧ファイルは削除されませんので定期的に削除してください。
- 短時間に大量のコマンド実行させた場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。

- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

ありません。

(6) 使用例

例 1：

営業日の毎日の 9 時に DB サーバの電源がオンでなければ通知する。

- 連絡網 ID 1000 を作成し，連絡網 ID 1000 のコマンド通知メディアに次のコマンドを登録します。

```
telsping  -c 100.100.100.1:DBサーバ  -t 5  -s die  -p ″ -u ~node~~remark~  2000″
```

- 連絡網 ID 1000 のカレンダーに営業日と休業日を設定します。
- 連絡網 ID 1000 のスケジュールの平日は，全日コマンド実行可能とし，休日は，全日コマンド実行不可として設定します。
- 連絡網 ID 2000 を作成し，通知用の通知ルールを設定します。通知文に~UserInformation~変数を使用することで，通知文にホスト名/IP アドレスと説明文を挿入できます。
- Windows のタスクスケジューラに，連絡網 ID 1000 を毎日 9 時に起動する設定をします。

例 2：

営業日の毎日の 18 時にネットワークプリンタ 1，2 の電源がオフでなければ通知する。

- 連絡網 ID 1000 を作成し，連絡網 ID 1000 のコマンド通知メディアに次のコマンドを登録します。

```
パス名¥telsping -l  C:¥hostlist.txt  -s alive  -p ″-uf ~hostfile~  -d  2000
```

- 連絡網 ID 1000 のカレンダーに営業日と休業日を設定します。
- 連絡網 ID 1000 のスケジュールの平日は，全日コマンド実行可能とし，休日は，全日コマンド実行不可として設定します。
- C:¥hostlist.txt ファイルに監視機器を登録します。

```
100.100.100.1: プリンタ1
100.100.100.2: プリンタ2
```

- 連絡網 ID 2000 を作成し，通知用の通知ルールを設定します。メールに機器名を通知するときは，メール文に~UserInformation~変数を指定します。
- Windows のタスクスケジューラに，連絡網 ID 1000 を毎日 18 時に起動する設定をします。

11.9 WAVファイル再生コマンド（telsndpl）

(1) 機能

WAV ファイルの再生を行います。telsndpl コマンドを使用するときは，コンピュータにサウンドボードとスピーカが必要です。またサウンドデバイスを使用できることが必要です。

(2) 形式

```
telsndpl    -f WAVファイル [ -n 再生回数 ]
telsndpl    -p [0 | 1]
```

(3) 引数

(a) -f WAVファイル

再生する音声ファイルを，ファイル完全名で指定します。ファイル拡張子は.wav である必要があります。

WAV ファイルを複数指定する場合は，「+」区切りで指定します。ファイル完全名の中に空白文字がある複数の WAV ファイルを指定するときは，-f オプション全体，またはファイル名を「"」（ダブルコーテーション）で囲んでください。

WAV ファイルの大きさによっては，再生されない場合があります。WAV ファイルが再生されない場合は，WAV ファイルのサイズが小さいファイルを指定してください。

```
（例） -f "C:¥Program files¥sample.wav"
       -f "C:¥Program files¥sample1.wav+C:¥Program files¥sample2.wav"
       -f "C:¥Program files¥sample1.wav"+"C:¥Program files¥sample2.wav"
```

(b) -n 再生回数

指定された WAV ファイルを何回再生するかを 1 以上の数値で指定します。複数のファイルを指定した場合，各ファイルを再生したあとに全体を回数分繰り返します。

-n オプションを省略すると 1 回だけ再生します。また再生回数として 0 は指定できません。

(c) -p [0 | 1]

音声再生中に他の音声再生指示を受け付けた場合に，現在実行中の再生をどう制御するかを指定します。なおここでの音声再生には(1)他の telsndpl コマンドによる音声再生，(2)デスクトップ通知のサウンド再生，(3)デスクトップ通知のメッセージ読み上げ，および(4)TELstaff エージェントメッセージの音声読み上げを含みます。以下に示すいずれかの方法を選択して指定してください。なお本オプションは，-f オプションと同時使用することはできません。

- 0

  現在実行中の音声再生を優先し，中断しません。後から受け付けた音声再生は，現在再生中の音声を最後まで再生した後に実行されます。

  本動作方法の場合，音声再生は，1 件ごとの完了を待つため，短時間に複数の再生要求が発生した場合，後続の通知が遅れる可能性があります。

  AEAV インストール直後は，本動作に設定されます。

- 1

  現在実行中の音声再生を中断し，後から受け付けた音声再生はすぐに実行されます。

  AEPE，AESE または AECL インストール直後は，本動作に設定されます。

- 値無し

  「-p 1」の実行後である場合は，現在行われている telsndpl コマンドでの音声再生を終了させます。「-p 0」の実行後である場合は，現在行われている telsndpl コマンドでの音声再生は終了せず，「-p 1」同様の設定を行い，次回の telsndpl コマンドによる音声再生から中断ができるようにします。

(4) 注意事項

- TELstaff のコマンド実行機能で本コマンドを実行する場合，WAV ファイルが正しく再生されないことがあります。その場合，［環境設定］－［全般］－［読み上げやサウンド再生に MCI を使用する」チェックボックスをチェックすると改善することがあります。
- Windows の sndrec32 コマンド，サウンドレコーダ，またはその他 MediaPlayer 実行中のとき，telsndpl コマンドは使用できません。
- 短時間に大量のコマンド実行させた場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。
- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	telsndpl コマンドを正常に受け付けました。
0 以外	telsndpl コマンドの受け付けができませんでした。エラーの詳細は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

telsndpl コマンド実行結果は，ログビューアウィンドウの「TELstaff コマンド受付け記録」で確認できます。

(6) 使用例

例 1：

sound1.wav ファイルと sound2.wav ファイルを 2 回再生します。

```
telsndpl -f sound1.wav+sound2.wav -n 2
```

11.10 テキスト読み上げコマンド（telsmart）

(1) 機能

テキスト（文字情報）の読み上げを行います。telsmart コマンドを使用するには音声合成ソフトウェアと，コンピュータにサウンドボードとスピーカが必要です。またサウンドデバイスを使用できることが必要です。

テキストをどのように読み上げるかは，［テキスト音声変換の設定］－［音声合成ソフトウェア］タブで設定します。詳細は 4.3.1(1)を参照してください。

(2) 形式

```
telsmart    { -f ファイル名 | -t 文字列 }
            [ -u 文字列 ]
            [ -n 繰り返し回数 ]
            [ -d ]
            [ -sl {ja | en | zh} ]
```

(3) 引数

(a) -f ファイル名

読み上げるテキストファイルを，ファイル完全名で指定します。通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

テキストファイルの内容には，~date~，~date1~，~date2~，~time~，~time1~，~UserInformation~変数が使用できます。~UserInformation~変数は，-u オプションで指定した文字列に置き換わります。また，-f オプションと-t オプションの両方を省略することはできません。また，-t オプションと併用した場合，-t で指定した文字列を読み上げた後に，続けて-f で指定したファイルの内容が読み上げされます。

(b) -t 文字列

読み上げる文字列を指定します。通知先で音声合成ソフトウェアと連携して，メッセージ読み上げする場合の文字数の制限に関しては「表 1.4-11 各音声合成ソフトウェア用の通知文ファイルの文字コードと最大サイズ」を参照してください。

-f オプションと-t オプションの両方を省略することはできません。また，-t オプションと併用した場合，-t で指定した文字列を読み上げた後に，続けて-f で指定したファイルの内容が読み上げされます。

空白を含む文字列を指定する場合は「"」（ダブルコーテーション）で値全体を囲んでください。その場合「"」は読み上げされず，また文字数制限の計算時には「"」はカウントされません。

(c) -n 繰り返し回数

音声読み上げの繰り返し回数を指定します。

-n オプションを省略した場合，または 0 を指定した場合，［読み上げ方法設定］－［標準の読み上げ繰り返し回数］の指定にしたがって繰り返しを行います（4.3.1(1)(e)参照）。また繰り返し中に次のコマンドを実行すると，繰り返しを停止できます。

```
<TELstaffインストールフォルダ>¥PROGRAM¥teltkstp.exe
```

(d) -u 文字列

~UserInformation~変数に置き換える文字列を指定します。空白を含む文字列を指定するときは，「"」（半角ダブルコーテーション）で囲んで指定します。

(e) -d

telsmart コマンド終了時に，-f オプションで指定したファイルを削除します。

(f) -sl { ja | en | zh }

どの言語でテキスト読み上げを行うかを，言語コードで指定します。

使用する音声合成ソフトウェアごとに使用可能な言語は異なります。各音声合成ソフトウェアで使用可能な言語の言語コード，およびテキストファイルで使用すべき文字コードについては表 1.4-10 を参照してください。なお同表に無い言語コードを指定した場合，日本語での通知を行います。

(4) 注意事項

- 音声読み上げの開始から 5 分を超えると，それ以上の繰り返しは行わず打ち切ります。
- telsmart コマンド実行中に以下の機能による音声再生が行われた場合，telsmart コマンドの実行終了を待ちます：
  - ✧ telsmart コマンド
  - ✧ telsndpl コマンド
  - ✧ メッセージエージェントの読み上げ
  - ✧ メッセージエージェントの WAV ファイル再生
  - ✧ デスクトップ通知の読み上げ
  - ✧ デスクトップ通知のサウンド再生
  - ✧ TELstaff メッセージの音声通知
- Windows の sndrec32 コマンド，サウンドレコーダ，またはその他 MediaPlayer 実行中のとき，telsmart コマンドは使用できません。
- telsmart コマンドの実行では，CPU やメモリなどのシステムリソースが多く使用されます。短時間に大量のコマンド実行させた場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。
- コマンドライン引数は，Windows システムの規則にしたがって切り出されます。TELstaff の変数に「"」（ダブルコーテーション）を含む文字列を扱う場合には注意してください。
- 音声合成ソフトウェアを使用して読み上げを行うとき，CPU やメモリなどのシステムリソースが多く使用される場合があります。また，読み上げる文字列によっては，コマンド実行から音声読み上げ開始までに時間を要する場合があります。
- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

不定

(6) 使用例

例 1：

sample.txt ファイルのテキスト（文章）を読み上げます。

```
telsmart  -f  sample.txt
```

例 2：

-t オプションで指定した文字列を読み上げます。

```
telsmart  -t "この文章を読み上げます。"
```

11.11 電源制御コマンド（tlshdrbt）

(1) 機能

Windows のリモート PC をシャットダウンまたは再起動します。このコマンドは，AEPE で使用できます。

(2) 形式

```
tlshdrbt    { -f リストファイル
              | -h 制御対象のホスト名
                -u ログインユーザ名
                [ -p ログインパスワード ] }
            [ -o 電源制御方法 ]
            [ -a 起動中アプリケーションを強制終了するかどうか ]
            [ -t 電源制御実行までの待機時間（秒単位）]
            [ {-ms | -mf} メッセージ ]
            [ -r シャットダウン時の理由コード ]
            [ -d 引数-fと-mfで指定したファイルの削除指定 ]
            [ -c ]
```

(3) 引数

(a) -f

電源制御する PC の情報を記載したファイルの完全ファイルパスを指定します。本オプションを指定しない場合は，-h，-u，-p で指定された PC を電源制御します。本オプションと，-h，-u，-p オプションは同時に指定できません。本オプションおよび -h オプションを指定しない場合，コマンドはエラーとなります。電源制御する PC の情報を記載したリストファイルの形式については「(6)リストファイルの形式」を参照して下さい。

(b) -h

電源制御する PC のホスト名または IP アドレスを，半角 252 文字以内で指定します。この引数と-f は同時に指定できません。本オプションおよび -f オプションを指定しない場合，コマンドはエラーとなります。

(c) -u

電源制御する PC のログインユーザアカウントを，半角 1025 文字以内で指定します。本オプションを指定しない場合，コマンドはエラーとなります。ドメインに所属する PC の電源制御を行う場合，「ドメイン名¥ユーザ名」となるようドメイン名，「¥」，ユーザ名と空白を入れず続けて記してください。

(d) -p

電源制御する PC のログインユーザアカウントのパスワードを，半角 1025 文字以内で指定します。本オプションを指定しない場合，ログインユーザアカウントのパスワードは無し（空文字列）となります。

(e) -o

電源制御の方法を次の値から一つ選んで指定します。

● off

制御対象をシャットダウンします。

● reboot

制御対象を再起動します。

本オプションが指定されなかった場合，オプションの値が省略された場合，および上記以外の値が指定された場合には，制御対象をシャットダウンします。

(f) -a

シャットダウンまたは再起動を行うときに，制御対象の Windows PC で起動しているアプリケーションを強制終了するかどうかを次の値から一つ選んで指定します。

● manual

起動中のアプリケーションが終了するまで待ち，その後でシャットダウンまたは再起動を開始します。

● auto

起動中のアプリケーションの終了を待たずにシャットダウンまたは再起動を開始します。

本オプションが指定されなかった場合，オプションの値が省略された場合，上記以外の値が指定された場合には，起動中アプリケーションの終了を待ちます。

なお manual を指定しても本コマンドが終了待ちになることはありません。

(g) -t

シャットダウンまたは再起動実行までのカウントダウン時間を秒単位で指定します。指定可能な値は 0～3600 秒です。

本オプションが指定されなかった場合，オプションの値が省略された場合，上記以外の値が指定された場合には，すぐにシャットダウンまたは再起動を実行します。

なお本コマンドは監視対象のシャットダウンを待たずに終了します。

(h) -ms

電源制御する PC にログインしているユーザに通知するメッセージを，半角 256 文字（全角 128 文字）以内で指定します。本オプションと，-mf オプションを同時に指定した場合，-ms オプションで指定された内容を表示します。本オプションと-mf オプションを両方とも指定しない場合，標準のメッセージを表示します。標準のメッセージについては「表 2.6-1 通知文カスタマイズ項目一覧」の「稼動状況監視用－シャットダウン時の標準メッセージ」および「稼動状況監視用－シャットダウン時の標準メッセージ」を参照してください。

(i) -mf

電源制御する PC にログインしているユーザに通知するメッセージを記載したテキストファイルの完全ファイルパスを指定します。半角 256 文字（全角 128 文字）以内をメッセージとして表示します。本オプションと，-ms オプションを同時に指定した場合，-ms オプションで指定された内容を表示します。本オプションと -ms オプションを両方とも指定しない場合，標準のメッセージを表示します。標準のメッセージについては「表 2.6-1 通知文カスタマイズ項目一覧」の「稼動状況監視用－シャットダウン時の標準メッセージ」および「稼動状況監視用－シャットダウン時の標準メッセージ」を参照してください。

(j) -r

シャットダウンまたは再起動するときに，制御対象 PC の OS に記録されるシャットダウン理由コードを指定します。シャットダウン理由コードに指定可能な値については「(7) シャットダウン理由コード」を参照してください。

本オプションが指定されなかった場合，オプションの値が省略された場合，および不正な値が指定された場合には，「その他（計画済み）」の理由コードを使用します。

(k) -d

オプション-f と-mf で指定したファイルの削除方法を次の値から一つ選んで指定します。本オプションを指定しない場合，オプション-f と-mf で指定したファイルを削除しません。

●なし（-d のみ）

-d 0 と同様の削除を行います。

●0

オプション -f と -mf で指定したファイルを両方とも削除します。

●1

オプション -f で指定したファイルを削除します。オプション -f を指定していない場合は何もしません。

●2

オプション -mf で指定したファイルを削除します。オプション -mf を指定していない場合は何もしません。

指定した全制御対象についてシャットダウンまたは再起動に失敗した場合は，本オプションが指定されていてもファイルを削除しません。

(l) -c

制御対象 Windows PC の，カウントダウン中のシャットダウンまたは再起動をキャンセルします。

本オプションによるキャンセルは，-t オプションで指定したカウントダウン時間中のみ有効です。カウントダウン時間が終了した後はでキャンセルできません。

(4) 戻り値

戻り値	説明
0	成功
1	リストファイルで指定された複数の制御対象のうち，いくつかの制御に失敗しました
2	指定されたすべての制御対象の制御に失敗しました

tlshdrbt コマンドの実行結果は，ログビューアウィンドウの「電源制御コマンド実行記録」で確認できます。

(5) 使用例

例 1：

ログインユーザ名に Administrator，ログインパスワードに password を指定して，IP アドレス 192.168.1.111 のコンピュータをシャットダウンします。シャットダウンはログインしているユーザに通知されずに即時実行され，起動中のアプリケーションの終了も待ちません。

```
tlshdrbt -h 192.168.1.111 -u Administrator -p password -a auto
```

例 2：

ログインユーザ名に Administrator，ログインパスワードに password を指定して，コンピュータ SERVER1 を再起動します。再起動開始まで 30 分（1800 秒）を待ち，C:¥ShutdownMsg.txt の内容をログインユーザに通知します。

```
tlshdrbt -h SERVER1 -u Administrator -p password -o reboot -t 1800 -mf
"C:¥ShutdownMsg.txt"
```

(6) リストファイルの形式

tlshdrbt コマンドの -f 引数で指定するリストファイルは，次の表の項目をカンマ区切りで指定したファイルです。なお，第一列目の値が半角の #（シャープ）で始まる行はコメント行として無視します。

列番号	設定項目	値・説明
1	監視対象のホスト名 または IP アドレス	監視対象コンピュータのホスト名または IP アドレスを半角 1025 文字以内で指定します。制御対象の電源ユニットがネットワークに接続されているとき，機器の IP アドレスを半角 252 文字以内で指定します。制御対象の電源ユニットがシリアルポートに接続されているとき，本項目には値を指定しないでください。
2	ログイン用 ユーザアカウント	監視対象種別が「コンピュータ」の場合，ログインユーザアカウントを半角 1025 文字以内で指定します。 監視対象種別が「機器」の場合，本項目には値を指定しないでください。
3	ログイン用 パスワード	監視対象種別が「コンピュータ」のとき，ログインユーザアカウントに対するパスワードを半角 1025 文字以内で指定します。 監視対象種別が「機器」のとき，パスワードを半角 1025 文字以内で指定します。

(7) シャットダウン理由コード

tlshdrbt コマンドの -r 引数で指定できるシャットダウン理由コードとその説明を次の表に示します。

理由コード	説明
0	その他 (計画済)
1	その他 (計画外)
2	ハードウェア: メンテナンス (計画外)
3	ハードウェア: メンテナンス (計画済)
4	ハードウェア: インストール (計画外)
5	ハードウェア: インストール (計画済)
6	オペレーティング システム: アップグレード (計画済)
7	オペレーティング システム: 再構成 (計画外)
8	オペレーティング システム: 再構成 (計画済)
9	アプリケーション: メンテナンス (計画外)
10	アプリケーション: メンテナンス (計画済)
11	アプリケーション: 応答なし
12	アプリケーション: 不安定

(8) 注意事項

- 「4.15.8 コンピュータの電源制御」に記載の注意事項をご参照ください。
- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

11.12 ユーザインポートコマンド（tlusrimp）

(1) 機能

ユーザ定義情報を CSV ファイルからインポートします。本コマンドは，AEPE および AESE で使用できます。

(2) 形式

```
tlusrimp    { -name ユーザ名 | -all }
            -fu ユーザ定義ファイル名
            [ -fg ユーザグループ定義ファイル名 ]
            [ -fc カレンダー定義ファイル名 ]
            [ -fs スケジュール定義ファイル名 ]
            [ -pw システム管理者のパスワード ]
            [ -ow ]
```

(3) 引数

(a) -name ユーザ名

ユーザ定義ファイルに記述されたユーザのうち一部のユーザだけをインポート対象とする場合，そのユーザ名を指定します。ユーザ名に使用できない文字や文字数の上限については「5.1.10(1)(a) 「ユーザ名」メッセージボックス」を参照してください。複数のユーザ情報をインポートするときは「;」（セミコロン）で区切って指定してください。本引数は -all 引数と同時に指定することはできません。

（例） -name 田中;山田

(b) -all

ユーザ定義ファイルに記述されたすべてのユーザをインポート対象とする場合に指定します。本引数は -name 引数と同時に指定することはできません。

(c) -fu ユーザ定義ファイル

インポートするユーザ情報が記載されている CSV ファイルを完全パスで指定します。ユーザ定義ファイルの書式については，環境設定－「カスタマイズ」タブの“ユーザ情報インポートサンプルファイル”を参照してください。

（例） -fu "C:¥Import Data¥users.csv"

(d) -fg ユーザグループ定義ファイル

インポートするユーザグループ情報が記載されている CSV ファイルを完全パスで指定します。インポートしたいユーザが所属するユーザグループが，現システムで定義されていない場合，インポートと同時にユーザグループを作成することができます。ユーザグループ定義ファイルの書式については，環境設定－「カスタマイズ」タブの“ユーザグループ情報インポートサンプルファイル”を参照してください。

ユーザグループを新たに定義する必要が無い場合は，指定を省略できます。

なお，AESE では本引数は無効です。

（例） -fg "C:¥Import Data¥usergroups.csv"

(e) -fc カレンダー定義ファイル

インポートするユーザのカレンダー情報が記録されている CSV ファイルを完全パスで指定します。カレンダー定義ファイルの書式については，環境設定ー「カスタマイズ」タブの“カレンダー情報インポートサンプルファイル”を参照してください。

（例） -fc "C:¥Import Data¥calendar.csv"

(f) -fs スケジュール定義ファイル

インポートするユーザのスケジュール情報が記録されている CSV ファイルを完全パスで指定します。スケジュール定義ファイルの書式については，環境設定ー「カスタマイズ」タブの“スケジュール情報インポートサンプルファイル”を参照してください。

（例） -fs "C:¥Import Data¥schedule.csv"

(g) -pw 管理者ユーザの認証パスワード

TELstaff の「システム管理者」として登録されているユーザの情報を変更する場合，そのユーザのパスワードを指定します。また「システム管理者」を異なるユーザに変更する場合も指定が必要です。なお，管理者ユーザにパスワードが設定されていない場合は本引数の指定を省略してください。

（例） -pw 0123

(h) -ow

インポート対象と同じ名前のユーザが現システムに存在している場合，このオプションを指定すると既存の定義情報を上書きします。本オプションを指定しない場合，指定したユーザのうち一人以上が現システムに存在すると本コマンドはインポート処理を行わずに終了します。本オプションを指定した場合，既存ユーザの情報を消去した上でインポートを実行するため既存の情報は失われます。

(4) 注意事項

本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

インポートした定義情報は，次回の TELstaff サービス起動時から有効になります。

本コマンドは定義情報の保管（バックアップ）ツール，定義情報の回復（リストア）ツールが動作しているときには実行できません。またユーザ管理ウィンドウを開いている場合は，閉じてから本コマンドを実行してください。

同一引数を複数指定した場合は，最後の引数が使われます。引数でファイル名を指定する場合は，完全パスで指定してください。また引数に空白が含まれる場合は「"」（ダブルコーテーション）で囲んでください。

以下のような場合はインポートを行わずに中止します。

- コマンド引数の指定が不正（例：-name と-all の両方ともが指定されていない）
- 同時に起動できない他のコマンドなどが実行中（例：定義情報の回復（リストア）が動作している）
- コマンドを実行するユーザが Administrators 権限を持っていない
- 指定したファイルを開けない（例：表計算ソフトで該当 CSV ファイルを開いている）
- 指定したファイルで指定された値がインポート可能な条件を満たさない（例：ユーザ名に使用不可能な文字が含まれている）
- インポート対象として指定したユーザの情報がユーザ定義ファイルに記述されていない
- インポート対象として指定したユーザがすでに存在しているが -ow 引数が指定されていない
- インポートすると管理者ユーザの情報が変更されるが -pw の指定が無いか正しいパスワードでない
- 指定したファイルの個々の値は正常だが，インポートを実行すると TELstaff の状態が不正になる（例：システム管理者ユーザが複数存在する）

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
0 以外	インポートに失敗しました。エラーの詳細をログビューアウィンドウの「定義情報操作コマンド実行記録」で確認してください。

tlusrimp コマンド実行結果は，ログビューアウィンドウの「定義情報操作コマンド実行記録」で確認できます。

(6) 使用例

例１：

ユーザ「田中」の情報を C ドライブ直下に配置された CSV ファイル群から読み出して TELstaff にインポートします。

```
tlusrimp -fu C:¥users.csv -fc C:¥calendar.csv -fs C:¥schedule.csv
      -fg C:¥usergroups.csv -name 田中
```

11.13 ユーザエクスポートコマンド（tlusrexp）

(1) 機能

TELstaff で定義されているユーザ定義情報を CSV ファイル形式で出力します。本コマンドは AEPE および AESE で使用できます。

(2) 形式

```
tlusrexp    { -name ユーザ名 | -all }
            -fu ユーザ定義ファイル名
            [ -fg ユーザグループ定義ファイル名 ]
            [ -fc カレンダー定義ファイル名 ]
            [ -fs スケジュール定義ファイル名 ]
            [ -ow ]
```

(3) 引数

(a) -name ユーザ名

エクスポート対象とするユーザの名前を指定します。複数のユーザ情報をエクスポートする場合は「;」（半角セミコロン）でユーザ名を区切って指定してください。本引数は，-all 引数と同時に指定することはできません。

（例）-name 田中;山田

(b) -all

すべてのユーザ定義情報を対象とする場合に指定します。本引数は-name 引数と同時に指定することはできません。

(c) -fu ユーザ定義ファイル

エクスポートするユーザ情報を記載した CSV ファイルの出力先を完全パスで指定します。

（例）-fu "C:¥Import Data¥users.csv"

(d) -fg ユーザグループ定義ファイル

エクスポートするユーザグループ情報を記載した CSV ファイルの出力先を完全パスで指定します。本引数の指定を省略すると，ユーザグループ情報は出力されません。また，TELstaff AE Standard Edition では本引数は無効です。

（例）-fg "C:¥Import Data¥usergroups.csv"

(e) -fc カレンダー定義ファイル

情報をエクスポートするユーザ個別に定義されているカレンダー情報を記載した CSV ファイルの出力先を完全パスで指定します。本引数の指定を省略すると，カレンダー情報は出力されません。

（例）-fc　"C:¥Import Data¥calendar.csv"

(f)　-fs スケジュール定義ファイル

情報をエクスポートするユーザ個別に定義されているスケジュール情報を記載した CSV ファイルの出力先を完全パスで指定します。本引数の指定を省略すると，スケジュール情報は出力されません。

（例）-fs　"C:¥Import Data¥schedule.csv"

(g)　-ow

エクスポート結果の出力先として指定したファイルと同名のファイルが存在している場合，そのファイルに上書きする場合に指定します。本引数を指定しない場合，出力先として指定したファイルがすでに存在するとエクスポート処理を中止します。

(4) 注意事項

本コマンドを実行するには Administrators 権限が必要です。

本コマンドは定義情報の保管（バックアップ）ツール，定義情報の回復（リストア）ツールが動作しているときには実行できません。またユーザ管理ウィンドウを開いている場合は，閉じてから本コマンドを実行してください。

同一引数を複数指定した場合，最後の引数が使われます。引数でファイル名を指定する場合は，完全パスで指定してください。また引数に空白が含まれる場合は「"」（ダブルコーテーション）で囲んでください。

以下のような場合はエクスポートを行わずに中止します。

- コマンド引数の指定が不正（例：-name と-all の両方ともが指定されていない）
- 同時に起動できない他のコマンドなどが実行中（例：定義情報の回復（リストア）が動作している）
- エクスポート対象として指定したユーザが存在しない
- エクスポート結果の出力先ファイルが存在しており，-ow 引数が指定されていない

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
0 以外	エクスポートに失敗しました。エラーの詳細をログビューアウィンドウの「定義情報操作コマンド実行記録」で確認してください。

本コマンドの実行結果は，ログビューアウィンドウの「定義情報操作コマンド実行記録」で確認できます。

(6) 使用例

例１：

ユーザ「田中」の情報を C ドライブ直下に users.csv という名前のファイルとして出力します。また同時に，同ユーザのカレンダー情報を calendar.csv，スケジュール情報を schedule.csv，ユーザグループ情報を usergroups.csv に出力します。

```
tlusrexp -fu C:¥users.csv -fc C:¥calendar.csv -fs C:¥schedule.csv
      -fg C:¥usergroups.csv -name 田中
```

11.14 ユーザ削除コマンド（tlusrdel）

(1) 機能

TELstaff のユーザ定義情報を削除します。本コマンドは，AEPE および AESE で使用できます。

(2) 形式

```
tlusrdel　{ -un ユーザ名 | -gn ユーザグループID }
```

(3) 引数

(a) -un ユーザ名

削除の対象とするユーザの名称を指定します。複数のユーザ情報を削除する場合は「，」（半角のカンマ）で区切って指定します。また「＊」（半角のアステリスク）を指定すると，システム管理者として登録されたユーザを除く全ユーザを削除します。

本引数は，引数-gn と同時に指定することはできません。

（例）-un user01,user02

(b) -gn ユーザグループ名

本引数で指定した名称のユーザグループおよびそのユーザグループに所属する全ユーザの定義情報を削除します。複数のユーザグループ情報を削除する場合は「，」（半角のカンマ）で区切って指定してください。また「＊」（半角のアステリスク）を指定すると，全ユーザグループの中で所属ユーザ数が 0 であるものをすべて削除します。

本引数は，引数-un と同時に指定することはできません。

（例）-gn　営業部 1 課

(4) 注意事項

本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

ユーザを削除すると，以後のユーザ定義情報への変更は TELstaff サービスを再起動するまで有効化されなくなります。

本コマンドは他の定義情報操作コマンド，定義情報の保管（バックアップ）ツール，定義情報の回復（リストア）ツールが動作している場合には実行できません。またユーザ管理ウィンドウを開いている場合は，閉じてから本コマンドを実行してください。

同一引数を複数指定した場合は，最後の引数が使われます。

削除対象のユーザまたはユーザグループのうち存在しないものが一つでも指定された場合は，削除処理を行わずに終了します。

以下のような場合は削除が行われず中止されます。

- コマンド引数の指定が不正
  （例：-un および -gn のいずれも指定されていない）
- 同時に起動できない他のコマンドなどが実行中

（例：定義情報の回復（リストア）が動作している）

- コマンドを実行するユーザが Administrators 権限を持っていない
- 削除対象として指定したユーザまたはユーザグループの情報がコマンド実行環境の TELstaff で定義されていない

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
0 以外	削除処理が失敗しました。エラーの詳細をログビューアウィンドウの「定義情報操作コマンド実行記録」で確認してください。

本コマンドの実行結果は，ログビューアウィンドウの「定義情報操作コマンド実行記録」で確認できます。

(6) 使用例

例１：

ユーザ「田中」の情報を TELstaff から削除します。

```
tlusrdel -un 田中
```

例２：

システム管理者として登録されたユーザを除く全ユーザ，およびシステム管理者が所属するユーザグループを除く全ユーザグループを削除します。

```
tlusrdel -un *
tlusrdel -gn *
```

11.15 連絡網インポートコマンド（tlnetimp）

(1) 機能

連絡網定義情報をテキストファイルからインポートします。本コマンドは，AEPE および AESE で使用できます。

(2) 形式

```
tlnetimp    -fn 連絡網インポートファイル名
            { -ni 連絡網グループID[/連絡網ID] [ -ow ] [ -r ]
              | -mir }
            [ -fc カレンダーインポートファイル名 ]
            [ -fs スケジュールインポートファイル名 ]
```

(3) 引数

(a) -fn 連絡網インポートファイル

インポートする連絡網情報が記載されているテキストファイルを完全パスで指定します。連絡網インポートファイルの書式については，環境設定ー「カスタマイズ」タブの“連絡網情報インポートサンプルファイル”を参照してください。

（例）-fn "C:¥Import Data¥networks.txt"

(b) -ni連絡網グループID[/連絡網ID]

連絡網インポートファイルに記載された連絡網のうち一部の連絡網だけをインポートする場合，その連絡網の ID を連絡網グループとともに指定します。複数の連絡網をインポートする場合は「;」（半角セミコロン）区切りで指定してください。なお連絡網グループ ID，連絡網 ID の指定にはワイルドカードを使用できます。ワイルドカードについては「12.3 TELstaff におけるワイルドカード」を参照してください。

なお連絡網グループ ID のみを指定した場合，標準動作では該当連絡網グループの情報のみインポートし，その連絡網グループに属する連絡網の情報はインポートしません。この動作は引数-r を指定すると変更できます。

（例）-ni *	すべての連絡網グループを対象にする。ただし各連絡網グループに属する連絡網は対象としない。
（例）-ni * -r	すべての連絡網グループおよび連絡網を対象にする
（例）-ni 00* -r	連絡網グループ「001」～「009」と，それらに属する連絡網を対象とする。
（例）-ni 001/*	連絡網グループ 001 と，それに属するすべての連絡網を対象とする。
（例）-ni 001/1000;002/1000	連絡網グループ 001 の連絡網 1000，および連絡網グループ 002 の連絡網 1000 を対象とする。

(c) -ow

本引数を指定すると，インポート対象と同じ連絡網グループ ID がすでに存在した場合に処理を中止せず既存の定義情報を上書きします。本引数は，引数-mir が指定された場合は無効です。

(d) -r

インポート対象連絡網の連絡網グループ ID と同じ連絡網グループ ID が TELstaff 内にすでに存在しているとき，本引数を省略された場合は処理を中止します。

本引数を指定した場合は処理を中止せずインポートします，既存の連絡網グループ情報・連絡網情報は上書きします。

本引数は，引数-mir が指定された場合は無効です。

(e) -mir

本引数を指定すると，インポート処理の開始時に既存の連絡網定義をすべて削除してから指定された情報をインポートするよう動作が変化します。TELstaff の連絡網定義を，インポートファイルと完全に一致させることができます。

(f) -fc カレンダー定義ファイル

システム，連絡網グループ，または連絡網のカレンダー情報を記載した，カレンダーインポートファイルを完全パスで指定します。カレンダーインポートファイルの形式については，環境設定－「カスタマイズ」タブの“カレンダー情報インポートサンプルファイル”を参照してください。

(g) -fs スケジュール定義ファイル

システム，連絡網グループ，連絡網のスケジュール情報を記載した，スケジュールインポートファイルを完全パスで指定します。スケジュールインポートファイルの形式については環境設定－「カスタマイズ」タブの“スケジュール情報インポートサンプルファイル”を参照してください。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには Administrators 権限が必要です。
- インポートした定義情報は，次回の TELstaff サービス起動時から有効になります。
- 本コマンドは定義情報の保管（バックアップ）ツール，定義情報の回復（リストア）ツールが動作しているときには実行できません。
- 同一引数を複数指定した場合は，最後の引数が使われます。
- 引数でファイル名を指定する場合は，完全パスで指定してください。また引数に空白が含まれる場合は「"」（ダブルコーテーション）で囲んでください。
- インポートした連絡網定義で記載された通知文ファイル等の外部ファイルは，次

回 TELstaff サービス起動時までに作成しておく必要があります。

- TELstaff ウィンドウを起動したまま新しい連絡網グループをインポートで追加した場合，表示を更新するために TELstaff ウィンドウを再起動してください。

以下のような場合はインポートを行わずに中止します。

- コマンドライン引数の指定が不正
- 同時に起動できない他のコマンドなどが実行中（例：定義情報の回復（リストア）が動作している）
- コマンドを実行するユーザが Administrators 権限を持っていない
- 指定したファイルを開けない
- 指定したファイルで指定された値がインポート可能な条件を満たさない（例：数値を入れるべき項目に文字列が指定されている）
- インポート対象として指定した連絡網グループ・連絡網がすでに存在しているが -ow 引数が指定されていない
- 指定したファイルの個々の値は正常だが，インポートを実行すると TELstaff の状態が不正になる（例：ある連絡網グループに属する連絡網の総数が上限を超える）

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
0 以外	インポートに失敗しました。エラーの詳細をログビューアウィンドウの「定義情報操作コマンド実行記録」で確認してください。

本コマンドの実行結果は，ログビューアウィンドウの「定義情報操作コマンド実行記録」で確認できます。

(6) 使用例

例１：

連絡網定義の情報を「C:¥network.txt」に記載された内容と完全同一にする。

```
tlnetimp -fn C:¥networks.txt -mir
```

11.16 連絡網エクスポートコマンド（tlnetexp）

(1) 機能

連絡網定義情報をテキストファイルとしてエクスポートします。本コマンドは AEPE および AESE で使用できます。

(2) 形式

```
tlnetexp    -fn連絡網情報の出力先ファイル名
            [ -ni 連絡網グループID[/連絡網ID] [ -r ] ]
            [ -fc カレンダー情報の出力先ファイル名 ]
            [ -fs スケジュール情報の出力先ファイル名 ]
            [ -ow ]
```

(3) 引数

(a) -fn連絡網情報の出力先ファイル名

エクスポート結果を記載したテキストファイルの出力先を完全パスで指定します。

(b) -ni 連絡網グループID[/連絡網ID]

特定の連絡網グループ・連絡網だけをエクスポート対象とする場合に指定します。本引数を省略した場合は TELstaff に登録されているすべての連絡網グループが対象になります。複数の連絡網をエクスポートする場合は「;」（半角セミコロン）区切りで指定してください。なお，連絡網グループ ID・連絡網 ID にはワイルドカードを使用可能です。ワイルドカードについては「12.3 TELstaff におけるワイルドカード」を参照してください。

連絡網グループ ID のみを指定した場合，標準動作では該当連絡網グループの情報のみをエクスポートし，その連絡網グループに属する連絡網の情報はエクスポートしません。この動作は引数-r を指定すると変更できます。

（例）-ni *	すべての連絡網グループを対象にする。ただし各連絡網グループに属する連絡網は対象としない。
（例）-ni * -r	すべての連絡網グループおよび連絡網を対象にする
（例）-ni 00* -r	連絡網グループ「001」～「009」と，それらに属する連絡網を対象とする。
（例）-ni 001/*	連絡網グループ 001 に属するすべての連絡網を対象とする。
（例）-ni 001/1000;002/1000	連絡網グループ 001 の連絡網 1000，および連絡網グループ 002 の連絡網 1000 を対象とする。

(c) -fc カレンダー情報の出力先ファイル名

システム，連絡網グループ，または連絡網のカレンダー情報を出力する場合，その出力先ファイル名を指定します。

(d) -fs スケジュール情報の出力先ファイル名

システム，連絡網グループ，または連絡網のスケジュール情報を出力する場合，その出力先ファイル名を指定します。

(e) -ow

本引数を指定すると，いずれかの出力先ファイルがすでに存在した場合にも処理を中止せず上書きします。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには Administrators 権限が必要です。
- 本コマンドは定義情報の保管（バックアップ）ツール，定義情報の回復（リストア）ツールが動作しているときには実行できません。
- 同一引数を複数指定した場合は，最後の引数が使われます。引数でファイル名を指定する場合は，完全パスで指定してください。また引数に空白が含まれる場合は「"」（ダブルコーテーション）で囲んでください。

以下のような場合はエクスポートを行わずに中止します。

- コマンドライン引数の指定が不正
- 同時に起動できない他のコマンドなどが実行中（例：定義情報の回復（リストア）が動作している）
- コマンドを実行するユーザが Administrators 権限を持っていない
- 出力先ファイルがすでに存在しているが -ow 引数が指定されていない

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
0 以外	エクスポートに失敗しました。エラーの詳細をログビューアウィンドウの「定義情報操作コマンド実行記録」で確認してください。

本コマンドの実行結果は，ログビューアウィンドウの「定義情報操作コマンド実行記録」で確認できます。

(6) 使用例

例 1 ：

連絡網グループ 001 と，それに属する連絡網すべての情報を C ドライブ直下に networks.txt という名前のファイルとして出力します。

```
tlnetexp -ni 001 -r -fn C:¥networks.txt
```

例２：

連絡網グループ 001 と，連絡網グループ 002 と，連絡網グループ 002 に属する連絡網すべての情報を C ドライブ直下に networks.txt という名前のファイルとして出力します。また同時に，システムおよび該当連絡網グループ・連絡網のカレンダー情報を calendar.csv，スケジュール情報を schedule.csv に出力します。

```
tlnetexp -ni 001;002/* -fn C:¥networks.txt -fc C:¥calendar.csv -fs C:¥schedule.csv
```

11.17 未発信件数カウントコマンド（tlgetqc）

(1) 機能

tlgetqc コマンドは，未発信となっている通知件数を表示します。また，このコマンドは未発信となっている通知件数をコマンド戻り値として設定し，終了します。

tlgetqc コマンドは，AEPE および AESE で使用できます。

(2) 形式

```
tlgetqc
```

(3) 引数

なし

(4) 注意事項

本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	未発信となっている通知はありません。
1 以上	未発信となっている通知がありました。戻り値は，その件数を表します。
0 未満	コマンドの実行に失敗しました。

11.18 その他運用ツールコマンド（telfput）

11.18.1　telfputコマンド

(1) 機能

データ（文字列）をファイルに追加出力します。

(2) 形式

```
telfput     -f 出力ファイル
            { -d 出力データ | -a 挿入ファイル }
            [ -c  {m|y|d} ]
            [ -x ]
```

(3) 引数

(a)　-f

出力ファイルをファイル完全名で指定します。

(b)　出力ファイル

出力ファイル名を完全名で指定します。出力ファイルが存在しないときは，新規に作成します。

（例） -f “C:¥Program files¥sample.txt”

(c)　-d

出力ファイルに出力する出力データ（文字列）を半角文字で，2048 文字以内で指定します。-d オプションで指定した出力データ（文字列）は，出力ファイルに 1 行で追加書きで出力されます。-d オプションを省略するときは，-a オプションを指定しなければなりません。

(d)　出力データ

出力データ（文字列）を，半角 2048 文字以内で指定します。出力データ（文字列）に空白が含まれる場合は「"」（半角ダブルコーテーション）で囲んで指定してください。「"」で囲んだ出力データ（文字列）は，「"」（半角ダブルコーテーション）を取り除いて出力されます。

データに改行コードおよびダブルコーテーション「"」文字を含めることはできません。出力データ（文字列）には，~date2~,　~time~ 変数が使用でます。

（例）-d ""~date2~ ~time~の出力データの例です。"

(e)　-a 挿入ファイル名

出力データにファイル内容を挿入するとき挿入ファイル名を完全名で指定します。

（例）-a　"C:¥Program files¥sample.txt"

(f) -c {m | y | d}

出力ファイルのバックアップを，年・月・日いずれの周期で作成するかを指定します。-c オプションを省略すると再作成はされません。

-c 指定値	説明	作成されるバックアップのファイル名
y	年毎にバックアップを作成	出力ファイル名.yyyy
m	月毎にバックアップを作成	出力ファイル名.yyyymm
d	日毎にバックアップを作成	出力ファイル名.yyyymmdd

※ バックアップファイル名のうち「yyyy」の部分はバックアップ作成日の年，「mm」の部分は月，「dd」の部分は日付となります。

（例）-f C:¥data.txt -c d

(g) -x

コマンド実行終了時，-a オプションで指定した挿入ファイルを削除します。

(4) 注意事項

- 出力ファイルに出力中に出力ファイルを参照したり変更したりすると出力データが出力されません。
- 運用で使用する前に，使用する telfput コマンドの動作確認をしてください。
- 短時間に大量のコマンド実行させた場合，Windows でコマンドがキューイングされるため，システムリソース不足となり他のアプリケーションの実行や Windows システムなど全体に支障が出ますのでご注意ください。
- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

ありません。

(6) 使用例

例 1：

ファイル C:¥data.txt に「（日付）（時刻）の出力データの例です。」と出力するデータを月毎にバックアップを作成しつつ出力します。

```
telfput -f C:¥data.txt -c m -d ″~date2~ ~time~の出力データの例です。″
```

仮に C:¥data.txt への最終書き込み日が 2002 年 8 月 21 日で，8 月 22 日の 10:09:13 にこの例のコマンドを実行した場合，元の C:¥data.txt は「C:¥data.20020822」という名前で保存され，C:¥data.txt が次の内容で新規作成されます。

```
2002/08/22 10:09:13の出力データの例です。
```

11.19 プロトコルコマンド

AEPE, AESE および AECL では，メール本文，またはエージェントメッセージ中に，メッセージ受信先で実行させたいコマンドをプロトコルコマンドとして記述できます。また，エージェントメッセージ中に，添付ファイルの保存方法をプロトコルコマンドとして記述できます。

エージェントプロトコルコマンドは，1 行で記述し，行の最後は，改行コードを記述します。送信メッセージは，teldial コマンドのエージェント発信，またはメールで送信します。

(1) _$Command_Executionプロトコルコマンド

(a) 機能

指定されたコマンドの実行指示を行います。

(b) 形式

_$Command_Execution[実行コマンドライン]

(c) 説明

実行コマンドラインで指定されたコマンドを実行します。実行コマンド名は，完全名で指定します。実行コマンド名の中に空白文字がある場合は，「"」（ダブルコーテーション）で実行コマンド名を囲んでください。実行コマンドラインでは，「[」および「]」の文字は使用できません。また，ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。実行コマンドの設定ダイアログボックスで実行可能なコマンド名を登録することができます。

~TelsInstPath~変数を使用すると，TELstaff インストールフォルダが参照できます。

プロトコルコマンドの実行可否は実行コマンドの設定ダイアログボックスで制限されます。詳細については「4.5 実行コマンドの設定」を参照してください。

プロトコルコマンドの受け付け記録は，ログビューアの「プロトコルコマンド実行記録」で見ることができます。

ここで指定したコマンドの実行時間が 30 分経過しても終了しない場合は，実行を打ち切ります。

(d) 送信先

AEPE, AESE, または AECL

JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff とでは，メッセージの送受信はできません。

(e) 使用例

```
_$Command_Execution[“C:¥program files¥sample.exe”]
```

```
_$Command_Execution[“~TelsInstPath~¥program¥teldial.exe” 1000]
```

(2) _$UserExitCommandプロトコルコマンド

(a) 機能

指定されたコマンドの実行指示を行います。

(b) 形式

_$UserExitCommand[実行コマンドライン]

(c) 説明

実行コマンドラインで指定されたコマンドを実行します。実行コマンド名は，完全名で指定します。実行コマンド名の中に空白文字がある場合は，「"」（ダブルコーテーション）で実行コマンド名を囲んでください。実行コマンドには，”[“ と ”]” 文字は使用できません。また，ネットワークドライブを使用するコマンド，Windows DOS コマンドやウィンドウを表示するコマンドは指定できません。

プロトコルコマンドの実行可否は実行コマンドの設定ダイアログボックスで制限されます。詳細については「4.5 実行コマンドの設定」を参照してください。

実行コマンドライン中に~ReceivedMail~変数，~ReceivedMail1~変数の指定があると，_$UserExitCommand プロトコルコマンドの次の行から終端までを一時ファイルに出力して，~ReceivedMail~変数，~ReceivedMail1~変数をこの一時ファイル名に置き換えます。実行コマンドでは，この一時ファイルを削除しなければなりません。

~TelsInstPath~変数を使用すると，TELstaff インストールフォルダが参照できます。

ここで指定したコマンドの実行時間が 30 分経過しても終了しない場合は，実行を打ち切ります。

(d) 送信先

AEPE, AESE, または AECL

JP1 版 TELstaff と 日立ソリューションズ版 TELstaff とでは，メッセージの送受信はできません。

(e) 使用例

(例 1)

```
Subject: sample コマンドの実行[改行]
[改行]
_$UserExitCommand[sample.exe  ~ReceivedMail~][改行]
テキスト 1 [改行]
テキスト 2 [改行]
```

(例 2)

```
Subject: sample コマンドの実行[改行]
```

```
[改行]
_$UserExitCommand[teldial -p 045-xx　-fv ~ReceivedMail1~][改行]
テキスト１[改行]
テキスト２[改行]
```

(3) _$Received_FileDeleteプロトコルコマンド

(a) 機能

エージェント受信メッセージに本プロトコルコマンドが挿入されている場合，受信箱に保存せずに常に削除します。

エージェント受信メッセージで添付ファイルの保存指定がある場合，添付ファイルだけが保存されます。

(b) 形式

_$Received_FileDelete

11.20 TELstaffサービス起動・停止コマンド（telsscmd）

(1) 機能

TELstaff サービスの起動・停止を行います。

telsscmd コマンドは，AEPE, AESE および AECL で使用できます。

(2) 形式

```
telsscmd    { /start [ {連絡網グループID | current} ]
            | /stop }
```

(3) 引数

(a) /start [{連絡網グループID | current}]

TELstaff サービスを起動します。

連絡網グループを指定して起動するには，オプション値として 3 桁の連絡網グループ ID を指定してください。前回起動時に指定した連絡網グループで起動するには，「current」という値を指定してください。標準で使用する連絡網グループで起動するには，連絡網グループ ID を省略します。

AECL では，current および連絡網グループ ID を指定できません。

(b) /stop

TELstaff サービスを停止します。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	TELstaff サービスは正常に起動または停止しました。
0 以外	TELstaff サービスの起動または停止中にエラーが発生しました。

(6) 使用例

例 1 ：

連絡網グループ 002 を指定して TELstaff サービスを起動します。

```
telsscmd /start 002
```

11.21 Alarm View起動・停止コマンド（teldtcmd）

(1) 機能

teldtcmd コマンドは，Alarm View の起動・停止を行います。

teldtcmd コマンドは AEPE, AESE, AECL および AEAV で使用できます。

(2) 形式

```
teldtcmd { -start | -stop }
```

(3) 引数

(a) -start

Alarm View を起動する場合は，-start を指定します。

(b) -stop

Alarm View を停止する場合は，-stop を指定します。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには，Administrators 権限が必要です。
- teldtcmd -start を複数回実行しても起動する Alarm View は一つです。
- 既に別のユーザがログイン済で，Alarm View が起動している場合，teldtcmd -start を実行しても Alarm View は起動しません。
- 定義情報の回復（リストア）の実行時は，Alarm View は起動できません。
- Alarm View を停止する時，停止するまで時間がかかる場合があります。
- Alarm View の停止に受信したメッセージは，Alarm View を再起動した時に有効になります。
- Alarm View を使用しない設定にしている場合，teldtcmd -start を実行しても Alarm View は起動しません。

(5) 戻り値

(a) -startオプションの場合

戻り値	説明
0	Alarm View を起動しました。または Alarm View はすでに起動済みでした。
0 以外	Alarm View の起動に失敗しました。

(b) -stopオプションの場合

戻り値	説明
0	Alarm View を停止しました。または Alarm View はすでに停止済みで

戻り値	説明
	した。
0 以外	Alarm View の停止に失敗しました。

(6) 使用例

例 1 :

Alarm View を起動します。

```
te|dtcmd -start
```

例 2 :

Alarm View を停止します。

```
te|dtcmd -stop
```

11.22 Slackへの発信と情報取得のコマンド（tlsslack）

AEPE および AESE から，ビジネス向けコラボレーションサービスである Slack に発信と情報取得を行います。発信，情報取得の操作は，TELstaff の連絡網などから tlsslack コマンドを実行します。チャンネルへのメッセージ投稿，メンバーへのダイレクトメッセージ送信，メンバー一覧の取得が可能です。

(1) Slackへ発信と情報取得する際の事前準備

tlsslackコマンドを使用する前に，以下の準備が必要となります。準備ができていない場合，tlsslackコマンドはエラー終了します。

(a) Slackの状態を確認する

Slack 側で以下の操作が実施できることを確認してください。

- チャンネルへの投稿
- メンバーへメッセージを送信

上記の操作が実施できない場合，tlsslack コマンドはエラー終了します。Slack 側にて設定などを行い，上記の操作が可能な状態としてください。

(b) Slack から必要な情報を取得する

Slack へ発信および情報取得を行うためには，Slack の情報が必要となります。Slack を参照する，または必要な情報を作成し，以下の情報を取得してください。

- App と Token

  Slack へ発信および情報取得を行うためには，権限を付与し生成した Token（Bot User Oauth Access Token または Oauth Access Token）が必要となります。Token を生成する App がない場合，App から作成してください。また，チャンネルへの投稿を行う場合には，Token を生成した App をあらかじめ，チャンネルに追加しておく必要があります。

  Token に必要な権限に関しては，「(2)(e) Token の権限に関して」を参照してください。

  ※App の作成，Token の作成，チャンネルへの追加に関しては，Slack へお問い合わせください。
- チャンネル名

  チャンネルへの投稿を行う場合，Slack 側のチャンネル名が必要となります。
- メンバー名

  メンバーへのダイレクトメッセージ送信を行う場合，Slack 側のメンバー名が必要となります。メンバー名は，Slack のメンバーディレクトリで表示される「氏名」を使用します。「表示名」は使用できませんのでご注意ください。

(c) コマンド設定ファイル

Slack から取得した Token の情報，ログの出力先などを TELstaff の標準のコマンド設定ファイル(tlsslack.conf)に記載します。コマンド設定ファイルの文字コードは，UTF-8 で記載してください。

コマンド設定ファイルは，以下のフォルダに配置されています。

＜TELstaff インストールフォルダ＞¥V3¥etc¥tlsslack.conf

コマンド設定ファイルの配置先フォルダが，Windows の VirtualStore 機能の影響を受けるフォルダ（例）Program Files (x86) 以下など）の場合，ファイルが保護されているため編集操作が行えません。別なフォルダへコピーして編集し上書きするなどして，コマンド設定ファイルを編集してください。

General セクションに，ログの出力先などを指定します。Auth セクションには，Slack から取得した Token の情報を指定します。

以下，コマンド設定ファイルの内容に関して記載します。

表 11.22-1 コマンド設定ファイルの内容

セクション(※1)	キー(※1)	必須(※2)	設定内容
General	LogPath		コマンドが出力するログの出力フォルダ名を完全名で指定します。3～260 文字以内（半角・全角を問わず文字数）で指定します。省略した場合，＜TELstaff インストールフォルダ＞¥V3¥var¥log フォルダへ出力します。
	LogSizeLimit		ログの最大サイズを指定します。1～9999 の値を指定します。単位は数値に続けて KB または MB を指定します。単位を省略した場合，KB となります。 省略時は 512KB です。ログサイズが上限に達した場合，1 世代バックアップを採取し，その後ログファイルの先頭からログを記録します。
Auth (※3)	Token	○	Slack App で必要な権限を付与した Bot User Oauth Access Token または Oauth Access Token を指定します。
Http	RequestTimeout (※4)		Slack へのリクエストから応答を受信するまでのタイムアウト時間を秒で指定します。 5～60 の値を設定します。省略時は 5(秒)です。 0 を設定した場合，無制限で応答を待ちます。

※1：セクション名・キー名には，大文字・小文字の区別がありますので，大文字・小文字の誤りがないように設定してください。

※2：必須項目を省略した場合，tlsslack コマンドはエラー終了します。

※3：Auth セクションの項目に関しては，Slack 側の値を取得し，設定する項目のため，TELstaff での文字数制限はありません。

※4：チャンネルへのメッセージ投稿，またはメンバーへのダイレクトメッセージの送信で，添付ファイルをアップロードする場合，RequestTimeout の設定値が短い場合，タイムアウトエラー「content deadline exceeded」が発生することがあります。この場合，RequestTimeout の値を長く設定する，または「0」を設定してください。「0」を設定した場合，添付ファイルの大きさや回線速度により，tlsslack コマンドが完了するまで，長時間を要する可能性がありますのでご注意ください。

設定例）tlsslack.conf

```
[General]
LogPath=C:¥Program Files (x86)¥TELstaff¥V3¥var¥log
LogSizeLimit=512KB
[Auth]
Token=xoxb-959006059233-971210496101-a1oFm4r1mLZpOt4gttLHxxxx
[Http]
RequestTimeout=5
```

(d) プロキシサーバ設定

Slack へアクセスする際にプロキシサーバを経由する必要がある場合は，OS のシステム環境変数 HTTPS_PROXY にプロキシサーバ情報を設定します。プロキシーサーバ名は IP アドレスでの指定も可能です。なお，認証方法は，BASIC 認証のみサポートしています。

以下に環境変数の設定例を記載します。

例 1）ユーザ認証なしの場合

http[s]://プロキシサーバ名[:ポート番号]

設定例）HTTPS_PROXY=http://proxy_addr:8080

例 2）ユーザ認証ありの場合

http[s]://ユーザ名:パスワード@プロキシサーバ名[:ポート番号]

設定例）HTTPS_PROXY=http://user:pass@proxy_addr:8080

※上記の設定例に記載した構文，ユーザ名，パスワード，プロキシサーバアドレス，ポート番号は例であり，架空の値です。ネットワーク管理者へ問い合わせを行い，ご使用の環境に適した値を設定してください。

(2) Slack へ発信と情報取得する際の注意事項

Slack へ発信と情報取得する際の注意事項を記載します。

(a) Slack との通信に関して

TELstaff の tlsslack コマンドと Slack は通信プロトコルを使用して，メッセージ投稿などを実施します。TELstaff の tlsslack コマンドを動作させる環境では，https 通信のプロトコルが有効で，かつ Slack との接続が可能である環境が必要となります。https 通信ができない場合，または Slack との接続が不可能な場合には，tlsslack コマンドはエラー終了します。

通信環境の設定は，ユーザごとに環境（OS，通信プロトコル，ファイヤーウォールなどの設定）が異なりますので，必要な際は管理者へ問い合わせをおこない Slack との通

信が可能となるよう環境の整備を実施してください。

(b) Slack のアカウントに関して

TELstaff のユーザ管理に，Slack のメンバーアカウントを追加する必要はありません。TELstaff のユーザ管理と Slack のメンバーアカウントは連動させる必要はありません。

(c) Slack の制限に関して

tlsslack コマンドでは，Slack 側で設けられた制限(※1)に関して，チェックは行ないません。tlsslack コマンドの呼び出し側にて，Slack 側の制限などを考慮し，tlsslack コマンドを実行するようにしてください。

※1：2020 年 9 月時点で，以下の制限を確認しています。

・チャンネルへのメッセージ投稿またはメンバーへのダイレクトメッセージの送信でワークスペース全体で 5GB（フリープランの場合）まで。

１度にアップロードできるファイルのサイズに関しては，Slack へお問い合わせください。

・チャンネルへのメッセージ投稿またはメンバーへのダイレクトメッセージの送信で，内部的に動作させる Slack API では，1 秒あたり 1 つのメッセージしか投稿（送信）できません。

この制限は動的に Slack で制御され，制限が解除されたように動作する場合もあります。制限に達した場合は，制限値を超えたことを示すエラーメッセージ「Too Many Requests」が出力されますので，間隔をあけて tlsslack コマンドを実行してください。

各制限の詳細に関しては，Slack へお問い合わせください。

(d) Slack のAPI仕様とtlsslackコマンドに関して

tlsslack コマンドは，Slack の API を使用して動作しています。現在の動作は，2020 年 9 月時点での API 仕様に基づいて確認されている動作であり，Slack 側で API の仕様が変更された場合には，tlsslack コマンドが動作しなくなる可能性があります。

(e) Token の権限に関して

Token（Bot User Oauth Access Token または Oauth Access Token）に付与する権限に関して記載します。権限が不足している場合，tlsslack コマンドはエラーで終了します。

・ワークスペース内のチャンネルへの投稿
  chat:write
  files:write
・メンバーへのダイレクトメッセージの送信
  chat:write
  files:write
  im:write
・ワークスペースに参加しているメンバー一覧を取得

users:read
※Token への権限付与の詳細に関しては，Slack へお問い合わせください。

(3) tlsslackコマンド共通の注意事項

- ファイル名を指定するコマンドにおいては，Windows 外部デバイスファイル（Windows 予約デバイスファイル）の名前は指定できません。
- Windows サービスの延長でコマンドを実行する場合は，ネットワークドライブ上のファイルは指定できません。
- ファイル完全名に空白文字が含まれる場合は「"」（ダブルコーテーション）でファイル完全名を囲んで指定する必要があります。
- コマンドの引数に空白文字が含まれる場合は「"」（ダブルコーテーション）で引数を囲んで指定する必要があります。
- 同一引数を複数指定した場合は，最後の引数を有効とします。

11.22.1 チャンネルへのメッセージ投稿

(1) 機能

Slack ワークスペース内の指定したチャンネルへのメッセージを投稿します。投稿先のチャンネルは，あらかじめ Slack 側に作成されている必要があります。

(2) 形式

```
tlsslack channel post
    -name チャンネル名
    [ -attachment 添付ファイル名 ]
    [ -profile 設定ファイル名 ]
    [ -i 識別文字列 ]
    [ -h ]
    { -- メッセージ文字列 | -file 投稿ファイル名 [ -fenc { SJIS | UTF8 } ] }
```

(3) 引数

(a) -name チャンネル名

メッセージ投稿を行うチャンネルの名前を指定します。チャンネル名の先頭の「#」を取り除いた名前を指定します。

(b) -attachment 添付ファイル名

チャンネルへの投稿時にチャンネルにアップロードするファイルを完全名で指定します。アップロードできるファイルのファイルサイズに関しては「11.22(2)(c) Slack の制限に関して」を参照してください。

(c) -profile コマンド設定ファイル名

Slack の情報を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを

省略した場合，11.22(1)(c)で事前準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。コマンド設定ファイルの詳細は「11.22(1)(c)コマンド設定ファイル」を参照してください。

(d) -i 識別文字列

投稿するメッセージ中の{ID}変数に置き換える文字列を指定します。本オプションを使用することで tlsslack コマンドの呼び出し元と Slack に送信されたメッセージを関連付けることを可能とします。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなり，動作ログは出力しません。

(f) -- メッセージ文字列

投稿するメッセージ文字列を--(ダブルハイフン)の後に半角スペースを入れ指定します。--以降のオプションは全てオプションとしての意味を持たず，投稿メッセージの一部として扱われるため，必要なオプションは本引数の前に指定する必要があります。通知メッセージ中には「11.22.4 tlsslack コマンドで使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。メッセージ文字列中の 1 文字以上の連続する半角空白文字は 1 文字の半角空白文字に置き換えられます。

(g) -file 投稿ファイル名

投稿するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。投稿メッセージ中には，「11.22.4 tlsslack コマンドで使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。

(h) -fenc { SJIS | UTF8 }

-file で指定したメッセージファイルの文字コードを指定します。省略すると SJIS が使用されます。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには，実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- 投稿するチャンネルには，権限を付与した Token を保持している App を追加しておく必要があります。あらかじめ Slack 側で追加の操作を実施してください。
- Slack の制限により，メッセージ投稿がエラーとなる場合があります。詳細は「11.22(2)(c) Slack の制限に関して」を参照してください。
- 添付ファイルをアップロードする場合，ファイルの大きさや回線状態により，タイムアウトエラー「content deadline exceeded」が発生することがあります。この場合，コマンド設定ファイル(tlsslack.conf)の RequestTimeout の値を長く設定する，または「0」を設定してください。「0」を設定した場合，tlsslack コマンドが完了するまで，長時間を要する可能性がありますので，ご注意ください。

- --メッセージ文字列引数および -file 引数の両方を省略した場合，投稿するメッセージは標準入力から取得します。
- tlsslack コマンドは「<TELstaff インストールフォルダ>¥V3¥bin」フォルダにあります。使用する場合は，完全パスで指定するか，Windows の PATH 設定をしてください。
- 実行する tlsslack コマンドは，TELstaff 動作記録の「Slack 連携コマンド実行記録ログ(tlsslack.log)」に記録します。

(5) 標準出力

tlsslackコマンド成功時，標準出力に投稿内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力される JSON プロパティと出力例を以下に示します。

表 11.22-2 投稿内容のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
channel	string	投稿したチャンネルのID
message	object	メッセージオブジェクト

表 11.22-3 メッセージオブジェクトのプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
text	string	投稿したメッセージの内容
type	string	常に”text”
ts	string	投稿したメッセージのスレッドを示す一意のメッセージID

出力例

```
{
    “channel“: “CU8NS0xxx“,
    “message“: {
    “text“: “投稿内容“,
    “type”: “text”,
    “ts“: “1588049550.001xxx”
    }
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	チャンネルへの投稿に失敗しました。詳細は Slack 連携コマンド実行記録ログに記録されます。
2	チャンネルへの投稿に失敗しました。詳細は Slack 連携コマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 はリトライ可能なエラー（https 通信系エラー）を示します。

tlsslack コマンドの実行結果は Slack 連携コマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例１：

チャンネル「#お知らせ」へ，定期メンテナンスのメッセージを投稿する。

```
tlsslack channel post -name お知らせ -- 本日，22時から23時まで，定期メンテナンスのため，勤怠システムが停止します。
```

例２：

チャンネル「#お知らせ」へ，定期メンテナンスのメッセージを投稿する。識別子文字列とメッセージ投稿時刻も出力する。投稿ファイル名も使用する。

c:¥temp¥mente-msg301.txt の内容
「{ID} {%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒} 本日，22 時から 23 時まで，
定期メンテナンスのため，勤怠システムが停止します。」

```
tlsslack channel post -name お知らせ -i 3101 -file c:¥temp¥mente-msg301.txt
```

11.22.2 メンバーへのダイレクトメッセージ送信

(1) 機能

Slack ワークスペース内の特定メンバーへのダイレクトメッセージの送信を行います。

(2) 形式

```
tlsslack member post
    -name メンバー名[,メンバー名2,…]
    [ -attachment 添付ファイル名 ]
    [ -profile 設定ファイル名 ]
    [ -i 識別文字列 ]
    [ -h ]
    { -- メッセージ文字列 | -file 投稿ファイル名 [ -fenc { SJIS | UTF8 } ] }
```

(3) 引数

(a) -name メンバー名[,メンバー名2,…]

ダイレクトメッセージを送信するメンバー名を 1～8 名まで指定します。メンバー名を複数指定する場合はメンバー名を「,」（カンマ）で区切り指定します。メンバー名は Slack メンバーの「氏名」を指定します。「表示名」ではありません。

(b) -attachment 添付ファイル名

ダイレクトメッセージ送信時に会話にアップロードするファイルを完全名で指定します。アップロードできるファイルのファイルサイズに関しては「11.22(2)(c) Slack の制限に関して」を参照してください。

(c) -profile コマンド設定ファイル名

Slack の情報を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，11.22(1)(c)で事前準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。コマンド設定ファイルの詳細は「11.22(1)(c)コマンド設定ファイル」を参照してください。

(d) -i 識別文字列

送信するメッセージ中の{ID}変数に置き換える文字列を指定します。本オプションを使用することで tlsslack コマンドの呼び出し元と Slack に送信されたメッセージを関連付けることを可能とします。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなり，動作ログは出力しません。

(f) -- メッセージ文字列

送信するメッセージ文字列を--(ダブルハイフン)の後に半角スペースを入れ指定します。--以降のオプションは全てオプションとしての意味を持たず，送信メッセージの一部として扱われるため，必要なオプションは本引数の前に指定する必要があります。通知メッセージ中には「11.22.4 tlsslack コマンドで使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。メッセージ文字列中の 1 文字以上の連続する半角空白文字は 1 文字の半角空白文字に置き換えられます。

(g) -file 投稿ファイル名

送信するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。送信メッセージ中には，「11.22.4 tlsslack コマンドで使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。

(h) -fenc { SJIS | UTF8 }

-file で指定したメッセージファイルの文字コードを指定します。省略すると SJIS が使用されます。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには，実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- Slack の制限により，メッセージ送信がエラーとなる場合があります。詳細は「11.22(2)(c) Slack の制限に関して」を参照してください。
- 添付ファイルをアップロードする場合，ファイルの大きさや回線状態により，タイムアウト「content deadline exceeded」が発生することがあります。この場合，コマンド設定ファイル(tlsslack.conf)の RequestTimeout の値を長く設定する，または，「0」を設定してください。「0」を設定した場合，tlsslack コマンドが

完了するまで，長時間を要する可能性がありますので，ご注意ください。

- --メッセージ文字列引数および -file 引数の両方を省略した場合，投稿するメッセージは標準入力から取得します。
- tlsslack コマンドは「<TELstaff インストールフォルダ>¥V3¥bin」フォルダにあります。使用する場合は，完全パスで指定するか，Windows の PATH 設定をしてください。
- 実行する tlsslack コマンドは，TELstaff 動作記録の「Slack 連携コマンド実行記録ログ(tlsslack.log)」に記録します。

(5) 標準出力

tlsslackコマンド成功時，標準出力に送信内容に関する情報をJSON形式で出力します。
出力される JSON プロパティと出力例を以下に示します。

表 11.22-4 送信内容のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
channel	string	会話チャンネルのID
message	object	メッセージオブジェクト

表 11.22-5 メッセージオブジェクトのプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
text	string	送信したメッセージの内容
type	string	常に”text”
ts	string	送信したメッセージのスレッドを示す一意のメッセージID

出力例

```
{
    “channel“: “D011WJKLxxx“,
    “message“: {
    “text“: “送信内容“,
    “type”: “text”,
    “ts“: “1588049551.001xxx”
    }
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	メッセージ送信に失敗しました。詳細は Slack 連携コマンド実行記録ログに記録されます。
2	メッセージ送信に失敗しました。詳細は Slack 連携コマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 はリトライ可能なエラー（https 通信系エラー）を示します。

tlsslack コマンドの実行結果は Slack 連携コマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例１：

メンバー「UserA」へ，定期メンテナンスのメッセージを投稿する。

```
tlsslack member post -name UuserA -- 本日，22時からの定期メンテナンスは，22時10分から開始します。
```

例２：

メンバー「UserA」へ，定期メンテナンスのメッセージを投稿する。

識別子文字列とメッセージ投稿時刻も出力。メッセージファイルを使用する。

c:¥temp¥mente-msg302.txt の内容
「{ID} {%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒} 22 時からの定期メンテナンスは，
22 時 10 分から開始します。」

```
tlsslack member post -name UserA -i 3102 -file c:¥temp¥mente-msg302.txt
```

11.22.3 メンバーー覧の取得

(1) 機能

ワークスペースに参加しているメンバー一覧を取得します。取得した内容は，標準出力に出力します。管理者がメンバーを確認する場合や，証跡として保存する場合に使用してください。

(2) 形式

```
tlsslack member list
    [ -text ]
    [ -profile 設定ファイル名 ]
    [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -text

取得結果をテキスト形式で出力する際に指定します。本オプションを省略した場合はJSON 形式で出力します。

(b) -profile コマンド設定ファイル名

Slack の情報を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，11.22(1)(c)で事前準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。コマンド設定ファイルの詳細は「11.22(1)(c)コマンド設定ファイル」を参照してください。

(c) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなり，動作ログは出力しません。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには，実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- Slack の制限により，メンバー一覧の取得がエラーとなる場合があります。詳細は「11.22(2)(c) Slack の制限に関して」を参照してください。
- tlsslack コマンドは「<TELstaff インストールフォルダ>¥V3¥bin」フォルダにあります。使用する場合は，完全パスで指定するか，Windows の PATH 設定をしてください。
- 実行する tlsslack コマンドは，TELstaff 動作記録の「Slack 連携コマンド実行記録ログ(tlsslack.log)」に記録します。

(5) 標準出力

tlsslackコマンド成功時，標準出力に取得したメンバー一覧をJSON形式またはテキスト形式で出力します。
出力される JSON プロパティと出力例を以下に示します。

表 11.22-6 メンバー一覧のプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
members	[] object	メンバーオブジェクトの配列

表 11.22-7 メンバーオブジェクトのプロパティ

プロパティ名	JSON 型	説明
id	string	メンバーのID（Slackで付与される一意なID）
name	string	メンバーのユーザ名（氏名，表示名ではありません）
real_name	string	メンバーの氏名（表示名ではありません）
is_admin	bool	ワークスペースの管理者を示すbool値
is_owner	bool	ワークスペースの所有者を示すbool値
is_bot	bool	このユーザがbotであるかを示すbool値
is_app_user	bool	このユーザがapp_userであるかを示すbool値
tz	string	このユーザのタイムゾーン（ex:”Asia/Tokyo”）

JSON 形式の出力例

```
{
   "members": [{
       "id": "W012A3xxx",
       "name": "taro hitachi",
       "real_name": "UserA",
       "is_admin": false,
       "is_owner": false,
       "is_bot": false,
       "is_app_user": false,
       "tz": "Asia/Tokyo"
   },{
       "id": "W012A3xxx",
       "name": "ziro hitachi",
```

```
        "real_name": "UserB",
        "is_admin": true,
        "is_owner": true,
        "is_bot": false,
        "is_app_user": false,
        "tz": "Asia/Tokyo"
    }]
}
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

テキスト形式の出力例

```
ID: W012A3xxx
    name: taro hitachi
    real_name: UserA
    is_admin: false
    is_owner: false
    is_bot: false
    is_app_user: false
    time_zone: Aisa/Tokyo
ID: W012A3xxx
    name: spengler
    real_name: ziro hitachi
    is_admin: true
    is_owner: true
    is_bot: false
    is_app_user: false
    time_zone: Aisa/Tokyo
```

上記の例は，見やすいよう整形していますが，実際の出力では整形は行いません。

(6) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	メンバー一覧の取得に失敗しました。詳細は Slack 連携コマンド実行記録ログに記録されます。
2	メンバー一覧の取得に失敗しました。詳細は Slack 連携コマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 はリトライ可能なエラー（https 通信系エラー）を示します。

tlsslack コマンドの実行結果は Slack 連携コマンド実行記録ログで確認できます。

(7) 使用例

例：

メンバー一覧を取得する。

```
tlsslack member list
```

11.22.4 tlsslackコマンドで使用できる変数

Slack への発信コマンド（tlsslack）でメッセージ中に使用できる変数に関して記載しま

す。

(1) 変数一覧

tlsslack コマンドでは「12.1.1 変数一覧」に記載された TELstaff 標準の変数はすべて使用できません。
以下の tlsslck コマンド固有の変数のみが使用可能です。

表 11.22-8 tlsslackコマンドで使用可能な固有の変数

変数名	説明
{日付時刻書式文字列}	コマンド受付日時を表す日付時刻書式文字列。 指定可能な書式識別子は「表 11.22-9 日付時刻書式文字列」を参照。
{ID}	コマンドの-i オプションで指定した値

表 11.22-9 日付時刻書式文字列

書式識別子	変換方法
%y	西暦年（4 桁）に置き換えます。
%m	月（01～12）に置き換えます。
%b	月（英語短縮型）Jan, Feb, Mar, Apr, May, Jun, Jul, Aug, Sep, Oct, Nov, Dec に置き換えます。
%d	日（01～31 桁）に置き換えます。
%H	時刻（00～23）に置き換えます。
%M	分（00～59）に置き換えます。
%S	秒（00～60）に置き換えます。
%s	ミリ秒（000～999）に置き換えます。

（例）受付日時が 2020 年 2 月 10 日 12 時 53 分 32 秒 824 ミリ秒の場合

書式文字列の指定	置換後の値
{%y 年%m 月%d 日}	2020 年 02 月 10 日
{%m/%d/%y}	02/10/2020
{%b %d %H:%M:%S %y}	Feb 10 12:53:32 2020
{%H 時%M 分%S 秒%s ミリ秒}	12 時 53 分 32 秒 824 ミリ秒
{%H:%M:%S.%s}	12:53:32.824

(2) 環境変数

メッセージ中に環境変数値を埋め込む場合，環境変数名を%で括って指定可能です。

(例) %USERNAME%

(a) 環境変数の使用時の注意事項

環境変数を使用する場合，次の注意事項があります。

- 環境変数を使用する場合，コマンドの実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- コマンドを Windows サービス経由で実行する場合は，ユーザ環境変数は置換されません。システム環境変数のみが置換されます。

- 環境変数名が環境変数として登録されていない場合は，置換されません。
- メッセージ中の環境変数名は%（半角パーセント文字）で囲んで指定し，同一変数名が複数箇所指定されていた場合は同じ変数値に置き換わります。
- 環境変数名の大文字・小文字は区別しません。全角・半角の区別は行います。
- 変数名では半角 260 文字，変数値では半角 1023 文字が長さの上限です。変数名が長すぎる場合，その環境変数は扱えません。変数値が長すぎる場合，半角 1023 文字まで変換してそれ以降を切り捨てます。

11.23 LINE WORKSへの発信コマンド（tlsline）

AEPE および AESE から，企業向け LINE サービスである LINE WORKS に発信を行います。発信操作は，TELstaff の連絡網などから tlsline コマンドを実行することで発信します。トークルームの作成，トークルームへの投稿，メンバーへのメッセージ通知が可能です。

(1) LINE WORKS へ発信する際の事前準備

tlslineコマンドを使用する前に，以下の準備が必要となります。準備ができていない場合，tlslineコマンドはエラー終了します。

(a) 発信先のLINE WORKS の状態を確認する

LINE WORKS 側で以下の操作が実施できることを確認してください。

- トークルームの作成
- トークルームへのメッセージ投稿
- メンバーへメッセージ通知

上記の操作が実施できない場合，tlsline コマンドはエラー終了します。LINE WORKS 側にて設定などを行い，上記の操作が可能な状態としてください。

(b) 発信先のLINE WORKS から必要な情報を取得する

LINE WORKS へ発信を行うためには，LINE WORKS の情報が必要となります。LINE WORK の Developer Console 画面などを参照し，以下の情報を取得してください。

LINE WORKS へ発信のインターフェースは，使用する API により，V1 と V2 の２種類が存在します。2022 年 12 月時点では，V1，V2 ともに使用可能ですが，2023 年 4 月末で V1 が廃止されるため，2023 年 5 月以降は V2 のみが使用可能となります。

V１インターフェースをご使用のお客様に関しましては，V2 インターフェースへの移行をお願い致します。

以下に，V１インターフェースで必要な情報，V2 インターフェースで必要な情報，V1 と V2 で共通に必要な情報を記載します。

(b-1) V1 インターフェースで必要な情報（2023 年 4 月末まで使用可能）

- API ID
- Server API Consumer Key
- Server List（ID 登録タイプ）

  発行された ID を取得し，ID 登録タイプの認証キーもダウンロードします。

(b-2) V2 インターフェースで必要な情報

以下の４項目の情報は，LINE WORK の Developer Console 画面からアプリの新規追加

を実施し取得します。

- CLIENT ID
- CLIENT SECRET
- Service Account
- Private Key（キーファイルをダウンロードします）

(b-3) V1 インターフェース，V2 インターフェースで共通に必要な情報

- Bot No

  利用設定されている Bot No が必要です。トークルームへメッセージの投稿を行う場合，指定する Bot No の Bot があらかじめトークルームに招待されている必要があります。招待されていない Bot の Bot No を指定した場合，メッセージ投稿はエラーとなります。

- トークルーム名 と トークルーム ID

  メッセージ投稿を行うトークルーム ID が明確な場合に取得します。また，メッセージ投稿を行うトークルーム名とそのトークルーム ID の両方が明確な場合には，ルーム ID 記録ファイルに設定することで，トークルーム名でのメッセージ投稿が可能となります。

  メッセージ投稿を行うトークルーム ID が不明な場合には，tlsline コマンドでトークルームを作成してからメッセージ投稿が行えます。

- ID

  トークルームを作成する場合，トークルームに追加するメンバーアカウントの ID が必要です。

(c) コマンド設定ファイル

LINE WORKS から取得した情報，ログの出力先などを TELstaff の標準のコマンド設定ファイル(tlsline.conf)に記載します。コマンド設定ファイルの文字コードは，UTF-8 で記載してください。

コマンド設定ファイルは，以下のフォルダに配置されています。

＜TELstaff インストールフォルダ＞¥V3¥etc¥tlsline.conf

コマンド設定ファイルの配置先フォルダが，Windows の VirtualStore 機能の影響を受けるフォルダ（例）Program Files (x86) 以下など）の場合，ファイルが保護されているため編集操作が行えません。別なフォルダへコピーして編集し上書きするなどして，コマンド設定ファイルを編集してください。

General セクションに，ログの出力先などを指定します。Auth セクションには，LINE WORKS から取得した情報を指定します。URL セクションは，ユーザが指定する必要はありません。TELstaff が自動設定して使用します。

以下，コマンド設定ファイルの内容に関して記載します。

表 11.23-1　コマンド設定ファイルの内容

セクション(※1)	キー(※1)	必須(※2)	設定内容
General	LogPath		コマンドが出力するログの出力フォルダ名を完全名で指定します。3～260 文字以内（半角・全角を問わず文字数）で指定します。省略した場合，＜TELstaff インストールフォルダ＞¥V3¥var¥log フォルダへ出力します。
	LogSizeLimit		ログの最大サイズを指定します。1～9999 の値を指定します。単位は数値に続けて KB または MB を指定します。単位を省略した場合，KB となります。 省略時は 512KB です。ログサイズが上限に達した場合，1 世代バックアップを採取し，その後ログファイルの先頭からログを記録します。
	RoomConfPath		トークルーム名とトークルーム ID の関連付けをしたルーム ID 記録ファイル名を完全名で指定します。3～260 文字以内（半角・全角を問わず文字数）で指定します。省略した場合，標準の room.conf ファイル（＜TELstaff インストールフォルダ＞¥V3¥etc¥room.conf）を使用します。
	useApiVersion		使用する API インターフェースのバージョンを指定します。 1.0 ：バージョン V1 を使用する場合 2.0 ：バージョン V2 を使用する場合 省略時は 1.0 として動作します。1.0, 2.0 以外の値が指定された場合は 1.0 として動作します。 1.0 を指定した場合，Auth セクションの値を使用して動作します。 2.0 を指定した場合，Auth2 セクションの値を使用して動作します。
Auth (※3)	ApiID	○ (※5)	LINE WORKS で取得した API ID を指定します。
	ServerConsumerKey	○ (※5)	LINE WORKS で取得したサーバ Server API Consumer Key を指定します。
	ServerListID	○ (※5)	LINE WORKS で取得した Server List(ID 登録タイプ)の ID を指定します。
	ServerListAuthKey	○ (※5)	LINE WORKS からダウンロードした Server List(ID 登録タイプ)の認証キーが格納されたファイルの完全名を指定します。 3 文字以上，260 文字以内で指定します。
Auth2	ClientID	○	LINE WORKS で登録したアプリのクライアント

セクション(※1)	キー(※1)	必須(※2)	設定内容
(※4)		(※6)	ID を指定します。
	ClientSecret	○ (※6)	LINE WORKS で登録したアプリのクライアントシークレットを指定します。
	ServiceAccount	○ (※6)	LINE WORKS で登録したアプリのサービスアカウントを指定します。
	PrivateKey	○ (※6)	LINE WORKS のアプリ登録時にダウンロードした認証キーが格納されたファイルの完全名を指定します。 3 文字以上，260 文字以内で指定します。
Http	RequestTimeout		LINE WORKS へのリクエストから応答を受信するまでのタイムアウト時間を秒で指定します。 5～60 の値を設定します。省略時は 5(秒)です。 0 を設定した場合，無制限で応答を待ちます。
URL	GetServerAccessTokenURL	指定不要	TELstaff が自動設定して使用します。 LINE WORKS へアクセスする際のサーバアクセストークン取得用の URL が自動設定されます。
	CreateTolkRoomURL	指定不要	TELstaff が自動設定して使用します。 LINE WORKS 内にチャット Bot を含むトークルームを作成する API の URL が自動設定されます。
	SendMessageURL	指定不要	TELstaff が自動設定して使用します。 トークルームへの投稿，メンバーへのメッセージ送信する API の URL が自動設定されます。

※1：セクション名・キー名には，大文字・小文字の区別がありますので，大文字・小文字の誤りがないように設定してください。

※2：必須項目を省略した場合，tlsline コマンドはエラー終了します。

※3：Auth セクションは，LINE WORKS への発信で，V1 インターフェースを使用する場合に指定します。LINE WORKS 側の値を取得して，設定する項目のため，TELstaff での文字数制限はありません。
V1 インターフェースは，2023 年 4 月末で使用できなくなります。

※4：Auth2 セクションは，LINE WORKS への発信で，V2 インターフェースを使用する場合に指定します。LINE WORKS 側の値を取得して，設定する項目のため，TELstaff での文字数制限はありません。

※5：Auth セクションは，LINE WORKS への発信で，V1 インターフェースを使用する場合に必須です。useApiVersion で 1.0 を指定した場合に設定してください。

※6：Auth2 セクションは，LINE WORKS への発信で，V2 インターフェースを使用する場合に必須です。useApiVersion で 2.0 を指定した場合に設定してください。

設定例 1）tlsline.conf（LINE WORKS への発信で V1 インターフェースを使用する場合）

```
[General]
LogPath=C:¥Program Files (x86)¥TELstaff¥V3¥var¥log
LogSizeLimit=512KB
RoomConfPath=C:¥Program Files (x86)¥TELstaff¥V3¥etc¥room.conf
[Auth]
ApiID=telrcTWczJxxx
ServerConsumerKey=pSBesghGZCxA5M8Zxxx
ServerListID=3fe02b397d2a4c53a5dc20770ffccxxx
ServerListAuthKey=C:¥Program Files (x86)¥TELstaff¥private_Auth.key
```

設定例 2）tlsline.conf（LINE WORKS への発信で V2 インターフェースを使用する場合）

```
[General]
LogPath=C:¥Program Files (x86)¥TELstaff¥V3¥var¥log
LogSizeLimit=512KB
RoomConfPath=C:¥Program Files (x86)¥TELstaff¥V3¥etc¥room.conf
useApiVersion=2.0
[Auth2]
ClientID=txQupOHvwc3S6sXMuxxx
ClientSecret=Vc3poWPxxx
ServiceAccount=vsxk.serviceaccount@xxxxx-xxxx
PrivateKey=C:¥Program Files (x86)¥TELstaff¥private.key
```

(d) ルームID記録ファイル

ルーム ID 記録ファイル(room.conf)はトークルーム名とトークルーム ID の関連付けを記録するファイルです。本ファイルは ini ファイル形式で指定します。「;」（セミコロン），「#」（シャープ）から始まる行はコメントとして扱われますが，トークルーム作成コマンドを実行した場合，コメント行，空白行は削除されます。また，トークルーム名の並びはトークルーム名でソートされます。

メッセージ投稿を行うトークルームのトークルーム名とトークルーム ID が明確な場合，本ファイルを手動で作成し，LINE WORKS から取得したトークルーム名，トークルーム ID を記載してください。本ファイルに記載することで，トークルーム名でのメッセージ投稿が可能となります。

ルーム ID 記録ファイルの文字コードは，UTF-8 で記述してください。

メッセージ投稿を行うトークルームのトークルーム ID が不明確な場合，ルーム ID 記録ファイルの記載は不要ですが，トークルーム作成コマンドを実行して，投稿先のトークルームをあらかじめ作成しておく必要があります。

ルーム ID 記録ファイルは，インストール時には存在しません。ユーザが手動で作成する，または，トークルーム作成コマンドを実行すると自動で作成されます。自動で作成される場合，tlsline.conf ファイルに RoomConfPath の指定があれば，そのパスに作成し，RoomConfPath の指定がない場合は，以下に作成します。

＜TELstaff インストールフォルダ＞¥V3¥etc¥room.conf

ルーム ID 記録ファイルの配置先フォルダが，Windows の VirtualStore 機能の影響を受けるフォルダ（例）Program Files (x86) 以下など）の場合，ファイルが保護されているため編集操作が行えません。別なフォルダへコピーして編集し上書きするなどして，ルーム ID 記録ファイルを編集してください。

Room セクションに，LINE WORKS から取得したトークルーム名とトークルーム ID を指定します。

以下，ルーム ID 記録ファイルの内容に関して記載します。

表 11.23-2 ルームID記録ファイルの内容

セクション	キー	設定内容
Room	ルーム名	LINE WORKS から取得した，既存のトークルーム名をキーに設定し，トークルーム ID を値に設定します。 tlsline コマンドで，トークルーム作成を行った場合には，TELstaff が自動的に，トークルーム名，トークルーム ID を追記します。

設定例）room.conf

```
[Room]
インフラ運用=18811311
お知らせ=18811322
```

(e) プロキシサーバ設定

LINE WORKS へアクセスする際にプロキシサーバを経由する必要がある場合は，OS のシステム環境変数 HTTPS_PROXY にプロキシサーバ情報を設定します。プロキシーサーバ名は IP アドレスでの指定も可能です。なお，認証方法は，BASIC 認証のみサポートしています。

以下に環境変数の設定例を記載します。

例 1）ユーザ認証なしの場合

http[s]://プロキシサーバ名[:ポート番号]

設定例）HTTPS_PROXY=http://proxy_addr:8080

例 2）ユーザ認証ありの場合

http[s]://ユーザ名:パスワード@プロキシサーバ名[:ポート番号]

設定例）HTTPS_PROXY=http://user:pass@proxy_addr:8080

※上記の設定例に記載した構文，ユーザ名，パスワード，プロキシサーバアドレス，ポート番号は例であり，架空の値です。ネットワーク管理者へ問い合わせを行い，ご使用の環境に適した値を設定してください。

(2) LINE WORKS へ発信する際の注意事項

LINE WORKS へ発信する際の注意事項を記載します。

(a) LINE WORKS との通信に関して

TELstaff の tlsline コマンドと LINE WORKS は通信プロトコルを使用して，メッセージ投稿などを実施します。TELstaff の tlsline コマンドを動作させる環境では，https 通信のプロトコルが有効で，かつ LINE WORKS との接続が可能である環境が必要となります。https 通信ができない場合，または LINE WORKS との接続が不可能は場合には，tlsline コマンドはエラー終了します。

通信環境の設定は，ユーザごとに環境（OS，通信プロトコル，ファイヤーウォールなどの設定）が異なりますので，必要な際は管理者へ問い合わせをおこない LINE WORKS との通信が可能となるよう環境の整備を実施してください。

(b) LINE WORKS のアカウントに関して

TELstaff のユーザ管理に，LINE WORKS のメンバーアカウントを追加する必要はありません。TELstaff のユーザ管理と LINE WORKS のメンバーアカウントは連動させる必要はありません。

(c) LINE WORKS の制限に関して

tlsline コマンドでは，LINE WORKS 側で設けられた制限(※1)に関してはチェックが行えないため，tlsline コマンドが LINE WORKS 側の制限でエラーとなる可能性があります。tlsline コマンドでは，エラーとならないような予防はできませんので，tlsline コマンドの呼び出し側にて，LINE WORKS 側の制限などを考慮し，tlsline コマンドを実行するようにしてください。

※1：2020 年 10 月時点で，以下の制限を確認しています。
- メッセージ投稿，メッセージ送信するメッセージ文字列は，2000 文字（半角・全角を問わず文字数）まで
- メッセージ投稿，メッセージ送信は 1 分間に 60 回（フリープランの場合）まで
- メッセージ投稿，メッセージ送信は 1 日に最大 20,000 回まで
- トークルーム名は，100 文字（半角・全角を問わず文字数）まで

制限の詳細は LINE WORKS へお問い合わせください。

(d) LINE WORKS の仕様に関して

tlsline コマンドでは，LINE WORKS 側の仕様（2020 年 10 月時点）により，以下の操作はできません。
- LINE (※2)のユーザが招待されているトークルームにメッセージを投稿することはできません。
- メンバーへのメッセージ通知で，LINE (※2)のユーザへメッセージを通知することはできません。

※2：LINE WORKS と LINE は，別のサービスであり，別のアプリケーションです。

(e) LINE WORKS のAPI仕様とtlslineコマンドに関して

tlslineコマンドは，LINE WORKS のAPI を使用して動作しています。現在の動作は，2022年12月時点でのAPI 仕様に基づいて確認されている動作であり，LINE WORKS側で

API の仕様が変更された場合には，tlslineコマンドが動作しなくなる可能性があります。

(3) tlslineコマンド共通の注意事項

- ファイル名を指定するコマンドにおいては，Windows 外部デバイスファイル（Windows 予約デバイスファイル）の名前は指定できません。
- Windows サービスの延長でコマンドを実行する場合は，ネットワークドライブ上のファイルは指定できません。
- ファイル完全名に空白文字が含まれる場合は「"」（ダブルコーテーション）でファイル完全名を囲んで指定する必要があります。
- コマンドの引数に空白文字が含まれる場合は「"」（ダブルコーテーション）で引数を囲んで指定する必要があります。
- 同一引数を複数指定した場合は，最後の引数を有効とします。

11.23.1 トークルームの作成

(1) 機能

LINE WORKS にチャット Bot からトークルームを作成します。

メッセージを投稿するトークルームのトークルーム ID が不明な場合に，トークルームの作成を実施します。トークルームの作成時には，トークルーム ID が生成されます。このトークルーム ID は，ルーム ID 記録ファイルに，トークルーム名をキーに，トークルーム ID を値に設定して自動的に記録されます。

(2) 形式

```
tlsline room create
    -name トークルーム名
    -accounts アカウント名1[,アカウント名2,…]
    -bot botID
    [ -profile コマンド設定ファイル名 ]
    [ -h ]
```

(3) 引数

(a) -name トークルーム名

作成するトークルームの名前を 3～100 文字以内（半角・全角を問わず文字数）で指定します。既にルーム ID 記録ファイルに登録された名称は指定できません。トークルーム名には半角空白文字および次の文字は使用できません。

" ¥ / * ? [ ] = < > ! ' $ % & , ; # ((ASCII制御文字(※1))

※1：ASCII 制御文字は 0x00～0x1F，0x7F を表します。

(b) -accounts アカウント1[,アカウント2,...]

作成するトークルームに追加する LINE WORKS のメンバーアカウントを ID で指定します。アカウントは最低でも 1 アカウントの指定が必要です。アカウントは LINE

WORKS 側であらかじめメンバーアカウントとして登録されている必要があります。

例) -accounts user01@example.com

(c) -bot botID

作成するトークルームに設定する LINE WORKS のチャット Bot を Bot No で指定します。指定した Bot No の Bot は作成されたトークルームに自動的に招待されます。

Bot No は LINE WORKS の Developper Console にて確認が可能です。Bot No は LINE WORKS 側であらかじめ利用設定されている必要があります。

(d) -profile コマンド設定ファイル名

LINE WORKS の情報を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，11.23(1)(c)で事前準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。コマンド設定ファイルの詳細は「11.23(1)(c) コマンド設定ファイル」を参照してください。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなり，動作ログは出力しません。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには，実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- LINE WORKS の制限により，トークルーム作成がエラーとなる場合があります。詳細は「11.23(2)(c) LINE WORKS の制限に関して」を参照してください。
- LINE WORS の仕様により，作成したトークルームは，トークルームへメッセージ投稿が行われるまでは，参照することができません。作成した直後に参照しても該当するトークルームは表示されませんので，ご注意ください。
- tlsline コマンドは「<TELstaff インストールフォルダ>¥V3¥bin」フォルダにあります。使用する場合は，完全パスで指定するか，Windows の PATH 設定をしてください。
- 実行する tlsline コマンドは，TELstaff 動作記録の「LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログ(tlsline.log)」に記録します。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	トークルームの作成に失敗しました。詳細は LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログに記録されます。
2	トークルームの作成に失敗しました。詳細は LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 はリトライ可能なエラー

	（https 通信系エラー）を示します。

tlsline コマンドの実行結果は LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログで確認できます。

(6) 使用例

例１：

トークルーム「お知らせ」を作成する。トークルームに追加するアカウントは１名，bot ID は 8881 を使用，コマンド設定ファイルは省略する。

```
tlsline room create -name お知らせ -accounts user01@example.com -bot 8881
```

例２：

トークルーム「システムからの通知」を作成する。トークルームに追加するアカウントは２名，bot ID は 8882 を使用，コマンド設定ファイルを指定する。

```
tlsline room create -name システムからの通知 -accounts user01@example.com,
user02@example.com -bot 8882 -profile c:¥temp¥tlsline-profile-001.conf
```

11.23.2 トークルームへメッセージを投稿

(1) 機能

LINE WORKS のチャット Bot からトークルームへメッセージを投稿します。

投稿先のトークルームは，あらかじめ LINE WORKS 側に作成されている必要があります。

(2) 形式

```
tlsline room post
    { -room トークルーム名 | -roomID トークルームID }
    -bot botID
    [ -profile コマンド設定ファイル名 ]
    [ -i 識別文字列 ]
    [ -h ]
    [ { -- メッセージ文字列 | -file 投稿ファイル名 [ -fenc { SJIS | UTF8 } ] } ]
```

(3) 引数

(a) -room トークルーム名

メッセージ投稿を行うトークルーム名を指定します。指定するトークルーム名は，ルーム ID 記録ファイルに記載されている必要があります。-roomID オプションと同時には指定できません。

(b) -roomID トークルームID

メッセージ投稿を行うトークルームのトークルーム ID を指定します。-room オプショ

ンと同時には指定できません。

(c) -bot botID

メッセージ投稿を行う LINE WORKS チャット Bot の Bot No を指定します。指定する Bot No の Bot があらかじめトークルームに招待されている必要があります。招待されていない Bot の Bot No を指定した場合，メッセージ投稿はエラーとなります。

Bot No は LINE WORKS の Developper Console にて確認可能です。Bot No は LINE WORKS 側であらかじめ利用設定されている必要があります。

(d) -profile コマンド設定ファイル名

LINE WORKS の情報を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，11.23(1)(c)で事前準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。コマンド設定ファイルの詳細は「11.23(1)(c) コマンド設定ファイル」を参照してください。

(e) -i 識別文字列

投稿するメッセージ中の{ID}変数に置き換える文字列を指定します。本オプションを使用することで tlsline コマンドの呼び出し元と LINE WORKS に投稿されたメッセージを関連付けることを可能とします。

(f) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなり，動作ログは出力しません。

(g) -- メッセージ文字列

投稿するメッセージ文字列を--(ダブルハイフン)の後に半角スペースを入れ指定します。--以降のオプションは全てオプションとしての意味を持たず，送信メッセージの一部として扱われるため，必要なオプションは本引数の前に指定する必要があります。通知メッセージ中には「11.23.4 tlsline コマンドで使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。メッセージ文字列中の 1 文字以上の連続する半角空白文字は 1 文字の半角空白文字に置き換えられます。

(h) -file 投稿ファイル名

投稿するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。投稿メッセージ中には，「11.23.4 tlsline コマンドで使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。

(i) -fenc { SJIS | UTF8 }

-file で指定したメッセージファイルの文字コードを指定します。省略すると SJIS が使用されます。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには，実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- LINE WORKS の制限（メッセージの文字数や投稿回数など）により，メッセージ投稿がエラーとなる場合があります。詳細は「11.23(2)(c) LINE WORKS の制限に関して」を参照してください。
- --メッセージ文字列引数および -file 引数の両方を省略した場合，投稿するメッセージは標準入力から取得します。
- tlsline コマンドは「<TELstaff インストールフォルダ>¥V3¥bin」フォルダにあります。使用する場合は，完全パスで指定するか，Windows の PATH 設定をしてください。
- 実行する tlsline コマンドは，TELstaff 動作記録の「LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログ(tlsline.log)」に記録します。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	メッセージ投稿に失敗しました。詳細は LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログに記録されます。
2	メッセージ投稿に失敗しました。詳細は LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 はリトライ可能なエラー（https 通信系エラー）を示します。

tlsline コマンドの実行結果は LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログで確認できます。

(6) 使用例

例１：

トークルーム「お知らせ」へ，bot ID は 8881 を使用し，定期メンテナンスのメッセージを投稿する。

```
tlsline room post -room お知らせ -bot 8881 -- 本日，22時から23時まで，定期メンテナンスのため，勤怠システムが停止します。
```

例２：

トークルーム「お知らせ」へ，bot ID は 8881 を使用し，定期メンテナンスのメッセージを投稿する。識別子文字列とメッセージ投稿時刻も出力。メッセージファイル名も使用する。

c:¥temp¥mente-msg200.txt の内容
「{ID}{%y 年%m 月%d 日}{%H 時%M 分%S 秒} 本日，22 時から 23 時まで，
定期メンテナンスのため，勤怠システムが停止します。」

```
tlsline room post -room お知らせ -bot 8881 -i 1101 -file c:¥temp¥mente-msg200.txt
```

11.23.3 メンバーへメッセージを送信

(1) 機能

LINE WORKS のチャット Bot から特定ユーザにメッセージを送信します。

(2) 形式

```
tlsline member post
    -bot botID
    -account アカウント名
    [ -profile コマンド設定ファイル名 ]
    [ -i 識別文字列 ]
    [ -h ]
    [ { -- メッセージ文字列 | -file メッセージファイル名 [ -fenc { SJIS |
    UTF8 } ] } ]
```

(3) 引数

(a) -bot botID

メッセージを送信する LINE WORKS チャット Bot の Bot No を指定します。

Bot No は LINE WORKS の Developper Console にて確認可能です。Bot No は LINE WORKS 側であらかじめ利用設定されている必要があります。

(b) -account アカウント

メッセージを送信する LINE WORKS のメンバーアカウントを ID で指定します。指定するアカウントは LINE WORKS 側であらかじめメンバーアカウントとして登録されている必要があります。

例) -accounts user01@example.com

(c) -profile コマンド設定ファイル名

LINE WORKS の情報を格納したコマンド設定ファイルを完全名で指定します。本オプションを省略した場合，11.23(1)(c)で事前準備した標準のコマンド設定ファイルが使用されます。コマンド設定ファイルの詳細は「11.23(1)(c) コマンド設定ファイル」を参照してください。

(d) -i 識別文字列

投稿するメッセージ中の{ID}変数に置き換える文字列を指定します。本オプションを使用することで tlsline コマンドの呼び出し元と LINE WORKS に送信されたメッセージを関連付けることを可能とします。

(e) -h

本コマンドの使用方法を表示します。本オプションを指定した場合，他の引数はすべて無視されます。また，戻り値は常に成功扱いとなり，動作ログは出力しません。

(f) -- メッセージ文字列

投稿するメッセージ文字列を--(ダブルハイフン)の後に半角スペースを入れ指定します。--以降のオプションは全てオプションとしての意味を持たず，送信メッセージの一部として扱われるため，必要なオプションは本引数の前に指定する必要があります。通知メッセージ中には「11.23.4 tlsline コマンドで使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。メッセージ文字列中の 1 文字以上の連続する半角空白文字は 1 文字の半角空白文字に置き換えられます。

(g) -file メッセージファイル名

送信するメッセージを格納したファイルを完全名で指定します。送信メッセージ中には，「11.23.4 tlsline コマンドで使用できる変数」に示す変数の指定が可能です。

(h) -fenc { SJIS | UTF8 }

-file で指定したメッセージファイルの文字コードを指定します。省略すると SJIS が使用されます。

(4) 注意事項

- 本コマンドを実行するには，実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- LINE WORKS の制限（メッセージの文字数や送信回数など）により，メッセージ送信がエラーとなる場合があります。詳細は「11.23(2)(c) LINE WORKS の制限に関して」を参照してください。
- --メッセージ文字列引数および -file 引数の両方を省略した場合，送信するメッセージは標準入力から取得します。
- tlsline コマンドは「<TELstaff インストールフォルダ>¥V3¥bin」フォルダにあります。使用する場合は，完全パスで指定するか，Windows の PATH 設定をしてください。
- 実行する tlsline コマンドは，TELstaff 動作記録の「LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログ(tlsline.log)」に記録します。

(5) 戻り値

戻り値	説明
0	成功しました。
1	メッセージ送信に失敗しました。詳細は LINE WORKS 連携コマンド実

	行記録ログに記録されます。
2	メッセージ送信に失敗しました。詳細は LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログに記録されます。戻り値が 2 はリトライ可能なエラー（https 通信系エラー）を示します。

tlsline コマンドの実行結果は LINE WORKS 連携コマンド実行記録ログで確認できます。

(6) 使用例

例１：

アカウント user01@example.com へ，bot ID は 8881 を使用し，メッセージを送信する。

```
tlsline member post -bot 8881 -account user01@example.com -- 本日，22時からの定期メンテナンスは，22時10分から開始します。
```

例２：

アカウント user01@example.com へ，bot ID は 8881 を使用し，メッセージを送信する。識別子文字列とメッセージ投稿時刻も出力。メッセージファイルを使用する。

メッセージファイル(c:¥temp¥mente-msg201.txt)の内容
「{ID} {%y 年%m 月%d 日} {%H 時%M 分%S 秒} 22 時からの定期メンテナンスは，22 時 10 分から開始します。」

```
tlsline member post -bot 8881 -account user01@example.com -i 1201 -file c:¥temp¥mente-msg201.txt
```

11.23.4　tlslineコマンドで使用できる変数

LINE WORKS への発信コマンド（tlsline）でメッセージ中に使用できる変数に関して記載します。

(1) 変数一覧

tlsline コマンドでは「12.1.1 変数一覧」に記載された TELstaff 標準の変数はすべて使用できません。
以下の tlsline コマンド固有の変数のみが使用可能です。

表 11.23-3　tlslineコマンドで使用可能な固有の変数

変数名	説明
{日付時刻書式文字列}	コマンド受付日時を表す日付時刻書式文字列。 指定可能な書式識別子は「表 11.23-4　日付時刻書式文字列」を参照。
{ID}	コマンドの-i オプションで指定した値

表 11.23-4　日付時刻書式文字列

書式識別子	変換方法
%y	西暦年（4 桁）に置き換えます。
%m	月（01～12）に置き換えます。
%b	月（英語短縮型）Jan, Feb, Mar, Apr, May, Jun, Jul, Aug, Sep, Oct, Nov, Dec に置き換えます。
%d	日（01～31 桁）に置き換えます。
%H	時刻（00～23）に置き換えます。
%M	分（00～59）に置き換えます。
%S	秒（00～60）に置き換えます。
%s	ミリ秒（000～999）に置き換えます。

（例）受付日時が 2020 年 2 月 10 日 12 時 53 分 32 秒 824 ミリ秒の場合

書式文字列の指定	置換後の値
{%y 年%m 月%d 日}	2020 年 02 月 10 日
{%m/%d/%y}	02/10/2020
{%b %d %H:%M:%S %y}	Feb 10 12:53:32 2020
{%H 時%M 分%S 秒%s ミリ秒}	12 時 53 分 32 秒 824 ミリ秒
{%H:%M:%S.%s}	12:53:32.824

(2) 環境変数

メッセージ中に環境変数値を埋め込む場合，環境変数名を%で括って指定可能です。

(例) %USERNAME%

(a)　環境変数の使用時の注意事項

環境変数を使用する場合，次の注意事項があります。

- 環境変数を使用する場合，コマンドの実行元がすでに管理者権限に昇格している状態である，あるいは実行時に管理者として実行する必要があります。
- コマンドを Windows サービス経由で実行する場合は，ユーザ環境変数は置換されません。システム環境変数のみが置換されます。
- 環境変数名が環境変数として登録されていない場合は，置換されません。
- メッセージ中の環境変数名は%（半角パーセント文字）で囲んで指定し，同一変数名が複数箇所指定されていた場合は同じ変数値に置き換わります。
- 環境変数名の大文字・小文字は区別しません。全角・半角の区別は行います。
- 変数名では半角 260 文字，変数値では半角 1023 文字が長さの上限です。変数名が長すぎる場合，その環境変数は扱えません。変数値が長すぎる場合，半角 1023 文字まで変換してそれ以降を切り捨てます。

12. その他

この章では， TELstaff で使用できる変数や統計情報の出力内容などについて説明します。

12.1 変数

12.2 統計情報の出力内容

12.3 TELstaffにおけるワイルドカード

12.1 変数

12.1.1変数一覧

TELstaff で使用できる変数の一覧を，表 12.1-1 に示します。

表 12.1-1 変数一覧

変数名	変数の内容と説明
~date~	yyyy mm/dd 形式の日付（挿入例）2002 08/22
~date1~	yyyy 年 mm 月 dd 日形式の日付（挿入例）2002 年 8 月 22 日
~date2~	yyyy/mm/dd 形式の日付 ~date2~変数は，電話通知，エージェント通知，メール通知，SMS 通知（メッセージファイル使用），FAX 通知で使用できます。（挿入例）2002/08/22
~time~	hh:mm:ss 形式の時刻（挿入例）19:30:32
~time1~	hh 時 mm 分 ss 秒形式の時刻（挿入例）19 時 30 分 32 秒
~id1~	連絡網 ID（nnnn 形式）
~id2~	通知 ID（nnnn 形式）
~NotifyGroupID~	連絡網グループ ID
~MailConfirmID~	メール開封確認用のメール識別番号
~attachfile:ﾌｧｲﾙ名.txt~	ファイル名.txt ファイルを挿入*1
~AttachmentFile~ *5	保存した添付ファイル名，またはバックアップファイル名。
~ComputerName~	通知を実行したコンピュータ名
~DiskcapDetectReason~	検出内容（「しきい値を超えました」または「しきい値以前に戻りました」）
~DiskcapDetectValue~	検出値
~DiskcapDiskDriveFsys~	ファイルシステム名
~DiskcapDiskDriveLabel~	ディスクのラベル名
~DiskcapDiskDriveName~	ドライブ名
~DiskcapExplanation~	ディスク容量監視の監視グループの説明
~DiskcapExplanation1~	ダブルコーテーションで囲んだディスク容量監視の監視グループの説明（※2）
~DiskcapLevel~	レベル値
~DiskcapLevelValue~	レベルしきい値
~DiskcapMethod~	監視種別（未使用監視，または使用監視）
~DiskcapMonBy~	監視条件 （率(%)監視，容量値(MB)監視，容量値(KB)監視）
~DiskcapMonGroupName~	ディスク容量監視の監視グループ名
~DiskcapPreComparity~	前回との増減
~DiskcapRateCrtFree~	現在の未使用率
~DiskcapRateCrtUsed~	現在の使用率
~DiskcapReachCount~	到達回数
~DiskcapValueUnit~	単位（%，MB，KB）

変数名	変数の内容と説明
~DiskcapVolCrtFreeMB~	現在の空き容量(MB)
~DiskcapVolCrtUsedMB~	現在の使用量(MB)
~DiskcapVolMaxUsedMB~	最大使用量(MB)
~DiskcapVolTotal~	全ディスク容量
~DrvMethod~	ドライバ監視の監視方法
~DriverID~	ドライバ監視で検出したドライバ ID
~DriverName~	ドライバ監視で検出したドライバ名称
~EventLogKind~	イベントログ監視で検出したイベントログの種別
~EventLogSource~	イベントログ監視で検出したイベントの発生元
~EventLogType~	イベントログ監視で検出したイベントの種類
~EventLogMessage~	イベントログ監視で検出したイベントの説明
~EventLogMessageStr~	イベントログ監視で検出した改行を除くイベントの説明
~EventLogFindString~	イベントログ監視で検出された文字列（複数の場合は，カンマ区切りで並べた文字列）v
~EventLogID~	イベントログ監視で検出したイベントログの ID
~EventLogDate~	イベントログ監視で検出したイベントの日付
~EventLogTime~	イベントログ監視で検出したイベントの時刻
~EventLogComputer~	イベントログ監視で検出したイベントのコンピュータ名
~EventLogUser~	イベントログ監視で検出したイベントのユーザ名
~EventLogCategory~	イベントログ監視で検出したイベントの分類
~faxfile~	電話からFAX送信依頼するときのFAX送信用のカバーシートで ~faxfile~ は送信するファイル名
~FMonFile~	ファイル監視で検出したパス名を含まないファイル名
~FMonFileExt~	ファイル監視で検出したファイルの拡張子
~FMonFileFolder~	ファイル監視で検出したファイルがあるパス名
~FMonFilePath~	ファイル監視で検出したファイル完全名
~FMonFileName~	ファイル監視で検出したファイル完全名の先頭または末尾の n 文字
~FMonFileContent~ *7	検出したファイルが拡張子txtの場合，検出ファイルの内容。 検出したファイルが拡張子txt以外の場合は，無効になります。作成監視と更新監視で通知文に使用できます。~FMonFileContent~の場所に検出したファイル内容を挿入します。ファイルの作成監視で検出ファイルは，検出した時点の内容を使用するため，データが全て揃っていない場合があります。
~FMonMethod~	ファイル監視の監視方法
~IPaddress~ *8	通知を実行したコンピュータの IP アドレス
~MailSenderName~	受信したメールのメール差出人情報。 "name" <address> のような差出人情報は，コマンドパラメタに指定できません。
~MailSenderAddr~	受信したメールの差出人メールアドレス。差出人メールアドレスがないと

v 厳密にはフィルタリング条件を構成する個々の文字列のうち，条件に合致する文字列をカンマ区切りで並べた文字列に置換されます。

変数名	変数の内容と説明
	きは，“MailAddr_None”となります。
~MailSubject~	受信したメールの標題情報
~MailMonAccount~	監視グループ名（アカウント名）
~MailMonComment~	監視グループの説明
~MailMonComment2~ *9	ダブルコーテーションで囲んだサービス監視の監視グループの説明
~MailMonAddress~	監視するメールアドレス
~MailMonFilter~	フィルタリング名。フィルタリング指定が無い場合は，「**NONE**」
~MailMonNumber~	メール監視通知の通し番号
~MailMonType~	メール監視種別（リアルタイム監視の場合は「MTA」，POP3 監視の場合は「POP3」）
~MailMonCorrespondAddress~	メール監視の監視対象に該当したメールアドレス。リアルタイム監視で個別に監視対象メールアドレスを指定した場合，および POP3 監視の場合は，~MailMonAddress~と同じ
~MailMonField:X~	この変数は，メール監視からの通知の契機となった監視対象メールの本文に含まれる，名前が「X」の部分に一致するフィールドの値に置換されます。フィールドについての詳細は 8.1.1(5)を参照してください。
~MConf-Subject~	表題
~MConf-AcceptID~	メール送信受付番号
~MConf-ID~	メール識別番号
~MConf-UserName~	メール送信者名（ユーザ名）
~MConf-SendTime~	メール送信日時
~MConf-ConfirmTime~	メール開封確認日時
~MConf-ConfirmAddr~	メール開封確認者メールアドレス
~MConf-LastConfirmAddr~	最終メール開封確認者メールアドレス
~MConf-LastConfirmDate~	最終メール開封確認日時
~MsgMonFileName~	メッセージ監視で検出したファイル完全名
~MsgMonFindLine~	メッセージ監視で文字列が検出された行全体の内容
~MsgMonFindString~	メッセージ監視で検出された文字列情報（文字列が複数の場合はカンマ区切りで並べた文字列）[vi]
~MotionDetectImageURL~ *11	動体検出画像が記録された URL アドレス
~node~	teldial コマンドの -ih, -ip または -h オプションで指定したホスト名 （挿入例）host1
~node1~*2	teldial コマンドの -ih, -ip または -h オプションで指定したホスト名と対応する別名 （挿入例）host1(正系メールサーバ)
~node2~ *2	teldial コマンドの -ih, -ip または -h オプションで指定したホスト名に対応する別名 （挿入例）正系メールサーバ
~notifynumber~	1から9999999のteldialコマンドの受付け番号。

[vi] 厳密にはフィルタリング条件を構成する個々の文字列のうち，条件に合致する文字列をカンマ区切りで並べた文字列に置換されます。

変数名	変数の内容と説明
	9999999に到達時に1から始まります。途中で1に戻すことはできません。
~ovtopodump~	ovtopodumpｺﾏﾝﾄﾞ実行結果情報と置き換えます。HP Network Node Manager softwareまたはJP1/Cm2が実行中のとき使用できます。
~Observation~	機器稼動監視で検出した機器情報 挿入内容は，メッセージ（1100-I，1101-I，1110-I，1111-I，1120-I，1121-I，1130-I，1131-I）の内容になります。
~ProcessName~ *3	プロセス監視結果のプロセス情報。 （挿入例）プロセス名（PID,xxx） PID：プロセス ID xxx：「消滅」または「出現」
~ReceivedMail~ *4	添付ファイル情報を含まないメール本文情報。
~ReceivedMail1~ *10	添付ファイル情報を含まないメール本文情報。
~ReceivedMailTo~	受信メールの To 情報
~ReceivedMailCc~	受信メールの Cc 情報
~ReceivedMailPriority~	受信メールの重要度
~ReceivedMailReplyTo~	受信メールの返信先情報
~ReceivedMailDate~	受信メールの日付情報
~ReceivedMailMessage-ID~	受信メールのメッセージ ID 情報
~ReceivedMailHeader~ *4	受信メール先頭行から空行までのヘッダー情報
~ReceivedMailBody~ *4	受信メールのヘッダー情報を除くボディ部情報
~ReceivedFile~ *6	受信したエージェントメッセージファイルのファイル名
~ServiceMethod~	サービス監視の監視方法
~ServiceName~	サービス監視で検出したサービス名
~ServiceName1~ *9	サービス監視でダブルコーテーションで囲んだサービス名
~ServiceDisplayName~	サービス監視でサービス表示名
~ServiceDisplayName1~ *9	サービス監視でダブルコーテーションで囲んだサービス表示名
~ServiceStatus~	サービス監視で検出したサービスの状態
~ServiceStartUp~	サービス監視で検出したサービスのスタートアップ種別
~ServiceAccountName~	このサービスに使用されているアカウント名
~ServiceAccountName1~ *9	ダブルコーテーションで囲んだアカウント名
~ServiceMonGroupName~	サービス監視の監視グループ名
~ServiceDisplayDescription~	サービス監視の監視グループの説明
~ServiceDisplayDescription1~ *9	ダブルコーテーションで囲んだサービス監視の監視グループの説明
~snmptrap_GroupName~	SNMP トラップ監視の監視グループ
~snmptrap_agentAddress~	SNMP トラップ監視で検出した TRAP 送出元 IP アドレス
~snmptrap_sourceAddress~	SNMP トラップ監視で検出した TRAP 送出元 IP アドレス
~snmptrap_enterprise~	SNMP トラップ監視で検出した enterpriseID 情報
~snmptrap_genericTrap~	SNMP トラップ監視で検出した genericTrap 値
~snmptrap_specificTrap~	SNMP トラップ監視で検出した specificTrap 値。specificTrap 値がない

変数名	変数の内容と説明
	場合は，空白。
~variableBindings~ [vii]	SNMP トラップ監視で検出した variableBindings 情報
~snmptrap_community~	SNMP トラップ監視で検出したコミュニティ名
~TelsLocalInstPath~	TELstaff インストールフォルダ
~TelsInstPath~	エージェントメッセージ受信先の TELstaff インストールフォルダ。この変数は，エージェントメッセージに指定できます。
~UserName~	連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用した場合は，対応するユーザ名と置き換えます。
~UserExplanation~	ユーザの説明情報と置き換えます。連絡網に定義した電話（トリガフォン），SMS 通知，メール，エージェント，FAX 送信の通知文で使用した場合は，対応するユーザ名と置き換えます。
~UserInformation~	teldial コマンドの -u または -uf オプションで指定したユーザ付加情報。 プロセス監視からの通知文では，プロセス監視結果のプロセス情報。プロセス情報については，~ProcessName~変数を参照してください。 機器稼動監視からの通知文では，機器稼動監視で検出した機器情報。機器稼動監視で検出した機器情報については，~Observation~変数を参照してください。
~PowerMonName~	監視対象の名称
~PowerMonName1~	ダブルコーテーションで囲んだ監視対象の名称
~PowerMonType~	監視対象の種別（監視対象の種別がコンピュータの場合は「コンピュータ」，監視対象の種別が機器の場合は「機器」）
~PowerMonIPAddress~	監視対象の IP アドレス情報
~PowerMonComNo~	監視対象の種別が機器，かつ，接続方法がシリアル接続の場合の COM ポート番号
~PowerMonConsentNo~	監視対象の種別が機器の場合の電源ユニットのコンセント番号
~PowerMonDetectCondition~	監視対象の監視条件 「稼動状態検出時」「非稼動状態検出時」「CPU 使用率が n%以下」「他の監視対象が非稼動」のいずれか。n は監視条件として指定された CPU 使用率の値を示す。
~PowerMonDetectCPU~	監視対象の監視条件が「CPU 使用率が n%以下」のとき，検出した CPU 使用率
~PowerMonDetectReason~	監視対象が監視条件に一致した場合の監視結果 「稼動状態を検出しました」 「非稼動状態を検出しました」 「CPU 使用率 n%以下を検出しました」 「同一グループの他の監視対象の非稼動状態を検出しました」 「CPU 使用率を取得できませんでした」のいずれか。
~PowerMonStatus~	監視対象が監視条件に一致した場合の監視対象の状態 「稼動」「非稼動」のいずれか。

[vii] 過去バージョンにおいてスペルの誤った変数名「~valiableBindings~」を使用していました。現在でも互換性のためこの変数名も使用可能です。

変数名	変数の内容と説明
~PowerMonConnectType~	監視対象の接続方法 「ネットワーク」「シリアル」のいずれか。
~PowerMonAction~	監視対象が監視条件に一致した場合の電源制御 「シャットダウン」「再起動」「起動」「電源制御なし」のいずれか。
~PowerMonGroupName~	監視グループ名
~PowerMonDescription~	監視グループの説明
~PowerMonDescription1~	ダブルコーテーションで囲んだ監視グループの説明
~cmdreturnvalue~	「コマンドのプロパティダイアログボックス〔連絡網の発信先〕」に指定して実行したコマンドが，「コマンド終了待ち時間」内に終了した場合の，コマンド戻り値。

*1 ~attachfile：ファイル名.txt~ または teldial コマンド -uf ファイル名.txt の ~UserInformation~ の注意事項

1. ファイル名.txt 内に ~attachfile：ファイル名.txt~，または ~UserInformation~ は指定できません。
2. ファイル名.txt の内容は，~attachfile：ファイル名.txt~ または ~UserInformation~ から挿入されます。
3. ファイル名.txt のファイルが存在しない場合は，エラーメッセージが挿入されます。
4. 改行制御は，ファイル名.txt の内容で行われます。
5. ~attachfile:ファイル名.txt~ ，または~UserInformation~は，1 行で指定し，文字数は，最大 256 文字まで以内で指定します。
6. ~attachfile:ファイル名.txt~ ，または~UserInformation~で指定するファイルはテキストファイルを指定します。テキストファイル以外のファイルを指定した場合は，そのまま挿入されます。
7. ~attachfile:ファイル名.txt~ ，または~UserInformation~で挿入した結果の総文字数は，全角で 256 文字を超えることはできません。
8. ファイル名.txt には，埋字は使用できません。
9. SMS 通知文（文字指定の場合），メール通知文の Subject 行，コマンド通知のコマンドライン，表示ボードの通知文，［実行コマンドの設定］－［電話］タブで指定するコマンドライン[4.5.2(2)]，連絡網トリガーコマンド[5.3.11(4)]，および電話通知文ファイル（ファイル拡張子が tp のファイル）では使用できません。

*2 teldial コマンドの -ih, -ip または -h オプションで指定するホスト名の別名の定義は，環境設定－「カスタマイズ」タブの「別名定義ファイル」で行います。

*3 次のダイアログボックスで使用できます。

1. プロセス監視設定－「その他」タブの「パラメタ」テキストボックス
2. プロセス監視設定－「電話・SMS」タブの SMS 発信「メッセージ」テキストボックス
3. プロセス監視設定－「連絡網」タブの「SMS メッセージ」テキストボックス

*4

1. 通知文ファイルの中に指定すると通知文ファイルの中に直接挿入します。
2. フィルタリングの設定ダイアログボックス（図 8.3-10）－「その他」タブのコマンドパラメタに指定した場合，一時ファイルに作成し，「"」（ダブルコーテーション）で囲まれた拡張子が「.txt」の一時ファイル名と置き換えます。この一時ファイルは，参照するアプリケーションが削除する必要があります。
3. ~ReceivedMail~変数では，受信したメールが添付ファイル付きメール等，複数のパートに別れているメールの場合，正しく取得できない場合がありま

す。

*5
1. 添付ファイルの保存指定がないときは，添付ファイルを一時ファイルに作成して一時ファイル名と置き換えます。この一時ファイルは，参照するアプリケーションが削除する必要があります。
2. 添付ファイルが複数あるとき，または cab ファイルの場合は，保存した添付ファイルの一覧ファイルを作成して，この一覧ファイル名と置き換えます。
3. コマンドパラメタで使用する場合は，"~AttachmentFile~"のように「"」（ダブルコーテーション）で囲んで使用します。

*6
1. メッセージエージェント構成の設定－「メッセージ保存」タブで“保存しない”または“まとめて保存する”を指定している場合，受信ファイルを一時ファイルに作成して一時ファイル名と置き換えます。この一時ファイルは，参照するアプリケーションが削除する必要があります。
2. _$Received_FileDelete プロトコルコマンドが挿入されているエージェントメッセージの場合，受信ファイルを一時ファイルに作成して一時ファイル名と置き換えます。この一時ファイルは，参照するアプリケーションが削除する必要があります。
3. コマンドパラメタで使用する場合は，"~ReceivedFile~"のように「"」（ダブルコーテーション）で囲んで使用します

*7 ~FMonFileContent~ の注意事項
1. 検出ファイル中には，他の変数は指定できません。
2. 検出ファイルの内容は，~FMonFileContent~ から挿入されます。
3. 検出ファイルが存在しない場合は，エラーメッセージが挿入されます。
4. 改行制御は，検出ファイルの内容で行われます。
5. 検出ファイルがテキストファイル以外（ファイルが拡張子 txt 以外の場合）のファイルの場合は，無効になります。
6. teldial コマンドの-u オプションでは使用できません。

*8 複数の IP アドレスが割り当てられた環境では，~IPaddress~変数は，OS から最初に得られたアドレスに置換されます。

*9 文字指定のユーザ付加情報，SMS 通知メッセージ，表示ボードメッセージおよびコマンドパラメタには使用できません。

*10 メール本文を一時ファイルに作成し，「"」（ダブルコーテーション）で囲まれた拡張子が「.tp」の一時ファイル名と置き換えます。この一時ファイルは，参照するアプリケーションが削除する必要があります。
この変数は，_$UserExitCommand プロトコルコマンド，「メッセージエージェント構成の設定」－「メッセージ受信」タブの「コマンド実行」およびフィルタリングの設定ダイアログボックス（図 8.3-10）－「その他」タブのコマンドパラメタで指定できます。
受信したメールが添付ファイル付きメール等，複数のパートに別れているメールの場合，正しく取得できない場合があります。

*11 JP1 版 TELstaff では使用できません。

12.1.2環境変数

(1) 環境変数の使用例

teldial コマンド実行時，-ev オプションを使用すると，システムの環境変数および teldial コマンド実行時のユーザ環境変数の値を通知内容に使用することが可能です。使用

例を以下に示します。

```
詳細情報は次のとおりです。

マイドキュメント=%HOMEDRIVE%%HOMEPATH%¥MyDocument
ユーザ名=%USERNAME%
```

図 12.1-1　環境変数を使用する場合の通知文作成例

teldial コマンド実行時の HOMEDRIVE，HOMEPATH，USERNAME の状態が次の場合，通知内容は図 12.1-2 の通りです。

・HOMEDRIVE=C:
・HOMEPATH=¥Documents and Settings¥Administrator
・USERNAME=Administrator

```
詳細情報は次のとおりです。

マイドキュメント=C:¥Documents and Settings¥Administrator¥MyDocument
ユーザ名=Administrator
```

図 12.1-2　環境変数を使用する場合の通知結果例

なお通知文には表 12.1-1 に示す変数が使用できます。

(2) 環境変数の使用時の注意事項

環境変数を使用する場合，次の注意事項があります。

- -ev オプションを指定する場合は，実行元がすでに管理者権限に昇格している必要があります。
- 通知内容中の環境変数名は%（半角パーセント文字）で囲んで指定し，同一変数名が複数箇所指定されていた場合は同じ変数値に置き換わります。（例）%SystemDrive%
- -ev オプションを指定しない teldial コマンドを実行した場合，通知内容中の環境変数名は変換しません。
- 通知内容で指定された環境変数名が，teldial コマンド実行時の環境変数に存在しない場合は，通知内容中の環境変数名は変換しません。
- -fa で指定した添付ファイル内の環境変数名は変換しません。
- 通知内容文中の~attachfile：ファイル名.txt~変数で指定されたファイル内の環境変数名は変換しません。
- 環境変数名の大文字・小文字は区別しません。全角・半角の区別は行います。
- 変数名では半角 260 文字，変数値では半角 1023 文字が長さの上限です。変数名が長すぎる場合，その環境変数は扱えません。変数値が長すぎる場合，半角 1023 文字まで変換してそれ以降を切り捨てます。

12.2 統計情報の出力内容

12.2.1統計情報一覧

統計情報の一覧を表 12.2-1 に示します。

表 12.2-1 統計情報一覧

統計情報の種類	説明
発信統計情報（全て） ※1	発信した全ての発信統計情報
電話発信統計情報 ※1	電話発信の発信統計情報
ショートメッセージサービス通知統計情報 ※1	SMS 通知の発信統計情報
メール発信統計情報 ※1	メール発信の発信統計情報
FAX 発信統計情報 ※1	FAX 発信の発信統計情報
エージェント発信統計情報 ※1	エージェント発信の発信統計情報
コマンド発信統計情報 ※1	コマンド発信の発信統計情報
パトランプ発信統計情報 ※1	パトランプ発信の発信統計情報
表示ボード発信統計情報 ※1	メッセージ表示ボードの発信統計情報
デスクトップ発信統計情報 ※1	デスクトップ発信の発信統計情報
メール開封確認統計情報 ※1	メール開封確認状況の統計情報
メール開封確認配送エラー統計情報 ※1	メール開封確認配送エラーの統計情報
電話通知対応統計情報 ※1	通知に対する対応記録の統計情報
着信履歴統計情報 ※1	電話着信の統計情報
ネットワーク監視統計情報 ※1	ネットワーク監視の統計情報
接点入力監視統計情報 ※2	接点入力監視の統計情報
プロセス監視統計情報 ※2	プロセス監視の統計情報
イベントログ監視統計情報 ※2	イベントログ監視の統計情報
メッセージ監視統計情報 ※2	メッセージ監視の統計情報
ドライバ監視統計情報 ※2	ドライバ監視の統計情報
ファイル監視統計情報 ※2	ファイル監視の統計情報
バックアップ統計情報（送信側） ※2	送信側のバックアップ統計情報
サービス監視統計情報 ※2	サービス監視の統計情報
SNMP トラップ監視統計情報 ※1	SNMP トラップ監視の統計情報
メール監視統計情報 ※1	メール監視の統計情報
ディスク容量監視統計情報※2	ディスク容量監視の統計情報
ディスク使用状況統計情報※2	ディスク使用状況の統計情報
稼動状況監視統計情報※5	稼動状況監視の統計情報
稼動状況統計情報※5※6	稼動状況監視の監視対象の状況の統計情報
サービス稼動監視統計情報 ※2	TELstaff サービスの稼動監視統計情報
パトランプ稼動監視統計情報 ※2	パトランプ稼動監視統計情報
メールサーバ稼動監視統計情報 ※2	メールサーバ稼動監視の統計情報

統計情報の種類	説明
モデム稼動監視統計情報 ※2	モデムとトリガフォンの稼動監視統計情報
添付ファイル保存統計情報 ※3	添付ファイルの保存統計情報
受信ファイル保存統計情報 ※3	バックアップファイルの保存統計情報
受信画像統計情報 ※3 ※7	TELstaff Motion Detector からの画像受信統計情報
カメラ監視統計情報 ※3 ※7	カメラ監視の統計情報

注※1　AEPE および AESE で出力します。
注※2　AEPE, AESE, AECL で出力します。
注※3　TELstaff Motion Detector 製品で出力します。
注※4　IP 電話通知機能が使用できる製品で出力します。
注※5　AEPE および AECL で出力します。
注※6　稼動状況監視設定ダイアログボックスの全般タブの「稼動状況を統計情報として出力する」にチェックする場合は，この統計情報を出力する設定が必要です。
注※7　JP1 版 TELstaff では使用できません。

12.2.2統計情報出力内容

統計情報の出力内容は，統計情報の種類によって異なります。なお，出力内容は，バージョンによって異なりますのでご注意ください。

統計情報の出力内容を参照するには，統計情報ビューアを使用します。TELstaff サービス起動中は，現在出力中の統計情報ファイルを直接アプリケーションで開いたり，変更や削除はできません。

(1) 発信統計情報

発信統計情報では，実際に発信が行われたものだけが記録されます。発信抑止，発信の中止，発信の取り消し，発信制限した発信は記録されません。また，既に発信中であっても，発信中に電話から確認がおこなわれた発信は，発信統計情報およびメッセージログに記録されません。

図 4.1-28 統計情報のプロパティダイアログボックスの「繰り返し毎に記録」チェックボックスにチェックした場合は，発信の繰り返し毎に統計情報を出力します。

繰返回数 1 および繰返回数 2 は，発信の繰り返し時の回数を記録します。

チェックをしない場合は，繰り返しを含めて 1 つの発信毎に統計情報を出力します。

(a) 発信統計情報（全て）

発信統計情報（全て）は，全ての発信について記録します。

表 12.2-2 発信統計情報（全て）出力内容

日付,時刻,種類,発信先,繰返１,繰返２,ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ,状態,連絡網 ID,通知 ID,ﾕｰｻﾞ名,ﾕｰｻﾞ説明,受付番号,ﾕｰｻﾞ付加情報(-u) ,ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,

表 12.2-3 発信統計情報（全て）の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)

表示項目	内容	
種類	電話/SMS/メール/FAX/エージェント/コマンド/パトランプ/表示ボード/デスクトップ	
発信先	電話	発信先電話番号
	SMS	SMS 通知番号
	メール	発信先メールアドレス
	ﾒｰﾙｸﾞﾙｰﾌﾟ	（種別）:発信先メールアドレス
	コマンド	コマンド名
	FAX	発信先 FAX 番号
	ｴｰｼﾞｪﾝﾄ	発信先エージェントアドレス
	パトランプ	IP アドレス，または Local
	表示ボード	IP アドレス，または Local
	ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟ	発信先 Alarm View の IP アドレス
繰返回数 1	通知メディアごとに繰り返した回数	
繰返回数 2	連絡網の繰り返し回数。直接発信の場合，値はありません。	
シリアルポート	使用した COM ポート名。COM ポートを使用しないか，使用できる COM ポートが無いときは，値はありません。 トリガフォン（TP2000）を LAN 接続で使用している場合，IP アドレスを表示します。	
状態	発信成功は○，失敗は×。電話回線の場合，表 13.1-1 の挿入文字。また，電話発信では，発信の確認が行われたときは“確認”，確認されなかったときは“保留”。	
連絡網 ID	連絡網 ID。直接発信では，値はありません。	
通知 ID	通知 ID。指定がないときは，値はありません。	
ユーザ名	ユーザ名。発信先を直接指定した直接発信では，値はありません。	
ユーザ説明	ユーザ管理で指定した説明内容。指定がないか，発信先を直接指定した直接発信では，値はありません。	
受付番号	teldial コマンドの受付け番号	
ユーザ付加情報(-u)	-u オプションで指定したユーザ付加情報。省略されたときは，値はありません。	
グループ ID	連絡網グループ ID。直接発信では，値はありません。	
なし	メール識別番号。メール発信以外では，値はありません。	

ネットワーク対応型，コンバータ接続のパトランプを複数箇所登録した場合，「発信情報統計記録(全て)」および「パトランプ発信統計情報」は 1 発信につき 1 レコード出力します。

1 箇所以上のパトランプの制御に成功した場合，状態は「○」とします。全てのパトランプの制御に失敗した場合，状態は「×」とします。

発信先列には IP アドレス，またはホスト名を:(コロン)区切りで 1023 文字以内で出力します。1024 文字以上となる場合は，1019 文字まで出力し，以降は「…」と省略して出力します。

(b) 電話発信統計情報

電話発信統計情報は，電話発信について記録します。

表 12.2-4　電話発信統計情報出力内容

日付,時刻,種類,発信先,繰返１,繰返２,ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ,状態,連絡網 ID,通知 ID,ﾕｰｻﾞ名,ﾕｰｻﾞ説明,受付番号,ﾕｰｻﾞ付加情報(-u) ,ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,

表 12.2-5　電話発信統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種類	電話または IP 電話
発信先	発信先電話番号
繰返回数 1	通知メディアごとに繰り返した回数。
繰返回数 2	連絡網の繰り返し回数。直接発信の場合，値はありません。
シリアルポート	使用した COM ポート名。使用できる COM ポートが無いときは，値はありません。トリガフォン（TP2000）を LAN 接続で使用している場合，IP アドレスを表示します。
状態	表 13.1-1 の挿入文字，または発信の確認が行われたときは“確認”，確認されなかったときは“保留”。
連絡網 ID	連絡網 ID。直接発信では，値はありません。
通知 ID	通知 ID。指定がないときは，値はありません。
ユーザ名	ユーザ名。発信先を直接指定した直接発信では，値はありません。
ユーザ説明	ユーザ管理で指定した説明内容。指定がないか，発信先を直接指定した直接発信では，値はありません。
受付番号	teldial コマンドの受付け番号
ユーザ付加情報(-u)	-u オプションで指定したユーザ付加情報。省略されたときは，値はありません。
グループ ID	連絡網グループ ID。直接発信では，値はありません。
なし	値はありません。

(c)　ショートメッセージサービス通知統計情報

ショートメッセージサービス通知統計情報は，SMS 通知について記録します。

表 12.2-6　ショートメッセージサービス通知統計情報出力内容

日付,時刻,種類,発信先,繰返１,繰返２,ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ,状態,連絡網 ID,通知 ID,ﾕｰｻﾞ名,ﾕｰｻﾞ説明,受付番号,ﾕｰｻﾞ付加情報(-u) ,ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,

表 12.2-7　ショートメッセージサービス通知統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種類	SMS
発信先	SMS 通知番号
繰返回数 1	通知メディアごとに繰り返した回数
繰返回数 2	連絡網の繰り返し回数。直接発信の場合，値はありません。
シリアルポート	使用した COM ポート名。使用できる COM ポートが無いときは，値はありません。トリガフォン（TP2000）を LAN 接続で使用している場合，IP ア

表示項目	内容
	ドレスを表示します。
状態	発信成功は○，失敗は×。
連絡網 ID	連絡網 ID。直接発信では，値はありません。
通知 ID	通知 ID。指定がないときは，値はありません。
ユーザ名	ユーザ名。発信先を直接指定した直接発信では，値はありません。
ユーザ説明	ユーザ管理で指定した説明内容。指定がないか，発信先を直接指定した直接発信では，値はありません。
受付番号	teldial コマンドの受付け番号
ユーザ付加情報(-u)	-u オプションで指定したユーザ付加情報。省略されたときは，値はありません。
グループ ID	連絡網グループ ID。直接発信では，値はありません。
なし	値はありません。

(d) メール発信統計情報

メール発信統計情報は，メール発信について記録します。

表 12.2-8 メール発信統計情報出力内容

日付,時刻,種類,発信先,繰返１,繰返２,ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ,状態,連絡網 ID,通知 ID,ﾕｰｻﾞ名,ﾕｰｻﾞ説明,受付番号,ﾕｰｻﾞ付加情報(-u) ,ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,

表 12.2-9 メール発信統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種類	メール，またはメールグループ
発信先	発信先メールアドレス メールグループの場合は，（種別）:発信先メールアドレス
繰返回数 1	通知メディアごとに繰り返した回数
繰返回数 2	連絡網の繰り返し回数。直接発信の場合，値はありません。
シリアルポート	値はありません。
状態	発信成功は○，失敗は×
連絡網 ID	連絡網 ID。直接発信では，値はありません。
通知 ID	通知 ID。指定がないときは，値はありません。
ユーザ名	ユーザ名。発信先を直接指定した直接発信では，値はありません
ユーザ説明	ユーザ管理で指定した説明内容。指定がないか，発信先を直接指定した直接発信では，値はありません
受付番号	teldial コマンドの受付け番号
ユーザ付加情報(-u)	-u オプションで指定したユーザ付加情報。省略されたときは，値はありません
グループ ID	連絡網グループ ID。直接発信では，値はありません。
なし	メール識別番号

(e) FAX発信統計情報

FAX 発信統計情報は，FAX 発信について記録します。

表 12.2-10　FAX発信統計情報出力内容

日付,時刻,種類,発信先,繰返１,繰返２,ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ,状態,連絡網 ID,通知 ID,ﾕｰｻﾞ名,ﾕｰｻﾞ説明,受付番号,ﾕｰｻﾞ付加情報(-u) ,ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,

表 12.2-11　FAX発信統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種類	FAX
発信先	発信先 FAX 番号
繰返回数 1	通知メディアごとに繰り返した回数。
繰返回数 2	連絡網の繰り返し回数。直接発信の場合，値はありません。
シリアルポート	使用した COM ポート名。COM ポートを使用しないか，使用できる COM ポートが無いときは，値はありません。
状態	発信成功は○，失敗は×。
連絡網 ID	連絡網 ID。直接発信では，値はありません。
通知 ID	通知 ID。指定がないときは，値はありません。
ユーザ名	ユーザ名。発信先を直接指定した直接発信では，値はありません。
ユーザ説明	ユーザ管理で指定した説明内容。指定がないか，発信先を直接指定した直接発信では，値はありません。
受付番号	teldial コマンドの受付け番号
ユーザ付加情報(-u)	-u オプションで指定したユーザ付加情報。省略されたときは，値はありません。
グループ ID	連絡網グループ ID。直接発信では，値はありません。
なし	値はありません。

(f)　エージェント発信統計情報

エージェント発信統計情報は，エージェント発信について記録します。

表 12.2-12　エージェント発信統計情報出力内容

日付,時刻,種類,発信先,繰返１,繰返２,ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ,状態,連絡網 ID,通知 ID,ﾕｰｻﾞ名,ﾕｰｻﾞ説明,受付番号,ﾕｰｻﾞ付加情報(-u) ,ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,

表 12.2-13　エージェント発信統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種類	エージェント
発信先	発信先エージェントアドレス，または電話番号。 ネットワーク接続と電話回線接続の両方に発信した場合は， 「発信先エージェントアドレス，電話番号」
繰返回数 1	通知メディアごとに繰り返した回数。
繰返回数 2	連絡網の繰り返し回数。直接発信の場合，値はありません。
シリアルポート	使用した COM ポート名。発信先がネットワーク経由の場合は，値は

表示項目	内容
	ありません。
状態	発信成功は○，失敗は×。
連絡網 ID	連絡網 ID。直接発信では，値はありません。
通知 ID	通知 ID。指定がないときは，値はありません。
ユーザ名	ユーザ名。発信先を直接指定した直接発信では，値はありません。
ユーザ説明	ユーザ管理で指定した説明内容。指定がないか，発信先を直接指定した直接発信では，値はありません。
受付番号	teldial コマンドの受付け番号
ユーザ付加情報(-u)	-u オプションで指定したユーザ付加情報。省略されたときは，値はありません。
グループ ID	連絡網グループ ID。直接発信では，値はありません。
なし	メール識別番号

(g) コマンド発信統計情報

コマンド発信統計情報は，コマンド発信について記録します。

表 12.2-14 コマンド発信統計情報出力内容

日付,時刻,種類,発信先,繰返１,繰返２,ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ,状態,連絡網 ID,通知 ID,ﾕｰｻﾞ名,ﾕｰｻﾞ説明,受付番号,ﾕｰｻﾞ付加情報(-u) ,ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,

表 12.2-15 コマンド発信統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種類	コマンド
発信先	コマンド名
繰返回数１	回数は 0 固定です。
繰返回数２	連絡網の繰り返し回数。
ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ	値はありません。
状態	発信成功は○，失敗は×。
連絡網 ID	連絡網 ID。
通知 ID	通知 ID。指定がないときは，値はありません。
ユーザ名	値はありません。
ユーザ説明	値はありません。
受付番号	teldial コマンドの受付け番号
ユーザ付加情報(-u)	-u オプションで指定したユーザ付加情報。省略されたときは，値はありません。
グループ ID	連絡網グループ ID。
なし	値はありません。

(h) パトランプ発信統計情報

パトランプ発信統計情報は，パトランプ発信について記録します。

表 12.2-16　パトランプ発信統計情報出力内容

日付,時刻,種類,発信先,繰返１,繰返２,ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ,状態,連絡網 ID,通知 ID,ﾕｰｻﾞ名,ﾕｰｻﾞ説明,受付番号,ﾕｰｻﾞ付加情報(-u) ,ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,

表 12.2-17　パトランプ発信統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種類	パトランプ
発信先	IP アドレス，または Local
繰返回数 1	通知メディアごとに繰り返した回数。
繰返回数 2	連絡網の繰り返し回数。
シリアルポート	使用した COM ポート名。 ネットワーク対応型パトランプおよびコンバータ接続のパトランプの場合は，値はありません。
状態	発信成功は○，失敗は×。
連絡網 ID	連絡網 ID。
通知 ID	通知 ID。指定がないときは，値はありません。
ユーザ名	値はありません。
ユーザ説明	値はありません。
受付番号	teldial コマンドの受付け番号
ユーザ付加情報(-u)	-u オプションで指定したユーザ付加情報。省略されたときは，値はありません。
グループ ID	連絡網グループ ID。
なし	値はありません。

ネットワーク対応型，コンバータ接続のパトランプを複数箇所登録した場合，「発信情報統計記録(全て)」および「パトランプ発信統計情報」は１発信につき１レコード出力します。

１箇所以上のパトランプの制御に成功した場合，状態は「○」とします。全てのパトランプの制御に失敗した場合，状態は「×」とします。

発信先列には IP アドレス，またはホスト名を:(コロン)区切りで 1023 文字以内で出力します。1024 文字以上となる場合は，1019 文字まで出力し，以降は「…」と省略して出力します。

(i)　表示ボード発信統計情報

表示ボード発信統計情報は，表示ボード発信について記録します。

表 12.2-18　表示ボード発信統計情報出力内容

日付,時刻,種類,発信先,繰返１,繰返２,ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ,状態,連絡網 ID,通知 ID,ﾕｰｻﾞ名,ﾕｰｻﾞ説明,受付番号,ﾕｰｻﾞ付加情報(-u) ,ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,

表 12.2-19　表示ボード発信統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)

表示項目	内容
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種類	表示ボード
発信先	IP アドレス，または Local
繰返回数 1	通知メディアごとに繰り返した回数。
繰返回数 2	連絡網の繰り返し回数。
シリアルポート	使用した COM ポート名。 コンバータ接続の場合は，値はありません。
状態	発信成功は○，失敗は×。
連絡網 ID	連絡網 ID。
通知 ID	通知 ID。指定がないときは，値はありません。
ユーザ名	値はありません。
ユーザ説明	値はありません。
受付番号	teldial コマンドの受付け番号
ユーザ付加情報(-u)	-u オプションで指定したユーザ付加情報。省略されたときは，値はありません。
グループ ID	連絡網グループ ID。
なし	値はありません。

(j) デスクトップ発信統計情報

デスクトップ発信統計情報は，デスクトップ通知について記録します。

表 12.2-20 デスクトップ発信統計情報出力内容

日付,時刻,種類,発信先,繰返１,繰返２,ｼﾘｱﾙﾎﾟｰﾄ,状態,連絡網 ID,通知 ID,ﾕｰｻﾞ名,ﾕｰｻﾞ説明,受付番号,ﾕｰｻﾞ付加情報(-u) ,ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,

表 12.2-21 デスクトップ発信統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種類	「デスクトップ」
発信先	発信先 Alarm View の IP アドレス。
繰返回数 1	通知メディアごとに繰り返した回数。
繰返回数 2	連絡網の繰り返し回数。
シリアルポート	値はありません。
状態	発信成功は○，失敗は×。
連絡網 ID	連絡網 ID。
通知 ID	通知 ID。指定がないときは，値はありません。
ユーザ名	値はありません。
ユーザ説明	値はありません。
受付番号	teldial コマンドの受付け番号
ユーザ付加情報(-u)	-u オプションで指定したユーザ付加情報。省略されたときは，値はありません。
グループ ID	連絡網グループ ID。

表示項目	内容
なし	値はありません。

(2) メール開封確認関連の統計情報

(a) メール開封確認統計情報

メール開封確認付きメール通知に対して，メール受信者がメールの受信確認を行ったときに記録されます。

表 12.2-22 メール開封確認統計情報出力内容

日付,時刻,送信日時,開封日時,開封者ｱﾄﾞﾚｽ,件名,メール識別番号,受付番号,送信状況

表 12.2-23 メール開封確認統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
開封日時	メール受信確認日時
開封者ｱﾄﾞﾚｽ	メール受信確認者メールアドレス
件名	通知メールの題名
メール識別番号	メール識別番号
受付番号	teldial コマンド受付番号
送信状況	「送信済み」文字列値

(b) メール開封確認配送エラー統計情報

メール開封確認を行うメール発信を受信した SMTP サーバが配送エラー返信し，再送した場合で，再送エラーになったときに記録されます。

表 12.2-24 メール開封確認配送エラー統計情報出力内容

日付,時刻,ｴﾗｰﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ,送信日時,メール識別番号,受付番号,連絡網 ID,連絡網ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID,件名,ﾒｰﾙ送信者

表 12.2-25 メール開封確認配送エラー統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
ｴﾗｰﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	再送エラーのメールアドレス
送信日時	メール送信日時
メール識別番号	メール識別番号
受付番号	teldial コマンド受付番号
連絡網 ID	連絡網 ID。直接発信では，値はありません。
連絡網ｸﾞﾙｰﾌﾟ ID	連絡網グループ ID。直接発信では，値はありません。
件名	通知メールの題名
ﾒｰﾙ送信者	メール送信者のメールアドレス

(3) 電話通知対応統計情報

電話通知対応統計情報は，電話から対応記録番号が入力されたときに記録されます。

表 12.2-26　電話通知対応統計情報出力内容

日付,時刻,ユーザ名,電話番号,入力値,コマンド番号,受付番号

表 12.2-27　電話通知対応統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
ユーザ名	ユーザ名。直接発信は，空白。TELstaff に電話をかけたとき，認証されたユーザ名。
電話番号	発信先の電話番号，または発信者通知番号。発信者通知番号で認証しない場合，値はありません。
入力値	対応番号
コマンド番号	対応番号入力時に指定したコマンド番号。コマンド番号を指定しない場合，値はありません。
受付番号	teldial コマンドの受付け番号

(4) 着信履歴統計情報

着信履歴統計情報は，電話から着信を受けたときに記録されます。

表 12.2-28　着信履歴統計情報出力内容

日付,時刻,回線番号,通知番号,ユーザ名,受信許可/拒否

表 12.2-29　着信履歴統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
回線番号	モデムプロパティで指定した電話回線番号
通知番号	発信者通知番号。番号非通知，または発信者通知番号で認証しない場合，値はありません。
ユーザ名	ユーザ名。発信者通知番号で認証しない場合，値はありません。
受信許可/拒否	着信を受付けたときは“許可”，拒否したときは“拒否”

(5) ネットワーク監視統計情報

ネットワーク監視統計情報は，ネットワーク監視で状態が変化したときに記録されます。

表 12.2-30　ネットワーク監視統計情報出力内容

日付,時刻,ﾎｽﾄ名,IP ｱﾄﾞﾚｽ,状態,監視方法

表 12.2-31　ネットワーク監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)

表示項目	内容
ホスト名	ホスト名
IP アドレス	IP アドレス
状態	機器の状態。Ping 監視では，“危険域”または“正常域”。 ｱｸｼｮﾝまたはﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ監視では，HP Network Node Manager software，日立 JP1/Cm2 のｽﾃｰﾀｽ。Hosts ﾌｧｲﾙを使用してｱｸｼｮﾝ監視を行う場合は，値はありません。
監視方法	Polling,Ping,Action

(6) 接点入力監視統計情報

接点入力監視統計情報は，監視している接点が変化したときに記録されます。

表 12.2-32　接点入力監視統計情報出力内容

日付,時刻,接続場所,ﾁｬﾝﾈﾙ番号,接点番号,接点状態,説明

表 12.2-33　接点入力監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
接続場所	IP アドレス，または COM ポート名
ﾁｬﾝﾈﾙ番号	ﾁｬﾝﾈﾙ番号。ｾﾚｸﾀ装置を使用しない場合値はありません。
接点番号	動作した接点入力ユニットの接点番号
接点状態	動作したときの接点状態（開または閉）
説明	接点入力ユニット設定ﾀﾞｲｱﾛｸﾞﾎﾞｯｸｽで指定した説明内容

(7) プロセス監視統計情報

プロセス監視統計情報は，監視対象プロセスが消滅または出現したときに記録されます。プロセス監視抑止中，またはプロセス監視スケジュールで監視しない時間の場合は，記録されません。

表 12.2-34　プロセス監視統計情報出力内容

日付,時刻,プロセス名,PID,状態

表 12.2-35　プロセス監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
プロセス名	プロセス名
PID	プロセス ID
状態	生成／消滅

(8) イベントログ監視統計情報

イベントログ監視統計情報は，監視文字列が出現したときに記録されます。

表 12.2-36　イベントログ監視統計情報出力内容

日付,時刻,監視グループ名,ログ種別,ソース，種類,説明

表 12.2-37　イベントログ監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
監視グループ名	イベントログ監視グループ名
ログ種別	イベントログの種別
ソース	イベントの発生元
種類	イベントの種類
説明	イベントの説明

(9) メッセージ監視統計情報

メッセージ監視統計情報は，監視文字列が出現したときに記録されます。

表 12.2-38　メッセージ監視統計情報出力内容

日付,時刻,監視グループ名,監視ファイル名,検出文字列

表 12.2-39　メッセージ監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
監視グループ名	メッセージ監視グループ名
監視ファイル名	メッセージ監視対象ファイルの完全名
検出文字列	検出した文字列

(10) ドライバ監視統計情報

ドライバ監視統計情報は，監視対象ドライバが開始，停止，削除，または追加したときに記録されます。ドライバ監視抑止中，またはドライバ監視スケジュールで監視しない時間の場合は，記録されません。

表 12.2-40　ドライバ監視統計情報出力内容

日付,時刻,ﾄﾞﾗｲﾊﾞ ID,ﾄﾞﾗｲﾊﾞ名,状態

表 12.2-41　ドライバ監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
ドライバ ID	ドライバ ID
ドライバ名	ドライバ名
状態	開始／停止／削除／追加

(11) ファイル監視統計情報

ファイル監視統計情報は，監視対象ファイルが作成，更新，削除，または到着したときに記録されます。

表 12.2-42　ファイル監視統計情報出力内容

日付,時刻,監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名,監視方法,検出ﾌｧｲﾙ名

表 12.2-43　ファイル監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
監視グループ名	ファイル監視グループ名
監視方法	ファイル監視の種別
検出ファイル名	ファイル監視で検出したファイルの完全名

(12) バックアップ統計情報（送信側）

バックアップ統計情報は，監視対象ファイルが更新されバックアップしたときに記録されます。

表 12.2-44　バックアップ統計情報出力内容

日付,時刻,監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名,ﾏｼﾝ名,検出方法,ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ元ﾌｧｲﾙ名，ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ先，ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ先ﾌｧｲﾙ名，保管方法,状態

表 12.2-45　バックアップ統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
監視グループ名	ファイル監視グループ名
マシン名	バックアップ元のマシン名
検出方法	ファイル監視の種別
バックアップ元ファイル名	ファイル監視で検出したファイルの完全名
バックアップ先	IP アドレス（またはホスト名），ローカル
バックアップ先ファイル名	バックアップ先のファイル名
保管方法	削除，保管
状態	○：ファイルサーバに送信成功 ×：ファイルサーバに送信失敗

(13) サービス監視統計情報

サービス監視統計情報は，監視対象のサービスの状態が変化したときに記録されます。

表 12.2-46　サービス監視統計情報出力内容

日付,時刻,ｻｰﾋﾞｽ名,状態,使用ｱｶｳﾝﾄ名,ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ種類,ｻｰﾋﾞｽ表示名,監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名,説明

表 12.2-47　サービス監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
サービス名	サービス名
状態	サービスの状態　詳細は，1252-I メッセージ参照

表示項目	内容
使用ｱｶﾝﾄ名	このサービスに使用されているアカウント名
ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ種類	サービスのスタートアップの種類
ｻｰﾋﾞｽ表示名	サービス表示名
監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名	監視グループ名
説明	監視グループ名の説明

(14) SNMPトラップ監視統計情報

SNMP トラップ監視統計情報は，監視対象の SNMP トラップを受信したときに記録されます。

表 12.2-48　SNMPトラップ監視統計情報出力内容

日付,時刻,監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名,enterpriseID,agentAddress,sourceAddress,genericTrap,specificTrap,ﾀｲﾑｽﾀﾝﾌﾟ

表 12.2-49　SNMPトラップ監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名	監視グループ名
enterpriseID	enterpriseID 情報
agentAddress	agentAddress 情報
sourceAddress	sourceAddress 情報
genericTrap	genericTrap 値
specificTrap	specificTrap 値。specificTrap 値がない場合は，0
ﾀｲﾑｽﾀﾝﾌﾟ	タイムスタンプ値（機器が最後に初期化されたときからの経過時間。1/10 未満の秒単位）
なし	variableBindings 情報。 variableBindings 値の表記方法を以下に示します。 (Integer32)整数値 (UInteger32)正数値 (Counter64)正数値 1*正数値 2 (String)文字列値 (OctetString)<0xNN><0xNN> (ObjectID)オブジェクト ID (IpAddress)xxx.xxx.xxx.xxx (Bits)<0xNN><0xNN> (Sequence)<0xNN><0xNN> (Counter32)正数値 (Gauge32)正数値 (TimeTicks)正数値 (Opaque)<0xNN><0xNN> (unknown)

(15) メール監視統計情報

メール監視統計情報は，監視対象のメールを受信したときに記録されます。

表 12.2-50　メール監視統計情報出力内容

日付,時刻,監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名,監視種別,監視対象ｱﾄﾞﾚｽ,ﾌｨﾙﾀﾘﾝｸﾞ名,受信ﾒｰﾙの送信元,監視対象に該当したﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ

表 12.2-51　メール監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
ｼﾞｺｸ	記録時刻(hh:mm:ss)
監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名	監視グループ名（アカウント名）
監視種別	メール監視種別（リアルタイム監視の場合は「MTA」，POP3 監視の場合は「POP3」）
監視対象ｱﾄﾞﾚｽ	監視対象メールアドレス
ﾌｨﾙﾀﾘﾝｸﾞ名	フィルタリング名。フィルタリング指定が無い場合は，「**NONE**」。スケジュールにより監視が抑止された場合は，「**SCHEDULE***」。
受信ﾒｰﾙの送信元	差出人メールアドレス情報（From ヘッダー情報）
監視対象に該当したﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	メール監視の監視対象に該当したメールアドレス。リアルタイム監視で個別に監視対象メールアドレスを指定した場合，および POP3 監視の場合は，「監視対象ｱﾄﾞﾚｽ」と同じ

(16) ディスク容量監視統計情報

(a)　ディスク容量監視統計情報

ディスク容量監視統計情報は，監視値に対して監視値到達時，または監視値以前に戻ったときに記録されます。

表 12.2-52　ディスク容量監視統計情報出力内容

日付,時刻,ﾄﾞﾗｲﾌﾞ名,監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名,監視方法,監視条件,検出値,検出内容,ﾚﾍﾞﾙ,監視値,全ﾃﾞｨｽｸ容量,使用量,使用率,監視中の最大使用量,未使用量,未使用率,監視中の前回との増減,ﾌｧｲﾙｼｽﾃﾑ,ﾗﾍﾞﾙ名

表 12.2-53　ディスク容量監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
ドライブ名	監視ディスクのドライブ名
監視グループ名	監視グループの名称
監視方法	「未使用監視」「使用監視」のいずれか
監視条件	「率(%)監視」「容量値(MB)監視」「容量値(KB)監視」のいずれか
検出値	検出したディスク容量値（%，MB，kB）
検出内容	「監視値に到達しました」「監視値以前に戻りました」のいずれか
レベル	「しきい値」「レベル 3」「レベル 2」「レベル 1」のいずれか
監視値	レベルの監視値
全ディスク容量	監視ディスクの全ディスク容量

表示項目	内容
使用量	監視ディスクの現在の使用量（MB，kB）
使用率	監視ディスクの現在の使用率（%）
監視中の最大使用量	監視ディスクの監視中の最大使用量（MB）
未使用量	監視ディスクの現在の未使用量（MB，kB）
未使用率	監視ディスクの現在の未使用率（%）
監視中の前回との増減	検出したディスク容量値の前回との増減（%，MB，kB）
ファイルシステム	監視ディスクのファイルシステム 「NTFS」「FAT」のいずれか
ラベル名	監視ディスクのラベル名

(b)　ディスク使用状況統計情報

ディスク使用状況統計情報は，監視開始初回と前回との使用量が変化したときに監視周期到達時点のディスク使用状況が記録されます。

表 12.2-54　ディスク使用状況統計情報出力内容

日付,時刻,ﾄﾞﾗｲﾌﾞ名,全ﾃﾞｨｽｸ容量(MB),使用量(MB),使用率(%),未使用量(MB),未使用率(%),監視中の前回との増減(MB),ﾌｧｲﾙｼｽﾃﾑ,ﾗﾍﾞﾙ名,監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名

表 12.2-55　ディスク使用状況統計情報の表示項目内容

表示項目	内容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
ドライブ名	監視ディスクのドライブ名
全ﾃﾞｨｽｸ容量(MB)	監視ディスクの全ディスク容量（MB）
使用量(MB)	監視ディスクの現在の使用量（MB）
使用率(%)	監視ディスクの現在の使用率（%）
未使用量(MB)	監視ディスクの現在の未使用量（MB）
未使用率(%)	監視ディスクの現在の未使用率（%）
監視中の前回との増減(MB)	検出したディスク容量値の前回との増減（MB）
ファイルシステム	監視ディスクのファイルシステム 「NTFS」「FAT」のいずれか
ラベル名	監視ディスクのラベル名
監視グループ名	監視グループの名称

(17) 機器稼動監視統計情報

(a)　サービス稼動監視統計情報

TELstaff サービスの稼動監視で稼動または非稼動を検出したときに記録されます。

表 12.2-56　サービス稼動監視統計情報出力内容

日付,時刻,稼動状態,アドレス,ポート番号,説明

表 12.2-57　サービス稼動監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内　　容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
稼動状態	○：稼動 ×：非稼動
アドレス	IP アドレスまたはホスト名
ポート番号	通信で使用したポート番号
説明	監視サービスの設定ダイアログボックスで指定した説明内容

(b)　パトランプ稼動監視統計情報

パトランプの稼動監視で稼動または非稼動を検出したときに記録されます。

表 12.2-58　パトランプ稼動監視統計情報出力内容

日付,時刻,稼動状態,場所,種別,説明

表 12.2-59　パトランプ稼動監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内　　容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
稼動状態	○：稼動 ×：非稼動
場所	COM ポート名，または IP アドレス
種別	シリアルポート接続：Local コンバータ接続：Converter
説明	監視パトランプの設定ダイアログボックスした説明内容

(c)　メールサーバ稼動監視統計情報

メールサーバの稼動監視で稼動または非稼動を検出したときに記録されます。

表 12.2-60　メールサーバ稼動監視統計情報出力内容

日付,時刻,稼動状態,ﾒｰﾙｻｰﾊﾞ種別,ﾒｰﾙｻｰﾊﾞ名,ｴﾗｰ内容,経過時間,説明

表 12.2-61　メールサーバ稼動監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内　　容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
稼動状態	○：稼動 ×：非稼動
メールサーバ種別	SMTP サーバは，「SMTP」 POP3 サーバは，「POP3」
メールサーバ名	監視対象のメールサーバ名
エラー内容	稼動状態が×の場合のエラー内容
経過時間	メールサーバの状態確認までの経過時間（秒）
説明	監視メールサーバの設定ダイアログボックスした説明内容

(d) モデム稼動監視統計情報

トリガフォン，またはモデムの稼動監視で稼動または非稼動を検出したときに記録されます。

表 12.2-62 モデム稼動監視統計情報出力内容

日付,時刻,稼動状態,ﾎﾟｰﾄ名,ﾓﾃﾞﾑ種別, ﾓﾃﾞﾑ属性,電話回線番号,ｴﾗｰ内容

表 12.2-63 モデム稼動監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内　　容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
稼動状態	○：稼動 ×：非稼動
ポート名	COM ポート名，または IP アドレスを表示します。トリガフォン（TP2000）を LAN 接続で使用している場合，IP アドレスが表示されます。
モデム種別	「トリガフォン」または「通信」
モデム属性	「受信」，「発信」，「受発信」の受信・発信の区別
電話回線番号	トリガフォン，またはモデムに接続した回線電話番号
エラー内容	稼動状態が×の場合のエラー内容

(18) 稼動状況監視統計情報

(a) 稼動状況監視統計情報

稼動状況監視統計情報は，監視対象のコンピュータや機器が監視条件に一致したときに記録されます。

表 12.2-64 稼動状況監視統計情報出力内容

日付,時刻,種別,名称,IP ｱﾄﾞﾚｽ,ﾎﾟｰﾄ番号,ｺﾝｾﾝﾄ番号,接続方法,監視条件, CPU 使用率(%),監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名,電源制御方法,電源制御結果

表 12.2-65 稼動状況監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内　　容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種別	監視対象の種別。監視対象の種別がコンピュータの場合は「コンピュータ」，監視対象の種別が機器の場合は「機器」。
名称	監視対象の名称。
IP ｱﾄﾞﾚｽ	監視対象の IP アドレス。接続方法が「シリアル」の場合は何も出力しません。
ﾎﾟｰﾄ番号	監視対象の接続方法が「シリアル」の場合の COM ポート番号。監視対象の種別がコンピュータの場合や，監視対象の種別が機器かつ接続方法が「ネットワーク」の場合は，何も出力しません。
ｺﾝｾﾝﾄ番号	監視対象の種別が機器の場合のコンセント番号。

表示項目	内　　容
	監視対象の種別がコンピュータの場合は何も出力しません。
接続方法	監視対象の接続方法。ネットワーク接続の場合は「ネットワーク」，シリアル接続の場合は「シリアル」。
監視条件	監視対象の監視条件。 下記のいずれかの監視条件を出力します。 「稼動状態検出時」 「非稼動状態検出時」 「CPU 使用率が n%以下」 「CPU 使用率が n%以上」 「物理メモリ使用率が n%以下」 「物理メモリ使用率が n%以上」 「仮想メモリ使用率が n%以下」 「仮想メモリ使用率が n%以上」 「ディスク使用率が n%以下」 「ディスク使用率が n%以上」 「他の監視対象が非稼動」 ｎは監視条件として指定された使用率の値を示す。
CPU 使用率(%)	監視対象の CPU 使用率，物理メモリ使用率，仮想メモリ，ディスク使用率の いずれかの値を出力します。 使用率が取得できない場合は,「不明」と出力します。 監視対象の監視条件が 「CPU 使用率が n%以下」 「CPU 使用率が n%以上」 「物理メモリ使用率が n%以下」 「物理メモリ使用率が n%以上」 「仮想メモリ使用率が n%以下」 「仮想メモリ使用率が n%以上」 「ディスク使用率が n%以下」 「ディスク使用率が n%以上」 以外のときは何も出力しません。
監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名	監視グループ名
電源制御方法	監視対象の電源制御方法。 「シャットダウン」「再起動」「起動」のいずれか。 監視対象の電源制御方法が指定されていない場合は何も出力しません。
電源制御結果	監視対象の電源制御結果。 「成功」「失敗」のいずれか。 監視対象の電源制御方法が指定されていないか，あるいは電源制御を行わなかった場合は何も出力しません。

(b)　稼動状況統計情報

稼動状況統計情報は，監視契機毎に監視対象のコンピュータや機器の状態を記録します。

表 12.2-66　稼動状況統計情報出力内容

日付,時刻,種別,名称,IP ｱﾄﾞﾚｽ,ﾎﾟｰﾄ番号,ｺﾝｾﾝﾄ番号,接続方法,状態,CPU 使用率(%),監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名,監視条件

表 12.2-67　稼動状況統計情報の表示項目内容

表示項目	内　　容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
種別	監視対象の種別。監視対象の種別がコンピュータの場合は「コンピュータ」，監視対象の種別が機器の場合は「機器」。
名称	監視対象の名称。
IP ｱﾄﾞﾚｽ	監視対象の IP アドレス。接続方法が「シリアル」の場合は何も出力しません。
ﾎﾟｰﾄ番号	監視対象の接続方法が「シリアル」の場合の COM ポート番号。監視対象の種別がコンピュータの場合や，監視対象の種別が機器かつ接続方法が「ネットワーク」の場合は，何も出力しません。
ｺﾝｾﾝﾄ番号	監視対象の種別が機器の場合のコンセント番号。 監視対象の種別がコンピュータの場合は何も出力しません。
接続方法	監視対象の接続方法。ネットワーク接続の場合は「ネットワーク」，シリアル接続の場合は「シリアル」。
状態	監視対象の状態。「稼動」「非稼動」のいずれか。
CPU 使用率(%)	監視対象の監視条件が「CPU 使用率が n%以下」のとき，検出した CPU 使用率を出力します。CPU 使用率を取得できない場合は，「不明」と出力します。 監視対象の監視条件が「CPU 使用率が n%以下」以外のときは何も出力しません。
監視ｸﾞﾙｰﾌﾟ名	監視グループ名
監視条件	監視対象の監視条件。 下記のいずれかの監視条件を出力します。 「稼動状態検出時」 「非稼動状態検出時」 「CPU 使用率が n%以下」 「CPU 使用率が n%以上」 「物理メモリ使用率が n%以下」 「物理メモリ使用率が n%以上」 「仮想メモリ使用率が n%以下」 「仮想メモリ使用率が n%以上」 「ディスク使用率が n%以下」 「ディスク使用率が n%以上」 「他の監視対象が非稼動」 n は監視条件として指定された使用率の値を示す。

(19) 添付ファイル保存統計情報

添付ファイル保存統計情報は，添付ファイルを受信したときに記録されます。

表 12.2-68　添付ファイル保存統計情報出力内容

日付,時刻,状態,ﾏｼﾝ名,,保管ﾌｧｲﾙ名,保管方法 1,保管方法 2,理由

表 12.2-69　添付ファイル保存統計情報の表示項目内容

表示項目	内　　容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
状態	○：保存成功 ×：保存失敗
マシン名	添付ファイル送信元のマシン名
	-
保管ﾌｧｲﾙ名	保存した添付ファイルの完全名
保管方法 1	保存
保管方法 2	同じファイル名が存在するときの保管方法 上書：上書きで保存 ｽｷｯﾌﾟ：保存中止
理由	状態が「×」のとき，その理由

(20) 受信ファイル保存統計情報

受信ファイル保存統計情報は，監視対象ファイル（バックアップファイル）を受信したときに記録されます。

表 12.2-70　受信ファイル保存統計情報出力内容

日付,時刻,状態,ﾏｼﾝ名,ｸﾗｲｱﾝﾄﾌｧｲﾙ名,保管ﾌｧｲﾙ名,保管方法 1,保管方法 2,理由

表 12.2-71　受信ファイル保存統計情報の表示項目内容

表示項目	内　　容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
状態	○：保存成功 ×：保存失敗
マシン名	保管方法 1 が「削除」の場合，バックアップ元のマシン名。 保管方法 1 が「保存」の場合，「-」
ｸﾗｲｱﾝﾄﾌｧｲﾙ名	バックアップ元ファイル名
保管ﾌｧｲﾙ名	保存したバックアップファイルの完全名
保管方法 1	削除，保存
保管方法 2	同じファイル名が存在するときの保管方法 上書：上書きで保存 ｽｷｯﾌﾟ：保存中止
理由	状態が「×」のとき，その理由

(21) 受信画像統計情報

受信画像統計情報は，TELstaff Motion Detector からの画像配信で画像を受信したときに記録されます。

表 12.2-72　受信画像統計情報出力内容

日付,時刻,状態,ﾏｼﾝ名,,保管ﾌｧｲﾙ名,保管方法 1,保管方法 2,理由

表 12.2-73　受信画像統計情報の表示項目内容

表示項目	内　　容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
状態	○：保存成功 ×：保存失敗
マシン名	画像配信元のマシン名
	-
保管ﾌｧｲﾙ名	画像配信された画像ファイルの完全名
保管方法 1	保存
保管方法 2	上書
理由	状態が「×」のとき，その理由

(22) カメラ監視統計情報

カメラ監視の動体検出に記録されます。カメラ監視抑止中，またはカメラ監視スケジュールで監視しない時間の場合は，記録されません。

表 12.2-74　カメラ監視統計情報出力内容

日付,時刻,カメラ名称,監視位置名,監視枠名,監視モード,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名,画像ﾌｧｲﾙ名,検出比率,色度,連続枚数

表 12.2-75　カメラ監視統計情報の表示項目内容

表示項目	内　　容
日付	記録日付(yyyy/mm/dd)
時刻	記録時刻(hh:mm:ss)
カメラ名称	カメラ名称
監視位置名	検出位置名
監視枠名	検出枠名
監視モード	「動体」または「静止」
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名	検出したコンピュータ名
画像ﾌｧｲﾙ名	記録した画像ファイル名
検出比率	監視枠内検出した画像変化率（%）
色度	検出色度設定値
連続枚数	検出時に採取した画像ファイル数

12.3 TELstaffにおけるワイルドカード

TELstaff の一部の機能では文字列のパターンを指定するために「ワイルドカード」と呼ばれる文字を使用可能です。ワイルドカードとして使用可能な特殊な文字を以下に記します。

特殊文字	意味
* （半角のアステリスク）	任意の文字が 0 個以上の並びに一致します
? （半角のクエスチョン）	任意の 1 文字に一致します。

例１） 「A*」は「A で始まる任意の文字列」と一致します。例えば，「A」，「AB」，「ABC」には一致しますが，「BA」，「CBA」には一致しません。

例２） 「A?」は「A の後ろに何か一文字続く文字列」と一致します。例えば，「AB」，「AC」には一致しますが，「A」，「ABC」には一致しません。

例３） 「*A*」は「A を含む任意の文字列」と一致します。例えば，「A」，「AB」，「ABC」には一致しますが，「BCD」には一致しません。

例４） 「A?*」は「A の後ろに一文字以上続く文字列」と一致します。例えば，「AB」，「ABC」，「ABCD」には一致しますが，「A」には一致しません。

13. メッセージ

この章では，TELstaff が出力するメッセージについて説明します。

13.1　メッセージについて

13.2　メッセージ一覧

13.3　イベントログメッセージ一覧

13.1 メッセージについて

13.1.1 メッセージの形式

(1) ログファイルに記録されるメッセージ形式

```
[yyyy/mm/dd hh:mm:ss] nnnn-z メッセージテキスト
[yyyy/mm/dd hh:mm:ss] nnnn-z <nnn> メッセージテキスト
[yyyy/mm/dd hh:mm:ss] nnnn-z <nnn> [ID1,ID2,ID3] メッセージテキスト
```

yyyy/mm/dd　出力日付を，yyyy（年），mm（月），dd（日）で示します。
hh:mm:ss　出力時刻を，hh（時），mm（分），ss（秒）で示します。
nnnn　メッセージ番号を示します。
Z　メッセージ種別を示します。種別には次のものがあります。
　I　通知を表しユーザに情報を知らせます。
　E　エラーを表し処理は中止されます。
　W　警告を表しメッセージ出力後，処理は続行されます。
nnnn-Z　メッセージ ID を示します。
「TELstaff 動作記録の集約」記録では，メッセージ ID の前にログのプロパティダイアログボックス（図 4.1-11）の「メッセージの先頭に付加する文字列」テキストボックスで指定した文字列が付加されます。詳細は，図 4.2-13 参照してください。
<nnn>　teldial コマンドの受け付け番号（1 から 9999999）を表します。
<ID1>　連絡網グループ ID を表します。
<ID2>　連絡網 ID を表します。
<ID3>　通知 ID を表します。通知 ID が無い場合は「****」を表示します。
メッセージテキスト
　メッセージ内容を示します。

(2) イベントログメッセージの形式

記録項目	説明
ログの種類	アプリケーションログ
ソース	TELstaff
分類	なし
イベント ID	「13.3 イベントログメッセージ一覧」参照

13.1.2 メッセージの表記方法

メッセージは，メッセージ ID（イベント ID）順に，次の形式で説明しています。メッセージは，バージョンアップに伴い変更されることがあります。

メッセージ ID

日本語メッセージテキスト

解説

メッセージの説明

（S）TELstaff システムの処置を示します。

（U）メッセージに対する利用者の処置を示します。

イベント ID：n

イベントログメッセージテキスト

解説

メッセージの説明

（S）TELstaff システムの処置を示します。

（U）メッセージに対する利用者の処置を示します。

13.1.3 メッセージ挿入文字の説明

(1) メッセージ挿入文字（理由）の説明

メッセージテキストの挿入文字に（理由）が存在する場合，トリガフォンを使用した場合の理由の説明を表 13.1-1 に，IP 電話の場合の理由を表 13.1-2 に示します。

表 13.1-1 トリガフォンの場合のメッセージ挿入文字（理由）一覧

挿入文字	説明
話し中	再ダイヤル回数までダイヤルしましたが，話し中のため発信を打ち切ります。連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。 直接発信では，繰り返し回数の設定ダイアログボックスの「電話繰り返し回数」まで発信を繰り返します。
回線不通	電話回線から発信音が検出できません。またはトリガフォンに電話回線が接続されていないか，構内交換機回線（PBX 回線）が使用されています。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。直接発信では，繰り返し回数の設定ダイアログボックスの「電話繰り返し回数」まで発信を繰り返します。
相手不在	電話受信者が規定の時間以内に受話器をとりませんでした。
モデムエラー	トリガフォンから不正な応答を受け付けました。このエラーが続く場合トリガフォンの電源を入れ直してやり直してください。発信の確認が得られていない場合は，環境設定－「電話・回線」タブの「TP 再ダイヤル回数」まで発信を繰り返します。
回線切断	通話中に，受信した人が受話器を置いたため，電話が終了しました。発信の確認が得られていない場合は，連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
パスワード不正	不正なパスワードが最大入力回数まで入力されました。連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。直接発信では，繰り返し回数の設定ダイアログボックスの「電話繰り返し回数」まで発信を繰り返します。

挿入文字	説明
時間切れ	入力待ち時間以内にダイヤル入力しないため打ち切りました。
入力エラー	入力待ち回数以内に正しい入力がないため打ち切りました。
着信中	発信中に電話着信を受信したか，または発信専用で使用している場合で，電話着信を受けて 90 秒以上呼び出し中状態のときに電話発信が行われたことが考えられます。環境設定ー「電話・回線」タブの「TP 再ダイヤル回数」まで発信を繰り返します。
ダイヤルエラー	発信に失敗しました。 環境設定ー「電話・回線」タブの「TP 再ダイヤル回数」まで発信を繰り返します。 トリガフォンを使用した電話発信の場合，電話受信者が，受信確認を行いませんでした。この場合，直接発信では，繰り返し回数の設定ダイアログボックスの「電話繰り返し回数」まで発信を繰り返します。 ダイヤルエラーが継続して頻発する場合は，トリガフォンの電源を一度オフ・オンしてから TELstaff サービスを再起動してください。
発信可能モデムなし	発信で使用できるトリガフォンがありません。発信で使用できるトリガフォンを登録していないか，トリガフォンの障害で閉塞されています。または，電話通知文ファイルのファイル拡張子が tp でありません。
トリガフォン無応答	RS232C ケーブルが外れているか，またはトリガフォンからの応答がありません。このエラーが続くようでしたらトリガフォンの電源を入れ直してください。 使用できるトリガフォンが 1 つしかない場合では，発信の確認が得られていない場合，連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。直接発信では，繰り返し回数の設定ダイアログボックスの「電話繰り返し回数」まで発信を繰り返します。 他に使用できるトリガフォンがある場合では，このトリガフォンを閉塞します。

表 13.1-2　IP電話の場合のメッセージ挿入文字（理由）一覧

挿入文字	説明
話し中	話し中のため発信を打ち切ります。再ダイヤル回数までダイヤルしましたが，話し中のため発信を打ち切ります。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
通信エラー	SIP サーバ，または VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズ，または IP 電話端末にネットワーク接続できません。 「環境設定」 -「電話・回線」の「ダイヤルエラーのリトライ回数」スピンボックスで指定した繰り返し回数まで発信を繰り返します。
接続エラー	SIP サーバ，または VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズ，または IP 電話端末にネットワーク接続できません。また，通知先の呼び出し中（INVITE 命令への応答待ち）に予期せぬ応答コードを受信した場合もこの文字列が挿入されます。 「環境設定」 -「電話・回線」の「ダイヤルエラーのリトライ回数」スピンボックスで指定した繰り返し回数まで発信を繰り返します。
回線不通	相手の電話端末との通信路がありません。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。

挿入文字	説明
相手不在	電話受信者が規定の時間以内に受話器を取りませんでした。または存在しない電話番号に発信した可能性があります。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
回線切断	通話中に，受信した人が受話器を置いたため，電話が終了しました。 発信の確認が得られていない場合は，連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
パスワード不正	不正なパスワードが最大入力回数まで入力されました。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
時間切れ	入力待ち時間以内にダイヤル入力しないため打ち切りました。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
入力エラー	最大入力回数以内に正しい入力がないため打ち切りました。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
PB 取得エラー	SIP サーバ，または VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズ，または IP 電話端末にネットワーク接続中にエラーが発生しました。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
IP 電話環境不正	IP 電話環境が存在しないか，TELstaff に IP 電話発信用の設定がされていません。
音声変換エラー	音声合成ができません。指定した音声合成ソフトウェアが正しくインストールされていない等の原因が考えられます。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
再生エラー	SIP サーバ，または VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズ，または IP 電話端末にネットワーク接続中にエラーが発生しました。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
登録エラー	SIP サーバ，または VoIP ゲートウェイ，または CTBX シリーズ，または IP 電話端末にネットワーク接続中にエラーが発生しました。 連絡網での繰り返し回数まで発信を繰り返します。
言語コード不正	teldial コマンドの引数 -sl に指定された言語コードが不正なため，通知を実行できません。
CTBX オフライン	IP 電話発信中に使用した CTBX シリーズ機器のオフライン状態を検出しました。
利用可能機器なし	IP 電話発信方法として CTBX シリーズを選択しましたが，利用可能な CTBX シリーズ機器が見つかりませんでした。または，すべての CTBX シリーズ機器がオフライン状態でした。 この発信の繰り返しは行いません。

(2) メッセージ挿入文字（ユーザ名）の説明

メッセージテキストに挿入文字に，（ユーザ名）が存在する場合の説明を，次に示します。

- TELstaff に登録されたユーザ名を表示します。
- 問い合わせで，パスワードが得られない場合，ユーザ名は，「不明」と表示します。

(3) メッセージ挿入文字（Slackへの発信）の説明

メッセージ ID 4020～4030 のメッセージが，Slack への発信（tlsslack コマンド）のメッセージとなります。

Slack への発信（tlsslack コマンド）の場合，メッセージテキストは，CSV 形式（カンマ区切りテキスト）で出力されます。各列の説明を表 13.1-3 に示します。

表 13.1-3 Slackへの発信（tlsslackコマンド）のメッセージ説明

列	説明
1	成否を示す文字。「o」:成功，「x」:失敗を示します。 （全角の「○」「×」ではありません，半角英字小文字の「o」「x」です）
2	tlsskack コマンドの-i オプションの値。-i オプションが指定されなかったときはこの列は空です。
3	対象種別。「チャンネル」「メンバー」のいずれかを示します。
4	操作種別。「投稿」「一覧」のいずれかを示します。
5	操作対象。操作対象を示します。
6	情報 1。エラー内容やエラーコードなどが記載されます。
7	情報 2。エラー内容やエラーコードなどが記載されます。

※：カンマ区切りの 7 項目（7 列）で構成されます。このため空の項目がある場合にはカンマが連続して出力されます。

(4) メッセージ挿入文字（LINE WORKSへの発信）の説明

メッセージ ID 4000～4007 のメッセージが，LINE WORKS への発信（tlsline コマンド）のメッセージとなります。

LINE WORKS への発信（tlsline コマンド）の場合，メッセージテキストは，CSV 形式（カンマ区切りテキスト）で出力されます。各列の説明を表 13.1-4 に示します。

表 13.1-4 LINE WORKSへの送信（tlslineコマンド）のメッセージ説明

列	説明
1	成否を示す文字。「o」:成功，「x」:失敗を示します。 （全角の「○」「×」ではありません，半角英字小文字の「o」「x」です）
2	tlsline コマンドの-i オプションの値。-i オプションが指定されなかったときはこの列は空です。
3	対象種別。「トークルーム」「メンバー」のいずれかを示します。
4	操作種別。「作成」「投稿」のいずれかを示します。
5	操作対象。操作対象を示します。
6	情報 1。エラー内容やエラーコードなどが記載されます。
7	情報 2。エラー内容やエラーコードなどが記載されます。

※：カンマ区切りの 7 項目（7 列）で構成されます。このため空の項目がある場合には

カンマが連続して出力されます。

13.2 メッセージ一覧

500未満のメッセージID

007-E

サービスを開始していないため操作できません

解説

teldial コマンドを受け付けましたが，TELstaff サービスを開始できないか，または現在 TELstaff サービスが開始されていないため実行できません。

（S）環境設定－「全般」タブの「サービス未起動のとき teldial コマンド無効にする」チェックボックスにチェックしている場合，受け付けた teldial コマンドを無効にします。
チェックしていない場合，TELstaff サービス停止中に実行された teldial コマンドは保留され，TELstaff サービス開始後に実行されます。
なお，チェックしていない場合で，「サービス未起動のとき teldial コマンドでサービスを自動起動する」チェックボックスにチェックがあると TELstaff サービスを開始して teldial コマンドを実行します。

（U）TELstaff サービスを開始してください。
保留されている teldial コマンドおよび全ての未発信を取り消して TELstaff サービスを開始する場合は，TELstaff サービスの起動ダイアログボックス（図 6.1-1）で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを開始します。

008-E

不正な引数又はオプションが指定されています

解説

コマンドに誤ったオプションが指定されています。
または teldial コマンドで-to オプションを指定している場合，-fb，-fc，-ff，-fi，-fm，-fs1，-fv，-fa，-uf，-fdp，-fdt，-fdw オプションで指定したファイルがないか，または使用できないファイル名を指定しています。

（S）処理を中止します。

（U）誤りを訂正して，再度コマンドを投入してください。

011-E

連絡網ＩＤの指定がありません

解説

teldial コマンドに連絡網 ID の指定がありません。

（S）処理を中止します。

（U）連絡網 ID を指定して，再度コマンドを投入してください。

012-E

連絡網ＩＤの指定に誤りがあります

解説

teldial コマンドに指定した連絡網 ID に誤りがあります。
または，環境設定－「全般」タブの「サービス未起動のとき teldial コマンド無効にする」チェックボックスと「サービス未起動のとき teldial コマンドでサービスを自動起動する」チェックボックスにチェックしている場合で，TELstaff サービスを開始して teldial コマンドを実行しましたが，TELstaff サービスを開始できません。

（S）処理を中止します。

（U）正しい連絡網 ID を指定して，再度コマンドを投入してください。

021-E

コマンド実行でエラーが発生しました

解説

telstaff コマンドを実行できませんでした。Windows のシャットダウン中に teldial コマンドを実行すると本エラーが表示される場合があります。

（S）処理を中止します。teldial コマンドの場合，この発信を終了します。

（U）次の項目を確認してください。

- -to オプションで自 PC の IP アドレスを指定していないか，または-to オプションに指定した宛先に誤りがないか。宛先の記述形式については，「9.4.1(1) 宛先（To:）の記述方法」を参照してください。
- teldial コマンドの-fb，-fc，-ff，-fi，-fm，-fs1，-fv，-fa，-uf，-fdp，-fdt，-fdw，-nif オプションで指定したファイルが存在しないか。
- AECL では，メッセージエージェント構成の設定－「サーバ」タブで発信依頼先の指定に誤りがないか。
- Windows のシステムリソースが不足している可能性があります。実行中のアプリケーションを終了させて，再度実行させてください。また，一度に多くの telstaff コマンドを実行させたときは，Windows のシステムリソース不足で実行できない場合があります。この場合は，一度に実行させる telstaff コマンドの数を少なくしてください。

030-I

<nnn> *teldialコマンドで指定された引数* の発信を受け付けました。

解説

teldial コマンドで指定された引数で示す発信要求を受け付けました。この teldial コマンドによって行われる発信の受付番号は<nnn>部に記載され，この番号が 500-I などのメッセージで引き続き使用されます。

（S）連絡網 ID を総称で指定した場合，032-I メッセージとともに出力します。

031-I

***telcanコマンドで指定された引数* の発信取消を受け付けました。**

解説

telcan コマンドで指定された引数で示す発信の取り消し要求を受け付けました。

032-I

<nnn> *teldialコマンドで指定された引数* の発信を受け付けました。

解説

teldial コマンドで指定された引数で示す発信要求を受け付けました。この teldial コマンドによって行われる発信の受付番号は<nnn>部に記載され，この番号が 500-I などのメッセージで引き続き使用されます。

（S）連絡網 ID を総称で指定した場合，030-I メッセージとともに出力します。

033-I

***telcanコマンドで指定された引数* の発信取消を受け付けました。**

解説

telcan コマンドで指定された引数で示す発信の取り消し要求を受け付けました。

（S）発信を取り消す連絡網 ID を総称名で指定した場合，031-I メッセージを出力します。

033-I

全ての未発信 の発信取消を受け付けました。

解説

未発信となっている全ての発信の取り消し要求を受け付けました。
「図 6.1-1TELstaff サービスの起動ダイアログボックス」で「未発信を全て取り消して起動する」チェックボックスにチェックして TELstaff サービスを起動したとき，または-c オプション指定の telcan コマンドでこのメッセージが出力されます。

034-E

コマンド実行権限がありません。

解説

telcan コマンド,telspend コマンドあるいは telnethd コマンドで指定されたユーザ名あるいはパスワードに誤りがあります。

（S）処理を中止します。

（U）telcan コマンドあるいは telnethd コマンドに正しいユーザ名，パスワードを指定して，再度コマンドを投入してください。

035-I

telnethdコマンドで指定された引数 のネットワーク監視の保留あるいは解除を受け付けました。

解説

telnethd コマンドで指定された引数で示すネットワーク監視の保留あるいは解除を受け付けました。

036-I

発信制限されているため、この発信を取り消しました。LID:LID,…

解説

LID,...の部分に表示された発信制限ルールにより，発信命令を破棄しました。複数の発信制限ルールが同時にその発信を制限した場合，該当するルールの ID がすべて LID の部分に記載されます。発信制限機能の詳細については 2.3.27 項を参照してください。

（U）発信制限値の標準設定は，全ての発信に対して発信制限時間 5 秒で設定されています。発信制限機能を無効にする，または設定を変更する場合は，環境設定ー「発信制限」タブで変更します。

037-I

発信先 の発信の抑止あるいは抑止解除を受け付けました。

解説

【発信先】への発信を抑止しました。あるいは，抑止を解除しました。

038-I

ファイル名 のWAVファイル再生コマンドを受け付けました。

解説

【ファイル名】の WAV ファイルの再生を開始します。

039-I

WAVファイルの再生を終了しました。

解説

WAV ファイルの再生が終了しました。TELstaff サービスを終了させずに，Windows をリブートまたはシャットダウンすると複数出力されます。

040-E

サウンドボードがないためtelsndplコマンドを終了します。

解説

コンピュータにサウンドボードが無いため WAV ファイルを再生できません。TELstaff サービスを終了させずに，Windows をリブートまたはシャットダウンすると出力される場合があります。

041-E

ファイル名 のWAV再生に失敗しました。

解説

【ファイル名】の WAV ファイルの再生ができませんでした。

（S）処理を中止します。

（U）Windows のシステムリソースが不足していることが考えられます。実行中のアプリケーションを終了して再度実行してください。

042-E

ファイル名 のファイルがないためWAV再生できません。

解説

【ファイル名】の WAV ファイルがありません。

（S）処理を中止します。

（U）ファイル名が正しいか確認し，再度実行してください。

043-E

ファイル名 はWAVファイルではありません。

解説

【ファイル名】は，WAV ファイルの形式ではありません。

（S）処理を中止します。

（U）ファイル名が正しいか確認し，再度実行してください。

054-I

<nnn> *発信先* への発信を受け付けました。この発信は受付番号<mmm>として処理されます。

解説

発信先 に対する発信要求を受け付けました。このメッセージは teldial コマンドの引数-nif を使用した場合など，受付番号が<nnn>である他の発信の一部として実行された発信ごとに出力されます。

この発信によって行われる発信の受付番号は<mmm>部に記載され，この番号が 500-I などのメッセージで引き続き使用されます。

070-I

全ての発信情報の取消を受け付けました。

解説

TELstaff サービス停止状態で環境設定－「全般」タブの「サービス未起動のとき teldial コマンドを無効にする」チェックボックスにチェックして無効指示が行われたため，現在未発信となっている全ての発信の取り消しを行います。

「サービス未起動のときコマンドでサービスを自動起動する」チェックボックスにチェックしている場合は，取り消しは行いません。

080-I

発信制限ルールを登録しました。LID:LID

解説

発信制限ルールを追加または更新しました。追加または更新されたルールの ID はメッセージ中「LID」の部分に表示されます。

081-I

発信制限ルールを削除しました。LID:LID

解説

発信制限ルールを削除しました。削除されたルールの発信制限 ID はメッセージ中「LID」の部分に表示されます。

082-E

発信制限ルールの操作を中止しました。理由

解説

実行可能な条件を満たさないため，発信制限ルールの操作を中止しました。中止した理由はメッセージの最後に表示されます。

（S）発信制限ルールの設定は変更せずに中止します。

（U）メッセージ中「理由」の部分に表示された内容について，確認してください。

083-E

発信制限ルールの操作に失敗しました。

解説

発信制限ルールの操作中にエラーが発生し，失敗しました。

（S）発信制限ルールの処理はエラーが発生した時点で中止します。

084-I

発信制限の状態をリセットしました。LID:LID

解説

発信制限ルールの実行履歴をクリアしました。実行履歴がクリアされたルールの ID は LID 部に表示されます。

202-E

TELstaff評価版の使用期限を過ぎているため起動できません

解説

評価版の TELstaff を起動しようとしたところ，使用期限が過ぎているためサービスを起動できませんでした。

204-I

モデムを使用しないでサービスを開始します

解説

モデム，またはトリガフォンを使用しないで，TELstaff サービスを開始します。

206-I

連絡網ID の連絡網ＩＤを再度サービスに登録します

解説

連絡網 ID で示す連絡網 ID を，再登録します。

（S）再登録した連絡網 ID を発信します。

207-I

ポート名 の電話回線を切断できないためポートを再オープンします

解説

ポート名の電話回線を切断できないため，ポートをクローズして再オープンします。トリガフォン（TP2000）を LAN 接続で使用している場合，ポート名には IP アドレスを表示します。

（S）処理を続行します。

208-I

ポート名 のモデムからの応答がないためポートを再オープンします

解説

ポート名のモデム，またはトリガフォンがハングアップしたので，ポートをクローズして再オープンします。トリガフォン（TP2000）を LAN 接続で使用している場合，ポート名には IP アドレスを表示します。

（S）シリアルポートをクローズして，再オープンします。

209-E

ポート名 のモデムからの応答がないためポートを閉塞します

解説

ポート名で示す RS232C シリアルポートに接続したモデム，またはトリガフォンから応答がありません。トリガフォン（TP2000）を LAN 接続で使用している場合，ポート名には IP アドレスを表示します。

（S）ポート名で示す RS232C シリアルポートを TELstaff から切り離して処理を続行します。

（U）モデム，またはトリガフォンの電源をオフ・オンして TELstaff サービスを再起動してください。TELstaff サービスを再起動してもモデム，またはトリガフォンを認識できない場合は，モデム，またはトリガフォンの障害か，または RS232C シリアルポートの問題ですので原因を調査してください。

214-E

回線不通のため ポート名のポートを閉塞します

解説

トリガフォン，またはモデムを使用した電話通知，SMS 通知，FAX 通知，電話回線を使用したエージェント通知で電話回線が不通（発信音が検出されない）のためポート名の RS232C シリアルポートを閉塞します。

他に発信できるトリガフォンがあり，環境設定－「電話・回線」タブの「回線不通時は使用しない」にチェックあるとき閉塞します。モデムの場合は，他に発信できるモデムがあり，環境設定－「電話・回線」タブの「回線不通時は使用しない」にチェックあるとき閉塞します。

（S）**ポート名**の RS232C シリアルポートを閉塞し，電話，SMS 通知 ，FAX，電話回線を使用したエージェントへの発信を中止します。

（U）次の処置を行ってください。

1. モデム，またはトリガフォンに電話回線が接続されているかを確認してください。電話回線を接続し，TELstaff サービスを再起動してください。
2. 発信音が検出されない原因を修復し，TELstaff サービスを再起動してください。発信音の有無は，電話機に回線を接続して受話器から発信音が聞こえるかどうかで確認できます。

215-E

ポート名 のモデム/トリガフォンでアクセスエラーが発生したためポートを閉塞します

解説

トリガフォン，またはモデムを使用した電話通知，SMS 通知，FAX 通知，電話回線を使用したエージェント通知でトリガフォン，またはモデムとの通信エラーが発生したため**ポート名**の RS232C シリアルポートを閉塞します。

他に発信できるトリガフォン，またはモデムがあるとき閉塞します。

（S）**ポート名**の RS232C シリアルポートを閉塞し，電話，SMS 通知 ，FAX，電話回線を使用したエージェントへの発信を中止します。

216-E

ポート名 のモデム/トリガフォンの電源断を検出したためポートを閉塞します

解説

ポート名に接続されたモデム，またはトリガフォンの電源断を検出したため，このモデム，またはトリガフォンを閉塞しました。

（S）**ポート名**に接続されたモデム，またはトリガフォンを閉塞します。

（U）モデム，またはトリガフォンの電源および RS232C ケーブルの接続を確認し，TELstaff サービスを再起動します。

300-I

サービスを開始します(連絡網グループID)(TELstaffバージョン名)

解説

TELstaff サービスを開始します。

301-I

サービスを終了します

解説

TELstaff サービスを終了します。TELstaff サービスを終了させずに，Windows をリブートまたはシャットダウンすると複数出力されます。

303-I

<nnn> ユーザ名 の指示により {連絡網|電話|SMS|エージェント|メール|FAX|コマンド|パトランプ|Web通知メディア} 連絡網情報 を取り消しました。発信受付時間=(yyyy/mm/dd hh:mm:ss)

解説

telcan コマンドが表示されたユーザにより実行され，{連絡網|電話|SMS|エージェント|メール|FAX|コマンド|パトランプ|Web 通知メディア}での発信を取り消しました。

304-I

コマンドを受け付けました。コマンド名

解説

コマンド名で示すコマンドを受け付けました。

305-I

現在まで発信はありません

解説

現時点までに，未通知および未確認の連絡網 ID はありません。

（S）処理を中止します。

316-E

サービスを終了させます

解説

Windows から予期しないエラー報告があったためサービスを終了させました。Windows システムのリソース不足などの要因が考えられます。

（S）TELstaff サービスを再起動します。

（U）再起動されない場合は，手動で TELstaff サービスを開始してください。なお，安定稼動を行うために定期的にリブートする運用を推奨します。

317-W

モデムコマンドでエラーが発生しました

解説

モデム，またはトリガフォンの初期設定中にエラーを検出したため，TELstaff サービスを起動できません。原因としては以下のことが考えられます。

・モデム，またはトリガフォンの電源がオンになっていない。

・他のアプリケーションで同じシリアルポートを使用している。

・モデム，またはトリガフォン障害のためモデム，またはトリガフォンから応答がない。

1.5.4(3) も参照してください。

（S）処理を中止します。

（U）エラー原因を取り除いて再度コマンドを投入してください。起動できない場合は，モデム，またはトリガフォンの電源を 1 度オフ・オンした後に再度コマンドを投入してください。

318-E

モデム操作中にサービスが異常終了しました

解説

モデム，またはトリガフォン操作で TELstaff サービスが異常終了しました

（S）処理を中止します。

（U）TELstaff での運用を再開するには，モデム，またはトリガフォンの電源を 1 度オフ・オンしてから，TELstaff サービスを再起動してください。

324-E

ポート(ポート名)のオープンに失敗しました(コード)

解説

ポート名で示すポートが使用できません。

（S）ポート名で示すモデム，またはトリガフォンを使用せず，TELstaff を開始します。

（U）他のアプリケーションでこのポートを使用している場合は，アプリケーションを終了させてください。

325-W

ポート名 のモデムの初期設定ができませんでした。

解説

ポート名で示すポートに接続されているモデム，またはトリガフォンの初期設定ができませんでした。

・モデムの電源がオンになっていない。

・他のアプリケーションで同じシリアルポートを使用している。

・モデム障害のためモデムから応答がない。

（S）ポート名で示すモデム，またはトリガフォン，トリガフォンを使用せず，TELstaff を開始します。

（U）このエラーが続くようでしたらモデムの電源を 1 度オフ・オンしてから，TELstaff サービスを再起動してください。

326-W

ポート名 のＴＰの初期設定ができませんでした。

解説

ポート名で示すポートに接続されている TP の初期設定ができませんでした。
または，Windows フォルダの system32 フォルダ，SysWOW64 フォルダに teltalk.wrd ファイルが存在しません。

（S）ポート名で示すトリガフォンを使用せず，TELstaff を開始します。

（U）ディップスイッチ 1 の 1 番スイッチ（DSW1-1）が ON になっているか，またはケーブルがクロスケーブルであるかを確認してください。

327-E

OVW.DLLロードできないためネットワーク監視を無効にして起動します。

解説

ネットワーク監視プロパティダイアログボックスの「OVW.DLL の場所」で指定したフォルダには OVW.DLL ファイルが見つかりません。

（S）次の方法で TELstaff を開始します。

- ポーリング監視の場合は，ネットワーク監視を無効にして TELstaff を開始します。
- アクション監視の場合は，ネットワーク監視の統計情報（「状態」情報）を無効にして TELstaff を開始します。

（U）次の項目を確認してください。

- 「ネットワーク監視のプロパティ」ダイアログボックスで，OVW.DLL ファイルの所在

場所が正しいか。誤りがあれば再設定して TELstaff サービスを再起動してください。
- 一度，Windows を再起動してから再度 TELstaff を開始してください。
- hosts ファイルを使用してアクション監視を行う場合，このメッセージは無視してください。

328-E

ICMP.DLLロードできないためネットワーク監視を無効にして起動します。

解説

ネットワーク監視を ping 監視で行おうとしましたが，ICMP.DLL が見つからないためネットワーク監視を行わずに TELstaff を起動します。

（S）ネットワーク監視を行わずに TELstaff を開始します。

329-I

ユーザ名 の指示により ホスト名 の監視を中断します。

解説

ユーザ名のユーザから telnethd コマンドが投入されたため，ホスト名のネットワーク監視を中断します。

330-I

ユーザ名 の指示により ホスト名 の監視の中断を解除しました。

解説

ユーザ名のユーザから telnethd コマンドが投入されたため，ホスト名のネットワーク監視を再開します。

400-I

ファイル監視を開始します。

解説

ファイル監視を開始します。

401-I

ファイル監視を終了します。

解説

ファイル監視を終了します。

402-I

ファイルが作成されました。ファイル名=検出ファイル名

解説

ファイル名で示すファイルの作成を検出しました。

403-I

ファイルが更新されました。ファイル名=検出ファイル名

解説

ファイル名で示すファイルの更新を検出しました。

404-I

ファイルが削除されました。ファイル名=検出ファイル名

解説

ファイル名で示すファイルの削除を検出しました。

405-I

ファイルが到着しませんでした。検索パターン=検索パターン

解説

検索パターンの条件に一致するファイルが期限内に到着しませんでした。

406-I

[監視グループ名] 現在、監視抑止時間帯です。

解説

監視グループ名のグループは，スケジュール設定により現在監視抑止時間帯のため発信を抑止しました。

407-I

[監視グループ名] {電話|SMS|メール|エージェント|FAX|連絡網|パトランプ|表示ボード|Messengerサービス} に発信しました。

解説

監視ファイルを検出しましたので，{電話|SMS|メール|エージェント|FAX|連絡網|パトランプ|表示ボード|Messenger サービス}で発信しました。

408-E

[監視グループ名] {電話|SMS|メール|エージェント|FAX|連絡網|パトランプ|表示ボード|Messengerサービス} への発信に失敗しました。

解説

監視ファイルを検出しましたが，{電話|SMS|メール|エージェント|FAX|連絡網|パトランプ|表示ボード|Messenger サービス}での発信ができませんでした。

409-I

[監視グループ名] コマンドを実行しました。実行コマンド[コマンド名]

解説

コマンド名で示すコマンドを実行しました。

410-E

[監視グループ名] コマンドの実行に失敗しました。実行コマンド[コマンド名]

解説

コマンド名で示すコマンドが実行できませんでした。

411-E

メモリ不足が発生しました。

解説

Windows システムのリソース不足を Windows から報告されました。

（S）処理を終了します。

412-E

ファイル監視を終了させます。

解説

ファイル監視中に Windows から予期しないエラー報告があったためサービスを終了させました。Windows システムのリソース不足などの要因が考えられます。

（S）処理を終了します。

413-I

[監視グループ名] フィルタ条件に一致しないため、発信を抑止しました。ファイル名=ファイル名

解説

ファイル名で示すファイルの作成，更新を検出しましたが，フィルタリング条件に一致しないため発信を抑止しました。

414-I

[監視グループ名] 監視抑止されているため、発信を抑止しました。ファイル名=ファイル名

解説

ファイル名で示すファイルを検出しましたが，監視抑止されているため発信を抑止しました。

415-I

[監視グループ名] ファイル[検出ファイル名]のバックアップを行いました。場所=[ローカル|ファイルサーバ] バックアップファイル名=[バックアップファイル名]

解説

検出ファイル名で示すファイルをバックアップ名で示すファイル名で保存しました。

416-E

[監視グループ名] ファイル[検出ファイル名]のバックアップに失敗しました。場所=[ローカル|ファイルサーバ] バックアップファイル名=[バックアップファイル名]

解説

検出ファイル名で示すファイルを保存できませんでした。理由としては，次のことが考えられます。

1. バックアップ先がローカルの場合，保管フォルダの指定に誤りがある。
2. バックアップ先がファイルサーバの場合，サーバアドレスの指定に誤りがある。
3. バックアップ先がファイルサーバの場合，通信ポートのポート番号に誤りがあるか，または通信ポートのポート番号が設定されていない。
4. サーバアドレスで指定したファイルサーバの AEPE, AESE, AECL のサービスが起動されていない。
5. サーバアドレスで指定したファイルサーバの AEPE, AESE, AECL の「メッセージエージェント構成の設定」ダイアログボックスで通信ポートのポート番号が指定されていない。

420-I

メッセージ監視を開始します。

解説

メッセージ監視を開始します。

421-I

メッセージ監視を終了します。

解説

メッセージ監視を終了します。

422-I

監視条件を満たすメッセージを検出しました。ファイル名=ファイル名 監視文字列=監視文字列

解説

ファイル名で示すファイル内から監視文字列を検出しました。

423-I

[監視グループ名] {電話|SMS|メール|エージェント|FAX|連絡網|パトランプ|表示ボード|Messengerサービス} に発信しました。

解説

監視文字列を検出しましたので，{電話|SMS|メール|エージェント|FAX|連絡網|パトランプ|表示ボード|Messenger サービス}に発信しました。

424-E

[監視グループ名] {電話|SMS|メール|エージェント|FAX|連絡網|パトランプ|表示ボード|Messengerサービス} への発信に失敗しました。

解説

監視文字列を検出しましたが，{電話|SMS|メール|エージェント|FAX|連絡網|パトランプ|表示ボード|Messenger サービス}への発信に失敗しました。

425-I

[監視グループ名] コマンドを実行しました。実行コマンド[コマンド名]

解説

コマンド名で示すコマンドを実行しました。

426-E

[監視グループ名] コマンドの実行に失敗しました。実行コマンド[コマンド名]

解説

コマンド名で示すコマンドが実行できませんでした。

427-I

[監視グループ名] 現在、監視抑止時間帯です。

解説

スケジュール設定により監視抑止時間帯のため，発信を抑止しました。

428-I

[監視グループ名] 監視抑止されているため、発信を抑止しました。ファイル名=ファイル名

解説

監視抑止されているため，発信を抑止しました。

429-E

メッセージ監視を終了させます。

解説

メッセージ監視中に Windows から予期しないエラー報告があったためサービスを終了させました。Windows システムのリソース不足などの要因が考えられます。

（S）処理を終了します。

430-I

イベントを検出しました。ログ=ログ種別 ソース=イベント発生元ソース 種類=種類 ID=イベントID

解説

イベントログからログ種別，イベント発生元ソース，種別，イベント ID のイベントを検出しました。

431-I

[監視グループ名] 監視抑止されているため、発信を抑止しました。

解説

イベントを検出しましたが，監視抑止されているため監視グループ名の発信を抑止しました。

500以上1000未満のメッセージID

500-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] 連絡網への発信を受け付けましたので発信を開始します

解説

［ID1, ID2,ID3］の発信を受け付けました。

（S）発信を開始します。

501-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] ユーザ名 にSMS発信を行いました

解説

ユーザ名というユーザに SMS 通知を行いました。

502-W

<nnn> [ID1, ID2, ID3] ユーザ名 にSMS発信を行いましたが、理由 によりできませんでした

解説

ユーザ名というユーザに SMS 通知を行いましたが，理由に示す理由によりできませんでした。表 13.1-1 の理由を参照してください。

（S）発信を継続します。

503-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] ユーザ名 が発信内容を確認しました

解説

ユーザ名で示すユーザの電話に発信を行い，確認が得られました。

（S）連絡網への発信を中断します。

506-W

連絡網ＩＤ 連絡網ID に対する連絡網定義がありません

解説

指定された連絡網 ID を持つ連絡網が登録されていません。

（S）発信を中止します。

（U）TELstaff サービスを停止させ，指定された連絡網 ID を持つ連絡網を登録してから再度 TELstaff サービスを起動してください。

507-I

連絡網ＩＤ 連絡網ID を受け付けましたが連絡網定義がありません

解説

連絡網 ID で示す連絡網の中に発信先が登録されていません。

（S）発信を中止します。

（U）TELstaff サービスを停止させ,指定された連絡網 ID を持つ連絡網内に発信先を登録してから再度 TELstaff サービスを起動してください。

508-W

<nnn> [ID1, ID2, ID3] ユーザ名 に電話発信を行いましたが、理由 によりできませんでした

解説

ユーザ名で示すユーザの番号で示す電話への発信は（理由）によりできませんでした。トリガフォンを使用している場合は表 13.1-1 の理由を，IP 電話を使用している場合は表 13.1-2 参照してください。

（S）発信を中止します。

517-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] ユーザ名 に電話発信を行ないました

解説

ユーザ名で示すユーザへ，番号で電話に発信しました。

518-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] {パトランプ|コマンド|デスクトップメディア|メールグループ} は発信抑止時間帯のため発信は抑止しました

解説

発信抑止時間帯のため，発信は行いませんでした。

519-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] ユーザ の {電話|SMS|メール|エージェント|FAX} は発信抑止時間帯のため発信を抑止しました

解説

発信抑止時間帯のため，発信は行いませんでした。

520-I

<nnn> {宛先 | ユーザ名} への {電話 | SMS | エージェント | メール | FAX | ユーザ} での発信を受け付けましたので、発信を開始します

解説

宛先，または**ユーザ名**で示す電話，SMS 通知，AECL（または AEPE，AESE），メール，または FAX への発信を受け付けて，発信を開始します。

521-I

<nnn> {宛先 | ユーザ名} への {電話 | SMS | エージェント | メール | FAX} での発信を繰り返します

解説

宛先，または**ユーザ名**で示す電話，SMS 通知，AECL（または AEPE，AESE），メール，FAX への発信を繰り返します。

522-I

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 にエージェントへの発信を行いました

解説

ユーザ名で示すユーザへ，番号で AECL（または AEPE，AESE）に発信しました。

523-W

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 にエージェントへの発信が理由できませんでした

解説

ユーザ名で示すユーザの，番号で示す AECL（または AEPE，AESE）への発信は（理由）によりできませんでした。（理由）は，設定されない場合もあります。

（S）発信を中止します。

524-I

<nnn> [ID1,ID2,ID3] パトランプ通知を行いました

解説

パトランプへの通知を行いました。

パトランプのプロパティダイアログボックスの「場所」テキストボックスで，ネットワーク対応型，コンバータ接続のパトランプを複数箇所登録した場合は，1 箇所以上のパトランプの制御に成功した場合に出力されます。

525-I

<nnn> [ID1,ID2,ID3] パトランプ通知ができませんでした

解説

パトランプへの通知ができませんでした。

パトランプのプロパティダイアログボックスの「場所」テキストボックスで，ネットワーク対応型，コンバータ接続のパトランプを複数箇所登録した場合は，全てのパトランプの制御に失敗した場合に出力されます。

526-I

<nnn> {宛先 | ユーザ名} への {電話 | SMS | エージェント | メール | FAX} での発信をおこないました

解説

宛先，または**ユーザ名**で示す電話，SMS 通知，AECL（または AEPE，AESE），メール，FAX への発信を行いました。

527-I

<nnn> {宛先 | ユーザ名} への {電話 | SMS | FAX} での発信が 理由 によりできませんでした

解説

宛先，または**ユーザ名**で示す電話，SMS 通知，または FAX への発信は（理由）によりできませんでした。

（S）発信を中止します。

（U）表 13.1-1 の理由を参照してください。

528-I

<nnn> {宛先｜ユーザ名} への_{メール｜エージェント} での発信が理由できませんでした

解説

宛先，または**ユーザ名**で示すメール，またはエージェントへの発信は（理由）に示す原因で発信ができませんでした。（理由）は，設定されない場合もあります。

（S）発信を中止します。

（U）SMTP サーバへの接続を監視するアプリケーションなどで，SMTP サーバへの接続を遮断する設定が行われている場合，メール送信はできません。このような場合，「1.4.8(1)メール送信について」に示す TELstaff プロセスに対して SMTP サーバ接続を許可にしてください。または，メール通知文ファイルの形式が正しいか確認してください。

（理由）が「入出力エラー」の場合は，ネットワークドライブにある送信ファイルを指定している可能性があります。

529-I

<nnn> {パトランプ｜コマンド} での発信を受け付けましたので、発信を開始します

解説

パトランプ，またはコマンドメディアへの発信を受け付けて，発信を開始しました。

530-I

<nnn> {パトランプ｜コマンド} での発信を繰り返します

解説

パトランプ，またはコマンドへの発信を繰り返します。

531-I

<nnn> {パトランプ｜コマンド} での発信をおこないました

解説

パトランプ，またはコマンドメディアへの発信を行いました。

532-I

<nnn> {パトランプ｜コマンド} での発信ができませんでした

解説

パトランプ，またはコマンドへの発信ができませんでした。関連メッセージの 1151-E，1153-E メッセージを参照してください。

533-I

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 にメール発信を行いました メール識別番号=nnnnn

解説

ユーザ名で示すユーザに発信しました。メール開封確認を行うメール発信では，メール識別番号が挿入されます。

534-W

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 にメール発信が理由できませんでした

解説

ユーザ名で示すメール発信が（理由）に示す原因でできませんでした。主な原因は，メール通知文ファイルの形式不正か，SMTP メールサーバの障害か，SMTP メールサーバ名の不正が考えられます。（理由）は，設定されない場合もあります。

（S）発信を中止します。

（U）環境設定の「E メール」タブで指定した SMTP メールサーバ名が正しいかを確認してください。正しいときは，SMTP メールサーバが使用できる状態であるかを確認してください。または，メール通知文ファイルの形式が正しいか確認してください。

535-I

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 にＦＡＸ発信を行いました

解説

ユーザ名で示すユーザへ，番号で FAX に発信しました。

536-W

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 にＦＡＸ発信を行いましたが、理由 によりできませんでした

解説

ユーザ名で示すユーザの番号で示す FAX への発信は（理由）によりできませんでした。

（S）発信を中止します。

（U）表 13.1-1 の理由を参照してください。

537-I

<nnn> [ID1,ID2,ID3] コマンド通知を行いました 戻り値=n

解説

連絡網に定義されたコマンドを実行しました。戻り値に応じたアクションが定義された発信では，戻り値が挿入されます。戻り値に応じたアクションが定義されていない発信では，戻り値は表示されません。

538-I

<nnn> [ID1,ID2,ID3] コマンド通知ができませんでした

解説

連絡網に定義されたコマンドの実行ができませんでした。

（S）発信を中止します。

（U）連絡網に定義されたコマンドを見直してください。

539-W

(ホスト名)は監視対象外のため発信を行ないません。

解説

次の理由からネットワーク監視の通知は行いません。

1. teldial コマンドで指定されたホスト名はネットワーク監視の監視対象外のため，発信は行いません。
2. teldial コマンドの-nf オプションで指定した条件に一致するネットワーク監視グループがないため，発信は行いません。
3. -ih（または-ip）オプション指定の teldial コマンドを受け付けましたが，親ノードが危険域のため，発信は行いません。

（S）発信を中止します。

540-I

<nnn> 宛先 への {電話 | SMS | エージェント | メール | FAX} での稼動通知ができませんでした

解説

宛先で示す電話，SMS 通知，AECL（または AEPE，AESE），メール，または FAX への稼動通知ができませんでした。

（S）発信を中止します。

541-I

(ホスト名)は非監視時間帯のため発信を行いませんでした。

解説

teldial コマンドでホスト名に対する発信要求がありましたが，現在ネットワーク監視の非監視時間帯のため，発信は行いません。

（S）発信を中止します。

547-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] 表示ボードへの通知を行いました

解説

連絡網 ID（ID2）に定義されているメッセージ表示ボードへの通知を行いました。

（S）処理を続けます。

548-W

<nnn> [ID1, ID2, ID3] 表示ボードへの通知ができませんでした

解説

連絡網 ID（ID2）に定義されているメッセージ表示ボードへの通知ができませんでした。関連メッセージの 1161-E 1163-E メッセージを参照してください。

（S）処理を続けます。

549-I

<nnn> *ユーザ名* の *発信メディア* は発信抑止時間帯のため発信を抑止しました

解説

発信抑止時間帯のため *ユーザ名* への *発信メディア* での発信を行いませんでした。

（S）処理を続けます。

550-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] ユーザ名 が発信内容を確認しました

解説

ユーザ名で示すユーザが発信を確認しました。通信モデムを使用して TELstaff に電話をかけたときのユーザは，ユーザ管理ウィンドウで TELstaff の「システム管理者」として登録したユーザ名が表示されます。

（S）連絡網への発信を中断します。

552-W

ユーザ名 からの電話を受けましたが、発信内容の確認が 理由 によりできませんでした

解説

ユーザ名で示すユーザから電話を受けましたが，理由で示す理由により発信の確認ができませんでした。表 13.1-1 の理由を参照してください。

（S）処理を続行します。

553-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] 連絡網への発信を繰り返します

解説

連絡網定義の発信を繰り返します。全ての通知先に通知できた場合は，繰り返しを行わずに連絡網への発信を終了します。

554-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] 連絡網への発信を終了しました

解説

連絡網の内のすべての通知先に発信しました。

558-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] デスクトップへの通知を行いました

解説

デスクトップに通知しました。

559-W

<nnn> [ID1,ID2,ID3] デスクトップへの通知ができませんでした

解説

デスクトップへの通知ができませんでした

564-I

ユーザ名 からの電話を受け付けました

解説

ユーザ名で示すユーザからの電話を受け付けました。

567-W

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 の電話の通知先が指定されていないため発信を抑止しました

解説

ユーザの電話の定義が指定されていないため発信を中止しました。

（S）連絡網 ID の次のメディアへの発信を行います。

568-W

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 のSMSの通知先が指定されていないため発信を抑止しました

解説

ユーザの SMS 通知番号の定義が指定されていないため発信を中止しました。

（S）連絡網 ID の次のメディアへの発信を行います。

569-W

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 のメールの通知先が指定されていないため発信を抑止しました

解説

ユーザのメールアドレスの定義が指定されていないため発信を中止しました。

（S）連絡網 ID の次のメディアへの発信を行います。

570-W

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 のエージェントの通知先が指定されていないため発信を抑止しました

解説

ユーザのエージェントアドレスの定義が指定されていないため発信を中止しました。

（S）連絡網 ID の次のメディアへの発信を行います。

571-W

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 のＦＡＸの通知先が指定されていないため発信を抑止しました

解説

ユーザの FAX 番号の定義が指定されていないため発信を中止しました。

（S）連絡網 ID の次のメディアへの発信を行います。

572-I

<nnn> [ID1,ID2,ID3] ユーザ名 の {電話|SMS|エージェント|メール|FAX} の通知は抑止されているため、発信を抑止しました

解説

発信抑止されているため，ユーザ名の{電話|SMS|エージェント|メール|FAX} での通知を抑止しました。

メール通知の場合，環境設定－「E メール」タブでメールサーバ情報が設定されていないため通知を抑止しました。

（S）連絡網 ID の次のメディアへの発信を行います。

573-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] {パトランプ|コマンド} の通知は抑止されているため、発信を抑止しました

解説

発信抑止されているため，**{パトランプ|コマンド}**での通知を抑止しました。

（S）連絡網 ID の次のメディアへの発信を行います。

574-I

<nnn> {宛先 | ユーザ名} への {電話| SMS |エージェント|メール| FAX} の通知は抑止されているため、発信を抑止しました

解説

発信抑止されているため，**宛先**，または**ユーザ名**への**{電話|SMS|エージェント|メール|FAX}**での通知を抑止しました。

575-I

<nnn> {パトランプ|コマンド} の通知は抑止されているため、発信を抑止しました

解説

発信抑止されているため，**{パトランプ|コマンド}**での通知を抑止しました。

576-I

<nnn> [ID1, ID2, ID3] 連絡網への発信を受け付けましたが本番機が動作中のため発信を抑止しました

解説

本番機が動作中のため受け付けた**連絡網 ID** への発信を抑止しました。

（S）連絡網 ID の次のメディアへの発信を行います。

578-I

<nnn> {宛先 | ユーザ名} への {電話|SMS|エージェント|メール| FAX } の通知を受け付けましたが本番機が動作中のため発信を抑止しました

解説

本番機が動作中のため受け付けた**宛先**，または**ユーザ名**への**{電話|SMS|エージェント|メール|FAX}**での発信を抑止しました。

579-I

<nnn> {パトランプ|コマンド} の通知を受け付けましたが本番機が動作中のため発信を抑止しました

解説

本番機が動作中のため受け付けた{パトランプ|コマンド}での発信を抑止しました。

580-I

回線番号(ポート名)に着信があり、受信許可／受信拒否しました。ユーザ名（電話番号）

解説

ユーザ名（電話番号）から**回線番号(ポート名)**を使用して TELstaff への接続があり，受信許可，または受信拒否しました。発信者通知番号が非通知の場合は，**ユーザ名**は“不明”で表示され，非通知理由を**電話番号**に表示されます。ナンバーディスプレイ契約回線でない場合，**ユーザ名**と**電話番号**は，“不明”で表示されます。

581-I

<nnn> [ID0, ID2, ID3] 連絡網グループ変更して再起動されたため、発信を取り消しました

解説

TELstaff サービスを開始時，使用する連絡網グループとは異なる連絡網グループ（**ID0**）の発信待ち，問い合わせ待ち状態にある発信があるため異なる連絡網グループの発信待ち，問い合わせ待ち状態にある発信を取り消します。

（S）使用する連絡網グループとは異なる連絡網グループ（**ID0**）の発信待ち，問い合わせ待ち状態にある発信を取り消して TELstaff サービスを開始します。

582-I

<nnn> [ID0, ID2, ID3] メール開封確認されました 確認者(確認者情報)

解説

メール開封確認を行うメール発信に対してメール受信者が開封確認を行いました。確認者情報は，「ユーザ名/メールアドレス」，「全員」を挿入します。

583-W

<nnn> [ID0, ID2, ID3] メール開封確認されませんでした

解説

メール開封確認を行うメール発信に対してメール受信者が開封確認を行いませんでした。

584-I

<nnn> [ID0, ID2, ID3] メール開封確認を無効にします(理由)

解説

メール開封確認を行うメール発信に対して開封確認を無効にしました。

585-W

<nnn> *ユーザ名* の *発信メディア*の通知先が指定されていないために発信を抑止しました

解説

ユーザ名で示すユーザへの発信メディアでの発信は，ユーザ定義において発信先が定義されていないために発信を行いませんでした。

586-I

<nnn> [ID0, ID2, ID3] メールグループへの通知を行いました

解説

メールグループへの発信を行いました。

587-W

<nnn> [ID0, ID2, ID3] メールグループへの通知ができませんでした

解説

メールグループへの通知ができませんでした。

588-I

<nnn> *発信先* への発信を受け付けました。この発信は受付番号<mmm>として処理されます。

解説

発信先 に対する発信要求を受け付けました。このメッセージは teldial コマンドの引数-nif を使用した場合など，受付番号が<nnn>である他の発信の一部として実行された発信ごとに出力されます。

この発信によって行われる発信の受付番号は<mmm>部に記載され，この番号が 500-I などのメッセージで引き続き使用されます。

607-E

モデムアクセスができませんので打ち切ります(エラー内容)

解説

モデム，またはトリガフォンへのアクセスで，**エラー内容**で示すエラーが発生したためモデム，またはトリガフォンへのアクセスを打ち切ります。

（S）処理を中止します。

612-E

次のコマンドが実行できません。コード=*エラーコード*

解説

次に出力される 629-I メッセージで示すコマンドが ***エラーコード*** の理由によりできませんでした。

以下の原因が考えられます。

1. コマンドが存在しないか，またはコマンドが完全パス名で記述されていない。
2. コマンドのパス名がネットワークドライブ名で記述している。
3. 実行可能ファイルでない。
4. パス名に空白文字を含む場合，「"」（ダブルコーティション）で囲まれていない。

（S）処理を続行します。

613-I

次のコマンドを実行しました。

解説

次に出力される 629-I メッセージで示すコマンドを実行しました。

（S）処理を続行します。

614-E

次のコマンドを打ち切りました。

解説

次に出力される 629-I メッセージで示すコマンドは，実行時間が 30 分経過したため打ち切りました。

（S）処理を続行します。

（U）コマンドの実行時間が 30 分以内になるようにしてから再度実行させてください。

629-I

コマンド名：*コマンド名*

解説

実行したコマンドを **コマンド名** で示します。

660-E

EOF文字入力前に回線が切断されました。

解説

エージェントメッセージ受信で，EOF 検出前に回線断を検出しました。

（S）処理を中止します。

661-E

データ入力タイムアウトが発生しました。

解説

エージェントメッセージ受信で，データ受信タイムアウトとなりました。

（S）処理を中止します。

662-E

データ入出力エラーが発生しました。

解説

エージェントメッセージ受信で，データ受信中に入出力エラーが発生しました。

（S）処理を中止します。

680-I

言語名 の音声合成ソフトウェアをロードしました。

解説

言語名で示す言語用の音声合成ソフトウェアのロード処理に成功し，その言語での音声合成を行う準備が整いました。

681-W

言語名 の音声合成ソフトウェアのロードに失敗しました。

解説

言語名で示す言語用の音声合成ソフトウェアのロード処理に失敗しました。その言語での音声合成は行えません。

（S）TELstaff サービスの起動処理を継続します。

（U）音声合成ソフトウェアの指定が正しいか，また音声合成ソフトウェアが正しくインストールされているか確認してください。

682-W

音声合成ソフトウェアがインストールされていません。

解説

指定された音声合成ソフトウェアのロード処理を行おうとしたところ，インストールされていないため失敗しました。

（S）TELstaff サービスの起動処理を継続します。

（U）音声合成ソフトウェアの指定が正しいか，また音声合成ソフトウェアが正しくインストールされているか確認してください。

690-E

CT System Builderシステムのロードに失敗しました。

解説

CT System Builder for Network システムのロード処理に失敗しました。

（S）IP 電話発信機能を無効にして処理を続行します。

（U）CT System Builder for Network のインストール状態を確認してください。

691-W

CT System Builderサービスを開始させました。

解説

サービス開始時，CT System Builder サービス(BDMGRSVC)が停止していたため，開始させました。

（S）処理を続行します。

692-W

CT-BOX情報が現在の値と不一致です。

解説

環境設定－「IP 電話」タブで設定された CTBX の設定情報は CT System Builder for Network の現在の状態と一致しません。

（S）CT System Builder for Network の現在の状態で処理を続行します。

（U）環境設定－「IP 電話」タブで現在の設定情報を再設定してください。

693-E

CT System Builderサービスを開始できません。

解説

サービス開始時，CT System Builder サービス(BDMGRSVC)を開始できませんでした。

（S）処理を続行します。ただし，IP 電話発信は行えません。

（U）CT System Builder サービス(BDMGRSVC)の状態が無効になっている場合は，「手動」または「自動」に変更して TELstaff サービスを再起動してください。

700-E

動作監視システムとの接続に失敗しました。errno=エラーコード

解説

動作監視システムとの接続に失敗しました。HP Network Node Manager software，または日立

JP1/Cm2 のサービスが開始していない可能性があります。

（S）処理を中止します。

（U）HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 の稼動状態を確認してください。

701-W

動作監視システムが起動されていません。

解説

動作監視システムが起動されていません。

（S）処理を中止します。

（U）HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 の稼動状態を確認してください。

702-I

［監視状態］監視ホスト IPホスト名 の状態 監視状態 を検知しました。

解説

IP ホスト名で示すホストから，監視状態で示す状態を検知しました。

（S）処理を続行します。

703-W

動作監視システムからの応答がタイムアウトしました。

解説

動作監視システムの応答がタイムアウトしました。HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 のサービスが開始していない可能性があります。

（S）処理を中止します。

（U）HP Network Node Manager software，または日立 JP1/Cm2 の稼動状態を確認してください。

750-I

プロセス監視を開始します。

解説

プロセス監視を開始します。

751-I

プロセス監視を終了します。

解説

プロセス監視を終了しました。

752-I

プロセス[プロセス名(PID)]が生成されました。

解説

プロセス名(PID)のプロセスが生成されました。PID はプロセス ID を示します。

（S）プロセスの消滅監視を開始します。

753-I

プロセス[プロセス名(PID)]が終了しました。

解説

プロセス名(PID)のプロセスが消滅しました。PID はプロセス ID を示します。

（S）プロセスの生成監視を開始します。

754-I

現在、監視抑止時間帯です。

解説

スケジュール設定により，現在，監視抑止時間帯のため通知は行いません。

755-I

[監視グループ名] 通知メディア名 に発信しました。

解説

監視グループ名に定義した通知メディア名に発信しました。

756-E

[監視グループ名] 通知メディア名 への発信に失敗しました。

解説

通知メディア名 に対する発信ができませんでした。

（S）通知メディア名 に対する発信を終了します。

758-E

メモリ不足が発生しました。

解説

Windows システムのリソース不足を Windows から報告されました。

（S）プロセス監視を終了します。

（U）コンピュータを再起動させてください。

759-E

プロセス監視を終了させます。

解説

プロセス監視中に Windows から予期しないエラー報告があったためサービスを終了させました。Windows システムのリソース不足などの要因が考えられます。コンピュータを再起動させてください。なお，安定稼動を行うために定期的にリブートする運用を推奨します。

（S）TELstaff サービスを終了させます。

761-I

[監視グループ名] コマンドを実行しました。実行コマンド[コマンド名]

解説

監視グループ名に定義した**コマンド名**のコマンドを実行しました。

762-E

[監視グループ名] コマンドの実行に失敗しました。実行コマンド[コマンド名]

解説

監視グループ名に定義した**コマンド名**のコマンドを実行できませんでした。

765-W

プロセスの一覧取得に失敗しました。

解説

プロセス監視を行うにあたって，その時点でのプロセス一覧を取得しようとしたところ，エラーが発生して取得できませんでした。

（S）その回の監視契機では監視を行わず，次の監視契機に改めてプロセス一覧の取得を試みます。

800-I

メッセージ エージェントが処理を開始しました。

解説

メッセージエージェントサービス処理を開始しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

801-I

メッセージ エージェントが {正常 | 異常} 終了しました。

解説

メッセージエージェントサービス処理が正常，または異常終了しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

802-I

スレッド名 処理スレッドが起動されました。

解説

スレッド名で示す，メッセージエージェントサービス処理スレッドを開始しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

803-I

スレッド名 処理スレッドが｛正常｜異常｝終了しました。

解説

スレッド名で示す，メッセージエージェントサービス処理スレッドが正常，または異常終了しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

804-I

差出人 発信のメッセージ(メッセージID:メッセージID)を受信しました。

解説

差出人からのメッセージを受信しました。受信したメッセージのメッセージ ID はメッセージ ID です。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

805-I

差出人 からの受信メッセージを{*メッセージボックス名*｜保存ファイル}へ移動しました。(メッセージID:メッセージID)

解説

差出人からの受信メッセージをメッセージボックス名で示すメッセージボックスへ移動しました。受信したメッセージのメッセージ ID はメッセージ ID です。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

806-I

宛先 宛メッセージを送信種別で送信しました。(Subject:標題)

解説

標題で示すメッセージを，宛先に対して送信種別で示す手段で送信しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

807-E

宛先 宛メッセージの送信種別での送信でエラーが発生しました。(Subject:標題)

解説

標題で示すメッセージを，宛先に対して送信種別で示す手段で送信しましたが，送信エラーが発生しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

809-E

宛先 宛送信待機メッセージ中に送信条件指定がありません。(Subject:標題))

解説

標題で示す送信待機メッセージには，送信条件の指定がありません。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

814-I

宛先 宛送信待機メッセージから送信メッセージを作成しました。(Subject:標題)

解説

標題で示す送信待機メッセージを，送信箱に作成しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

816-I

宛先宛の送信メッセージを送信箱へ移動しました。(Subject:標題)

解説

標題で示すメッセージを，送信箱へ移動しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

817-E

メッセージファイルアクセスでエラーが発生しました。メッセージファイルをメッセージボックス名へ移動させました。(メッセージID:メッセージID)

解説

メッセージ ID で示すメッセージの入出力でエラーが発生しましたので，メッセージファイルをメッセージボックス名で示すメッセージボックスへ移動しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

818-E

差出人 からの受信メッセージ(メッセージID:メッセージID)の転送指定にエラーがありました。メッセージファイルをメッセージボックス名へ移動させました。

解説

差出人から受信したメッセージ ID で示すメッセージの転送指定に誤りがありましたので，メッセージファイルをメッセージボックス名で示すメッセージボックスへ移動しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

819-E

メッセージファイルアクセスでエラーが発生しました。メッセージファイルを削除しました。(メッセージID:メッセージID)

解説

メッセージ ID で示すメッセージの入出力でエラーが発生しましたので，メッセージファイルを削除しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

820-E

メッセージファイルアクセスでエラーが発生しました。メッセージファイルをごみ箱へ移動させました。(Subject:標題,宛先:宛先)

解説

メッセージエージェント構成の設定ー「メッセージ保存」タブ（図 4.4-4）の「メッセージ記録フォルダ」テキストボックスで指定したメッセージ記録フォルダ内のいずれかのサブフォルダがエクスプローラなどで開かれているため，ファイル操作ができません。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

822-I

宛先 宛メッセージファイルの控えをメッセージボックス名へコピーしました。(Subject:標題)

解説

宛先で示す送信先に，標題で示す送信メッセージを送信しましたので，メッセージボックス名で示すメッセージボックスに控えをコピーしました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

824-I

差出人 から 転送先への転送メッセージを送信箱へ移動しました。(メッセージID:メッセージID)

解説

差出人から転送先へ，メッセージ ID で示す転送メッセージを転送するために，メッセージファイ

ルを送信箱に移動しました。
出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

829-E

メッセージエージェントの環境が設定されていません。処理を終了します。

解説

次の情報が一つも設定されていないか，または MsgBox フォルダがないためメッセージエージェント機能を開始できません。

・環境設定－E メールタブのメールサーバ情報
・エージェント構成設定－自局の場所情報

（S）メッセージエージェント機能を使用しないで処理を続行します。
出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

880-I

メッセージ送信成功（送信先：送信先，送信データ：送信ファイル名）

解説

送信先に対して，送信ファイル名の内容をメッセージ送信しました。

881-E

メッセージ送信失敗（送信先：送信先，送信データ：送信ファイル名，送信種別：送信種別，コード：エラーコード）

解説

送信先に対する，送信ファイル名の内容のメッセージ送信がエラーコードの理由で失敗しました。
（S）処理を続行します。

882-E

回線接続失敗（送信先：送信先，コード：エラーコード）

解説

送信先に対する回線の接続がエラーコードの理由で失敗しました。
（S）処理を続行します。

883-E

名前解決失敗（送信先：送信先，コード：エラーコード）

解説

送信先に対する名前の解決がエラーコードの理由で失敗しました。
（S）処理を続行します。

901-I

リレー入力プロセスが開始されました。

解説

接点入力監視を開始しました。

902-I

[コンバータ名]のリレーチャンネル[チャンネル番号]がＯＮ状態になりました。

解説

コンバータ名に接続された接点入力ユニットの［チャンネル番号］リレーチャンネルが ON 状態になりました。

903-I

[コンバータ名]のリレーチャンネル[チャンネル番号]がＯＦＦ状態になりました。

解説

コンバータ名に接続された接点入力ユニットの［チャンネル番号］リレーチャンネルが OFF 状態になりました。

904-E

名前解決ができません。[コンバータ名]

解説

コンバータ名で指定したコンバータが見つかりません。

（S）処理を続行します。

（U）コンバータ名が正しいか確認してください。

905-E

レジストリの読み込みエラーが発生しました。[エラーコード]

解説

レジストリの読み込みがエラーコードの理由で失敗しました。

（S）処理を続行します。

906-E

メモリ不足が発生しました。

解説

接点入力監視中にメモリ不足が発生しました。

（S）処理を終了します。

907-E

接点入力監視を終了させます。

解説

接点入力監視中に Windows から予期しないエラー報告があったためサービスを終了させました。

（S）処理を終了します。

908-E

ソケット操作中にエラーが発生しました。[コンバータ名][エラーコード]

解説

接点入力監視中にコンバータ名との間での通信でエラーコードが原因でエラーが発生しました。

（S）処理を終了します。

909-I

[コンバータ名][リレーチャンネル番号]コマンド[コマンド名]を実行しました。

解説

コンバータ名に接続している入力ユニットのリレーチャンネル番号に設定しているコマンド名を実行しました。

910-W

[コンバータ名][リレーチャンネル番号]コマンド[コマンド名]を実行できません。[エラーコード]

解説

コンバータ名に接続している入力ユニットのリレーチャンネル番号に設定しているコマンド名がエラーコードを原因として実行できませんでした。

（S）処理を続行します。

911-W

[コンバータ名]とのコネクションが切断されました。

解説

コンバータ名と TELstaff サービスとの間のコネクションが切断されました。

（S）処理を続行します。

912-E

サービス名[サービス名称]のポート番号を取得できません。

解説

サービス名称からポート番号を取得することができません。

（S）処理を終了します。

（U）services ファイルにサービス名称が正しく設定されているか確認して下さい。

913-E

[コンバータ名]からの応答がないためリレー状態が確認できません。

解説

コンバータからの応答がないため接続されている接点入力ユニットの状態が確認できません。

（S）処理を続行します。

914-I

リレー入力プロセスを終了します。

解説

接点入力監視を終了しました。

915-W

[コンバータ名]ポート番号を決定できません。

解説

コンバータと接続するためのポート番号が決定できません。

（S）処理を終了します。

916-E

RS232Cアクセス中にエラーが発生しました。[エラー発生場所][エラーコード]

解説

接点入力ユニットを接続したシリアルポートが他で使用されているか，またはこのシリアルポートがエラー発生場所のエラーコードを原因として使用できる状態にありません。

（S）接点入力監視を継続します。

917-I

[接点入力ユニット名][状態]コマンド[コマンド名]を実行しました。

解説

接点入力ユニットの稼動状態検出時，非稼動状態検出時に設定しているコマンド名を実行しました。

918-W

[接点入力ユニット名][状態]コマンド[コマンド名]を実行できません。[エラーコード]

解説

接点入力ユニットの稼動状態検出時，非稼動状態検出時に設定しているコマンド名がエラーコードを原因として実行できませんでした。

（S）処理を続行します。

919-W

[接点入力ユニット名] シスメックスRA社製の入力ユニットはセレクタ装置を使用できません。

解説

シスメックス RA 社製接点入力ユニットはセレクタ装置を使用できないため，接点入力ユニット名の監視を行いません。

（S）処理を続行します。

920-I

[接点入力ユニット名] の状態(状態)を検出しました。

解説

接点入力ユニットの稼動あるいは非稼動状態を検出しました。

1000以上2000未満のメッセージID

1050-I

ドライバ監視を開始します。

解説

ドライバ監視を開始します。

1051-I

ドライバ監視を終了します。

解説

ドライバ監視を終了しました。

1052-I

ドライバ[ドライバ名, ドライバ表示名]が開始しました。

解説

ドライバ名,ドライバ表示名のドライバが開始されました。

1053-I

ドライバ[ドライバ名, ドライバ表示名]が停止しました。

解説

ドライバ名, ドライバ表示名のドライバが停止しました。

1054-I

ドライバ[ドライバ名, ドライバ表示名]が追加されました。

解説

ドライバ名, ドライバ表示名のドライバが追加されました。

1055-I

ドライバ[ドライバ名, ドライバ表示名]が削除されました。

解説

ドライバ名, ドライバ表示名のドライバが削除されました。

1056-I

現在、監視抑止時間帯です。

解説

スケジュール設定により，現在，監視抑止時間帯のため通知は行いません

1057-I

[監視グループ名] 通知メディア名 に発信しました。

解説

監視グループ名に定義した通知メディア名に発信しました。

1058-E

[監視グループ名] 通知メディア名 への発信に失敗しました。

解説

通知メディア名 に対する発信ができませんでした。

（S）通知メディア名 に対する発信を終了します。

1062-I

［監視グループ名］現在、通知抑止時間帯です。

解説

監視グループ名のグループはスケジュール設定により現在監視抑止時間帯のため発信を抑止しました。

1063-I

［監視グループ名］コマンドを実行しました。実行コマンド[コマンド名]

解説

監視グループ名に定義した**コマンド名**のコマンドを実行しました。

1064-E

［監視グループ名］コマンドの実行に失敗しました。実行コマンド[コマンド名]

解説

監視グループ名に定義した**コマンド名**のコマンドを実行できませんでした。

1069-I

監視を開始するまでn 秒間待機します

解説

TELstaff サービスが開始されましたが，ドライバ監視は，**n** 秒後に開始します。

1070-I

監視を再開します

解説

ドライバ監視を開始するまでの待機時間を経過しましたのでドライバ監視を開始します。

1100-I

○,Service,TELstaff稼動場所,通信ポート番号,説明

解説

TELstaff 稼動場所の TELstaff は，稼動状態になりました。

（S）稼動監視を続けます。

1101-I

×,Service,TELstaff稼動場所,通信ポート番号,説明

解説

TELstaff 稼動場所の TELstaff は，非稼動状態になりました。

（S）稼動監視を続けます。

（U）TELstaff サービスが停止している場合は，TELstaff サービスを開始してください。TELstaff サービスを開始している場合は，ネットワーク通信障害ですのでネットワーク環境を調査してください。

1102-I

△,Service,TELstaff稼動場所,通信ポート番号,説明,内部プロセス終了コード

解説

TELstaff 稼動場所の TELstaff に対して稼動確認を行いましたが，Windows リソースの不足により確認ができません。

（S）稼動監視を続けます。

（U）機器稼動監視設定ダイアログボックスで，監視方法を順次監視にするか，または同時に監視する個数を減らしてください。

1110-I

○,Signal,シリアルポート名,Local,説明
○,Signal,IPアドレス,Converter,説明

解説

シリアルポート名，または**IP アドレス**のパトランプは，稼動状態になりました。

（**S**）稼動監視を続けます。

1111-I

×,Signal,シリアルポート名,Local,説明
×,Signal,IPアドレス,Converter,説明

解説

シリアルポート名，または**IP アドレス**のパトランプは，非稼動状態になりました。

（**S**）稼動監視を続けます。

（**U**）複数の TELstaff から 1 つの機器を監視する場合，機種によりましては接続に失敗し，本メッセージが出力されることがあります。機種の仕様をご確認ください。

IP アドレスで表示されていてパトランプに問題が無い場合は，ネットワーク通信障害ですのでネットワーク環境を調査してください。

その他の非稼動要因は，1151-E メッセージと 1153-E メッセージを参照してください。

1112-I

△,Signal,シリアルポート名,Local,説明
△,Signal,ホスト名,Converter,説明

解説

シリアルポート名，または**ホスト名**のパトランプに対して稼動確認を行いましたが，Windows リソースの不足により確認ができません。または，ホスト名が解決できません。

（**S**）稼動監視を続けます。

（**U**）機器稼動監視設定ダイアログボックスで，監視方法を順次監視にするか，または同時に監視する個数を減らしてください。または，ホスト名が正しいか確認してください。

1120-I

○,MailServer,メールサーバ種別,メールサーバ名,通信時間,説明内容

解説

メールサーバ名のメールサーバは，稼動状態になりました。

挿入項目	説明
メールサーバ種別	SMTP サーバの場合「SMTP」，POP3 サーバの場合「POP3」
メールサーバ名	監視中のメールサーバ名
通信時間	メールサーバとの通信時間（単位：n.mmm 秒）
説明	監視メールサーバの設定ダイアログボックスで指定した説明内容

（**S**）稼動監視を続けます。

1121-I

×,MailServer,メールサーバ種別,メールサーバ名,エラー内容,通信時間,説明内容

解説

メールサーバ名のメールサーバは，非稼動状態になりました。
ダイヤルアップネットワーク接続中のメールサーバの稼動監視では，非稼動状態で記録します。
挿入文字の説明は，1120-I メッセージ参照してください。

エラー内容	説明
SMTP 接続エラー	SMTP サーバに接続できませんでした。

SMTP 認証エラー	SMTP サーバ接続前の POP3 サーバでの認証に失敗しました。
POP3 接続エラー	POP3 サーバに接続できませんでした。
POP3 接続エラー(証明書エラー)	POP3 サーバへの接続時にサーバ証明書の信頼性を確認できませんでした。
POP3 認証エラー	POP3 サーバに指定のアカウント名でログインできませんでした。

（S）稼動監視を続けます。

1130-I

○, Modem, シリアルポート名, モデムの種類, モデムの属性, 電話回線番号

解説

シリアルポート名のトリガフォン，またはモデムは，稼動状態になりました。挿入文字の意味は，1131-I メッセージを参照してください。

（S）稼動監視を続けます

1131-I

×, Modem, シリアルポート名, モデムの種類, モデムの属性, 電話回線番号, エラー種別

解説

シリアルポート名のトリガフォン，またはモデムは，非稼動状態になりました。

挿入項目	挿入文字	説明
モデムの種類	トリガフォン	モデム機器はトリガフォン
	通信	モデム機器は通信モデム
受信・発信の区別	受信	受信専用のモデム機器
	送信	発信専用のモデム機器
	送受信	受信と発信のモデム機器
エラー種別	初期化エラー	サービス起動時のモデム機器の初期化ができません
	入出力エラー	モデム機器への書き込み/読み込みができません
	応答なし	モデム機器から応答がありません
	不当な応答（内容）	モデム機器から（内容）に示す応答が不正です。

（S）稼動監視を続けます

1132-I

△, Modem, シリアルポート名, モデムの種類, モデムの属性, 電話回線番号, モデムなし

解説

シリアルポート名のトリガフォン，またはモデムがありません。

（S）このトリガフォン，またはモデムの稼動監視を無効にして稼動監視を続けます

（U）環境設定ー「電話・回線」タブでトリガフォン，またはモデムを追加するか，またはモデム機器稼動監視の定義からこのトリガフォン，またはモデムを削除して TELstaff サービスを再起動してください。

1150-I

1155-I

[PID] ○, 場所, 動作方法, リレー種別, チャンネル番号, 受け付け番号

解説

RS232C シリアルポートに接続したリレー制御装置は，正常に動作しました。挿入文字の意味を下表に示します。

挿入項目	挿入文字	説明
[PID]	nnnn	プロセス ID
場所	COMx	COM ポート名
動作方法	ON	点灯動作
	OFF	消灯動作
	AutoOff	自動消灯動作
	OnOff	点灯と消灯動作
リレー種別 ※	1	データシックス社製
	2	パトライト社製
	-	標準の種別
チャンネル番号※	n	チャンネル番号
	-	セレクタ装置未使用
受け付け番号	nnnn	teldial コマンド受け付け番号
	-	teldial コマンド以外からのパトランプ点灯

※）RS232C シリアルポートに接続できない場合「-」を表示します。

1151-E

[PID] ×, 場所, 動作方法, リレー種別, チャンネル番号, 受け付け番号

解説

RS232C シリアルポートに接続したリレー制御装置は，動作できませんでした。挿入文字の意味は，1150-I メッセージを参照してください。

（S）リレー制御装置の動作を終了します。

（U）動作できない要因は以下のことが考えられます。

1. リレー制御装置の故障か RS232C ケーブルが正しくない。または RS232C コネクタ接続に緩みがあり通信できない。
2. COM ポート名の RS232C シリアルポートが Windows 環境で使用できない状態（認識されていない状態）にあるか，他のアプリケーションで使用されている。
3. リレー制御装置の電源が入っていない。
4. リレー種別の設定に誤りがある。
5. 動作指示時にパトランプ装置のリセットボタンが押されている。

1152-I

[PID] ○, 場所, 動作方法, リレー種別, チャンネル番号, 受け付け番号

解説

コンバータに接続したリレー制御装置，またはネットワーク対応型パトランプは，正常に動作しました。挿入文字の意味を下表に示します。

挿入項目	挿入文字	説明
[PID]	nnnn	プロセス ID
場所	Host:port	ホスト名：ポート番号
動作方法	ON	点灯動作
	OFF	消灯動作
	AutoOff	自動消灯動作
	OnOff	点灯と消灯動作
リレー種別	1	データシックス社製
	2	パトライト社製
	3	パトライト社製(PHN-3FB)

挿入項目	挿入文字	説明
	-	標準の種別
チャンネル番号	n	チャンネル番号
	-	セレクタ装置未使用
受け付け番号	nnnn	teldial コマンド受け付け番号
	-	teldial コマンド以外からのパトランプ点灯

1153-E

[PID] ×, 場所, 動作方法, リレー種別, チャンネル番号, 受け付け番号

解説

コンバータに接続したリレー制御装置，またはネットワーク対応型パトランプは，動作できませんでした。挿入文字の意味は，1152-I メッセージを参照してください。

（S）リレー制御装置の動作を終了します。

（U）動作できない要因は以下のことが考えられます。

1. リレー制御装置の故障か RS232C ケーブルが正しくない。または RS232C コネクタ接続に緩みがあり通信できない。
2. コンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの設定が正しくないか，ポート番号が誤っている。
3. ネットワーク対応型パトランプの場合，動作モード設定スイッチが 0（運転モード）でない。
4. ホスト名のアドレスは，このネットワーク環境では使用できない（接続できない）。
5. リレー制御装置，コンバータ，またはネットワーク対応型パトランプの電源が入っていない。
6. 同時に複数接続を受けられない機種に対し，複数の TELstaff から同じコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプに対して動作指示している。
7. リレー種別の設定に誤りがある。
8. 動作指示時にパトランプ装置のリセットボタンが押されている。
9. 標準で使用するコンバータ種別の設定に誤りがある。
10. 本製品では，使用できないコンバータを使用している。
11. 一度もパトランプを動作させない場合で，TELstaff ウィンドウのメニューからリレー全接点オフ(O)－コンバータ接続(C)を選択してパトランプの消灯操作を行っている場合。この場合の場所情報は，「defaulthost:65535」で表示されます。

1154-E

[PID] ?, 場所, 動作方法, リレー種別, チャンネル番号, 受け付け番号

解説

本 TELstaff 製品では，場所に示すコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプは使用できません。挿入文字の意味は，1152-I メッセージを参照してください。

（S）リレー制御装置の動作を終了します。

（U）場所に示すコンバータ，またはネットワーク対応型パトランプが使用できる TELstaff 製品を使用してください。

1155-I

[PID] ○, 場所, 動作方法, リレー種別, チャンネル番号, 受け付け番号

解説

1150-I メッセージ参照してください。

1156-I

[PID] ○, 場所, 赤, 黄, 緑, 青, 白, ブザー, 受け付け番号

解説

NH シリーズパトランプは，正常に動作しました。挿入文字の意味を下表に示します。

挿入項目	挿入文字	説明
[PID]	nnnn	プロセス ID
場所	Host:port	ホスト名：ポート番号
赤※	On	点灯動作
	Off	消灯動作
	Blink1	点滅動作 1
	Blink2	点滅動作 2
	-	動作せず
ブザー	Off	停止動作
	1	パターン 1 動作
	2	パターン 2 動作
	3	パターン 3 動作
	4	パターン 4 動作
	-	動作せず
受け付け番号	nnnn	teldial コマンド受け付け番号
	-	teldial コマンド以外からのパトランプ点灯

（※）黄，緑，青，白の挿入文字は，赤と同じです。

1157-E

[PID] ×, 場所, 赤, 黄, 緑, 青, 白, ブザー, 受け付け番号

解説

NH シリーズパトランプは，動作できませんでした。挿入文字の意味は，1156-I メッセージを参照してください。

（S）NH シリーズパトランプの動作を終了します。

（U）動作できない要因は以下のことが考えられます。

1. パトランプの設定が正しくないか，ポート番号が誤っている。
2. ホスト名のアドレスは，このネットワーク環境では使用できない（接続できない）。
3. パトランプの電源が入っていない。
4. 複数の TELstaff から同じパトランプに対して動作指示しており，その同時接続数がパトランプ側の上限数を超えている。
5. 一度もパトランプを動作させない場合で，TELstaff ウィンドウのメニューのリレー全接点オフ(O)－パトランプ（NH シリーズ）を選択，または，スタートメニューの「TELstaff のツール」－「リレー装置の操作」－「パトランプ（NH シリーズ）の動作をクリア」を選択してパトランプの消灯操作・停止操作を行っている場合。この場合の場所情報には，何も表示されません。

1158-I

[PID] ○, 場所, 赤, 黄, 緑, 青, 白, ブザー, 音声ファイル再生方法, 受け付け番号

解説

パトランプ（ISA 社製信号灯）は，正常に動作しました。挿入文字の意味を下表に示します。

挿入項目	挿入文字	説明
[PID]	nnnn	プロセス ID

挿入項目	挿入文字	説明
場所	host	パトランプのホスト名または IP アドレス
赤※	On	点灯動作
	Off	消灯動作
	Blink1	点滅動作 1
	Blink2	点滅動作 2
	-	動作せず
ブザー	Off	停止動作
	1	パターン 1 動作
	2	パターン 2 動作
	3	パターン 3 動作
	4	パターン 4 動作
	-	動作せず
音声ファイル再生方法	#S(xN)	「S」の部分に再生する音声ファイルの番号が，「N」の部分に再生回数が出力されます。なお再生回数の指定がない場合（再生を無限に繰り返す場合）は，「(xN)」の部分は出力されません。
	Stop	音声ファイルの再生を停止した場合に出力されます。
	-	再生状態を変更しない場合に出力されます。
受け付け番号	nnnn	teldial コマンド受け付け番号
	-	teldial コマンド以外からのパトランプ点灯

（※）黄，緑，青，白の挿入文字は，赤と同じです。

1159-E

[PID] ×, 場所, 赤, 黄, 緑, 青, 白, ブザー, 音声ファイル再生方法, 受け付け番号

解説

パトランプ（ISA 社製信号灯）は，動作できませんでした。挿入文字の意味は，1158-I メッセージを参照してください。

（S）パトランプ（ISA 社製信号灯）の動作を終了します。

（U）動作できない要因として，以下のことが考えられます。

1. パトランプの設定が正しくないか，ポート番号が誤っている。
2. ホスト名のアドレスは，このネットワーク環境では使用できない（接続できない）。
3. パトランプの電源が入っていない。
4. 一度もパトランプを動作させない場合で，TELstaff ウィンドウのメニューのリレー全接点オフ(O)－パトランプ（ISA 社製信号灯）を選択，または，スタートメニューの「TELstaff のツール」－「リレー装置の操作」－「パトランプ（ISA 社製信号灯）の動作をクリア」を選択してパトランプの消灯操作・停止操作を行っている場合。この場合の場所情報には，何も表示されません。

1160-I
1162-I

[PID] ○, 場所, チャンネル番号, 動作, メッセージ

解説

メッセージ表示ボードは，正常に動作しました。挿入文字の意味を下表に示します。メッセージの指定が無い場合，メッセージには「表示するメッセージの指定がありません」が表示されます。

挿入項目	挿入文字	説明
[PID]	nnnn	プロセス ID
場所	COMx	COM ポート名
	Host:port	ホスト名：ポート番号
チャンネル番号	n	チャンネル番号
	-	セレクタ装置未使用
動作方法	ON	表示動作
	OFF	消去動作
	AutoOff	表示後自動消去
メッセージ	ﾒｯｾｰｼﾞ	先頭全角 5 文字（半角 10 文字）までの表示メッセージ

1161-E
1163-E

[PID] ×, 場所, チャンネル番号, 動作, メッセージ

解説

メッセージ表示ボードは，動作できませんでした。挿入文字の意味は，1160-I メッセージを参照してください。

（S）メッセージ表示ボードの動作を終了します。

（U）動作できない要因は以下のことが考えられます。

メッセージ表示ボードを RS232C に接続している場合

1. メッセージ表示ボードの故障か RS232C ケーブルがクロスケーブルでない。または RS232C コネクタ接続に緩みがあり通信できない。
2. COM ポート名の RS232C シリアルポートが Windows 環境で使用できない状態（認識されていない状態）にあるか，他アプリケーションで使用されている。

メッセージ表示ボードをコンバータに接続している場合

1. メッセージ表示ボードの故障か RS232C ケーブルがクロスケーブルでない。または RS232C コネクタ接続に緩みがあり通信できない。
2. コンバータの設定が正しく設定されていないか，ポート番号が誤っている。
3. ホスト名は，このネットワーク環境では使用できない（接続できない）。
4. メッセージ表示ボードからの応答を一定時間待っても受信できない。

1180-I

[PID] ○, 通信先アドレス, IPアドレス, ポート番号, 通信時間

解説

通信先アドレス（**IP アドレス**）に示す TELstaff との通信を終了しました。**通信時間**は，この通信の通信時間（ミリ秒）を示します。

1181-E

[PID] ×, 通信先アドレス, IPアドレス, ポート番号, 回線接続失敗, コード, 通信時間
[PID] ×, 通信先アドレス, **, ポート番号, 名前解決失敗, 11001, -**
[PID] ×, 通信先アドレス, IPアドレス, ポート番号, 送受信エラー, TimeOut

解説

通信先アドレス（**IP アドレス**）に示す TELstaff との通信ができませんでした。**通信時間**は，この通信の通信時間（ミリ秒）を示します。

挿入項目	説明
PID	この通信を行ったプロセス ID を示します。
通信先アドレス	通信先アドレスを示します。
IP アドレス	通信先アドレスがホスト名の場合，その IP アドレスを示しま

	す。
ポート番号	この通信で使用したポート番号を示します。
回線接続失敗	通信先アドレスの PC との通信ができませんでした。
コード	「回線接続失敗」の場合，Windows のエラーコードを示します。
通信時間	この通信の通信時間（ミリ秒）を示します。
名前解決失敗,11001	IP アドレスの取得ができませんでした。
送受信ｴﾗｰ,TimeOut	通信先アドレスの PC との切断ができませんでした。

（**S**）通信を終了します。

1250-I

サービス監視を開始します。

解説

サービス監視を開始します。

1251-I

サービス監視を終了します。

解説

サービス監視を停止します。

1252-I

[監視グループ名] 状態, サービス名, サービス表示名

解説

サービス表示名の Windows サービスが**状態**に示す状態になりました。

・監視**グループ名**：サービス監視のグループ名

・**サービス名**：Windows サービス名

・**サービス表示名**：サービスの表示名

状態	状態の説明
開始途中	現在 Windows サービスが開始中状態です。
開始状態	現在 Windows サービスが開始状態です。
開始途中(追加)	Windows サービスが追加され，現在，開始中状態です。
開始状態(追加)	Windows サービスが追加され，現在，開始状態です。
停止途中	現在 Windows サービスが停止中状態です。
停止状態	現在 Windows サービスが停止状態です。
停止途中(追加)	Windows サービスが追加され，現在，停止中状態です。
停止状態(追加)	Windows サービスが追加され，現在，停止状態です。
無効	現在 Windows サービスが無効状態です。
無効(追加)	Windows サービスが追加され，現在，無効状態です。
----	Windows サービスは削除されました。

1254-I

[監視グループ名]｛連絡網|メール|パトランプ|メッセンジャー通知｝に発信しました。

解説

[監視グループ名]の｛**通知場所**｝に示す通知先に発信しました。

1255-E

[監視グループ名]｛連絡網|メール|パトランプ|メッセンジャー通知｝への発信ができませんでした。

解説

[監視グループ名]の｛**通知場所**｝に示す通知先に発信しましたが発信できませんでした。

（S）サービス監視を続けます。

1259-I

[監視グループ名] 現在、監視抑止時間帯です。

解説

[監視グループ名]の監視グループは，スケジュール設定により，現在，監視抑止時間帯のため発信を抑止します。

（S）**[監視グループ名]**のサービス監視について，発信を抑止します。

（U）監視抑止時間帯を変更する場合は，図 4.11-5 サービス監視設定－「全般」タブのスケジュール情報を変更してください。

1260-I

[監視グループ名] コマンドを実行しました。実行コマンド[コマンド]

解説

[監視グループ名]に登録されている**[コマンド]**のコマンドを実行しました。

1268-E

[監視グループ名] 統計情報の出力ができませんでした。

解説

サービス監視の統計情報が出力できませんでした。

（S）このサービス監視に対する統計情報出力を中止してサービス監視を続けます。

（U）サービス監視の統計情報ファイルをアプリケーションで開いている場合は，アプリケーションを終了してください。

1269-I

[監視グループ名] サービス[サービス名, サービス表示名]は現在、監視抑止中です

解説

[サービス名,サービス表示名]のサービスは，現在，監視抑止中のため発信を抑止しました。

（S）サービス監視を続けます。

（U）監視抑止中状態を解除する場合は，図 10.6-3 発信・監視操作－「サービス監視の抑止と再開」タブで解除してください。

1271-I

監視を開始するまでn 秒間待機します

解説

Windows スタートアップで TELstaff サービスが開始されましたが，サービス監視を **n 秒間**抑止します。

（S）**n 秒間**経過後，サービス監視を開始します。

（U）抑止時間が長い，または短い場合は，サービス監視のプロパティダイアログボックスの「Windows 開始時，監視開始までの待機時間」スピンボックスで運用する上で適切な抑止時間を設定してください。

1272-I

監視を再開します

解説

TELstaff サービスを開始してからサービス監視を開始するまでの抑止時間（サービス監視のプロパティダイアログボックスの「Windows 開始時，監視開始までの待機時間」スピンボックスで設定した時間）が経過したためサービス監視を開始します。

（S）サービス監視を開始します。

（U）抑止時間が長い，または短い場合は，サービス監視のプロパティダイアログボックスの「Windows 開始時，監視開始までの待機時間」スピンボックスで運用する上で適切な抑止時間

を設定してください。

1300-I

SNMPトラップ監視を開始します。

解説

SNMP トラップ監視を開始します。

1301-I

SNMPトラップ監視を終了します。

解説

SNMP トラップ監視を停止します。

1302-I

SNMPTRAPサービスを開始しました。

解説

Windows SNMP Trap サービスが停止しているため，TELstaff が Windows SNMP Trap サービスを開始しました。SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックスの「停止検出時，自動開始する」チェックボックスにチェックがあるとき TELstaff が Windows SNMP Trap サービスを開始します。

1303-E

SNMPTRAPサービスが停止中です。

解説

SNMP トラップ監視の開始時に，または SNMP トラップ監視中に Windows SNMP Trap サービスの停止を検出しました。

（S）SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックスの「停止検出時，管理者に通知する」チェックボックスにチェックがある場合，管理者にメール通知します。
SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックスの「停止検出時，自動開始する」チェックボックスにチェックがある場合，Windows SNMP Trap サービスを開始し，チェックが無い場合は，SNMP トラップ監視を終了します。

1304-E

SNMPTRAPサービスを開始できません。

解説

Windows SNMP Trap サービスが停止しているため，TELstaff が Windows SNMP Trap サービスを開始しようとしましたが，開始できませんでした。SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックスの「停止検出時，自動開始する」チェックボックスにチェックがあるとき出力します。

（S）SNMP トラップ監視を終了します。

（U）Windows SNMP Trap サービスの状態が無効になっている場合は，「手動」または「自動」に変更して TELstaff サービスを再起動してください。

1305-E

SNMPTRAPサービス状態を取得できません。

解説

TELstaff が Windows SNMP Trap サービスを開始しようとしましたが，Windows SNMP Trap サービスの状態の取得ができませんでした。

（S）SNMP トラップ監視を終了します。

1306-I

TRAP受信しました。[enterpriseID][agentAddress][sourceAddress][genericTrap]
TRAP受信しました。[enterpriseID][agentAddress][sourceAddress][specificTrap]

解説

トラップを受信しました。トラップ情報がない場合，[-]で表示します。

1307-I

[監視グループ名]｛連絡網|メール|パトランプ|メッセンジャー通知｝に発信しました。

解説

[監視グループ名]の｛**通知場所**｝に示す通知先に発信しました。

1308-E

[監視グループ名]｛連絡網|メール|パトランプ|メッセンジャー通知｝への発信ができませんでした。

解説

[監視グループ名]の｛**通知場所**｝に示す通知先に発信しましたが発信できませんでした。

（**S**）SNMP トラップ監視を続けます。

1309-I

[監視グループ名] コマンドを実行しました。実行コマンド[コマンド]

解説

[監視グループ名]に登録されている**[コマンド]**のコマンドを実行しました。

1311-I

[監視グループ名] 現在、監視抑止時間帯です。

解説

[監視グループ名]の監視グループは，スケジュール設定により，現在，監視抑止時間帯のため発信を抑止します。

（**S**）SNMP トラップ監視について，発信を抑止します。

（**U**）監視抑止時間帯を変更する場合は，図 4.12-5 SNMP トラップ監視設定－「全般」タブのスケジュール情報，または図 4.14-2 SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックスのスケジュール情報を変更してください。

1313-E

[監視グループ名] 統計情報の出力ができませんでした。

解説

SNMP トラップ監視の統計情報が出力できませんでした。

（**S**）このトラップに対する統計情報出力を中止して SNMP トラップ監視を続けます。

（**U**）SNMP トラップ監視の統計情報ファイルをアプリケーションで開いている場合は，アプリケーションを終了してください。

1314-E

SNMPトラップ監視を終了させます。

解説

SNMP トラップ監視の開始時に，または SNMP トラップ監視中に Windows SNMP Trap サービスの停止を検出したため SNMP トラップ監視を停止します。

（**S**）SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックスの「停止検出時，自動開始する」チェックボックスにチェックがある場合，Windows SNMP Trap サービスを開始し，チェックが無い場合は，SNMP トラップ監視を終了します。

1315-I

SNMPTRAPサービス停止を管理者にメールしました。

解説

Windows SNMP Trap サービス停止を検出したので，管理者にメール通知しました。

1316-E

SNMPTRAPサービス停止を管理者にメールできませんでした。

解説

Windows SNMP Trap サービス停止を検出したので，管理者にメール通知しましたが，メール通知ができませんでした。

（S）メール送信を終了します。

（U）SMTP メールサーバが正しいか確認してください。または，
SMTP サーバへの接続を監視するアプリケーションなどで，SMTP サーバへの接続を遮断する設定が行われている場合，メール送信はできません。このような場合，「1.4.8(1)メール送信について」に示す TELstaff プロセスに対して SMTP サーバ接続を許可にしてください。

1317-I

SNMPTRAPサービスを開始しています。

解説

Windows SNMP Trap サービスが停止しているため，TELstaff が Windows SNMP Trap サービスを開始しています。SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックスの「停止検出時，自動開始する」チェックボックスにチェックがあるとき TELstaff が Windows SNMP Trap サービスを開始します。

1400-I

ディスク容量監視を開始します。

解説

ディスク容量監視を開始します。

1401-I

ディスク容量監視を終了します。

解説

ディスク容量監視を終了します。

1402-I

[監視グループ名] *監視ディスク*ドライブで監視値名(検出値 監視単位)の検出内容。

解説

監視ディスクのディスク容量値が，監視値に到達または監視値以前に戻りました。

挿入項目	説明
監視グループ名	監視グループの名称
監視ディスク	監視ディスクのドライブ名
監視値名	「しきい値」「レベル 3」「レベル 2」「レベル 1」のいずれか
検出値	検出したディスク容量値（%，MB，kB）
監視単位	監視単位「%」「MB」「kB」のいずれかを示す
検出内容	「監視値に到達しました」「監視値以前に戻りました」のいずれか

1403-I

[監視グループ名] 通知メディア名に発信しました。

解説

監視グループ名に定義した通知メディア名（「連絡網」，「メール」，「パトランプ」，

「Messenger サービス」）に発信しました。

1404-E

[監視グループ名] 通知メディア名への発信ができませんでした。

解説

監視グループ名に定義した通知メディア名に対する発信ができませんでした。

1405-I

[監視グループ名] コマンドを実行しました。実行コマンド[コマンド名]

解説

監視グループ名に定義したコマンド名のコマンドを実行しました。

1407-I

[監視グループ名] 現在、監視抑止時間帯です。

解説

スケジュール設定により，現在，監視抑止時間帯のため通知は行いません。

1408-E

[監視グループ名] 統計情報の出力ができませんでした。

解説

ディスク容量監視の統計情報が出力できませんでした。

（S）このディスク容量監視に対する統計情報出力を中止してディスク容量監視を続けます。

（U）ディスク容量監視の統計情報ファイルをアプリケーションで開いている場合は，アプリケーションを終了してください。

1410-I

[監視グループ名] 現在、監視抑止中です。

解説

監視グループ名のグループは現在監視抑止中のため通知は行いません。

1411-E

[監視グループ名] 監視ディスクドライブはネットワークドライブのため監視を中断します。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクがネットワークドライブに変更されたため，**[監視グループ名]**の監視を中断します。

1412-E

[監視グループ名] 監視ディスクドライブは取り外し可能なドライブのため監視を中断します。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクが取り外し可能なドライブに変更されたため，**[監視グループ名]**の監視を中断します。

1413-E

[監視グループ名] 監視ディスクドライブはCD-ROMドライブのため監視を中断します。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクが CD-ROM ドライブに変更されたため，**[監視グループ名]**の監視を中断します。

1414-E

[監視グループ名] 監視ディスクドライブの種類を判別できませんでしたので監視を中断します。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクのドライブの種類を判別できませんでしたので，**[監視グル**

ープ名]の監視を中断します。

1415-E

[監視グループ名] 監視ディスクドライブは存在しませんので監視を中断します。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクが削除されたため，[監視グループ名]の監視を中断します。

1416-E

[監視グループ名] 監視ディスクドライブのドライブ情報が取得できませんでしたので監視を中断します。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクのドライブ情報を取得できませんでしたので，[監視グループ名]の監視を中断します。

1417-E

[監視グループ名] 監視ディスクドライブのディスク容量情報が取得できませんでしたので監視を中断します。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクのディスク容量情報を取得できませんでしたので，[監視グループ名]の監視を中断します。

1418-E

[監視グループ名] 監視ディスクドライブの総容量が変更されているため監視を中断します。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクの総容量が変更されたため，[監視グループ名]の監視を中断します。

1419-E

[監視グループ名] 監視ディスクドライブがシステムドライブに変更されたため監視を中断します。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクがシステムドライブに変更されたため，[監視グループ名]の監視を中断します。

1420-I

[監視グループ名] 監視ディスクドライブのファイルシステムが[前回監視時のファイルシステム]から[今回監視時のファイルシステム]に変更されました。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクのファイルシステムが変更されました。

1421-I

[監視グループ名] 監視ディスクドライブのラベル名が[前回監視時のラベル名]から[今回監視時のラベル名]に変更されました。

解説

ディスク容量監視中に，監視ディスクのラベル名が変更されました。

1422-I

[監視グループ名] 監視ディスクドライブの監視を再開します。

解説

中断されたディスク容量監視を再開します。

1500-I

送信者情報 のメール開封を返信により確認しました。開封者[開封者情報] 受付番号[受付番号] メール識別番号[メール識別番号] 送信日時[メール送信日時] 件名[メール件名]

解説

メール開封確認を行うメール発信に対してメールの返信でメールの開封確認が行われました。

1502-E

メールの取り出しに失敗しました。メールサーバ[メールサーバ名] アカウント[アカウント名] 詳細[理由]

解説

メールサーバから開封確認の返信メールを次の理由により受信できませんでした。

1. メール受信失敗：メールの受信に失敗。
2. メールサーバ接続失敗：メールサーバへの接続に失敗。
3. メールサーバ接続失敗(証明書エラー)： メールサーバへの接続時にサーバ証明書の信頼性を確認できなかった。
4. ログイン失敗：メールアカウントのログインに失敗。
5. メールボックスの状態取得失敗：メールボックスの状態取得に失敗。
6. 受信メール一覧取得失敗：受信メール一覧の取得に失敗。

（S）次回の周期で再度返信メールを受信します。

1503-E

メールサーバから配送エラーが報告されました。ユーザ[送信者情報] 配送エラー[エラーとなったメールアドレス] 受付番号[受付番号] メール識別番号[メール識別番号] 送信日時[メール送信日時] 件名[メール件名]

解説

メール開封確認を行うメール発信を行いましたが，SMTP メールサーバから配送エラーメールを受信しました。

（S）開封通知受信監視の設定ダイアログボックスで自動再送の設定がある場合は，メール再送回数まで再送を行います。

1504-E

メールサーバから配送エラーが報告されました。配送エラー[エラーとなったメールアドレス] 件名[メール件名]

解説

メール開封確認を行うメール発信以外のメールで，SMTP メールサーバから配送エラーメールを受信しました。

（S）開封通知受信監視の設定ダイアログボックスで「全てのエラーメールを再送」ラジオボタンに選択がある場合，メール再送回数まで再送を行います。

1505-I

配送エラーとなったメールアドレス にメールを再送しました。

解説

配送エラーになったメールを再送しました。

1800-I

メール監視を開始します。

解説

メール監視を開始します。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1801-I

メール監視を終了します。

解説

メール監視を終了します。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1802-I

<メール監視通知の通し番号>[フィルタリング名] メールを受信しました。通知を開始します。

解説

監視対象のメールを受信しました。メール受信通知を開始します。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1803-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名] 受信メール情報：標題[*標題*]，差出人[*差出人*]

解説

受信メール情報に示す監視対象のメールを受信しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1805-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名] メール監視の通知抑止時間帯です。

解説

[監視グループ名]の監視グループは，スケジュール設定により，現在，監視抑止時間帯のため発信を抑止します。

（S）メール受信通知を抑止します。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1806-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名] メール監視の通知が完了しました。

解説

監視対象のメールに対するメール受信通知が終了しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1807-E

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名] メール監視の通知が失敗しました。

解説

監視対象のメールに対するメール受信通知ができませんでした。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1808-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名] 該当するフィルタリング条件が見つかりました。フィルタリング[フィルタリング名]

解説

フィルタリング条件に一致する監視対象のメールを検出しました。

（S）この受信メールの受信通知を開始します。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1809-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名] 該当するフィルタリング条件は見つかりません。

解説

監視対象のメールを検出しましたが登録されたフィルタリング条件のうち一つも一致するものが無い，またはフィルタリング条件が一つも登録されていません。

（S）メール監視ー「フィルタリング」タブ（図 8.3-3）の［条件に該当しないメールの通知方法を設定］ボタンで設定した受信通知方法で受信通知を開始します。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1810-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] {連絡網|メール|パトランプ|メッセンジャー通知} に発信しました。

解説

[監視グループ名]の {通知場所} に示す通知先に発信しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1811-E

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] {連絡網|メール|パトランプ|メッセンジャー通知} への発信ができませんでした。

解説

[監視グループ名]の {通知場所} に示す通知先に発信しましたが発信できませんでした。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1812-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] メールを返信しました。

解説

監視対象のメールに対して返信しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1813-E

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] メールを返信できませんでした。

解説

監視対象のメールに対する返信ができませんでした。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1814-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] メール返信抑止時間帯です。

解説

スケジュール設定により，現在，監視抑止時間帯のため返信メールを抑止します。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1815-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] メールを転送しました。

解説

監視対象のメールに対して転送しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1816-E

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] メールを転送できませんでした。

解説

監視対象のメールに対する転送ができませんでした。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1817-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] メール転送抑止時間帯です。

解説

スケジュール設定により，現在，監視抑止時間帯のためメール転送を抑止します。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1818-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] メールを読み上げました。

解説

監視対象のメールの読み上げを行いました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1819-E

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] メールの読み上げができませんでした。

解説

監視対象のメールの読み上げができませんでした。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1820-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] サウンドを再生しました。

解説

監視対象のメールに対して WAV 再生を行いました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1821-E

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] サウンドの再生ができませんでした。

解説

監視対象のメールに対する WAV 再生ができませんでした。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1822-I

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] コマンドを実行しました。実行コマンド[コマンド]

解説

[監視グループ名]に登録されている**[コマンド]**のコマンドを実行しました。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1823-E

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] コマンドを実行できませんでした。実行コマンド[コマンド]

解説

[監視グループ名]に登録されている**[コマンド]**のコマンドの実行ができませんでした。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1824-E

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名] 受信メールはパスワードが不一致です。標題[*標題*]，差出人[*差出人*]

解説

メール監視のプロパティダイアログボックス（図 8.2-1）で設定した受信パスワードと一致しないか，またはメール本文内に受信パスワードの指定がありません。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1829-E

メール監視を開始できません。

解説

他のアプリケーションで通信ポート 25 が使用中のためメール監視を開始できません。

出力するメッセージは「メッセージ ID： メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1830-W

<メール監視通知の通し番号>[監視グループ名][フィルタリング名] 自マシンがメールサーバに設定されているため、メールの中継を行いません。

解説

環境設定－「E メール」タブで SMTP メールサーバアドレスをこの PC のアドレスに設定されているためメールの中継ができません。

（S）メールの中継を抑止します。

（U）環境設定－「E メール」タブでこの PC のアドレスを使用した SMTP メールサーバを削除し，TELstaff サービスを再起動してください。

出力するメッセージは「メッセージ ID：メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1831-I

[*監視グループ名*] 抑止時間帯に入ったことを検出しました。以後は監視を行いません。

解説

メール監視（POP3 監視）の，**監視グループ名**の監視抑止時間帯に入ったことを TELstaff が検出しました。以後は抑止時間帯から抜けるまで監視動作を行いません。

出力するメッセージは「メッセージ ID：メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1832-I

[*監視グループ名*] 抑止時間帯でなくなったことを検出しました。監視を再開します。

解説

メール監視（POP3 監視）の，**監視グループ名**の監視抑止時間帯が終了したことを TELstaff が検出しました。以後は通常通り監視動作を行います。

出力するメッセージは「メッセージ ID：メッセージテキスト」の形式で出力されます。

1833-W

[*監視グループ名*] メール監視に失敗しました。

解説

メール監視（POP3 監視）の，**監視グループ名**の監視動作（メールサーバへの接続，新しく受信したメールの有無確認，新しく受信したメールの内容確認など）にてエラーが発生しました。次回の監視契機に，改めて監視動作を行います。

出力するメッセージは「メッセージ ID：メッセージテキスト」の形式で出力されます。

2000以上3000未満のメッセージID

2100-I

稼動状況監視を開始します。

解説

稼動状況監視を開始します。

2101-I

稼動状況監視を停止します。

解説

稼動状況監視を終了します。

2102-E

稼動状況監視で異常が発生しました。

解説

稼動状況監視中に Windows から予期しないエラー報告があったためサービスを終了させました。

（S）TELstaff サービスを終了させます。

2103-I

[監視グループ名] 監視対象名の状態(検出内容)を検出しました。

解説

監視対象名が検出内容に示す状態になりました。

挿入項目	説明
検出内容	「稼動」「非稼動」のいずれか

2104-I

[監視グループ名] 監視対象名でCPU使用率(使用率%)が検出内容

解説

監視対象名の CPU 使用率が検出内容になりました。

挿入項目	説明
CPU 使用率	現在の CPU 使用率
検出内容	「監視値に到達しました」「監視値以前に戻りました」 のいずれか

2105-W

[監視グループ名] 監視対象名のCPU使用率が取得できませんでした。

解説

監視対象名の CPU 使用率を取得できませんでした。監視対象のコンピュータで SNMP サービスが有効になっていない場合は SNMP サービスを開始させてください。

2106-W

[監視グループ名] 監視対象名の状態を取得できませんでした。

解説

監視対象名の状態を取得できませんでした。

2107-I

[監視グループ名] 監視対象名を電源制御方法しました。

解説

電源制御を行いました。

挿入項目	説明
電源制御方法	「シャットダウン」「再起動」「起動」のいずれか

2108-E

[監視グループ名] 監視対象名を電源制御方法できませんでした。

解説

電源制御ができませんでした。電源制御方法は 2107-I と同じです。

2109-I

[監視グループ名] 監視対象名の他の監視状態が全て非稼動となり監視条件を満たしました。

解説

監視条件が「他が全て非稼動のとき」の監視条件が満たされました。

2110-I

[監視グループ名] 現在、監視抑止中です。

解説

監視グループ名は抑止中のため，発信，電源制御を抑止しました。

2111-I

[監視グループ名] 現在、監視抑止時間帯です。

解説

監視グループ名は抑止時間帯のため，発信，電源制御を抑止しました。

2112-I

[監視グループ名] 通知メディアに発信しました。監視対象名称[監視対象名]

解説

監視グループ名に定義した通知メディア名（「連絡網」，「メール」，「パトランプ」，「メッセンジャー」）に発信しました。

2113-E

[監視グループ名] 通知メディアへの発信ができませんでした。監視対象名称[監視対象名]

解説

監視グループ名に定義した通知メディア名（「連絡網」，「メール」，「パトランプ」，「メッセンジャー」）に対する発信ができませんでした。

2114-I

[監視グループ名] コマンドを実行しました。実行コマンド[コマンド名]

解説

監視グループ名に定義したコマンド名のコマンドを実行しました。

2115-E

[監視グループ名] コマンドを実行できませんでした。実行コマンド[コマンド名]

解説

監視グループ名に定義したコマンド名のコマンドを実行できませんでした。

2116-I

[監視グループ名] 稼動状況統計情報をメールに発信しました。

解説

稼動状況統計情報を監視グループに定義したメールに発信しました。

2117-E

[監視グループ名] 稼動状況統計情報をメールへの発信ができませんでした。

解説

稼動状況統計情報を監視グループに定義したメールへ発信できませんでした。

2118-E

[監視グループ名] 稼動状況統計記録の出力ができませんでした。

解説

稼動状況統計情報の出力ができませんでした。

2119-I

[監視グループ名] 監視対象名はすでに検出内容状態のため電源制御を行ないませんでした。

解説

監視対象名の状態がすでに稼動あるいは非稼動状態であるため，電源制御を行いませんでした。

挿入項目	説明
検出内容	「稼動」「非稼動」のいずれか

2120-I

[監視グループ名] 監視対象名のCPU使用率は使用率%です。

解説

監視対象名の CPU 使用率は使用率%でした。

2121-W

[監視グループ名] 監視対象名のMACアドレスが指定されていないため、コンピュータを起動しませんでした。

解説

監視対象名の MAC アドレスが指定されていないため，コンピュータの起動を行いませんでした。
コンピュータの起動を行う場合は MAC アドレスの指定が必要です。

2122-I

[監視グループ名] 監視対象名でメモリ使用率(使用率%)が検出内容。

解説

監視対象名のメモリ使用率が検出内容になりました。

挿入項目	説明
監視グループ名	監視条件を満たした監視対象が属する監視グループの名称
監視対象名	監視条件を満たした監視対象の名称
メモリ使用率	「物理メモリ使用率」「仮想メモリ使用率」のいずれか
使用率	検出された監視対象のメモリ使用率
検出内容	「監視値に到達しました」「監視値以前に戻りました」 のいずれか

2123-W

[監視グループ名] 監視対象名のメモリ使用率が取得できませんでした。

解説

監視対象名のメモリ使用率が取得できませんでした。

挿入項目	説明
監視グループ名	監視条件を満たした監視対象が属する監視グループの名称
監視対象名	監視条件を満たした監視対象の名称
メモリ使用率	「物理メモリ使用率」「仮想メモリ使用率」のいずれか

2124-I

[監視グループ名] 監視対象名のメモリ使用率は使用率%です。

解説

監視対象名のメモリ使用率は使用率%でした。

挿入項目	説明
監視グループ名	監視条件を満たした監視対象が属する監視グループの名称
監視対象名	監視条件を満たした監視対象の名称
メモリ使用率	「物理メモリ使用率」「仮想メモリ使用率」のいずれか
使用率	検出された監視対象のメモリ使用率

2125-I

[監視グループ名] 監視対象名でドライブ名のディスク使用率(使用率%)が検出内容。

解説

監視対象名のディスク使用率が検出内容になりました。

挿入項目	説明
監視グループ名	監視条件を満たした監視対象が属する監視グループの名称
監視対象名	監視条件を満たした監視対象の名称
ドライブ名	監視対象のドライブ名
ディスク使用率 使用率	現在のディスク使用率
検出内容	「監視値に到達しました」「監視値以前に戻りました」 のいずれか

2126-W

[監視グループ名] 監視対象名のドライブ名のディスク使用率が取得できませんでした。

解説

監視対象名のディスク使用率が取得できませんでした。

挿入項目	説明
監視グループ名	監視条件を満たした監視対象が属する監視グループの名称
監視対象名	監視条件を満たした監視対象の名称
ドライブ名	監視対象のドライブ名
ディスク使用率	現在のディスク使用率

2127-I

[監視グループ名] 監視対象名のドライブ名 ドライブのディスク使用率は使用率%です。

解説

監視対象名のディスク使用率は使用率%でした。

挿入項目	説明
監視グループ名	監視条件を満たした監視対象が属する監視グループの名称
監視対象名	監視条件を満たした監視対象の名称
ドライブ名	監視対象のドライブ名
ディスク使用率 使用率	現在のディスク使用率

3000以上のメッセージID

3000-I

[*識別番号*] ユーザ情報のインポートを開始します。コマンド引数=[*指定したコマンドライン引数*]

解説

ユーザインポートコマンドを開始しました。**識別番号**にはこのメッセージと共に開始されたインポート処理を特定する数字が出力され，同じ処理について以後出力されるメッセージにも同じ数字が識別番号として出力されます。

3001-I

[*識別番号*] ユーザ情報のインポートに成功しました。

解説

識別番号のインポート処理が成功し，コマンドで指定されたファイルの情報が TELstaff にインポートされました。

3002-E

[*識別番号*] ユーザ情報のインポートを中止しました。*理由*

解説

実行可能な条件を満たさない，または指定されたインポート情報を適用すると問題が発生するため**識別番号**のインポート処理を中止しました。インポートを中止した理由は**理由**部分に表示されます。

（S）インポート処理は開始する前に中止されます。

（U）理由の内容について，インポート対象に指定したファイルの内容を確認してください。

3003-E

[*識別番号*] ユーザ情報のインポートに失敗しました。

解説

識別番号のインポート処理中にエラーが発生し，インポートが失敗しました。

（S）インポート処理はエラーが発生した時点で中止されます。

3004-I

[*識別番号*] 連絡網情報のインポートを開始します。コマンド引数=[*指定したコマンドライン引数*]

解説

連絡網インポートコマンドを開始しました。**識別番号**にはこのメッセージと共に開始されたインポート処理を特定する数字が出力され，同じ処理について以後出力されるメッセージにも同じ数字が識別番号として出力されます。

3005-I

[*識別番号*] 連絡網情報のインポートに成功しました。

解説

識別番号のインポート処理が成功し，コマンドで指定されたファイルの情報が TELstaff にインポートされました。

3006-E

[*識別番号*] 連絡網情報のインポートを中止しました。*理由*

解説

実行可能な条件を満たさない，または指定されたインポート情報を適用すると問題が発生するため**識別番号**のインポート処理を中止しました。インポートを中止した理由は**理由**部分に表示されます。

（S）インポート処理は開始する前に中止されます。

（U）**理由**の内容について，インポート対象に指定したファイルの内容を確認してください。

3007-E

[*識別番号*] 連絡網情報のインポートに失敗しました。

解説

識別番号のインポート処理中にエラーが発生し，インポートが失敗しました。

（S）インポート処理はエラーが発生した時点で中止されます。

3008-I

[*識別番号*] ユーザ情報のエクスポートを開始します。コマンド引数=[*指定したコマンドライン引数*]

解説

ユーザエクスポートコマンドを開始しました。**識別番号**にはこのメッセージと共に開始されたエクスポート処理を特定する数字が出力され，同じ処理について以後出力されるメッセージにも同じ数字が識別番号として出力されます。

3009-I

[*識別番号*] ユーザ情報のエクスポートに成功しました。

解説

識別番号のエクスポート処理が成功し，コマンドで指定されたユーザの情報が CSV ファイルにエクスポートされました。

3010-E

[*識別番号*] ユーザ情報のエクスポートを中止しました。*理由*

解説

実行可能な条件を満たさない，または指定されたエクスポート出力先ファイルが存在するため**識別番号**のエクスポート処理を中止しました。エクスポートを中止した理由は**理由**部分に表示されます。

（S）エクスポート処理は開始する前に中止されます。

（U）**理由**の内容について，エクスポートコマンドに指定したユーザ名や出力先ファイルの存在などを確認してください。

3011-E

[*識別番号*] ユーザ情報のエクスポートに失敗しました。

解説

識別番号のエクスポート処理中にエラーが発生し，エクスポートが失敗しました。

（S）エクスポート処理はエラーが発生した時点で中止されます。

3012-I

[*識別番号*] 連絡網情報のエクスポートを開始します。コマンド引数=[*指定したコマンドライン引数*]

解説

連絡網エクスポートコマンドを開始しました。**識別番号**にはこのメッセージと共に開始されたエクスポート処理を特定する数字が出力され，同じ処理について以後出力されるメッセージにも同じ数字が識別番号として出力されます。

3013-I

[*識別番号*] 連絡網情報のエクスポートに成功しました。

解説

識別番号のエクスポート処理が成功し，コマンドで指定された連絡網の情報がテキストファイルにエクスポートされました。

3014-E

[*識別番号*] 連絡網情報のエクスポートを中止しました。*理由*

解説

実行可能な条件を満たさない，または指定されたエクスポート出力先ファイルが存在するため**識別番号**のエクスポート処理を中止しました。エクスポートを中止した理由は**理由**部分に表示されます。

（S）エクスポート処理は開始する前に中止されます。

（U）**理由**の内容について，エクスポートコマンドに指定した連絡網や出力先ファイルの存在などを確認してください。

3015-E

[*識別番号*] 連絡網情報のエクスポートに失敗しました。

解説

識別番号のエクスポート処理中にエラーが発生し，エクスポートが失敗しました。

（S）エクスポート処理はエラーが発生した時点で中止されます。

3016-I

[*識別番号*] ユーザ情報の削除を開始します。コマンド引数=[*指定したコマンドライン引数*]

解説

ユーザ削除コマンドを開始しました。**識別番号**にはこのメッセージと共に開始された削除処理を特定する数字が出力され，同じ処理について以後出力されるメッセージにも同じ数字が識別番号として出力されます。

3017-I

[*識別番号*] ユーザ情報の削除に成功しました。

解説

識別番号の削除処理が成功し，コマンドで指定されたユーザの情報が TELstaff から削除されました。

3018-E

[*識別番号*] ユーザ情報の削除を中止しました。*理由*

解説

実行可能な条件を満たさないため**識別番号**の削除処理を中止しました。削除を中止した理由は**理由**部分に表示されます。

（S）削除処理は開始する前に中止されます。
（U）**理由**の内容について，コマンドライン引数とユーザ定義を確認してください。

3019-E
[*識別番号*] ユーザ情報の削除に失敗しました。

解説
識別番号の削除処理中にエラーが発生し，削除が失敗しました。
（S）削除処理はエラーが発生した時点で中止されます。

3030-I
ユーザ *ユーザ名* の情報を追加しました。

解説
ユーザ「**ユーザ名**」の定義情報を追加しました。このメッセージ ID はユーザインポートコマンドが新しいユーザの定義情報を追加した際に出力します。

3031-I
ユーザ *ユーザ名* の情報を削除しました。

解説
ユーザ「**ユーザ名**」の定義情報を削除しました。このメッセージ ID はユーザ削除コマンドがユーザの定義情報を削除した際に出力します。

3032-I
ユーザ *ユーザ名* の情報を更新しました。

解説
ユーザ「**ユーザ名**」の定義情報を更新しました。このメッセージ ID は定義済みユーザの情報をユーザインポートコマンドで更新した際に出力します。

3033-I
ユーザ *ユーザ名* の情報をエクスポートしました。

解説
ユーザ「**ユーザ名**」の定義情報をエクスポートしました。このメッセージ ID はユーザエクスポートコマンドが出力します。

3034-I
ユーザグループ *ユーザグループ名* の情報を追加しました。

解説
ユーザグループ「**ユーザグループ名**」の定義情報を追加しました。このメッセージ ID はユーザインポートコマンドが新しいユーザグループの定義情報を追加した際に出力します。

3035-I
ユーザグループ *ユーザグループ名* の情報を削除しました。

解説
ユーザグループ「**ユーザグループ名**」の定義情報を削除しました。このメッセージ ID はユーザ削除コマンドがユーザグループの定義情報を削除した際に出力します。

3037-I
ユーザグループ *ユーザグループ名* の情報をエクスポートしました。

解説
ユーザグループ「**ユーザグループ名**」の定義情報をエクスポートしました。このメッセージ ID はユーザエクスポートコマンドが出力します。

3038-I

連絡網 *連絡網グループID/連絡網ID* の情報を追加しました。

解説

連絡網「**連絡網グループ ID/連絡網 ID**」の定義を追加しました。このメッセージ ID は連絡網インポートコマンドが出力します。

3039-I

連絡網 *連絡網グループID/連絡網ID* の情報を削除しました。

解説

連絡網「**連絡網グループ ID/連絡網 ID**」の定義を削除しました。このメッセージ ID は連絡網インポートコマンドまたは連絡網削除コマンドが出力します。

3040-I

連絡網 *連絡網グループID/連絡網ID* の情報を更新しました。

解説

連絡網「**連絡網グループ ID/連絡網 ID**」の情報を更新しました。このメッセージ ID は連絡網インポートコマンドが出力します。

3041-I

連絡網 *連絡網グループID/連絡網ID* の定義を出力しました。

解説

連絡網「**連絡網グループ ID/連絡網 ID**」の定義をエクスポートしました。このメッセージ ID は連絡網エクスポートコマンドが出力します。

3042-I

連絡網グループ *連絡網グループID* の情報を追加しました。

解説

連絡網グループ「**連絡網グループ ID**」の連絡網グループを追加しました。このメッセージ ID は連絡網インポートコマンドが出力します。

3043-I

連絡網グループ *連絡網グループID* の情報を削除しました。

解説

連絡網グループ「**連絡網グループ ID**」の連絡網グループを削除しました。このメッセージ ID は連絡網インポートコマンドが出力します。

3044-I

連絡網グループ *連絡網グループID* の情報を更新しました。

解説

連絡網グループ「**連絡網グループ ID**」の連絡網グループを更新しました。このメッセージ ID は連絡網インポートコマンドが出力します。

3045-I

連絡網グループ *連絡網グループID* の定義を出力しました。

解説

連絡網グループ「**連絡網グループ ID**」の定義をエクスポートしました。このメッセージ ID は連絡網エクスポートコマンドが出力します。

3050-I

○, 対象ホスト, ログインユーザ名, 操作, 終了を待つかどうか, カウントダウン秒数, シャットダウン理由コード

解説

Windows PC のシャットダウン・再起動に成功しました。

挿入項目	説明
対象ホスト	シャットダウンまたは再起動しようとしたホストの名前
ログインユーザ名	指定したログインユーザ名
操作	「シャットダウン」または「再起動」
終了を待つかどうか	アプリケーションを強制終了させてシャットダウンまたは再起動する場合は「強制」，さもなければ「待機」
カウントダウン秒数	シャットダウンが実行に移されるまでのカウントダウン時間
シャットダウン理由コード	シャットダウンの理由として制御対象 OS に記録されるコード

3051-E

×, 対象ホスト, ログインユーザ名, 操作, 終了待つか, カウントダウン秒数, シャットダウン理由コード, 失敗した理由

解説

Windows PC のシャットダウン・再起動に失敗しました。

挿入項目	説明
対象ホスト	シャットダウンまたは再起動しようとしたホストの名前
ログインユーザ名	指定したログインユーザ名
操作	「シャットダウン」または「再起動」
終了を待つかどうか	アプリケーションを強制終了させてシャットダウンまたは再起動する場合は「強制」，さもなければ「待機」
カウントダウン秒数	シャットダウンが実行に移されるまでのカウントダウン時間
シャットダウン理由コード	シャットダウンの理由として制御対象 OS に記録されるコード
失敗した理由	失敗原因となったエラー内容を説明する文章

3052-E

×, 失敗した理由

解説

引数が不正である場合やリストファイルが開けない場合など，シャットダウンまたは再起動を行う前にエラーが発生しました。エラーの内容は 失敗した理由部分に挿入されます。

挿入項目	説明
失敗した理由	失敗原因となったエラー内容を説明する文章

3053-I

○, 対象ホスト, ログオンユーザ名, キャンセル

解説

Windows PC のシャットダウンまたは再起動のキャンセルに成功しました。

挿入項目	説明
対象ホスト	シャットダウンまたは再起動のキャンセル対象名
ログインユーザ名	指定したログインユーザ名

3054-E

×, 対象ホスト, ログオンユーザ名, キャンセル, 失敗した理由

解説

Windows PC のシャットダウンまたは再起動をキャンセルに失敗しました。

挿入項目	説明
対象ホスト	シャットダウンまたは再起動のキャンセル対象名
ログインユーザ名	指定したログインユーザ名
失敗した理由	失敗原因となったエラー内容を説明する文章

3150-I

○, 成功, *Toでの送信先, Ccでの送信先, メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を正常に依頼しました。

挿入項目	説明
To での送信先	To ヘッダで指定した送信先メールアドレス （複数の宛先がある場合は半角プラス(+)でつなぎ，並べて表示します。）
Cc での送信先	Cc ヘッダで指定した送信先メールアドレス （複数の宛先がある場合は半角プラス(+)でつなぎ，並べて表示します。）
メールの件名	送信したメールの件名

3151-E

×, 一般エラー, *Toでの送信先, Ccでの送信先, メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際にエラーが発生しました。

TELstaff は，**エラー原因の判別に成功した場合**は 3152-E 以降のメッセージを表示し，詳細なエラー原因を特定できなかった場合に本メッセージを表示します。ただし，メール送信処理においては技術的に原因を判定できないケースが存在します（例：POP before SMTP による認証を前提にした SMTP サーバに POP 認証を経ずにアクセスした場合にエラーコードが何になるかは厳密な仕様定義が無い）。したがって本メッセージが表示されなかったとしても「他のメッセージで示される原因によるエラーではない」とは断定できませんのでご注意ください。

メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。

3152-E

×, 通信エラー, *Toでの送信先, Ccでの送信先, メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際，通信エラーが発生しました。ネットワーク接続が突然切断された等の事象が考えられます。

メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。

3160-E

×, SMTPサーバの名前解決失敗, *Toでの送信先, Ccでの送信先, メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際，SMTP サーバのホスト名を名前解決できず送信失敗しました。

メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。

（U）SMTP サーバのホスト名を確認してください。

3161-E

×, SMTPサーバへの接続がタイムアウト, *Toでの送信先, Ccでの送信先, メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際，SMTP サーバへの接続がタイムアウトしたため送信失敗しました。

メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。

（U）SMTP サーバのホスト名・IP アドレスの設定，ファイアウォール等のネットワーク環境，お

よび問題発生時点でのネットワークの状態などを確認してください。

3162-E

×,SMTPサーバから接続拒否,*Toでの送信先,Ccでの送信先,メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際，SMTP サーバに指定したホストから TCP/IP 接続が拒否されたため送信失敗しました。
メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。

3163-E

×,SMTPサーバでの認証エラー,*Toでの送信先,Ccでの送信先,メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際，SMTP サーバによって認証（SMTP-AUTH）が拒否されたため送信失敗しました。
メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。

（U）SMTP サーバ用の認証情報を確認してください。

3164-E

×,SMTPサーバとのTLS(SSL)通信の開始失敗,*Toでの送信先,Ccでの送信先,メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際，TLS 通信を開始しようとしたところ，エラーが発生しました。
メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。
なおメッセージ中に「SSL」という言葉が含まれていますが，現在の TELstaff は SSL プロトコルを使用せず TLS プロトコルのみを使用します。

（U）SMTP サーバが STARTTLS に対応しているかどうかを確認してください。

3170-E

×,POP3サーバの名前解決失敗,*Toでの送信先,Ccでの送信先,メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際，POP3 サーバのホスト名を名前解決できず送信失敗しました。
メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。

（U）POP3 サーバのホスト名を確認してください。

3171-E

×,POP3サーバへの接続がタイムアウト,*Toでの送信先,Ccでの送信先,メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際，POP3 サーバへの接続がタイムアウトしたため送信失敗しました。
メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。

（U）POP3 サーバのホスト名・IP アドレスの設定，ファイアウォール等のネットワーク環境，および問題発生時点でのネットワークの状態などを確認してください。

3172-E

×,POP3サーバから接続拒否,*Toでの送信先,Ccでの送信先,メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際，POP3 サーバに指定したホストから TCP/IP 接続が拒否されたため送信失敗しました。
メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。

（U）POP3 サーバのホスト名・IP アドレスの設定，ファイアウォール等のネットワーク環境，および問題発生時点でのネットワークの状態などを確認してください。

3173-E

×, POP3サーバでの認証エラー, *Toでの送信先*, *Ccでの送信先*, *メールの件名*

解説

メールサーバに対してメール送信を依頼する際，POP3 サーバから認証が拒否されたため送信失敗しました。

メッセージ中の各挿入文字は 3150-I と同じです。詳細は 3150-I の説明を参照してください。

（U）POP3 サーバ用の認証情報を確認してください。

4000以上のメッセージID

4000-E

x, , , , , 引数エラー,

解説

コマンドに誤ったオプションが指定されています。

（S）処理を中止します。

（U）誤りを訂正し，再度コマンドを実行してください。

4001-E

x, , , , , 設定ファイルエラー,

解説

設定ファイル内の記述に誤りがあります。

（S）処理を中止します。

（U）誤りを訂正し，再度コマンドを実行してください。

4002-I

o, , トークルーム, 作成, ルーム名, ルームID,

解説

LINE WORKS 内にルーム名で示すトークルームを作成しました。作成されたトークルームのルーム ID は LINE WORKS によりルーム ID が割り当てられました。

4003-E

x, , トークルーム, 作成, , 通信エラー, HTTPレスポンスコード

解説

LINE WORKS 内にトークルームを作成しようとしましたが，通信エラーにより作成できませんでした。

（S）処理を中止します。

（U）ネットワーク設定を見直し，再度コマンドを実行してください。

4004-E

x, , トークルーム, 作成, , エラーコード,

解説

LINE WORKS 内にトークルームを作成しようとしましたが，失敗しました。

（S）処理を中止します。

4005-I

o, ID, {トークルーム|メンバー}, 投稿, 宛先, ,

解説

宛先あてにメッセージを送信しました。

4006-E

x, ID, {トークルーム|メンバー}, 投稿, 宛先, 通信エラー, HTTPレスポンス

解説

メッセージの送信を行いましたが，通信エラーにより送信できませんでした。

（S）処理を中止します。処理を中止します。

（U）ネットワーク設定を見直し，再度コマンドを実行してください。

4007-E

x, ID, {トークルーム|メンバー}, 投稿, 宛先, エラーコード,

解説

メッセージの送信を行いましたが，失敗しました。

（S）処理を中止します。処理を中止します。

4020以上のメッセージID

4020-E

x, , , , , 引数エラー,

解説

コマンドに誤ったオプションが指定されています。

（S）処理を中止します。

（U）誤りを訂正し，再度コマンドを実行してください。

4021-E

x, , , , , 設定ファイルエラー,

解説

設定ファイル内の記述に誤りがあります。

（S）処理を中止します。

（U）誤りを訂正し，再度コマンドを実行してください。

4022-I

o, ID, {チャンネル|メンバー}, 投稿, 宛先, ,

解説

宛先あてにメッセージを送信しました。

4023-E

x, ID, {チャンネル|メンバー}, 投稿, 宛先, 通信エラー, エラー情報

解説

メッセージの送信を行いましたが，通信エラーにより送信できませんでした。

（S）処理を中止します。

（U）ネットワーク設定を見直し，再度コマンドを実行してください。

4024-E

x, ID, {チャンネル|メンバー}, 投稿, 宛先, エラー情報,

解説

メッセージの送信を行いましたが，失敗しました。

（S）処理を中止します。

4028-I

o,,メンバー,一覧,,,

解説

メンバー一覧を取得しました。

4029-E

x,,メンバー,一覧,,通信エラー,エラー情報

解説

メンバー一覧の取得を行いましたが，通信エラーにより送信できませんでした。

（S）処理を中止します。処理を中止します。

（U）ネットワーク設定を見直し，再度コマンドを実行してください。

4030-E

x,,メンバー,一覧,,エラー情報,

解説

メンバー一覧の取得を行いましたが，失敗しました。

（S）処理を中止します。処理を中止します。

13.3 イベントログメッセージ一覧

イベント ID：1(I)

TELstaffサービスを起動しました.

解説

TELstaff サービスを開始しました。

イベント ID：2(I)

TELstaffサービスを停止しました.

解説

TELstaff サービスを停止しました。

イベント ID：3(E)

TELstaffサービスが異常終了しました.

解説

TELstaff サービスが異常終了しました。316-E メッセージを参照してください。

（S）TELstaff サービスを再起動します。

（U）再起動されない場合は，TELstaff サービスを開始してください。

イベント ID：4(E)

プロセス(telsmain.exe)が要求に応答しないため，強制終了します.

解説

TELstaff サービスを停止しましたが，TELstaff サービスプロセス（telsmain プロセス）からの停止完了報告が得られないためサービス停止操作を終了します。

（S）サービス停止操作を終了します

イベント ID：5(W)

ポート名のモデムの初期設定に失敗しました.

解説

ポート名のモデムを接続できません。

（S）このモデムを使用しないで TELstaff サービスを開始します。

（U）モデムの接続状態を確認後，再度 TELstaff サービスを開始してください。

イベント ID：6(E)

TELstaffサービスの起動に失敗しました.

解説

TELstaff サービスを開始しましたが，TELstaff サービスプロセスの起動ができません。TELstaff をインストールしたディスクドライブ直下に「program ファイル」，または「program フォルダ」が作成されているか，または TELstaff インストールディレクトリ下に「service」フォルダなど必要なフォルダがありません。

（S）TELstaff サービスを停止します。

（U）TELstaff をインストールしたディスクドライブ直下に「program ファイル」，または「program フォルダ」が作成されている場合は，「program ファイル」，または「program フォルダ」を削除してから TELstaff サービスを開始してください。

イベント ID：7(E)

プロセスの生成に失敗しました.コード（エラーコード）

解説

TELstaff サービスを開始しましたが，サービスプロセスを生成ができません。

（S）TELstaff サービスを停止します。

（U）再度 TELstaff サービスを開始してください。

イベント ID：8(W)

ポート名のTPの初期設定に失敗しました.

解説

ポート名のトリガフォンを接続できません。

（S）このトリガフォンを使用しないで TELstaff サービスを開始します。

（U）トリガフォンの接続状態を確認後，再度 TELstaff サービスを開始してください。

イベント ID：25(I)

TELstaffがSNMPTRAPサービスを起動しました.

解説

Windows SNMP Trap サービス停止を検出したため Windows SNMP Trap サービスを開始しました。

SNMP トラップ監視のプロパティダイアログボックスの「停止検出時，自動開始する」チェックボックスにチェックした場合，TELstaff が Windows SNMP Trap サービスの停止で Windows SNMP Trap サービスを開始します。

付　録

この章には，追加情報を付録として記載します。

付録A: オープンソースソフトウェアの使用許諾条件

付録A: オープンソースソフトウェアの使用許諾条件

TELstaff で使用しているオープンソースソフトウェアの使用許諾条件に基づき，以下に各ソフトウェアの使用許諾条件を掲示します。

RFC1321-based (RSA-free) MD5 library

Copyright (C) 1999, 2000, 2002 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

L. Peter Deutsch
ghost@aladdin.com

cJSON

Copyright (c) 2009 Dave Gamble

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND

NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Go

Copyright (c) 2009 The Go Authors. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of Google Inc. nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

索　引

%

%teldial コマンド....645

_

_$Command_Execution..93, 94, 300, 374, 375, 962
_$Received_FileDelete....964
_$To....757
_$UserExitCommand....963

～

~AlterMessage~....134
~attachfile:ファイル名.txt~....1002
~AttachmentFile~....1002
~cmdreturnvalue~....1007
~CommandNumber~....305
~ComputerName~92, 95, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 106, 108, 130, 707, 1002
~date~92, 94, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 106, 108, 130, 305, 706, 707, 1002
~date1~92, 94, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 106, 108, 130, 133, 305, 707, 1002
~date2~92, 94, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 106, 108, 130, 305, 707, 1002
~DiskcapDetectReason~....104, 1002
~DiskcapDetectValue~....104, 491, 1002
~DiskcapDiskDriveFsys~....104, 1002
~DiskcapDiskDriveLabel~....104, 1002
~DiskcapDiskDriveName~....104, 1002
~DiskcapExplanation~....104, 1002
~DiskcapExplanation1~....104
~DiskcapLevel~....104, 1002
~DiskcapLevelValue~....104, 1002
~DiskcapMethod~....104, 1002
~DiskcapMonBy~....104, 1002
~DiskcapMonGroupName~....104, 1002
~DiskcapPreComparity~....104, 1002
~DiskcapRateCrtFree~....104, 1002
~DiskcapRateCrtUsed~....104, 491, 1002
~DiskcapReachCount~....104, 1002
~DiskcapValueUnit~....104, 1002
~DiskcapVolCrtFreeMB~....104, 1003
~DiskcapVolCrtUsedMB~....104, 1003
~DiskcapVolMaxUsedMB~....104, 1003
~DiskcapVolTotal~....104, 1003
~DriverID~....99, 1003
~DriverName~....99, 1003
~DrvMethod~....99, 1003
~EventLogCategory~....98, 1003
~EventLogComputer~....98, 1003
~EventLogDate~....98, 1003
~EventLogFindString~....98, 1003
~EventLogID~....98, 1003
~EventLogKind~....98, 1003
~EventLogMessage~....98, 1003
~EventLogMessageStr~....98, 1003
~EventLogSource~....98, 1003
~EventLogTime~....98, 1003
~EventLogType~....98, 1003
~EventLogUser~....98, 1003
~faxfile~....164, 1003
~FAXno:ユーザ名~....306
~FaxNumber~....306
~FMonFile~....95, 1003
~FMonFileContent~....95, 1003
~FMonFileExt~....95, 1003
~FmonFileFolder~....1003
~FMonFileFolder~....379
~FMonFileName~....95, 1003
~FMonFilePath~....95, 1003
~FMonMethod~....95, 1003
~hostfile~....932
~id1~92, 95, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 106, 108, 130, 305, 707, 1002
~id2~92, 95, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 106, 108, 130, 305, 707, 1002
~IPaddress~92, 95, 97, 98, 99, 101, 102, 104, 106, 108, 130, 707, 1003
~Mail1:manager~....305
~Mail1:ユーザ名~....306
~Mail2:manager~....306
~Mail2:ユーザ名~....306
~Mail3:manager~....306
~Mail3:ユーザ名~....306
~MailAddress~....306
~MailConfirmID~....130, 1002
~MailMonAccount~....707, 1004

~MailMonAddress~ 707, 1004
~MailMonComment~ 707, 1004
~MailMonComment2~ 707, 1004
~MailMonCorrespondAddress~ 707, 1004
~MailMonFilter~ 707, 1004
~MailMonNumber~ 707, 1004
~MailMonType~ 707, 1004
~MailSenderAddr~ 1003
~MailSenderName~ 707, 1003
~MailSubject~ 707, 1004
~MConf-AcceptID~ 159, 1004
~MConf-ConfirmAddr~ 159, 1004
~MConf-ConfirmTime~ 159, 1004
~MConf-ID~ 159, 1004
~MConf-LastConfirmAddr ~ 159, 1004
~MConf-LastConfirmDate~ 159, 1004
~MConf-SendTime~ 159, 1004
~MConf-Subject ~ 159, 1004
~MConf-UserName~ 159, 1004
~Mode:文字修飾/背景色/文字色~変数360, 361, 395, 421, 422, 613
~MotionDetectImageURL~ 1004
~MsgMonFileName~ 97, 1004
~MsgMonFindLine~ 97, 1004
~MsgMonFindString~ 97, 1004
~node~ 130, 1004
~node1~ 130, 1004
~node2~ 130
~NotifyGroupID~ 130, 1002
~notifynumber~92, 95, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 106, 108, 130, 305, 707, 1004
~Observation~ 106, 517, 523, 530, 536, 1005
~ovtopodump~ 130, 674, 1005
~PowerMonAction~ 109, 1007
~PowerMonComNo~ 109, 1006
~PowerMonConnectType~ 109, 1007
~PowerMonConsentNo~ 109, 1006
~PowerMonDescription~ 109, 1007
~PowerMonDescription1~ 109, 1007
~PowerMonDetectCondition~ 109, 1006
~PowerMonDetectCPU~ 109, 1006
~PowerMonDetectReason~ 109, 1006
~PowerMonGroupName~ 109, 1007
~PowerMonIPAddress~ 109, 1006
~PowerMonName~ 108, 1006
~PowerMonName1~ 108, 1006
~PowerMonStatus~ 109, 1006
~PowerMonType~ 108, 1006
~ProcessName~ 92, 334, 338, 343, 1005
~ReceivedFile~ 1005
~ReceivedMail~ 707, 1005
~ReceivedMail1~ 1004, 1005
~ReceivedMailBody~ 707, 1005
~ReceivedMailCc~ 707, 1005
~ReceivedMailDate~ 707, 1005
~ReceivedMailHeader~ 707, 1005
~ReceivedMailMessage-ID~ 707, 1005
~ReceivedMailPriority~ 707, 1005
~ReceivedMailReplyTo~ 707, 1005
~ReceivedMailTo~ 707, 1005
~RecordInformation~ 305
~ServiceAccountName~ 101, 1005
~ServiceAccountName1~ 1005
~ServiceAccountName2~ 101
~ServiceDisplayDescription~ 101, 1005
~ServiceDisplayDescription1~ 101, 1005
~ServiceDisplayName~ 101, 1005
~ServiceDisplayName1~ 101, 1005
~ServiceMethod~ 101, 1005
~ServiceMonGroupName~ 101, 1005
~ServiceName~ 101, 1005
~ServiceName1~ 101, 1005
~ServiceStartUp~ 101, 1005
~ServiceStatus~ 101, 1005
~snmptrap_ 1005
~snmptrap_agentAddress~ 102, 1005
~snmptrap_community~ 103, 1006
~snmptrap_enterprise~ 102, 1005
~snmptrap_genericTrap~ 102, 1005
~snmptrap_GroupName~ 102, 1005
~snmptrap_sourceAddress~ 102
~snmptrap_specificTrap~ 103, 1005
~SystemInformation~ 134
~Telno1:manager~ 306
~Telno1:ユーザ名~ 306
~Telno2:manager~ 306
~Telno2:ユーザ名~ 306
~Telno3:manager~ 306
~Telno3:ユーザ名~ 306
~Telno4:manager~ 306
~Telno4:ユーザ名~ 306
~TelphoneCurrentNumber~ 306
~TelsInstPath~ 305, 1006
~TelsLocalInstPath~ 305, 1006

~TELstaffMessage1~ 134
~TELstaffMessage11~ 134
~TELstaffMessage2~ 134
~TELstaffMessage21~ 134
~TELstaffMessage3~ 134
~TELstaffMessage31~ 134
~TELstaffMessageID~ 134
~time~92, 95, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 106, 108, 130, 305, 707, 1002
~time1~92, 95, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 106, 108, 130, 133, 305, 707, 1002
~UserExplanation~ 92, 99, 104, 106, 108, 1006
~UserInformation~92, 106, 130, 305, 517, 523, 530, 536, 1006
~UserName~92, 95, 97, 98, 99, 100, 102, 104, 106, 108, 130, 305, 707, 1006
~variableBindings~ 103, 1006

2

2重化 294
2台並列稼動機能 110

A

AECL の機能 122
AEPE と AESE の差異 114
afterNNN 866, 872, 878, 888, 903
Alarm View 659
Alarm View の制限事項 34
Alarm View を使用しない 659
ATX4 ..... 204, 232
authenticationFailure 31, 472

B

-bc 863
-bn 863

C

coldStart 31, 471
CPU 使用率 537
CPU 使用量 N%以下/以上 545
CTBX 22, 25, 26, 33, 224, 225, 252, 253

D

Docomo4 20
Docomo5 20

E

egpNeighborLoss 31, 472
-enN 874
enterpriseSpecific 31, 472
ESMTP メールサーバ 29
-ev 865, 870, 876, 887
ExChange クライアント資格情報の設定247, 719, 749

F

-f 885
FAT32 ..... 103, 482, 488, 557, 566
FAX カバーシート 163, 164
FAX 送信ファイル一覧 163
FAX 送信ファイル一覧 165
FAX への発信 885
FAX 送信の通知文ファイル作成 168
FAX 発信 21, 81
-ff 885
-fm 874
-fn 885
-fv 868

G

genericTrap 31, 471

I

-id 863, 869
IMAP4 30
IP 電話
　使用できる音声データ 22
IP 電話通知 9
　使用できる音声合成ソフト 23
　方法 22
IP 電話認証用オープニングメッセージ 163
IP 電話発信 71
IP 電話発信時の注意事項 25

L

LINE WORKS への発信コマンド 983
linkDown 31, 471
linkUp 31, 472

M

-m 863
MCI 199

-mde....875
-mdn....874
Messenger サービス....86, 133, 892

N

-nf 条件....902
-nfd....900
-ni....859, 903
-nik....899
NTFS....103, 221, 482, 488, 557, 566, 1026
NTT DoCoMo ショートメール....20

O

OAuth2....247, 719, 749, 750
OAuth2.0 認証....247, 719, 749

P

-p 通知先電話番号....867
PING 方式による監視....677
-pn....868
-pnN....868
POP Before SMTP 認証....29, 244
POP3 サーバ....247
POP3 ポート番号....245
Proxy 設定ダイアログボックス....200

R

RS232C セレクタ装置....265, 314, 522, 597, 609

S

SIP サーバ....10
Slack への発信と情報取得のコマンド....968
SMS 通知....20, 74
SMTP-AUTH....29, 244
SMTP ポート番号....245
SMTP 認証....244
SNMP....30, 541
SNMP トラップ....455
SNMP トラップ監視用標準通知文....147
　標準 FAX 通知文....148
　標準 SNMPTRAP サービス停止通知文....150
　標準電話通知文....148
　標準表示ボード通知文....149
　標準メッセージ通知文....147
　標準メッセンジャー通知文....149
　標準読み上げ通知文....149
SNMP トラップ監視....101
SNMP トラップ監視で使用できる変数....102
SNMP トラップ監視統計情報....1024
SNMP トラップ対応バージョン....30
specificTrap....472
syslog....33, 212, 266

T

telcan コマンド....907
teldial....844
teldial コマンド....844
teldial コマンドの作成ダイアログボックス....320
teldial コマンドの注意事項845, 976, 979, 991, 994, 996
teldtcmd コマンド....966
telfput コマンド....960
telnethd....923
telsback コマンド....927
telsmart コマンド....937
telsndpl コマンド....935
telspend コマンド....910
telsping コマンド....930
telsscmd....648
TELstaff ウィンドウ
　ネットワーク監視の設定....682
TELstaff ウィンドウ....55
　ネットワーク監視....59
　メール監視....59
　連絡網グループ....57
TELstaff 管理者....577
TELstaff サービスの起動方法
　コマンドによるサービスの自動起動....649
　手動で起動....648
　他のアプリケーションから起動....649
TELstaff サービスの停止方法....651
　TELstaff ウィンドウから停止....651
　コマンドラインから停止....651
　手動で停止....651
　他のアプリケーションから停止....652
TELstaff サービスの稼動監視....106
TELstaff サービスの起動方法....648
TELstaff に電話をかけたとき....657
TELstaff に電話をかけたときの操作....656
TELstaff の稼動通知....112
TELstaff の環境設定....193
TELstaff の機能....51
TELstaff のコマンド....124

TELstaff のツール 759
TELstaff への接続操作 654
TELstaff ポップアップ通知 86
TELstaff メッセージの通知 112
tlgetqc コマンド 45, 959
tlnetexp コマンド 956
tlnetimp コマンド 953
tlpwrspd コマンド 925
TLS 29
tlshdrbt コマンド 940
tlsline コマンド 983
tlsslack コマンド 968
tlusrdel コマンド 951
tlusrexp コマンド 948
tlusrimp コマンド 945
-to 864, 870, 876, 886

U

-u 864, 869, 875, 886
UAC 34, 124, 569, 843
-uf 864, 876

V

variableBindings 474
VoIP ゲートウェイ 11

W

-w 863
warmStart 31, 471
WAV ファイル再生コマンド(telsndpl) 935
WMI 537

あ

アクション方式による監視 675

い

一括発信 62, 889
一括発信ファイル 169
一般権限ユーザ 769
イベントカテゴリ 679
イベント種類 821
イベントソース名 821
イベントモード 310, 325
イベントモード 1 310
イベントモード 2 310
イベントログ 1106
イベントログ監視で使用できる変数 98
イベントログ監視統計情報 1021
イベントログ監視用標準通知文 141
　標準 FAX 通知文 142
　標準エージェント通知文 142
　標準電話通知文 141
　標準メール通知文 141
　標準メッセンジャー通知文 143
イベントログの種別 821
イベントログメッセージの形式 1036
イメージビューウィンドウ 669
インストール 173
インターネットからのメール送信 79

う

ウィンドウ操作の開始と終了 652
ウィンドウのメニューと機能 55
運用管理者への通知機能 112
運用形態 294
運用上の留意事項 36

え

エージェント送信の通知文ファイル作成 168
エージェント通知文 82
エージェント発信 82
エージェントメッセージ一覧 109
エスカレーション 66

お

応答機能 89
親ノード 679
親ノード情報 688
音声通知 9
音声通知・確認 9
音声読み上げの停止指示 277

か

回線切断の認識 17
回線の閉塞機能 111, 204
回線不通時は使用しない」 232
開封確認通知要求 640
各種検知器 11
カスタマイズ
　トーン音の種別 164
　ファイル定義内容 164
カスタマイズ項目一覧 162

画像配信 220
稼動状況監視 108, 537
稼動状況監視標準通知文
　再起動時の標準メッセージ 159
稼動状況監視標準通知文
　標準 FAX 通知文 156
　標準メッセージ通知文 155
稼動状況監視統計情報 1010, 1028
稼動状況監視の監視と抑止のコマンド（tlpwrspd）925
稼動状況監視標準通知文 155
　稼動状況統計情報の標準メール通知文 158
　シャットダウン時の標準メッセージ 158
　定義情報インポートサンプルファイル 158
　標準電話通知文 156
　標準表示ボード通知文 157
　標準メッセンジャー通知文 157
　標準読み上げ通知文 157
稼動状況統計情報 543, 544, 1029
稼動状態検出時 545
カレンダー情報インポート 163
環境設定 193
　「IP 電話」タブ 224
　「IP 電話ガイダンス」タブ 225
環境設定
　「ガイダンス」タブ 218
　「カスタマイズ」タブ 213
　「コマンド」タブ 214
　「統計情報」タブ 220
　「発信制限」タブ 215
環境変数 1008
環境変数の使用時の注意事項 1009
環境変数の使用例 1008
「監視するサービス一覧」フィールド 435
監視するホストの検索の指定ダイアログボックス 702
監視するホストの編集ダイアログボックス 698
監視メールサーバの設定ダイアログボックス 527
監視モード 324
管理者登録ダイアログボックス 766
管理ツールのサービスから停止する方法 651
関連ノードの通知抑止 679

き

機器稼動監視 105
　サービス監視 512
　パトランプ監視 518
　メールサーバ監視 524
　モデム機器監視 531
機器稼動監視ー「パトランプ」タブ 518
機器稼動監視ー「メールサーバ」タブ 524
機器稼動監視設定ダイアログボックス 511
機器稼動監視で使用できる変数 106
機器稼動監視統計情報 1026
機器稼動監視の設定 511
機器稼動監視用標準通知文 155

く

グループ（連絡網）発信 61
グループ（連絡網）発信と直接発信の混在発信 62

こ

コマンド
　telcan コマンド 907
　teldial コマンド 844
　telfput コマンド 960
　telnethd コマンド 923
　telsmart コマンド 937
　telsndpl コマンド 935
　telspend コマンド 910
　telsping コマンド 930
　tlnetexp コマンド 956
　tlnetimp コマンド 953
　tlshdrbt コマンド 940
　tlsline コマンド 983
　tlsslack コマンド 968
　tlusrdel コマンド 951
　tlusrexp コマンド 948
　tlusrimp コマンド 945
コマンド一覧ダイアログボックス 317
コマンド実行操作 658
コマンド設定ファイル 969, 984
コマンドによる通知 112
コマンドの実行 44
コマンドのプロパティダイアログボックス 319
コマンド発信 84
コマンド発信統計情報 1016
コミュニティ 474
コンバータ 11

さ

サーバ証明書 245, 528
サービス監視 100
サービス監視設定

「連絡網」タブ 436
サービス監視で使用できる変数 100
サービス監視統計情報 1023
サービス監視の設定 430
サービス監視用標準通知文 145
標準 FAX 通知文 146
標準電話通知文 145
標準表示ボード通知文 146
標準メッセージ通知文 145
標準メッセンジャー通知文 147
標準読み上げ通知文 147
サービスの起動ダイアログボックス 846, 908
サービス稼動監視統計情報 1026
参照モード 662

し

時間切れ 1038, 1039
システム管理者 577
システム管理者に通知する運用 47
システムの構成 8
シスメックス RA 社製入力ユニット 326
シャットダウン理由コード 944
受信モード 662
ショートメッセージサービス通知統計情報 1013
シリアルポートについて 18
信号灯 8

す

スクロール表示 614
スケジュール情報インポート 163
スタートメニュー 52
スタートメニューから停止する方法 652

せ

接続 ID での認証操作 656
接点開放（オフ）方法 84
接点入力監視 91
接点入力監視統計情報 1021
セレクタ入力ユニット装置 314

そ

送受信パスワード 67
総称名を指定 377
その他運用ツールコマンド（telfput） 960
その他のカスタマイズ 162

た

対応記録操作 657
対応記録について 90
待機モード 294
ダイヤルアップ接続 80, 245
ダイヤルアップでのメール送信 79
ダイヤルアップネットワーク接続について 21
ダイヤルコマンド（teldial） 844
ダイヤルトーン検出 16
ダイヤル入力 653
ダイヤルパルス回線 16
多回線構成で運用 48

ち

「チャンネル選択」ドロップダウンリスト 314
チャンネル番号 441
中継機能 726
直接発信 62
直接発信の繰り返し方法 65

つ

通信ポート番号について 32
通信モデムでの操作 653
通信モデムを使用した電話発信 71
通知文カスタマイズ項目 125
通知文のカスタマイズ 125
通知文ファイルの規則 166
通知文ファイルの作成 168
通知メッセージの確認操作 657
通知メディア 591
通報があるときのトーン音 163, 164
通報がないときのトーン音 163, 164
通報日時 859

て

定義情報の回復（リストア） 38, 40, 42
定義情報のバックアップ・リストアコマンド（telsback） 927
定義情報の保管（バックアップ） 37
定期的なテスト発信する運用 47
定義情報関連のバックアップとリストア 37
ディスク使用状況統計情報 1026
ディスク容量監視 103, 482
ディスク容量監視で使用できる変数 104
ディスク容量監視統計情報 1025
ディスク容量監視用標準通知文
標準 FAX 通知文 153

標準電話通知文 153
標準表示ボード通知文 154
標準メッセージ通知文 153
標準メッセンジャー通知文 155
標準読み上げ通知文 154
ディスク容量監視用標準通知文 153
ディップスイッチ 17
テキスト読み上げコマンド(telsmart) 937
デスクトップ通知 9
デスクトップ通知メディア 221
デスクトップ発信統計情報 1018
デスクトップパトランプ 85
デスクトップへの通知 84
デスクトップ通知の注意事項 85
デスクトップへの通知方法 85
電気機器通知 9, 10
電源オン・オフ監視 105
電源オン・オフ監視コマンド(telsping) 930
電源制御コマンド(tlshdrbt) 940
添付ファイル 295, 964
点滅表示 614
電話回線 11
電話回線の閉塞 111
電話回線を，トリガフォンとモデムで共用 230
電話から TELstaff に接続するとき 578
電話から情報の取り出し操作 90
電話からのコマンド実行操作 90
電話受信用オープニングメッセージ 166
電話通知対応統計情報 1020
電話通知を受けるとき 578
電話認証用オープニングメッセージ 165
電話の操作 653
電話発信
通信モデムを使用した電話発信 71
トリガフォンを使用した電話発信 69
電話発信統計情報 1012
電話を終了するときの操作 658

と

問い合わせ 89
統計情報 833
統計情報一覧 1010
統計情報出力内容 1011
統計情報の記録 114
統計情報の出力内容 1010
統計情報ファイルの削除 37
動作記録 112, 122
動作するまでの遅延 89
ドライバ監視 99
ドライバ監視設定
「その他」タブ 425
「パトランプ」タブ 422
「メール・エージェント」タブ 417
「連絡網」タブ 419
ドライバ監視で使用できる変数 99
ドライバ監視統計情報 1022
ドライバ監視用標準通知文 143
標準 FAX 通知文 144
標準エージェント通知文 144
標準電話通知文 143
標準メール通知文 143
標準メッセンジャー通知文 145
ドライブ使用率 N%以下/以上 545
トリガフォン 11
トリガフォン初期設定 163
トリガフォンでの操作 653
トリガフォンに発信できない場合 71
トリガフォンの障害処置 46
トリガフォンのパスワード認証機能 17
トリガフォンを使用した電話発信 69

な

ナンバーディスプレイ 656

に

任意変数ファイル」のファイル形式 858
認証方法 90

ね

ネットワーク監視 673
ネットワーク監視 901
監視制限 678
監視方法の設定 682
項目毎のスケジュールの設定 679
設定方法 680
全体のスケジュールの設定 678
「全般」タブ 686
「その他」タブ 697
通知方法 685
「電話・SMS」タブ 688
「パトランプ」タブ 694
「メール・エージェント」タブ 690

「連絡網」タブ 692
ネットワーク監視グループのフィルタ 679
ネットワーク監視項目
追加 682
複写 682
変更 683
ネットワーク監視ダイアログボックス 686
ネットワーク監視統計情報 1020
ネットワーク監視について 27
ネットワーク監視の設定 684
「パトランプ」タブ 685
ネットワーク監視のプロパティダイアログボックス 680
ネットワーク監視抑止と再開コマンド（telnethd） 923
ネットワーク機器の自動監視 91
ネットワーク対応型パトランプ 8

の

ノードの監視方法と特徴 675
ノードの自動監視 674

は

「パスワード」テキストボックス 443
パスワード認証 69
パスワード認証機能 17
パスワード認証について 68, 69, 73
バックアップ 37
バックアップ統計情報（送信側） 1023
発呼処理ーリング回数 16
発信依頼 67
発信記録 67, 112, 122, 450, 478, 507, 637, 742
発信記録と TELstaff の記録 112, 122
発信先種別，発信先情報，文字列の説明 170
発信先の移動 632
発信先の削除 633
発信先の追加 590
発信スケジュール 62
発信制御 844
発信制限 64, 119, 845
発信中止 844, 845
発信通知トーン音 163, 164
発信電話を受けたとき 657
発信電話を受けたときの操作 654
発信統計情報 1011
発信統計情報（全て） 1011
発信と受信時の認証方法ダイアログボックス 170, 232, 868
発信取り消しコマンド（telcan） 907
発信の監視 67
発信の繰り返し 65
発信の中止 63
発信の取り消し 63
発信抑止 64, 844, 845
発信抑止コマンド(telspend) 910
パトランプ 18
パトランプ稼動監視統計情報 1027
パトランプと電気機器の作動 87, 122
パトランプの稼動監視 107
パトランプの設置場所と接続方法 83
パトランプ発信 83
パトランプ発信統計情報 1016
番号非通知 233

ひ

ビープ音 85
非稼動状態検出時 545
表示ボード 607
表示ボード通知 9
表示ボード発信統計情報 1017
標準 TELstaff 稼動通知文 133
標準 TELstaff メッセージ通知文 134
標準 TELstaff メッセージ通知文（メール通知用） 134
標準 TELstaff メッセージ通知文（メッセンジャー通知用） 135
標準の監視条件 545
標準のグループ 650
標準メッセンジャー通知文 133

ふ

ファイル監視 93
ファイル監視統計情報 1022
ファイル監視用標準通知文 137
標準 FAX 通知文 138
標準エージェント通知文 138
標準電話通知文 137
標準メール通知文 137
標準メッセンジャー通知文 139
ファイル期限監視 94
ファイル更新監視 94
ファイル削除監視 94
ファイル作成監視 93
ファイル添付 356, 357
フィルタ文字列

メッセージ通知方法の設定 272
プロセス監視 91
プロセス監視統計情報 1021
プロセス監視の設定 327
プロセス監視用標準通知文 135
標準 FAX 通知文 136
標準エージェント通知文 136
標準電話通知文 136
標準メール通知文 135
プロトコルコマンド
_$Command_Execution 962
_$Received_FileDelete 964
_$UserExitCommand 963

へ

別名定義ファイル 163
変数の一覧 1002

ほ

ポート番号について 32
ポーリング方式による監視 676
ポーリングモード 309, 310, 324
他の監視対象が非稼動 545
ポップアップ通知 86
保留 63
本番機 294

ま

マルチメディアファイル定義 163, 165

め

メール開封確認 80, 639
メール開封確認ダイアログボックス 748
メール開封確認返信メール用標準通知文 159
メール開封状況一覧ビューア 766
メール開封状況情報 222
メール監視 705
メール監視 28, 103, 199, 706, 749
POP3 監視 30
リアルタイム監視 28
メール監視項目
削除 714
追加 713
複写 713
変更 713
メール監視統計情報 1024
メール監視用標準通知文
標準 FAX 通知文 151
標準電話通知文 151
標準表示ボード通知文 152
標準メッセージ通知文 150
標準メッセンジャー通知文 152
標準読み上げ通知文 152
メール監視用標準通知文 150
メールサーバ 10
メールサーバ稼動監視統計情報 1027
メールサーバの稼動監視 107
メール受信通知機能 708
メール送信について 20, 35
メール送信の通知文ファイル作成 168
メール通知 8
メール通知先一覧 78
メールの自動転送 708
メールの自動返信 708
メール発信 78
メール発信統計情報 1014
メッセージ一覧 1042
メッセージエージェント 751
メッセージエージェント機能 109
メッセージ監視 96, 381
メッセージ監視で使用できる変数 97
メッセージ監視統計情報 1022
メッセージ監視用標準通知文 139
標準 FAX 通知文 140
標準エージェント通知文 140
標準電話通知文 139
標準メール通知文 139
標準メッセンジャー通知文 141
メッセージ挿入文字
相手不在 1037, 1039, 1040
回線切断 1037, 1039
回線不通 1037, 1038, 1040
時間切れ 1038, 1039
ダイヤルエラー 1038
パスワード不正 1037, 1039, 1040
話し中 1037, 1038, 1040
モデムエラー 1037, 1040
メッセージ挿入文字（ユーザ名）の説明 1040
メッセージ通知 9, 10
メッセージ通知方法の設定 255
メッセージの形式 1036
メッセージの受信 753
メッセージの表記方法 1037

メッセージの編集ダイアログボックス.....613
メッセージビューア.....764
メッセージ表示ボード.....607
メッセージ表示ボードへの通知 78
メモリ使用量 N%以下/以上 545

も

モデム..... 11
モデム稼動監視統計情報..... 1028
モデムの稼動監視 107
モデムの障害処置 46

ゆ

ユーザ
　ユーザの削除.....574
　ユーザの追加.....573
　ユーザの複写.....574
　ユーザの変更.....575
ユーザインポートコマンド(tlusrimp).....945
ユーザエクスポートコマンド(tlusrexp) 948
ユーザ管理ウィンドウ.....575
ユーザグループ
　ユーザグループの最大数.....572
　ユーザグループの削除.....573
　ユーザグループの作成.....572
　ユーザグループ名の変更.....573
ユーザグループ情報 163
ユーザ固有の通知文作成 166
ユーザ削除コマンド(tlusrdel).....951
ユーザ情報インポート 163
ユーザの管理.....572
ユーザの選択ダイアログボックス.....745
ユーザのプロパティ
　「他の連絡先」タブ 584
　「電話・SMS」タブ 579
　「メール」タブ.....584
ユーザのプロパティ
　「全般」タブ.....577
ユーザパスワードでの認証操作 656
優先度 905

り

リストア..... 30, 38, 40, 42, 772
リストファイルの形式 943
リレー全接点オフ 802
ﾘﾝｸﾞﾊﾞｯｸﾄｰﾝ検出時間 16

る

ルーム ID 記録ファイル 987
留守番電話 582

れ

連絡網 571
連絡網 ID.....859, 903
連絡網 ID
　連絡網 ID の削除.....590
　連絡網 ID の追加.....589
　連絡網 ID の複写.....589
　連絡網 ID の変更.....590
連絡網インポートコマンド(tlnetimp) 953
連絡網エクスポートコマンド(tlnetexp) 956
連絡網グループ..... 61
　連絡網グループのコピー.....586
　連絡網グループの削除.....586
　連絡網グループの追加.....586
　連絡網グループの複写.....586
　連絡網グループの変更.....587
連絡網発信と直接発信..... 61
連絡網発信用標準通知文.....130
　標準 FAX 通知文 132
　標準エージェント通知文.....131
　標準デスクトップ画面送信用メール通知文 132
　標準電話通知文.....131
　標準メール通知文 130

ろ

ログ情報の一覧.....210
ログの詳細ダイアログボックス.....763
ログビューア 760

わ

ワイルドカード.....953, 956, 1033